

**2022年度
ILAC科目/市ヶ谷基礎科目・総合科目
100番台
講義概要（シラバス）**



法政大学

科目一覧

〔発行日：2022/5/2〕 最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1453】 補講英語 1・2-I [水野 太朗] 春学期授業/Spring.....	1
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1454】 補講英語 1・2-II [水野 太朗] 秋学期授業/Fall	2
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1455】 補講英語 1・2-I [水野 太朗] 春学期授業/Spring.....	3
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1456】 補講英語 1・2-II [水野 太朗] 秋学期授業/Fall	4
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1457】 補講英語 1・2-I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring.....	5
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1458】 補講英語 1・2-II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	6
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1802】 Academic Literacy A [THOMAS G POWER] 秋学期授業/Fall	7
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1803】 Academic Literacy B [THOMAS G POWER] 春学期授業/Spring.....	9
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1804】 College Writing A [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall.....	10
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1805】 College Writing B [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	11
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1810】 Academic Literacy A [THOMAS G POWER] 秋学期授業/Fall	12
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1811】 Academic Literacy B [THOMAS G POWER] 春学期授業/Spring.....	14
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1812】 College Writing A [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall.....	15
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【E1813】 College Writing B [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	16
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2227】 ドイツ語補講 1 I [伊東 直美] 春学期授業/Spring.....	17
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2228】 ドイツ語補講 1 II [伊東 直美] 秋学期授業/Fall	18
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2229】 ドイツ語補講 2 I [畠山 勝彦] 春学期授業/Spring.....	19
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E2230】 ドイツ語補講 2 II [畠山 勝彦] 秋学期授業/Fall	20
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3249】 フランス語補講 1 I [西川 純子] 春学期授業/Spring.....	21
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3250】 フランス語補講 1 II [西川 純子] 秋学期授業/Fall	22
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3251】 フランス語補講 2 I [中村 美緒] 春学期授業/Spring.....	23
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3252】 フランス語補講 2 II [中村 美緒] 秋学期授業/Fall	24
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3253】 フランス語補講 3 I [石川 典子] 春学期授業/Spring.....	25
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E3254】 フランス語補講 3 II [石川 典子] 秋学期授業/Fall	26
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4221】 ロシア語補講 1 I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring.....	27
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4222】 ロシア語補講 1 II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	28

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4223】ロシア語補講 2 I [佐藤 裕子] 春学期授業/Spring	29
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【E4224】ロシア語補講 2 II [佐藤 裕子] 秋学期授業/Fall	30
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【F9104】Elementary Health and Physical Education [秋本 成晴] 秋学期授業/Fall	31
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0162】Elementary Information Technology [松田 裕幸] 秋学期授業/Fall	32
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0163】Information Technology [松田 裕幸] 春学期授業/Spring	34
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【P0632】Elementary Career Development [竹原 正篤] 秋学期授業/Fall	35
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【P1302】Elementary Humanities A [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	36
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【P1304】Elementary Humanities B [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	38
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【P2301】Elementary Social Science A [SCHIFANO ADRIEN] 春学期授業/Spring	40
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【P2302】Elementary Social Science B [SCHIFANO ADRIEN] 秋学期授業/Fall	41
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【P3602】Elementary Mathematics A [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	42
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【P3603】Elementary Mathematics B [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	43
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0001】基礎ゼミ I (文・哲) [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	44
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0002】基礎ゼミ II (文・哲) [佐藤 真人] 秋学期授業/Fall	45
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0003】基礎ゼミ I (文・哲) [奥田 和夫] 春学期授業/Spring	46
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0004】基礎ゼミ II (文・哲) [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	47
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0005】基礎ゼミ I (文・英文) [福元 広二] 春学期授業/Spring	48
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0007】基礎ゼミ I (文・英文) [田中 裕希] 春学期授業/Spring	49
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0009】基礎ゼミ I (文・英文) [小島 尚人] 春学期授業/Spring	50
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0011】基礎ゼミ I (文・英文) [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	51
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0013】基礎ゼミ I (文・史) [小倉 淳一] 春学期授業/Spring	52
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0015】基礎ゼミ I (文・史) [宇都宮 美生] 春学期授業/Spring	53
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0017】基礎ゼミ I (文・史) [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	54
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0019】基礎ゼミ I (文・史) [内藤 一成] 春学期授業/Spring	55
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0021】基礎ゼミ I (文・地理) [中俣 均] 春学期授業/Spring	56
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0023】基礎ゼミ I (文・地理) [小原 文明] 春学期授業/Spring	57
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0025】基礎ゼミ I (文・地理) [佐々木 達] 春学期授業/Spring	58
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0027】基礎ゼミ I (文・地理) [宇津川 喬子] 春学期授業/Spring	59

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0029】基礎ゼミⅠ (文・心理) [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	60
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0030】基礎ゼミⅡ (文・心理) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	62
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0031】基礎ゼミⅠ (文・心理) [藤田 哲也] 春学期授業/Spring	64
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0032】基礎ゼミⅡ (文・心理) [藤田 哲也] 秋学期授業/Fall	66
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0033】基礎ゼミⅠ (法文営) [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	68
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0034】基礎ゼミⅡ (法文営) [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	69
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0041】基礎ゼミ (キャリア) [上西 充子] 春学期授業/Spring	70
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0043】基礎ゼミ (キャリア) [渡邊 真之] 春学期授業/Spring	72
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0045】基礎ゼミ (キャリア) [坂本 旬] 春学期授業/Spring	73
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0047】基礎ゼミ (キャリア) [菅谷 麻衣] 春学期授業/Spring	75
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0049】基礎ゼミ (キャリア) [鄭 康烈] 春学期授業/Spring	76
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0051】基礎ゼミ (キャリア) [木村 琢磨] 春学期授業/Spring	78
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0053】基礎ゼミ (キャリア) [田口 賢太郎] 春学期授業/Spring	79
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0055】基礎ゼミ (キャリア) [大倉 韻] 春学期授業/Spring	81
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0057】基礎ゼミ (キャリア) [木村 琢磨] 春学期授業/Spring	82
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0059】基礎ゼミ (キャリア) [安田 節之] 春学期授業/Spring	84
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0061】基礎ゼミ (キャリア) [井上 環] 春学期授業/Spring	85
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0063】基礎ゼミ (キャリア) [福井 令恵] 春学期授業/Spring	87
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0065】基礎ゼミ (キャリア) [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	88
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0067】基礎ゼミ (キャリア) [酒井 理] 春学期授業/Spring	90
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0069】基礎ゼミ (キャリア) [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	91
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0071】基礎ゼミ (キャリア) [大西 未希] 春学期授業/Spring	93
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0101】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	94
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0103】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	95
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0105】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	96
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0107】情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	97
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0109】情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	98
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0111】情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	99

[illegible]

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0227】情報リテラシーⅡ [重定 如彦] 春学期授業/Spring	137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0301】情報処理演習 [大間 哲] 春学期授業/Spring	139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0303】情報処理演習 [寺澤 信雄] 春学期授業/Spring	141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0305】情報処理演習 [寺澤 信雄] 春学期授業/Spring	142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0307】情報処理演習 [御園生 純] 春学期授業/Spring	144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0431】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0432】キャリアデザイン入門 [高橋 実] 春学期授業/Spring	147
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0433】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0434】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0435】キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	154
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0436】キャリアデザイン入門 [宮木 あづさ] 春学期授業/Spring	156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0437】キャリアデザイン入門 [大八木 智一] 春学期授業/Spring	158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0451】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	160
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0452】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0453】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0454】キャリアデザイン応用 [大八木 智一] 秋学期授業/Fall	166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待 [小林 ふみ子、小倉 淳一] 春学期授業/Spring	168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0621】リベラルアーツ特別講座 [コーディネータ:小原文明、講師(ゲストスピーカー):イオンフィナンシャルサービスグループ] 春学期授業/Spring	169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0705】課題解決型フィールドワーク [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 選択基盤科目_0 群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0706】課題解決型フィールドワーク [高見 京太] 秋学期授業/Fall	172
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1001】日本古典文学A [表 きよし] 春学期授業/Spring	174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1002】日本古典文学B [表 きよし] 秋学期授業/Fall	175
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1003】日本古典文学A [園 明美] 春学期授業/Spring	177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1004】日本古典文学B [園 明美] 秋学期授業/Fall	178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1005】日本古典文学A [成島 知子] 春学期授業/Spring	179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1006】日本古典文学B [成島 知子] 秋学期授業/Fall	180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1007】日本古典文学A [成島 知子] 春学期授業/Spring	182
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1008】日本古典文学B [成島 知子] 秋学期授業/Fall	183

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1009】 日本近・現代文学A [細沼 祐介] 春学期授業/Spring	185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1010】 日本近・現代文学B [細沼 祐介] 秋学期授業/Fall	186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1013】 日本文学A [島田 雅彦] 春学期授 業/Spring	187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1014】 日本文学B [島田 雅彦] 秋学期授 業/Fall	188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1015】 日本文学A [佐藤 未央子] 春学期 授業/Spring	189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1016】 日本文学B [佐藤 未央子] 秋学期 授業/Fall	190
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1017】 外国文学A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	191
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1018】 外国文学B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1019】 外国文学A [近江屋 志穂] 春学期 授業/Spring	193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1020】 外国文学B [近江屋 志穂] 秋学期 授業/Fall	194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1021】 外国文学A [吉井 涼子] 春学期授 業/Spring	195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1022】 外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授 業/Fall	197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1023】 外国文学A [吉井 涼子] 春学期授 業/Spring	198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1024】 外国文学B [吉井 涼子] 秋学期授 業/Fall	200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1025】 外国文学A [梁 禮先] 春学期授 業/Spring	201
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1026】 外国文学B [梁 禮先] 秋学期授 業/Fall	202
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1027】 日本近・現代文学A [安藤 優一] 春学期授業/Spring	203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1028】 日本近・現代文学B [安藤 優一] 秋学期授業/Fall	204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1061】 文章論 [安藤 優一] 春学期授業/Spring	205
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1062】 文章論 [関口 雄士] 春学期授業/Spring	206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1063】 文章論 [関口 雄士] 春学期授業/Spring	207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1064】 文章論 [関口 雄士] 秋学期授業/Fall	208
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1065】 文章論 [細沼 祐介] 春学期授業/Spring	209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1069】 文章論 [細沼 祐介] 秋学期授業/Fall	210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1081】 言語学A [板井 美佐] 春学期授 業/Spring	211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1082】 言語学B [板井 美佐] 秋学期授 業/Fall	212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1083】 言語学A [興石 哲哉] 春学期授 業/Spring	213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1084】 言語学B [齊藤 雄介] 秋学期授 業/Fall	215
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1085】 言語学A [副島 健作] 春学期授 業/Spring	216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1086】 言語学B [副島 健作] 秋学期授 業/Fall	217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1091】 哲学 I [佐藤 真人] 春学期授 業/Spring	219
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1092】 哲学 II [佐藤 真人] 秋学期授業/Fall	220

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1093】 哲学 I [計良 隆世] 春学期授 業/Spring.....	221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1094】 哲学 II [計良 隆世] 秋学期授業/Fal222	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1095】 哲学 I [計良 隆世] 春学期授 業/Spring.....	223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1096】 哲学 II [計良 隆世] 秋学期授業/Fal224	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1097】 哲学 I [山口 誠一] 春学期授 業/Spring.....	225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1098】 哲学 II [山口 誠一] 秋学期授業/Fal226	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1099】 哲学 I [伊藤 功] 春学期授業/Spring227	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1100】 哲学 II [伊藤 功] 秋学期授業/Fal228	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1101】 哲学 I [谷口 力] 春学期授業/Spring229	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1102】 哲学 II [谷口 力] 秋学期授業/Fal230	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1103】 哲学 I [大西 正人] 春学期授 業/Spring.....	231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1104】 哲学 II [大西 正人] 秋学期授業/Fal232	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1105】 哲学 I [近堂 秀] 春学期授業/Spring233	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1106】 哲学 II [近堂 秀] 秋学期授業/Fal234	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1107】 哲学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring.....	235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1108】 哲学 II [越部 良一] 秋学期授業/Fal236	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1109】 哲学 I [白根 裕里枝] 春学期授 業/Spring.....	237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1110】 哲学 II [白根 裕里枝] 秋学期授 業/Fall.....	238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1121】 倫理学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring.....	239
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1122】 倫理学 II [越部 良一] 秋学期授 業/Fall.....	240
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1123】 倫理学 I [杉本 隆久] 春学期授 業/Spring.....	241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1124】 倫理学 II [杉本 隆久] 秋学期授 業/Fall.....	242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1125】 倫理学 I [伊藤 直樹] 春学期授 業/Spring.....	243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1126】 倫理学 II [伊藤 直樹] 秋学期授 業/Fall.....	244
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1127】 倫理学 I [田島 樹里奈] 春学期 授業/Spring.....	245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1128】 倫理学 II [田島 樹里奈] 秋学期 授業/Fall.....	246
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1129】 倫理学 I [森村 修] 春学期授 業/Spring.....	248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1130】 倫理学 II [森村 修] 秋学期授業/Fal249	
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1131】 倫理学 I [佐藤 英明] 春学期授 業/Spring.....	250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1132】 倫理学 II [佐藤 英明] 秋学期授 業/Fall.....	251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1133】 倫理学 I [越部 良一] 春学期授 業/Spring.....	252
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1134】 倫理学 II [越部 良一] 秋学期授 業/Fall.....	253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1141】 倫理学 I [大西 正人] 春学期授 業/Spring.....	254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1142】 倫理学 II [大西 正人] 秋学期授 業/Fall.....	255

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1143】 論理学 I [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1144】 論理学 II [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1145】 論理学 I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	258
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1146】 論理学 II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	259
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1147】 論理学 I [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	261
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1148】 論理学 II [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1149】 論理学 I [大貫 義久] 春学期授業/Spring	264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1150】 論理学 II [大貫 義久] 秋学期授業/Fall	265
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1151】 論理学 I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1152】 論理学 II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1153】 論理学 I [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	269
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1154】 論理学 II [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1155】 論理学 I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	271
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1156】 論理学 II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	273
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1161】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	274
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1162】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	275
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1163】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1164】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1165】 東洋史 I [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	278
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1166】 東洋史 II [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1167】 東洋史 I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	280
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1168】 東洋史 II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	281
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1169】 東洋史 I [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1170】 東洋史 II [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	283
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1181】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1182】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1183】 西洋史 I [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1184】 西洋史 II [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1185】 西洋史 I [内川 勇海] 春学期授業/Spring	288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1186】 西洋史 II [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	289

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1187】西洋史Ⅰ [内川 勇海] 春学期授業/Spring	290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1188】西洋史Ⅱ [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1201】日本史Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	292
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1202】日本史Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1203】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	294
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1204】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	296
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1205】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	297
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1206】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	299
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1207】日本史Ⅰ [真辺 美佐] 春学期授業/Spring	300
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1208】日本史Ⅱ [真辺 美佐] 秋学期授業/Fall	301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1209】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	302
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1210】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1211】日本史Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	305
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1212】日本史Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1221】宗教論Ⅰ [若林 明彦] 春学期授業/Spring	307
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1222】宗教論Ⅱ [若林 明彦] 秋学期授業/Fall	308
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1223】宗教論Ⅰ [君嶋 泰明] 春学期授業/Spring	309
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1224】宗教論Ⅱ [君嶋 泰明] 秋学期授業/Fall	310
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1231】芸術A [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1232】芸術B [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1233】芸術A [小澤 慶介] 春学期授業/Spring	313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1234】芸術B [小澤 慶介] 秋学期授業/Fall	314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1235】芸術A [中川 三千代] 春学期授業/Spring	315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_1 群 (人文分野) 【Q1236】芸術B [中川 三千代] 秋学期授業/Fall	317
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2001】法学Ⅰ [山本 圭子] 春学期授業/Spring	318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2002】法学Ⅱ [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2003】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/Spring	320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2004】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2005】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/Spring	322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2006】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2007】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/Spring	324
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2008】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2009】法学Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2010】法学Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	327

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2011】法学 I [水野 圭子] 春学期授業/Spring	328
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2012】法学 II [水野 圭子] 秋学期授業/Fall	330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2013】法学 I [金子 匡良] 春学期授業/Spring	331
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2014】法学 II [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2015】法学 I [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2016】法学 II [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2017】法学 I [菅谷 麻衣] 春学期授業/Spring	336
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2018】法学 II [菅谷 麻衣] 秋学期授業/Fall	337
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2031】法学 (日本国憲法) [陳 志明] 春学期授業/Spring	338
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2032】法学 (日本国憲法) [陳 志明] 秋学期授業/Fall	339
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2033】法学 (日本国憲法) [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	340
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2034】法学 (日本国憲法) [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2041】経済学 I [玉之内 直] 春学期授業/Spring	342
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2042】経済学 II [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	343
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2043】経済学 I [村館 靖之] 春学期授業/Spring	344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2044】経済学 II [村館 靖之] 秋学期授業/Fall	345
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2045】経済学 I [梅溪 健児] 春学期授業/Spring	346
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2046】経済学 II [梅溪 健児] 秋学期授業/Fall	347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2049】経済学 I [玉之内 直] 春学期授業/Spring	348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2050】経済学 II [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2061】マクロ経済学 I [平田 英明] 春学期授業/Spring	350
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2062】マクロ経済学 II [平田 英明] 秋学期授業/Fall	351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2063】マクロ経済学 I [平田 英明] 春学期授業/Spring	353
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2064】マクロ経済学 II [平田 英明] 秋学期授業/Fall	354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2071】心理学 I [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	356
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2072】心理学 II [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	357
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2073】心理学 I [櫻井 登世子] 春学期授業/Spring	359
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2074】心理学 II [櫻井 登世子] 秋学期授業/Fall	360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2075】心理学 I [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2076】心理学 II [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	362

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2077】 心理学 I [浅川 希洋志] 春学期 授業/Spring	364
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2078】 心理学 II [浅川 希洋志] 秋学期 授業/Fall	365
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2079】 心理学 I [浅川 希洋志] 春学期 授業/Spring	366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2080】 心理学 II [浅川 希洋志] 秋学期 授業/Fall	367
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2081】 心理学 I [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2082】 心理学 II [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	370
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2083】 心理学 I [宇野 カオリ] 春学期 授業/Spring	372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2084】 心理学 II [宇野 カオリ] 秋学期 授業/Fall	373
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2085】 心理学 I [櫻井 登世子] 春学期 授業/Spring	375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2086】 心理学 II [櫻井 登世子] 秋学期 授業/Fall	376
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2111】 地理学 I [高木 正、米家 志乃 布] 春学期授業/Spring	377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2112】 地理学 II [高木 正、米家 志乃 布] 秋学期授業/Fall	378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2113】 地理学 I [前川 明彦、米家 志 乃布] 春学期授業/Spring	379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2114】 地理学 II [前川 明彦、米家 志 乃布] 秋学期授業/Fall	380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2115】 地理学 I [米家 志乃布] 春学期 授業/Spring	381
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2116】 地理学 II [米家 志乃布] 秋学期 授業/Fall	382
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2117】 地理学 I [前畑 明美、米家 志 乃布] 春学期授業/Spring	383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2118】 地理学 II [前畑 明美、米家 志 乃布] 秋学期授業/Fall	384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2119】 地理学 I [前畑 明美、米家 志 乃布] 春学期授業/Spring	385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2120】 地理学 II [前畑 明美、米家 志 乃布] 秋学期授業/Fall	386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2131】 社会学 I [菅野 摂子] 春学期授 業/Spring	387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2132】 社会学 II [菅野 摂子] 秋学期授 業/Fall	388
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2133】 社会学 I [山本 卓] 春学期授 業/Spring	389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2134】 社会学 II [山本 卓] 秋学期授業/Fal	B90
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2135】 社会学 I [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	391
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2136】 社会学 II [高橋 徹] 秋学期授業/Fal	B92
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2137】 社会学 I [山本 卓] 春学期授 業/Spring	393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2138】 社会学 II [山本 卓] 秋学期授業/Fal	B94
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2139】 社会学 I [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2140】 社会学 II [高橋 徹] 秋学期授業/Fal	B97

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2141】社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期授業/Spring	398
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2142】社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期授業/Fall	399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2143】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2144】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2145】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授業/Spring	402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2146】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2161】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授業/Spring	404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2162】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授業/Fall	405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2163】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2164】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2165】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring	408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2166】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	409
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2167】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授業/Spring	410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2168】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授業/Fall	411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2169】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授業/Spring	412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2170】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授業/Fall	413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2171】政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授業/Spring	414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2172】政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業/Fall	415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2173】政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期授業/Spring	416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2174】政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期授業/Fall	417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2175】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授業/Spring	418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2176】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授業/Fall	419
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2191】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授業/Spring	420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2193】文化人類学 [谷 憲一] 春学期授業/Spring	421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2195】文化人類学 [北原 卓也] 春学期授業/Spring	422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2197】文化人類学 [長沢 利明] 春学期授業/Spring	423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2199】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授業/Spring	424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2201】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授業/Spring	425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2203】文化人類学 [梅村 絢美] 春学期授業/Spring	426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2205】文化人類学 [廣田 龍平] 春学期授業/Spring	428
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2207】文化人類学 [渡辺 浩平] 春学期授業/Spring	429

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2209】文化人類学 [石森 大知] 春学期授業/Spring	430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2211】社会思想 I [阿部 崇史] 春学期授業/Spring	431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2212】社会思想 II [阿部 崇史] 秋学期授業/Fall	432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2213】社会思想 I [村田 玲] 春学期授業/Spring	433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2214】社会思想 II [村田 玲] 秋学期授業/Fall	434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2215】社会思想 I [阿部 崇史] 春学期授業/Spring	435
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2216】社会思想 II [阿部 崇史] 秋学期授業/Fall	436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2217】社会思想 I [洪 貴義] 春学期授業/Spring	437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2218】社会思想 II [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2219】社会思想 I [熊沢 敏之] 春学期授業/Spring	439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2220】社会思想 II [熊沢 敏之] 秋学期授業/Fall	440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2221】社会思想 I [村田 玲] 春学期授業/Spring	442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_2 群 (社会分野) 【Q2222】社会思想 II [村田 玲] 秋学期授業/Fall	443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3001】教養数学 A [平田 康史] 春学期授業/Spring	444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3002】教養数学 B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3003】教養数学 A [平田 康史] 春学期授業/Spring	446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3004】教養数学 B [平田 康史] 秋学期授業/Fall	447
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3005】教養数学 A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3006】教養数学 B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3007】教養数学 A [小木曾 岳義] 春学期授業/Spring	450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3008】教養数学 B [小木曾 岳義] 秋学期授業/Fall	451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3011】教養数学 A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3012】教養数学 B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3013】教養数学 A [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3014】教養数学 B [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	455
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3015】教養数学 A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3016】教養数学 B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3017】教養数学 A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	458

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3018】教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	459
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3019】教養数学A [佐藤 洋祐] 春学期授業/Spring	460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3020】教養数学B [佐藤 洋祐] 秋学期授業/Fall	461
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3031】基礎数学 I [若井 健太郎] 春学期授業/Spring	462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3032】基礎数学 II [若井 健太郎] 秋学期授業/Fall	463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3033】基礎数学 I [板井 昌典] 春学期授業/Spring	464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3034】基礎数学 II [板井 昌典] 秋学期授業/Fall	465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3035】基礎数学 I [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3036】基礎数学 II [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	467
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3037】基礎数学 I [若井 健太郎] 春学期授業/Spring	468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3038】基礎数学 II [若井 健太郎] 秋学期授業/Fall	469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3039】基礎数学 I [板井 昌典] 春学期授業/Spring	470
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3040】基礎数学 II [板井 昌典] 秋学期授業/Fall	471
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3041】基礎数学 I [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3042】基礎数学 II [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	473
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3043】基礎数学 I [江口 直日] 春学期授業/Spring	474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3044】基礎数学 II [江口 直日] 秋学期授業/Fall	475
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3047】基礎数学 I [江口 直日] 春学期授業/Spring	476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3048】基礎数学 II [江口 直日] 秋学期授業/Fall	477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3051】入門物理学A [吉田 智] 春学期授業/Spring	478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3052】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3053】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3054】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	481
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3055】入門物理学A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3056】入門物理学B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	483
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3057】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	484
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3058】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	485
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3059】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	487

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3060】 入門物理学 B [井坂 政裕] 秋学期 授業/Fall	488
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3061】 入門物理学 A [吉田 智] 春学期授 業/Spring	489
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3062】 入門物理学 B [吉田 智] 秋学期授 業/Fall	490
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3065】 入門物理学 A [鈴木 裕武] 春学期 授業/Spring	491
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3066】 入門物理学 B [鈴木 裕武] 秋学期 授業/Fall	492
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3081】 入門生物学 A [木原 章] 春学期授 業/Spring	494
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3082】 入門生物学 B [木原 章] 秋学期授 業/Fall	495
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3083】 入門生物学 A [木原 章] 春学期授 業/Spring	496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3084】 入門生物学 B [木原 章] 秋学期授 業/Fall	497
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3085】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	499
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3086】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	500
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3087】 入門生物学 A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	501
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3088】 入門生物学 B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	502
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3089】 入門生物学 A [宇野 真介] 春学期 授業/Spring	504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3090】 入門生物学 B [宇野 真介] 秋学期 授業/Fall	505
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3091】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	507
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3092】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	508
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3093】 入門生物学 A [植木 紀子] 春学期 授業/Spring	509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3094】 入門生物学 B [植木 紀子] 秋学期 授業/Fall	510
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3111】 入門化学 A [向井 知大] 春学期授 業/Spring	511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3112】 入門化学 B [向井 知大] 秋学期授 業/Fall	512
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3113】 入門化学 A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	513
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3114】 入門化学 B [小林 令子] 秋学期授 業/Fall	514
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3117】 入門化学 A [中田 和秀] 春学期授 業/Spring	515
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3118】 入門化学 B [中田 和秀] 秋学期授 業/Fall	516
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3119】 入門化学 A [石塚 芽具美] 春学期 授業/Spring	517
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3120】 入門化学 B [石塚 芽具美] 秋学期 授業/Fall	518
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3121】 入門化学 A [小林 令子] 春学期授 業/Spring	519

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3122】 入門化学B [小林 令子] 秋学期授業/Fall	520
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3125】 入門化学A [石塚 芽具美] 春学期授業/Spring	521
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3126】 入門化学B [石塚 芽具美] 秋学期授業/Fall	522
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3171】 天文学A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	523
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3172】 天文学B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	524
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3173】 天文学A [松本 倫明] 春学期授業/Spring	525
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3174】 天文学B [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3175】 天文学A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	527
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3176】 天文学B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	528
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3181】 科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	529
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3182】 科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	530
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3183】 科学史A [金光 秀和] 春学期授業/Spring	532
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3184】 科学史B [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	533
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3185】 科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	534
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3186】 科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	535
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3187】 科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	537
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3188】 科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3301】 サイエンス・ラボA [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	540
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3302】 サイエンス・ラボB [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	541
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3303】 サイエンス・ラボA [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	542
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3304】 サイエンス・ラボB [中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	543
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3305】 サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3306】 サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3307】 サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	546
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3308】 サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	547
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3309】 サイエンス・ラボA [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	548
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3310】 サイエンス・ラボB [中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	549
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3311】 サイエンス・ラボA [向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	550

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3312】サイエンス・ラボB [向井 知大、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	551
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3313】サイエンス・ラボA [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3314】サイエンス・ラボB [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	553
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3315】サイエンス・ラボA [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	554
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3316】サイエンス・ラボB [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3317】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3318】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	557
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3319】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3320】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	559
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3321】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	560
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3322】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	561
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3323】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3324】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	563
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3325】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	564
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3326】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3327】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3328】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3329】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3330】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3331】サイエンス・ラボA [向井 知大、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3332】サイエンス・ラボB [向井 知大、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	571
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3333】サイエンス・ラボA [向井 知大、 経塚 啓一郎、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3334】サイエンス・ラボB [向井 知大、 経塚 啓一郎、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3335】サイエンス・ラボA [向井 知大、 経塚 啓一郎、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3336】サイエンス・ラボB [向井 知大、 経塚 啓一郎、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3337】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	577
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3338】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3339】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	579

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3340】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	580
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3341】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	581
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3342】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3343】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	583
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3344】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3345】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	585
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3346】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3347】サイエンス・ラボA [伊藤 晋平、 田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	587
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3348】サイエンス・ラボB [伊藤 晋平、 田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	588
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3349】サイエンス・ラボA [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	589
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3350】サイエンス・ラボB [中島 弘一、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	590
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3351】サイエンス・ラボA [向井 知大、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	591
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3352】サイエンス・ラボB [向井 知大、 経塚 啓一郎、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	592
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3353】サイエンス・ラボA [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3354】サイエンス・ラボB [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	594
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3355】サイエンス・ラボA [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	595
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3356】サイエンス・ラボB [向井 知大、 川上 裕司、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3357】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3358】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3359】サイエンス・ラボA [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_3 群 (自然分野) 【Q3360】サイエンス・ラボB [西村 直美、 小林 富美恵、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5001】スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 春学期授業/Spring	601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5002】スポーツ総合演習 [竹内 洋 輔] 秋学期授業/Fall	602
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5003】スポーツ総合演習 [谷内 花 恵] 春学期授業/Spring	604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5004】スポーツ総合演習 [谷内 花 恵] 秋学期授業/Fall	605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5005】スポーツ総合演習 [阿部 成 雄] 春学期授業/Spring	606
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5006】スポーツ総合演習 [阿部 成 雄] 秋学期授業/Fall	607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5007】スポーツ総合演習 [金 泰浩] 春学期授業/Spring	609

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5008】 スポーツ総合演習 [辻 大士] 秋学期授業/Fall	610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5009】 スポーツ総合演習 [谷内 花 恵] 春学期授業/Spring	611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5010】 スポーツ総合演習 [谷内 花 恵] 秋学期授業/Fall	612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5011】 スポーツ総合演習 [大須賀 洋祐] 春学期授業/Spring	613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5012】 スポーツ総合演習 [竹内 洋 輔] 秋学期授業/Fall	614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5013】 スポーツ総合演習 [阿部 成 雄] 春学期授業/Spring	616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5014】 スポーツ総合演習 [阿部 成 雄] 秋学期授業/Fall	617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5015】 スポーツ総合演習 [荒井 弘 和] 春学期授業/Spring	619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5016】 スポーツ総合演習 [辻 大士] 秋学期授業/Fall	620
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5017】 スポーツ総合演習 [林 容市] 春学期授業/Spring	621
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5018】 スポーツ総合演習 [林 容市] 秋学期授業/Fall	622
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5019】 スポーツ総合演習 [谷内 花 恵] 春学期授業/Spring	623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5020】 スポーツ総合演習 [谷内 花 恵] 秋学期授業/Fall	624
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5021】 スポーツ総合演習 [荒井 弘 和] 春学期授業/Spring	625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5022】 スポーツ総合演習 [荒井 弘 和] 秋学期授業/Fall	626
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5101】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 春学期授業/Spring	627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5102】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 秋学期授業/Fall	628
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5103】 スポーツ総合演習 [久保 賢 師] 春学期授業/Spring	629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5104】 スポーツ総合演習 [久保 賢 師] 秋学期授業/Fall	630
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5105】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 春学期授業/Spring	631
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5106】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5107】 スポーツ総合演習 [吉田 康 伸] 春学期授業/Spring	633
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5108】 スポーツ総合演習 [吉田 康 伸] 秋学期授業/Fall	634
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5109】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 春学期授業/Spring	635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5110】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 秋学期授業/Fall	636
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5111】 スポーツ総合演習 [久保 賢 師] 春学期授業/Spring	637
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5112】 スポーツ総合演習 [久保 賢 師] 秋学期授業/Fall	638
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5113】 スポーツ総合演習 [位高 駿 夫] 春学期授業/Spring	639

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5114】 スポーツ総合演習 [位高 駿 夫] 秋学期授業/Fall	640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5115】 スポーツ総合演習 [吉田 康 伸] 春学期授業/Spring	642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5116】 スポーツ総合演習 [吉田 康 伸] 秋学期授業/Fall	643
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5117】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 春学期授業/Spring	644
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5118】 スポーツ総合演習 [落合 久 夫] 秋学期授業/Fall	645
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5119】 スポーツ総合演習 [佐藤 優 希] 春学期授業/Spring	646
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5120】 スポーツ総合演習 [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	647
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5121】 スポーツ総合演習 [位高 駿 夫] 春学期授業/Spring	648
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5122】 スポーツ総合演習 [位高 駿 夫] 秋学期授業/Fall	650
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5201】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	651
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5202】 スポーツ総合演習 [伊藤 マ モル] 秋学期授業/Fall	654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5203】 スポーツ総合演習 [山田 優 香] 春学期授業/Spring	656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5204】 スポーツ総合演習 [山田 優 香] 秋学期授業/Fall	659
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5205】 スポーツ総合演習 [柳川 洸 輔] 春学期授業/Spring	661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5206】 スポーツ総合演習 [柳川 洸 輔] 秋学期授業/Fall	664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5207】 スポーツ総合演習 [三好 英 次] 春学期授業/Spring	666
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5208】 スポーツ総合演習 [三好 英 次] 秋学期授業/Fall	669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5209】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5210】 スポーツ総合演習 [伊藤 マ モル] 秋学期授業/Fall	674
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5211】 スポーツ総合演習 [山田 優 香] 春学期授業/Spring	676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5212】 スポーツ総合演習 [山田 優 香] 秋学期授業/Fall	679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5213】 スポーツ総合演習 [柳川 洸 輔] 春学期授業/Spring	681
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5214】 スポーツ総合演習 [柳川 洸 輔] 秋学期授業/Fall	684
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5215】 スポーツ総合演習 [三好 英 次] 春学期授業/Spring	686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5216】 スポーツ総合演習 [三好 英 次] 秋学期授業/Fall	689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5217】 スポーツ総合演習 [大西 朋] 春学期授業/Spring	691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5218】 スポーツ総合演習 [柳川 洸 輔] 秋学期授業/Fall	694
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5219】 スポーツ総合演習 [三好 英 次] 春学期授業/Spring	696

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5220】 スポーツ総合演習 [伊藤 マ モル] 秋学期授業/Fall	699
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5221】 スポーツ総合演習 [山田 優 香] 春学期授業/Spring	701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5222】 スポーツ総合演習 [山田 優 香] 秋学期授業/Fall	704
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5223】 スポーツ総合演習 [柳川 洸 輔] 春学期授業/Spring	706
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5224】 スポーツ総合演習 [三好 英 次] 秋学期授業/Fall	709
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5301】 スポーツ総合演習 [佐藤 優 希] 春学期授業/Spring	711
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5302】 スポーツ総合演習 [佐藤 優 希] 秋学期授業/Fall	713
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5303】 スポーツ総合演習 [蔭山 雅 洋] 春学期授業/Spring	714
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5304】 スポーツ総合演習 [蔭山 雅 洋] 秋学期授業/Fall	716
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5305】 スポーツ総合演習 [稲垣 和 希] 春学期授業/Spring	717
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5306】 スポーツ総合演習 [稲垣 和 希] 秋学期授業/Fall	719
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5307】 スポーツ総合演習 [阿部 成 雄] 春学期授業/Spring	720
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5308】 スポーツ総合演習 [阿部 成 雄] 秋学期授業/Fall	722
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5309】 スポーツ総合演習 [佐藤 優 希] 春学期授業/Spring	723
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5310】 スポーツ総合演習 [佐藤 優 希] 秋学期授業/Fall	725
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5311】 スポーツ総合演習 [蔭山 雅 洋] 春学期授業/Spring	726
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5312】 スポーツ総合演習 [蔭山 雅 洋] 秋学期授業/Fall	728
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5313】 スポーツ総合演習 [稲垣 和 希] 春学期授業/Spring	729
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5314】 スポーツ総合演習 [稲垣 和 希] 秋学期授業/Fall	731
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5315】 スポーツ総合演習 [中澤 史] 春学期授業/Spring	732
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5316】 スポーツ総合演習 [中澤 史] 秋学期授業/Fall	734
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5317】 スポーツ総合演習 [佐藤 優 希] 春学期授業/Spring	735
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5318】 スポーツ総合演習 [佐藤 優 希] 秋学期授業/Fall	737
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5319】 スポーツ総合演習 [稲垣 和 希] 春学期授業/Spring	738
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5320】 スポーツ総合演習 [稲垣 和 希] 秋学期授業/Fall	740
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5321】 スポーツ総合演習 [蔭山 雅 洋] 春学期授業/Spring	741
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5322】 スポーツ総合演習 [蔭山 雅 洋] 秋学期授業/Fall	743
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5327】 スポーツ総合演習 [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	744

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5328】 スポーツ総合演習 [竹内 洋 輔] 秋学期授業/Fall	746
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5329】 スポーツ総合演習 [秋本 成 晴] 春学期授業/Spring	747
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5330】 スポーツ総合演習 [秋本 成 晴] 秋学期授業/Fall	749
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5331】 スポーツ総合演習 [竹内 洋 輔] 春学期授業/Spring	750
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5332】 スポーツ総合演習 [竹内 洋 輔] 秋学期授業/Fall	752
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5418】 スポーツ総合演習 [荒井 弘 和] 秋学期授業/Fall	753
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5419】 スポーツ総合演習 [荒井 弘 和] 春学期集中/Intensive(Spring)	755
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5501】 スポーツ総合演習 S [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	756
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5502】 スポーツ総合演習 S [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	758
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5603】 スポーツ総合演習 [竹内 洋 輔] 春学期授業/Spring	759
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 基盤科目_5 群 (保健体育分野) 【Q5604】 スポーツ総合演習 [竹内 洋 輔] 秋学期授業/Fall	761
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0001】 English 1 I [中和 彩子] 春 学期授業/Spring	762
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0002】 English 1 II [中和 彩子] 秋 学期授業/Fall	764
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0003】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春 学期授業/Spring	765
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0004】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋 学期授業/Fall	766
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0005】 English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	767
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0006】 English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	769
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0007】 English 1 I [當麻 幸子] 春 学期授業/Spring	770
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0008】 English 1 II [當麻 幸子] 秋 学期授業/Fall	771
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0009】 English 1 I [神 康介] 春学 期授業/Spring	772
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0010】 English 1 II [神 康介] 秋学 期授業/Fall	773
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0011】 English 1 I [小川 真也] 春 学期授業/Spring	774
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0012】 English 1 II [小川 真也] 秋 学期授業/Fall	776
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0013】 English 1 I [岡崎 真美] 春 学期授業/Spring	777
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0014】 English 1 II [岡崎 真美] 秋 学期授業/Fall	779
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0015】 English 1 I [永井 大輔] 春 学期授業/Spring	782
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0016】 English 1 II [永井 大輔] 秋 学期授業/Fall	783
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0017】 English 1 I [高 友希子] 春 学期授業/Spring	785

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0018】 English 1 II [高 友希子] 秋学期授業/Fall	786
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0019】 English 1 I [藤井 道行] 春学期授業/Spring	787
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0020】 English 1 II [藤井 道行] 秋学期授業/Fall	788
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0021】 English 1 I [北 文美子] 春学期授業/Spring	790
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0022】 English 1 II [北 文美子] 秋学期授業/Fall	791
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0023】 English 1 I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	792
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0024】 English 1 II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	793
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0025】 English 1 I [余田 亜希] 春学期授業/Spring	794
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0026】 English 1 II [余田 亜希] 秋学期授業/Fall	795
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0027】 English 1 I [深澤 清] 春学期授業/Spring	796
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0028】 English 1 II [深澤 清] 秋学期授業/Fall	797
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0029】 English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring	799
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0030】 English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall	801
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0035】 English 1 I [吉川 太恵子] 春学期授業/Spring	803
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0036】 English 1 II [吉川 太恵子] 秋学期授業/Fall	805
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0037】 English 1 I [藤井 道行] 春学期授業/Spring	806
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0038】 English 1 II [藤井 道行] 秋学期授業/Fall	808
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0039】 English 1 I [妻鹿 裕子] 春学期授業/Spring	809
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0040】 English 1 II [妻鹿 裕子] 秋学期授業/Fall	810
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0041】 English 1 I [神 康介] 春学期授業/Spring	811
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0042】 English 1 II [神 康介] 秋学期授業/Fall	812
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0043】 English 1 I [久慈 美貴] 春学期授業/Spring	813
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0044】 English 1 II [久慈 美貴] 秋学期授業/Fall	814
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0045】 English 1 I [小川 真也] 春学期授業/Spring	816
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0046】 English 1 II [小川 真也] 秋学期授業/Fall	817
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0047】 English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring	819
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0048】 English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall	821
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0049】 English 1 I [永井 大輔] 春学期授業/Spring	823

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0050】 English 1 II [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	825
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0051】 English 1 I [高 友希子] 春学期授業/Spring	826
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0052】 English 1 II [高 友希子] 秋学期授業/Fall	827
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0053】 English 1 I [余田 亜希] 春学期授業/Spring	828
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0054】 English 1 II [余田 亜希] 秋学期授業/Fall	829
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0055】 English 1 I [北 文美子] 春学期授業/Spring	830
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0056】 English 1 II [北 文美子] 秋学期授業/Fall	831
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0057】 English 1 I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	832
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0058】 English 1 II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	833
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0059】 English 1 I [深澤 清] 春学期授業/Spring	834
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0060】 English 1 II [深澤 清] 秋学期授業/Fall	836
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0061】 English 1 I [岡崎 真美] 春学期授業/Spring	837
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0062】 English 1 II [岡崎 真美] 秋学期授業/Fall	839
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0063】 English 1 I [當麻 幸子] 春学期授業/Spring	842
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0064】 English 1 II [當麻 幸子] 秋学期授業/Fall	843
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0071】 English 1 I [清水 純子] 春学期授業/Spring	844
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0072】 English 1 II [清水 純子] 秋学期授業/Fall	845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0073】 English 1 I [大澤 岳彦] 春学期授業/Spring	847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0074】 English 1 II [大澤 岳彦] 秋学期授業/Fall	848
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0075】 English 1 I [本間 章郎] 春学期授業/Spring	849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0076】 English 1 II [本間 章郎] 秋学期授業/Fall	850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0077】 English 1 I [中和 彩子] 春学期授業/Spring	851
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0078】 English 1 II [中和 彩子] 秋学期授業/Fall	852
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0079】 English 1 I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	853
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0080】 English 1 II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	854
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0081】 English 1 I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	855
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0082】 English 1 II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	856
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0083】 English 1 I [余田 剛] 春学期授業/Spring	857

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0084】 English 1 II [余田 剛] 秋学期授業/Fall	858
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0085】 English 1 I [小田井 勝彦] 春学期授業/Spring	860
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0086】 English 1 II [小田井 勝彦] 秋学期授業/Fall	861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0087】 English 1 I [竹内 晶子] 春学期授業/Spring	862
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0088】 English 1 II [竹内 晶子] 秋学期授業/Fall	863
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0089】 English 1 I [村松 美映子] 春学期授業/Spring	864
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0090】 English 1 II [村松 美映子] 秋学期授業/Fall	865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0091】 English 1 I [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring	867
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0092】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall	868
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0093】 English 1 I [利根川 真紀] 春学期授業/Spring	869
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0094】 English 1 II [利根川 真紀] 秋学期授業/Fall	870
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0095】 English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	871
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0096】 English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	872
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0097】 English 1 I [萩原 眞一] 春学期授業/Spring	873
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0098】 English 1 II [萩原 眞一] 秋学期授業/Fall	874
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0099】 English 1 I [岩坪 友子] 春学期授業/Spring	876
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0100】 English 1 II [岩坪 友子] 秋学期授業/Fall	877
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0105】 English 1 I [鈴木 理枝] 春学期授業/Spring	879
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0106】 English 1 II [鈴木 理枝] 秋学期授業/Fall	880
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0107】 English 1 I [大澤 岳彦] 春学期授業/Spring	881
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0108】 English 1 II [大澤 岳彦] 秋学期授業/Fall	882
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0109】 English 1 I [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring	883
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0110】 English 1 II [遠藤 郁子] 秋学期授業/Fall	885
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0111】 English 1 I [宇野 毅] 春学期授業/Spring	886
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0112】 English 1 II [宇野 毅] 秋学期授業/Fall	887
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0113】 English 1 I [余田 剛] 春学期授業/Spring	888
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0114】 English 1 II [余田 剛] 秋学期授業/Fall	889
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0115】 English 1 I [萩原 眞一] 春学期授業/Spring	891

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0116】 English 1 II [萩原 眞一] 秋 学期授業/Fall	892
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0117】 English 1 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	894
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0118】 English 1 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	895
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0119】 English 1 I [小田井 勝彦] 春学期授業/Spring	896
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0120】 English 1 II [小田井 勝彦] 秋学期授業/Fall	897
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0121】 English 1 I [宮崎 早季] 春 学期授業/Spring	898
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0122】 English 1 II [宮崎 早季] 秋 学期授業/Fall	899
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0123】 English 1 I [中和 彩子] 春 学期授業/Spring	900
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0124】 English 1 II [中和 彩子] 秋 学期授業/Fall	901
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0125】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	903
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0126】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	904
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0127】 English 1 I [利根川 真紀] 春学期授業/Spring	905
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0128】 English 1 II [利根川 真紀] 秋学期授業/Fall	906
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0129】 English 1 I [岩坪 友子] 春 学期授業/Spring	907
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0130】 English 1 II [岩坪 友子] 秋 学期授業/Fall	908
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0131】 English 1 I [清水 純子] 春 学期授業/Spring	910
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0132】 English 1 II [清水 純子] 秋 学期授業/Fall	911
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0133】 English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	913
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0134】 English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	914
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0135】 English 1 I [村松 美映子] 春学期授業/Spring	915
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0136】 English 1 II [村松 美映子] 秋学期授業/Fall	916
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0141】 English 1 I [岩坪 友子] 春 学期授業/Spring	918
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0142】 English 1 II [岩坪 友子] 秋 学期授業/Fall	919
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0143】 English 1 I [近藤 隆子] 春 学期授業/Spring	921
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0144】 English 1 II [近藤 隆子] 秋 学期授業/Fall	922
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0145】 English 1 I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring	924
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0146】 English 1 II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall	925
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0147】 English 1 I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	926

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0148】 English 1 II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	927
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0149】 English 1 I [杉 亜希子] 春 学期授業/Spring	928
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0150】 English 1 II [杉 亜希子] 秋 学期授業/Fall	929
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0151】 English 1 I [田中 邦佳] 春 学期授業/Spring	931
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0152】 English 1 II [田中 邦佳] 秋 学期授業/Fall	932
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0153】 English 1 I [坂梨 健史郎] 春学期授業/Spring	933
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0154】 English 1 II [坂梨 健史郎] 秋学期授業/Fall	934
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0155】 English 1 I [田口 清一] 春 学期授業/Spring	936
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0156】 English 1 II [田口 清一] 秋 学期授業/Fall	937
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0157】 English 1 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	938
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0158】 English 1 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	939
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0159】 English 1 I [吉田 和久] 春 学期授業/Spring	941
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0160】 English 1 II [吉田 和久] 秋 学期授業/Fall	942
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0161】 English 1 I [渡辺 英依美] 春学期授業/Spring	943
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0162】 English 1 II [渡辺 英依美] 秋学期授業/Fall	944
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0163】 English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	945
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0164】 English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	946
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0165】 English 1 I [藤井 道行] 春 学期授業/Spring	947
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0166】 English 1 II [藤井 道行] 秋 学期授業/Fall	948
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0167】 English 1 I [池田 しおり] 春学期授業/Spring	950
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0168】 English 1 II [池田 しおり] 秋学期授業/Fall	951
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0169】 English 1 I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring	952
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0170】 English 1 II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall	953
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0171】 English 1 I [大澤 岳彦] 春 学期授業/Spring	954
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0172】 English 1 II [大澤 岳彦] 秋 学期授業/Fall	955
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0173】 English 1 I [滝沢 玄] 春学 期授業/Spring	956
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0174】 English 1 II [滝沢 玄] 秋学 期授業/Fall	957
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0181】 English 1 I [飛田 英伸] 春 学期授業/Spring	958

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0182】 English 1 II [飛田 英伸] 秋学期授業/Fall	959
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0183】 English 1 I [滝沢 玄] 春学期授業/Spring	960
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0184】 English 1 II [滝沢 玄] 秋学期授業/Fall	961
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0185】 English 1 I [近藤 隆子] 春学期授業/Spring	962
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0186】 English 1 II [近藤 隆子] 秋学期授業/Fall	964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0187】 English 1 I [田口 清一] 春学期授業/Spring	965
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0188】 English 1 II [田口 清一] 秋学期授業/Fall	966
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0189】 English 1 I [小泉 和弘] 春学期授業/Spring	967
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0190】 English 1 II [小泉 和弘] 秋学期授業/Fall	968
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0191】 English 1 I [水野 太朗] 春学期授業/Spring	969
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0192】 English 1 II [水野 太朗] 秋学期授業/Fall	970
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0193】 English 1 I [坂梨 健史郎] 春学期授業/Spring	971
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0194】 English 1 II [坂梨 健史郎] 秋学期授業/Fall	973
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0195】 English 1 I [高井 美紀子] 春学期授業/Spring	974
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0196】 English 1 II [高井 美紀子] 秋学期授業/Fall	976
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0197】 English 1 I [齊藤 昇] 春学期授業/Spring	977
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0198】 English 1 II [齊藤 昇] 秋学期授業/Fall	978
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0199】 English 1 I [吉田 和久] 春学期授業/Spring	979
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0200】 English 1 II [吉田 和久] 秋学期授業/Fall	980
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0201】 English 1 I [吉田 季実子] 春学期授業/Spring	981
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0202】 English 1 II [吉田 季実子] 秋学期授業/Fall	982
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0203】 English 1 I [渡辺 英依美] 春学期授業/Spring	983
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0204】 English 1 II [渡辺 英依美] 秋学期授業/Fall	984
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0205】 English 1 I [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	985
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0206】 English 1 II [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	986
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0207】 English 1 I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	987
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0208】 English 1 II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	988
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0209】 English 1 I [吉江 秀和] 春学期授業/Spring	989

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0210】 English 1 II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall	990
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0211】 English 1 I [杉 亜希子] 春 学期授業/Spring	991
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0212】 English 1 II [杉 亜希子] 秋 学期授業/Fall	993
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0213】 English 1 I [池田 しおり] 春学期授業/Spring	994
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0214】 English 1 II [池田 しおり] 秋学期授業/Fall	996
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0215】 English 1 I [中和 彩子] 春 学期授業/Spring	997
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0216】 English 1 II [中和 彩子] 秋 学期授業/Fall	998
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0217】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	999
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0218】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	1000
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0219】 English 1 I [塩谷 幸子] 春 学期授業/Spring	1001
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0220】 English 1 II [塩谷 幸子] 秋 学期授業/Fall	1002
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0221】 English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1003
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0222】 English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1005
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0223】 English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1006
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0224】 English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1007
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0225】 English 2 I [JUSTIN FALKUS] 春学期授業/Spring	1009
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0226】 English 2 II [JUSTIN FALKUS] 秋学期授業/Fall	1010
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0227】 English 2 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	1011
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0228】 English 2 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	1012
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0229】 English 2 I [ジェイソン ポール スミス] 春学期授業/Spring	1013
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0230】 English 2 II [ジェイソン ポール スミス] 秋学期授業/Fall	1014
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0231】 English 2 I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1015
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0232】 English 2 II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1016
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0233】 English 2 I [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	1017
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0234】 English 2 II [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	1018
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0235】 English 2 I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	1019
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0236】 English 2 II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	1020
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0237】 English 2 I [MICHAEL F.MURPHY] 春学期授業/Spring	1021

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0238】English 2 II [MICHAEL F.MURPHY] 秋学期授業/Fall	1022
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0239】English 2 I [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	1023
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0240】English 2 II [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	1024
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0241】English 2 I [Andrew E. Chen] 春学期授業/Spring	1026
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0242】English 2 II [Andrew E. Chen] 秋学期授業/Fall	1028
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0243】English 2 I [Richard.J.Burrows] 春学期授業/Spring	1029
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0244】English 2 II [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	1030
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0245】English 2 I [PATRICK M MCEVILLY] 春学期授業/Spring	1032
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0246】English 2 II [PATRICK M MCEVILLY] 秋学期授業/Fall	1033
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0247】English 2 I [関野 佳苗] 春学期授業/Spring	1034
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0248】English 2 II [関野 佳苗] 秋学期授業/Fall	1035
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0249】English 2 I [GENC BURCU] 春学期授業/Spring	1037
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0250】English 2 II [GENC BURCU] 秋学期授業/Fall	1038
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0255】English 2 I [中垣 恒太郎] 春学期授業/Spring	1039
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0256】English 2 II [中垣 恒太郎] 秋学期授業/Fall	1040
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0257】English 2 I [GENC BURCU] 春学期授業/Spring	1041
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0258】English 2 II [GENC BURCU] 秋学期授業/Fall	1042
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0259】English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1043
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0260】English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1044
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0261】English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1046
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0262】English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1047
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0263】English 2 I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1048
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0264】English 2 II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1049
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0265】English 2 I [JUSTIN FALKUS] 春学期授業/Spring	1050
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0266】English 2 II [JUSTIN FALKUS] 秋学期授業/Fall	1051
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0267】English 2 I [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	1052
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0268】English 2 II [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	1053
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0269】English 2 I [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	1054

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0270】 English 2 II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	1055
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0271】 English 2 I [MICHAEL F.MURPHY] 春学期授業/Spring	1056
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0272】 English 2 II [MICHAEL F.MURPHY] 秋学期授業/Fall	1057
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0273】 English 2 I [永井 大輔] 春 学期授業/Spring	1058
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0274】 English 2 II [永井 大輔] 秋 学期授業/Fall	1060
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0275】 English 2 I [Andrew E. Chen] 春学期授業/Spring	1061
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0276】 English 2 II [Andrew E. Chen] 秋学期授業/Fall	1063
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0277】 English 2 I [関野 佳苗] 春 学期授業/Spring	1065
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0278】 English 2 II [関野 佳苗] 秋 学期授業/Fall	1067
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0279】 English 2 I [Richard.J.Burrows] 春学期授業/Spring	1068
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0280】 English 2 II [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	1069
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0281】 English 2 I [ジェイソン ポール スミス] 春学期授業/Spring	1071
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0282】 English 2 II [ジェイソン ポール スミス] 秋学期授業/Fall	1072
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0283】 English 2 I [PATRICK M MCEVILLY] 春学期授業/Spring	1073
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0284】 English 2 II [PATRICK M MCEVILLY] 秋学期授業/Fall	1074
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0291】 English 2 I [石原 紀子] 春 学期授業/Spring	1075
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0292】 English 2 II [石原 紀子] 秋 学期授業/Fall	1076
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0293】 English 2 I [岩崎 博] 春学 期授業/Spring	1078
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0294】 English 2 II [岩崎 博] 秋学 期授業/Fall	1079
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0295】 English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1081
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0296】 English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1082
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0297】 English 2 I [THOMAS G POWER] 春学期授業/Spring	1084
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0298】 English 2 II [THOMAS G POWER] 秋学期授業/Fall	1085
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0299】 English 2 I [鈴木 眞奈美] 春学期授業/Spring	1087
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0300】 English 2 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall	1088
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0301】 English 2 I [宮本 裕子] 春 学期授業/Spring	1089
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0302】 English 2 II [宮本 裕子] 秋 学期授業/Fall	1090
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0303】 English 2 I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	1091

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0304】 English 2 II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	1092
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0305】 English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1093
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0306】 English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1095
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0307】 English 2 I [近藤 隆子] 春学期授業/Spring	1096
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0308】 English 2 II [近藤 隆子] 秋学期授業/Fall	1097
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0309】 English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1098
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0310】 English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1100
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0311】 English 2 I [Robert D. Hinton] 春学期授業/Spring	1101
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0312】 English 2 II [Robert D. Hinton] 秋学期授業/Fall	1102
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0313】 English 2 I [遠藤 郁子] 春学期授業/Spring	1103
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0314】 English 2 II [遠藤 郁子] 秋学期授業/Fall	1105
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0315】 English 2 I [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	1106
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0316】 English 2 II [山崎 暁子] 秋学期授業/Fall	1107
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0317】 English 2 I [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	1108
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0318】 English 2 II [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	1109
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0319】 English 2 I [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	1110
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0320】 English 2 II [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	1111
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0325】 English 2 I [衣笠 正晃] 春学期授業/Spring	1112
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0326】 English 2 II [衣笠 正晃] 秋学期授業/Fall	1113
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0327】 English 2 I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	1114
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0328】 English 2 II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	1115
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0329】 English 2 I [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	1116
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0330】 English 2 II [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	1117
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0331】 English 2 I [鈴木 眞奈美] 春学期授業/Spring	1118
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0332】 English 2 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall	1119
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0333】 English 2 I [岩崎 博] 春学期授業/Spring	1121
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0334】 English 2 II [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	1122
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0335】 English 2 I [CHRISTOPHER MASCHIO] 春学期授業/Spring	1124

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0336】English 2 II [CHRISTOPHER MASCHIO] 秋学期授業/Fall	1125
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0337】English 2 I [宮本 裕子] 春学期授業/Spring	1126
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0338】English 2 II [宮本 裕子] 秋学期授業/Fall	1127
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0339】English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1128
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0340】English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1129
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0341】English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1131
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0342】English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1132
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0343】English 2 I [ジェフリー B タロフスキー] 春学期授業/Spring	1134
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0344】English 2 II [ジェフリー B タロフスキー] 秋学期授業/Fall	1135
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0345】English 2 I [Robert D. Hinton] 春学期授業/Spring	1137
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0346】English 2 II [Robert D. Hinton] 秋学期授業/Fall	1138
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0347】English 2 I [近藤 隆子] 春学期授業/Spring	1139
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0348】English 2 II [近藤 隆子] 秋学期授業/Fall	1140
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0349】English 2 I [山崎 暁子] 春学期授業/Spring	1141
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0350】English 2 II [山崎 暁子] 秋学期授業/Fall	1142
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0351】English 2 I [THOMAS G POWER] 春学期授業/Spring	1143
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0352】English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1144
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0353】English 2 I [石原 紀子] 春学期授業/Spring	1145
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0354】English 2 II [石原 紀子] 秋学期授業/Fall	1146
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0355】English 2 I [DONALD W WHYTE] 春学期授業/Spring	1148
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0356】English 2 II [DONALD W WHYTE] 秋学期授業/Fall	1149
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0361】English 2 I [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	1150
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0362】English 2 II [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	1151
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0363】English 2 I [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	1152
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0364】English 2 II [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	1153
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0365】English 2 I [鈴木 眞奈美] 春学期授業/Spring	1155
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0366】English 2 II [鈴木 眞奈美] 秋学期授業/Fall	1156
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0367】English 2 I [SHAWN M DE HAVEN] 春学期授業/Spring	1157

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0368】 English 2 II [SHAWN M DE HAVEN] 秋学期授業/Fall	1158
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0369】 English 2 I [鹿子嶋 由佳] 春学期授業/Spring	1159
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0370】 English 2 II [鹿子嶋 由佳] 秋学期授業/Fall	1161
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0371】 English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1162
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0372】 English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1163
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0373】 English 2 I [森永 豊] 春学期授業/Spring	1164
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0374】 English 2 II [森永 豊] 秋学期授業/Fall	1166
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0375】 English 2 I [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	1167
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0376】 English 2 II [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	1168
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0377】 English 2 I [小堀 洋] 春学期授業/Spring	1169
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0378】 English 2 II [小堀 洋] 秋学期授業/Fall	1170
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0379】 English 2 I [門馬 義幸] 春学期授業/Spring	1171
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0380】 English 2 II [門馬 義幸] 秋学期授業/Fall	1173
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0381】 English 2 I [MICHAEL DONOVAN] 春学期授業/Spring	1174
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0382】 English 2 II [MICHAEL DONOVAN] 秋学期授業/Fall	1176
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0383】 English 2 I [Richard.J.Burrows] 春学期授業/Spring	1177
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0384】 English 2 II [Richard.J.Burrows] 秋学期授業/Fall	1178
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0385】 English 2 I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	1179
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0386】 English 2 II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	1180
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0387】 English 2 I [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1181
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0388】 English 2 II [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1183
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0389】 English 2 I [川澄 亜岐子] 春学期授業/Spring	1184
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0390】 English 2 II [川澄 亜岐子] 秋学期授業/Fall	1185
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0391】 English 2 I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1186
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0392】 English 2 II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1187
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0393】 English 2 I [飛田 英伸] 春学期授業/Spring	1188
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0394】 English 2 II [飛田 英伸] 秋学期授業/Fall	1189
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0401】 English 2 I [鹿子嶋 由佳] 春学期授業/Spring	1190

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0402】 English 2 II [鹿子嶋 由佳]	
秋学期授業/Fall	1192
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0403】 English 2 I [Annette Gruber]	
春学期授業/Spring	1193
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0404】 English 2 II [Annette Gruber]	
秋学期授業/Fall	1194
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0405】 English 2 I [ALAN M NICHOLLS]	
春学期授業/Spring	1195
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0406】 English 2 II [ALAN M NICHOLLS]	
秋学期授業/Fall	1197
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0407】 English 2 I [井上 紗央里]	
春学期授業/Spring	1198
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0408】 English 2 II [井上 紗央里]	
秋学期授業/Fall	1199
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0409】 English 2 I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1200
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0410】 English 2 II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1201
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0411】 English 2 I [JAMES D SHORT]	
春学期授業/Spring	1203
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0412】 English 2 II [JAMES D SHORT]	
秋学期授業/Fall	1204
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0413】 English 2 I [森永 豊] 春学 期授業/Spring	1206
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0414】 English 2 II [森永 豊] 秋学 期授業/Fall	1207
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0415】 English 2 I [ウォルター・カ ズマー] 春学期授業/Spring	1209
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0416】 English 2 II [ウォルター・カ ズマー] 秋学期授業/Fall	1210
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0417】 English 2 I [SHAWN M DE HAVEN] 春学期授業/Spring	1211
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0418】 English 2 II [SHAWN M DE HAVEN] 秋学期授業/Fall	1212
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0419】 English 2 I [門馬 義幸] 春 学期授業/Spring	1213
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0420】 English 2 II [門馬 義幸] 秋 学期授業/Fall	1214
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0421】 English 2 I [Richard.J.Burrows]	
春学期授業/Spring	1216
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0422】 English 2 II [Richard.J.Burrows]	
秋学期授業/Fall	1217
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0423】 English 2 I [MICHAEL DONOVAN] 春学期授業/Spring	1218
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0424】 English 2 II [MICHAEL DONOVAN] 秋学期授業/Fall	1220
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0425】 English 2 I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	1221
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0426】 English 2 II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	1222
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0427】 English 2 I [DYLAN O SCUDDER] 春学期授業/Spring	1223
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0428】 English 2 II [DYLAN O SCUDDER] 秋学期授業/Fall	1225
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0429】 English 2 I [川澄 亜岐子]	
春学期授業/Spring	1227

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0430】 English 2 II [川澄 亜岐子]	
秋学期授業/Fall	1228
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0431】 English 2 I [ERIC J RITTER]	
春学期授業/Spring	1229
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0432】 English 2 II [ERIC J RITTER]	
秋学期授業/Fall	1230
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0433】 English 2 I [鈴木 眞奈美]	
春学期授業/Spring	1231
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0434】 English 2 II [鈴木 眞奈美]	
秋学期授業/Fall	1232
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0435】 English 2 I [宮崎 早季] 春	
学期授業/Spring	1233
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0436】 English 2 II [宮崎 早季] 秋	
学期授業/Fall	1234
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0437】 English 2 I [宮崎 早季] 春	
学期授業/Spring	1235
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0438】 English 2 II [宮崎 早季] 秋	
学期授業/Fall	1236
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0439】 English 2 I [中垣 恒太郎]	
春学期授業/Spring	1237
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0440】 English 2 II [中垣 恒太郎]	
秋学期授業/Fall	1238
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0501】 英語 1 [小川 真也] 春学期授	
業/Spring	1239
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0502】 英語 3 [小川 真也] 秋学期授	
業/Fall	1241
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0503】 英語 1 [深谷 公宣] 春学期授	
業/Spring	1242
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0504】 英語 3 [深谷 公宣] 秋学期授	
業/Fall	1243
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0505】 英語 1 [宇治谷 義英] 春学期	
授業/Spring	1244
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0506】 英語 3 [宇治谷 義英] 秋学期	
授業/Fall	1245
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0507】 英語 1 [永井 大輔] 春学期授	
業/Spring	1246
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0508】 英語 3 [永井 大輔] 秋学期授	
業/Fall	1248
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0509】 英語 1 [北 文美子] 春学期授	
業/Spring	1250
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0510】 英語 3 [北 文美子] 秋学期授	
業/Fall	1251
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0511】 英語 1 [岩下 弘史] 春学期授	
業/Spring	1252
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0512】 英語 3 [岩下 弘史] 秋学期授	
業/Fall	1253
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0513】 英語 1 [小川 真也] 春学期授	
業/Spring	1254
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0514】 英語 3 [小川 真也] 秋学期授	
業/Fall	1256
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0515】 英語 1 [遠藤 郁子] 春学期授	
業/Spring	1257
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0516】 英語 3 [遠藤 郁子] 秋学期授	
業/Fall	1259
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0517】 英語 1 [宇治谷 義英] 春学期	
授業/Spring	1260

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0518】 英語 3 [宇治谷 義英] 秋学期授業/Fall	1261
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0519】 英語 1 [永井 大輔] 春学期授業/Spring	1262
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0520】 英語 3 [永井 大輔] 秋学期授業/Fall	1264
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0521】 英語 1 [北 文美子] 春学期授業/Spring	1266
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0522】 英語 3 [北 文美子] 秋学期授業/Fall	1267
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0523】 英語 1 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	1268
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0524】 英語 3 [岩下 弘史] 秋学期授業/Fall	1269
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0531】 英語 2 [RICHARD SHEEHAN] 春学期授業/Spring	1270
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0532】 英語 4 [RICHARD SHEEHAN] 秋学期授業/Fall	1271
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0533】 英語 2 [ジェイソン ポール スミス] 春学期授業/Spring	1272
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0534】 英語 4 [ジェイソン ポール スミス] 秋学期授業/Fall	1273
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0535】 英語 2 [ジョナサン・エイブル] 春学期授業/Spring	1274
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0536】 英語 4 [ジョナサン・エイブル] 秋学期授業/Fall	1275
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0537】 英語 2 [栩木 玲子] 春学期授業/Spring	1276
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0538】 英語 4 [栩木 玲子] 秋学期授業/Fall	1277
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0539】 英語 2 [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	1278
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0540】 英語 4 [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	1279
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0541】 英語 2 [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	1281
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0542】 英語 4 [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	1282
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0543】 英語 2 [RICHARD SHEEHAN] 春学期授業/Spring	1283
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0544】 英語 4 [RICHARD SHEEHAN] 秋学期授業/Fall	1284
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0545】 英語 2 [ジェイソン ポール スミス] 春学期授業/Spring	1285
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0546】 英語 4 [ジェイソン ポール スミス] 秋学期授業/Fall	1286
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0547】 英語 2 [URBANOVA Jana] 春学期授業/Spring	1287
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0548】 英語 4 [URBANOVA Jana] 秋学期授業/Fall	1288
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0549】 英語 2 [ROBIN F WEICHERT] 春学期授業/Spring	1290
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0550】 英語 4 [ROBIN F WEICHERT] 秋学期授業/Fall	1291
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0551】 英語 2 [佐藤 陽子] 春学期授業/Spring	1292

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0552】 英語 4 [佐藤 陽子] 秋学期授業/Fall	1293
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0553】 英語 2 [栩木 玲子] 春学期授業/Spring	1295
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0554】 英語 4 [栩木 玲子] 秋学期授業/Fall	1296
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0561】 英語 5 [TOBY TRAUB] 春学期授業/Spring	1297
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0562】 英語 6 [TOBY TRAUB] 秋学期授業/Fall	1299
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0563】 英語 5 [ラスカイル L. ハウザー] 春学期授業/Spring	1301
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0564】 英語 6 [ラスカイル L. ハウザー] 秋学期授業/Fall	1302
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0565】 英語 5 [CHIA-WEI KANG] 春学期授業/Spring	1303
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0566】 英語 6 [CHIA-WEI KANG] 秋学期授業/Fall	1304
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0567】 英語 5 [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	1306
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0568】 英語 6 [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	1307
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0569】 英語 5 [DANIEL G DUSZA] 春学期授業/Spring	1308
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0570】 英語 6 [DANIEL G DUSZA] 秋学期授業/Fall	1309
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0571】 英語 5 [ラスカイル L. ハウザー] 春学期授業/Spring	1311
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0572】 英語 6 [ラスカイル L. ハウザー] 秋学期授業/Fall	1312
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0573】 英語 5 [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	1313
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0574】 英語 6 [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	1314
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0601】 English 1-I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1315
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0602】 English 1-II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1316
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0603】 English 1-I [小泉 和弘] 春学期授業/Spring	1318
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0604】 English 1-II [小泉 和弘] 秋学期授業/Fall	1319
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0605】 English 1-I [吉江 秀和] 春学期授業/Spring	1320
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0606】 English 1-II [吉江 秀和] 秋学期授業/Fall	1321
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0607】 English 1-I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	1322
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0608】 English 1-II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	1323
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0609】 English 1-I [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	1325
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0610】 English 1-II [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	1326
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0611】 English 1-I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	1327

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0612】 English 1-II [舟橋 美香] 秋 学期授業/Fall	1328
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0613】 English 1-I [北原 ルック 明子] 春学期授業/Spring	1329
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0614】 English 1-II [北原 ルック 明子] 秋学期授業/Fall	1330
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0615】 English 1-I [小泉 和弘] 春 学期授業/Spring	1332
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0616】 English 1-II [小泉 和弘] 秋 学期授業/Fall	1333
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0617】 English 1-I [吉江 秀和] 春 学期授業/Spring	1334
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0618】 English 1-II [吉江 秀和] 秋 学期授業/Fall	1335
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0619】 English 1-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring	1336
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0620】 English 1-II [今井 澄子] 秋 学期授業/Fall	1337
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0621】 English 1-I [根本 怜奈] 春 学期授業/Spring	1339
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0622】 English 1-II [根本 怜奈] 秋 学期授業/Fall	1340
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0623】 English 1-I [舟橋 美香] 春 学期授業/Spring	1341
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0624】 English 1-II [舟橋 美香] 秋 学期授業/Fall	1342
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0625】 English 1-I [青山 恵子] 春 学期授業/Spring	1343
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0626】 English 1-II [青山 恵子] 秋 学期授業/Fall	1344
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0627】 English 1-I [青山 恵子] 春 学期授業/Spring	1345
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0628】 English 1-II [青山 恵子] 秋 学期授業/Fall	1347
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0631】 English 2-I [小堀 洋] 春 学期授業/Spring	1348
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0632】 English 2-II [小堀 洋] 秋 学期授業/Fall	1349
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0633】 English 2-I [森永 豊] 春 学期授業/Spring	1351
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0634】 English 2-II [森永 豊] 秋 学期授業/Fall	1352
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0635】 English 2-I [大曲 陽子] 春 学期授業/Spring	1354
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0636】 English 2-II [大曲 陽子] 秋 学期授業/Fall	1355
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0637】 English 2-I [吉川 直澄] 春 学期授業/Spring	1357
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0638】 English 2-II [吉川 直澄] 秋 学期授業/Fall	1358
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0639】 English 2-I [高橋 佳江] 春 学期授業/Spring	1360
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0640】 English 2-II [高橋 佳江] 秋 学期授業/Fall	1361
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0641】 English 2-I [今井 澄子] 春 学期授業/Spring	1362

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0642】 English 2-II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	1363
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0643】 English 2-I [小堀 洋] 春学期授業/Spring	1365
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0644】 English 2-II [小堀 洋] 秋学期授業/Fall	1366
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0645】 English 2-I [森永 豊] 春学期授業/Spring	1368
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0646】 English 2-II [森永 豊] 秋学期授業/Fall	1369
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0647】 English 2-I [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	1371
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0648】 English 2-II [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	1372
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0649】 English 2-I [吉川 直澄] 春学期授業/Spring	1374
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0650】 English 2-II [吉川 直澄] 秋学期授業/Fall	1375
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0651】 English 2-I [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	1377
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0652】 English 2-II [高橋 佳江] 秋学期授業/Fall	1378
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0653】 English 2-I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	1379
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0654】 English 2-II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	1380
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0655】 English 2-I [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	1382
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0656】 English 2-II [ESTHER STOCKWELL] 秋学期授業/Fall	1383
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0657】 English 2-I [ESTHER STOCKWELL] 春学期授業/Spring	1384
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0658】 English 2-II [ESTHER STOCKWELL] 秋学期授業/Fall	1385
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0701】 英語 1-I [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	1386
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0702】 英語 1-II [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	1387
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0703】 英語 1-I [飛田 英伸] 春学期授業/Spring	1389
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0704】 英語 1-II [飛田 英伸] 秋学期授業/Fall	1390
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0705】 英語 1-I [川野 芽生] 春学期授業/Spring	1391
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0706】 英語 1-II [川野 芽生] 秋学期授業/Fall	1392
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0707】 英語 1-I [溝部 敦子] 春学期授業/Spring	1393
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0708】 英語 1-II [溝部 敦子] 秋学期授業/Fall	1395
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0709】 英語 1-I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1396
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0710】 英語 1-II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1397
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0711】 英語 1-I [鈴木 博雄] 春学期授業/Spring	1398

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0712】 英語 1 - II [鈴木 博雄] 秋学期授業/Fall	1399
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0713】 英語 1 - I [鈴木 理枝] 春学期授業/Spring	1400
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0714】 英語 1 - II [鈴木 理枝] 秋学期授業/Fall	1401
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0715】 英語 1 - I [亀岡 浩一] 春学期授業/Spring	1402
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0716】 英語 1 - II [亀岡 浩一] 秋学期授業/Fall	1403
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0717】 英語 1 - I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1404
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0718】 英語 1 - II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1405
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0719】 英語 1 - I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	1406
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0720】 英語 1 - II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	1407
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0721】 英語 1 - I [折笠 真美] 春学期授業/Spring	1408
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0722】 英語 1 - II [折笠 真美] 秋学期授業/Fall	1410
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0723】 英語 1 - I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1411
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0724】 英語 1 - II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1412
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0725】 英語 1 - I [小堀 洋] 春学期授業/Spring	1413
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0726】 英語 1 - II [小堀 洋] 秋学期授業/Fall	1414
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0731】 英語 2 - I [鈴木 理枝] 春学期授業/Spring	1415
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0732】 英語 2 - II [鈴木 理枝] 秋学期授業/Fall	1416
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0733】 英語 2 - I [亀岡 浩一] 春学期授業/Spring	1417
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0734】 英語 2 - II [亀岡 浩一] 秋学期授業/Fall	1418
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0735】 英語 2 - I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1419
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0736】 英語 2 - II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1420
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0737】 英語 2 - I [戸嶋 まゆみ] 春学期授業/Spring	1421
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0738】 英語 2 - II [戸嶋 まゆみ] 秋学期授業/Fall	1422
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0739】 英語 2 - I [折笠 真美] 春学期授業/Spring	1423
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0740】 英語 2 - II [折笠 真美] 秋学期授業/Fall	1424
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0741】 英語 2 - I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1425
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0742】 英語 2 - II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1426
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0743】 英語 2 - I [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	1427

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0744】英語 2 - II [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	1429
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0745】英語 2 - I [飛田 英伸] 春学期授業/Spring	1430
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0746】英語 2 - II [飛田 英伸] 秋学期授業/Fall	1431
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0747】英語 2 - I [大和久 悌一郎] 春学期授業/Spring	1432
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0748】英語 2 - II [大和久 悌一郎] 秋学期授業/Fall	1433
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0749】英語 2 - I [溝部 敦子] 春学期授業/Spring	1434
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0750】英語 2 - II [溝部 敦子] 秋学期授業/Fall	1436
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0751】英語 2 - I [光野 昭雄] 春学期授業/Spring	1437
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0752】英語 2 - II [光野 昭雄] 秋学期授業/Fall	1438
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0753】英語 2 - I [豊口 真衣子] 春学期授業/Spring	1439
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0754】英語 2 - II [豊口 真衣子] 秋学期授業/Fall	1440
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0755】英語 2 - I [川野 芽生] 春学期授業/Spring	1441
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0756】英語 2 - II [川野 芽生] 秋学期授業/Fall	1442
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0951】Academic English R&W I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1443
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0952】Academic English L&S I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1444
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0953】Academic English R&W II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1445
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0954】Academic English L&S II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1446
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0955】Academic English R&W I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1448
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0956】Academic English L&S I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1449
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0957】Academic English R&W II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1450
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0958】Academic English L&S II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1451
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0959】Academic English R&W I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	1452
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0960】Academic English L&S I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	1453
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0961】Academic English R&W II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	1454
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0962】Academic English L&S II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	1455
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0963】Academic English R&W I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1456
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0964】Academic English L&S I [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	1457
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語【R0965】Academic English R&W II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1458

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0966】 Academic English L&S II [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	1460
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0967】 Academic English R&W I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1461
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0968】 Academic English L&S I [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	1462
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0969】 Academic English R&W II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1463
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0970】 Academic English L&S II [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	1464
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0971】 Academic English R&W I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	1465
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0972】 Academic English L&S I [コー トランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	1466
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0973】 Academic English R&W II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	1467
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 英語 【R0974】 Academic English L&S II [コー トランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	1468
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3501】 日本語 1 I [山本 そのこ] 春学期授業/Spring	1469
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3502】 日本語 1 II [山本 そのこ] 秋学期授業/Fall	1471
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3505】 日本語 1 I [中沢 佐企子] 春学期授業/Spring	1472
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3506】 日本語 1 II [中沢 佐企子] 秋学期授業/Fall	1473
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3511】 日本語 2 I [副島 健作] 春学期授業/Spring	1474
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3512】 日本語 2 II [副島 健作] 秋学期授業/Fall	1475
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3513】 日本語 2 I [中沢 佐企子] 春学期授業/Spring	1476
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3514】 日本語 2 II [中沢 佐企子] 秋学期授業/Fall	1477
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3515】 日本語 2 I [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	1478
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R3516】 日本語 2 II [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	1479
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4001】 ドイツ語 1 I [児島 由理] 春学期授業/Spring	1480
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4002】 ドイツ語 1 II [児島 由理] 秋学期授業/Fall	1481
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4005】 ドイツ語 1 I [高木 葉子] 春学期授業/Spring	1482
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4006】 ドイツ語 1 II [高木 葉子] 秋学期授業/Fall	1483
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4007】 ドイツ語 1 I [岡本 雅克] 春学期授業/Spring	1484
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4008】 ドイツ語 1 II [岡本 雅克] 秋学期授業/Fall	1485
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4011】 ドイツ語 1 I [渡辺 国彦] 春学期授業/Spring	1486
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4012】 ドイツ語 1 II [渡辺 国彦] 秋学期授業/Fall	1487
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4017】 ドイツ語 1 I [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	1488

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4018】 ドイツ語 1 II [吉田 敬介]	
秋学期授業/Fall	1489
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4019】 ドイツ語 1 I [柳橋 大輔]	
春学期授業/Spring	1490
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4020】 ドイツ語 1 II [柳橋 大輔]	
秋学期授業/Fall	1491
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4023】 ドイツ語 1 I [遠藤 浩介]	
春学期授業/Spring	1492
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4024】 ドイツ語 1 II [遠藤 浩介]	
秋学期授業/Fall	1493
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4025】 ドイツ語 1 I [小野間 亮子]	
春学期授業/Spring	1494
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4026】 ドイツ語 1 II [小野間 亮子]	
秋学期授業/Fall	1495
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4027】 ドイツ語 1 I [外山 知子]	
春学期授業/Spring	1496
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4028】 ドイツ語 1 II [外山 知子]	
秋学期授業/Fall	1497
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4029】 ドイツ語 1 I [浦田 智]	
春学期授業/Spring	1498
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4030】 ドイツ語 1 II [浦田 智]	
秋学期授業/Fall	1499
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4051】 ドイツ語 2 I [外山 知子]	
春学期授業/Spring	1500
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4052】 ドイツ語 2 II [外山 知子]	
秋学期授業/Fall	1502
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4055】 ドイツ語 2 I [長澤 優子]	
春学期授業/Spring	1503
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4056】 ドイツ語 2 II [長澤 優子]	
秋学期授業/Fall	1504
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4057】 ドイツ語 2 I [高木 葉子]	
春学期授業/Spring	1505
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4058】 ドイツ語 2 II [高木 葉子]	
秋学期授業/Fall	1506
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4061】 ドイツ語 2 I [ADAM D JAMBOR]	
春学期授業/Spring	1507
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4062】 ドイツ語 2 II [ADAM D JAMBOR]	
秋学期授業/Fall	1508
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4065】 ドイツ語 2 I [D. ハイデンライヒ]	
春学期授業/Spring	1509
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4066】 ドイツ語 2 II [D. ハイデンライヒ]	
秋学期授業/Fall	1510
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4067】 ドイツ語 2 I [浦田 智]	
春学期授業/Spring	1511
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4068】 ドイツ語 2 II [浦田 智]	
秋学期授業/Fall	1512
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4071】 ドイツ語 2 I [柳橋 大輔]	
春学期授業/Spring	1513
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4072】 ドイツ語 2 II [柳橋 大輔]	
秋学期授業/Fall	1514
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4073】 ドイツ語 2 I [渡辺 国彦]	
春学期授業/Spring	1515
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4074】 ドイツ語 2 II [渡辺 国彦]	
秋学期授業/Fall	1516
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4075】 ドイツ語 2 I [天沼 春樹]	
春学期授業/Spring	1517

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4076】ドイツ語 2 II [天沼 春樹]	
秋学期授業/Fall	1518
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4077】ドイツ語 2 I [JENS OSTWALD] 春学期授業/Spring	1519
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4078】ドイツ語 2 II [JENS OSTWALD] 秋学期授業/Fall	1520
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4101】ドイツ語 (1) I [天沼 春樹] 春学期授業/Spring	1521
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4102】ドイツ語 (1) II [天沼 春樹] 秋学期授業/Fall	1523
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4111】ドイツ語 (2) I [平松 英人] 春学期授業/Spring	1524
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4112】ドイツ語 (2) II [平松 英人] 秋学期授業/Fall	1525
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4121】ドイツ語 1 [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	1526
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4122】ドイツ語 3 [熊田 泰章] 秋学期授業/Fall	1528
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4123】ドイツ語 2 [遠藤 浩介] 春学期授業/Spring	1529
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4124】ドイツ語 4 [遠藤 浩介] 秋学期授業/Fall	1530
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4125】ドイツ語 5 [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	1531
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4126】ドイツ語 6 [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	1532
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4127】ドイツ語 1 [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	1533
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4128】ドイツ語 3 [熊田 泰章] 秋学期授業/Fall	1535
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4129】ドイツ語 2 [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	1536
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4130】ドイツ語 4 [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	1537
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4141】ドイツ語 1-I [畠山 勝彦] 春学期授業/Spring	1538
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4142】ドイツ語 1-II [畠山 勝彦] 秋学期授業/Fall	1539
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4143】ドイツ語 1-I [辻 英史] 春学期授業/Spring	1540
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4144】ドイツ語 1-II [辻 英史] 秋学期授業/Fall	1542
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4145】ドイツ語 1-I [丸山 達也] 春学期授業/Spring	1543
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4146】ドイツ語 1-II [丸山 達也] 秋学期授業/Fall	1544
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4151】ドイツ語 2-I [長澤 優子] 春学期授業/Spring	1545
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4152】ドイツ語 2-II [長澤 優子] 秋学期授業/Fall	1546
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4153】ドイツ語 2-I [伊東 直美] 春学期授業/Spring	1547
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4154】ドイツ語 2-II [伊東 直美] 秋学期授業/Fall	1548
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4155】ドイツ語 2-I [岡本 雅克] 春学期授業/Spring	1549

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R4156】 ドイツ語 2-II [岡本 雅克] 秋学期授業/Fall	1550
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5001】 フランス語 1 I [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring	1551
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5002】 フランス語 1 II [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall	1552
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5003】 フランス語 1 I [小幡 一雄] 春学期授業/Spring	1553
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5004】 フランス語 1 II [小幡 一雄] 秋学期授業/Fall	1554
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5005】 フランス語 1 I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1555
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5006】 フランス語 1 II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1556
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5007】 フランス語 1 I [佐藤 正和] 春学期授業/Spring	1557
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5008】 フランス語 1 II [佐藤 正和] 秋学期授業/Fall	1558
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5009】 フランス語 1 I [寺家村 博] 春学期授業/Spring	1559
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5010】 フランス語 1 II [寺家村 博] 秋学期授業/Fall	1560
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5011】 フランス語 1 I [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	1561
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5012】 フランス語 1 II [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	1562
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5013】 フランス語 1 I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1563
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5014】 フランス語 1 II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1564
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5015】 フランス語 1 I [小幡 一雄] 春学期授業/Spring	1565
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5016】 フランス語 1 II [小幡 一雄] 秋学期授業/Fall	1566
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5019】 フランス語 1 I [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1567
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5020】 フランス語 1 II [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1568
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5021】 フランス語 1 I [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	1569
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5022】 フランス語 1 II [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	1570
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5041】 フランス語 2 I [石川 典子] 春学期授業/Spring	1571
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5042】 フランス語 2 II [石川 典子] 秋学期授業/Fall	1572
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5043】 フランス語 2 I [コリンヌ ヴァリエンス] 春学期授業/Spring	1573
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5044】 フランス語 2 II [コリンヌ ヴァリエンス] 秋学期授業/Fall	1574
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5045】 フランス語 2 I [杉村 裕史] 春学期授業/Spring	1575
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5046】 フランス語 2 II [杉村 裕史] 秋学期授業/Fall	1576
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5047】 フランス語 2 I [武田 昭彦] 春学期授業/Spring	1577

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5048】 フランス語 2 II [武田 昭彦] 秋学期授業/Fall	1578
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5049】 フランス語 2 I [コリンヌ ヴァリエンス] 春学期授業/Spring	1579
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5050】 フランス語 2 II [コリンヌ ヴァリエンス] 秋学期授業/Fall	1580
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5051】 フランス語 2 I [寺家村 博] 春学期授業/Spring	1581
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5052】 フランス語 2 II [寺家村 博] 秋学期授業/Fall	1582
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5053】 フランス語 2 I [山口 雅敏] 春学期授業/Spring	1583
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5054】 フランス語 2 II [山口 雅敏] 秋学期授業/Fall	1584
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5055】 フランス語 2 I [JULIEN AGAESSE] 春学期授業/Spring	1585
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5056】 フランス語 2 II [JULIEN AGAESSE] 秋学期授業/Fall	1586
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5059】 フランス語 2 I [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	1587
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5060】 フランス語 2 II [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	1588
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5061】 フランス語 2 I [柴崎 秀穂] 春学期授業/Spring	1589
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5062】 フランス語 2 II [柴崎 秀穂] 秋学期授業/Fall	1590
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5081】 フランス語 (1) I [佐藤 正和] 春学期授業/Spring	1591
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5082】 フランス語 (1) II [佐藤 正和] 秋学期授業/Fall	1592
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5083】 フランス語 (2) I [村松 マリ=エマニュエル] 春学期授業/Spring	1593
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5084】 フランス語 (2) II [村松 マリ=エマニュエル] 秋学期授業/Fall	1594
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5091】 フランス語 1 [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	1595
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5092】 フランス語 3 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	1596
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5093】 フランス語 2 [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	1597
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5094】 フランス語 4 [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	1598
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5095】 フランス語 5 [PHILIPPE JORDY] 春学期授業/Spring	1599
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5096】 フランス語 6 [PHILIPPE JORDY] 秋学期授業/Fall	1600
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5097】 フランス語 1 [廣松 勲] 春学期授業/Spring	1601
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5098】 フランス語 3 [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	1603
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5099】 フランス語 2 [コリンヌ ヴァリエンス] 春学期授業/Spring	1604
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5100】 フランス語 4 [コリンヌ ヴァリエンス] 秋学期授業/Fall	1605
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5111】 フランス語 1-I [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	1606

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5112】 フランス語 1-II [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	1607
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5113】 フランス語 1-I [稲垣 正久] 春学期授業/Spring	1608
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5114】 フランス語 1-II [稲垣 正久] 秋学期授業/Fall	1609
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5115】 フランス語 1-I [江澤 健一郎] 春学期授業/Spring	1610
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5116】 フランス語 1-II [江澤 健一郎] 秋学期授業/Fall	1611
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5121】 フランス語 2-I [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	1612
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5122】 フランス語 2-II [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	1613
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5123】 フランス語 2-I [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	1614
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5124】 フランス語 2-II [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	1615
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5125】 フランス語 2-I [杉村 裕史] 春学期授業/Spring	1616
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R5126】 フランス語 2-II [杉村 裕史] 秋学期授業/Fall	1617
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6001】 ロシア語 1 I [油本 真理] 春学期授業/Spring	1618
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6002】 ロシア語 1 II [油本 真理] 秋学期授業/Fall	1619
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6003】 ロシア語 1 I [木部 敬] 春学期授業/Spring	1620
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6004】 ロシア語 1 II [木部 敬] 秋学期授業/Fall	1621
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6005】 ロシア語 1 I [小西 昌隆] 春学期授業/Spring	1622
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6006】 ロシア語 1 II [小西 昌隆] 秋学期授業/Fall	1623
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6011】 ロシア語 2 I [上野 理恵] 春学期授業/Spring	1624
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6012】 ロシア語 2 II [上野 理恵] 秋学期授業/Fall	1625
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6013】 ロシア語 2 I [小西 昌隆] 春学期授業/Spring	1626
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6014】 ロシア語 2 II [小西 昌隆] 秋学期授業/Fall	1627
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6015】 ロシア語 2 I [上野 理恵] 春学期授業/Spring	1628
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6016】 ロシア語 2 II [上野 理恵] 秋学期授業/Fall	1629
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6031】 ロシア語 1 [エレーナ 三 神] 春学期授業/Spring	1630
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6032】 ロシア語 3 [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall	1631
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6033】 ロシア語 2 [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring	1632
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6034】 ロシア語 4 [小西 昌隆] 秋学期授業/Fall	1633
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6035】 ロシア語 5 [上野 理恵] 春学期授業/Spring	1634

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6036】 ロシア語 6 [上野 理恵]	
秋学期授業/Fall	1635
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6041】 ロシア語 1-I [佐藤 裕子]	
春学期授業/Spring	1636
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6042】 ロシア語 1-II [佐藤 裕子]	
秋学期授業/Fall	1637
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6043】 ロシア語 1-I [木部 敬]	
春学期授業/Spring	1638
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6044】 ロシア語 1-II [木部 敬]	
秋学期授業/Fall	1639
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6051】 ロシア語 2-I [佐藤 裕子]	
春学期授業/Spring	1640
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6052】 ロシア語 2-II [佐藤 裕子]	
秋学期授業/Fall	1641
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6053】 ロシア語 2-I [小西 昌隆]	
春学期授業/Spring	1642
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R6054】 ロシア語 2-II [小西 昌隆]	
秋学期授業/Fall	1643
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7001】 中国語 1 I [渡部 れい子]	
春学期授業/Spring	1644
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7002】 中国語 1 II [渡部 れい子]	
秋学期授業/Fall	1645
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7003】 中国語 1 I [福木 滋久]	
春学期授業/Spring	1646
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7004】 中国語 1 II [福木 滋久]	
秋学期授業/Fall	1647
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7005】 中国語 1 I [池田 麻希子]	
春学期授業/Spring	1648
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7006】 中国語 1 II [池田 麻希子]	
秋学期授業/Fall	1649
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7007】 中国語 1 I [野村 英登]	
春学期授業/Spring	1650
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7008】 中国語 1 II [野村 英登]	
秋学期授業/Fall	1651
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7009】 中国語 1 I [鷺巣 益美]	
春学期授業/Spring	1652
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7010】 中国語 1 II [鷺巣 益美]	
秋学期授業/Fall	1653
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7011】 中国語 1 I [赤平 恵里]	
春学期授業/Spring	1654
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7012】 中国語 1 II [赤平 恵里]	
秋学期授業/Fall	1655
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7013】 中国語 1 I [池田 麻希子]	
春学期授業/Spring	1656
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7014】 中国語 1 II [池田 麻希子]	
秋学期授業/Fall	1657
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7015】 中国語 1 I [柴崎 公美子]	
春学期授業/Spring	1658
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7016】 中国語 1 II [柴崎 公美子]	
秋学期授業/Fall	1660
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7017】 中国語 1 I [大江 千晶]	
春学期授業/Spring	1661
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7018】 中国語 1 II [大江 千晶]	
秋学期授業/Fall	1662
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7019】 中国語 1 I [青木 正子]	
春学期授業/Spring	1663

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7020】 中国語 1 II [青木 正子]	
秋学期授業/Fall	1664
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7021】 中国語 1 I [岩田 和子]	
春学期授業/Spring	1665
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7022】 中国語 1 II [岩田 和子]	
秋学期授業/Fall	1666
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7023】 中国語 1 I [篠田 幸夫]	
春学期授業/Spring	1667
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7024】 中国語 1 II [篠田 幸夫]	
秋学期授業/Fall	1668
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7025】 中国語 1 I [大野 広之]	
春学期授業/Spring	1669
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7026】 中国語 1 II [大野 広之]	
秋学期授業/Fall	1670
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7027】 中国語 1 I [渡部 れい子]	
春学期授業/Spring	1671
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7028】 中国語 1 II [渡部 れい子]	
秋学期授業/Fall	1672
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7029】 中国語 1 I [大野 広之]	
春学期授業/Spring	1673
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7030】 中国語 1 II [大野 広之]	
秋学期授業/Fall	1674
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7031】 中国語 1 I [赤平 恵里]	
春学期授業/Spring	1675
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7032】 中国語 1 II [赤平 恵里]	
秋学期授業/Fall	1676
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7033】 中国語 1 I [柴崎 公美子]	
春学期授業/Spring	1677
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7034】 中国語 1 II [柴崎 公美子]	
秋学期授業/Fall	1679
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7035】 中国語 1 I [篠田 幸夫]	
春学期授業/Spring	1680
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7036】 中国語 1 II [篠田 幸夫]	
秋学期授業/Fall	1681
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7037】 中国語 1 I [青木 正子]	
春学期授業/Spring	1682
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7038】 中国語 1 II [青木 正子]	
秋学期授業/Fall	1683
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7039】 中国語 1 I [野村 英登]	
春学期授業/Spring	1684
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7040】 中国語 1 II [野村 英登]	
秋学期授業/Fall	1685
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7041】 中国語 1 I [柴崎 公美子]	
春学期授業/Spring	1686
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7042】 中国語 1 II [柴崎 公美子]	
秋学期授業/Fall	1688
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7043】 中国語 1 I [福木 滋久]	
春学期授業/Spring	1689
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7044】 中国語 1 II [福木 滋久]	
秋学期授業/Fall	1690
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7045】 中国語 1 I [大江 千晶]	
春学期授業/Spring	1691
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7046】 中国語 1 II [大江 千晶]	
秋学期授業/Fall	1692
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7047】 中国語 1 I [青木 正子]	
春学期授業/Spring	1693

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7048】 中国語 1 II [青木 正子]	
秋学期授業/Fall	1694
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7049】 中国語 1 I [鷺巣 益美]	
春学期授業/Spring	1695
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7050】 中国語 1 II [鷺巣 益美]	
秋学期授業/Fall	1696
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7051】 中国語 1 I [渋井 君也]	
春学期授業/Spring	1697
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7052】 中国語 1 II [渋井 君也]	
秋学期授業/Fall	1698
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7053】 中国語 1 I [木村 佳代子]	
春学期授業/Spring	1699
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7054】 中国語 1 II [木村 佳代子]	
秋学期授業/Fall	1700
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7055】 中国語 1 I [篠田 幸夫]	
春学期授業/Spring	1701
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7056】 中国語 1 II [篠田 幸夫]	
秋学期授業/Fall	1702
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7071】 中国語 2 I [斉 霞] 春学	
期授業/Spring	1703
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7072】 中国語 2 II [斉 霞] 秋学	
期授業/Fall	1704
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7073】 中国語 2 I [葉 進] 春学	
期授業/Spring	1705
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7074】 中国語 2 II [葉 進] 秋学	
期授業/Fall	1706
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7075】 中国語 2 I [祝 振媛] 春	
学期授業/Spring	1707
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7076】 中国語 2 II [祝 振媛] 秋	
学期授業/Fall	1708
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7077】 中国語 2 I [渋井 君也]	
春学期授業/Spring	1709
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7078】 中国語 2 II [渋井 君也]	
秋学期授業/Fall	1710
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7079】 中国語 2 I [斉 霞] 春学	
期授業/Spring	1711
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7080】 中国語 2 II [斉 霞] 秋学	
期授業/Fall	1712
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7081】 中国語 2 I [斉 霞] 春学	
期授業/Spring	1713
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7082】 中国語 2 II [斉 霞] 秋学	
期授業/Fall	1714
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7083】 中国語 2 I [黄 海萍] 春	
学期授業/Spring	1715
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7084】 中国語 2 II [黄 海萍] 秋	
学期授業/Fall	1716
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7085】 中国語 2 I [王 安] 春学	
期授業/Spring	1717
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7086】 中国語 2 II [王 安] 秋学	
期授業/Fall	1718
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7087】 中国語 2 I [任 麗潔] 春	
学期授業/Spring	1719
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7088】 中国語 2 II [任 麗潔] 秋	
学期授業/Fall	1720
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7089】 中国語 2 I [黄 海萍] 春	
学期授業/Spring	1721

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7090】 中国語 2 II [黄 海萍] 秋 学期授業/Fall	1722
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7091】 中国語 2 I [ショウ イク テイ] 春学期授業/Spring	1723
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7092】 中国語 2 II [ショウ イク テイ] 秋学期授業/Fall	1724
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7093】 中国語 2 I [渋井 君也] 春学期授業/Spring	1725
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7094】 中国語 2 II [渋井 君也] 秋学期授業/Fall	1726
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7095】 中国語 2 I [劉 光赤] 春 学期授業/Spring	1727
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7096】 中国語 2 II [劉 光赤] 秋 学期授業/Fall	1728
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7097】 中国語 2 I [孫 琦] 春学 期授業/Spring	1729
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7098】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学 期授業/Fall	1730
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7099】 中国語 2 I [祝 振媛] 春 学期授業/Spring	1731
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7100】 中国語 2 II [祝 振媛] 秋 学期授業/Fall	1732
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7101】 中国語 2 I [葉 会] 春学 期授業/Spring	1733
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7102】 中国語 2 II [葉 会] 秋学 期授業/Fall	1734
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7103】 中国語 2 I [孫 琦] 春学 期授業/Spring	1735
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7104】 中国語 2 II [孫 琦] 秋学 期授業/Fall	1736
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7105】 中国語 2 I [劉 光赤] 春 学期授業/Spring	1737
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7106】 中国語 2 II [劉 光赤] 秋 学期授業/Fall	1738
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7107】 中国語 2 I [葉 進] 春学 期授業/Spring	1739
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7108】 中国語 2 II [葉 進] 秋学 期授業/Fall	1740
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7109】 中国語 2 I [渋井 君也] 春学期授業/Spring	1741
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7110】 中国語 2 II [渋井 君也] 秋学期授業/Fall	1742
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7111】 中国語 2 I [耿 函] 春学 期授業/Spring	1743
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7112】 中国語 2 II [耿 函] 秋学 期授業/Fall	1744
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7113】 中国語 2 I [周 重雷] 春 学期授業/Spring	1745
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7114】 中国語 2 II [周 重雷] 秋 学期授業/Fall	1746
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7115】 中国語 2 I [ショウ イク テイ] 春学期授業/Spring	1747
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7116】 中国語 2 II [ショウ イク テイ] 秋学期授業/Fall	1748
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7117】 中国語 2 I [葉 会] 春学 期授業/Spring	1749

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7118】 中国語 2 II [薬 会] 秋学期授業/Fall	1750
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7119】 中国語 2 I [薬 会] 春学期授業/Spring	1751
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7120】 中国語 2 II [薬 会] 秋学期授業/Fall	1752
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7121】 中国語 2 I [任 麗潔] 春学期授業/Spring	1753
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7122】 中国語 2 II [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	1754
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7123】 中国語 2 I [任 麗潔] 春学期授業/Spring	1755
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7124】 中国語 2 II [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	1756
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7125】 中国語 2 I [任 麗潔] 春学期授業/Spring	1757
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7126】 中国語 2 II [任 麗潔] 秋学期授業/Fall	1758
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7141】 中国語 (1) I [鷺巢 益美] 春学期授業/Spring	1759
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7142】 中国語 (1) II [鷺巢 益美] 秋学期授業/Fall	1760
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7143】 中国語 (1) I [岩田 和子] 春学期授業/Spring	1761
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7144】 中国語 (1) II [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	1762
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7151】 中国語 (2) I [康 鴻音] 春学期授業/Spring	1763
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7152】 中国語 (2) II [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	1764
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7153】 中国語 (2) I [周 重雷] 春学期授業/Spring	1765
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7154】 中国語 (2) II [周 重雷] 秋学期授業/Fall	1766
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7161】 中国語 1 [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	1767
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7162】 中国語 3 [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	1769
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7163】 中国語 2 [ショウ イクテイ] 春学期授業/Spring	1770
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7164】 中国語 4 [ショウ イクテイ] 秋学期授業/Fall	1771
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7165】 中国語 5 [鈴木 靖] 春学期授業/Spring	1772
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7166】 中国語 6 [鈴木 靖] 秋学期授業/Fall	1773
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7167】 中国語 1 [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	1774
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7168】 中国語 3 [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	1776
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7169】 中国語 2 [薬 会] 春学期授業/Spring	1777
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7170】 中国語 4 [薬 会] 秋学期授業/Fall	1778
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7171】 中国語 1 [曾 士才] 春学期授業/Spring	1779

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7172】 中国語 2 [祝 振媛] 春学期授業/Spring	1780
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7173】 中国語 3 [曾 士才] 秋学期授業/Fall	1781
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7174】 中国語 4 [祝 振媛] 秋学期授業/Fall	1782
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7181】 中国語 1 - I [永江 貴子] 春学期授業/Spring	1783
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7182】 中国語 1 - II [永江 貴子] 秋学期授業/Fall	1784
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7183】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1785
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7184】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1786
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7185】 中国語 1 - I [永江 貴子] 春学期授業/Spring	1787
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7186】 中国語 1 - II [永江 貴子] 秋学期授業/Fall	1788
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7187】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1789
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7188】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1790
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7189】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1791
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7190】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1792
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7191】 中国語 1 - I [劉 湯水] 春学期授業/Spring	1793
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7192】 中国語 1 - II [劉 湯水] 秋学期授業/Fall	1794
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7193】 中国語 1 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1795
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7194】 中国語 1 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1796
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7195】 中国語 1 - I [劉 湯水] 春学期授業/Spring	1797
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7196】 中国語 1 - II [劉 湯水] 秋学期授業/Fall	1798
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7211】 中国語 2 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1799
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7212】 中国語 2 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1800
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7213】 中国語 2 - I [日原 傳] 春学期授業/Spring	1801
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7214】 中国語 2 - II [日原 傳] 秋学期授業/Fall	1802
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7215】 中国語 2 - I [賀 蘭] 春学期授業/Spring	1803
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7216】 中国語 2 - II [賀 蘭] 秋学期授業/Fall	1804
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7217】 中国語 2 - I [日原 傳] 春学期授業/Spring	1805
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7218】 中国語 2 - II [日原 傳] 秋学期授業/Fall	1806
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7219】 中国語 2 - I [後藤 淳一] 春学期授業/Spring	1807

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7220】中国語 2-II [後藤 淳一]	
秋学期授業/Fall	1808
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7221】中国語 2-I [渋谷 君也]	
春学期授業/Spring	1809
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7222】中国語 2-II [渋谷 君也]	
秋学期授業/Fall	1810
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7223】中国語 2-I [後藤 淳一]	
春学期授業/Spring	1811
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7224】中国語 2-II [後藤 淳一]	
秋学期授業/Fall	1812
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7225】中国語 2-I [渋谷 君也]	
春学期授業/Spring	1813
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7226】中国語 2-II [渋谷 君也]	
秋学期授業/Fall	1814
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7251】中国語補講 1 I [池田 麻希子]	
春学期授業/Spring	1815
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7252】中国語補講 1 II [池田 麻希子]	
秋学期授業/Fall	1816
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7255】中国語補講 1 I [沈 小南]	
春学期授業/Spring	1817
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7256】中国語補講 1 II [沈 小南]	
秋学期授業/Fall	1818
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7257】中国語補講 1 I [後藤 淳一]	
春学期授業/Spring	1819
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7258】中国語補講 1 II [後藤 淳一]	
秋学期授業/Fall	1820
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7259】中国語補講 2 I [沈 小南]	
春学期授業/Spring	1821
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7260】中国語補講 2 II [沈 小南]	
秋学期授業/Fall	1822
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7261】中国語補講 2 I [余 瀾]	
春学期授業/Spring	1823
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7262】中国語補講 2 II [余 瀾]	
秋学期授業/Fall	1824
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7263】中国語補講 2 I [劉 光赤]	
春学期授業/Spring	1825
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R7264】中国語補講 2 II [劉 光赤]	
秋学期授業/Fall	1826
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8001】スペイン語 1 I [長谷川 悦夫]	
春学期授業/Spring	1827
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8002】スペイン語 1 II [長谷川 悦夫]	
秋学期授業/Fall	1828
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8003】スペイン語 1 I [敦賀 公子]	
春学期授業/Spring	1829
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8004】スペイン語 1 II [敦賀 公子]	
秋学期授業/Fall	1830
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8007】スペイン語 1 I [長谷川 悦夫]	
春学期授業/Spring	1831
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8008】スペイン語 1 II [長谷川 悦夫]	
秋学期授業/Fall	1832
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8009】スペイン語 1 I [宮田 絵津子]	
春学期授業/Spring	1833
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8010】スペイン語 1 II [宮田 絵津子]	
秋学期授業/Fall	1834
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8011】スペイン語 1 I [宮田 絵津子]	
春学期授業/Spring	1835

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8012】 スペイン語 1 II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1836
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8013】 スペイン語 1 I [長谷川悦夫] 春学期授業/Spring	1837
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8014】 スペイン語 1 II [長谷川悦夫] 秋学期授業/Fall	1838
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8015】 スペイン語 1 I [長谷川悦夫] 春学期授業/Spring	1839
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8016】 スペイン語 1 II [長谷川悦夫] 秋学期授業/Fall	1840
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8017】 スペイン語 1 I [長谷川悦夫] 春学期授業/Spring	1841
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8018】 スペイン語 1 II [長谷川悦夫] 秋学期授業/Fall	1842
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8019】 スペイン語 1 I [岡本 年正] 春学期授業/Spring	1843
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8020】 スペイン語 1 II [岡本 年正] 秋学期授業/Fall	1844
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8021】 スペイン語 1 I [大西 亮] 春学期授業/Spring	1845
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8022】 スペイン語 1 II [大西 亮] 秋学期授業/Fall	1846
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8023】 スペイン語 1 I [若林 大我] 春学期授業/Spring	1847
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8024】 スペイン語 1 II [若林 大我] 秋学期授業/Fall	1848
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8025】 スペイン語 1 I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1849
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8026】 スペイン語 1 II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1850
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8027】 スペイン語 1 I [宮田 絵津子] 春学期授業/Spring	1851
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8028】 スペイン語 1 II [宮田 絵津子] 秋学期授業/Fall	1852
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8031】 スペイン語 1 I [長谷川悦夫] 春学期授業/Spring	1853
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8032】 スペイン語 1 II [長谷川悦夫] 秋学期授業/Fall	1854
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8061】 スペイン語 2 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1855
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8062】 スペイン語 2 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1856
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8063】 スペイン語 2 I [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	1857
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8064】 スペイン語 2 II [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	1858
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8067】 スペイン語 2 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1859
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8068】 スペイン語 2 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1860
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8069】 スペイン語 2 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1861
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8070】 スペイン語 2 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1862
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8071】 スペイン語 2 I [保崎 典子] 春学期授業/Spring	1863

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8072】 スペイン語 2 II [保崎 典子] 秋学期授業/Fall	1864
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8073】 スペイン語 2 I [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1865
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8074】 スペイン語 2 II [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1866
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8075】 スペイン語 2 I [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	1867
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8076】 スペイン語 2 II [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	1868
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8077】 スペイン語 2 I [保崎 典子] 春学期授業/Spring	1869
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8078】 スペイン語 2 II [保崎 典子] 秋学期授業/Fall	1870
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8079】 スペイン語 2 I [VILA V RAQUEL] 春学期授業/Spring	1871
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8080】 スペイン語 2 II [VILA V RAQUEL] 秋学期授業/Fall	1872
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8081】 スペイン語 2 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1873
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8082】 スペイン語 2 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1874
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8083】 スペイン語 2 I [保崎 典子] 春学期授業/Spring	1875
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8084】 スペイン語 2 II [保崎 典子] 秋学期授業/Fall	1876
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8085】 スペイン語 2 I [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1877
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8086】 スペイン語 2 II [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1878
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8087】 スペイン語 2 I [保崎 典子] 春学期授業/Spring	1879
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8088】 スペイン語 2 II [保崎 典子] 秋学期授業/Fall	1880
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8091】 スペイン語 2 I [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1881
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8092】 スペイン語 2 II [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1882
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8121】 スペイン語 (1) I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1883
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8122】 スペイン語 (1) II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1884
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8123】 スペイン語 (1) I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1885
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8124】 スペイン語 (1) II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1886
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8131】 スペイン語 (2) I [BARRIENTOS R J DAVID] 春学期授業/Spring	1887
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8132】 スペイン語 (2) II [BARRIENTOS R J DAVID] 秋学期授業/Fall	1888
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8133】 スペイン語 (2) I [佐々木 直美] 春学期授業/Spring	1889
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8134】 スペイン語 (2) II [佐々木 直美] 秋学期授業/Fall	1890
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8141】 スペイン語 1 [大西 亮] 春学期授業/Spring	1891

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8142】 スペイン語 3 [大西 亮]	
秋学期授業/Fall	1892
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8143】 スペイン語 2 [佐々木 直美]	
春学期授業/Spring	1893
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8144】 スペイン語 4 [佐々木 直美]	
秋学期授業/Fall	1894
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8145】 スペイン語 5 [久木 正雄]	
春学期授業/Spring	1895
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8146】 スペイン語 6 [久木 正雄]	
秋学期授業/Fall	1896
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8147】 スペイン語 1 [佐々木 直美]	
春学期授業/Spring	1897
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8148】 スペイン語 3 [佐々木 直美]	
秋学期授業/Fall	1898
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8149】 スペイン語 2 [GARCIA RUIZ]	
春学期授業/Spring	1899
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8150】 スペイン語 4 [GARCIA RUIZ]	
秋学期授業/Fall	1900
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8151】 スペイン語 1 [久木 正雄]	
春学期授業/Spring	1901
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8152】 スペイン語 3 [久木 正雄]	
秋学期授業/Fall	1902
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8153】 スペイン語 2 [GARCIA RUIZ]	
春学期授業/Spring	1903
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8154】 スペイン語 4 [GARCIA RUIZ]	
秋学期授業/Fall	1904
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8161】 スペイン語 1 - I [BARRIENTOS R J DAVID]	
春学期授業/Spring	1905
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8162】 スペイン語 1 - II [BARRIENTOS R J DAVID]	
秋学期授業/Fall	1906
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8163】 スペイン語 1 - I [BARRIENTOS R J DAVID]	
春学期授業/Spring	1907
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8164】 スペイン語 1 - II [BARRIENTOS R J DAVID]	
秋学期授業/Fall	1908
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8165】 スペイン語 1 - I [宮田 絵津子]	
春学期授業/Spring	1909
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8166】 スペイン語 1 - II [宮田 絵津子]	
秋学期授業/Fall	1910
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8167】 スペイン語 1 - I [GARCIA RUIZ]	
春学期授業/Spring	1911
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8168】 スペイン語 1 - II [GARCIA RUIZ]	
秋学期授業/Fall	1912
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8181】 スペイン語 2 - I [宮田 絵津子]	
春学期授業/Spring	1913
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8182】 スペイン語 2 - II [宮田 絵津子]	
秋学期授業/Fall	1914
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8183】 スペイン語 2 - I [宮田 絵津子]	
春学期授業/Spring	1915
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8184】 スペイン語 2 - II [宮田 絵津子]	
秋学期授業/Fall	1916
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8185】 スペイン語 2 - I [OSNO I DE SASAKUBO H]	
春学期授業/Spring	1917
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8186】 スペイン語 2 - II [OSNO I DE SASAKUBO H]	
秋学期授業/Fall	1918
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8187】 スペイン語 2 - I [大貫 良史]	
春学期授業/Spring	1919

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8188】 スペイン語 2-II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1920
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8307】 スペイン語補講 1 I [大貫 良史] 春学期授業/Spring	1921
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8308】 スペイン語補講 1 II [大貫 良史] 秋学期授業/Fall	1922
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8309】 スペイン語補講 1 I [岡本 年正] 春学期授業/Spring	1923
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8310】 スペイン語補講 1 II [岡本 年正] 秋学期授業/Fall	1924
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8311】 スペイン語補講 2 I [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring	1925
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8312】 スペイン語補講 2 II [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall	1926
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8313】 スペイン語補講 2 I [長谷 川 悦夫] 春学期授業/Spring	1927
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R8314】 スペイン語補講 2 II [長谷 川 悦夫] 秋学期授業/Fall	1928
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9001】 朝鮮語 1 I [永原 歩] 春 学期授業/Spring	1929
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9002】 朝鮮語 1 II [永原 歩] 秋 学期授業/Fall	1930
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9003】 朝鮮語 1 I [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring	1931
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9004】 朝鮮語 1 II [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall	1932
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9005】 朝鮮語 1 I [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	1933
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9006】 朝鮮語 1 II [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	1934
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9007】 朝鮮語 1 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1935
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9008】 朝鮮語 1 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1936
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9009】 朝鮮語 1 I [内山 政春] 春学期授業/Spring	1937
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9010】 朝鮮語 1 II [内山 政春] 秋学期授業/Fall	1938
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9011】 朝鮮語 1 I [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	1939
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9012】 朝鮮語 1 II [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall	1940
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9013】 朝鮮語 1 I [富所 明秀] 春学期授業/Spring	1941
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9014】 朝鮮語 1 II [富所 明秀] 秋学期授業/Fall	1942
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9015】 朝鮮語 1 I [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	1943
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9016】 朝鮮語 1 II [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	1944
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9017】 朝鮮語 1 I [内山 政春] 春学期授業/Spring	1945
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9018】 朝鮮語 1 II [内山 政春] 秋学期授業/Fall	1946
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9021】 朝鮮語 2 I [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring	1947

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9022】 朝鮮語 2 II [吉良 佳奈江]	
秋学期授業/Fall	1948
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9023】 朝鮮語 2 I [梁 禮先] 春	
学期授業/Spring	1949
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9024】 朝鮮語 2 II [梁 禮先] 秋	
学期授業/Fall	1950
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9025】 朝鮮語 2 I [新谷 あゆり]	
春学期授業/Spring	1951
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9026】 朝鮮語 2 II [新谷 あゆり]	
秋学期授業/Fall	1952
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9027】 朝鮮語 2 I [乾 浩] 春学	
期授業/Spring	1953
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9028】 朝鮮語 2 II [乾 浩] 秋学	
期授業/Fall	1954
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9029】 朝鮮語 2 I [吉良 佳奈江]	
春学期授業/Spring	1955
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9030】 朝鮮語 2 II [吉良 佳奈江]	
秋学期授業/Fall	1956
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9031】 朝鮮語 2 I [内山 政春]	
春学期授業/Spring	1957
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9032】 朝鮮語 2 II [内山 政春]	
秋学期授業/Fall	1958
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9033】 朝鮮語 2 I [吉良 佳奈江]	
春学期授業/Spring	1959
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9034】 朝鮮語 2 II [吉良 佳奈江]	
秋学期授業/Fall	1960
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9035】 朝鮮語 2 I [梁 禮先] 春	
学期授業/Spring	1961
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9036】 朝鮮語 2 II [梁 禮先] 秋	
学期授業/Fall	1962
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9037】 朝鮮語 2 I [乾 浩] 春学	
期授業/Spring	1963
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9038】 朝鮮語 2 II [乾 浩] 秋学	
期授業/Fall	1964
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9041】 朝鮮語 (1) I [富所 明	
秀] 春学期授業/Spring	1965
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9042】 朝鮮語 (1) II [富所 明	
秀] 秋学期授業/Fall	1966
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9043】 朝鮮語 (2) I [乾 浩] 春	
学期授業/Spring	1967
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9044】 朝鮮語 (2) II [乾 浩] 秋	
学期授業/Fall	1968
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9051】 朝鮮語 1 [梁 禮先] 春学	
期授業/Spring	1969
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9052】 朝鮮語 3 [梁 禮先] 秋学	
期授業/Fall	1970
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9053】 朝鮮語 2 [高柳 俊男] 春	
学期授業/Spring	1971
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9054】 朝鮮語 4 [高柳 俊男] 秋	
学期授業/Fall	1972
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9055】 朝鮮語 5 [内山 政春] 春	
学期授業/Spring	1973
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9056】 朝鮮語 6 [内山 政春] 秋	
学期授業/Fall	1974
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9057】 朝鮮語 1 [吉良 佳奈江]	
春学期授業/Spring	1975

2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9058】 朝鮮語 3 [吉良 佳奈江]	
秋学期授業/Fall	1976
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9059】 朝鮮語 2 [内山 政春] 春	
学期授業/Spring	1977
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9060】 朝鮮語 4 [内山 政春] 秋	
学期授業/Fall	1978
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9061】 朝鮮語 1-I [富所 明秀]	
春学期授業/Spring	1979
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9062】 朝鮮語 1-II [富所 明秀]	
秋学期授業/Fall	1980
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9063】 朝鮮語 1-I [梁 禮先] 春	
学期授業/Spring	1981
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9064】 朝鮮語 1-II [梁 禮先] 秋	
学期授業/Fall	1982
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9065】 朝鮮語 1-I [吉良 佳奈江]	
春学期授業/Spring	1983
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9066】 朝鮮語 1-II [吉良 佳奈江]	
秋学期授業/Fall	1984
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9067】 朝鮮語 1-I [内山 政春]	
春学期授業/Spring	1985
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9068】 朝鮮語 1-II [内山 政春]	
秋学期授業/Fall	1986
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9069】 朝鮮語 1-I [内山 政春]	
春学期授業/Spring	1987
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9070】 朝鮮語 1-II [内山 政春]	
秋学期授業/Fall	1988
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9071】 朝鮮語 2-I [吉良 佳奈江]	
春学期授業/Spring	1989
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9072】 朝鮮語 2-II [吉良 佳奈江]	
秋学期授業/Fall	1990
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9073】 朝鮮語 2-I [神谷 丹路]	
春学期授業/Spring	1991
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9074】 朝鮮語 2-II [神谷 丹路]	
秋学期授業/Fall	1992
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9075】 朝鮮語 2-I [神谷 丹路]	
春学期授業/Spring	1993
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9076】 朝鮮語 2-II [神谷 丹路]	
秋学期授業/Fall	1994
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9077】 朝鮮語 2-I [新谷 あゆり]	
春学期授業/Spring	1995
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9078】 朝鮮語 2-II [新谷 あゆり]	
秋学期授業/Fall	1996
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9079】 朝鮮語 2-I [梁 禮先] 春	
学期授業/Spring	1997
2017 年度以降入学者_ILAC 科目_100 番台 外国語科目_4 群 [必修] 諸外国語 【R9080】 朝鮮語 2-II [梁 禮先] 秋	
学期授業/Fall	1998

LANe100LA

補講英語 1・2－I

2017 年度以降入学者

水野 太郎

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】

英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

『Skills for Better Reading 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2022 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英文に内在する論理構造のパターンを実感するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進捗については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Conclusions/Reasons (1)	Headline: Tokyo assembly split after vote amid pandemic Olympics fears (1)
第 02 回	Conclusions/Reasons (2)	Headline: Tokyo assembly split after vote amid pandemic Olympics fears (2)
第 03 回	Social Trends (1)	Headline: IMF sees stronger global growth as some COVID clouds begin to clear (1)
第 04 回	Social Trends (2)	Headline: IMF sees stronger global growth as some COVID clouds begin to clear (2)
第 05 回	Results/Causes (1)	Headline: Inflation? Not in Japan. And that could hold a warning for the U.S. (1)
第 06 回	Results/Causes (2)	Headline: Inflation? Not in Japan. And that could hold a warning for the U.S. (2)
第 07 回	Several Explanations (1)	Headline: G7 chides China on rights, demands COVID origins investigation (1)
第 08 回	Several Explanations (2)	Headline: G7 chides China on rights, demands COVID origins investigation (2)
第 09 回	Comparisons (1)	Headline: Japan's submarines to 'choke' Chinese navy (1)

第 10 回	Comparisons (2)	Headline: Japan's submarines to 'choke' Chinese navy (2)
第 11 回	For and Against (1)	Headline: China's Communist Party celebrates centennial (1)
第 12 回	For and Against (2)	Headline: China's Communist Party celebrates centennial (2)
第 13 回	Classification (1)	Headline: Time for a national plan to support Japan's 'young carers' (1)
第 14 回	Classification (2)	Headline: Time for a national plan to support Japan's 'young carers' (2)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト (教科書)】

石谷由美子『Skills for Better Reading < Intermediate > Third Edition 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉[第 3 版]』(南雲堂) ISBN:9784523179269

堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子(編著)『English for Mass Communication 2022 Edition 時事英語の総合演習 2022 年度版』(朝日出版社) ISBN:9784255156811

【参考書】

必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100 %)

なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.

Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination (100 %)

Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

補講英語 1・2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

水野 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】

英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

『Skills for Better Reading 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2022 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英文に内在する論理構造のパターンを実感するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進捗については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Conclusions/Reasons (1)	Headline: Asian American group receives nearly 3,800 reports of hate and bias (1)
第 02 回	Conclusions/Reasons (2)	Headline: Asian American group receives nearly 3,800 reports of hate and bias (2)
第 03 回	Social Trends (1)	Headline: Japan court says not recognizing same-sex marriage unconstitutional (1)
第 04 回	Social Trends (2)	Headline: Japan court says not recognizing same-sex marriage unconstitutional (2)
第 05 回	Results/Causes (1)	Headline: Unfrozen world: Arctic thaw becomes major source of global risk (1)
第 06 回	Results/Causes (2)	Headline: Unfrozen world: Arctic thaw becomes major source of global risk (2)
第 07 回	Several Explanations (1)	Headline: Japan boosts renewable energy target for 2030 energy mix (1)
第 08 回	Several Explanations (2)	Headline: Japan boosts renewable energy target for 2030 energy mix (2)

第 09 回	Comparisons (1)	Headline: China announces three-child limit in major policy shift (1)
第 10 回	Comparisons (2)	Headline: China announces three-child limit in major policy shift (2)
第 11 回	For and Against (1)	Headline: No ET, no answers: Intel report is inconclusive about UFOs (1)
第 12 回	For and Against (2)	Headline: No ET, no answers: Intel report is inconclusive about UFOs (2)
第 13 回	Classification (1)	Headline: Rugby: Brave Blossoms cherish historic Lions test, despite defeat (1)
第 14 回	Classification (2)	Headline: Rugby: Brave Blossoms cherish historic Lions test, despite defeat (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子『Skills for Better Reading < Intermediate > Third Edition 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉[第 3 版]』（南雲堂）ISBN:9784523179269

堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2022 Edition 時事英語の総合演習 2022 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156811

【参考書】

必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.

Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination (100 %)

Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

補講英語 1・2－I

2017 年度以降入学者

水野 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】

英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

『Skills for Better Reading 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2022 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英文に内在する論理構造のパターンを実感するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進捗については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Conclusions/Reasons (1)	Headline: Tokyo assembly split after vote amid pandemic Olympics fears (1)
第 02 回	Conclusions/Reasons (2)	Headline: Tokyo assembly split after vote amid pandemic Olympics fears (2)
第 03 回	Social Trends (1)	Headline: IMF sees stronger global growth as some COVID clouds begin to clear (1)
第 04 回	Social Trends (2)	Headline: IMF sees stronger global growth as some COVID clouds begin to clear (2)
第 05 回	Results/Causes (1)	Headline: Inflation? Not in Japan. And that could hold a warning for the U.S. (1)
第 06 回	Results/Causes (2)	Headline: Inflation? Not in Japan. And that could hold a warning for the U.S. (2)
第 07 回	Several Explanations (1)	Headline: G7 chides China on rights, demands COVID origins investigation (1)
第 08 回	Several Explanations (2)	Headline: G7 chides China on rights, demands COVID origins investigation (2)
第 09 回	Comparisons (1)	Headline: Japan's submarines to 'choke' Chinese navy (1)

第 10 回	Comparisons (2)	Headline: Japan's submarines to 'choke' Chinese navy (2)
第 11 回	For and Against (1)	Headline: China's Communist Party celebrates centennial (1)
第 12 回	For and Against (2)	Headline: China's Communist Party celebrates centennial (2)
第 13 回	Classification (1)	Headline: Time for a national plan to support Japan's 'young carers' (1)
第 14 回	Classification (2)	Headline: Time for a national plan to support Japan's 'young carers' (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子『Skills for Better Reading < Intermediate > Third Edition 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉[第 3 版]』（南雲堂）ISBN:9784523179269

堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2022 Edition 時事英語の総合演習 2022 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156811

【参考書】

必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.

Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination (100 %)

Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

補講英語 1・2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

水野 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】

英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『Skills for Better Reading 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2022 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英文に内在する論理構造のパターンを実感するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進捗については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Conclusions/Reasons (1)	Headline: Asian American group receives nearly 3,800 reports of hate and bias (1)
第 02 回	Conclusions/Reasons (2)	Headline: Asian American group receives nearly 3,800 reports of hate and bias (2)
第 03 回	Social Trends (1)	Headline: Japan court says not recognizing same-sex marriage unconstitutional (1)
第 04 回	Social Trends (2)	Headline: Japan court says not recognizing same-sex marriage unconstitutional (2)
第 05 回	Results/Causes (1)	Headline: Unfrozen world: Arctic thaw becomes major source of global risk (1)
第 06 回	Results/Causes (2)	Headline: Unfrozen world: Arctic thaw becomes major source of global risk (2)
第 07 回	Several Explanations (1)	Headline: Japan boosts renewable energy target for 2030 energy mix (1)
第 08 回	Several Explanations (2)	Headline: Japan boosts renewable energy target for 2030 energy mix (2)

第 09 回 Comparisons (1)

Headline: China announces three-child limit in major policy shift (1)

第 10 回 Comparisons (2)

Headline: China announces three-child limit in major policy shift (2)

第 11 回 For and Against (1)

Headline: No ET, no answers: Intel report is inconclusive about UFOs (1)

第 12 回 For and Against (2)

Headline: No ET, no answers: Intel report is inconclusive about UFOs (2)

第 13 回 Classification (1)

Headline: Rugby: Brave Blossoms cherish historic Lions test, despite defeat (1)

第 14 回 Classification (2)

Headline: Rugby: Brave Blossoms cherish historic Lions test, despite defeat (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子『Skills for Better Reading < Intermediate > Third Edition 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉[第 3 版]』（南雲堂）ISBN:9784523179269

堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2022 Edition 時事英語の総合演習 2022 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156811

【参考書】

必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.

Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination (100 %)

Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

補講英語 1・2－I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカに旅行で出かける日本人タケシが、アメリカのケイトに会いに行くストーリーで、臨場感のあるリスニングと旅行を疑似体験できるリーディングの練習をして、英語力の充実を目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、各シチュエーションでのリスニングを聞き取り、英文の内容をきちんと理解できる力を身につけ、海外旅行で使える英語の表現を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。課題などのフィードバックは、ホッピーで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション、ガイダンス	辞書の使い方や、授業の進め方について説明し、提出用シートを配布する。テキストを買っておく。
2 回目	Lesson 1 機内	飛行機の機内での会話、税関申請書などのリーディングを行う
3 回目	Lesson 2 到着	アメリカの空港に到着した時のリスニングと、e-mail のリーディングなどを行う
4 回目	Lesson 3 ケイトと再会	ケイトの家での会話のリスニング、天気予報のリーディングなどを行う
5 回目	Lesson 4 自由の女神	一人で自由の女神を観光するリスニング、自由の女神観光のチケット、説明のリーディングを行う
6 回目	Lesson 5 メトロポリタン美術館	メトロポリタン美術館を観光するリスニング、フロア地図や美術館の説明のリーディングを行う
7 回目	Lesson 6 レストラン	レストランでの注文のリスニング、レストランのレシート、メニューのリーディングを行う
8 回目	Lesson 7 ミュージカル	ミュージカルを話題にした会話のリスニング、ミュージカルのチケット、パンフレットのリーディングを行う
9 回目	Lesson 8 体調不良	具合が悪くなった時の会話、薬屋での会話、薬の箱や保健センターの説明のリーディングを行う
10 回目	Lesson 9 スーパーでの買い物	スーパーで買い物する会話のリスニング、クーポン、スーパーでの広告のリーディングを行う

11 回目	Lesson 10 スポーツ観戦	スポーツ観戦に向かう会話、スポーツについての会話のリスニング、試合のチケット、ヤンキースの歴史についてのリーディングを行う
12 回目	Lesson 11 ワシントン DC へ	ケイトとの別れの会話、ワシントン DC へ行く時の会話、看板やワシントン DC の説明のリーディングを行う
13 回目	Lesson 12 ホテル	ホテルでの会話、ホテルの客室のアンケート、案内のリーディングを行う
14 回目	まとめと試験	復習の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題を解いてくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Hiroko Nishikage, Itsuko Haginoya ほか『Let's Go Abroad! Takeshi's journey to the U.S.』センゲージラーニング

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

各時間の授業での平常点を 30 %、期末試験を 70 % で採点する。なお、遠隔授業になった場合は、試験をレポートに変え、ホッピーでフィードバックする。

各学期欠席が 4 回以上、もしレポートになった場合はレポート未提出、試験の場合は、試験未受験は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が少ないので、授業改善アンケートの情報がありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

The object of this class is developing reading and listening skills of everyday conversational skits through a text book named Let's Go Abroad! Takeshi's Journey to the U.S.

Study textbook using a dictionary before each class and repeat conversation using CD on text after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 30% and the final exam 70%.

LANe100LA

補講英語 1・2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人が日本滞在中に感じた、イギリスと日本の違いについての Reading を読み、TOEIC 方式の問題を含む問題を解いて、英語力の充実を目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

予習して来た事を確認するために、アットランダムに学生を指し、英文を音読し、日本語に訳す、あるいは問いの答えを言うという作業をしてもらう。その後、難しい箇所は説明を加えていく。課題などを課した場合は、ホビーでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーション、ガイダンス	辞書の使い方や、授業の進め方について説明し、提出用シートを配布する。テキストを買っておく。
2 回目	Lesson 1 Heights	背も高いと良くないこともあるというエッセイを読む。
3 回目	Lesson 2 Seasons	季節の移ろいに感じることを綴ったエッセイを読む。
4 回目	Lesson 3 Be careful with your licence	運転免許証の扱い方の日英での違いを学ぶ。
5 回目	Lesson 4 Doctors	英国の長く待たされて受ける治療について学ぶ。
6 回目	Lesson 5 Business Hours	時間の考え方に日英で違いがあることを学ぶ。
7 回目	Lesson 6 Public Holidays	本当の休暇については何かについて読んで考える。
8 回目	Lesson 7 Your Transport, My Transport	公共交通機関で見られる日英の違いについて読んで学ぶ。
9 回目	Lesson 8 Convenience Store	コンビニが生活に与える影響について読み考える。
10 回目	Lesson 9 Is it a good noise?	雑音、それとも心地よい音について、日英の違いについて読んで学ぶ。
11 回目	Lesson 10 Fireworks	日英で花火の季節が異なる背景を学ぶ。
12 回目	Lesson 11 Public or Private?	英国人の目から見るとプライベートなものが公然と行われていることへの驚きのエッセイを読む。
13 回目	Lesson 13 Weddings	日英の結婚式、披露宴の違いについて学ぶ。
14 回目	まとめと試験	復習の試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書添付の CD を聞き、リスニングの問題に答え、本文については、辞書を引いて読み、本文についての各問題、TOEIC 方式の問題、ボキャブラリーについての問題に答え、配布シートに答えを転記する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Terry O'Brien, Kei Mihara ほか、『Viewpoints: Japan and England』、南雲堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業でのリアクションを 40%、期末試験を 60% で採点する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの情報がないので、フィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

The object of this class is developing mainly reading and grammar skills using a text book on the differences between England and Japan, through reading each chapter's reading section and questions based on TOEICs. Study textbook using a dictionary before each class and repeat conversation using CD on text after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 40% and the final exam 60%.

LANe100LA

Academic Literacy A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: Class 1

THOMAS G POWER

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Academic Literacy A provides opportunities for students to practice reading and oral communication skills, to develop critical thinking skills, and to express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with guidelines to develop further academic reading and vocabulary skills as well as to acquire a "scholarly voice" in discussions, literary critiques, and presentations. The course textbook, University Success Reading, Transition Level, "helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部: DP3、人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online". All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. Active participation is essential. There will be a brief lecture about academic reading and oral communication skills introduced in the textbook and an analysis and discussion of reading passages each class. Homework will be given each week to prepare students for the next class. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: What is Academic Literacy?	Syllabus, expectations and grading criteria
Week 2	Reading Skills I	Read actively Skim & scan How to avoid plagiarism Vocabulary acquisition
Week 3	Reading Skills II	Note-taking skills Topics, main ideas and details Citing sources
Week 4	Presentation Skills	Brainstorming & outlining Paraphrasing text Vocabulary acquisition

Week 5	Critical Thinking Skills I	Fact and opinion Reliable sources Summarizing skills APA Citation
Week 6	Presentation Preparation and Research	Develop an argument Visual aids Useful expressions Prompt cards
Week 7	Mid-term Presentations	Presentations with Q & A Peer Feedback
Week 8	Reading Skills III	Extended reading text Synthesizing sources Vocabulary acquisition
Week 9	Reading Skills IV	Patterns of cohesion Word parts & collocations Outlines and graphic organizers
Week 10	Discussion Skills	Useful expressions for discussions Vocabulary acquisition
Week 11	Critical Thinking Skills II	Implication and inference Deliberate implications and direct statements
Week 12	Presentation Preparation & Research	Develop an argument Visual aids Useful expressions Prompt cards
Week 13	Final Presentations & Peer Review	Presentations with Q & A Peer Feedback
Week 14	Review and final assessment	Review of academic literacy skills Vocabulary acquisition Final comments

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The first class will be "online" if there are health concerns. All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments inform me in person or by email, and be ready for the next class. Be sure to bring your textbook to each class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course.

【テキスト (教科書)】

Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc.

ISBN : 9780134400785

<https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008>

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】

Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 25%

Homework and written assignments 25%

Two presentations / research projects 50%

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have access to the internet, Google Classroom, and Zoom with audio and video capabilities if needed.

【Outline (in English)】

Academic Literacy A provides opportunities for students to practice reading and oral communication skills, to develop critical thinking skills, and to express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

LANe100LA

Academic Literacy B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Class 1

THOMAS G POWER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Academic Literacy B provides more opportunities for students to practice reading and oral communication skills, to develop critical thinking skills, and to express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with guidelines to develop further academic reading and vocabulary skills as well as to acquire a “scholarly voice” in discussions, literary critiques, and presentations. The course textbook, University Success Reading, Transition Level, “helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.”

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

The first class will be “online”. Classes in Spring 2022 will be held face-to-face in the classroom on campus with the possible change to online Zoom classes or on-demand lectures, depending on the Covid-19 situation. Active participation is essential. There will be a brief lecture about academic reading and oral communication skills introduced in the textbook and an analysis and discussion of reading skills and passages each class. Homework will be given each week to prepare students for the next class. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: Review of Academic Literacy Skills	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria
Week 2	Reading Skills V	Understand & recognize patterns of cohesion Recognize collocations Vocabulary acquisition APA Citation
Week 3	Reading Skills VI	Develop and increase reading fluency Recognize and use rhetorical techniques Understand nominalization Paraphrase practice
Week 4	Critical Thinking Skills III	Evaluate evidence and argumentation Recognize and deal with faulty rhetoric Understand extended metaphor Summary practice
Week 5	Critical Thinking Skills IV	Synthesize information from several sources Evaluate the credibility and motives of sources Use direct and indirect quotations Appreciate hedging
Week 6	Presentation Preparation and Research	Brainstorm and outline Visual aids Useful expressions Prompt cards

Week 7	Mid-term Presentations	Presentations with Q & A Peer Review
Week 8	Reading Skills VII	Passage: The Cultivation of Higher Learning Thinking Critically & Visually Vocabulary acquisition Interpret visuals & information in visuals Recognize and learn multi-word vocabulary items Synthesizing practice
Week 9	Reading Skills VIII	Definitions and Classifications Understand definitions and classifications Recognize and understand definitions within a text Vocabulary acquisition
Week 10	Critical Thinking Skills V	Classifications Produce references to other sources Understand & use clarifiers Vocabulary acquisition
Week 11	Critical Thinking Skills VI	Research, APA citation, and preparation of a research project
Week 12	Presentation Preparation and Research	Student presentations with peer review
Week 13	Presentations about Research Projects	Review of academic literacy skills Vocabulary acquisition Final comments
Week 14	Review and final assessment	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

If we cannot meet face-to-face in the classroom on campus, there will be online real-time meetings via Zoom and on-demand lectures through Google Classroom. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc. ISBN : 9780134400785

<https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008>

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】

Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 25%

Homework and written assignments 25%

Two presentations / research projects 50%

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have access to the internet, Google Classroom, and Zoom with audio and video capabilities if needed.

LANe100LA

College Writing A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Class 1

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College writing A reviews basic formal structures of academic writing and introduces a process approach to writing academic texts, from single paragraphs to a longer essay. It builds competence in the use of original sources and prepares students for College Writing B, in which they are to produce a formal research paper.

【到達目標】

The course provides students with essential tools and procedures for writing essays and research papers. Students learn to analyze and write the types of essays that commonly occur in academic contexts. They gain an understanding of how to organize the essay coherently, how to cite and reference sources correctly and how to use academic vocabulary, transitional devices, and styles of prose effectively. By acquiring a set of strategies of how to develop a thesis, organize an outline, write effective introductions and conclusions, and edit and revise multiple drafts, students will eventually become competent in conceiving and writing longer essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

In the course, students complete a series of tasks that guide them to effective essay writing in a step-by-step manner. Students will first work on recognizing and identifying key writing structures from model essays. They then manipulate the structures in short tasks, and finally apply them to their own writing. Students will frequently work together, with a partner and with a group. They will share and edit each other's writing and are expected to both give and receive constructive feedback on assignments. Feedback by the teacher will be given individually and to the whole class. Students need to submit one full-length essay by the end of the term. Depending on the threat level, the class will be taught online to a greater or lesser extent. Online classes will consist of online real time meetings (Zoom) or on-demand lectures uploaded on Google Classroom. Google Classroom and Google Drive will also be used for submitting assignments and sharing essays.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Overview of the course
2	Review Academic Writing Skills	Paragraph organization/ kinds of essays
3	Essay Structure 1	Introduction/hooks
4	Essay Structure 2	Body paragraphs
5	Essay Structure 3	Conclusion
6	Writing Process 1	Choosing a topic/ brainstorming
7	Writing Process 2	Outlining

8	Writing Process 3	Peer-editing/ proofreading
9	Essay Practice 1: Argument Essay	Arguing Pro and Con: Organizing/Topics
10	Essay Practice 2: Argument Essay	Thesis statement/ Counterarguments and refutations
11	Using Original Sources 1	Direct quotation and paraphrasing
12	Using Original Sources 2	Summarizing and synthesizing
13	Essay Practice 3: Argument Essay	Peer-review and self-editing
14	Final Essay Assessment	Student reports on final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Folse, Keith S. and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

【参考書】

Lester, J. D., & Lester, J. D. (2015). Writing Research Papers: A Complete Guide (15th ed.). New York: Pearson. ISBN:1-292-07689-5

Oshima, A., & Hogue, A. (2017). Longman Academic Writing Series: 4 - Essays (Fifth ed.). New York: Pearson Longman. ISBN: 9780134663319

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on class participation and assignments (50%), and on a final essay (50%). More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students require a laptop or computer, access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities to take part in this class.

【その他の重要事項】

Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】

College writing A reviews basic formal structures of academic writing and introduces a process approach to writing academic texts, from single paragraphs to a longer essay. It builds competence in the use of original sources and prepares students for College Writing B, in which they are to produce a formal research paper.

LANe100LA

College Writing B

2016 年度以前入学者

サブタイトル: Class 1

ROBIN F WEICHERT

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

College writing B builds on the skills learned in College Writing A and develops them with a set of supplementary writing strategies. It guides students to apply the acquired skills to the organization and writing of an original research paper.

【到達目標】

The course provides students with essential tools and procedures for writing essays and research papers. Students learn to analyze and write the types of essays that commonly occur in academic contexts. They gain an understanding of how to plan and organize a major research paper, how to choose, evaluate, and use academic sources, and how to thereby develop their own original contribution to their fields. Students will also become competent in proofreading, editing, and revising drafts of their research paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部: DP3、人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

In the course, students complete a series of tasks that guide them to effective essay writing in a step-by-step manner. Students will first work on recognizing and identifying key writing structures from model essays. They then manipulate the structures in short tasks, and finally apply them to their own writing. Students will frequently work together, with a partner and with a group. They will share and edit each other's writing and are expected to both give and receive constructive feedback on assignments. Feedback by the teacher will be given individually and to the whole class. Students need to submit one full-length research paper by the end of the term. Depending on the threat level, the class will be taught online to a greater or lesser extent. Online classes will consist of real time meetings (Zoom) or on-demand lectures uploaded on Google Classroom. Google Classroom and Google Drive will also be used for submitting assignments and sharing papers.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Overview of the course
2	What is a Research Paper?	Steps in Writing a Research Paper/ Finding& Evaluating sources
3	Review Argumentative Essay	Brainstorm and decide on a topic
4	Writing a Research Paper	Developing research summaries/ Writing a strong thesis statement
5	Cause and Effect Essays 1	Analyzing a Cause-Effect Essay
6	Cause and Effect Essays 2	Developing and outlining a cause-effect essay
7	Comparison Essays 1	Patterns of Organization
8	Comparison Essays 2	Connectors for Comparison Essays
9	Special Working Session	Report on progress
10	Reaction Essays 1	Organizing a Reaction Essay
11	Reaction Essays 2	Transitions in Reaction Essays
12	First Draft of a Research Paper	Writing a first draft/ Peer feedback
13	Revision of the Research Paper	Revision of outline and final draft
14	Course Review	Submission of Research Paper/ In class presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Folse, Keith S.and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

【参考書】

Lester, J. D., & Lester, J. D. (2015). Writing Research Papers: A Complete Guide (15th ed.). New York: Pearson. ISBN:1-292-07689-5

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on class participation and assignments (50%), and on a final essay (50%). More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students require a laptop or computer, access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities to take part in this class.

【その他の重要事項】

Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

LANe100LA

Academic Literacy A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Class 2

THOMAS G POWER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Academic Literacy A provides opportunities for students to practice reading and oral communication skills, to develop critical thinking skills, and to express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with guidelines to develop further academic reading and vocabulary skills as well as to acquire a “scholarly voice” in discussions, literary critiques, and presentations. The course textbook, University Success Reading, Transition Level, “helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.”

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3、人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

The first class will be “online”. All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. Active participation is essential. There will be a brief lecture about academic reading and oral communication skills introduced in the textbook and an analysis and discussion of reading passages each class. Homework will be given each week to prepare students for the next class. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: What is Academic Literacy?	Syllabus, expectations and grading criteria
Week 2	Reading Skills I	Read actively Skim & scan How to avoid plagiarism Vocabulary acquisition
Week 3	Reading Skills II	Note-taking skills Topics, main ideas and details Citing sources
Week 4	Presentation Skills	Brainstorming & outlining Paraphrasing text Vocabulary acquisition

Week 5	Critical Thinking Skills I	Fact and opinion Reliable sources Summarizing skills APA Citation
Week 6	Presentation Preparation and Research	Develop an argument Visual aids Useful expressions Prompt cards
Week 7	Mid-term Presentations	Presentations with Q & A Peer Feedback
Week 8	Reading Skills III	Extended reading text Synthesizing sources Vocabulary acquisition Patterns of cohesion Word parts & collocations Outlines and graphic organizers
Week 9	Reading Skills IV	Useful expressions for discussions Vocabulary acquisition Implication and inference Deliberate implications and direct statements
Week 10	Discussion Skills	Develop an argument Visual aids Useful expressions Prompt cards
Week 11	Critical Thinking Skills II	Presentations with Q & A Peer Feedback
Week 12	Presentation Preparation & Research	Review of academic literacy skills Vocabulary acquisition Final comments
Week 13	Final Presentations & Peer Review	
Week 14	Review and final assessment	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The first class will be “online”. All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Be sure to bring the textbook to each class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】

Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc.

ISBN : 9780134400785

<https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008>

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】

Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:
Participation and regular attendance 25%
Homework and written assignments 25%
Two presentations / research projects 50%
More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have access to the internet, Google Classroom, and Zoom with audio and video capabilities if needed.

【Outline (in English)】

Academic Literacy A provides opportunities for students to practice reading and oral communication skills, to develop critical thinking skills, and to express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

LANe100LA

Academic Literacy B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Class 2

THOMAS G POWER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Academic Literacy B provides more opportunities for students to practice reading and oral communication skills, to develop critical thinking skills, and to express opinions effectively in discussions, written texts, and presentations. This course will help students to improve academic skills and vocabulary skills necessary for success in a university setting. Students will submit assignments and receive feedback in Google Classroom.

【到達目標】

The goal of this course is to provide students with guidelines to develop further academic reading and vocabulary skills as well as to acquire a “scholarly voice” in discussions, literary critiques, and presentations. The course textbook, University Success Reading, Transition Level, “helps students successfully work with challenging and engaging authentic content provided by top professors in their academic fields.”

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

The first class will be “online”. Classes in Spring 2022 will be held face-to-face in the classroom on campus with the possible change to online Zoom classes or on-demand lectures, depending on the Covid-19 situation. Active participation is essential. There will be a brief lecture about academic reading and oral communication skills introduced in the textbook and an analysis and discussion of reading skills and passages each class. Homework will be given each week to prepare students for the next class. The interactive textbook and online learner lab (MyEnglishLab) provide additional ways to introduce authentic texts and review fundamental skills and critical thinking skills. Assignments must be completed and submitted in Google Classroom in a timely manner.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction: Review of Academic Literacy Skills	Explanation of the course, class expectations, and grading criteria
Week 2	Reading Skills V	Understand and recognize patterns of cohesion Recognize collocations Vocabulary acquisition APA Citation
Week 3	Reading Skills VI	Develop and increase reading fluency Recognize and use rhetorical techniques Understand nominalization Paraphrase practice
Week 4	Critical Thinking Skills III	Evaluate evidence and argumentation Recognize and deal with faulty rhetoric Understand extended metaphor Summary practice
Week 5	Critical Thinking Skills IV	Synthesize information from several sources Evaluate the credibility and motives of sources Use direct and indirect quotations Appreciate hedging
Week 6	Presentation Preparation and Research	Brainstorm and outline Visual aids Useful expressions Prompt cards

Week 7	Mid-term Presentations	Presentations with Q & A Peer Review
Week 8	Reading Skills VII	Passage: The Cultivation of Higher Learning Thinking Critically & Visually Vocabulary acquisition Interpret visuals & information in visuals Recognize and learn multi-word vocabulary items Synthesizing practice
Week 9	Reading Skills VIII	Definitions and Classifications Understand definitions and classifications Recognize and understand definitions within a text Vocabulary acquisition
Week 10	Critical Thinking Skills V	Classifications Produce references to other sources Understand & use clarifiers Vocabulary acquisition
Week 11	Critical Thinking Skills VI	Research, APA citation, and preparation of a research project
Week 12	Presentation Preparation and Research	Student presentations with peer review
Week 13	Presentations about Research Projects	Review of academic literacy skills Vocabulary acquisition Final comments
Week 14	Review and final assessment	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

If we cannot meet face-to-face in the classroom on campus, there will be online real-time meetings via Zoom and on-demand lectures through Google Classroom. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Zwier, Lawrence and Vosters, Maggie. (2020) University Success Reading, Transition Level. New Jersey: Pearson Education, Inc. ISBN : 9780134400785

<https://www.pearson.co.jp/en/catalog/product.php?item=193008>

Additional handouts and reading materials will be provided by instructor.

【参考書】

Students are required to use the APA citation style when conducting research, writing summaries, and presenting research projects. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

Final Evaluation will be based on:

Participation and regular attendance 25%

Homework and written assignments 25%

Two presentations / research projects 50%

More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have access to the internet, Google Classroom, and Zoom with audio and video capabilities if needed.

LANe100LA

College Writing A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：Class 2

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College writing A reviews basic formal structures of academic writing and introduces a process approach to writing academic texts, from single paragraphs to a longer essay. It builds competence in the use of original sources and prepares students for College Writing B, in which they are to produce a formal research paper.

【到達目標】

The course provides students with essential tools and procedures for writing essays and research papers. Students learn to analyze and write the types of essays that commonly occur in academic contexts. They gain an understanding of how to organize the essay coherently, how to cite and reference sources correctly and how to use academic vocabulary, transitional devices, and styles of prose effectively. By acquiring a set of strategies of how to develop a thesis, organize an outline, write effective introductions and conclusions, and edit and revise multiple drafts, students will eventually become competent in conceiving and writing longer essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

In the course, students complete a series of tasks that guide them to effective essay writing in a step-by-step manner. Students will first work on recognizing and identifying key writing structures from model essays. They then manipulate the structures in short tasks, and finally apply them to their own writing. Students will frequently work together, with a partner and with a group. They will share and edit each other's writing and are expected to both give and receive constructive feedback on assignments. Feedback by the teacher will be given individually and to the whole class. Students need to submit one full-length essay by the end of the term. Depending on the threat level, the class will be taught online to a greater or lesser extent. Online classes will consist of online real time meetings (Zoom) or on-demand lectures uploaded on Google Classroom. Google Classroom and Google Drive will also be used for submitting assignments and sharing essays.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Overview of the course
2	Review Academic Writing Skills	Paragraph organization/ kinds of essays
3	Essay Structure 1	Introduction/hooks
4	Essay Structure 2	Body paragraphs
5	Essay Structure 3	Conclusion
6	Writing Process 1	Choosing a topic/ brainstorming
7	Writing Process 2	Outlining

8	Writing Process 3	Peer-editing/ proofreading
9	Essay Practice 1: Argument Essay	Arguing Pro and Con: Organizing/Topics
10	Essay Practice 2: Argument Essay	Thesis statement/ Counterarguments and refutations
11	Using Original Sources 1	Direct quotation and paraphrasing
12	Using Original Sources 2	Summarizing and synthesizing
13	Essay Practice 3: Argument Essay	Peer-review and self-editing
14	Final Essay Assessment	Student reports on final essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Folse, Keith S. and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

【参考書】

Lester, J. D., & Lester, J. D. (2015). Writing Research Papers: A Complete Guide (15th ed.). New York: Pearson. ISBN:1-292-07689-5

Oshima, A., & Hogue, A. (2017). Longman Academic Writing Series: 4 - Essays (Fifth ed.). New York: Pearson Longman. ISBN: 9780134663319

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on class participation and assignments (50%), and on a final essay (50%). More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students require a laptop or computer, access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities to take part in this class.

【その他の重要事項】

Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】

College writing A reviews basic formal structures of academic writing and introduces a process approach to writing academic texts, from single paragraphs to a longer essay. It builds competence in the use of original sources and prepares students for College Writing B, in which they are to produce a formal research paper.

LANe100LA

College Writing B

2016 年度以前入学者

サブタイトル：Class 2

ROBIN F WEICHERT

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

College writing B builds on the skills learned in College Writing A and develops them with a set of supplementary writing strategies. It guides students to apply the acquired skills to the organization and writing of an original research paper.

【到達目標】

The course provides students with essential tools and procedures for writing essays and research papers. Students learn to analyze and write the types of essays that commonly occur in academic contexts. They gain an understanding of how to plan and organize a major research paper, how to choose, evaluate, and use academic sources, and how to thereby develop their own original contribution to their fields. Students will also become competent in proofreading, editing, and revising drafts of their research paper.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

In the course, students complete a series of tasks that guide them to effective essay writing in a step-by-step manner. Students will first work on recognizing and identifying key writing structures from model essays. They then manipulate the structures in short tasks, and finally apply them to their own writing. Students will frequently work together, with a partner and with a group. They will share and edit each other's writing and are expected to both give and receive constructive feedback on assignments. Feedback by the teacher will be given individually and to the whole class. Students need to submit one full-length research paper by the end of the term. Depending on the threat level, the class will be taught online to a greater or lesser extent. Online classes will consist of real time meetings (Zoom) or on-demand lectures uploaded on Google Classroom. Google Classroom and Google Drive will also be used for submitting assignments and sharing papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Overview of the course
2	What is a Research Paper?	Steps in Writing a Research Paper/ Finding& Evaluating sources
3	Review Argumentative Essay	Brainstorm and decide on a topic
4	Writing a Research Paper	Developing research summaries/ Writing a strong thesis statement
5	Cause and Effect Essays 1	Analyzing a Cause-Effect Essay
6	Cause and Effect Essays 2	Developing and outlining a cause-effect essay
7	Comparison Essays 1	Patterns of Organization
8	Comparison Essays 2	Connectors for Comparison Essays
9	Special Working Session	Report on progress
10	Reaction Essays 1	Organizing a Reaction Essay
11	Reaction Essays 2	Transitions in Reaction Essays
12	First Draft of a Research Paper	Writing a first draft/ Peer feedback
13	Revision of the Research Paper	Revision of outline and final draft
14	Course Review	Submission of Research Paper/ In class presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Folse, Keith S.and Pugh, Tison. (2020). Great Writing 5: From Great Essays to Research. Boston: National Geographic Learning. ISBN 978-0-357-02086-9

【参考書】

Lester, J. D., & Lester, J. D. (2015). Writing Research Papers: A Complete Guide (15th ed.). New York: Pearson. ISBN:1-292-07689-5

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on class participation and assignments (50%), and on a final essay (50%).More than three unexcused absences will result in a failing grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Students require a laptop or computer, access to the internet and use of Zoom with audio and video capabilities to take part in this class.

【その他の重要事項】

Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

LANd100LA

ドイツ語補講 1 I

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

※定員制

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語の発音、基本的な文法を学習しつつ、実際の会話で使えるドイツ語の習得に重点を置く。語学とともに、ドイツの文化、歴史についても学び、ドイツ語圏への興味を喚起し、理解を深めることがこの授業の目的である。

【到達目標】

話す、聞く、読む、書くことを通じて、ドイツ語の基礎をマスターして、将来ドイツ語圏を旅行する際などに使えるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

文法事項を学習する一方で、ネイティブの発音を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

課題について、対面授業の場合はチェックして返却する。オンラインの場合は間違いがあった時のみ、指摘する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	あいさつ	ドイツ語の発音とあいさつ
第 2 回	自己紹介 1	人称代名詞
第 3 回	自己紹介 2	動詞の規則変化
第 4 回	趣味・余暇 1	動詞の不規則変化
第 5 回	趣味・余暇 2	名詞の格変化
第 6 回	持ち物・食べ物 1	3 格、4 格と結びつく動詞
第 7 回	持ち物・食べ物 2	否定冠詞
第 8 回	家族・住居 1	2 格の用法 複数形
第 9 回	家族・住居 2	人称代名詞
第 10 回	自然・心身 1	所有冠詞 定冠詞
第 11 回	自然・心身 2	命令形
第 12 回	街歩き 1	前置詞 1
第 13 回	街歩き 2	前置詞 2
第 14 回	テスト	期末テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『Dreiklang ドライクラング 異文化理解のドイツ語』郁文堂

【参考書】

関口一郎『マイスター ドイツ語コース 文法』大修館書店

矢羽々崇『読んで味わうドイツ語文法』研究社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、宿題、平常点 40 % の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoom で接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】

授業は皆さんの習熟度を見ながら進めるため、授業計画通りに進まないこともあり得ます。

【Outline (in English)】

This class is intended for the students who failed the course for beginners.

In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding. The standard preparation and revision time for this class is one hour in total. Evaluation will be based on a 60% final examination and 40% homework and normal marks.

LANd100LA

ドイツ語補講 1 II

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音、基本的な文法を学習しつつ、実際の会話で使えるドイツ語の習得に重点を置く。語学とともに、ドイツの文化、歴史についても学び、ドイツ語圏への興味を喚起し、理解を深めることがこの授業の目的である。

【到達目標】

文法事項を学習する一方で、ネイティブの発音を繰り返し聴いて、基本的な会話を覚える。各課ごとに小テストを実施し、習熟度を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 課を 2 回に分けて進める。基本的な例文は暗記すること。辞書を持参すること。

各課毎に小テストを実施する。

課題について、対面授業の場合はチェックして返却する。オンラインの場合は間違いがあった時のみ、指摘する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	交通 1	分離・非分離動詞
第 2 回	交通 2	時間の表現
第 3 回	予定・計画 1	話法の助動詞
第 4 回	予定・計画 2	非人称表現 未来形
第 5 回	学校 1	再帰代名詞
第 6 回	学校 2	従属接続詞 zu 不定詞
第 7 回	過去のできごと 1	現在完了形
第 8 回	過去のできごと 2	過去形
第 9 回	祝祭 1	形容詞
第 10 回	祝祭 2	比較級・最上級
第 11 回	政治・社会 1	関係代名詞
第 12 回	政治・社会 2	不定関係代名詞
第 13 回	文法補足	受動態 分詞 接続法
第 14 回	試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Dreiklang ドライクラング 異文化理解のドイツ語』郁文堂

【参考書】

関口一郎『マイスター ドイツ語コース 文法』大修館書店

矢羽々崇「読んで味わうドイツ語文法」研究社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、宿題、平常点 40 %の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

分からないことがある場合はいつでも質問してください。

【その他の重要事項】

授業は皆さんの習熟度を見ながら進めるため、授業計画通りに進まないこともあり得ます。

【Outline (in English)】

This class is intended for the students who failed the course for beginners.

In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding. The standard preparation and revision time for this class is one hour in total. Evaluation will be based on a 60% final examination and 40% homework and normal marks.

LANd100LA

ドイツ語補講 2 I

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の構造について詳細な解説をし、基本的な例文を暗記します。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要	綴りの読み方と発音 アルファベット等について
②	Lektion0	ドイツ語の発音の原則 挨拶、数字、形容詞を発音する
③	Lektion1	決定疑問文と否定疑問文 補足疑問文
④	Lektion1	不規則動詞
⑤	Lektion2	名詞の性と冠詞
⑥	Lektion2	名詞の複数形 冠詞の使い分け
⑦	Lektion3	格変化
⑧	Lektion3	否定冠詞
⑨	Lektion4	前置詞 1
⑩	Lektion4	前置詞 2 再帰代名詞
⑪	Lektion5	命令形
⑫	Lektion5	話法の助動詞 1
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 Lektion5	期末試験についての講評 話法の助動詞 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】

『クマといっしょにドイツ語 -1. 会話 2. 文法 3. 復習ドリル-』

羽根田知子・熊谷知実・ハイケ ビナウ著

朝日出版社 2022 年発行 定価 2750 円 (本体 2500 円 + 税 10%)

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』

中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著

白水社、定価 1,600 円 + 税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（授業内演習等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in-class contribution: 40%.

LANd100LA

ドイツ語補講 2 II

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の構造について詳細な解説をし、基本的な例文を暗記します。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Lektion6	時刻
②	Lektion6	日付
③	Lektion7	分離動詞 1
④	Lektion7	分離動詞 2
⑤	Lektion7	zu 不定詞
⑥	Lektion8	動詞の 3 基本形
⑦	Lektion8	過去形
⑧	Lektion9	現在完了形 1
⑨	Lektion9	現在完了形 2
⑩	Lektion9	受動態
⑪	Lektion10	副文
⑫	Lektion10	関係文
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 文法補足	期末試験についての講評 接続法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】

『クマといっしょにドイツ語 -1. 会話 2. 文法 3. 復習ドリル-』
羽根田知子・熊谷知実・ハイケ ピナウ著
朝日出版社 2022 年発行 定価 2750 円 (本体 2500 円 + 税 10%)

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円 + 税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（授業内演習等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in-class contribution: 40%.

LANf100LA

フランス語補講 1 I

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 6/Thu.6

単位数: 1 単位

※定員制

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級文法の復習を行うクラスです。文法の苦手な部分をなくし、フランス語の学習の基礎の定着を目指します。

【到達目標】

1. フランス語の初級文法の基礎の定着
2. 辞書で不明な単語を自在に調べられるようになる。
3. 基本的なフランス語の表現を言える。
4. フランス語への苦手意識の克服

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に教科書にそって進めますが、適宜プリントなどを配ります。また、学習内容の定着をはかるため、単語テストと小テストを頻繁に行います。学習支援システム Hoppi を利用して課題の提出と返却を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	フランス語とはどういう言語なのか? フランス語の読み方の基本
第 2 回	第一課	【自己紹介をする】 主語人称代名詞 être と s'appeler 動詞 職業と国籍の表現
第 3 回	第二課	【自己紹介をする】 avoir 動詞と数
第 4 回	第二課	【自己紹介をする】 er 動詞
第 5 回	第三課	【自己紹介をする】 ここまでの復習 問題演習
第 6 回	小テスト	Unité 1 の復習
第 7 回	第四課	【自分の生活について話す】 第一群規則動詞 第二群規則動詞 曜日の言い方
第 8 回	第五課	【自分の生活について話す】 動詞 aller と venir 数字 1~24 時間の言い方
第 9 回	第六課	【自分の生活について話す】 Unité 2 の復習
第 10 回	第七課	【文の作り方のまとめ】 好悪の感情の表現
第 11 回	第八課	【文の作り方のまとめ】 動詞 pouvoir, devoir, vouloir
第 12 回	小テスト	ここまでの復習

第 13 回 第九課

【文の作り方のまとめ】

疑問文

第 14 回 試験

まとめの試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。予習では各課の冒頭の対話を事前に辞書を使って読んでおくこと、復習では授業で指示された課題は必ず行い、単語テストと小テストに備えて勉強すること。

【テキスト (教科書)】

『Le Ciel 1』平嶋里珂著、朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

小テストで 30 %、授業貢献度で評価する平常点で 20 %、期末テストで 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの不明点を明確にしたうえで授業をすすめていく。可能な限り教室内で問題演習と対話練習を行うことで、基礎学力の確実な定着をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

仏和と和仏の辞書を持っていることが望ましいです。また、動詞の活用に関する参考書を一冊持っているとう便利です。参考書については授業中に随時説明していきます。また、学習支援システムや教科書の web ページなどを利用するために、パソコン、タブレット、スマートフォンなどの電子機器を所有していると便利です。

【その他の重要事項】

授業に関する不明点は西川 (junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp) までメールをください。

【Outline (in English)】

Introduction to basic skills of communication in French language and French grammar.

The goals of this course are to be able to understand French grammar and to use basic skills of communication in French. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Examinations in class : 30%, in class contribution in class: 20%.

LANf100LA

フランス語補講 1 II

2017 年度以降入学者

西川 純子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 6/Thu.6

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行うクラスです。文法の苦手な部分をなくし、フランス語の学習の基礎の定着を目指します。

【到達目標】

1. フランス語の初級文法の基礎の定着
2. 辞書で不明な単語を自在に調べられるようになる。
3. 基本的なフランス語の表現を言える。
4. フランス語への苦手意識の克服

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に教科書にそって進めますが、適宜プリントなどを配ります。また、学習内容の定着をはかるため、単語テストと小テストを頻繁に行います。学習支援システム Hoppi を利用して課題の提出と返却を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第十課	【人やものを描写する】 名詞の特殊な女性形 所有形容詞 指示形容詞
第 2 回	第十一課	【人やものを描写する】 形容詞
第 3 回	第十一課	【人やものを描写する】 補語人称代名詞
第 4 回	第十二課	【人やものを描写する】 形容詞の比較級と最上級
第 5 回	第十三課	【場所・時・理由・条件を表す】 前置詞 位置を表す表現 ここまでの復習
第 6 回	小テスト	
第 7 回	第十四課	【場所・時・理由・条件を表す】 命令形 道順を示す表現
第 8 回	第十五課	【場所・時・理由・条件を表す】 天候・気候の表現 動詞 avoir を使った慣用表現
第 9 回	第十六課	【時の流れに位置づけて表す】 近接未来 近接過去
第 10 回	第十七課	【時の流れに位置づけて表す】 複合過去
第 11 回	第十八課	【時の流れに位置づけて表す】 時に関する表現まとめ
第 12 回	小テスト	ここまでの復習
第 13 回	ここまでの復習	問題演習 質疑応答
第 14 回	試験	まとめの試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 2 時間を標準とします。予習では各課の冒頭の対話文を事前に辞書を使って読んでおくこと、復習では授業で指示された課題は必ず行い、単語テストと小テストに備えて勉強すること

【テキスト（教科書）】

『Le Ciel 1』平嶋里珂著、朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

小テストで 30 %、授業貢献度で評価する平常点で 20 %、期末テストで 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんの不明点を明確にしたうえで授業をすすめていく。可能な限り教室内で問題演習と対話練習を行うことで、基礎学力の確実な定着をめざす。

【学生が準備すべき機器他】

仏和と和仏の辞書を持っていることが望ましいです。また、動詞の活用に関する参考書を一冊持っているとう便利です。参考書については授業中に随時説明していきます。また、学習支援システムや教科書の web ページなどを利用するために、パソコン、タブレット、スマートフォンなどの電子機器を所有していると便利です。

【その他の重要事項】

授業に関する不明点は西川（junko.nishikawa.54@hosei.ac.jp）までメールをください。

【Outline (in English)】

Introduction to basic skills of communication in French language and French grammar.

The goals of this course are to be able to understand French grammar and to use basic skills of communication in French. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Examinations in class : 30%, in class contribution in class: 20%.

LANf100LA

フランス語補講 2 I

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 6/Wed.6

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行う授業です。ダイアログを参考にしながら練習問題で文法の復習をし、聞き取り・書き取り・語彙の強化を行います。

【到達目標】

初級文法をマスターして、履歴書にも書けるフランス語検定 3 級レベルを目指します。まずは教科書の文法事項を復習し、仏検 4 級の過去問題等で確認をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。授業では、1) ダイアログで使われている文法事項を確認してから 2) 練習問題を解きます。さらに 3) 音声を書き取る練習をします。オンライン授業となった場合にも、1)～3) の流れは同じです。質問があるときは、授業時間内に直接たずねるか、または初回の授業でお伝えするメールアドレスまでご連絡ください。同時配信型の授業で使用了資料は Hoppii に掲示しますので、欠席したときの自習や復習に使うことができます。We go on one lesson at a time in one class. In class, 1) check the grammar used in the dialogue and then 2) solve the exercises. 3) Practice part writing down the audio. Even if you are in online class, the flow of 1) to 3) is the same. If you have any questions, please ask directly during class hours or contact me at the email address you will be given in your first class. The Power Point used in the class will be posted on Hoppii, so you can use it for self-study and review when you are absent.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	Leçon 1・2「自己紹介（国籍、職業）」	動詞 être、形容詞の一致
2 回目	Leçon 1・2「自己紹介（国籍、職業）」	動詞 être、形容詞の一致
3 回目	Leçon 3「年齢・家族」	不定冠詞、否定文
4 回目	Leçon 4「好き」	定冠詞、第一群規則動詞、疑問文
5 回目	仏検の過去問題等	仏検の過去問題等
6 回目	Leçon 5「持ち物」	指示形容詞・所有形容詞、強勢形
7 回目	Leçon 6「友だち」	形容詞
8 回目	Leçon 7「たずねる」	疑問代名詞・疑問副詞
9 回目	仏検の過去問題等	仏検の過去問題等
10 回目	Leçon 8「近い未来・近い過去」	近接未来・近接過去、縮約、中性代名詞 y
11 回目	Leçon 9「時間・天候」	疑問形容詞、非人称構文
12 回目	Leçon 10「数量」	部分冠詞、中性代名詞 en
13 回目	仏検の過去問題等	仏検の過去問題等
14 回目	Leçon 11「紹介する」	補語人称代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。習った文法事項を確認してから、練習問題を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

『新・東京一ぱり、初飛行（新装改訂二版）』藤田裕二・藤田知子著（駿河台出版社）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業中の積極的な発言 50%、期末試験または期末課題 50% で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解答は早めに Hoppii に配信します。

【学生が準備すべき機器他】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日）初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019 年 4 月 1 日～ フランス語科の高 2 文法・高 3 作文と受験文法を担当）

【Outline (in English)】

【Course outline】This is a lesson to review basic grammar. Review grammar with practice exercises while referring to the dialogue, and we do also listening, writing and vocabulary enhancement.

【Learning Objectives】We master the basic grammar and aim for the level 3 of the French test that you can write on your curriculum vitae. This class start on reviewing the grammar on text book and check your present state using the past questions of the French test level 4.

【Learning activities outside of classroom】Preparation study and review time for this class is about 1 hour as standard. Let's review after every lesson the grammar learned and then solve the exercises for home work.

【Grading Criteria/Policy】Class evaluation is comprehensively given at 50% of active remarks in class and 50% of final exams or final assignments. Actively participating in classes leads to good grades.

LANf100LA

フランス語補講 Ⅱ

2017 年度以降入学者

中村 美緒

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 6/Wed.6

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法の復習を行う授業です。ダイアログを参考にしながら練習問題で文法の復習をし、聞き取り・書き取り・語彙の強化を行います。

【到達目標】

初級文法をマスターして、履歴書にも書けるフランス語検定 3 級レベルを目指します。まずは教科書の文法事項を復習し、仏検 4 級の過去問題等で確認をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1 回の授業で 1 レッスンずつ進みます。授業は、1) ダイアログで使われている文法事項を確認してから 2) 練習問題を解きます。さらにも、1)～3) の流れは同じです。質問があるときは、授業時間内に直接たずねるか、または初回の授業でお伝えするメールアドレスまでご連絡ください。使用した資料は Hoppii に掲示しますので、欠席したときの自習や復習に使うことができます。

We go on one lesson at a time in one class. In class, 1) check the grammar used in the dialogue and then 2) solve the exercises. 3) Practice part writing down the audio. Even if you are in online class, the flow of 1) to 3) is the same. If you have any questions, please ask directly during class hours or contact me at the email address you will be given in your first class. The Power Point used in the class will be posted on Hoppii, so you can use it for self-study and review when you are absent.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	春学期の復習	仏検の過去問題等
2 回目	Leçon 12「一日の動作」	代名動詞
3 回目	Leçon 13「依頼する」	命令法、動詞 devoir
4 回目	Leçon 14「将来のこと」	単純未来、動詞 espérer
5 回目	仏検の過去問題等	仏検の過去問題等
6 回目	Leçon 15「過去のこと 1」	複合過去
7 回目	Leçon 16「過去のこと 2」	半過去・大過去
8 回目	Leçon 17「人や物について」	関係代名詞、指示代名詞
9 回目	Leçon 18「比較する」	比較級・最上級
10 回目	仏検の過去問題等	仏検の過去問題等
11 回目	Leçon 19「受け身と同時性」	受動態、現在分詞・ジェロンディフ
12 回目	Leçon 20「仮定する」	条件法現在・条件法過去
13 回目	Leçon 21「感情表現」	接続法現在・接続法過去
14 回目	まとめと期末試験	期末試験または期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。習った文法事項を Hoppii にあげられた授業時に使用したパワポで確認して、よく復習しておきましょう。

【テキスト（教科書）】

『新・東京—パリ、初飛行（新装改訂二版）』藤田裕二・藤田知子 著（駿河台出版社）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業中の積極的な発言 50%、期末試験または期末課題 50% で総合的に評価します。授業に積極的に参加することが成績につながります。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解答は早めに Hoppii に配信します。

【学生が準備すべき機器他】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【その他の重要事項】

中学教諭一種免許（フランス語）、高等学校教諭一種免許（フランス語）

明治大学付属明治高等学校兼任講師（1997 年 4 月 1 日～2000 年 3 月 31 日） 初めてフランス語を学ぶ高校生のための入門の授業を担当）

白百合学園中学高等学校兼任講師（2019 年 4 月 1 日～ フランス語科の高 2 文法・高 3 作文と受験文法を担当）

【Outline (in English)】

【Course outline】 This is a lesson to review basic grammar. Review grammar with practice exercises while referring to the dialogue, and we do also listening, writing and vocabulary enhancement.

【Learning Objectives】 We master the basic grammar and aim for the level 3 of the French test that you can write on your curriculum vitae. This class start on reviewing the grammar on text book and check your present state using the past questions of the French test level 4.

【Learning activities outside of classroom】 Preparation study and review time for this class is about 1 hour as standard. Let's review after every lesson the grammar learned and then solve the exercises for home work.

【Grading Criteria/Policy】 Class evaluation is comprehensively given at 50% of active remarks in class and 50% of final exams or final assignments. Actively participating in classes leads to good grades.

LANf200LA

フランス語補講 3 I

2017 年度以降入学者

石川 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の学習を一通り終えた学生が、文法の復習をしながら、やさしいフランス語を読み、聞き取り、理解する力を身につけるための授業です。文法の知識を、実際に運用することによってどうつなげていくか。そのコツがわかれば、これから先、フランス語を独習することができるようになるはず。授業を通じて、フランス語に慣れ親しんでいきましょう。

【到達目標】

フランス語の文法の知識を定着させることができる。
フランス語の語彙を増やすことができる。
フランス語の文法の知識を使って、やさしいフランス語の文章を読み、聞き取ることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行する場合があります。

初回授業時に、今後の進め方等についてガイダンスを行います。

学生からの質問には授業時間内、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス、レベルチェック	今後の進め方等についてのガイダンスと受講者のレベルチェック
2 回	Leçon 1	名詞・形容詞の性・数、所有形容詞
3 回目	Leçon 1	文のつながり（理由）
4 回目	Leçon 2	動詞の活用（規則動詞/不規則動詞）
5 回目	Leçon 2	動詞の活用（代名動詞）
6 回目	Leçon 3	冠詞（不定冠詞/部分冠詞/定冠詞）
7 回目	Leçon 3	指示形容詞
8 回目	Leçon 4	前置詞（à/en/dans）＋場所（国名、都市名など）
9 回目	Leçon 4	前置詞 à と定冠詞の結合形
10 回目	Leçon 5	複合過去
11 回目	Leçon 5	半過去
12 回目	Leçon 6	疑問詞・疑問副詞
13 回目	Leçon 6	否定
14 回目	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の予習・復習でやることは同じです。予習の段階では、知らない単語を辞書で引き、完全にわからなくてもよいのでその課の文章を読み、意味を考えてくること。復習では、その日に学んだ点に関して、文法や構文のポイントを整理してください。

【テキスト（教科書）】

『シヴィ・ラング ——ディクテ中心に学ぶフランス語と文化——（改訂版）』Michel Sagaz、中里まき子著、駿河台出版社、2022 年、2400 円＋税

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）： 50 %、期末試験： 50 %で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初回のレベルチェック時に、受講者のレベルや苦手な点を確認し、その点にフォーカスして授業を構成します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらでも良いですが、手元に用意しておくとう便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】

This course is for students who have learned french grammar for a year. In this class, students will use their knowledge of basic grammar to understand written and spoken French. At the end of the course, students will be able to comprehend the daily french conversation.

After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Reviewing learned expressions on the text will be a good method.

Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANf200LA

フランス語補講 Ⅲ

2017 年度以降入学者

石川 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先学期に引き続き、やさしいフランス語を読み、聞き取り、理解する力の伸長に取り組みます。文法の知識を確認しながら、テキストに沿って授業を進めていきます。生きたフランス語の文章にふれることで、文法や語彙の知識を運用に結びつける方法を学んでいきましょう。

【到達目標】

辞書を引きながらフランス語の文章が読めるようになる。
ことばに刻まれたフランスの文化について知識が得られる。
基本的な表現に習熟し、自分でもフランス語の文が作れるようになる。
フランス語を独習する力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

演習形式の授業です。毎回、受講者には、ディクテを中心とした課題に取り組んでもらいます。読解では、フランス語の文章について、その場で文法解説を行なってもらいます。
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行する場合もあります。
学生からの質問には授業時間内に、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アイスブレイク、レベルチェック	春学期の復習、レベルチェック
第 2 回	Leçon 7	目的語人称代名詞（直接/間接）
第 3 回	Leçon 7	中性代名詞 en/y
第 4 回	Leçon 8	単純未来
第 5 回	Leçon 8	動詞のつながり
第 6 回	Leçon 9	量を言う表現
第 7 回	Leçon 9	目的 pour、必要・義務 il faut/devoir
第 8 回	Leçon 10	形容詞・副詞の比較級・最上級、量の比較
第 9 回	Leçon 11	受動態
第 10 回	Leçon 11	非人称構文、文のつながり
第 11 回	Leçon 12	条件法現在
第 12 回	Leçon 12	現在分詞、ジェロンディフ
第 13 回	Leçon 12	命令形
第 14 回	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
毎回の予習・復習でやることは同じです。予習では、とにかく辞書を引いて、わからない単語を調べてきてください。復習では、授業で学んだことに関して、文法のポイントを整理してみてください。

【テキスト（教科書）】

『シヴィ・ラング ——ディクテ中心に学ぶフランス語と文化——（改訂版）』、Michel Sagaz、中里まき子著、駿河台出版社、2022 年、2400 円＋税

【参考書】

参考書は指定しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業での主体的な取り組み（予習・復習ができているかを含む）： 50 %、期末試験： 50 %で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

初回のレベルチェック時に、受講者のレベルや苦手な点を確認し、その点にフォーカスして授業を構成します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらも良いですが、手元に用意しておくとう便利です。授業の予習・復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】

This course is for students who have learned french grammar for a year. In this class, students will use their knowledge of basic grammar to understand written and spoken French. At the end of the course, students will be able to comprehend the daily french conversation.

After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Reviewing learned expressions on the text will be a good method.

Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANr100LA

ロシア語補講 1 I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

※定員制

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級ロシア語再履修の学生を対象とした授業です。前年度より学習成績が数段上がるよう丁寧に学んでいきます。アルファベットの文字と発音の習得から始め、基礎文法と基本単語を身につけ、初級テキストの正確な音読・和訳、また、挨拶など初歩的なコミュニケーション能力を養成します。履歴書に資格として記載できるロシア語能力検定試験 4 級合格の準備を始めます。ロシア文化に関する知識も広げていきます。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語の美しく正確な発音ができる。習字帳などでロシア文字 (筆記体を含む) が書けるようになる。初級文法の最初のステップ (名詞、形容詞、動詞の変化など) をきちんと習得する。基本単語を覚え、初級テキストの和訳・露訳が出来る。挨拶や自己紹介などの初歩的なコミュニケーション能力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし準備する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間でロシア文字とその発音をしっかりと習得。発音のミニテストの後は、教科書に沿って初級文法を学び、基礎単語力もマスターします。各課ごとに、①新出単語の音読、②文法解説、③本文の解説と発音練習、④練習問題、という流れで進めていきます。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う予定です。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業進度や授業計画などの予定は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	補講に関するガイダンス	ロシア語補講に関して (再履修の心構え)
	第 1 課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習 (母音)、簡単な挨拶
2	第 1 課 ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音 (子音)、アクセント
3	第 2 課 基本文型 (～は... である)	基本文型 (～は... である)、イントネーション (平叙文と疑問文)
4	第 2 課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第 3 課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第 3 課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第 4 課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第 4 課 形容詞	形容詞 (硬変化、軟変化) とその練習問題
9	中間テスト	中間テスト
10	第 5 課 動詞 (不定形と過去形)	動詞 (不定形と過去形)
11	第 5 課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明

12	第 6 課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形 (現在人称変化) と未来形 (合成未来)
13	第 6 課 前置格 春学期のまとめ	前置格の用法と練習問題、春学期のまとめ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

積極的に予習 (新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く) や復習 (文法の暗記、テキスト音読練習) を行うリズムをしっかりと身につけることが重要です。本授業の予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト (教科書)】

・「初級ロシア語」(法政大学ロシア語担当教員 編)
[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
露和辞典 (博友社ロシア語辞典 (1995 年、¥6291) が望ましい)
『ティータイムのロシア語 (CD 付)』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 % となります。また、春学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 % となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢 (宿題、予習や復習を含む) などの平常点を 30 % とし、最終評価を算出します。受講者数が少ない場合は平常点 (ミニテスト含む) だけでの評価もあり得ます。

【学生の意見等からの気づき】

ひとりではなかなか覚えられない単語や文法表の繰り返しなど、授業でリズムよく復唱したいと思います。補講を受けた翌年 5 月にロシア語能力検定試験 4 級に合格した学生がいます。皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

少人数で伸び伸びと納得いくまで学べるクラスです。きちんと復習することで力がつき、ロシア語能力検定試験に合格している学生もおります。(合格の場合、資格として履歴書に書くことができ、珍しい資格のため面接などで有利となります。) 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、対面授業を基本とし開催します。授業形態等の連絡は学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning Objectives】 This course is for students who did not pass the basic Russian course 1- I and take it for a second time. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to master basic grammar and vocabulary; 3) to be able to read simple sentences naturally aloud and understand their meaning ; 4) be able to develop elementary communication skills in Russian; 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level; 6) to know Russian culture. I will study so that my learning grades will improve from the previous year. 【Learning activities outside of classroom】 It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 The overall score of the quiz is 30% of the overall evaluation. In addition, the result of the evaluation test is 40%. In addition, the final evaluation is calculated with a normal score of 30%, such as the degree of participation in the class and attitude of efforts (including homework, preparation and review).

LANr100LA

ロシア語補講 1 II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語（秋学期）再履修の学生を対象とした授業です。前年度より学習成績が数段上がるよう丁寧に学んでいきます。この授業の目的は、1）ロシア語初級文法の規則性を理解し習得する、2）習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができる、3）リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける、4）ロシア語能力検定試験 4 級合格を目指す。一緒に頑張りましょう。

【到達目標】

ロシア語テキストを正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。日本語の短い文章を的確なロシア語に出来る。ロシア語能力検定試験合格に向けた準備ができる。ロシア語会話ができる。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の復習から入ります。秋学期は、ロシア語文法の要である名詞や形容詞の格変化を中心に教科書に沿って、1）新出単語の音読、2）文法解説、3）本文の解説と発音練習、4）練習問題（検定試験過去問を含む）と進めていきます。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う予定です。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）

12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）、そして課題回答（学習支援システムから提出）をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）

[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストを予定しています。この試験結果が評価の 50 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 50 % とし、総合的に評価します。過少人数の場合、平常点だけで評価する可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験対策の勉強も出来て良かったとのご意見がありました。実際に翌年試験に合格している履修生たちがおります。少人数だからこそ、緊張せずに学べた、ロシア語が楽しかった、成績評価が格段に上がった、自信が持てたとの嬉しい声も頂きました。毎回皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めています。

【その他の重要事項】

初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より上がります。質問はメールで随時受け付けています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、対面授業を基本とし開催します。感染状況等の変化によってはオンライン併用となります。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning Objectives】 This course is for students who did not pass the basic Russian course 1-II (Autumn semester) and take it for a second time. The purpose of this class is 1) to understand and master the regularity of Russian beginner's grammar, 2) to be able to translate into Japanese and Russian using the learned grammar and dictionary, 3) to acquire comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, writing" 4) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level. 【Learning activities outside of classroom】 It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts). As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 Mid-term and final exams are planned. The result of this test is 50% of the evaluation. In addition, the normal score such as the degree of participation in quizzes and classes, and the attitude of efforts (including homework, preparation and review) is set to 50%, and a comprehensive evaluation is made. In the case of a small number of students, it is possible to evaluate only by normal points.

LANr100LA

ロシア語補講 2 I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語再履修の学生を対象とした授業です。前年度より学習成績が数段上がるよう丁寧に学んでいきます。これまで習得できなかったロシア語の基礎をアルファベット・発音からしっかりと学び直す。教科書および副教材で基礎文法を復習し、聴く、読む、話す、書く力を身につける。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題や対策問題にも挑戦する。実際のコミュニケーションで使える日常会話、自己紹介等を習得する。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。習字帳などでロシア文字（筆記体を含む）が書けるようになる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を教科書できちんと習得する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級の過去問題に挑戦し、必須単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得し直します。テキストの正確で美しい音読の練習を行います。初級文法を学び直しながら、ロシア語能力検定試験 4 級の練習問題も解いていきます。適時ミニテストを行い、文法の習熟度を確認します。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行います。なお、受講生の理解度や社会情勢によって、授業計画や進度は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベットと発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音、簡単な挨拶
2	ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	ロシア文字と単語の発音	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント
4	基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）
5	名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
6	名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
9	形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	動詞	動詞（不定形と過去形）
11	副詞、格の説明	副詞の作り方、格の説明
12	動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	動詞と前置格	不規則動詞と前置格
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）、そして課題回答（学習支援システムから提出）をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）

[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせ、適時小テストを行います。小テストの総合点が全体評価の 30 % となります。欠席をせずにしっかりと復習の成果を出して下さい。また、秋学期の最終週に授業内試験を行います。この試験結果が評価の 40 % となります。その他に授業への参加度や取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 30 % とし、最終評価を算出します。受講者数が少ない場合は平常点（ミニテスト含む）だけでの評価もあり得ます。

【学生の意見等からの気づき】

初級文法の規則性をきちんと習得できるよう、授業での復唱時間を増やす。

毎回皆さんからの意見に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めています。

【その他の重要事項】

初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より上がります。質問はメールで随時受け付けています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、対面授業を基本とし開催します。感染状況等の変化によってはオンラインを併用した展開となります。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning Objectives】 This course is for students who did not pass the basic Russian course 2 - I and take it for a second time. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to master basic grammar and vocabulary; 3) to be able to read simple sentences naturally aloud and understand their meaning ; 4) be able to develop elementary communication skills in Russian; 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level; 6) to know Russian culture. You will study so that your learning grades will improve from the previous year. 【Learning activities outside of classroom】 It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts). As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 The overall score of the quiz is 30% of the overall evaluation. In addition, the result of the evaluation test is 40% of the evaluation. In addition, the final evaluation is calculated with a normal score of 30%, such as the degree of participation in the class and attitude of efforts (including homework, preparation and review).

LANr100LA

ロシア語補講 2 II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語再履修の学生を対象とした授業です。前年度より学習成績が数段上がるよう学んでいきます。春学期授業の復習とともに、格変化がポイントのロシア語文法の構造を理解する。名詞、形容詞、人称代名詞などの格変化を覚える。また、動詞の命令形や、日本の感覚とは違う運動の動詞を習得する。ロシア語能力検定試験 4 級受験の準備を行う。テキスト和訳、露作文ができるようになる。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける。

【到達目標】

格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。それに対応するロシア語能力検定試験の過去問題や対策問題を解きます。さらに習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけます。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う予定です。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間テスト	中間テスト
7	前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）

9	生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	所有の表現	所有の表現、否定生格
11	与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	秋学期の復習
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）、そして課題回答（学習支援システムから提出）をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）

[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）

【成績評価の方法と基準】

中間テストと期末テストを予定しています。この試験結果が評価の 50 % となります。その他に小テストや授業への参加度、取り組みの姿勢（宿題、予習や復習を含む）などの平常点を 50 % とし、総合的に評価します。過半数の場合、平常点だけで評価する可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

ロシア語能力検定試験対策の勉強も出来て良かったとのご意見がありました。実際に翌年試験に合格している履修生たちがおります。少人数だからこそ、緊張せずに学べた、ロシア語が楽しかった、成績評価が格段に上がった、自信が持てたとの嬉しい声も頂きました。一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

初級ロシア語の再履修クラスです。分かるまで丁寧に教えます。再履修での成績は前年度より確実に上がります。質問はメールで随時受け付けています。

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、対面授業を基本とし開催します。感染状況等の変化によってはオンライン併用となります。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning Objectives】 This course is for students who did not pass the basic Russian course 1-II (Autumn semester) and take it for a second time. The purpose of this class is 1) to understand and master the regularity of Russian beginner's grammar, 2) to be able to translate into Japanese and Russian using the learned grammar and dictionary, 3) to acquire comprehensive language skills of "listening, reading, speaking, writing" 4) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level. 【Learning activities outside of classroom】 It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts). As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 Mid-term and final exams are planned. The result of this test is 50% of the evaluation. In addition, the normal score such as the degree of participation in quizzes and classes, and the attitude of efforts (including homework, preparation and review) is set to 50%, and a comprehensive evaluation is made. In the case of a small number of students, it is possible to evaluate only by normal points.

HSS100LA

Elementary Health and Physical Education 2017 年度以降入学者

サブタイトル:

秋本 成晴

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 2 単位

基・保/※定員制

他学部公開: グローバル: ○ 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Understanding the various physical activities and their effect on daily health and/or fitness level. Learning to develop teamwork and the role of the individual within a group through various exercises that require technique and/or tactical knowledge.

【到達目標】

1. Learning about various ways of exercising.
2. Understanding the basics of a healthy lifestyle.
3. Learning about basic self control and its importance.
4. Exercising simple decision making, leadership, communication in a dependent and co-dependent environment.
5. Creating a demand for future self-education and self-development.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

This class is comprised of 5 lectures and 9 practical lessons; however, this may be changed due to the situation of COVID-19 and the university guidelines. Currently this class is planned to be held offline (face to face), therefore, please follow the university guidelines carefully when you participate in classes (e.g. sanitizing your hands prior to participation). If you have any difficulty to participate due to the situation of COVID-19, please inform the teacher as soon as possible in order to participate online.

Furthermore, due to the coronavirus pandemic, if there are too many students registered for this class, we may have to choose students via random selection in order to avoid a large group gathering. Further details of this will be announced through Hoppii before the first lesson starts.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance (Lecture)	Introduction of the course.
2	Walking & Stretching (Lecture & Practical Lesson)	Learning how to stretch and the importance of walking in everyday life.
3	Physical Fitness Test (Lecture & Practical Lesson)	In addition to conducting physical fitness tests, students will evaluate and discuss the results.
4	Table Tennis (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of table tennis.

5	Sound Table Tennis (Lecture & Practical Lesson)	Learning about game based table tennis as well as its adaptation for people with visual impairments.
6	Principles of Training (Lecture & Practical Lesson)	Learning the basic principles of training.
7	Disability Sport (Lecture)	Learning the outline of disability sports.
8	Badminton (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of badminton.
9	Football (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of football.
10	Disability Sport 2 (Lecture)	Learning about adaptation in sports.
11	Boccia (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of boccia.
12	Basketball (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of basketball.
13	Volleyball (Lecture & Practical Lesson)	Learning the outline of volleyball.
14	Summarizing the Course (Lecture)	Overview of the course and summarizing what students have learned through group discussions.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Each student is required to prepare themselves to have a good physical and mental condition in order to participate safely in the lesson. Also, each student is required to study for 2 hours before and after each lesson accordingly.

【テキスト (教科書)】

No textbook will be used.

【参考書】

Reference books may be introduced as and if necessary.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on the following:

- ・ Understanding of class content, reports and reaction papers assigned in each class, etc.: 60%.
- ・ Active participation in the class: 20%.
- ・ Final report: 20%.

If you are absent from class or submit assignments after the deadline, your grade will be lowered. Also, arriving late to class will affect your grades, so be sure to arrive to class early. The same applies to those who are late because of delays in public transportation (except for major delays).

Moreover, if attendance is less than 2/3 of the total number of classes, the student will receive a grade of "E" for insufficient time to complete the course for credit.

【学生の意見等からの気づき】

- ・ In the Covid-19 pandemic, there was a lot of feedback about changes in lifestyle and exercise habits. In light of this, this class will flexibly change the course content according to the social situation and students' needs at the time, and provide learning that is more suited to students' situations.
- ・ We have heard that the number of interactions among students in the class has decreased due to the shift to online classes during the Covid-19 pandemic. Therefore, this class aims to provide an opportunity to learn through active interaction among students.

【学生が準備すべき機器他】

- ・ Each student is required to bring their own proper sports wear and indoor shoes for practical lessons.

【その他の重要事項】

- ・ The order and content of each class can be changed/modified due to the number of participants and available facilities as well as the situation of COVID-19 and university guidelines.
- ・ If students do not feel well or have (possible) injuries before or after the class, students must inform their condition to the teacher for safety.

【Outline (in English)】

Understanding the various physical activities and their effect on daily health and/or fitness level. Learning to develop teamwork and the role of the individual within a group through various exercises that require technique and/or tactical knowledge.

PRI100LA

Elementary Information Technology

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

松田 裕幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

選基・情／※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You will learn the information and communication technology with Python programming.

【到達目標】

You will understand the essence of the current popular IT topics including the Internet, computer system, data science and the artificial intelligence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The class materials will be available in the online notebooks. Teaching style is basically face-to-face, however simply applicable to the online style due to the online notebooks. Each class is taught in the text mixed with programs and assign a short homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Python Programming	You will learn to be able to read Python code.
2	Computer System and the Internet	You will understand how computer works and the Internet works.
3	Data Encoding	Computed data including characters should be converted to machine readable code.
4	Data Science [1]	You will learn DataFrame. Python based data handling tool DataFrame performs Excel like actions and more.
5	Data Science [2]	You understand the trend with data viewing.
6	Data Science [3]	You will learn how to draw map.
7	Data Science [4]	You will learn how to plot data on the map.
8	Machine Learning [1]	You will learn how to predict with linear regression.
9	Machine Learning [2]	You will learn how to predict with k-nearest neighborhood.
10	Machine Learning [3]	Big example: MNIST. You will learn how to classify hand written digits.
11	Machine Learning [4]	You will learn how to classify hand written digits with Perceptron.

12	Information Encoding [1]	Encryption.
13	Information Encoding [2]	Credit Card/Bar Code/QR code
14	Summary	You are given the review of the whole classes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

No special work will be assigned to you. However you need to finish all the homework assigned in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

All texts are uploaded in HOPPII.

【成績評価の方法と基準】

To pass the study quality and to get the grade, you need attend the whole classes and submit all the homeworks. The quality of the last homework will dominate 80% of the score and the 20% of the score depends on homeworks issued on every classes. You need get more than 60 points for the total 100 points to pass this class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

none.

【その他の重要事項】

My career introduction. I have been designing, implementing automatic programming and teaching human knowledge into computer, especially in natural language.

【Outline (in English)】

You will understand the essence of the current popular IT topics including the Internet, computer system, data science and the artificial intelligence.

PRI100LA

Information Technology

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

リ・情／※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

You will learn the information and communication technology with Python programming.

【到達目標】

You will understand the essence of the current popular IT topics including the Internet, computer system, data science and the artificial intelligence.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP4、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The class materials will be available in the online notebooks. Teaching style is basically face-to-face, however simply applicable to the online style due to the online notebooks. Each class is taught in the text mixed with programs and assign a short homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Python Programming	You will learn to be able to read Python code.
2	Computer System and the Internet	You will understand how computer works and the Internet works.
3	Data Encoding	Computed data including characters should be converted to machine readable code.
4	Data Science [1]	You will learn DataFrame. Python based data handling tool DataFrame performs Excel like actions and more.
5	Data Science [2]	You understand the trend with data viewing.
6	Data Science [3]	You will learn how to draw map.
7	Data Science [4]	You will learn how to plot data on the map.
8	Machine Learning [1]	You will learn how to predict with linear regression.
9	Machine Learning [2]	You will learn how to predict with k-nearest neighborhood.
10	Machine Learning [3]	Big example: MNIST. You will learn how to classify hand written digits.
11	Machine Learning [4]	You will learn how to classify hand written digits with Perceptron.
12	Information Encoding [1]	Encryption.
13	Information Encoding [2]	Credit Card/Bar Code/QR code
14	Summary	You are given the review of the whole classes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

No special work will be assigned to you. However you need to finish all the homework assigned in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

None.

【参考書】

All texts are uploaded in HOPPII.

【成績評価の方法と基準】

To pass the study quality and to get the grade, you need attend the whole classes and submit all the homeworks. The quality of the last homework will dominate 80% of the score and the 20% of the score depends on homeworks issued on every classes. You need get more than 60 points for the total 100 points to pass this class.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

none.

【その他の重要事項】

My career introduction. I have been designing, implementing automatic programming and teaching human knowledge into computer, especially in natural language.

CAR100LA

Elementary Career Development 2017 年度以降入学者

サブタイトル:

竹原 正篤

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

選基・キ/※定員制

他学部公開: グローバル: ○ 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course provides students in English degree programs with the opportunity to understand the significance of work and careers to acquire the mindset and knowledge needed to design their own career. Recognizing that the careers of students in English degree programs are diverse, this course will deal with fundamental topics including the significance of working, the theory and method for self-understanding, the theory and method for occupational aptitude, the method of career design, and human resource management of various organizations. Through this course, students can raise their awareness of the profession and can take concrete actions toward career design that suits their vocational aptitude.

【到達目標】

Students will be able to understand and explain:

- (1) the significance of work and career and knowledge to design their own career.
- (2) their personal profiles including strengths and weaknesses, values, aspirations, skills and lifestyles.
- (3) skills and competencies required for careers that students want to explore.
- (4) necessity to explore internships and job opportunities spontaneously.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

This course consists of lectures by the instructor, students' presentations and discussions. Students will occasionally work to create a worksheet during the class. All of the class activities will be conducted in English.

"If the university's action policy level is set to 2, this class will be taught online as a rule. Details will be announced via the Learning Management System."

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Orientation	Outline of the course. Self-introduction of each participant and instructor. Free discussion on "career" and career development.
Week 2	Significance of working and career design (1)	Understand the important points when considering future career paths. Understand what options students have and what actions they have to take while in university.

Week 3	Significance of working and career design (2)	Understand the importance of considering your career development throughout your entire life. Sharing the essence of "Life shift"
Week 4	Theory and method for self-understanding(1)	Know yourself better by reflecting on your life and telling your own story.
Week 5	Theory and method for self-understanding(2)	Make a presentation on your life story.
Week 6	Theory and method for vocational aptitude	Understand your personality and work environment that fit your job selection
Week 7	Overview of various occupations/jobs	Understand through class discussion that there are various occupations/jobs in society which change as time passes.
Week 8	Human resource management in organizations/companies (1)	Understand characteristics of human resource management in Japanese and other international organizations and their implications for students.
Week 9	Human resource management in organizations/companies (2)	Understand that organizations/companies have their own organizational cultures which impact on their employees.
Week 10	Recruitment activities of Japanese organizations/companies and students' job hunting activities	Understand how Japanese organizations/companies recruit and nurture young employees. Also, understand Japanese SME (small and medium sized enterprises) as job targets.
Week 11	Intercultural Competency	Understand how you can effectively work with/for people with different cultural background and how to develop intercultural competencies.
Week 12	Guest Speaker sessions(1) professors	Listen to the guest speaker session on the career of a university professor engaged in research.
Week 13	Guest Speaker sessions(2) businesspersons	Listen to the guest speaker session on the career of a businessperson working for company.
Week 14	Wrap-up	Review major points students learned in the course and further deepen their understanding through wrap-up Q&A and discussions.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students taking this course should spend two hours each for preparation and review per week.

【テキスト (教科書)】

Handouts will be disseminated by the lecturer for each class.

【参考書】

References will be introduced in class.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be decided based on the following criteria:

- (1) Active class participation: 20%
- (2) Students presentation in class: 40%
- (3) Final writing assignments: 40%

Details will be explained at the first class.

【学生の意見等からの気づき】
N.A.

ART100LA

Elementary Humanities A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

基・人／※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a survey of ancient to medieval Japanese literature. Major literary works are introduced with an emphasis on their literary artistry as well as their historical and cultural importance. Focus is also placed on the unique philosophy that shaped the aesthetic values in Japan throughout the centuries. This topic will be further highlighted by discussing differences in Eastern and Western world views and by introducing Okinawan poetry which displays unique features when compared with classical Japanese poetry.

【到達目標】

1. to learn about major literary works in their historical and cultural context
2. to gain deeper understanding of the different philosophical backgrounds that have influenced the way of thinking in Japan and the West
3. to improve your English vocabulary regarding the topic

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is based on lectures by the instructor featuring the use of written and audio-visual materials. In addition, every student will be required to deliver a class presentation on a given topic, to submit a short written summary of the presentation topic and an essay, and to pass the final exam. The topics for the presentation will be distributed at the beginning of the course.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

This course is in principle a face-to-face course. However, the first lecture will be taught online on Zoom.

Please see HOPP11 for further instructions about how to join our Zoom session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction to course; scheduling of presentations
2.	Historical overview of Japanese literature	Brief overview of major literary works in their historical context with a focus on the <i>Nara</i> and <i>Heian</i> periods

- | | | |
|-----|---|--|
| 3. | Japanese perception of nature, Part 1 | Definition of nature and corresponding terms in Japanese; Japanese love for nature and its various aspects; Japanese vs. Western concepts of nature |
| 4. | Japanese perception of nature, Part 2 | The four seasons as one of the central concepts in Japanese culture and literature; the concept of transformation and change, harmony of <i>yin</i> and <i>yang</i> ; perception of time |
| 5. | Natural images in classical Japanese poetry | Literal and figural meaning of images in Japanese and Western poetic tradition |
| 6. | Key concepts of Japanese aesthetics | Four aesthetic concepts in Japanese culture and literature; demonstration of these concepts in <i>Essays in Idleness</i> by the Buddhist priest Kenkō |
| 7. | Japanese mythology | <i>Records of Ancient Matters (Kojiki)</i> ; Japanese mythology vs. Western ideological concepts (Greek mythology and Christianity) |
| 8. | Japanese poetry, Part 1 | The role of poetry from ancient times through the era of <i>Man'yōshū (Collection of Ten Thousand Leaves)</i> to the flourishing era of imperial poetry anthologies |
| 9. | Japanese poetry, Part 2 | Long and short poetic forms (<i>chōka</i> and <i>tanka</i>); believed to be the first Japanese poem in the fixed form; major themes in classical poetry |
| 10. | Japanese prose, Part 1 | Japanese tales and its various genres; the oldest preserved tale (<i>The Tale of the Bamboo Cutter; Taketori Monogatari</i>) and the collection of poem tales (<i>Tales of Ise; Ise Monogatari</i>) |
| 11. | Japanese prose, Part 2 | Flourishing of women writers in the <i>Heian</i> period with a focus on two prominent figures <i>Murasaki Shikibu</i> and <i>Sei Shōnagon</i> and their works <i>The Tale of Genji (Genji Monogatari)</i> and <i>The Pillow Book (Makura no Sōshi)</i> |
| 12. | Okinawan language and poetry – Introduction | Languages of the Ryūkyū Islands as part of the Japanese language group; language rules in Okinawan poetry <i>ryūka</i> |
| 13. | The world of Okinawan poetry | The oldest preserved collection of old epic songs <i>Omorosōshi</i> ; Okinawan lyrical poetry <i>ryūka</i> |
| 14. | Course wrap up | Submit short summary of presentation topic and essay; final written exam |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1.Prepare a short self-introduction
- 2.Reading: handout on anthology of Japanese literature
- 3.Reading: Asquith 1-35
- 4.Readings: Asquith 36 – 53; handout related to the topic
- 5.Readings: Asquith 54 – 67; handout on Western poetry
- 6.Reading: Keene 3 – 22
- 7.Reading: handout on the *Kojiki*

- 8.Reading: Keene 47 – 69
 - 9.Reading: Keene 25 – 44
 - 10.Readings: Keene 73 – 95; handout on Japanese tales
 - 11.Reading: handout on women's classical prose
 - 12.&13.Reading: text by lecturer on Okinawan language and poetry
 - 14.Submit short summary of presentation topic and essay; final written exam
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. (University guidelines suggest preparation and review should be around four hours a week for a two-credit course.)

【テキスト（教科書）】

Keene, Donald. *The Pleasures of Japanese Literature*. New York: Columbia University Press, 1988.

All other study materials and handouts will be provided by the lecturer.

【参考書】

Asquith, Pamela J. and Arne Kalland, ed. *Japanese Images of Nature*. Richmond: Curzon Press, 1997.

Keene, Donald. *Anthology of Japanese Literature*. Rutland, Vermont & Tokyo: Charles E. Tuttle Company, 1956. Twenty-second edition, 1991.

McCullough, Helen Craig. *Classical Japanese Prose: an Anthology*. Stanford: Stanford University Press, 1990.

Miner, Earl. *An Introduction to Japanese Court Poetry*. Stanford: Stanford University Press, 1968.

Further references related to the topic of each class will be provided by the lecturer.

【成績評価の方法と基準】

Class attendance and oral participation are expected; failure to participate in class will result in the subtraction of marks from the total. Grading criteria: oral presentation and written summary (40%); final examination and essay (60%).

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

【学生が準備すべき機器他】

- Please prepare the designated textbook.
- In case this course needs to switch to online format, it will be taught on Zoom, so students who attend the Zoom session on campus will need to prepare a headset.
- Please check HOPPII for further instructions and details about the course.

【Outline (in English)】

This course is a survey of ancient to medieval Japanese literature. Major literary works are introduced with an emphasis on their literary artistry as well as their historical and cultural importance. Focus is also placed on the unique philosophy that shaped the aesthetic values in Japan throughout the centuries. This topic will be further highlighted by discussing differences in Eastern and Western world views and by introducing Okinawan poetry which displays unique features when compared with classical Japanese poetry.

Goals:

1. to learn about major literary works in their historical and cultural context
 2. to gain deeper understanding of the different philosophical backgrounds that have influenced the way of thinking in Japan and the West
 3. to improve your English vocabulary regarding the topic
- Work for each week:

- 1.Prepare a short self-introduction
- 2.Reading: handout on anthology of Japanese literature
- 3.Reading: Asquith 1-35
- 4.Readings: Asquith 36 – 53; handout related to the topic
- 5.Readings: Asquith 54 – 67; handout on Western poetry
- 6.Reading: Keene 3 – 22

7.Reading: handout on the *Kojiki*
 8.Reading: Keene 47 – 69
 9.Reading: Keene 25 – 44
 10.Readings: Keene 73 – 95; handout on Japanese tales
 11.Reading: handout on women's classical prose
 12.&13.Reading: text by lecturer on Okinawan language and poetry
 14.Submit short summary of presentation topic and essay; final written exam
 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
 (University guidelines suggest preparation and review should be around four hours a week for a two-credit course.)
 Class attendance and oral participation are expected; failure to participate in class will result in the subtraction of marks from the total. Grading criteria: oral presentation and written summary (40%); final examination and essay (60%).

ARSa100LA

Elementary Humanities B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：UK Society & Culture

Richard.J.Burrows

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

基・人／※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulating audio-visual units, together with selected thematically linked readings.

In addition to offering a greater understanding of contemporary UK culture, the course encourages students through the presentation & report to critically compare & contrast UK culture & society with their own.

【到達目標】

During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual material, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up pair-work comprehension questions, discussion & structured conversation practice will also give them the opportunity to improve their oral skills. Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

The previous lesson's reading assignment will be reviewed & discussed before a pair-work preview will introduce the theme for that lesson. Any required vocabulary will be previewed before students view/listen to the material.

Pair-work comprehension questions will allow students to check their own understanding, while a post-viewing discussion will offer more chances to analyze the material. Time permitting, there will be structured conversation practice before outlining the following week's homework.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Overview	Course Introduction
2	Listening & Speaking	Presentation Guidance
3	Listening & Speaking - The Seven Wonders of Britain	The Seven Wonders of Britain - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
4	Listening & Speaking - Wales	Wales - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
5	Listening & Speaking - BBC	BBC - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions

6	Listening & Speaking - The Mini	The Mini - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
7	Listening & Speaking - The Village	The Village - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
8	Listening & Speaking - English Tea	English Tea - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
9	Listening & Speaking - The Purple Violin	The Purple Violin - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
10	Listening & Speaking - Sherlock Holmes	Sherlock Holmes - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
11	Listening & Speaking - Agatha Christie	Agatha Christie - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
12	Listening & Speaking - The Sea	The Sea - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
13	Listening & Speaking - London Taxis	London Taxis - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions
14	Listening & Speaking British Public School	British Public Schools - reading assignment, preview, vocabulary, comprehension questions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Regular reading assignments with both vocabulary exercises & comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation will be required from students each week.

No more than 3 absences will be permitted. The weekly reading assignment, preparatory study and review time for this class are about 4 hours for each week. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None, but students need to download and prepare the required files before each class.

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app will be required at every lesson

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on the following criteria:

Homework & Classwork 40%

Presentation 30%

Report 30%

In principle, no more than 3 absences are permitted

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will be made available online for further study & listening practice.

【学生が準備すべき機器他】

A PC with a reliable internet connection will be needed to download lesson materials each week. In addition, access to a PC in order to prepare a PowerPoint presentation & complete, upload or print the final report

【その他の重要事項】

Please join this class if you have an interest in this topic, a desire to improve your English skills, and are willing to attend classes on a regular basis and submit all homework & other assignments on time.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

This course will seek to introduce the culture & society of contemporary Britain to students through a series of stimulating audio-visual units, together with selected thematically linked readings. In addition to offering a greater understanding of contemporary UK culture, the course encourages students through the presentation & report to critically compare & contrast UK culture & society with their own.

During this course, through regular exposure to a variety of audio-visual material, students will have the opportunity to sharpen their listening skills. Follow-up pair-work comprehension questions, discussion & structured conversation practice will also give them the opportunity to improve their oral skills. Finally students will be encouraged to reflect on their own culture & society as they learn about UK.

Regular reading assignments with both vocabulary exercises & comprehension questions, & audio-visual vocabulary preparation will be required from students each week.

No more than 3 absences will be permitted. The weekly reading assignment, preparatory study and review time for this class are about 4 hours for each week. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Evaluation will be based on the following criteria:

Homework & Classwork 40%

Presentation 30%

Report 30%

In principle, no more than 3 absences are permitted

POL100LA

Elementary Social Science A 2016 年度以前入学者

サブタイトル：Introduction to International Law

SCHIFANO ADRIEN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

基・社／※定員制

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims at introducing basic notions of international law. The first part of the course introduces main subjects of international law and focus in particular on elements of statehood. The second part will discuss how norms of international law are created. Finally, the third part will provide these elements with some dynamism by examining the course of normal relations between States.

【到達目標】

By the end of this course, it is expected that students will have become familiar with:

1. basic notions of international law
2. current international issues
3. functioning of the international system

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Classes will consist in alternating lectures and more practical assignments. Feedbacks on tests will be given during class and on Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Characters of international law / relation with municipal law
2.	Subjects (1)	The State (1): statehood / sovereign government / territory / population / recognition / self-determination / succession
3.	Subjects (2)	The State (2): more on territory / acquisition / the sea / the sky / outer space / servitudes
4.	Subjects (3)	The State (3): more on population / individuals / groups of individuals / Other subjects / Peoples / Belligerents / Insurgents / subjects ad hoc / International Organizations
5.	Subjects (4)	Short test (quiz). Review of the first part of the class. Study of material and documents: the maritime territory of Japan
6.	Norms (1)	General Observations / Formal sources / Art. 38 ICJ statute / Customary law / two elements doctrine / practice / opinio juris / persistent objector / Taxonomy / Principles of International Law
7.	Norms (2)	Treaties / Definition / Taxonomy / Sources of the law of treaties / Conclusion / Entry into force / Good faith / Reservations / Vices of consent / Termination / Contents / Interpretation / Relation to custom
8.	Norms (3)	Other sources / case law / scholarship / municipal law / acts of international organizations / equity / Implementation of international norms / Relations between international and municipal law / dualism / monism / Reciprocity / Counter-measures /

9.	Norms (4)	Short test (quiz). Review of the second part of the class. Study of material and documents: notable case-law
10.	Relations between States (1)	Basic Principles of Contemporary International Law / States jurisdiction / territorial / personal / States immunity from jurisdiction / Sovereign immunities / Diplomatic immunities
11.	Relations between States (2)	Responsibility / Basic mechanism / International responsibility of states / Components / international wrongful act / causal link / damage / Reparation / Exemptions / Other consequences
12.	Relations between States (3)	Law of War / Prohibition of war / Self-defense / Conditions / Pre-emptive self-defense / Collective self-defense / Humanitarian law / the Hague Conventions / the Geneva Conventions and their protocols / War crimes / Crimes against humanity / International criminal court and tribunals
13.	Relations between States (4)	Peaceful settlement of disputes / Taxonomy / Negotiation / Good offices, mediation, conciliation / Arbitration / Permanent Court of Arbitration / Judicial Settlement / International Courts / UN Charter / UN dispute settlement system / Security Council / General Assembly / International Court of Justice / ICJ jurisdiction and States
14.	Final test	Written examination & Summary

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

As a preparation for each class, students will be assigned some readings from the textbook. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

Acquisition of the following textbook is recommended:

LOWE, Vaughan, "International Law: A Very Short Introduction" (2015; Oxford University Press) 144 pages, ISBN 13: 978-0199239337

This textbook is also available as an ebook.

【参考書】

www.un.org

Jan KLABBERS, International Law, 2nd ed. (2017; Cambridge, Cambridge University Press), ISBN: 9781316506608

Malcolm SHAW, International Law, 8th ed. (2017; Cambridge, Cambridge University Press), ISBN: 9781316638538

【成績評価の方法と基準】

Participation in class and short tests: 50%

Final examination (to be held during the test period): 50%

【学生の意見等からの気づき】

Course contents and slides updated.

【学生が準備すべき機器他】

Some paper and a pen.

【その他の重要事項】

Students can contact the instructor at: adrien.schifano.58@hosei.ac.jp

In accordance with Hosei University policies, this course will be held face-to-face. The first class will be held online, following the same guidelines.

POL100LA

Elementary Social Science B 2017 年度以降入学者

サブタイトル: Basic Legal Concepts

SCHIFANO ADRIEN

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

基・社/※定員制

他学部公開: グローバル: ○ 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course will provide students with a rough picture of law. It does so by introducing basic legal concepts.

The first part of the course introduces two main faces of law: justice and order. The second part focuses on the components of a legal order, which are mainly subjects and norms. The third and last part deals with the notion of legal relations, which are either horizontal or vertical in nature.

【到達目標】

By attending this course, students will be able to:

- understand basic legal concepts,
- build a foundation for studying more specialized fields of law,
- acquire basic legal knowledge that will complement their studies in other fields,
- handle better daily life situations by acquiring a feeling of what is legally correct and what is not, which will hopefully help them to remain free from abuses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

The course will introduce one new concept each week. In so doing, the class will consist in lecture and discussion. In addition, the course will rely on studying excerpts from classical works. Practice for this course will consist in text commentaries. Feedback by peers and the instructor on these assignments will be given in class.

The course follows a progression so that each class is dependent on previous classes; hence, students may find it easier to follow classes if they have consistent attendance.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Rationale for the course and overview / Law, what? / Legal science, what? / Panorama of modern law / Methodology
2.	Justice	Suum cuique / Justice, what? / Equality, what? / Contemporary approaches
3.	Legal order (1): Forms of government	Legal order, what? / Typology / Social functions / Constitution, what? / Horizontal distribution of powers / Legislative, what? / Executive, what? / Judiciary, what?
4.	Legal order (2): Forms of state	Vertical distribution of power / Federalism and its rules / Classification / Changes in power and constitutional change
5.	The Subject of Law (1): Personality	Subject of law, what? / Equality, how? / Typology / Issues
6.	The Subject of Law (2): Capacity	Capacity, what? / Capacity v. rights / Variations of legal capacity / Guardianship / Agency / Delegation
7.	The Norm (1): Validity	Norm, what? / Typology / Formal sources / Sphere of validity
8.	The Norm (2): Legal System	Set of norms, what? / Hierarchy / Classification / Relations among norms
9.	The Legal Relation	Legal relation, what? / Rights / Obligations / Powers / Typology

10.	Horizontal Relations (1): Agreement	Agreement, what? / Contract, what? / Basic principles / Forms / Contents
11.	Horizontal Relations (2): Responsibility	Responsibility, what? / Evolution / Typology / Civil responsibility / Components / Basic principles / Procedures
12.	Vertical Relations (1): Public order	Public order, what? / Authority / Police / Criminal responsibility / Offense, what? / Basic principles / Procedures
13.	Vertical Relations (2): Public interest	Public interest, what? / Public service, what? / Basic principles / Procedures, issues
14.	Human Rights Conclusion	Human rights, what? / History / Typology / Protection at several levels / Enforcement

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are strongly encouraged to read the material for each class beforehand. Homework will be (moderately) requested. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

No textbook will be used. Students will be provided with the material necessary for each class.

【参考書】

Jaap HAGE and Bram AKKERMANS (editors) *Introduction to Law* (2014, Springer)

【成績評価の方法と基準】

Participation in class (including homework and discussion): 40%

Presentation (number of presentations per student will depend on the number of students attending the course): 60%

【学生の意見等からの気づき】

Material for the class has been reviewed.

【学生が準備すべき機器他】

A pen and some paper might prove useful.

【その他の重要事項】

Students can contact the instructor at: adrien.schifano.58@hosei.ac.jp
In accordance with Hosei University policies, this course will be held face-to-face. The first class will be held online, following the same guidelines.

【Outline (in English)】

This course will provide students with a rough picture of law. It does so by introducing basic legal concepts.

The first part of the course introduces two main faces of law: justice and order. The second part focuses on the components of a legal order, which are mainly subjects and norms. The third and last part deals with the notion of legal relations, which are either horizontal or vertical in nature.

MAT100LA

Elementary Mathematics A 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed for students who need calculus to study business, economics, or other related business majors. In particular, the course will review the basic ideas you need to start calculus. The topics include exponential and logarithmic functions, arithmetic and geometric sequences, graphing basic functions, graphing exponential and logarithmic functions, limit of a sequence, limit of a function.

【到達目標】

At the end of this course, students will demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries 1
02.	Basics and Key Terms	Preliminaries 2
03.	Exponential Functions	Functions and Graphs 1
04.	Logarithmic Functions	Functions and Graphs 2
05.	Graphing Basic Functions	Functions and Graphs 3
06.	Shifting and Stretching Graphs	Functions and Graphs 4
07.	Inverse Functions	Functions and Graphs 5
08.	Graphing Exponential Functions	Functions and Graphs 6
09.	Graphing Logarithmic Functions	Functions and Graphs 7
10.	Composite Functions	Functions and Graphs 8)
11.	Arithmetic and Geometric Sequences	Limits 1

12. Sigma Notation and Limits 2
Sequences of Differences
13. Limit of a Sequence Limits 3
14. Limit of a Function Limits 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Solve the problems of the exercises well. Think by writing on a paper.

【テキスト（教科書）】

You don't need to buy a text book. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

【参考書】

You don't need to prepare references.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

【学生の意見等からの気づき】

Not offered until the last fiscal year for the new subjects

【Outline (in English)】

We study some properties of functions and try to solve problems related them.

MAT100LA

Elementary Mathematics B 2016 年度以前入学者

サブタイトル：

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【成績評価の方法と基準】

Final exam (approximately 2/3) and the homework submission (approximately 1/3)

【学生の意見等からの気づき】

Not offered until the last fiscal year for the new subjects

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a calculus course intended for those studying business, economics, or other related business majors, and a continuation of topics from “Elementary Mathematics II”. The following topics are presented with applications: derivatives, differentiation rules, derivative of an exponential function and logarithmic function, higher-order derivative, Taylor and Maclaurin series, integrals.

【到達目標】

Students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP3、人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

The expected learning outcomes for the course will be assessed through graded activities and ungraded activities. The graded activities include exams, homework and quizzes. It is strongly recommended that students work all those problems since homework and test score are used to determine your grade. The ungraded activities will be used to monitor your progress.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01.	Introduction	Preliminaries
02.	The Derivative and the Slope of a Graph	Differentiation: Basic Concepts 1
03.	Some Rules for Differentiation	Differentiation: Basic Concepts 2
04.	The Product and Quotient Rules	Differentiation: Basic Concepts 3
05.	The Chain Rule	Differentiation: Basic Concepts 4
06.	Derivatives of Exponential Functions	Differentiation: Basic Concepts 5
07.	Derivatives of Logarithmic Functions	Differentiation: Basic Concepts 6
08.	Higher-order Derivatives	Differentiation: Basic Concepts 7
09.	Extrema and the First-Derivative Test	Additional Applications of the Derivative 1
10.	Concavity and the Second-Derivative Test	Additional Applications of the Derivative 2
11.	The Mean Value Theorem, Taylor's Theorem	Additional Applications of the Derivative 3
12.	Taylor and Maclaurin Series	Additional Applications of the Derivative 4
13.	Approximate Values	Additional Applications of the Derivative 5)
14.	Antiderivatives, Differential Equation	Additional Topics 1

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Solve the problems of the exercises well. Think by writing on a paper. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

You don't need to buy a textbook. When you learn more, respectively serve as a reference if it is rudimentary or a book on the theme of preparation for its calculus.

【参考書】

You don't need to prepare references.

BSP100LA

基礎ゼミ I (文・哲)

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学での学びにおいて必須となる、レポートや論文を書くための基本的なスキルを身につける。

【到達目標】

- ①必要文献を適切な方法で収集できる。
- ②文献を適切に要約できる。
- ③文献の主張にたいして自説を適切に展開できる。
- ④従うべき形式に従い、レポートや論文を書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義の回とグループワークの回がある。ほぼ毎回課題が出る。受講者がその課題をやっていることが授業の前提となる。適宜下記の教科書を使用するが、必ずしも教科書に沿って授業を進めるわけではない。課題へのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要の説明
第 2 回	文献収集	図書館ガイダンスを利用してやり方を学ぶ
第 3 回	文献要約と問題提起①	やり方を学ぶ
第 4 回	文献要約と問題提起②	実際にやってみる
第 5 回	文献収集と自説の強化①	やり方を学ぶ
第 6 回	文献収集と自説の強化②	実際にやってみる
第 7 回	レポートや論文の基本①	レポートや論文の構成を学ぶ
第 8 回	レポートや論文の基本②	引用や文献表の書き方、執筆上の倫理について学ぶ
第 9 回	レポートや論文の書き方①	第一稿の検討
第 10 回	レポートや論文の書き方②	第一稿の検討の続き
第 11 回	レポートや論文の書き方③	第一稿についての講評
第 12 回	レポートや論文の書き方④	第二稿の検討
第 13 回	レポートや論文の書き方⑤	第二稿の検討の続き
第 14 回	レポートや論文の書き方⑥	第二稿についての講評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。授業で指示される課題を必ずこなして授業に参加すること。

【テキスト (教科書)】

河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第 4 版』慶應義塾大学出版会、2018 年

【参考書】

必要に応じて授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業での取り組みが 60%、最終的に提出するレポートが 40%。上記の「到達目標」がどれだけ達成されているかに応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

議論の深まりと授業の進行速度のバランスを取るよう心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with how to write a term/research paper.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to learn how to write a term/research paper.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and term-end report (40%).

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・哲）

2017 年度以降入学者

佐藤 真人

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の文章を読解し、それについて書き、発表し、さらに考える、という一連の作業を、デカルトの『方法序説（叙説）』を使用して行います。

大学で自主的に学び、哲学的に考えるための力を養い、基礎ゼミⅠで学んだことを実践するのがこの授業の目的です。

【到達目標】

- ① 哲学の文章を丁寧に読み解くことができる。
- ② 問題について考え、調べ、自分の言葉で論理的に書いて発表することができる。
- ③ 他者との議論を通じて理解と考察を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部: DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを読み進めていき、内容（語句の意味や概要、背景、前後の文脈とのつながり、問題点など）について議論します。具体的な手順は以下の通り。

- ① 発表担当は、該当箇所についての発表レジュメを作成。発表は、個人かグループワークで行います（受講者の人数次第）。
- ② 全体での質疑応答と討論
- ③ 教員のコメント
- ④ 当日の考察や疑問点をリアクション・ペーパーに書いて提出（優れたものは翌週の授業で共有し、回答をフィードバックする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要や今後の進め方の説明、発表の仕方、グループ分け等
第 2 回	『方法序説』第一部	発表と議論、コメント
第 3 回	『方法序説』第一部	発表と議論、コメント
第 4 回	『方法序説』第二部	発表と議論、コメント
第 5 回	『方法序説』第二部	発表と議論、コメント
第 6 回	『方法序説』第三部	発表と議論、コメント
第 7 回	『方法序説』第三部	発表と議論、コメント
第 8 回	『方法序説』第四部	発表と議論、コメント
第 9 回	『方法序説』第四部	発表と議論、コメント
第 10 回	『方法序説』第五部	発表と議論、コメント
第 11 回	『方法序説』第五部	発表と議論、コメント
第 12 回	『方法序説』第六部	発表と議論、コメント
第 13 回	『方法序説』第六部	発表と議論、コメント
第 14 回	まとめ	全体の議論と総括、補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者全員が授業で扱う箇所を丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめ、次回授業に備えてください。発表担当者（個人またはグループ）は、発表用のレジュメを作成・配布すること。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デカルト『方法叙説』（小泉義之訳）、講談社学術文庫。

【参考書】

デカルトの参考書は数多くありますが、まずは参考書に頼らず、『方法序説（叙説）』を丁寧に読み取ることから始めてください。そのうえで、テーマに関連する参考書を各自で探すこと（参考書については授業でも言及しますが、参考書を自身で探すことも大学の学習の一つです）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小レポートやリアクション・ペーパー、参加姿勢など）35%、発表 35%、期末試験・レポート 30%、の割合とします。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考と議論を促す授業を心がけます。

【Outline (in English)】

We will use Descartes' *Discours de la méthode* to carry out a series of academic and philosophic studies: read philosophical texts, write about them, present them, and think further and deeper. The purpose of this course is to cultivate the basic ability to learn, think and write by oneself at university, and to practice what we have learned in Basic Seminar I.

Students are expected by the end of the course to read and understand by themselves Descartes' text, to construct their arguments logically through readings, searchings and discussions, and to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Group or individual in charge of presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 35%, Presentation: 35%, Term-end examination or report: 30%.

BSP100LA

基礎ゼミ I (文・哲)

2017 年度以降入学者

奥田 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、大学に入学してからの授業の受け方・勉強方法、とくにレポートや論文の書き方・心得ておかなければならない技術について学び、その練習をします。

【到達目標】

大学での授業の受け方、とくにレポート、論文の書き方、資料収集の方法等を習得し、自分で実践することができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書として『レポート・論文の書き方入門』（第4版）を使用しながら、【到達目標】に記した目標を念頭において、授業で修得すべきことを説明する。そして授業の回ごとに、学んだことを実際に練習する。授業内の練習をとおして履修生に必要なフィードバックを行なうが、提出物によるものは次回にその問題点等を説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	大学で何をどのように学か 大学、大学生活、大学の授業・勉強
第 2 回	研究倫理 授業の理解、ノートとメモ	研究倫理の理解 何を学んでいるのか ノートとメモ
第 3 回	読み、書く テキスト批評	何をどのように読み、どのように書くのか
第 4 回	資料の調査	資料の探し方 図書館と図書館の利用法
第 5 回	読むトレーニング テキスト批評	読んでみて、何を読んだのか考 える
第 6 回	書くトレーニング テキスト批評	読んでみて、何を読んだのか書く
第 7 回	論文の要件と構成	レポートと論文の違い 論文の構成要素
第 8 回	テーマと論述	テーマとは テーマ設定の練習 論述の構成
第 9 回	論文の体裁	引用、注、文献表などの必要性和 その意味 練習
第 10 回	文章について 1	さまざまな文章とその優劣 実技
第 11 回	文章について 2	書くことは考えることである よ い文章とは 実技
第 12 回	レポート	実技
第 13 回	小論文	実技
第 14 回	まとめ	期末レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
自分で読み書きの練習をし、課題に対する提出物を準備すること。

【テキスト（教科書）】

『レポート・論文の書き方入門』（第4版）慶応義塾大学出版会 1,000 円＋税

【参考書】

授業の中で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」に記した内容の到達度に照らして、① 数回の課題提出物の内容 (40%) ② 期末レポートの内容 (60%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

時間を空けて担当する科目なので、なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

第4回の授業で図書館の利用法を扱う。実際に図書館の館員に図書館の説明、利用法などの説明を受ける。ただし、図書館の事情により日程は変更になる可能性もある。日にちの変更は授業内、Hoppiiのお知らせで知らせる。

【Outline (in English)】

(Course outline) The aim of this course is to help students acquire literacy and technique of reading, writing and gathering material.

(Learning Objectives) The goals of this course are to acquire literacy and technique of reading, writing and gathering material.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination (50%), and in-class contribution(50%).

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（文・哲）

2017 年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理的に考え、哲学を学び、論文・レポートを書くための基礎的な事柄を学ぶ。大きくは (1) 論理、(2) 知識、(3) 自我、(4) 行為、に関する哲学的に基本的な事柄を取り上げる。そして最後に論文・レポートの書き方について学び、レポート作成を実践する。これにより、大学で論理的・哲学的に考えるための基礎力をつける。

【到達目標】

- (1) 「矛盾」と「反対」とを区別でき、「矛盾」が理解できる。
- (2) 「分析判断」と「総合判断」の特性を理解できる。
- (3) 「必要条件」と「十分条件」が理解できる。
- (4) 「思想」と「事実」と「言語」の関係について理解できる。
- (5) 「唯名論」対「實在論」、「唯物論」対「観念論」が理解できる。
- (6) 物や人格の「同一性」の諸相について理解できる。
- (7) 「物体」の性質の諸相について理解できる。
- (8) 自我の「明証性」について理解できる。
- (9) 「人格」や「主観」、「客観」について理解できる。
- (10) 「道徳的価値」について理解できる。
- (11) 「黄金律」と「定言命法」について理解できる。
- (12) 「決定論」と「自由」について理解できる。
- (13) 論文・レポートの作成についての心得る。
- (14) 実際に問題や課題を立てて、適切なレポートが書ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) 授業の始めに前回の課題についての復習（フィードバック）。
 - (2) 次にプリント教材の内容と課題についての解説。
 - (3) その後に授業の課題についてグループワークを行う。
- （※授業後に「授業支援システム」で課題についての小作文を提出。小作文集（パスワード付 PDF）をゼミ内で共有する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	(1) 授業の進め方 (2) 真・善・美 (3) 自我 テキスト：16, 27 頁
第 2 回	矛盾	(1) 「矛盾」の由来 (2) 矛盾と同一性 (3) 「矛盾」の定義 テキスト：29, 33, 37 頁
第 3 回	分析判断、総合判断 （※矛盾律、必要条件）	(1) 矛盾律 (2) 分析判断・総合判断 (3) 必要条件 テキスト：42-44, 83 頁
第 4 回	思想・事実・言語 （※矛盾と反対）	(1) 事実と概念 (2) 概念と言語 (3) 反対対当 テキスト：46-50, 53-56 頁

第 5 回	唯名論 vs. 實在論 （※必要十分条件）	(1) 必要十分条件 (2) 唯名論（ノミナリズム） (3) 総体および皆無の原理 テキスト：76-81, 83-86, 93, 236 頁
第 6 回	同一性の諸相	(1) 感覚 (2) 判断・推理 (3) 物の同一性 テキスト：98, 102-115 頁
第 7 回	物体と懷疑	(1) 一次性質と二次性質 (2) 感覚知覚への疑い (3) 算術・幾何学への疑い テキスト：118-120, 126-130 頁
第 8 回	自我の明証性	(1) 私は存在する (2) 私は考える (3) 明証的な知覚 テキスト：132-136, 141-142 頁
第 9 回	人格および主観、客観	(1) 私はあるが、誰でもない？ (2) 人格（ペルソナ） (3) 主観的と客観的 テキスト：157-172 頁
第 10 回	行為の道徳的価値	(1) 善意志 (2) 意図の選択 (3) 道徳的価値 テキスト：177-181 頁
第 11 回	黄金律と定言命法	(1) 隣人愛 (2) 無制限に善い意志 (3) 定言命法と黄金律 テキスト：182-183, 186-187, 190-191 頁
第 12 回	決定論と自由	(1) 「である」と「べきである」 (2) 決定論 (3) 心情と結果 テキスト：215-219, 223-228 頁
第 13 回	レポートの心得	(1) 主題 (2) 資料収集 (3) 導入部を書く (4) アウトライン (5) 文章マナー
第 14 回	レポートの実践	課題を設定し、レポートを書く

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備：「学習支援システム」で事前に配布された教材プリント PDF で授業内容を把握しておく。（ゼミでは、さらに理解や考えを深める。）
復習：授業後に「学習支援システム」で課題の小作文を提出する。その後に「学習支援システム」に掲載されるゼミ小作文集（パスワード付 PDF）により復習する。

【テキスト（教科書）】

ラインハルト・ブランド著『哲学 ひとつの入門』（理想社）

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に掲げられている各回の課題に関して次の観点から評価する。

- (1) 毎回のゼミへの参加態度と課題小作文の評価（70 %）
- (2) セメスター末のレポート作文の評価（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

授業では、聞き取りやすい発声を心がける。
授業で課題となるポイントを的確に伝える。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

Students will learn the fundamentals of thinking logically, studying philosophy, and writing papers and reports. We will cover the basic philosophical issues of (1) logic, (2) knowledge, (3) ego, and (4) action. Finally, we will learn how to write papers and reports, and practice writing them. In this way, students will acquire the basic skills to think logically and philosophically at university.

[Learning Objectives]

- (1) To be able to distinguish between "contradiction" and "opposition" and understand "contradiction".
- (2) To understand the characteristics of "analytical judgment" and "synthetic judgment".
- (3) To be able to understand "necessary conditions" and "sufficient conditions".
- (4) To understand the relationship between "thought", "fact" and "language".
- (5) To understand "nominalism" versus "realism" and "materialism" versus "idealism".
- (6) To understand the various aspects of the "identity" of objects and of personalities.
- (7) To be able to understand the various aspects of properties of "objects".
- (8) To understand the "evidentiality" of the ego.
- (9) To understand "personality", "subjectivity" and "objectivity".
- (10) To understand "moral value".
- (11) To be able to understand the "Golden Rule" and "Categorical Imperative".
- (12) To be able to understand "determinism" and "freedom".
- (13) To be able to understand how to write papers and reports.
- (14) To be able to actually formulate a problem or issue and write an appropriate report.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is each 2 hours.

Preparation: Understand the content of the class in the printed PDF materials distributed in advance via the "Learning Support System". (In the seminar, we will further deepen our understanding and ideas.)

Review: After the class, submit the assigned essay via the "Learning Support System". Review: After the class, submit the assigned small essay on the "Learning Support System" and review it using the collection of the seminar small essays (PDF with password) posted on the "Learning Support System".

[Grading Criteria / Policy]

Depending on the achievement of the objectives, the following will be assessed

- (1) Attitude toward each seminar and evaluation of small essays (70%)
- (2) Evaluation of the essay or report at the end of the semester (30%)

BSP100LA

基礎ゼミ I (文・英文)

2017 年度以降入学者

福元 広二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目 (ゼミナール) ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方
第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第 1 回目	グループによる調査・発表 1
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第 2 回目	グループによる調査・発表 2
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第 3 回目	グループによる調査・発表 3

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつと教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した3点を総合的に評価します〔授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%〕。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

* 英文学科 1 年生は必ず履修してください。

* コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100LA

基礎ゼミ I (文・英文)

2017 年度以降入学者

田中 裕希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート (essay) の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。

各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方

第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第 1 回目	グループによる調査・発表 1
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第 2 回目	グループによる調査・発表 2
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第 3 回目	グループによる調査・発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した 3 点を総合的に評価します〔授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%〕。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

- * 英文学科 1 年生は必ず履修してください。
- * コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・英文）

2017 年度以降入学者

小島 尚人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方

第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第 1 回目	グループによる調査・発表 1
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第 2 回目	グループによる調査・発表 2
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第 3 回目	グループによる調査・発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した 3 点を総合的に評価します [授業参加状況 30%, 授業内提出物・発表 70%]。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

- * 英文学科 1 年生は必ず履修してください。
- * コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・英文）

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「基礎ゼミ」は、大学における 1 年次の導入科目です。高校までの学習と大学での学習の違いを理解してもらい、ノートの取り方、プレゼンテーションの仕方、レポート（essay）の書き方、資料の集め方などを教授することで、法政大学において、皆さんが効率よく学ぶ手助けをするのがこの授業の目的です。これらの基礎的な知識や技術を早く身につけられるように、多岐にわたるテーマを春学期の 1 セメスターで完結させるように工夫がなされています。

【到達目標】

- ・大学生の基本姿勢として、高校までの受け身学習の「生徒」から大学で能動的に学ぶ「学生」への変身を促し、学生生活の基盤を築く。
- ・大学での学習に必要な基本的技術——ノートをとる技術、質問する技術、資料を読解する技術、資料を要約する技術、レポートを書く技術、プレゼンテーションする技術など——を習得する。
- ・社会人になる前に、大学生としてどのような能力を身につけておくべきか、そしてそのためにどのような学習が必要なのかを考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

1 年次の学生全員を 4 クラスに編成します。演習科目（ゼミナール）ですので、教員の講義に加えて学生による授業参加やプレゼンテーションも組み合わせた授業を行います。制度上、必修単位には組み込まれていませんが、これから大学で様々な授業を受ける際の前提となる内容ですので、英文学科 1 年生は全員履修してください。

4 クラスに分け、各クラスを金曜の 1 限、2 限、3 限のいずれかに配置します。クラス分けについては、新入生オリエンテーション時に発表し、その後、Web 掲示板に名簿を掲示します。クラスによって時限・教室・授業コードが異なるので、必ず履修登録前に自分の所属クラスを確認してください。各回の授業後に受講生からの質問を受け付け、主要なものについて次回授業の最初にフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Study at Hosei and Introduction	ガイダンス：法政大学での学びの方法
第 2 回	Note Taking	講義ノートの取り方
第 3 回	Library Tour	図書館の使い方
第 4 回	Text Reading	文献の読み方と文献調査体験
第 5 回	Academic Writing 1	レポートの書き方 - 学術的文章を書くこと
第 6 回	Academic Writing 2	アウトラインの作成 - グループ・ワークの試み
第 7 回	Academic Writing 3	注と文献表の作成 - 他人の文章を引用するルール
第 8 回	Critical Thinking 1	テーマを立てるということ
第 9 回	Critical Thinking 2	問題設定の仕方と論旨の展開
第 10 回	Summarizing	要約の仕方とグループ発表の準備
第 11 回	Presentations 1	プレゼンテーションの仕方

第 12 回	Presentations 2: Group Presentations, 第 1 回目	グループによる調査・発表 1
第 13 回	Presentations 3: Group Presentations, 第 2 回目	グループによる調査・発表 2
第 14 回	Presentations 4: Group Presentations, 第 3 回目	グループによる調査・発表 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業ごとに、その日に学んだ授業内容の復習をします。各回に出される課題は必ず提出する。グループ発表への参加と期末レポートの提出は必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援パンフレットや配布プリントや図書館パンフレット等の資料を使用します。

【参考書】

必要に応じて、そのつど教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、レポート、授業内発表、小テスト）から到達目標欄に記載した 3 点を総合的に評価します〔授業参加状況 30%、授業内提出物・発表 70%〕。

【学生の意見等からの気づき】

学生の能動的学習の要素をより充実させていく。

【その他の重要事項】

- * 英文学科 1 年生は必ず履修してください。
- * コロナの状況によっては授業形態が変更になる可能性があります。

【Outline (in English)】

"Basic seminar" introduces first year students to college education at Hosei University. The course is designed to help students transition from high school to college, from passive learning to active learning. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. They are also required to participate in group presentations and submit final papers. Grades will be determined based on participation (30%) and in-class assignments / presentations (70%).

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・史）

2017 年度以降入学者

小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までの受け身の学習を脱し、大学生として必要な学習上の心構えと技術を身につける。大学での学習においてはレポート・論述試験・ゼミ発表など、自主的に学び、かつ自分の言葉で表現することが求められる。これらに主体的に向きあい、大学生としてふさわしい学習方法について検討・実践していく。

【到達目標】

大学生としての授業への参加方法を理解する。

論説文の読み方と要約方法が身につく。

資料の集め方、レポートの書式と執筆方法、発表資料の作成方法を習得する。

ゼミ発表の方法を実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めていくが、授業中に出るさまざまな課題に取り組み、大学の授業への向き合い方を考える授業とする。各回のテーマにもとづく意見交換・討論・発表・レポートなどを通じて授業内容を共有することになる。

レポート等のフィードバックについては授業内に行くかオフィス・アワー（月曜 5 限）で対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の概要説明
第 2 回	ノートの作り方 1	学習計画と大学の授業形態
第 3 回	ノートの作り方 2	役立つノートとは何か
第 4 回	テキスト・論文の読み方 1	一般的な文章と論説文の違い
第 5 回	テキスト・論文の読み方 2	論説文を読み込む
第 6 回	要約の方法 1	要約とは何か
第 7 回	要約の方法 2	要約の実践
第 8 回	要約からの展開	自分の意見を述べる準備
第 9 回	図書館の利用と情報検索	図書館実習
第 10 回	レポートを書く 1	レポートの書式
第 11 回	レポートを書く 2	レポートの内容
第 12 回	レジュメの作り方 1	レジュメの書式
第 13 回	レジュメの作り方 2	レジュメの内容・ゼミ発表の心構え
第 14 回	成果提出と講評	レポート提出と講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ともテキストを事前に読んでおくこと。レポート等の課題には必ず対応すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）2006『大学基礎講座 改増版』北大路書房（税込 2,052 円）

【参考書】

歴史学関係の文献等は授業中に紹介する。授業内ではプリント等も利用する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度）：30 % 授業内課題への取り組み：30 %
 期末レポート：40 %

ただし、3 回以上の連続欠席者および出席率 70 % 未満のものは自動的に単位を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大学での学業を修めるためには授業内外における多様な課題に応えながら、自らを高めていく必要がある。この授業では多くの場面を通じて大学生として必要な姿勢と技術について伝えることにしたい。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to develop the necessary learning attitudes and skills for college students.

Students will understand how to participate in class. Students will learn how to read and summarize an editorial.

Students will learn how to gather materials, write reports, and make presentations.

The standard preparation and review time by students is 2 hours each.

The final grade will be determined by the normal score (30%), in-class assignments (30%), and the final report (40%).

However, students who are absent more than three times in a row or whose attendance rate is less than 70% will receive a grade of D.

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・史）

2017 年度以降入学者

宇都宮 美生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で学ぶために必要な講義の受講法、参考書の検索、本の読み方、レジュメの作り方、演習での発表、討論の技法などを習得する。

【到達目標】

講義を聴いてその内容を理解するために必要なメモの作成、不明な点の調査、自分なりの理解をさらに発展させるための文献等資料検索の技法などを身につけることができる。自分の考えを口頭で、あるいは文書等で発信する方法を体験しながら学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大学の講義、あるいは演習がどのようなものかという説明と講義を聴き、演習に参加するために身につけておくことが望ましい技法の紹介、さらにその技法を各自がやってみるによって身につけるための実習を組み合わせる。参加者はレジュメを作成して、授業で発表し、参加者全員で議論する。授業中の発表で指摘されたことを修正し、完成したものを最後に提出する。各授業の始めに前回の授業の内容を振り返り、授業の最後にその日学習したことについてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容と進め方 講義の受け方 発表分担の割り振り 発表の仕方（紙媒体とパワーポイント、教員による見本）
第 2 回	工具書の紹介	辞書、用語集、地図集、ネットでのデータベースなどの利用の仕方 レポート・レジュメの書き方 1
第 3 回	図書館の利用の仕方	参考文献の調べ方 他の図書館の利用の仕方 レポート・レジュメの書き方 2
第 4 回	発表 1	第 1 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 5 回	発表 2	第 2 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 6 回	発表 3	第 3 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 7 回	発表 4	第 4 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 8 回	発表 5	第 5 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 9 回	発表 6	第 6 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 10 回	発表 7	第 7 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 11 回	発表 8	第 8 グループの担当者の発表とそれに対する議論
第 12 回	発表 9	第 9 グループの担当者の発表とそれに対する議論

第 13 回 発表 10

第 10 グループの担当者の発表と
それに対する議論

第 14 回 学習のまとめ

学習のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は詳しいレジュメとパワーポイントファイルを作成する。
授業で指摘された部分を修正し、完成したものを提出する。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用する資料は授業で配布する。

【参考書】

授業中に随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」欄に記載した内容を評価基準として、下記 2 つの面で総合的に評価する。

発表内容と完成レジュメ（50 %）

- ・テーマについて適切に発表する。
- ・最後に完成レジュメを提出する。

授業中の発言や参加姿勢（50 %）

- ・発表者は必ず出席し、やむをえない理由で欠席する場合は、他の発表者とスケジュールを調整し、必ず発表する。
- ・他人の発表において指摘された改善点を、自分の発表で繰り返さないようにする。
- ・参加者は質問・意見について必ず発言する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

発表担当の際には必ずレジュメを人数分印刷し、配布すること。なお、当日の印刷のために授業に遅刻することは認めない。自宅または学内でパワーポイントの使用を求める。

【担当教員の専門分野等】

中国史（都城史、水利史、交通史）、日中交流史

【事務への連絡事項】

パワーポイントを使用するため、プロジェクター等機器設備のある教室を希望します。
パソコンの貸し出しも希望します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to achieve a better performance in their university studies through reading various academic articles in respect with history.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each meeting (50%) and presentation & term-end report (50%).

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・史）

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びに必要な技法や思考法を学ぶ。情報のインプット、整理、アウトプットについての基本的なスキルとともに、学術的議論の仕方などを実践的に身につける。

【到達目標】

- ・講義、文献、オンライン資料などから必要な知識や情報を収集し、理解し、自分なりの言葉で表現することができる。
- ・口頭発表や論文の形式で自分の考えを論理的、説得的に発表できる。
- ・議論を通じて多様な意見や価値観を尊重する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式と演習形式を組み合わせる授業を行う。教員は授業テーマに関する基本事項の解説を行い、受講生はそれを実践することを通じて大学での学びに必要なスキルや思考法を身につける。受講生による発表や議論の機会を多く設けたい。加えて、図書館やデータベースの使い方についての講習や、キャリアガイダンスなども実施する予定である。課題等についてのフィードバックは、授業時間内か次の授業において行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	ノート・テイキング	講義の聞き方とノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	読書（1）：批判的に文章を読む	本や論文を批判的に読むことを学ぶ。
第 4 回	読書（2）：情報の整理	読書から得られる情報を整理し記録する方法を学ぶ。
第 5 回	大学図書館の使い方	大学図書館の使い方や活用方法を学ぶ。
第 6 回	オンライン資料の利用法	オンラインデータベースやウェブサイトを通じた情報収集の方法および注意点を学ぶ。
第 7 回	論文・レポートを書く（1）：準備	論文やレポートを書くときの基本的姿勢とルールを学ぶ。
第 8 回	論文・レポートを書く（2）：ピア・レビュー	レポートの草稿を受講生どうしで批評したり議論したりすることで課題と改善点を学ぶ。
第 9 回	プレゼンテーション（1）：準備	プレゼンテーション（口頭発表）の基本ルールと発表に必要な資料（レジュメ、スライド）の作成方法を学ぶ。
第 10 回	プレゼンテーション（2）：実践①	テーマ A を選んだ受講生がプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。
第 11 回	プレゼンテーション（3）：実践②	テーマ B を選んだ受講生がプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。

第 12 回	プレゼンテーション (4) : 実践③	テーマ C を選んだ受講生がプレゼンテーションを行い、フィードバックを受ける。
第 13 回	キャリアガイダンス	講義を聴きながら自身のキャリア形成について考える。
第 14 回	まとめ	授業の内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業テーマに関する課題を出す予定である。プレゼンテーションの準備やレポートの執筆にも取り組む必要がある。よって、本授業の準備学習・復習には、各 2 時間は必要である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントや資料を配付する。

【参考書】

佐藤望編著、湯川武ほか著『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』（第 3 版）慶應義塾大学出版会、2020 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：30 %
- ・プレゼンテーション：30%
- ・期末レポート：40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度に初めてこの授業を担当するのでフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course aims to offer basic academic skills required for university students.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to gather effectively key knowledge and information from lectures, academic literature and online sources, and organise it in constructive ways.
- 2) Students are able to present their ideas logically and convincingly in oral and written forms.
- 3) Students are able to respect diversity of opinions through discussion with fellow students.

< Learning activities outside of classroom >

Students are required to work on various assignments outside of classroom, which include preparation for oral presentation and writing academic essays. Consequently they have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Oral presentation: 30% Final essay: 40%

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・史）

2017 年度以降入学者

内藤 一成

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学習から学問へ、生徒から学生へ。大学生は、それにふさわしい専門的な能力を身につけなければならない。本授業では、具体的な事例を紹介したり、実践を取り入れるなどしながら能力の涵養をはかっていく。

【到達目標】

①講義におけるノートの取り方、②学術論文を読み込む能力、③必要な資料や情報を集め、考察する能力、④調べた内容を発信する能力、など大学生として必要な基本的能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義・演習方式とする。板書とパワーポイントを併用させる。後半にはグループによるレジュメ・パワーポイントを用いた発表を行う機会を設ける。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	学びの場としての法政大学について、授業の進め方と「学問」に対する基本的な心構えについて
第 2 回	ノートの取り方	講義でのノートの取り方を学ぶ
第 3 回	研究論文の読み方（1）	研究論文の形式を理解する
第 4 回	研究論文の読み方（2）	情報の取り出し方を学ぶ
第 5 回	キャリアガイダンス	自己分析とキャリア形成を学ぶ。キャリア・センター講師による特別授業
第 6 回	図書館ガイダンス	図書館の使い方を学ぶ。図書館での特別授業
第 7 回	調査の仕方	発表やレポートを作成するために必要な調査の仕方、学術論文からの正しい引用の仕方を学ぶ
第 8 回	レポートの書き方	相手に伝わる文章と形式を学ぶ
第 9 回	口頭発表の仕方	レジュメの切り方、パワーポイントの使い方を学ぶ
第 10 回	研究発表（1）	グループによるレジュメ、パワーポイントでの報告
第 11 回	研究発表（2）	グループによるレジュメ、パワーポイントでの報告
第 12 回	研究発表（3）	グループによるレジュメ、パワーポイントでの報告
第 13 回	研究発表（4）	グループによるレジュメ、パワーポイントでの報告
第 14 回	まとめ レポートの提出	全体総括と質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。授業で得た知見は、他の授業でも実践できるようにする。

【テキスト（教科書）】

『法政大学 学習支援ハンドブック』、その他必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

初年次教育テキスト編集委員会『フレッシュマンセミナーテキスト 大学新入生のための学び方ワークブック [第 2 版]』（東京電機大学出版局）、岡山大学附属図書館 教育・研究支援ワーキンググループ編『大学生のための伝わる情報発信術 レポート作成からプレゼンまで』（岡山大学出版会）、田中共子編『よくわかる学びの技法 [第 3 版]』（ミネルヴァ書房）、近江幸治『学術論文の作法 [第 3 版]』（成文堂）、佐藤望編『アカデミック・スキルズ 大学生のための知的技法入門 [第 3 版]』（慶應義塾大学出版会）、世界思想社編集部編『大学生 学びのハンドブック [5 訂版]』（世界思想社）

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（40 %）、グループでの研究発表（30 %）、レポート（30 %）を総合化して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

現時点ではないが、クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。

・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。

・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives)

This course aims to acquire the specialized abilities necessary for college students. To that end, I set four goals. The first is how to take notes in lectures, the second is the ability to read academic papers, the third is the ability to collect and consider necessary materials and information, and the fourth is the ability to disseminate the researched content.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on lab reports (30%), quality of the students' experimental performance in the lab (30%) and in-class contribution (40%).

BSP100LA

基礎ゼミ I (文・地理)

2017 年度以降入学者

中俣 均

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これから大学で学ぶために必要な姿勢と技法を身につける事が目的である。地理学科の学生であることを意識するなら、書斎（研究室または教室）とフィールド（野外すなわち現実には人々が生活する現場）との往復運動により、学問的知見を獲得していくのが基本的な態度であるが、初年次科目であるため、デスクワークに比重を置いた授業となる。

【到達目標】

これから大学生として知的な生活を送っていくために必要な諸事項を身につけることが到達目標である。具体的には、現代の大学生にふさわしい「読み・書き・ソロバン（ならぬパソコン）」、すなわち、①通俗的なものでない専門的な書物や論文を読む、②長短を問わず達意の文章を書く、③それらを達成するための情報収集の方法と整理の仕方を身につける があげられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習との組み合わせになる。また、授業内での議論（ディスカッション）—提出された課題についての双方向のフィードバックも含む—もできるだけ心掛けたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業内容の説明と出席者の確認など
第 2 回	知的な学生生活とは？	大学という場・空間の持つ意味、学生の本分、市ヶ谷キャンパス内探検
第 3 回	文献探索の方法	研究に用いる文献の種類。文献の存在と所在
第 4 回	図書館の利用法	法政大学図書館での利用実習
第 5 回	具体的な邦語文献の読み方 (1)	対象文献の決定と読破
第 6 回	具体的な邦語文献の読み方 (2)	文献内容の要約と発表 1 回目
第 7 回	具体的な邦語文献の読み方 (3)	文献内容の要約と発表 2 回目
第 8 回	具体的な英語文献の読み方 (1)	欧文文献について
第 9 回	具体的な英語文献の読み方 (2)	文献内容の要約と発表 1 回目
第 10 回	具体的な英語文献の読み方 (3)	文献内容の要約と発表 2 回目
第 11 回	文章の書き方	的確で明晰な文章とはどのようなものか。レポート作成法。
第 12 回	課題エッセイを書く	文章の種類と書式。学問的な文章の書き方。
第 13 回	課題エッセイへの講評	課題エッセイへの個人別講評
第 14 回	口頭発表のしかた	口頭発表のしかた

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

提出を求められた課題を締切までにきちんと成し遂げて提出すること。**A-4** サイズのペーパーファイルを 1 冊（数十円で買える）用意して、毎回の授業内容（時分をとったノート、配布された資料プリントなど）を、適宜綴じ込んで整理しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・法政大学教育開発支援機構 **FD 推進センター編（2022）**:『法政大学学習支援ハンドブック 2020』・・・これは大学から無料で全員に配布される。

【参考書】

・Pauline E. Kneale (2003): Study Skills For Geography Students ; A Practical Guide, Second Edition. (Arnold)
・・・地理学科事務室の図書室に配架されている。

【成績評価の方法と基準】

数回提示されるミニ・レポート（70 %）及び教室での議論への参加（30 %）具合によって成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

いわゆるプレゼンの演習的なことを授業に加えてほしいという要望があった。それを全く拒否するわけではないが、限られた授業回数であり、技術的なことを学ぶのはより専門的な科目を自主的に履修してからにほしい。本科目では、口先だけのプレゼンよりも、何を伝えるかの中身の充実をまず図るべきというのが担当者の考えである。

【学生が準備すべき機器他】

指示された授業時に個人用のパソコン（個人所持のもの、あるいは大学からの貸し出しパソコン）を用意すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the fundamental skills about thinking and making your life as a university student, especially how to read and write and argue about Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class. Your overall grade in the class will be decided by some short reports(70%) and in-class contribution(30 %).

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・地理）

2017 年度以降入学者

小原 丈明

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は初めて大学で学ぶ者のための入門・基礎科目に位置づけられ、大学における学問とはどのようなものであるのかを理解するための授業です。高校までの学問とこれから大学で学ぶ学問との大きな違いは、より能動的に取り組む姿勢が求められる点と、自分の考えを論理的な思考の下で表明することが必要となってくる点にあります。そこで、本授業ではそれらの点に留意して、「問題意識を持つ」、「調べる」、「発表する・意見を述べる」、「文章を書く」ことに主眼を置いた演習を行います。

【到達目標】

本授業を通じて、大学で学ぶ上での意識・姿勢を理解し、基礎的な知識・技術を身に付けられるようになります。また、物事の見方・論理的な考え方についても修得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習（ゼミナール）形式で行います。具体的な授業内容は、①新聞記事や文献の紹介・発表、②簡単なフィールド調査の実施および発表、③関心あるテーマについての発表を行います。ゼミ形式の授業なので、発表担当者はレジュメや配布資料を作成し、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うことになります。また、各発表について参加者全員でディスカッションを行います。したがって、各回のテーマに合わせて、授業内外にて主体的に課題に取り組むことが求められます。それら授業時間内外での各種課題については、授業の中でフィードバックを行います。

なお、本授業は基本的には対面形式で実施しますが、状況によっては Zoom によるリアルタイムオンライン形式で行う授業回がある可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの概要について、大学における学問とは
第 2 回	自己紹介・出身地の紹介	自分についてのプレゼンテーション
第 3 回	問題意識・テーマの見つけ方	生活の中から問題・テーマを考える
第 4 回	文献の探し方	図書館等で文献の検索方法を学ぶ
第 5 回	新聞記事・文献の発表①	関心ある記事についてのプレゼンテーション①
第 6 回	新聞記事・文献の発表②	関心ある記事についてのプレゼンテーション②
第 7 回	新聞記事・文献の発表③	文献の講読およびプレゼンテーション①
第 8 回	新聞記事・文献の発表④	文献の講読およびプレゼンテーション②
第 9 回	フィールド調査入門①	身近な場所について考える
第 10 回	フィールド調査入門②	キャンパス周辺の現地調査
第 11 回	テーマ別調査・発表①	テーマ設定・調査・プレゼンテーション①

第 12 回 テーマ別調査・発表② テーマ設定・調査・プレゼンテーション②

第 13 回 レポートの作成① レポートの書き方・まとめ方①

第 14 回 レポートの作成② レポートの書き方・まとめ方②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の性質上、定期的に授業外でのレポート課題等を課すので、積極的に取り組む姿勢が求められます。本授業における授業外課題の時間（準備・復習時間）は各 2 時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

文献の紹介・発表では、社会的な問題を扱ったテキストを用います。テキストの詳細は授業の中で紹介します。

【参考書】

関連する文献については、授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：60%，課題：40%で評価します。具体的には、平常点については発表やディスカッション等における授業への取り組み態度を基に総合的に評価を行います。また、課題については提出状況や内容によって評価を行います。授業の性質上、必ず出席することを前提とします。大学生として求められる能動的・積極的な姿勢を期待します。

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより能動的に取り組めるテーマ・内容を設定し、必要なリテラシーが修得できるよう配慮します。

【Outline (in English)】

The aims of this course are to help students get active approach to learning at the university and present their own thoughts logically. The students taking this course need to make presentations and discuss various subjects in order to achieve these aims.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: in-class contribution (60 %) and short reports (40 %).

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・地理）

2017 年度以降入学者

佐々木 達

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学は高校までとは違い、教材やテキスト、参考書をなんでもかんでも指示することはしない。せっかく大学に入学したのだから、これまで手に取ったことのない古典文献に挑戦してみることも悪くないだろう。本ゼミナールでは、大学生として学問や研究を進めていくためのスタートアップとして活用してもらうことがねらいとなる。

【到達目標】

- 1) 自分で考え、調べ、行動し、まとめ、発信するという実践力を身につけること。
- 2) 仲間と議論をし、多様なモノの見方、考え方を受容し、互いに切磋琢磨すること。
- 3) これから学生生活をおくる際の自分なりの目標をもつこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本ゼミナールは、学生諸君の主体性に期待します。進め方としては、大学で研究するにあたって必要な「考える・調べる・行動する・まとめる・発信する」の基礎的な能力を身に付けられるようにします。後半からは、学生によるテキストの輪読と発表を行い、ディスカッションします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	担当教員の自己紹介、本ゼミの概要について
第 2 回	自己紹介プレゼンテーション	自分の出身地や興味関心についてプレゼンテーションする
第 3 回	テーマに基づくディベート	こちらから提示するテーマについて、時間内に超際して討論する
第 4 回	文献の探し方、図書館	図書館等で文献の検索方法を学ぶの活用方法
第 5 回	新聞記事の活用方法	新聞各紙の読み比べとディスカッション
第 6 回	レポートの作成方法とレジュメの作成方法	レポートの作成方法、要約、レジュメの作成方法について学ぶ
第 7 回	テキストを読む①：論点のまとめ方と資料の提示	受講生によるレジュメに基づく発表
第 8 回	テキストを読む②：引用と盗用の違い	受講生によるレジュメに基づく発表
第 9 回	テキストを読む③：ストーリーを組み立てる	受講生によるレジュメに基づく発表
第 10 回	学生によるプレゼンテーション①	各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる
第 11 回	学生によるプレゼンテーション②	各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる
第 12 回	学生によるプレゼンテーション③	各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる

第 13 回	学生によるプレゼンテーション④	各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる
第 14 回	学生によるプレゼンテーション⑤	各自でテーマを設定し、それに基づいて、これまで学習した内容を一つの作品に仕上げる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。具体的には、テキストの予習・復習、授業内で示される課題（レポート、演習問題）対応などです。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。資料はこちらから配布します。

【参考書】

講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、到達目標の 3 点を基準として、発表 50 %、講義への参加（態度と意欲）50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 this seminar is positioned as a startup for research activities.

【Learning Objectives】 To acquire practical skills, to accept diverse ideas, and to have your own learning goals

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Presentation and Discussion 50%, in class contribution: 50%

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・地理）

2017 年度以降入学者

宇津川 喬子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学びを深めるために適切な文献資料とはどのようなものかを考え、大学での能動的な学びに欠かせない基礎的なスキルである「文献資料の収集・読解・まとめ」の修得を目指す。

【到達目標】

求められている問に対して適切な文献資料を探し出し、資料の内容を他の資料を用いたり比較したりしながら理解した上で、他者にわかりやすいかたちでまとめて表現することができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

演習形式で行う。授業を通して、文献の検索や収集、文献の要約、設定したテーマに基づくレポート・ポスター作成やプレゼンテーションについて学ぶ。本授業では特に新聞を教材として用いる（紙媒体だけではなくオンラインデータベースやインターネット記事も扱う）。提出された課題に対するフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

※現状では対面形式を想定しているが、場合によってはオンライン形式（学習支援システムによる教材提示型または Zoom を用いたりアルタイム型）で実施する可能性もある。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・自己紹介	授業の概要、計画、評価方法等を説明し、自己紹介をしてもらう。
第 2 回	メディアとは	身の回りのメディアについて考える。
第 3 回	大学図書館ガイダンス	情報検索や文献資料検索の利用方法を学ぶ。
第 4 回	文章をまとめる	様々な文章を用いて要約について学ぶ。
第 5 回	記事読みくらべ（1） 検索と収集	新聞のオンラインデータベースを用いて複数社の記事を集める。
第 6 回	記事読みくらべ（2） 読解	記事を読み深めるために必要な他の文献を用いながら要約する。
第 7 回	記事読みくらべ（3） まとめ	要約した内容をグループ内で共有し、メンバーからの質疑を踏まえてさらに読み深める。
第 8 回	レポートの作成	レポートを作成するための基本的なスキルを学び、第 5 回～第 7 回の内容を基に構成を考えてみる。
第 9 回	テーマのある読みくらべ（1） 検索と収集	グループでテーマをひとつ選び、読みくらべのできるトピックを探す。
第 10 回	テーマのある読みくらべ（2） 読解	グループ内で記事の読みくらべを行い、ディスカッションを行う。
第 11 回	テーマのある読みくらべ（3） まとめ	記事の内容とグループディスカッションの内容をまとめる。

第 12 回 ポスターの作成 (1)	ポスターを作成するための基本的なスキルを学び、第 9 回～第 11 回の内容を用いてグループで作成する。
第 13 回 ポスターの作成 (2)	前回に続けてポスターを作成し、プレゼンテーションの準備を進める。
第 14 回 ポスター発表	グループごとに、作成したポスターを用いてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献収集や発表準備など授業時間外での取り組みが必要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業内で適宜プリントの配布や文献の紹介を行う。学習支援システムにもその都度資料をアップロードする。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に記載した内容を評価基準として、その達成度を授業時の取組（50 %：平常点 20 %、プレゼンテーション 30 %）、課題（50 %：レポート 30 %、ポスター 20 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

対面形式でできない場合に備え、各自 PC（※ Word や PowerPoint 等インストール済み）を用意するなどオンラインで受講できる環境を整えておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

講習の予約状況によって授業回の順序が入れ替わることがある。

【Outline (in English)】

This course deals with learning of basic skills required for university student; literature search, reading and presentation. Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on the quality of the student's performance and presentation (50%) and short tasks (report 30%, poster 20%).

BSP100LA

基礎ゼミ I（文・心理）

2017 年度以降入学者

藤田 哲也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の基礎ゼミ I では、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル（技能）の修得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取ることができる」。

2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解できる」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できる」。

3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができる」。

4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができる」。

5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのペアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしよう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでの参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことではなくて、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	基礎ゼミを受講する必要性と「学生」に求められる要素の理解
第 2 回	ノートの取り方 1	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第 3 回	ノートの取り方 2	前回のノートに対する自己評価とノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を獲得
第 4 回	初年次教育とは	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第 5 回	テキストの読み方	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第 6 回	要約の仕方	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第 7 回	きちんと考える方法 1	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第 8 回	きちんと考える方法 2	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践

第 9 回	図書館の利用	PC を利用した情報検索法と、図高校の図書室と大学図書館ツアー
第 10 回	レポートの書き方 1	大学レポートが要求すること、基本的な原稿作成上のルールの確認
第 11 回	レポートの書き方 2	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる
第 12 回	レポート提出と自己評価	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第 13 回	ここまでの総括	これまでの授業内での「気づき」基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える
第 14 回	レポート返却	自己評価と教員評価の比較と自己レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

第 1 回	教科書第 0 講の予習
第 2 回	教科書第 1 講の予習とノートの見直し
第 3 回	教科書第 2 講の予習と、ノートの整理
第 4 回	教科書補講の予習とこれまでの総復習
第 5 回	教科書第 3 講の予習・第 4 講のための要約の宿題
第 6 回	教科書第 4 講の予習・再度の要約課題
第 7 回	教科書第 5 講の予習・教科書の練習課題
第 8 回	教科書第 5 講の予習・練習課題の実施
第 9 回	教科書第 6 講の予習・情報検索の宿題
第 10 回	教科書第 7 講の予習・第 9 回宿題見直し
第 11 回	教科書第 8 講の予習・練習課題直し
第 12 回	レポート作成・春学期総復習
第 13 回	「気づき振り返りシート」作成
第 14 回	これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也(編)(2006). 「大学基礎講座 改増版 ー充実した大学生活をおくるためにー」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %) …予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業 1 回につき +4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は -2 点です。この平常点は到達目標の 1, 4, 5 と対応します。

課題の提出 (20%) …授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた 0～10 点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の 2, 3 と対応します。

期末レポート (40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計 40 点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の 2, 3, 4 と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったので最新の 2019 年度分を載せます：「履修してよかった」は 1 限は 3.27 (昨年は 4.55), 2 限は 3.86 (昨年は 4.44) でした。これはこれまでにない低い値なのですが、昨年までと授業の内容も進め方も特に変更していませんから、どう解釈してよいのか理解に困っています。最終回での時間配分のミスで、回答者が少なかったため、自由記述欄からも改善のためのヒントが得られず反省しています。例年は好評を得ている内容なので、低い評価が今年度の一部の受講生に限定したことなのか次年度に様子を見ることにします。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.As an information gathering ability, students can take useful notes even after a lapse of time after judging the information they need.
- 2.Students can properly read sentences written by others, such as textbooks, to understand the contents of information. In addition, students can not just excerpt, but can summarize the text appropriately after understanding the content of the text.
- 3.As an information dissemination ability, students can write sentences that are easy for others to read and understand and persuasive.
- 4.As a communication ability, students can clearly express their opinions after listening to and understanding the other party's remarks.
- 5.Students can continue to participate in the lesson after properly preparing for the lesson such as preparation and review as an attitude of active activity.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, submission of tasks 20%, report 40%.

BSP100LA

基礎ゼミ II (文・心理)

2017 年度以降入学者

藤田 哲也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期の基礎ゼミ II では、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的に・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業 (グループワーク) が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4～6 人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表 (プレゼンテーション) を行うというプロジェクト型学習 (PBL) に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨 (発表に求められていること) は異なりますので、よく理解し、準備をして臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を 理解し、自分なりの目 標を明確にする	秋学期授業の概要と目標、班活動 の意義と協同学習、授業での具体 的なプロジェクト
第 2 回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュール を把握する、班活動を 充実させるために積極 的に行動する	今後のスケジュール確認、班活動 ウォーミングアップ、班の活動方 針の話し合い
第 3 回	発表テーマ決定 協同学習による話し合 いの技法を実践する、 各班での発表テーマを 決定する	協同学習の五つの基本原理、班活 動のトレーニング、発表テーマに ついての話し合い
第 4 回	心理学科のカリキュ ラム 自分の所属する心理学 科のカリキュラムを説 明できる、卒論に対す る具体的イメージを持 つ	二年度以降のカリキュラムの概 要、二年度の演習Ⅰ履修につい て、卒論までの道のりと実際
第 5 回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメ の役割を説明できる、 構想発表に向けて班の 意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活 動、構想発表と本発表について、 班活動
第 6 回	発表のしかた 発表においてもっとも 気をつけるべきことを 説明できる、構想発表 に向けて班の意見を整 理する	発表のしかたに関する班活動、発 表順の決定、発表に向けての班活 動
第 7 回	発表準備 1 他班の発表に対する 「聴き方」の注意点を 説明できる、構想発表 に向けて班の意見を整 理する	構想発表の聴き方（観点別評価と コメント作成）、発表に向けての 班活動
第 8 回	構想発表 1 構想発表を通じて自分 たちの構想を見直す、 他班の発表に適切な質 問やコメントをする	構想発表、観点別評価とコメント 作成
第 9 回	構想発表 2 構想発表を通じて自分 たちの構想を見直す、 他班の発表と比較して 自分の班の特徴を把握 できる	構想発表、観点別評価とコメント 作成
第 10 回	ここまでの総括 構想発表を通じて明ら かになった問題点・改 善点を整理して実行に 移せる	発表の仕方と内容の両面から見直 し、第三者である高校生の視点か ら客観的に見直し
第 11 回	発表準備 2 本発表に向けて、内 容・レジュメ・発表の しかたについての班の 方針を明確に挙げるこ とができる	構想発表から気づいた問題点・改 善点の再確認と班内での共有
第 12 回	本発表 1 発表内容・発表のしか たについて学んだこと を適切に表現できる、 他班に適切にコメント できる	本発表、観点別評価とコメント作 成

第 13 回	本発表 2 発表について、他班に 評価を積極的にフィー ドバックし、適切に自 己評価できる	本発表、観点別評価とコメント作 成
第 14 回	総括 この授業で学んだこと を振り返り、自分に とっての意味を説明で きる	秋学期授業の到達目標にそった振 り返り、春秋学期を通じての基礎 ゼミで身につけたことの意識化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。
各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるた
めにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 第 1 回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
第 2 回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報
を集めたり、原案を作成する
第 3 回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
第 4 回 演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第 9 講の予習
第 5 回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果
たすことと、教科書第 10 講の予習
第 6 回 回次の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
第 7 回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提
出する、発表の練習
第 8 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
第 9 回 本発表に向けて構想の練り直し
第 10 回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個
人の責任を果たす
第 11 回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに
提出する、発表の練習
第 12 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
第 13 回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善
すべきかを整理する
第 14 回 一年間この授業で学んできたことを、二年度以降の学習
目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）(2006). 「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学
生活をおくるために-」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %) …授業へ出席し積極的に班活動に参加したり、他班
の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのた
め授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠
席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への
参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業一回
につき +4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席
すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の 1, 5 と
対応します。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対
して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点
から評価します。この発表は到達目標の 2, 3, 4, 5 と対応します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたか
について評価します。具体的には、班活動の成果（班の発表の評価）
の 1/2 に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個
人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の 1 と対応
します。

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったので最新の 2019 年度分を載せます：2019 年度は W で 15 名、X で全員が「履修してよかった」で 5 あるいは 4 と回答してくれました。これは例年よりかなりよい結果ですが、2019 年度は履修する学生の比率が低かったのも、もしかしたら例年否定的に受け止める層がそもそも受講していなかっただけかもしれません。いずれにせよ、せっかく受講してくれた人からは基本的に肯定的な意見が寄せられて一安心ですし、次年度も今年度と同様の授業を行う予定です。多くの人が「かなり大変だったがやりがいがあった。成長できた」と自由記述に書いてくれました。その通りで、楽な道ばかり選んでいたら成長できないということを、今後忘れずに学生生活を送ってください。授業外学習時間も例年より長く、週に 2 時間以上の方は W で 12 名、X で 17 名でしたが、ほとんど行っていない人もいます。2018 年度はかなり短かったので、全員が班活動にコミットするよう、言葉がけを多く行った成果だとは思いますが、全員に効果を持ったわけではなさそうです。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can actively and effectively carry out group activities based on the concept of collaborative learning.
2. Students can collect necessary information from the perspective of the person to whom the information is communicated and appropriately select the information.
3. Students can give notes to make presentation materials that are highly documentary and motivated to read, and can actually create them.
4. Students can explain and practice what is needed to keep listeners listening and make easy-to-understand presentations.
5. Students can understand and evaluate appropriately while listening to the presentations of others.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation time for this class is 3 hours, and the standard review time is 1 hour.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, group presentation 40%, contribution to group activities 20%.

BSP100LA

基礎ゼミ I (文・心理)

2017 年度以降入学者

藤田 哲也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期の基礎ゼミ I では、受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な、様々な学習スキル (技能) の修得を目標とします。高校までに身につけた学習法を見直し、将来、社会に出たときに役立つスキルへとグレード・アップさせましょう。この授業では、大学での学びを充実させるために必要不可欠であるとともに、社会に出てからも必要とされる、情報収集能力・情報の内容理解・情報発信能力や、他者とのコミュニケーション能力などのスキルと、積極的に活動する態度を身につけることを目指します。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 情報収集力として、「自分自身で必要な情報を判断した上で、時間が経過してからでも役立つノートを取ることができる」。
2. 情報の内容理解として、「教科書など他者の書いた文章を適切に読解できる」かつ「単なる抜粋ではなく文章内容を把握した上で適切に要約できる」。
3. 情報発信能力として、「第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができる」。
4. コミュニケーション能力として、「相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができる」。
5. 積極的に活動する態度として、「予習や復習といった授業の準備をきちんと行った上で、授業に継続的に参加すること」。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、「ノートの取り方」や「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポートの書き方」などの学習スキルを本当の意味で身につけるために、授業内では多くの「気づき」を得られるような課題に取り組んでもらいます。また、自分の課題を客観的に捉えるために、他の受講生とのベアワークを取り入れます。授業内での活動を充実したものにするため、毎回出席して授業に参加することはもちろんのこと、予習・復習を重視します。

この授業で取り上げる学習スキル、たとえば「ノートの取り方」は高校までにも実践してきていると思います。しかし、教員が板書したとおりにノートに書き写すだけでは、大学での学びにとっては不十分です。教員が重要なポイントをまとめる形で板書しなくても、みなさん自身がどこが重要なかを自分で判断し、時間が経過してから見直しても授業内容を確認できるように工夫してノートを取る必要があるのです。このことは、社会に出てからの情報収集能力に通じています。情報発信側が不親切な情報提示をしたとしても、みなさん自身が適切に内容を把握して必要事項を記録しなくてはなりません。この授業で取り上げる他の学習スキル「テキストの読み方」「要約の仕方」「レポート・論文の書き方」なども同様で、高校までに身につけた「受け身の勉強法」をいったん見直し、積極的な学習法へとステップアップさせていくことが重要になります。

もっとも怖いのは「わかったつもり」「できているつもり」という誤った思い込みです。この授業ではそれを避けるために、授業内で多くの課題に取り組んでもらいます。課題を通じて、自分に不足している点や誤解していた点に、たくさん気づくことができるでしょう。また、課題に取り組む際には、他の受講生とペアを組み、お互いに意見交換したり、課題の評価をしよう機会を設けます。こうしたペアワークの中で、自分の意見を短時間で的確に述べたり、相手に理解できるように説明をしたり、相手の発言に対して適切な評価をフィードバックするという、コミュニケーション能力についてもトレーニングしていきます。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでの参加とは、単に教室に足を運ぶだけのことではなくて、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、授業内容について他の受講生と積極的に意見交換したり、課題から多くの気づきを得るということを意味します。予習や宿題をしていない場合には、授業内でのペアワークに参加できないこともありますので、継続的・積極的に授業に参加するようにしてください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	基礎ゼミを受講する必要性和「学生」に求められる要素の理解
第 2 回	ノートの取り方 1	典型的な三つの授業タイプ毎に異なるノートを取ってみる
第 3 回	ノートの取り方 2	前回のノートに対する自己評価とノートを取る目的を説明でき、多様な授業に対応するための観点を獲得
第 4 回	初年次教育とは	「社会人基礎力」「学士力」と初年次教育の教育目標との関連
第 5 回	テキストの読み方	読解過程の心理学的モデルをふまえた「読み」のアドバイスと、弁証法などの論理構成
第 6 回	要約の仕方	社会での情報処理能力と要約の関係と正しい読解をふまえた要約
第 7 回	きちんと考える方法 1	書かれた文章に含まれる「事実」と「意見」それぞれの吟味
第 8 回	きちんと考える方法 2	深く広く考えるためのブレインストーミングなどの手法の実践

第 9 回	図書館の利用	PC を利用した情報検索法と、図高校の図書室と大学図書館ツアー
第 10 回	レポートの書き方 1	大学レポートが要求すること、基礎的な原稿作成上のルールの確認
第 11 回	レポートの書き方 2	レポートや試験の出題意図をふまえた課題作成、宿題に対する添削手順を理解し、出題意図の読み取りができるようになる
第 12 回	レポート提出と自己評価	レポートの自己評価と本授業の授業目標の再確認
第 13 回	ここまでの総括	これまでの授業内での「気づき」基礎ゼミで半期間に身につけたことを振り返り、今後の学びの方向性を考える
第 14 回	レポート返却	自己評価と教員評価の比較と自己レポート自己評価の基準を適切に修正し、内化する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。詳細は下記の通りです。

第 1 回	教科書第 0 講の予習
第 2 回	教科書第 1 講の予習とノートの見直し
第 3 回	教科書第 2 講の予習と、ノートの整理
第 4 回	教科書補講の予習とこれまでの総復習
第 5 回	教科書第 3 講の予習・第 4 講のための要約の宿題
第 6 回	教科書第 4 講の予習・再度の要約課題
第 7 回	教科書第 5 講の予習・教科書の練習課題
第 8 回	教科書第 5 講の予習・練習課題の実施
第 9 回	教科書第 6 講の予習・情報検索の宿題
第 10 回	教科書第 7 講の予習・第 9 回宿題見直し
第 11 回	教科書第 8 講の予習・練習課題直し
第 12 回	レポート作成・春学期総復習
第 13 回	「気づき振り返りシート」作成
第 14 回	これまでのプリント類の整理と振り返り

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）(2006). 「大学基礎講座 改増版 ー充実した大学生活をおくるためにー」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）…予習をした上で授業へ出席し積極的にペアワークに参加することや、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することを評価の対象とします。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業 1 回につき +4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。遅刻は -2 点です。この平常点は到達目標の 1, 4, 5 と対応します。

課題の提出（20%）…授業の進度に合わせて、「要約」と「図書館での情報検索」に関連した宿題を出し、提出したものに各 5 点を与えます。宿題を行い期限内に提出すること自体を評価します。宿題の内容は授業内でのペアワークの題材となります。半期の終わりに授業全体を振り返る課題を出します。これは振り返りの質（深さ、自分なりの視点の獲得等）に応じた 0～10 点までの評価とします。この課題の提出は到達目標の 2, 3 と対応します。

期末レポート (40%) …この授業で学んだことを総合的に応用してレポートを作成できることが評価対象です。レポートの出題意図を読み取ること自体もレポート課題に含まれますので、あまり詳しいことはここには書きませんが、「適切な情報を検索し、内容を吟味して、指定字数で要約し、引用できること」、「引用した資料に対応して自分の意見を述べること」、「わかりやすく論旨の明確な日本語で表現できること」、「引用文献リストを含めた書式・体裁が整っていること」の観点別に、計 40 点分の評価とする予定です。この期末レポートは主に到達目標の 2, 3, 4 と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったので最新の 2019 年度分を載せます：「履修してよかった」は 1 限は 3.27 (昨年は 4.55), 2 限は 3.86 (昨年は 4.44) でした。これはこれまでにない低い値なのですが、昨年までと授業の内容も進め方も特に変更していませんから、どう解釈してよいのか理解に困っています。最終回での時間配分のミスで、回答者が少なかったため、自由記述欄からも改善のためのヒントが得られず反省しています。例年は好評を得ている内容なので、低い評価が今年度の一部の受講生に限定したことなのか次年度に様子を見ることにします。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明を行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students will acquire various learning skills necessary for actively learning. Students acquire the ability to collect information, understand contents of information, and communicate information, and attitudes to actively learn.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.As an information gathering ability, students can take useful notes even after a lapse of time after judging the information they need.
- 2.Students can properly read sentences written by others, such as textbooks, to understand the contents of information. In addition, students can not just excerpt, but can summarize the text appropriately after understanding the content of the text.
- 3.As an information dissemination ability, students can write sentences that are easy for others to read and understand and persuasive.
- 4.As a communication ability, students can clearly express their opinions after listening to and understanding the other party's remarks.
- 5.Students can continue to participate in the lesson after properly preparing for the lesson such as preparation and review as an attitude of active activity.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, submission of tasks 20%, report 40%.

BSP100LA

基礎ゼミ II (文・心理)

2017 年度以降入学者

藤田 哲也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期の基礎ゼミ II では、班活動を主体として、情報収集・討論・資料作成・発表のしかたと聴き方について体験的に学びます。大学でのいわゆる「ゼミ」「演習」形式の授業を受けるための準備をすることが、この授業の目的です。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で以下のようなスキルを身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

1. 協同学習の考え方に基づいて、積極的に・効果的に班活動を行うことができる。
2. 情報を伝える相手の視点に立って、必要な情報を集め、それらの情報を適切に取捨選択できる。
3. 資料性が高く、かつ、読む気にさせる発表資料にするための注意点を挙げることができ、実際に作成することができる。
4. 聞き手が聴く気を保ち、理解しやすい発表をするために必要なことを説明でき、それを実践することができる。
5. 他者の発表を聴きながら同時に理解し、適切に評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。文学部： DP1

【授業の進め方と方法】

上記の到達目標を達成するために、受講生自身の主体的な活動が中心の授業となります。「協同学習」の考え方に基づいた、班での協同作業 (グループワーク) が多いので、毎回休まずに出席することが重要です。

具体的には、4～6 人の班ごとに、「法政大学文学部心理学科に進学しようかどうか迷っている高校生に、“オープンキャンパス”でどのようなことを伝えれば、“法政で学びたい”と思わせることができるか」というテーマで発表 (プレゼンテーション) を行うというプロジェクト型学習 (PBL) に取り組むことになります。この発表を行うために集める情報が受講生自身に有益となることはもちろんですが、それらの情報・知識を習得することが授業の目的ではなく、発表および発表の準備を通じて、上記の到達目標を達成することが、あくまでも主眼となります。

したがって、この授業では授業に参加することをもっとも重視します。ここでいう参加には、単に教室に足を運ぶだけのことではなく、十分に予習や復習をした上で授業に出席し、班で決めた作業分担について個人の責任を果たすこと、そして実際に発表をすること、他班の発表に対して積極的に評価をしフィードバックすることを含みます。

なお、発表の機会は「構想発表」と「本発表」の二回あります。それぞれの発表の趣旨 (発表に求められていること) は異なりますので、よく理解し、準備をして臨んでください。

課題等の評価には学習支援システムを活用する予定です。また、授業の振り返りで書かれた質問・意見・感想の中からいくつかをピックアップし、授業通信としてまとめて翌週の授業で配布することでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション この授業の教育目標を理解し、自分なりの目標を明確にする	秋学期授業の概要と目標、班活動の意義と協同学習、授業での具体的なプロジェクト
第 2 回	班の構成と活動方針 秋学期のスケジュールを把握する、班活動を充実させるために積極的に行動する	今後のスケジュール確認、班活動ウォーミングアップ、班の活動方針の話し合い
第 3 回	発表テーマ決定 協同学習による話し合いの技法を实践する、各班での発表テーマを決定する	協同学習の五つの基本原理、班活動のトレーニング、発表テーマについての話し合い
第 4 回	心理学科のカリキュラム 自分の所属する心理学科のカリキュラムを説明できる、卒論に対する具体的なイメージを持つ	二年度以降のカリキュラムの概要、二年度の演習Ⅰ履修について、卒論までの道のりと実際
第 5 回	レジュメの作り方 発表におけるレジュメの役割を説明できる、構想発表に向けて班の意見を集約する	レジュメの作り方に関する班活動、構想発表と本発表について、班活動
第 6 回	発表のしかた 発表においてもっとも気をつけるべきことを説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	発表のしかたに関する班活動、発表順の決定、発表に向けての班活動
第 7 回	発表準備 1 他班の発表に対する「聴き方」の注意点を説明できる、構想発表に向けて班の意見を整理する	構想発表の聴き方（観点別評価とコメント作成）、発表に向けての班活動
第 8 回	構想発表 1 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表に適切な質問やコメントをする	構想発表、観点別評価とコメント作成
第 9 回	構想発表 2 構想発表を通じて自分たちの構想を見直す、他班の発表と比較して自分の班の特徴を把握できる	構想発表、観点別評価とコメント作成
第 10 回	ここまでの総括 構想発表を通じて明らかになった問題点・改善点を整理して実行に移せる	発表の仕方と内容の両面から見直し、第三者である高校生の視点から客観的に見直し
第 11 回	発表準備 2 本発表に向けて、内容・レジュメ・発表のしかたについての班の方針を明確に上げることができる	構想発表から気づいた問題点・改善点の再確認と班内での共有
第 12 回	本発表 1 発表内容・発表のしかたについて学んだことを適切に表現できる、他班に適切にコメントできる	本発表、観点別評価とコメント作成

第 13 回	本発表 2 発表について、他班に評価を積極的にフィードバックし、適切に自己評価できる	本発表、観点別評価とコメント作成
第 14 回	総括 この授業で学んだことを振り返り、春秋学期を通じての基礎を振り返り、自分にゼミで身につけたことの意識化としての意味を説明できる	秋学期授業の到達目標にそった振り返り、春秋学期を通じての基礎ゼミで身につけたことの意識化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備時間は 3 時間、復習時間は 1 時間を標準とします。各回の準備学習の詳細は下記の通りです。効果的に学習を進めるためにも、以前の授業内容の復習も行いましょう。

- 第 1 回 班活動で発表するテーマについての構想案を作成する
 第 2 回 次回に班での発表タイトルを暫定的に決めるために、情報を集めたり、原案を作成する
 第 3 回 「班発表中間報告用紙」を班で話し合いながら完成させる
 第 4 回 演習Ⅰ履修手続きの確認と、教科書第 9 講の予習
 第 5 回 班ごとに各自が行うべきことを明確にし、個人の責任を果たすことと、教科書第 10 講の予習
 第 6 回 回次の授業内でレジュメの原案が完成できるように準備
 第 7 回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
 第 8 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
 第 9 回 本発表に向けて構想の練り直し
 第 10 回 本発表に向けて各班で各自が行うべきことを割り当て、個人の責任を果たす
 第 11 回 レジュメの印刷原版を完成させ、指定された日時までに提出する、発表の練習
 第 12 回 既発表班は構想の見直し、未発表班は発表の練習
 第 13 回 仮にもう一度発表の機会があったとしたら、どこを改善すべきかを整理する
 第 14 回 一年間この授業で学んできたことを、二年度以降の学習目標に活かすための展望を持つ

【テキスト（教科書）】

藤田哲也（編）(2006). 「大学基礎講座 改増版 - 充実した大学生活をおくるために -」, 北大路書房

【参考書】

各回の授業内容に関連したものを、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40 %) …授業へ出席し積極的に班活動に参加したり、他班の発表に対して適切な評価をすることを評価対象とします。そのため授業終了時の「感想用紙」の記入・提出は必須です。連続 3 回欠席した者、半期中に通算で 5 回欠席した者は、それ以後の授業への参加を認めず、E 評価（未受験）とします。平常点として、授業一回につき +4 点を加算し、上限を 40 点とします。正当な理由無く欠席すると上限の権利が下がります。この平常点は到達目標の 1, 5 と対応します。

班発表 (40%) …構想発表 (10%) と本発表 (30%) のそれぞれに対して、「発表の内容」、「レジュメ」、「発表のしかた・質疑応答」の観点から評価します。この発表は到達目標の 2, 3, 4, 5 と対応します。

班活動 (20%) …各個人がどれだけ班活動に参加し、貢献できたかについて評価します。具体的には、班活動の成果（班の発表の評価）の 1/2 に、授業内における班活動への参加率を乗じたものを、各個人の班活動の評価とする予定です。この活動は到達目標の 1 と対応します。

【学生の意見等からの気づき】

前年に授業担当がなかったので最新の 2019 年度分を載せます：2019 年度は W で 15 名、X で全員が「履修してよかった」で 5 あるいは 4 と回答してくれました。これは例年よりかなりよい結果ですが、2019 年度は履修する学生の比率が低かったのも、もしかしたら例年否定的に受け止める層がそもそも受講していなかっただけかもしれません。いずれにせよ、せっかく受講してくれた人からは基本的に肯定的な意見が寄せられて一安心ですし、次年度も今年度と同様の授業を行う予定です。多くの人が「かなり大変だったがやりがいがあった。成長できた」と自由記述に書いてくれました。その通りで、楽な道ばかり選んでいたら成長できないということを、今後とも忘れずに学生生活を送ってください。授業外学習時間も例年より長く、週に 2 時間以上の方は W で 12 名、X で 17 名でしたが、ほとんど行っていない人もいます。2018 年度はかなり短かったので、全員が班活動にコミットするよう、言葉がけを多く行った成果だとは思いますが、全員に効果を持ったわけではなさそうです。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や教育目標について説明と班分けを行うので、受講希望者は初回の授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

In this class, students learn about collecting information, discussing, creating materials, making presentations and listening through group activities. Students prepare for taking classes in the form of so-called "seminars" and "exercises" at university.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1.Students can actively and effectively carry out group activities based on the concept of collaborative learning.
- 2.Students can collect necessary information from the perspective of the person to whom the information is communicated and appropriately select the information.
- 3.Students can give notes to make presentation materials that are highly documentary and motivated to read, and can actually create them.
- 4.Students can explain and practice what is needed to keep listeners listening and make easy-to-understand presentations.
- 5.Students can understand and evaluate appropriately while listening to the presentations of others.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation time for this class is 3 hours, and the standard review time is 1 hour.

[Grading Criteria /Policy]

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, group presentation 40%, contribution to group activities 20%.

BSP100LA

基礎ゼミ I (法文営)

2017 年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (30 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

レポートや論文の書き方を学びます。

【到達目標】

- ・レポートや論文を書く上で知っておくべき基礎的な事柄を身につけること。
- ・論述文とは何かを理解し、論理的な文章が書けるようになること。
- ・正しく読みやすい文章が書けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義とワークが中心です。春学期を通して段階的に一つのレポートを完成させていきます。その過程で、学習支援システムを通じて適宜フィードバックを行います。提出してもらったレポートは返却し、一人一人に改善すべき点を伝えます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・課題説明
2 回目	レポートの文章技術	講義と演習
3 回目	要約のしかた	講義と演習
4 回目	根拠となる事柄	講義と演習
5 回目	アイデアの出し方	講義と演習
6 回目	図書館ガイダンス	図書館でガイダンス受講
7 回目	アウトラインのつくり方	講義と演習
8 回目	資料を探しながらアウトラインをつくる	講義と演習
9 回目	資料に基づいてアウトラインを書く	講義と演習
10 回目	引用のルール	講義と演習
11 回目	他人の言葉を根拠にして自分の意見を述べる	講義と演習
12 回目	論証のしかた	講義と演習
13 回目	提出前の確認	説明とワーク、およびレポートの提出
14 回目	レポート返却	レポート課題へのコメント

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学期中に一つのレポートを完成させるために、授業内に終わらなかった作業は授業時間外に済ませてください。本授業の準備学習・復習時間は、平均で各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『学生による学生のためのダメレポート脱出法』、慶応義塾大学出版会、2015 年 (1200 円 + 税)

【参考書】

・藤田哲也編著『大学基礎講座 充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2010 年改増版
 ・木下是雄『レポートの組み立てかた』、ちくまライブラリー 36、筑摩書房、1990 年

・『法政大学 学習支援ハンドブック』（学習支援システムからダウンロード可能）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

より分かりやすい説明を心がけます。

【その他の重要事項】

Word を使ってワークを行います。数回の授業にわたって同じ課題に取り組みますので、前回の続きから作業ができるよう、課題を自分で保存しておいてください。

【Outline (in English)】

A guide to how to write an essay in Japanese.

By the end of the course, students should be able to write in a clear and logical manner.

After each class, students will be expected to spend at least two hours to understand the course content and to do their homework.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Essay : 50 %, in-class contribution : 50%.

BSP100LA

基礎ゼミⅡ（法文営）

2017 年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制（30 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スピーチ、プレゼンテーション、ディスカッションのしかたを学びます。

【到達目標】

- ・論理的に話すとは何かを理解すること。
- ・授業でプレゼンテーションをする際の準備のしかた、注意すべき点を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義および口頭による練習が中心です。秋学期の終わりには、課題のプレゼンテーションを一人ずつ、もしくはグループで行います。課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	口頭表現力とは	授業内容説明、講義
2 回目	授業におけるプレゼンテーション	講義
3 回目	問いを立て、論証する	講義と演習
4 回目	スピーチの構成法	講義と演習
5 回目	資料を探す	講義と演習
6 回目	パワーポイントのスライドを作る	講義
7 回目	人に聞いてもらえる話し方	講義と演習
8 回目	声、姿勢、ジェスチャー、空間の使い方、視線の向け方	講義と演習
9 回目	一人で長く話す	講義と演習
10 回目	資料にもとづいて話す	説明と演習
11 回目	ディスカッションの基礎（易しいテーマによるディスカッション）	講義と演習
12 回目	プレゼンテーション（第 1 グループ）	プレゼンテーションと講評
13 回目	プレゼンテーション（第 2 グループ）	プレゼンテーションと講評
14 回目	プレゼンテーションの改善のために質問のしかた	講義と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションの準備は授業時間外に行います。本授業の準備学習・復習時間は、平均で各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大出敦編著『プレゼンテーション入門 学生のためのプレゼン上達術』慶応大学出版会、2020 年（1400 円＋税）

【参考書】

・藤田哲也編著『大学基礎講座 充実した大学生活を送るために』、北大路書房、2010 年改増版
 ・『法政大学 学習支援ハンドブック』（学習支援システムからダウンロード可能）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、プレゼンテーション 50 %

【学生の意見等からの気づき】

理論と実践をバランス良く組み合わせるようにします。

【Outline (in English)】

A guide to how to give a presentation in Japanese.

By the end of the course, students should be able to organize and present ideas and opinions in a logical, persuasive manner. After each class, students will be expected to spend at least two hours to understand the course content and to do their homework.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Presentation : 50 %, in-class contribution : 50%.

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

上西 充子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者

渡邊 真之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report. Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

坂本 旬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者

菅谷 麻衣

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方 (1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方 (2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方 (3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル (技能) の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト (教科書)】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年 (各自で購入)
・各クラス指定の文献 (学部より配布)

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report. Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

鄭 康烈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report. Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

田口 賢太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者

大倉 韻

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report. Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

木村 琢磨

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者

安田 節之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report. Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

井上 環

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べることができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方 (1)	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方 (2)	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方 (3)	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル (技能) の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト (教科書)】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年 (各自で購入)
・各クラス指定の文献 (学部より配布)

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合もあります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report. Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

齋藤 嘉孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第2回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第3回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第4回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第5回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第6回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第7回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第8回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第9回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第10回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第11回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第12回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第13回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第14回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者

酒井 理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report. Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

BSP100LA

基礎ゼミ（キャリア）

2017 年度以降入学者

佐藤 恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅ですっきりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを平準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第 4 回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第 11 回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning actives in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library stuffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者
BSP100LA	
基礎ゼミ (キャリア)	2017 年度以降入学者

大西 未希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアデザイン学部での学習をスタートするにあたり、大学における学習のあり方を理解し、基本的な学習能力を身につけることが基礎ゼミの目的です。

「生きる・働く・学ぶ」を個人の視点から捉えた文献を素材とし、文章の読解や論点の考察を通して、自分の視点を捉え返します。その上で、論理的で説得力のある論述を行います。

【到達目標】

授業が修了した時点で以下のような力を身につけていることを、この授業の具体的な到達目標とします。

【1. 情報収集力】・・・必要な情報を自分自身で判断した上で、適切に収集・蓄積できるようになること。

【2. 情報の内容理解】・・・論説文を適切に読解し、文章内容を把握した上で適切に要約できること。基礎的なデータを適切に読み解けること。

【3. 情報発信能力】・・・第三者が読んで、理解しやすく説得力のある文章を書くことができること。また、説得力があるわかりやすい発表ができること。

【4. 議論するための基礎的な力】・・・相手の発言を聞き取り、把握した上で、自分の意見を明確に述べるができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

少人数クラスのもと基本的な学習能力を確実に身につけて専門的な学習につなげます。

まず大学における学びについて考え、図書館ガイダンスを通じて資料・文献を収集する技術を身につけます。さらに文献の検討やディスカッションを通して批判的な見方を養い、適切な形式を踏まえたレポートを作成し、グループ発表を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	基礎ゼミの概要説明と自己紹介
第 2 回	大学における学びとは	高校までの勉強との違いを理解する。ノートの取り方を学ぶ。
第 3 回	レポートの書き方（1）	問いを立て、論証することの重要性を学ぶ。捏造、改ざん、盗用など研究活動・研究倫理における不適切な行為を理解する。
第 4 回	図書館ガイダンス	OPAC 資料検索・データベースの活用方法を学ぶ。
第 5 回	新聞・雑誌記事・統計データおよび剽窃チェックソフト (Turnitin) の活用	図書館データベースにより収集した記事・統計データおよび Turnitin の使い方を学ぶ。
第 6 回	レポートの書き方（2）	批判的な検討の方法を学ぶ。問いの立て方を学ぶ。
第 7 回	レポートの書き方（3）	適切な引用・紹介の方法を学ぶ。
第 8 回	論点をめぐる検討	論点をめぐり、読解を深める。
第 9 回	論点をめぐるディスカッション	グループディスカッションにより、論点の検討を深める。
第 10 回	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの作成、実施方法の基礎を理解する。
第 11 回	キャリア支援を目的としたグループワーク	学部上級生が実施するキャリア支援プログラムに参加する。
第 12 回	レポートの作成と発表の準備	レポートの作成と発表の準備をする。
第 13 回	グループ発表	グループ発表および質疑応答を行う。教員からのコメントを受ける。
第 14 回	まとめと今後の学習ガイダンス	半期の振り返りと履修ガイダンス、および秋学期以降の学習計画等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受け身で教えられる存在である「生徒」から、自主的に学ぶ存在である「学生」になるために必要な様々な学習スキル（技能）の習得を目指していきます。授業内での学びを充実したものにするため、授業への参加はもちろんのこと、課題や授業内での発表に備えて自宅でしっかりと準備をしてください。

【テキスト（教科書）】

・井下千以子『思考を鍛えるレポート・論文作成法 第3版』慶應義塾大学出版会、2019 年（各自で購入）
・各クラス指定の文献（学部より配布）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加や期限を守った課題の提出、グループワークへの取り組みなど）：45 %

提出課題（プレゼンテーション、レポート、等）：55 %

【学生の意見等からの気づき】

各ゼミ担当教員の独自性を確保しつつ、アカデミック・スキルの基礎学習については各クラスを標準化したものとして進めます。

【その他の重要事項】

なお、図書館ガイダンスはオンラインで行います（第4回を予定）。ガイダンスの実施時期はクラスによって異なる場合があります。その際は前後の内容の順番も一部変更になります。学部上級生の主導によるキャリア支援のグループワークを計画しています（第11回を予定）。

【授業中に求められる学習活動について】

I

【Outline (in English)】

Course outline:

At the beginning of the study at the Faculty of Lifelong Learning and Career Studies, the basic seminar aims to introduce students how to learn in university and equip them with basic learning skills.

Based on literature describing “life, work, and learning” from personal viewpoints, students reflect on their own viewpoints by understanding the text and examining their points of argument. Then, students make logical and compelling discussions.

Learning Objectives:

When you have finished this course, you will have developed much of the skills written below:

1. Search and collect information relevant to your academic interests
2. Understand and summarize academic papers and quantitative and/or qualitative data
3. Write a paper and discuss issues that are comprehensive to the audience
4. Present your opinions by listening to others and understanding their points of view

Method(s) :

This course with small class sizes is designed to establish students' academic skills and readiness for professional learning activities in college. Students will first learn about how to engage in academic activities in college. By participating a guidance tutorial given by library staffs, students will then develop skills to access to the information such as collecting articles and documents. Students are expected to develop styles of critical thinking through the review of literatures and class discussions, so that they are eligible to complete a research report and given a presentation based on that report.

Learning activities outside of classroom:

The main purpose of this class is for students to establish a host of academic skills so that they as passive learners as are in high school can transform themselves into active learners in college. Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

45 points (%) for participation, class assignments, and group activities

55 points (%) for class presentation and reflection papers

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル—段落組み・脚注・図表番号・文献登録—テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル―段組み・脚注・図表番号・文献登録―テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事を（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピュータの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサの使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	キーボード・ウィンドウ	情報授業を受講する際に必要な基本操作について学ぶ
第 3 回	ファイル・クラウド	ファイルの操作とクラウドサービス利用の基本について学ぶ
第 4 回	ワードその 1	Word アプリの基本的な操作方法と用語について学ぶ
第 5 回	ワードその 2	書式やレイアウトのトトの方など、文章の体裁を整える技術を学ぶ
第 6 回	ワードその 3	表の作成や参考文献の書き方について学ぶ
第 7 回	ワードその 4	前 3 回の Word の学習を総合した文書の作成について学ぶ
第 8 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本的な仕組みとソフトウェアの分類について学ぶ
第 9 回	コンピューターの基本操作	コンピューター上での様々な操作を正しく、効率よく行う方法について学ぶ

第 10 回	キーボードと文字入力	コンピュータ操作の基本となる キーボードの扱い方と様々な文字 入力の方法を学ぶ
第 11 回	ファイル操作その 1	ファイル名の構成と意味、フォル ダーについて学ぶ
第 12 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーによるファイル 管理と様々な操作について学ぶ
第 13 回	コンピューターとデー タその 1	デジタルとアナログの違い、2 進 法による文字の符号化について学 ぶ
第 14 回	コンピューターとデー タその 2	画像や音の 2 進法による符号化 とデータサイズの概念を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰
巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

コロナの状況により、オンライン授業の回が生じた場合はインター
ネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。
情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II
を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and
transmit information from the Internet, and, based on the
knowledge acquired in high school, we will lead to the theory
of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and
usage of computers, and how to use email and web.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は
2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00 ~ 6 日 (水) 9 : 00、結果発表は
4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期
間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得
し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。
また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不
足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。
春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使
い方、ワードプロセッサの使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情
報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術
革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくた
めの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され た能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国
際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を
基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、
後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は
後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能
性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピュー ター・ネットワーク環境について 学ぶ
第 2 回	キーボード・ウィンド ウ	情報授業を受講する際に必要な基 本操作について学ぶ
第 3 回	ファイル・クラウド	ファイルの操作とクラウドサービ ス利用の基本について学ぶ
第 4 回	ワードその 1	Word アプリの基本的な操作方法 と用語について学ぶ
第 5 回	ワードその 2	書式やレイアウトのトトの方な ど、文章の体裁を整える技術を学 ぶ
第 6 回	ワードその 3	表の作成や参考文献の書き方につ いて学ぶ
第 7 回	ワードその 4	前 3 回の Word の学習を総合し た文書の作成について学ぶ
第 8 回	コンピューターの基本 概念	コンピューターの基本的な仕組み とソフトウェアの分類について学 ぶ
第 9 回	コンピューターの基本 操作	コンピューター上での様々な操作 を正しく、効率よく行う方法につ いて学ぶ

第 10 回	キーボードと文字入力	コンピュータ操作の基本となる キーボードの扱い方と様々な文字 入力の方法を学ぶ
第 11 回	ファイル操作その 1	ファイル名の構成と意味、フォル ダーについて学ぶ
第 12 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーによるファイル 管理と様々な操作について学ぶ
第 13 回	コンピューターとデー タその 1	デジタルとアナログの違い、2 進 法による文字の符号化について学 ぶ
第 14 回	コンピューターとデー タその 2	画像や音の 2 進法による符号化 とデータサイズの概念を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

コロナの状況により、オンライン授業の回が生じた場合はインターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00~6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。

4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、 html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム **Hoppii** で指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム **Hoppii** での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、**Word** と **Excel** と **PowerPoint** が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 **HP** の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。
授業の前日には必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。
okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp
<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>
教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 5/Tue.5

単位数: 2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00~6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者前提として、タイプライター、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ (サイエンス社)

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト (日経 BP 社) など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70% をあわせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第 2 回	コンピュータの基本概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ

第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切り間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社 第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ
第 2 回	コンピュータの基本 概念	コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピュータの基本 構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ

第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンスー予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンスー分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を 1 つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは Hoppii のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

松田 裕幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術に関する基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

情報技術、特にデータ／情報処理、計算技術、プログラミング、データサイエンス、インターネット、電子商取引、ネットワーク倫理およびセキュリティについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用して進めます。演習にはプログラミング言語 Python をクラウド環境 Google Colaboratory 上で使用して行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報技術概論	情報技術の過去、現在、未来。
2	データ処理	計算機によるデータ処理。
3	情報処理	計算機による情報処理。
4	計算技術	計算機の働き。
5	プログラミング（アルゴリズム）	問題解決技術の基本であるアルゴリズム、およびアルゴリズムを実現するプログラム。
6	データサイエンス予知	過去のデータから未来を予想する。
7	データサイエンス分類	データを分類する。
8	コミュニケーション技術	情報交換を支える技術。
9	インターネット・プロトコル	自律的に機能するインターネットの根幹技術としてのプロトコル。
10	電子メール、WWW の仕組み	電子メール、WWW が機能するための基本原理を知る。
11	電子商取引	電子商取引を支える、公開鍵暗号システムおよびブロックチェーン。
12	ソーシャル・ネットワーク	関係を記述するグラフ理論。
13	インターネット倫理とセキュリティ	インターネットに内在する倫理とセキュリティについて。
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次回テーマに関する短い記事を紹介する。次回まで読んできて、各自、課題を 1 つ提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

すべてのテキストは Hoppii のページに置かれる。

【成績評価の方法と基準】

14 個の短い課題の総合評価：50%

最終試験の成績：50%

全評価点を 100 点として、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講師は、自動プログラミング、コンピュータに人間の知識、特に自然言語を教える研究および仕事に従事している。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge about information technology.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。

4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]

著者：重定如彦・河内谷幸子 共著

出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。

この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業ですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナー・ドタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。
3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。

4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、 html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム **Hoppii** で指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム **Hoppii** での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、**Word** と **Excel** と **PowerPoint** が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには 4 月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 **HP** の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。
授業の前日には必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の授業はオンラインなので必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加が提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備・復習は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物が授業内での実習と課題を兼ね、その内容を元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

皆に理解してもらえるように丁寧な説明を心がけつつ、より広い範囲の学習を望む人へも対応できるよう、意見を聞く機会を広げたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

本来は情報実習室で行う授業のため、情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。

第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	課題②	発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探すことができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 3 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 4 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 5 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 6 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能を学ぶ。
第 7 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	課題①	Microsoft Word を活用する課題に取り組む。
第 9 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学ぶ。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。

第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	課題②	発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（80%）、平常点（20%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシー科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
	新しいパスワードの設定	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.

Evaluation Criteria

Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.

The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシーⅠ

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念 新しいパスワードの設定	法政大学のコンピューター環境について学ぶ コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.

Evaluation Criteria

Students will be evaluated based on their participation in class.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.

The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシー科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念	法政大学のコンピューター環境について学ぶ 新しいパスワードの設定 コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.

Evaluation Criteria

Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.

The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシーⅠ

2017 年度以降入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
	新しいパスワードの設定	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.

Evaluation Criteria

Students will be evaluated based on their participation in class.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.

The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシー科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピュータを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの基本概念	法政大学のコンピュータ環境について学ぶ 新しいパスワードの設定 コンピュータの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピュータの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピュータの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピュータとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピュータウイルス、コンピュータ犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.

Evaluation Criteria

Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.

The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシーⅠ

2017 年度以降入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシ科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシーⅠでは、初心者を前提として、タイプライター、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
	新しいパスワードの設定	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通して置いて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.

Evaluation Criteria

Students will be evaluated based on their participation in class.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.

The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシー I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の表現、受信、発信を前提とした情報処理および情報システムについて学ぶ。単なるリテラシー科目ではなく、専門科目としての情報科目体系、すなわちシステム、ネットワーク、マルチメディア、プログラミングなどの基礎・応用科目および情報系専攻科目への導入とガイダンスの役割を担う。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に情報分析等の様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

情報リテラシー I では、初心者前提として、タイピング練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピューターの基本概念	法政大学のコンピューター環境について学ぶ 新しいパスワードの設定 コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 2 回	e ポートフォリオ	国際文化学部が全学部生に提供している e ポートフォリオの使い方について学ぶ
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ
第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ

第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシーその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシーその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ、タッチタイピングの小テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 30 %、タッチタイピングのテスト 10 %、期末試験 50 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。
期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score 10%, report 30%, touch typing test 10%, final exam 50%.

Evaluation Criteria

Students will be evaluated based on their participation in class. If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will evaluate the amount and accuracy of the typing.

The final exam will be a test of your understanding of the material covered in class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムやeポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているのかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシー II

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシー I で学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムや e ポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

色川 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムや e ポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシー II

2017 年度以降入学者

四手井 綱章

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

情報リテラシー I で学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式 (情報メディア) が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムや e ポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能 (目次、参考文献、脚注の挿入など) について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能 (並べ替え、検索、フィルター)、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト (教科書)】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムや eポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

四手井 綱章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムや e ポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシー 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシー」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡは科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシーⅠと情報リテラシーⅡの両方のシラバスに目を通して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation. If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報リテラシーⅡ

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報リテラシーⅠで学んだ内容を元に文章作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといったコンピューターを用いた情報表現の基礎を学ぶ。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文章作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP4

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムや eポートフォリオを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンバスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ
第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ

第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。
また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。
なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 40 %、期末試験 50 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

期末試験は授業で学んだ内容をどれだけ理解しているかについて問う問題を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報リテラシー I と情報リテラシー II は科目名は異なりますが、実際には同じ日に続けて授業を行います。従って、実際の授業においては授業の流れを考慮して情報リテラシー I と情報リテラシー II の内容を若干入れ替えることがあります。受講の際にあたっては情報リテラシー I と情報リテラシー II の両方のシラバスに目を通しておいて下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn information processing and information systems based on the information representation, reception, transmission. This class also has the role of guidance to major information science subjects such as information system, network, multimedia, programming.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Each student is expected to prepare and review using the textbook before and after the class.

When assignments are given, please complete them in time for the deadline and submit them according to the instructions in the learning support system.

It is also recommended that you do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time.

Distribution.

Normal score: 10%, Report: 40%, Final exam: 50%.

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, you will receive a maximum grade of B. If you are absent more than six times, you will receive a grade of E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The final exam will consist of questions on how well you understand the content of the class.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の一番の目的は、「コンピュータが使えるようになること」ではありません。皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、やりたい事ができるようになる（＝実践的な実務能力を身につける）ことです。情報処理の技術は日進月歩ですから、今のコンピュータが使えるようになって、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、各コンピュータ・ソフトウェアの操作の「やり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時検索して見つけられるようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ・ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的操作方法を習得します。

<オンラインでの開講について>

2 月現在、大学の方針では対面授業が可能（※）ですので、原則対面授業とします。ただし、新型コロナウイルス感染拡大（COVID-19）に伴うオンラインでの開講を余儀なくされる可能性は否定できません。また、対面授業が可能であっても、将来的にオンラインミーティング等を使いこなすことも、この授業の目的に沿います。その意味で、皆さんの環境を調査しつつ、一部の授業をあえてオンラインで開講する計画です。ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、上記の目的が変わることはありません。

※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】

Windows 環境で基礎的な PC リテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使える Office2019（Word・Excel・PowerPoint）や Google の Web サービス、クラウド等の基本操作および活用方法を知ります。また必要時には操作方法を検索する技術を身につけることを目標とします。

<オンライン開講について>

前述のとおり、もし授業がオンラインでの開講になっても、授業の目的や到達目標が変わることはありません。ただし、環境が整わない場合などは、基本操作を実際に演習することが困難な場合があります。そのため、学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能ないようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
- (2) 毎回の授業は、講義と演習を組み合わせで行います。
- (3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報を検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。

時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

<オンラインでの開講になった場合>

前述のように、オンライン開講を余儀なくされた場合は、その時々状況に合わせて授業計画を柔軟に変更していかなくてはなりません。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。授業開始日前に学習支援システムを確認してください。

また、オンライン開講をする場合でも、原則授業時間は対面授業と同じ時間にリアルタイムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション Windows の基本操作 ネットリテラシーとセキュリティ	授業ガイダンス。授業の目的の確認。 情報教室 PC へのログイン方法の確認。自身の PC を使用する場合、使い方の確認。 WindowsPC の基本的な使い方の説明。 ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。
第 2 回	電子メールとネットの基本 USB メモリの取扱方法 学習環境を整える	電子メールの仕組みと使用上の注意点。電子メールと他のコミュニケーション・ツールや SNS との比較。 USB メモリの使い方と利用上の注意点。 アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。 学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。 オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。 ウェブの仕組みについて理解する。情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。 Dropbox の利用と、注意点。 教科書によるネットリテラシーの復習。 Windows の基礎の復習。 ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。 応用的な文章作成方法。 Word で絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは。Excel でできることを知る（頭出し）。 脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認） 計算式や関数の基本的な使い方。見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。 Excel でグラフを作成する。 Excel の表やグラフを Word に貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。
第 3 回	Zoom の基本操作 ウェブの仕組みと情報検索 クラウドの利用	
第 4 回	Word(1)	
第 5 回	Word(2)	
第 6 回	Word(3) Excel(1)	
第 7 回	Excel(2)	
第 8 回	Excel(3)	

第 9 回 Excel(4)	Excel でのリスト管理（データベース）。 Excel とワードの合わせ技（差し込み印刷）。
第 10 回 PowerPoint(1)	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を習得する。 発表資料としての PowerPoint ファイルの作成。
第 11 回 PowerPoint(2)	簡易 DTP としての PowerPoint の利用。 Word Excel との連携。
第 12 回 Office ソフト総合演習	Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第 13 回 Google のサービスと Office ソフトの合わせ技	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用し、最終課題を行う。
第 14 回 総合演習	授業で扱った内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・授業で扱った内容を、次回までに必ず復習しておいてください。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。

【テキスト（教科書）】

『情報リテラシー 教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』 矢野文彦 著 オーム社（定価：本体 1900 円）

【参考書】

- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・IT エンジニア・SE のためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体 1800 円）
- ・『レポート・論文作成法』 井下千以子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』 <http://www.hoseikyoiku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、それまで（高校も含む）の経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。初心者であっても、真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要最低限のゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 50%）
- ・毎回の小課題の提出（未提出はその課題について 0 点。提出遅れは減点）（配点比重 30%）
- ・総合課題（配点比重 20%）

【学生の意見等からの気づき】

- ・読まなければならない授業内容の説明が多いという意見があったので、授業内容のレジュメの量を減らし、口頭での説明の比率を上げます。
- ・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワークは続けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスを良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・指定された時までに USB メモリー（容量 1 GB 以上が望ましい）を入手し、持参すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅からのネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、対面授業の時にも自身のパソコンを持参することを推奨する（必須ではありません）。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時限に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, you will learn the way of using internet search engines as well as basic skills needed in using computer software and network services.

< Learning Objectives >

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

< Learning activities outside of classroom >

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

The learning time outside of classroom should be at least four hours per class.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end assignment:20%, Every class assignments:30%, In class contribution:50%.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コンピュータの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピュータの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がみつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	コンピュータの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算: インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word): 続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン: 1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン: 2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン: 3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン: 4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題: HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、レポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなど活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価 (配点: 50%) と各セッション後の課題の評価 (配点: 50%) で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

初回の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zoom ID は学習支援システム (Hopii) を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る時は抽選になります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application software such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

The goal is to understand the basic structure of the computer and to master the usage of fundamental application soft wares. Outside of class, the aggressive applications of the software on the preparation of the reports of the other classes are wanted. Grading is based on the reports of the usual classes and the evaluation on the several application subjects.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピュータの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がひつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	コンピュータの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word) : 続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 P R のホームページを作成するなどに活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

初回の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zoom ID は学習支援システム（Hopii）を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る場合抽選となります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application software such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

The goal is to understand the basic structure of the computer and to master the usage of fundamental application soft wares. Outside of class, the aggressive applications of the software on the preparation of the reports of the other classes are wanted. Grading is based on the reports of the usual classes and the evaluation on the several application subjects.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日常で活かす IT】

コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。

以下の 3 点を授業の柱とします。

■動画作成をマスターしよう！

動画を通じて他者に自分の考えを伝えることとは？

ひとは何に注目するのか？

みるひと・聞く人の関心を引く動画をフリーソフトを利用してつくる

■オリジナルスタンプをつくってみよう！

コンピュータでデザインって難しくないの？

自分の考え（アイデア）をカタチにする

自分だけのスタンプをつくってみよう

■エクセルのマスターになる

計算だけじゃない、エクセルの使い方～予測・分析

エクセルでプログラミング

パソコンの基本的操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受発信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に動画編集やプレゼンツール（Davinci resolve/パワーポイント）とドローソフト（Inkscape）の仕様の実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション (授業方針と計画・評価方法について)	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS の基本的な取扱い方法について	OS の利用方法

- | | | |
|---|----------------------------------|----------------------------------|
| ④ | 電子メールの基礎と日本語入力方法～FEP 活用の基礎理解操作方法 | メールアカウントの設定とメールソフトについて |
| ⑤ | アプリケーションソフト習得～MS Word (1) | 基礎的な日本語入力 |
| ⑥ | アプリケーションソフト習得～MS Word (2) | 表組みと描画など |
| ⑦ | アプリケーションソフト習得～MS Word (3) | アウトラインプロセッサについて |
| ⑧ | アプリケーションソフト習得～MS Excel (1) | エクセルの基礎的な画面構成の理解 |
| ⑨ | アプリケーションソフト習得～MS Excel (2) | 計算式と関数①
再計算機能と相対・絶対番地について |
| ⑩ | アプリケーションソフト習得～MS Excel (3) | 計算式と関数②
条件判断関数の基本とその応用 |
| ⑪ | アプリケーションソフト習得～MS Excel (4) | マクロ・VBA 基礎 |
| ⑫ | ドローイングソフト習得～inkscape ① | ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味 |
| ⑬ | ドローイングソフト習得～inkscape ② | オリジナルスタンプを作ってみよう |
| ⑭ | プレゼンテーション～prezi ① | prezi を使ったプレゼンテーションの作成～アカウント取得など |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ・情報における権利意識と保護意識の醸成 15 %
- ・著作権・複製権などの権利関係に対する具体的な理解 15 %
- ・授業毎に課す提出課題の提出度と完成度 70 %

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

履修に当たってはできれば PC を所有していることが望ましいです。定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

[IT to utilize in daily life] We aim to acquire practical skills and knowledge for how to utilize computers in daily life and enrich activities at the university. The following three points are the pillars of the class.

■ Let's master video creation! What does it mean to convey your thoughts to others through videos? What do people pay attention to? It was Using free software to create videos that attract the attention of viewers and listeners.

■ Let's make an original stamp! Isn't it difficult to design with a computer? It was Shape your thoughts (ideas) Let's make your own stamp.

■ Become an Excel master How to use Excel, not just calculations-prediction / analysis Programming in excel Basic operations that are indispensable to the information-oriented society, such as the basic operation of personal computers and how to use application software, as well as the proactive transmission and reception of information using the Internet, the ability to utilize various media, and the development of information morals. We plan to put the acquisition of information literacy ability at the center of the lesson and try to develop the lesson according to the skill level of each student as much as possible.

【Learning Objectives】

We aim to acquire information literacy as an expression method as well as business-related. Especially for presentations, you will actually learn the actual specifications of video editing and presentation tools (Davinci resolve / PowerPoint) and drawing software (Inkscape) by learning the theory and methodologies.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour foreach class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Fostering awareness of rights and protection in information 15%
- ・ Specific understanding of rights such as copyright and reproduction rights 15%
- ・ 70% of the degree of submission and completion of the submitted assignments imposed for each class

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

大八木 智一

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 5/Tue.5

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、人生を歩む上で必要となる長期的なライフデザインの考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。

これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。

授業内では参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します (グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等)。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては参加型授業の実施について一部変更となる可能性があります。

また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード: キャリアデザイン、旅をしよう!】

2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】	8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】
3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題を SDGs の観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】	9	思考のメカニズム	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティーに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティー】	10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するところの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】	11	仕事と幸福	キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンの PERMA モデルを取り上げて、幸福（ウエルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウエルビーイング、PERMA モデル、自己効力、幸福経営】
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】	12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について 4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4S トランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】	13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】

14 学生時代の過ごし方 春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード: 過ごし方、付き合い方、自己戦略】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017年度以降入学者

高橋 実

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会で働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中では、自ら課題を見つけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えればPDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。

最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。

なお、初回の講義（第1回）は、オンデマンド授業（コンテンツ動画配信）で行います（登録者に学習支援システムを通じて案内します）。対面型の講義以外に、学習支援システムやメールで活用しますので、受講期間は必ずチェックを行うようにしてください。

■課題等の提出

- ・学習支援システムを利用して行います。
- ・講義後のリアクションペーパーの提出、最終レポート、その他講師が講義で指定した課題等の提出となります。

■フィードバック方法

- ・提出された課題については、学習支援システムを通じてフィードバックを行います。
- ・講師とのメールも活用してフィードバックを行います。
- ・提出された課題を、授業内で取り上げる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	【オンデマンド授業（オンラインによる動画視聴）】企業の人事部長経験、現役の人事パラレルワーカー（複業者）として、私自身のキャリアケースをお話しします。また、授業の内容、進め方、受講のルールなど、この授業を通して何を学ぶべきなのかをお伝えします。
2	大学での学び	「大学でもっと多くのことを学んでおけば良かった」。多くの大人がそう考えています。大学は、キャリアの始まり。学び方も姿勢も大きく変えなければいけません。では、大学という場所では何を学び、何を活かしていくべきなのか。現役社会人の立場から皆さんに伝え、これからの大学での学び方を考えます。
3	社会に出るというトランジション	大学を卒業すると、多くの皆さんが社会に出ていきます。このステップは、人生でも最大級のトランジション（変わり目）になります。そこで何が変わるのかを学び、自分自身のキャリアで何を考え、行動していくかを解説します。
4	働くことの意味	「働く」意味の一つは「労働に対する対価（＝給料）を得る」というものですが、果たしてそれだけでいいのでしょうか？ では「働きがい」とはどういうことでしょうか？ 働くことは本当に辛いことなのでしょうか？ 大人でも悩むこのテーマをみなさんと一緒に考えます。
5	外部環境と個人のキャリア	世界が未曾有のコロナ禍に直面し、大きく変化してきています。これからの日本は世界でも未曾有の少子化による労働人口減少に直面します。未来の日本でこれからどんなことが起こるのか？ そして、その中でどのように生きていくべきなのか。皆さんを取り巻く社会の外部環境について解説します。
6	働き方と多様性	女性は勿論、外国人、高齢者、障害者、LGBTQ など、働く人も多様になってきており、これからの時代は働き方そのものが大きく変わります。企業の人事部長経験や現役の人事パラレルワーカー（複業者）の視点から、これからの社会の変わりゆく多様性の解説と、「多様性とは何か」をみなさんと考えます。
7	なぜ企業は採用をするのか	なぜ企業は「採用」を行うのでしょうか？ 現役の人事だからこそ話せる、企業がなぜ採用をするのか、どんなことを考えて採用を行っているのかを赤裸々にお話しします。就活先となる企業の考えを理解することで、自分のこれからのキャリアを考えます。

8	組織におけるコミュニケーション	組織に属すると、周囲の人と必ずコミュニケーションを行っていかねばなりません。組織の目的と個人の目的は時としてずれてしまうこともあります。社会に出ると、好きでない人と付き合わねばならないことも多くあります。そんな組織で、どのようにコミュニケーションをとっていくべきなのか。組織におけるコミュニケーションを解説しつつ、みなさんと考えていきます。
9	キャリアモデルケーススタディ	現役で働いている社会人に、ご自身のキャリアと、どういう想いでキャリアを培ってきたのかをお話しいただきます。そして、そのキャリアモデルをもとに、自分自身のキャリアに置き換えて考えます。（オンライン配信との併用を行う予定です）
10	「評価される」とはどういうことか	社会人になり、経験を重ね、スキルやノウハウがつくと、立場が変わり、社会的責任が大きくなり、お給料も上がっていきます。そのキャリアプロセスでは常に「評価される」ということが行われます。「評価される」ということはどういうことなのかを解説を交えながらみなさんと考えます。
11	インターンシップ（キャリアセンター担当）	インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人の体験ができる貴重な機会。本授業では大学キャリアセンター職員が先輩の事例や参加の注意点などを解説します。
12	ポストコロナのオンライン時代に向けてやるべきこと	コロナ禍で、世界中の環境が激変しました。大変なこともあります。一方でテクノロジーや働き方の変化は大きく進むことになります。個人の自由度や選択肢は高まっていますが、その分求められるものが高度化しています。ポストコロナ時代の未来をみなさんが幸せに生きていくためにやるべきことを解説しつつ、みなさんと考えていきます。
13	学生生活と就職の準備（キャリアセンター担当）	就職はキャリアのゴールではないですが、大学生活に重なる就職活動とはどのようなものか、そのために準備しておくことを大学キャリアセンター職員が解説します。
14	学生生活の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考えます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを一緒に議論します。最後には「大学時代に何をやるか」の目標を設定しましょう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
また、復習のために、本受講の受講者は、必ず「本授業専用のキャリアマイノート」を準備し、毎回の授業の内容および感じたことを記載してもらいます。

なお、上記のほか、授業内で案内した書籍や、自主的なレポートは積極的に受け付けます（自主的な取り組みは加点評価を行います。積極的に取り組んでみてください）

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で、参考になる書籍を適宜案内します。積極的に読んでみてください。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に提出してもらうリアクションペーパーが 70%。期末レポートが 30% の割合で評価します。また、平常点も加味します。本授業は、授業の内容を通して「自らのキャリアと向き合う」ことを求めます。単に授業を聞くだけでなく、以下の点を求めます。

①考察をする

「考察」とは「物事を明らかにするために調べて考えること」です。授業で伝えた内容をもとに、さらに「考察」してもらうことが必要です。

②自分自身に向き合う

本授業は「自らのキャリアを考える」ことを主眼に置いています。授業内容をもとに必ず自分自身に照らした考察を求めます。

③自身の行動に落とし込む

本授業で伝えた知見は、それをもとに自身の行動が変わることが必要です。具体的な行動目標を立てて実行することを求めます。また、提出を求める課題以外でも、授業で案内した書籍を読んで自分自身を振り返ったり、授業内容をもとに「行動した」レポートなどは、随時任意で提出することができます。その場合、提出内容を精査した上で、加点評価として加味します。積極的に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

「自分自身のキャリアを真剣に考えたい」人のみが受講してください。自分自身と向き合うためには、時間と熟慮が必要で、かなり厄介で面倒なプロセスです。本講義では、徹底的に自分自身と向き合ってもらうため、積極的な受講意識が必要になります（決して楽ではありません）。

本気で自身のキャリアを考えたい人には、将来社会人になってからも活用できる知識とノウハウが身に着くはずです。

【学生が準備すべき機器他】

本授業専用「キャリアマイノート」を必ず事前準備して、毎回の授業に臨んでください。授業内で学んだこと、そして感じたことを積極的にキャリアマイノートに記載してください。そのための筆記用具は必ず持参してください。

また、第 1 回目の講義のほか、数回オンラインを活用した講義を行います。また、毎回の講義の情報や課題提出、コミュニケーションのために学習支援システムやメール等を積極的に活用します。そのため、パソコンおよびインターネット接続が必須になります。受講者の皆さんは準備し、随時チェックを行ってください。

【その他の重要事項】

■講師プロフィール

新卒で JCB 入社、その後 NTT、トヨタグループ企業で新規事業企画、営業などを歴任。その後 40 歳にして人事に転身。トヨタファイナンス、創業 100 年企業、IT 企業の HDE（現 HENNGE）で人事部長を歴任。これまで 2,000 人を超える新卒学生と面接を行っている。

2018 年から現職。「マイクロ人事部長」として、パレルワーク（複業）を行って複数社の企業の組織改革や人事に携わっている。現職の人事としてリアリティのあるキャリアデザイン講義となります。

https://www.dodadsj.com/content/180403_takahashi/

<https://bizhint.jp/report/398484>

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, we think about your university life and work in society together.

I support you can spend great time in your university life.

In this class, I provide the basic knowledge on the concept necessary for your “long-term” life and working in society.

【Learning Objectives】

Through this opportunity, the purpose of this lesson is to create your good attitude that you can think and act by yourself.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is 2 hour for each class meeting.

And Students must prepare a "notebook of your career" in this class.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

- ・ Short reports after each class meeting : 70%
- ・ Reports in Term-end : 30%

CAR100LA	キャリアデザイン入門 大八木 智一 開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 1/Thu.1 単位数：2 単位 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	2017 年度以降入学者	2 大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】
	【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいとします。授業の中では、人生を歩む上で必要となる長期的なライフデザインの考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。 これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。		3 激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題を SDGs の観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】
	【到達目標】 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。 そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。 最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。		4 働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティ】
	【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1		5 働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】
	【授業の進め方と方法】 【この授業は教室での対面授業で実施します】 基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。 授業内では参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。ただし、新型コロナウイルス感染症の状況によっては参加型授業の実施について一部変更となる可能性があります。 また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。		6 結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】
	【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No 【授業計画】 授業形態：対面/face to face		7 グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
回	テーマ 1 オリエンテーション	内容 本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】		

8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】	14	学生時代の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】
9	思考のメカニズム	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。 【テキスト（教科書）】 特に定めません。 【参考書】 授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。 【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。 【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。 【学生が準備すべき機器他】 当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。 【その他の重要事項】 新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。 【Outline (in English)】 【Course Outline】 This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society. 【Learning Objectives】 The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform. 【Learning activities outside of class】 In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report. 【Grading Criteria/Policy】 In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.		
10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることからのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するこころの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】			
11	仕事と幸福	キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンのPERMAモデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMAモデル、自己効力、幸福経営】			
12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然的な出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について4Sトランジション理論、ブランドハプンスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4Sトランジション理論、ブランドハプンスタンス理論、セレンディビティ】			
13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】			

CAR100LA		2	大学での学び	大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】
キャリアデザイン入門		2017 年度以降入学者		
大八木 智一				
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 2/Thu.2				
単位数：2 単位				
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：				
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】				
この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいとします。授業の中では、人生を歩む上で必要となる長期的なライフデザインの考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。 これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。				
【到達目標】				
自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。 そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。 最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1				
【授業の進め方と方法】				
【この授業は教室での対面授業で実施します】 基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。 授業内では参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、相談、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。ただし、新型コロナ感染症の状況によっては参加型授業の実施について一部変更となる可能性があります。 また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】		
3	激変する社会環境と直面する課題	現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題を SDGs の観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。 【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】		
4	働き方と多様性	これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。 【キーワード：ダイバーシティ】		
5	働くことの意味	働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】		
6	結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題	社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】		
7	グローバル化社会と異文化理解	これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】		

8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】	14	学生時代の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】
9	思考のメカニズム	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。 【テキスト（教科書）】 特に定めません。 【参考書】 授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。 【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。 【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。 【学生が準備すべき機器他】 当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。 【その他の重要事項】 新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。 【Outline (in English)】 【Course Outline】 This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society. 【Learning Objectives】 The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform. 【Learning activities outside of class】 In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report. 【Grading Criteria/Policy】 In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.		
10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることがらのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するこころの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】			
11	仕事と幸福	キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンのPERMAモデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMAモデル、自己効力、幸福経営】			
12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】			
13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】			

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中で、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の4年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan, Do, See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

●参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、意見交換、相談、フィードバック等）。

●大学の行動方針レベルが変更になった場合、授業形態が変更になる可能性があります。原則として対面で行います。授業実施形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。

●課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

●課題・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業主旨、進め方、成績評価方法、求められる参加態度、およびカリキュラム等について概要を説明します。キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方についても解説します。
第 2 回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても触れていきます。

第 3 回 学生と社会人

社会人に求められていることは？ 学生とは何が異なるのだろうか。それぞれの役割を比較し、社会人基礎力やライフスキルなどを理解することで、現在の自分の強みや将来にむけて強化すべき力を考えていきます。

第 4 回 学生生活と就職の準備

本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。

第 5 回 ストレスとレジリエンス（復元力）

適度なストレスは、何かを頑張るための良い刺激となり、自己成長へ繋がります。一方、心が苦しくなったり、嫌な気分になったり、やる気をなくしたりする悪いストレスもあります。ストレスを理解し、対処する方法を学びます。

第 6 回 働き方と多様性

変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域におけるダイバーシティ（多様性）、多様な雇用形態、パラレルキャリアなどについて考えていきます。

第 7 回 やる気とモチベーション

これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。

第 8 回 プロフェッショナルのキャリア

好きや得意を仕事にするのは理想的なキャリア選択のひとつです。専門領域でプロフェッショナルとして活躍するには、自身で目標を設定し、掲げた目標やビジョンを実現するための努力、行動、セルフマネジメントが必要です。プロフェッショナルとは？ を一緒に考えていきます。

第 9 回 働くことの意味

働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかをグループで議論し発表します。またアルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考えてみます。

第 10 回 インターンシップ

インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので積極的な参加を期待しています。本授業では窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。

- 第 11 回 新しい働き方・暮らし方・ライフワークバランス
コロナ禍でリモートワークが一挙に加速し、ワーケーションなどの新しい働き方を選択する人も増えてきました。新しい働き方・働く人や企業の倫理観の変化等についての事例・実態を解説します。新しい働き方のメリット・デメリット、将来の自身の働き方・休み方・暮らし方・ライフワークバランス等について考えていきます。
- 第 12 回 グローバル人材とは
グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
- 第 13 回 企業や組織を知る
今気になっている会社や公共機関、各種団体などについて情報収集します。また、皆さんがこれまで知らなかった会社や組織についても情報収集し、結果について議論します。
- 第 14 回 学生生活の過ごし方
春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に書き出し「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。私たちが活用できるブランドハプスタンス理論・意思決定理論などを紹介していきます。またどのような人材として成長していくのが望ましいかについて考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードをしたりプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎回のリアクションペーパー提出＝出席＜ 35 %＞、授業への貢献＝取組・発言＜ 25 %＞ 期末試験での成績＜ 40 %＞
- ・リアクションペーパーの提出をもって出席確認をします。各授業テーマについての理解度や新たな気づきなど、記述内容・論理構成等を評価します。
- ・授業への貢献は、発言・質問・積極的な取り組み・授業への取り組み姿勢等評価をいたします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・昨年度の授業は、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、オンラインでも双方向のコミュニケーションを活発に行っていました。
- ・学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンライン授業用の通信端末機器
- ・筆記用具
- ・本授業用の専用ノート（デジタルも可）

※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

- 担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約 20 年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。
- 企業や大学で、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にもものつてきました。相談件数は数千件に及びます。フリーランスのキャリアコンサルタントとしても仕事を請け負っています。
- 授業では、これまでの私自身の経験や企業・組織の実態なども共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザイン的重要性などを伝えていきます。

【Outline (in English)】

■ Course outline ■

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

■ Learning Objectives ■

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

■ Learning activities outside of classroom ■

Before/after each class meeting, students will be expected to spend approx. two hours for each class meeting.

■ Grading Criteria /Policy ■

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report: 35% Term-end examination:40% In-class contribution:25%

CAR100LA

キャリアデザイン入門

2017 年度以降入学者

宮木 あづさ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思えます。

授業の中では、より長期的な人生を歩む上で必要となる考え方や、社会や働くということについての基本的な知見を提供します。これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。

【到達目標】

自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題が与えられ、正解を出来るだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。

そのような中で、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS（Plan, Do, See）サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思えます。最初は小さな一歩で構いません。半年の間に、授業をきっかけにして、何か行動してみることを目指しましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

●参加型の授業スタイルを積極的に取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループ・ワーク、対話、意見交換、相談、フィードバック等）。

●大学の行動方針レベルが変更になった場合、授業形態が変更になる可能性があります。原則として対面で行います。授業実施形態の詳細は、逐次「学習支援システム」よりお知らせします。

●課題・リアクションペーパーの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

●課題・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業主旨、進め方、成績評価方法、求められる参加態度、およびカリキュラム等について概要を説明します。キャリアとは？ キャリアデザインとは？ 語源や定義、さまざまな捉え方についても解説します。
第 2 回	大学での学び	大学とはどういう場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値等について考えていきます。また、大学での学び方についても触れていきます。
第 3 回	学生と社会人	社会人に求められていることとは？ 学生とは何が異なるのだろうか。それぞれの役割を比較し、社会人基礎力やライフスキルなどを理解することで、現在の自分の強みや将来にむけて強化すべき力を考えていきます。
第 4 回	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として 9 割が就職をします。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつ頃から始まり、どのような準備が必要かを卒業生のデータを踏まえながらキャリアセンター職員が解説します。
第 5 回	ストレスとレジリエンス（復元力）	適度なストレスは、何かを頑張るための良い刺激となり、自己成長へ繋がります。一方、心が苦しくなったり、嫌な気分になったり、やる気をなくしたりする悪いストレスもあります。ストレスを理解し、対処する方法を学びます。
第 6 回	働き方と多様性	変化の激しい社会において自分らしく働くには、多様な選択があります。労働の領域におけるダイバーシティ（多様性）、多様な雇用形態、パラレルキャリアなどについて考えていきます。
第 7 回	やる気とモチベーション	これまでの自分を振り返り、自身の価値観の形成、やる気に影響を与えた出来事や人との出会いなど、モチベーションの源泉を見つけていきます。
第 8 回	プロフェッショナルのキャリア	好きや得意を仕事にするのは理想的なキャリア選択のひとつです。専門領域でプロフェッショナルとして活躍するには、自身で目標を設定し、掲げた目標やビジョンを実現するための努力、行動、セルフマネジメントが必要です。プロフェッショナルとは？ を一緒に考えていきます。
第 9 回	働くことの意味	働く意味・働きがいとは何かを考えていきます。自分の周りで仕事をしている人（親、兄弟、親戚など）にインタビューを実施して、その結果を持ち寄り共有します。身近な大人は、何のために働いているのかをグループで議論し発表します。またアルバイトは就業経験としてどの程度の意味があるのかを考えてみます。

- 第 10 回 インターンシップ
インターンシップとひとことで言っても多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なります。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので積極的な参加を期待しています。本授業では窓口であるキャリアセンター職員が過去の先輩の事例や参加する際の注意点などを解説します。
- 第 11 回 新しい働き方・暮らし方・ライフワークバランス
コロナ禍でリモートワークが一挙に加速し、ワーケーションなどの新しい働き方を選択する人も増えてきました。新しい働き方・働く人や企業の倫理観の変化等についての事例・実態を解説します。新しい働き方のメリット・デメリット、将来の自身の働き方・休み方・暮らし方・ライフワークバランス等について考えていきます。
- 第 12 回 グローバル人材とは
グローバル化社会で活躍する人材になるには、英語をはじめとした外国語の能力は確かに大切です。さらに異文化を理解する能力などが求められます。「グローバル人材」「グローバル化社会」について議論します。
- 第 13 回 企業や組織を知る
今気になっている会社や公共機関、各種団体などについて情報収集します。また、皆さんがこれまで知らなかった会社や組織についても情報収集し、結果について議論します。
- 第 14 回 学生生活の過ごし方
春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの 3 年半をどう過ごすかを考えていきます。卒業までに成し遂げたいことと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に書き出し「明日から取り組むこと」を決め、グループ内で共有していきます。私たちが活用できるブランドハプスタンス理論・意思決定理論などを紹介していきます。またどのような人材として成長していくのが望ましいかについて考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。学習支援システムにて資料を共有します。必要に応じてダウンロードをしたりプリントアウトをして、学習に役立ててください。

【参考書】

授業の中で適宜指示をします。

【成績評価の方法と基準】

・毎回のリアクションペーパー提出＝出席＜ 35 %＞、授業への貢献＝取組・発言＜ 25 %＞ 期末試験での成績＜ 40%＞
・リアクションペーパーの提出をもって出席確認をします。各授業テーマについての理解度や新たな気づきなど、記述内容・論理構成等を評価します。
・授業への貢献は、発言・質問・積極的な取り組み・授業への取り組み姿勢等評価をいたします。

【学生の意見等からの気づき】

・昨年度の授業は、学生同士のグループディスカッション・学生と担当教員との対話・社会で活躍するゲストスピーカーの講演と質疑応答など、オンラインでも双方向のコミュニケーションを活発に行っていました。

・学生の意見を踏まえて、今年度も、学生と教員・学生同士・学生と先輩社会人との相互コミュニケーションを活発におこなう機会を引き続き重視します。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンライン授業用の通信端末機器
- ・筆記用具
- ・本授業用の専用ノート（デジタルも可）

※他に必要なものがあれば、授業の中で適宜指示をします。

【その他の重要事項】

●担当教員は、コンサルティングファーム、IT・メーカー企業にて約 20 年以上にわたる人事部門での実務経験があります。現在はメーカーに勤務しています。

●企業や大学で、社員や学生のキャリアカウンセリングを実施し、様々な個別相談にも関わってきました。相談件数は数千件に及びます。フリーランスのキャリアコンサルタントとしても仕事を請け負っています。

●授業では、これまでの私自身の経験や企業・組織の実態なども共有し、社会に出ていく準備期間にあたる大学時代でのキャリアデザインの重要性などを伝えていきます。

【Outline (in English)】

■ Course outline ■

This course introduces the concepts necessary for a long-term life, and basic knowledge of society and working.

Students are required to think about (1) how to spend at university and (2) working in society. It also enhances the skills needed to spend campus life meaningfully.

■ Learning Objectives ■

The aim of this course is to cultivate attitudes that you can think and act by yourself.

■ Learning activities outside of classroom ■

Before/after each class meeting, students will be expected to spend approx. two hours for each class meeting.

■ Grading Criteria /Policy ■

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short report: 35% Term-end examination:40% In-class contribution:25%

	CAR100LA キャリアデザイン入門 2017 年度以降入学者 大八木 智一 開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses 単位数：2 単位 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員： 【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 この授業では、①大学での過ごし方と②社会で働くということについて、一緒に考えることで、皆さんが学生生活を有意義に過ごせるよう支援していきたいと思います。授業の中では、人生を歩む上で必要となる長期的なライフデザインの考え方や、社会ではたらくことについての基本的な知見を提供します。 これらを通じて、自分で考えて行動できるような姿勢を培うことが、この授業の目的です。 【到達目標】 自分の頭で考え、率先して行動できるようになることを目標とします。受験を含む高校まででは、課題を与えられ、正解をできるだけ早く見つける能力が求められてきました。しかし社会では、自ら問題を発見し、解決に向けて行動していく必要があります。また、誰かが正解を与えてくれるわけではありません。正解も一つではないでしょう。今日の正解が明日も正しいとは限りません。 そのような中では、自ら課題をみつけ、解決策を考え、そして実行し続けていく姿勢が求められます。大学の 4 年間では、考えながら行動し続ける姿勢、言い換えれば PDS (Plan,Do,See) サイクルを回して行ける基本的な力を身につけてほしいと思います。 最初は小さな一歩でも構いません。半年の間に、授業をきっかけにして何か行動してみることを目指しましょう。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1 【授業の進め方と方法】 【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】 基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回の授業は動画配信（音声付き）を配信するので、それを視聴したのちに各回の課題レポートの作成に取り組んでください。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内（6 日間）において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。授業動画は、通常毎週木曜日（休講期間を除く）に配信予定です。配信から 6 日以内（具体的日程は授業中に指示します）に学習支援システム上で提出してください。また、提出されたレポート内容等のフィードバックは翌々週の授業内で行う予定です。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No 【授業計画】 授業形態：オンライン/online <table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th><th>テーマ</th><th>内容</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td><td>オリエンテーション</td><td>本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】</td></tr> </tbody> </table>	回	テーマ	内容	1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】	2 大学での学び 大学とはどのような場なのか、何のために大学で学ぶのか、大学の付加価値について考える。また、大学生時代にしかできない法政大学という場を有効に活用する学び方や、大学生として生活、学修していく際の基礎知識について学ぶ。【キーワード：自ら学ぶ、大学の活用】 3 激変する社会環境と直面する課題 現代は世界的に社会環境が激変している時代である。このような時代において社会が直面している課題を SDGs の観点から読み起こし、みなさん自身がこれらの諸課題に対してどのような関与、貢献ができそうかについて考える。併せて、わが国の将来に向けて重大な課題となっている少子高齢化の問題についても考えていく。【キーワード：SDGs、少子高齢化、パンデミック】 4 働き方と多様性 これからの変化の激しい社会において自分を生かしていく働き方について考えていく。ダイバーシティに関する基本的考え方に加え、雇用形態の変化やパラレルキャリア、短時間労働化の可能性、テレワークなど、新しい働き方のあり方について考える。【キーワード：ダイバーシティ】 5 働くことの意味 働くとはどういうことなのか？これまでの主な労働論や労働観にも触れながら、これからの時代の「働く」を考えていく。特に、働く目標と目的、動機、働くことを通じての自己実現と幸福の追求、提供価値の対価としての報酬、これからの働き方などの側面から考えていく。【キーワード：労働観、働く目的】 6 結婚、家族、ジェンダーを取り巻く諸問題 社会生活を営んでいくための基礎的な単位であるとともに生活の基盤ともなる家族、および、その周辺で密接に関連している結婚やジェンダーに関する諸問題について考察する。併せて共働き問題、子育て問題、家族関係の変容についても触れていく。【キーワード：結婚、家族、ジェンダー】 7 グローバル化社会と異文化理解 これからの世の中はグローバルな活動が今まで以上に当たり前になってくる。そのような社会において活動していくためには各自がグローバル人材として成長していくことが必要である。そのためにはどのような資質を備えていくべきなのかについて学ぶ。【キーワード：グローバル化、カルチャーマップ】
回	テーマ	内容						
1	オリエンテーション	本科目の授業趣旨、授業の進め方、求める参加態度、カリキュラム等について概要と授業を受講する意義について説明する。【キーワード：キャリアデザイン、旅をしよう！】						

8	インターンシップ	インターンシップとひとことで言っても多種多様なタイプがあり、それぞれに期待できる効果も異なる。インターンシップは大学に在学しながら社会人としての体験を企業の内側から体感ができる貴重な機会なので、積極的な参加を期待したい。本授業では本学でのインターンシップ参加の窓口であるキャリアセンターの職員が先輩たちの事例や参加する際の注意点などについて解説する。【キーワード：インターンシップ】	14	学生時代の過ごし方	春学期が終わろうとしているいま、これから卒業までの3年半をどう過ごすかを考える。卒業までに成し遂げたいこと、それを成し遂げるためにどのような活動が必要かを具体的に議論する。そして、「明日から取り組むこと」をみなさん自身で決め、グループ内で共有する。【キーワード：過ごし方、付き合い方、自己戦略】
9	思考のメカニズム	自分自身の行動を計画し実践していくための基礎は、物事を正しくとらえ、正しく考え、正しく判断していくことである。ここでは、そのための基礎的技術について学ぶ。特に、思考のメカニズム、ロジカルシンキング、クリティカルシンキングを重点的に取り上げて学ぶ。【キーワード：ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、フェルミ推定】	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義聴講時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。 【テキスト（教科書）】 特に定めません。 【参考書】 授業内において、必要に応じて副読本、参考文献等を紹介しします。 【成績評価の方法と基準】 毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。 【学生の意見等からの気づき】 本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。 【学生が準備すべき機器他】 当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。 【その他の重要事項】 新型コロナウイルスの拡散状況によって、授業方法が春学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。 【Outline (in English)】 【Course Outline】 This class provides you with the long-term career design concept. You need to live your life and basic knowledge you need to work in society. 【Learning Objectives】 The goal of this class is to find the problem, to think about the solution, and to have the ability to continue to perform. 【Learning activities outside of class】 In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report. 【Grading Criteria/Policy】 In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.		
10	意思決定と認知バイアス	いま身の回りで起きていることがらのうち、皆さんのキャリアデザインに深くかかわってくる概念について基礎的な理解を深める。具体的には「ものごとの捉え方（認知）」、「自分が自由にできる裁量権（選択）」、「決めることに関するこころの動き（意思決定）」について学んでいく。【キーワード：二重過程理論、認知バイアス】			
11	仕事と幸福	キャリアデザインの究極的な目的は、キャリア形成を通じた幸福の追求である。ここでは様々な幸福論について触れたのちに、セリグマンのPERMAモデルを取り上げて、幸福（ウェルビーイング）になるための要素についてキャリアデザインの観点から考えていく。【キーワード：ウェルビーイング、PERMAモデル、自己効力、幸福経営】			
12	チャンスを広げるための行動様式の改革	チャンスを広げられる人は自分の前にある偶然の出会いをチャンスとして捉えて行動できるかどうかにかかっている。自分でチャンスを広げていくことができる行動様式について4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論から学んでいく。【キーワード：4Sトランジション理論、ブランドハプスタンス理論、セレンディピティ】			
13	学生生活と就職の準備	本学の学生は、卒業後の進路として9割が就職をする。就職がキャリアのゴールではないが、多くの学生が直面する就職活動がいつごろから始まり、どのような準備が必要なのかについて、卒業生のデータも踏まえながらキャリアセンターの職員が解説する。【キーワード：自己理解、就職活動】			

CAR100LA		2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
キャリアデザイン応用				企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
大八木 智一		3	仕事研究③ 「企画」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses		4	仕事研究④ 「開発」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
単位数：2 単位		5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。		8	働き方研究① 「チームワーク」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローアップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思います。		9	働き方研究② 「リーダーシップ」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
【到達目標】		10	働き方研究③ 「モチベーション」	
この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。				
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【授業の進め方と方法】				
【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】				
基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回の授業は動画配信（音声付き）を配信するので、それを視聴したのちに各回の課題レポートの作成に取り組んでください。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内（6日間）において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。授業動画は、通常毎週木曜日（休講期間を除く）に配信予定です。配信から6日以内（具体的な日程は授業中に指示します）に学習支援システム上で提出してください。また、提出されたレポート内容等のフィードバックは翌々週の授業内で行う予定です。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
なし / No				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし / No				
【授業計画】 授業形態：オンライン/online				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。		

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 11 | 働き方研究④
「メンタルヘルス」 | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。 |
| 12 | キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」 | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。 |
| 13 | キャリア戦略②
「人生の経営戦略」 | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。 |
| 14 | キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのために、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では授業聴講時間以外に予習・復習・課題レポート等の作成のために4時間以上の学習を要することを標準としています。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。さらに、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によってを受講、学習をしてください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture ,this class requires at least four hours to prepare ,review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also ,the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LA		2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
キャリアデザイン応用				企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
大八木 智一				開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses		3	仕事研究③ 「企画」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
単位数：2 単位				マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。		7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローアップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思います。		8	働き方研究① 「チームワーク」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
【到達目標】		9	働き方研究② 「リーダーシップ」	
この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。		10	働き方研究③ 「モチベーション」	
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【授業の進め方と方法】				
【この授業はオンライン（オンデマンド型）で実施します】				
基本的に学習支援システムを活用したオンライン（オンデマンド型）で実施します。毎回の授業は動画配信（音声付き）を配信するので、それを視聴したのちに各回の課題レポートの作成に取り組んでください。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内（6日間）において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。授業動画は、通常毎週木曜日（休講期間を除く）に配信予定です。配信から6日以内（具体的な日程は授業中に指示します）に学習支援システム上で提出してください。また、提出されたレポート内容等のフィードバックは翌々週の授業内で行う予定です。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
なし / No				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし / No				
【授業計画】 授業形態：オンライン/online				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。		

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 11 | 働き方研究④
「メンタルヘルス」 | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。 |
| 12 | キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」 | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。 |
| 13 | キャリア戦略②
「人生の経営戦略」 | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。 |
| 14 | キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのために、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では授業聴講時間以外に予習・復習・課題レポート等の作成のために4時間以上の学習を要することを標準としています。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70%以上であることが必要です。さらに、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によってを受講、学習をしてください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LA		2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
キャリアデザイン応用		3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
大八木 智一		4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 1/Thu.1 単位数：2 単位		5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。		8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思います。		9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローアップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
【到達目標】		10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【授業の進め方と方法】				
【この授業は教室での対面授業で実施します】				
基本的には教室での対面で授業を実施しますが新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回の授業方式が変更になる場合があります。また、課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定の期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。また、課題レポート等におけるコメントに関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。		

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 11 | 働き方研究④
「メンタルヘルス」 | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。 |
| 12 | キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」 | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。 |
| 13 | キャリア戦略②
「人生の経営戦略」 | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。 |
| 14 | キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスで自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのために、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では授業時間以外に予習・復習・課題レポート等の作成のために4時間以上の学習を要することを標準としています。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。さらに、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によってを受講、学習をしてください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture ,this class requires at least four hours to prepare ,review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also ,the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LA		2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できても営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
キャリアデザイン応用		3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
大八木 智一		4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火 5/Tue.5 単位数：2 単位		5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：		6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。		8	働き方研究① 「チームワーク」	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。
この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思います。		9	働き方研究② 「リーダーシップ」	リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォローアップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
【到達目標】		10	働き方研究③ 「モチベーション」	自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】				
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1				
【授業の進め方と方法】				
【この授業は教室での対面授業で実施します】				
基本的には教室での対面で授業を実施しますが新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回の授業方式が変更になる場合があります。また、課題の取り組みはオンラインで実施します。毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定の期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。また、課題レポート等におけるコメントに関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】				
あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】				
なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。		

- | | | |
|----|----------------------------------|--|
| 11 | 働き方研究④
「メンタルヘルス」 | 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。 |
| 12 | キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」 | キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。 |
| 13 | キャリア戦略②
「人生の経営戦略」 | 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。 |
| 14 | キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」 | これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのために、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業では授業時間以外に予習・復習・課題レポート等の作成のために4時間以上の学習を要することを標準としています。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したりして自分自身の知識やスキルの向上を目指されることを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、その全14回分を合計した総合点で評価（100％）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率が70％以上であることが必要です。さらに、課題レポートの総得点が満点の60％以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内の提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題の記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本に書いてある考えではなく、みなさんが自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」考えを記述内容を期待します。

【学生が準備すべき機器他】

授業資料は、「授業支援システム」に一定期間公開するので、各自パソコン、タブレット等によってを受講、学習をしてください。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。また、授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Learning activities outside of class】

In addition to the lecture ,this class requires at least four hours to prepare ,review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also ,the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

IDN100LA

大学を知らう <法政学>への招待 2017 年度以降入学者待

小林 ふみ子、小倉 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！ みなさんのこの大学や学部がいつどのようになり、どうして作られたのか知ってみたくはありませんか？

この授業では、創立から 142 年めとなる大学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者 2 名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の Hoppii のコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「山の手」の市ヶ谷 と地域社会	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介する。（科目責任者=小倉淳一）
2	市民社会の開明とノンエリート の夢～法政大学と日本近現代史①	創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（浜村彰）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約 30 年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20 世紀初頭に始まる留学生の受け入れをはじめ、本学の国際関係を概観する。（高柳俊男）
5	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
6	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）
7	校歌「よき師よき友つどひ結べり」	成立背景や作詞・作曲者、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（児美川孝一郎）

- | | | |
|----|----------------------------|--|
| 8 | 大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④ | 戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。（横内正雄） |
| 9 | ユニークな研究所 | 多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる音楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。 |
| 10 | 先輩からのエール | 社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度はオリンピック 5 回連続出場銀・銅メダリスト三宅宏実さん（キャリアデザイン学部卒）をお招きします。お楽しみに！ |
| 11 | 近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤ | 本学が大きく変貌した 90 年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。（職員・各学部教員） |
| 12 | 近年の発展～法政大学と日本近現代史⑥、そして未来へ | 前回に引き続き 2000 年代に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学んだ後、法政大学の展望を総長にお聞きします。（各学部教員・廣瀬克哉総長） |
| 13 | 「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える | 法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。（科目責任者=小林ふみ子） |
| 14 | まとめのワーク | 「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。廣瀬克哉総長の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。（廣瀬克哉総長・科目責任者=小林） |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。一昨年オープンしたばかりの HOSEI ミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！ デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の Hoppii のコメントにみえる取り組み 70 %、期末レポート 30 % で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設 12 年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、授業支援システムを通じて配付します。

【その他の重要事項】

・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講ももちろん歓迎します。
・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to study for four hours before and after each class.

(Grading Policies) The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座

2017 年度以降入学者

サブタイトル：金融リテラシー

コーディネータ：小原文明、講師（ゲストスピーカー）：
イオンフィナンシャルサービスグループ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開：○ グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義テーマにより、講師が交代する場合があります。複数の講師（ゲストスピーカー）で実施予定です。

毎回アクションペーパーを提出していただきます。最終授業では、13 回までの講義内容のまとめや復習等の総括の他、期間中の試験に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性	生活を取り巻く社会環境、金融リテラシーの意義・重要性を学ぶ
2	人生とお金	人生にかかるお金の意味、ライフデザインの重要性などを学ぶ
3	お金を稼ぐ	職業選択の意義、就労形態と生涯所得、収支管理、社会保障制度の基礎を学ぶ
4	お金と経済	金融・経済環境の変化とその対応方法を学ぶ
5	ライフプランを描く①	ライフプランの全体像について学ぶ
6	ライフプランを描く②	ライフプランの重要性、人生の3大費用、キャッシュフローの分析などを学ぶ
7	お金を借りる①	クレジットカード・消費者ローンの仕組みと利用上の留意点
8	お金を借りる②	住宅ローンの仕組みと利用上の留意点
9	お金をふやす①	投資の意義、リスクとリターンの関係、長期投資の重要性などを学ぶ
10	お金をふやす②	投資信託の仕組み、分散投資の重要性などを学ぶ

11	リスクに備える①	人生におけるリスクと保険の役割、生命保険の活用などを学ぶ
12	リスクに備える②	生活に潜むリスクと保険の役割、損害保険の活用などを学ぶ
13	トラブルに強くなる	学生や若手社会人が陥りやすい悪徳商法・金融商品詐欺と未然防止策などを学ぶ
14	ライフプランを描く③、総括	ライフプランの作成・演習など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の準備学習及び復習時間は、各 2 時間を想定します。
配布資料および web 上の参考資料を必要に応じて読むこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

資料については開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（7 割以上）（20%）、中間小テスト（2 回程度）（20%）および最終レポート（60%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定する

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2022 年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

また、2021 年度はオンラインの授業形式で実施しましたが、2022 年度は状況に応じて、対面での直接質問対応やディスカッションができるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline (in English)】

In present-day society, it is unavoidable to live without variety of financial services, moreover these financial services are becoming more complexed. Therefore, it is important to have “Financial Literacy” including the knowledge about personal monetary related matters and skill to make proper decisions.

By studying financial literacy through this course, we aim to achieve every student

- ・ To understand the important matters related to financial literacy, including budgeting, saving, investing, borrowing, insurance and personal financial management
- ・ To acquire skills to make proper decisions by (a) searching and gathering information, (b) careful and logical consideration, (c) necessary comparisons.

This course is voluntary provided by AEON Financial Service Co., Ltd.

【Learning Objectives】

a) Acquiring necessary knowledge and decision-making skill related to personal financial matters for their better life with financially independence.

b) Using the learned skills and knowledge, students will be able to make their life planning including budgeting and proper selection of necessary financial services.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to have preparation and review for each lesson. We estimated 2 hour each for preparation and review.

Students are expected to read distributed texts and reference materials as necessary

【Grading Criteria /Policy】

The score is calculated based on three subjects.

a) Attendance report contribute 20%

b) Mini exam contributes 20% (few times during the course)

c) Culminating report 60%

Based on the score calculated above, the granting of credit will be decided.

CAR100LA

課題解決型フィールドワーク

2016 年度以前入学者

サブタイトル：

YONGUE JULIA SALLE

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル：○ 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Devising SDGs (Sustainable Development Goals) and integrating them into their strategies have become priorities for companies across Japan. A company's SDG focus can shape its public image and influence consumers' purchasing decisions. Through fieldwork, problem-solving discussions, and presentations, students will think critically about corporate SDGs and consider their potential long- and short-term impacts on society, the environment, and Japanese capitalism.

【到達目標】

(1) To offer a practical, experience-based approach to the study of Japanese business, corporate social responsibility, entrepreneurship, and sustainability.

(2) To develop students' analytical skills through group discussion and fieldwork.

(3) To prepare students to enter the workforce by improving their professional skills and providing them with opportunities to consider what kind of company or organization they would like to work for after graduation.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

As stated in the course title, students will be presented with a set of questions that they must try to answer themselves through interviews with specialists, fieldwork, lectures, assigned readings, etc. The first half of the course will focus on the impact of corporate SDGs on Japanese society and the environment, while the second will examine the role of SDGs and social entrepreneurs(hip) in a local and regional context.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Features of Japanese business and the economy, self-introductions, fieldwork/interview etiquette, etc.
2	What are the features of Japanese SDGs?	Field trip to the National Museum Emerging Science and Innovation
3	Interview with an automobile industry journalist	SDGs in the automobile industry: strategies, achievements, and challenges
4	Interview with a managing director at LIXIL	SDG strategies at LIXIL, achievements, and challenges

5	Interview with a French documentary filmmaker	Corporate responsibility: Japan's SDG challenges after Fukushima
6	Is capitalism sustainable?	Problem solving session and small group discussion
7	Garbage as a resource	Class field trip to Ishizaka Sangyō in Saitama prefecture
8	Interview with founder of Mukai Craft Beer (Kochi prefecture) OR an urban farming consultant	Social entrepreneurship: virtual tour/ interview OR interview on urban farming
9	SDGs and social entrepreneurs(hip) in Japan	Problem solving session and final project preparation
10	Last class: Final presentations and wrap up	Presentations and/or short videos; class discussion
10.1	Final project preparation	Field work and student-led discussions
10.2	Final project preparation	Field work and student-led discussions
10.3	Final project preparation	Field work and student-led discussions
10.4	Final project submission	Field work and student-led discussions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。/According to university guidelines, preparation and review should be approximately two hours a week for a two-credit course.

【テキスト（教科書）】

Reading assignments and other information concerning the course will be posted on Hoppii.

【参考書】

Selected references

Automobile industry interview:

<https://www.forbes.com/sites/peterlyon/?sh=3f99c471e073>

Lixil interview:

<https://www.lixil.com/en/sustainability/sdgs/>

Myriam Sidibe (2020), Brands on a mission: how to achieve social impact and business growth, Routledge, 2020; "Introduction" and Chapter 11, "How LIXIL is changing the narrative on sanitation."

Fukushima documentary interview:

<https://en.pikapikafilms.com>

Craft beer brewing in Kochi interview

<https://mukaicraftbrewing.com>

OR

Urban farming interview:

<https://japanurbanfarming.wordpress.com/2018/05/22/urban-farmer-jon-walsh-finds-fertile-ground-in-tokyo/>

FIELD TRIP 1 (Miraikan):

<https://www.miraikan.jst.go.jp/en/>

FIELD TRIP 2 (Ishizaka Sangyō):

<https://zenbird.media/ishizaka-sangyo-an-industrial-waste-treatment-company-aims-to-circulate-all-resources/>

Eiko Maruko Siniawer (2018), Waste: Consuming Postwar Japan, Cornell University Press, Chapter 8, "Green consciousness."

【成績評価の方法と基準】

Participation and reflection papers: 40%

Final paper and presentation: 60%

Asking questions and/or making comments during the interviews and field work is a requirement to do well in this course!

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Some of the interviews will not be conducted in person (in the classroom). To participate, students will need access to a high-speed internet connection. Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

This course meets 10 rather than 14 times during the fall semester. On the first day of class, 20 students will be selected to enroll. The selection process will be based on motivation and enthusiasm, academic interests, and career aspirations.

As the course will be taught entirely in English, students should have an excellent command of English and academic writing experience.

*Note that due to the time difference between France and Japan, class 5 may be scheduled later in the day than our regular class.

Except for the field trips, all the classes will be held on Thursdays.

【Outline (in English)】

Same as above.

課題解決型フィールドワーク		2016 年度以前入学者	4	競馬番組・競走体系	優秀な繁殖血統の選抜のために JRA が G1 を頂点としたレース体系を構築していることが重要であることを理解する。 JRA 番組企画室：市ヶ谷から発信
サブタイトル：競馬とウェルビーイング（スポーツビジネスとしての競馬がもたらす人馬のウェルビーイング）			5	競馬法とその改正の歴史	競馬の実施において最も重要な法律となる「競馬法」の歴史を知り、競馬法に定められている内容、競馬法と今の競馬体系がどのように関連しているのかについて理解する。また、勝馬投票券の仕組みを学び、払い戻し率や投票券について理解する。 JRA 経営企画室：市ヶ谷から発信
高見 京太			6	ギャンブル等依存症対策	競馬がギャンブルであることは事実であり、競馬によるギャンブル等依存症が存在することを理解するとともに、JRA が取り組む依存症対策について学ぶ。 JRA 経営企画室：多摩から発信
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 4/Wed.4			7	競馬の舞台装置	競馬場のメインである馬場（芝コース・ダートコース）について学ぶとともに、職員が執務するエリアや観客エリアについても学び、競馬場という施設全体を知り、週末のフィールドワークに備える。 JRA 施設部：市ヶ谷から発信
単位数：2 単位			8	競馬のプロモーション戦略	JRA の実施している各種プロモーションの目的や狙いを知り、そのために実施しているメディア戦略やイベント戦略について理解する。 JRA イベントプロモーション課：市ヶ谷から発信
他学部公開：○ グローバル： 成績優秀： 実務教員：			9	映像コンテンツとしての競馬	JRA の歩みと競馬映像の歴史を知るとともに、映像コンテンツの役割や課題・今後の展望について学ぶ。 JRA 映像企画課：市ヶ谷から発信
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			10	デジタルマーケティング（競馬のコンピューターシステムと情報サービス）	JRA におけるコンピューターシステムや情報サービスの歴史を知り、インターネットによる情報提供や投票システムの構築などについて理解し、今後の課題や展望について学ぶ。 JRA 経営企画室：市ヶ谷から発信
我が国における競馬は、1861 年に最初のレースが行われてから 160 年の歴史を持ち、現在では 10 万人もの観客を集めるレースも行われ、その人気は新聞やテレビなどのメディアによる報道からも読み取れる。競馬で主に注目を集めるのは競走馬であるが、その背後には幅広い領域において多くの専門家が支えることで成り立っている。また、競馬は、我が国における大きな産業の一つでもあり、馬のレースというだけでなく、人々の暮らしに様々な影響を与えている。本講義では競馬をテーマとして、スポーツビジネス、サステナブルな社会、そして人馬のウェルビーイング（健康で幸せな暮らし）のあり方について学ぶ。			11	馬事振興への取組み	JRA が馬事振興に取組む意義や目的、実際にどのような馬事振興を行っているかについて理解する。 JRA 馬事振興課：多摩から発信
【到達目標】			12	引退競走馬を軸にした循環型社会と農福連携	人馬のウェルビーイングに関連した実践を学習し、その応用の手段を考察する。 佐野竜平（現代福祉学部）：多摩から発信
・競馬の歴史、国内外の競馬界、競走馬、競馬場について知り、スポーツとしての競馬を理解する。			13	世界の競馬	競馬は世界中で行われているが、その競馬の歴史や競馬の種類、日本の競馬の世界的な立ち位置や諸外国の競馬について学ぶ。 JRA 国際企画室：市ヶ谷から発信
・競馬ビジネスの戦略を理解し、ビジネスとして成立させている要因とその運営を支えるメカニズムについて体系的な知識を得る。					
・引退競走馬のセカンドキャリアについて学び、人馬のウェルビーイングへの取り組みについて理解する。					
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】					
【授業の進め方と方法】					
本授業は、競馬に関わる専門的な事項については JRA の協力を得て講義する。					
ショートレポートを提出することにより各回の学びを整理し、最後に、レポート課題を提出する。					
開講時限は、水曜日 4 時限目の 3 キャンパス授業時間が重なる 15:30 から 16:40 の 70 分間である。ただし、11 月 12 日（土）は、JRA 東京競馬場において、9:30 から 16:30 に実施する。					
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】					
あり / Yes					
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】					
あり / Yes					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	学習内容の理解	本授業の概要を知り、学びの目的を明確化して、到達目標を確認する。そして、課題解決型フィールドワークとしての学習の計画を定める。 高見京太（スポーツ健康学部）：多摩から発信			
2	競馬の概要	競馬とは何か、日本中央競馬会の業務とは何か、といった、競馬とそれを運営する日本中央競馬会（JRA）について理解する。 JRA 経営企画室：多摩から発信			
3	競走馬の生産	競走馬を生産するうえで重要な馬の種付け、妊娠、出産、産後等の母馬と仔馬の疾病や注意点などについて理解し、馬の繁殖について学ぶ。 JRA 生産育成対策室：多摩から発信			

- 14 引退競走馬のセカンド キャリア (リトレーニング) 競馬を引退した馬のセカンドキャリアにおける「リトレーニング」という手法を学び、それを大学で人馬のウェルビーイングに繋げる取組みを理解する。
柏村晋史 (体育会馬術部監督) : 多摩から発信

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 84%、Short reports : 16%

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回のショートレポート : 84% (6 点 × 14 回)

最終レポート : 16%

【学生の意見等からの気づき】

本年度より開講される科目のため無し。

【その他の重要事項】

本授業は、講師が教室で講義をする授業は 14 回ありますが、実際に教室に講師が来て授業をするのは、市ヶ谷が 7 回、多摩が 7 回です。受講する学生は、14 回全てをそれぞれのキャンパスで受講してもらうことを前提としていますので、7 回は対面で、7 回は教室のスクリーンに映し出されるもう一方のキャンパスの授業を受講することになります。

時間割は水曜日の 4 時限目ですが、15 : 30 から 16 : 40 までの 70 分間です。したがって、市ヶ谷キャンパスの皆さんは、4 時限目開始時刻の 30 分後から始まり、多摩キャンパスの皆さんは 4 時限目終了時刻の 30 分前に終わります。

11 月 12 日 (土) の JRA 東京競馬場見学は、授業時間 (4 コマ分) に相当します。したがって、これに参加しないと授業を 4 回欠席したことになりますので注意して下さい。

なお当日は、競馬開催日ですので、JRA 職員の案内による施設の見学と講義だけでなく、東京競馬場で行われる『武蔵野ステークス』と、阪神競馬場で行われる『京都ジャンプステークスおよびデイリー杯 2 歳ステークス』と 3 つの重賞競走を観戦します。

JRA 東京競馬場 東京都府中市日吉町 1-1

アクセス : <https://www.jra.go.jp/facilities/race/tokyo/access/index.html>

十分な感染防止対策を行い、また受入先と協議し、問題がないことを確認したうえで実施します。受講者自身においても、万全の感染症対策をして参加してください。

GIS・多摩 (経済・社会・現代福祉・スポーツ健康)・小金井 (情報科学・生命科学・デザイン工学) の学生は 2 年次以上、それ以外の学部 (法・文・経営・国際文化・環境・キャリア) は 1 年次以上の履修が可能となります。

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, you will learn that horse racing is involved in the sports business, sustainable society, and well-being of human horses.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Learn about the history of horse racing, the domestic and international horse racing world, racehorses, and racecourses, and understand horse racing as a sport.
- B. Understand the strategy of horse racing business and gain systematic knowledge about the factors that establish the business and the mechanisms that support its operation.
- C. Learn about the second career of retired racehorses and understand the efforts of human horses for well-being.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

【到達目標】

『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回 1～2 段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。
授業の最後のリアクションペーパーを提出してもらう。多くの人から質問があった事柄については次の授業の中で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらう。
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後まで話の展開を説明する。どのような出来事が起きるかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらう。
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。
④	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。

⑤ 忠度の最期の事

一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。

⑥ 敦盛最期の事

⑦ 逆櫓の事

⑧ 大坂越の事・嗣信最期の事

⑨ 那須与一の事

⑩ 壇の浦合戦の事・遠矢の事

⑪ 先帝御入水の事

⑫ 能登殿最期の事

⑬ 腰越の事

⑭ 全体のまとめと試験

四国の阿波に上陸した義経が陸路を通して屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
夕刻となって戦いが中断となりそうな時に平氏が扇の的を船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目前にしての義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安徳天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
平氏を滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、それぞれの合戦の様子が把握できたか、『平家物語』の特色を理解できたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる段に必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおその内容を把握するように心がける。復習として、授業内容をしっかりと再確認し、わからなかった部分はまず自分で調べてみる。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『角川ソフィア文庫 平家物語 下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959 年。776 円。

【参考書】

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004 年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014 年。
日下力『平家物語転読』笠間書院。2006 年。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012 年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出する課題レポートの点数（50 %）と、『平家物語』について自分なりにテーマを設定して調べたり考察したりした成果を報告する期末レポートの点数（50 %）とを総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

『平家物語』は登場人物が多いため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Read the "The Tale of the Heike" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

【Learning Objectives】

You can understand and explain the individuality of various characters in "The Tale of the Heike", the contents of events such as various battles, and the characteristics of the work "The Tale of the Heike". You can enjoy the fun of classical literary works.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, be sure to read the stages covered in the class in advance to see what kind of content is written and whether there are any parts that are difficult to understand. Try to grasp the approximate contents of the steps that cannot be taken up in the class. As a review, reconfirm the content of the lesson, and first try to find out what you did not understand. Many commentary books on "The Tale of the Heike" have been published, so reading them will reinforce your knowledge of "The Tale of the Heike". The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Gradeing Policy】

Comeprehensive score of the assignment report (50%) submitted after each class and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the theme of "The Tale of the Heike". And evaluate the grade.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

【到達目標】

義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に示したように、毎回テーマを決めて授業を行う。源義経や弁慶をめぐる出来事が文学作品にどのように描かれているか確認しながら、それぞれの話の特色を理解していく。
この授業はオンデマンドでの開講となる。毎週火曜日の 15 時に学習支援システムに要点と解説を記した教材を掲載するので、教材をもとに学習し、レポートを提出する形で授業を進めていく。
レポートにおいて多くの人から質問があった事柄については次回の授業の教材の中で回答する。そのほか「学習支援システム」により適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。

- ④ 伊勢三郎との出会い 関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
- ⑤ 義経と兵法書 奥州平泉に身を落ち着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
- ⑥ 弁慶の誕生と成長 弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
- ⑦ 義経・弁慶の出会い 京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
- ⑧ 義経・弁慶の主従契約 清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
- ⑨ 頼朝からの刺客 平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入れず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
- ⑩ 義経・弁慶の都落 鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
- ⑪ 静との別れ 義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
- ⑫ 義経・弁慶の北国落 吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
- ⑬ 義経・弁慶の最期 奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
- ⑭ その後の義経伝説 義経伝説は平泉で終わるわけではない。義経が平泉を脱出してさらに北へと向かったとする伝説、北海道からさらに大陸へと向かう義経の伝説などにも注目していく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。復習として、授業の中で疑問に思った事について自分なりに調べてみる。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な古典文学作品の本文を記載したプリントを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出する課題レポートの点数（50％）と、義経伝説に関して自分なりにテーマを設定して調べたり考察したりした成果を報告する期末レポートの点数（50％）とを総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

【Learning Objectives】

Be able to understand, and explain the contents of Yoshitsune and Benkei legends. You can think about how people thought about creating and spreading these legends, and enjoy the fun of classical literature and entertainment.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, read the prints carefully in advance to understand the approximate contents of the stories to be taken up in class. As a review, I will try to find out what I wondered in class. Many books on Minamoto no Yoshitsune have been published, so read some of them so that you can understand the situation of Yoshitsune and Benkei from various angles. The standard preparation / review time for this lesson is 4 hours per lesson.

【Grading Policy】

The score of the assignment report submitted after each class (50%) and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the Yoshitsune legend by setting its own theme are combined. Perform grade evaluation.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 『竹取物語』を読むーおとぎ話の根源を探って

園 明美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他
/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀:○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

『竹取物語』は、現存する我が国最古の物語である。
この物語については、おとぎ話の「かぐや姫のお話」として、幼い頃に絵本や紙芝居で親しんだ人も多くであろう。また、2013年にはアニメ映画化もされて話題になった。
しかし、原典である『竹取物語』を読む機会は、意外に少ないのではないか。
実をいうと、原典の『竹取物語』には、おとぎ話やアニメーションのかぐや姫からは想像できないようなかぐや姫の姿が随所に見られるのである。
本授業では、『竹取物語』の原典を読むことを通して、学生諸君それぞれの「かぐや姫像」・「『竹取物語』像」を見出してほしい。

【到達目標】

『竹取物語』のストーリー展開を、原典の本文を中心に追いながら、おとぎ話やアニメーションに描かれた姿との比較や、背景となる史実や当時の習慣等を知ることを通して、理解を深めてゆく。
なお、受験勉強の古文ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる講義形式。

なお、学習支援システム上でコメントが記入できる形式の授業内容に関わるアンケートへの回答を要求し、その内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。
なお、状況の変化により行動方針レベルが見直された場合は、授業形態を変更することもあり得る。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『竹取物語』を読む	かぐや姫の登場
③	『竹取物語』を読む	求婚者に対する無理難題
④	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅰ 石作皇子
⑤	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅱ庫持皇子
⑥	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅲ 右大臣阿倍御主人
⑦	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅳ大納言大伴御行
⑧	『竹取物語』を読む	求婚者の受難Ⅴ中納言石上麻呂足
⑨	『竹取物語』を読む	帝の求愛Ⅰ 興味から執着へ
⑩	『竹取物語』を読む	帝の求愛Ⅱ 愛情の深化
⑪	『竹取物語』を読む	かぐや姫の昇天Ⅰ 天人の迎えな予告
⑫	『竹取物語』を読む	かぐや姫の昇天Ⅱ 地の人々の抵抗
⑬	『竹取物語』を読む	かぐや姫の昇天Ⅲ 月への帰還

⑭ 『竹取物語』を読む 遣された人々それぞれの嘆き

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。
また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか? を考えてほしい。

【テキスト (教科書)】

特にテキストは定めず、授業支援システムを用いて、毎回必要な資料を配付する。

【参考書】

『竹取物語 (全) ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』(角川ソフィア文庫 2011)
その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容によって評価する(90%)。平常点は最終評価の参考とする(10%)。ただし、毎回提示するアンケートへの回答がない場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか?」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。
したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。
また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to the Tale of Taketori students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about The of Taketori.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

This class needs two hours for preparations for lessons and a review each.

It is not a literal translation of the text and aims at the action of the character and the deep understanding to feelings.

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 10%, Reports 90%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

The answer to questionnaire is required every time.

LIT100LA

日本古典文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：『更級日記』を読むーある中流貴族の女性の人生

園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses
単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『更級日記（さらしなにつき）』は、平安時代後期に生きた一人の中流貴族の女性が、晩年になってから自分の人生を振り返って書き記したものである。

物語に憧れた少女時代から、短期間の宮仕えを経て結婚し、やがて夫との死別後は寂しい生活を送る中で、とうとう夢見た生活を手に入れることができなかったことをしみじみと思う作者の姿が描かれている。

本授業では、『更級日記』の読解を通して、現代にも通じる人生の「理想と現実」を見てみたい。

【到達目標】

『更級日記』の本文を物語の展開に沿って紹介し、この物語の持つ特性や、当時の貴族社会の価値観を考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンドによる講義形式。

なお、学習支援システム上でコメントが記入できる形式の授業内容に関わるアンケートへの回答を要求し、その内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

なお、状況の変化により行動方針レベルが見直された場合は、授業形態を変更することもあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『更級日記』を読む	夢見る少女、都へ行く
③	『更級日記』を読む	物語への憧れⅠ『源氏物語』への耽溺
④	『更級日記』を読む	物語への憧れⅡ姉との語らいの中で
⑤	『更級日記』を読む	姉の死
⑥	『更級日記』を読む	父の不遇
⑦	『更級日記』を読む	観音のお告げ
⑧	『更級日記』を読む	はじめての出仕
⑨	『更級日記』を読む	結婚の理想と現実
⑩	『更級日記』を読む	物詣での日々Ⅰ周囲の無理解への苦悩
⑪	『更級日記』を読む	物詣での日々Ⅱ若き日を内省して
⑫	『更級日記』を読む	安定した日常Ⅰ穏やかな夫婦関係
⑬	『更級日記』を読む	安定した日常Ⅱ子どもへの期待
⑭	『更級日記』を読む	夫の死ー人生を顧みて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、各自紹介された内容をふり返し、次のストーリー展開といかに関わりを持つのか、個々に考察を深めるよう努めてほしい。

また、受験勉強ではないので、文法等にこだわった逐語訳ではなく、エピソードの内容をかみ砕いて解説し、学生諸君に登場人物が何を感じ、いかに行動したのか？を考えてほしい。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、授業支援システムを用いて、毎回必要な資料を配付する。

【参考書】

『更級日記 ビギナーズ・クラシックス 日本の古典』（角川ソフィア文庫 2007）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容によって評価する（90%）。平常点は最終評価の参考とする（10%）。ただし、毎回提示するアンケートへの回答がない場合は、評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回コメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくつもりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to literary work called "Sarashina Nikki" students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about "Sarashina Nikki.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

This class needs two hours for preparations for lessons and a review each.

It is not a literal translation of the text and aims at the action of the character and the deep understanding to feelings.

Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score 10%, Reports 90%. To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

The answer to questionnaire is required every time.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 伊勢物語を、在原業平のイメージを中心に、和歌と物語の関係を考える

成島 知子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察する。また 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

【到達目標】

和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受する。
現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 学習支援システムを使ってオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	伊勢物語の時代背景、歌物語とはなにか。
2	初段・125 段	主人公在原業平の生涯。成人と終末。成人儀礼の意味
3	高子との恋① 3 段から 6 段	禁断の恋。藤原氏との出自と政治的関わりとの対立
4	高子との恋② 3 段から 6 段	史実とイメージの変化。歌物語が求めるイメージとは何か。
5	東下り① 7 段から 9 段	東下りの意味。貴種流離譚の系譜から考える。
6	東下り② 7 段から 9 段	都誇りの精神、万葉集大伴旅人の望郷歌との比較
7	斎宮との恋① 69 段から 71 段	斎宮とは何か。神聖さと禁忌。禁忌を越えようとする人物像とは。
8	斎宮との恋② 69 段から 71 段	高子との恋との違い。禁断と禁忌のイメージ。

9	惟喬親王との関わり① 政治と友情の関係 82 段 83 段、85 段	
10	惟喬親王との関わり② 非主流派のつながりと悲しみ。享 82 段 83 段、85 段	受者の共感。
11	高子との恋③ 65 段、 76 段、95 段	フィクション化していく恋物語。 物語への接近。
12	古今集との関わり 60 段、106 段	共通する歌の扱いの比較。歌集と 歌物語の関係。伊勢物語は何を重視したのか
13	業平の風流とは	人々が業平に求めたもの。万葉 集、大伴田主との比較
14	テスト	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌に目を向ける意識を持ってほしい。奈良時代から平安時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

角川ソフィア文庫「新版 伊勢物語」石田譲二 角川書店 792 円

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下」阿部俊子
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 伊勢物語」坂口由美子
「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト (持ち込み可) を行う。このテストが評価のほぼ 100%。
評価のポイントは、設定された問題テーマについて作品の表現の読解をふまえて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業となった場合など、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、できれば学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

We will read the story of Ise, which is a song story of the Heian period, along with the life of Ariwara no Narihira, who is the main character, especially in the chapter of love. Through this, we will consider the two genres that represent literature, waka and narrative, and at the same time, read the movements of people over 1000 years ago and think about the value and meaning of literature.

Understand and enjoy the world of Uta Monogatari, which was established from the desire to read the thoughts contained in the short 31-character form of Waka and convey information that does not fit in it.

I would like to consider the differences and connections with the modern novel-centered literature. It was
You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.
Lecture format using texts with modern translations.
Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.
Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.
Expect a non-passive, class participation attitude.

I want you to be conscious of paying attention to the waka poems that remain in modern life, such as Hyakunin Isshu. Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Heian period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

At the end of the semester, a essay test (possible to bring in) will be held on the problem themes announced in advance. This test is almost 100% of the evaluation.

The point of evaluation is whether the set problem theme is considered in one's own way based on the reading comprehension of the expression of the work, whether it is logically stated, and whether it can be expressed in sentences that are easy for others to read. The main point is that.

However, attendance will be taken each time, and 50% or more of the attendance will be eligible for the test.

LIT100LA

日本古典文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：享受者の意識・興味の変化を中心に伊勢物語を
大和物語や能と比較し読む

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化しながら受け継がれていくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。

文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

テキスト以外の作品を扱う時には資料として配布。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・背景の説明 学 習支援システムを使つ てのオンデマンド教 材。詳細は学習支援シ ステムのお知らせを確 認してください	作品理解のため平安時代当時の制 度、和歌、歌物語とはどういうも のか等の背景説明
第 2 回	筒井筒 24 段 一夫多妻制度下の理想	幼馴染との初恋の成就という現代 少女マンガでもありそうな理想像 の恋とは
第 3 回	紀有常との友情 16 段 38 段	筒井筒との関係から、男性貴族同 士の関係性、そこから見える業平 像を読み取る。
第 4 回	大和物語「沖つ白波」 ① 現実味への興味	筒井筒からの変化。業平という縛 りが無くなった物語の変化。
第 5 回	大和物語「沖つ白波」 ②	筒井筒の理想に対してリアルの追 求。

第 6 回	堤中納言物語「灰炭」	次代の変化による享受者の興味の純愛譚からお話へ変	変化を考える
第 7 回	能「井筒」時代をへて	演劇としての抽出。理想が、幻とも演劇に抽出される要素とはなにか	して演じられることの意味
第 8 回	母との関わり 伊勢物語 58 段、84 段	主人公の出自の意味。大和物語「ならのみかど」との関わり	
第 9 回	兄行平の造形 伊勢物語 79 段、87 段、101 段	家族との関わり、政治的な立ち位置の違う業平との対比。	
第 10 回	能「松風」 業平の陰に隠れる存在の兄にスポットをあてる作品がなぜ生み出されるのか	業平の兄として行平像の変容。源氏物語の光源氏像との関わり	
第 11 回	業平の死 125 段	死の描き方。伊勢物語と大和物語との比較	
第 12 回	業平不在の章段 24 段 梓弓「待つ」女性の造形	通い婚制度の中、享受者の多くを占める女性の想いを考える。	
第 13 回	まとめ	日本文化における伊勢物語とはどのような意味があり、影響があったのか	
第 14 回	レポート提出	伊勢物語、もしくはその享受についてのレポート提出。提出時に論文の形式等についての指導を行う	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビなどで能が放送されるときに、興味をもって見ていると、イメージがでやすいと思う。
奈良時代から室町時代くらいまでの日本史を、高校の日本史レベルぶ振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫 新版伊勢物語 石田穰二 792 円

【参考書】

「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 上巻」雨海博洋 岡山美樹
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 下巻」雨海博洋 岡山美樹
「マンガ能百番」渡辺睦子 平凡社
「まんが日本の古典 堤中納言物語」坂田靖子 中央公論社
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時提出の学期末のレポート。
伊勢物語や、その享受、その後の作品について、自分なりに設定したテーマで、4000 字相当のもの。これがほぼ評価の 100%。
作品の表現に対する読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業の場合などではディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

We read the story of Ise, focusing on the chapters that have a remarkable influence on later literary works. While comparing how things of the same subject change with Yamato Monogatari and Noh's works, we will consider the position and value of Ise Monogatari in Japanese literature and culture.

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

We will also find out the relationship between the enjoyment of literary works and the creation of new literary works.

While being influenced by the times when literary works were established, the state of contemporary literature is also based on the two aspects of the value that can be understood beyond the times and the understanding and enjoyment of works that are deepened by understanding the times. I want to think in view.

Lecture format using texts with modern translations.

Distributed as materials when dealing with works other than texts.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.

Expect a non-passive, class participation attitude.

When Noh is broadcast on TV, I think it's easy to create an image if you are interested in watching it.

Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Muromachi period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Report at the end of the semester submitted at the time of the final class.

A theme that I set for myself about the story of Ise, its enjoyment, and the works that followed, and is equivalent to 4000 characters. This is almost 100% of the evaluation.

An important evaluation criterion is whether the expression of the work is properly read and the thoughts are expressed in logically easy-to-understand sentences.

Attendance is taken every hour, and more than half of the attendance is eligible for report submission.

LIT100LA	
日本古典文学 A	2017 年度以降入学者
サブタイトル：伊勢物語を、特に在原業平のイメージを中心に、和歌と物語の関係を考える	
成島 知子	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 2/Wed.2	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代の歌物語である伊勢物語を、主人公とされる在原業平の一生に添って、とくに恋の章段を中心に読んでいく。それを通して和歌と物語という、文学を代表する 2 つのジャンルについて、考察する。また 1000 年以上昔の人の心の動きを読み取り、文学の価値、意味について考えていく。

【到達目標】

和歌という 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取り、その中に納まりきれない情報を伝えたいという思いから成立した歌物語の世界を理解、享受する。
現代の小説中心の文学のあり方との違いやつながりをも視野にいれて考察していきたい。
古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。
現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。
また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。
受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 学習支援システムを使ってオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	伊勢物語の時代背景、歌物語とはなにか。
2	初段・125 段	主人公在原業平の生涯。成人と終末。成人儀礼の意味
3	高子との恋① 3 段から 6 段	禁断の恋。藤原氏との出自と政治的関わりとの対立
4	高子との恋② 3 段から 6 段	史実とイメージの変化。歌物語が求めるイメージとは何か。
5	東下り① 7 段から 9 段	東下りの意味。貴種流離譚の系譜から考える。
6	東下り② 7 段から 9 段	都誇りの精神、万葉集大伴旅人の望郷歌との比較
7	斎宮との恋① 69 段から 71 段	斎宮とは何か。神聖さと禁忌。禁忌を越えようとする人物像とは。
8	斎宮との恋② 69 段から 71 段	高子との恋との違い。禁断と禁忌のイメージ。

9	惟喬親王との関わり① 82 段 83 段、85 段	政治と友情の関係
10	惟喬親王との関わり② 82 段 83 段、85 段	非主流派のつながりと悲しみ。享受者の共感。
11	高子との恋③ 65 段、76 段、95 段	フィクション化していく恋物語。物語への接近。
12	古今集との関わり 60 段、106 段	共通する歌の扱いの比較。歌集と歌物語の関係。伊勢物語は何を重視したのか
13	業平の風流とは	人々が業平に求めたもの。万葉集、大伴田主との比較
14	テスト	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

百人一首など、現代の生活の中に残留する和歌に目を向ける意識を持ってほしい。奈良時代から平安時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫「新版 伊勢物語」石田譲二 角川書店 792 円

【参考書】

講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下」阿部俊子
角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 伊勢物語」坂口由美子
「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
高校時代の日本史の年表
その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末に、事前に発表した問題テーマについての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価のほぼ 100%。
評価のポイントは、設定された問題テーマについて作品の表現の読解をふまえて自分なりに考察し、それが論理的に論述されているかという点、および、他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。
ただし、毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業となった場合など、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、できれば学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

We will read the story of Ise, which is a song story of the Heian period, along with the life of Ariwara no Narihira, who is the main character, especially in the chapter of love. Through this, we will consider the two genres that represent literature, waka and narrative, and at the same time, read the movements of people over 1000 years ago and think about the value and meaning of literature.

Understand and enjoy the world of Uta Monogatari, which was established from the desire to read the thoughts contained in the short 31-character form of Waka and convey information that does not fit in it.

I would like to consider the differences and connections with the modern novel-centered literature. It was

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase. Lecture format using texts with modern translations.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension. Expect a non-passive, class participation attitude.

I want you to be conscious of paying attention to the waka poems that remain in modern life, such as Hyakunin Isshu. Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Heian period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

At the end of the semester, a essay test (possible to bring in) will be held on the problem themes announced in advance. This test is almost 100% of the evaluation.

The point of evaluation is whether the set problem theme is considered in one's own way based on the reading comprehension of the expression of the work, whether it is logically stated, and whether it can be expressed in sentences that are easy for others to read. The main point is that. However, attendance will be taken each time, and 50% or more of the attendance will be eligible for the test.

LIT100LA

日本古典文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：享受者の意識・興味の変化を中心に伊勢物語を
大和物語、能と比較し読む

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

伊勢物語を、とくに後の文学作品への影響が顕著な章段を中心に読む。同主題のものが、どう変化しながら受け継がれていくかを、大和物語や能の作品と比較ながら、日本文学、文化における伊勢物語の位置づけ、価値などを考える。

【到達目標】

古文という縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。
文学作品が享受されることから新たに文学作品が生み出される関係性も見出していく。
文学作品が成立した時代の影響を受けつつ、時代をこえて理解される価値と、その時代を理解することでより深まる作品理解・享受という 2 面性を踏まえ、現代の文学のありようをも視野に入れて考えたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

テキスト以外の作品を扱う時には資料として配布。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関してのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・背景の説明 学習支援システムを使つてのオンデマンド教材。詳細は学習支援システムのお知らせを確認してください	作品理解のため平安時代当時の制度、和歌、歌物語とはどういうものか等の背景説明
第 2 回	筒井筒 24 段	幼馴染との初恋の成就という現代一夫多妻制度下の理想少女マンガでもありそうな理想像の恋とは
第 3 回	紀有常との友情 16 段 38 段	筒井筒との関係から、男性貴族同士の関係性、そこから見える業平像を読み取る。
第 4 回	大和物語「沖つ白波」① 現実味への興味	筒井筒からの変化。業平という縛りが無くなった物語の変化。
第 5 回	大和物語「沖つ白波」②	筒井筒の理想に対してリアルな追求。

第 6 回	堤中納言物語「灰炭」	次代の変化による享受者の興味の純愛譚からお話へ変	変化を考える
第 7 回	能「井筒」時代をへて	演劇としての抽出。理想が、幻とも演劇に抽出される要素とはなにか	して演じられることの意味
第 8 回	母との関わり 伊勢物語 58 段、84 段	主人公の出自の意味。大和物語「ならのみかど」との関わり	
第 9 回	兄行平の造形 伊勢物語 79 段、87 段、101 段	家族との関わり、政治的な立ち位置の違う業平との対比。	
第 10 回	能「松風」 業平の陰に隠れる存在の兄にスポットをあてる作品がなぜ生み出されるのか	業平の兄として行平像の変容。源氏物語の光源氏像との関わり	
第 11 回	業平の死 125 段	死の描き方。伊勢物語と大和物語との比較	
第 12 回	業平不在の章段 24 段 梓弓「待つ」女性の造形	通い婚制度の中、享受者の多くを占める女性の想いを考える。	
第 13 回	まとめ	日本文化における伊勢物語とはどのような意味があり、影響があったのか	
第 14 回	レポート提出	伊勢物語、もしくはその享受についてのレポート提出。提出時に論文の形式等についての指導を行う	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テレビなどで能が放送されるときに、興味をもって見ていると、イメージがでやすいと思う。
奈良時代から室町時代くらいまでの日本史を、高校の日本史レベルぶ振り返っておくと、時代背景が理解しやすい。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫 新版伊勢物語 石田穰二 792 円

【参考書】

「伊勢物語 笠間文庫一原文&現代語訳シリーズ」永井和子著 笠間書院
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 上巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 伊勢物語 下巻」阿部俊子
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 上巻」雨海博洋 岡山美樹
講談社学術文庫「全訳注 大和物語 下巻」雨海博洋 岡山美樹
「マンガ能百番」渡辺睦子 平凡社
「まんが日本の古典 堤中納言物語」坂田靖子 中央公論社
高校時代の日本史の年表などの資料
その他必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時提出の学期末のレポート。
伊勢物語や、その享受、その後の作品について、自分なりに設定したテーマで、4000 字相当のもの。これがほぼ評価の 100%。
作品の表現に対する読解が適切になされたうえで、自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが重要な評価基準となる。
また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。
文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。
また、大人数の授業の場合などではディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

We read the story of Ise, focusing on the chapters that have a remarkable influence on later literary works. While comparing how things of the same subject change with Yamato Monogatari and Noh's works, we will consider the position and value of Ise Monogatari in Japanese literature and culture.

You will be able to feel that the classical literature, which is often thought to be distant from ancient writing, has some fun that is similar to us today, and at the same time, we have acquired knowledge of literary history, and have an interest in and culture of Japanese culture. The goal is to increase.

We will also find out the relationship between the enjoyment of literary works and the creation of new literary works.

While being influenced by the times when literary works were established, the state of contemporary literature is also based on the two aspects of the value that can be understood beyond the times and the understanding and enjoyment of works that are deepened by understanding the times. I want to think in view.

Lecture format using texts with modern translations.

Distributed as materials when dealing with works other than texts.

Since it comes with a modern translation, the modern translation is not the goal as in the old sentences of high school, but it is a lecture for reading comprehension based on it.

Also, depending on the number of people, I would like to have discussions and exchange opinions on reading comprehension.

Expect a non-passive, class participation attitude.

When Noh is broadcast on TV, I think it's easy to create an image if you are interested in watching it.

Looking back on the history of Japan from the Nara period to the Muromachi period at the level of Japanese history in high school, it is easy to understand the historical background.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Report at the end of the semester submitted at the time of the final class.

A theme that I set for myself about the story of Ise, its enjoyment, and the works that followed, and is equivalent to 4000 characters. This is almost 100% of the evaluation.

An important evaluation criterion is whether the expression of the work is properly read and the thoughts are expressed in logically easy-to-understand sentences.

Attendance is taken every hour, and more than half of the attendance is eligible for report submission.

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。

自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放しで行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「教科書として読まないこと」と理論を学ぶ意味について
第 2 回	芥川龍之介「羅生門」①	「語り」と「枠物語」について
第 3 回	芥川龍之介「羅生門」②	テキストという考え方について
第 4 回	芥川龍之介「羅生門」③	間テキスト性について
第 5 回	芥川龍之介「羅生門」④	草稿について
第 6 回	葉山嘉樹「セメント樽 政治と文学についての中の手紙」①	
第 7 回	葉山嘉樹「セメント樽 下部構造と文学についての中の手紙」②	
第 8 回	葉山嘉樹「セメント樽 書簡体の力についての中の手紙」③	
第 9 回	葉山嘉樹「セメント樽 ストーリーとプロットについての中の手紙」④	
第 10 回	夏目漱石『こころ』①	作家論と作品論について
第 11 回	夏目漱石『こころ』②	視点と焦点化について
第 12 回	夏目漱石『こころ』③	ジェンダーおよびフェミニズム批評について
第 13 回	夏目漱石『こころ』④	読者に視点について

第 14 回 総括

まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

芥川龍之介『羅生門・鼻』新潮文庫

葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』角川文庫

夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、コロナの状況を鑑み、あまりに人数が多すぎる場合は抽選とさせていただきます。特別な理由がない限り、初回の授業は必ず参加するようにしてください。

なお初回の講義は教室の密を避けるためオンデマンド形式で行う予定ですので、アドレス等を通知する必要があるため早めの仮登録を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本近・現代文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。

自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放しで行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	角度を変えた読み方の面白さについて
第 2 回	中島敦「山月記」①	「信用できない語り手」について
第 3 回	中島敦「山月記」②	イメージと象徴について
第 4 回	中島敦「山月記」③	異化について
第 5 回	中島敦「山月記」④	リアリティについて
第 6 回	志賀直哉「城の崎にて」①	「私小説」について
第 7 回	志賀直哉「城の崎にて」②	文化批評について
第 8 回	志賀直哉「城の崎にて」③	風景を描写することについて
第 9 回	志賀直哉「城の崎にて」④	伝記批評について
第 10 回	森鷗外「舞姫」①	「近代文学」の制度について
第 11 回	森鷗外「舞姫」②	文体について
第 12 回	森鷗外「舞姫」③	都市論について
第 13 回	森鷗外「舞姫」④	「自己」の問題について
第 14 回	総括	まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中島敦『山月記・李陵』岩波文庫

志賀直哉『小僧の神様・城の崎にて』新潮文庫

森鷗外『阿部一族・舞姫』新潮文庫

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

また、コロナの状況を鑑み、あまりに人数が多すぎる場合は抽選とさせていただきます。特別な理由がない限り、初回の授業は必ず参加するようにしてください。

なお初回の講義は教室の密を避けるためオンデマンド形式で行う予定ですので、アドレス等を通知する必要があるため早めの仮登録を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

島田 雅彦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「現代国語」を越え、文学作品を能動的かつ創造的に読む。主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こす。多様な作品解釈に向けて、誤読の自由も行使する。神話、日本語、カネ、恋愛、戦争、テクノロジーなどのテーマに基づき、漱石、一葉、谷崎、戦後文学などを読み解く。

【到達目標】

日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話す。随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けが、個別に答えるのではなく、次の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	文学とはどんな営みか?	神話と文学をつなぐもの
2	日本語とはどういう言語か?	魅惑の日本古典
3	お金の話 1	漱石を読む コトバかカネか? 『こころ』の自由な読み方。誤読のススメ。
4	写生文について 2	漱石 明治の散文理論 描写について
5	樋口一葉を読む	少女文学の元祖 言文一致とは別の散文のあり方
6	快楽の活用	谷崎論 官能の哲学
7	性的人間	もてない男の栄光 さまざまな愛の形 同性愛 ロリコン フェティッシュ
8	日本論と日本人論	「武士道」、「日本風景論」、「茶の本」を読む。
9	戦争に負けるということ	大岡昇平 『野火』、『武蔵野夫人』を読む。
10	戦後の文学	戦争文学 占領文学 坂口安吾の認識。敗戦と焼跡の想像力。
11	小説と“場所”	上京小説 よそ者の視点 芥川『歯車』を読む。可能性、パラレルワールド。

12	空っぽな心	三島由紀夫という逆説。川端という曖昧。
13	現代文学と世相	近頃巷で流行るもの 経済と文学。
14	まとめと質疑応答	これまでの質問、コメントに対する回答と論評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【参考書】

『必読 150』太田出版

それ以外は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準はレポート 80 %、平常点 20 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Beyond the "Gendai kokugo(contemporary Japanese)" we read literary works actively and creatively. We primarily focus to discover the hidden desires in Japanese contemporary novels. We also exercise freedom of misreading for interpretation of various works. Based on themes such as myths, languages money, romance, war, technology, we will read about Soseki, Ichiyo, Tanizaki, postwar literature etc. Out-of-class learning requires regular preparation and review. Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80% for the report and 20% for the normal score. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA

日本文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「世界文学」のエポックメイキングな作品を能動的かつ創造的に読む。神話、言語、恋愛、交易、テクノロジーなどのテーマに基づき、履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。

【到達目標】

世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話すが、随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	夢見る力	神話の時代 口承文学
2	古代の英雄	「オイディプス王」を読む
3	聖書の虚実	政治、宗教というフィクション モーゼと一神教 イエスという男
4	恋愛の誕生	『神曲』を読む
5	ドン・ファンと光源氏	女たらし東西比較
6	グーテンベルク以後	出版文化の萌芽 大量複製時代
7	大航海時代	転換期の知性 交易と文学
8	宣教と棄教	East Meets West 日本におけるキリスト教布教の歴史
9	対話について	ドストエフスキー論
10	パロディ文学論	ジョイスとナボコフ 現代亡命文学事情
11	映画と文学	小説から映画へ 映像化された古典
12	政治と文学	物語と歴史のはざま ナショナルリズムというフィクション 想像の共同体
13	テクノロジーと文学	世界の終わり パラレルワールド 時間の彼方 SF の想像力
14	授業内試験か質疑応答	授業内試験ができない場合はレポート。この時間はまとめと質疑応答にあてる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3 倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

【参考書】

『深読み日本文学』島田雅彦著 集英社インターナショナル新書 2017

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は筆記試験 80 %、平常点 20 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Active and creative reading of epoch-making works of "World Literature". Based on themes such as myths, languages, romance, trade, technology, etc., Students face the must-read books of the Western classics, which have been read widely in Japan recognizing the role of literature in world history. Out-of-class learning requires regular preparation and review. Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80% for the report and 20% for the normal score. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA

日本文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 映像で読む戦前文学

佐藤 未央子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、日本近代文学が成立した明治期から昭和 20 年代までの文学を論じる。ドラスティックに変化する、いわゆる〈近代〉化の過程で、作家たちはいかなる言葉によって社会と、ひいてはそれを存立させる制度と切り結んできたか。同時期に発達する諸メディア (写真・雑誌・映画等) との関わりを参照しながら考えていく。また、戦前の作品がいまの時代に対して持つ批評的意義を積極的に読み解いていきたい。

【到達目標】

・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・文学作品は周辺の諸メディアと関わりながら成り立ってきたことを具体的な例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション ※オンライン (ZOOM)	授業内容と進め方に関する説明／日本近代文学とメディアの関わり
第 2 回	泉鏡花「義侠血」 「滝の白糸」 「天守物語」	数々の演劇や映画の題材となった泉鏡花作品について、メディアミックスの観点から分析する。
第 3 回	島崎藤村「破戒」	自然主義文学が作り出した制度とその問題について、プライバシー的な観点も含めて考察する。
第 4 回	日露戦争と従軍記者	国木田独步や田山花袋が戦争をいかに報道し、描き出したか考察する。
第 5 回	夏目漱石「それから」	近代社会が生んだ「エリート」と「遊民」が抱いたジレンマについて考察する。
第 6 回	芥川龍之介「羅生門」 「藪の中」	戦後の黒澤明による映画化を取り上げ、いかなる要素が前景化したか考察する。
第 7 回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第 8 回	志賀直哉「流行感冒」	志賀の実体験を基にした短編とそのドラマ化を題材に、パンデミックの表象について考察する。
第 9 回	佐藤春夫「女誠扇綺譚」 「霧社」	日本統治下の台湾を文学はいかに描いたか、植民地表象の問題を明らかにする。

第 10 回 内田百閒「アジンコート」、竹久夢二「東京
災難画信」ほか
第 11 回 横光利一と川端康成、
映画『狂った一頁』
第 12 回 映画『オリンピア』と
村野四郎「体操詩集」
など

第 13 回 谷崎潤一郎「細雪」
第 14 回 総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り扱う作家や作品について、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

・十川信介『近代日本文学案内』(2008、岩波文庫)
・海野弘『モダン都市東京 日本の 1920 年代』(2007、中公文庫)
・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』1、2 巻 (2018、岩波文庫)
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度: 50 %
・学期末テスト (講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題): 50 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらう、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

初回のみ ZOOM を用いて授業を行います。アドレスは Hoppii から配信します。

Google Classroom を通して資料配布やリアクションペーパー提出を行う予定ですので、必ず登録をしてください。登録方法は授業で説明します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with Japanese literature 1890s-1940s. It also explains actuality and significance of prewar literature by referring to magazines and cinema. We discuss how writers described modernity and consider the critical qualities of prewar works.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explained with specific examples that literary works have been established in relation to various media.

- Discuss the process of creation, criticality, and contemporary significance of works, based on the historical and social background.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LIT100LA

日本文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：映像で読む戦後文学

佐藤 未央子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、昭和 20 年代から平成初期までの文学作品を取り上げる。敗戦後、GHQ の占領下でひとびとは〈焼跡〉から再起し、60 年代には飛躍的な経済成長を遂げ、2000 年代には匿名性の高い情報化社会が完成するが、この大きな物語の陰にある個人の生活と心情に焦点を絞る。再編され続ける制度や社会空間の中に生きる人々の姿を、作家がいかに捉えたかを明らかにしていく。また戦後、国際的に評価が高まった日本映画や演劇を参照することで、戦後日本の 70 年を視覚的にも確認していきたい。

【到達目標】

・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・戦後日本の国際的な立場や文化状況の知識を持ち、作品解釈に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／〈戦後〉を語るということ
第 2 回	田村泰次郎「春婦伝」と映画化をめぐる問題	GHQ 占領下において、小説の映画化にかけられた規制の内実＝〈表現の不自由〉を学ぶ。また、女優山口淑子（李香蘭）の来歴も確認する。
第 3 回	坂口安吾「墮落論」「白痴」	坂口安吾が提唱した〈墮落〉概念の史的意義を学ぶ。また、戦後の焼け跡表象も分析する。
第 4 回	太宰治「斜陽」「人間失格」	作中で語られる「道徳革命」の意味を読み解くとともに、作家自身と作品の距離について考察する。
第 5 回	林芙美子「下町（ダウン・タウン）」「浮雲」	価値観が変容していく戦後社会の中で、女性がいかに生き抜こうとしていたか、小説と映画を参照して検討する。
第 6 回	石原慎太郎「太陽の季節」「狂った果実」	新たな価値観を持つ無軌道な若者たちを描いた石原作品の、文壇と映画界への波及力を検討する。
第 7 回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第 8 回	安部公房「他人の顔」	安部公房と勅使河原宏が協働した映画化において、原爆被害者の女性を前景化させた演出の意義について検討する。

第 9 回	川端康成とドナルド・キーン	キーンの翻訳や批評活動の意義を確認したうえで、川端が語る「美しい日本」の内実を検証する。
第 10 回	三島由紀夫「金閣寺」「憂国」「太陽と鉄」	戦後の国家や天皇のあり方に対する三島の問題提起について、小説に加えた映像表現や言論活動を通して検討する。
第 11 回	寺山修司「田園に死す」、唐十郎「唐版 風の又三郎」	1960 年代におけるアングラ演劇・映画が描き出した都市空間と反権力性について、作品を鑑賞して考察する。
第 12 回	松本清張とメディア・ミックス	戦後社会の裏面を描き、小説・映画化ともに広い支持を得た清張作品の批評性を考察する。
第 13 回	村上春樹「風の歌を聴け」「ノルウェイの森」「トニー滝谷」	「デタッチメントからコミットメントへ」と言われる村上の政治的スタンスとその発言の意義について、小説と映像を通して確認する。
第 14 回	総括・授業内試験	授業内容のまとめと質疑応答。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う作家や作品について、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。授業資料は Google Classroom にもアップします。

【参考書】

・磯田光一『戦後史の空間』（2000、新潮文庫）
・本多秋五『物語戦後文学史』上、中、下（2005、岩波現代文庫）
・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』3 巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：50 %
・学期末テスト（講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題）：50 %
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらう、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考に授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom を通して資料配布やリアクションペーパー提出を行う予定です。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with postwar Japanese literature, drama and cinema. It also explains how the author wrote about people in various systems and postwar societies. We visually confirm 70 years of post-war Japan by referring to Japanese movies and plays, which received increasing international recognition after the war.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Acquire knowledge of Japan's international position and cultural situation after the war.
- Discuss the process of creation, criticality, and contemporary significance of works, based on the historical and social background.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多くの読者を惹き付けてやまない。

授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

【到達目標】

- ・今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
- ・「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- ・異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にさまざまな教材を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
第 2 回	神話と変身（1）	オウィディウス『変身物語』読解
第 3 回	神話と変身（2）	課題、ディスカッション
第 4 回	メルヘンと変身（1）	グリム『六羽の白鳥』読解
第 5 回	メルヘンと変身（2）	課題、ディスカッション
第 6 回	メルヘンと変装（1）	ペロー『ロバの皮』読解
第 7 回	メルヘンと変装（2）	課題、ディスカッション
第 8 回	オペラと変身（1）	ワグナー『ローエングリン』について
第 9 回	オペラと変身（2）	課題、ディスカッション
第 10 回	変身物語と映画（1）	ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（1） 映画との比較
第 11 回	変身物語と映画（2）	ステューヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（2） 諸映画との比較
第 12 回	変身物語と映画（3）	課題、ディスカッション カフカ『変身』読解（1） 諸映画、コミック等との比較
第 13 回	変身物語と映画（4）	カフカ『変身』読解（2） 諸映画、コミック等との比較
第 14 回	まとめ	課題、ディスカッション 授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は利用しない。

【参考書】

カフカ『変身』

【成績評価の方法と基準】

課題提出（60％）と学期末試験（40％）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr. Jekyll and Mr. Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

—

(Learning Objectives)

- To recapture the meaning of "transformation" from a modern perspective.
- To understand the ideological and cultural background of each era, using the motif of "transformation" as a clue.
- Improve the ability to understand different cultures.

—

(Learning activities outside of classroom)

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

—

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on worksheets (60%) and term-end examination (40%).

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「旅」

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシャ神話『オデュッセイア』から、スウィフト『ガリヴァー旅行記』、ゲーテ『イタリア紀行』、アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』など、旅と文学との関係は世界文学を貫く重要な題材の一つである。

様々な文学形式（英雄叙事詩、日記、エッセイ、風刺小説、教養小説等）における旅の系譜について考える。

【到達目標】

- 文学の題材と形式の関係を知ること。
- 「旅」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

リアルタイム中継は実施しません。いつでもアクセス可能です。基本的にさまざまな教材を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての旅について
第 2 回	『オデュッセイア』精読（1）	第十一歌（ハデス）
第 3 回	『オデュッセイア』精読（2）	課題、ディスカッション
第 4 回	冥界への旅（1）	『オルペウスとエウリュディケ』読解
第 5 回	冥界への旅（2）	課題、ディスカッション
第 6 回	近代文学とギリシャ神話（1）	T. マン『ベニスに死す』第 3 章読解
第 7 回	近代文学とギリシャ神話（2）	課題、ディスカッション
第 8 回	教養小説と「旅」（1）	ゲーテ『イタリア紀行』「ローマ」読解
第 9 回	教養小説と「旅」（2）	課題、ディスカッション
第 10 回	ロマン主義と「旅」（1）	アイヒェンドルフ『愉しき放浪児』第一章 読解
第 11 回	ロマン主義と「旅」（2）	課題、ディスカッション
第 12 回	映画と流行歌における「旅」	W. ヴェンダース <i>Lisbon Story</i> 等

第 13 回 映画と流行歌における 課題、ディスカッション
「旅」

第 14 回 まとめ 授業の総括および試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は利用しない。

【参考書】

ホメロス『オデュッセイア』

【成績評価の方法と基準】

課題提出（60 %）と学期末試験（40 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。
手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

From ancient Greek mythology *Odyssey*, to Swift's *Gulliver's travels*, Montaigne's *Essays*, until Eichendorf's *Memoirs of a Good-for-Nothing*, the relationship between travel and literature is one of the important theme of world literature. In this course we will investigate various forms of travel literature including epic poem, diary, essay, satire, novel of formation etc.

（Learning Objectives）

- To know the relationship between literary material and form.
- To understand the ideological and cultural background of each era, using the motif of "travel" as a clue.
- Improve the ability to understand different cultures.

（Learning activities outside of classroom）

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

（Grading Criteria /Policies）

Grading will be decided based on worksheets (60%) and term-end examination (40%).

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

近江屋 志穂

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 5/Thu.5

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19 世紀にナポレオン I 世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいます（作品は日本語で読みます）。春学期は「テキスト解釈」を扱います。詩や小説をはじめとして、いくつかのジャンルから課題文を選びます。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約など、授業に関する文章を書いてもらうこともあります。課題の提出・フィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要・課題説明
2	寓話（1）	ラ・フォンテーヌ『寓話』
3	寓話（2）	テキスト解釈
4	戯曲（1）	モリエール『才女気取り』
5	戯曲（2）	テキスト解釈
6	論述文（1）	エミリー・デュシャトレ「幸福論」
7	論述文（2）	テキスト解釈
8	詩（1）	ビクトル・ユゴー『静観詩集』
9	詩（2）	テキスト解釈
10	小説（1）	フローベール『ボヴァリー夫人』
11	小説（2）	テキスト解釈
12	「テキスト解釈」バカロレア筆記過去問題（1）	2016 年度の課題の背景
13	「テキスト解釈」バカロレア筆記過去問題（2）	2016 年度の問題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて事前に授業資料を配布するようにします。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.
The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.
The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19 世紀にナポレオン I 世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では春学期の続きとして、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます。課題は「総括」「小論文」という論述文です。前半は課題に関連する文学作品と作家について、後半は 2 種類の論述文の書き方について、解説します。

尚、秋学期のみの受講も可能です。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・フランスの学校教育における伝統的な論述文とは何かを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約など、授業に関する文章を書いてもらうこともあります。課題の提出・フィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	秋学期授業内容・課題説明
2	エミール・ゾラ（1）	「我弾劾す」
3	エミール・ゾラ（2）	『ボヌール百貨店』
4	モーパッサン（1）	『ペラミ』
5	モーパッサン（2）	『女の一生』
6	フローベール（1）	『ボヴァリー夫人』
7	フローベール（2）	『純な心』
8	「総括」（1）	基本的な構成方法
9	「総括」（2）	文学の課題（ゾラ、モーパッサン、フローベール）
10	「総括」バカロレア課題	2016 年の課題解説
11	「ディセルタション」（1）	基本的な構成方法
12	「ディセルタション」（2）	文学の練習問題解説
13	「ディセルタション」バカロレア課題	2016 年の課題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で 4 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

課題の取り組み方をより丁寧に説明するようにします。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis.
The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.
The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】

中国古典や漢詩を鑑賞するために必要な基本知識を習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持てしめがちだが、要領さえ掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。成立した時代背景・習俗や作者などを解説しつつ、原文を訓読で読解していく形を基本とする。授業は春秋時代から唐代まで、時代順に進めていく。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらって学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国とは 授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	甲骨・金文	実際の甲骨文字と金文の出土資料を使い、現在の漢字に至るまでの文字の変遷を知る。
第 3 回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第 4 回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第 5 回	三曹の詩	三国志の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第 6 回	陶淵明	六朝期を代表する作品を比較しつつ鑑賞する。
第 7 回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に崔顥の「黄鶴楼」と孟浩然の「春暁」を読む。
第 8 回	李白	李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。

第 9 回 王維	王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。
第 10 回 杜甫	「春望」など、杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。
第 11 回 白居易	「長恨歌」を読み解く。
第 12 回 杜牧	杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。
第 13 回 復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。
第 14 回 試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などととも、資料などを適宜配布する。

【参考書】

大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店 2003 年）
岡村繁『文選の研究』（岩波書店 1999 年）
興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店 2000 年）
小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店 1975 年）
松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店 1987 年）
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。
授業で原文を読む場合は振り返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。
授業で原文を読む場合は振り返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background · culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.
Acquire the basic knowledge necessary to appreciate Chinese classics and Chinese poetry. Chinese classics, including Chinese poetry, tend to have a difficult image, but once you know the point, you can see that it's easy to understand.

Do it in a lecture format. While explaining the historical background, customs, and authors, he reads the original text in “kundoku”. Classes proceed in chronological order from the spring and autumn period to the Tang dynasty.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a “kundoku” method using “kaeriten”, so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA

外国文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル:

吉井 涼子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 5/Mon.5

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

主に漢代のものから、より物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、その当時の時代背景や文化などと一緒に多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。

【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー (又は小課題) の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と中国文学全体の概説をする。
第 2 回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔斉伝を読む。
第 3 回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第 4 回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第 5 回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第 6 回	志怪小説を読む (1)	『搜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。 (1) では魂の行方をテーマとする
第 7 回	志怪小説を読む (2)	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第 8 回	志怪小説を読む (3)	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。
第 9 回	「人虎伝」を読む (1)	中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝は日本でも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。
第 10 回	「人虎伝」を読む (2)	人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。

第 11 回 「人虎伝」を読む (3) 人虎伝の続きを読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。

第 12 回 「人虎伝」を読む (4) 結末を読み、人虎伝とは結局どのような物語であったのかを整理する。

第 13 回 復習と総括 第 1 回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。

第 14 回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『中国古典小説選 穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』
明治書院『中国古典小説選 搜神記・幽明録・異苑他』
明治書院『新釈漢文大系 史記八 (列伝一)』
明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
平凡社『東洋文庫 搜神記』
この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。

シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.

By actually reading a very narrative work, you can deepen your understanding of Chinese classics in general. Through the knowledge read there, will cultivate the basics and culture of enjoying other Chinese studies.

Do it in a lecture format. In the case of a person, the life and historical background are also explained. Works and novels are based on reading the original text by reading comprehension, but especially long texts use Japanese translations.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中のそれぞれの文献や文学作品を比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】

日中両国の文学作品を、より広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	「神話」を読む（1）	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第 3 回	「神話」を読む（2）	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第 4 回	「神話」を読む（3）	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、実在の王朝へとつながる部分を読む。
第 5 回	「神話」を読む（4）	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第 6 回	「神話」を読む（5）	日本の神話から、スサノオやオホクニヌシの部分を読む。
第 7 回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第 8 回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。この回では『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を実際に読む。
第 9 回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。

第 10 回 説話を読む（１）	『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や思想・他界観が読み取れる話を読む。
第 11 回 説話を読む（２）	信貴山の縁起に関わる物語を読む。
第 12 回 『枕中記』を読む	中国唐代の伝記小説である『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
第 13 回 復習と総括	第 1 回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第 14 回 試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波文庫『古事記』
明治書院『新釈漢文大系 史記一（本紀上）』
中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く 三国志から見る邪馬台国』渡邊義浩著
小学館『日本古典文学全集 今昔物語』
小学館『日本古典文学全集 宇治拾遺物語』
明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
小学館『日本古典文学全集 枕草子』
など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。
シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。
授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。
高校の日本史 B 程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

Can gain the knowledge and education necessary to appreciate literary works from both Japan and China from a broader perspective, and deepen your understanding of your own culture.

Do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA

外国文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

【到達目標】

精読を通して、日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明をする。
第 2 回	流浪する英雄—中国—（1）	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第 3 回	流浪する英雄—中国—（2）	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第 4 回	流浪する英雄—中国—（3）	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第 5 回	流浪する英雄—中国—（4）	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第 6 回	流浪する英雄—中国—（5）	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第 7 回	流浪する英雄—日本—（1）	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第 8 回	流浪する英雄—日本—（2）	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第 9 回	戦の天才とその末路—中国—（1）	『史記』列伝から、中国史における軍事の天才の 1 人である楽毅の話を読む。
第 10 回	戦の天才とその末路—中国—（2）	当時の時代背景などに注意しつつ、楽毅列伝から、楽毅の書いた手紙を読む。
第 11 回	戦の天才とその末路—日本—（1）	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。

第 12 回 戦の天才とその末路—日本—（2） 『平家物語』の続きと義経の書いた手紙を読み、平家の結末に関して解説する。

第 13 回 復習と総括 第 1 回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。

第 14 回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『新釈漢文大系 史記 五（世家中）』
 明治書院『新釈漢文大系 春秋左氏伝（一）』
 明治書院『新釈漢文大系 国語（上）』
 明治書院『新釈漢文大系 国語（下）』
 明治書院『新釈漢文大系 史記九（列伝二）』
 小学館『日本古典文学全集 古事記 上代歌謡』
 岩波書店『日本古典文学大系 32 平家物語上』
 岩波書店『日本古典文学大系 33 平家物語下』
 など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくるのが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等があることを前提として授業を行う。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

Through reading carefully, you will gain the knowledge and culture necessary to appreciate the literature of both Japan and China from a broader perspective. When you are interested in Japanese and Chinese classics, you can learn the basics for reading on your own.

Decide on a theme, do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA

外国文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較と日韓問題

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国関係により理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較して、新しい発見や日韓の未来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的な参加も歓迎します。

【到達目標】

日韓の文化や習慣・歴史の差などを多様な角度から比較することによって、日韓の様々な問題を総合理解し、解決の出発点に立つことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本人学生と韓国人の留学生の割合にもよりますが、日韓の文化・習慣・問題・歴史・トレンドなどについて比較したり、ご意見やご質問など、皆さんの積極的な授業への参加をお勧めしながら進めていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓簡単比較	日韓の基礎知識を比較します。
第 3 回	日韓問題について 1	日韓の間にはどのような問題があるかを調べてみます。
第 4 回	日韓習慣の比較	日韓の習慣などの比較をします。
第 5 回	現在の日韓問題について 2	現在の日韓問題について詳しく調べます。
第 6 回	現在の日韓トレンド	日韓トレンドを比較します。
第 7 回	日韓文化比較	日韓の様々な教育問題を比較します。
第 8 回	日韓教育問題比較	日韓の入試と大学生活などを比較してみます。
第 9 回	日韓問題比較 3	日本における渡来人などについて考えてみます。

第 10 回	日韓の文化を比較	日韓文化について比較をしてみます。
第 11 回	日韓の現在の問題について比較 4	日韓における現在に起きている様々な問題について比較します。
第 12 回	日韓の現在の問題について比較 5	日韓の現在の政治的な問題について比較します。
第 13 回	日韓の現在の問題について比較 6	日韓の歴史的な様々な問題について比較します。
第 14 回	日韓問題について直接意見交換など	意見交換をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓についての記事や情報収集。授業感想など。
日韓の文化・問題などの意見発表なども歓迎します。
本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

授業中に必要な文献・資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業感想・レポートなど 50%、期末レポート 50%。
(学生たちの積極的な授業参加・意見なども参考にします)
合計 100%
課題・授業感想等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【学生の意見等からの気づき】

日韓文化・歴史を含めて日韓における問題を、より知識を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > We aim to deepen the understanding of both Japan and Korea by discussing their cultures and other interesting themes. By comparing cultures and problems between the two countries, you would make new findings and envision their future outlooks. The purpose of this course is to enhance the exchanges between the two countries by taking a broad look at issues and topics that young Koreans and Japanese are interested in from young people's perspectives. This course also welcomes Korean international students.

< Learning Objectives >

Our goal is to comprehensively understand various problems in Japan and South Korea and to stand as a starting point for solutions.

< Learning activities outside of classroom >

This is an online class, so please prepare for it. It is important to submit the assignment. Within 4 hours.

< Grading Criteria /Policy >

Class points 50% and term-end report points 50% (100% in total)

LIT100LA

外国文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較と日韓問題

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。特に、現在の日韓の若者たちのトレンドから日韓文化比較を更に進め、歴史から現在までの様々な日韓問題などを、日韓交流の発展を模索していく学習の場にしていきたいと思っています。

【到達目標】

常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくるのが授業の目指す目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げた日韓の文化や話題や問題点について、日韓の両方の立場・視点から考えていく。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

本科目は抽選科目です。授業開始前に抽選に参加する必要があります。

抽選の結果当選した学生のみ、履修をすることができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第 2 回	日韓文化比較 1	現在の韓流について考えてみます。
第 3 回	日韓文化比較 2	現在の日韓若者たちのトレンドについて調べてみます。
第 4 回	日韓のトレンド比較 1	現在の日韓若者たちのトレンドを比較してみます。
第 5 回	日韓のトレンド比較 2	日韓若者たちのファッションのトレンドを調べてみます。
第 6 回	日韓文化比較 3	日韓若者たちのファッショントレンドを比較してみます。
第 7 回	日韓問題比較 1	日韓若者たちの流行を調べてみます。
第 8 回	日韓問題比較 2	日韓若者たちの流行りを比較してみます。
第 9 回	日韓文化比較 4	北朝鮮について調べてみます。

第 10 回	日韓文化比較 5	北朝鮮と日韓問題について比較してみます。
第 11 回	日韓問題比較 3	日韓の宗教問題などを比較してみます。
第 12 回	日韓問題比較 4	日韓の企業問題などを比較してみます。
第 13 回	日韓文化比較 6	在日コリアン問題を調べてみます。
第 14 回	総合問題などの意見交換	意見交換などをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓問題の記事や情報など。授業内容などによるレポート。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

文献・資料などは授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法（平常点〔課題、授業感想など〕）50%、
期末レポート 50%
（発表など積極的な授業参加なども参考にします）
合計 100%

課題や授業感想等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【学生の意見等からの気づき】

日韓の様々な文化・問題についてもっと知識を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > Based on the contents covered in the spring semester, we will look at Japanese and Korean cultures, their recent trend, and issues from various perspectives. In particular, we intend to further our comparison of cultures from the trend of young people in Japan and discuss various issues regarding the two countries to cogitate their potential development of exchanges in the future.

< Learning Objectives >

The goal of the class is to create an opportunity for active exchanges with the future of Japan and South Korea.

< Learning activities outside of classroom >

This is an online class, so please prepare for it. It is important to submit the assignment. Within 4 hours.

< Grading Criteria /Policy >

Class points 50% and term-end report points 50% (100% in total)

LIT100LA

日本近・現代文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：都市と文学

安藤 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では都市の成立と文学との関係をテーマとして、明治期～現代までの作品を取りあげる。近現代文学の成立と普及にあたって、背景となる都市空間の成立と発展は、密接な関係にある。鉄道の発達による郊外の開拓は文学作品においても空間的な広がりがもたらされた。中心地から郊外までを含めた地理的広がりと文学の関係を作品の読解を通して捉えてゆきたい。

【到達目標】

・作品の時代背景・都市空間の理解を通して、作品の理解をより深めていく。
・自らの生きる都市空間が文学作品も含めた歴史の重なりの上にあることを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式（資料配信型）でおこなう。授業の要点についてまとめた音声付きのパワーポイントと、該当作品の本文をまとめた資料を事前に配布する（毎週金曜日を目安）。各作品ごとにリアクションペーパーに相当する短い課題（感想など）を学習支援システムを通じて提出してもらう。次回授業ではその中から適宜紹介し解説やフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明
第 2 回	都市の成立と文学	明治期以降を概説
第 3 回	鉄道の発達と文学	田山花袋
第 4 回	鉄道の発達と文学	泉鏡花
第 5 回	郊外の成立と文学	国木田独步
第 6 回	京都の近代化と文学	菊池寛
第 7 回	大阪と文学	大阪を舞台とする文学作品
第 8 回	焼け跡と文学	焼け跡表象の文学作品
第 9 回	復興と高度成長	1950～70 年代の文学作品
第 10 回	戦後の郊外文学	黒井千次
第 11 回	80 年代の都市文学	村上春樹
第 12 回	バブル期開発と文学	日野啓三『夢の島』
第 13 回	バブル期開発と文学	日野啓三「岸边にて」
第 14 回	総括	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定したテキストについては事前に読んでおくことを要請します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜資料の配布をおこなう。

【参考書】

特になし。授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（リアクションペーパーなど授業への参加度）40 %
 ・期末レポート 60 %
 以上を考慮し総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・その他事務連絡等は、学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

This course introduces representation of the cities and modern literature to students taking this course.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course are to develop an understanding of the cities and modern literature.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LIT100LA

日本近・現代文学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：戦後～現代の同時代文学を読む

安藤 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では戦後から現代までの年代ごとの同時代文学の系譜をたどり、文学作品のみならず、背景となる現代史的事象についても理解を深めることを目指す。

【到達目標】

・これまでの文学史ではあまり扱われてこなかった戦後～現代の作品を通じて、自らにより近い過去の歴史や社会を知る手がかりとする。
 ・各作品の読解を通じて現在の視点から読み取れるものは何かさぐる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式（資料配信型）でおこなう。授業の要点についてまとめた音声付きのパワーポイントと、該当作品の本文をまとめた資料を事前に配布する（毎週金曜日を目安）。各作品ごとにリアクションペーパーに相当する短い課題（感想など）を学習支援システムを通じて提出してもらう。次回授業ではその中から適宜紹介し解説やフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明
第 2 回	日本の同時代文学	戦後以降の過去を知る
第 3 回	1960 年代	高度成長と文学
第 4 回	1960 年代	ベトナム戦争と文学
第 5 回	1970 年代	不穏な時代と文学
第 6 回	1970 年代	都市的不安と文学
第 7 回	1980 年代	ポストモダンと文学
第 8 回	1980 年代	バブル期と文学
第 9 回	1990 年代	バブル崩壊後の文学
第 10 回	2000 年代	想起される近過去
第 11 回	2000 年代	格差社会と文学
第 12 回	2010 年代	新しい労働文学
第 13 回	2020 年代	コロナ禍と文学
第 14 回	総括	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定したテキストについては事前に読んでおくことを要請します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。適宜資料の配布をおこなう。

【参考書】

斎藤美奈子『日本の同時代小説』（岩波新書、2018 年）。その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（リアクションペーパーなど授業への参加度）40 %

・期末レポート 60 %

以上を考慮し総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出・その他事務連絡等は、学習支援システムを通じておこなう。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

The aim of this course is to help students acquire modern literature after 1945.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The goals of this course are to develop an understanding of modern history and modern literature.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：言葉の知識と背景を深める

安藤 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小論文やレポートなど文章を書くにあたって、形式やルールといった基礎的な段階を出発点として、より豊かな文章表現を習得することを目指す。

【到達目標】

- ・言葉（日本語表現）についての知識と理解を深める。
- ・言葉や文章の背景にある社会的事象を理解し、実践を通して深める。
- ・自分の考えや意見を言語化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テーマに沿った課題を提示し実際に文章を書く。
 - ・提出された課題（600～800 字程度）について添削・指導をおこなう。
 - ・提出された課題の中で優秀なものについては、適宜紹介し講評する（番号・氏名は伏せる）。
 - ・新聞記事やコラム、エッセイを通して文章表現を学ぶ。
 - ・文章表現に関わる基礎知識や社会的事象について解説をおこなう。
- *実践や添削をおこなう授業であるため、受講人数を 25 名程度に抑えます。希望者多数の場合は抽選を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	自己紹介文	自分自身についての言語化
第 3 回	自己紹介文	添削と講評
第 4 回	原稿執筆の基礎	書式とルール
第 5 回	原稿執筆の基礎	段落構成等
第 6 回	原稿執筆の基礎	課題に沿った実践
第 7 回	原稿執筆の基礎	添削と講評
第 8 回	論文の書き方	論理的な文章とは
第 9 回	論文の書き方	時事的な文章の紹介
第 10 回	論文の書き方	課題に沿った実践
第 11 回	論文の書き方	添削と講評
第 12 回	文章表現とネットリテラシー	注意点の概説
第 13 回	意見の言語化	これまでの内容を踏まえての実践
第 14 回	総括	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、授業内での提出物 30 %、期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

- ・受講者人数を 25 名程度に制限するため、希望者多数の場合は抽選を実施します。
- ・受講者名簿を作成する都合上、授業初回の前日までに仮登録をしてください。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

The aim of this course is to help students acquire written expression.

到達目標 (Learning Objectives)

The goals of this course are to verbalize your mind.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力をつける授業です。このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、火曜 5 限の関口雄士担当「文章論」(留学生を主な対象とするクラス)の受講をおすすめします。もちろん、自信があれば参加は妨げません。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力の基礎を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、文章を作成する基本的な方法・技術を学ぶこと、それに応じた作文を提出すること、そしてその添削を受けることが、授業の基本的な形式になります。

I 課題の提示：課題にそった文章を提示します。そして、その文章についての解説・講義をおこないます。

II 文章作成に関する知識の講義と課題提出：大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。前週の課題に沿った作文を提出してもらいます。

III 課題添削返却と講評：前週に提出された課題を添削し、コメントをつけて返却します。返却後に学生番号・氏名は伏せたうえで優秀作品を配布して講評をおこないます。

授業は I → II → III を 3 回で 1 セットとし、全 14 回の授業で 4 セットおこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題①エッセイを書く	ガイダンスおよび課題①の提示。 エッセイとはなにかを学ぶ。
第 2 回	課題①エッセイを書く	課題①の講義と提出。 文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	課題①の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 4 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の提示。 文の構成要素として段落を学ぶ。
第 5 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の講義と提出。 読みやすい文章について学ぶ。
第 6 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 7 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の提示。 事実と意見の分け方を学ぶ。
第 8 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の講義と提出。 資料の調べ方、引用方法を学ぶ。
第 9 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 10 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の提示。 テーマの探し方を学ぶ。

第 11 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の講義と提出。 そもそも「読む」こと、「書く」こととはなにかを考える。
第 12 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 13 回	これまでに学習した内容のまとめ (その 1)	課題①・②の内容を中心に学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	これまでに学習した内容のまとめ (その 2)	課題③・④の内容を中心に学習内容のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。普段から文章を目にした時に講義で学んだ事を意識してください。（本授業における準備・復習時間は2時間を標準としています。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

あらかじめ示す参考書はありません。授業内で紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出状況、コメントの内容など）：50 %
提出物の内容：50 %
未提出の課題があった場合、原則として単位は認めません。
(各回の締切に間に合わなくても、必ず期末までに提出してください)

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため、ありません。

【その他の重要事項】

※ 以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
1：選抜（抽選）
・「文章論」では受講者数の制限をします（約30名を上限とします）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに仮登録をしてください。
2：仮登録
・希望者多数の場合は、仮登録した学生から選抜（抽選）をします。
・仮登録しなかった学生は受講・登録することができません。
3：複数の「文章論」クラスへの仮登録
・「文章論」の授業は複数あります。対象学部学年、曜日時限を確認してください。
・それぞれの担当者が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。
・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスに予め全て仮登録しておいてください。
・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。
・留学生クラスと、通常の3クラスに併せて仮登録している学生については、留学生クラスとなる場合があります。
4：選抜（抽選）後
・当否の連絡はメールで届きますので、必ず確認してください。
※大学からの連絡は大学のメールアカウントでおこないます。

【Outline (in English)】

This class is designed to develop the writing and reading skills necessary for university study.

This class is not intended mainly for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory" (a class mainly for international students) taught by Takashi Sekiguchi on Tuesday 5th period. Of course, participation is not precluded if you are confident.

【Learning Objectives】

Build a foundation of writing and reading skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

Please try to read as much as possible of the references introduced in the class.

【Grading Criteria /Policy】

Ordinary points (submission status of assignments, content of comments, etc.): 50%.

Content of submitted work: 50%.

In principle, no credit will be given for any unsubmitted assignments.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：留学生を主な対象とする

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力をつける授業です。このクラスは留学生を主な対象とするクラスです。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生などはこのクラスの受講をおすすめします。自信があれば、前述するような学生が通常クラスに参加することも可能です。また、留学生以外がこのクラスに参加することも可能です。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力の基礎を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、文章を作成する基本的な方法・技術を学ぶこと、それに応じた作文を提出すること、そしてその添削を受けることが、授業の基本的な形式になります。

I 課題の提示：課題にそった文章を提示します。そして、その文章についての解説・講義をおこないます。

II 文章作成に関する知識の講義と課題提出：大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。前週の課題に沿った作文を提出してもらいます。

III 課題添削返却と講評：前週に提出された課題を添削し、コメントをつけて返却します。返却後に学生番号・氏名は伏せたうえで優秀作品を配布して講評をおこないます。

授業はI → II → IIIを3回で1セットとし、全14回の授業で4セットおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題①エッセイを書く	ガイダンスおよび課題①の提示。 エッセイとはなにかを学ぶ。
第 2 回	課題①エッセイを書く	課題①の講義と提出。 文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	課題①の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 4 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の提示。 文の構成要素として段落を学ぶ。
第 5 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の講義と提出。 読みやすい文章について学ぶ。
第 6 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 7 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の提示。 事実と意見の分け方を学ぶ。
第 8 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の講義と提出。 資料の調べ方、引用方法を学ぶ。
第 9 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。

第 10 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の提示。 テーマの探し方を学ぶ。
第 11 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の講義と提出。 そもそも「読む」こと、「書く」こととはなにかを考える。
第 12 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 13 回	これまでに学習した内容のまとめ（その 1）	課題①・②の内容を中心にまとめをおこなう。
第 14 回	これまでに学習した内容のまとめ（その 2）	課題③・④の内容を中心にまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にしめた参考文献はできる限り読むようにしてください。
普段から文章を目にした時に講義で学んだ事を意識してください。
（本授業における準備・復習時間は 2 時間を標準としています。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

あらかじめ示す参考書はありません。授業内で紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出状況、コメントの内容など）：50 %
提出物の内容：50 %
未提出の課題があった場合、原則として単位は認めません。
（各回の締切に間に合わなくても、必ず期末までに提出してください）

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため、ありません。

【その他の重要事項】

※ 以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
1：選抜（抽選）
・「文章論」では受講者数の制限をします（約 30 名を上限とします）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに仮登録をしてください。
2：仮登録
・希望者多数の場合は、仮登録した学生から選抜（抽選）をします。
・仮登録しなかった学生は受講・登録することができません。
3：選抜（抽選）後
・当否の連絡はメールで届きますので、必ず確認してください。
・当選者は、学習支援システムの指示に従ってください。
※大学からの連絡は大学のメールアドレスでおこないます。こまめにチェックしてください。

【Outline (in English)】

This class is designed to help students develop the writing and reading skills necessary for university study.

This class is mainly for international students. In addition to international students, Japanese students who have lived abroad for a long time are recommended to take this class. If they are confident, the aforementioned students can also join the regular class. It is also possible for non-international students to participate in this class.

【Learning Objectives】

Build a foundation of writing and reading skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

Please try to read as much as possible of the references introduced in the class.

【Grading Criteria /Policy】

Ordinary points (submission status of assignments, content of comments, etc.): 50%.

Content of submitted work: 50%.

In principle, no credit will be given for any unsubmitted assignments.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

関口 雄士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力をつける授業です。
このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、春学期火曜 5 限の関口雄士担当「文章論」（留学生を主な対象とするクラス）の受講をおすすめします。もちろん、自信があれば参加は妨げません。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く」力、「読む」力の基礎を作る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

上記目標を達成するために、文章を作成する基本的な方法・技術を学ぶこと、それに応じた作文を提出すること、そしてその添削を受けることが、授業の基本的な形式になります。

I 課題の提示：課題にそった文章を提示します。そして、その文章についての解説・講義をおこないます。
II 文章作成に関する知識の講義と課題提出：大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。前週の課題に沿った作文を提出してもらいます。
III 課題添削返却と講評：前週に提出された課題を添削し、コメントをつけて返却します。返却後に学生番号・氏名は伏せたうえで優秀作品を配布して講評をおこないます。
授業は I → II → III を 3 回で 1 セットとし、全 14 回の授業で 4 セットおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	課題①エッセイを書く	ガイダンスおよび課題①の提示。 エッセイとはなにかを学ぶ。
第 2 回	課題①エッセイを書く	課題①の講義と提出。 文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	課題①の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 4 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の提示。 文の構成要素として段落を学ぶ。
第 5 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の講義と提出。 読みやすい文章について学ぶ。
第 6 回	課題②段落を意識した文章を書く	課題②の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 7 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の提示。 事実と意見の分け方を学ぶ。
第 8 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の講義と提出。 資料の調べ方、引用方法を学ぶ。
第 9 回	課題③事実と意見を分けた文章を書く	課題③の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 10 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の提示。 テーマの探し方を学ぶ。

第 11 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の講義と提出。 そもそも「読む」こと、「書く」こととはなにかを考える。
第 12 回	課題④自分なりのテーマを見つける	課題④の添削返却。 講評をとおして文章技法を学ぶ。
第 13 回	これまでに学習した内容のまとめ (その 1)	課題①・②の内容を中心に学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	これまでに学習した内容のまとめ (その 2)	課題③・④の内容を中心に学習内容のまとめをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。普段から文章を目にした時に講義で学んだ事を意識してください。（本授業における準備・復習時間は2時間を標準としています。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

あらかじめ示す参考書はありません。授業内で紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出状況、コメントの内容など）：50 %
提出物の内容：50 %
未提出の課題があった場合、原則として単位は認めません。
(各回の締切に間に合わなくても、必ず期末までに提出してください)

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため、ありません。

【その他の重要事項】

※ 以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
1：選抜（抽選）
・「文章論」では受講者数の制限をします（約30名を上限とします）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日までに仮登録をしてください。
2：仮登録
・希望者多数の場合は、仮登録した学生から選抜（抽選）をします。
・仮登録しなかった学生は受講・登録することができません。
3：複数の「文章論」クラスへの仮登録
・「文章論」の授業は複数あります。対象学部学年、曜日時限を確認してください。
・それぞれの担当者が異なる授業を展開します。各クラスで予定されている授業の内容についてはシラバスをよく読んでください。
・選抜（抽選）に漏れた場合には他クラスの「文章論」を希望する学生は、該当するクラスに予め全て仮登録しておいてください。
・ただし、先に選抜（抽選）したクラスで当選した学生は、後に選抜（抽選）するクラスの仮登録・登録を抹消します。
・留学生クラスと、その他のクラスに併せて仮登録している学生については、留学生クラスとなる場合があります。
4：選抜（抽選）後
・当否の連絡はメールで届きますので、必ず確認してください。
※大学からの連絡は大学のメールアカウントでおこないます。

【Outline (in English)】

This class is designed to develop the writing and reading skills necessary for university study.

This class is not intended mainly for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory" (a class mainly for international students) taught by Takashi Sekiguchi on Tuesdays during 5th period of the spring semester. Of course, participation is not precluded if you are confident.

【Learning Objectives】

Build a foundation of writing and reading skills necessary for university study.

【Learning activities outside of classroom】

Please try to read as much as possible of the references introduced in the class.

【Grading Criteria /Policy】

Ordinary points (submission status of assignments, content of comments, etc.): 50%.

Content of submitted work: 50%.

In principle, no credit will be given for any unsubmitted assignments.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとおし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppii で学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくて論理的」か「美しくて感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第 2 回	「マジメ」な文章の綴り方	ビジネスマナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第 3 回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第 4 回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第 5 回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第 6 回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第 7 回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第 8 回	批評文の書き方②	批評理論について概観する
第 9 回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第 10 回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第 11 回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第 12 回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第 13 回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第 14 回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。期末レポートも含めて四度の大きな課題提出があります。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 30%、期末課題 40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びません。必ず得るものがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

論文や批評については構成上のアドバイスをもっと欲しいという意見があったため、今期はより注力していきます。

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことですから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約30名を上限とする）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。

・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が2週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。
2021 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとし、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二～三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppii で学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと文章の二大形式について	「分かりやすくて論理的」か「美しくて感覚的」か、目的に合わせてスタイルを意識する
第2回	「マジメ」な文章の綴り方	マナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第3回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第4回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第5回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第6回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第7回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第8回	批評文の書き方②	批評理論を概観する
第9回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第10回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第11回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第12回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第13回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第14回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 30%、期末課題 40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

論文や批評については構成上のアドバイスをもっと欲しいという意見があったため、今期はより注力していきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（Word をインストール）

【その他の重要事項】

※ 以下大変重要なことから、しっかり読んでください。

1 選抜（抽選）

・「文章論」では、受講者数の制限をします（約 30 名を上限とする）。
・受講希望者は必ず授業初日の前日 20:59 までに、仮登録をしてください。

・抽選なので、選抜（抽選）のための課題提出は必要ありません。

2 仮登録

・希望者多数の場合は、仮登録した学生から、選抜（抽選）をします。
・仮登録しない学生は受講・登録することができませんので、注意してください。

・当然、仮登録せず、選抜（抽選）も受けなかった学生が 2 週目以降に授業に参加することはできませんので、この点も注意してください。

※ メール（大学のアカウント）は、頻繁にチェックしてください。
2021 年度は、チェック漏れによる課題未提出などのトラブルが続出しました。そういうことがないようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようになされるのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

春学期は「課題提出型」の授業となる。具体的な授業内容、授業で使用する資料などは学習支援システムで提示する。

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「課題提出型」授業は以下のように行なう。

1. 講義資料、資料をまとめた PPT を読む
2. 授業曜日の課題に対する解答を提出する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	言語学とは何か
	言語学入門 1	言語の特質（1）
第 2 回	言語学入門 2	言語の特質（2）
第 3 回	言語学入門 3	言語の特質（3）
第 4 回	音声学 1	音声器官
第 5 回	音声学 2	調音
第 6 回	音声学 3	母音、子音
第 7 回	音韻論 1	異音、相補分布
第 8 回	音韻論 2	環境同化、音声的類似
第 9 回	音韻論 3	日本語の音韻体系
第 10 回	第二言語習得研究 1	第二言語習得研究の流れ
第 11 回	第二言語習得研究 2	中間言語
第 12 回	第二言語習得研究 3	学習者の母語と第二言語習得
第 13 回	第二言語習得研究 4	習得順序と発達順序
第 14 回	第二言語習得研究 5	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期は「課題提出型」の授業となる。本授業の開始日は 4 月 12 日とし、この日までに具体的な授業の課題などを、学習支援システムで提示する。

【テキスト（教科書）】

テキスト名 1：『日本語教師トレーニングマニュアル 3 よくわかる言語学入門 解説と演習』 著者：町田健ほか 出版社：バベルプレス 定価：2233 円＋税

テキスト名 2：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得』 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800 円＋税

***テキスト名 2 は秋学期にも使用する。

【参考書】

参考文献は PPT で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

提出した課題の内容で 100 %評価する。

【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Linguistic course - this is an introductory course to Linguistics. This course is not just to introduce students to language, phonetics, phonology and another language acquisition but to encourage them to analyze, be interactive and seize the many aspects of the language and language learning.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、日本語の歴史、文法などを概観することで日本語の特徴を捉える。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、日本語の特徴、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 言語習得 1	第一言語とは？
第 2 回	第 1 言語習得 2	第一言語習得とは？
第 3 回	第 1 言語習得 3	第一言語習得研究の方法
第 4 回	第 1 言語習得メカニズム 1	第一言語習得のメカニズム
第 5 回	第 1 言語習得メカニズム 2	主な言語発達理論（基礎編）
第 6 回	第 1 言語習得メカニズム 3	主な言語発達理論（応用編）
第 7 回	母語獲得とインプットの役割 1	子どもの構造依存性 語順獲得母語獲得とインプットの役割
第 8 回	母語獲得とインプットの役割 2	肯定証拠と否定証拠
第 9 回	母語獲得とインプットの役割 3	インプットの効果
第 10 回	異文化理解 1	カルチャーショック
第 11 回	異文化理解 2	ジョハリの窓
第 12 回	異文化トレーニング 1	異文化トレーニング方法 1
第 13 回	異文化トレーニング 2	異文化トレーニング方法 2
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。
講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。
授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待さ

れる。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800 円＋税

【参考書】

PPT の参考文献に示した。

【成績評価の方法と基準】

全ての課題提出を期末試験に換算し、100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。
- ・前期に言語学 A を履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学 B では前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていたようでよかった。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Fall semester course has two parts:

- The first half of this course is an overview of the first language acquisition.
- The second half is understanding Japanese language history and grammar.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

輿石 哲哉

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは、コミュニケーションの手段として言語を用いてはいませんが、話すときにどこの器官をどう使っているのかとか、相手のことばをどのように解釈しているのかとか、そもそもどのようにして言語が話せるようになるのかとか、具体的な問題をほとんど意識したことはありません。この授業では、このように通常意識されない言語に関しての、さまざまな問題を考えていきます。

【到達目標】

1. 言語について記述するときの方法を知ること。
2. 言語について記述する際に、ある記述が他の記述と比べてどう優れているか知ること。
3. 世界の様々な言語の共通の特徴や多様性について知ること。
4. 言語学の様々な分野を知ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【4 月 16 日加筆】春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。基本的に授業スケジュールに変更はありませんが、変更がある場合は、学習支援システムで提示します。本授業の開始日は、4 月 22 日とし、この日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示します。

可能な限り履修者とのインターアクションのある授業を目指したいと思いますが、履修者数により講義形式が主体になることもあります。毎回、前回の復習、次回にやることについて、具体的に示し、履修者に事前、事後の学習を奨励していきます。また、必要に応じて、授業中に小テストを課すことも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の内容についてお話するとともに、2 回目の授業に際しての問題提起を行います。
2	言語学の「深みのなさ」について	言語の研究の独特のところとして、意味に関する研究をとりあえず棚上げにして、形式面での体系を考えていくことで、言語の仕組みがわかる、という側面があります。そのことについて授業で考察します。
3	言語と音声（1）	言語を音声の観点から見ていきます。どのようにして発話が可能になるのか等について考察します。
4	言語と音声（2）	前回に引き続き、言語と音声の関係について学んでいきます。
5	私が English teacher でないわけ—音声はどのように言語で用いられるか	音声はそれぞれの言語でどのように用いられているのか、授業で考察します。

6	言語と記号	言語は記号であると言われますが、どのような観点からそう言われるのか、授業で考察します。
7	英語に漢字があったら？一言語と文字との関係は？	言語を書き留める時の文字の働きについて、授業で考察します。
8	世界の言語の語順について (1)	世界の言語は多様性がありながら、少数のパターン化が可能です。このことについて、語順をテーマにして、授業で考察します。
9	世界の言語の語順について (2)	前回に引き続き、世界の言語の語順について学んでいきますが、それに関連して生成文法の生得仮説を紹介します。
10	言語の立体性について	言語は時間軸に沿って平面的に進んでいますが、それを解釈する場合は立体的な構造を付与して考えざるを得ません。このことについて、授業で考察します。
11	「狼と羊の話」の言語学	言語の詩的機能について、言語と社会の関係について、授業で考察します。ロシア・フォルマリストの考え方が中心です。
12	「うちのお父さんは今いらっやいません」一言語と社会の関係は？	言語と社会の関係について、授業で考察します。
13	期末テスト	これまで学んだところの理解度を見るため、試験を行います。
14	総括	テストについてコメントし、併せて総まとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最初に授業内容のスライドを公開しますので、それを見て授業に臨んでください。さらに、授業後、授業支援者システムにて必ず毎回フィードバックを行いますので、未知であった用語等について、調べておくことが大切です。重要なのは、授業において、何らかの「引っ掛かり」を覚え、それを後で自分なりに調べるなどの行為を通じて、定着させていくことです。大学設置基準により、本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布いたします。

【参考書】

千野栄一 (1980). 『言語学のたのしみ』. 東京：大修館書店。
 千野栄一 (1975). 『言語学の散歩』. 東京：大修館書店。
 泉井久之助 (1968). 『ヨーロッパの言語』. 東京：岩波書店。
 Mihalicek, V. and C. Wilson (eds.) (2011). *Language Files*. [11th edition.] Columbus, OH: The Ohio State University Press.

【成績評価の方法と基準】

出席を重視いたします。最終試験を 100%。欠席は基本的に認めませんので、注意してください。原則として、5 回欠席したら、不合格となります。場合によっては、プロジェクト等を課す場合もありますが、その際は事前にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業自体がなかったため、気づきはありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンがあるといろいろ便利です。特に言語学的な知識をいろいろなサイトから得るだけでなく、発音記号のフォントを使ったり、言語学で重要な樹形図を描くことができたりと、いろいろ勉強の可能性が広がります。

【その他の重要事項】

言語学は用語等が特殊でとっつきにくいところがありますが、その基本的な考え方を知ることは、言語の分析のみならず他の文化事象に関わる点が多く、これまでにない知見を皆さんに提供してくれるでしょう。なお、トピックを含め、授業に関しての具体的なことは、実情に合わせて変更・修正いたします。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目はリベラルアーツ 1 群に属す選択必修科目です。春学期のみの開講で、担当者が毎年交代する科目です。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

We human beings use language as a means of communication. However, when we come to think how we use our organs to speak, how we interpret speech, how we learn to speak; we realise that we are not at all conscious of actual challenges. The objective of this course is to consider these problems which are totally dropped out of our consciousness.

【到達目標（Learning Objectives）】

They are four-fold:

1. to know the basic methodology for linguistic descriptions,
2. to compare linguistic descriptions to decide which are the good ones,
3. to know the wide varieties of human languages,
4. to know various subfields of linguistics.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Actual class sessions are all based on the Powerpoint slides (about 200 slides in all!) all prepared beforehand. So, in order to make the most of them you should:

- download and print out the slides and skim over them;
- attend the class w/the printed-out slides, concentrate on the contents of the lecture, and take as many notes as you can;
- visit the LMS site, and check the comments made by the instructor; and
- read the books/articles mentioned on the LMS site for further comprehension.

Should you have any trouble in taking realtime online class session, you can get access to the recorded educational material. Please check the LMS site for details.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

- Please note that attendance is taken for granted. However, if you miss a class, the following rule is applied: 1 demerit for each class missed. 3 demerits = -10% on your grade (roughly one letter grade). 5 demerits = failure for the course.
- The Final exam scheduled on the day of the final class session is very important, literally determining your grade. Please see my message on the LMS site for more information.

Any modification to the above shall be known to you by using LMS

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第 2 回	音声学・音韻論 1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第 3 回	音声学・音韻論 2	音声器官、調音点
第 4 回	音声学・音韻論 3	母音と子音
第 5 回	音声学・音韻論 4	音素と異音
第 6 回	音声学・音韻論 5	日本語と英語の強勢の違い
第 7 回	形態論 1	語の構造と語の構成
第 8 回	形態論 2	派生接辞と屈折接辞
第 9 回	形態論 3	語彙範疇と機能範疇
第 10 回	形態論 4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第 11 回	形態論 5	語の右側主要部規則
第 12 回	統語論 1	文法とは何か
第 13 回	統語論 2	文法構造
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。授業中に配布したプリント及び自分で取ったノートの内容を確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用せず

【参考書】

毎回プリントを配布する。

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようにすることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介し、また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介します。

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 言語学の方法についての基礎的な分野、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論の基本形式を理解する。
3. 他の学問領域と重なる語用論、社会言語学および心理言語学のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

「言語学」の基礎的な術語・概念について講義し、どう言語を扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	言語と言語学	世界の言語と言語学を考える
第 2 回	音の作り方：音声学	「音声学」について解説する
第 3 回	音の使い方：音韻論	「音韻論」について解説する
第 4 回	単語のしくみ：形態論・語彙論	「形態論・語彙論」について解説する
第 5 回	意味の世界：意味論 1	「意味論」について解説する論
第 6 回	単語間の意味関係：意味論 2	単語間の意味関係について考察する
第 7 回	文のしくみ：統語論 1	「統語論」について解説する
第 8 回	文の意味：統語論 2	文の意味のかかわる要素について日本語と英語を例に概観する
第 9 回	談話のしくみ：誤用論 1	「語用論」の観点について紹介する
第 10 回	会話のしくみ：誤用論 2	コミュニケーションを考えたとき要素について解説する
第 11 回	言語のバリエーション	「社会言語学」について概観する

：社会言語学 1

- 第 12 回 言語の変化：社会言語学 2 言語変化が社会の中でどのように進行しているのかを概観する
- 第 13 回 文理解：心理言語学 1 文を理解するときのしくみについて解説する
- 第 14 回 文産出：心理言語学 2 文を話すことができるしくみについて解説する（授業内試験をする可能性あり）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にし、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋留美 他 (2021)『やさしい言語学』

【参考書】

佐久間淳一 他 (2007)『言語学入門』研究社

千野栄一 (1994)『言語学の開かれた扉』三省堂、

必要に応じて授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

課題：30%

平常点：20%

期末試験：50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いていだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language." In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand the basic forms of the methods of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, and semantics.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various perspectives, touching on areas such as pragmatics, sociolinguistics, and psycholinguistics, which overlap with other disciplines.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
 Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようになることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介します。また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介します。

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 世界の言語には思いもよらない現象があることを、日本語や英語のしくみと違う点・似ている点に注目することで、理解する。
3. 他の学問領域と重なる言語学の分野、歴史・比較・地理言語学、社会言語学、認知言語学、対照言語学および第二習得論のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

世界の言語について概観し、言語学と呼ばれるさまざまな分野においてそれらをどう扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第 2 回	漢字圏の言語 1	世界の言語の現状と、言語の起源について
第 3 回	印欧の言語 2	使用するテキストについて、印欧語とは何か
第 4 回	アジアの言語 3	グリムの法則
第 5 回	歴史言語学の成果	「歴史言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第 6 回	比較言語学の成果	「比較言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第 7 回	地理言語学の成果	「地理言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第 8 回	社会言語学の成果	「社会言語学」でわかったことを紹介する
第 9 回	認知言語学の成果	「認知言語学」を概観し、それがもたらす成果について解説する

第 10 回	対照言語学の成果	「対照言語学」を概観し、それがもたらす成果について解説する
第 11 回	第二言語習得について	「第二言語習得」の概説と、それでわかったことを紹介する
第 12 回	文字論	「文字論」について解説する
第 13 回	言語研究の歴史	言語学の成立とその変遷について概説する
第 14 回	「ことば」を考えると きの問題等 (授業内試験をする可能性あり)	「ことば」の力、言語の発見等について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な個所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

風間喜代三 (1978) 『言語学の誕生』 岩波新書

上山あゆみ (1991) 『はじめての人の言語学—ことばの世界へ』 くろしお出版

佐久間淳一他 (2007) 『言語学入門』 研究社

ステイーブンソン／江村他訳 (2010) 『図説 ことばの世界—欧米の言語史—』 青山社

千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂

町田健・初山洋介 (1995) 『よくわかる言語学入門—解説と演習』 パベルプレス

【成績評価の方法と基準】

課題： 30%

平常点： 20%

期末試験： 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持つという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language." In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand that there are unexpected phenomena in the world's languages by focusing on the differences and similarities between the systems of Japanese and English.

3. To understand that language can be analyzed and studied from various angles through exposure to fields of linguistics that overlap with other disciplines, such as historical, comparative, and geographical linguistics, sociolinguistics, cognitive linguistics, contrastive linguistics, and second acquisition theory.

4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

佐藤 真人

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代ギリシアから中世初期までの西洋哲学史に即して、自然、世界、神、「私」といった問題がどのように考えられてきたのか、それらについての知識を得るためにどのような方法がとられてきたのかを学びます。

世界はなぜこのようなものとしてあるのか。個人の多様性の奥にある普遍性はどのようなものなのか、なぜそのような普遍性が可能と言えるのか。そして「私」とは何か。

こういった問題に関する西洋哲学の基礎を理解し、それを通じて、現代の私たちが知識を探究し、自身で論理的に考えるための力を養うのが、この授業の目的です。

【到達目標】

- ① 真理、自然、神、自己といった問題について、西洋哲学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ② 西洋哲学史における普遍性や多様性の考えがどのような根拠で成立し、発展してきたのかについて、内容と論理の構造を理解する。
- ③ 授業で理解したことを、授業内容を踏まえ、自身の言葉で適切かつ論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式で、資料を適宜配布しながら進めます。授業後、出席票を兼ねたリアクション・ペーパーを必ず提出してください。優れた内容は次回授業で共有・回答してフィードバックします。また、人数次第で中間の小テストを実施します。なお、この授業は秋学期の「哲学 II」へ続くので、通年での履修が望ましいですが、どちらかを別個に履修することも可能です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	世界があることへの驚異と探究 哲学とは?
第 2 回	世界はどのように成り立っているのか?	古代ギリシアにおける「コスモス」の誕生と自然の根源の探究
第 3 回	古代ギリシアの真理・善・美 ①	ソクラテスの「不知」と魂の世話
第 4 回	古代ギリシアの真理・善・美 ②	プラトンの知識論と魂の不死
第 5 回	古代ギリシアの真理・善・美 ③	プラトンの愛、美、真実在
第 6 回	アリストテレスの知識論	体系とは何か? アリストテレスの論理学と知の区分
第 7 回	アリストテレスの自然学	四原因と運動変化について
第 8 回	アリストテレスの魂論	能力の発揮について
第 9 回	初期ストア派の「理」の学と自然哲学	ロゴスと自然の探究の意味
第 10 回	絶対に確かな真理はあるのか?	懐疑主義の脅威

第 11 回 新プラトン主義の宇宙 世界の「流出」と「三つの存在者」論

第 12 回 自己の内面の探究 ① プロティノスのエクスタシスと「一者」への回帰

第 13 回 自己の内面の探究 ② アウグスティヌスによる「私」の時間論

第 14 回 自己の内面の探究 ③ アウグスティヌスによる愛と三位一体の理論、学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がもっと深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっているのかももっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを授業支援システムで適宜配布します。

【参考書】

参考書は都度提示しますが、何よりも、扱う哲学者たちの文章をよく読んでください。

授業全般に関わる概説書としては、以下を勧めます。

・内山勝利ほか編、『哲学の歴史』、1～3 巻、中央公論新社、2007～2008 年。

・熊野純彦、『西洋哲学史』、全 2 巻、岩波新書、2006 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リアクション・ペーパーや参加姿勢など) 25%、中間の小テスト 20%、期末試験 (またはレポート) 55% (中間テストを実施しない場合は 75%)、の割合とします。

なお、欠席 4 回で不可としますので、注意してください (事情がある場合は要相談)。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

哲学は受け身で聞き流すだけでは身につかないので、ぜひ自分で読み、考えるようにしてください。

【Outline (in English)】

We will learn the methods and the results of western philosophers, from the ancient period to the early medieval period, on how they consider the nature, the world, God and the self, and how they see their relations, by examining their thoughts and by reading their texts. The purpose of this course is to understand the fundamentals of western philosophy on these issues and, through this, to develop the ability to explore knowledge and think logically by oneself.

Students are expected by the end of the course 1) to acquire basic knowledge and ideas of Western philosophy on issues such as truth, nature, God, self, etc. 2) to understand the content and logical structure of the ideas of universality or diversity in the history of Western philosophy, and on what basis they were established and developed, and 3) to explain their understandings clearly and logically in their own words. Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination or report: 55% (if no mid-term examination is given, 75%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤 真人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世から近世までの西洋哲学史に即して、自然、世界、神、「私」といった問題がどのように考えられてきたのか、それらについての知識を得るためにどのような方法がとられてきたのかを学びます。世界はなぜこのようなものとしてあるのか。個人の多様性の奥にある普遍性はどのようなものなのか、なぜそのような普遍性が可能と言えるのか。そして「私」とは何か。こういった問題に関する西洋哲学の基礎を理解し、それを通じて、現代の私たちが知識を探究し、自身で論理的に考えるための力を養うのが、この授業の目的です。

【到達目標】

- ① 真理、自然、神、自己といった問題について、西洋哲学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ② 西洋哲学史における普遍性や多様性の考えがどのような根拠で成立し、発展してきたのかについて、内容と論理の構造を理解する。
- ③ 授業で理解したことを、授業内容を踏まえ、自身の言葉で適切かつ論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面による講義形式で、資料を適宜配布しながら進めます。授業後、出席票を兼ねたリアクション・ペーパーを必ず提出してください。優れた内容は次回授業で共有・回答してフィードバックします。また、人数次第で中間の小テストを実施します。なお、この授業内容は春学期の「哲学Ⅰ」から連続しているので、通年での履修が望ましいですが、どちらかを別個に履修することも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	中世哲学の発展と世界の見方の変化
第 2 回	神の存在は証明可能か？	アンセルムスとトマス・アクィナスによる神の存在証明
第 3 回	存在とは何か？	ドゥンス・スコトゥスによる「ある」ことの普遍性と特異性
第 4 回	宇宙と無限	ニコラウス・クザヌスによる宇宙像と神を知る方法
第 5 回	コスモスの解体と「幾何学的宇宙」の発見	世界認識の刷新と「近世哲学」の始まり
第 6 回	デカルト哲学の成立	「学校」哲学への懐疑、数学研究、「考える私」と神の発見
第 7 回	デカルト哲学の体系性	基礎としての形而上学と自然学の展開
第 8 回	デカルト哲学の発展	観念、実体、情念の理論の革新性
第 9 回	パスカルの哲学批判	「考える葦」、憎むべき「私」、そして「考える肢体」
第 10 回	マルブランシュの物体的認識論	明晰な自然界と闇の「私」

第 11 回 スピノザの幾何学的哲学 至福と真理の探究法

第 12 回 スピノザ『エチカ』の「神または自然」と意志なき人間の倫理

第 13 回 ライプニッツの真理論 論理と理由の探究

第 14 回 ライプニッツの「この実体の力」、「表現」、世界の調和、すばらしき世界」 学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がいつそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっているのかもっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを授業支援システムで適宜配布します。

【参考書】

参考書は都度提示しますが、何よりも、扱う哲学者たちの文章をよく読んでください。

授業全般に関わる概説書としては、以下を勧めます。

- ・内山勝利ほか編、『哲学の歴史』、1～3 巻、中央公論新社、2007～2008 年。
- ・熊野純彦、『西洋哲学史』、全 2 巻、岩波新書、2006 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）25%、中間の小テスト 20%、期末試験（またはレポート）55%（中間テストを実施しない場合は 75%）、の割合とします。

なお、欠席 4 回で不可としますので、注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

哲学は受け身で聞き流すだけでは身につかないので、ぜひ自分で読み、考えるようにしてください。

【Outline (in English)】

We will learn the methods and the results of western philosophers, from the medieval period to the early modern period, on how they consider the nature, the world, God and the self, and how they see their relations, by examining their thoughts and by reading their texts. The purpose of this course is to understand the fundamentals of western philosophy on these issues and, through this, to develop the ability to explore knowledge and think logically by oneself.

Students are expected by the end of the course 1) to acquire basic knowledge and ideas of Western philosophy on issues such as truth, nature, God, self, etc. 2) to understand the content and logical structure of the ideas of universality or diversity in the history of Western philosophy, and on what basis they were established and developed, and 3) to explain their understandings clearly and logically in their own words. Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and to summarize what the text is arguing for. Required study time is two hours each before and after the class.

Grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination or report: 55% (if no mid-term examination is given, 75%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します:

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (4～5 回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学 (愛知) 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快樂主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン (1) 愛 (エロース) と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン (2) アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン (3) アイデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン (4) アリストテレスのアイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 10 回	哲学の基本問題 2	知性と神: プラトン
第 11 回	哲学の基本問題 3	知性と神: アリストテレス
第 12 回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学

第 13 回 哲学の基本問題 5 一元論思想とその問題点

東西の一元論思想

第 14 回 哲学 I のまとめ 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習: テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読

授業後学習: 授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト (教科書)】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

(履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。)

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998 年

その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (60%)、授業内容確認小テストの成績 (30%) そして平常点 (10%) とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学を授業で学ぶのは、多くの大学生にとって初めてのことだろうと思いますが、哲学者の思想の本質・核心を正しく真直ぐに捉えるために、何よりもまず、テキスト・資料を深く読み込んで欲しいと思います。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【Outline (in English)】

This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Plato, to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy.
2. The grounds for the possibility of common understanding on values.
3. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：

- ・近代哲学の難問とその解決策。
- ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
- ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・实在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第 8 回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性

第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学
第 12 回	哲学の根本問題について 9	超越論的哲学の展開 2 世界信念
第 13 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998 年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に関心がある学生にとっては、この授業は興味深く、楽しかったようです。

また、授業で使用するレジュメと説明もわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します:

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明するという形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (4～5 回実施予定)。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	この授業について 哲学 (愛知) 哲学の方法
第 2 回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第 3 回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第 4 回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快樂主義
第 5 回	哲学の歴史 2	プラトン (1) 愛 (エロース) と超越
第 6 回	哲学の歴史 3	プラトン (2) アイデア説
第 7 回	哲学の歴史 4	プラトン (3) アイデア説批判
第 8 回	哲学の歴史 5	プラトン (4) アリストテレスのアイデア説解釈
第 9 回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第 10 回	哲学の基本問題 2	知性と神: プラトン
第 11 回	哲学の基本問題 3	知性と神: アリストテレス
第 12 回	哲学の基本問題 4	モラルの危機と哲学

第 13 回 哲学の基本問題 5 一元論思想とその問題点

東西の一元論思想

第 14 回 哲学 I のまとめ 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習: テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読

授業後学習: 授業内容の確認、参考文献の熟読

【テキスト (教科書)】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

(履修者は授業前日までにダウンロードして、目を通しておくことを推奨します。)

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998 年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (60%)、授業内容確認小テストの成績 (30%) そして平常点 (10%) とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学を授業で学ぶのは、多くの大学生にとって初めてのことだろうと思いますが、哲学者の思想の本質・核心を正しく真直ぐに捉えるために、何よりもまず、テキスト・資料を深く読み込んで欲しいと思います。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【Outline (in English)】

This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Plato, to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy.
2. The grounds for the possibility of common understanding on values.
3. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：

- ・近代哲学の難問とその解決策。
- ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
- ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。テキストを解説し、資料を用いて補足説明する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5 回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第 2 回	哲学の基本的性格 1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第 4 回	哲学の根本問題について 1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第 5 回	哲学の根本問題について 2	デカルトの二元論
第 6 回	哲学の根本問題について 3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第 7 回	哲学の根本問題について 4	認識批判 1 共有可能な知識とは？
第 8 回	哲学の根本問題について 5	認識批判 2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第 9 回	哲学の根本問題について 6	カントの超越論的哲学 認識の客観性

第 10 回	哲学の根本問題について 7	カントと近代哲学の難問 (カント哲学の意義と問題点)
第 11 回	哲学の根本問題について 8	超越論的哲学の展開 1 超越論的現象学
第 12 回	哲学の根本問題について 9	超越論的哲学の展開 2 世界信念
第 13 回	現代世界と哲学について	ニヒリズム ニーチェの対応法 「生きること」それ自体に意味はあるのか？
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前学習：テキスト該当箇所の精読、資料プリント等の熟読。
授業後学習：授業内容の確認、参考文献の熟読。

【テキスト（教科書）】

使用テキストや文献資料は学習支援システムで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998 年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に関心がある学生にとっては、この授業は興味深く、楽しかったようです。また、授業で使用するレジュメと説明も分かり易かったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%). Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、わたしたちを導く教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

哲学映画《星の王子さま》《ソフィーの世界》と《マトリックス四部作》とを、高画質のDVD映像で上映します。《星の王子さま》では、哲学の基本的性格について、《ソフィーの世界》では西洋哲学の歴史について、《マトリックス四部作》では、哲学の基本問題について学びます。その際に担当教員による詳細な哲学的解明をメインにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 話	哲学 I のプレゼンテーション	講義シラバス解説
第 2 話	哲学の問い	《星の王子さま》と哲学の問い
第 3 話	哲学の定義	哲学的思考と哲学の暫定的定義
第 4 話	古代哲学の歴史	古代ギリシアの哲学
第 5 話	中世・近世哲学の歴史	中世・近世の哲学
第 6 話	現代哲学の歴史	現代の哲学
第 7 話	現実世界の基本問題	現実世界について
第 8 話	現実と虚構をめぐる基本問題	現実と虚構の区別について
第 9 話	行為の基本問題	行為の因果性について
第 10 話	自由の基本問題	運命と自由意志の関係について
第 11 話	生命の基本問題	生命に目的はあるか？
第 12 話	虚構と現実の関係の基本問題	虚構と現実の相互関係
第 13 話	《マトリックス解説篇》《マトリックス三部作》の哲学的解明	
第 14 話	哲学 I のまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を事前に熟読したり、授業内で紹介された関連文献を調べたりして、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。使用DVDはAVライブラリーで視聴できます。

【参考書】

納富信留他編著『よくわかる哲学・思想』、ミネルヴァ書房、2019 年
濱井修監修『倫理用語集』、山川出版社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の授業内試験 (70%) を基準として、平常評価 (30%) も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当事項なし

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with the philosophical principle of culture.

(Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least one hour for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 誠一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、現代哲学の基本問題を、哲学的映像とスクリーン投影テキストでできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

今期は、学生が常識批判の方法としての懐疑を、現代哲学の学習を通して深めることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

インパクトの強い教育効果を生み出すため、マルチメディアによるスライドショー形式で、文字・映像・音声を立体的に組み合わせながら、講義を行ないます。哲学的な映像を、高画質のDVD映像で毎回、上映します。授業時課題レポートの講評は次回授業時に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 話	哲学Ⅱのプレゼンテーション	講義シラバス解説
第 2 話	哲学の基本性格 1	哲学の暫定的定義と方法
第 3 話	哲学の基本性格 2	哲学の懐疑
第 4 話	哲学の基本問題について 1	現実世界について
第 5 話	哲学の基本問題について 2	科学的世界像について
第 6 話	哲学の基本問題について 2	言語について
第 7 話	哲学の基本問題について 3	個人の自由について
第 8 話	哲学の基本問題について 4	幸福について
第 9 話	哲学の基本問題について 5	我執について
第 10 話	哲学の基本問題について 5	道徳について
第 11 話	哲学の基本問題について 6	死について
第 12 話	現代世界と哲学について	現代世界の精神状況について
第 13 話	現代日本と哲学について	現代日本の精神状況について
第 14 話	哲学Ⅱのまとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業実施前に授業支援システムで配布されている資料を毎回、事前に熟読し、不明箇所などを特定して主体的に受講できるようにすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用テキストはスクリーンにプロジェクターで投影し、学習支援システムでも公開します。

【参考書】

納富信留他編著『よくわかる哲学・思想』、ミネルヴァ書房、2019 年
濱井修監修『倫理用語集』、山川出版社、2019 年

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の授業内試験を基準（70%）として、平常評価（30%）も参考とします。

【学生の意見等からの気づき】

該当項目なし

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to provide students with the fundamental problems of contemporary philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

Before this class meeting, students will be expected to have read the text. Your required study time is at least one hour for this class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は学習支援システムを介したオンデマンド授業となります。PDF 教材などによる学習の後、毎回簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 — 古代	イデア
5	哲学の歴史 2 — 中世	普遍の実在性
6	哲学の歴史 3 — 近世	観念
7	哲学の歴史 4 — 現代 前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 — 現代 後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 — 現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 — 現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 — 運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 — 行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 — 生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は学習支援システムを介したオンデマンド授業となります。PDF 教材などによる学習の後、毎回簡単な課題を提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：愛
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の懐疑	隣接学問領域との対比：友人
4	哲学の根本問題について 1 — 現実世界について	
5	哲学の根本問題について 2 — 科学的世界像について	
6	哲学の根本問題について 3 — 言語について	
7	哲学の根本問題について 4 — 個人の自由について	自由と平等
8	哲学の根本問題について 5 — 幸福について	退屈
9	哲学の根本問題について 6 — 我執について	悪
10	哲学の根本問題について 7 — 道徳について	道徳の根拠
11	哲学の根本問題について 8 — 死について	死との向き合い方
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

谷口 カ

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。
この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「世界」、および、「世界」に関するいくつかの論理的な問題 (存在論、認識論、言語論、など) について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界
- ・大陸合理論における世界
- ・イギリス経験論における世界
- ・近代ドイツ哲学における世界
- ・19～20 世紀哲学における世界
- ・現代分析哲学における世界

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学の内容に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第 2 回	哲学の歴史～哲学の基本問題 1 : 古代ギリシャ哲学 (1)	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち① (さまざまなアルケー、有)
第 3 回	哲学の基本問題 2 : 古代ギリシャ哲学 (2)	・ソクラテス以前の哲学者たち② (ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース) ・ソクラテス (無知の知)
第 4 回	哲学の基本問題 3 : 古代ギリシャ哲学 (3)	・プラトン① (イデア論)
第 5 回	哲学の基本問題 4 : 古代ギリシャ哲学 (4)	・プラトン② (知識とは何か)
第 6 回	哲学の基本問題 5 : 古代ギリシャ哲学 (5)	・アリストテレス (四原理、デユナミスとエネルゲイア) ・プロティノス (一者、流出説) ・近代への過渡期

第 7 回	哲学の基本問題 6 : 大陸合理論	・デカルト (実体、神、精神と物体) ・スピノザ (実体、属性、様態) ・ライプニッツ (モナドロジー、最善世界説)
第 8 回	哲学の基本問題 7 : イギリス経験論 (1)	・ロック (経験と観念) ・ヒューム (因果律の否定)
第 9 回	哲学の基本問題 8 : イギリス経験論 (2)	・バークリ (物質的実体の否定)
第 10 回	哲学の基本問題 9 : 近代ドイツ哲学 (1)	・カント (感性と悟性、カテゴリーと図式、ア・プリオリな総合判断)
第 11 回	哲学の基本問題 10 : 近代ドイツ哲学 (2)	・フィヒテ (自我と非我) ・シェリング (主客の無差別) ・ヘーゲル (絶対者、弁証法)
第 12 回	哲学の基本問題 11 : 19～20 世紀哲学	・ショーペンハウアー (意志と表象) ・ニーチェ (真理らしさ、パースペクティヴ) ・ハイデガー (世界-内-存在)
第 13 回	哲学の基本問題 12 : 現代分析哲学 (1)	・ウィトゲンシュタイン (対象と事実、言語批判、語りえぬもの)
第 14 回	哲学の基本問題 13 : 現代分析哲学 (2) ～哲学 I のまとめ	・その他の現代形而上学 ・試験について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前: 興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後: 興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

【テキスト (教科書)】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』(上・下巻)、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline (in English)】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: ° world ° and some related logical problems

of ° world ° (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

谷口 カ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「心」、および、「心」に関するいくつかの倫理的な問題（価値、道徳、生、など）について、さまざまな時代の各哲学者が、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

この授業では、主として、次のような各哲学の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心
- ・大陸合理論における心
- ・イギリス経験論における心
- ・近代ドイツ哲学における心
- ・19～20 世紀哲学における心
- ・現代分析哲学における心

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、また、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第 2 回	哲学の根本問題について 1 ：古代ギリシャ哲学 (1)	・ソクラテス（徳の知、死） ・プラトン①（ブシュケー、ハデス、想起説）
第 3 回	哲学の根本問題について 2 ：古代ギリシャ哲学 (2)	・プラトン②（魂の正しさ）
第 4 回	哲学の根本問題について 3 ：古代ギリシャ哲学 (3)	・アリストテレス（アニマ） ・近代への過渡期
第 5 回	哲学の根本問題について 4 ：大陸合理論	・デカルト（我思う、ゆえに我あり） ・スピノザ（神、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モノアド）

第 6 回	哲学の根本問題について 5 ：イギリス経験論	・ロック（タブラ・ラサ、感覚と反省） ・ヒューム（知覚の束、同一性の否定） ・バークリ（存在するとは知覚されることである）
第 7 回	哲学の根本問題について 6 ：近代ドイツ哲学 (1)	・カント（先験的仮象、実践的要請、定言命法）
第 8 回	哲学の根本問題について 7 ：近代ドイツ哲学 (2)	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学）
第 9 回	哲学の根本問題について 8 ：19～20 世紀哲学	・シュテイルナー（唯一者） ・ニーチェ（自己、エス） ・ジェームズ（純粹経験） ・フッサール（志向性）
第 10 回	哲学の根本問題について 9 ：現代分析哲学 (1)	・ウイトゲンシュタイン①（独我論の貫徹および消去）
第 11 回	哲学の根本問題について 10 ：現代分析哲学 (2)	・現代の心の哲学①（行動主義、心脳同一説、機能主義、消去主義、随伴現象説、性質二元論、など）
第 12 回	哲学の根本問題について 11 ：現代分析哲学 (3)	・現代の心の哲学②（非法則的一元論、クオリア、認知的閉鎖、さまざまな思考実験、など）
第 13 回	哲学の根本問題について 12 ：現代分析哲学 (4)	・ウイトゲンシュタイン②（生きている人間、目、まなざし、微笑み）
第 14 回	哲学の根本問題について 13 ：大乘仏教の哲学～現代世界および現代日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。
授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみることを望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

セメスター末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline (in English)】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: 'mind' and some related ethical problems of 'mind' (value, moral, life, etc.).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグループディスカッション、ディベートを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	ガイダンス 哲学とは？
2	哲学の基本的性格 1	プラトン (1) 「アイデアの萌芽」としての人間存在
3	哲学の基本的性格 2	プラトン (2) 『饗宴』 アリストファネスの話
4	哲学の歴史 1	プラトン (3) 『饗宴』 ソクラテス
5	哲学の歴史 2	西田幾多郎 (1) 『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	哲学の歴史 3	西田幾多郎 (2) 「主客合一」としての人間存在
7	哲学の歴史 4	和辻哲郎 (1) 『倫理学』 - 「間柄」としての人間存在
8	哲学の歴史 5	和辻哲郎 (2) 「矛盾の統一」としての人間存在
9	哲学の基本問題 1	和辻哲郎 (3) 『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	哲学の基本問題 2	和辻哲郎 (4) 主体としての風土
11	哲学の基本問題 3	ブーバー (1) 『我と汝』
12	哲学の基本問題 4	ブーバー (2) 「汝」としての世界
13	哲学の基本問題 5	ブーバー (3) 「本質行為」としての人間
14	哲学 I のまとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』
復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックしてから今回の講義内容をノートや公開される授業動画で整理し、そのうえで新たに小テストを受験すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

グループワーク用の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子をみます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	ガイダンス 哲学への導入
2	哲学の基本的性格 1	今西錦司 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	哲学の基本的性格 2	その 2 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
4	哲学の根本問題について 1	アリストテレス 自己形成的世界観としての形而上学
5	哲学の根本問題について 2	その 2 自己形成的世界観としての形而上学
6	哲学の根本問題について 3	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	哲学の根本問題について 4	デカルトの近代的世界観 近代的な主客二元論
8	哲学の根本問題について 5	デカルト (2) 近代的な主客二元論
9	哲学の根本問題について 6	デカルト (3) 「近代的分裂」の予告としての近代的な主客二元論
10	哲学の根本問題について 7	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	哲学の根本問題について 8	カントとヘーゲル カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	現代世界と哲学について	カントとヘーゲル カントのアンチノミー論

- 13 現代日本と哲学について カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観
 14 哲学Ⅱのまとめ カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックしてから今回の講義内容をノートや公開される授業動画で整理し、そのうえで新たに小テストを受験すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること—自然哲学—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること—ソクラテス—
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1—プラト—
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2—アリス—
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知—中世哲学—
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について—近代哲学—
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1—大陸合理論—
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2—イギリス経験論—
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由—カント—
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と学生の興味関心、授業の内容理解度のバランスを随時調整します。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1—デカルト—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2—ロック—
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学
第 6 回	哲学の根本問題について 2	『純粋理性批判』を読む 1—超越論的感性論—
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 2—超越論的分析論—
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 3—概念の分析論—
第 9 回	哲学の根本問題について 5	『純粋理性批判』を読む 4—純粋悟性概念の演繹について—
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学
第 11 回	現代世界と哲学について 1	現代の哲学思想
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カント哲学の解釈
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について 4	グローバル化時代の哲学
	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容と学生の興味関心、授業の内容理解度のバランスを随時調整します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探究する。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆく。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

ただし、最初の三回の授業は、受講者数による密を避けるため、そして教室変更の可能性があるため、学習支援システムのオンライン授業（資料配布型）で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅰのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格 1 —哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第 3 回	哲学の基本的性格 2 —哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第 4 回	哲学の歴史 1 —近代①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第 5 回	哲学の歴史 2 —近代②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第 6 回	哲学の歴史 3 —現代①	ヤスパース：実存と永遠
第 7 回	哲学の歴史 4 —現代②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第 8 回	哲学の基本問題 1 —死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第 9 回	哲学の基本問題 2 —死について②	ドストエフスキー：死と魂の不滅
第 10 回	哲学の基本問題 3 —現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第 11 回	哲学の基本問題 4 —人生に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第 12 回	哲学の歴史 5 —古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志

第 13 回 哲学の歴史 6 —中世 証空：浄土教における無限者との一体化

第 14 回 哲学Ⅰのまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。対面授業では、教室で、適宜プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020 年、2700 円（税抜）。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40% くらい）と期末の筆記試験（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6 月下旬頃の授業でのアナウンスに注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy. We will ask thinkers of all ages, east and west, about the problem of self and being beyond myself.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンター	講義全体の概観とシラバスの解説 ション
第 2 回	哲学の基本的性格—哲	哲学することの動機 学の暫定的定義と方 法、哲学の懐疑
第 3 回	哲学の根本問題につい	て 1—科学的認識と 行為の因果性について カントの認識論
第 4 回	哲学の根本問題につい	て 2—道徳、自由、幸 福について カント：道徳と宗教
第 5 回	哲学の根本問題につい	て 3—現実世界と人 間存在について ヤスパース：包摂者論
第 6 回	哲学の根本問題につい	て 4—真理について ヤスパース：理性と交わり
第 7 回	哲学の根本問題につい	て 5—哲学的世界像 について 古代ギリシャの存在論
第 8 回	哲学の根本問題につい	て 6—現実世界の運 動について ヘーゲルの弁証法
第 9 回	哲学の根本問題につい	て 7—近世日本の道 徳観 伊藤仁斎の「仁」の思想
第 10 回	現代日本と哲学につい	て 1—位 夏目漱石：現代日本批判と自己本
第 11 回	現代日本と哲学につい	て 2— 夏目漱石：道と天

第 12 回	現代世界と哲学につい	て 1— 小林秀雄：信じられる自己、言 葉、物、美
第 13 回	現代世界と哲学につい	て 2— 小林秀雄：西洋と日本、自己を超 える存在
第 14 回	哲学Ⅱのまとめ	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教室で、適宜、プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020 年、2700 円（税抜）。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40% くらい）と期末の筆記試験（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12 月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。この授業では、特に、西洋古代ギリシア哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して、哲学が教養知の原理であることを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に不定期の資料配信によるオンライン形式で進める。（不定期というのは、一週間に一度から10日に一度程度の間に資料を配信し、課題やコメントを提出することで出席とみなす予定である）。さまざまな哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めていってもらいたい。できるだけわかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	序論：足の裏に影はあるか？
2	哲学の基本的性格 1	「哲学」とは何か？
3	哲学の基本的性格 2	ギリシアにおける「哲学」の誕生
4	哲学の歴史 1 — 哲学の出発点 1	無知の自覚と愛知
5	哲学の歴史 2 — 哲学の出発点 2	ソクラテスの無知の自覚
6	哲学の歴史 3 — 哲学の出発点 3	懐疑・驚き・絶望（デカルト・ヤスパーズ）
7	哲学の歴史 4 — 哲学の究極	愛についての考察・イデア論とプラトニック・ラヴ
8	哲学の歴史 5 — 哲学とは何か・まとめ	愛の三つの対象と知への愛
9	哲学の基本問題 1 — 哲学と科学 1	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学の基本問題 2 — 哲学と科学 2	対象の違い：部分と全体、本質と現象
11	哲学の基本問題 3 — 哲学と科学 3	方法の違い：仮説と真理・分析と反省
12	哲学の基本問題 4 — 哲学と科学 4	事実と価値・手段と目的
13	哲学の基本問題 5 — 哲学と科学 5	主体知と客体知：相補性

14 哲学 I まとめと学期 まとめと学期末レポート
末レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点 (40%) と、学期末試験 (レポート) (60%) によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業はわかりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、ひきつづき、哲学の面白さ、楽しさをじっくり伝えていきたい。哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面の場合、授業中の私語には厳しく対処する。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に不定期の資料配布によるオンライン形式で進める。（不定期というのは、一週間に一度から10日に一度程度の間に資料を配信し、課題やコメントを提出することで出席とみなす予定である）。さまざまな哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めていってほしい。できるだけわかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か？ 哲学と科学と宗教と
2	哲学の基本的性格	哲学と宗教の相違点——知の立場と信の立場
3	哲学の基本的性格 2 ——宗教の予備学習から 1	ユダヤ教とキリスト教
4	哲学の基本的性格 3 ——宗教の予備学習から 2	キリスト教——愛の宗教
5	哲学の根本問題について 1 ——哲学と宗教 1	知と信の葛藤——ギリシア哲学とキリスト教
6	哲学の根本問題について 3 ——哲学と宗教 2	現代における宗教の存在理由——理性の偉大さとその限界
7	哲学の根本問題について 4 ——哲学と宗教 3	宗教心の源泉——パスカル『パンセ』より
8	哲学の根本問題について 5 ——哲学と宗教 4	自由意志と悪の問題——パスカルとアウグスティヌス
9	哲学の根本問題について 6 ——哲学と宗教 5	自力と他力——人間の強さと弱さについて
10	哲学の根本問題について 7 ——哲学と幸福論 2	幸福論——哲学と善き生について
11	哲学の根本問題について 8 ——哲学と幸福論 2	意志の弱さと選択の問題
12	現代世界と哲学について ——哲学と幸福論 3	正義と幸福——ソクラテスの場合

13 現代日本と哲学について ソクラテスの後継者たち——禁欲
て——幸福論の系譜 主義と快楽主義

14 哲学Ⅱのまとめ まとめと学期末レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山 勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点 (40%) と、学期末試験 (レポート) (60%) によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業はわかりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、ひきつづき、哲学の面白さ、楽しさをじっくり伝えていきたい。哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面の場合、授業中の私語には厳しく対処する。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は学習支援システムによるオンライン授業である。資料・教材配布型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」

第 11 回 私は自分の義務をなす カント倫理学② 自由とは何か？
べきか？（2）

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）
べきか？（3）

第 13 回 私は法にかなったこと 社会契約論
をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40% くらい）と学期末のレポート（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【学生が準備すべき機器他】

レポートは学習支援システム上で提出してもらい、提出可能なファイル形式はワードもしくは PDF の二つのみとする予定であるから、レポート提出時までにこのどちらか一つは作成できるように準備しておいてほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on the report in the middle of the semester (about 40%) and the report at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交錯する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は学習支援システムによるオンライン授業である。資料・教材配布型で行う。課題等のフィードバックは授業内で行う。詳細はオンライン授業開始時に示す。

ただし、大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か？
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）

第 11 回 人間の責任はどこまで 世代間倫理（フレチェット）及ぶのか？（1）

第 12 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）及ぶのか？（2）

第 13 回 何が暴力を抑止するの 暴力、戦争と倫理学か？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の資料を使用して予習・復習をすること。また、授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期中ごろのレポート（40% くらい）と学期末のレポート（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

レポートは学習支援システム上で提出してもらい、提出可能なファイル形式はワードもしくは PDF の二つのみとする予定であるから、レポート提出時までにこのどちらか一つは作成できるように準備しておいてほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on the report in the middle of the semester (about 40%) and the report at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合や飛沫感染の懸念によって対面では授業の本来の目的を達成するのに障害が出る場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学

第 7 回 私は何をなすべきか？ 快楽主義とストア派の倫理学（4）

第 8 回 私は自分の義務をなすべきか？（1） 功利主義

第 9 回 私は自分の義務をなすべきか？（2） 自由とは何か？

第 10 回 私は自分の義務をなすべきか？（3） カント倫理学

第 11 回 私は法にかなったことをなすべきか？（1） 法実証主義

第 12 回 私は法にかなったことをなすべきか？（2） 社会契約論

第 13 回 私は法にかなったことをなすべきか？（3） 自由主義・共同体主義

第 14 回 まとめ 授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅱも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in everyday society based on the relationship with social norms.

Study time outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合や飛沫感染の懸念によって対面では授業の本来の目的を達成するのに障害が出る場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

- | 回 | テーマ | 内容 |
|-------|------------|--------------------|
| 第 1 回 | 何が暴力を抑止するの | 「正義の戦争」はありうるのか？（1） |
| 第 2 回 | 何が暴力を抑止するの | 暴力の倫理学か？（2） |
| 第 3 回 | 何が暴力を抑止するの | テロリズムと戦争か？（3） |

- | | | |
|--------|------------|-------------------------------|
| 第 4 回 | 私は生命を操作する権 | 生存権／人権とは何か？
利があるのか？（1） |
| 第 5 回 | 私は生命を操作する権 | 「生きるに値する命」とは何か？
利があるのか？（2） |
| 第 6 回 | 私は生命を操作する権 | 動物倫理学
利があるのか？（3） |
| 第 7 回 | 私は生命を操作する権 | 生命倫理
利があるのか？（4） |
| 第 8 回 | 人間の責任はどこまで | 責任という原理（ヨナス）
及ぶのか？（1） |
| 第 9 回 | 人間の責任はどこまで | 科学技術の倫理
及ぶのか？（2） |
| 第 10 回 | 人間の責任はどこまで | 世代間倫理
及ぶのか？（3） |
| 第 11 回 | 環境は保護しなければ | 環境倫理学とは何か？
ならないのか？（1） |
| 第 12 回 | 環境は保護しなければ | 持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（2） |
| 第 13 回 | 環境は保護しなければ | 21 世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（3） |
| 第 14 回 | まとめ | まとめの授業を行います。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・レッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

参考書については、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次のようにする。

授業への貢献度 30%；レポート 70%

授業への貢献度とは、毎授業後に提出されるコメントペーパーです。レポートは学期末に、課題を提示します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答します。

コメントペーパーを見ていると、4 月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

哲学的・倫理的に考えることが、少しずつですが定着していると思えます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかをみてゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第 2 回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第 3 回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）
第 4 回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？ 利があるのか？（1）
第 5 回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？ 利があるのか？（2）
第 6 回	私は生命を操作する権	動物倫理学 利があるのか？（3）
第 7 回	私は生命を操作する権	生命倫理学 利があるのか？（4）
第 8 回	人間の責任はどこまで	責任という原理（ヨナス） 及ぶのか？（1）
第 9 回	人間の責任はどこまで	科学技術の倫理 及ぶのか？（2）
第 10 回	人間の責任はどこまで	世代間倫理 及ぶのか？（3）
第 11 回	環境は保護しなければ	環境倫理学とは何か？ ならないのか？（1）

第 12 回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（2）

第 13 回 環境は保護しなければ 21 世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（3）

第 14 回 まとめ これまでのまとめ、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらいます。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点 35 %；レポート 65 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、Zoom での授業だったので、すこし感想の雰囲気がちがいますが、次のようなコメントがありました。

「秋学期間ありがとうございました。春学期につづき、哲学対話などがあったので、受動的に授業を受けるだけでなかったのよかったです。倫理学を学んで、自分の考えの幅が広がった気がします。」授業で「哲学対話」を取り入れたので、コメントにはそのことがふれられています。以下のコメントは、その点についてもっと述べてくれています。「ふつう」とは？ ということを経験として哲学対話をやったのです。

「秋学期は「ふつう」についての哲学対話が特に心に残っています。改めて考えてみると考えるほど疑問が生まれて難しい問題だと思いました。最近でもテレビや話しの中でふつうというワードが出てくると「ふつうって何？」と今まで疑問に思うことのなかったことを疑問に思うようになり、日常生活に新たな疑問が生まれました。家族でもよく話す話題になって「ふつう」の哲学対話は生活に影響を与えました。」

【Outline (in English)】

【Course outline】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 65%, in class contribution: 35%.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他
/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

The purpose of this class is to examine how we exist and live as an individual human being in the everyday society we live in today, based on the relationship with social norms. In doing so, we aim to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行ないます (今年度は、大学側からの要請によりオンデマンド授業)。毎週、各自でオンデマンド授業 (動画) を視聴し、それに対してリアクションペーパーを提出してもらいます (毎週期限あり)。

リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではなく、授業を視聴して各自で考えたことを書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために実施しています。学生の皆さんに質問を投げかけたり、皆さんのリアクションペーパーを紹介したりすることで、同世代の受講者がどのような考えを持っているのか、同じ講義を聞いてもさまざまな考えがあるのだということを知ることができます。講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か? (1)	「私」とは誰か?
第 2 回	人間とは何か? (2)	世界の中にいるとはどういうことか?
第 3 回	人間とは何か? (3)	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第 4 回	私は何をなすべきか? (1)	倫理学とは何か?
第 5 回	私は何をなすべきか? (2)	絶対的な善とは何か?
第 6 回	私は何をなすべきか? (3)	アリストテレス倫理学: 幸福な生とは何か?
第 7 回	私は何をなすべきか? (4)	快楽主義とストア派の倫理学: 快楽と禁欲

第 8 回	私は自分の義務をなすべきか? (1)	功利主義: 「万人の利益」が善なのか?
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか? (2)	自由とは何か? : 自由意志と責任
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか? (3)	カント倫理学: 行為の道徳的価値と義務
第 11 回	私は法になかったことをなすべきか? (1)	法実証主義: 法律は絶対的に正しいのか?
第 12 回	私は法になかったことをなすべきか? (2)	社会契約論: 人民の主権と法の支配
第 13 回	私は法になかったことをなすべきか? (3)	自由主義・共同体主義: 個人の権利と共同体的多元性
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー・ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年適宜、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー (50 %)、期末試験またはレポート (50 %)

今年度は大学側の要請によりオンデマンド授業での実施になります。そのため、毎回のリアクションペーパーの評価割合を大きくします。きちんと毎回オンデマンド授業を試聴してから、期限までにリアクションペーパーを提出することを必須としますので、受講を検討する際は注意してください (ただ提出しているだけの人は、評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています)。

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
This year, due to the university's request, the class will be conducted on demand. For this reason, we will increase the evaluation ratio of the reaction papers for each class. Please note that it is mandatory to listen to the on-demand class properly and then submit a reaction paper by the deadline every week, so please be careful when considering taking this course.

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

【その他の重要事項】

※ 例え倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないで OK です。(基本的に初學者向けの授業です)

※ 単位を取るためだけに履修しようと思う人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

* Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

* We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

【Outline (in English)】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

The goals of this course are to provide students with practical knowledge to solve various ethical problems. In particular, this course is a more practical ethics in terms of applying the fundamentals of ethics learned in Ethics I under realistic themes by studying the so-called field of "applied ethics."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

＊ 講義

＊ 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。

＊ 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第2回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第3回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）
第4回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？ 利があるのか？（1）
第5回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？ 利があるのか？（2）

- 第 6 回 私は生命を操作する権 動物倫理学
利があるのか？（3）
- 第 7 回 私は生命を操作する権 バイオテクノロジーの倫理
利があるのか？（4）
- 第 8 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）
及ぶのか？（1）
- 第 9 回 人間の責任はどこまで 科学技術の倫理
及ぶのか？（2）
- 第 10 回 人間の責任はどこまで 世代間倫理
及ぶのか？（3）
- 第 11 回 環境は保護しなければ 環境倫理学とは何か？
ならないのか？（1）
- 第 12 回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（2）
- 第 13 回 環境は保護しなければ 21 世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（3）
- 第 14 回 まとめ 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年

ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年

田島樹里奈『デリダのポリティカルエコノミー：パレルゴン・自己免疫・暴力』北樹出版、2019 年

その他、適宜授業中に紹介します

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50 %）、期末試験またはレポート（50 %）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

Even if you have never taken an ethics class or do not know what ethics is, if you take the course with interest, you will gradually come to understand that it is a familiar subject.(Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】

倫理学 I を受けてから受講すると、より理解しやすくなります。

※ 単位だけ欲しくて履修しようと思う人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

It is recommended that students take Ethics I before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits.This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

【Outline (in English)】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	・ 受講上の注意 ・ 授業内容についてのイントロダクション
第 2 回	人間とは何か？（2）	・ 「現に問うているのは誰か？」 ・ ハイデガー哲学からみた「私」の位置 ・ 「世界内存在としての私」
第 3 回	人間とは何か？（3）	・ 「私は世界とどのように関わるのか？」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	・ 「倫理学とは何か？」
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	・ 「絶対的な善とは何か？」 ・ 倫理学と宗教
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	・ アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	・ 快楽主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・ 功利主義 ・ 義務と有用性
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・ 自由とは何か？ ・ 権利と自由
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・ カント倫理学 ・ 権利と義務
第 11 回	私は法になかったことをなすべきか？（1）	・ 法実証主義 ・ 法と倫理

第 12 回 私は法になかったこと ・ 社会契約論

をなすべきか？（2） ・ 国家と個人

第 13 回 私は法になかったこと ・ 自由主義・共同体主義

をなすべきか？（3） ・ 政治と倫理

・ 社会と個人

第 14 回 まとめ ・ 倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年 など

【成績評価の方法と基準】

・ 定期試験（30 %）に加え、リアクションペーパーや小テスト（70 %）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・ リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

・ 倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていかない限り、倫理学的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問い直す姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (applied ethics)」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか? (1)	・「正義の戦争」はありうるか? ・戦争倫理学入門
第 2 回	何が暴力を抑止するのか? (2)	・暴力の倫理学
第 3 回	何が暴力を抑止するのか? (3)	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か?
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか? (1)	・生存権/人権とは何か? ・生命の尊厳と生命の質
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか? (2)	・「生きるに値する命」とは何か?
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか? (3)	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第 7 回	私は生命を操作する権利があるのか? (4)	・バイオテクノロジーの倫理
第 8 回	人間の責任はどこまで及ぶのか? (1)	・責任という原理 (ヨナス)
第 9 回	人間の責任はどこまで及ぶのか? (2)	・科学技術の倫理
第 10 回	人間の責任はどこまで及ぶのか? (3)	・世代間倫理
第 11 回	環境は保護しなければならないのか? (1)	・環境倫理学とは何か?

第 12 回 環境は保護しなければ ・持続可能な社会とは何か?
ならないのか? (2)

第 13 回 環境は保護しなければ ・21 世紀の倫理学に向けて
ならないのか? (3)

第 14 回 まとめ ・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (30 %) に加え、小テスト (30 %) やリアクション・ペーパー (40 %) などで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野 (生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など) の領域を堪能してもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society. Therefore, the aim of this course is to help students consider differences of values with others with different cultures.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1） ——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第 2 回	人間とは何か？（2） ——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイドガーの思想を解説する。
第 3 回	人間とは何か？（3） ——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的な働きによってである。その位置づけについて考察する。
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の3つのレベルの違いという観点から解説する。
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）——快樂主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。

第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）——功利主義	公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）——自由意志	倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）——カント倫理学	カント倫理学の概要を解説する。
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）——法実証主義	現に通用している法律の妥当性が倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）——社会契約論	ホッブズの社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズの思想について解説する。
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）——自由主義・共同体主義	社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体としての善を重視する「共同体主義」について考える。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（50 %） 定期試験（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (applied ethics)」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー (課題) の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	何が暴力を抑止するのか? (1) —— 「正義の戦争」はありうるか?	正義論とはなにか、正義論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第 2 回	何が暴力を抑止するのか? (2) —— 暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第 3 回	何が暴力を抑止するのか? (3) —— テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか? (1) —— 生存権/人権とは何か?	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか? (2) —— 「生きるに値する命」とは何か?	「生きるに値する命」という評価をとおこす可能性について考える。
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか? (3) —— 動物倫理学	シンガーの「動物解放論」にていて解説する。

- 第 7 回 私は生命を操作する権利があるのか? (4) —— 動物倫理学 動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
- 第 8 回 人間の責任はどこまで及ぶのか? (1) —— 責任という原理 (ヨナス) ヨナスの責任概念を中心に相互性について考える。
- 第 9 回 人間の責任はどこまで及ぶのか? (2) —— 科学技術の倫理 科学技術の発展がもたらす倫理問題を考える。
- 第 10 回 人間の責任はどこまで及ぶのか? (3) —— 世代間倫理 世代間倫理に対する世代間倫理について解説する。
- 第 11 回 環境は保護しなければならないのか? (1) —— 環境倫理学とは何か? 世代間倫理としての環境倫理学にないのか? (1) について解説する。
- 第 12 回 環境は保護しなければならないのか? (2) —— 持続可能な社会とは何か? 「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。
- 第 13 回 環境は保護しなければならないのか? (3) —— 21 世紀の倫理学 なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
- 第 14 回 まとめ ※別途定期試験を実施する これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミューレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003 年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005 年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010 年
浅見昇吾、森永審一郎 (編)『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013 年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト (50 %) 定期試験 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50, Term-end examination:50.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個人の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを目指す。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。ただし、最初の三回の授業は、受講者数による密を避けるため、そして教室変更の可能性があるため、学習支援システムのオンライン授業（資料配布型）で行う。大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想

第 10 回 私は自分の義務をなす カント倫理学① 「道徳法則」べきか？（1）

第 11 回 私は自分の義務をなす カント倫理学② 自由とは何か？べきか？（2）

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル）べきか？（3）

第 13 回 私は法になかったこと 社会契約論をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。対面授業では、適宜、教室でプリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40% くらい）と期末の筆記試験（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6 月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあって、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学 (applied ethics)」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか? (1)	「生きるに値する命」とは何か? 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか? (2)	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか? (3)	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか? (4)	person (人格、人間) とは何か? エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか? (1)	環境倫理学とは何か? 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか? (2)	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか? (3)	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか? (4)	持続可能な社会とは何か? 大量消費社会批判 (アレント、佐伯啓思)
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか? (1)	世代間倫理 (フレチェット)

第 12 回 人間の責任はどこまで 責任という原理 (ヨナス)

及ぶのか? (2)

第 13 回 何が暴力を抑止するの 暴力、戦争と倫理学か?

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で取り上げる著作 (西洋のものは翻訳でよい) に少しでも目を通すこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40% くらい) と期末の筆記試験 (60% くらい) の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12 月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立っているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てます。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念 (1)	概念とは何か－内包と外延、類と種
4	概念 (2)	概念の定義
5	概念 (3)	ロジックツリー ロジックツリーを使って実戦的問題を解決する方法
6	判断 (1)	判断とは何か
7	判断 (2)	判断の分類
8	判断 (3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断 (4)	オイラーの図形を使った問題
10	推理 (1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理 (2)	対当推理
12	推理 (3)	変形推理
13	推理 (4)	三段論法の形式
14	推理 (5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In particular, this logic I focuses on traditional formal logic since Aristotle.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立っているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりますと願っています。論理学は、その手助けをします。

春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われました。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てます。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法 (1)	三段論法の格式と規則
3	三段論法 (2)	三段論法の格式と規則
4	三段論法 (3)	ベンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理 (1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理 (2)	ミルの帰納法
8	記号論理学 (1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学 (2)	命題論理学
10	記号論理学 (3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学 (4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学 (5)	恒真命題
13	記号論理学 (6)	公理主義体系
14	記号論理学 (7)	限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書の仕方を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In Logic I, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this Logic II also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take Logic I.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたすための学問です。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。この授業で、学生は論理的に思考するための基礎的知識を身につけることができます。

【到達目標】

学生は、まずは、概念、命題、推理についてなど、論理的に思考するための基礎知識を学び、身につけることができます。命題のあり方や推理の基本を学ぶことで、論理的思考の訓練になります。レポートや小論文などを書く上でも、言葉や論理に気をつけるようになるでしょう。公務員試験などにも論理学の基礎知識を問う問題も出るようです。何をも学ぶにも論理学の基礎知識は有用です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。基本的にはオンライン形式によるプリントを用いた講義ですが、理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく解説していきます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席（＝課題の提出）を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学 I と II とを通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律について
3	概念論 1、概念とは何か？	概念とは何か、概念の形成
4	概念論 2、概念の性質	概念の性質、内包と外延
5	概念論 3、分類とは何か？	分類体系図とカテゴリー
6	概念論 4、概念の種類について	概念の種類・問題演習
7	命題論 1、命題とは何か？	命題とは何か？ 命題の標準形式について
8	命題論 2、命題の種類	定言命題の基本形式
9	命題論 3、命題の表し方	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論 4、問題演習	問題演習
11	推理 1、直接推理	対当関係による推理
12	推理 2、対当関係	対当の四角形と解説

13 推理 3、対当による推 問題演習

理

14 前期のまとめと試験 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃

『論理学講義』村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40 %）と、学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧に分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合は、授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートは、どちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Grading will be decided based on the following,

Term-end examination:60%,Submit assignment:30%,Usual performance score:10%.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆく。実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。論理学を学ぶことで、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

【到達目標】

学生は、直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることができる。例えば、「私を愛しているのなら、電話をくれるはず。電話をくれた！私を愛しているのね♡」かどうか……。学生は、特にアリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学び、解き方を身につけることができる。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートや小論文などを書く際にも大いに役立つだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的な事柄を配布プリントを用いて解説した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。毎回の課題を解くことで、理解を深めるように工夫しています。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の練習問題や課題の提出を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	推理論 1	推理とは何か？
2	変形による直接推理 1、換質法	換質法の解説と問題演習
3	変形による直接推理 2、換位法	換位法の解説と問題演習
4	変形による直接推理 3、換質換位法	換質・換位法のまとめと問題演習
5	間接推理、定言三段論法	三段論法とは何か？
6	三段論法の公理と規則 1	定言三段論法の公理と 6 つの規則
7	三段論法の規則 2、媒概念不周延の誤謬	定言三段論法の規則（2）媒概念不周延の誤謬

8	三段論法の規則 3	定言三段論法の規則（3）大概念・小概念不当周延の規則、その他の規則
9	三段論法の問題演習	問題演習・定言三段論法の格と式について
10	仮言三段論法の解説と演習	混合仮言・純粹仮言三段論法の解き方と問題演習
11	選言三段論法の解説と演習	選言三段論法の解き方と問題演習
12	両刀論法の解説と演習	両刀論法（ジレンマ）の解き方と問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	後期のまとめと試験	授業内試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃

『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題や課題の提出を重視します。平常点（40 %）と学期末試験の成績（60 %）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合、私語厳禁、板書の写メやスマホ禁止に注意喚起する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Grading will be decided based on the following,

Term-end examination: 60%, Submit assignment: 30%, Usual performance score: 10%

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粹仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。
復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年
その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（65%）、授業内容確認小テストの成績（25%）、平常点（10%）により評価します。
学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。
成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

授業と練習問題に積極的に取り組んでください。論理学は、自分で問題が解けるようになると、楽しくなる科目です。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1)：復習	1. 仮言命題 (条件文) : 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・ トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 小テスト (筆記試験) 2. 意味論と構文論
第 8 回	論理トレーニング (1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第 9 回	論理トレーニング (2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第 13 回	論理トレーニング (6)	1. 接続表現 (続き) 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	小テスト (筆記試験) まとめ・解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題 (宿題) または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績 (40%) と期末小テスト成績 (40%) と平常点 (20%) に基づき評価。2 回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をたずねる問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2 回ともいずれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から、学期後半は論理トレーニングを行うようにしました。参加者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。

論理学は、自分で問題が解けるようになると、楽しくなる科目です。是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン (学習支援システムを利用するため)

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.

2. The application of the valid rules of inference such as De morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

鵜澤 和彦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 I の授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を扱い、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理 (三段論法) の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

春学期の授業は、対面授業となります。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンス と思考の基礎	春学期講義全体 (教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準)、思考の 3 原則 (同一律、矛盾律、排中律)
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の 4 種類 (全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定)、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理 (矛盾、反対、大小、小反対)
5	変形推理 (1. 換質法、2. 换位法、3. 換質换位法、4. 戻換法)	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、戻換法、直接推理の有用性

6	課題プリント (第 1 回から第 5 回) の解答と解説、三段論法定言三段論法の規則	課題プリント (第 1 回から第 5 回) の解答と解説、三段論法概念、種類、定言三段論法三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
7	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題 (設問 1 から設問 6)、妥当性の判定の練習問題 (設問 8 から 11)
8	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格 (第 1 格、第 2 格、第 3 格、第 4 格)、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理 (第 1 格)、差異の原理 (第 2 格)、用例の原理 (第 3 格)、逆の原理 (第 4 格)
9	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法 (第 1 格から第 4 格)
10	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法概念と種類 (肯定否定式、否定肯定式)、選肢肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
11	両刀論法 (ディレンマ)、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法概念と分類 (単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法)、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
12	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
13	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習: テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する (2 時間)。
復習: 前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する (2 時間)。

【テキスト (教科書)】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)。なお、本教科書は、生協による一括購入ができませんので、各自オンライン (例えば、Amazon) で購入してください。

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、がく石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (参加姿勢、課題の評価など)、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には、到達目標で示された①オイラーの図によって概念間の関係が正しく把握されているかどうか (30%)、②推論の規則が正確に理解されているかどうか (40%)、③相手の詭弁を適切に指摘し、反論することができているかどうか、という基準に従って評価されます (30%)。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされておりあります。このシステムを活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

To study logic is no less than to learn the basics of how to think and act rationally. Logical thinking will help us solve various problems we encounter in our everyday life, and the methods of thinking will develop working skills in society. "Logic I" deals with "traditional logic" derived from Aristotle and aims to help students acquire the ability to identify correct reasoning. Goals: (1) Students can gain basic knowledge for correct reasoning. (2) Students can develop an attitude of thinking logically and calmly. For example, they can use the rules of direct reasoning and indirect reasoning to make correct inferences. (3) Acquire the ability to communicate logically. Homework: Read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours). Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward participation, evaluation of assignments, etc.) and (2) spring semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

鶴澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学Ⅱの授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学Ⅰ（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
- ③仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業は、対面授業となります。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび F・ベーコンの帰納法	秋学期セメスターの授業内容、授業の進め方など、F・ベーコンの帰納法論理（イドラ論と四つの表）
第 2 回	J・S・ミルの帰納法	ミルの論理学体系、一致法、差異法、一致差異併用法、剰余法、自然の斉一性の原理、ベーコンとミルの帰納法の共通点と相違点
第 3 回	デカルトとライブニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直観および演繹の確実性）、ライブニッツ（定義論、結合法、根拠律）、両者の共通点と相違点
第 4 回	アンチノミーと弁証法	カントの超越論的論理（超越論的論理、分析論と弁証論、アンチノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第 5 回	文（命題）の真偽および論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理関数、複合命題の真理値、否定
第 6 回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、条件（含意）、等値、ブール代数の考え方
第 7 回	文と文の論理的関係の具体相	同一命題の連言、同一命題の両立的選言、同一命題の排反的選言、論理代数のまとめ
第 8 回	つねに真である文と真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理表で知る。テキストの問題を解く。

第 9 回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題を解く。
第 10 回	三段論法（推理）の妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テキストの問題を解く。帰謬法の導入
第 11 回	帰謬法	教科書およびその他の練習問題を解く。
第 12 回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬法を用いた推論の妥当性の検証
第 13 回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解く。対偶律、両刀論法
第 14 回	述語論理学の導入	述語論理学の歴史、特徴、量化的考え方、量化記号

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2 時間）。
 復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321)
 なお、本教科書は、生協による一括購入ができませんので、各自オンライン（例えば、Amazon）で購入してください。

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②秋学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、到達目標で示された以下の基準に従って評価されます。すなわち①広い視野で論理学を捉えることができているかどうか（30%）。②真理表と帰謬法を自在に使えるようになっているか（40%）。③論理的に議論を組み立てることができているかどうか（30%）。成績評価は、S(100-90 点)、A(89-80 点)、B(79-70 点)、C(69-60 点)、D(59 点以下)とし、合格は S、A、B、C となります。

S：優れた学修態度および特に課題プリントの全問正解により論理的思考の優れた能力を身につけ、かつ優れた試験成績で論理学の豊富な知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する深い理解がよく認められる。

A：良好な学修態度および課題プリントの非常に高い正答率により論理的思考の能力を身につけ、かつ良好な試験成績で論理学の知識を獲得し、論理的思考の諸規則に関する理解が認められる。

B：学修態度、課題プリント、試験成績のいずれかが劣っていて、論理的思考の能力や論理学の知識の獲得にやや不足があるものの、論理学の基礎的な理解が認められる。

C：消極的な学修態度や最低限の課題プリントの正答率、最低限の試験成績などで論理的思考の能力が不足するものの、論理学の最低限の理解が認められる。

D：問題のある学修態度や課題プリントの未提出、基準に満たない試験成績などで論理的思考の能力や論理学の知識が明らかに不足し、論理学の理解が認められない。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の様々な質問に答えるために、希望者の方にオンラインで面談時間（オフィスアワー）を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業時として予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

To study logic is no less than to learn the basics of how to think and act rationally. Logical thinking will help us solve various problems we encounter in our everyday life, and the methods of thinking will develop working skills in society. "Logic II" aims to acquire modern propositional logic and logic on scientific thinking, cognition, and history. Goals: (1) Students can gain basic knowledge for thinking about science, cognition, and history.(2) Students can judge the truth or falsity of inferences using truth tables and "reductio ad absurdum".) Students can acquire working skills related to hypothesis building, document construction, and persuasion. Homeworks: To read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). To review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours). Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward participation, evaluation of assignments, etc.) and (2) autumn semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということ、基礎から順に学んでいきます。そして最後に、日常の生活で正しく思考し行動するためには、正しい知識（判断）と正しい論理（推理）が必要であることを確認します。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようにすることが、この授業の到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすく説明して行きます。また、論理的な思考が身につくようにするために、演習として授業内で練習問題に取り組み、フィードバックとして問題の答え合わせと解説を各自の理解度を確認してもらいます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めて行き、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学んでいきますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第 2 回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第 3 回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第 4 回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第 5 回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第 6 回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第 7 回	定言命題の 4 種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第 8 回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第 9 回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。
第 10 回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第 11 回	命題の変形による直接推理について	換質法・換位法についての説明

第 12 回 命題の変形による直接推理について 換質換位法及び本格的な推理についての説明

第 13 回 練習問題で推理を身につけよう。 命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。

第 14 回 授業内の学期末試験：まとめと解説 論理的な正しい思考ができるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容については、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 4 時間。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版 論理学の初歩』（梓出版社、2013 年） アマゾン POD で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）と学期末試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。平常点（20 点）は各単元ごとの練習問題の取り組みを、学期末試験（80 点）は、問題によって内容の理解度を見ます。できる限り出席し演習（練習問題）に取り組んで下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】

講義では、多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「問題演習もあってよかった、楽しかった」等、書いてくれていました。説明のスピードに配慮し、理解が進むよう授業を工夫します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours: 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (20 %), term-end examination (80 %).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明して行きます。

さらに、本格的な推理の三段論法に入り、正しい思考法を学びます。論理学は、正しく考えるということにおいて、これからの人生の様々な場面において役立ちます。正しい思考は正しい知識（判断）と正しい論理（推理）から可能になりますが、この授業では、その正しい論理について学ぶのです。

本格的な論理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、とても面白くなります。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、この授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。教科書を使い、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明して行きます。また、論理学的思考を実際に身につけてもらうために、演習として練習問題を授業内で解き、フィードバックとして問題の答え合わせと解説をし各自で理解度を確認してもらいます。秋学期から初めて授業を受ける学生にも、春学期の復習をすることによって考慮します。安心して履修して下さい。出席すれば、理解が十分できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第 2 回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・换位法についての説明
第 3 回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第 4 回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第 5 回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第 6 回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 7 回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明
第 8 回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第 9 回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。

第 10 回	両刀論法（ディレンマ）について	単純構成的両刀論法、単純破壊的両刀論法、複合構成的両刀論法、複合破壊的両刀論法についての説明
第 11 回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第 12 回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第 13 回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第 14 回	授業内の期末試験：まとめと解説	複雑な論理的思考が正しくできるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容は、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 4 時間、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版論理学の初歩』（梓出版社・2013 年） アマゾン POD で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20 %）と学期末の授業内試験（80 %：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】

講義については、多くの学生が「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」と書いてくれました。内容をもっと理解しやすいものにするために、プリントと黒板を効率よく使って説明して行きます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students. Lastly this course introduces symbolic logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours : 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (20 %), term-end examination (80 %).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
 2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。
- 上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4 回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粹仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（65%）、授業内容確認小テストの成績（25%）、平常点（10%）により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当なし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%), Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的な問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論 (1)：復習	1. 仮言命題（条件文）： 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法： 前件肯定式・後件否定式
第 2 回	序論 (2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第 3 回	命題論理学 (1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第 4 回	命題論理学 (2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第 5 回	命題論理学 (3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第 6 回	命題論理学 (4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・ トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第 7 回	命題論理学 (5)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第 8 回	論理トレーニング (1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第 9 回	論理トレーニング (2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第 10 回	論理トレーニング (3)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第 11 回	論理トレーニング (4)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第 12 回	論理トレーニング (5)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第 13 回	論理トレーニング (6)	1. 接続表現（続き） 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40％）と期末小テスト成績（40％）と平常点（20％）に基づき評価。2 回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をたやす問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2 回ともいずれも、授業中に指示した仕方
で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導けている
かによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学の授業は、練習問題を自分で解けるようになると、楽しいと
感じるようですので、是非とも積極的に授業と練習問題に取り組ん
で見てください。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.

2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋の伝統的論理学の基礎 — オイラー図とベン図で知る —
古代ギリシア以来のアリストテレスの伝統的論理学を学びます。(1) 概念、(2) 判断、(3) 推理が三本柱となります。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ないシンプルな図形の組合せだけで伝統的論理学を知ることができます。覚えねばならないことは少なく、図形を使って論理的に考える力が身につきます。

【到達目標】

- (A) ヨーロッパの伝統的論理学の基礎的な知識を得る。
(B) 論理的に冷静に考える態度を身につける。
(C) 論理的に正しく推理することができる。
(1) オイラー図を使って伝統的論理学に則った正しい推理ができる。
(2) ベン図を使って伝統的論理学に則る正しい推理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストを用い、必要に応じて板書を行いプロジェクターを使います。
(2) 各回の授業が終わった後に、「学習支援システム」を使った確認小テストの提出を求めます。
(3) 授業の初めに、前回の振り返り、確認小テストの気づきを、フィードバックします。
(4) 最終授業で全体を振り返る総合確認テストをペーパーで行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテーションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ③思考の3原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断 (オイラー図)
3	直接推理 (対当推理)	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理 (オイラー図)
4	直接推理 (変形推理)	①換質法 ②换位法 ③戻換法 (オイラー図)
5	間接推理 (三段論法)	①三段論法の妥当性をオイラー図で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。
8	直接推理をベン図で考える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の戻換法をベン図で考える

9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考える ③三段論法の問題をベン図で解く
10	ベン図で三段論法 (実践)	①実例で三段論法の妥当性を判定する
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粋仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粋選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法 (ジレンマ)	①両刀論法 (ジレンマ) ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①全体 (第 1~13 回) の総合確認テストによる総復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
《予習》各回の授業内容についてテキストで確認しておく。
《復習》①「学習支援システム」で各回の確認小テストを提出する。
②授業内容を復習して理解を確実にする。

【テキスト (教科書)】

菅沢龍文『論理学 はじめの一步 —— オイラー図とベン図で知る伝統的論理学——』(春風社)

【参考書】

大貫・白根・菅沢・中釜『論理学の初歩』梓出版社
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

伝統的論理学の基礎的知識、論理的に考える態度、論理的推理力に関して次の 2 方面から評価する。

- (1) 平常点 (参加姿勢、確認小テストの評価など)
(2) 全体についての総合確認テストの点数
そして (1) を 70 %、(2) を 30 % の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
(2) 授業内容は必須事項と発展的な事項との区別をつけて、必須事項の習得に重点を置く。

【Outline (in English)】

Elements of the traditional European Logic, Using Euler Diagrams and Venn Diagrams: We learn the ancient Greek traditional logic of Aristotle. This logic is constituted by three parts: (1) concepts, (2) judgements, (3) reasoning. Using Euler diagrams and Venn diagrams, by simple combinations of the figures we can realize the traditional logic. We don't have to learn so many things by heart and we will get the skill to think logically with the diagrams.

【Learning Objectives】

- (A) To acquire a basic knowledge of the traditional European logic.
(B) To acquire an attitude to think logically and calmly.
(C) To be able to reason logically and correctly.

(1) To be able to use Euler diagrams to make correct deductions in accordance with traditional logic.

(2) To be able to reason correctly using Venn diagrams in accordance with traditional logic.

【Learning activities outside of classroom】

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

【Grading Criteria / Policy】

The grades are given in the light of the basic understanding of the traditional logic, the perspective of logical thinking and the reasoning skill. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学的論理学、命題論理学および述語論理学の初歩。
近代の科学的知識の論理について、ペーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの思想を初歩的に学ぶ。そして、ブール論理学から始まる現代の命題論理学、さらに述語論理学の基礎を習得する。また、論理代数、真理表、ベン図などの多様な表現方法で命題論理学の理解を深める。これにより、近代科学の論理や 19 世紀以降の命題論理の基礎について学ぶことができる。

【到達目標】

近代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩を学ぶ。

- ① 哲学的論理学によって、近代科学の本質を考えることができる。
- ② 命題論理学によって論理学的真理の意味を考えることができる。
- ③ 述語論理学によって個物どうしの関係について考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者は

- (1) テキスト、プリント、プロジェクターを用います。
- (2) 授業内では、必要に応じて板書で問題を解きます。
- (3) 毎回「学習支援システム」で確認小テストを解いて提出します。
- (4) 授業の初めに前回の確認小テストを用いて復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	(1) 授業について
	F・ペーコンの考えたこと	(2) イドラ説
2	帰納法と演繹法	(3) 表を用いた帰納法
		(1) ミルの帰納法
		(2) 自然の斉一性
		(3) デカルトと演繹法
3	哲学的論理	(1) ライプニッツ 充足理由律
		(2) カント 超越論的論理学
		(3) ヘーゲル 弁証法
4	命題論理学 一 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	(1) 命題
		(2) 論理的結合子
		(3) 真理表とベン図
		—複合命題の真理値—
		(1) 否定
		(2) 連言
5	複合命題の真理値	—複合命題の真理値—
		(3) 選言
		(4) 条件
		(5) 等値
		—論理代数を用いて考える—
6	問題を解く	(1) 複合命題の反例となる命題
		(2) 複合命題に対応する事象の確率
		(3) 複合命題の論理代数化

7	恒真命題（1）	(1) 恒真命題
		(2) 恒偽命題・総合命題
		(3) 恒真命題の判定（真理表）
8	恒真命題（2）	(1) 恒真命題の判定（真理表と帰謬法）
9	恒真命題と推理の妥当性	(1) 恒真命題の判定（帰謬法）
		(2) 推理の妥当性
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	(1) クラス理論
		(2) 嘘つきのパラドックス
		(3) タイプ理論
11	述語論理学のはじめ（I）	(1) 命題関数
		(2) 限量記号
		(3) 概念の述語化
12	述語論理学のはじめ（II）	(1) 対当推理を考える
		(2) 多項述語で考える
13	総復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
《予習》 回の内容についてテキストやプリント（「学習支援システム」上で前日に PDF で配布が原則）で概観しておく。
《復習》 「学習支援システム」で毎回の確認小テストを提出し、前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

【テキスト（教科書）】

大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』（梓出版社）
※第 2 回 (3)～第 3 回および第 10～14 回は、プリントをテキストとします。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

近代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩に関して、次の 2 方面から総合評価する。

- (1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
 - (2) 最終回に行う全体についての試験の点数
- これらのうち (1) を 70 % (2) を 30 % の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。
- (2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、整理して見通しよく説明する。
- (3) 問題解答は、板書等により、解き方が具体的につかめるようにする。

【Outline (in English)】

Elements of Modern Philosophical Logic of Knowledge, Propositional Logic and Predicate Logic:

At first we learn the logical thoughts of modern European philosophers, beginning with F. Bacon and R. Descartes: in what way the knowledge of modern sciences is logically formed. In the second place we learn the elementary logic of our times, from the Boolean propositional logic down to the predicate logic. We use some means of expression like logical algebra, truth-chart and Venn diagram and apprehend the logic clearly. Therefore we can learn the essential philosophical logic of modern sciences and the elements of the propositional logic. Students will learn the rudiments of philosophical logic of modern science, modern propositional logic, and predicate logic.

- (1) To be able to think about the nature of modern science through philosophical logic.
- (2) To be able to think about the meaning of logical truth through propositional logic.
- (3) To be able to think about the relations between individualities through predicate logic.

[Learning activities outside of classroom]

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

[Grading Criteria / Policy]

The grades are given in terms of the philosophical logic of the modern science, the propositional logic of our time and the predicate logic elementary understood. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

(論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。)

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識 (たとえば、論理学の基本的な規則・法則等) と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します:

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文 (命題) が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な (定言三段論法等の) 推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います (3~4 回程度実施予定。)

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題 (小テスト) 等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開 (論理学史) 3. 演繹法と帰納法: 両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学 (直観主義論理)
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理： 矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理： 小反对当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理： 換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理： 換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1 （定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2 （定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3 （定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粋仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4 （仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法： 前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績 (65%)、授業内容確認小テストの成績 (25%)、平常点 (10%) により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

授業と練習問題に積極的に取り組んでください。論理学は、自分で問題が解けるようになると、充実感を得て楽しくなる科目です。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%), Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法(ディレンマ)という3つの間接推理と現代論理学(命題論理学)の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。(本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識(たとえば、論理学の基本的な規則・法則等)と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します:

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。

上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みは取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題(宿題)を出すこともあります。

授業の進め方: 学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法(ディレンマ)の学習を行った後、現代論理学(命題論理学)に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1): 復習	1. 仮言命題(条件文): 逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法: 前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 小テスト(筆記試験) 2. 意味論と構文論
第8回	論理トレーニング(1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第9回	論理トレーニング(2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 逆・裏・対偶 3. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 背理法 2. 練習問題 3. 接続表現
第13回	論理トレーニング(6)	1. 接続表現(続き) 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	小テスト(筆記試験) まとめ・解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習: 参考書の該当箇所を良く読む。

復習: 前回授業内容の確認。課題(宿題)または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。資料等は学習支援システムで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績(40%)と期末小テスト成績(40%)と平常点(20%)に基づき評価。2回的小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をたやす問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から、学期後半は論理トレーニングを行うようにしました。参加者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。

論理学は、自分で練習問題が解けるようになると、楽しくなる科目です。是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in-class (20%).

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに関与したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China

Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 5/Fri.5

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第 1 回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第 1 回の Zoom URL は、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大

中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

大人数授業のため、授業は学習支援システムを用いてオンデマンド形式で行っていきます。毎週、必ず学習支援システムを確認するようにしてください。課題に対するフィードバック等も学習支援システムを用いて行っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかに関与したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晉南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China

Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中での中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回の Zoom URL は、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第3回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960 年代	文化大革命の始まり
第7回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 覇王別姫』の描く時代
第11回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について

- 第 12 回 中世ヨーロッパ 5： 黒死病や戦争などの影響、国家体
危機と変容 制と社会の変容について
- 第 13 回 中世から近世へ：ルネ ルネサンスの展開について
サンス
- 第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返
り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
- ・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近代現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %
- ・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生みなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：共和制から帝国へと至るローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教の発展、十字軍運動と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について

第 12 回	中世ヨーロッパ 5 : 黒死病や戦争などの影響、国家体 危機と変容 制と社会の変容について
第 13 回	中世から近世へ：ルネサンスの展開について サンス
第 14 回	まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のみなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきた。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考える。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1 : 近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2 : ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3 : 第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1 : フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2 : フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3 : 工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4 : 国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5 : 帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1 : 第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2 : 戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3 : 分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4 : 脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近代現代』ミネルヴァ書房、2011 年
南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）： 30 %
- ・期末試験： 70 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生みなさんの興味関心を探りつつ、できるだけ能動的に参加できる授業を目指します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 30% Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

内川 勇海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：共和制から帝国へと至るローマの歩み	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教の発展、十字軍運動と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について

- 第 12 回 中世ヨーロッパ 5 : 黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について
 第 13 回 中世から近世へ：ルネサンスの展開について
 第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995 年
 『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006 年
 『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020 年
 その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
- ・出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うので、そのために必要なデバイスおよび通信環境

【その他の重要事項】

2 回目以降の講義は対面の予定だが、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する場合がある。その際は、講義前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

< Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 30%
 Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

- ・近世から現代までの西洋史にかなする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1 : 近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2 : ヨーロッパの対外進出	ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について
第 4 回	近世という時代 3 : 第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1 : フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2 : フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3 : 工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4 : 国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5 : 帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1 : 第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2 : 戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3 : 分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4 : 脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

内川 勇海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1：ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2：古代ギリシア社会における人々の生活	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3：ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、ギリシアと周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4：ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5：古代ローマ社会における人々の生活	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6：ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生	ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1：諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2：中世ヨーロッパにおける諸国家の国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3：中世ヨーロッパ社会における人々の生活	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4：キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教世界の発展と十字軍展開について

第 12 回	中世ヨーロッパ 5：	黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について
第 13 回	中世から近世へ：ルネサンス	ルネサンスの展開について
第 14 回	まとめ：近代へ	これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995 年
『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006 年
『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020 年
その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：30 %
* 出席管理は厳格に行う。
・期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うので、そのために必要なデバイスおよび通信環境

【その他の重要事項】

2 回目以降の講義は対面の予定だが、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する場合がある。その際は、講義前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods. < Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 30%
Final examination: 70%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017 年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から現代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

・近世から現代までの西洋史にかなする基礎知識を習得する。
・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近現代史を学ぶことの意義について
第 2 回	近世という時代 1：近世国家の誕生と宗教改革	ヨーロッパにおける近世国家の特質と宗教改革について
第 3 回	近世という時代 2：ヨーロッパ諸国の対外進出と植民地支配について	ヨーロッパの対外進出
第 4 回	近世という時代 3：第二次英仏百年戦争とアメリカ独立	英仏の角逐とアメリカ合衆国の独立について
第 5 回	近代の西洋 1：フランス革命	フランス革命の開始とその展開について
第 6 回	近代の西洋 2：フランス革命の影響	フランス革命の影響と意義、革命後の西洋世界について
第 7 回	近代の西洋 3：工業化	「産業革命」とそのインパクトについて
第 8 回	近代の西洋 4：国民国家とナショナリズム	国民国家の形成とそれが引き起こした諸問題について
第 9 回	近代の西洋 5：帝国主義の時代	西洋諸国による世界の分割と植民地支配の諸側面について
第 10 回	現代の西洋 1：第一次世界大戦とロシア革命	総力戦としての第一次世界大戦、ロシア革命の展開について
第 11 回	現代の西洋 2：戦間期から第二次世界大戦へ	戦間期における経済危機とファシズムの台頭、第二次世界大戦について
第 12 回	現代の西洋 3：分断と統合	冷戦による西洋世界の分断、ヨーロッパ統合の動きについて
第 13 回	現代の西洋 4：脱植民地化の諸相	西洋諸国による帝国支配の終焉とそれが残した諸問題について

第 14 回 まとめ：現在の西洋 これまでの授業の内容を振り返り、現在の西洋世界が直面する諸問題を歴史的に考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern and contemporary periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観を支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア 世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考える ことの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア 世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際 環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と 国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について

第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第 14 回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス—世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実にして検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かな多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一しょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏どのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずです。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95% 相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5% 相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進行が早すぎるという意見があったのでペースに配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢学文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回 元禄・享保期の政治と社会

元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。

第 5 回 近世村落の運営と租税

近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。

第 6 回 近世文化の展開と文化遺産

近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第 7 回 近世社会の変容と政治状況

近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。

第 8 回 明治維新と近代国家の形成

日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。

第 9 回 近代産業の発展と国際環境

産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。

第 10 回 政党政治の展開

護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。

第 11 回 二つの世界大戦と国際状況

なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。

第 12 回 近代文化の展開と東京の文化遺産

近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。

第 13 回 戦後政治の動向と国際社会

戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。

第 14 回 試験と解説

まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずですが、また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20 分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本文学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界ー城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後ー FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一しょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア 世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずです。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95% 相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5% 相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進行が早すぎるという意見があったのでペースに配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係と、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずですが、また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20 分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確保するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジアのなかの日本史とは何かを学問的に考えた上で、時代区分論の諸説を検討する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。
9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。
10	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。

11	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。
12	日明関係と室町文化の特質	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。
13	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。
14	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総合的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70 %）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業ですのでパソコン、スマホ、タブレットなど、Zoom や学習支援システムを利用できる環境を整えてください（いずれか 1 つ用意すれば充分です）。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces Japanese history during the Ancient and Medieval Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research.

【Learning Objectives】 The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】 Final exam（70 %） Reaction paper（30 %）

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討する。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していく。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫する。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えている。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確保するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界における日本の近世・近代の時代区分に関する諸説を検討する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察した上で、国際関係のなかの「鎖国」の意義を問う。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくかを考察する。
8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。
9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。

10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70 %）と授業への積極的な貢献度（リアクションペーパーなど課題提出）による評価（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業ですのでパソコン、スマホ、タブレットなど、Zoom や学習支援システムを利用できる環境を整えてください（いずれか 1 つ用意すれば充分です）。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces Japanese history during the Early Modern and Modern Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research.

【Learning Objectives】 The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】 Final exam（70 %） Reaction paper（30 %）

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたったときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはやひたすら暗記することは問いません。なぜその時点でそこでその事象が発生したのか論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。古代・中世社会の成立・展開・崩壊を、どのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア 世界の中の日本	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論で、ここでそれを定義します。その際に、日本が置かれた国際環境についても十分配慮して考えることにします。

第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	古代史上最大のクーデターである大化の改新を中心にヤマト政権から律令国家への転換を考えます。
第 4 回	古代家族と在地首長制	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」も活用してみます。
第 5 回	律令国家の展開と終焉	国家体制の基幹である財政問題を中心に、その実態と限界を考えてみます。
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	冊封体制下で中国の圧倒的影響下で形成された日本文化が、纏てどのような独自の世界を形成していったのかについて検討します。
第 7 回	摂関政治と王朝国家	新しい国家体制への転換点としての公営田制からはじめて、摂関期の財政の仕組みを検討します。
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれたのか、また両者の違いは何かについて考えてみます。
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	荘園制の展開と武士の誕生を、北方世界の新しい動きを踏まえながら検討してみます。
第 10 回	執権政治の展開と元寇	御家人の新しい動向を、執権政治を中心に理解し、元寇がそれに与えた影響を考えます。
第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府崩壊の理由と、そこから生まれた新しい室町幕府体制の在り方を検討します。両者の違いはどこにあったのかを論理的に考えます。
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	日本文化は再び中国の影響を強く受けるようになります。その新しい文化的動向を検討します。
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程を検討し、法政大学の立地する関東地方がその中でどのように変化していったのかを論理的に考えてみます。江戸成立前史を検討することになります。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、古代とは何か、中世とは何かを総体的に考えてみます。その成果を各自答案に記述してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずです。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが 20 分程度は必要になるはずです。

【テキスト（教科書）】

小口雅史他『日本史概論』（上）（同成社）

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

この講義の目標である、歴史の流れを発展段階として論理的にとらえることができたかどうか、また複数の事象を相互連関的に理解できているかどうかを、自ら論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進行が早すぎるという意見があったのでペースに配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる、本当の歴史学の基礎（歴史を覚えるのではなく考えること）を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代中世史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、『「在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録」のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として』『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the end of the medieval society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。

授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。

史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史では「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高校で日本史を教える立場に立つときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。

最終的には、近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

近世国家の成立からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる近代国家の形成過程、展開を論理的に考えながら「時代」像を構築していきます。近世・近代社会の成立・展開をどのようにとらえるべきか、具体的に当時の生の史料を解説しながら皆さんと一緒に考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解が一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。

第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。
第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実即して検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係性、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を求めます。人によって異なりますが、30 分以上は必要になるはずですが、また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次の講義の理解に役立ちますが、これも人によって異なりますが20 分程度は必要になるはずですが。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（論述問題）によって行います（95 % 予定）。出席者数によっては平常点を考慮することもあります（5 % 予定）。この講義の目標である、歴史の流れを論理的に捉えることができたかどうかを、論述してもらうことによって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし

【学生が準備すべき機器他】

基本的にパワーポイントで板書にかえます。配付資料は授業支援システムを用います。

【その他の重要事項】

高校日本史とは異なる本当の歴史学の基礎を身につけていただければと思います。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界ー城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後ー FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from Japanese modern times to modern times from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 5/Thu.5

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス- 東アジア 世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について
第 2 回	倭国の誕生と東アジア 世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について
第 3 回	律令国家の誕生と国際 環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制の地方支配のいきづまりと地方支配の転換について
第 6 回	東アジア世界の文化と 国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について

第 11 回	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について
第 12 回	日明関係と室町文化の特質	15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について
第 13 回	戦国の動乱と関東地方	戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について
第 14 回	試験と解説	授業内容を総括、試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through

various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。ときにより、受講者は史料解釈について意見を述べる。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配布プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけを確認したうえで、世界の中での日本という視点を意識しながら考えることにします。
第 2 回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府成立の前史として、織田・豊臣政権の動向を確認しながら、近世国家成立の具体的な姿を検討していきます。
第 3 回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治状況を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について考えていきます。
第 4 回	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期とはどのような時代だったのか。政治・経済・文化といった多様な視点から考えていきます。
第 5 回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税上納の特質について地域性に留意しつつ考えます。
第 6 回	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概観しながら、各文化ジャンルの特質と現代に引き継がれている文化伝統についても考えていきます。

第 7 回	近世社会の変容と政治状況	近世社会はどのように変容していくのか。その変容の歩みと政治・社会の変化・対応を軸に考えていきます。
第 8 回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。江戸幕府の崩壊と近代国家の形成について事実にして検討していきます。
第 9 回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりから考えていきます。
第 10 回	政党政治の展開	護憲運動や大正デモクラシーの歩みと政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら考えていきます。
第 11 回	二つの世界大戦と国際状況	なぜ二つの世界大戦は起こったのか。国内事情と国際状況とを視野に入れながら、日本の戦争への対応を中心に検討していきます。
第 12 回	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の歩みを見ながら、その特質とは何かを考えます。特に各ジャンルの動向を確認し、我が国のありようを考えていきます。
第 13 回	戦後政治の動向と国際社会	戦後の民主化政策と日本国憲法の役割、そして日本の国際社会への復帰と政治・経済の動向について考えていきます。
第 14 回	試験と解説	まとめとして、近世とは何か、近代とは何かを総体的に考えていきます。そのうえで、試験に対応してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋思想の根底にあり、また日本の宗教文化とは異質なキリスト教の思想を学ぶと同時に、それによって日本的思考の特性を反照的に明らかにする。そして私たちが抱える現代の諸問題解決のためのヒントを旧約・新約聖書の中の記述及びそれに基づいたキリスト教思想の中に見出す。

【到達目標】

ユダヤ教及びキリスト教の全体像を掴むことができる。実際に旧約聖書、新約聖書に何が書かれているかを知ることができる。それらを読むことによって、現代社会が抱える様々な問題を解明、克服するヒントを掴むことができる。また、ユダヤ教やキリスト教といういわゆる一神教のものの考え方をすることで、それとは対照的な日本人の無意識の宗教観に気づくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド型のリモート講義という形をとる。音声付きのパワーポイント資料（スライド資料）とそれをPDFにした資料（解説ノート付き）を「学習支援システム」上に掲示するので、受講者はそれらを視聴、熟読してほしい。また、毎回「掲示板」にその日の授業テーマについての討論用スレッドを設置するので、そこに必ず意見を投稿すること。この投稿は出席確認とするので、授業資料を視聴していても意見投稿をしなければ欠席とみなされるので注意のこと。提出されたリアクションペーパーへのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。投稿された質問や意見に対するフィードバックは、掲示板上で返信(Re) という形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	思想としてのキリスト教を学ぶことの意義。
2	キリスト教とはどのような宗教か	キリスト教の全体像
3	旧約聖書とは何か①	イスラエルの歴史
4	旧約聖書とは何か②	一神教と偶像崇拜批判
5	新約聖書とは何か	イエスとは誰か
6	新約聖書とは何か②	キリスト教教会の発展
7	キリスト教における「祈り」とは何か	「祈り」の現象学的分析
8	ジェンダーを巡る問題	キリスト教は性差別、性の多様性の問題にどのように答えるか

9	家族を巡る問題	キリスト教における家族観はどのようなものか、現代的な家族の問題についてどのように答えるか
10	富と貧困を巡る問題	経済格差が拡大する現代社会において、キリスト教は貧困の問題についてどのように答えるか
11	グローバル化・多元性を巡る問題	経済社会的にグローバル化が進行する現代社会において価値観の衝突を回避することは可能か
12	環境破壊を巡る問題	環境破壊の元凶をキリスト教思想に見出すことは可能か
13	生命操作を巡る問題	生命操作技術の発展はキリスト教の人間観と矛盾するか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。授業時に提示する参考文献をできるだけ読んで予習、復習しておく。

【テキスト（教科書）】

使わない。

【参考書】

芦名定道・土井健司・辻学共著『改訂新版 現代を生きるキリスト教』（教文館、2004 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価（100 点満点とし、60 点以上が合格）は、期末のレポート課題の点数（配分 90 %）とリアクションペーパーの点数（配分 10 %）で行う。レポート課題の評価基準は、レポート提出の形式的条件（表題をつける、字数制限など）を満たしているか、授業の到達目標であるユダヤ教・キリスト教の人間観、世界観およびそれらの現代的意義について深く理解しているか、それらについて自分の意見が論理的に述べられているかの 3 点である。リアクションペーパーの評価基準は授業内容を理解できているか、自分の意見が述べられているかの 2 点である。

【学生の意見等からの気づき】

スライドの字が小さすぎるという指摘があったので、できるだけ情報を制限して大きなポイントで表示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業資料を配布するので、PC、タブレット、スマートフォンなどの機器を準備しておくこと。

【Outline (in English)】

(1)Course outline

What is the significance of learning Christianity, which is different from Japanese religious culture? In a modern society where secularization progresses and traditional religions are declining, can Christianity still find clues to solve the problems faced by modern society? We will consider the above problems by returning to the words and actions of Jesus in the Bible.

(2)Learning Objectives

You can get a complete picture of Judaism and Christianity. By reading the Old Testament as a Jewish history book and the New Testament that shows the thought of Jesus, you can get hints for solving and overcoming various problems in modern society. Also, by knowing the so-called monotheistic ideas of Judaism and Christianity, we can notice the Japanese unconscious view of religion in contrast.

(3)Learning activities outside of classroom

The standard preparatory study / review time for each class is 4 hours. It is required to read as much as possible the references presented during class to prepare and review.

(4)Grading Criteria/Policy

Grades are evaluated based on the test scores (allocation 90%) at the end of the term and the reaction paper scores (allocation 10%).

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

若林 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「宗教とは何か」という問いに対して現象学的観点から解き明かしてゆく。人々の生活の中に深く浸透している宗教的な儀式、慣習、そして人々の考え方の中に少なからず影響を与えている宗教的な観念、心理などを「宗教現象」（その宗教性を意識しているいにかかわらず）として捉え、その意味は何なのかを知る。

【到達目標】

到達目標は、「宗教」は何か危険なもの、「信仰」をもつ人は何か異質な人、という多くの日本人が漠然としてもっている宗教理解の一面性を批判する力、いかなる宗教であれそれを客観的に公正に評価することができる力、さらにはその知識を自分の生き方に活かす力を身に着けることにある。したがって、成績評価の基準は日常的経験の中に潜む宗教現象の意味を的確に分析、批判できるようになったかどうかにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式。毎回リアクションペーパーを提出しそれをもって出席確認とする。遠隔授業となった場合には、オンデマンド型のリモート講義という形をとる。音声付きのパワーポイント資料（スライド資料）とそれを PDF にした資料（解説ノート付き）を「学習支援システム」上に掲示するので、受講者はそれらを視聴、熟読してほしい。また、毎回「掲示板」にその日の授業テーマについての討論用スレッドを設置するので、そこに必ず意見を投稿すること。この投稿は出席確認とするので、授業資料を視聴していても意見投稿をしなければ欠席とみなされるので注意のこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	宗教研究の方法	「宗教学」とはどのような学問か。神学、宗教哲学との違いは何か
2	比較宗教学の方法	様々な宗教を分類・類型化する
3	宗教現象学の方法	「宗教現象」の基本的な枠組みとしての「聖と俗」、「ハレとケ」
4	聖なる言葉（1）	「祈り」とは何か
5	聖なる言葉（2）	「物語」とは何か
6	聖なる言葉（3）	「神話」という物語は何を語るのか
7	宗教的世界観	我々はどこから来て、今どのような世界に生き、死後どこへ行くのか
8	聖なる行為（1）	儀礼とは何か
9	聖なる行為（2）	通過儀礼、イニシエーションとは何か
10	聖なる行為（3）	祝祭とは何か （ハレ・ケ・ケガレのダイナミズム）
11	穢れと禁忌	穢れと禁忌が生み出す社会的差別の問題

12	宗教と呪術	シャーマニズムとは何か
13	宗教と近代科学 (1)	①占星術と天文学 ②科学革命を成しえた西欧におけるキリスト教という宗教の役割
14	宗教と近代科学 (2)	科学の時代における宗教の意義とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。授業時に提示する参考文献をできるだけ読んで予習、復習しておく。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- ①ファン・デル・レーウ『宗教現象学入門』（1979 年、東京大学出版会）
- ②ミルチャ・エリアーデ『聖と俗』（1994 年、法政大学出版局）
- ③ウィリアム・E・ペイドン『比較宗教学』（1995 年、東京大学出版会）
- ④佐々木宏幹『宗教人類学』（1995 年、講談社学術文庫）

【成績評価の方法と基準】

最終授業日後にレポートを提出してもらう。その内容と（90 %）と投稿の内容（10 %）によって成績評価をする。ただし、投稿回数すなわち出席回数が、全授業回数の 3 分の 2 を下回るとレポート提出資格を失うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

スライド資料に文字を入れすぎとの批判もあるので、よりシンプルにします。

【Outline (in English)】

(1)Course outline

This course deals with the question "what is religion?" from a phenomenological point of view. The students taking this course learn the meaning of religious phenomena like rituals or customs that have deeply penetrated into people's lives, and like religious ideas or psychology that have a considerable influence on people's views of life and sense of values.

(2)Learning Objectives

You are able to accurately analyze and criticize the meaning of religious phenomena hidden in your daily experience. And you can evaluate any religion objectively and fairly.

(3)Learning activities outside of classroom

The standard preparatory study / review time for each class is 4 hours. It is required to read as much as possible the references presented during class to prepare and review.

(4)Grading Criteria/Policy

Grades are evaluated based on the test scores (allocation 90%) at the end of the term and the reaction paper scores (allocation 10%).

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、既存の宗教への理解を深めていく。

【到達目標】

宗教の基本を客観的に学んで、「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今学期の授業の概要の説明	宗教を学ぶことの意義を中心に
第 2 回	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する
第 3 回	宗教形態の基本的な問題	一神教と多神教など
第 4 回	世界の主要宗教を概観する (1)	ユダヤ教
第 5 回	世界の主要宗教を概観する (2)	キリスト教
第 6 回	世界の主要宗教を概観する (3)	イスラム教
第 7 回	世界の主要宗教を概観する (4)	仏教
第 8 回	日本の宗教観 (1)	神道と仏教
第 9 回	日本の宗教観 (2)	無宗教と現代
第 10 回	宗教現象の分析 (1)	神とカミガミ
第 11 回	宗教現象の分析 (2)	祈り
第 12 回	宗教現象の分析 (3)	祭礼
第 13 回	宗教現象の分析 (4)	現代の問題
第 14 回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the genesis and forms of religions.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire an overview on the genesis and forms of religions and to deepen our understanding of existing religions.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017 年度以降入学者

君嶋 泰明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

【到達目標】

宗教に対する基本的な見方を学び、さらに世界の歴史に眼を向けて宗教現象を広い視点で捉えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。毎回のリアクションペーパーの提出を求める。コメントにたいするフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今学期の授業の概要の	宗教論とは何か説明
第 2 回	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など
第 3 回	宗教現象の基本的な見方	聖と俗など
第 4 回	聖なることば (1)	祈りを中心に
第 5 回	聖なることば (2)	神話を中心に
第 6 回	宗教的世界観 (3)	聖なる空間および他界について
第 7 回	聖なる行為 (1)	儀礼とは何か
第 8 回	聖なる行為 (2)	通過儀礼が意味するもの
第 9 回	聖なる行為 (3)	祝祭とは何か
第 10 回	理性と宗教 (1)	宗教・呪術・科学
第 11 回	理性と宗教 (2)	呪術と宗教
第 12 回	理性と宗教 (3)	西洋占星術の起源から近代天文学の誕生へ
第 13 回	理性と宗教 (4)	近代科学革命のなかで
第 14 回	試験、まとめ	全体の振り返りと試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with major religious phenomena.

(Learning Objectives)

The goals of this course is to understand the role religion played in the history from ancient to modern.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀:○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「彫刻の意味」を学ぶ。ひいては、彫刻作品のイメージと概念を通して、芸術を理解していくことが目的となる。

【到達目標】

この授業の到達目標は、芸術の意味を理解し、評価 S, A, B, C に達することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

私の作ったテキストと映像を用いて授業を行う。なお春学期は、オンデマンド授業なので、質問等に対するフィードバックは授業掲示板のメールにて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 彫刻の意味	春学期の予定、勉強の仕方と評価の方法、彫刻芸術の美学について。
第 2 回	記念物と護符 1	神殿、墳墓と彫刻。
第 3 回	記念物と護符 2	教会堂と彫刻。
第 4 回	人間のイメージ 1	古代彫刻のヴィーナスのイメージ、視覚的イメージと内触覚的イメージ。
第 5 回	人間のイメージ 2	エジプト彫刻、ギリシア彫刻の男女のイメージ、ルネサンスのヒューマニズムのイメージ。
第 6 回	空間の発見 1	空間の量感とマッス (量塊) の違い、触覚空間と視覚空間、エジプト彫刻の空間忌避。
第 7 回	空間の発見 2	ギリシア彫刻の正面性、ゴシック彫刻の運動のイリュージョン、ルネサンス彫刻の絵画的性。
第 8 回	中間試験	これまでの学習からの論述問題。
第 9 回	マッスの実現 1	絵画から区別される重量の感覚、触覚的感性を刺激する材料、触知の感覚。
第 10 回	マッスの実現 2	肉付けと直彫りの本質的相違、彫刻の可触的なヴォリュームと重量感。
第 11 回	運動の錯覚 1	彫刻と運動の矛盾、運動のイリュージョン。
第 12 回	運動の錯覚 2	リズムと運動、身ぶりとしての運動、ロダンの試み、運動の過渡。
第 13 回	運動の錯覚 3	動く彫刻、モビール、線の彫刻の運動性と空間概念の創造。
第 14 回	期末試験	まとめの論述問題。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作のテキストを学習支援システムにて提供する。

【参考書】

ウィトコアー『彫刻』（中央公論美術社）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、中間と期末の 2 回の試験を総合して 100 点満点とし、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

You learn the meaning of sculpture. The objective of this class is to understand the art through the images and the terms of sculpture works.

The goals of this course are to S, A, B, and C.

Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the process mid-term examination (50%) and term-end examination(50%).

The passing marks are more than 60.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「彫刻の意味」を学ぶ、ひいては、彫刻作品のイメージと概念を通して、芸術を理解していくことが目的となる。

【到達目標】

この授業の到達目標は、芸術の意味を理解し、評価 S, A, B, C に達することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

私の作ったテキストと映像を用いて授業を行う。また質問等に対するフィードバックは授業時間内に、リアクションペーパーは次回授業の最初にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習、秋学期の学習の仕方。
第 2 回	光の衝突 1	印象主義者としてのロダンの試み、ブランクーシの試み。
第 3 回	光の衝突 2	限定空間と環境空間。光のイメージと光の詩。マッスを拒否する彫刻。
第 4 回	光の衝突 3	彫刻芸術の特質と限界。
第 5 回	ジャコメッティの芸術 1	幼年時代、形成期。
第 6 回	ジャコメッティの芸術 2	パリでの修業期。
第 7 回	ジャコメッティの芸術 3	抽象彫刻期。部族芸術の影響。
第 8 回	ジャコメッティの芸術 4	平板彫刻：肖像とオブジェ。
第 9 回	ジャコメッティの芸術 5	シュルレアリスムのオブジェ。
第 10 回	ジャコメッティの芸術 6	広場の彫刻。
第 11 回	ジャコメッティの芸術 7	偏執狂と残酷彫刻。空虚の表現。
第 12 回	ジャコメッティの芸術 8	見ることの探究：絵画と彫刻。
第 13 回	ジャコメッティの芸術 9	戦後の探究：立っている女、歩く男。空間（無）の彫刻。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

自作のテキストをプリントして配布する。

【参考書】

ウィトコアー『彫刻』（中央公論美術社）

【成績評価の方法と基準】

期末の到達目標に関する試験で 100 %成績評価する。その際、100 点満点で評価し、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

You learn the meaning of sculpture. The objective of this class is to understand the art through the images and the terms of sculpture works.

The goals of this course are to S, A, B, and C.

Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the process: term-end examination(100%). The passing marks are more than 60.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の美術の作品や歴史を時代背景とともに概観する。その際、哲学思想や社会学、文化人類学などの関連する学問領域の議論も参照する。それは、同時代を表象する芸術と社会の関係性を考察する力を養うことでもある。

【到達目標】

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。

その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か？	本授業において、どのようなものがあるいはことを「芸術」と呼ぶかについて。
2	絵画の歩み	ギュスターヴ・クールベやエドゥアール・マネなど、絵画の可能性を切り開いた芸術および思考について。
3	絵画が表すリアリティ	具象的な絵画から抽象的な絵画へと至る道を、第一次世界大戦に着目しながら描き出す。
4	眼から頭脳へ	マルセル・デュシャンとコンセプチュアル・アートについて考える。
5	複製技術と芸術の地殻変動	写真術の誕生とそれがアートに与えた衝撃について考える。
6	写真の存在論	写真が芸術になるとき、それは世界の何を切り取って伝えているのかについて考える。
7	彫刻とインスタレーション	彫刻の歩みについて、19 世紀末フランスのオーギュスト・ロダンから眺める。
8	映像の誕生	19 世紀末フランスのリュミエール兄弟やアメリカのエジソンが発明した映像とそれが開く文化について考える。
9	スペクタクルの社会と映像	テレビジョンやインターネットの到来と映像作品の関係を考える。
10	パフォーマンスとアート	生身の体を表現の媒体とするパフォーマンスを時代や社会背景の関係性において考える。
11	大正デモクラシーと太平洋戦争期の芸術	自由の実践と権力への抵抗のかたちについて考える。

12	日本戦後の前衛芸術の歩み	「反芸術」と言われた戦後日本の前衛芸術運動を紹介しながら、現代の日本のアートと時代との関係を考える。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出
14	多様化する現代の芸術	絵画や彫刻、写真、インスタレーション、映像、デジタルテクノロジー、またそれらの組み合わせで成立する現代の芸術について。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行つて、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。各回 30 分程度の復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は、授業内試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

Following the transformation of art in the modern age in relation to that of society and the cultural climate, students nurture an ability to envisage a relationship between art and modern society. Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes. Towards the end of the course, there will be an exam to evaluate student's achievement. (100%)

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義と芸術の関係について、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館の民営化などをとおして考察する。

【到達目標】

政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方を多角的に考察する。時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代アートのあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界と芸術のこれからを探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アート界とアートの関係について（オリエンテーション）	アートをアートとして成り立たせる制度との関係で考える。
2	アート界の仕組み	現代アートを動かしているアート界の仕組みと運動について概説する。
3	美術館と展覧会の歴史	時代や社会背景とともにあり方が変わる美術館の今と、時代や社会を鋭い視点で表した展覧会を紹介する。
4	ヨーロッパ中心主義の終わり？	モダニズム - ポスト・モダニズムの考えを紹介しながら、ヨーロッパ中心主義を問う作品について考察する。
5	国際展の時代	ヴェネチア・ビエンナーレほか、1990 年代以降加速的に増加した国際展とその社会的機能について考察する。
6	グローバリゼーションと多文化主義	大地の魔術師たち展やドクメンタ 11 などとおして、他者の表象の移り変わりについて考える。
7	「他者」とは誰か？	近年のトランスナショナルなアートとアーティストについて紹介し、グローバリゼーションの影を問う。
8	ドクメンタ 14 から見える世界	新自由主義が生み出してきた非対称な世界とドクメンタ 14 (2017) について考える。

9	地域社会と芸術祭	2000 年代以降、全国各地で開催されるようになっていく芸術祭について、地域の特性と展示内容の関係を考える。
10	アーティスト・イン・レジデンスと地域社会	アーカスプロジェクトの実践をとおして、先鋭的な現代アートと地域社会を結ぶ回路作りを考える。
11	2022 年の同時代性 1	2022 年に開かれる第 59 回ヴェネツィアビエンナーレや第 15 回ドクメンタで取り上げられたアーティストや作品、議論を紹介する。
12	2022 年の同時代性 2	人新世に関する議論を紹介し、エコロジーとアートの関係を考察する。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出
14	2023 年以降の芸術を考える	まとめと来るべき時代とますます多様になる芸術表現について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行つて、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <http://artscape.jp/dictionary/modern/index.html>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は、授業内試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

This series of lectures is intended to overview the relationship between art and globalization from the 1990s. By touching upon Venice Biennale, Documenta, art fairs and art museum privatization, students are encouraged to consider contemporary art practice in relation to neo liberalism. By approaching contemporary art in multiple ways that is profoundly related to politics and economics today, students will also gain an insight into the globalized society of today. They are also recommended to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes. Towards the end of the course, there will be an exam to evaluate student's achievement. (100%)

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第 3 回	風景画の成立	特に風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第 4 回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第 5 回	バロック・ロココ美術	バロック、ロココ美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第 6 回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第 7 回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第 8 回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。
第 9 回	世紀末から 20 世紀	世紀末から第一次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。

第 10 回 彫刻	西洋の彫刻について、ロダン及びロダン以降の近代彫刻を中心に概説する。
第 11 回 万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。
第 12 回 ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。
第 13 回 欧米の美術館	欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する。
第 14 回 まとめ	授業を通しての総括を実施する。 また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。準備の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）：50%

期末レポート：50%

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

実際に日本で鑑賞できる作品や展覧会を紹介し、鑑賞の機会を提供するようにしています。

【その他の重要事項】

第 1 回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施するため、極力参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this course, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history since the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

The goal of the course is following:

- 1) Acquiring the knowledge on Western paintings, sculptures and decorative arts since the Renaissance, and the skill of viewing from various perspectives.
- 2) Acquiring the knowledge on the Western art history since the Renaissance, and understanding the background of the paintings of respective eras.
- 3) Acquiring the knowledge on the establishment of the art museums in the Western society, and learning about how art has contributed to the society.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。
また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。
レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる。
第 3 回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する。
第 4 回	洋風画から洋画へ	洋画の影響や洋風画の流行、および明治初期の洋画の成立に関して、作品を取り上げつつ概説する。
第 5 回	明治・大正期の日本の洋画	西洋絵画技法の導入により成立した明治・大正期の洋画について、その成立過程と初期の作品を解説する。
第 6 回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の需要を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第 7 回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第 8 回	仏展・日仏芸術社	初期の西洋美術品流入におけるトピックとして、仏蘭西現代美術展およびその運営母体の日仏芸術社を取り上げる。

- 第 9 回 黎明期の日本の美術館 日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立への運動を中心に解説する。また、黎明期の美術館として東京府美術館の設立過程を中心に解説する。
- 第 10 回 美術館の役割 (展示・作品収集) 美術館の役割を規定した法律、及び美術館における展示と作品収集について解説する。
- 第 11 回 美術館の役割 (保存修復) 美術館の役割の 1 つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する。
- 第 12 回 美術館の役割 (調査研究・教育普及) 調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する。
- 第 13 回 美術館の外の美術 パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。
- 第 14 回 まとめ 授業を通しての総括を行う。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト (教科書)】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業レポート) : 50 %

期末レポート : 50 %

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。
ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会に関する紹介、解説を充実させています。

【その他の重要事項】

第 1 回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施するため、極力参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this course, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The origin and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

The goal of the course is following:

1) Acquiring the knowledge how the Western art was introduced to the artists in Japan during the Edo/Meiji/Taisho/Showa era (1600s - early 1900s).

2) Acquiring the knowledge how the Western art was exhibited to the public during the Meiji/Taisho/Showa era (1860s - 1930s).

3) Acquiring the knowledge on the functions of art museum. The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。

②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。

③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で実施する。授業毎に学習支援システムで自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の回の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の性質と役割
第 6 回	法の分類	法の分類と法源
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	明治憲法と日本国憲法	日本国憲法の成り立ちを学ぶ
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権
1		
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義
2		
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは
3 (1)		
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成
3 (2)		
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷 實編『エッセンシャル法学 第 7 版』成文堂、2019 年、¥3,190

【参考書】

宮川 基『高校の教科書で学ぶ法学入門』2021 年、ミネルヴァ書房、2750 円

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの小テスト（45 %）、期末に実施するレポート課題（55 %）の合計で評価する。
これらにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

情報量の多いテキストを用いるが、読みこなして欲しい。文字が多くとっつきにくいという意見があったので、より簡易な参考書を先に読んでおくことを推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システム上でワードファイルで提出できる機器を準備すること。六法を購入する必要はない。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners and beginners in law. The content will be centered on general and comprehensive knowledge of law as a whole and lectures on the structure and basic principles of the Constitution of Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを用いて授業を行う。授業毎に学習支援システムでの自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	権利能力と行為能力	民法の基礎
第 5 回	契約自由の原則	債権法 1
第 6 回	契約の成立と効力	債権法 2
第 7 回	不法行為と損害賠償	不法行為 1
第 8 回	過失責任の原則	不法行為 2
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容・社会保険・労働保険
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編『エッセンシャル法学第7版』成文堂、2019年、3,190円

【参考書】

宮川 基『高校の教科書で学ぶ法学入門』ミネルバ書房、2021年、2750円

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの自動採点の小テスト（45％）、期末に実施するレポート課題（55％）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した4点の達成度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

民法改正について、追加資料を用意して、学習支援システムで配布した。社会保障制度は労働法など、制度改定が頻繁な単元についても、追加資料を用意することとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システムでワードファイルで提出できる機器を準備すること。最新の法律条文は、電子政府の総合窓口（e-Gov）などで閲覧すると良い。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners and beginners in law. The main content is lectures on basic knowledge and principles of criminal law, civil law, and labor law, and the basics of international law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW100LA

法学Ⅰ

2017年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、日本国憲法の構造と基本原理、行政法、行政救済法に関するものである。

【到達目標】

この授業は、法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の内容である。

この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。

到達目標は次の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法	憲法総論—憲法とは何か、立憲主義、憲法の歴史
4	日本国憲法	基本的人権—幸福追求権、法の下の平等
5	日本国憲法	基本的人権—思想・良心の自由
6	日本国憲法	基本的人権—表現の自由
7	日本国憲法	基本的人権—経済的自由、人身の自由
8	日本国憲法	基本的人権—社会権、国務請求権
9	日本国憲法	統治機構総論
10	日本国憲法	統治機構—議院内閣制（国会・内閣）
11	日本国憲法	統治機構—裁判所と違憲審査権
12	行政法	行政法とは何か
13	行政法総論	行政の実効性の確保
14	行政救済法	行政事件訴訟法と不服申立制度、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを使用します。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

毛利透『グラフィック 憲法入門 第 2 版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

藤田宙靖『行政法入門 第 7 版』（有斐閣、2016）ISBN：978-4641131958

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する。

詳細は、春学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、14 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。扱う内容は、国際法、民法、労働法である。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。

②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。

③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。

④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法	国際法とは何か
3	国際法	国際法の基本構造
4	国際法	国家と個人
5	国際法	国際的な人権保障
6	民法	不法行為—過失責任原則、損害賠償
7	民法	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
8	民法	所有
9	民法	婚姻、離婚
10	民法	権利能力、意思能力、行為能力
11	民法	法律行為、意思表示、代理、法人
12	労働法	労働法導入—労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
13	労働法	労働関係の成立、労働条件、
14	労働法	労使自治、労働関係の終了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した4点の達成度を評価する。

詳細は、秋学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、14回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、日本国憲法の構造と基本原理、行政法、行政救済法に関するものである。

【到達目標】

この授業は、法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の内容である。

この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。

到達目標は次の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法	憲法総論—憲法とは何か、立憲主義、憲法の歴史
4	日本国憲法	基本的人権—幸福追求権、法の下の平等
5	日本国憲法	基本的人権—思想・良心の自由
6	日本国憲法	基本的人権—表現の自由
7	日本国憲法	基本的人権—経済的自由、人身の自由
8	日本国憲法	基本的人権—社会権、国務請求権
9	日本国憲法	統治機構総論
10	日本国憲法	統治機構—議院内閣制（国会・内閣）
11	日本国憲法	統治機構—裁判所と違憲審査権
12	行政法	行政法とは何か
13	行政法総論	行政の実効性の確保
14	行政救済法	行政事件訴訟法と不服申立制度、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを使用します。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

毛利透『グラフィック 憲法入門 第 2 版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

藤田宙靖『行政法入門 第 7 版』（有斐閣、2016）ISBN：978-4641131958

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。これにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する。詳細は、春学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、14 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。扱う内容は、国際法、民法、労働法である。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。

②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。

③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。

④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法	国際法とは何か
3	国際法	国際法の基本構造
4	国際法	国家と個人
5	国際法	国際的な人権保障
6	民法	不法行為—過失責任原則、損害賠償
7	民法	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
8	民法	所有
9	民法	婚姻、離婚
10	民法	権利能力、意思能力、行為能力
11	民法	法律行為、意思表示、代理、法人
12	労働法	労働法導入—労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
13	労働法	労働関係の成立、労働条件、
14	労働法	労使自治、労働関係の終了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。
これにより、到達目標欄に記載した4点の達成度を評価する。
詳細は、秋学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、14回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、日本国憲法の構造と基本原理、行政法、行政救済法に関するものである。

【到達目標】

この授業は、法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の内容である。

この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。

到達目標は次の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法	憲法総論—憲法とは何か、立憲主義、憲法の歴史
4	日本国憲法	基本的人権—幸福追求権、法の下の平等
5	日本国憲法	基本的人権—思想・良心の自由
6	日本国憲法	基本的人権—表現の自由
7	日本国憲法	基本的人権—経済的自由、人身の自由
8	日本国憲法	基本的人権—社会権、国務請求権
9	日本国憲法	統治機構総論
10	日本国憲法	統治機構—議院内閣制（国会・内閣）
11	日本国憲法	統治機構—裁判所と違憲審査権
12	行政法	行政法とは何か
13	行政法総論	行政の実効性の確保
14	行政救済法	行政事件訴訟法と不服申立制度、国家賠償法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。レジュメを使用します。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

毛利透『グラフィック 憲法入門 第 2 版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

藤田宙靖『行政法入門 第 7 版』（有斐閣、2016）ISBN：978-4641131958

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する。

詳細は、春学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、14 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。扱う内容は、国際法、民法、労働法である。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。

②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。

③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。

④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法	国際法とは何か
3	国際法	国際法の基本構造
4	国際法	国家と個人
5	国際法	国際的な人権保障
6	民法	不法行為—過失責任原則、損害賠償
7	民法	契約—契約自由の原則、契約の成立と効力
8	民法	所有
9	民法	婚姻、離婚
10	民法	権利能力、意思能力、行為能力
11	民法	法律行為、意思表示、代理、法人
12	労働法	労働法導入—労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
13	労働法	労働関係の成立、労働条件、
14	労働法	労使自治、労働関係の終了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用します。教科書は使用しません。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。
これにより、到達目標欄に記載した4点の達成度を評価する。
詳細は、秋学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

この講義は、14回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、春学期の法学Ⅰでは、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。なおオンライン授業に変更することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会との関係
第2回	法とは何か	道徳等との関係 法の目的 権利義務との関係
第3回	法と裁判	事件への法の適用 裁判制度 訴訟手続上の諸原則
第4回	裁判の基準	制定法 法の適用における原則 不文法
第5回	法の解釈と分類	事実認定と法の解釈 解釈の性質及び方法 法の分類
第6回	国家と憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原則 現代憲法の特質
第7回	日本の新旧憲法	大日本帝国憲法の特質 日本国憲法の制定 日本国憲法の基本原則
第8回	国民主権	国民主権 選挙 地方自治

第 9 回 平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障
第 10 回 基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第 11 回 基本的人権②	自由権 社会権 参政権及び国務請求権
第 12 回 権力分立①	国会 議院内閣制 内閣
第 13 回 権力分立②	裁判所 違憲審査制 財政
第 14 回 授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）

伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。なおオンライン授業に変更することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of general and comprehensive knowledge of the whole law, and the basic principles and structure of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、秋学期の法学Ⅱでは、刑法、民法、労働法の基本構成と基本原則、国際法の基礎的な知識に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。なおオンライン授業に変更することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪と法①	刑法とは何か 罪刑法定主義 法益の保護
第 2 回	犯罪と法②	犯罪の成立 構成要件 違法性と責任
第 3 回	民法総論①	民法とは何か 民法の基本原則 権利と義務
第 4 回	民法総論②	契約と法律行為 権利能力と行為能力 法人と会社
第 5 回	財産関係と法①	契約の成立と効果 双務契約における債務 契約の履行と不履行
第 6 回	財産関係と法②	所有権 不法行為 損害賠償
第 7 回	家族関係と法①	家族法 親族 夫婦
第 8 回	家族関係と法②	親子 扶養 相続

第 9 回 労働と法①	労働法の概観 労働関係の当事者 労働条件の決定
第 10 回 労働と法②	労働契約の成立 人事 賃金
第 11 回 国際社会と法①	主体 国家の主権 国際法の存在形式
第 12 回 国際社会と法②	国際法の国内の実施 国際法の国際的実施 領域
第 13 回 国際社会と法③	海洋 南極と上空 人権
第 14 回 授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）

小畑史子・緒方桂子・竹内（奥野）寿『労働法〔第 3 版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2019 年）

井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022 年）

野村豊弘『民事法入門〔第 8 版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022 年）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第 2 版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2022 年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。なおオンライン授業に変更することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic structure and principles of criminal law, civil law and labor law, and the basic knowledge of international law. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原則、国際法に関して、条約の締結や EU 法についても学ぶ。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の目標である。法律を学んだことのない学生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。

②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関係されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。

③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

④ EU 法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書とパワーポイント・黒板を利用し、講義形式で授業を行う。ドキュメンタリーなど視聴覚教材を使用する場合があるが、その場合は、リアクションペーパーの提出を求める。

毎回の授業の終わりに質問等を受ける時間を設け、次回の授業開始時に、前回の復習を行うとともに、リアクションペーパーに関するコメントについて、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
オンライン	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
オンライン	契約をすることと生活	生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
オンライン	契約と権利義務	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。
オンライン	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について
オンライン	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
オンライン	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について

オン ラ イ /online	不法行為 (1) 他人によって自分の権利を侵害された場合について
オン ラ イ /online	不法行為 (2) 典型的な不法行為とその解決
オン ラ イ /online	憲法とは 憲法は何のためにあり、何を守るものか。
オン ラ イ /online	憲法と私人 憲法は何を保障するか。 憲法が保障する基本的人権について
オン ラ イ /online	憲法と統治機構 なぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
オン ラ イ /online	EU とはどのようなものか EU の成立と法制度について
オン ラ イ /online	EU における司法制度 EU の裁判の特徴を理解し、国内裁判との違いを理解する。また、判決文を見る
オン ラ イ /online	まとめ 春学期の重要な点について再度、検討を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

池田・犬伏・野川・大塚『法の世界へ [第 8 版]』(有斐閣アルマ、2020 年)

なお、版が改訂される場合があるが、講義では最新版のものを使用するので、版の改訂を確認の上購入すること。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門 [第 4 版]』(有斐閣双書、2005 年)

田中淳子・大野正博編『法学入門』(成文堂、2015 年)

末川博編『法学入門 [第 6 版]』(有斐閣双書、2009 年)

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待 [第 3 版]』(有斐閣、2014 年) など

【成績評価の方法と基準】

記号選択問題によっておこなう期末試験の成績 (80 %)、これに、授業内で行った小テスト・レポート (20 %) とし、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を測り評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

パワーポイントだけでなく、板書を利用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to acquire and understand the general and basic knowledge of law. The purpose of this course is to enable students who have never studied law to acquire the basics of law and to understand the structure and basic principles of modern law. This course is designed to help students who have never studied law to acquire basic legal knowledge and qualities required as citizens of a law-abiding country, and to acquire the basic legal knowledge that a sovereign citizen of a democratic country should have. Specific objectives of the course are as follows

(1) To acquire the meaning and content of the basic concepts and terms of law, and to understand the basic structure and system of modern law.

(2) To understand the role of law in society, and how social conflicts can be resolved by law and how individual rights can be protected.

(3) Understand the significance of constitutionalism and the basic principles and structure of the Japanese Constitution.

4) Understand the basics of EU law.

(Learning activities outside of classroom)

Please read the textbook and handouts carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be graded on the basis of their performance on the final exam, which will consist of symbol selection questions (80%), and in-class tests and reports (20%). Grades are given on a 100-point scale, with 60 points or more being awarded for credit.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかわかる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっている EU の仕組みなどを通じて、国際的な法律関係、とくに EU 法を素材として、人権や平等、労働法上の規制等についても知識を深めることを目的とする。

【到達目標】

発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。

これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。

EU などの国際法的な関係についても、労働という視点から EU 指令、EU 裁判所制度、EU の社会保障制度などについても法的な理解を深める。

上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメ、パワーポイントを用いた講義形式で授業を進める。視聴覚教材を利用した場合など、リアクションペーパーやコメントの提出を求める場合がある。講義の終わりに質問の時間を設け、次回抗議の開始時に、復習と質問に対する解説、リアクションペーパー等についてのフィードバックとしてをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
オンライン	ガイダンス	授業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業

/online

オンライン	アルバイトを決める時に確認すること	労働契約を結び働く場合の法律関係について
-------	-------------------	----------------------

/online

オンライン	働く場合の法律	労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金
-------	---------	--------------------

/online

オンライン	働く場合の法律	休む 休憩・休息時間・休日・休暇について
-------	---------	----------------------

/online

オンライン	仕事を辞める労働契約の終了について	採用内定の取り消し・解雇
-------	-------------------	--------------

/online

オンライン	働く場合の法律	最近の問題
-------	---------	-------

/online

オンライン	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化
-------	------------	------------------

/online

オンライン	安全に働く	労働災害・過労死について知る
-------	-------	----------------

/online

オンライン	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題
-------	-------	----------------

/online

オンライン	国と国の関係と働くこと	グローバル化の中で労働はどのように変わってきているのか
-------	-------------	-----------------------------

/online

オンライン	EU 諸国と働くこと	EU 市民と EU 加盟国はどのような関係にあるのか
-------	------------	----------------------------

/online

オンライン	EU の制度概略	EU 指令の制度、EU 加盟国の立法権、EU 裁判所の制度
-------	----------	-------------------------------

/online

オンライン	EU と人権	EU において人権や働く権利、私生活はどのように保障されているのか。
-------	--------	------------------------------------

/online

オンライン	働くことと法	働く状況が大きく変わる中で、どのような法が求められるのだろうか検討する
-------	--------	-------------------------------------

/online

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）（改訂版が出た場合は最新のものとする）

このほか今年度版の六法を用意すること。

六法については初回の授業で詳しく紹介します。

【参考書】

伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第 7 版〕』（有斐閣アルマ、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80 %）、これに、春学期間に提出されたレポート（20 %）として、到達目標欄に記載した①労働関係の法的知識、② EU 法に関する理解、③憲法的論点の理解を達成度を測り評価する。これらの合計を 60 点～69 点を C、70 点から 79 点を B、80 点～89 点を A、90 点以上 A +、あるいは S と単位認定する。

【学生の意見等からの気づき】

EU やフランス法との比較法的な検討について、関心が高かったのが今後もそのような比較法的な視点からの講義を増やすこととしたい。

また、コロナ感染症対策における雇用政策や公衆衛生法についても関心が高かったのが、時事的な問題や直ちに影響を受ける政策について情報を提供するように心がけたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will study legal relations in labor law, From the time you are a student, working part-time or looking for a job, the law has had a lot to do with your work. However, there are not many opportunities to learn about labor and law.

In this lecture, students will learn about labor laws that are relevant to them from the time they are students, such as overtime pay for part-time work, annual paid leave, Workplace accidents, and Rescission of employment offer. In this lecture, students will learn about labor laws that are relevant to them from the time they are students, such as overtime pay for part-time work, annual paid leave, work-related accidents, and employment offers and their revocation. Next, we will examine important issues related to work, such as wages, working hours, reassignment, and dismissal. We will also examine constitutional issues related to labor. Students will also learn about EU labor law, including human rights, equality, and regulations under EU labor law.

(Learning Objectives)

Gain knowledge of the structure and legal regulations of labor contracts, which are developmental contracts. This will provide students with a correct understanding based on accurate legal knowledge of legal relations in the case of work.

Students will also gain a legal understanding of international legal relations such as the EU, including EU directives, the EU court system, and the EU social security system from the perspective of labor.

Deepen their understanding so that they can theoretically explain the constitutional issues involved in the above points.

(Learning activities outside of classroom)

Read the relevant textbook pages and handouts carefully. In addition, students are expected to follow up on relevant newspaper articles and news. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be evaluated based on their performance in the final examination using mark sheets (80%), plus reports submitted during the spring semester (20%) to measure their achievement in (1) legal knowledge of labor relations, (2) understanding of EU law, and (3) understanding of constitutional issues as stated in the achievement objectives section. A total of 60 to 69 points will be awarded as C, 70 to 79 points as B, 80 to 89 points as A, and 90 points or more as A+ or S.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法の意義や種類といった法学全体に関わる一般的・包括的な知識と、裁判の種類や裁判手続といった裁判制度に関する知識を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかを理解する。
- ③裁判制度、裁判手続、裁判所の組織について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド形式で実施する。受講者は学習支援システムを通じて配布されるプリントとその解説動画を視聴しながら自己学習を行い、疑問点があれば学習支援システム上に設けられた授業内掲示板を通じて質問をする。質問に対するフィードバックも学習支援システムを介して行う。なお、本授業では、秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法の分類	法の種類と体系
第 4 回	権利と義務	権利と義務の種類、権利の主体
第 5 回	裁判制度①：裁判の役割	裁判の意義と機能
第 6 回	裁判制度②：裁判の種類	裁判の種類と特徴、裁判の当事者、訴訟手続
第 7 回	裁判制度③：裁判上の基本原則	裁判公開の原則、当事者主義
第 8 回	法の解釈	法解釈の方法、法解釈の基準
第 9 回	法の歴史	大陸法と英米法
第 10 回	日本法の歴史①：近代以前	近代以前の日本法の特徴
第 11 回	日本法の歴史②：近代法の継受	近代憲法と近代民法の継受
第 12 回	日本法の歴史③：現代法の発展	社会法・経済法等の発展
第 13 回	法の根拠	自然法の意義、法実証主義による自然法批判
第 14 回	法の効力	法の効力の種類、法適用の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間はそれぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

末川博（編）『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に学習支援システムを用いて実施するオンラインテストによって、到達目標欄に記載した3点の達成度を評価する（100%）。なお、学期途中にオンライン上で小テストを実施することがあり、その場合は小テストと期末テストの点数を合わせて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験に基づいて、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れる。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to learn the foundation of legal studies. The content of the lecture consists of general knowledge related to legal science and the judicial system. The goals of this course are to learn the basic concepts of jurisprudence and to understand the basic structure of modern law. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the score of term-end online examination (100%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、民法、消費者法、労働法、刑法等の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②民法、消費者法、経済法、労働法、刑法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ③法的なものの考え方（いわゆる「リーガルマインド」）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド形式で実施する。受講者は学習支援システムを通じて配布されるプリントとその解説動画を視聴しながら自己学習を行い、疑問点があれば学習支援システム上に設けられた授業内掲示板を通じて質問をする。質問に対するフィードバックも学習支援システムを介して行う。春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので、受講者はこの両方を履修することが望ましい。授業計画は以下の予定だが、授業の進度や受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について
第2回	近代法と現代法	近代法の基本原則と現代法による修正について学ぶ。
第3回	民法①：民法の基礎	民法の構造、権利と義務の種類、権利の主体等について学ぶ。
第4回	民法②：契約法	契約法の基礎的知識について学ぶ。
第5回	民法③：不法行為法	不法行為法の基礎的知識について学ぶ。
第6回	民法④：物権法	物権法の基礎的知識について学ぶ。
第7回	民法⑤：家族法・相続法	家族法・相続法の基礎的知識について学ぶ。
第8回	消費者法	消費者法の基礎的知識について学ぶ。
第9回	経済法	経済法の基礎的知識について学ぶ。
第10回	労働法	労働法の基礎的知識について学ぶ。
第11回	憲法	憲法の基礎的知識について学ぶ。
第12回	刑法	刑法の基礎的知識について学ぶ。
第13回	社会保障法	社会保障法の基礎知識について学ぶ。
第14回	全体のまとめ	授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上記の授業計画に沿って、参考書の該当箇所やプリントを読んで予習し、疑問点や問題点を明らかにした上で授業に臨む。授業後は、テキスト・プリント・ノート等を読み直し、予習段階で明らかになった疑問点や問題点が解明されたかどうかをチェックして、まだ解明されていない論点や新たな疑問が発見された場合は、次回以降の授業の課題として整理しておく。なお、予習・復習に要する時間は、それぞれ2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業支援システムを通じて配布するプリントに沿って授業を進める。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）
末川博（編）『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に学習支援システムを用いて実施するオンラインテストによって、到達目標欄に記載した3点の達成度を評価する（100%）。なお、学期途中でオンライン上で小テストを実施することがあり、その場合は小テストと期末テストの点数を合わせて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

初めて法学を学ぶ学生が大多数を占めることを考え、なるべく平易な解説を行いたい。また、抽象的な説明だけでなく、なるべく具体的な社会事象に引きつけて講義を行うように心がけたい。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の資格を有し、かつ実務経験がある。その経験を活かして、現実政治における法のあり方についても講義の中で触れていく。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to give lectures on the foundation of jurisprudence, mainly for beginners of law. The contents of lecture contain basic knowledge of civil law, consumer law, labor law, criminal law and international law. The goals of this course are to learn the basic concepts of jurisprudence and to understand the basic structure of modern law. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the score of term-end online examination (100%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者に対して、法の成立や国家の統治構造の基礎、具体的な紛争の解決方法について講義を実施する。
講義前半（第1～第7回）は対面型講義とする。法の成立や国家の統治構造の基礎を学ぶ。
講義後半（第8回～第14回）はオンデマンド型の講義として、資料をウェブシステム上にアップする。受講生は都合の良い時間に資料にアクセスし、指定された期日（第8回講義の前日）までに課題を提出する（課題提出方法については、ウェブシステムを通じて通知）。法的紛争に関する各個別の事例を学ぶ。

法学 I では、法的視点から紛争を解決する方法を身に付けることを目的とする。また、日々のニュースについて、報道を鵜呑みにせず、に多角的な視点から物事を考えることができる視点の獲得を目指す。

【到達目標】

- 法学 I の具体的な学習目標は以下の通りである。
- ①何故、法が社会に必要とされるのかを理解できるようになること。
 - ②国家の成立過程を理解し、国家の役割が何かを理解できるようになること。
 - ③法的紛争の解決において、相対する紛争当事者の双方の主張を読みとり、どちらの主張が妥当であるのかを判断する際に、論理的思考ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブの OATube に動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	法とは何か（対面型）	社会規範としての法の特徴と役割を学ぶ。
2	国家の成立（対面型）	国家が存在しない状態を理解し、国家権力の存在意義を学ぶ。
3	国家の役割①（対面型）	国家により策定された法制度が国民意識の醸成や秩序の維持などにどのように役立つのかを学ぶ。
4	国家の役割②（対面型）	国家の役割が法を通じて人々の権利自由を保護するところにあることを学ぶ。
5	法による国家権力の統制（対面型）	国家権力が強力である必要性和それを法に縛る必要性を学ぶ。
6	立憲主義（対面型）	立憲主義に関する基礎的な知識を学ぶ。
7	統治構造の基礎（対面型）	権力分立が人権保障に果たす役割について学ぶ。

8	憲法の基本原理①（オンデマンド型）	国民主権の基礎知識について学ぶ。
9	憲法の基本原理②（オンデマンド型）	基本的人権の尊重の基礎知識について学ぶ。
10	統治の仕組み①（オンデマンド型）	法の策定機関である国会と法の執行機関である内閣に関する基礎知識を学ぶ。
11	統治の仕組み②（オンデマンド型）	法を解釈する機関である裁判所に関する基礎知識を学ぶ。
12	法の策定と統治機構（オンデマンド型）	主要な統治機関（国会、内閣、裁判所）が法とどのように関わっているのかを学ぶ。
13	社会変動と法（オンデマンド型）	社会の変化に法が如何に対応すべきかを学ぶ。
14	グローバル化と法（オンデマンド型）	グローバル化による法規制の緩和が人々にもたらした影響を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。
講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は指定しない。参考文献は講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2つの課題によって、到達目標欄に記載した3点の達成度を測ることで評価する。内訳は講義前半（対面型講義）の課題（50 %）と講義後半（オンデマンド講義）の課題（50 %）である。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の講義では、法学の基礎知識が社会問題に如何に結びつくのかについて、よく理解できたとの反応があった。今年度も時事問題と絡めて、講義知識がいかに役に立つのかを分かり易く伝えていくことに努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義に関する質問は講義の前後に受け付ける。
または、ウェブシステムを通じての質問も随時受け付ける。
あわせて、講義に関して受けた質問のポイントの解説も授業の中で適宜行う

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to give lectures to beginners in law about the enactment of law, the basics of the governing structure of the state, and specific methods of resolving disputes.

The first half of this lecture (1st to 7th) will be an on-demand type lecture. The wide range of this lecture (8th to 14th) will be a face-to-face lecture.

The specific learning goals of Jurisprudence I are as follows.

- (1) To be able to understand why the law is needed by society.
- (2) To be able to understand the process of formation of the nation and understand what the role of the nation is.
- (3) In resolving legal disputes, be able to read the claims of both parties to the conflict and be able to think logically when deciding which claim is appropriate.

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

Grades are evaluated by two tasks. The breakdown is the first half of the lecture (face-to-face lecture) (50%) and the second half of the lecture (on-demand lecture) (50%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法学の初学者に対して、法の基礎知識を教授し、それが具体的に法的紛争の解決に如何に用いられるのかを学ぶ。

講義前半 (第1～第7回) は対面型講義とする。法の基礎知識を学ぶ。

講義後半 (第8回～第14回) はオンデマンド型の講義として、資料をウェブシステム上にアップする。受講生は都合の良い時間に資料にアクセスし、指定された期日までに課題を提出する (課題提出方法については、ウェブシステムを通じて通知)。オンデマンド型の講義では、法的紛争解決に必要な基礎知識を学ぶ。

法学Ⅰでは、法的視点から紛争を解決する方法を身に付けることを目的とする。また、日々のニュースについて、報道を鵜呑みにせず、に多角的な視点から物事を考えることができる視pointsの獲得を目指す。

【到達目標】

本講義の具体的な到達目標は以下の通りである。

- ① 法学に関する基礎知識を獲得する。
- ② 法的紛争の解決に必要な知見を獲得する。
- ③ 法的視点に基づく論理的思考 (自らの主張を説得的に展開するために必要な思考) を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブの OATube に動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国家と権利の保障① (対面型)	国家による権利侵害と権利保障に関する基礎知識を学ぶ。
2	国家と権利の保障② (対面型)	国家による権利保障に関する基礎知識を学ぶ。
3	権利保障の特色 (対面型)	人権の類型や権利の分類などについて学ぶ。
4	権利保障の限界 (対面型)	権利保障が如何なる場合に制約されるのかを学ぶ。
5	社会の変動と権利保障① (対面型)	私人間における人権侵害の危険性について学ぶ。
6	社会の変動と権利保障② (対面型)	グローバル化推進による規制緩和 (自由の追求) がもたらした権利自由の侵害について学ぶ。
7	社会の変動と権利保障③ (対面型)	法によって明記されていない権利の保障について学ぶ。
8	平等原則 (オンデマンド型)	平等に関する基礎知識を学ぶ。
9	性差別と法 (オンデマンド型)	性差別に関する主要判例を学ぶ。

10	男女共同参画 (オンデマンド型)	男女共同参画の法制度をめぐる功罪について学ぶ。
11	平等と逆差別 (オンデマンド型)	アファーマティブアクションの是非を考える。
12	家族関係と法 (オンデマンド型)	家族関係における別異取扱を婚外子の事例を挙げて学ぶ。
13	宗教と法 (オンデマンド型)	信教の自由や政教分離原則の基礎知識を学ぶ。
14	経済活動の自由 (オンデマンド型)	経済活動の自由の追求と国民生活の安全について学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

講義中に指示した資料を閲覧する (紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある)。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる (講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する)。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

2つの課題によって、到達目標欄に記載した3点の達成度を測ることによって評価する。内訳は講義前半の対面型に関する課題 (50 %) と講義後半のオンデマンド講義で出題する課題 (50 %) である。

【学生の意見等からの気づき】

法学の知識が社会問題に如何に応用できるのかがよく分かったとの回答を受講生からもらった。今年度も法学の基礎知識を時事問題に如何に応用していくのかを受講生に分かり易く伝えたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

講義の前後に質問を受け付ける。また、ウェブシステムを通じて、随時質問を受け付ける。講義に関して受けた質問のポイントの解説も授業の中で適宜行う。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to teach beginners in law the basic knowledge of law and how it can be used specifically to resolve legal disputes.

The first half of this lecture (1st to 7th) will be an on-demand type lecture. The wide range of this lecture (8th to 14th) will be a face-to-face lecture.

The specific goals of this lecture are as follows.

- (1) Acquire basic knowledge about law. It was
- (2) Acquire the knowledge necessary to resolve legal disputes.
- (3) Acquire logical thinking based on a legal perspective (thinking necessary to persuasively develop one's claim).

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

The evaluation is made by measuring the achievement level of the three points described in the achievement target column according to the two tasks. The breakdown is the face-to-face assignments in the first half of the lecture (50%) and the assignments given in the on-demand lecture in the second half of the lecture (50%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

菅谷 麻衣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を原則とするが、状況に応じて、Zoom 等による双方向型授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。また、授業実施上必要な連絡は学修支援システムを活用する。授業計画は以下の通りだが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。なお、課題等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の受け方、法を学ぶこと
第 2 回	法とは何か	法の種類、法形式、法分野
第 3 回	憲法とは何か	国家の成立と憲法の役割
第 4 回	選挙と参政権	民主主義と日本の選挙制度
第 5 回	国会	国会の権限とその憲法上の位置付け
第 6 回	内閣	内閣の仕組みとその権限
第 7 回	裁判所	裁判所の権限と裁判員制度
第 8 回	人権総論	人権とは何か
第 9 回	新しい人権	憲法 13 条の意義と自己決定権
第 10 回	平等と憲法 1	平等の意味と判断枠組み
第 11 回	平等と憲法 2	同性婚と選択的夫婦別姓
第 12 回	学校と憲法	教育を受ける権利と学問の自由
第 13 回	裁判と憲法	人身の自由と刑事手続
第 14 回	授業内試験	授業内試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
 [事前学習] ニュース・新聞等に目を通し、法律問題への関心を高めておくこと。予習が必要な回に関しては、別途、指示する。
 [事後学習] ノートを整理し、疑問点については授業内レポートや授業の前後に積極的に質問すること。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業には必ず六法を持参すること（出版社は問わないが、最新のものの）。
 なお、初回の授業のときに六法・教科書の話をする予定である。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験によって、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価することで行う。
 ただし、受講人数や講義の進捗状況などにより、授業内試験ではなく期末試験ないし期末レポートとする場合もある。
 授業内レポート、小テスト等の課題を出した場合、その評価を加味する（要素配分は、授業内試験 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

Learning activities outside of classroom;

If you are unfamiliar with Japanese law and society, you may want to allocate additional time to make sure those aspects of the course go smoothly.

Grading Criteria /Policy;

20% of the final grade will be based on class participation and 80% on a final exam.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅谷 麻衣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を原則とするが、状況に応じて、Zoom 等による双方向型授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。また、授業実施上必要な連絡は学修支援システムを活用する。授業計画は以下の通りだが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。なお、課題等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	刑事法の基本的考え方
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	民法の基本原則 1	権利能力と行為能力
第 5 回	民法の基本原則 2	契約自由の原則
第 6 回	財産と法	物権とその変動
第 7 回	取引と法	契約の成立と効力
第 8 回	不法行為と損害賠償	不法行為の成立要件
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土、国際法と国内法
第 14 回	授業内試験	授業内試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

〔事前学習〕ニュース・新聞等に目を通し、法律問題への関心を高めしておくこと。予習が必要な回に関しては、別途、指示する。

〔事後学習〕ノートを整理し、疑問点については授業内レポートや授業の前後に積極的に質問すること。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業には必ず六法を持参すること（出版社は問わないが、最新のものの）。

なお、初回の授業のときに六法・教科書の話をする予定である。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験によって、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を評価することで行う。

ただし、受講人数や講義の進捗状況などにより、授業内試験ではなく期末試験ないし期末レポートとする場合もある。

授業内レポート、小テスト等の課題を出した場合、その評価を加味する（要素配分は、授業内試験 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

Learning activities outside of classroom;

If you are unfamiliar with Japanese law and society, you may want to allocate additional time to make sure those aspects of the course go smoothly.

Grading Criteria /Policy;

20% of the final grade will be based on class participation and 80% on a final exam.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義と権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの 3 つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的にを行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会及び国家との関係
第 2 回	法の特徴	道徳等との関係 権利義務との関係 法の分類
第 3 回	憲法の特徴	法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第 4 回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特徴
第 5 回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第 6 回	日本国憲法の特徴	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則

第 7 回 統治機構①

国会及び選挙

議院内閣制

内閣

第 8 回 統治機構②

裁判所

違憲審査制

財政及び地方自治

第 9 回 統治機構③

象徴天皇制

憲法保障

憲法改正

第 10 回 基本的人権①

人権総論

包括的基本権

法の下での平等

第 11 回 基本的人権②

身体的自由権

精神的自由権

経済的自由権

第 12 回 基本的人権③

社会権

参政権及び国務請求権

国民の三大義務

第 13 回 平和主義

規定の背景

規定の内容及び解釈

安全保障

第 14 回 まとめ及び学期末レポート

総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）

伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）により、「到達目標」に掲げた「憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けること」等の達成度を評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to understand the basic structure of the legal system centered on the Constitution and to acquire basic legal knowledge. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report (80%) and short reports (20%).

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、主に初学者を対象に、法と国家及び社会の関係に関する理解を踏まえ、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げて解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う予定です。①立憲主義と権力分立等憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの 3 つがその柱となります。受講生が初学者であることを踏まえ、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進めます。

【到達目標】

受講生が日本国憲法の基本原理及びそれに基づく内容構成、特徴等の「正しい理解」を通じ、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識及び資質を習得することを目標としています。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対し、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「学習支援システム」上で教材配信型のオンライン授業を行い、毎回配信するレジュメ及び資料を受講生が読む形で授業を進めます。また計 5 回の授業内小レポートを課し、それに対するフィードバックは第 14 回授業のまとめに際して包括的に行います。なお対面授業に復帰することになった場合、「授業の進め方と方法」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明 法と社会及び国家との関係
第 2 回	法の特徴	道徳等との関係 権利義務との関係 法の分類
第 3 回	憲法の特徴	法律等との関係 国際法との関係 憲法の分類
第 4 回	近現代国家の憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原理 現代憲法の特徴
第 5 回	日本の憲法の歴史	大日本帝国憲法の制定及び特質 日本国憲法の制定
第 6 回	日本国憲法の特徴	日本国憲法の構成 日本国憲法の理念及び基本原則

第 7 回	統治機構①	国会及び選挙 議院内閣制 内閣
第 8 回	統治機構②	裁判所 違憲審査制 財政及び地方自治
第 9 回	統治機構③	象徴天皇制 憲法保障 憲法改正
第 10 回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第 11 回	基本的人権②	身体的自由権 精神的自由権 経済的自由権
第 12 回	基本的人権③	社会権 参政権及び国務請求権 国民の三大義務
第 13 回	平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障
第 14 回	まとめ及び学期末レポート	総復習並びにレポートの作成及び提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）
伊藤正己『憲法入門〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）
末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）
初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80 %）及び授業内小レポート（20 %）により、「到達目標」に掲げた「憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、併せて基礎的な法的知識を身に付けること」等の達成度を評価します。なお対面授業に復帰することになった場合、「成績評価の方法と基準」の変更は「学習支援システム」上に掲示します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic concepts related to law in general, and the history, principles and contents of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to understand the basic structure of the legal system centered on the Constitution and to acquire basic legal knowledge. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report (80%) and short reports (20%).

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な国家の市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブの OATube に動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障

- 13 日本国憲法と人権保障 法の下での平等（総論）
③
14 日本国憲法と人権保障 法の下での平等（各論）
④ 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50 %）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50 %）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する評価する。

【学生の意見等からの気づき】

科目担当者の交代により、前年度のフィードバックはできない。

【Outline (in English)】

Learn basic knowledge about the Constitution of Japan.

The theme is to understand the philosophy and structure of the Constitution of Japan, mainly for beginners, based on their understanding of the relationship between law and the state and society. By grasping the basic structure of the legal system centered on the Constitution and acquiring basic legal knowledge through "correct understanding" of the basic principles of the Constitution of Japan and the content structure and characteristics based on it. The goal of the lesson is to acquire the legal and institutional knowledge and qualities necessary as a citizen of a democratic nation and as a sovereign. At the same time, we aim to cultivate a so-called "legal mind" that can respond appropriately and appropriately to various legal relationships in the real world.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

"Systematic understanding of the Constitution", "Basic legal knowledge" described in the achievement goal column by the task report (50%) in the first half of the lecture (face-to-face type) and the task report (50%) in the second half of the lecture (on-demand type). Evaluate by measuring the degree of achievement of "Legal Mind Development".

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017 年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的な概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的な市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブの OATube に動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と中央の意義を学ぶ
4	国家の役割	国家が果たすべき役割について学ぶ
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障	人権保障の特色について学ぶ

①

- 12 日本国憲法と人権保障 私人間における人権保障について学ぶ
- 13 日本国憲法と人権保障 法の下での平等（総論）
- 14 日本国憲法と人権保障 法の下での平等（各論）
日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube 等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めるため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50 %）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50 %）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度から担当者が変わったため、フィードバックできない。

【Outline (in English)】

Learn basic knowledge about the Constitution of Japan.

The theme is to understand the philosophy and structure of the Constitution of Japan, mainly for beginners, based on their understanding of the relationship between law and the state and society. By grasping the basic structure of the legal system centered on the Constitution and acquiring basic legal knowledge through "correct understanding" of the basic principles of the Constitution of Japan and the content structure and characteristics based on it. The goal of the lesson is to acquire the legal and institutional knowledge and qualities necessary as a citizen of a democratic nation and as a sovereign. At the same time, we aim to cultivate a so-called "legal mind" that can respond appropriately and appropriately to various legal relationships in the real world.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

"Systematic understanding of the Constitution", "Basic legal knowledge" described in the achievement goal column by the task report (50%) in the first half of the lecture (face-to-face type) and the task report (50%) in the second half of the lecture (on-demand type). Evaluate by measuring the degree of achievement of "Legal Mind Development".

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルズ著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第 2 版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第 3 回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019。
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第 2 版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

村館 靖之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I・II ではミクロ経済学の基礎と応用を通年で学びます。経済学 I ではミクロ経済学の基礎を学びます。

【到達目標】

ミクロ経済学の基礎を学び、消費者行動の理論と生産者理論の基礎について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。講義にあたって微分・積分は極力つかいません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ミクロ経済学とは
2	需要と供給	需要曲線と供給曲線の復習
3	消費者理論 1	無差別曲線と予算制約 代替と補完
4	消費者理論 2	需要曲線の導出
5	生産者理論 1	生産関数と利潤
6	生産者理論 2	費用曲線と等量曲線
7	生産者理論 3	独占
8	生産者理論 4	寡占、クールノー均衡とベルトラン均衡
9	交換理論	エッジワースの箱とパレート効率性
10	市場理論	生産可能性集合と一般均衡
11	外部経済の理論	外部性とコースの定理
12	公共財の理論	公共財の2つの性質、リンダール均衡
13	行動経済学入門	参照点、損失回避
14	ふりかえり	講義内容の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハル・R・ヴァリアン (2015) 『入門ミクロ経済学 (原著第 9 版)』勁草書房 (4000 円 + 税)

【参考書】

神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

最終テスト 100 満点。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：内閣府経済部局にてエコノミストとして四年間勤務。

【Outline (in English)】

Economics I is the intermediate microeconomic theory class. The goals of this course are to understand basic microeconomic theory (Theory of Consumer Behavior and Theory of Firm). Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

村館 靖之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅱでは、経済学Ⅰの履修を前提に、より進んだ中級のミクロ経済学を学びます。

【到達目標】

ミクロ経済学の応用、情報とゲームの理論の初歩を学び、よりよい選択ができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。微積分は極力使いません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゲームと情報の経済学とは
2	異時点間の選択	時間選好、異時点間の予算集合、利子
3	ゲーム理論 1	標準形ゲーム、ナッシュ均衡
4	ゲーム理論 2	展開形ゲーム、部分ゲーム完全均衡
5	オークション理論	メカニズムデザイン
6	非対称情報の経済学 1	レモンの原理、逆選択
7	非対称情報の経済学 2	モラルハザード、シグナリング
8	情報技術の経済学	ネットワーク外部性と収穫逓増
9	一般均衡	厚生経済学の第一基本定理、第二基本定理
10	個人的選択と社会的評価	アローの定理、社会的厚生関数
11	双対性アプローチ	消費者理論と生産者理論を双対性アプローチで捉え直す
12	行動経済学 1	フレーミング、損失回避、参照点
1	行動経済学 2	ナッジと経済政策
14	総復習	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハル・R・ヴァリアン (2015)『入門ミクロ経済学 (原著第 9 版)』勁草書房 (4000 円 + 税)

【参考書】

奥野正寛・鈴木興太郎 (1985)『ミクロ経済学Ⅰ』岩波書店

奥野正寛・鈴木興太郎 (1988)『ミクロ経済学Ⅱ』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

最終テスト 100 満点。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

実務経験のある教員による授業：内閣府経済部局にてエコノミストとして四年間勤務。

【Outline (in English)】

Economics II is the class that studies advanced microeconomic theory.

The goals of this course are to understand advanced microeconomic theory (Economics of Information and Game Theory).

Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして必須な考え方を習得する。家計・企業・政府はどのような基準で経済活動の判断を行うのか、それらの取引により市場はどのような結果になるのかという観点に立つて、経済社会の出来事を理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある合理的な判断を知ること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解すること、③日々のニュースの表面的な内容だけではなく深層にあるメカニズムに納得できることの3点である。これにより、経済社会の課題について柔軟に発言できる基礎力の養成を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。現実問題の理解を深めるために、新聞・雑誌などからも教材を選択する。講義資料は学習支援システムに事前に掲載する。授業中に講義内容を復習するクイズを実施し、受講生の理解を深める。リアクションペーパーを2回行い、経済学の基礎用語の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市場の機能と経済学	経済学の基本的考え方を学ぶ
2	需要と供給	需要と供給による市場の取引を理解する（教科書第1章）
3	消費者の行動（1）	需要曲線を学ぶ（第2章）
4	消費者の行動（2）	消費者余剰を学ぶ（第2章）
5	企業の行動（1）	供給曲線を学ぶ（第3章）
6	企業の行動（2）	生産者余剰を学ぶ（第3章）
7	市場競争と資源配分	価格メカニズムと余剰分析を学ぶ（第4章）
8	市場の失敗と政府の役割	外部効果と公共財を学ぶ（第6章）
9	不完全な情報	情報の不完全性と取引を学ぶ（第7章）
10	ゲームの理論（1）	ナッシュ均衡、囚人のジレンマを学ぶ（第8章）
11	ゲームの理論（2）	オークションやマッチングにおける経済学の活用を学ぶ（坂井2013）
12	経済学と家族	子育て、働き方などの視点から少子化を学ぶ
13	経済学と社会保障	医療の経済学的分析を学ぶ（第7章）
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第2版）日本経済新聞出版

坂井豊貴（2013）『マーケットデザイン』ちくま新書

坂井豊貴（2017）『ミクロ経済学入門の入門』岩波新書

田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書

一橋大学経済学部編（2013）『教養としての経済学』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30%（2回）、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度からゲームの理論を取り上げる講義を2回に増やしたが、受講生の関心が高いので今年度も継続する。経済学があたりはまる身の回りの事例を取り上げているが、これが理解に役立ったとの意見が多数に上ったので、具体例の紹介を今年度も続ける。経済学を具体的な計算問題で理解することを希望するとの声が寄せられたので、これまでよりも機会を増やすかどうかは講義の中で確認していく。講義を復習するクイズを授業中に実施することが内容の理解につながると好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するためのパソコンが必要。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。

コロナ禍の状況によっては、対面とオンラインの併用授業またはオンラインのみの授業となることがある。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social outcomes based on the reasoning with microeconomics. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (30%) and the final exam (70%).

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業はマクロ経済学を取り上げる。GDP (国内総生産) による経済全体の把握、経済成長、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、インフレとデフレ、雇用と失業、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①経済が持続的に成長するために必要なこと、②政府が経済成長に果たす役割、③経済データを正確に理解しそれが示唆する政策的意味について、自ら考える素養を身につけることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、経済データの図表を教材として配布する。講義資料は学習支援システムに事前に掲載する。毎回の授業中に講義内容を復習するクイズを実施し、理解に役立たせる。リアクションペーパーを2回実施し、マクロ経済学の重要用語が正しく理解できるかを試す。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マクロ経済とは	GDP (国内総生産) を学ぶ (教科書第9章)
2	経済成長	経済成長を需要側と供給側から考える (第15章)
3	有効需要	マクロ経済の均衡を学ぶ (第10章)
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策を学ぶ (第12章)
5	景気対策	不況期の財政出動を学ぶ (第12章)
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と金融調節を学ぶ (第11章)
7	インフレとデフレ	物価の変動と経済への影響、金融政策の役割を学ぶ (第13章)
8	雇用と失業	労働市場の変動と要因を学ぶ (第13章)
9	日本型雇用	労働市場の動向、賃金決定、ジョブ型雇用を学ぶ (第13章)
10	高齢社会の財政運営	社会保障改革を学ぶ (第14章)
11	財政健全化	財政赤字の原因と対処を学ぶ (第14章)
12	為替レート	円高・円安の経済効果を学ぶ (第16章)
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方及び貿易と直接投資の動向を学ぶ (第16章)
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト (教科書)】

伊藤元重 (2015)『入門経済学』(第4版) 日本評論社

【参考書】

塩路悦朗 (2019)『やさしいマクロ経済学』日経文庫
清家篤・風神佐知子 (2020)『労働経済』東洋経済新報社
田中久稔 (2018)『経済数学入門の入門』岩波新書
一橋大学経済学部編 (2013)『教養としての経済学』有斐閣
吉川洋 (2016)『人口と日本経済』中公新書

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30% (2回)、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の関心を踏まえ昨年度から雇用の講義を増やして2回行い、最新の動きを取り上げるようにしたところ、関心にマッチしていたので、今年度も内容を充実させていきたい。講義中に実施する復習のためのクイズは内容理解を助けるとの意見が多いので、継続する。期末試験には簡単な計算問題を出题するが、講義の中で計算問題を練習する機会を増やしてほしいとの声があったので、講義を進めながら試してみる予定である。春学期のミクロ経済学に比べると、マクロ経済学は身の回りで実感することが少ない事象を扱うので慣れるのに時間がかかるかもしれないが、政策的には重要な内容なのでじっくり履修することを望む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するためのパソコンが必要。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。
コロナ禍の状況によっては、対面とオンラインの併用授業またはオンラインのみの授業となることがある。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of standard macroeconomics. Topics to be covered are growth theory, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, prices, employment, and exchange rates and goods and service trade. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (30%) and the final exam (70%).

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルズ著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第 2 版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第 2 回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第 3 回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第 4 回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 5 回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 6 回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 7 回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第 8 回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 11 回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第 12 回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第 13 回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第 14 回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ・E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019。
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第 2 版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます

3	序章 マクロ経済学とは 2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する 1 (GDP)	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する 2 (GDP)	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する 3 (物価)	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場 1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場 2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
9	マクロ経済を支える金融市場 3	貨幣の機能と中央銀行の役割 1
10	貨幣の機能と中央銀行の役割 2	金融システムの安定化の意義を理解します
11	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
12	財政の仕組みと機能 1	税制の基本を学びます
13	財政の仕組みと機能 2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
14	財政の仕組みと機能 3	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
15	演習	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。(中略)『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければいいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国(場合によって途上国)のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期(マクロ経済学Ⅰ)は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期(マクロ経済学Ⅱ)は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業(2021年に作成)の組み合わせで実施の予定です。1セメスター14回の授業のうち半分の7回を対面授業とする予定です(詳細は9月の最初の授業で説明します)。ただし、オンデマンドでは全14回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します

5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何が おきなのかを理解します
6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察しま す
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発 生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコ ストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学び ます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要 因を学びます、開放経済下での経 済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行 います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで
新版』（有斐閣）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに
掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として
授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、
あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決め
ます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア) S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ) C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問
に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者 (D) の大半は
殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授
業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複
数回、違う角度から説明をするように心がけます。

とくに今学期の最初の 4 回の授業内容は対面での講義希望が多かつ
たため、対面での授業を実施します。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を持します。
また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も持します。
こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけ
たいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn
the basics of macroeconomics. You will learn what firms
and households do in the economy from a macroeconomic
perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics
to understand what is going on in the Japanese and the world
economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about
GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of
economic policy such as money and central banks, and the
structure and function of public finance. And then we touch on
models for analyzing them in a comprehensive manner. In the
fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model
and learn how prices and GDP are determined. We will then
tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates,
economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2
hours each.

Evaluation will be based on the final exam, which can be
brought in. In addition, extra points may be given for
comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the
following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D
(students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D
(students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。(中略)『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国(場合によって途上国)のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期(マクロ経済学 I)は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期(マクロ経済学 II)は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業(2021 年に作成)の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です(詳細は 4 月の最初の授業で説明します)。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明します
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます

3	序章 マクロ経済学とは 2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
	マクロ経済を観察する 1 (GDP)	
4	マクロ経済を観察する 2 (GDP)	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
5	マクロ経済を観察する 3 (物価)	物価統計の基本的な特徴を理解します
6	マクロ経済を観察する 4 (失業率、景気)	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します。更に、金融と実体経済の関係を考察します
7	マクロ経済を支える金融市場 1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
8	マクロ経済を支える金融市場 2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
	マクロ経済を支える金融市場 3	
	貨幣の機能と中央銀行の役割 1	
9	貨幣の機能と中央銀行の役割 2	金融システムの安定化の意義を理解します
10	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	中央銀行による経済政策(金融政策)の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
11	財政の仕組みと機能 1	税制の基本を学びます
12	財政の仕組みと機能 2	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
13	演習	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』(有斐閣、2020 年刊行の最新版を購入のこと)

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介(授業支援システムに掲載)。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S~D の評価基準で評価を求める(学生は全問に解答)。

(イ)C~D の評価基準で評価を求める(学生は限られた数の設問に解答)。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者(D)の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金(IMF)や世界銀行(World Bank)におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見なければいいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等をみると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。後期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動、資産バブルといったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 9 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方 1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方 2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方 3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析 1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します

5	総需要・総供給分析 2	マクロ的な均衡状態の背後で何がおきなのかを理解します
6	総需要・総供給分析 3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ 1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ 2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済 1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済 2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長 1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長 2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣）

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア) S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ) C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者 (D) の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

とくに今学期の最初の 4 回の授業内容は対面での講義希望が多かったため、対面での授業を実施します。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を持します。また、国際通貨基金におけるコンサルタント業務の経験も持します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the final exam, which can be brought in. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。
（* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第 6 回	思考と個人差（1）	学習心理学
第 7 回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り

第 9 回	意識の階層（1）	臨床心理学
第 10 回	意識の階層（2）	神経心理学
第 11 回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性（2）	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。
・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となりました。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループが個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方 (観点) を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学 (自然科学とする説には賛否両論あり) の一領域であり、リベラルアーツ (一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。
(* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン (オンデマンド型) 授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム (掲示板は使用しません) と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争 (「自己と社会性」再考) (1)	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争 (「自己と社会性」再考) (2)	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か?	臨床心理学 (異常心理学)
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第 6 回 「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回 人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回 中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回 自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第 10 回 愛こそはすべて	関係性の観点

第 11 回 私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回 大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第 13 回 3つの「生きる」	生物学的観点

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時間：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらいます。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎週「学習支援システム：教材」にパワーポイントによる資料を掲載します。オンデマンド形式なので、学期末まで資料を閲覧できます。各章ごとに、復習問題を提示するので、各自資料を参考にして教科書をよく読み、取り組んでください。

尚、資料掲載は基本的に月曜日 13 時をめどとしますが、早まることもありますので学習支援システムを適宜チェックしてください。質問は「学習支援システム：授業掲示板」より受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとりえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶

第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への動機づけ、言語的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
 2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
 3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ，2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 桜井茂男著 誠信書房，2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ，2010 年

【成績評価の方法と基準】

課題に対するレポート提出により評価します。

課題の提示は 6 月末になりますので「学習支援システム：課題」をチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため、学生から授業に対する意見等を得ることができませんでした。

課題に対するレポート提出を数回求めましたが、理解度は概ね合格基準に達していましたので、オンライン授業を継続することもよいのではないかと思います。

【その他の重要事項】

教科書は必ず購入してください。

心理学 I、心理学 II を通じて同じ教科書を使います。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for a class.

Grading Criteria: Term end report(100%)

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてて。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにする。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システム教材に ppt の資料を掲載します。ppt の資料を参考にして教科書をよく読み、各章ごとに提示される復習問題に各自取り組んでください。質問等は学習支援システムの授業掲示板で受け付けます。

基本的に資料は月曜日 13 時をめぐりに掲載しますが、早まることもありますので、適宜学習支援システムをチェックしてください。オンデマンド形式なので、資料は学期末まで閲覧できます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第 2 回	自分をよく知りたい	自己概念
第 3 回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第 4 回	人間関係	親・家族との関係
第 5 回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第 6 回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第 7 回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第 8 回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第 9 回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第 10 回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第 11 回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第 12 回	子どもの心理臨床の流 れ	場面緘黙の事例

第 13 回 遊戯療法

遊戯療法とは
カウンセリング

第 14 回 まとめ

子どもの人間関係・社会性・心理
臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみる。
 - ・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つ。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題に対するレポート提出により評価します。

課題提示は 12 月中旬を目安としますので、学習支援システムの課題をチェックしてください。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は履修者数が多かったため、オンライン授業でした。学生から意見を得ることはできませんでしたが、課題に対するレポートは概ね合格基準に達していました。オンライン授業でも、学生は授業内容を理解して行けることが示されたのではないのでしょうか。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end report(100%)

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。
（* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学

第 4 回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第 6 回	思考と個人差（1）	学習心理学
第 7 回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層（1）	臨床心理学
第 10 回	意識の階層（2）	神経心理学
第 11 回	意識の階層（3）	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性（1）	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性（2）	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が多量に寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。
・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学 II の期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となりました。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループが個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00～6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方 (観点) を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学 (自然科学とする説には賛否両論あり) の一領域であり、リベラルアーツ (一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。
(* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン (オンデマンド型) 授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム (掲示板は使用しません) と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争 (「自己と社会性」再考) (1)	社会心理学 平和心理学

第 3 回	人間欲求としての戦争 （「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも 悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第 5 回	いじめと排他性のメカ ニズム	臨床心理学 道徳心理学
第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義す る	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・ 「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点
第 11 回	私を殺さないものは、 私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における 心の健康	個人差の観点
第 13 回	3つの「生きる」	生物学的観点

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過
ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2
時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』
（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内
で紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビ
ティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認
するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に
関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの
人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、
深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンライン
で提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間であ
る以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決
してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業
を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との
声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっか
りと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったこ
とを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を
通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出
できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる
限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォ
ームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受
付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が
発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5 人 1 組となるグループワ
ークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献
度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは
成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかった
のですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグルー
プとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったよう
です。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイ
ダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします
（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を
自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall under
standing of theoretical and empirical progress in contemporary
psychology. On a broader perspective, the underlying aim of
this course is to enhance your appreciation of how psychological
inquiry as a scientific discipline can advance exploration
and understanding of the human condition. Throughout
the year, various key concepts, findings, and perspectives in
each traditional psychological discipline will be introduced.
The cross-disciplinary approach which characterizes positive
psychology, an emerging field in psychological science, will be
introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand
psychology from the perspective of social scientific inquiry
and that in the context of liberal arts knowledge (see
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html
in Japanese for what liberal arts means). As knowledge aids
the acquisition of more knowledge, students should be able
to make use of the knowledge gained from this course as a
foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who
have not enrolled in the spring semester is still welcome to
take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required
assignments after each class meeting. Your study time will be
around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following
process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and
class-related activities (50%). More details will be explained in
the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこれらの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「オンデマンド授業（フルオンデマンド型）」で実施する。各回の講義動画を視聴し、毎回、簡単なコメントや質問等を授業支援システムにアップすること。また、時折ビデオ／DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている（オンデマンド配信）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト①）ー 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。

第 7 回	無意識の心理学（フロイト②）ー 心理・性的発達論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学（フロイト③）ー 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療のメカニズムを解説する。
第 9 回	無意識の心理学（ユング①）ー 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学（ユング②）ー 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）ー その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）ー 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

平木典子・巖岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業用プリント（資料）に沿って授業を進めるので、授業用プリント（資料）を必ず学習支援システムからダウンロードして、授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10:00~6 日 (水) 9:00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22:00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういつた心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論 (精神分析学を代表とする無意識の心理学) とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達モデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「オンデマンド授業 (フルオンデマンド型)」で実施する。各回の講義動画を視聴し、毎回、簡単なコメントや質問等を授業支援システムにアップすること。また、時折ビデオ/DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている (オンデマンド配信)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法 ① — さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法 ② — 行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ① — 基本的な考え方に	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。

第 6 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法 ② — ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ 2「生きていてくれてありがとう」 (TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第 8 回	人間性心理学と心理療法 ① — 来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法 ② — 来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について ① — 楽しさにもとづく人間発達モデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について ② — 現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考え
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について ③ — 精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

平木典子・巽岩秀章編著『カウンセリングの基礎』(北樹出版、1997 年)、会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』(学文社、1999 年)、浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』(学文社、2011 年)、今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』(世界思想社、2003 年)、チクセントミハイ著 (浅川希洋志監訳)『フロー・エクシティブ』(世界思想社、2016 年)。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業用プリント (資料) に沿って授業を進めるので、授業用プリント (資料) を必ず学習支援システムからダウンロードして、授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand
(a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and
(b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00 ~ 6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場で互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「オンデマンド授業（フルオンデマンド型）」で実施する。各回の講義動画を視聴し、毎回、簡単なコメントや質問等を授業支援システムにアップすること。また、時折ビデオ / DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている（オンデマンド配信）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト①）ー 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。

第 7 回	無意識の心理学 (フロイト②) — 心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学 (フロイト③) — 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。
第 9 回	無意識の心理学 (ユング①) — 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学 (ユング②) — 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学 (エリクソン①) — その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学 (エリクソン②) — 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ「いいもんだよ、生きるって」(TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD「いいもんだよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

平木典子・巖岩秀章編著『カウンセリングの基礎』(北樹出版、1997 年)。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業用プリント (資料) に沿って授業を進めるので、授業用プリント (資料) を必ず学習支援システムからダウンロードして、授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10 : 00 ~ 6 日 (水) 9 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論 (精神分析学を代表とする無意識の心理学) とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達のモデルとしてのフロア理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「オンデマンド授業 (フルオンデマンド型)」で実施する。各回の講義動画を視聴し、毎回、簡単なコメントや質問等を授業支援システムにアップすること。また、時折ビデオ / DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている (オンデマンド配信)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法① — さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法② — 行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法① — 基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。

第 6 回	ゲシュタルト心理学と「気づき」を重視するゲシュタルト療法② — ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ 2「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。
第 8 回	人間性心理学と心理療法① — 来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法② — 来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について① — 楽しさにもとづく人間発達モデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について② — 現代の子どもたちは本当の「楽しさ」を知っているのか	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について③ — 精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。

【参考書】

平木典子・巖谷秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）、会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わったのか』（学文社、1999 年）、浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011 年）、今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003 年）、チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『フロー体験の心理学』（世界思想社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験 100 % となる。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業用プリント（資料）に沿って授業を進めるので、授業用プリント（資料）を必ず学習支援システムからダウンロードして、授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他
/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方 (観点) を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学 (自然科学とする説には賛否両論あり) の一領域であり、リベラルアーツ (一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。
(* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン (オンデマンド型) 授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム (掲示板は使用しません) と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か (1)	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か (2)	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か (3)	認知心理学
第 6 回	思考と個人差 (1)	学習心理学
第 7 回	思考と個人差 (2)	認知心理学 進化心理学

第 8 回 中間レポート 第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回 意識の階層 (1) 臨床心理学

第 10 回 意識の階層 (2) 神経心理学

第 11 回 意識の階層 (3) パーソナリティ心理学

第 12 回 自己と社会性 (1) パーソナリティ心理学

第 13 回 自己と社会性 (2) 社会心理学

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト (教科書)】

『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』
(クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年)
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー (オンラインで提出) を通じて分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています (決してポジティブになることを奨励する学問ではありません)。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声がとても多く寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。
・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学 II の期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた (D から加点され C になった)、あるいは成績が上がった (A から加点され S になった) 方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となりました。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします (アンケートの結果次第では、グループが個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます)。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時間：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方 (観点) を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学 (自然科学とする説には賛否両論あり) の一領域であり、リベラルアーツ (一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

(* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時間なし」のオンライン (オンデマンド型) 授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム (掲示板は使用しません) と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争 (「自己と社会性」再考) (1)	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争 (「自己と社会性」再考) (2)	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か?	臨床心理学 (異常心理学)
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を(再)定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・「否定」するとは?	感情的観点 認知的観点
第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点
第 11 回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第 13 回	3つの「生きる」	生物学的観点

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限り、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となりました。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学（自然科学とする説には賛否両論あり）の一領域であり、リベラルアーツ（一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」＊）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。
（＊ 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラズルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラズルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か（1）	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か（2）	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か（3）	認知心理学
第 6 回	思考と個人差（1）	学習心理学
第 7 回	思考と個人差（2）	認知心理学 進化心理学

第 8 回 中間レポート 第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回 意識の階層（1） 臨床心理学

第 10 回 意識の階層（2） 神経心理学

第 11 回 意識の階層（3） パーソナリティ心理学

第 12 回 自己と社会性（1） パーソナリティ心理学

第 13 回 自己と社会性（2） 社会心理学

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声がとても多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となりました。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループが個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方 (観点) を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

【到達目標】

心理学は、社会科学 (自然科学とする説には賛否両論あり) の一領域であり、リベラルアーツ (一般教養。原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」*) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、社会科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。
(* 桜美林大学 HP「リベラルアーツとは」より引用。
www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン (オンデマンド型) 授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ベースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム (掲示板は使用しません) と Google クラウドを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラウドになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	人間欲求としての戦争 (「自己と社会性」再考) (1)	社会心理学 平和心理学
第 3 回	人間欲求としての戦争 (「自己と社会性」再考) (2)	社会心理学 平和心理学
第 4 回	精神疾患か、それとも悪か?	臨床心理学 (異常心理学)
第 5 回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第 6 回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第 7 回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第 10 回	愛こそはすべて	関係性の観点
第 11 回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第 12 回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第 13 回	3つの「生きる」	生物学的観点
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚している」として、深い悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間である以上、ネガティブになる傾向があることが指摘されています（決してポジティブになることを奨励する学問ではありません）。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は加点方式です。

・動画配信を逃してしまった、諸事情により課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。学期中に応じられる限りで、動画の再視聴期間や、課題の再提出期間を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。

【その他の重要事項】

前年度の心理学Ⅱの期末レポートで、5 人 1 組となるグループワークを行いました。学期末の成績評価では、グループワークでの貢献度により単位が取得できた（D から加点され C になった）、あるいは成績が上がった（A から加点され S になった）方も少なくなかったのですが、メンバー間でコミュニケーションがうまくいったグループとそうではなかったグループとで明暗が分かれた形となったようです。グループワークの実施の有無について、第 1 回授業のガイダンス終了後、アンケートを行い、皆さんの意見を仰ぐこととします（アンケートの結果次第では、グループか個人いずれかによる課題を自由に選択できるような方法も視野に入れます）。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, an emerging field in psychological science, will be introduced as well.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習（Learning Activities Outside of Classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施する。ただし、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合は原則としてオンラインにより授業を進める。詳細は学習支援システムに掲載する。

前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとりえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ、2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 櫻井茂男著 誠信書房、2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ、2010 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、リアクションペーパー 30%

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため学生から意見を得ることはできませんでした。

課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できることが示されたと思います。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for class.

Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施します。ただし、行動方針レベルが1から2になった場合、この授業は原則としてオンラインで進めます。詳細は学習支援システムに掲載します。

講義形式で授業を進めていきます。ppt を提示して説明しますが、DVD 鑑賞をを数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。

ショートレポート課題を数回提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第12回	子どもの心理臨床の流 れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理 臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
- ・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014 年新版、2100 円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、授業内のショートレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は履修者数が 100 名以内でしたが、オンライン授業のため学生からの意見を得ることはできませんでした。

課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できていることが示されました。

【その他の重要事項】

心理学Ⅰを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

高木 正、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントを使います。学習支援システムでの授業開始は、5月11日からとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へー地理学の学問的性格
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	日本における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	世界における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	宗教からみる世界の多様性
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	現代世界の政治状況
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	観光と地域経済
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業に配布したプリントを持参してください。プリントは予備がないので、跡で渡すことはできません。なお少なくとも1時間を目途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績要素の配分は、試験 80 %、平常点 20 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will gain a deep understanding of various events in the modern world and learn the importance of thinking logically on their own.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高木 正、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。教材は配布するプリントで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	地図の一般的説明とその観方
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料の紹介とその活用
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	新聞記事の紹介とその利用方法
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映像資料の紹介とその活用
第 7 回	現代世界の諸地域 (1)	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域 (2)	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域 (3)	人口
第 10 回	現代世界の諸地域 (4)	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域 (5)	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域 (6)	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備は特に必要としませんが、前の授業で配布したプリントを持参してください。プリントの予備はないので、後で渡すことはできません。なお少なくとも 1 時間を目途に復習時間に充ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験を行います。試験方法は最初の授業で説明します。成績の要素配分は、試験 80 %、平常点 20 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

滑舌をよくします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will develop the ability to think for themselves about the importance of coexistence among diverse people in an increasingly globalized society.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前川 明彦、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、すすめていきます。対面授業の利点を活かし「考える」ことを重視するために、一方的な講義を少しは変えたいと思います。基本的に、教材等は授業支援システムを使う予定です。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ 地理学って何だろう
第 2 回	地理学が扱う諸問題	事象の説明 動画からわかる世界
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	地理学的な考え方を学ぶには？あなたの服はどこで作られた
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方ーブラタモリの世界ー
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境 なぜ、北海道の米がうまくなった
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境 産業・経済と環境のジレンマ
第 7 回	現代の人の生活・文化	餃子で考える、食文化と環境決定論、可能論の世界
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	日本はこんなに世界から遅れてたんだ・DX, AI 社会ほか
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	A) AI、ビッグデータ、GIS で遅れた日本を B) 失敗した観光の実態
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？新たな産業とって 30 年
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	災害を GoogleMap やハザードマップから考える
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	グローバル社会の分断と混乱 地理学的な考え方で考える？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	カーボンニュートラルの可能性と混乱
第 14 回	試験 まとめと解説	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。2022 年 2 月以降の世界での出来事や日本っ区内の様々な出来事にも興味を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

体面授業予定ですので、期末の授業内試験（80 %：持ち込み可）授業での平常点（20 %）としますが、感染の拡大等からレポートの変わる可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

2 年間、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信などを行います。それを見ることができるように PC などの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期の I では地理学の基礎、秋学期の II はグローバルな地誌的な見方での応用が中心ですから、通年でなくとも、I、II を合わせて履修してみてください。なかなか一歩踏み出せない、柔軟な思考を持ちたいなどの人がかわるかもしれません。授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思っています。必ずご確認ください。（仮登録すれば見れるようにします）状況次第ですが、対面授業形式の利点に AL や今後の将来でも生かせる GD などとも試みたいと思います。あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで知り合いを創るためにも楽しみましょう。授業アシスタントの人を予定していますので、1 年生などはさまざまな相談をしてみてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will gain a deep understanding of various events in the modern world and learn the importance of thinking logically on their own.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前川 明彦、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察すること、アフターコロナ後の世界各地や日本などについて、自ら考えていけるようになることを目標にします。さらに、高校までの地理の復習や延長ではなく、日本や世界の身近な課題等を地理学をとおして多様な持続可能な考え方として尊重することも考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には、対面授業中心となります。基本は「世界を知ろう」です。身近なことから地理学・地誌学的に世界を知ろうということです。本講義では、各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、すすめていきます。対面授業の利点を活かし「考える」ことを重視するために、一方的な講義を少しは変えたいと思います。基本的に、教材等は授業支援システムを使う予定です。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。また、授業アシスタントの人も予定していますので、いろいろ相談してみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	世界地図を眺め、どこにどのような国々があるのか、把握する
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	ビックデータなど統計資料の紹介と分析を学ぶ
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	アフターコロナ後のグローバル社会について考えてみよう
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画から分析してみよう
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	試験 まとめと解説	授業の総括と授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的になし

【参考書】

適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】

体面授業が中心となります。期末の授業内試験（持ち込み可：80 %）、授業時での平常点（20 %）として総合的に評価します。なお、感染の拡大等から試験をレポートに変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

2 年間、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを教材や課題等で使用するの、慣れてほしい。対面授業形式ですが、先進国の中でパソコンが苦手な人が多いといわれる日本ですので、タブレット以上に慣れてください

【その他の重要事項】

授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認ください。（仮登録すれば見れるようにします）状況次第ですが、あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで AL も楽しみましょう。また、授業アシスタントの人を予定していますので、1 年生などはさまざまな相談をしてみてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will develop the ability to think for themselves about the importance of coexistence among diverse people in an increasingly globalized society.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシア・ヨーロッパの集落景観、民族と国家、観光などを中心に扱います。各テーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。しかし、授業支援システムを主に活用し、資料配信やコメント提出もしていただきます。リアクションペーパーには授業支援システムを使って教員からコメントをします。授業資料の紙での配布はいたしません (すべて学習支援システムにアップします)。授業開始時間にも配慮します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明 ～集落景観と地理学
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える (1)	わたしたちの周りにある地理学的考え方 ～法政大学周辺を地理学的に考える
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える (2)	メディアにおける地理学的考え方 ～プラタモリにみる地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境 (1)	世界における生態・環境～ロシア・ヨーロッパの地形・気候・土壌・植生
第 6 回	現代世界における生態・環境 (2)	日本における生態・環境～日本の地形・気候・土壌・植生
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	モスクワとサンクトペテルブルク ロシアの二大都市の生活・文化
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	ロシアによるウクライナ侵攻・戦争
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	日本と世界におけるツーリズム (観光) の歴史と発展 シベリア鉄道の旅

第 10 回	日本社会における諸問題 (1)	地理学的な考え方を学ぶには? ～日本のツーリズム (観光) と歴史地理
第 11 回	日本社会における諸問題 (2)	日本の諸地域を事例として～現代日本におけるツーリズム (観光) と地域のあり方
第 12 回	グローバル社会における諸問題 (1)	地理学的な考え方を学ぶには? ～ロシア・ヨーロッパにおける地域共同体の現在、その関係性 EU・NATO とロシア
第 13 回	グローバル社会における諸問題 (2)	世界の諸地域を事例として～ロシア・ヨーロッパの民族と国家の関係 複雑な問題をかかえる民族紛争 試験・まとめと解説
第 14 回	まとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。必要な資料は適宜、学習支援システムにアップします。

【参考書】

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート課題 100%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料 (写真や DVD, 映画など) は好評でしたので、対面授業内で積極的に鑑賞する機会をもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います (紙での配布はしません)。それを見ることができるよう PC などの機器類を準備してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand human geographies of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end report:100%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、担当者の専門の関係から、主に日本・ロシアの地誌を扱います。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。授業支援システムでの資料配信やリアクションペーパーの提出・返送も行います。必要な事項は全員向けに授業支援システム内の掲示板を利用します。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。授業開始時間にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？ ～地誌＝地域像・世界像の構築
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明～日本とロシアの地誌とは？
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	世界地図を眺め、どこにどのような国々があるのか、把握する
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計資料をもとに、ロシアと日本の現状を把握する
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日露関係をめぐるニュースや記事を取り上げる
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	北方領土問題に関する NHK スペシャル → 内容をレジュメで紹介する
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家～ロシアと日本
第 8 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの人口問題
第 10 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	日本とロシアの民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために～日露関係の未来とは？
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特ありません。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終レポート 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるように、PC やスマートフォンなどの機器類は準備してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand topography of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end report:100%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。環境問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は、陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。毎週プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、期末にレポートを提出いただきます。提出レポートについては、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人の生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策

第 9 回 現代社会の情報・通信・観光 世界・日本の海洋教育

第 10 回 日本社会における諸問題（1） 地理学的な考え方を学ぶには？

第 11 回 日本社会における諸問題（2） 日本の諸地域を事例として

第 12 回 グローバル社会における諸問題（1） 地理学的な考え方を学ぶには？

第 13 回 グローバル社会における諸問題（2） 世界の諸地域を事例として

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。学習支援システムからダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, area, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前畑 明美、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では、とくに「海」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸域の社会経済活動を見据えながら諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼社会システムを捉えつつ「人間社会と海の関係性」を考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。毎週プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、期末にレポートを提出いただきます。提出レポートについては、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	戦後日本における沿岸域の開発とその問題
第 4 回	映像資料から世界・日本について考える	日本の里海再生の取り組みとその現状
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と島嶼ネットワーク

第 6 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	日本の海洋産業の現状と課題
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。学習支援システムからダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between human society and the sea" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美、米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」に関する様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で顕在化してきています。全 14 回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうなのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。毎週プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、期末にレポートを提出いただきます。提出レポートについては、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々

第 8 回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）
第 9 回	現代の人びとの生活・文化	島々の文化（戦後の図書館運動と島）
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	日本の諸地域を事例として
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	世界の諸地域を事例として
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたっていただきたいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。学習支援システムからダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, area, landscape and location. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs. In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前畑 明美、米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「島」を取り上げて、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全 14 回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況はどうか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式となります。毎週プリント教材（解説含む）を読み進めていただき、期末にレポートを提出いただきます。提出レポートについては、後日フィードバックを行います。初回時に詳しく説明いたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第 4 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第 5 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本における島嶼政策の展開とその問題
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	島嶼コミュニティの力
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家

第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業
第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後は、気づいた点・疑問点などについて、積極的に図書館を活用して探究してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材（解説を含む）を用いたいと思います。学習支援システムからダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用の地図帳。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50 %）・レポート（50 %）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この科目はこのコースを取る学生に社会学の基礎を提供し、社会のさまざまな分野の問題に対して社会的な見方を醸成する。家族、ジェンダー、労働および医療などを扱う。

【到達目標】

コース修了時、以下を達成できる。
社会学の基本的な概念や理論を理解する。
社会現象をミクロとマクロの両面から考察できる。
社会の複層性に対する理解を深め、社会的事柄の成り立ちを多角的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面となるが、状況によっては、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No**【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】**
なし / No**【授業計画】 授業形態: 対面/face to face**

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「社会学」とはどのような学問か
第 2 回	自己と他者の社会学	相互行為と自己
第 3 回	行為と集団	行為の種類、群衆・公衆・大衆
第 4 回	公共空間と親密空間	電車の中の社会学
第 5 回	多様化する家族	誰を家族とするか
第 6 回	生殖という問題	リプロダクティブ・ヘルス/ライツと生命倫理
第 7 回	家族の中の人生	現代の家族をめぐる諸問題
第 8 回	セクシュアリティとジェンダー	性現象の見方、フェミニズム
第 9 回	職業労働と家事労働	ワーク・ライフ・バランス、男性学
第 10 回	社会福祉と社会保障	福祉国家・貧困・福祉政策
第 11 回	貧困と社会的排除	日本における社会保障
第 12 回	健康と医療	医療社会学の基本概念
第 13 回	医療と自己決定	「病いの語り」を解釈する
第 14 回	薬害を考える	サリドマイド事件再考

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布するレジュメに書かれている次の講義の準備 (提出物ではない) を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジュメの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

担当教員が作成した印刷物 (レジュメ) を授業にて配布する。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣 (2007 年)、松田健『テキスト現代社会学 [第 3 版]』ミネルヴァ書房 (2003 年)、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房 (2017 年)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%と期末レポート 50%を成績の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course provides students taking this course with a foundation in sociology and develops a sociological perspective on issues in various areas of society. Topics include family, gender, labor, and health care.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To be able to understand the basic concepts and theories of sociology.

To be able to examine social phenomena from both micro and macro perspectives.

To be able to deep their understanding of the multilayered nature of society and be able to understand the origins of social issues from multiple perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare (not submit) for the next lecture, which will be written on the distributed resume. Preparation includes thinking about what is being reported in the media and reading report. As a review, grasp the entire contents of the resume and confirm the key words. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50% T, Final Report: 50%.

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

菅野 摂子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースを取る学生に社会学の基礎を提供し、社会のさまざまな分野の問題に対して社会的な見方を醸成する。この科目は社会学Ⅰに続く内容であり、消費、宗教、犯罪、教育、メディアなど社会学の各論を展開する。

【到達目標】

この科目を修了する時には、以下を達成できる。
社会学の基本的な概念や理論を理解する。
社会現象をミクロとマクロの両面から考察できる。
社会の複層性に対する理解を深め、社会的事柄の成り立ちを多角的に捉えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面となるが、状況によっては、リアルタイムオンラインもしくはオンデマンド教材を配信する可能性もある。課題は毎回提出することを想定しているが、遠隔で講義を受ける学生がいる可能性やオンデマンド教材配信の場合も考慮して、システムからの提出を原則としたい。リアクションペーパーの全体講評は基本的に次の授業とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	労働の意味	就労をめぐる諸問題
第 2 回	消費社会を生きる	ポストフォーディズムと超越性
第 3 回	地域社会	コミュニティの形成と都市社会学
第 4 回	国家とグローバリゼーション	グローバル化、ネーション、ナショナリズム
第 5 回	エスニシティ	エスニシティとは何か、同化主義、多文化主義
第 6 回	宗教と社会	社会学にける宗教研究、グローバル化と宗教対立
第 7 回	犯罪と逸脱	「犯罪とは何か」という問い
第 8 回	教育と社会	現代における教育、教育格差
第 9 回	社会秩序と権力	秩序維持のメカニズム、フリーライダー問題
第 10 回	社会運動と社会構想	市民活動と政治変革
第 11 回	マスコミュニケーション	マスコミの効果・影響
第 12 回	ジャーナリズム	ニュースのつくられ方
第 13 回	メディア	公共性、メディア論の視点
第 14 回	総括	「個人と社会」再考

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジюмеに書かれている次の講義の準備（提出物ではない）を行う。準備は、メディアで報道されている内容について考えたり、資料を読むなどである。復習として、レジюмеの内容全体を把握しキーワードを確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物（レジюме）をアップする。

【参考書】

長谷川公一・浜日出夫・藤原正之・町村敬志『社会学』有斐閣（2007 年）、松田健『テキスト現代社会学 [第 3 版]』ミネルヴァ書房（2003 年）、盛山和夫・金明秀・佐藤哲彦・難波功士『社会学入門』ミネルヴァ書房（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーもしくは小課題などの平常点 50 %、期末レポート 50 % を成績評価の判定基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

100 分という時間の中で、映像や話題になった事件の報道資料などを積極的に取り入れ、理論と実践を接合させたリアリティのある授業内容にしていけることが重要だと感じた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is a continuation of Sociology I. It develops various sociological theories such as consumption, religion, crime, education, and media.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To be able to understand the basic concepts and theories of sociology.

To be able to examine social phenomena from both micro and macro perspectives.

To be able to deep their understanding of the multilayered nature of society and be able to understand the origins of social issues from multiple perspectives.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare (not submit) for the next lecture, which will be written on the distributed resume. Preparation includes thinking about what is being reported in the media and reading report. As a review, grasp the entire contents of the resume and confirm the key words. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following in class contribution: 50% T, Final Report: 50%.

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費化社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト (教科書)】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブックの形にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。授業形態については対面式 (事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド) であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみの回も教室で受講可能である。

課題での取り組みに対するフィードバックは、次の回の電子教材内での紹介とそれへの教員のコメントのかたちでおこなう。個別的な質問等には、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第 4 回	対抗文化	対抗文化 (カウンターカルチャー) の概念について学習する。

第 5 回	「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。
第 6 回	ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第 7 回	沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第 8 回	「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第 9 回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第 10 回	流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習。
第 11 回	ミニ・フィールドワーク: 「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディア化」の視点から各自で分析する。
第 12 回	「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、テーマパークにおける自己意識について考察する。
第 13 回	経済・政治構造の変化と政治社会学	太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に、経済、政治構造の変化を学習する。
第 14 回	振り返りと総括	春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書 2009 年)

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019 年)

・ニッポン戦後サブカルチャー史

(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容 (85%)、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献 (15%)、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録 (授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため)。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 現代日本社会のジェンダー構造と変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、パーソナル情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員との質疑を通して対話形式で授業に参加する。教材は電子ブックの形にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。授業形態については対面式（事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみの回も教室で受講可能である。

課題での取り組みに対するフィードバックは、次の回の電子教材内での紹介とそれへの教員のコメントのかたちでおこなう。個別的な質問等には、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この授業の概要、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回 郊外化

郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。

第5回 個室化・「リアリティの反転」

家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。

第6回 犯罪社会学

見田宗介『まなごしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。

第7回 ひきこもり

ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。

第8回 「公害から環境へ」

水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。

第9回 地域開発と ≪ 産業・自然・地域の結びと ≫

1960年代～70年代前半の地域開発（第一・二次全国総合開発計画）が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。

第10回 三全総の「定住圏」構想

1977年に国が策定した第三次全国総合開発計画（三全総）が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。

第11回 「自然」とは

NHKの証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。

第12回 都市再開発とリゾート開発

都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。

第13回 農山村の存続可能性と地域自治

マクロの状況をおさえつつ、地方の地域づくりについて考える。

第14回 振り返りと総括

秋学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)

・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)

・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapapps.gsi.go.jp/>)

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019年）

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンライン型の授業形態で実施の予定です。対面で授業できない場合は、オンラインで資料の配付 + ZOOM での講義 + オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 11 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。
第 12 回	現代の社会について考える 2	旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
第 13 回	現代の社会について考える 3	住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。

第 14 回 現代の社会について考 今後の課題を確認します。
える 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society. Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports) : 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンライン型の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付+ ZOOM での講義+オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム（1）	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム（2）	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム（3）	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム（4）	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き（1）	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き（2）	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き（3）	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き（4）	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題（1）	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題（2）	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題（3）	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題（4）	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題（5）	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996 年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30 %）、および中間レポート（30 %）、期末レポート（40 %）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30 %).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブックの形にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみの回も教室で受講可能である。

課題での取り組みに対するフィードバックは、次の回の電子教材内での紹介とそれへの教員のコメントのかたちでおこなう。個別の質問等には、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第 4 回	対抗文化	対抗文化（カウンターカルチャー）の概念について学習する。

第 5 回 「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。
第 6 回 ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第 7 回 沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第 8 回 「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第 9 回 社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第 10 回 流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習する。
第 11 回 ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディア化」の視点から各自で分析する。
第 12 回 「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、テーマパークにおける自己意識について考察する。
第 13 回 経済・政治構造の変化と政治社会学	太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に、経済、政治構造の変化を学習する。
第 14 回 振り返りと総括	春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）

・ニッポン戦後サブカルチャー史

(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 現代日本社会のジェンダー構造とその変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、パーソナル情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第 3、4 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組む、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員との質疑を通して対話形式で授業に参加する。教材は電子ブックの形にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみの回も教室で受講可能である。

課題での取り組みに対するフィードバックは、次の回の電子教材内での紹介とそれへの教員のコメントのかたちでおこなう。個別的な質問等には、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	この授業の概要、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第 3 回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第 4 回	郊外化	郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。
第 5 回	個室化・「リアリティの反転」	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第 6 回	犯罪社会学	見田宗介『まなざしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第 7 回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第 8 回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第 9 回	地域開発と ≪ 産業・自然・地域の人びと ≫	1960 年代～70 年代前半の地域開発(第一・二次全国総合開発計画)が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第 10 回	三全総の「定住圏」構想	1977 年に国が策定した第三次全国総合開発計画(三全総)が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第 11 回	「自然」とは	NHK の証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第 12 回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80 年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第 13 回	農山村の存続可能性と地域自治	マクロの状況をおさえつつ、地方の地域づくりについて考える。
第 14 回	振り返りと総括	秋学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書、2009 年)

【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)

・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)

・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapps.gsi.go.jp/>)

・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019 年)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容(85%)、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献(15%)、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録(授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため)。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気付き、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンライン型の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付 + ZOOM での講義 + オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる	その 2 社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 2	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 9 回	メディアの歴史 3	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 4	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 11 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます。

- 第 12 回 現代の社会について考える 2 旅を題材として、現代の社会について考えてみます。
- 第 13 回 現代の社会について考える 3 住宅を題材として、現代の社会について考えてみます。
- 第 14 回 現代の社会について考える 4 今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-10 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
11. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
12. 学生は自分にとって、旅はどういうものなのかを考えます
13. 学生は自分にとって、家族はどういうものなのかを考えます
14. 学生はここまで自分が考えたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年

https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society. Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria / Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports) : 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 5/Thu.5

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、オンライン型の授業形態で実施の予定です。オンラインで資料の配付 + ZOOM での講義 + オンラインで課題の提出という形になるだろうと思います。授業の初めに、前回の授業で提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム (1)	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム (2)	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム (3)	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム (4)	現在の社会における限界問題について考えます。
5	現代社会とメディアの働き (1)	現代社会におけるメディアの役割について考えます。
6	現代社会とメディアの働き (2)	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
7	現代社会とメディアの働き (3)	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
8	現代社会とメディアの働き (4)	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
9	現代社会の課題 (1)	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
10	現代社会の課題 (2)	ファシズムとメディアの関係について考えます。
11	現代社会の課題 (3)	身体の問題とメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題 (4)	地域の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題 (5)	現在の社会における、情報と消費という問題について考えます。
14	まとめ	今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は 4 時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-4 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 5 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 6-8 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 9 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 10 自分が題材としたものと、ファシズムとの関係を考えます
- 11 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 12 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、情報と消費がどういうものになっているのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト (教科書)】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書 (1996 年)

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容 (30 %)、および中間レポート (30 %)、期末レポート (40 %) を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOM とマイクソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30 %).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロードして受講する。対面授業の回は応用編とし、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。各テーマにおいてコメントまたは課題提出を課し、その場でまたは翌週授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、社会と社会学	授業の進め方、テキスト第1章概説
2	社会学は社会のどこで生まれるか	第1章発展編
3	相互作用と自己	テキスト第2章概説
4	〈自分らしく生きる〉とはどういうことか	第2章発展編
5	家族と親密な関係	テキスト第3章概説
6	「フツワの家族」は普通なのか	第3章発展編
7	ジェンダーとセクシュアリティ	テキスト第4章概説
8	男社会の構造は変わるのか	第4章発展編
9	労働と企業組織	テキスト第5章概説
10	働くことは喜びか、苦しみか	第5章発展編
11	環境と科学技術	テキスト第6章概説
12	環境は成長と開発の呪縛を解くことができるか	第6章発展編
13	医療・保健・福祉	テキスト第7章概説
14	病いや障害は「不幸」なことなのか	第7章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018 年刊、3200 円＋税。

またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021 年刊、2800 円＋税。

他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生はそれぞれ関心ある題材に出会えるだろう。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination. After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業 (オンデマンド型) と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロードして受講する。対面授業の回は応用編とし、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。各テーマにおいてコメントまたは課題提出を課し、その場でまたは翌週授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方
	逸脱と社会病理	テキスト第8章概説
2	私たちはなぜ「よくないこと」をしないのか	第8章発展編
3	階層・階級・不平等	テキスト第9章概説
4	親から子どもへ格差が受け継がれやすいのはなぜか	第9章発展編
5	都市とコミュニティ	テキスト第10章概説
6	都市研究には社会学のどんな姿が映しだされているか	第10章発展編
7	グローバリゼーションとエスニシティ	テキスト第11章概説
8	グローバリゼーションは社会や社会学理論にどのような変化をもたらしたか	第11章発展編
9	メディアとコミュニケーション	テキスト第13章概説
10	「民意を問う」とはどのようなことか	第13章発展編
11	社会運動とNPO/NGO	テキスト第14章概説
12	市民は社会を変革できるか	第14章発展編

13 国家・権力・公共性 テキスト第15章概説

14 パラリンピックはなにを夢見るのか 第15章発展編

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト (教科書)】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。

またテーマごとに資料を用意する。

【参考書】

『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021年刊、2800円＋税。

他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生は関心ある題材に出会えるかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもおもしろいだろう。

【その他の重要事項】

授業内容は春学期の続き (テキスト第8章以降) であるが、扱うテーマは独立したものであるため、秋学期のみの受講でも差し支えない。ただし開講前に、社会学の基本的視座を示したテキスト第1章を読んでおくこと。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination. After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型] を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960 年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980 年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ナショナリズム（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
・事前学修 2 時間：概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。
・事後学修 2 時間：ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

参考書は以下を参照すること。
大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 成績評価方法
・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。
・予習・復習課題を課す。
・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。
・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。
- (2) 成績評価基準・評価の配分
・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。
・期末テスト（30 %）、中間テスト（30 %）、予習・復習課題（20 %）、グループディスカッション参加（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

The goals of this course are to understand the basic issues, principles and approaches of sociology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 集中・その他/intensive・other courses

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業 (資料型等)」を基本とするが、数回オンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型] を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題 (リアクションペーパー課題) 課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回 (ガイダンス) で発表する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・パウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・パウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外 (化)	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	・パウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
・事前学修 2 時間: 概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。
・事後学修 2 時間: ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、配布資料 (レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式) に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸 (2019)『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史 (2010)『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムント・パウマン (2001) 森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法・基準

(1) 成績評価方法

- ・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。
- ・予習・復習課題を課す。
- ・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。
- ・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。

(2) 成績評価基準・評価の配分

- ・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。
- ・期末テスト (30%)、中間テスト (30%)、予習・復習課題 (20%)、グループディスカッション参加 (20%)

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

The goals of this course are to understand the basic issues, principles and approaches of sociology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「オンデマンド授業（資料型等）」を基本とするが、数回オンライン授業 [Zoom 等のリアルタイム型] を取り入れる予定である。数回、予習・復習の課題（リアクションペーパー課題）課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回（ガイダンス）で発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960 年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980 年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ナショナリズム（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部購読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
・事前学修 2 時間：概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。
・事後学修 2 時間：ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

参考書は以下を参照すること。
大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 成績評価方法
・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。
・予習・復習課題を課す。
・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。
・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。
- (2) 成績評価基準・評価の配分
・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。
・期末テスト（30 %）、中間テスト（30 %）、予習・復習課題（20 %）、グループディスカッション参加（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society. The goals of this course are to understand the basic issues, principles and approaches of sociology. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

「対面授業」を基本とする、数回、予習・復習の課題(リアクションペーパー課題) 課す予定であり、課題等の提出・フィードバックは「Hoppii 学習支援システム」を通じて行う予定である。具体的な進め方は初回(ガイダンス)で発表する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外(化)	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。

・事前学修 2 時間: 概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。

・事後学修 2 時間: ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用せず、配布資料(レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式)に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸(2019)『社会学史』講談社現代新書。

三上剛史(2010)『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン(2001) 森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法・基準

(1) 成績評価方法

・平常点と中間テスト、期末テストの合計点で評価する。

・予習・復習課題を課す。

・グループディスカッションの積極的な参加者をより高く評価する。

・課題の評価は、概念や理論の正しい理解と論理的な叙述を重視する。

(2) 成績評価基準・評価の配分

・各課題に対して「自主的な学習の成果が認められている」/「明確な論点の提示、論理的な論述がなされている」/「最低限の論点が提示されている」の三つの段階で評価する。

・期末テスト(30%)、中間テスト(30%)、予習・復習課題(20%)、グループディスカッション参加(20%)

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

The goals of this course are to understand the basic issues, principles and approaches of sociology.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), Short reports(20%), in class contribution(20%).

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、780 円+税

『戦後政治史 第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、1040 円+税

『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題が 25% とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline (in English)】

You will study basic concept of politics and political system in nation by lecture.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、定価 780 円+税
 『戦後政治史 第 4 版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、定価 1040 円+税
 『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、定価 2200 円（税込）
 『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年 836 円（税込）
 『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年 1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題が 25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline (in English)】

You will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年

佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（＝手書きのレポートなどの提出物、40%）＋試験（60%）
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（＝手書きのレポートなどの提出物、40%）＋試験（60%）
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年

佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（＝手書きのレポートなどの提出物、40%）＋試験（60%）
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート・教科書

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（＝手書きのレポートなどの提出物、40%）＋試験（60%）
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づく講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習：講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会

②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確かなものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、780 円+税

『戦後政治史 第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、1040 円+税

『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題が 25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline (in English)】

You will study basic concept of politics and political system in nation by lecture.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業が実施できる場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、定価 780 円+税
 『戦後政治史 第 4 版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、定価 1040 円+税
 『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、定価 2200 円（税込）
 『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年 836 円（税込）
 『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年 1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題が 25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続できるパソコンなどの情報機器。

【Outline (in English)】

You will analyze Japanese politics by political concept while comparing other developed countries.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しない。必要に応じて、参考書に関連する配布資料を適宜用いる。

【参考書】

荻部直、宇野重規、中本義彦編著『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年）。川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）。砂原庸介、稗田健志、多湖淳編著『政治学の第一歩』（有斐閣、2015 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80%）、
リアクションペーパー（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出を課す予定（2～3回）。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性の政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用しない。必要に応じて、参考書に関連する配布資料を適宜用いる。

【参考書】

荻部直、宇野重規、中本義彦編著『政治学をつかむ』（有斐閣、2011 年）。川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）。

砂原庸介、稗田健志、多湖淳編著『政治学の第一歩』（有斐閣、2015 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（80%）、リアクションペーパー（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。現代において政治を構成するさまざまな要素について、時事的な現象と関連付けて学んでいく。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれにたいする回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での複数回のレポート課題および小テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点にもとづき総合的に評価する。平常点は、毎回の授業への取り組み、小テストやレポートなどの課題の提出とその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会における課題と政治学を関連づけ、考察する機会を意識的に授業の中で設けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire of the fundamental principles of political science. This course deals with the basic concepts of the political science.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。現代において政治を構成するさまざまな要素について、時事的な現象と関連付けて学んでいく。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれに対する回答や解説をおこない全体で共有する。また授業内での複数回のレポート課題および小テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第 3 回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第 4 回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第 5 回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第 6 回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第 7 回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第 8 回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第 9 回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第 10 回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第 11 回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第 12 回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第 13 回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学』（東京大学出版会、2012 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点にもとづき総合的に評価する。平常点は、毎回の授業への取り組み、小テストやレポートなどの課題の提出とその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

社会における課題と政治学を関連づけ、考察する機会を意識的に授業の中で設けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire of fundamental principles of political science. This course deals with the modern politics in Japan.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。

復習：講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会

②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

Understand the fundamental concepts and institutes of politics

POL100LA

政治学Ⅱ

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
準備学習・講義で使用する資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確かなものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト (教科書)】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験 (100 %)

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する (政治学Ⅰを履修していなくとも理解できるよう、独立した内容ではある)。

【Outline (in English)】

Analyse Japanese politics with comparing another developed country

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。また週によっては、比較的文章を読んでくるなどの予習課題を課し、受講者に発言してもらうこともある。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。

第九回 政治人類学

政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第十回 人種と民族

人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。

第十一回 国民国家とナショナリズム

A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。

第十二回 ジェンダー論

ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。

第十三回 ポストコロニアル人類学

80年代以降、人類学は、コロニアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。

第十四回 「異文化」「他者」の理解

人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 45 %、授業への参加度 5 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss events at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

谷 憲一

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

文化人類学は、フィールドワークという方法を中心に据えながら、「他者」を理解するための理論を築き上げてきました。この授業では一九世紀後半から現代までの人類学の展開を概観すると同時に、そこで中心となっている人類学のエッセンスとも言える考え方＝理論を繰り返し提示していきます。その上で、それぞれの授業で取り上げた理論を自分の関心に結びつけて思考できるようになることを目指します。

【到達目標】

文化人類学の基本的な理論について理解し、理論を自分自身にとって身近で具体的な事例と結びつけて説明することができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこない、適宜関連する映像資料を用いる。受講生の理解度や関心を把握するためにリアクションペーパーを提出してもらい、その内容や寄せられた質問について、授業内で全体に対しフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
一	文化人類学とは何か	隣接領域と比較からみる文化人類学の特徴
二	文化人類学とフィールドワーク	フィールドワークという方法の特徴
三	進化主義と伝搬主義	19 世紀後半から 20 世紀前半における人類学理論とその問題
四	機能主義	デュルケム社会学と人類学の機能主義
五	文化相対主義の意義とその批判	自文化を相対的に眺める考え方について
六	構造主義 (1)	構造主義の理解に必要な言語学の前提知識について
七	構造主義 (2)	レヴィ＝ストロースの構造主義とその問題
八	文化の翻訳 (1)	意味論の基礎について
九	文化の翻訳 (2)	「文化の翻訳」論と民族誌における展開
一〇	ポストコロニアル状況と文化人類学	植民地主義批判がもたらした人類学的営みに対する批判
一一	モダニティ論	グローバル化や「伝統の創造」論、再帰的近代などモダニティに関する議論
一二	現代社会と人類学	人類学が伝統的に扱ってきた対象とは異なる対象についての近年の人類学の展開
一三	公共人類学	人類学と人類学外との相互交流のあり方

一四 総括

これまでの授業の総括・最終レポートの作成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと授業への取り組み姿勢による平常点 (30 %) および最終レポート (70 %) により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方について、随時受講生の意見を聞き、授業に反映させます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを用いて資料を配布することがあります。

【その他の重要事項】

授業の展開によって、各回の内容や順番に若干の変更がありえます。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology has developed theories for understanding the "other" while focusing on the method of fieldwork. In this class, we will gain an overview of the development of anthropology from the latter half of the 19th century to the present, and at the same time, we will continually consider the ideas that can be said to be the essence of anthropology. The goal is for students to be able to think about the theories discussed in each class in relation to their own research interests.

The class will be conducted in a lecture format, and related video materials will be used as appropriate. Students will be asked to submit reaction papers in order to grasp their level of understanding and interest, and feedback will be given to the entire class on the contents of the papers and questions raised. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Students will be evaluated comprehensively based on their reaction papers and attitude toward the class (30%) and final report (70%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

北原 卓也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の基本概念、研究方法を学び、身の回りの「あたりまえ」や「異文化」に注目し考察するための多角的な視点を身につける。授業では、まず「文化」とは何かについて確認し、続いて文化人類学の基本的な考え方や研究方法について学ぶ。

それを踏まえて、文化人類学がこれまで扱ってきたトピックについてみていく。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1) 文化人類学の基本概念や研究方法を理解する。
- (2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3) 自身の「あたりまえ」にとらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面とオンライン組み合わせで行います。

配布するレジュメに沿って講義を行い、扱うトピックによってディスカッションを行うことがあります。

また、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。毎回授業後にはコメントシートの提出していただきます。提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：講義の目的と概要	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	文化の定義	漠然とした概念である「文化」とは何かについて理解する
3	フィールドワークと民族誌	文化人類学の研究手法について理解する
4	文化相対主義	文化人類学の基本的な考え方である文化相対主義を通じて、文化を学ぶ姿勢について理解する
5	民族とエスニシティ	国民、民族といった人々の集団について理解する
6	コミュニケーションと言語	文化と言語の関係性について理解する
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	中間のまとめのフィードバック	中間のまとめについてフィードバックを行う
9	家族・親族	文化人類学の古典的なテーマである家族・親族の研究について理解する
10	結婚	様々な文化における結婚の形態や規則を理解する

11	ジェンダーとセクシュアリティ	男性と女性という分け方だけでは捉えられない多様な性差について考える
12	生業	人間が生きていくために必要な食料採取や生産活動について理解する
13	宗教	世界の宗教の事例を概観し、人類との関わりについて理解する
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1 回の授業につき、準備・復習は各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己（編）、ミネルヴァ書房、2010 年。

『詳論 文化人類学』、桑山敬己・綾部真雄（編）、ミネルヴァ書房、2018 年。

『文化人類学キーワード [改訂版]』、山下晋司・船曳建夫（編）、有斐閣、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30 %、期末試験（またはレポート）：40 %、平常点（コメントシート）：30 %
2/3 以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduce the concept of Cultural Anthropology and its research method as tools to understand different cultures.

The goal of this course are:

- (1) to understand the concept of Cultural Anthropology and research method
- (2) to compare cultures and explain differences between your culture and other culture.
- (3) to gain the new point of view

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets you should submit after each class(30%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、言語や文化、社会構造、環境問題といったさまざまなトピックを通して学ぶ。

【到達目標】

文化の多様性と普遍性について知る。異文化と自文化を理解する力を身に付ける。全体を通して、文化人類学的な物の見方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回異なった話題とテーマを取り上げ、文化人類学の方法論や概念を解説する。文化の概念、言語の多様性と構造的な特色、社会構造、日本の民俗、通過儀礼、宗教問題などを取り上げ、文化人類学の学問的意義、基本的発想、概念等について体系的かつ平易に解説する。なお、毎回の授業ではプリントを配り、それに沿って講義を行う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	文化人類学とはなにか	文化人類学の概要を解説し、それを学ぶことの意義を説明する。
2	人間と文化	文化人類学の基本となる人間と文化について解説する。
3	言語と方言	言語人類学の基礎理論および日本の方言について解説する。
4	民族植物学	言語人類学の応用分野として、民族植物学について解説する。
5	世界の言語	世界の言語と文化との関係について解説する。
6	日本の民俗社会	日本の民俗社会の特色について解説する。
7	社会と親族	社会構造についての基礎理論を解説し、世界の親族システムについて概観する。
8	世界の通過儀礼	世界の伝統社会における通過儀の実態について解説する。
9	日本の通過儀礼	日本の通過儀礼の特色について解説する。
10	農耕と文化	農耕と生産経済、文化との関係について解説する。
11	環境と文化	自然環境と人類の文化との関係、環境人類学の基礎について解説する。
12	環境問題の将来	これからの環境問題について、文化人類学的な観点からの開設をおこなう。

13	調査とレポート	文化人類学の調査方法と論文のまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめをおこない、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネット等を通して、授業テーマに関する情報に接するよう心がけること。また、授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、復習をして授業内容に対する理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内に実施する試験の結果（100 %）によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて適宜、授業の進度を変える。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic theories of cultural anthropology.

Learning objectives: The goal of this course are to understand of basic theories on cultural anthropology.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policies: You overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 100%.

CUA100LA	
文化人類学	2017 年度以降入学者
ベル 裕紀	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：水 4/Wed.4	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。また週によっては、比較的文章を読んでくるなどの予習課題を課し、受講者に発言してもらうこともある。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。

第九回 政治人類学

政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第十回 人種と民族

人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。

第十一回 国民国家とナショナリズム

A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。

第十二回 ジェンダー論

ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。

第十三回 ポストコロニアル人類学

80年代以降、人類学は、コロニアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。

第十四回 「異文化」「他者」の理解

人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 45 %、授業への参加度 5 %で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss events at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他
/intensive・other courses
単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らしぶりや「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う (これを「相対化」といいます) ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「古い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会現象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」(hoppii) の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。質問等は、学習支援システム「授業内掲示板」にお願いします。寄せられる質問・コメントには、できる限り迅速に回答をしていきます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌: 人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	スリランカ伝承医療との出会い (フィールドワーク紹介)	私 (担当教員) がスリランカ伝承医療の治療家のもとで行なったフィールドワークについて紹介します。
3	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず受講してください。
4	文化相対主義という視点: 他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。

- | | | |
|----|---|---|
| 5 | 言葉と認識: 言葉が違いうと世界も違って見える? | 文化相対主義に影響を受け培われた言語相対論について学びます。 |
| 6 | ケガレとタブー: 「きたなさ」の正体をさぐる | 日常生活で私たちの行動を方向づける衛生観念について、その根拠を探りながら検討します。 |
| 7 | ケガレと吉祥: スリランカ女性のライフサイクルと身体 | スリランカ女性のライフサイクルに生じる身体上の変化を題材に、ケガレがもつダイナミズム、多義性について考えます。 |
| 8 | 贈与と交換と絆: 社会をつくる経済活動 | 人間の経済活動の最も基本的なものの一つである贈与と交換を題材に、社会の作られ方と人びとの繋がりに関して考えます。 |
| 9 | 布施が支える社会福祉: スリランカ仏教寺院に集まる金とソーシャルサービス | スリランカの仏教寺院に集まる布施が地域の社会福祉に還元されている事例から、宗教と経済の関係について考えます。 |
| 10 | 不幸の説明と呪術: 医学や科学が発達しても、占いやお守りがなくならないのはなぜだろう? | 突然に起こる不幸な出来事に対して生じる「なぜ?」という問いに、対し寄せられる様々な説明のスタイルについて考えます。 |
| 11 | 癒しと呪術: スリランカの悪魔祓い | スリランカの悪魔払いの映像を鑑賞しながら、病いとは何か、癒しとは何か、笑いと共同性は人びとの生に何をもたらすのか考えます。 |
| 12 | ジェンダー | 文化的に構築された性差としてのジェンダーについて、「男」「女」という二元的な性差に当てはまらない人たちの振る舞いに注目しながら検討します。 |
| 13 | 自己に住まう他者: 「私」と「あなた」の境界はどこにある? | 様々な社会の人格観について学びながら、社会関係の中で培われる自己のありようについて考えます。 |
| 14 | ケアが支える社会 | 人生のある期間、人は誰もが誰かに依存することによってしか生きることができないという事実立ち戻り、労働や社会のあり方について考えます。 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対し対面あるいはオンラインによるインタビューを実施し、それに基づきその人のライフヒストリーを作成してもらいます。

【テキスト (教科書)】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (60%) および小レポートの内容 (40%) にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに寄せられるコメントには、できる限り迅速に対応をしていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires students to collect life history of your family, friends or other relationships based on interview research.

【Grading Criteria /Policy】

Term end Report of life history(60%) and reaction paper submitted every class(40%)

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

梅村 絢美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、世界中の国や地域で暮らす人々の暮らし方や「ものの見方」について学びます。これを通じて、異文化を理解するだけでなく、あなた自身の「当たり前」が、実は別の人の「当たり前」とかけ離れているという現実と向き合う（これを「相対化」といいます）ことを目的とします。授業の各回では、「言葉」や「結婚」、「贈り物」「占い」「ジェンダー」など、身近なテーマを設定して世界中の事例を紹介していきます。なかには、「ちょっと受け入れ難いなあ」と感じるものもあるでしょう。でもその瞬間がチャンスです。ちょっと立ち止まって、自分の中に生じた違和感が一体どこからきているのか、じっくりと考えてみてください。そうすることで、異文化や自分自身が、びっくりするような面白い姿をもって見えてくるかもしれません。

【到達目標】

本講義は、以下の到達目標のもと進めます。

- (1) 人類学の思考の枠組み、対象への接近方法を理解し実践できる。
- (2) 自身の前提や思考の枠組みを相対化し、グローバルに展開する様々な社会事象を広い視野・関係論的視点でとらえられる。
- (3) 人類学の思考の枠組みをもちいて、自身の経験や身の回りの出来事を理解し、それを他者に向けて発信することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づきオンデマンド動画配信型で行ないます。

各回の授業開始時刻までに「学習支援システム」(hoppii)の「授業内掲示板」から授業動画の URL をお知らせしますので、授業日から一週間以内を目安に受講し、適宜小レポートを「学習支援システム」の「課題」から提出してください。授業実施に関する詳細は、初回授業開始日の一週間前までに「学習支援システム」よりお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	フィールドワークと民族誌:人類学者の仕事	文化人類学の導入として、人類学者が行うフィールドワークと民族誌の記述について解説します。
2	スリランカ伝承医療との出会い（フィールドワーク紹介）	私（担当教員）がスリランカ伝承医療の治療家のもとで行なったフィールドワークについて紹介します。
3	ライフヒストリーと出会う	※学期末レポートの作成方法について説明します。単位が必要な人は必ず受講してください。
4	文化相対主義という視点:他者とともに生きるための手がかり	人類学を学ぶ上で求められる異文化との関わり方について学びます。

- | | | |
|----|--|---|
| 5 | 言葉と認識:言葉が違
うと世界も違って見え
る? | 文化相対主義に影響を受け培われ
た言語相対論について学びます。 |
| 6 | ケガレとタブー:「きた
なさ」の正体をさぐる | 日常生活で私たちの行動を方向づ
ける衛生観念について、その根拠
を探りながら検討します。 |
| 7 | ケガレと吉祥:スリラ
ンカ女性のライフサイ
クルと身体 | スリランカ女性のライフサイクル
に生じる身体上の変化を題材に、
ケガレがもつダイナミズム、多義
性について考えます。 |
| 8 | 贈与交換と絆:社会を
つくる経済活動 | 人間の経済活動の最も基本的なも
のの一つである贈与交換を題材
に、社会の作られ方人びとの繋が
り方について考えます。 |
| 9 | 布施が支える社会福
祉:スリランカ仏教寺
院に集まる金とソー
シャルサービス | スリランカの仏教寺院に集まる布
施が地域の社会福祉に還元されて
いる事例から、宗教と経済の関係
について考えます。 |
| 10 | 不幸の説明と呪術:医
学や科学が発達して
も、占いやお守りがな
くならないのはなぜだ
ろう? | 突然に起こる不幸な出来事に対し
て生じる「なぜ?」という問いに
対し寄せられる様々な説明のスタ
イルについて考えます。 |
| 11 | 癒しと呪術:スリラン
カの悪魔祓い | スリランカの悪魔払いの映像を鑑
賞しながら、病いとは何か、癒し
とは何か、笑いと共同性は人びと
の生に何をもたらすのか考えま
す。 |
| 12 | ジェンダー | 文化的に構築された性差としての
ジェンダーについて、「男」「女」
という二元的な性差に当てはまら
ない人たちの振る舞いに注目しな
がら検討します。 |
| 13 | 自己に住まう他者:
「私」と「あなた」の
境界はどこにある? | 様々な社会の人格観について学び
ながら、社会関係の中で培われる
自己のありようについて考えま
す。 |
| 14 | ケアが支える社会 | 人生のある期間、人は誰もが誰か
に依存することによってしか生き
ることができないという事実に関
ち戻り、労働や社会のあり方につ
いて考えます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。なお、学期末レポートでは、授業時間外に身近な人に対し対面あるいはオンラインによるインタビューを実施し、それに基づきその人のライフヒストリーを作成してもらいます。

【テキスト（教科書）】

購入が必要なテキストの指定はありません。

【参考書】

松村圭一郎ほか編著『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (60%) および小レポートの内容 (40%) にもとづき総合的に評価します。いずれも、「到達目標」の達成具合を基準に評価します。

出席は授業参加の前提条件であって成績評価の基準とはなりません。また、小レポートの提出は、そこに記述された内容から授業の理解度を確認するためのものであり、出席確認を目的としたものではありません。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに寄せられるコメントには、できる限り迅速に対応をしていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

This lecture aims to relativize your own premise through understanding the cultural and ontological diversities of various societies. The students are expected to recognize the human universality including yourselves from the cultural and social diversities.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires students to collect life history of your family, friends or other relationships based on interview research.

【Grading Criteria /Policy】

Term end Report of life history(60%) and reaction paper submitted every class(40%)

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

廣田 龍平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、世界中のさまざまな環境に生きる人々が、どのように社会生活をいとなみ、自分たちや自分たち以外の人々やもの（生き物や死者、神霊など）と交流しているのかを、多様な側面から明らかにすることを目的とする学問です。私たちは世界のどこでも同じように生きているわけではありません。グローバル化が進む現在、自分たちと「他人」とのあいだにある「差異」や「違和感」とどう向き合いながら共生していくのかが急速に模索されています。そのひとつの糸口となりうるのが、他者・他文化について学ぶことを通じて自己・自文化さえをも問い直そうとする文化人類学的な思考です。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の出来事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントおよびレジュメ資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。毎回、授業終了前に短いコメントを提出してもらい、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文化人類学の基本的な考え方である「文化相対主義」と、文化人類学の基本的な方法であるフィールドワークについて概要を説明する。
2	言語と民俗分類	言葉によって世界を認識する方法が大きく異なってくることを、主に民俗分類の観点から理解する。
3	親族と社会集団	文化人類学の基本である、集団の作り方についての理論や概念を、親族関係を中心に学ぶ。
4	狩猟採集と食べ物	生業や環境との関係の複雑さを、狩猟採集民の事例を通して学ぶ。
5	経済と贈与交換	金銭による取引以外にもさまざまな経済的行為があることを、贈与交換を中心として理解する。
6	宗教と儀礼	宗教が、単に何かを信じることでなく、世界観を形づくり、日常に区切りを入れるものでもあることを、儀礼的行為を通して理解する。

7	呪術と占い	人間が世界を操作したり予測したりするために作りだしてきた方法としての呪術や占いの多様性を説明する。
8	構造主義の基礎	文化人類学の理論としてももっとも影響があったレヴィ＝ストロースの構造主義について基礎を説明する。
9	神話と民間説話	人間は物語を語る動物であると言われる。世界の成り立ちや現状を説明する神話が存在することの意義を探る。
10	政治と戦争	どのような社会にも政治は存在し、争いごともある。国家の成立も視野に入れ、社会がどのように維持され破壊されるのかを理解する。
11	芸術とテクノロジー	いわゆる「未開芸術」に対する見方の変遷を、問題は「美しさ」ではないとするアルフレッド・ジェルの議論を中心にしていって行く。
12	医療と身体とジェンダー	動物としての人間と、文化をもつ人間という 2 つの側面をまたがる領域を学ぶ。
13	LGBTQ とマイノリティ	セクシュアリティやジェンダーの多様性や社会的な位置づけの問題について学ぶ。
14	科学技術と物質性	現代の文化人類学がどのように科学技術を理解するのかを、アクターネットワーク理論を中心に説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業では見られない考え方が多く登場するので、授業外でも、まずは自分がどのように世界を認識していたのかを考え、授業中に紹介した事例に加えて、ニュース報道や SNS で流れてくる海外の映像などと比べることをとおして、これまで知らなかった世界の認識方法や生き方を理解すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業で関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてください。

【参考書】

以下の 2 冊が参考になります。
桑山敬己、綾部真雄（編）2018 年『詳論 文化人類学』ミネルヴァ書房
波平恵美子（編）2021 年『文化人類学 カレッジ版 第 4 版』医学書院

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するレポート（60%）

期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic themes of cultural anthropology to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand and explain other cultures and your own culture through the viewpoints of cultural anthropology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end paper: 40%, Short reports : 60%

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

渡辺 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】

文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第 2 回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第 3 回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第 4 回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第 5 回	身体と文化	身体的実践の文化的多様性
第 6 回	環境と生業	人と自然の関係について
第 7 回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第 8 回	セクシュアリティとジェンダー	多様な性について
第 9 回	経済と政治	贈与、権力、コミュニケーション
第 10 回	国家とエスニシティ	集団意識について
第 11 回	医療	病いと癒やし
第 12 回	芸術	歌う、描く、作る
第 13 回	境界論	冗談、ユーモア、笑い
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。

人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし（本年度授業担当者変更のため）

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化や国際化の加速度的な進展とともに、地球上のすべての社会を取り巻く文化的環境は大きく変化している。それに伴い、文化人類学では、新しい知の体系を再構築するべく現代的課題を積極的に扱うようになった。本授業では、異文化理解のための基本的な視座を養うとともに、国際協力、科学技術、芸術と物質文化、観光と文化創造などの現代的諸テーマを把握し、また自らもかかわるグローバルな問題として理解することを目指す。

【到達目標】

- ・異文化の比較考察を行うためのものの見方や基本概念を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・文化的多様性を理解するとともに、グローバル化の渦中の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は「オンデマンド型／資料・教材コンテンツ配布型授業（全 14 回）」です。履修生のみなさんには学習支援システムを通して配信される授業レジュメや動画等の資料を用いた学習を行っています。
- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、基本的に毎回、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第 2 回	フィールドワークの論理	質的調査の方法論とその考え方
第 3 回	親族の組織化	キンドレッド・出自・母系社会
第 4 回	宗教と精神世界	日本人は「無宗教」なのか
第 5 回	境界性とタブー	「汚さ」の正体
第 6 回	人生と儀礼	儀礼の構造と論理
第 7 回	贈物と交換	贈物を社会関係から考える
第 8 回	芸術とモノ	「美しさ」の正体
第 9 回	科学技術と人類学	ネットワークとしての科学
第 10 回	開発現象と人類学	社会開発への転換
第 11 回	地球温暖化と海面上昇	ツバルの事例から
第 12 回	観光と文化創造	「楽園」ハワイの事例から
第 13 回	オリエンタリズム批判	他者表象の政治性と人類学批判
第 14 回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019 年。
岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房、2018 年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017 年。
波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第 3 版）』医学書院、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E 評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・学期末のレポートを提出しなかった場合、E 評価になります。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of cultural anthropology, which seeks to understand cultural and social diversity in the world. At the end of the course, students are expected to understand global issues, such as international development, tourism and conflicts, from anthropological perspective. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的效果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようにすることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) 功利主義、リバタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。(2) それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようにすること。(3) 社会の望ましいあり方に関して自らの意見を提示できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業後に、学習支援システムを通じて、授業で扱った議論に対する意見を書いていただきます。(2) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、30～40分をかけて応答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第2回	功利主義 (1)	人々の幸福を最大化する社会の構想
第3回	功利主義 (2)	功利主義への批判
第4回	リバタリアニズム (1)	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第5回	リバタリアニズム (2)	リバタリアニズムへの批判
第6回	リベラルな平等主義 (1)	自由を平等に行使できる社会の構想
第7回	リベラルな平等主義 (2)	人々が公正に協働する社会の構想
第8回	平等主義の展開 (1)	「何の平等か?」をめぐる論争
第9回	平等主義の展開 (2)	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第10回	運の平等主義 (1)	選択責任と平等を両立する社会の構想
第11回	運の平等主義 (2)	運の平等主義への批判
第12回	関係論的平等主義 (1)	人々が平等に関わり合う社会の構想
第13回	関係論的平等主義 (2)	関係論的平等主義への批判
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業後に、先述の課題 (コメントペーパー) を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を4冊挙げておきます。どれか1冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。
 ※授業内容との関連という点では、(1)→(4)の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、(4)→(1)という順番で読みやすいと思います。
 (1) W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝 (訳)『現代政治理論』日本経済評論社、2005年
 (2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論: パーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年
 (3) 川崎修・杉田敦 (編)『現代政治理論』有斐閣、2012年

(4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年

※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) コメントペーパーへの応答が好評であったため、応答の時間を長く取ります。(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ (本授業) の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。

※本曜日3時限目の社会思想Ⅰ (授業コード: Q2215) と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の30～40分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

【Outline (in English)】

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題に対して、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題における規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。（1）様々な社会的課題に関して、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。（2）それらの論争点に関してどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。（3）現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に進めつつ、グループディスカッションを3回行います。講義形式の授業の際も、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（1）毎回の授業後に、学習支援システムを通じて、授業で扱った議論に対する意見を書いていただきます。（2）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、30～40分をかけて応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要
第2回	貧困・格差・社会保障 (1)	2種類の貧困と貧困の自己責任論
第3回	貧困・格差・社会保障 (2)	経済的格差が許容されるための条件
第4回	貧困・格差・社会保障 (3)	課税と社会保障の正当性
第5回	貧困・格差・社会保障 (4)	グループディスカッション
第6回	健康と医療 (1)	健康の価値と健康の社会的決定要因
第7回	健康と医療 (2)	医療資源の公正な分配
第8回	健康と医療 (3)	グループディスカッション
第9回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第10回	差別 (1)	差別の定義と様々な形態
第11回	差別 (2)	差別を不正にする要因
第12回	教育と差別	グループディスカッション
第13回	障害	障害と社会的包摂
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※（1）の本と（2）の第2部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。（3）は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。（1）J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、2016年（2）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ペーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年

（3）広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年

※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

（1）コメントペーパーへの応答が好評であったため、応答の時間を長く取ります。（2）内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。（3）グループディスカッションのやり方についても、前年度にいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行います。合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

※木曜日3時限目の社会思想Ⅱ（授業コード：Q2216）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の30～40分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

【Outline (in English)】

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social problems.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について

6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと 16 世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずから偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

宇野重規『西洋政治思想史』(有斐閣、2013 年) 本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』(岩波書店、2012 年) 本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加: 20 %

複数回の小レポート: 30 %

定期試験: 50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について

6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずから偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20 %
複数回の小レポート：30 %
定期試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的效果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようにすることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) 功利主義、リバタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。(2) それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようにすること。(3) 社会の望ましいあり方に関して自らの意見を提示できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業後に、学習支援システムを通じて、授業で扱った議論に対する意見を書いていただきます。(2) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、30～40分をかけて応答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第2回	功利主義 (1)	人々の幸福を最大化する社会の構想
第3回	功利主義 (2)	功利主義への批判
第4回	リバタリアニズム (1)	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第5回	リバタリアニズム (2)	リバタリアニズムへの批判
第6回	リベラルな平等主義 (1)	自由を平等に行使できる社会の構想
第7回	リベラルな平等主義 (2)	人々が公正に協働する社会の構想
第8回	平等主義の展開 (1)	「何の平等か?」をめぐる論争
第9回	平等主義の展開 (2)	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第10回	運の平等主義 (1)	選択責任と平等を両立する社会の構想
第11回	運の平等主義 (2)	運の平等主義への批判
第12回	関係論的平等主義 (1)	人々が平等に関わり合う社会の構想
第13回	関係論的平等主義 (2)	関係論的平等主義への批判
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業後に、先述の課題 (コメントペーパー) を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を4冊挙げておきます。どれか1冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。
 ※授業内容との関連という点では、(1)→(4)の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、(4)→(1)という順番で読みやすいと思います。
 (1) W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝 (訳)『現代政治理論』日本経済評論社、2005年
 (2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論: パーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年
 (3) 川崎修・杉田敦 (編)『現代政治理論』有斐閣、2012年

(4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年

※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) コメントペーパーへの応答が好評であったため、応答の時間を長く取ります。(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱでは、春学期の社会思想Ⅰ (本授業) の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想Ⅰのみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想Ⅰで学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想Ⅱのシラバスを参照してください。

※金曜日4時限目の社会思想Ⅰ (授業コード: Q2211) と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の30～40分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

【Outline (in English)】

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題に対して、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題における規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。（1）様々な社会的課題に関して、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。（2）それらの論争点に関してどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。（3）現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に進めつつ、グループディスカッションを3回行います。講義形式の授業の際も、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。（1）毎回の授業後に、学習支援システムを通じて、授業で扱った議論に対する意見を書いていただきます。（2）次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、30～40分をかけて応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要
第2回	貧困・格差・社会保障 (1)	2種類の貧困と貧困の自己責任論
第3回	貧困・格差・社会保障 (2)	経済的格差が許容されるための条件
第4回	貧困・格差・社会保障 (3)	課税と社会保障の正当性
第5回	貧困・格差・社会保障 (4)	グループディスカッション
第6回	健康と医療 (1)	健康の価値と健康の社会的決定要因
第7回	健康と医療 (2)	医療資源の公正な分配
第8回	健康と医療 (3)	グループディスカッション
第9回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第10回	差別 (1)	差別の定義と様々な形態
第11回	差別 (2)	差別を不正にする要因
第12回	教育と差別	グループディスカッション
第13回	障害	障害と社会的包摂
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※（1）の本と（2）の第2部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。（3）は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。（1）J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳『正しい政策』がないならどうすべきか：政策のための哲学』勁草書房、2016年（2）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ペーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年

（3）広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年

※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

（1）コメントペーパーへの応答が好評であったため、応答の時間を長く取ります。（2）内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。（3）グループディスカッションのやり方についても、前年度にいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行います。合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

※金曜日4時限目の社会思想Ⅱ（授業コード：Q2212）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の30～40分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

【Outline (in English)】

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social problems.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

洪 貴義

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では 19 世紀から 20 世紀にかけての現代フランス思想の歴史を学びます。

19 世紀後半から世紀転換期、20 世紀をへて現代まで、フランスの思想はドイツ哲学の影響の下、大きな変貌を遂げてきました。この授業ではこの時代の主要な思想家の言説を取り上げながら世紀末から現代にいたるフランス思想の動きを理解することを目的とします。

【到達目標】

19 世紀後半から世紀転換期をへて現代までのヨーロッパの歴史を学ぶことができる。そしてその歴史を背景としたフランス思想の動きを学ぶことができる。

具体的にはヘーゲルから 20 世紀にかけてのドイツ哲学をふまえて、その影響を受けたフランスの思想家たちの考え方を学ぶ。たとえば、サルトル、フーコー、バタイユ、ラカン、アルチュセール、ドゥルーズ＝ガタリ、デリダなどの思想を学ぶことができる。

また、レヴィ＝ストロースの人類学、ロラン・バルトの言語思想にも視野を広げて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方としては主に講義形式を取る。授業を数回進めるごとにリアクション・ペーパーを提出してもらい、それに対してフィードバックしながら授業を進めていく。

(基本的には対面授業の予定ですが、感染症の拡大状況によってはオンライン形式を取ることもあります。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で学ぶ内容についての概説と授業の進め方、成績評価の方法
2	歴史的背景	19 世紀以後のヨーロッパ史
3	前提としてのドイツ哲学	フッサールからハイデガーへ
4	フランスへの導入	サルトルにおける実存と主体
5	人類学	レヴィ＝ストロースと構造
6	精神分析	ラカンとフロイトへの回帰
7	言語思想	バルトとテキスト理論
8	エロスとシュルレアリスム	バタイユとブルトン
9	認識論的切断	アルチュセール
10	権力と主体	フーコー
11	欲望からリゾームへ	ドゥルーズ＝ガタリ
12	グラマトロジー	デリダの思想 (1)
13	正義としての脱構築	デリダの思想 (2)
14	現代思想は可能か	今後のフランス思想

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

第 1 回のガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業の中で適宜、指定し、配布していきます。

【成績評価の方法と基準】

4 回のリアクションペーパー (40 %) と期末レポート (60 %) によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces a history of modern French ideas.

This course aims to grasp the essence of French ideas through some discourses of thinkers.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Grading will be decided based on four short reports (40 %), and one term-end report (60 %).

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では 19 世紀から 20 世紀にかけてのドイツ現代思想の歴史を学びます。19 世紀後半から世紀転換期をへて、20 世紀の 2 度にわたる世界戦争での敗北の経験はドイツ思想に強く刻印されています。この授業ではこの時代の主要な思想家の言説を取り上げながら、19 世紀から現代にいたるドイツ思想の動きを理解することを目的とします。

【到達目標】

19 世紀後半から世紀転換期をへて現代までのヨーロッパの歴史を学ぶことができる。そしてその歴史を背景とした思想の動きを学ぶ。具体的には、19 世紀のヘーゲル思想の解体と、その後のマルクス、ニーチェ、フロイト、ウェーバーの思想を学ぶ。そしてそれを前提としてドイツの戦後思想を学ぶ。例えば、フロム、ホルクハイマー、ベンヤミン、アドルノ、ハバーマスなどの思想家の考え方を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進めます。授業を数回進めるごとにリアクションペーパーを提出してもらい、授業の中でそれに対してフィードバックしていきます。

（基本的には対面授業の予定ですが、感染症の拡大状況によってはオンライン形式を取ることもあります。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業で学ぶ内容の概説、授業の進め方、成績評価の方法
2	導入	19 世紀から 20 世紀のドイツ史
3	ヘーゲルから世紀転換期	ヘーゲルからマルクスへ
4	現代思想の源流（1）	ニーチェとフロイト
5	現代思想の源流（2）	マルクスとウェーバー
6	世界戦争という出来事	世界戦争とナチズム
7	西洋の没落	ルカーチとシュペングラー
8	批判理論の成立	フロムとホルクハイマー
9	危機における批評	ベンヤミンと批評
10	歴史哲学テーゼ	ベンヤミンと歴史の天使
11	啓蒙の弁証法	アドルノとホルクハイマー
12	ナチズムとアウシュヴィッツ	アドルノと戦後ドイツ
13	批判理論の展開	ハバーマス
14	フランクフルト学派	アメリカでの展開

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回のガイダンス時に説明します。

【参考書】

授業中に適宜、指定し、資料を配布していきます。

【成績評価の方法と基準】

4 回提出するリアクションペーパー（40 %）と期末レポート（60 %）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces a history of modern German ideas.

This course aims to grasp the essence of modern German ideas through some discourses of thinkers.

Students will be expected to spend two hours to understand the course content before/after each class meeting.

Grading will be decided based on four short reports (40 %), and one term-end report (60 %).

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レトリックの戦後批評史——レトリックはたんなる文飾ではなかった。人はレトリックによって、思考の枠組みを形づくるのではない。とりわけ言論の自由が奪われていた戦中期、多くの文学者や批評家がレトリックを駆使して作品を書いた。秘匿しながら開陳するその文体は、戦後世界で大きく開花し、すぐれた作品を数多く生み出すことになる。高等学校のテキストから選り抜いた、もう一つの「文章講読」講義。

【到達目標】

いまや古典となりつつある基本的な戦後批評の文献を概観しながら、社会と思想とメディアの機能について「批評的」「根源的」に考える力を培う。また、批評の興亡を通時的に見極めることで、現代の思想状況に対しても主体的に、根拠を示しながら判断・評価することができるようになる。こうした読書と研究の実践によって、批評意識をもった社会人へと成長する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義のレジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に《Hoppii》（学習支援システム）の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いもの、鋭い質問等を次回以降の授業で発表し、フィードバックとする。受講学生数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：授業の概観	授業の進め方を提示しながら、批評的文章を読むことの意義を再確認する。
2	はじめに：レトリックに何ができるのか？	レトリックがたんなる技術ではなく、思想の枠組みの形成にかかわることを確認する。
3	「墮落」のすすめ：坂口安吾（1906-55 年）	戦後世界にとどろいた無頼派の逆説的な宣言は、多くの人々の喝采を受けた（「墮落論」1946 年）。
4	演じられる「弱さ」：太宰治（1909-48 年）	自意識との葛藤を作品化した作家が、パロディに託したものは何だったのか？（「瘡取り」1945 年）。
5	「饒舌」体の反骨：石川淳（1899-1987 年）	膨大な知識と教養に裏打ちされた作家の創作の秘密を、独自の文章で読み解く（「文章の形式と内容」1940 年）。
6	「警句（アフォリズム）」の快楽：小林秀雄（1902-84 年）	短く言い切ることで数々の名言を残した批評家の文章を堪能する（「無常という事」1942 年）。

7	プロレタリア文学の「側面」：中野重治（1902-79 年）	言い切らない表現の奥に見える人間性と、強靱な精神の在り処を探る（「ささやかな記憶」1957 年）。
8	「反語（イロニー）」を生きる思想：林達夫（1896-1984 年）	戦時下に反語的順応主義を貫いた編集者の真の意図とは何だったのか？（「反語的精神」1946 年）。
9	「仮託」という目くらまし：花田清輝（1909-79 年）	目くるめくような知識と暗喩の後ろに隠されていた真理を見極める！（「極大・極小——スウィフト」1942 年）。
10	保守「主義」なんてものはない：福田恆存（1912-94 年）	左翼的な論調が幅を利かすなか、孤高の保守を貫いた思想家の生き方（「一匹と九十九匹と」）。
11	「比喩」の政治学：丸山眞男（1914-96 年）	卓抜な譬えを用いて戦後世界に風雲を巻き起こした政治学のスターの一面（「肉体文学から肉体政治まで」1949 年）。
12	「転向」したのか、しないのか？：清水幾太郎（1907-88 年）	急進的なマルクス主義からの転向は、社会学書のなかで秘かに行われていた（「レジャー」1966 年）。
13	「美」に殉じる生：三島由紀夫（1925-70 年）	耽美的な作品から軍事的組織の結成まで、理念を肉体化した文学者の独白に迫る（「重症者の兇器」1948 年）。
14	まとめ：授業全体の総まとめ	レトリックが生み出した「真実」とは何か？ レトリカルな文章が潰えてしまったのはなぜか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

取り扱う思想家および文献が多岐にわたるため、テキスト（教科書）は指定しない。必要なものは適宜抜粋してコピーを配布する。

【参考書】

坂口安吾『墮落論・日本文化私観 他二十二篇』（岩波文庫、2008 年）
太宰治『お伽草紙・新釈諸国断』（岩波文庫、2004 年）
『石川淳評論選』（ちくま文庫、2007 年）
小林秀雄『モオツァルト・無常という事』（新潮文庫、1961 年）
『中野重治評論集』（平凡社ライブラリー、1996 年）
『林達夫評論集』（岩波文庫、1982 年）
花田清輝『復興期の精神』（講談社文芸文庫、2008 年）
福田恆存『保守とは何か』（文春学藝ライブラリー、2013 年）
『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー、2010 年）
清水幾太郎『現代思想』上・下（岩波全書、1966 年）絶版
三島由紀夫『小説家の休暇』（新潮文庫、1982 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30 点）および期末レポート試験（70 点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

戦後すぐ（70 年以上前）の文章を読むことから始めるので、最初の数回は文体に慣れるのに少し苦勞するかもしれない。

【学生が準備すべき機器他】

《Hoppii》（学習支援システム）に教材・課題を掲げるので、アクセスしダウンロードできるような準備をしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline: The History of Rhetorical Criticism in the Postwar Period—Rhetoric is not just a technique for decorating a text, but a means of shaping the framework of thought. Especially during the war years, when freedom of speech was deprived, many writers and critics used rhetoric to write their works. This style of writing, which is secretive and open, flourished in the postwar world and produced many outstanding works. This lecture will be a fresh and interesting "reading of texts" selected from high school textbooks.

Learning Objectives: By reading basic postwar criticisms, which are now becoming classics, you will be able to think critically and fundamentally about society, thought and media under capitalism. In addition, by learning the history of capitalism, it will be possible to judge and evaluate the current ideological situation on grounds. By doing these critical readings, you will be a critically conscious member of society. **Learning activities outside of classroom:** Read the class resume carefully and answer the assignments for each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grading will be based on responses to the assignments in each class (30 points) and the final report exam (70 points). Students will be judged on their understanding of the lecture content, depth of thinking ability, and accuracy of written expression.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本主義のバリ解説—— 19 世紀のバリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が花開こうとしていた。20 世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するバリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19 世紀バりに展開したさまざまなイメージを還元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想的に読み解いていく。

【到達目標】

20 世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義のレジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に《Hoppii》（学習支援システム）の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いもの、鋭い質問等を次回以降に発表し、フィードバックとする。受講学生数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／ 20 世紀思想とユダヤ人	授業の進め方を提示しながら、あわせて概論として 20 世紀思想におけるユダヤ人問題を取り上げる
2	ベンヤミンのパリ	19 世紀という変貌する時代における大都市バリの姿を提示し、加えてベンヤミンの伝記とその思想を概説する。
3	バリのパサージュ	パサージュのなかで絢爛たる消費文化が開花し、そこで芸術は商品に奉仕する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」①）。
4	鉄の構成	鉄とガラスを用いた建築がパサージュや駅、博覧会場として史上初めて登場する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」②）。
5	ユートピアのかたち	社会主義者フーリエはパサージュに触発され、具体的ユートピア像を構想する（Ⅰ「フーリエあるいはパサージュ」③）。
6	パノラマから写真へ	パノラマ画の大流行の後を受けて写真が発明され、芸術観を一変させる「Ⅱ「ダゲールあるいはパノラマ」」。

7	商品という幻像	商品の幻像を展示する万国博覧会と、商品を描くグランヴィルのイメージ世界（Ⅲ「グランヴィルあるいは万国博覧会」）。
8	室内の痕跡	商品に抗うようにブルジョワジーの室内に蒐集品があふれ、そこから探偵小説が誕生する（Ⅳ「ルイ＝フィリップあるいは室内」）。
9	アレゴリカーの描くパリ①	遊歩者はパサージュを創作の場所に変える。詩人ボードレールもその一人だった（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」①）。
10	アレゴリカーの描くパリ②	ボードレールはアレゴリーを用いて、パリという都市を初めて作品化する（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」②）。
11	アレゴリカーの描くパリ③	新しさの永遠回帰が近代の本質となる。ボードレール『悪の華』の画期性（Ⅴ「ボードレールあるいはパリの街路」③）。
12	パリ大改造	県知事オスマンのパリ改造計画が都市の姿を一新し、資本主義の世界が貫徹する（Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」①）。
13	オスマン対コミュン	広い街路にパリケードが造られ、パリ・コミュンの夢が一瞬だけ実現するが……（Ⅵ「オスマンあるいはパリケード」②）。
14	夢と覚醒の精神史／まとめ	芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う変化の時代は、私たちに何を語りかけているか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ヴァルター・ベンヤミン「パリ——十九世紀の首都」（浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション 1』ちくま学芸文庫、1995 年、所収）を主に使用する。

【参考書】

引用文献は多岐にわたるため、適宜、コピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30 点）および期末レポート試験（70 点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講読するテキストは短いものだが、多彩な内容が取り上げられているので、難易度は低くない。

【学生が準備すべき機器他】

《Hoppii》（学習支援システム）に教材・課題を掲げるので、アクセスしダウンロードできるような準備をしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline: In 19th century Paris where capitalism was beginning to mature, the best metropolitan culture in Europe was about to blossom. Walter Benjamin, one of the greatest thinkers of the 20th century, wrote "Paris: Capital of the Nineteenth Century" to find the true meaning of Paris which continued to change. Carefully reading this excellent essay, we restore various images developed in Paris at the time to understand the era of changes in which the world of art and thought competed with that of technology and commodities as a history of thought.

Learning Objectives: By reading the work of Walter Benjamin, which are now becoming classics, you will be able to think critically and fundamentally about society, thought and media under capitalism. In addition, by learning the history of capitalism, it will be possible to judge and evaluate the current ideological situation on grounds. By doing these critical readings, you will be a critically conscious member of society.

Learning activities outside of classroom: Read the class resume carefully and answer the assignments for each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grading will be based on responses to the assignments in each class (30 points) and the final report exam (70 points). Students will be judged on their understanding of the lecture content, depth of thinking ability, and accuracy of written expression.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らずにはいなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたっても留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来的な意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について
5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について

6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと 16 世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずから偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20 %
複数回の小レポート：30 %
定期試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することの意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まづもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について

6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20 世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずから偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

宇野重規『西洋政治思想史』(有斐閣、2013 年) 本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』(岩波書店、2012 年) 本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加: 20 %
複数回の小レポート: 30 %
定期試験: 50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The purpose of these lectures is to discuss some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。

第 9 回 巡回群
第 10 回 連立合同式

オイラーの定理について学ぶ。
異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
2 つの素数の積について調べる。
RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
計算の効率性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらった評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。

第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。
第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。

第 9 回	巡回群	オイラーの定理について学ぶ。
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
第 12 回	整数の理論の応用	2 つの素数の積について調べる。
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらった評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第 2 回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第 3 回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第 4 回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第 5 回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第 6 回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第 7 回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第 8 回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。
第 9 回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第 10 回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。

第 11 回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第 12 回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第 13 回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第 14 回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、状況によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	社会数理への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。
第 14 回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第 13 回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第 14 回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 $H_1, H_2, \dots, H_{15}$ と眼鏡 $G_1, G_2, \dots, G_{10}$ と付け髭 $M_1, M_2, \dots, M_{25}$ をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいつかは得られるが大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	整数論の基礎	整数論の基本的な定義や用語を確認する。
第 03 回	ユークリッドの互除法	21 分と 50 分の砂時計を使って 1 分を計る方法を考える。
第 04 回	合同式	合同式の基本的な性質と計算方法を学ぶ。
第 05 回	連立合同式	合同式を利用して、上記例題の解法を修得する。
第 06 回	整数論の応用	整数論を利用した公開鍵暗号の仕組みを理解する。
第 07 回	エラトステネスの篩	素数表の作成法と素数分布の特徴を紹介する。

第 08 回 計算の一般化

行列の基本的な定義や計算を理解する。

第 09 回 行列計算の応用

行列の計算を利用して、日本の 2030 年人口の予測を行う。

第 10 回 動的計画法

動的計画法の基本的な考え方を理解する。

第 11 回 ナップサック問題

ナップサックに最も効率よく財宝を詰込む方法を求める。

第 12 回 予習時間計画問題

試験に対する最適な予習時間配分の求め方を紹介する。

第 13 回 編集距離

2つの文字列の類似度の測定方法を紹介する。

第 14 回 まとめと解説

講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配布資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	グラフ理論	グラフ理論の基礎となる定義と用語を理解する。
第 03 回	グラフの応用例 (1)	リーグ戦の対戦スケジュールを作成する方法を紹介する。
第 04 回	グラフの応用例 (2)	3 つの容器を使って水を分けるパズルを解く方法を紹介する。
第 05 回	プリム法	東京 23 区区役所の効率的なネットワーク配線法を求める。
第 06 回	集合場所の問題	最小コストで全員が集合できる駅を求める方法を学ぶ。
第 07 回	オイラーの定理	一筆書きが可能か判定するための定理を紹介する。
第 08 回	一筆書きの構成 (1)	到達目標欄に記載した問題に答える方法を学ぶ。

第 09 回	一筆書きの構成 (2)	一筆書き経路を具体的に作成する方法を学ぶ。
第 10 回	ダイキストラ法	町田から羽田空港への最短経路を求める。
第 11 回	組合せ論	順列と組合せの基本的な計算方法を学ぶ。
第 12 回	構成的な組合せ論	可能な限り沢山のマッチングを行う方法を学ぶ。
第 13 回	母関数	100 円の両替パターンの総数を求める。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配付資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性。	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を充分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的な算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

教養数学 A

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性。	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2 進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

教養数学 A

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第 3 回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第 4 回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算すること、安定マッチング問題を理解する。
第 5 回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第 6 回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第 7 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第 8 回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第 9 回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性。	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第 10 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第 11 回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第 12 回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第 13 回	2 番目の課題	2 番目の課題を与える。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は演習課題の採点を通して、学生諸氏が理解困難だと感じている事柄が把握できたので、2022 年度はそのような事柄について丁寧に説明したい。特に、基本的な式変形についても時間を割いて解説する。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度に 9 回実施した演習課題で提出された答案の採点を通して、学生諸氏が理解に困難を感じている事項が把握できたので、2022 年度は式変形の途中をより丁寧に説明したい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。なお、状況によってはオンライン授業の併用の可能性もある。その場合は、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業開始日に学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は演習課題の採点を通して、学生諸氏が理解困難だと感じている事柄が把握できたので、2022 年度はそのような事柄について丁寧に説明したい。特に、基本的な式変形についても時間を割いて解説する。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。なお、状況によりオンライン授業を併用する可能性もある。その際は、具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度に 9 回実施した演習課題で提出された答案の採点を通して、学生諸氏が理解に困難を感じている事項が把握できたので、2022 年度は式変形の途中をより丁寧に説明したい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の理解を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の理解を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみることを求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修人数が教室の収容定員を超過したため、Zoom を利用したハイフレックス授業を行った。担当教員が Zoom に不慣れだったこともあり、授業支援アシスタント等の補助制度を活用する必要性を感じた。自由選択方式のハイフレックス授業にしたところオンラインでの参加に大きく偏り、対面参加を促す必要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎数学Ⅰと同様に自由選択方式のハイフレックス授業を行ったところ、春学期以上にオンラインでの参加に偏った。さらにレコーディングの配信が対面参加の敬遠に拍車をかけた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、基礎数学Ⅰと基礎数学Ⅱの両方で期末試験を欠席して代替評価を受けた履修生がいた。そのような場合の公平な成績評価の在り方について大学全体で議論する必要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅰ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修人数が教室の収容定員を超過したため、Zoom を利用したハイフレックス授業を行った。担当教員が Zoom に不慣れだったこともあり、授業支援アシスタント等の補助制度を活用する必要性を感じた。自由選択方式のハイフレックス授業にしたところオンラインでの参加に大きく偏り、対面参加を促す必要性を感じた。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎数学Ⅰと同様に自由選択方式のハイフレックス授業を行ったところ、春学期以上にオンラインでの参加に偏った。さらにレコーディングの配信が対面参加の敬遠に拍車をかけた。また、新型コロナウイルス感染症の影響により、履修生の約 6 分の 1 が期末試験を欠席して代替評価を受けたため、公平な成績評価に苦慮した。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章〈原子から宇宙まで〉	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回 熱の法則と熱効率 熱に関係する法則と熱効率について解説する。

第 12 回 気体の法則、絶対零度 気体の法則について解説する。

第 13 回 気体分子の運動と温度 気体分子の運動と温度の関係について解説する。

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえようように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章 < 20 世紀以後の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質（波動性と粒子性）	光（電磁波）の、波動性や太陽電池にも関係する粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質（二重性）	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	原子の構造（電子の発見）	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第 5 回	原子の構造（原子核の発見）	原子の構造について解説する。
第 6 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 7 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 8 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 9 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 10 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 13 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究がなされている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものを紹介する。

本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。

第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。
第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようなようになるか解説する。
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する。
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。

授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する

第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。

・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確認するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。
9	色々な運動 (1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。

10	色々な運動 (2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動 (3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動 (4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動 (5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。

・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）

・「世界のたね－真理を追いもつめる科学の物語」 アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which are very fundamental filed of physics.

At the end of the course, students are expected to understand how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（蜃気楼、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。

・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確認するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光 (1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光 (2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光 (1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光 (2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光 (1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光 (2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。

・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、期末試験の結果を 60% とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

At the end of the course, students are expected to understand how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探究することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行うが、入国ができない外国人留学生や基礎疾患等により対面受講ができない学生のためのリアルタイムオンライン配信（ハイフレックス形式）を行う。受講人数がわからない初回授業はハイフレックス形式で行う。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、授業録画を公開する予定である。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に關する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動くとき物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力があるか自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使用したパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムで公開する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or コメントシート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。オンライン授業（リアルタイムとオンデマンド）参加者には小テストの代わりに小レポートの提出を求める。小テストと期末試験では、自筆ノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は授業時にお知らせする。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。平常評価の割合が大きいため、出席（or 録画の視聴）は重要である。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅インターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

授業（対面・オンライン）に出席することが何よりも重要である。平常点の割合が高いことに注意せよ。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: クォーク、オーロラそして宇宙

鈴木 裕武

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 5/Mon.5

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくしてはならない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

講義形式の対面授業を行うが、入国ができない外国人留学生や基礎疾患等により対面受講ができない学生のためのリアルタイムオンライン配信（ハイフレックス形式）を行う。受講人数がわからない初回授業はハイフレックス形式で行う。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、授業録画を公開する予定である。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペントラレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に關する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。

第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使ったパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdf ファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or コメントシート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。オンライン授業（リアルタイムとオンデマンド）参加者には小テストの代わりに小レポートの提出を求める。小テストと期末試験では、自筆ノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は授業時にお知らせする。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。平常評価の割合が大きいの、出席（or 録画の視聴）は重要である。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

授業（対面・オンライン）に出席することが何よりも重要である。平常点の割合が高いことに注意せよ。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究がなされている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学 (ニュートン力学)」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものを紹介する。

本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星 (恒星) と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。

第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。
第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようなようになるか解説する。
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第 10 回	運動の勢いを表すには?	運動量保存則について解説する。
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート (約 50 %) と小テスト (約 50 %) により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象や背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20 世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。また、授業内容に応じて、資料配布型オンデマンド授業として実施する回を数回予定している。その回では、資料を学習支援システム上で配布する予定である。

授業の実施形態にかかわらず、各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や蜃気楼などの現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する

第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する
第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで A

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで見られる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章〈原子から宇宙まで〉	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回 熱の法則と熱効率 熱に関係する法則と熱効率について解説する。

第 12 回 気体の法則、絶対零度 気体の法則について解説する。

第 13 回 気体分子の運動と温度 気体分子の運動と温度の関係について解説する。

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで B

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化した。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえようように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章 < 20 世紀以後の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質（波動性と粒子性）	光（電磁波）の、波動性や太陽電池にも関係する粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質（二重性）	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	原子の構造（電子の発見）	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第 5 回	原子の構造（原子核の発見）	原子の構造について解説する。
第 6 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 7 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 8 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 9 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 10 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 13 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル: やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然や物の理 (ことわり) の探求は、物の運動の法則を探究することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則 (力学) によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行うが、入国ができない外国人留学生や基礎疾患等により対面受講ができない学生のためのリアルタイムオンライン配信 (ハイフレックス形式) を行う。受講人数がわからない初回授業はハイフレックス形式で行う。やむを得ない理由 (体調不良や濃厚接触者になってしまった等) により受講できなかった者のために、授業録画を公開する予定である。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター (パワーポイント) と黒板・ペンタブレット (板書) を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト (レポート) のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画 (目標は YouTube の動画) であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に關する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエンルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動く物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。

本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。授業で使用するパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムで公開する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利, 左巻健男 (編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻, 第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇 (著) 講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

平常評価 (小テスト or コメントシート, 配分 60 %) と期末試験 (レポートになる可能性もある) (配分 40 %) で評価する。オンライン授業 (リアルタイムとオンデマンド) 参加者には小テストの代わりに小レポートの提出を求める。小テストと期末試験では、自筆ノートと授業で使ったスライド (学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの) の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は授業時にお知らせする。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席 (or 録画の視聴) していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。平常評価の割合が大きいため、出席 (or 録画の視聴) は重要である。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅インターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

授業（対面・オンライン）に出席することが何よりも重要である。平常点の割合が高いことに注意せよ。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：クォーク、オーロラそして宇宙

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールの話までを扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくしてはならない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関係する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

講義形式の対面授業を行うが、入国ができない外国人留学生や基礎疾患等により対面受講ができない学生のためのリアルタイムオンライン配信（ハイフレックス形式）を行う。受講人数がわからない初回授業はハイフレックス形式で行う。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、授業録画を公開する予定である。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペントラレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに前回の小テスト（レポート）のフィードバックを行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に關する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。

第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする と地球が風邪をひく話	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。
本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に取り組んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業で使ったパワーポイントスライドの pdf ファイルを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdf ファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

平常評価（小テスト or コメントシート、配分 60 %）と期末試験（レポートになる可能性もある）（配分 40 %）で評価する。オンライン授業（リアルタイムとオンデマンド）参加者には小テストの代わりに小レポートの提出を求める。小テストと期末試験では、自筆ノートと授業で使ったスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は授業時にお知らせする。小テスト・期末試験ともに、授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席（or 録画の視聴）していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。平常評価の割合が大きいの、出席（or 録画の視聴）は重要である。また、状況により成績評価の方法を変えざるを得ない場合もある。評価方法が変わった場合は学習支援システムでお知らせする。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【その他の重要事項】

授業（対面・オンライン）に出席することが何よりも重要である。平常点の割合が高いことに注意せよ。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私たちの生活や社会に対してどのような影響をもたらしたか、私たちの「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生がいる場合は、オンライン中継も行う予定です。生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の 3 項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。毎回、授業中に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第 2 回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第 3 回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 4 回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第 5 回	遺伝子の正体 DNA	メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが解明された経緯を学びます。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。

第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	13 回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週 1 時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週 1 時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。(週 1 時間以上) 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて HOPPII を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約 (200 字要約) のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それに従って毎回 (13 回まで) 授業を要約して HOPPII のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようして下さい。

毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。

第 4 回 神経回路の可塑性

記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？神経回路と遺伝子との関係について考えてみましょう。

第 5 回 本能行動

ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。

第 6 回 意識と神経

第 7 回 ミームの進化

第 8 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

第 9 回 社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。

第 10 回 発生・分化

多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。

第 11 回 再生

iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。

第 12 回 生態学的生命観

生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。

第 13 回 種と多様性

現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

第 14 回 まとめ

13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上） 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上） 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出してください。（週 1 時間以上） 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約（200 字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それに従って毎回（13 回まで）授業を要約して HOPPII のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。

同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体を作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらし、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第1回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の3項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。毎回、授業中に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第 2 回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第 3 回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 4 回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第 5 回	遺伝子の正体 DNA	メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが解明された経緯を学びます。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。

第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	13 回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上）復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。（週 1 時間以上）以上を合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて HOPPII を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約（200 字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それによって毎回（13 回まで）授業を要約して HOPPII のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。

板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座して下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。

毎回、生物学のマクロレベルの現象の一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合があります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。

第 4 回	神経回路の可塑性	記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。
第 5 回	本能行動	動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？神経回路と遺伝子の関係について考えてみましょう。
第 6 回	意識と神経	ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。
第 7 回	ミームの進化	神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。
第 8 回	群れ	生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。
第 9 回	社会	人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。
第 10 回	発生・分化	多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。
第 11 回	再生	iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。
第 12 回	生態学と生命観	生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。
第 13 回	種と多様性	現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。
第 14 回	まとめ	13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上）予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上）復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。（週 1 時間以上）以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約（200 字要約）のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それに従って毎回（13 回まで）授業を要約して H O P P I I のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。

同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられていますが、大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他
/intensive・other courses
単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象とします。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わることがらについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起る化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。

第 7 回 生命情報

DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回 ウイルスと生命

単なる物質とも生命体ともとえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。

第 9 回 遺伝子組み換えとゲノム編集

DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。

第 10 回 食糧問題とバイオテクノロジー

遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。

第 11 回 ゲノムと医療

個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。

第 12 回 遺伝子治療

人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。

第 13 回 クローン技術と iPS 細胞

細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。

第 14 回 移植医療・再生医療

臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）
- ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。
授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回 ミームの進化

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

第 9 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。

第 10 回 生物の社会

人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。

第 11 回 発生・分化

一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。

第 12 回 再生

多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。

第 13 回 薬と生物学

さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。

第 14 回 種と多様性

人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）
- ・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学の発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。これにより、学生がニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学の基礎知識を得ると共に、医療や食などの身近な分野で是非が問われている科学技術についてもより明確な意見を持つための視点を獲得の機会を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2) 取得した生物学の基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習(グループワーク)も行う予定です。また、「学習支援システム(Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業(受講生人数の把握のため)、②大学の方針として指示があった場合(新型コロナの感染状況への対応)、③授業内の活動のために必要な場合(グループワークにおける感染防止対策など)は Zoom によるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の了承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。

第 4 回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第 7 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第 8 回	演習: 1 ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報(ゲノム)を分析することで、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについてグループワークを通して考えます。
第 9 回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第 10 回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第 11 回	生命操作と生物利用	遺伝子組み換えやクローニング技術は、人間による生物利用のあり方を大きく変えました。身近な例として食料生産に関連する動植物への適用事例から現状を解説します。
第 12 回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を獲得してきました。それは、医療などの分野で新たな可能性を生み出すと同時に倫理的課題も浮き彫りにしてきました。今後が期待される技術について倫理的観点から考えます。
第 13 回	演習 2: 科学技術は誰のもの?	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方についてグループワークを通して考えます。
第 14 回	生命科学の発展と社会的課題	生物分野の発展と科学技術の開発・運用に関わる社会経済的背景について考察しながら、春学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト(教科書)】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標1、2）を定期的に評価するため2回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開（到達目標3）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体的学びの機会を設けることを検討する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保。オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provides an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO100LA

入門生物学B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。これにより、学生がニュースなどで日常的に接する機会のある自然環境・資源関連の課題についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、問題解決への考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の2点です。1）社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識を取得すること。2）取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業（受講生人数の把握のため）、②大学の方針として指示があった場合（新型コロナの感染状況への対応）、③授業内の活動のために必要な場合（グループワークにおける感染防止対策など）はZoomによるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の了承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振る舞い（個体群動態）の基礎を学びます。
第2回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第3回	生態系のはたらき1：エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。

- 第 4 回 生態系のはたらき 2：炭素や窒素を例に物質循環を学ぶ物質の供給と共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
- 第 5 回 生態系のふるまい：安定した生態系とは？生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
- 第 6 回 演習 1：森林資源の持続可能性人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。
- 第 7 回 生物の生存戦略生物は、同種・異種の個体同士が互いにに関わり合いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
- 第 8 回 共存する生物たち：競争と共生異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
- 第 9 回 生物がつくるコミュニティ様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
- 第 10 回 演習 2：多目的利用のための森林管理人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
- 第 11 回 生物多様性とは生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
- 第 12 回 生物多様性と人間社会「大量絶滅」と「生態系サービス」の 2 つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
- 第 13 回 保全生態学生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
- 第 14 回 人間の活動を含めた環境保全農地や都市といった人間の活動と環境保全の両立を目指す取り組みを通して秋学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標 1）を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく問題解決への応用力（到達目標 2）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況や演習での参加度などを評価するものです。総合成績で 60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問などへの対応に Hoppii の機能をより効果的に活用する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。
オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講座では、DNA から細胞などのミクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、それに関連する生物学の発展の歴史や科学技術、社会的課題などを取り上げ、学習内容をより大きな文脈の中で考えていきます。これにより、学生がニュースなどで触れる機会のある出来事や科学技術についてより良く理解するための生物学の基礎知識を得ると共に、医療や食などの身近な分野で是非が問われている科学技術についてもより明確な意見を持つための視点を獲得の機会を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2) 取得した生物学の基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では様々な生命現象についてミクロな視点から解説し、後半では「生命操作」に関わる応用分野の基礎知識や社会的動向を扱います。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習（グループワーク）も行う予定です。また、「学習支援システム（Hoppii）」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業（受講生人数の把握のため）、②大学の方針として指示があった場合（新型コロナウイルスの感染状況への対応）、③授業内の活動のために必要な場合（グループワークにおける感染防止対策など）は Zoom によるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の了承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、地球の歴史において、生命はどのように誕生し進化してきたのかについても考えます。
第 2 回	細胞と生命	「生命の最小単位」であると認識されている細胞。その基本的な特徴について解説すると共に、そこに反映される生命観についても考えてみます。
第 3 回	核酸の構造と機能	DNA や RNA のような核酸は生命活動に欠かせない物質です。その核酸の基本的構造・機能について学びます。

第 4 回	タンパク質の構造と機能	核酸同様、タンパク質も生命活動に欠かせない物質です。タンパク質の合成過程や機能について学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は、呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に分子レベルでの進化についても考えます。
第 7 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に遺伝に関連する分子レベルの現象についても考えます。
第 8 回	演習：1 ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについてグループワークを通して考えます。
第 9 回	遺伝子を操作する技術	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術の原理を学ぶと共に、その発展について学びます。
第 10 回	クローニング技術	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの最新技術を含めて基本原理から解説します。
第 11 回	生命操作と生物利用	遺伝子組み換えやクローニング技術は、人間による生物利用のあり方を大きく変えました。身近な例として食料生産に関連する動植物への適用事例から現状を解説します。
第 12 回	生命倫理	生物学の進歩によって、人類は生命に干渉・介入する手段を獲得してきました。それは、医療などの分野で新たな可能性を生み出すと同時に倫理的課題も浮き彫りにしてきました。今後が期待される技術について倫理的観点から考えます。
第 13 回	演習 2：科学技術は誰のもの？	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方についてグループワークを通して考えます。
第 14 回	生命科学の発展と社会的課題	生物分野の発展と科学技術の開発・運用に関わる社会経済的背景について考察しながら、春学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・学習支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常点 (20%) を基本とします。小テストは、学習内容の理解度 (到達目標 1、2) を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開 (到達目標 3) を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。総合成績で 60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の主体的学びの機会を設けることを検討する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) へのアクセスの確保。オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provides an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この講座では、生物同士の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習していきます。また、生物学的知識を学びながら、現在人類共通の課題となっている様々な環境問題や自然資源管理などを取り上げ、学習内容との関連性についても明らかにしていきます。これにより、学生がニュースなどで日常的に接する機会のある自然環境・資源関連の課題についてより良く理解するための生物学的基礎知識を得ると共に、問題解決への考え・意見を持つための視点を獲得する機会を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の 2 点です。1) 社会的に重要視されている種々の環境問題をよりよく理解するための生物学的基礎知識を取得すること。2) 取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

「生態系」「生物同士の関係」「生物多様性」の三部構成で、関連する基礎知識を解説します。授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習 (グループワーク) も行う予定です。また、「学習支援システム (Hoppii)」を活用し各回へのリアクションや質問の集約を行い、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。なお、授業の実施形態は対面方式を原則としますが、①初回授業 (受講生人数の把握のため)、②大学の方針として指示があった場合 (新型コロナウイルスの感染状況への対応)、③授業内の活動のために必要な場合 (グループワークにおける感染防止対策など) は Zoom によるオンライン方式で実施します。また、健康上の理由で対面参加が困難な場合や入国できない状況にある留学生など個別に配慮が必要な場合は、教員の了承を得た上でオンラインでの参加を可とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。「個体群」以上の階層構造を確認しながら、導入として生物の個体群の見せる数量的な振る舞い (個体群動態) の基礎を学びます。
第 2 回	生態系の成り立ち	全ての生態系に共通する基本構造と共に、多種多様な生態系が生み出される仕組みを学び、そもそも生態系とは何なのかを考えます。
第 3 回	生態系のはたらき 1 : エネルギーの供給	光合成のメカニズムと食物連鎖によるエネルギーの受け渡しから生態系におけるエネルギー供給について学びます。

第 4 回	生態系のはたらき 2：物質の供給	炭素や窒素を例に物質循環を学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系のふるまい：安定した生態系とは？	生態系の不安定化が問題視される一方、「安定した生態系」とはどのようなものかは正しく理解されているのでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	演習 1：森林資源の持続可能性	人間は生態系を壊さずに必要な資源利用を続けることができるのでしょうか？持続可能な森林資源管理をテーマに演習を行います。
第 7 回	生物の生存戦略	生物は、同種・異種の個体同士が互いにに関わり合いながら生きています。生き残るために生物はどんな「工夫」をしているのかを考えます。
第 8 回	共存する生物たち：競争と共生	異なる生物同士はどのように共存しているのでしょうか？「競争」と「共生」の観点から考えます。
第 9 回	生物がつくるコミュニティ	様々な生物によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	演習 2：多目的利用のための森林管理	人間にとって有害な生物と有益な生物が入り混じった環境で私たちはどのように自然と触れ合えばいいのでしょうか？多目的利用のための森林管理を例に演習を行います。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ち、新たな生物が生み出されるメカニズムや生態系機能との関係性について学びます。
第 12 回	生物多様性と人間社会	「大量絶滅」と「生態系サービス」の 2 つの観点から生物多様性と人間の関係を考えます。
第 13 回	保全生態学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、保全の取り組み事例から基本的なアプローチと課題について学びます。
第 14 回	人間の活動を含めた環境保全	農地や都市といった人間の活動と環境保全の両立を目指す取り組みを通して秋学期の学習のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。
欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布

【参考書】

授業時・授業支援システムで適宜提示。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト（40%）、期末レポート（40%）、平常点（20%）を基本とします。小テストは、学習内容の理解度（到達目標 1）を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく問題解決への応用力（到達目標 2）を評価するものです。平常点は、各回の学習状況や演習での参加度などを評価するものです。総合成績で 60%以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問などへの対応に Hoppii の機能をより効果的に活用する。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保。
オンライン方式になった場合に対応できる機器・環境の確保。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provides an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may come in contact with in their daily life.

In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他
/intensive・other courses
単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象とします。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わることがらについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起さる化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。

第 7 回 生命情報

DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回 ウイルスと生命

単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。

第 9 回 遺伝子組み換えとゲノム編集

DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。

第 10 回 食糧問題とバイオテクノロジー

遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。

第 11 回 ゲノムと医療

個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。

第 12 回 遺伝子治療

人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。

第 13 回 クローン技術と iPS 細胞

細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。

第 14 回 移植医療・再生医療

臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15% (毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。)
- ・200 字要約レポート 85% (第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。)

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。
授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回 ミームの進化

第 9 回 群れ

第 10 回 生物の社会

第 11 回 発生・分化

第 12 回 再生

第 13 回 薬と生物学

第 14 回 種と多様性

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。

人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。

一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。

多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。

さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。

人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）

・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。春学期は、主としてミクロレベルの生命現象を対象とします。前半では、生物が遺伝情報をもとに作り上げられるしくみや進化するしくみを、その発見の歴史とともに学びます。後半では、ウイルスや遺伝子組み換え作物、再生医療など、私たちの生活や社会に関わることがらについて、前半で学んだ知識を基盤として理解していきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、ミクロレベルの生物学の基礎となる重要事項を理解することで、生物学に関わるものごとを正しくとらえ、考えることができるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、対面とそのウェブ配信によるハイフレックス方式で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生命観の変遷	生命とは何か、複雑な生命現象をどう説明するかという考え方の歴史的变化を概説します。
第 2 回	ダーウィン進化論	ダーウィンの提唱した進化論は、生物学のみならず社会にも大きな影響を与えました。
第 3 回	メンデル遺伝学	メンデルが提唱した遺伝子の概念によって生物学がどのように進歩したのかを学びます。
第 4 回	化学反応と酵素	酵素発見の歴史や、体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 5 回	微生物工場	我々に身近な発酵食品や医薬品には、さまざまな微生物が利用されています。
第 6 回	DNA	メンデルが提唱した遺伝子の正体は DNA という物質でした。その発見の歴史を学びます。

第 7 回 生命情報

DNA が遺伝情報を担うシステムとしてはたらくしくみを理解します。

第 8 回 ウイルスと生命

単なる物質とも生命体ともとらえられるウイルスは、生物にとってどのような存在なのでしょう。

第 9 回 遺伝子組み換えとゲノム編集

DNA を改変する技術により、新たな性質をもつ生物を生み出すことが可能になりました。

第 10 回 食糧問題とバイオテクノロジー

遺伝子改変技術を中心に、食糧問題と科学技術の関わりについて学びます。

第 11 回 ゲノムと医療

個人の DNA 配列から病気や体質まで予測できる現在、ゲノムデータとの付き合い方を考えます。

第 12 回 遺伝子治療

人間の遺伝子を操作して病気を治療したり、能力を強化したりすることの是非を考えます。

第 13 回 クローン技術と iPS 細胞

細胞の運命を人工的に初期化する技術とその利用について学びます。

第 14 回 移植医療・再生医療

臓器不足問題を克服するために開発されつつある技術を紹介します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関係するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト (教科書)】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 15% (毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。)
- ・200 字要約レポート 85% (第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。)

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of biology and technologies which influences our society. Major topics for the semester: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

植木 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物学を初めて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とします。秋学期は、主としてマクロレベルの生命現象を扱います。例えば細胞が集まることで個体ができあがるしくみや、生物どうしや生物と環境との相互作用について学びます。1+1 が 2 にならない生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は第一に、マクロ生物学のそれぞれのトピックを通じて、生命現象をさまざまな見方でとらえられるようになることです。第二に、自然科学の問題に対峙する過程で、論理的思考と文章力を身につけてもらいます。課題をこなすうちに自然とそれらの力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は、講義動画を配信するオンデマンド型で行います。
- ・板書を基本とした講義を行い、毎回 10～15 分程度の映像教材を呈示します。
- ・授業では、要点を必ずノートにとるようにしてください。
- ・授業に参加するための情報は学習支援システム Hoppii の「お知らせ」より通知します。
- ・質問等へのフィードバックは、授業内または学習支援システム Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象	生物を分解して調べるミクロ生物学と、全体の問題を扱うマクロ生物学の考え方を概説します。
第 2 回	生命と地球の歴史	現在の地球環境が、生物の歴史の大イベントにより形作られていることを学びます。
第 3 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化のしくみとその本質を考えてみます。
第 4 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させ、特殊な種間関係ができあがる場合があります。
第 5 回	神経回路の可塑性	生物が神経回路を変化させて学習するメカニズムを学びます。
第 6 回	本能行動	本能行動のしくみを調べるために行われたさまざまな研究を紹介します。
第 7 回	意識と神経	神経回路が複雑化する中で意識が生まれたと考えられています。意識を作り出す背景を考えます。

第 8 回 ミームの進化

第 9 回 群れ

第 10 回 生物の社会

第 11 回 発生・分化

第 12 回 再生

第 13 回 薬と生物学

第 14 回 種と多様性

神経回路として形成された「文明」や「文化」が次世代の神経回路として伝わるメカニズムを考えます。

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。群れの行動から生まれた知能について考えます。

人間以外にも、高度な社会を構築する生き物がいます。その社会構造について学びます。

一個の受精卵が、分裂を経てそれぞれの役割を持つ細胞になり、複雑な個体を作り上げるしくみを解説します。

多細胞生物の生存戦略を、再生能力という点から考えます。iPS 細胞や再生医療との関係も解説します。

さまざまな病気や感染症と闘う武器として人はどのように医薬品を開発し、利用してきたのでしょうか。

人類は多様な生き物を認識するため、名前をつけ、分類してきました。生物の「種」とは何か、基礎から考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、予習として、生物学に関するニュース番組や記事を見るよう心がけてください。復習としては、授業での指示に従って各授業の要約を作成し、学習支援システムを通じて提出してもらいます。以上の予習・復習を合計して週 4 時間の自習をしてください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点 15%（毎回授業後に簡単な設問に解答して提出していただきます。その提出状況等を評価します。）

・200 字要約レポート 85%（第 1 回目の授業で短い講義をし、それを要約した例を示します。皆さんには第 2 回目以降、毎回の授業内容の要約レポートを作成し、学習支援システムを通じて一週間以内に提出していただきます。詳細は授業内でお知らせします。）

【成績に関わるルール】

200 字要約レポートは、必ずご自分で作成して下さい。同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。インターネット等からの剽窃も厳しくチェックします。

【学生の意見等からの気づき】

映像が理解の助けになったという声が多いので、今後も効果的に取り入れていきます。

授業内容に関する質問にも、引き続き詳しく回答していきます。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、学習支援システムへアクセスできる環境が必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。

【Outline (in English)】

This course introduces students to a broad overview of macroscopic biology. Students will understand that "emergence" occurs in each biological organization by the end of the course. Major topics for the semester: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process; in-class contribution (15%), 200-character summary report (85%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	物質の進化	元素の生い立ちについて
第 3 回	電子の発見	電気を運んだり、二つの原子を結びつける粒子について
第 4 回	電子と電磁波	電子の軌道と電磁波のエネルギーについて
第 5 回	同位体と原子の壊変	放射性同位体の壊変と半減期について
第 6 回	放射線	放射線を遮断する物質の特徴について
第 7 回	放射線と生体	放射線の活用や生体に及ぼす影響について
第 8 回	化学結合	原子が結びついて分子を形成する仕組みについて
第 9 回	有機化合物とその表記	カフェインやカプサイシンなど身近な化学物質の化学構造について
第 10 回	炭素材料	カーボンナノチューブやグラフェンの特徴について
第 11 回	燃焼と消火	燃焼に必要な要素や火薬の成分について
第 12 回	水と物質	氷やメタンハイドレートの構造について
第 13 回	電池	化学電池、特にリチウムイオン二次電池の構造と特徴
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで公開します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。授業形態によっては、期末試験が課題になる場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces molecular structure and properties.

The goal of the course are to improve students' science literacy. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	光の三原色	光の性質と発光物質について
第 3 回	色の三原色	色素分子の特徴とクロミック現象について
第 4 回	自然の色素	天然の色素分子と視物質の挙動について
第 5 回	ヨウ素の科学	ヨウ素分子とヨウ化物イオン、有機ヨウ素分子の違いとそれぞれの利用について
第 6 回	光の散乱	分子の振動と光を用いた物質の分析について
第 7 回	赤外線吸収	二酸化炭素の振動のしかたと赤外線吸収の関係について
第 8 回	キラリティー	分子の右手と左手の関係について
第 9 回	液晶の発見と構造色	物質の状態変化にともなう分子の配向、運動状態の変化について
第 10 回	液晶ディスプレイ	電気を流さない物質が電場から受ける影響について
第 11 回	高分子	天然高分子と化学繊維やプラスチックの違いについて
第 12 回	触媒	化学反応を促進する原理について
第 13 回	排煙の浄化	排気ガスの浄化や化学物質の合成における触媒の役割について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces molecular structure and properties.

The goals of the course is to understand about causes of environmental problems and to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週月曜日から学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第 1 回授業の資料は、2022 年 4 月 11 日（月）朝に、学習支援システムにアップする予定です。第 1 回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1. ガイダンス 2. 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第 2 回	3. 物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第 3 回	4. 元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第 4 回	5. 化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第 5 回	6. 化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第 6 回	7. 酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第 7 回	8. 酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第 8 回	9. 化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第 9 回	10. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱収支、気体の性質

第 10 回	10. 物質の状態② 11. 放射性元素①	溶液の性質 放射壊変とは
第 11 回	11. 放射性物質② 12. 地球温暖化①	放射線の影響、トリチウムとは 地球温暖化の現状
第 12 回	12. 地球温暖化②	地球温暖化の仕組みと原因物質、温暖化による将来リスク
第 13 回	12. 地球温暖化③	温暖化の影響
第 14 回	12. 地球温暖化④ 13. 大気・水質・土壌汚染	エネルギー、温暖化の将来予測 大気圏・水圏・陸圏の概要と汚染

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で 100 % 評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容について、概ね好評だったので、今年度も同様の内容で授業を行います。ただし、授業形態はオンデマンド型になります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要な PC やタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The goals of this course are to acquire basic knowledge of general chemistry and to understand global environmental problems by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週月曜日から土曜日に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2022年9月26日(月)朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 物質を構成するものの	物質の構成単位である原子・分子について解説
第2回	3. 有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	5. 親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質について
第7回	8. 窒素を含む有機化合物 9. 芳香族化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質について 身近な芳香族化合物の構造と性質について

第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、 燃焼反応、反応熱について
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質について
第11回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質について
第12回	12. 生体を作る有機化合物③	核酸について
第13回	13. 生体内の化学反応	代謝・酵素について
第14回	14. 有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容について、概ね好評だったので、今年度も同様の内容で授業を行います。ただし、授業形態はオンデマンド型になります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonding, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The goals of this course are to acquire basic knowledge of organic chemistry and biochemistry, and to understand environmental problems associated with organic compounds by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当りのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、第 1 回目はオンライン形式により、第 2 回目以降は対面形式により行われます。基本的には板書を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第 4 回	放射性壊変 (1)	α 壊変および β 壊変について学習する。
第 5 回	放射性壊変 (2)	その他の放射性壊変について学習する。
第 6 回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第 7 回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。

第 8 回	^{235}U の誘導核分裂	^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	^{239}Pu の誘導核分裂	^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 10 回	核エネルギー	核反応にともなって反応系に入ったりするエネルギーについて考察する。
第 11 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 12 回	原子力発電所の種類 (1)	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類 (2)	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト (教科書)】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名: 新版 エネルギーの科学 (第 2 版)
著者名: 安井伸郎
出版者名: 三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験 (教科書、プリント、およびノート持ち込み可) により評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。

上述のとおり、第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム (HOPPII) の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、第 1 回目はオンライン形式により、第 2 回目以降は対面形式により行われます。基本的には板書を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第 4 回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第 5 回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第 6 回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第 7 回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。

第 8 回 CO₂ の排出量

CO₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。

第 9 回 石炭

石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第 10 回 石油

石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第 11 回 天然ガス

天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第 12 回 その他の化石燃料

オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。

第 13 回 温暖化・酸性雨

化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。

第 14 回 まとめ

本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学 A」を合わせて受講することをお勧めします。

上述のとおり、第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。
以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。
学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。
これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。
提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第 3 回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第 5 回	イオン	イオンのでき方を理解する
第 6 回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第 7 回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第 8 回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第 9 回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第 10 回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第 11 回	物質質量	地球上における環境を考えるための、物質質量の概念を理解する
第 12 回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第 13 回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのような関わっているかを考える
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関する本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を 50%、平常点 (毎回出題する課題) を 50% の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための PC などの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.
- To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見もらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第 3 回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第 4 回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連について学ぶ
第 5 回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第 6 回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第 7 回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第 8 回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第 9 回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第 10 回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について、考える
第 11 回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第 12 回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第 13 回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ、講義テーマに関することを、本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を 50%、平常点（毎回出題する課題）を 50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための、PC などの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週月曜日から学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第 1 回授業の資料は、2022 年 4 月 11 日（月）朝に、学習支援システムにアップする予定です。第 1 回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	1. ガイダンス 2. 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第 2 回	3. 物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第 3 回	4. 元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第 4 回	5. 化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第 5 回	6. 化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第 6 回	7. 酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第 7 回	8. 酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第 8 回	9. 化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第 9 回	10. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱収支、気体の性質

第 10 回	10. 物質の状態② 11. 放射性元素①	溶液の性質 放射壊変とは
第 11 回	11. 放射性物質② 12. 地球温暖化①	放射線の影響、トリチウムとは 地球温暖化の現状
第 12 回	12. 地球温暖化②	地球温暖化の仕組みと原因物質、温暖化による将来リスク
第 13 回	12. 地球温暖化③	温暖化の影響
第 14 回	12. 地球温暖化④ 13. 大気・水質・土壌汚染	エネルギー、温暖化の将来予測 大気圏・水圏・陸圏の概要と汚染

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で 100 % 評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容について、概ね好評だったので、今年度も同様の内容で授業を行います。ただし、授業形態はオンデマンド型になります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要な PC やタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The goals of this course are to acquire basic knowledge of general chemistry and to understand global environmental problems by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週月曜日から学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2022年9月26日(月)朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス	講義概要の説明
	2. 物質を構成するものの	物質の構成単位である原子・分子について解説
第2回	3. 有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	5. 親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質について
第7回	8. 窒素を含む有機化合物 9. 芳香族化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質について 身近な芳香族化合物の構造と性質について

第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、 燃焼反応、反応熱について
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質について
第11回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質について
第12回	12. 生体を作る有機化合物③	核酸について
第13回	13. 生体内の化学反応	代謝・酵素について
第14回	14. 有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。

復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業内容について、概ね好評だったので、今年度も同様の内容で授業を行います。ただし、授業形態はオンデマンド型になります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonding, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The goals of this course are to acquire basic knowledge of organic chemistry and biochemistry, and to understand environmental problems associated with organic compounds by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。

以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第 3 回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第 4 回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第 5 回	イオン	イオンのでき方を理解する
第 6 回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第 7 回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第 8 回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第 9 回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第 10 回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第 11 回	物質質量	地球上における環境を考えるための、物質質量の概念を理解する
第 12 回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第 13 回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのように関わっているかを考える
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関する本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特になし。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を 50%、平常点 (毎回出題する課題) を 50% の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための PC などの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

- To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見もらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第 2 回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第 3 回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第 4 回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連を学ぶ
第 5 回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第 6 回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第 7 回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第 8 回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第 9 回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第 10 回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について考える
第 11 回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第 12 回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第 13 回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第 14 回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を 50%、平常点（毎回出題する課題）を 50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための PC などの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.
- To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 集中・その他
/intensive・other courses

単位数: 2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日 (日) 10:00~6 日 (水) 9:00、結果発表は 4 月 6 日 (水) 22:00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	天文学とは	宇宙と天文の字義から全体像を説き起こす。
2	宇宙の姿	すばる望遠鏡などによる宇宙の鮮明な画像や映像を紹介する。
3	身近な天体	太陽、月および地球について学習する。
4	近くの惑星	水星、金星および火星について学習する。
5	遠くの惑星	木星、土星、天王星および海王星について学習する。
6	太陽系の果て	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	望遠鏡	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星	恒星の誕生から死までの一生について学ぶ。
10	銀河	星およびガスの集まりである銀河等について学ぶ。
11	宇宙構造	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	宇宙史	ビッグバンと宇宙膨張を中心に宇宙の歴史について学ぶ。
13	ダークマター	銀河の回転曲線の謎をはじめ、宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。

14 ブラックホール

超新星の爆発と巨大ブラックホールなど宇宙におけるブラックホールの役割を学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知する。

【テキスト (教科書)】

市販の教科書は使用しない。講義資料 (スライドおよび質疑応答集) は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

[https://www.researchgate.net/publication/327306485_](https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese)

Introduction to Astronomy 2018 in Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

[https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_](https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese)
on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (100%) による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the wonder of the universe.

(Learning Objectives) Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知する。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the enigma of gravitation.

(Learning Objectives) Obtain historical knowledge on astronomy such as the heliocentric/geocentric theory, Newton's mechanics, and relativity theories.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。春学期では、地球・太陽系・恒星に焦点を当てる。とくに我々の身近な環境である地球環境に重点を置く。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンドで行う。毎週、資料と動画を Hoppii を通じて配布しオンラインで学習する。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。 受講の方法を示す。
第 2 回	宇宙の階層構造	地球のスケールから宇宙全体のスケールまでの構造を概観する。
第 3 回	地球の構造	地球の構造について学ぶ。
第 4 回	地球の大気	地球のうち、大気に焦点を当てる。
第 5 回	気候変動	地球温暖化だけでなく、地球の 46 億年の歴史における様々な気候変動について学ぶ。
第 6 回	月	月の形成と地球との関わりについて学ぶ。
第 7 回	太陽と恒星	太陽に代表される恒星について学ぶ。
第 8 回	太陽系と惑星（1）	太陽系全体を概観し、地球型惑星について学ぶ。
第 9 回	太陽系と惑星（2）	木星型惑星、準惑星、太陽系小天体（彗星など）について学ぶ。
第 10 回	星形成	恒星の誕生について学ぶ。
第 11 回	恒星の進化	恒星の進化について学ぶ。超新星・中性子星・ブラックホールなど。
第 12 回	ブラックホール	ブラックホールに焦点を当てる。

第 13 回 様々な望遠鏡

講義で登場した様々な望遠鏡についてまとめる。

第 14 回 期末試験

オンラインで期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
状況のよっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで動画を視聴し資料を閲覧するためのパソコンやタブレット等の情報機器。

【その他の重要事項】

昨年度は履修者が多すぎたため、本年度は定員を設けた。

【Outline (in English)】

Course outline: Astronomy, earth, solar system, stars.

Learning objectives: The students learn the introduction of astronomy. We focus on the Earth, solar system, and stars in the spring semester.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

松本 倫明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球と宇宙の成り立ちについて学ぶ。秋学期では、恒星の集団である銀河、銀河の集団である銀河団、さらに宇宙全体を対象とする。天文学 B は天文学 A からの続きである。必ずしも天文学 A を事前に受講する必要はないが、天文学 A と B を両方受講すると理解は深まるであろう。

【到達目標】

この授業によって、現在までに知られている様々な天体の姿を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンドで行う。毎週、資料と動画を Hoppii を通じて配布しオンラインで学習する。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。

最新の観測や理論を紹介し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	銀河の構造	銀河系をはじめとする銀河の構造を学ぶ。
第 3 回	暗黒物質	銀河の主要な構成要素である暗黒物質（ダークマター）について学ぶ。
第 4 回	銀河の分類	銀河をいくつかの種類（渦巻銀河・棒渦巻銀河・楕円銀河など）に分類する。
第 5 回	銀河団	銀河の集まりである銀河団について学ぶ。
第 6 回	ハッブル・ルメートルの法則と宇宙膨張	ハッブル・ルメートルの法則について学び、宇宙膨張の概念を導入する。
第 7 回	宇宙年齢とビッグバン	宇宙の年齢とビッグバンについて学ぶ。
第 8 回	宇宙の大規模構造	宇宙全体の構造について学ぶ。赤方偏移探索について学ぶ。
第 9 回	宇宙の地平線と宇宙の未来	宇宙の「果て」と未来について議論する。

第 10 回 宇宙マイクロ波背景放射 宇宙マイクロ波背景放射の観測と宇宙論における意味について学ぶ。

第 11 回 宇宙背景放射 ビッグバンの残光である宇宙背景放射について学ぶ。

第 12 回 地球外生命探査 地球外生命探査の現状と展望について議論する。

第 13 回 宇宙のふしぎ 天文学 A と B を通じて残された「素朴な疑問」について考える。

第 14 回 期末試験 期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

状況のよっては観望会を行うことがあるが参加は任意である。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果は概ね好評であった。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインで動画を視聴し資料を閲覧するためのパソコンやタブレット等の情報機器。

【その他の重要事項】

昨年度は履修者が多すぎたため、本年度は定員を設けた。

【Outline (in English)】

Course outline: Astronomy, the Milky way, galaxy, cosmology.

Learning objectives: The students learn the introduction of astronomy. In the fall semester, we focus on galaxies and the Universe.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他
/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	天文学とは	宇宙と天文の字義から全体像を説き起こす。
2	宇宙の姿	すばる望遠鏡などによる宇宙の鮮明な画像や映像を紹介する。
3	身近な天体	太陽、月および地球について学習する。
4	近くの惑星	水星、金星および火星について学習する。
5	遠くの惑星	木星、土星、天王星および海王星について学習する。
6	太陽系の果て	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	望遠鏡	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星	恒星の誕生から死までの一生について学ぶ。
10	銀河	星およびガスの集まりである銀河等について学ぶ。
11	宇宙構造	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	宇宙史	ビッグバンと宇宙膨張を中心に宇宙の歴史について学ぶ。
13	ダークマター	銀河の回転曲線の謎をはじめ、宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。

14 ブラックホール 超新星の爆発と巨大ブラックホールなど宇宙におけるブラックホールの役割を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知する。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

[https://www.researchgate.net/publication/327306485_](https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese)

Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

[https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_](https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese)

on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the wonder of the universe.

(Learning Objectives) Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2022 年 4 月 3 日（日）10：00～6 日（水）9：00、結果発表は 4 月 6 日（水）22：00（予定）です。履修ガイド（<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2022/>）を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。定員に満たない場合も、抽選結果発表後の追加受入れは一切ありません。履修を希望する場合は、必ずエントリー期間内に申し込んでください。

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布資料およびビデオ教材を用いて自己学習する。授業内容に関して学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容は、毎回、授業支援システムの「お知らせ」で通知する。

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

スライド集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_-_in_Japanese

質疑応答集の PDF ファイル

https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitation_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に必要な参考資料の入手方法、および無料でアクセス可能なビデオ教材等の情報は、随時、学習支援システムの「お知らせ」を通じて通知する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the enigma of gravitation.

(Learning Objectives) Obtain historical knowledge on astronomy such as the heliocentric/geocentric theory, Newton's mechanics, and relativity theories.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学 (自然科学) の歴史を中心に学ぶ (秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい)。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である:

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける (最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展 (1)	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心にみていく

第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題 (ごく簡単な回答で済むものにする予定) によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと (質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい)。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

(質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。)

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に定めて、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』(すばる舎)、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生 (上・下)』(講談社学術文庫)、トマス・クーン『コペルニクス革命』(講談社学術文庫)、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』(岩波書店)、S・ワインバーグ『科学の発見』(紀伊國屋書店)、S・シェイビン&S・シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』(名古屋大学出版会)、木島泰三『自由意志の向こう側』(講談社選書メチエ)を挙げておく (なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる)。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変じ、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ

第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2)／「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2)／19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2)／現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時にしてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術は多くの成果とともに、解決すべき新しい課題を社会にもたらしてきました。本授業では、科学・技術の社会的側面に注目しながらその歴史を概観し、特に近現代の科学・技術がもたらした社会問題を分析的に説明できるようになることを目指します。それを通して、科学・技術がもたらした新しい課題に対処するための考え方の基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

- ・科学・技術と社会の関係について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
- ・科学・技術と社会の関係について、政治・経済・文化などの観点をもとに具体的に説明できる。
- ・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第 2 回	科学・技術と社会をめぐる諸理論	科学・技術の社会的側面を考察するための代表的な諸理論を紹介します。
第 3 回	科学・技術の歴史的概観	近代にいたるまでの科学・技術の歴史を概観します。
第 4 回	科学・技術の制度化	科学・技術が制度化した歴史的過程を概観します。
第 5 回	科学・技術と産業	科学・技術と産業の関係について歴史的観点を踏まえながら検討します。
第 6 回	科学・技術と国家①	科学・技術と近代国家の関係について歴史的に概観します。
第 7 回	科学・技術と国家②	科学・技術と国家の関係について、軍事技術を取り上げながら検討します。
第 8 回	科学・技術と価値①	科学・技術の価値中立性について、歴史的観点を踏まえながら検討します。

第 9 回 科学・技術と価値②

科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、具体例を取り上げながら考察します。

第 10 回 科学・技術と環境①

環境思想の高まりについて歴史的に概観します。

第 11 回 科学・技術と環境②

科学・技術がもたらした環境問題について歴史的に概観します。

第 12 回 科学・技術と環境③

環境倫理学の主張を取り上げながら科学・技術と環境の関係について考察します。

第 13 回 科学・技術と私たち

科学・技術とどのようにかわるのか、またどのようにかわるべきなのかについて考察します。

第 14 回 試験・まとめと解説

授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

古川安『科学の社会史：ルネサンスから 20 世紀まで』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2018 年
中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008 年
野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015 年
小林傳司『公共のための科学技術』玉川大学出版部、2002 年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50 %）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline

Science and technology have brought many achievements as well as new problems to be solved to society. In this course, we will overview the history of science and technology, paying attention to its social aspects, and aim to be able to analytically explain the social problems brought about by science and technology, especially in modern times. Through this, students will build a foundation of thinking to deal with new issues that science and technology can bring.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the relationship between science, technology and society in concrete terms from a historical perspective.
- Explain the relationship between science, technology and society from the perspective of politics, economics, and culture.
- Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology and society.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の歴史を学ぶことは科学・技術の将来を考察することにつながります。本授業では、事例研究を通して現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらさう問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。

- ・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
- ・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
- ・本授業で扱う事例について、自らの考えを他者に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方的講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第 2 回	事例研究の進め方	具体例を用いながらケーススタディ、ケースメソッドについて説明します。
第 3 回	事例「チャレンジャー号事故」	チャレンジャー号事故を事例として研究します。
第 4 回	事例「水俣病」	水俣病を事例として研究します。
第 5 回	事例「BSE 問題」	BSE 問題を事例として研究します。
第 6 回	事例「Winny 事件」	Winny 事件を事例として研究します。
第 7 回	事例「フォード・ピント事件」	フォード・ピント事件を事例として研究します。
第 8 回	事例「マンハッタン計画」	マンハッタン計画を事例として研究します。
第 9 回	事例「ベル研シェーン事件」	ベル研シェーン事件を事例として研究します。
第 10 回	仮想事例「The Lab」	仮想事例 The Lab を通して問題を検討します。
第 11 回	事例「アミノノクロウサギ訴訟」	アミノノクロウサギ訴訟を事例として研究します。

第 12 回	事例「モーゼスの橋」	モーゼスの橋を事例として研究します。
第 13 回	科学・技術と私たち	科学・技術とどのようにかわるのか、またどのようにかわるべきなのかについて考察します。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008 年
野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015 年
藤垣裕子編『科学技術社会論の技法』東京大学出版会、2005 年
伊勢田哲治[ほか]編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013 年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50 %）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline

Studying the history of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology through case studies, and aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
- Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
- Explain your own ideas to others about the cases dealt with in this course.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it, and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展 (1)	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心にみていく

第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めて、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイビン&S・シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀:○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ

- | | | |
|--------|--|---|
| 第 5 回 | 近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック | 17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく |
| 第 6 回 | 進化論前史から『種の起原』公刊まで (1) | 19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する |
| 第 7 回 | 進化論前史から『種の起原』公刊まで (2) | ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく |
| 第 8 回 | ダーウィンの自然選択説 (1) | ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく |
| 第 9 回 | ダーウィンの自然選択説 (2)／「偽ダーウィニズム」について | 引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく |
| 第 10 回 | 「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィンの進化論の時代 | 19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する |
| 第 11 回 | 「メンデル革命」と進化の総合説 (1) | 20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく |
| 第 12 回 | 「メンデル革命」と進化の総合説 (2)／19 世紀後半以降の進化論の社会的影響 | 発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく |
| 第 13 回 | 20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1) | 第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ |
| 第 14 回 | 20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2)／現代における進化生物学の影響 | 前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時にしてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学 (自然科学) の歴史を中心に学ぶ (秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい)。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である:

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける (最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展 (1)	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世西ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ
第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心にみていく

第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見るから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題 (ごく簡単な回答で済むものにする予定) によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと (質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい)。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

(質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。)

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に定めて、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』(すばる舎)、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生 (上・下)』(講談社学術文庫)、トマス・クーン『コペルニクス革命』(講談社学術文庫)、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』(岩波書店)、S・ワインバーグ『科学の発見』(紀伊國屋書店)、S・シェイビン&S・シャッフアー『リヴァイアサンと空気ポンプ』(名古屋大学出版会)、木島泰三『自由意志の向こう側』(講談社選書メチエ) を挙げておく (なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる)。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのとは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変じ、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学史の事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP2、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ
第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ

第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択 (自然淘汰) は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定/目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2) / 「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方をの特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」(ボウラー)を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2) / 19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2) / 現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題 (ごく簡単な回答で済むものにする予定) によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと (質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい)。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

(質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。)

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』(すばる舎)、C・U・M・スミス『生命観の歴史 (上・下)』(岩波書店)、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史 (上・下)』(朝日選書)、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』(朝日新聞出版)、垂水雄二『進化論物語』(バジリコ株式会社)、木島泰三『自由意志の向こう側』(講談社選書メチエ) など (なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある)。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

化学ではプリントを配布して授業を進めます。
物理では、プリントとワークシートを配布します。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。
物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第14週	灰の文化誌（化学）	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第14週	灰の文化誌（化学）	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回で参考資料を提示します。

物理学では、必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回ごとに参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回で参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の世界を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回で参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	植物と光1 （太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。 光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第3週	植物と光2 光合成の 仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。

第4週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第5週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。
物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。
物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	遺伝子とは何か (生物学)	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第3週	細胞分裂と染色体 (生物学)	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第4週	生物の設計図としての DNA (生物学)	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程 (セントラルドグマ) を解説する。
第5週	DNA の抽出実験 (生物学)	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸と塩基 (化学)	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第14週	灰の文化誌 (化学)	今は灰を見る機会さえなくなりましたが、かつて灰はいろいろなものに利用されてきました。灰を有効利用してきた先人たちの知恵を学びます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になるとと思います。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	植物と光1 （太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第3週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。

第4週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第5週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室(サイエンスルーム)を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	遺伝子とは何か (生物学)	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第3週	細胞分裂と染色体 (生物学)	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第4週	生物の設計図としての DNA (生物学)	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程 (セントラルドグマ) を解説する。
第5週	DNA の抽出実験 (生物学)	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第11週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み (化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	植物と光1 （太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。 光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第3週	植物と光2 光合成の 仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。

第4週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第5週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたミクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子 組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	遺伝子とは何か (生物学)	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ
第3週	細胞分裂と染色体 (生物学)	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第4週	生物の設計図としての DNA (生物学)	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程 (セントラルドグマ) を解説する。
第5週	DNA の抽出実験 (生物学)	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み (化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	植物と光1 （太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。 光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第3週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。

第4週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第5週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	遺伝子とは何か (生物学)	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ
第3週	細胞分裂と染色体 (生物学)	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第4週	生物の設計図としての DNA (生物学)	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程 (セントラルドグマ) を解説する。
第5週	DNA の抽出実験 (生物学)	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第6週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第7週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験 (物理学)	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷 (化学)	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験 (化学)	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験 (化学)	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み (化学)	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定 (化学)	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の世界を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第3週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第4週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第5週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第6週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第7週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第8週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第9週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第10週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第11週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第12週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第13週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第14週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第3週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第4週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第5週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第6週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第7週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第8週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第9週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第10週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の世界と関係性を学ぶ
第11週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第12週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第13週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の世界を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第14週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を見出したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になるとと思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を見つけたかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学では、必要に応じて紹介します。

生物では、各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では、各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を見つけたかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	植物と光1（太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第12週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第13週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第14週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」、培風館、1999。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。
第10週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第11週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第12週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第13週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第14週	ゲノム時代への対応（生物学）	遺伝学がどのように利用されているのか、ゲノムプロジェクトやゲノム編集技術等を紹介し、遺伝子組み換え食品、ゲノム診断の導入など今後の展開方向を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制（24 名）

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第 6 週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み (化学)	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池 (シリコン型) との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	植物と光 1 (太陽) 光と生態系 (生物学)	生物と (太陽) 光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第 12 週	植物と光 2 光合成の仕組み (生物学)	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第 13 週	動物と光 1 動物の活動と光 (生物学)	光走性、概日リズム (体内時計) など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第 14 週	動物と光 2 眼点による光受容 (生物学)	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト (各自) の盲斑の位置と形を測定する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室 (サイエンスルーム) を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは (物理学)	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー (物理学)	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験 (物理学)	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第 11 週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第 12 週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第 13 週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第 14 週	ゲノム時代への対応（生物学）	遺伝学がどのように利用されているのか、ゲノムプロジェクトやゲノム編集技術等を紹介し、遺伝子組み換え食品、ゲノム診断の導入など今後の展開方向を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	植物と光1（太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第12週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第13週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第14週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週 LEDの実験（物理学） LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第6週 燃焼から見る反応理解の変遷（化学） 物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。

第7週 銅の反応実験（化学） 銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第8週 マグネシウム金属の燃焼実験（化学） 燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第9週 燃料電池の発電効率の測定（化学） 燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第10週 遺伝子とは何か（生物学） 遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。

第11週 細胞分裂と染色体（生物学） 細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNAの関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。

第12週 生物の設計図としてのDNA（生物学） DNAの構造とその機能について学び、DNAの二重らせんモデルを作成する。DNAからタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。

第13週 DNAの抽出実験（生物学） ブロコリーを用いて、細胞からDNAを抽出する。得られた物質がDNAであることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。

第14週 ゲノム時代への対応（生物学） 遺伝学がどのように利用されているのか、ゲノムプロジェクトやゲノム編集技術等を紹介し、遺伝子組み換え食品、ゲノム診断の導入など今後の展開方向を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ。
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	植物と光1（太陽） 光と生態系（生物学）	生物と（太陽）光との関わりの概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第12週	植物と光2 光合成の仕組み（生物学）	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第13週	動物と光1 動物の活動と光（生物学）	光走性、概日リズム（体内時計）など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第14週	動物と光2 眼点による光受容（生物学）	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト（各自）の盲斑の位置と形を測定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第11週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNAの関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第12週	生物の設計図としてのDNA（生物学）	DNAの構造とその機能について学び、DNAの二重らせんモデルを作成する。DNAからタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第13週	DNAの抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞からDNAを抽出する。得られた物質がDNAであることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第14週	ゲノム時代への対応（生物学）	遺伝学がどのように利用されているのか、ゲノムプロジェクトやゲノム編集技術等を紹介し、遺伝子組み換え食品、ゲノム診断の導入など今後の展開方向を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。

第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ。
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999. 物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。

第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザ光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999. 物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。

第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。物理では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、吉田 智

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザ光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では、各授業回に参考資料を提示します。

物理学では必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の実験と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

伊藤 晋平、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

生物では各授業回に参考資料を提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。
ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。
物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。
物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナータワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	植物と光1 (太陽光と生態系生物学)	生物と (太陽) 光との関わりを概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第7週	植物と光2 光合成の仕組み (生物学)	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第8週	動物と光1 動物の活動と光 (生物学)	光走性、概日リズム (体内時計) など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第9週	動物と光2 眼点による光受容 (生物学)	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト (各自) の盲点の位置と形を測定する。
第10週	動物と光3 ヒトのからだと感覚器 (生物学)	ヒトは体外からの光情報を目で捉え、脳で解析する。この過程及び光以外の情報を収集する感覚器を紹介し、痛点を調べる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

色に関しては 中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の実験との関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	酸と塩基（化学）	燃焼によって生成される気体は酸性、灰はアルカリ性を示します。合わせて pH について学びます。

第6週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第7週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第8週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第9週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED をういて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

化学では高校の化学の教科書がもっとも参考になると思います。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) や人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナータワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	植物と光1 (太陽光と生態系 (生物学))	生物と (太陽) 光との関わりを概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第7週	植物と光2 光合成の仕組み (生物学)	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第8週	動物と光1 動物の活動と光 (生物学)	光走性、概日リズム (体内時計) など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第9週	動物と光2 眼点による光受容 (生物学)	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト (各自) の盲点の位置と形を測定する。
第10週	動物と光3 ヒトのからだと感覚器 (生物学)	ヒトは体外からの光情報を目で捉え、脳で解析する。この過程及び光以外の情報を収集する感覚器を紹介し、痛点を調べる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、経塚 啓一郎、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の実験と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ
第7週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第8週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第9週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに

進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

物理学のレポート作成に不安を感じている人も心配無用です。

物理では実験で使うワークシートをレポートとしているので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナータワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	植物と光1 (太陽光と生態系 (生物学))	生物と (太陽) 光との関わりを概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第7週	植物と光2 光合成の仕組み (生物学)	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第8週	動物と光1 動物の活動と光 (生物学)	光走性、概日リズム (体内時計) など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第9週	動物と光2 眼点による光受容 (生物学)	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト (各自) の盲点の位置と形を測定する。
第10週	動物と光3 ヒトのからだと感覚器 (生物学)	ヒトは体外からの光情報を目で捉え、脳で解析する。この過程及び光以外の情報を収集する感覚器を紹介し、痛点を調べる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ
第7週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第8週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第9週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナー・タワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

第6週	植物と光1 (太陽光と生態系 (生物学))	生物と (太陽) 光との関わりを概要を、ビデオを通じて紹介する。光周性、光屈性、光合成など植物と光との関わりを理解し、葉の構造を観察する。
第7週	植物と光2 光合成の仕組み (生物学)	光合成のしくみを学び、植物細胞及び葉緑体を観察する。水生植物オオカナダモを用いた光合成と波長特性の実験を行ない、実験レポートの書き方を学ぶ。
第8週	動物と光1 動物の活動と光 (生物学)	光走性、概日リズム (体内時計) など動物と光の関係を学び、アルテミアの走光性と波長特性について実験を行う。
第9週	動物と光2 眼点による光受容 (生物学)	動物の光受容器官は眼点であること、眼点で光を受容してものが見える仕組みを学ぶ。ヒト (各自) の盲点の位置と形を測定する。
第10週	動物と光3 ヒトのからだと感覚器 (生物学)	ヒトは体外からの光情報を目で捉え、脳で解析する。この過程及び光以外の情報を収集する感覚器を紹介し、痛点を調べる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気との歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第6週	遺伝子とは何か（生物学）	遺伝学の概要を、研究史を含めてビデオで紹介する。科学的手法による現代遺伝学の出発点であるメンデルの法則と、遺伝子、DNA、ゲノムについて学ぶ。
第7週	細胞分裂と染色体（生物学）	細胞の構造と染色体、細胞分裂の仕組みなど、染色体と遺伝子、DNA の関わりを学び、ニンニクの根端細胞の細胞分裂過程を観察する。核型や染色体異常についても解説する。
第8週	生物の設計図としての DNA（生物学）	DNA の構造とその機能について学び、DNA の二重らせんモデルを作成する。DNA からタンパク合成に至る過程（セントラルドグマ）を解説する。
第9週	DNA の抽出実験（生物学）	ブロッコリーを用いて、細胞から DNA を抽出する。得られた物質が DNA であることを証明し、実験レポート作成法を学ぶ。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。

ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開: グローバル: 成績優秀: ○ 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係 (光走性、概日リズムなど) を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

＜物理学＞太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

＜化学＞光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験 (色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など) によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室 (サイエンスルーム) を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	物質と光の相互作用 (化学)	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第3週	分子模型を使った分子組み立て (化学)	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第4週	色素の抽出と合成 (化学)	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第5週	色素増感太陽電池の評価 (化学)	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第6週	光合成のしくみ (生物学)	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第7週	植物と光 (生物学)	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第8週	動物と光 (生物学)	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第9週	視覚のしくみ -1- (生物学)	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第10週	視覚のしくみ -2- (生物学)	盲斑の位置と形を測定し (続き)、その結果をレポートにまとめる。
第11週	光の性質 (物理学)	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第12週	太陽電池の実験 (物理学)	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第13週	光スペクトルの観察 (物理学)	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第14週	ナノワールドの観察 (物理学)	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント (大学院生) のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、小林 富美恵、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

※定員制 (24 名)

他学部公開： グローバル： 成績優秀：○ 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

＜生物学＞メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

＜物理学＞電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

＜化学＞古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第5週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。

第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが心配は無用です。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、マニュアル通りに進めれば実験に不慣れな文系学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業はオンラインまたは対面形式での講義とディスカッション、対面形式での数種目のスポーツ実技から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、詳細については各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	自宅で実践可能な体力テストを実施する。
3	ドッチビー	フライングディスクの基礎的な技術を身に着けた後、ゲームを実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。
4	卓球 (実践)	ゲーム (シングルス) を実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。
5	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏: 講義)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル) と身体活動のあり方について学習する (講義)
6	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏: 演習)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル) と身体活動のあり方について議論する (演習)
7	バスケットボール (基礎)	基本的な動作 (ドリブル、パス) を学習する (講義・演習)。

8	バスケットボール (実践)	ミニゲーム (3 対 3) を実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。
9	バドミントン (基礎)	基本的な動作 (ラケットの操作方法、シャトルの当て方) を学習する (講義・演習)。
10	バドミントン (実践: シングル)	ゲーム (シングルス) を実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。
11	バドミントン (実践: ダブルス)	ゲーム (ダブルス) を実践し、実践的な戦術について学習する (講義・実習)。
12	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏: 講義)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症) と身体活動のあり方について学習する (講義)
13	バスケットボール (実践)	ゲーム (5 対 5) を実践し、実践的な戦術について学習する (講義・実習)。
14	卓球 (実践)	ゲーム (ダブルス) を実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 講義に関するレポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面での交流や活動を希望する学生が多かったため、実技や講義・演習においても学生間の交流やグループ活動を充実させ、可能な限り学生間のコミュニケーションの機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

講義・演習はオンラインで実施する場合もあります。PC と web 環境を整えてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業はオンラインまたは対面形式での講義とディスカッション、対面形式での数種目のスポーツ実技から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、詳細については各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	自宅で実践可能な体力テストを実施する。
3	ドッチビー	フライングディスクの基礎的な技術を身につけた後、ゲームを実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
4	卓球（実践）	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
5	身体活動と超高齢社会（身体的虚弱偏：講義）	超高齢社会における身体的な虚弱（フレイル）と身体活動のあり方について学習する（講義）
6	身体活動と超高齢社会（身体的虚弱偏：演習）	超高齢社会における身体的な虚弱（フレイル）と身体活動のあり方について議論する（演習）
7	バスケットボール（基礎）	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・演習）。

8	バスケットボール（実践）	ミニゲーム（3 対 3）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
9	バドミントン（基礎）	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
10	バドミントン（実践：シングルス）	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
11	バドミントン（実践：ダブルス）	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。
12	身体活動と超高齢社会（認知的虚弱偏：講義）	超高齢社会における認知的な虚弱（認知症）と身体活動のあり方について学習する（講義）。
13	バスケットボール（実践）	ゲーム（5 対 5）を実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。
14	卓球（実践）	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 講義に関するレポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

【学生の意見等からの気づき】

対面での交流や活動を希望する学生が多かったため、実技や講義・演習においても学生間の交流やグループ活動を充実させ、可能な限り学生間のコミュニケーションの機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

講義・演習はオンラインで実施する場合があります。PC と web 環境を整えてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内 花恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

。この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業内容について、ガイダンスを通じて理解する。
2	体力測定（講義及び実技）	自分自身の体力について、現状を理解し考察する。
3	運動と健康（講義）	運動やスポーツ活動が心身の健康にどのように影響を与えるのか学ぶ。
4	自己理解と他者理解（講義）	自己理解と他者理解について学ぶ。
5	バスケットボールⅠ（講義及び実技）	バスケットボールの基礎を学ぶ。
6	バスケットボールⅡ（講義及び実技）	バスケットボールの基礎と応用を学び、ゲームを通じて、他者理解や協働性を学ぶ。
7	バスケットボールⅢ（講義及び実技）	バスケットボールのゲームを通じて、他者とのコミュニケーションや集団凝集性を学ぶ。
8	ヨーガⅠ（講義及び実技）	ヨーガの動きやポーズ、呼吸法を体験し、心と身体への理解を深める。

9	ヨーガⅡ（講義及び実技）	ヨーガの瞑想法を体験し、心と身体の変化について学ぶ。
10	ヨーガⅢ（講義及び実技）	レストラティブヨーガ、ヨーガニドラによる深いリラクゼーションを体験し、心と身体の変化について学ぶ。
11	心と身体の繋がりについて（講義）	東洋の技法やボディワークについて学び、心と身体の繋がりについて理解を深める。
12	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅠ（講義及び実技）	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、運動の楽しさや身体感覚について学ぶ。
13	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅡ（講義及び実技）	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、自分の身体の特徴を知る。
14	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅢ（講義及び実技）	自分の身体の特徴に合った、エクササイズとストレッチを考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 %の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規授業担当のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内 花恵

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業内容について、ガイダンスを通じて理解する。
2	体力測定 (講義及び実技)	自分自身の体力について、現状を理解し考察する。
3	運動と健康 (講義)	運動やスポーツ活動が心身の健康にどのように影響を与えるのか学ぶ。
4	自己理解と他者理解 (講義)	自己理解と他者理解について学ぶ。
5	バスケットボール I (講義及び実技)	バスケットボールの基礎を学ぶ。
6	バスケットボール II (講義及び実技)	バスケットボールの基礎と応用を学び、ゲームを通じて、他者理解や協働性を学ぶ。
7	バスケットボール III (講義及び実技)	バスケットボールのゲームを通じて、他者とのコミュニケーションや集団凝集性を学ぶ。
8	ヨーガ I (講義及び実技)	ヨーガの動きやポーズ、呼吸法を体験し、心と身体への理解を深める。

9	ヨーガ II (講義及び実技)	ヨーガの瞑想法を体験し、心と身体の変化について学ぶ。
10	ヨーガ III (講義及び実技)	レストラティブヨーガ、ヨーガニドラによる深いリラクゼーションを体験し、心と身体の変化について学ぶ。
11	心と身体の繋がりについて (講義)	東洋の技法やボディワークについて学び、心と身体の繋がりについて理解を深める。
12	バランスボールエクササイズ&ストレッチ I (講義及び実技)	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、運動の楽しさや身体感覚について学ぶ。
13	バランスボールエクササイズ&ストレッチ II (講義及び実技)	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、自分の身体の特徴を知る。
14	バランスボールエクササイズ&ストレッチ III (講義及び実技)	自分の身体の特徴に合った、エクササイズとストレッチを考案する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規授業担当のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部 成雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。（講義）
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。（講義および実習）
3	ドッチビー	ドッチビーを通して、グループ活動を実践する。（講義及び実習）
4	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールを通して、グループ活動を実践する。（講義及び実習）
5	コミュニケーションを学ぶ (1)	講義およびグループワークを通じて、自己理解、他者理解を深める。（講義）
6	バドミントン	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
7	心身の健康 (1)	心身の健康とストレス、生活習慣について学び、意見交換を行う。（講義）
8	心身の健康 (2)	ストレスマネジメント、リラクセーションについて学び、意見を交換する。（講義及び実習）

9	卓球	卓球のルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
10	身体活動と健康	身体活動と健康、セルフモニタリングについて学び、意見交換を行う。（講義）
11	行動変容、目標設定	行動変容、目標設定について学び、今後の自身の運動習慣について意見交換を行う。（講義）
12	バドミントン	バドミントンの戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
13	コミュニケーション (2)	講義およびグループワークを通して、コミュニケーションのスタイルについて学び、意見を交換する。（講義）
14	ユニホック	ユニホックのルールや技術を学び、実践する。（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当教員のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

実技の実施時には、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。必要な際は事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとって行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態（対面・オンライン）に変更が生じる場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部 成雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。（講義）
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。（講義および実習）
3	ドッチビー	ドッチビーを通して、グループ活動を実践する。（講義及び実習）
4	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールを通して、グループ活動を実践する。（講義及び実習）
5	コミュニケーションを学ぶ (1)	講義およびグループワークを通じて、自己理解、他者理解を深める。（講義）
6	バドミントン	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
7	心身の健康 (1)	心身の健康とストレス、生活習慣について学び、意見交換を行う。（講義）
8	心身の健康 (2)	ストレスマネジメント、リラクゼーションについて学び、意見を交換する。（講義及び実習）

9	卓球	卓球のルールや技術を学び、実践する。(講義及び実習)
10	身体活動と健康	身体活動と健康、セルフモニタリングについて学び、意見交換を行う。(講義)
11	行動変容、目標設定	行動変容、目標設定について学び、今後の自身の運動習慣について意見交換を行う。(講義)
12	バドミントン	バドミントンの戦術を学び、団体戦を行う。(講義及び実習)
13	コミュニケーション (2)	講義およびグループワークを通して、コミュニケーションのスタイルについて学び、意見を交換する。(講義)
14	ユニホック	ユニホックのルールや技術を学び、実践する。(講義および実習)

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当教員のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

実技の実施時には、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。必要な際は事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとって行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態（対面・オンライン）に変更が生じる場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

金 泰浩

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1
単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。(講義)
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。(講義・実習)
3	運動と体力	運動の必要性和自分の体力について改善方法を習得する。(講義・実習)
4	身体活動と健康	身体活動が健康に及ぼす影響を学び、自分の身体活動を把握する。(講義・実習)
5	バドミントンⅠ	基礎技術や戦術を学び、ゲーム(シングルス)を行う。(講義・実習)
6	バドミントンⅡ	基礎技術や戦術を学び、ゲーム(ダブルス)を行う。(講義・実習)
7	バスケットボールⅠ	バスケットボールの基礎技術とルールを理解し、基本技術の習得を行う。(講義・実習)

8	バスケットボールⅡ	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。(講義・実習)
9	健康体力づくり	身体を動かすこと・健康を保つことに対する体組成・代謝・体力要素を学ぶ。(講義・実習)
10	生活習慣病の予防と改善	運動だけでなく、食事、睡眠、喫煙、飲酒などにおける複数の対策を組み合わせ生活習慣を改善することを学ぶ。(講義・実習)
11	身体活動と介護予防	介護予防のための身体機能障害・サルコペニアなどの予防と改善方法を学ぶ。(講義・実習)
12	フットサル	基礎技術やルールを学び、ゲームを行う。(講義・実習)
13	バレーボール	基礎技術やルールを学び、ゲームを行う。(講義・実習)
14	まとめ	スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、身体活動改善と健康管理について復習する。(講義・実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

また、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規授業担当のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻 大士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
4	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
5	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
6	バレーボールを学ぶ	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
7	バスケットボールを学ぶ	バスケットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）

8	ドッジボールを学ぶ	ドッジボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
12	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
13	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
14	身体活動と心理的効果	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係性を学ぶ（講義及び演習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内 花恵

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業内容について、ガイダンスを通じて理解する。
2	体力測定 (講義及び実技)	自分自身の体力について、現状を理解し考察する。
3	運動と健康 (講義)	運動やスポーツ活動が心身の健康にどのように影響を与えるのか学ぶ。
4	自己理解と他者理解 (講義)	自己理解と他者理解について学ぶ。
5	バスケットボール I (講義及び実技)	バスケットボールの基礎を学ぶ。
6	バスケットボール II (講義及び実技)	バスケットボールの基礎と応用を学び、ゲームを通じて、他者理解や協働性を学ぶ。
7	バスケットボール III (講義及び実技)	バスケットボールのゲームを通じて、他者とのコミュニケーションや集団凝集性を学ぶ。
8	ヨーガ I (講義及び実技)	ヨーガの動きやポーズ、呼吸法を体験し、心と身体への理解を深める。

9	ヨーガ II (講義及び実技)	ヨーガの瞑想法を体験し、心と身体の変化について学ぶ。
10	ヨーガ III (講義及び実技)	レストラティブヨーガ、ヨーガニドラによる深いリラクゼーションを体験し、心と身体の変化について学ぶ。
11	心と身体の繋がりについて (講義)	東洋の技法やボディワークについて学び、心と身体の繋がりについて理解を深める。
12	バランスボールエクササイズ&ストレッチ I (講義及び実技)	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、運動の楽しさや身体感覚について学ぶ。
13	バランスボールエクササイズ&ストレッチ II (講義及び実技)	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、自分の身体の特徴を知る。
14	バランスボールエクササイズ&ストレッチ III (講義及び実技)	自分の身体の特徴に合った、エクササイズとストレッチを考案する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course purpose understanding role and significance of physical activity deeply. Students learn about importance of health care in physically, mentally, socially and self management through this course.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内 花恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業内容について、ガイダンスを通じて理解する。
2	体力測定（講義及び実技）	自分自身の体力について、現状を理解し考察する。
3	運動と健康（講義）	運動やスポーツ活動が心身の健康にどのように影響を与えるのか学ぶ。
4	自己理解と他者理解（講義）	自己理解と他者理解について学ぶ。
5	バスケットボールⅠ（講義及び実技）	バスケットボールの基礎を学ぶ。
6	バスケットボールⅡ（講義及び実技）	バスケットボールの基礎と応用を学び、ゲームを通じて、他者理解や協働性を学ぶ。
7	バスケットボールⅢ（講義及び実技）	バスケットボールのゲームを通じて、他者とのコミュニケーションや集団凝集性を学ぶ。
8	ヨーガⅠ（講義及び実技）	ヨーガの動きやポーズ、呼吸法を体験し、心と身体への理解を深める。

9	ヨーガⅡ（講義及び実技）	ヨーガの瞑想法を体験し、心と身体の変化について学ぶ。
10	ヨーガⅢ（講義及び実技）	レストラティブヨーガ、ヨーガニドラによる深いリラクゼーションを体験し、心と身体の変化について学ぶ。
11	心と身体の繋がりについて（講義）	東洋の技法やボディワークについて学び、心と身体の繋がりについて理解を深める。
12	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅠ（講義及び実技）	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、運動の楽しさや身体感覚について学ぶ。
13	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅡ（講義及び実技）	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、自分の身体の特徴を知る。
14	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅢ（講義及び実技）	自分の身体の特徴に合った、エクササイズとストレッチを考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course purpose understanding role and significance of physical activity deeply. Students learn about importance of health care in physically, mentally, socially and self management through this course.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大須賀 洋祐

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業はオンラインまたは対面形式での講義とディスカッション、対面形式での数種目のスポーツ実技から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、詳細については各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	自宅で実践可能な体力テストを実施する。
3	ドッチビー	フライングディスクの基礎的な技術を身に着けた後、ゲームを実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。
4	卓球 (実践)	ゲーム (シングルス) を実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。
5	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏: 講義)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル) と身体活動のあり方について学習する (講義)
6	身体活動と超高齢社会 (身体的虚弱偏: 演習)	超高齢社会における身体的な虚弱 (フレイル) と身体活動のあり方について議論する (演習)
7	バスケットボール (基礎)	基本的な動作 (ドリブル、パス) を学習する (講義・演習)。

8	バスケットボール (実践)	ミニゲーム (3 対 3) を実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。
9	バドミントン (基礎)	基本的な動作 (ラケットの操作方法、シャトルの当て方) を学習する (講義・演習)。
10	バドミントン (実践: シングル)	ゲーム (シングルス) を実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。
11	バドミントン (実践: ダブルス)	ゲーム (ダブルス) を実践し、実践的な戦術について学習する (講義・実習)。
12	身体活動と超高齢社会 (認知的虚弱偏: 講義)	超高齢社会における認知的な虚弱 (認知症) と身体活動のあり方について学習する (講義)
13	バスケットボール (実践)	ゲーム (5 対 5) を実践し、実践的な戦術について学習する (講義・実習)。
14	卓球 (実践)	ゲーム (ダブルス) を実践し、実践的な技術について学習する (講義・実習)。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 講義に関するレポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面での交流や活動を希望する学生が多かったため、実技や講義・演習においても学生間の交流やグループ活動を充実させ、可能な限り学生間のコミュニケーションの機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

講義・演習はオンラインで実施する場合もあります。PC と web 環境を整えてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業はオンラインまたは対面形式での講義とディスカッション、対面形式での数種目のスポーツ実技から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、詳細については各学部のガイダンスおよび初回授業において説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定	自宅で実践可能な体力テストを実施する。
3	ドッチビー	フライングディスクの基礎的な技術を身につけた後、ゲームを実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
4	卓球（実践）	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
5	身体活動と超高齢社会（身体的虚弱偏：講義）	超高齢社会における身体的な虚弱（フレイル）と身体活動のあり方について学習する（講義）
6	身体活動と超高齢社会（身体的虚弱偏：演習）	超高齢社会における身体的な虚弱（フレイル）と身体活動のあり方について議論する（演習）
7	バスケットボール（基礎）	基本的な動作（ドリブル、パス）を学習する（講義・演習）。

8	バスケットボール（実践）	ミニゲーム（3 対 3）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
9	バドミントン（基礎）	基本的な動作（ラケットの操作方法、シャトルの当て方）を学習する（講義・演習）。
10	バドミントン（実践：シングルス）	ゲーム（シングルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。
11	バドミントン（実践：ダブルス）	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。
12	身体活動と超高齢社会（認知的虚弱偏：講義）	超高齢社会における認知的な虚弱（認知症）と身体活動のあり方について学習する（講義）
13	バスケットボール（実践）	ゲーム（5 対 5）を実践し、実践的な戦術について学習する（講義・実習）。
14	卓球（実践）	ゲーム（ダブルス）を実践し、実践的な技術について学習する（講義・実習）。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 講義に関するレポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

対面での交流や活動を希望する学生が多かったため、実技や講義・演習においても学生間の交流やグループ活動を充実させ、可能な限り学生間のコミュニケーションの機会を増やす予定です。

【学生が準備すべき機器他】

講義・演習はオンラインで実施する場合があります。PC と web 環境を整えてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部 成雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。（講義）
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。（講義および実習）
3	ドッチビー	ドッチビーを通して、グループ活動を実践する。（講義及び実習）
4	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールを通して、グループ活動を実践する。（講義及び実習）
5	コミュニケーションを学ぶ (1)	講義およびグループワークを通じて、自己理解、他者理解を深める。（講義）
6	バドミントン	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
7	心身の健康 (1)	心身の健康とストレス、生活習慣について学び、意見交換を行う。（講義）
8	心身の健康 (2)	ストレスマネジメント、リラクセーションについて学び、意見を交換する。（講義及び実習）

9	卓球	卓球のルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
10	身体活動と健康	身体活動と健康、セルフモニタリングについて学び、意見交換を行う。（講義）
11	行動変容、目標設定	行動変容、目標設定について学び、今後の自身の運動習慣について意見交換を行う。（講義）
12	バドミントン	バドミントンの戦術を学び、団体戦を行う。（講義及び実習）
13	コミュニケーション (2)	講義およびグループワークを通して、コミュニケーションのスタイルについて学び、意見を交換する。（講義）
14	ユニホック	ユニホックのルールや技術を学び、実践する。（講義および実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当教員のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

実技の実施時には、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。必要な際は事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとって行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態（対面・オンライン）に変更が生じる場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部 成雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。（講義）
2	体力を測定する	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。（講義および実習）
3	ドッチビー	ドッチビーを通して、グループ活動を実践する。（講義及び実習）
4	ソフトバレーボール	ソフトバレーボールを通して、グループ活動を実践する。（講義及び実習）
5	コミュニケーションを学ぶ (1)	講義およびグループワークを通じて、自己理解、他者理解を深める。（講義）
6	バドミントン	バドミントンのルールや技術を学び、実践する。（講義及び実習）
7	心身の健康 (1)	心身の健康とストレス、生活習慣について学び、意見交換を行う。（講義）
8	心身の健康 (2)	ストレスマネジメント、リラクゼーションについて学び、意見を交換する。（講義及び実習）

9	卓球	卓球のルールや技術を学び、実践する。(講義及び実習)
10	身体活動と健康	身体活動と健康、セルフモニタリングについて学び、意見交換を行う。(講義)
11	行動変容、目標設定	行動変容、目標設定について学び、今後の自身の運動習慣について意見交換を行う。(講義)
12	バドミントン	バドミントンの戦術を学び、団体戦を行う。(講義及び実習)
13	コミュニケーション (2)	講義およびグループワークを通して、コミュニケーションのスタイルについて学び、意見を交換する。(講義)
14	ユニホック	ユニホックのルールや技術を学び、実践する。(講義および実習)

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示します。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当教員のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

実技の実施時には、スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。必要な際は事前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

1. 毎回授業は特別な指示が無い限り、原則授業が開講される時間割に合わせて行われます。授業に関する連絡や授業で必要となる資料等は、学習支援システムを通じて周知しますので、毎回必ず授業の前に確認してください。
2. 当日体調が優れない学生は無理をせず、担当教員に連絡をしてください。対面講義については、感染対策を十分にとって行いますが、受講生自身も、各自感染対策を徹底したうえで参加してください。
3. 新型コロナウイルス感染拡大状況によって、講義内容や実施形態（対面・オンライン）に変更が生じる場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	アルティメットを学ぶ (講義および実習)	アルティメットのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	バレーボールを学ぶ (講義および実習)	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	スクエアステップを学ぶ (講義および実習)	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する。
6	ユニホックを学ぶ (講義および実習)	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
7	卓球を学ぶ (講義および実習)	卓球のルールや技術を学び、習得する。
8	卓球を学ぶ (講義および実習)	卓球のルールや技術を学び、実践する。

9	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学ぶ (講義および実習)	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	運動と社会的健康との関連を学ぶ (講義および実習)	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
11	フットサルを学ぶ (講義および実習)	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
12	バドミントンを学ぶ (講義および実習)	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
13	ポッチャを学ぶ (講義および実習)	ポッチャのルールや技術を学び、技術を実践する。
14	スポーツと文化との関連を学ぶ (講義)	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「よかった点はやはり楽しく運動できた点です。もともと運動苦手で体育自体好きじゃなかったのですが、授業で運動がストレス解消につながるという内容をやっていて、聞いたことあるけど信じられていなかったのですが、ほんとに気持ち的に良いと感じて、運動するようになりました」などのポジティブな意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

辻 大士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する
2	体力測定	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する
3	バドミントンを学ぶ	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
4	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
5	スクエアステップを学ぶ	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
6	バレーボールを学ぶ	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
7	バスケットボールを学ぶ	バスケットボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）

8	ドッジボールを学ぶ	ドッジボールのルールや技術を学び、技術を実践する（講義及び実習）
9	身体活動と社会（1）	超高齢社会の理解と身体活動のあり方を学ぶ（講義及び演習）
10	身体活動と社会（2）	健康格差と格差拡大予防に向けた方略を学ぶ（講義及び演習）
11	卓球を学ぶ	卓球のルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
12	フライングディスクを学ぶ	フライングディスクのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
13	フットサルを学ぶ	フットサルのルールや技術を学び、実践する（講義及び実習）
14	身体活動と心理的効果	大学生のストレス対処力と部・サークル活動との関係性を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度までの受講学生から、授業内容について概ね良好な評価を受けており、本年度も踏襲して展開する予定である。授業内でのグループやチーム分けを、くじ引きで決めるか学生の自主性に委ねるか柔軟に判断する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

林 容市

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講されます。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与します。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明します。

2022 年度は、3 週目以降は「実技」と「講義」を対面で実践していく予定ですが、状況に応じてオンラインでの講義を含める可能性があります。なお、前週までの授業で実施した演習の結果や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス、授業概要の説明 (講義)
第 2 回	体力測定	体力測定の実践 (講義と実技)
第 3 回	対戦形式 (ネット型) の個人スポーツを学ぶ (1)	卓球の技能練習を通じたグループ活動の実践 (講義および実習)
第 4 回	対戦形式 (ネット型) の個人スポーツを学ぶ (2)	卓球のゲームを通じたグループ活動の実践 (講義および実習)
第 5 回	健康関連情報の使い方を考える	様々な健康関連・医学的情報を理解し、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得 (講義)
第 6 回	エネルギーの摂取・消費から身体活動を考える	基礎代謝量と摂取エネルギー量を算出法と日常における身体活動のあり方の理解 (講義および実習)
第 7 回	対戦形式 (ネット型) の集団スポーツを学ぶ (1)	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践 (講義および実習)
第 8 回	対戦形式 (ネット型) の集団スポーツを学ぶ (2)	バレーボールのゲームを通じたグループ活動の実践 (講義および実習)

第 9 回	ニュースポーツを学ぶ (1)	アルティメットの技能練習を通じたグループ活動の実践 (講義および実習)
第 10 回	ニュースポーツを学ぶ (2)	アルティメットのゲームを通じたグループ活動の実践 (講義および実習)
第 11 回	ニュースポーツを学ぶ (3)	ユニホックを通じたグループ活動の実践 (講義および実習)
第 12 回	運動習慣の確立に関係する要因を学ぶ	身体活動に関連する諸要因の理解と自身の運動習慣の確立に向けた検討 (講義および実習)
第 13 回	身体活動時の感覚について学ぶ	身体活動時に重要となる各種感覚に関連した数種類の測定の実践 (演習)
第 14 回	身体活動時を巧みに行うための生理的・心理的要因について学ぶ	体力要素としての調整力・巧緻性の理解、および前回の演習結果の評価と関連する要因の解説 (講義)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。

また、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践を求めますが、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業において直接配布します。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題・レポート 40%、の配分で総合評価します。

この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は、体育施設の使用制限に伴い、特に実技を取り入れる予定であった回の授業で受講生の皆さんに負担をかけてしまったように感じています。また、講義もオンラインでの授業が複数回となり、受講生間のディスカッションの機会をあまり設けることができませんでした。次年度は、実技・演習、講義それぞれにおいて、到達目標を達成できるよう、受講者の皆さんがコミュニケーションをはかれるような機会を充実させたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

実技を行う回は、スポーツ・身体活動を行うのに適した服装・室内シューズで参加することを出席の条件とします。身体活動が「可能」な服装ではなく、「適した」服装であることが求められますので注意してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義および実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通じて、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講されます。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与します。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明します。

2022 年度は、3 週目以降は「実技」と「講義」を対面で実践していく予定ですが、状況に応じてオンラインでの講義を含める可能性があります。なお、前週までの授業で実施した演習の結果や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンス、授業概要の説明（講義）
第 2 回	体力測定	体力測定の実践（講義と実技）
第 3 回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（1）	卓球の技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 4 回	対戦形式（ネット型）の個人スポーツを学ぶ（2）	卓球のゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 5 回	健康関連情報の使い方を考える	様々な健康関連・医学的情報を理解し、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得（講義）
第 6 回	エネルギーの摂取・消費から身体活動を考える	基礎代謝量と摂取エネルギー量を算出法と日常における身体活動のあり方の理解（講義および演習）
第 7 回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（1）	バレーボールを通じた協同活動の理解と実践（講義および実習）
第 8 回	対戦形式（ネット型）の集団スポーツを学ぶ（2）	バレーボールのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）

第 9 回	ニュースポーツを学ぶ（1）	アルティメットの技能練習を通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 10 回	ニュースポーツを学ぶ（2）	アルティメットのゲームを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 11 回	ニュースポーツを学ぶ（3）	ユニホックを通じたグループ活動の実践（講義および実習）
第 12 回	運動習慣の確立に關係する要因を学ぶ	身体活動に関連する諸要因の理解と自身の運動習慣の確立に向けた検討（講義および演習）
第 13 回	身体活動時の感覚について学ぶ	身体活動時に重要となる各種感覚に関連した数種類の測定の実践（演習）
第 14 回	身体活動時を巧みに行うための生理的・心理的要因について学ぶ	体力要素としての調整力・巧緻性の理解、および前回の演習結果の評価と関連する要因の解説（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。

また、次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践を求めますが、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業において直接配布します。

【参考書】

必要・希望に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、2) 課題・レポート 40%、の配分で総合評価します。

この成績評価法は原則的なものであり、病弱者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は、体育施設の使用制限に伴い、特に実技を取り入れる予定であった回の授業で受講生の皆さんに負担をかけてしまったように感じています。また、講義もオンラインでの授業が複数回となり、受講生間のディスカッションの機会をあまり設けることができませんでした。次年度は、実技・演習、講義それぞれにおいて、到達目標を達成できるよう、受講者の皆さんがコミュニケーションをはかれるような機会を充実させたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

実技を行う回は、スポーツ・身体活動を行うのに適した服装・室内シューズで参加することを出席の条件とします。身体活動が「可能」な服装ではなく、「適した」服装であることが求められますので注意してください。詳細は初回のガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内 花恵

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業内容について、ガイダンスを通じて理解する。
2	体力測定 (講義及び実技)	自分自身の体力について、現状を理解し考察する。
3	運動と健康 (講義)	運動やスポーツ活動が心身の健康にどのように影響を与えるのか学ぶ。
4	自己理解と他者理解 (講義)	自己理解と他者理解について学ぶ。
5	バスケットボール I (講義及び実技)	バスケットボールの基礎を学ぶ。
6	バスケットボール II (講義及び実技)	バスケットボールの基礎と応用を学び、ゲームを通じて、他者理解や協働性を学ぶ。
7	バスケットボール III (講義及び実技)	バスケットボールのゲームを通じて、他者とのコミュニケーションや集団凝集性を学ぶ。
8	ヨーガ I (講義及び実技)	ヨーガの動きやポーズ、呼吸法を体験し、心と身体への理解を深める。

9	ヨーガ II (講義及び実技)	ヨーガの瞑想法を体験し、心と身体の変化について学ぶ。
10	ヨーガ III (講義及び実技)	レストラティブヨーガ、ヨーガニドラによる深いリラクゼーションを体験し、心と身体の変化について学ぶ。
11	心と身体の繋がりについて (講義)	東洋の技法やボディワークについて学び、心と身体の繋がりについて理解を深める。
12	バランスボールエクササイズ&ストレッチ I (講義及び実技)	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、運動の楽しさや身体感覚について学ぶ。
13	バランスボールエクササイズ&ストレッチ II (講義及び実技)	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、自分の身体の特徴を知る。
14	バランスボールエクササイズ&ストレッチ III (講義及び実技)	自分の身体の特徴に合った、エクササイズとストレッチを考案する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course purpose understanding role and significance of physical activity deeply. Students learn about importance of health care in physically, mentally, socially and self management through this course.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

谷内 花恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業内容について、ガイダンスを通じて理解する。
2	体力測定（講義及び実技）	自分自身の体力について、現状を理解し考察する。
3	運動と健康（講義）	運動やスポーツ活動が心身の健康にどのように影響を与えるのか学ぶ
4	自己理解と他者理解（講義）	自己理解と他者理解について学ぶ。
5	バスケットボールⅠ（講義及び実技）	バスケットボールの基礎を学ぶ。
6	バスケットボールⅡ（講義及び実技）	バスケットボールの基礎と応用を学び、ゲームを通じて、他者理解や協働性を学ぶ。
7	バスケットボールⅢ（講義及び実技）	バスケットボールのゲームを通じて、他者とのコミュニケーションや集団凝集性を学ぶ。
8	ヨーガⅠ（講義及び実技）	ヨーガの動きやポーズ、呼吸法を体験し、心と身体への理解を深める。

9	ヨーガⅡ（講義及び実技）	ヨーガの瞑想法を体験し、心と身体の変化について学ぶ。
10	ヨーガⅢ（講義及び実技）	レストラティブヨーガ、ヨーガニドラによる深いリラクゼーションを体験し、心と身体の変化について学ぶ。
11	心と身体の繋がりについて（講義）	東洋の技法やボディワークについて学び、心と身体の繋がりについて理解を深める。
12	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅠ（講義及び実技）	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、運動の楽しさや身体感覚について学ぶ。
13	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅡ（講義及び実技）	バランスボールエクササイズやストレッチを通じて、自分の身体の特徴を知る。
14	バランスボールエクササイズ&ストレッチⅢ（講義及び実技）	自分の身体の特徴に合った、エクササイズとストレッチを考案する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40%の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course purpose understanding role and significance of physical activity deeply. Students learn about importance of health care in physically, mentally, socially and self management through this course.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 3/Tue.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	アルティメットを学ぶ (講義および実習)	アルティメットのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	バレーボールを学ぶ (講義および実習)	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	スクエアステップを学ぶ (講義および実習)	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する。
6	ユニホックを学ぶ (講義および実習)	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
7	卓球を学ぶ (講義および実習)	卓球のルールや技術を学び、習得する。
8	卓球を学ぶ (講義および実習)	卓球のルールや技術を学び、実践する。

9	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学ぶ (講義および実習)	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
10	運動と社会的健康との関連を学ぶ (講義および実習)	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
11	フットサルを学ぶ (講義および実習)	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
12	バドミントンを学ぶ (講義および実習)	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
13	ポッチャを学ぶ (講義および実習)	ポッチャのルールや技術を学び、技術を実践する。
14	スポーツと文化との関連を学ぶ (講義)	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「よかった点はやはり楽しく運動できた点です。もともと運動苦手で体育自体好きじゃなかったのですが、授業で運動がストレス解消につながるという内容をやっていて、聞いたことあるけど信じられていなかったのですが、ほんとに気持ち的に良いと感じて、運動するようになりました」などのポジティブな意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、原則学部・所属クラス単位で構成され、指定された学期・曜日・時限の科目のみ履修可能である。春学期または秋学期いずれかにおいて、週 1 回開講される必修科目である。
この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	スクエアステップを学ぶ（講義および実習）	スクエアステップのルールや技術を学び、技術を実践する。
4	ユニホックを学ぶ（講義および実習）	ユニホックのルールや技術を学び、技術を実践する。
5	アルティメットを学ぶ（講義および実習）	アルティメットのルールや技術を学び、技術を実践する。
6	バレーボールを学ぶ（講義および実習）	バレーボールのルールや技術を学び、技術を実践する。
7	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動・食事・休養と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
8	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。

9	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
10	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
11	バドミントンを学ぶ（講義および実習）	バドミントンのルールや技術を学び、技術を実践する。
12	フットサルを学ぶ（講義および実習）	フットサルのルールや技術を学び、技術を実践する。
13	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
14	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、技術を実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「よかった点はやはり楽しく運動できた点です。もともと運動苦手で体育自体好きじゃなかったのですが、授業で運動がストレス解消につながるという内容をやっていた、聞いたことあるけど信じられていなかったのですが、ほんとに気持ち的に良いと感じて、運動するようになりました」などのポジティブな意見をもらいました。今後も、受講生との対話を大事にして、良い授業を行えるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題 (レポート等) に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	卓球の基本及び実践 (実習 & 講義)	卓球の歴史とルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム。
3	バドミントンの基本及び実践 (実習 & 講義)	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	バスケットボールの基本及び実践 (実習 & 講義)	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	肥満の成因について (講義)	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
6	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義)	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義)
7	バドミントンの応用及び実践 (実習 & 講義)	バドミントンの応用及び実践 (実習 & 講義)、ダブルスゲームを行う。
8	バレーボールの基本及び実践 (実習 & 講義)	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	飲酒について (講義)	正しい飲酒の方法や量などを知り、飲み方を考える。

10	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義)	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義) 団体戦
11	ユニホック基本及び実践 (実習 & 講義)	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践 (実習 & 講義)	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後各自レポートを作成し、提出する。
14	バレーボールの応用及び実践 (実習 & 講義)	バレーボールの応用及び実践 (実習 & 講義) ゲーム

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 (60 %)、レポート及び課題 (40 %) により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しさを感じています。

1 年生は友達も少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと (話し合い) をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題 (ストレス・肥満・飲酒・栄養学) を学ぶことで、健康の知識と向上増進を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き行っていきたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球の歴史とルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム。
3	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
6	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）
7	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）、ダブルスゲームを行う。
8	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	飲酒について（講義）	正しい飲酒の方法や量などを知り、飲み方を考える。

10	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）団体戦
11	ユニホック基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践（実習＆講義）	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後各自レポートを作成し、提出する。
14	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しさを感じています。

1 年生は友達も少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題（ストレス・肥満・飲酒・栄養学）を学ぶことで、健康の知識と向上増進を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き行っていきたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

4 月 13 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及びフットサル	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 3 回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	健康についての講義①	体力測定についてのテーマを解説する
第 5 回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	講義及びホッケー	ホッケーの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 7 回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 8 回	オンライン授業	栄養についてのテーマを解説する
第 9 回	講義及び卓球	卓球の戦術を学び、実践する。

第 10 回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 11 回	講義及びバレーボール	バレーボールの戦術を学び、実践する。
第 12 回	健康についての講義③	飲酒についてのテーマを解説する
第 13 回	講義及び卓球	卓球のダブルスの戦術を学び、実践する。
第 14 回	講義及びホッケー	ホッケーの戦術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

4 月 13 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及びフットサル	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 3 回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	健康についての講義①	体力測定についてのテーマを解説する
第 5 回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	講義及びホッケー	ホッケーの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 7 回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 8 回	オンライン授業	栄養についてのテーマを解説する
第 9 回	講義及び卓球	卓球の戦術を学び、実践する。

第 10 回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 11 回	講義及びバレーボール	バレーボールの戦術を学び、実践する。
第 12 回	健康についての講義③	飲酒についてのテーマを解説する
第 13 回	講義及び卓球	卓球のダブルスの戦術を学び、実践する。
第 14 回	講義及びホッケー	ホッケーの戦術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井 淳

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
第 3 回	講義「体力について」	体力の捉え方について講義
第 4 回	講義及び実技 (卓球)	体力測定結果のフィードバック ウォーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 5 回	講義及び実技 (バドミントン)	エネルギー (栄養・水分) 補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 6 回	講義及び実技 (ソフトバレーボール)	チームワークの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
第 7 回	講義「健康の捉え方について」	健康の捉え方及び重要性についての講義
第 8 回	講義及び実技 (卓球)	リーダーシップについて講義及び卓球の実践
第 9 回	講義及び実技 (バスケットボール)	コミュニケーションの重要性についての講義及びバスケットボールの実践

第 10 回	講義及び実技 (アルティメット)	運動の効果についての講義及びアルティメットの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動 (特に有酸素運動) についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義及び実技 (ストレッチング及びバランス運動)	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
第 13 回	講義及び実技 (フットサル)	休養 (特に睡眠) と健康についての講義及びフットサルの実践
第 14 回	授業の総括	授業の総括 熱中症対策 レポートの提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。

教員の指示に従って以下の事を行うこと

- 1) 次回に取り組む授業計画の内容を調べる。(技術、ルール、マナー)
- 2) 日常生活 (食事、運動、休養等) の記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %
- 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実践
第 3 回	講義「体力について」	体力の捉え方についての講義及び体力測定結果のフィードバック
第 4 回	講義及び実技（卓球）	ウォーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 5 回	講義及び実技（バドミントン）	エネルギー（栄養・水分）補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 6 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワークの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
第 7 回	講義「健康について」	健康の捉え方及び重要性についての講義
第 8 回	講義及び実技（卓球）	リーダーシップについての講義及び卓球の実践
第 9 回	講義及び実技（バスケットボール）	コミュニケーションの重要性についての講義及びバスケットボールの実践

第 10 回	講義及び実技（アルティメット）	運動の効果についての講義及びアルティメットの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動（特に有酸素性運動）についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義及び実技（ストレッチング）	ストレッチングの重要性についての講義及びその実践
第 13 回	講義及び実技（フットサル）	休養（特に睡眠）と健康についての講義及びフットサルの実践
第 14 回	授業の総括及	授業の総括 ダイエットについて レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。

教員の指示に従って以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組み授業計画の内容を調べる。（技術、ルール、マナー）
- 2) 日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して、対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %
- 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィシアワーで、課題 (レポート等) に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	肥満の成因について (講義)	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
3	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践 (実習 & 講義)	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
4	バドミントンの基本及び実践 (実習 & 講義)	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	バレーボールの基本及び実践 (実習 & 講義)	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	目的別栄養学について (講義)	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
7	卓球の基本及び実践 (実習 & 講義)	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	バドミントンの応用及び実践 (実習 & 講義)	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの応用及び実践 (実習 & 講義)	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
10	睡眠について (講義)	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
11	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義)	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	バスケットボールの基本及び実践 (実習 & 講義)	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	バスケットボールの応用及び実践 (実習 & 講義)	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後、各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 (60 %)、レポート及び課題 (40 %) により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィシアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
3	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
4	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
10	睡眠について（講義）	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
11	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	バスケットボールの応用及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後、各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題 (レポート等) に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	卓球の基本及び実践 (実習 & 講義)	卓球の歴史とルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム。
3	バドミントンの基本及び実践 (実習 & 講義)	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	バスケットボールの基本及び実践 (実習 & 講義)	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	肥満の成因について (講義)	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
6	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義)	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義)
7	バドミントンの応用及び実践 (実習 & 講義)	バドミントンの応用及び実践 (実習 & 講義)、ダブルスゲームを行う。
8	バレーボールの基本及び実践 (実習 & 講義)	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	飲酒について (講義)	正しい飲酒の方法や量などを知り、飲み方を考える。

10	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義)	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義) 団体戦
11	ユニホック基本及び実践 (実習 & 講義)	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践 (実習 & 講義)	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義し、後に各自レポートを作成し、提出する。
14	バレーボールの応用及び実践 (実習 & 講義)	バレーボールの応用及び実践 (実習 & 講義) ゲーム

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 (60 %)、レポート及び課題 (40 %) により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しさを感じています。

1 年生は友達も少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと (話し合い) をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題 (ストレス・肥満・飲酒・栄養学) を学ぶことで、健康の知識と向上増進を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き行っていきたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球の歴史とルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム。
3	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
6	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）
7	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）、ダブルスゲームを行う。
8	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	飲酒について（講義）	正しい飲酒の方法や量などを知り、飲み方を考える。

10	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）団体戦
11	ユニホック基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践（実習＆講義）	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後各自レポートを作成し、提出する。
14	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しさを感じています。

1 年生は友達も少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題（ストレス・肥満・飲酒・栄養学）を学ぶことで、健康の知識と向上増進を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き行っていきたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

4 月 13 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及びフットサル	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 3 回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	健康についての講義①	体力測定についてのテーマを解説する
第 5 回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	講義及びホッケー	ホッケーの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 7 回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 8 回	オンライン授業	栄養についてのテーマを解説する
第 9 回	講義及び卓球	卓球の戦術を学び、実践する。

第 10 回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 11 回	講義及びバレーボール	バレーボールの戦術を学び、実践する。
第 12 回	健康についての講義③	飲酒についてのテーマを解説する
第 13 回	講義及び卓球	卓球のダブルスの戦術を学び、実践する。
第 14 回	講義及びホッケー	ホッケーの戦術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

久保 賢師

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

4 月 13 日から授業を開始します。この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及びフットサル	フットサルの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 3 回	講義及びバレーボール	バレーボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 4 回	健康についての講義①	体力測定についてのテーマを解説する
第 5 回	講義及び卓球	卓球の基本技術の習得及びルールについて説明する
第 6 回	講義及びホッケー	ホッケーの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 7 回	講義及びバドミントン	バドミントンの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 8 回	オンライン授業	栄養についてのテーマを解説する
第 9 回	講義及び卓球	卓球の戦術を学び、実践する。

第 10 回	講義及びバスケットボール	バスケットボールの基本技術の習得及びルールについて説明する
第 11 回	講義及びバレーボール	バレーボールの戦術を学び、実践する。
第 12 回	健康についての講義③	飲酒についてのテーマを解説する
第 13 回	講義及び卓球	卓球のダブルスの戦術を学び、実践する。
第 14 回	講義及びホッケー	ホッケーの戦術を学び、実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示する。

準備学習・復習時間それぞれ 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60%）、レポート及び課題（40%）により総合的に評価する。この評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろなスポーツを楽しめたという感想から、多種目の競技を実践していきたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめと復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（オンライン）	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 3 回	運動の必要性	生涯スポーツとして健康を目的とした運動を実践していく必要性について習得する（講義）
第 4 回	卓球（シングルス・ダブルス）	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 5 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 7 回	運動の効果	運動が体に与える影響について運動生理学的に他者への説明が可能となるように習得する（講義）

第 8 回	トレーニング	自分の身体を鍛えるためには科学的な知識と実技の両方が必要であり両方を座学を通して習得する（講義）
第 9 回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 10 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	スポーツ栄養学及び休養学	健康の 3 要素には運動以外に栄養や休養も含まれ、それらの概要と運動との関連性について習得する（講義）
第 12 回	ボッチャ	ボッチャの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 13 回	フットサル	フットサルの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 14 回	まとめ	スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、運動・スポーツに関して習得すべき事項を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。
また、2020 年度には、単元の習得の理解が簡単かつ円滑となるようにオンライン動画教材などを用いて学生に授業を提供しており、その動画は学生の理解状況の感想などで判断し、随時改定および補足情報の配信を行っている。
2021 年度はオンラインと対面の両方を実施し、オンライン授業での理解状況などを対面で確認し、授業の難易度の調整と理解の促進に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施となった場合、動画を見てレポートを提出するための PC 及び周辺機器と通信環境が必要となる場合がある。また必要に応じて提示した課題を提出する際も同様である。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（オンライン）	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 3 回	運動の必要性	生涯スポーツとして健康を目的とした運動を実践していく必要性について習得する（講義）
第 4 回	卓球（シングルス・ダブルス）	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 5 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 7 回	運動の効果	運動が体に与える影響について運動生理学的に他者への説明が可能となるように習得する（講義）

第 8 回	トレーニング	自分の身体を鍛えるためには科学的な知識と実技の両方が必要であり両方を座学を通して習得する(講義)
第 9 回	バドミントン(シングルス・団体)	バドミントン(シングルス・団体)の基礎理解を深め、基礎技術を習得する(講義及び実習)
第 10 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う(講義及び実習)
第 11 回	スポーツ栄養学及び休養学	健康の 3 要素には運動以外に栄養や休養も含まれ、それらの概要と運動との関連性について習得する(講義)
第 12 回	ボッチャ	ボッチャの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う(講義及び実習)
第 13 回	フットサル	フットサルの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う(講義及び実習)
第 14 回	まとめ	スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、運動・スポーツに関して習得すべき事項を復習する

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各 2 時間を標準とする

【テキスト(教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。

また、2020 年度には、単元の習得の理解が簡単かつ円滑となるようにオンライン動画教材などを用いて学生に授業を提供しており、その動画は学生の理解状況の感想などで判断し、随時改定および補足情報の配信を行っている。

2021 年度はオンラインと対面の両方を実施し、オンライン授業での理解状況などを対面で確認し、授業の難易度の調整と理解の促進に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施となった場合、動画を見てレポートを提出するための PC 及び周辺機器と通信環境が必要となる場合がある。また必要に応じて提示した課題を提出する際も同様である。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィシアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
3	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践（実習＆講義）	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
4	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	目的別栄養学について（講義）	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
7	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
10	睡眠について（講義）	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
11	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	バスケットボールの応用及び実践（実習＆講義）	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後、各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

吉田 康伸

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィシアワーで、課題 (レポート等) に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	肥満の成因について (講義)	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
3	ストレッチ及びバランスボールトレーニングの実践 (実習 & 講義)	ストレッチの必要性を理解し、ストレッチ及びバランスボールエクササイズを実践する。
4	バドミントンの基本及び実践 (実習 & 講義)	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	バレーボールの基本及び実践 (実習 & 講義)	バレーボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
6	目的別栄養学について (講義)	各目的別の栄養摂取について取り上げる。
7	卓球の基本及び実践 (実習 & 講義)	卓球のルールを理解し、基本技術の習得を行う。
8	バドミントンの応用及び実践 (実習 & 講義)	バドミントンの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	バレーボールの応用及び実践 (実習 & 講義)	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
10	睡眠について (講義)	正しい睡眠方法やより良い環境について説明する。
11	卓球の応用及び実践 (実習 & 講義)	卓球の各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	バスケットボールの基本及び実践 (実習 & 講義)	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	バスケットボールの応用及び実践 (実習 & 講義)	バスケットボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
14	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後、各自レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 (60 %)、レポート及び課題 (40 %) により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ実践の楽しさは理解出来ているようなので、さらに身体的・精神的・社会的な健康の維持増進に対する意識を高めることを目指す。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球の歴史とルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム。
3	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
6	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）
7	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）、ダブルスゲームを行う。
8	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	飲酒について（講義）	正しい飲酒の方法や量などを知り、飲み方を考える。

10	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）団体戦
11	ユニホック基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践（実習＆講義）	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後各自レポートを作成し、提出する。
14	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しさを感じています。

1 年生は友達も少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題（ストレス・肥満・飲酒・栄養学）を学ぶことで、健康の知識と向上増進を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き行っていきたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

落合 久夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

なお、授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題（レポート等）に対して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業内容の説明及び評価基準の確認等の実施。
2	卓球の基本及び実践（実習＆講義）	卓球の歴史とルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム。
3	バドミントンの基本及び実践（実習＆講義）	バドミントンのルールを理解し、基本技術の習得を行う。シングルスゲーム
4	バスケットボールの基本及び実践（実習＆講義）	バスケットボールのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
5	肥満の成因について（講義）	肥満になる成因についていくつか取り上げる。
6	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）
7	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）	バドミントンの応用及び実践（実習＆講義）、ダブルスゲームを行う。
8	バレーボールの基本及び実践（実習＆講義）	バレーボールの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
9	飲酒について（講義）	正しい飲酒の方法や量などを知り、飲み方を考える。

10	卓球の応用及び実践（実習＆講義）	卓球の応用及び実践（実習＆講義）団体戦
11	ユニホック基本及び実践（実習＆講義）	ユニホックの各技術の基本的な方法を理解し、ゲームを行う。
12	フットサルの基本及び実践（実習＆講義）	フットサルのルールを理解し、基本技術の習得を行う。
13	ストレスと健康観についての講義及びレポート作成・提出	ストレスと健康観について講義した後各自レポートを作成し、提出する。
14	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）	バレーボールの応用及び実践（実習＆講義）ゲーム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況（60 %）、レポート及び課題（40 %）により総合的に評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種目の歴史とルールを下調べをして競技を理解してから実技しているの、倍の楽しさを感じています。

1 年生は友達も少ないので、コミュニケーション能力を上げるために、練習をグループで行うこと（話し合い）をしています。それにより友達も多く出ています。

オンラインでは、学生の興味がある課題（ストレス・肥満・飲酒・栄養学）を学ぶことで、健康の知識と向上増進を理解した生活を送っています。

来年度も引き続き行っていきたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
4	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
5	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
6	トレーニングと健康	レーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
7	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）

8	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
9	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
10	集団スポーツを学ぶ 3	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	スポーツと人間心理	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク（講義）
13	個人スポーツを学ぶ 4	卓球を通じた相互理解の促進（講義および実習）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ハウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業初めに、いくつか取り上げ全体にフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容について説明する
第 2 回	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実践
第 3 回	講義「体力について」	体力の捉え方についての講義及び体力測定結果のフィードバック
第 4 回	講義及び実技（卓球）	ウォーミングアップの重要性についての講義及び卓球の実践
第 5 回	講義及び実技（バドミントン）	エネルギー（栄養・水分）の補給の重要性についての講義及びバドミントンの実践
第 6 回	講義及び実技（ソフトバレーボール）	チームワークの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
第 7 回	講義「健康について」	健康の捉え方及び重要性についての講義
第 8 回	講義及び実技（卓球）	リーダーシップについての講義及び卓球の実践
第 9 回	講義及び実技（バスケットボール）	コミュニケーションの重要性についての講義及びバスケットボールの実践

第 10 回	講義及び実技（アルティメット）	運動野効果についての講義及びアルティメットの実践
第 11 回	講義「健康のための運動について」	健康のための運動（特に有酸素性運動）についての講義 レポート課題の提示
第 12 回	講義及び実技（ストレッチング）	ストレッチングの重要性についての講義及びその実践
第 13 回	講義及び実技（フットサル）	休養（特に睡眠）と健康についての講義及びフットサルの実践
第 14 回	授業の総括	授業の総括 ダイエットについて レポートの提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。

教員の指示に従って以下のことを行うこと

- 1) 次回に取り組む授業計画の内容を調べる。（技術、ルール、マナー）
- 2) 日常生活（食事、運動、休養等）の記録を取り、気づいたことを考察する。
- 3) 自らの生活習慣を観察し、その問題点を把握して対策をたて、心身の健康状態を整える。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況 60 %
 - 2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回受講者の健康度をチェックし、各自の健康管理の意識をより高めたい。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によって、授業計画の変更もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（オンライン）	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 3 回	運動の必要性	生涯スポーツとして健康を目的とした運動を実践していく必要性について習得する（講義）
第 4 回	卓球（シングルス・ダブルス）	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 5 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 7 回	運動の効果	運動が体に与える影響について運動生理学的に他者への説明が可能となるように習得する（講義）

第 8 回	トレーニング	自分の身体を鍛えるためには科学的な知識と実技の両方が必要であり両方を座学を通して習得する（講義）
第 9 回	バドミントン（シングルス・団体）	バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 10 回	バスケットボール	バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 11 回	スポーツ栄養学及び休養学	健康の 3 要素には運動以外に栄養や休養も含まれ、それらの概要と運動との関連性について習得する（講義）
第 12 回	ボッチャ	ボッチャの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 13 回	フットサル	フットサルの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 14 回	まとめ	スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、運動・スポーツに関して習得すべき事項を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。

また、2020 年度には、単元の習得の理解が簡単かつ円滑となるようにオンライン動画教材などを用いて学生に授業を提供しており、その動画は学生の理解状況の感想などで判断し、随時改定および補足情報の配信を行っている。

2021 年度はオンラインと対面の両方を実施し、オンライン授業での理解状況などを対面で確認し、授業の難易度の調整と理解の促進に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施となった場合、動画を見てレポートを提出するための PC 及び周辺機器と通信環境が必要となる場合がある。また必要に応じて提示した課題を提出する際も同様である。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

位高 駿夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめと復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（オンライン）	授業内容の説明および評価の確認などを実施する（講義）
第 2 回	バドミントン（ダブルス）	バドミントン（ダブルス）の基礎技術を高め、ゲームを行う（講義及び実習）
第 3 回	運動の必要性	生涯スポーツとして健康を目的とした運動を実践していく必要性について習得する（講義）
第 4 回	卓球（シングルス・ダブルス）	卓球の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）
第 5 回	ユニホック	ユニホックの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）
第 6 回	フライングディスク	フライングディスクの基礎技術のトレーニング及びアルティメットやドッチビーなどのゲームを行う（講義及び実習）
第 7 回	運動の効果	運動が体に与える影響について運動生理学的に他者への説明が可能となるように習得する（講義）

第 8 回 トレーニング

自分の身体を鍛えるためには科学的な知識と実技の両方が必要であり両方を座学を通して習得する（講義）

第 9 回 バドミントン（シングルス・団体）

バドミントン（シングルス・団体）の基礎理解を深め、基礎技術を習得する（講義及び実習）

第 10 回 バスケットボール

バスケットボールの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）

第 11 回 スポーツ栄養学及び休養学

健康の 3 要素には運動以外に栄養や休養も含まれ、それらの概要と運動との関連性について習得する（講義）

第 12 回 ボッチャ

ボッチャの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）

第 13 回 フットサル

フットサルの基礎技術のトレーニング及びゲームを行う（講義及び実習）

第 14 回 まとめ

スポーツ総合演習の授業目的と照らし合わせ、振り返りとともに、運動・スポーツに関して習得すべき事項を復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後に行うべき課題や復習等は、各授業における教員からの指示に従って実践するが、各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2019 年度からは、受講者の体力や技術レベルをできるだけ考慮して行う工夫の 1 つとして、授業内で参加者を体力や技術レベル別に区分して実施する時間も一部の種目で設けている。
また、2020 年度には、単元の習得の理解が簡単かつ円滑となるようにオンライン動画教材などを用いて学生に授業を提供しており、その動画は学生の理解状況の感想などで判断し、随時改定および補足情報の配信を行っている。
2021 年度はオンラインと対面の両方を実施し、オンライン授業での理解状況などを対面で確認し、授業の難易度の調整と理解の促進に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施となった場合、動画を見てレポートを提出するための PC 及び周辺機器と通信環境が必要となる場合がある。また必要に応じて提示した課題を提出する際も同様である。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
- 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定Ⅰ	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと健康Ⅰ リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと健康Ⅱ (健康運動演習：身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと健康Ⅲ (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：(立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ (姿勢のセルフコントロールⅠ)	①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ (姿勢のセルフコントロールⅡ)	①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
12	スポーツと体力AⅡ (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定Ⅱ)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)

13	スポーツと体力AⅢ (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録**し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離など
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class

- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health

- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

- (04) To be able to use a training center appropriately

- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

- (09) To understand aging and physical fitness

- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

- (15) To understand weight control methods based on body composition.

- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA	
スポーツ総合演習	2017 年度以降入学者
伊藤 マモル	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 1/Thu.1	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・伊藤・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：伊藤

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディショニング記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと健康 I リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと健康 II （健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと健康 III （生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力 B I オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力 B II （姿勢のセルフコントロール 1）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力 B III （姿勢のセルフコントロール 2）	①実習：動作課題 2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事 I （ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事 II （栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事 III （目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力 A I （トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
12	スポーツと体力 A II （身体組成とトレーニングマシンの原理） （体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）

- 13 スポーツと体力 AⅢ (トレーニングマシンの効果的な実践) ①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など
②セット法による実践と記録
③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用)
④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
- 14 期末試験・総括と解説 ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験: 各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力 AⅠ・体力 AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容 (1 日写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『ブリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. プレット・コントラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミイ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 % (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、期末試験が 20 % です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。

8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間 (睡眠状態)
②脈拍数 (心拍数)
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン: リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class

(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
 (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
 2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
 (04) To be able to use a training center appropriately
 (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
 (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
 3. Sports and Health
 (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
 (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
 (09) To understand aging and physical fitness
 (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
 4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
 (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
 (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
 (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
 5. Sports and Diet
 (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
 (15) To understand weight control methods based on body composition.
 (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
【Learning activities outside of classroom】
 Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
 Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
- 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川**
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事 III (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
6	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
7	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
8	スポーツと健康 I (リアルタイム双方向型) (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験: 各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容 (1 日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %** (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は **100 点満点**とし、**60 点以上**が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス
2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離など
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in

class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・伊藤・三好・山田

01) 授業の進め方を理解する

02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる

03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川

04) トレーニングセンターを適切に利用できる

05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる

06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康: 伊藤

07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する

08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する

09) 加齢と体力について理解する

10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好

11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。

12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。

13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事: 山田

14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。

15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。

16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事 III (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
6	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
7	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
8	スポーツと健康 I (リアルタイム双方向型) (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力 B I (立位姿勢の構造と分析) オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール I)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|----------------------------------|---|
| 13 | スポーツと体力BⅢ
(姿勢のセルフコント
ロール2) | ①実習：動作課題2(左右の歪み
を整える)
②リアクションペーパーまたは授
業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題
(マークシート方式) |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容(1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチ』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 80 % (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、期末試験が 20 % です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動(準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格(単位認定)となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 - 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間(睡眠状態)
②脈拍数(心拍数)
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業(ガイダンス)において説明します(オンライン:リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】
- Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】
- Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

柳川 洸輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I（トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
3	スポーツと体力 A II（身体組成とトレーニングマシンの原理）（体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
4	スポーツと体力 A III（トレーニングマシンの効果的な実践）	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ④授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
5	スポーツと健康 I（リアルタイム双方向型）（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I（オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II（姿勢のセルフコントロール 1）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III（姿勢のセルフコントロール 2）	①実習：動作課題 2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと食事 III（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II**に備えた**準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容（1 日写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in

class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA	
スポーツ総合演習	2017 年度以降入学者
柳川 洸輔	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 1/Thu.1	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I（トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
3	スポーツと体力 A II（身体組成とトレーニングマシンの原理）（体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
4	スポーツと体力 A III（トレーニングマシンの効果的な実践）	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ④授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
5	スポーツと健康 I（リアルタイム双方向型）（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II（姿勢のセルフコントロール 1）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III（姿勢のセルフコントロール 2）	①実習：動作課題 2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|-----------------------------------|--|
| 13 | スポーツと食事Ⅲ
(目的に合わせた運動
と栄養摂取法) | ①食環境を踏まえた食事のとり方
②食事とサプリメント
③運動時の水分補給
④リアクションペーパーまたは授
業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験: 各クラス共通問題
(マークシート方式) |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容(1日写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外出調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 02. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 04. ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミイ』ガイアブックス
 05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 % (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、期末試験が 20 % です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間 (睡眠状態)
②脈拍数 (心拍数)
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン: リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】
- Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】
- Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
3	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
4	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
5	スポーツと健康 I リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと食事 III (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験: 各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容 (1 日写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %** (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス
2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離など
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好 英次

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・伊藤・三好・山田

01) 授業の進め方を理解する

02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる

03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川

04) トレーニングセンターを適切に利用できる

05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる

06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康: 伊藤

07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する

08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する

09) 加齢と体力について理解する

10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好

11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。

12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。

13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事: 山田

14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。

15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。

16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
3	スポーツと体力A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
4	スポーツと体力A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
5	スポーツと健康 I (リアルタイム双方向型) (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|-----------------------------------|--|
| 13 | スポーツと食事Ⅲ
(目的に合わせた運動
と栄養摂取法) | ①食環境を踏まえた食事のとり方
②食事とサプリメント
③運動時の水分補給
④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題
(マークシート方式) |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外出調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミイ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 %（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、期末試験が 20 %です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 %以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】
- Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】
- Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大西 朋

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康: 大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事: 山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定Ⅰ	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと健康Ⅰ リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと健康Ⅱ (健康運動演習：身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと健康Ⅲ (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ (姿勢のセルフコントロールⅠ)	①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ (姿勢のセルフコントロールⅡ)	①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
12	スポーツと体力AⅡ (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定Ⅱ)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)

13	スポーツと体力AⅢ (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自の**コンディション**を**日常的に記録**し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. **スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. **スポーツと食事**では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 03. ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 04. プレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離など
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class

- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health

- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

- (04) To be able to use a training center appropriately

- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

- (09) To understand aging and physical fitness

- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

- (15) To understand weight control methods based on body composition.

- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・伊藤・三好・山田

01) 授業の進め方を理解する

02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる

03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川

04) トレーニングセンターを適切に利用できる

05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる

06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：伊藤

07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する

08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する

09) 加齢と体力について理解する

10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。

12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。

13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。

15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。

16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと健康 I リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと健康 II （健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと健康 III （生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力 B I オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力 B II （姿勢のセルフコントロール 1）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力 B III （姿勢のセルフコントロール 2）	①実習：動作課題 2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事 I （ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事 II （栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事 III （目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力 A I （トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
12	スポーツと体力 A II （身体組成とトレーニングマシンの原理） （体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）

- 13 スポーツと体力 AⅢ (トレーニングマシン
の効果的な実践) ①体力のセルフチェックの方法・
記録・注意など
②セット法による実践と記録
③トレーニング前後の体調報告
(Google Forms 利用)
④授業習熟度確認テスト
(Google Forms 利用)
- 14 期末試験・総括と解説 ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験: 各クラス共通問題
(マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力 AⅠ・体力 AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容 (1 日写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『ブリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. プレット・コントラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミイ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 % (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、期末試験が 20 % です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。

8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間 (睡眠状態)
②脈拍数 (心拍数)
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン: リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class

(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
 (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
 2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
 (04) To be able to use a training center appropriately
 (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
 (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
 3. Sports and Health
 (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
 (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
 (09) To understand aging and physical fitness
 (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
 4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
 (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
 (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
 (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
 5. Sports and Diet
 (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
 (15) To understand weight control methods based on body composition.
 (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
【Learning activities outside of classroom】
 Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
 Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
- 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川**
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
- 3. スポーツと健康：大西**
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
- 4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好**
- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
- 5. スポーツと食事：山田**
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事 III (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
6	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
7	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
8	スポーツと健康 I (リアルタイム双方向型) (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験: 各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容 (1 日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %** (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は **100 点満点**とし、**60 点以上**が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス

2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど

①睡眠時間（睡眠状態）

②脈拍数（心拍数）

③歩数・歩行距離など

※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。

2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。

3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。

4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。

5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

(01) Understand how to proceed with the class

(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health

(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in

class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・伊藤・三好・山田

01) 授業の進め方を理解する

02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる

03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川

04) トレーニングセンターを適切に利用できる

05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる

06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康: 伊藤

07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する

08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する

09) 加齢と体力について理解する

10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好

11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。

12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。

13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事: 山田

14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。

15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。

16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事 III (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
6	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
7	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
8	スポーツと健康 I (リアルタイム双方向型) (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力 B I (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール I)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|----------------------------------|---|
| 13 | スポーツと体力BⅢ
(姿勢のセルフコント
ロール2) | ①実習：動作課題2(左右の歪み
を整える)
②リアクションペーパーまたは授
業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題
(マークシート方式) |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事では、①自身の食事内容(1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチ』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、授業内評価が 80 % (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、期末試験が 20 % です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動(準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格(単位認定)となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

- オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 - 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間(睡眠状態)
②脈拍数(心拍数)
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

- 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業(ガイダンス)において説明します(オンライン:リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
- ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
- 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
- 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
- なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】
- Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】
- Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

柳川 洸輔

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる
3. スポーツと健康: 大西
- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する
4. スポーツと体力 B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好
- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。
5. スポーツと食事: 山田
- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I（トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
3	スポーツと体力 A II（身体組成とトレーニングマシンの原理）（体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
4	スポーツと体力 A III（トレーニングマシンの効果的な実践）	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ④授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
5	スポーツと健康 I（リアルタイム双方向型）（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I（オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II（姿勢のセルフコントロール 1）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III（姿勢のセルフコントロール 2）	①実習：動作課題 2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと食事 III（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II**に備えた**準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容（1 日写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
- 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
- ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
- ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
- エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
- 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
- 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
- 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
- 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
- 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
- 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
- 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
- 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
- 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス
2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離など
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA	
スポーツ総合演習	2017 年度以降入学者
柳川 洸輔	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 2/Thu.2	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称： Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I（トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
3	スポーツと体力 A II（身体組成とトレーニングマシンの原理）（体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
4	スポーツと体力 A III（トレーニングマシンの効果的な実践）	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ④授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
5	スポーツと健康 I（リアルタイム双方向型）（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II（姿勢のセルフコントロール 1）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III（姿勢のセルフコントロール 2）	①実習：動作課題 2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|-----------------------------------|--|
| 13 | スポーツと食事Ⅲ
(目的に合わせた運動
と栄養摂取法) | ①食環境を踏まえた食事のとり方
②食事とサプリメント
③運動時の水分補給
④リアクションペーパーまたは授
業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験: 各クラス共通問題
(マークシート方式) |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容(1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外出調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 02. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 04. ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
 05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 % (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、期末試験が 20 % です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間 (睡眠状態)
②脈拍数 (心拍数)
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン: リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】
- Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】
- Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
3	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
4	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
5	スポーツと健康 I リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと食事 III (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験: 各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容 (1 日写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %** (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス

2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど

①睡眠時間（睡眠状態）

②脈拍数（心拍数）

③歩数・歩行距離など

※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。

2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。

3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。

4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。

5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

(01) Understand how to proceed with the class

(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health

(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in

class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好 英次

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・伊藤・三好・山田

01) 授業の進め方を理解する

02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる

03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力 A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川

04) トレーニングセンターを適切に利用できる

05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる

06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康: 伊藤

07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する

08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する

09) 加齢と体力について理解する

10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好

11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。

12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。

13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事: 山田

14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。

15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。

16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
3	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
4	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
5	スポーツと健康 I (リアルタイム双方向型) (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|-----------------------------------|--|
| 13 | スポーツと食事Ⅲ
(目的に合わせた運動
と栄養摂取法) | ①食環境を踏まえた食事のとり方
②食事とサプリメント
③運動時の水分補給
④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題
(マークシート方式) |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自の**コンディション**を**日常的に記録**し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. **スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. **スポーツと食事**では、①自身の食事内容（1日写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外出調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミイ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。**Covid-19** の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、**Covid-19** の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を**継続的に記録可能**なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で**分野別のオムニバス授業**を**リレー方式**で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、**受講できる学期と時間割**を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、**1 回目の授業（ガイダンス）**において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の **Zoom 招待 URL** は **Hoppii** でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】
- Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】
- Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

大西 朋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定Ⅰ	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと健康Ⅰ リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと健康Ⅱ (健康運動演習：身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと健康Ⅲ (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力BⅠ オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力BⅡ (姿勢のセルフコントロールⅠ)	①実習：動作課題1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力BⅢ (姿勢のセルフコントロールⅡ)	①実習：動作課題2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事Ⅰ (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事Ⅱ (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事Ⅲ (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力AⅠ (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
12	スポーツと体力AⅡ (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定Ⅱ)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)

13	スポーツと体力AⅢ (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録**し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。

8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離など
- ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class

- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health

- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

- (04) To be able to use a training center appropriately

- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

- (09) To understand aging and physical fitness

- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

- (15) To understand weight control methods based on body composition.

- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA	
スポーツ総合演習	2017 年度以降入学者
柳川 洸輔	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 3/Thu.3	
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・伊藤・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる
2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：伊藤

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと健康 I リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
3	スポーツと健康 II （健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
4	スポーツと健康 III （生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
5	スポーツと体力 B I オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
6	スポーツと体力 B II （姿勢のセルフコントロール 1）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
7	スポーツと体力 B III （姿勢のセルフコントロール 2）	①実習：動作課題 2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
8	スポーツと食事 I （ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと食事 II （栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと食事 III （目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと体力 A I （トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
12	スポーツと体力 A II （身体組成とトレーニングマシンの原理） （体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）

- 13 スポーツと体力 AⅢ (トレーニングマシン
の効果的な実践) ①体力のセルフチェックの方法・
記録・注意など
②セット法による実践と記録
③トレーニング前後の体調報告
(Google Forms 利用)
④授業習熟度確認テスト
(Google Forms 利用)
- 14 期末試験・総括と解説 ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験: 各クラス共通問題
(マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力 AⅠ・体力 AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容 (1 日写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
02. 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『ブリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
04. プレット・コントラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミイ』ガイアブックス
05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社

参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 % (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、期末試験が 20 % です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。

8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間 (睡眠状態)
②脈拍数 (心拍数)
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業 (ガイダンス) において説明します (オンライン: リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class

(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
 (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions
 2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
 (04) To be able to use a training center appropriately
 (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
 (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
 3. Sports and Health
 (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
 (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
 (09) To understand aging and physical fitness
 (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
 4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
 (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
 (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
 (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
 5. Sports and Diet
 (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
 (15) To understand weight control methods based on body composition.
 (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
【Learning activities outside of classroom】
 Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
【Grading Criteria/Policy】
 Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好 英次

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
- 2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川**
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の**授業計画の変更**については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
3	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
4	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
5	スポーツと健康 I リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと食事 III (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験: 各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容 (1 日写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %** (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス
2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
 - ①睡眠時間（睡眠状態）
 - ②脈拍数（心拍数）
 - ③歩数・歩行距離など
 ※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

伊藤 マモル

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・大西・三好・山田

01) 授業の進め方を理解する

02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる

03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力 A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川

04) トレーニングセンターを適切に利用できる

05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる

06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康: 大西

07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する

08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する

09) 加齢と体力について理解する

10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好

11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。

12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。

13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事: 山田

14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。

15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。

16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
3	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
4	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
5	スポーツと健康 I (リアルタイム双方向型) (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|-----------------------------------|--|
| 13 | スポーツと食事Ⅲ
(目的に合わせた運動
と栄養摂取法) | ①食環境を踏まえた食事のとり方
②食事とサプリメント
③運動時の水分補給
④リアクションペーパーまたは授
業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題
(マークシート方式) |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外出調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 04. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミイ』ガイアブックス
 05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 %（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、期末試験が 20 %です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 %以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】
- Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】
- Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

山田 優香

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康: 大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事: 山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事 I（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事 II（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事 III（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力 A I（トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
6	スポーツと体力 A II（身体組成とトレーニングマシンの原理）（体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
7	スポーツと体力 A III（トレーニングマシンの効果的な実践）	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ④授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
8	スポーツと健康 I（リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係））	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと健康 II（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと健康 III（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力 B I（オンデマンド：（立位姿勢の構造と分析））	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力 B II（姿勢のセルフコントロール I）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと体力 B III（姿勢のセルフコントロール 2）	①実習：動作課題 2（左右の歪みを整える） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験：各クラス共通問題（マークシート方式）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容（1 日分写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ（DVD 付）』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %**（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は **100 点満点**とし、**60 点以上が合格（単位認定）**となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in

class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA	
スポーツ総合演習	2017 年度以降入学者
山田 優香	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木 3/Thu.3
単位数：2 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・伊藤・三好・山田

01) 授業の進め方を理解する

02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる

03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川

04) トレーニングセンターを適切に利用できる

05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる

06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：伊藤

07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する

08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する

09) 加齢と体力について理解する

10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。

12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。

13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。

15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。

16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第1回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方（※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど） ②諸注意（※対面授業について） ③授業外学習（オンライン体力測定およびコンディション記録について） ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと食事 I（ウエイトコントロール法）	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
3	スポーツと食事 II（栄養バランスの整え方）	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
4	スポーツと食事 III（目的に合わせた運動と栄養摂取法）	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
5	スポーツと体力 A I（トレーニングの基礎理論）	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
6	スポーツと体力 A II（身体組成とトレーニングマシンの原理）（体力測定 II）	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定（対面方式） ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ⑤授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
7	スポーツと体力 A III（トレーニングマシンの効果的な実践）	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告（Google Forms 利用） ④授業習熟度確認テスト（Google Forms 利用）
8	スポーツと健康 I（リアルタイム双方向型（身体活動と健康との関係）	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
9	スポーツと健康 II（健康運動演習：身体活動と身体応答）	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
10	スポーツと健康 III（生活習慣病とその運動処方）	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
11	スポーツと体力 B I（立位姿勢の構造と分析）	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと体力 B II（姿勢のセルフコントロール I）	①実習：動作課題 1（骨盤と脊柱の動作） ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|------------------------------|---|
| 13 | スポーツと体力BⅢ
(姿勢のセルフコントロール2) | ①実習:動作課題2(左右の歪みを整える)
②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験:各クラス共通問題(マークシート方式) |

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容(1日分写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 02. 星野公夫(編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 04. プレット・コントラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミ』ガイアブックス
 05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 09. 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 13. 伊藤マモル『基本のストレッチ(DVD付)』主婦の友社
 14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 % (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、期末試験が 20 % です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動(準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格(単位認定)となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間(睡眠状態)
②脈拍数(心拍数)
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業(ガイダンス)において説明します(オンライン:リアルタイム)。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply. Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and pre parations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】
- Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】
- Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

柳川 洸輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディショニングの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

ー具体的な授業の到達目標ー

1. ガイダンスおよび共通授業：柳川・大西・三好・山田

- 01) 授業の進め方を理解する
- 02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる
- 03) 体力測定およびコンディショニングの変化を考察できる
2. スポーツと体力 A（動的機能の向上…トレーニング方法）：柳川
- 04) トレーニングセンターを適切に利用できる
- 05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる
- 06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康：大西

- 07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する
- 08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する
- 09) 加齢と体力について理解する
- 10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B（静的機能の向上…姿勢と動作）：三好

- 11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。
- 12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。
- 13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事：山田

- 14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。
- 15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。
- 16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス（オンライン）で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム（通称：Hoppii）でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
3	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
4	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
5	スポーツと健康 I リアルタイム双方向型 (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

13	スポーツと食事 III (目的に合わせた運動と栄養摂取法)	①食環境を踏まえた食事のとり方 ②食事とサプリメント ③運動時の水分補給 ④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
14	期末試験・総括と解説	①コンディション記録 ②今後の健康の保持増進 ③アンケート ④期末試験: 各クラス共通問題 (マークシート方式)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 各授業では、**リアクションペーパー**または**授業習熟度確認テスト**が実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
- 各自の**コンディション**を**日常的に記録し**、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
- スポーツと体力 A I・体力 A II に備えた準備学習**では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
- スポーツと食事**では、①自身の食事内容 (1 日写真撮影など)、②大学または自宅周辺の外食調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
- なお、以上 1～4 を含む本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の **Hoppii** から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

- 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 - 星野公夫 (編)『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 - ポール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 - ブレット・コントレラス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニング アナトミ』ガイアブックス
 - エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 - 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 - 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 - 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 - 清水昭ほか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 - 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 - 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 - 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 - 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 - 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

- 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
- その評価の割合は、**授業内評価が 80 %** (授業担当教員は各 20 点: 計 80 点)、**期末試験が 20 %**です。
- 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動 (準備学習や復習)、授業に取組む態度などが評価されます。
- 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格 (単位認定) となります。
- 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
- 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
- 期末試験の受験資格は、**出席が 10 回以上**の者を対象とします。
- 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 % 以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信デバイス

2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど

①睡眠時間（睡眠状態）

②脈拍数（心拍数）

③歩数・歩行距離など

※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。

2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。

3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。

4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。

5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

(01) Understand how to proceed with the class

(02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health

(03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)

(04) To be able to use a training center appropriately

(05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods

(06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training

3. Sports and Health

(07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.

(08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome

(09) To understand aging and physical fitness

(10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them

4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)

(11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.

(12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.

(13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.

5. Sports and Diet

(14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.

(15) To understand weight control methods based on body composition.

(16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.

【Learning activities outside of classroom】

Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in

class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

三好 英次

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

この授業の到達目標は、体力およびコンディションの分析、トレーニング、姿勢、動作、身体組成、加齢、生活習慣病、栄養と食事などから、履修者自ら将来の健康増進に資する行動変容を獲得することです。

以下は、各分野における授業の到達目標です。

－具体的な授業の到達目標－

1. ガイダンスおよび共通授業: 柳川・伊藤・三好・山田

01) 授業の進め方を理解する

02) 健康の維持増進に関する自己目標を設定できる

03) 体力測定およびコンディションの変化を考察できる

2. スポーツと体力 A (動的機能の向上…トレーニング方法): 柳川

04) トレーニングセンターを適切に利用できる

05) トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝を説明できる

06) 安全で効果的なトレーニングを実施するための留意点を述べられる

3. スポーツと健康: 伊藤

07) エネルギー消費と身体活動との関係を理解する

08) 身体組成と肥満およびメタボリックシンドロームについて理解する

09) 加齢と体力について理解する

10) 生活習慣病の基礎知識を学び、改善するための運動について理解する

4. スポーツと体力 B (静的機能の向上…姿勢と動作): 三好

11) 立位姿勢の構造を学び、自身の姿勢の特徴と問題点を理解する。

12) 骨盤、背骨、肩を意識的に操作する動作課題を通じて、自分の身体に対する気づきを高める。

13) 自分の身体と意識的に向き合うことが心身の健康に及ぼす影響を理解する。

5. スポーツと食事: 山田

14) 自身の食生活を振り返り、栄養バランスの整え方を理解する。

15) 身体組成を踏まえたウエイトコントロール法を理解する。

16) 増量・減量等目的に合わせた運動と栄養摂取法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

詳細は第 1 回授業のガイダンス (オンライン) で説明します。必ず出席してください。

授業は、対面授業を基本とし、必要に応じてオンライン授業を組み合わせて実施します。ただし、Covid-19 の予防感染対策に関する大学の方針に変化があった場合の授業計画の変更については、学習支援システム (通称: Hoppii) でその都度提示します。

課題などの提出・フィードバックに関しても Hoppii を通じて行う予定です。また、授業においてはリアクションペーパーなどにおける良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび体力測定 I	①授業の意義と進め方 (※クラス担当教員と授業担当教員の違いなど) ②諸注意 (※対面授業について) ③授業外学習 (オンライン体力測定およびコンディション記録について) ④健康の保持増進に関する自己到達目標 ⑤アンケート
2	スポーツと体力 A I (トレーニングの基礎理論)	①健康の保持増進における体力の重要性 ②体力測定の実施 ③体力測定結果の評価と報告 ④トレーニング方法によって異なるエネルギー代謝 ⑤トレーニング時のスポーツ傷害と救急処置 ⑥授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
3	スポーツと体力 A II (身体組成とトレーニングマシンの原理) (体力測定 II)	①身体組成の測定方法・記録・注意など ②体力測定 (対面方式) ③トレーニングマシンの原理と使用方法と記録 ④トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ⑤授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
4	スポーツと体力 A III (トレーニングマシンの効果的な実践)	①体力のセルフチェックの方法・記録・注意など ②セット法による実践と記録 ③トレーニング前後の体調報告 (Google Forms 利用) ④授業習熟度確認テスト (Google Forms 利用)
5	スポーツと健康 I (リアルタイム双方向型) (身体活動と健康との関係)	①身体組成と肥満およびメタボリックシンドローム ②リアクションペーパー
6	スポーツと健康 II (健康運動演習: 身体活動と身体応答)	①生活習慣病と運動処方 ②リアクションペーパー
7	スポーツと健康 III (生活習慣病とその運動処方)	①身体活動量とエネルギー消費 ②加齢と体力 ③リアクションペーパー
8	スポーツと体力 B I オンデマンド: (立位姿勢の構造と分析)	①立位姿勢のしくみ ②立位姿勢の撮影と分析・評価 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
9	スポーツと体力 B II (姿勢のセルフコントロール 1)	①実習: 動作課題 1 (骨盤と脊柱の動作) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
10	スポーツと体力 B III (姿勢のセルフコントロール 2)	①実習: 動作課題 2 (左右の歪みを整える) ②リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
11	スポーツと食事 I (ウエイトコントロール法)	①スポーツとウエイトコントロール ②アスリートの食事と身体組成 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト
12	スポーツと食事 II (栄養バランスの整え方)	①自身の食生活を振り返る ②栄養バランスの整え方 ③リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト

- | | | |
|----|-----------------------------------|--|
| 13 | スポーツと食事Ⅲ
(目的に合わせた運動
と栄養摂取法) | ①食環境を踏まえた食事のとり方
②食事とサプリメント
③運動時の水分補給
④リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テスト |
| 14 | 期末試験・総括と解説 | ①コンディション記録
②今後の健康の保持増進
③アンケート
④期末試験：各クラス共通問題
(マークシート方式) |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 各授業では、リアクションペーパーまたは授業習熟度確認テストが実施されます。各授業担当教員の指示にしたがって提出してください。
2. 各自のコンディションを日常的に記録し、レポートを提出してください。提出方法はガイダンスで説明します。
3. スポーツと体力AⅠ・体力AⅡに備えた準備学習では、ガイダンスで指示されたオンデマンド教材を視聴し、①トレーニングセンター利用ルール、②更衣室利用ルール、③トレーニングマシンの扱い方などを学習し、レポートを提出してください。
4. スポーツと食事では、①自身の食事内容（1日写真撮影など）、②大学または自宅周辺の外出調査などのレポートが予定されています。詳細はガイダンスにおいて説明します。
5. なお、以上1～4を含む本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布します。また、担当者によっては、大学ホームページ内の Hoppii から配付資料を各自でダウンロードするように指示が出されます。

【参考書】

01. 出村慎一『健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法』杏林書院
 02. 星野公夫（編）『スポーツ選手のための動作法』高文堂出版
 03. ボール・ウェイド著・山田雅久訳『プリズナートレーニング 圧倒的な強さを手に入れる究極の自重筋トレ』CCC メディアハウス
 04. プレット・コントララス著・東出顕子訳『自重筋力トレーニングアナトミイ』ガイアブックス
 05. エディー・ジョーンズ・持田昌典著『勝つための準備』講談社
 06. 山本ケイイチ『仕事ができる人はなぜ筋トレをするのか』幻冬舎新書
 07. 吉江一彦『エグゼクティブが身体を鍛える本当のワケ』グラフ社
 08. 山本利春著『疲れたときは、からだを動かす』岩波書店
 09. 清水昭はか『体温を上げて健康な体を手に入れる』ブティック・ムック通巻 878 号
 10. 伊藤マモル『基礎から学ぶスポーツトレーニング理論』日本文芸社
 11. 伊藤マモル『もっと伸びるストレッチング』スキージャーナル社
 12. 伊藤マモル『若さを伸ばすストレッチ』平凡社新書
 13. 伊藤マモル『基本のストレッチ (DVD 付)』主婦の友社
 14. 伊藤マモル『痛めない! ゆるまない! ひとりで巻くテーピング』日本文芸社
- 参考資料は、随時必要に応じて各担当教員から紹介されます。

【成績評価の方法と基準】

1. 最終評価および単位認定は、クラス担当教員が分野別授業の各担当教員から提示された評価を総合して行います。
2. その評価の割合は、授業内評価が 80 %（授業担当教員は各 20 点：計 80 点）、期末試験が 20 %です。
3. 授業内評価では、リアクションペーパーや授業習熟度確認テストだけでなく授業外に行うべき学習活動（準備学習や復習）、授業に取組む態度などが評価されます。
4. 成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格（単位認定）となります。
5. 期末試験の出題範囲は、各分野別授業で扱った内容のすべてですが、主として到達目標として示した内容について設問されます。
6. 期末試験は、各クラス共通問題であり、解答方法はマークシート方式です。
7. 期末試験の受験資格は、出席が 10 回以上の者を対象とします。
8. 本科目で求められた課題の未提出、欠席および遅刻、早退は減点されます。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度は 2020 年度に引き続き、計画していた対面授業が実施できませんでした。Covid-19 の感染予防対策を重視する大学の方針にしたがい、全てオンライン授業となりました。その授業を履修した法学部学生の皆さんからの意見は、授業終了後のアンケートによって把握しました。その結果、オンライン授業に対する評価や感想は賛否両論であり、身体をもっと動かすため実習・実技を要望する意見は多く、対面授業を求める意見が 70 %以上でした。その一方で、本科目のオンライン授業を高く評価する意見だけでなく、オンライン授業の方が効率的であるとか、習熟度が高まったなど、オンライン授業を支持する意見が多く寄せられたのも事実です。

アンケートの結果については、Covid-19 の影響による外出制限や自粛を求められた学生諸君の率直な心境が表れたものと解釈しています。しかしながら、大学における保健体育科目は、卒業後の健康の保持増進の在り方を見据えることが重要課題であり、単にスポーツ実技それだけを実施すれば良いわけではないことは理解してもらえと考えています。つまり、保健体育科目＝スポーツ種目を楽しむ授業と勘違いされない授業を展開することも法学部スポーツ総合演習の目標です。

【学生が準備すべき機器他】

1. オンライン授業を円滑に受講するためのインターネットの通信環境およびパソコンやタブレットなどの通信用デバイス
 2. 以下の項目を継続的に記録可能なスマートフォン・アプリなど
- ①睡眠時間（睡眠状態）
②脈拍数（心拍数）
③歩数・歩行距離など
※詳細はガイダンスで説明します。

【その他の重要事項】

本演習はクラス単位で分野別のオムニバス授業をリレー方式で授業を進めます。そのため、学部ガイダンスに出席し、受講できる学期と時間割を必ず確認して下さい。

1. 授業内容やその進め方などに関する詳細は、1 回目の授業（ガイダンス）において説明します（オンライン：リアルタイム）。必ず出席して下さい。その時の Zoom 招待 URL は Hoppii でお知らせします。
2. ガイダンスを欠席および遅刻、早退した場合は減点されます。
3. 対面授業にあたっては、最低でも 1 週間前より体温測定や体調の変化を記録し、各自が体調を整えた上で授業に臨むことを留意してください。
4. 授業の前後に行うべき課題や次の授業に向けての準備などは、分野別授業の担当教員からの指示にしたがってください。
5. なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will be conducted to make students to understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, by the end of the course, students should be able to do the following:

Improve properly learning and attitude about physical, mental and social health necessary throughout the students' future of life.

Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

In addition, students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding assignments to be done after class and preparations for the next class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students analyze their physical fitness and condition, training, posture, movement, body composition, aging, lifestyle-related diseases, nutrition and diet, and to help them change their behavior to improve their future health.

The following are the objectives of the classes in each field.

1. Guidance and common classes

- (01) Understand how to proceed with the class
- (02) To be able to set personal goals for maintaining and improving one's health
- (03) To be able to measure physical fitness and consider changes in conditions

2. Sports and physical fitness A (Improvement of dynamic function...training methods)
- (04) To be able to use a training center appropriately
- (05) To be able to explain the different energy metabolism depending on training methods
- (06) To be able to describe the points to be considered for safe and effective training
3. Sports and Health
- (07) To understand the relationship between energy expenditure and physical activity.
- (08) To understand body composition, obesity, and metabolic syndrome
- (09) To understand aging and physical fitness
- (10) To learn the basics of lifestyle-related diseases and to understand how to exercise to improve them
4. Sports and Physical Fitness B (Improvement of static function...posture and movement)
- (11) To learn about the structure of standing posture and understand the characteristics and problems of one's own posture.
- (12) To increase awareness of one's own body through movement tasks that consciously manipulate the pelvis, spine, and shoulders.
- (13) To understand the effects of consciously facing one's own body on one's physical and mental health.
5. Sports and Diet
- (14) To reflect on one's own dietary habits and understand how to maintain a nutritional balance.
- (15) To understand weight control methods based on body composition.
- (16) To understand exercise and nutritional intake methods for weight gain and weight loss.
- 【Learning activities outside of classroom】**
Learning activities outside of classroom are before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.
- 【Grading Criteria/Policy】**
Grading criteria of final grade will be calculated according to the following process term-end examination (20%), Participation in class activities and class attitude and short reports in-class (80%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）

8	スポーツと人間心理 1	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク（講義）
9	集団スポーツを学ぶ 2	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査 (1 回目) の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ (講義及び実習)
3	健康を考える 1	体力測定 (50m 走、シャトルランを除く) を通じて、現状の体力レベルを知る (講義および実習)
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える (講義)
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進 (講義及び実習)
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践 (講義及び実習)
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践 (講義および実習)

8	スポーツと人間心理 1	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク (講義)
9	集団スポーツを学ぶ 2	インディアカを通じた相互理解の促進 (講義及び実習)
10	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進 (講義及び実習)
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進 (講義及び実習)
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める (講義及び実習)
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る (講義)
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査 (2 回目) の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我等といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我等による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ハウ・レン・ソウ (報告、連絡、相談)」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
6	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）
7	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
8	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
9	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）

10	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
 - 2) 課題レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
- ※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
- ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
 2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
- その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
 2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
 3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
 4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
6	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）
7	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
8	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
9	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）

10	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
 - 2) 課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
- ※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
- ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
 2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
- その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
 2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
 3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
 4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査 (1 回目) の実施 (講義)
第 2 回	集団スポーツ (1)	バレーボールを通じた相互理解の促進 (講義及び実技)
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施 (講義及び実技)
第 4 回	体力測定	体力測定の実施 (講義及び実技)
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する (講義)
第 6 回	集団スポーツ (2)	バレーボールを通じたリーダーシップの発揮と協働力の養成 (講義及び実技)
第 7 回	ヨガ・マインドフルネストレーニング	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ (講義及び実技)
第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ (講義)

第 9 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ（講義及び実技）
第 10 回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通したスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 11 回	Well-being	Well-being を高めるための知見および技法を学ぶ（講義）
第 12 回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通した問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 14 回	授業総括と健康行動計画の立案	授業の総括をするとともに、大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。 Well-being およびコンピテンシー診断検査（2 回目）の実施（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to: 1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.

2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.

3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（1 回目）の実施（講義）
第 2 回	集団スポーツ（1）	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実技）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	集団スポーツ（2）	バレーボールを通じたリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 7 回	ヨガ・マインドフルネストレーニング	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）
第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ（講義）

第 9 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ（講義及び実技）
第 10 回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通じたスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 11 回	Well-being	Well-being を高めるための知見および技法を学ぶ（講義）
第 12 回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通じた問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通じた競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 14 回	授業総括と健康行動計画の立案	授業の総括をするとともに、大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。 Will-being およびコンピテンシー診断検査（2 回目）の実施（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to: 1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.

2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.

3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部 成雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク（講義）
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
5	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
6	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
7	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
8	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
9	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
10	健康を考える	健康の維持増進に寄与する身体活動（講義）

11	健康とトレーニング	トレーニング記録の収集と分析 (講義及び実習)
12	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の 促進 (講義及び実習)
13	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた協同活動、 社会的スキル診断検査 (2 回目) (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作 成 (講義)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
2) 課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
※やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我等による欠席となります。

※前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院等による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当教員のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。
5. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ (報告、連絡、相談)」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

阿部 成雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク（講義）
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
5	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
6	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
7	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
8	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
9	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
10	健康を考える	健康の維持増進に寄与する身体活動（講義）

11	健康とトレーニング	トレーニング記録の収集と分析（講義及び実習）
12	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた協同活動、社会的スキル診断検査（2 回目）（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
 - 2) 課題レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
- ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
- ※やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我等による欠席となります。
- ※前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院等による欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当教員のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。
5. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）

8	スポーツと人間心理 1	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク（講義）
9	集団スポーツを学ぶ 2	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査 (1 回目) の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ (講義及び実習)
3	健康を考える 1	体力測定 (50m 走、シャトルランを除く) を通じて、現状の体力レベルを知る (講義および実習)
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える (講義)
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進 (講義及び実習)
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践 (講義及び実習)
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践 (講義および実習)

8	スポーツと人間心理 1	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク (講義)
9	集団スポーツを学ぶ 2	インディアカを通じた相互理解の促進 (講義及び実習)
10	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進 (講義及び実習)
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進 (講義及び実習)
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める (講義及び実習)
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る (講義)
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査 (2 回目) の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我等といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我等による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ハウ・レン・ソウ (報告、連絡、相談)」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
6	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）
7	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
8	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
9	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）

10	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
 - 2) 課題レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
- ※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
- ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
 2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
- その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
 2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
 3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
 4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
6	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）
7	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
8	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
9	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）

10	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
 - 2) 課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
- ※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
- ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
 2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
- その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
 2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
 3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
 4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（1 回目）の実施（講義）
第 2 回	集団スポーツ（1）	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実技）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	集団スポーツ（2）	バレーボールを通じたリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 7 回	ヨガ・マインドフルネストレーニング	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）
第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ（講義）

第 9 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ（講義及び実技）
第 10 回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通したスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 11 回	Well-being	Well-being を高めるための知見および技法を学ぶ（講義）
第 12 回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通した問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 14 回	授業総括と健康行動計画の立案	授業の総括をするとともに、大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。 Well-being およびコンピテンシー診断検査（2 回目）の実施（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to: 1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.

2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.

3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査 (1 回目) の実施 (講義)
第 2 回	集団スポーツ (1)	バレーボールを通じた相互理解の促進 (講義及び実技)
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施 (講義及び実技)
第 4 回	体力測定	体力測定の実施 (講義及び実技)
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する (講義)
第 6 回	集団スポーツ (2)	バレーボールを通じたリーダーシップの発揮と協働力の養成 (講義及び実技)
第 7 回	ヨガ・マインドフルネストレーニング	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ (講義及び実技)
第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ (講義)

第 9 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ (講義及び実技)
第 10 回	個人スポーツ (1)	バドミントンを通じたスポーツを「楽しむ」態度の涵養 (講義及び実技)
第 11 回	Well-being	Well-being を高めるための知見および技法を学ぶ (講義)
第 12 回	個人スポーツ (2)	バドミントンを通じた問題解決能力の養成 (講義及び実技)
第 13 回	個人スポーツ (3)	バドミントンを通じた競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成 (講義及び実技)
第 14 回	授業総括と健康行動計画の立案	授業の総括をするとともに、大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。 Will-being およびコンピテンシー診断検査 (2 回目) の実施 (講義)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更 (オンライン授業など) になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to: 1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.

2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.

3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
5	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
6	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
7	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成
8	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
9	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る
10	健康を考える	健康の維持増進に寄与する身体活動

11	健康とトレーニング	トレーニング記録の収集と分析 (講義及び実習)
12	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の 促進 (講義及び実習)
13	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた協同活動、 社会的スキル診断検査 (2 回目) (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作 成

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
2) 課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。

※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ (報告、連絡、相談)」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.

2. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student and social life.
3. Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
4. To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.

5. Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training. Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1) Participation status for activities during class / reaction paper 60%,

2) assignments / reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク
3	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
4	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
5	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
6	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
7	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成
8	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
9	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者から見た私」を知る
10	健康を考える	健康の維持増進に寄与する身体活動

11	健康とトレーニング	トレーニング記録の収集と分析（講義及び実習）
12	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
13	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた協同活動、社会的スキル診断検査（2 回目）（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

担当教員が必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
 - 2) 課題レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
- ※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
- ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to deepen students' understanding of the significance and role of physical activity, and to foster the acquisition of essential knowledge and attitudes that contribute to the maintenance and promotion of physical, mental, and social health and self-management throughout life through lectures and practical training.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Deepen understanding of the significance and role of physical activity from various perspectives.

- 2.Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student and social life.
- 3.Acquire basic knowledge and develop attitudes that contribute to self-management.
- 4.To acquire the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others, which is considered to be extremely important for playing an active role in the real world after graduation.
5. Aim to acquire various skills that lead to the development of employment ability (ability to build relationships of trust, ability to act jointly, etc.).

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The purpose of this class is to understand that sports activities contribute to the promotion of physical and mental health and interpersonal relationships through lectures and practical training. Therefore, record the time spent on daily physical activity, meals, sleep time, etc., look back on the contents, and record the effects and future tasks. Also, get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

- 1) Participation status for activities during class / reaction paper 60%,
- 2) assignments / reports 40%.

In principle, this grade evaluation method is used, and students who have difficulty in normal activities will be treated and evaluated individually.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）

8	スポーツと人間心理 1	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク（講義）
9	集団スポーツを学ぶ 2	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査 (1 回目) の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ (講義及び実習)
3	健康を考える 1	体力測定 (50m 走、シャトルランを除く) を通じて、現状の体力レベルを知る (講義および実習)
4	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える (講義)
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進 (講義及び実習)
6	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践 (講義及び実習)
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践 (講義および実習)

8	スポーツと人間心理 1	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク (講義)
9	集団スポーツを学ぶ 2	インディアカを通じた相互理解の促進 (講義及び実習)
10	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールを通じた対人スキルの促進 (講義及び実習)
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進 (講義及び実習)
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める (講義及び実習)
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る (講義)
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査 (2 回目) の実施

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我等といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
3. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ハウ・レン・ソウ (報告、連絡、相談)」の実施を求めます。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡してください。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（1 回目）の実施（講義）
第 2 回	集団スポーツ（1）	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実技）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	集団スポーツ（2）	バレーボールを通じたリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 7 回	ヨガ・マインドフルネストレーニング	ストレス対処法としてのヨガやボディスキヤン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）
第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ（講義）

第 9 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ（講義及び実技）
第 10 回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通したスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 11 回	Well-being	Well-being を高めるための知見および技法を学ぶ（講義）
第 12 回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通した問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通した競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 14 回	授業総括と健康行動計画の立案	授業の総括をするとともに、大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。 Well-being およびコンピテンシー診断検査（2 回目）の実施（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to: 1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.

2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.

3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

稲垣 和希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。Will-being およびコンピテンシー診断検査（1 回目）の実施（講義）
第 2 回	集団スポーツ（1）	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実技）
第 3 回	安全講習会	トレーニングセンターの利用講習会の実施（講義及び実技）
第 4 回	体力測定	体力測定の実施（講義及び実技）
第 5 回	体力測定結果のフィードバック	体力測定結果をもとに自身の体力レベル、健康状態を理解する（講義）
第 6 回	集団スポーツ（2）	バレーボールを通じたリーダーシップの発揮と協働力の養成（講義及び実技）
第 7 回	ヨガ・マインドフルネストレーニング	ストレス対処法としてのヨガやボディスキャン、瞑想法を学ぶ（講義及び実技）
第 8 回	行動変容と運動継続	行動を継続し、習慣化するための技法を学ぶ（講義）

第 9 回	フィットネストレーニング	各自の体力レベルに応じた安全なフィットネストレーニング方法を学ぶ（講義及び実技）
第 10 回	個人スポーツ（1）	バドミントンを通じたスポーツを「楽しむ」態度の涵養（講義及び実技）
第 11 回	Well-being	Well-being を高めるための知見および技法を学ぶ（講義）
第 12 回	個人スポーツ（2）	バドミントンを通じた問題解決能力の養成（講義及び実技）
第 13 回	個人スポーツ（3）	バドミントンを通じた競争場面でのパフォーマンス発揮スキルの養成（講義及び実技）
第 14 回	授業総括と健康行動計画の立案	授業の総括をするとともに、大学生活を心身ともに健康に過ごすための行動計画を立案する。 Will-being およびコンピテンシー診断検査（2 回目）の実施（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。また、学期途中で授業の形態が変更（オンライン授業など）になった場合には、評価方法が変更になる場合があります。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

運動の得意・苦手に関わらず多くの学生が「スポーツを楽しむ」ことを実現できていたと思われます。本年度は、クラスメイト同士の関わりやディスカッションを通して、心身の健康を生涯にわたって維持増進できる資質の獲得を目指した授業を展開していきます。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to: 1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.

2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.

3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
6	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）
7	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
8	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
9	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）

10	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
 - 2) 課題レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
- ※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
- ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
 2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
- その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
 2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
 3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
 4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

蔭山 雅洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、社会的スキル診断検査（1 回目）（講義）
2	体力測定	体力測定の意義を知る（講義及び実習）
3	健康と体力	体力測定のフィードバック及びレポート作成（講義）
4	トレーニング演習	トレーニングの理論と実践方法（講義及び実習）
5	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
6	ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方	ライフスタイルについて学び、自身のスポーツとの関わり方について理解を深める（講義）
7	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた新規の人間関係の構築（講義及び実習）
8	集団スポーツを学ぶ 2	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
9	健康科学を学ぶ	食事、睡眠、飲酒、喫煙、感染症について学び、自身の健康について考える（講義）

10	オリンピック・パラリンピックについて学ぶ	オリンピック・パラリンピックの意義を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
11	集団スポーツを学ぶ 3	バレーボールのルールや基礎的技術を学び、競技特性及び専門性について理解を深める（講義および実技）
12	スポーツ科学を学ぶ	最新のスポーツ科学を知り、スポーツへの理解を深める（講義）
13	授業総括	社会的スキル診断検査および体組成の測定（2 回目）を実施し、これまでの授業が自身の社会的スキルと健康に与えた影響について理解を深める（講義および実習）
14	個人スポーツを学ぶ 2	バドミントンを通じた相互理解の促進（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。資料は必要に応じて担当教員が配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。担当教員が必要に応じて資料等を配布、あるいは参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、
 - 2) 課題レポート 40 %の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。
- ※原則として欠席 3 回までを評価対象とします。
- ※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
- ※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
- ※レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

新規的な人間関係の構築を促進する目的から、多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
 2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。
- その他の重要事項
1. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業から出席してください。
 2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
 3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
 4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 6/Mon.6

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は必修科目で、法学部以外の学部再履修生および社会人（RSP 含む）学生を対象に行う。1～6回を市ヶ谷キャンパスで開講し、7回～14回をサマーセッション期間中に、多摩キャンパスにおいて、2日間連続で行う。学部を問わず履修可能であるが、履修希望者が多数の場合は、事前のガイダンスにおいて抽選をおこない、履修可能者が決定される。

授業はスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度に加え、試験およびレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

また、授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

本講義の詳細については、各学部のガイダンスおよび再履修者ガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (zoom で行う)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。
3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。 運動が健康に及ぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	トレーニング演習 (講義および実習)	トレーニング理論および実践方法を理解し、実際に機器を使ってトレーニングを行う。また、自重を用いたトレーニング方法を習得する。

5	ウォーミングアップとクーリングダウン (講義および実習)	ウォーミングアップ、クーリングダウンの重要性について説明する。特にストレッチの種類、正確な行い方については実践を通じて習得する。
6	スポーツ傷害と応急処置 (講義および実習)	スポーツ傷害について、発生要因とその応急処置を説明する。また温・冷罨法における生体機能について説明する。
7	スポーツ・ウォーキング (講義および実習)	スポーツ・ウォーキングにの身体へ及ぼす影響を理解し、基本的なウォーキング技術を習得しながら、多摩キャンパス内を実践する。
8	食事と健康 (講義)	栄養素と身体活動との関係を理解し、多摩キャンパス内の食堂でバランスの取れた食事を摂取する。
9	ニュースポーツ (講義および実習)	ニュースポーツについて概説し、その一つであるソフトバレーを実践する。基本的なパス、レシーブ、サーブ練習を行った後に、チームに分かれてゲームを行う。
10	ヨガと瞑想 (講義および実習)	ヨガについて概説し、基本のポーズを筋肉の解剖を理解しながら実践する。同時に、呼吸法の一つを実践することで瞑想状態に近づける。
11	トレッキングの基礎知識 (講義および実習)	トレッキングの基礎知識を概説し、多摩キャンパス近くにある高尾山を歩き、トレッキングを体験する。自然活動を行う際の基礎的知識から、トレッキングなどの専門的知識などを実践を通じて学習する。
12	トレッキングと自然環境 (講義および実習)	高尾山の自然環境を体感することで、環境問題について意見を述べ合い、その対策などを確認しながら、トレッキングを実践する。
13	トレッキングと健康 (講義および実習)	トレッキングが身体の諸器官に与える影響について説明する。また適切な水分摂取の方法や身体ケアの方法について習得する。総括として、自然活動のマナーやルールについて学生同士話し合いを行う。
14	まとめ (講義)	授業全体を通じて、学んだこと、感じたことを振り返り、身体活動の意義や役割について、学生同士意見交換を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 80%、2) 課題・レポート 20% の配分として総合評価する。
この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。

3) 毎回授業の最後に次回の内容を伝達し、次回の準備にあてるよう工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。オンライン授業をより効果的に行うために、パソコンを準備することががのぞましい。それと同時に通信機器及び通信環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後にうけつける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～18 時 30 分の 100 分を設ける。

オフィスアワーを利用する場合は、メールを通じて事前に連絡をとることががのぞましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will conducted to make students understand the significance and effect of physical activity deeply.

Therefore, students who take this course are learnable to improve properly learning and attitude about physical, mental, social health necessary throughout the students' future of life. Concretely, we will educate to maintain and promote their own health, to acquire important knowledge to self health care, and to develop attitudes for that.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Participation in class activities (not attendance) : 80%
- 2) Assignments and reports : 20%

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 6/Mon.6

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

その他、スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術に応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術に応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケーションの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
 教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
 初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
 授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が
 有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

秋本 成晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を9回程度、教室での講義を5回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講に対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

なお、最終授業で13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	運動と栄養 (講義)	自身の体力を客観的に捉え、健康的な体力作りに必要な方策について考えるとともに、健康的な食生活について考える。
4	卓球（基礎） (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
5	卓球（応用）・サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のゲームについて学ぶとともに、視覚に障害がある人を中心に、行われている卓球について学ぶ。
6	体づくりとトレーニング (講義および実習)	トレーニングの理論と実践方法、およびストレッチの基礎について学ぶ。
7	ウォーキング (講義および実習)	ウォーキングについて、その理論と実践を通して学ぶ。

8	バドミントン (講義および実習)	バドミントンの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
9	サッカー・フットサル (講義および実習)	サッカー・フットサルの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
10	パラリンピック概論 (講義)	障害のある人のスポーツとパラリンピックについて学ぶ。
11	ボッチャ (講義および実習)	体に障害のある人を中心に行われているボッチャという競技について学ぶ。
12	バスケットボール (講義および実習)	バスケットボールの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
13	バレーボール (講義および実習)	バレーボールの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。

なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・コロナ禍において、生活・運動習慣の変化が生じたというフィードバックが多数ありました。本授業では、その時々々の社会情勢や学生のニーズの変化に応じて、授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供することを考えています。
・コロナ禍におけるオンライン授業化に伴い、授業内における学生間の交流が減少したという声がありました。本授業では、学生間の積極的な交流を通して学びを充実させることを考えています。

【学生が準備すべき機器他】

・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。

【その他の重要事項】

・授業内容や授業の進め方については、第 1 回目の授業で説明するので、必ず出席すること。
・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %), final report (20%) and the class participation (not attendance) (20%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

秋本 成晴

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は感染対策を十分に実施した上で、対面による実技を 9 回程度、教室での講義を 5 回程度おこなう。感染の状況によっては実技と講義の回数に変更がある可能性もある。基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。コロナ禍の影響で対面での受講が難しい学生については、別途教員が指示をし、オンラインでの授業受講を対応する。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

なお、最終授業で 13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。
2	体力測定 (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	運動と栄養 (講義)	自身の体力を客観的に捉え、健康的な体力作りに必要な方策について考えるとともに、健康的な食生活について考える。
4	卓球 (基礎) (講義および実習)	卓球の基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
5	卓球 (応用)・サウンドテーブルテニス (講義および実習)	卓球のゲームについて学ぶとともに、視覚に障害がある人を中心に行われている卓球について学ぶ。
6	体づくりとトレーニング (講義および実習)	トレーニングの理論と実践方法、およびストレッチの基礎について学ぶ。
7	ウォーキング (講義および実習)	ウォーキングについて、その理論と実践を通して学ぶ。

8	バドミントン (講義および実習)	バドミントンの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
9	サッカー・フットサル (講義および実習)	サッカー・フットサルの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
10	パラリンピック概論 (講義)	障害のある人のスポーツとパラリンピックについて学ぶ。
11	ボッチャ (講義および実習)	体に障害のある人を中心に行われているボッチャという競技について学ぶ。
12	バスケットボール (講義および実習)	バスケットボールの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
13	バレーボール (講義および実習)	バレーボールの基礎について学び、安全に配慮したゲームを行う。
14	総括 (講義)	これまでの授業を振り返り、互いに意見を交換を行い、授業全体の総括を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習を行うにあたり、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配布する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %、期末レポート 20 %、授業への参画状況 20 % の配分で評価する。

なお欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価が低下する。出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため E 評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

・コロナ禍において、生活・運動習慣の変化が生じたというフィードバックが多数ありました。本授業では、その時々々の社会情勢や学生のニーズの変化に応じて、授業内容を柔軟に変化させ、より学生の状況に合わせた学びを提供することを考えています。
・コロナ禍におけるオンライン授業化に伴い、授業内における学生間の交流が減少したという声がありました。本授業では、学生間の積極的な交流を通して学びを充実させることを考えています。

【学生が準備すべき機器他】

・実習に際しては、運動着の着用および室内運動靴が必要である。

【その他の重要事項】

・授業内容や授業の進め方については、第 1 回目の授業で説明するので、必ず出席すること。
・受講者数、教場並びに昨今の新型コロナウイルスに伴う大学方針によって、授業計画の順序等が変更になることがある。
・実習前後において、自身の体調及び傷害等気になる点があった場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.

5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %), final report (20%) and the class participation (not attendance) (20%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

その他、スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術に応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術に応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケーションの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。

今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更

になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知を

するため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。

教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。

初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。

授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点がある

有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

その他、スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術に応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術に応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケーションの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
 教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
 初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
 授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点がある場合には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、「スポーツ総合演習（アダプテッド・コース）」というコースであることに注意されたい。

本コースでは、自らの心身の状況を考慮しつつ、自己に適した運動・スポーツを行うことを重視する。

本授業では、身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、市ヶ谷キャンパスで開講される。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。
 毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
 スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
3	ストレッチを学ぶ（講義および実習）	ストレッチの概要を学び、実践する。
4	体力を測定する（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
5	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
6	運動と社会的健康との関連を学ぶ（講義および実習）	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。

7	トレーニング演習：トレーニングの理論と実践方法（講義と実技）	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニングルームにおいて、各種トレーニングを実践する。
8	ボッチャを学ぶ（講義および実習）	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。
9	スポーツと文化との関連を学ぶ（講義）	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
10	運動習慣を促進するための方法を学ぶ（講義および実習）	運動習慣を促進するための方法を学び、意見交換を行う。
11	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、習得する。
12	卓球を学ぶ（講義および実習）	卓球のルールや技術を学び、実践する。
13	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	健康を題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
14	コミュニケーションを学ぶ（講義および実習）	スポーツを題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「様々な理由でこの授業を履修している方がいると思いますが、ボッチャだけでなく違うパラスポーツも体験してみたかったです。でも、スポーツに関して様々な観点から学べて充実していました」「運動を制限されている学生に対してもきちんとした対応がなされていてとても良かったです。コースの人と楽しくスポーツを一緒にできてとても嬉しかったです。障害者スポーツに興味を持つことができました。今後、注目をして見ていきたいと思います」「身体への配慮が行き届いていて、無理なく身体を動かすことができた。授業内でも意見を交換するなど、コミュニケーションを取る場面が多く、人の意見を聞いて勉強になることが多かった。おそらく（人生で）最後の体育になるが、スポーツへのイメージがあまり良くなかったのが、ガラッと変わったので履修して、本当に良かった」「講義はスポーツマンシップ、スポーツの意義を中心に、健康に対する考え方、ストレスへの対処など多岐にわたる。実技はさほど激しくなく、それぞれの障害に配慮した内容になっていて、安心して受講できる」などの意見をもらいました。今後も、受講生の心身の状況（疾患、負傷、障がいなど）に合わせて、授業を実施します。

【その他の重要事項】

アダプテッド・コースの受講者は、以下に示す条件を満たして、担当教員から受講が認められた者とする。

1. スポーツ総合演習の受講に影響のある疾患または障がいのある者。
2. 負傷しており、所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習の受講が困難な者。
3. 所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習を履修する者の中で、授業期間中に授業参加が困難なほどに負傷した者。
4. その他、妥当だと判断される理由のある者。
5. 「選択科目」としての履修は、原則として認めない。
6. 「再履修」としての履修は認める。

なお、負傷している、または、障がいのある者であっても、本コースのスポーツ総合演習を履修するかどうかは、本人の希望を尊重する。また、本コースの受講を検討している者は、原則として、受講を希望する年度の履修登録期間の前に、保健体育部（事務）に連絡をすること。その後、担当教員と面談や情報交換を行った上で、受講の可否が決定される。

【Outline (in English)】

Please note that this class is a special course called an adapted course.

【Course outline】This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

荒井 弘和

開講時期: 春学期集中/Intensive(Spring) | 曜日・時限: 集中・その他/Intensive・other courses
 単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、「スポーツ総合演習 (アダプテッド・コース)」というコースであることに注意されたい。

本コースでは、自らの心身の状況を考慮しつつ、自己に適した運動・スポーツを行うことを重視する。

本授業では、身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、市ヶ谷キャンパスで開講される。

この科目は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	コミュニケーションを学ぶ (講義および実習)	コミュニケーションの基礎を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
3	ストレッチを学ぶ (講義および実習)	ストレッチの概要を学び、実践する。
4	体力を測定する (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
5	運動と身体的・精神的健康との関連を学ぶ (講義および実習)	運動と身体的・精神的健康との関連を学び、意見交換を行う。
6	運動と社会的健康との関連を学ぶ (講義および実習)	運動と社会的健康との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。

7	トレーニング演習: トレーニングの理論と実践方法 (講義と実技)	トレーニング理論・実践方法を学び、トレーニンググループにおいて、各種トレーニングを実践する。
8	ボッチャを学ぶ (講義および実習)	ボッチャのルールや技術を学び、実践する。
9	スポーツと文化との関連を学ぶ (講義)	スポーツと文化との関連を学び、意見交換やグループワークを行う。
10	運動習慣を促進するための方法を学ぶ (講義および実習)	運動習慣を促進するための方法を学び、意見交換を行う。
11	卓球を学ぶ (講義および実習)	卓球のルールや技術を学び、習得する。
12	卓球を学ぶ (講義および実習)	卓球のルールや技術を学び、実践する。
13	コミュニケーションを学ぶ (講義および実習)	健康を題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。
14	コミュニケーションを学ぶ (講義および実習)	スポーツを題材として、コミュニケーションの応用を学び、コミュニケーション促進のためのアクティビティを実践する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60 %、2) 課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「様々な理由でこの授業を履修している方がいると思いますが、ボッチャだけでなく違うバラスポーツも体験してみたかったです。でも、スポーツに関して様々な観点から学べて充実していました」「運動を制限されている学生に対してもきちんとした対応がなされていてとても良かったです。コースの人と楽しくスポーツを一緒にできてとても嬉しかったです。障害者スポーツに興味を持つことができました。今後、注目をして見ていきたいと思います」「身体への配慮が行き届いていて、無理なく身体を動かすことができた。授業内でも意見を交換するなど、コミュニケーションを取る場面が多く、人の意見を聞いて勉強になることが多かった。おそらく (人生で) 最後の体育になるが、スポーツへのイメージがあまり良くなかったのが、ガラッと変わったので履修して、本当に良かった」「講義はスポーツマンシップ、スポーツの意義を中心に、健康に対する考え方、ストレスへの対処など多岐にわたる。実技はさほど激しくなく、それぞれの障害に配慮した内容になっていて、安心して受講できる」などの意見をもらいました。今後も、受講生の心身の状況 (疾患、負傷、障がいなど) に合わせて、授業を実施します。

【その他の重要事項】

アダプテッド・コースの受講者は、以下に示す条件を満たして、担当教員から受講が認められた者とする。

1. スポーツ総合演習の受講に影響のある疾患または障がいのある者。
2. 負傷しており、所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習の受講が困難な者。
3. 所属学部・学科に割り当てられたスポーツ総合演習を履修する者の中で、授業期間中に授業参加が困難なほどに負傷した者。
4. その他、妥当だと判断される理由のある者。
5. 「選択科目」としての履修は、原則として認めない。
6. 「再履修」としての履修は認める。

なお、負傷している、または、障がいのある者であっても、本コースのスポーツ総合演習を履修するかどうかは、本人の希望を尊重する。また、本コースの受講を検討している者は、原則として、受講を希望する年度の履修登録期間の前に、保健体育部（事務）に連絡をすること。その後、担当教員と面談や情報交換を行った上で、受講の可否が決定される。

【Outline (in English)】

Please note that this class is a special course called an adapted course.

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習 S

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
8	スポーツと人間心理	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク（講義）

9	集団スポーツを学ぶ 2	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習 S

2017 年度以降入学者

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP1、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。社会的スキル診断検査（1 回目）の実施。
2	トレーニングと健康	トレーニングセンターの利用方法および安全講習を行い、「トレーニング」という観点から健康を維持するための方法を学ぶ（講義及び実習）
3	健康を考える 1	体力測定（50m 走、シャトルランを除く）を通じて、現状の体力レベルを知る（講義および実習）
4	個人スポーツを学ぶ 1	バドミントンを通じた協同活動の理解と実践（講義及び実習）
5	集団スポーツを学ぶ 1	バレーボールを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
6	健康を考える 2	体力測定データのフィードバックから健康を維持するための方法を考える（講義）
7	個人スポーツを学ぶ 2	卓球を通じた共同活動の理解と実践（講義および実習）
8	スポーツと人間心理	「他者から見る自画像」を用いたグループワーク（講義）

9	集団スポーツを学ぶ 2	インディアカを通じた相互理解の促進（講義及び実習）
10	集団スポーツを学ぶ 3	フットサルを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
11	個人スポーツを学ぶ 3	バドミントンを通じた対人スキルの促進（講義及び実習）
12	スポーツとパーソナリティ	パーソナリティ検査を用い、自己理解を深める（講義及び実習）
13	健康を考える 3	健康維持のためのトレーニングの原則や適切な栄養摂取の方法を知る（講義）
14	総括、レポート	授業の総括および、これまでの授業が各自の社会的スキルに与えた影響について検討することを目的としたレポートに取り組む、社会的スキル診断検査（2 回目）の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 4 時間以上です。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告してください。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告してください。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

1. 食事、休養、睡眠等の生活習慣について日々記録することが望ましい。
2. 多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明および社会的スキル診断検査を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種類のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加で

きる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム（Hoppii）を通して告知する。

その他、スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（講義）	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定（講義および実習）	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力（講義）	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする（講義）
4	トレーニング演習（講義及び実習）	トレーニングの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅠ	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バドミントンの基礎技術に応用し、実践を行う
7	ウォーキング（講義および実習）	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費系統に関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶⅠ（講義および実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶⅡ（講義および実習）	バスケットボールの基礎技術に応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	対戦形式（ネット型）を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルスゲームを行う
11	対戦形式（ネット型）のスポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶⅢ（理論と実習）	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶⅣ（理論と実習）	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括（講義）	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。
また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケーションの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。
今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点がある場合は、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS100LA

スポーツ総合演習

2017 年度以降入学者

竹内 洋輔

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 2 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP1、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、原則学部・所属クラスごとに履修する授業の学期・曜日・時限が指定され、週 1 回、半期にわたって開講される。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験・レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や感想をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

基本的に対面での実施をするため、大学の感染症対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。

コロナ禍の影響により大学側の感染対策によってオンライン・オンデマンド授業等授業実施方法が変更になった場合には授業支援システム (Hoppii) を通じて告知する。

その他、授業に関わる連絡事項については、市ヶ谷総合体育館の掲示板や、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通じて告知する。

その他、スポーツ総合演習の詳細については、各学部のガイダンスの際に説明する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (講義)	授業ガイダンスによって、授業の概要を理解する。
2	体力測定 (講義および実習)	体力測定の意義を理解して実施する。自らの体力測定結果を評価し、考察する。
3	健康と体力 (講義)	様々な健康関連・医学的情報を理解し、体力測定の結果を踏まえ、自らの健康の維持・改善に必要な情報を適切に選択できる能力の修得をする (講義)
4	トレーニング演習 (講義及び実習)	トレーニングの理論及び実践方法を理解する

5	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶ I	対戦形式 (ネット型) を通じた協同活動の理解、バドミントンの基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
6	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶ II (講義および実習)	バドミントンの基礎技術に応用し、実践を行う
7	ウォーキング (講義および実習)	有酸素運動としてウォーキングを校外にて実施し、人間のエネルギーの消費システムに関する理解を深める
8	得点形式スポーツを学ぶ I (講義および実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、バスケットボールの競技特性を理解したうえで、対戦相手に応じてルールを工夫し、安全に配慮してゲームを行う
9	得点形式スポーツを学ぶ II (講義および実習)	バスケットボールの基礎技術に応用し、安全に配慮してゲームを行う
10	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶ III (理論と実習)	対戦形式 (ネット型) を通じた協同活動の理解、ネットスポーツとして卓球の基礎技術のトレーニングおよび、シングルのゲームを行う
11	対戦形式 (ネット型) のスポーツを学ぶ IV (理論と実習)	卓球の応用技術を習得し、ダブルスのゲームを行う
12	得点形式スポーツを学ぶ III (理論と実習)	得点形式スポーツの特徴の理解、フットサルについて、基礎技術のトレーニングおよび、ミニゲームを行う
13	得点形式スポーツを学ぶ IV (理論と実習)	フットサルについて、応用技術の習得し、ゲームを行う
14	総括 (講義)	これまで授業で行った内容やその関連項目について理論を含め講義し、質問や意見交換を行い総括とする。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、各授業担当教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度を 60% 2) 授業に対する理解度や課題・レポートを 40 % の配分として総合評価する。またこの成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大学で体育を行う意味や、健康の維持・増進に運動がどう関わるのか、またそのための運動についてや、他者とのコミュニケーションの重要性について良く理解をできた等の意見を頂きました。今後も受講生との対話や授業改善アンケートをもとに、より良い授業内容を実施できるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染症による影響により、授業の実施方法や計画が変更になることがある。授業に関する連絡は授業支援システムを利用して告知をするため、必ずお知らせメールを受診できるようにしておくこと。

対面実技授業においては、運動着の着用および室内運動靴が必要となる。
 教場の関係により、授業計画の順序等が変更になることがある。
 初回授業に関しては、ガイダンスの為、運動着への着替えを必要としない。
 授業当日、実技実施前後において、自身の身体で体調・障害等気になる点が
 有った際には、必ず担当教員に申告し、対応の指示を受けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60 %) and the class participation (not attendance) (40%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。

毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるためのリフレクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習復習の仕方、辞書の活用法、などについて Unit 1 の冒頭を用いて説明する。
2	Unit 1 The Concept of Beauty「美」の概念 <前半>	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
3	Unit 1 <後半>	第 4～7 パラグラフ、および練習問題
4	Unit 2 Greek Mythology – – Stories of Gods and Humans ギリシア神話—— 神々と人間の物語 <前半>	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
5	Unit 2 <後半>	第 4～7 パラグラフ、および練習問題

6	Unit 3 The Bible -- Mainstay of Christianity 聖書——キリスト 教の支柱 ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ、および練習 問題
7	Unit 3 ＜後半＞	第 5～6 パラグラフ、および練習 問題
8	Unit 4 Renaissance -- Transcending Cultural Movements ルネサンス—— ジャンルを横断する ムーブメント ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ、および練習 問題
9	Unit 4 ＜後半＞	第 5～6 パラグラフ、および練習 問題
10	Unit 5 The Structure of Fictional Literature	各自のレポートに基づく、グルー プワーク
11	Unit 7 The English Language 英語の変遷 ＜前半＞	第 1～5 パラグラフ、および練習 問題
12	Unit 7 ＜後半＞	第 6～7 パラグラフ、および練習 問題
13	復習・復習試験	前半: Unit1～4,7 の復習、補足 後半: 復習試験
14	Unit 6 The Theater and Acting	各自のレポートに基づく、グルー プワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須である。

教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や章末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton / 小田 島 恒 志,
TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity,
Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ—響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。

毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回のリフレクションペーパー 40 %、レポート 10 %）、復習試験 50 % の成績の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

・ペア／グループワークを積極的にとりいれる。

・リフレクションペーパーの作成・提出、添削、フィードバックは、対面授業であってもオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。

・予告のうえ、授業中に Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook that discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.

Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (40%), short report(s) (10%), and review test(s) (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。

毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるための小テストおよびリアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8 The Rise of Cities 都市の隆盛	各自のレポートにもとづくグループワーク
2	Unit 9 Trusting in Recorded History 歴史という記録の信頼性 <前半>	第 1～3 段落、および練習問題
3	Unit 9 <後半>	第 4～8 段落、および練習問題
4	Unit 10 Battles on Board Games 盤上の戦い——チェス／将棋／チャトランガ...	各自のレポートにもとづくグループワーク

5	Unit 11 How Democracy Works 民主主義という制度 <前半>	第 1～2 段落、および練習問題
6	Unit 11 <後半>	第 3～6 段落、および練習問題
7	Unit 12 Marriage and the State 結婚と国家 <前半>	第 1～3 段落、および練習問題
8	Unit 12 <後半>	第 4～5 段落、および練習問題
9	Unit 13 The Meaning of Prayers 「祈り」のもつ意味 <前半>	第 1～3 段落、および練習問題
10	Unit 13 <後半>	第 4～5 段落、および練習問題
11	Unit 15 The Importance of Discipline 「しつけ＝規律」の重要性 <前半>	第 1～4 段落、および練習問題
12	Unit 15 <後半>	第 5～6 段落、および練習問題
13	復習・復習試験	前半： Unit 8, 9, 11, 12, 13, 15 の復習、補足 後半：復習試験
14	Unit 14 Mankind and Laughter 笑い人間	各自のレポートに基づくグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や巻末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton/小田島恒志, TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity, Kinseido, 2017. [『多元文化論 エッセイ——響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。

毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回のリフレクションペーパー 40 %、および、提出物 10 %）、および復習試験 50 % の成績の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

・ペア／グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境を作る。

・リフレクションペーパーの作成・提出、添削、フィードバックは、対面授業においてもオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。

・予告のうえ、授業中に Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook that discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings.

They will also attain knowledge necessary for their university studies.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.

Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (40%), short report(s) (10%), and review test(s) (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせをした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	Female Leaders Lead (listening)
3	Unit 1	Female Leaders Lead (reading)
4	Unit 2	Unexpected but Deserved (listening)
5	Unit 2	Unexpected but Deserved (reading)
6	Unit 3	Strategic Benevolence (listening)
7	Unit 3	Strategic Benevolence (reading)
8	Unit 4	Almost Like Being There (listening)
9	Unit 4	Almost Like Being There (reading)
10	Unit 5	Loss of Precious Life (listening)
11	Unit 5	Loss of Precious Life (reading)
12	Unit 6	Mosquitoes: Friends and Foes (listening)
13	Unit 6	Mosquitoes: Friends and Foes (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・春学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスク립トと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (23)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%、小テスト 20 %、平常点 30% で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Study time will be two hours for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 50%
2. Reports 20%
3. Classroom Participation 30%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスク립トを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせをした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスク립トの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7	Plastic-Eating Insects (listening)
3	Unit 7	Plastic-Eating Insects (reading)
4	Unit 8	Inspirational Journey (listening)
5	Unit 8	Inspirational Journey (reading)
6	Unit 9	No Holding Her Back (listening)
7	Unit 9	No Holding Her Back (reading)
8	Unit 10	Getting Prepared (listening)
9	Unit 10	Getting Prepared (reading)
10	Unit 11	Learning to Adapt (listening)
11	Unit 11	Learning to Adapt (reading)
12	Unit 12	Signs of Progress (listening)
13	Unit 12	Signs of Progress (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・秋学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスク립トと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (23)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト 50 %、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Study time will be two hours for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 50%
2. Reports 20%
3. Classroom Participation 30%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

内容と言語とを同時に学ぶ CLIL(Content and Language Integrated Learning) のアプローチにもとづくテキストブックを用いて、自分の考えを発言できる力を伸ばす。学生は新しい語彙や表現、情報、ディスカッションのルールやマナー、論理的思考のあり方を「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能を用いてコミュニケーション能力を高めることになる。**Reading** においては、**topic sentences, supporting sentences, concluding sentences** に留意して論旨を素早く「英文解釈」のように後ろに戻って訳すことなく、英語のままで把握できるようになる。また新聞、雑誌、ウェブサイトなどを使って、トピックス関連の事柄や時事問題に関する記事を読むことで、語彙力が高まることを期待する。

【到達目標】

「英文解釈」のように逐次日本語に訳すことから離れることが大きな目標となる。ある程度のスピードで「英文を英語のままで理解すること」を第 1 目標とする。「英文を行きつ戻りつ読んで和訳する」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことはできない。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明することが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは穴埋め問題など、音声をもつて聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないとい入れられない問題が多い。ため、予習は必須で、ランダムに授業中に学生は教師に当てられる。予習していないために答えられないことが続くと、成績に響き平常点にマイナスとなってしまう。

基本的に 1 ユニットを 2 回の授業でカバーする。読解力を伸ばすためにテキストブックに関連した記事や時事問題についての英文記事を授業で取り上げることもある。さらに、語学ビデオを適宜見て、学習のモチベーションを上げることもある。そのため、授業は必ずしもシラバスのスケジュール通りにならないことがある。

各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図る。また、毎回、授業後に Hoppi を用いて「リアクションペーパー」を期日内に提出することが求められる。これはその日の授業の理解度と、教師との意思疎通を図るために自由形式で行われるが平常点にカウントされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の内容・進め方、出欠の取り扱い、テキストブックについて、その他の注意点について
2	Unit 1-1 Artificial Intelligence	Introduction Reading Data
3	Unit 1-2 Artificial Intelligence	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes

4	Unit 2-1 Business	Introduction Reading Data
5	Unit 2-2 Business	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
6	Unit 3-1 Food Waste	Introduction Reading Data
7	Unit 3-2 Food Waste	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
8	Unit 4-1 Environmental Problems: Plastic Waste	Introduction Reading Data
9	Unit 4-2 Environmental Problems: Plastic Waste	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
10	Unit 5-1 The Japanese Mentality	Introduction Reading Data
11	Unit 5-2 The Japanese Mentality	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
12	Unit 7-1 Immigration	Introduction Reading Data
13	Unit 7-2 Immigration	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
14	春学期末試験（授業 内）	テキストブック、 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i> , プリント類 から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とされているが、これでは十分とは決して言えない。各々が自分に必要な勉強時間を確保してほしい。授業中にほぼ 1 回は当たるので、準備が必ず必要である。

リアクションペーパーの毎回提出を義務付けている。（内容は、その日の授業の感想、質問など自由）

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

1. *CLIL: Discuss The Changing World* (英語で考える現代社会)、Miyako NAKAYAMA, et alia、成美堂、2020 年、¥2200、ISBN:978-4-7919-7208-1
2. *A Shorter Course in: Everyday Vocabulary Quizzes* Seishi Saito、南雲堂、2018 年、¥700、ISBN: 978-4-523-17668-8 C0082

【参考書】

- ・総合英語 *Evergreen*、いづな書店、2018 年、1520 円
- ・Japan Today <https://japantoday.com/>
- ・BBC Learning English
<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/>
- ・VOA Learning English
<https://learningenglish.voanews.com/>
- ・Oxford Online English
<https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish>
- ・日米会話学院 Hotwords
<https://www.nichibei.ac.jp/hotwords/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%（授業態度、毎回の予習状況、授業への参加度、課題の提出など）を重要視し、学期末試験 30%と合わせて総合評価で 100%中 60%以上を合格とし単位を与える。

必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上の欠席者は試験を受けた場合でも原則単位を与えない。

授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、出席した場合でも欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなす。

やむを得ず体調が優れない場合や、病院に行くために欠席する場合は事前にメールで連絡すること。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞や雑誌記事などを適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信がつき、そして違う意見を知る機会になったという感想を学生から得ている。毎回提出してもらうリアクションペーパーを通じて、学生との意思疎通を図ることが可能となっている。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書または電子辞書

【その他の重要事項】

授業中に辞書がわりに携帯電話を使用することを禁止する。

オンライン授業のための Zoom へのリンクは、必要に応じて Hoppi にアップして知らせることとする。

【Outline (in English)】

The objectives of this class are to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, i.e., topic sentences, supporting sentences, concluding sentences; and to enhance students' ability to understand English sentences without translating into Japanese. In addition, students will be able to learn various aspects of society not only from the textbook, but also from the articles of newspapers, magazines, and the Web sites, which may widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、コミュニケーション能力を高め、英語の文章の構造を理解し論旨を素早く理解できるよう、高校までの「英語 → 日本語、日本語 → 英語」という、いわゆる「英文解釈」の方法ではなく、英語のままで理解するスキルを伸ばすことを目指す。また、新聞、雑誌、ビデオ、インターネットサイトなどを用いて、トピックス関連の事柄や時事問題に関する記事に触れることで、語彙力を高める。

【到達目標】

高校までの英文解釈とは異なり、ある程度のスピードで「英文を英語のままで理解すること」を第 1 目標とする。「英文を行きつ戻りつ読んで和訳する」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことが難しい。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明する力がつくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは穴埋め問題など、音声をもつて聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと入れられない問題が多い。予習は必須で、ランダムに授業中に学生に問いつける。予習していないために答えられないことが続くと、成績に響く平常点にマイナスとなる。

基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーする。読解力を伸ばすためにテキストブックに関連した記事や時事問題についての英文記事やビデオを授業で取り上げることがある。さらに、語学ビデオを適宜見て、学習のモチベーションを上げることがある。そのため、授業は必ずしもシラバスのスケジュール通りにならないことがある。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図る。また、毎回、授業後に Hoppi を用いて「リアクションペーパー」を期日内に提出することを求めるが、これはその日の授業の理解度と、教師との意思疎通を図るために行うものである。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8-1 Education	Introduction Reading Data
2	Unit 8-2 Education	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
3	Unit 9-1 Culture	Introduction Reading Data
4	Unit 9-2 Culture	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
5	Unit 10-1 Science	Introduction Reading Data

6	Unit 10-2 Science	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
7	Unit 12-1 DNA	Introduction Reading Data
8	Unit 12-2 DNA	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
9	Unit 13-1 Relationship with Other Countries	Introduction Reading Data
10	Unit 13-2 Relationship with Other Countries	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
11	Unit 14-1 Religions	Introduction Reading Data
12	Unit 14-2 Religions	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
13	Unit 15 Right to Be Forgotten	Introduction Reading Data
14	期末試験 (授業内)	テキストブック、Everyday Vocabulary Quizzes, プリント類 から

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. However, this is not efficient if students want to improve their English proficiency.

テキストブック及び補助教材のプリントの予習を必須とする。課題については提出期日をきちんと守ること。遅れた場合は原則受け取らないので、平常点の大幅な減点となってしまう。

【テキスト (教科書)】

1. CLIL: *Discuss The Changing World* (英語で考える現代社会)、Miyako NAKAYAMA, et alia, 成美堂, 2020 年, ¥2200, ISBN: 978-4-7919-7208-1
2. *A Shorter Course in: Everyday Vocabulary Quizzes* Seishi Saito, 南雲堂, 2018 年, ¥700, ISBN: 978-4-523-17668-8 C0082

【参考書】

- ・総合英語 *Evergreen*、いづな書店、2018 年、¥1520
- ・Japan Today <https://japantoday.com/>
- ・BBC Learning English
<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/>
- ・VOA Learning English
<https://learningenglish.voanews.com/>
- ・Oxford Online English
<https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish>
- ・日米会話学院 Hotwords
<https://www.nichibei.ac.jp/hotwords/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 70% (授業態度、毎回の予習状況、授業への参加度、課題の提出など) を重要視し、学期末試験 30% と合わせて総合評価で 100% 中 60% 以上を合格とし単位を与える。
必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上の欠席者は試験を受けた場合でも原則単位を与えない。
授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、出席した場合でも欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなす。

やむを得ず体調が優れない場合や、病院に行くために欠席する場合は事前にメールで連絡すること。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞や雑誌記事などを適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信がつき、そして違う意見を知る機会になったという感想を学生から得ている。毎回提出してもらうリアクションペーパーを通じて、学生との意思疎通を図ることが可能となっている。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書または電子辞書

【その他の重要事項】

授業中に辞書代わりに携帯電話を使用することを禁止する。
オンライン授業のための Zoom へのリンクは、必要に応じて Hoppi にアップして知らせることとする。

【Outline (in English)】

The objectives of this class are to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, i.e., topic sentences, supporting sentences, concluding sentences; and to enhance students' ability to understand English sentences without translating into Japanese. In addition, students will be able to learn various aspects of society not only from the textbook, but also from the articles of newspapers, magazines, videos and the Web sites, which may widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史や文化に関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、各章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めておかず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての詳しい説明
2	Lesson 1 前半	Pocahontas, Reading
3	Lesson 1 後半	Pocahontas, Exercises
4	Lesson 2 前半	Celebrating July Fourth at the Statue of Liberty, Reading
5	Lesson 2 後半	Celebrating July Fourth at the Statue of Liberty, Exercises
6	Lesson 3 前半	Babe Ruth, Reading
7	Lesson 3 後半	Babe Ruth, Exercises
8	Lesson 4 前半	Marilyn Monroe, Reading
9	Lesson 4 後半	Marilyn Monroe, Exercises
10	Lesson 5 前半	American History, Reading
11	Lesson 5 後半	American History, Exercises
12	Lesson 6 前半	US Civil Rights Icon Dies at Age of 92, Reading
13	期末試験・まとめと解説	春学期に学習した範囲から出題
14	レポート・まとめ	原則として春学期に学習した範囲から自由に題材を選んで提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

予習：テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。関連する文献を読む。

復習：準備段階で分からなかったところや間違えたところを中心に直し、深く理解できるようにする。

発表準備：テキストに関連した事柄から興味のある人物や事柄などを調べ、発表できるようにしておく。

レポート準備: 興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えてまとめる。

【テキスト (教科書)】

People and Culture in America, 秋葉勉、星かおり、野口元康、英宝社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。欠席が 4 回以上になった学生は単位修得の資格を失う。

オンライン授業となった場合は、提出期限までに課題を提出すれば出席、未提出であれば欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students widen the knowledge of American history and culture.

Learning Objectives: The goal of this course is to develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on term-end examination and report 60%, quizzes 10%, translation test question 10%, presentation 10%, and in-class contribution 10%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国から現代に至るまでのアメリカで何が起こったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史や文化に関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、各章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確かめる。予め担当者を決めておかず、アトランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の復習及び秋学期の授業についての詳しい説明
2	Lesson 7 前半	This Is America, Reading
3	Lesson 7 後半	This Is America, Exercises
4	Lesson 8 前半	Betty Friedan, Reading
5	Lesson 8 後半	Betty Friedan, Exercises
6	Lesson 9 前半	Walt Disney, Reading
7	Lesson 9 後半	Walt Disney, Exercises
8	Lesson 10 前半	Andy Warhol, Reading
9	Lesson 10 後半	Andy Warhol, Exercises
10	Lesson 11 前半	Blues Music, Reading
11	Lesson 11 後半	Blues Music, Exercises
12	Lesson 12 前半	Immigration Issues Shape the Experience of US Latinos, Reading
13	期末試験・まとめと解説	秋学期に学習した範囲から出題
14	レポート・まとめ	原則として秋学期に学習した範囲から自由に題材を選んで提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

予習: テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。関連する文献を読む。

復習: 準備段階で分からなかったところや間違えたところを中心に直し、深く理解できるようにする。

発表準備: テキストに関連した事柄から興味のある人物や事柄などを調べ、発表できるようにしておく。

レポート準備：興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えてまとめる。

【テキスト（教科書）】

People and Culture in America, 秋葉勉、星かおり、野口元康、英宝社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。欠席が 4 回以上になった学生は単位修得の資格を失う。

オンライン授業となった場合は、提出期限までに課題を提出すれば出席、未提出であれば欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline (in English)】

Course outline:The aim of this course is to help students widen the knowledge of American history and culture.

Learning Objectives:The goal of this course is to develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

Learning activities outside of classroom:Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies:Grading will be decided based on term-end examination and report 60%, quizzes 10%, translation test question 10%, presentation 10%, and in-class contribution 10%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

神 康介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く Exercises で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami Kakuei Tanaka	日本の著名人について学習する。
3	Barack Obama's Hiroshima Speech	日本の新しい文化について学習する。
4	The Internet of Things (IoT)	日本未来について学習する。
5	Fintech	日本の新しい産業について学習する。
6	OpdivoR	がん治療について学習する。
7	Environmental DNA	経済について学習する。
8	Camellia	工業技術について学習する。
9	Rice	農業について学習する。
10	Stress Check	最新医療について学習する (1)。
11	Generic Drugs	最新医療について学習する (2)。
12	Self-driving Cars	自動運転について学習する。

- 13 Renewable Energy 産業について学習する。
3D Printers
- 14 期末試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の人数が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

進化する日本 Japan Evolution 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

(Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

神 康介

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What's So Free about Freeways?	速度無制限の高速道路アウトバーン（ドイツ）
2	Riding a Horse While Drunk Is Illegal?	飲酒乗馬の取り締まり（アメリカ）
3	Walk Your Dog Three Times a Day!	犬は 1 日 3 回散歩させなければならない（イタリア）
4	Hungary Introduces a Tax on Chips	健康のためのポテトチップス税（ハンガリー）
5	Don't Tie Alligators to Fire Hydrants!	「ワニを消火栓につなぐな」とはどういうこと？（アメリカ）
6	Marriage and Divorce in Different Cultures	4 回続けて同じ人と結婚できない？（イスラム）
7	Smile!	葬式とお見舞いの時以外は微笑まなければならない！（イタリア）
8	Silent Sunday?	午後 10 時以降トイレは流してはいけない（スイス）

9	Want to Be a Pilot?	パイロットの足の長さは少なくとも 90 センチ？（インド）
10	Napoleon, the Pig?	豚に「ナポレオン」の名前を付けてはならない（フランス）
11	Don't Drop Dead Here!	国会議事堂内で死んではいけない？（イギリス）
12	Cheating Does Not Pay	カンニングをしたら刑務所行き？（バングラデッシュ）
13	Putting a Stop to Traffic Jams	排気ガスが多い車は市街地走行禁止（スウェーデン）
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
 毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト（教科書）】

Funny Laws in the World (世界おもしろ比較文化－法律から学ぶ文化事情)
 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking)..

(Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れなければならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの Unit を扱う。

授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。

正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

Unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 100-Yen Shops: Still going strong	「日本の 100 円ショップ：絶好調の理由」前半講読
3	Unit 1-2 100-Yen Shops: Still going strong	「日本の 100 円ショップ：絶好調の理由」後半講読
4	Unit 6-1 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	「商売の秘訣：企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか」前半講読
5	Unit 6-2 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	「商売の秘訣：企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか」後半講読

6	Unit 11-1 Dialects: How English is spoken across the world	「方言：英語は世界中でどのように話されているか」前半講読
7	Unit 11-2 Dialects: How English is spoken across the world	「方言：英語は世界中でどのように話されているか」後半講読
8	Unit 16-1 New Solar Power: A breakthrough in clean energy	「新しい太陽光発電：クリーンエネルギーにおける飛躍的進歩」前半講読
9	Unit 16-2 New Solar Power: A breakthrough in clean energy	「新しい太陽光発電：クリーンエネルギーにおける飛躍的進歩」後半講読
10	Unit 2-1 Work-Life Balance: Do it like the Germans	「仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え」前半講読
11	Unit 2-2 Work-Life Balance: Do it like the Germans	「仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え」後半講読
12	Unit 7-1 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	ゲ「ーマーの秘密の生涯：自分の体から脱出した少年」前半講読
13	Unit 7-2 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	「ゲーマーの秘密の生涯：自分の体から脱出した少年」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding the World Today
(Dave Rear 著, 成美堂, 2022 年, 2,090 円)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 15 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 5 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの unit を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 12-1 Child Prodigies: Raising a little genius	「天才児：小さな天才を育てる」前半講読
3	Unit 12-2 Child Prodigies: Raising a little genius	「天才児：小さな天才を育てる」後半講読
4	Unit 17-1 Vaccines: A history of keeping us safe	「ワクチン：人類を守る歴史」前半講読
5	Unit 17-2 Vaccines: A history of keeping us safe	「ワクチン：人類を守る歴史」後半講読

6	Unit 3-1 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	「時代を越えて：創業 200 年の日本企業」前半講読
7	Unit 3-2 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	「時代を越えて：創業 200 年の日本企業」後半講読
8	Unit 8-1 Social Media: Big tech's addiction to addiction	「ソーシャルメディア：依存させて利益を得るテクノロジー会社」前半講読
9	Unit 8-2 Social Media: Big tech's addiction to addiction	「ソーシャルメディア：依存させて利益を得るテクノロジー会社」後半講読
10	Unit 13-1 Mentalism: Mastering the human brain	「メンタリズム：人間の脳を使いこなす」前半講読
11	Unit 13-2 Mentalism: Mastering the human brain	「メンタリズム：人間の脳を使いこなす」後半講読
12	Unit 18-1 International Space Station: Is it worth the money?	「国際宇宙ステーション：コストに見合っているか」前半講読
13	Unit 18-2 International Space Station: Is it worth the money?	「国際宇宙ステーション：コストに見合っているか」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding the World Today

(Dave Rear 著, 成美堂, 2022 年, 2,090 円)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。

授業への貢献 10 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 10 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システムも使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。

DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A - から C- までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分け、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して) 英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

【授業の進め方と方法】

春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム両方を使用する。

動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、(アクティブラーニングとして) ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL (何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する)。最後にリアクション・ペーパー (担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入) を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンス	Unit 1	単語学習、内容理解、ヒアリング
第 1 回	What's for Lunch? In Japanese Schools	ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before careers	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー

第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	Unit 13 slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 14 回	春学期末オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する (または、ストーリーミング視聴)。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting in to Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で (テキストの空欄を埋めたうえで)、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか (文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど、具体的に、リーディングのストラテジー (速読、精読、ともに) を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline (in English)】

We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades). We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also learn the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching) and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every students are supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期全体を通じて Zoom で同時双方向型授業を実施する。学習支援システムを使用する。DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかははっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A - から C- までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来ている。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。

動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して) 英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期全体を通じて同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システムを使用する。動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コン・。プリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、5. やり直しの評価をつけて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1	Unit 1
目	Japan: Unusual Rental Universe- You Can Even Rent a Family	Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 2	Shadowing
目	is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expresssing Opinions Evaluation Word Test
第 3 回	Unit 3	Reading
目	Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 4 回	Unit 4	Word Test
目	Lack of SleepCosts Americans Billions of Dollars Each Year	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 5 回	Unit 5	Word Test
目	Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork

第 6 回	Unit 6	Word Test
目	Do Happy People Live Long?	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork

第 7 回	Unit 7	Word Test Unit
目	Selling Charity	Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Word Test
第 8 回	Unit 8	Word Test
目	The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 9 回	Unit 9	Word Test
目	A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 10	word test
目	How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Uni 11	Word TEst
目	True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 12	Word Test
目	The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末オンライン・レポート試験・まとめと解説	評価
第 14 回	オンライン・レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由を選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティブラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791971862 ￥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業のレポート課題の内 4 回以上未提出の場合には単位不認定とする。成績は、全 14 回の授業のレポート課題 40%、平常点 (積極的な意見交換など)20%、授業貢献度 20%、秋学期末レポートテスト 20%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC かタブレット,WiFi 環境

【その他の重要事項】

対面授業のオフィスアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline (in English)】

We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades). We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also learn the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching) and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every students are supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
永井 大輔	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：水 2/Wed.2
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな英文の基本的な読解ストラテジーを習得しながら、英文の主題や状況設定を捉えるスキルの向上を目指します。
また、英文の構造的把握に基づいたより高度な読解にも挑戦します。

【到達目標】

- ・【授業計画】の各回に示された英文読解ストラテジーを身につける。
- ・英文をひと通り読んだ後、何が書かれているのかという英文の主題や状況設定を把握できるようになる。
- ・【授業計画】第 7 回・第 13 回で紹介される文章の論理的構造をもった英文を、「構造的に」把握して内容を説明できるようになる。
- ・辞書の基本的な利用方法や利用習慣を身につける。
- ・英語に関することであろうとなかろうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
- ・あまり知識のないトピックに関する英語音声聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書を進めていきます。単なる答え合わせや訳出にとどまらず、英文の朗読や辞書での内容確認など、さまざまなタスクが含まれます。

第 7 回・第 13 回授業回では、教員の用意したプリントを使って、英文エッセイの基本構造をいくつか学び、その知識を用いた英文読解の小テストを実施します。

Unit ごとの感想や質問は「学習支援システム」を通じて行ない、一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	シラバスの内容を確認するほか、細かな注意事項について説明します。 各自の持参した辞書をチェックします。
2	Unit 1	Check Your Level 現在のリーディング力を診断する
3	Unit 2	Vocabulary Strategy < 1 > 未知語を推測する
4	Unit 3	Vocabulary Strategy < 2 > おかしいな、と思ったら辞書をひく
5	Unit 4	Vocabulary Strategy < 3 > 辞書を効率的に使う
6	Unit 5	Experience Pre-reading Activities タイトルやイラストから内容を予測して読む
7	文章の構造的読解 1	意見サポート型 読解小テスト

8	Unit 6	Understanding Reference Words < 1 > 代名詞が指すのは誰？
9	Unit 7	Understanding Reference Words < 2 > one や that って何を指すの？
10	Unit 8	Understanding Reference Words < 3 > 代動詞が示すのはどんな動作や状態？
11	Unit 9	Using Signal Words to Predict Ideas < 1 > and などのシグナルワードから流れを理解する
12	Unit 10	Using Signal Words to Predict Ideas < 2 > but などのシグナルワードから流れを理解する
13	文章の構造的読解 2	パラグラフ並列型 読解小テスト
14	試験・まとめと解説	Unit 1~10 のまとめと筆記試験 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

教科書の予習においては、一度辞書やその他の調べ物をせずに問題を解いてみてから、自分の気になる箇所について調べるようにして下さい。

また、本授業の内容だけにとどまらない、自分独自の「英語ノート」を用意し、予習・復習で自分に必要だと思われる知識はそちらに書き留める習慣をつけます。

本授業の到達目標には発音も含まれます。英単語の語釈・語用だけを調べるのではなく、文章のなかで聞こえたように発音できるように声に出して練習します。

その他、英語にかかわらない事柄であっても、自分にとって未知なことは積極的に調べます（情報源は問わず）。

【テキスト（教科書）】

卯城祐司・中川知佳子・Mari Le Pavoux, 『Reader's Ark: Intro (英語リーディングの冒険：入門編)』、金星堂、2012 年。1900 円＋税。ISBN: 978-4-7647-3931-4
プリント（第 7 回・第 13 回授業回）

【参考書】

英和もしくは英英辞典を必ず用意してください。対面授業中は紙媒体および専用装置型の電子辞書のみ使用可能です（つまりアプリや Web 辞典は使用不可）。第 1 回授業回において各自の持参した辞典をチェックします。

【成績評価の方法と基準】

教科書 Unit 1~10 を範囲とする筆記試験（第 14 回授業回）：50%
英語の構造的読解を実践する小テスト（第 7 回・第 13 回授業回）：20%

毎授業回の授業参加度（質問に対して十分な予習をふまえた回答や朗読ができたか）：30%

欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

不正について

各タスクにおいてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Students will master basic reading strategies in English, which will help them better understand the subjects and contexts of English texts. They will also learn some of the basic structures of English essays.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな英文の基本的な読解ストラテジーを習得しながら、英文の主題や状況設定を捉えるスキルの向上を目指します。
また、英文の構造的把握に基づいたより高度な読解にも挑戦します。

【到達目標】

- ・【授業計画】の各回に示された英文読解ストラテジーを身につける。
- ・英文をひと通り読んだ後、何が書かれているのかという英文の主題や状況設定を把握できるようになる。
- ・【授業計画】第 7 回・第 13 回で紹介される文章の論理的構造をもった英文を、「構造的に」把握して内容を説明できるようになる。
- ・辞書の基本的な利用方法や利用習慣を身につける。
- ・英語に関することであろうとなかろうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
- ・あまり知識のないトピックに関する英語音声聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書を進めていきます。単なる答え合わせや訳出にとどまらず、英文の朗読や辞書での内容確認など、さまざまなタスクが含まれます。

第 7 回・第 13 回授業回では、教員の用意したプリントを使って、英文エッセイの基本構造をいくつか学び、その知識を用いた英文読解の小テストを実施します。

Unit ごとの感想や質問は「学習支援システム」を通じて行ない、一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期イントロダクション	今学期の授業の進め方に関する確認 前学期の学修内容の到達度に関する総評 当然ですが出席にカウントされます。
2	Unit 11	Using Signal Words to Predict Ideas < 3 > because や therefore などのシグナルワードから流れを理解する
3	Unit 12	Identifying the Main Idea < 1 > メインアイデアを把握する 1
4	Unit 13	Identifying the Main Idea < 2 > メインアイデアを把握する 2
5	Unit 14	Identifying the Main Idea < 3 > メインアイデアを把握する 3

6	Unit 15	Searching for Information < 1 > 情報を素早く効果的に読み取る (スキヤニング)1
7	文章の構造的読解 3	直線フロー型 読解小テスト
8	Unit 16	Searching for Information < 2 > 情報を素早く効果的に読み取る (スキヤニング)2
9	Unit 17	Searching for Information < 3 > 情報を素早く効果的に読み取る (スキヤニング)3
10	Unit 18	Connecting Ideas 複数の情報を結び付ける
11	Unit 19	Reading for Pleasure 予測しながら楽しく読む
12	Unit 20	Assess Your Achievement 現在の英語力を再診断する
13	文章の構造的読解 4	異質パラグラフ型 読解小テスト
14	試験・まとめと解説	Unit 11~20 のまとめと筆記試験 筆記試験は、単位取得資格がある 人は必ず受けて下さい。授業内試験 なので、通常の授業と同じ時間・ 同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

教科書の予習においては、一度辞書やその他の調べ物をせずに問題を解いてみてから、自分の気になる箇所について調べるようにして下さい。

また、本授業の内容だけにとどまらない、自分独自の「英語ノート」を用意し、予習・復習で自分に必要だと思われる知識はそちらに書き留める習慣をつけます。

本授業の到達目標には発音も含まれます。英単語の語釈・語用だけを調べるのではなく、文章のなかで聞こえたように発音できるよう声に出して練習します。

その他、英語にかかわらない事柄であっても、自分にとって未知なことは積極的に調べます（情報源は問わず）。

【テキスト（教科書）】

卯城祐司・中川知佳子・Mari Le Pavoux、『Reader's Ark: Intro（英語リーディングの冒険：入門編）』、金星堂、2012 年。1900 円＋税。ISBN: 978-4-7647-3931-4
プリント（第 7 回・第 13 回授業回）

【参考書】

英和もしくは英英辞典を必ず用意してください。対面授業中は紙媒体および専用装置型の電子辞書のみ使用可能です（つまりアプリや Web 辞典は使用不可）。第 1 回授業回において各自の持参した辞典をチェックします。

【成績評価の方法と基準】

教科書 Unit 1~10 を範囲とする筆記試験（第 14 回授業回）：50%
英語の構造的読解を实践する小テスト（第 7 回・第 13 回授業回）：20%

毎授業回の授業参加度（質問に対して十分な予習をふまえた回答や朗読ができたか）：30%

欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

不正について

各タスクにおいてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Students will master basic reading strategies in English, which will help them better understand the subjects and contexts of English texts. They will also learn some of the basic structures of English essays.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高 友希子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】

- 1 英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
- 2 読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
- 3 論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
- ②学習支援システムに準備した語彙クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
- ③リーディングの解説をし、あわせて質問にも回答する。
- ④テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。なお、この授業はオンライン (zoom 等) で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	Story 1: Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 3 回	Story 2: Blood Testing: Charged with Massive Fraud	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 4 回	Story 3: Millionaire Millennial	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 5 回	Story 4: Fighting Robocalls	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 6 回	Story 5: The Blue World	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 7 回	Story 6: Moment of Impact	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 8 回	Story 7: Father's New Hand	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 9 回	Story 8: Trump's Weapon Ban?	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

第 10 回	Story 9: American Men's Bobsledding Team	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 11 回	Story 10: Made in America: Recycling Discarded Water Bottles	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 12 回	Story 11: The Children of Syria	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 13 回	Story 12: Honoring Martin Luther King Jr	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 14 回	Story 13: Inside the Drug Cartel	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

S. Yamane and K. Yamane, Broadcast: ABC World News Tonight, Kinseido (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (50 %)、予習およびクイズ (30 %)、平常点 (授業への積極的参加) (20 %)

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、(必要に応じて) zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline (in English)】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English. Students will be able to 1) critically analyze issues and express their own opinions, 2) acquire more effective listening skills.

Students are expected to complete homework assignments and vocabulary quizzes. Your study time will be more than one hour for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Homework assignments and quizzes (30%)

Participation (20%)

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

高 友希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】

- 1 英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
- 2 読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
- 3 論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
- ②学習支援システムに準備した語彙クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
- ③リーディングの解説をし、あわせて質問にも回答する。
- ④テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。なお、この授業はオンライン（zoom 等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	Unit 1: Repairing Big Ben	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 3 回	Unit 2: Learning to Walk again	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 4 回	Unit 3: A Secret Garden in London	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 5 回	Unit 4: Unpaid Internships	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 6 回	Unit 5: The Wedding Gallery	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 7 回	Unit 6: A Modern Steam Train	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 8 回	Unit 7: A T-shirt Exhibition	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 9 回	Unit 8: Generation Z	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

第 10 回	Unit 9: Veganuary	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 11 回	Unit 10: Wind Power in Britain	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 12 回	Unit 11: Preventing Transgender Bullying	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 13 回	Unit 12: A Plastic Tenner	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 14 回	Unit 13: How to Delay Ageing	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

T. Knowles, C. Lowe, M. Tamura, M. Tanaka and M. Nakamura, British News Update, Kinseido (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50 %）、予習およびクイズ（30 %）、平常点（授業への積極的参加）（20 %）

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline (in English)】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English. Students will be able to 1) critically analyze issues and express their own opinions, 2) acquire more effective listening skills.

Students are expected to complete homework assignments and vocabulary quizzes. Your study time will be more than one hour for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Homework assignments and quizzes (30%)

Participation (20%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、全授業回を対面で行います。毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスク립トの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 10a	A cooperative society
3	Workbook 10a	Social animals
4	Unit 10b	The Power of play
5	Workbook 10b	How play made our world
6	Unit 10c	Living free?
7	Workbook: 10c	Rebuilding society
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 10f	Initiation with ants
10	Unit 11a	Emotional intelligence
11	Workbook 11a	Hikikomori
12	Unit 11b	Thinking fast and slow
13	Workbook 11b	Don't overthink it
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスク립トを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書: Life (Second Edition) 6B Combo Split

著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,860 円

【参考書】

https://ngl.cengage.com/life

https://www.bbc.com/news

https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts

https://www.npr.org/podcasts-and-shows

https://www.democracynow.org/

【成績評価の方法と基準】

中間試験: 40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験: 40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点: 20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
 遅刻、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「類義語、関連語など多くの単語の知識を深めることができた。」「緊張感があり、得るものが多い授業だった。」という授業の意図したことに対してしっかりと反応を示してくれたコメントがありました。また、テキストの本文と関連した新聞、雑誌等からの補足資料については、「引用なされる補足の記事も本文と併せて読むことで、より立体的に話の内容が掴めて楽しかった。」というコメントがありました。しかし一方で、「教科書をもう少し取り扱って欲しかった。」という、もっともな意見もありました。今年度は補足資料をより厳選し、学生がせっかくなかったテキストを授業で最大限活用するように努めたいと思います。また、授業の「緊張感」に関しては、それが過度に陥らないように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class. (Grading Criteria/Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

Students must earn at least 60% points to pass the course.

Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)

Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)

Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)

If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

Arriving late twice will equal one absence.

If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。**All in English** のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、全授業回を対面で行います。
毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキットの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11c	Who's working for who?
2	Unit 7a	Selfie world
3	Unit 7b	Creating a buzz
4	Workbook 7b	Follow us!
5	Unit 7c	A hacker's life
6	Unit 8a	World music
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8b	Healing music
9	Workbook 8b	Music therapy
10	Unit 8c	One love
11	Unit 9a	Dear little daughter
12	Unit 9b	The story of Martin Guerre
13	Workbook 12a	Aerial view
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。

5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を開き、内容についてのメモを取った後でスキットを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。

6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。

この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。

授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6B Combo Split
 著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,860 円

【参考書】

<https://ngl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中、4回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
 遅刻は、30分以上の場合は欠席扱い。遅刻2回で1回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「類義語、関連語など多くの単語の知識を深めることができた。」「緊張感があり、得るものが多い授業だった。」という授業の意図したことによりしっかりと反応を示してくれたコメントがありました。また、テキストの本文と関連した新聞、雑誌等からの補足資料については、「引用なされる補足の記事も本文と併せて読むことで、より立体的に話の内容が掴めて楽しかった。」というコメントがありました。しかし一方で、「教科書をもう少し取り扱って欲しかった。」という、もっともな意見もありました。今年度は補足資料をより厳選し、学生がせっかく買ったテキストを授業で最大限活用するように努めたいと思います。また、授業の「緊張感」に関しては、それが過度に陥らないように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】**(Course Outline)**

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)

Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)

Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)

Students must earn at least 60% points to pass the course.

If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

Arriving late twice will equal one absence.

If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験 まとめ	これまで履修したテキスト及び解説から出題
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	履修したテキストと解説から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストの英文を読み、わからない単語・表現がある場合には必ず事前に辞書を使って調べておくようにしてください。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 40 %

試験（中間・期末） 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を

合格とする。尚、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

(Learning Objectives)

By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.

(Learning activities outside of classroom)

Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Mid-term and Final Exams 60%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	中間試験	学習したテキストから出題
8	経済と社会（2）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（3）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	これまで学習した範囲から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 40 %

試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

(Learning Objectives)

By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.

(Learning activities outside of classroom)

Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Mid-term and Final Exams 60%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120
第 10 回	Unit 4 ～ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ～ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第 12 回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第 13 回	Unit 10	Lazy Ants
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ~ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ~ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus
第 10 回	Unit 14 ~ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ~ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	The Ninth Planet
第 12 回	Unit 19	Dyson Sphere
第 13 回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスについて書かれたテキストを使用して、精読と速読の練習をします。読解の際には辞典を活用し、語彙力の強化を図ります。併せてイギリスの社会や文化に関する知識を増やしていきます。

【到達目標】

必要に応じて精読と速読の技術を使い分けられるようにします。精読が必要な場面では英文の構造を理解して正確な日本語ができるようにします。速読が必要な場合には文章全体のパラグラフ構成に着目して大意を把握できるようにします。また、時事英語の読解や聴解に必要な知識を身につけるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進めます。まずその日の主題の背景となっている社会的、文化的な基礎知識を確認し、文章全体のパラグラフ構成に注意しながら概要を確認します。必要に応じてパラフレーズの練習も行います。次に、本文の中から事前に指定した箇所の日本語訳を行い、併せて演習問題の解説をします。そのあと時間に余裕のあるときは、こちらで用意した映像資料を使用してリスニングやディスカッションの練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価についての説明
2	Chapter 1 Class 前半	「階級」を扱った文章の読解と演習問題
3	Chapter 1 Class 後半	「階級」を扱った文章の読解とディスカッション
4	Chapter 2 Education 前半	「教育」を扱った文章の読解と演習問題
5	Chapter 2 Education 後半	「教育」を扱った文章についての文章の読解とディスカッション
6	新聞または雑誌記事の講読 (1)	最新のイギリス事情について書かれた記事のリスニングと読解
7	新聞または雑誌記事の講読 (2)	最新のイギリス事情について書かれた記事の読解とディスカッション
8	Chapter 3 Gender 前半	「性差」に関する文章の読解と演習問題
9	Chapter 3 Gender 後半	「性差」に関する文章の読解とディスカッション
10	Chapter 4 Health & Age 前半	「健康と医療」に関する文章の読解と演習問題
11	Chapter Health & Age 4 後半	「健康と医療」に関する文章の読解と演習問題
12	新聞または雑誌記事の講読 (3)	最新のイギリス事情について書かれた記事のリスニングと読解
13	新聞または雑誌記事の講読 (4)	最新のイギリス事情について書かれた記事の読解とディスカッション

14 期末試験

授業で学んだことに関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席してください。予習をしていないことが発覚した場合は、平常点の大幅減点の対象となったり、場合によっては欠席扱いとなることもありますので注意してください。

【テキスト（教科書）】

Simon Rosati 著『Life and Society in Modern Britain [Revised Edition] 現代イギリスの暮らしと文化（改訂版）』英宝社（¥2,200）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な取り組み（予習や質疑応答の内容など） 40 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格がなくなります。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として扱います。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの文字をできるだけ大きくするようにします。

【その他の重要事項】

授業時間外の学習でスマートフォンやタブレットを使用することは、完全には否定しませんが、授業時間中は電子辞書専用機か紙の辞書以外は使用できません。
授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器はかばんの中にしめてください。

【Outline (in English)】

This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will also be required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain. The goals of this course are to use the skills of quick or close reading appropriately. Students will be expected to make an accurate translation of English text into Japanese and give an outline of the text paying close attention to the relation between paragraphs. Students should also learn general information about British society that would be necessary when trying to understand current issues through TV or newspapers.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part of the text with consulting dictionary. Your required study time is at least one hour for each class meeting. If you fail to make preparation for the class, you will lose many points or will be considered as absent.

Grading will be decided based on term-end examination (60 %) and in class contribution (40%). As a rule, anyone who are absent more than three times will lose a credit. Students who come 30 minutes or more late will be considered absent. You will be considered absent one time if you come late three times.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、イギリスについて書かれたテキストを使用して、精読と速読の練習をします。読解の際には辞典を活用し、語彙力の強化を図ります。併せてイギリスの社会や文化に関する知識を増やしていきます。

【到達目標】

必要に応じて精読と速読の技術を使い分けられるようにします。精読が必要な場面では英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにします。速読が必要な場合には文章全体のパラグラフ構成に着目して大意を把握できるようにします。また、時事英語の読解や聴解に必要な知識を身につけるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進めます。まずその日の主題の背景となっている社会的、文化的な基礎知識を確認し、文章全体のパラグラフ構成に注意しながら概要を確認します。必要に応じてパラフレーズの練習も行います。次に、本文の中から事前に指定した箇所の日本語訳を行い、併せて演習問題の解説をします。そのあと時間に余裕のあるときは、こちらで用意した映像資料を使用してリスニングやディスカッションの練習を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法についての説明
2	Chapter 5 Crime & Punishment 前半	「犯罪と刑罰」について書かれた文章の読解と演習問題
3	Chapter 5 Crime & Punishment 後半	「犯罪と刑罰」について書かれた文章の読解とディスカッション
4	Chapter 8 Religion 前半	「宗教」について書かれた文章の読解と演習問題
5	Chapter 8 Religion 後半	「宗教」について書かれた文章の読解とディスカッション
6	新聞または雑誌記事の講読 (1)	最新のイギリス事情を扱った記事のリスニングと読解
7	新聞または雑誌記事の講読 (2)	最新のイギリス事情を扱った記事の読解とディスカッション
8	Chapter 9 The Monarchy 前半	「君主制」について書かれた文章の読解と演習問題
9	Chapter 9 The Monarchy 後半	「君主制」について書かれた文章の読解とディスカッション
10	Chapter 12 Immigration & Race 前半	「移民と人種」に関する文章の読解と演習問題
11	Chapter 12 Immigration & Race 後半	「移民と人種」に関する文章の読解とディスカッション
12	新聞または雑誌記事の講読 (3)	最新のイギリス事情を扱った記事のリスニングと読解

- 13 新聞または雑誌記事の 最新のイギリス事情を扱った記事の講読 (4) の読解とディスカッション
14 期末試験 授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席してください。予習をしていないことが発覚した場合は、平常点の大幅減点の対象となったり、場合によっては欠席扱いとなることもありますので注意してください。

【テキスト (教科書)】

Simon Rosati 著『Life and Society in Modern Britain [Revised Edition] 現代イギリスの暮らしと文化 (改訂版)』英宝社 (¥2,200)

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な取り組み (予習や質疑応答の内容など) 40 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格がなくなります。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として扱います。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの文字をできるだけ大きくするようにします。

【その他の重要事項】

授業時間外の学習でスマートフォンやタブレットを使用することは、完全には否定しませんが、授業時間中は電子辞書専用機か紙の辞書以外は使用できません。

授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器はかばんの中にしめてください。

【Outline (in English)】

This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will also be required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain. The goals of this course are to use the skills of quick or close reading appropriately. Students will be expected to make an accurate translation of English text into Japanese and give an outline of the text paying close attention to the relation between paragraphs. Students should also learn general information about British society that would be necessary when trying to understand current issues through TV or newspapers.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part of the text with consulting dictionary. Your required study time is at least one hour for each class meeting. If you fail to make preparation for the class, you will lose many points or will be considered as absent.

Grading will be decided based on term-end examination (60 %) and in class contribution (40%). As a rule, anyone who are absent more than three times will lose a credit. Students who come 30 minutes or more late will be considered absent. You will be considered absent one time if you come late three times.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とする。特に英語の 4 技能の一つであるリーディング（文章理解、基礎的な文法の理解、語彙の増強）のスキルを強化し、読解力向上のための基盤づくりができるようにする。また、英語のリスニング、スピーキングの力も強化する。英語でコミュニケーションをすることの楽しさを実感し、日常的な場面で自分が伝えたいことを表現し、又相手が伝えたいことを理解できるようにする。コミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。さらに学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析能力を養う。

【到達目標】

テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、フレーズを理解し使えることができる。英語語彙力を身につける。（英単語レベル 4 以上をマスターする。）短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。英語ジャーナルを書いて発表する。テキスト、プリント等の記述内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見い出すことができる。英語で自分の意見を述べるすることができる。コミュニケーション能力を培い、自信を持って話せることができる。リスニング、リーディング、ライティングの課題に取り組む。ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面による講義形態で行い、基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、演習問題の正答をフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合もあります。教科書の内容について、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。授業で配布するプリント、授業支援システム Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。英語によるプレゼンテーションを行い、受講生は自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。尚、プレゼンテーション実施の際は、視覚資料等の円滑な運用のため、Zoom 等のツールを用いる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1	Orientation Introduction to Environmental Issues	Environmental issues covers problems related to nature and society. You understand how our habits impact our environment.

Unit 2 Climate Change

Climate change means changes in the climate of our planet or a region. You understand how humans affect climate change.

Unit 3 Energy

Energy is the power required to provide light, heat and to move machines. You understand how humans are dependable on energy.

Unit 4 Waste

Waste is anything that cannot be used or is not wanted anymore. You understand ways to minimize waste.

Unit 5 1-4 Review

Review of 1-4, based on TOEIC(R) Test Style.

Unit 6 Population Growth

Population growth is a raising issue. You understand high-level vocabulary related to population growth.

Unit 7 population

Environmental population is the introduction of harmful, unsafe or not suitable elements in the environment. You understand different type of pollution.

Unit 8 Water

Less than 3% of all water in our planet is drinkable. You understand how water scarcity impacts our future.

Unit 9 Deforestation

Deforestation happens when all trees in an area are cut down or burnt. You understand the importance of trees to the environment.

Unit 10 6-9 Review

Review of 6-9, based on TOEIC(R) Test Style.

Unit 11 Hydroelectricity

Hydroelectric power plants generate electricity from the flow of water. You understand some limitations of hydroelectric energy.

Unit 12 Solar Panels

Solar panels absorb high photo and transform it into electricity. You understand how solar panels work.

Unit 13 Wind Turbines

Wind turbines make electricity from the wind. You understand different types of wind turbines.

Unit 14 Nuclear Energy

Nuclear energy is a technology that has low CO2 emission. You understand and evaluate the risks posed by nuclear energy.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に Hoppii のシステムを活用します。本授業の準備学習・復習時間は、準備学習に 90 分、そして復習に 60 分程度の時間を必要とします。又、授業で配布するプリント学習、学習支援システム Hoppii に出された課題等におよそ 90 分程度の時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook: Our World Today, 著者名: Adam Murray, Anderson Passos, Publisher: 南雲堂, ISBN: 978-4-523-17789-3 C0082 ￥ 2,000-

【参考書】

電子辞書又は本型の辞書等（機種、出版社等是不問）授業には毎回持参すること。

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

40 % 平常点: 英語によるプレゼンテーション
 30 % Forms、Hoppii 等の課題についての評価
 30 % レポート評価: エッセー (英文)
 尚、各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、今後も優れた授業ができるよう研究を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii の課題等を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real-world situations and emphasizing natural speech and vocabulary development.

Learning objectives: Students will read passages of multiple paragraphs to discuss and talk on general topics and grasp the writer's intention and feeling. This course also helps students foster critical thinking skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information.

Learning activities outside of classroom: Lecture/Exercise (two-credits) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and complete the required assignments after each class meeting. Your required study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution (presentation in English) 40%; Evaluation of Hoppii's assignment 30%; Short reports: 30%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化が進む社会を考慮し、英語を使って人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明したりする、いわゆる「プレゼンテーション能力」(Presentation Skills in English)を養う。本授業は1.「知識を提供するプレゼンテーション」(Informative Presentations)、2.「説得的プレゼンテーション」(Persuasive Presentations)、3.「プレゼンテーション演習」(Presentation Practice)の三部構成からなり、プレゼンテーションの基礎的技能的向上を目指す。又、ビジネスの場面でも応用可能なコミュニケーション能力を養う。さらに英語リスニングのスキルを身につける。

【到達目標】

日常生活や現代社会の様々なトピックに関して自分なりの意見をまとめ、それを口頭や文章で効果的に表現する力を養うことができる。英語ジャーナルを書いて発表する。英語で書かれたトピックの内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出すことができる。プレゼンテーションのための基礎的な知識を身につける。英語によるプレゼンテーションを行う。英語リスニングのスキルアップを図る。英語語彙力をアップさせる。(英単語レベル4程度をマスターする。)テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語の短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面による講義形態で行い、基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、演習問題の正答をフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合があります。教科書の内容については、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。事前に配布するプリント、Hoppiiに出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。受講生は英語によるプレゼンテーションを行い、は自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。さらに、TOEIC(R)、TOEFL、英検等の資格試験対策も早期に取り組みます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1. Chapter 1: Section 1	The History of Our University	Informative Presentations: Time「時間」
2. Section 2	My Favorite Country	Informative Presentations: Place「場所」
3. Section 3	The Four Basic Food Groups	Informative Presentations: Topical pattern「話題関連型」
4. Section 4	Japan's Education System	Informative Presentations: Classification pattern「分類型」

5. Section 5	What is Science?	Informative Presentations: Concepts 「概念型」
6. Section 6	Social Networking Services	Informative Presentations: Advantages & Disadvantages 「長所・短所型」
7. Section 7	The Four Basic Food Groups	Talk about Topical pattern
8. Chapter 2: Section 1	Should Students Wear School Uniforms?	Persuasive Presentations: Questions of Value 「価値型」
9. Section 2	The Case for Organ Donation	Persuasive Presentations: Questions of Fact 「事実型」
10. Section 3	Global Warming: What is to be done?	Persuasive Presentations: Problem -Solution Method 「問題解決法」
11. Section 4	Exercise and Physical Fitness	Persuasive Presentations: Problem-Cause-Solution Method 「問題・原因・解決法」
12. Section 5	Overpopulation: Causes and Consequences	Persuasive Presentations: Problem-Causes-Effect Method 「問題・原因・結果法」
13. Section 6	Hybrid or Electric?	Persuasive Presentation: Comparative-Advantage Method 「比較優位法」
14. Chapter 3: Pre-sentation Practice	Presentation Practice	Brainstorming & Organizing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に Hoppii のシステムを活用します。本授業の準備学習・復習時間は、準備学習に 90 分、そして復習に 60 分程度の時間を必要とします。又、授業で配布するプリント学習、毎回実施する英単語の小テストの準備、学習支援システム Hoppii に出された課題等におよそ 90 分程度の時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

Writing for Presentations in English 南雲堂
ISBN 978-4-523-17731-9 C0082 ￥ 1,870-

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

40 % 平常点: 英語によるプレゼンテーション等、
30 % 小テスト: Forms、Hoppii に出された課題の評価
30 % レポート: エッセー (英文)、レポート課題等の内容評価
尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、今後もより実りある授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii の課題を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire communicative ability and confidence in speaking English. It also enhances the development of students' skills in presentation skills.

Learning objectives: By the end of the course, students should be able to learn and do the followings; 1. Informative Presentations, 2. Persuasive Presentations, 3. Presentation Practice.

Learning activities outside of classroom: Lecture/Exercise (two-credits) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and complete the required assignments after each class meeting. Your required study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution (presentation in English) 40%; Evaluation of Hoppii's assignment 30%; Short reports: 30%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システムも使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。

DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A - から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフフリーディングを実施する。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して) 英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

春学期全体を通じて同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム両方を使用する。

動画のストリーミング視聴、講義、演習 (シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、(アクティブラーニングとして) ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用しているディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL (何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する)。最後にリアクション・ペーパー (担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入) を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンス	Unit 1	単語学習、内容理解、ヒアリング
第 1 回	What's for Lunch? In Japanese Schools	ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at-Home Dads +Putting Kids Before careers	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー

第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	Unit 13 slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 14 回	春学期末オンライン・ レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. **Getting in to Details** のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. **Getting into Details** を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline (in English)】

We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades). We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also learn the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching) and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every students are supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期全体を通じて Zoom で同時双方向型授業を実施する。学習支援システムを使用する。コースニュースを常にチェックしておくことが望まれる。

DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A - から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフフリーディングを実施する。¥¥¥¥DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A - から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフフリーディングを実施する。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。

動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して) 英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期全体を通じて同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システムを使用する。動画のストリーミング視聴、講義、演習 (シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、(アクティブラーニングとして) ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コン・。プリヘンション・チェック・クイズ、PBL (何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する)。最後にリアクション・ペーパー (担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入) を作成する。提出された課題は、5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、5. やり直しの評価をつけて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回目	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回目	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第 3 回目	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork

第 4 回 目	Unit 4 Lack of SleepCosts Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 5 回 目	Unit 5 Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 6 回 目	Unit 6 Do Happy People Live Long?	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 7 回 目	Unit 7 Selling Charity	Word Test Unit Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 8 回 目	Unit 8 The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 9 回 目	Unit 9 A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回 目	Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	word test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回 目	Uni 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation

第 12 回 目	Unit 12 The Joy of Ccleaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回 目	秋学期期末オンライ ン・レポート試験・ま とめと解説	評価
第 14 回 目	オンライン・レポート 追試験・再試験・ま とめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティヴラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791971862 ￥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業のレポート課題の内 4 回以上未提出の場合には単位不認定とする。成績は、全 14 回の授業のレポート課題 40%、平常点(積極的な意見交換など)20%、授業貢献度 20%、秋学期末レポートテスト 20%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC かタブレット,WiFi 環境

【その他の重要事項】

対面授業のオフィスアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline (in English)】

We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades). We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also learn the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching) and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every students are supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

内容と言語とを同時に学ぶ CLIL(Content and Language Integrated Learning) のアプローチにもとづくテキストブックを用いて、自分の考えを発言できる力を伸ばす。学生は新しい語彙や表現、情報、ディスカッションのルールやマナー、論理的思考のあり方を「読む、書く、聞く、話す」という 4 技能を用いてコミュニケーション能力を高めることになる。**Reading** においては、**topic sentences, supporting sentences, concluding sentences** に留意して論旨を素早く「英文解釈」のように後ろに戻って訳すことなく、英語のままで把握できるようになる。また新聞、雑誌、ウェブサイトなどを使って、トピックス関連の事柄や時事問題に関する記事を読むことで、語彙力が高まることを期待する。

【到達目標】

「英文解釈」のように逐次日本語に訳すことから離れることが大きな目標となる。ある程度のスピードで「英文を英語のままで理解すること」を第 1 目標とする。「英文を行きつ戻りつ読んで和訳する」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことはできない。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明することが出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは穴埋め問題など、音声をもつて聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないとい入れられない問題が多い。ため、予習は必須で、ランダムに授業中に学生は教師に当てられる。予習していないために答えられないことが続くと、成績に響き平常点にマイナスとなってしまう。

基本的に 1 ユニットを 2 回の授業でカバーする。読解力を伸ばすためにテキストブックに関連した記事や時事問題についての英文記事を授業で取り上げることもある。さらに、語学ビデオを適宜見て、学習のモチベーションを上げることもある。そのため、授業は必ずしもシラバスのスケジュール通りにならないことがある。

各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図る。また、毎回、授業後に Hoppi を用いて「リアクションペーパー」を期日内に提出することが求められる。これはその日の授業の理解度と、教師との意思疎通を図るために自由形式で行われるが平常点にカウントされる

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業の内容・進め方、出欠の取り扱い、テキストブックについて、その他の注意点について
2	Unit 1-1 Artificial Intelligence	Introduction Reading Data
3	Unit 1-2 Artificial Intelligence	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes

4	Unit 2-1 Business	Introduction Reading Data
5	Unit 2-2 Business	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
6	Unit 3-1 Food Waste	Introduction Reading Data
7	Unit 3-2 Food Waste	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
8	Unit 4-1 Environmental Problems: Plastic Waste	Introduction Reading Data
9	Unit 4-2 Environmental Problems: Plastic Waste	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
10	Unit 5-1 The Japanese Mentality	Introduction Reading Data
11	Unit 5-2 The Japanese Mentality	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
12	Unit 7-1 Immigration	Introduction Reading Data
13	Unit 7-2 Immigration	Discussion Supplemental Readings <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i>
14	春学期末試験（授業 内）	テキストブック、 <i>Everyday Vocabulary Quizzes</i> , プリント類 から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とされているが、これでは十分とは決して言えない。各々が自分に必要な勉強時間を確保してほしい。授業中にほぼ 1 回は当たるので、準備が必ず必要である。

リアクションペーパーの毎回提出を義務付けている。（内容は、その日の授業の感想、質問など自由）

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

1. *CLIL: Discuss The Changing World* (英語で考える現代社会)、Miyako NAKAYAMA, et alia、成美堂、2020 年、2200 円、ISBN:978-4-7919-7208-1
2. *A Shorter Course in: Everyday Vocabulary Quizzes* Seishi Saito、南雲堂、2018 年、¥700、ISBN: 978-4-523-17668-8 C0082

【参考書】

- ・総合英語 *Evergreen*、いっずな書店、2018 年、¥1520
- ・Japan Today <https://japantoday.com/>
- ・BBC Learning English
<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/>
- ・VOA Learning English
<https://learningenglish.voanews.com/>
- ・Oxford Online English
<https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish>
- ・日米会話学院 Hotwords
<https://www.nichibei.ac.jp/hotwords/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 70%（授業態度、毎回の予習状況、授業への参加度、課題の提出など）を重要視し、学期末試験 30%と合わせて総合評価で 100%中 60%以上を合格とし単位を与える。

必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上の欠席者は試験を受けた場合でも原則単位を与えない。

授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、出席した場合でも欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなす。

やむを得ず体調が優れない場合や、病院に行くために欠席する場合は事前にメールで連絡すること。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞や雑誌記事などを適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信が付き、そして違う意見を知る機会になったという感想を学生から得ている。毎回提出してもらうリアクションペーパーを通じて、学生との意思疎通を図ることが可能となっている。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書または電子辞書

【その他の重要事項】

授業中に辞書がわりに携帯電話を使用することを禁止する。

オンライン授業のための Zoom へのリンクは、必要に応じて Hoppi にアップして知らせることとする。

【Outline (in English)】

The objectives of this class are to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, i.e., topic sentences, supporting sentences, concluding sentences; and to enhance students' ability to understand English sentences without translating into Japanese. In addition, students will be able to learn various aspects of society not only from the textbook, but also from the articles of newspapers, magazines, and the Web sites, which may widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉川 太恵子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、コミュニケーション能力を高め、英語の文章の構造を理解し論旨を素早く理解できるよう、高校までの「英語 → 日本語、日本語 → 英語」という、いわゆる「英文解釈」の方法ではなく、英語のままで理解するスキルを伸ばすことを目指す。また、新聞、雑誌、ビデオ、インターネットサイトなどを用いて、トピックス関連の事柄や時事問題に関する記事に触れることで、語彙力を高める。

【到達目標】

高校までの英文解釈とは異なり、ある程度のスピードで「英文を英語のままで理解すること」を第 1 目標とする。「英文を行きつ戻りつ読んで和訳する」というこれまでのクセから抜け出せないと、リーディング力だけでなくリスニング力も伸ばすことが難しい。発信力を高めるために行うディスカッションや課題の提出により、学生は様々なトピックスについて自分の意見を表明する力がつくようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは穴埋め問題など、音声をもつて聞いていないと出来ないものや、グラフや表を正確に読まないと入れられない問題が多い。予習は必須で、ランダムに授業中に学生に問いつける。予習していないために答えられないことが続くと、成績に響く平常点にマイナスとなる。

基本的に 1 ユニットの 2 回の授業でカバーする。読解力を伸ばすためにテキストブックに関連した記事や時事問題についての英文記事やビデオを授業で取り上げることがある。さらに、語学ビデオを適宜見て、学習のモチベーションを上げることがある。そのため、授業は必ずしもシラバスのスケジュール通りにならないことがある。各ユニットには、ディスカッションの項目があり、英語で意見を交換することで会話力の向上を図る。また、毎回、授業後に Hoppi を用いて「リアクションペーパー」を期日内に提出することを求めるが、これはその日の授業の理解度と、教師との意思疎通を図るために行うものである。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8-1 Education	Introduction Reading Data
2	Unit 8-2 Education	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
3	Unit 9-1 Culture	Introduction Reading Data
4	Unit 9-2 Culture	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
5	Unit 10-1 Science	Introduction Reading Data

6	Unit 10-2 Science	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
7	Unit 12-1 DNA	Introduction Reading Data
8	Unit 12-2 DNA	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
9	Unit 13-1 Relationship with Other Countries	Introduction Reading Data
10	Unit 13-2 Relationship with Other Countries	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
11	Unit 14-1 Religions	Introduction Reading Data
12	Unit 14-2 Religions	Discussion Supplemental Readings Everyday Vocabulary Quizzes
13	Unit 15 Right to Be Forgotten	Introduction Reading Data
14	期末試験 (授業内)	テキストブック、Everyday Vocabulary Quizzes, プリント類 から

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. However, this is not efficient if students want to improve their English proficiency.

テキストブック及び補助教材のプリントの予習を必須とする。課題については提出期日をきちんと守ること。遅れた場合は原則受け取らないので、平常点の大幅な減点となってしまう。

【テキスト (教科書)】

1. CLIL: *Discuss The Changing World* (英語で考える現代社会)、Miyako NAKAYAMA, et alia, 成美堂, 2020 年, ¥2200, ISBN: 978-4-7919-7208-1
2. *A Shorter Course in: Everyday Vocabulary Quizzes* Seishi Saito, 南雲堂, 2018 年, ¥700, ISBN: 978-4-523-17668-8 C0082

【参考書】

- ・総合英語 *Evergreen*、いづな書店、2018 年、¥1520
- ・Japan Today <https://japantoday.com/>
- ・BBC Learning English
<https://www.bbc.co.uk/learningenglish/english/>
- ・VOA Learning English
<https://learningenglish.voanews.com/>
- ・Oxford Online English
<https://www.youtube.com/user/oxfordonlineenglish>
- ・日米会話学院 Hotwords
<https://www.nichibei.ac.jp/hotwords/>

【成績評価の方法と基準】

平常点 70% (授業態度、毎回の予習状況、授業への参加度、課題の提出など) を重要視し、学期末試験 30% と合わせて総合評価で 100% 中 60% 以上を合格とし単位を与える。
必修科目であることから、欠席は 4 回までとし、4 回以上の欠席者は試験を受けた場合でも原則単位を与えない。
授業開始から 30 分以上遅刻した場合は、出席した場合でも欠席扱いとなる。また、15 分以上の遅刻 2 回は欠席 1 回とみなす。

やむを得ず体調が優れない場合や、病院に行くために欠席する場合は事前にメールで連絡すること。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題への関心が高いことから、新聞や雑誌記事などを適宜授業に取り入れていて、毎年好評である。また、ディスカッションにおいて英語で自分の意見を相手にわかりやすく説明することを毎回積み重ねていくことで、英語での発表に自信がつき、そして違う意見を知る機会になったという感想を学生から得ている。毎回提出してもらうアクションペーパーを通じて、学生との意思疎通を図ることが可能となっている。

【学生が準備すべき機器他】

英語辞書または電子辞書

【その他の重要事項】

授業中に辞書代わりに携帯電話を使用することを禁止する。
オンライン授業のための Zoom へのリンクは、必要に応じて Hoppi にアップして知らせることとする。

【Outline (in English)】

The objectives of this class are to help students acquire the necessary knowledge about the structure of English sentences, i.e., topic sentences, supporting sentences, concluding sentences; and to enhance students' ability to understand English sentences without translating into Japanese. In addition, students will be able to learn various aspects of society not only from the textbook, but also from the articles of newspapers, magazines, videos and the Web sites, which may widen the students' vocabulary and their horizons.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、全授業回を対面で行います。
毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキリプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要の説明
2	Unit 11a	Uncontacted tribes
3	Workbook 11a	New media
4	Unit 11b	Sending a message
5	Workbook 11b	Mobile technology
6	Unit 11c	Spreading the news
7	Workbook 11c	Words and time
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 7a	Before New York City
10	Workbook 7a	In the past
11	Unit 7b	Homes around the world
12	Workbook 7b	Changing places
13	Unit 7c	Sweet songs and strong coffee
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

1. リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 2. テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 3. 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 4. 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 5. リスニングのパートは、オンラインで音声資料を開き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 6. 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。
授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書： Life (Second Edition) 4b Combo Split
 著者： Paul Dummett, John Hughes, Helen Stephenson
 出版社： National Geographic Learning
 出版年： 2019
 価格： 2,860 円

【参考書】

<https://ngl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

中間試験： 40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験： 40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点： 20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中の欠席は3回までとし、それ以上授業を欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、2回の遅刻で1回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「類義語、関連語など多くの単語の知識を深めることができた。」「緊張感があり、得るものが多い授業だった。」という授業の意図したことに対してしっかりと反応を示してくれたコメントがありました。また、テキストの本文と関連した新聞、雑誌等からの補足資料については、「引用なされる補足の記事も本文と併せて読むことで、より立体的に話の内容が掴めて楽しかった。」というコメントがありました。しかし一方で、「教科書をもう少し取り扱って欲しかった。」という、もっともな意見もありました。今年度は補足資料をより厳選し、学生がせっかく買ったテキストを授業で最大限活用するように努めたいと思います。また、授業の「緊張感」に関しては、それが過度に陥らないように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】**(Course Outline)**

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)

Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)

Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)

Students must earn at least 60% points to pass the course.

If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

Arriving late twice will equal one absence.

If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
藤井 道行	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：土 2/Sat.2
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1 II(春学期) までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、全授業回を対面で行います。毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキプトの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8a	Vacations and memories
2	Workbook 8a	Business or pleasure
3	Unit 8b	Walking for wildlife
4	Workbook 8b	Where to go, what to do there
5	Unit 8c	All aboard!
6	Workbook 8c	Travel questions
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8f	Questions and answers
9	Unit 9a	Shopping trends
10	Workbook 9a	Gift items
11	Unit 9b	Spend or save?
12	Workbook 9b	Passwords
13	Unit 9c	The art of the deal
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスキリプトを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書： Life (Second Edition) 4B Combo Split
著者： Paul Dammett, John Hughes, Helen Stephenson
出版社： National Geographic Learning
出版年： 2019
価格： 2,860 円

【参考書】

<https://ngl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
期末試験:40%（授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題）
平常点:20%（授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等）
単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。学期中の欠席は3回までとし、それ以上授業を欠席した場合は原則として単位は認めません。遅刻は30分以内とし、2回の遅刻で1回の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「類義語、関連語など多くの単語の知識を深めることができた。」「緊張感があり、得るものが多い授業だった。」という授業の意図したことに対してしっかりと反応を示してくれたコメントがありました。また、テキストの本文と関連した新聞、雑誌等からの補足資料については、「引用なされる補足の記事も本文と併せて読むことで、より立体的に話の内容が掴めて楽しかった。」というコメントがありました。しかし一方で、「教科書をもう少し取り扱って欲しかった。」という、もっともな意見もありました。今年度は補足資料をより厳選し、学生がせっかくな買ったテキストを授業で最大限活用するように努めたいと思います。また、授業の「緊張感」に関しては、それが過度に陥らないように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)

Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)

Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)

Students must earn at least 60% points to pass the course. If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

Arriving late twice will equal one absence.

If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスクリプトを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせをした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスクリプトの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 1	Female Leaders Lead (listening)
3	Unit 1	Female Leaders Lead (reading)
4	Unit 2	Unexpected but Deserved (listening)
5	Unit 2	Unexpected but Deserved (reading)
6	Unit 3	Strategic Benevolence (listening)
7	Unit 3	Strategic Benevolence (reading)
8	Unit 4	Almost Like Being There (listening)
9	Unit 4	Almost Like Being There (reading)
10	Unit 5	Loss of Precious Life (listening)
11	Unit 5	Loss of Precious Life (reading)
12	Unit 6	Mosquitoes: Friends and Foes (listening)
13	Unit 6	Mosquitoes: Friends and Foes (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・春学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスク립トと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (23)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト 50%、小テスト 20 %、平常点 30% で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Study time will be two hours for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 50%
2. Reports 20%
3. Classroom Participation 30%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

妻鹿 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN のニュース映像とスク립トを使用し、様々なトピックについて学びながら、リスニングとリーディングを中心に総合的な英語力の向上を目指します。

【到達目標】

- ・英語の文章を正確に読む力をつけます
- ・論理的な思考力を養います
- ・語彙力を増やします
- ・様々な英語（Englishes）の発音に慣れます
- ・英語のリズムを身につけます

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

一つの unit を二回の授業で扱います。前半は語彙とリスニングを、後半はリーディングを中心に進めます。前半は Examples を小テストとして行い、Definition と Examples の答え合わせをした後、Blanks to Fill in でリスニングをし、答えの確認をします。後半は Judgments to Make を小テストとして行い、リスニングのスク립トの訳をした後、Judgments to Make の答え合わせをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容・成績評価等に関する説明
2	Unit 7	Plastic-Eating Insects (listening)
3	Unit 7	Plastic-Eating Insects (reading)
4	Unit 8	Inspirational Journey (listening)
5	Unit 8	Inspirational Journey (reading)
6	Unit 9	No Holding Her Back (listening)
7	Unit 9	No Holding Her Back (reading)
8	Unit 10	Getting Prepared (listening)
9	Unit 10	Getting Prepared (reading)
10	Unit 11	Learning to Adapt (listening)
11	Unit 11	Learning to Adapt (reading)
12	Unit 12	Signs of Progress (listening)
13	Unit 12	Signs of Progress (reading)
14	試験・まとめと解説	学期末試験・秋学期の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を前提として授業を行います。前半は Words and Phrases to Study の Definition と Examples を、後半はニュースのスク립トと Judgments to Make を予習して下さい。本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN ビデオで見る世界のニュース (23)』
(朝日出版社)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

テスト 50 %、小テスト 20%、平常点 30%で評価します。遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、遅刻三回で欠席とみなします。各学期欠席が四回以上の場合は、原則として単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加を求めます。どんどん発言して下さい。

【その他の重要事項】

- ・授業で辞書（英和と英英）を使用します。
- ・Hoppii の「お知らせ」で連絡する場合があります。

【Outline (in English)】

Course Outline

This class aims to help you develop your listening and reading skills.

Learning Objectives

Students will build up their vocabulary, learn the pronunciation features of English, and acquire reading strategies.

Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Study time will be two hours for each class.

Grading Criteria/Policy

The final grade will be based on the following criteria:

1. Final Exam 50%
2. Reports 20%
3. Classroom Participation 30%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

神 康介

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 2/Sat.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

本授業は主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イディオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応する内容を演習する。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く **Exercises** で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を行い、語彙力が高まるように学習する。テキスト本文既出の構文を応用すれば書ける英作文の演習を行う。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、辞書指導等	授業の進め方、英語の勉強法などを説明する。
2	Koshiro Matsumoto Akira Ikegami Kakuei Tanaka	日本の著名人について学習する。
3	Barack Obama's Hiroshima Speech	日本の新しい文化について学習する。
4	The Internet of Things (IoT)	日本未来について学習する。
5	Fintech	日本の新しい産業について学習する。
6	OpdivoR	がん治療について学習する。
7	Environmental DNA	経済について学習する。
8	Camellia	工業技術について学習する。
9	Rice	農業について学習する。
10	Stress Check	最新医療について学習する (1)。
11	Generic Drugs	最新医療について学習する (2)。
12	Self-driving Cars	自動運転について学習する。

13 Renewable Energy 産業について学習する。

3D Printers

14 期末試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回任意の人数が発表するので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推して読み進めること。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

進化する日本 Japan Evolution 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。原則として 半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking).

(Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

神 康介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、豊かな語彙力・正確な文法力の定着を図ると同時に、それに支えられた 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の総合的な向上を目的とする。ビジネスの分野では、英語が世界共通語になっているので、現代の職業人は必要な専門知識を英語で受信・発信できる英語力に加え、社会の要求に応えられる高度な英語運用能力の習得が求められる。本授業では、そのための基礎力・総合力・応用力をつけるべく、学生の英語力を基にどのスキルに重点を置くか見極めた上で、効果的な教授方法を取り入れて実施する。

【到達目標】

主として読解力向上に主眼を置き、英文の中で重要な語彙、イデオム、構文などを学習する。授業内の練習問題は各種検定試験等に対応するよう工夫する予定である。会話やパッセージを通じて、多岐にわたる思考のあり方を学び、それに続く練習問題で物事の適切な捉え方を実践学習しながら答えを導き出す訓練を行う。英語力習得のみならず、将来必要とする思考力の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

読みにおける語義の意味を類推することの重要性を考えて、派生語、言葉の定義、適語挿入問題、同意語および反意語についての練習問題を用意し、語彙力が高まるよう工夫する。基本的な英作文の演習を行うが、テキスト本文既出の構文を応用すれば書けるように工夫する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What's So Free about Freeways?	速度無制限の高速道路アウトバーン（ドイツ）
2	Riding a Horse While Drunk Is Illegal?	飲酒乗馬の取り締まり（アメリカ）
3	Walk Your Dog Three Times a Day!	犬は 1 日 3 回散歩させなければならない（イタリア）
4	Hungary Introduces a Tax on Chips	健康のためのポテトチップス税（ハンガリー）
5	Don't Tie Alligators to Fire Hydrants!	「ワニを消火栓につなぐな」とはどういうこと？（アメリカ）
6	Marriage and Divorce in Different Cultures	4 回続けて同じ人と結婚できない？（イスラム）
7	Smile!	葬式とお見舞いの時以外は微笑まなければならない！（イタリア）
8	Silent Sunday?	午後 10 時以降トイレは流してはいけない（スイス）

9	Want to Be a Pilot?	パイロットの足の長さは少なくとも 90 センチ? (インド)
10	Napoleon, the Pig?	豚に「ナポレオン」の名前を付けてはならない (フランス)
11	Don't Drop Dead Here!	国会議事堂内で死んではいけない? (イギリス)
12	Cheating Does Not Pay	カンニングをしたら刑務所行き? (バングラデッシュ)
13	Putting a Stop to Traffic Jams	排気ガスが多い車は市街地走行禁止 (スウェーデン)
14	期末試験	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする】
 毎回任意の数人に発表してもらうので、辞書を教室に持参し、クラス全員が予習してくる。テキストの注釈に関しては、大学教養課程以上の単語や分かりにくい慣用語句、専門用語を中心に解説を加えてあるので、注釈にない語句や表現は、辞書を引く前に、前後の文脈から類推してみる。予習は、事前に内容を理解し、演習問題を解答する。復習は、授業の内容をノート等に整理する。

【テキスト (教科書)】

Funny Laws in the World (世界おもしろ比較文化－法律から学ぶ文化事情)
 南雲堂

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

クラスでの平常点で 40 %、期末試験の結果で 60 % で評価する。半期で 4 回欠席した場合単位は認めない。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上が合格となる。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚機器をもっと活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class reinforces the development of a rich vocabulary and accurate grammatical knowledge, and based on this knowledge, aims at the comprehensive development of the four skills (reading, writing, listening and speaking)..

(Learning object)

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to comprehend and communicate in English to meet the need of society for high levels of English.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

reading と writing を主眼に英語スキルの向上を目指します。テキストとして、新聞・雑誌の記事をプリントして配布します。基本文法と語法を確認しながら文を読み、英語でまとめる練習をします。さまざまなジャンルと長さの英文を正確に読み取ることを目標に、流れに沿って論旨をつかみ、必要な情報を取り出しましょう。

【到達目標】

To read various fields and various length of articles and pick out key words/key phrases.

To understand the topic of the article, following the the flow of paragraphs.

To understand the suggestions and opinions of the writer and to give comments on them.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

The address of the article we use in the class will be announced, or handouts will be given in the classroom. You will read them, check vocabulary and pick out important words/phrases, then make up summaries.

You will also have to read news articles of your own choice and write weekly report paper. This is preparation for Presentation session for the Autumn Term. Read various kinds of news report and find out WHAT field of news you are interested in.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	What's the Problem? 論旨のピックアップと要約文の作り方のフォームを配布して解説する。
2	Natural Environment	配布記事を読み、内容を確認するクイズに答える。
3	Natural Environment 2	記事を読み、要約を作成する。
4	Global Warming	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
5	Global Warming 2	記事を読み、要約を作成する。
6	Society	記事を読み、内容に関する駆使図に答える。
7	Society 2	記事を読み、要約を作成する。
8	Great Speeches	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
9	Great Speeches 2	記事を読み、要約を作成する。
10	Around Wars	記事を読み、内容に関する駆使図に答える。
11	Around Wars 2	記事を読み、要約を作成する。
12	Health	記事を読み、内容に関するクイズに答える。
13	grammar review	文法と語法の復習プリントを配布する。

14 Review for Spring Term 春期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are required to prepare for/review class activities for two hours for each class. Read the given article, check vocabulary and pick out keywords/ key phrases, review grammar points. You also have to read a news article besides the given article (more than 500 words) and write weekly reports on it.

【テキスト（教科書）】

プリント配布または記事の URL を告知する

【参考書】

とくに指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験 30%、授業時の提出物 50%、授業時の発表 20%として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。

You will be assessed by: Final Test 30%

Assignments (Weekly Report and Classwork paper) 50%

Class activities (active participation in the classwork 20%

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit. When you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

評価票の提出について：レポートする記事の選択は「各自の興味あるもの」としてありますが、秋期のプレゼンテーションの下準備で、各自の興味の方向性をしぼることが目的です。単発でおわる記事ではなく、シリーズとして追いかけられそうなもの、続報が手に入りやすそうなトピックを選んでください。とくに、人物の紹介記事などを扱う場合は、ほかにどんな切り口がありそうか、広く展開できそうなものかを考えて、レポートに取り上げるかどうかを判断するとよいでしょう。（スポーツ関連で試合の結果を報じるものなどは不適といえます。）

【学生が準備すべき機器他】

授業には必ずハードコピーの辞書または電子辞書を携帯してください。通信機器は使用しないでください。語義の確認だけでなく、用例を見て言葉の使い方をチェックするために、辞書を活用していただきたいと思います。

Please carry your dictionary in the classroom and check not only meaning of words but also the usage and sample sentences to enhance your language skills.

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行してください。

Please carry your dictionary in the classroom and check not only meaning of words but also the usage and sample sentences to enhance your language skills.

【Outline (in English)】

This class aims at enhancing your English-reading and writing skill. You'll be given various types of articles from newspapers or magazines. Try to pick out theme and support parts of the article and understand what the writer means.

you have to prepare for the class activities for at least 2 hours.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

引き続きさまざまなテーマの英文に触れ、語彙を広げ、読解の基礎力を付けていきましょう。

英文を読み、論旨を英文でまとめたり、コメントを付ける練習をします。

【到達目標】

*自分で設定したテーマに沿って資料を検索する。

*theme/idea/opinion + support という形でのまとめを作る。

*記事の原文そのままを抜き出してまとめるのではなく、全体の流れを把握したうえで、要点をじぶんの言葉で説明する。

*記事の内容に関してじぶんの意見をまとめてみる。

To search information and materials of your own choice.

To make up summary of the article giving its theme/idea/opinion and

supports, following the flow of the explanations.

To give comments on the article.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Read the given articles, check vocabulary and make up summaries of the articles. Presenters will announce the title and URL of the article. Others will read the article and write Preparation Paper (Pick out important words/phrases, pick out the theme and think questions to the presenter. On the presentation day, the presenter will make presentation and take questions from the audience. The audience should submit the preparation paper for each presentation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Natural Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。各自プレゼンテーション用の記事を提出。
2	Natural Science 2	配布した記事を読み、要約を作成する。プレゼンテーションのグループ分けとスケジュールを決定。
3	Medical Science	配布した記事を読み、内容に関するクイズに答える。レポート担当者は使用する記事のコピーをグループ内で配布する。
4	Presentation 1	グループ内で質問を出し合った後、担当者にクラス全員の前で発表してもらう。
5	Presentation 2	グループ内で質問を出し合った後、担当者にクラス全員の前で発表してもらう。
6	Presentation 3	グループ内で質問を出し合った後、担当者にクラス全員の前で発表してもらう。

7	Presentation 4	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
8	Presentation 5	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
9	Presentation 6	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
10	Presentation 7	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
11	Presentation 8	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
12	Presentation 9	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
13	Presentation 10	グループ内で質問を出し合った後、担当者によるクラス発表を行う。
14	Review for Autumn Term	秋期のまとめ 各自のプレゼンテーションのまとめレポートを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備学習・復習時間は、併せて 2 時間を標準とします。】
レポートのテーマが同じ場合、レポートする記事もほかの発表者と重複することがあります。一つの分野でも、複数の記事に目を通し、いろいろな切り口からレポートできるように考えておきましょう。記事の長さなどは授業時に指定し、発表用のフォーム、提出用のフォームを配布しますので、しっかり準備して発表に臨んでください。You have to prepare for/review class activities for 2 hours. all the class have to read the article used for the presentation and submit preparation paper on the article.

【テキスト（教科書）】

プリントを配布。

プレゼンテーションの記事に関しては、発表者から提示された記事を読み、指定された提出フォームを使用して予習課題（重要語句やキーフレーズのピックアップ）を提出していただきます。また、まとめとして口頭発表とは別に各自の担当記事の Summary を提出していただきます。

The URL of the article used for each presentation will be announce from the presenter. Preparation paper will be given in the class or through Hoppii.

【参考書】

とくに指定しない

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物（小テスト・プレゼンテーションの際に記入して提出する予習用シートなど）60%、プレゼンテーションとファイナルレポート40%として評価する。4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。プレゼンテーションの予習用シートは、プレゼンターがあらかじめ配布する記事を読み、重要単語やキーフレーズをまとめ、質問点を記入するもので、このシートを準備することで質疑応答を活性化するための配布している。シートの提出は各プレゼンテーションの当日のみ受け付けるので、しっかり記事を読み、活発な議論が行われるようにしてほしい。プレゼンテーションの評価は、クラスセッションでの口頭発表と、ファイナルレポートを併せて行う。

You will be assessed: Mini tests, preparation papers 60%

Presentation (Class session and Report)

40%

Get well prepared for the presentation session by making up preparation paper and try to give good questions on the topic. If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit. When you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーションでは 1000 語以上の記事を選ぶよう指示してありましたが、記事が短すぎ、追加の記事を探す必要のあるかたが数人ありました。また、disputable point（論争となる問題点）を挙げてまとめてもらいましたが、状況説明に終始する記事を選んだため、指定されたまとめができなかった例もありました。充実したプレゼンテーションを行うために、どんな記事が適しているかよく考えて選択してください。

春期に新聞記事のまとめを作っていたいただくのも、自分の興味がどこにあるかをあらかじめ考えていただきたいからです。

長期的に追いかけるテーマを早い段階で明確にしておく必要があるでしょう。

また、ファイナルレポートにはプレゼンテーションに使用した記事のほかに、サポートとなる追加記事のまとめも提出してもらいます。メインとなる記事の輪郭がより鮮明になるようなサポート記事を考えてもらえればと期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携行すること。

遅刻も回数に応じて欠席にカウントされるので、注意が必要。

授業は原則として対面で行う予定だが、状況に応じて大学の方針に従う。変更がある場合はその都度連絡します。

Please carry dictionary in the class.

We will have face-to-face classes but follow the school policy when the circumstance changes. If there is changes, it will be announced through Hoppii,

【Outline (in English)】

You will make a presentation on an article of your choice. Try to explain clearly what is the problem and what the writer thinks of the problem through the group session and class session. Finally, you will submit the report paper on the article you use in your presentation.

You have to prepare for/ review the class activities for 2 hours. You will be assessed with Presentation, Report paper and preparation papers.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの Unit を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

Unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Unit 1-1 100-Yen Shops: Still going strong	「日本の 100 円ショップ：絶好調の理由」前半講読
3	Unit 1-2 100-Yen Shops: Still going strong	「日本の 100 円ショップ：絶好調の理由」後半講読
4	Unit 6-1 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	「商売の秘訣：企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか」前半講読
5	Unit 6-2 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	「商売の秘訣：企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか」後半講読

6	Unit 11-1 Dialects: How English is spoken across the world	「方言：英語は世界中でどのように話されているか」前半講読
7	Unit 11-2 Dialects: How English is spoken across the world	「方言：英語は世界中でどのように話されているか」後半講読
8	Unit 16-1 New Solar Power: A breakthrough in clean energy	「新しい太陽光発電：クリーンエネルギーにおける飛躍的進歩」前半講読
9	Unit 16-2 New Solar Power: A breakthrough in clean energy	「新しい太陽光発電：クリーンエネルギーにおける飛躍的進歩」後半講読
10	Unit 2-1 Work-Life Balance: Do it like the Germans	「仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え」前半講読
11	Unit 2-2 Work-Life Balance: Do it like the Germans	「仕事と生活のバランス：ドイツ人を見習え」後半講読
12	Unit 7-1 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	ゲ「ーマーの秘密の生涯：自分の体から脱出した少年」前半講読
13	Unit 7-2 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	「ゲーマーの秘密の生涯：自分の体から脱出した少年」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding the World Today
(Dave Rear 著, 成美堂, 2022 年, 2,090 円)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 10 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5%. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れではない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に勉強し、次の項目を目標とする。

- ①英文を読む上で必要な文法事項と語彙を身につけること。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになること。
- ③段落の構造を意識して論理の流れを把握できるようになること。
- ④練習問題を通して、リスニング力を向上させること。
- ⑤記事に対する自分の意見を英作文し、英語で表現する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの unit を扱う。

授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。

正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文として課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

unit ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方説明と英作文
2	Unit 12-1 Child Prodigies: Raising a little genius	「天才児: 小さな天才を育てる」 前半講読
3	Unit 12-2 Child Prodigies: Raising a little genius	「天才児: 小さな天才を育てる」 後半講読
4	Unit 17-1 Vaccines: A history of keeping us safe	「ワクチン: 人類を守る歴史」前 半講読
5	Unit 17-2 Vaccines: A history of keeping us safe	「ワクチン: 人類を守る歴史」後 半講読

6	Unit 3-1 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	「時代を越えて：創業 200 年の日本企業」前半講読
7	Unit 3-2 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	「時代を越えて：創業 200 年の日本企業」後半講読
8	Unit 8-1 Social Media: Big tech's addiction to	「ソーシャルメディア：依存させて利益を得るテクノロジー会社」前半講読
9	Unit 8-2 Social Media: Big tech's addiction to	「ソーシャルメディア：依存させて利益を得るテクノロジー会社」後半講読
10	Unit 13-1 Mentalism: Mastering the human brain	「メンタリズム：人間の脳を使いこなす」前半講読
11	Unit 13-2 Mentalism: Mastering the human brain	「メンタリズム：人間の脳を使いこなす」後半講読
12	Unit 18-1 International Space Station: Is it worth the money?	「国際宇宙ステーション：コストに見合っているか」前半講読
13	Unit 18-2 International Space Station: Is it worth the money?	「国際宇宙ステーション：コストに見合っているか」後半講読
14	期末テスト	期末テスト・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
予習を前提に授業を進め、unit ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。
小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding the World Today
(Dave Rear 著, 成美堂, 2022 年, 2,090 円)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 10 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from passages of the textbook. In some cases, other materials will be used for listening quizzes.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システムも使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。

DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A - から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフフリーディングを実施する。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して) 英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム両方を使用する。

動画のストリーミング視聴、講義、演習 (シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、(アクティブラーニングとして) ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用しているディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL (何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する)。最後にリアクション・ペーパー (担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入) を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンス	Unit 1	単語学習、内容理解、ヒアリング
第 1 回	What's for Lunch? In Japanese Schools	ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at-Home Dads +Putting Kids Before careers	単語学習、内容理解、ヒアリングディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、リアクション・ペーパー

第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	Unit 13 slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	演習（ペアワークとスモールグループによるディスカッション） プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 14 回	春学期末オンライン・ レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する（または、ストリーミング視聴）。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. **Getting in to Details** のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で（テキストの空欄を埋めたうえで）、4. **Getting into Details** を和訳する。どこが分からないか（文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。
春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキャンニングなど、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline (in English)】

We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades). We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also learn the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching) and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every students are supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システムも使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。

DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストーリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +、A、A - から C-までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。

動画のストーリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して) 英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期全体を通じて同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システムを使用する。動画のストーリーミング視聴、講義、演習 (シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、(アクティブラーニングとして) ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コン・。プリヘンション・チェック・クイズ、PBL (何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する)。最後にリアクション・ペーパー (担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入) を作成する。提出された課題は、5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、5. やり直しの評価をつけて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回目	Unit 1 Japan: Unusual Rental Universe- You Can Even Rent a Family	Unit 1 Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回目	Unit 2 is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expressing Opinions Evaluation
第 3 回目	Unit 3 Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 4 回目	Unit 4 Lack of Sleep Costs Americans Billions of Dollars Each Year	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 5 回目	Unit 5 Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork

第 6 回 目	Unit 6 Do Happy People Live Long?	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 7 回 目	Unit 7 Selling Charity	Word Test Unit Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 8 回 目	Unit 8 The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Word Test Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation Questionary for the fieldwork
第 9 回 目	Unit 9 A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Word Test Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回 目	Unit 10 How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	word test Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回 目	Unit 11 True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Word TEst Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回 目	Unit 12 The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Word Test Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回 目	秋学期期末オンライ ン・レポート試験・ま とめと解説	評価
第 14 回 目	オンライン・レポート 追試験・再試験・ま とめと解説	評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティブラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791971862 ￥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業のレポート課題の内 4 回以上未提出の場合には単位不認定とする。成績は、全 14 回の授業のレポート課題 40%、平常点(積極的な意見交換など)20%、授業貢献度 20%、秋学期末レポートテスト 20%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキanning、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC かタブレット,WiFi 環境

【その他の重要事項】

対面授業のオフィスアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline (in English)】

We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades). We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also learn the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching) and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every students are supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな英文の基本的な読解ストラテジーを習得しながら、英文の主題や状況設定を捉えるスキルの向上を目指します。また、英文の構造的把握に基づいたより高度な読解にも挑戦します。

【到達目標】

- ・【授業計画】の各回に示された英文読解ストラテジーを身につける。
- ・英文をひと通り読んだ後、何を書かれているのかという英文の主題や状況設定を把握できるようになる。
- ・【授業計画】第 7 回・第 13 回で紹介される文章の論理的構造をもった英文を、「構造的に」把握して内容を説明できるようになる。
- ・辞書の基本的な利用方法や利用習慣を身につける。
- ・英語に関することであろうとなかろうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
- ・あまり知識のないトピックに関する英語音声聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書を進めていきます。単なる答え合わせや訳出にとどまらず、英文の朗読や辞書での内容確認など、さまざまなタスクが含まれます。

第 7 回・第 13 回授業回では、教員の用意したプリントを使って、英文エッセイの基本構造をいくつか学び、その知識を用いた英文読解の小テストを実施します。

Unit ごとの感想や質問は「学習支援システム」を通じて行ない、一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期イントロダクション	シラバスの内容を確認するほか、細かな注意事項について説明します。 各自の持参した辞書をチェックします。
2	Unit 1	Check Your Level 現在のリーディング力を診断する
3	Unit 2	Vocabulary Strategy < 1 > 未知語を推測する
4	Unit 3	Vocabulary Strategy < 2 > おかしいな、と思ったら辞書をひく
5	Unit 4	Vocabulary Strategy < 3 > 辞書を効率的に使う
6	Unit 5	Experience Pre-reading Activities タイトルやイラストから内容を予測して読む
7	文章の構造的読解 1	意見サポート型 読解小テスト

8	Unit 6	Understanding Reference Words < 1 > 代名詞が指すのは誰？
9	Unit 7	Understanding Reference Words < 2 > one や that って何を指すの？
10	Unit 8	Understanding Reference Words < 3 > 代動詞が示すのはどんな動作や状態？
11	Unit 9	Using Signal Words to Predict Ideas < 1 > and などのシグナルワードから流れを理解する
12	Unit 10	Using Signal Words to Predict Ideas < 2 > but などのシグナルワードから流れを理解する
13	文章の構造的読解 2	パラグラフ並列型 読解小テスト
14	試験・まとめと解説	Unit 1~10 のまとめと筆記試験 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Students will master basic reading strategies in English, which will help them better understand the subjects and contexts of English texts. They will also learn some of the basic structures of English essays.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

教科書の予習においては、一度辞書やその他の調べ物をせずに問題を解いてみてから、自分の気になる箇所について調べるようにして下さい。

また、本授業の内容だけにとどまらない、自分独自の「英語ノート」を用意し、予習・復習で自分に必要だと思われる知識はそちらに書き留める習慣をつけます。

本授業の到達目標には発音も含まれます。英単語の語釈・語用だけを調べるのではなく、文章のなかで聞こえたように発音できるように声に出して練習します。

その他、英語にかかわらない事柄であっても、自分にとって未知なことは積極的に調べます（情報源は問わず）。

【テキスト（教科書）】

卯城祐司・中川知佳子・Mari Le Pavoux, 『Reader's Ark: Intro (英語リーディングの冒険：入門編)』、金星堂、2012 年。1900 円＋税。ISBN: 978-4-7647-3931-4
プリント（第 7 回・第 13 回授業回）

【参考書】

英和もしくは英英辞典を必ず用意してください。対面授業中は紙媒体および専用装置型の電子辞書のみ使用可能です（つまりアプリや Web 辞典は使用不可）。第 1 回授業回において各自の持参した辞典をチェックします。

【成績評価の方法と基準】

教科書 Unit 1~10 を範囲とする筆記試験（第 14 回授業回）：50%
英語の構造的読解を実践する小テスト（第 7 回・第 13 回授業回）：20%

毎授業回の授業参加度（質問に対して十分な予習をふまえた回答や朗読ができたか）：30%

欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

不正について

各タスクにおいてコピペ、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまな英文の基本的な読解ストラテジーを習得しながら、英文の主題や状況設定を捉えるスキルの向上を目指します。
また、英文の構造的把握に基づいたより高度な読解にも挑戦します。

【到達目標】

- ・【授業計画】の各回に示された英文読解ストラテジーを身につける。
- ・英文をひと通り読んだ後、何が書かれているのかという英文の主題や状況設定を把握できるようになる。
- ・【授業計画】第 7 回・第 13 回で紹介される文章の論理的構造をもった英文を、「構造的に」把握して内容を説明できるようになる。
- ・辞書の基本的な利用方法や利用習慣を身につける。
- ・英語に関することであろうとなかろうと、読んでいて分からないことは、自主的に調べる習慣を身につける。
- ・あまり知識のないトピックに関する英語音声聴く際にも障害にならない程度に、基本的なフレーズや文法、発音のルールを覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

基本的には教科書を進めていきます。単なる答え合わせや訳出にとどまらず、英文の朗読や辞書での内容確認など、さまざまなタスクが含まれます。

第 7 回・第 13 回授業回では、教員の用意したプリントを使って、英文エッセイの基本構造をいくつか学び、その知識を用いた英文読解の小テストを実施します。

Unit ごとの感想や質問は「学習支援システム」を通じて行ない、一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	秋学期イントロダクション	今学期の授業の進め方に関する確認 前学期の学修内容の到達度に関する総評 当然ですが出席にカウントされます。
2	Unit 11	Using Signal Words to Predict Ideas < 3 > because や therefore などのシグナルワードから流れを理解する
3	Unit 12	Identifying the Main Idea < 1 > メインアイデアを把握する 1
4	Unit 13	Identifying the Main Idea < 2 > メインアイデアを把握する 2
5	Unit 14	Identifying the Main Idea < 3 > メインアイデアを把握する 3

6	Unit 15	Searching for Information < 1 > 情報を素早く効果的に読み取る (スキニング)1 直線フロー型 読解小テスト
7	文章の構造的読解 3	
8	Unit 16	Searching for Information < 2 > 情報を素早く効果的に読み取る (スキニング)2
9	Unit 17	Searching for Information < 3 > 情報を素早く効果的に読み取る (スキニング)3
10	Unit 18	Connecting Ideas 複数の情報を結び付ける
11	Unit 19	Reading for Pleasure 予測しながら楽しく読む
12	Unit 20	Assess Your Achievement 現在の英語力を再診断する
13	文章の構造的読解 4	異質パラグラフ型 読解小テスト
14	試験・まとめと解説	Unit 11~20 のまとめと筆記試験 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

教科書の予習においては、一度辞書やその他の調べ物をせずに問題を解いてみてから、自分の気になる箇所について調べるようにして下さい。

また、本授業の内容だけにとどまらない、自分独自の「英語ノート」を用意し、予習・復習で自分に必要だと思われる知識はそちらに書き留める習慣をつけます。

本授業の到達目標には発音も含まれます。英単語の語釈・語用だけを調べるのではなく、文章のなかで聞こえたように発音できるように声に出して練習します。

その他、英語にかかわらない事柄であっても、自分にとって未知なことは積極的に調べます（情報源は問わず）。

【テキスト（教科書）】

卯城祐司・中川知佳子・Mari Le Pavoux、『Reader's Ark: Intro（英語リーディングの冒険：入門編）』、金星堂、2012 年。1900 円＋税。ISBN: 978-4-7647-3931-4
プリント（第 7 回・第 13 回授業回）

【参考書】

英和もしくは英英辞典を必ず用意してください。対面授業中は紙媒体および専用装置型の電子辞書のみ使用可能です（つまりアプリや Web 辞典は使用不可）。第 1 回授業回において各自の持参した辞典をチェックします。

【成績評価の方法と基準】

教科書 Unit 1~10 を範囲とする筆記試験（第 14 回授業回）：50%
英語の構造的読解を実践する小テスト（第 7 回・第 13 回授業回）：20%

毎授業回の授業参加度（質問に対して十分な予習をふまえた回答や朗読ができたか）：30%

欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

不正について

各タスクにおいてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Students will master basic reading strategies in English, which will help them better understand the subjects and contexts of English texts. They will also learn some of the basic structures of English essays.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高 友希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】

- 1 英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
- 2 読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
- 3 論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
 - ②学習支援システムに準備した語彙クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
 - ③リーディングの解説をし、あわせて質問にも回答する。
 - ④テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。
- なお、この授業はオンライン（zoom 等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	Story 1: Sister Jean: Basketball Team's Secret Weapon	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 3 回	Story 2: Blood Testing: Charged with Massive Fraud	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 4 回	Story 3: Millionaire Millennial	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 5 回	Story 4: Fighting Robocalls	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 6 回	Story 5: The Blue World	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 7 回	Story 6: Moment of Impact	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 8 回	Story 7: Father's New Hand	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 9 回	Story 8: Trump's Weapon Ban?	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

第 10 回	Story 9: American Men's Bobsledding Team	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 11 回	Story 10: Made in America: Recycling Discarded Water Bottles	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 12 回	Story 11: The Children of Syria	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 13 回	Story 12: Honoring Martin Luther King Jr	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 14 回	Story 13: Inside the Drug Cartel	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

S. Yamane and K. Yamane, Broadcast: ABC World News Tonight, Kinseido (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50 %）、予習およびクイズ（30 %）、平常点（授業への積極的参加）（20 %）

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline (in English)】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English. Students will be able to 1) critically analyze issues and express their own opinions, 2) acquire more effective listening skills.

Students are expected to complete homework assignments and vocabulary quizzes. Your study time will be more than one hour for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Homework assignments and quizzes (30%)

Participation (20%)

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

高 友希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語で発信されたニュースの講読および視聴を通じて、リーディングとリスニングを中心に総合的な英語力の向上をはかります。

【到達目標】

- 1 英語で発信されたニュースを正確に読み、聴き取ることができるようになる。
- 2 読み取った記事や関連するテーマを批判的あるいは多角的に分析できるようになる。
- 3 論理的に思考し、自らの見解を他者に正確に発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ①テキストの予習結果を学習支援システムに準備した予習フォームに入力し、フィードバック機能を利用して、各自で理解度を確認する。
 - ②学習支援システムに準備した語彙クイズに取り組む。クイズの結果は、フィードバック機能を利用して各自で確認する。
 - ③リーディングの解説をし、あわせて質問にも回答する。
 - ④テキストの内容に関連するテーマについて、グループで議論する。
- なお、この授業はオンライン（zoom 等）で行います。詳細は授業の中および学習支援システムを通じて、随時お知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明
第 2 回	Unit 1: Repairing Big Ben	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 3 回	Unit 2: Learning to Walk again	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 4 回	Unit 3: A Secret Garden in London	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 5 回	Unit 4: Unpaid Internships	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 6 回	Unit 5: The Wedding Gallery	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 7 回	Unit 6: A Modern Steam Train	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 8 回	Unit 7: A T-shirt Exhibition	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 9 回	Unit 8: Generation Z	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

第 10 回	Unit 9: Veganuary	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 11 回	Unit 10: Wind Power in Britain	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 12 回	Unit 11: Preventing Transgender Bullying	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 13 回	Unit 12: A Plastic Tenner	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション
第 14 回	Unit 13: How to Delay Ageing	リスニング、語彙のエクササイズ リーディングの解説 グループディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習のほか、ニュースを見聞きすることを通して社会問題について考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

T. Knowles, C. Lowe, M. Tamura, M. Tanaka and M. Nakamura, British News Update, Kinseido (2019).

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50 %）、予習およびクイズ（30 %）、平常点（授業への積極的参加）（20 %）

なお、欠席が 4 回以上の場合には、原則として成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

グループ・ワークを継続する。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、学習支援システムを利用するための通信機器、（必要に応じて）zoom 利用時のマイク付きヘッドセット

【Outline (in English)】

This course is intended to enhance students' ability to understand, analyze and discuss the news in English. Students will be able to 1) critically analyze issues and express their own opinions, 2) acquire more effective listening skills.

Students are expected to complete homework assignments and vocabulary quizzes. Your study time will be more than one hour for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Homework assignments and quizzes (30%)

Participation (20%)

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスについて書かれたテキストを使用して、精読と速読の練習をします。読解の際には辞典を活用し、語彙力の強化を図ります。併せてイギリスの社会や文化に関する知識を増やしていきます。

【到達目標】

必要に応じて精読と速読の技術を使い分けられるようにします。精読が必要な場面では英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにします。速読が必要な場合には文章全体のパラグラフ構成に着目して大意を把握できるようにします。また、時事英語の読解や聴解に必要な知識を身につけるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進めます。まずその日の主題の背景となっている社会的、文化的な基礎知識を確認し、文章全体のパラグラフ構成に注意しながら概要を確認します。必要に応じてパラフレーズの練習も行います。次に、本文の中から事前に指定した箇所の日本語訳を行い、併せて演習問題の解説をします。そのあと時間に余裕のあるときは、こちらで用意した映像資料を使用してリスニングやディスカッションの練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価についての説明
2	Chapter 1 Class 前半	「階級」を扱った文章の読解と演習問題
3	Chapter 1 Class 後半	「階級」を扱った文章の読解とディスカッション
4	Chapter 2 Education 前半	「教育」を扱った文章の読解と演習問題
5	Chapter 2 Education 後半	「教育」を扱った文章についての文章の読解とディスカッション
6	新聞または雑誌記事の講読 (1)	最新のイギリス事情について書かれた記事のリスニングと読解
7	新聞または雑誌記事の講読 (2)	最新のイギリス事情について書かれた記事の読解とディスカッション
8	Chapter 3 Gender 前半	「性差」に関する文章の読解と演習問題
9	Chapter 3 Gender 後半	「性差」に関する文章の読解とディスカッション
10	Chapter 4 Health & Age 前半	「健康と医療」に関する文章の読解と演習問題
11	Chapter Health & Age 4 後半	「健康と医療」に関する文章の読解と演習問題
12	新聞または雑誌記事の講読 (3)	最新のイギリス事情について書かれた記事のリスニングと読解
13	新聞または雑誌記事の講読 (4)	最新のイギリス事情について書かれた記事の読解とディスカッション

14 期末試験 授業で学んだことに関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席してください。予習をしていないことが発覚した場合は、平常点の大幅減点の対象となったり、場合によっては欠席扱いとなることもありますので注意してください。

【テキスト（教科書）】

Simon Rosati 著『Life and Society in Modern Britain [Revised Edition] 現代イギリスの暮らしと文化（改訂版）』英宝社（¥2,200）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な取り組み（予習や質疑応答の内容など） 40 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格がなくなります。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として扱います。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの文字をできるだけ大きくするようにします。

【その他の重要事項】

授業時間外の学習でスマートフォンやタブレットを使用することは、完全には否定しませんが、授業時間中は電子辞書専用機か紙の辞書以外は使用できません。

授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器はかばんの中にしまってください。

【Outline (in English)】

This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will also be required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain. The goals of this course are to use the skills of quick or close reading appropriately. Students will be expected to make an accurate translation of English text into Japanese and give an outline of the text paying close attention to the relation between paragraphs. Students should also learn general information about British society that would be necessary when trying to understand current issues through TV or newspapers.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part of the text with consulting dictionary. Your required study time is at least one hour for each class meeting. If you fail to make preparation for the class, you will lose many points or will be considered as absent.

Grading will be decided based on term-end examination (60 %) and in class contribution (40%). As a rule, anyone who are absent more than three times will lose a credit. Students who come 30 minutes or more late will be considered absent. You will be considered absent one time if you come late three times.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 亜希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、イギリスについて書かれたテキストを使用して、精読と速読の練習をします。読解の際には辞典を活用し、語彙力の強化を図ります。併せてイギリスの社会や文化に関する知識を増やしていきます。

【到達目標】

必要に応じて精読と速読の技術を使い分けられるようにします。精読が必要な場面では英文の構造を理解して正確な日本語訳ができるようにします。速読が必要な場合には文章全体のパラグラフ構成に着目して大意を把握できるようにします。また、時事英語の読解や聴解に必要な知識を身につけるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

予習していることを前提として進めます。まずその日の主題の背景となっている社会的、文化的な基礎知識を確認し、文章全体のパラグラフ構成に注意しながら概要を確認します。必要に応じてパラフレーズの練習も行います。次に、本文の中から事前に指定した箇所の日本語訳を行い、併せて演習問題の解説をします。そのあと時間に余裕のあるときは、こちらで用意した映像資料を使用してリスニングやディスカッションの練習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方や成績評価方法についての説明
2	Chapter 5 Crime & Punishment 前半	「犯罪と刑罰」について書かれた文章の読解と演習問題
3	Chapter 5 Crime & Punishment 後半	「犯罪と刑罰」について書かれた文章の読解とディスカッション
4	Chapter 8 Religion 前半	「宗教」について書かれた文章の読解と演習問題
5	Chapter 8 Religion 後半	「宗教」について書かれた文章の読解とディスカッション
6	新聞または雑誌記事の講読 (1)	最新のイギリス事情を扱った記事のリスニングと読解
7	新聞または雑誌記事の講読 (2)	最新のイギリス事情を扱った記事の読解とディスカッション
8	Chapter 9 The Monarchy 前半	「君主制」について書かれた文章の読解と演習問題
9	Chapter 9 The Monarchy 後半	「君主制」について書かれた文章の読解とディスカッション
10	Chapter 12 Immigration & Race 前半	「移民と人種」に関する文章の読解と演習問題
11	Chapter 12 Immigration & Race 後半	「移民と人種」に関する文章の読解とディスカッション
12	新聞または雑誌記事の講読 (3)	最新のイギリス事情を扱った記事のリスニングと読解

- 13 新聞または雑誌記事の 最新のイギリス事情を扱った記事
講読 (4) の読解とディスカッション
14 期末試験 授業内容に関する筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に教科書を読み、わからない単語は辞書で調べてから出席してください。予習をしていないことが発覚した場合は、平常点の大幅減点の対象となったり、場合によっては欠席扱いとなることもありますので注意してください。

【テキスト（教科書）】

Simon Rosati 著『Life and Society in Modern Britain [Revised Edition] 現代イギリスの暮らしと文化（改訂版）』英宝社（¥2,200）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な取り組み（予習や質疑応答の内容など） 40 %

期末試験 60 %

欠席回数が 4 回となった時点で単位取得の資格がなくなります。

30 分以内の遅刻・早退は 3 回で欠席 1 回として扱います。

30 分以上の遅刻・早退は欠席と見なします。

予習をしていないことが発覚した場合は欠席扱いまたは大幅減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの文字をできるだけ大きくするようにします。

【その他の重要事項】

授業時間外の学習でスマートフォンやタブレットを使用することは、完全には否定しませんが、授業時間中は電子辞書専用機か紙の辞書以外は使用できません。

授業中はスマートフォンやタブレットなどの通信機器はかばんの中に入れてください。

【Outline (in English)】

This course will focus on reading articles and essays on Britain to help students improve their vocabulary and comprehension of what is written in English. Students will also be required to learn how to use dictionaries and reference books as well as acquire knowledge about current and historic topics of Britain. The goals of this course are to use the skills of quick or close reading appropriately. Students will be expected to make an accurate translation of English text into Japanese and give an outline of the text paying close attention to the relation between paragraphs. Students should also learn general information about British society that would be necessary when trying to understand current issues through TV or newspapers.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part of the text with consulting dictionary. Your required study time is at least one hour for each class meeting. If you fail to make preparation for the class, you will lose many points or will be considered as absent.

Grading will be decided based on term-end examination (60 %) and in class contribution (40%). As a rule, anyone who are absent more than three times will lose a credit. Students who come 30 minutes or more late will be considered absent. You will be considered absent one time if you come late three times.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化 (1)	異文化理解
3	言語と文化 (2)	文化の衝突
4	言語と文化 (3)	英語公用語化
5	社会と環境 (1)	環境破壊
6	社会と環境 (2)	民族差別
7	中間試験 まとめ	これまで履修したテキスト及び解説から出題
8	経済と社会 (1)	南北問題
9	経済と社会 (2)	国際紛争
10	経済と社会 (3)	児童労働
11	技術と人間 (1)	臓器移植
12	技術と人間 (2)	遺伝子組み換え
13	技術と人間 (3)	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	履修したテキストと解説から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストの英文を読み、わからない単語・表現がある場合には必ず事前に辞書を使って調べておくようにしてください。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 40 %

試験（中間・期末） 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を

合格とする。尚、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

(Learning Objectives)

By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.

(Learning activities outside of classroom)

Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Mid-term and Final Exams 60%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	中間試験	学習したテキストから出題
8	経済と社会（2）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（3）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	これまで学習した範囲から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 40 %

試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を

合格とする。尚、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

(Learning Objectives)

By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.

(Learning activities outside of classroom)

Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Mid-term and Final Exams 60%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Unit 1	Digital Amnesia
第 3 回	Unit 2	Sleep Paralysis
第 4 回	Unit 3	Why Are Some People Better at Learning Languages?
第 5 回	Unit 1 ～ Unit 3 のまとめ	Unit 1 ～ Unit 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 4	The McCollough Effect
第 7 回	Unit 5	The Healthiest Drink?
第 8 回	Unit 6	Health Advice for Fashion Lovers
第 9 回	Unit 7	Live to Be 120
第 10 回	Unit 4 ～ Unit 7 のまとめ	Unit 4 ～ Unit 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 8	A New Antibiotic Found in the Soil
第 12 回	Unit 9	The World's Oldest Creature?
第 13 回	Unit 10	Lazy Ants
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。英作文などの課題において、テキスト内に出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「科学技術」・「健康」・「環境」・「人間の精神」・「宇宙」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Unit が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Unit 11	(Almost) Vegetarian Bears
第 3 回	Unit 12	Animals and Earthquakes
第 4 回	Unit 13	LiquiGlide
第 5 回	Unit 11 ～ Unit 13 のまとめ	Unit 11 ～ Unit 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Unit 14	Unbreakable Glass
第 7 回	Unit 15	Robots Are Winning
第 8 回	Unit 16	Li-Fi
第 9 回	Unit 17	Enceladus
第 10 回	Unit 14 ～ Unit 17 のまとめ	Unit 14 ～ Unit 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Unit 18	The Ninth Planet
第 12 回	Unit 19	Dyson Sphere
第 13 回	Unit 20	When Will We See a Great Comet?
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Unit の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Science Finder (『科学の不思議』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が英語で自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation
6. Improve rapid reading skill.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに学習したことを基礎として、総合的な英語力を養うことを目的とする。特に英語の 4 技能の一つであるリーディング (文章理解、基礎的な文法の理解、語彙の増強) のスキルを強化し、読解力向上のための基盤づくりができるようにする。また、英語のリスニング、スピーキングの力も強化する。英語でコミュニケーションをすることの楽しさを実感し、日常的な場面で自分が伝えたいことを表現し、又相手が伝えたいことを理解できるようにする。コミュニケーション活動を通して、他者との相互理解を深める機会を得る。さらに学習を通して海外事情を知り、世界の中の日本、そして日本の中の世界を知る。様々なテーマを含む英語資料を理解し、クリティカルな分析能力を養う。

【到達目標】

テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、フレーズを理解し使えることができる。英語語彙力を身につける。(英単語レベル 4 以上をマスターする。) 短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。英語ジャーナルを書いて発表する。テキスト、プリント等の記述内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見出すことができる。英語で自分の意見を述べることができる。コミュニケーション能力を培い、自信を持って話せることができる。リスニング、リーディング、ライティングの課題に取り組む。ペアワーク、グループワークに参加し、課題やプロジェクトを完成させることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面による講義形態で行い、基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、演習問題の正答をフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合もあります。教科書の内容について、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。授業で配布するプリント、授業支援システム Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。英語によるプレゼンテーションを行い、受講生は自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。尚、プレゼンテーション実施の際は、視覚資料等の円滑な運用のため、Zoom 等のツールを用いる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1	Orientation Introduction to Environmental Issues	Environmental issues covers problems related to nature and society. You understand how our habits impact our environment.

Unit 2	Climate Change	Climate change means changes in the climate of our planet or a region. You understand how humans affect climate change.
Unit 3	Energy	Energy is the power required to provide light, heat and to move machines. You understand how humans are dependable on energy.
Unit 4	Waste	Waste is anything that cannot be used or is not wanted anymore. You understand ways to minimize waste.
Unit 5	1-4 Review	Review of 1-4, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 6	Population Growth	Population growth is a raising issue. You understand high-level vocabulary related to population growth.
Unit 7	population	Environmental population is the introduction of harmful, unsafe or not suitable elements in the environment. You understand different type of pollution.
Unit 8	Water	Less than 3% of all water in our planet is drinkable. You understand how water scarcity impacts our future.
Unit 9	Deforestation	Deforestation happens when all trees in an area are cut down or burnt. You understand the importance of trees to the environment.
Unit 10	6-9 Review	Review of 6-9, based on TOEIC(R) Test Style.
Unit 11	Hydroelectricity	Hydroelectric power plants generate electricity from the flow of water. You understand some limitations of hydroelectric energy.
Unit 12	Solar Panels	Solar panels absorb high photo and transform it into electricity. You understand how solar panels work.
Unit 13	Wind Turbines	Wind turbines make electricity from the wind. You understand different types of wind turbines.
Unit 14	Nuclear Energy	Nuclear energy is a technology that has low CO2 emission. You understand and evaluate the risks posed by nuclear energy.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に Hoppii のシステムを活用します。本授業の準備学習・復習時間は、準備学習に 90 分、そして復習に 60 分程度の時間を必要とします。又、授業で配布するプリント学習、学習支援システム Hoppii に出された課題等におよそ 90 分程度の時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

Textbook: Our World Today, 著者名: Adam Murray, Anderson Passos,
Publisher: 南雲堂, ISBN: 978-4-523-17789-3 C0082 ¥ 2,000-

【参考書】

電子辞書又は本型の辞書等（機種、出版社等是不問）授業には毎回持参すること。

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

40 % 平常点: 英語によるプレゼンテーション

30 % Forms、Hoppii 等の課題についての評価

30 % レポート評価: エッセー (英文)

尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、今後も優れた授業ができるよう研究を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii の課題等を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to develop English oral and aural communication skills in a wide variety of real-world situations and emphasizing natural speech and vocabulary development.

Learning objectives: Students will read passages of multiple paragraphs to discuss and talk on general topics and grasp the writer's intention and feeling. This course also helps students foster critical thinking skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information.

Learning activities outside of classroom: Lecture/Exercise (two-credits) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and complete the required assignments after each class meeting. Your required study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution (presentation in English) 40%: Evaluation of Hoppii's assignment 30%: Short reports: 30%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

深澤 清

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化が進む社会を考慮し、英語を使って人前で情報を伝えたり、自分の考えを説明したりする、いわゆる「プレゼンテーション能力」(Presentation Skills in English)を養う。本授業は1.「知識を提供するプレゼンテーション」(Informative Presentations)、2.「説得的プレゼンテーション」(Persuasive Presentations)、3.「プレゼンテーション演習」(Presentation Practice)の三部構成からなり、プレゼンテーションの基礎的技術の向上を目指す。又、ビジネスの場面でも応用可能なコミュニケーション能力を養う。さらに英語リスニングのスキルを身につける。

【到達目標】

日常生活や現代社会の様々なトピックに関して自分なりの意見をまとめ、それを口頭や文章で効果的に表現する力を養うことができる。英語ジャーナルを書いて発表する。英語で書かれたトピックの内容を理解し、その内容を他者に伝えることができる。他者の発言を尊重しつつ、自分の意見との妥協点を見い出すことができる。プレゼンテーションのための基礎的な知識を身につける。英語によるプレゼンテーションを行う。英語リスニングのスキルアップを図る。英語語彙力をアップさせる。(英単語レベル 4 程度をマスターする。)テキストの予習・復習を通して文法、イディオム、短いフレーズを理解する。英語の短いフレーズは何度もドリル練習をして暗記することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面による講義形態で行い、基本的に教科書に沿って授業を進めます。授業では教科書の内容について解説し、演習問題の正答をフィードバックします。又、補足説明や演習問題の正答は授業支援システム Hoppii に掲示する場合もあります。教科書の内容については、ペアワーク、グループワークにより意見交換をします。事前に配布するプリント、Hoppii に出された課題に取り組み、授業時間以外でも受講生は継続的に学習します。受講生は英語によるプレゼンテーションを行い、は自分の意見を他者に伝える機会を持ちます。積極的に Hoppii 等の授業支援システムを活用し、課題等に対する解説、正答のフィードバックを行います。さらに、TOEIC(R)、TOEFL、英検等の資格試験対策も早期に取り組みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1. Chapter 1: Section 1	The History of Our University	Informative Presentations: Time「時間」
2. Section 2	My Favorite Country	Informative Presentations: Place「場所」
3. Section 3	The Four Basic Food Groups	Informative Presentations: Topical pattern「話題関連型」
4. Section 4	Japan's Education System	Informative Presentations: Classification pattern「分類型」

5. Section 5	What is Science?	Informative Presentations: Concepts「概念型」
6. Section 6	Social Networking Services	Informative Presentations: Advantages & Disadvantages「長所・短所型」
7. Section 7	The Four Basic Food Groups	Talk about Topical pattern
8. Chapter 2: Section 1	Should Students Wear School Uniforms?	Persuasive Presentations: Questions of Value「価値型」
9. Section 2	The Case for Organ Donation	Persuasive Presentations: Questions of Fact「事実型」
10. Section 3	Global Warming: What is to be done?	Persuasive Presentations: Problem -Solution Method「問題解決法」
11. Section 4	Exercise and Physical Fitness	Persuasive Presentations: Problem-Cause-Solution Method「問題・原因・解決法」
12. Section 5	Overpopulation: Causes and Consequences	Persuasive Presentations: Problem-Causes-Effect Method「問題・原因・結果法」
13. Section 6	Hybrid or Electric?	Persuasive Presentation: Comparative-Advantage Method「比較優位法」
14. Chapter 3: Pre-sentation Practice	Presentation Practice	Brainstorming & Organizing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に Hoppii のシステムを活用します。本授業の準備学習・復習時間は、準備学習に 90 分、そして復習に 60 分程度の時間を必要とします。又、授業で配布するプリント学習、毎回実施する英単語の小テストの準備、学習支援システム Hoppii に出された課題等におよそ 90 分程度の時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

Writing for Presentations in English 南雲堂
ISBN 978-4-523-17731-9 C0082 ¥ 1,870-

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

Grading Criteria

40 % 平常点: 英語によるプレゼンテーション等、
30 % 小テスト: Forms、Hoppii に出された課題の評価
30 % レポート: エッセイ (英文)、レポート課題等の内容評価
尚、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、今後もより実りある授業にしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii の課題を行うための情報機器 (パソコン等) が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire communicative ability and confidence in speaking English. It also enhances the development of students' skills in presentation skills.

Learning objectives: By the end of the course, students should be able to learn and do the followings; 1. Informative Presentations, 2. Persuasive Presentations, 3. Presentation Practice.

Learning activities outside of classroom: Lecture/Exercise (two-credits) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and complete the required assignments after each class meeting. Your required study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following: In class contribution (presentation in English) 40%: Evaluation of Hoppii's assignment 30%: Short reports: 30%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 2/Sat.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システムも使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。

DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストーリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A - から C- までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。

DVD で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようになる。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して) 英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようになる。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

春学期全体を通して同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システム両方を使用する。

動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、(アクティブラーニングとして) ペアワーク、スモールグループなどでの授業内掲示板を使用してのディスカッション、コンプリヘンション・チェック・クイズ、PBL (何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する)。最後にリアクション・ペーパー (担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入) を作成する。提出された課題は 5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、1. やり直しの評価を付けて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンス	Unit 1 What's for Lunch?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、
第 1 回	In Japanese Schools It's Always Healthy	リアクション・ペーパー
第 2 回	Unit 2 BYOB: California Bans single- Use Plastic Bags	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 3 回	Unit 3 How a Dog Can Improve Your Health	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー、フィールドワーク用アンケート作成
第 4 回	Unit 4 The Shoe That Grows: Expandable shoes aim to Keep Up with Kid's Growing Feet	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 5 回	Unit 5 "Cat Library" Offers Purrfect Solution to Stress	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 6 回	Unit 6 The Evolution of Comic Books in the Digital Age	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 7 回	Unit 7 Can Drinking Soda Make You Age Faster?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 8 回	Unit 8 What You Like on Facebook Could affect Your Job Search	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 9 回	Unit 9 Is Sitting the New Smoking?	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー
第 10 回	Unit 10 Mtcha Madness Sparks New Tea Craze	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 11 回	Unit 11 Daddy duty: stay-at Home Dads +Putting Kids Before careers	単語学習、内容理解、ヒアリング ディクテーション、要約、英作文、シャドウイング、 リアクション・ペーパー

第 12 回	Unit 12 One Man's Long Journey to Help a Stranger Walk Again	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 13 回	Unit 13 slurping to Success: A Look into the Growing American Ramen Culture	演習 (ペアワークとスモールグループによるディスカッション) プレゼンテーション、リアクション・ペーパー
第 14 回	春学期末オンライン・ レポート追試験・再試験・まとめと解説	評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業に備えて、各々のユニットの DVD を前もって視聴する (または、ストーリーミング視聴)。新しい単語、イディオムを調べる。テキストの 4. Getting in to Details のヒアリング・ディクテーションを自己で実施する。その上で (テキストの空欄を埋めたうえで)、4. Getting into Details を和訳する。どこが分からないか (文法、構文、パラグラフ同士のつながり、などをはっきりさせた上で授業に出席すること。

また、毎回宿題を出すので、必ず自宅学習の上、提出すること。各々のユニットを終える毎に単語テストを施するので、備えて学習することが望まれる。また、不定期に、シャドウイングのテスト、小テストをじっしするので備えられたい。

また、各ユニットの主題に関連した URL を紹介するので、各自が、色々と調べて問題点の洗い出しと、問題解決法について討議したり、レポート執筆と提出を求められる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

CBS News Break 3
Nobuhiro Kumai, Steven Timson
(Seibido)
ISBN9784791960330
¥2400(税抜き)

【参考書】

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。

【成績評価の方法と基準】

春学期の全体が同時双方向型オンライン授業での開講となったことに伴い、成績評価の基準を明確に設ける。

春学期末テスト 40 %、単語テスト 10%、小テスト 10 %、宿題 10 %、発表 10 %、活発な意見の交換 10%、と授業貢献度 10 %。の合計 100 %。

ただし、4 回以上授業を欠席すると単位不認定とする。遅刻 3 回で 1 回の欠席としてカウントする。やむを得ぬ事情のない欠席と遅刻は、減点の対象とする。欠席は 3 回までとする。4 回以上の欠席は単位の修得を認めない。課題の提出が 4 回以上未提出の場合は単位不認定とする。課題の未提出は 3 回までとする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミングなど、具体的に、リーディングのストラテジー (速読、精読、ともに) を身に着けることが望まれる。さらに、文章の書き手の意図を読み取り、与えられた情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に読むことを学ぶ。自分ならどうするか、己の意見を構築して英語で発表する。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC、あるいはタブレット、WiFi 環境

【その他の重要事項】

学習支援システム上のご質問ボックスにて随時ご質問、ご相談に応じます。学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと、一般ディスカッションボックスを設置いたします。いつでも何でもどうぞ。オフィスアワーは、一応本来の授業時間としますが、随時受け付けます。

【Outline (in English)】

We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades). We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also learn the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching) and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every students are supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岡崎 真美

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 2/Sat.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

秋学期全体を通じて Zoom を使用して同時双方向型オンライン授業を実施する。学習支援システムも使用する。コースニュースを常にチェックしておくこと。

DVD で 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて批判的に読み、英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自らシャドウイングを実施する。英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。アクティブラーニングとして、ペアワークや、グループ・ディスカッション、発表が出来るようになる。ニュースを鵜呑みにするのではなく、常に批判的に読み、個人でファクトチェックをして個人の意見を構築する。担当教員が必ず授業前に学習支援システムに関連するサイトの URL を複数アップロードするので、Zoom の授業の前にチェックをして下調べをして己の意見を構築し、「掲示板」に書き込んだり、Zoom 中に口頭発表したり、プレゼンしたりすること。授業前に必ずトピックのニュースをストリーミング視聴し、新しい単語やイディオムを調べ、何処が分からないかはっきりさせてから Zoom の授業に出席すること。最低でも 1 時間の授業外の学びが必要とされる。毎回課題を出すので期限内に提出すること。課題は「学習支援システム」で出して同システムで回収する。提出物は必ず S、A +, A, A - から C- までの 10 段階で採点し返却する。速読と精読と両方学び、欄外の意味も読み取って書き手の感情も汲み取れるようにする。パラグラフリーディングを実施する。

【到達目標】

昨今は、価値観が目まぐるしく変わって来てる。また、ビジネスのスピードも早さを増している。中国、春秋時代の老子は、このような時代に生き残るには、情報収集能力と自己分析能力が生死を分ける、と書き記している。我々も、溢れる情報の中で、ただ、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に情報を理解、分析し、自分の意見を構築し、正しく意見を発表し、行動することが求められる。このために英語の 4 技能 (「読む」、「聴く」、「書く」、「話す」) を涵養する。

動画のストリーミング視聴で米国の 3 大ネットワークの 1 つ、CBS ニュースをナチュラルスピードで視聴する (インプット)。ニュースを理解するに留まらず、様々な日常生活に密着した話題について自分ならどうするか、考えて討議し、結論を英語で発表 (アウトプット) する。さらに、技術の進歩により、DVD の 80% のゆっくりなスピードでアンカーやレポーターの音声に自ら合わせてシャドウイングを実施する。辞書があれば、英字新聞や英語のホームページが読めるようになる。アクティブラーニングの一環として、ペア・ワーク、スモールグループなどによるディスカッションを実施できるようにする。発表の機会も得る。(基礎的な単語を使用して) 英語によるインプットとアウトプットができるようになる。

特に、精読、速読を使い分け、パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence)、および、パラグラフどうしのつながりに留意し、構文、主旨を正確に把握し、理解する。さらに、書き手の意図や感情を読み解く。批判的思考能力の涵養のために、多面的、客観的観点から鳥瞰的に分析できるようにする。文法事項も詳しく解析する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期全体を通じて同時双方向型オンライン授業を実施する。Zoom と学習支援システムを使用する。動画のストーリーミング視聴、講義、演習（シャドウイング、リプロダクション、単語クイズ、（アクティブラーニングとして）ペアワーク、スモールグループなどでのディスカッション、コン・。プリヘンション・チェック・クイズ、PBL（何が問題なのか理解・分析し、問題解決能力開発のため、学生自らアクティブに学び、解決策を発表する）。最後にリアクション・ペーパー（担当教員の講義のみならず、お互いの発表に対する気づき、などの記入）を作成する。提出された課題は、5. perfect, 4. very good, 3. good, 4. 努力を要す、5. やり直しの評価をつけて学習支援システムを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1	Unit 1
目	Japan: Unusual Rental Universe- You Can Even Rent a Family	Reading Shadowing Composition Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 2 回	Unit 2	Shadowing
目	is Coffee the Secret to a Longer Life?	Shadowing Test Critical Thinking Group Works Expresssing Opinions Evaluation
第 3 回	Unit 3	Word Test
目	Lost in Translation: How China is Cracking Down on Poor English Translations	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 4 回	Unit 4	Word Test
目	Lack of SleepCosts Americans Billions of Dollars Each Year	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 5 回	Unit 5	Word Test
目	Your smartphone is Making You a workplace Slacker	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
		Questionary for the fieldwork

第 6 回	Unit 6	Word Test
目	Do Happy People Live Long?	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
		Questionary for the fieldwork

第 7 回	Unit 7	Word Test Unit
目	Selling Charity	Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Word Test
第 8 回	Unit 8	Word Test
目	The Power of Music: Using Music to Help Unlock Alzheimer's Patients' Memories	Reading Shadowing Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition Evaluation
第 9 回	Unit 9	Word Test
目	A Stich in Time: Teen Turns Thrift Store Finds into Trendy Clithing for Homeless	Critical Thinking Presentation Presentation Evaluation
第 10 回	Unit 10	word test
目	How Microfibers in Clothes are Polluting Our Oceans	Dictation, Reading Comprehension Quiz Summary English Composition
第 11 回	Uni 11	Word TEst
目	True Meaning of Christmas Found in Family's Magical Reunion	Unit 12 Reading Hearing Dictation Summary English Composition Shadowing Shadowing Test Evaluation
第 12 回	Unit 12	Word Test
目	The Joy of Clreaning: The Life-Changing Magic of Tidying Up	Critical Thinking Presentation Evaluation
第 13 回	秋学期期末オンライ	評価
目	ン・レポート試験・まとめと解説	
第 14 回	オンライン・レポート	評価
目	追試験・再試験・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時間の予習が不可欠である。まず、Web 動画でニュースを視聴し、テキストの予習と復習は欠かせない。Shadowing や Presentation の準備も必要である。テキストに沿った学習の他に、NHK の MY 語学、あるいは、CNN Student News の視聴と、その宿題ペーパーの提出が毎時間不可欠である。加えて、TED Talk(Web 動画 2000Talk から、自由に選んで、毎回 TED Talk 視聴プリントの宿題提出が"Must"である。宿題も成績評価に加味する。詳しくは、成績の欄を参照してください。アクティブラーニングとディスカッションの準備の一環として図書館、インターネットを駆使して自身の意見を構築してから授業に臨むことが望まれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

CBS NewsBreak 4 Nobuhiro Kumai Stephen Timson Et al. published by Seibido (成美堂) ISBN9784791971862 ￥2400+税

【参考書】

CBS News Break 3(Seibido)Nobuhiro Kumai, Stephen Timson Et al.

BBC Learning English のホームページ、TED のホームページ、CNN Student News のホームページなど。CBS News Break 1 (SEibido)Nobuhgiro Kumai, Stephen Timson Et al.

【成績評価の方法と基準】

全 14 回の授業のレポート課題の内 4 回以上未提出の場合には単位不認定とする。成績は、全 14 回の授業のレポート課題 40%、平常点 (積極的な意見交換など)20%、授業貢献度 20%、秋学期末レポートテスト 20%の総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの文章を淡々と読み進めるのではなく、各回ごとにテーマを決めて、パラグラフ・リーディング、スキミング、スキミング、など、具体的に、リーディングのストラテジー（速読、精読、ともに）を身に着けることが望まれる。

PBL の観点から、問題提起から問題解決策の解明まで、アクティブラーニングを活用する。双方向の授業が望まれる。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、あるいは PC かタブレット,WiFi 環境

【その他の重要事項】

対面授業のオフィスアワーの代わりに学習支援システムの授業内掲示板にご質問ボックスと一般ディスカッションボックスを設置いたします。ご質問、ご相談等随時何でもどうぞ。

【Outline (in English)】

We are going to watch the CBS News Break and study English in Journalism at the natural speed, mainly by reading comprehensions, shadowing, expressing opinions, and debating. We are requested to read critically and not believe the news blindly. We are supposed to check the fact individually and build up our own opinions and present our opinions both in Japanese and in English. We are going to study the four skills of English by reading, listening, writing, and speaking. We study both the input and output concerning English. We are going to read various topics, concerning our daily lives. We are going to use the Zoom system to communicate with each other. We are also going to use the Learning Support System to hand in reports and tests. The teacher will check every reports and give grades from S, A+, A, A-, to C- (ten grades).We are going to write our opinions on the classroom board of the Learning Support System or during the Zoom lessons. We are going to study both the rapid reading and close reading. We are supposed to read between the lines and understand the author's feelings closely. We also learn the paragraph readings. Every student is requested to watch the news beforehand (stream watching)and study the new words and idioms before the lesson. Students are requested to make clear what they don't understand before they join the Zoom lessons and ask as many questions as possible to study effectively. Every students are supposed to spend one hour at the minimum before the lessons. The teacher will give students the relevant URLs to check the fact and build students' opinions before the lessons begin on the Learning Support System.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国から現代に至るまでのアメリカで何が起ったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史や文化に関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、各章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確認する。予め担当者を決めておかず、アランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての詳しい説明
2	Lesson 1 前半	Pocahontas, Reading
3	Lesson 1 後半	Pocahontas, Exercises
4	Lesson 2 前半	Celebrating July Fourth at the Statue of Liberty, Reading
5	Lesson 2 後半	Celebrating July Fourth at the Statue of Liberty, Exercises
6	Lesson 3 前半	Babe Ruth, Reading
7	Lesson 3 後半	Babe Ruth, Exercises
8	Lesson 4 前半	Marilyn Monroe, Reading
9	Lesson 4 後半	Marilyn Monroe, Exercises
10	Lesson 5 前半	American History, Reading
11	Lesson 5 後半	American History, Exercises
12	Lesson 6 前半	US Civil Rights Icon Dies at Age of 92, Reading
13	期末試験・まとめと解説	春学期に学習した範囲から出題
14	レポート・まとめ	原則として春学期に学習した範囲から自由に題材を選んで提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

予習：テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。関連する文献を読む。

復習：準備段階で分からなかったところや間違えたところを中心に見直し、深く理解できるようにする。

発表準備：テキストに関連した事柄から興味のある人物や事柄などを調べ、発表できるようにしておく。

レポート準備：興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えてまとめる。

【テキスト（教科書）】

People and Culture in America, 秋葉勉、星かおり、野口元康、英宝社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。欠席が 4 回以上になった学生は単位修得の資格を失う。

オンライン授業となった場合は、提出期限までに課題を提出すれば出席、未提出であれば欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students widen the knowledge of American history and culture.

Learning Objectives: The goal of this course is to develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on term-end examination and report 60%, quizzes 10%, translation test question 10%, presentation 10%, and in-class contribution 10%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

當麻 幸子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アメリカの歴史や文化について読む。各章でポイントを絞り、時代の流れに沿って、建国から現代に至るまでのアメリカで何が起ったのかを学ぶ。

【到達目標】

英語の読解力、語彙力、聴解力、表現力を養う。また、アメリカの歴史や文化に関する知識を深める。アメリカがどのように誕生して、どのように発展してきたか、そしてそれが今日のアメリカ人にどのような影響を与えているかを理解する。アメリカという国を理解し、日本との関わり方を考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを精読する。また、各章の終わりでは、練習問題で内容を理解できているかどうかを確認する。予め担当者を決めておかず、アランダムに当てるので、学生は全員毎回の予習が必要である。更に、キーワードについて調べたことを発表してもらう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の復習及び秋学期の授業についての詳しい説明
2	Lesson 7 前半	This Is America, Reading
3	Lesson 7 後半	This Is America, Exercises
4	Lesson 8 前半	Betty Friedan, Reading
5	Lesson 8 後半	Betty Friedan, Exercises
6	Lesson 9 前半	Walt Disney, Reading
7	Lesson 9 後半	Walt Disney, Exercises
8	Lesson 10 前半	Andy Warhol, Reading
9	Lesson 10 後半	Andy Warhol, Exercises
10	Lesson 11 前半	Blues Music, Reading
11	Lesson 11 後半	Blues Music, Exercises
12	Lesson 12 前半	Immigration Issues Shape the Experience of US Latinos, Reading
13	期末試験・まとめと解説	秋学期に学習した範囲から出題
14	レポート・まとめ	原則として秋学期に学習した範囲から自由に題材を選んで提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

予習: テキストを読み、和訳できるようにし、問題が解けるようにしておく。また、分からない単語や事柄、人物などについて調べる。関連する文献を読む。

復習: 準備段階で分からなかったところや間違えたところを中心に直し、深く理解できるようにする。

発表準備: テキストに関連した事柄から興味のある人物や事柄などを調べ、発表できるようにしておく。

レポート準備: 興味のある人物や事柄などを調べ、考察を加えてまとめる。

【テキスト (教科書)】

People and Culture in America, 秋葉勉、星かおり、野口元康、英宝社

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

以下の点の総合で判断する。

期末試験及びレポート 60%

小テスト 10%

通常授業の成績 10%

発表 10%

平常点 10%

3 回の遅刻を 1 回の欠席とみなす。欠席が 4 回以上になった学生は単位修得の資格を失う。

オンライン授業となった場合は、提出期限までに課題を提出すれば出席、未提出であれば欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

興味を持ったこと、疑問に思ったことは、学生が自ら進んで調べ、研究するよう促す。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students widen the knowledge of American history and culture.

Learning Objectives: The goal of this course is to develop overall comprehension abilities with stress on reading comprehension, grammar and vocabulary.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on term-end examination and report 60%, quizzes 10%, translation test question 10%, presentation 10%, and in-class contribution 10%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

清水 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新時代のビジネス事情が学べる総合教材を使用します。ビジネスの世界のみならず最新の社会事情についても学べる総合教材です。「ギグワーク」や「サブスク」「e スポーツ」など、新しい社会の有り様を知る上で興味深いテーマを厳選しています。350 語程度の英文で、語彙・内容理解・ライティング・リスニング・スピーキングなど豊富な練習問題を用意します。文法についても学生が意識して学べるように配慮しています。

【到達目標】

学生は、Global Pathways のテキスト学習によって、現代社会に関わる単語と言い回しを学び、英語圏文化と国際社会の抱える問題を理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルを向上できる。このコースでは、A, B, C の成績評価を取得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面です。コロナ感染拡大によって授業形式をやむなく変更することもあります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

演習型なので、1 回の授業で 1 度は発言したいです。

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたいです。まず重要な語句に注意しながら CD を聞いて、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図ります。

テキスト内音声と映像は成美堂の HP アクセスによって利用可能です。

フィードバック方法は、授業中の講評を主とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Unit 1 Gig Work	CD+Reading
3	Unit 1 Gig Work	Exercises
4	Unit 2 Your Boss is from Overseas	CD+Reading
5	Unit 2 Your Boss is from Overseas	Exercises
6	Unit 3 Bitcoin	CD+Reading
7	Unit 3 Bitcoin	Exercises
8	Unit 4 Working from Home	CD+Reading
9	Unit 4 Working from Home	Exercises
10	Unit 5 Kickstarter	CD+Reading

11	Unit 5 Kickstarter	Exercises
12	映像批判分析	映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書籍名 Global Pathways 英語で学ぶビジネス最新線
著者名 Jonathan Lynch 他 出版社 成美堂
出版年 2022 年 価格 2,090 円 ISBN 978 - 4 - 7919 - 7248 - 7

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

成美堂音声ファイルストリーミング <http://seibido.co.jp/ad641>

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %) の総合判断による。60 点以上が合格点である。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面所業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。

教科書の音声は、成美堂の HP にアクセスして使用できる。

<http://seibido.co.jp/ad641>

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

This class is face-to-face lessons.

Global Pathways is a comprehensive textbook for learning about not only the new era of business world but also the latest social issues. With 350 words of English text, there are plenty of exercises for vocabulary, comprehension, writing, listening, and speaking. This textbook carefully selected interesting themes such as "Gigwork", "Subscribing", and "e Sports" to understand the new state of society. The text is approximately 350 words long, and includes a variety of exercises in vocabulary, comprehension, writing, listening, and speaking, so that students can learn grammar consciously and spontaneously.

This course deals with the A, B, C. It also enhances the development of students' skill in D.

Students will learn vocabulary and phrases relevant to contemporary society through studying Global Pathways text, gain an understanding of issues facing English-speaking cultures and international societies, and improve their English language skills and abilities for living and working abroad.

This class is intended to be face-to-face lessons. The class format may be unavoidably changed due to the spread of corona infection, details of which will be posted on the learning support system.

Since this is an exercise-type class, I would like you to speak up at least once per class.

Ideally, we would like to complete this text, which is one theme per unit, in two classes. First we will listen to the CD video, paying attention to important words and phrases, then we will read and understand the Reading English text, and then we will do the exercises. At the end of the semester, we will choose an informative film to critique and exchange ideas.

In-text audio and video will be available through Seibido's website access.

The main method of feedback will be in-class critiques.

Preparation for each class is necessary. You will need to look up the vocabulary carefully before coming to class. You may use any dictionary you like. Read the English sentences in the reading section. After the reading of each chapter, you are expected to do the homework: practice exercises in each unit. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

Attendance of at least 2/3 of the class is required. Evaluation will be based on the contribution to the class (50%) and a written test (50%). 60 points or more is a passing grade.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

The above is the case for face-to-face classes, and appropriate changes will be made when online classes are switched to face-to-face classes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

清水 純子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

新時代のビジネス事情が学べる総合教材を使用します。ビジネスの世界のみならず最新の社会事情についても学べる総合教材です。「ギグワーク」や「サブスク」「e スポーツ」など、新しい社会の有り様を知る上で興味深いテーマを厳選しています。350 語程度の英文で、語彙・内容理解・ライティング・リスニング・スピーキングなど豊富な練習問題を用意します。文法についても学生が意識して学べるように配慮しています。

【到達目標】

学生は、Global Pathways のテキスト学習によって、現代社会に関わる単語と言い回しを学び、英語圏文化と国際社会の抱える問題を理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルを向上できる。このコースでは、A, B, C の成績評価を取得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面型です。コロナ感染拡大によって授業形式をやむなく変更することもあります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

演習型なので、1 回の授業で 1 度は発言したいです。

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたいです。まず重要な語句に注意しながら CD を聞いて、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図ります。

テキスト内音声と映像は成美堂の HP アクセスによって利用可能です。

フィードバック方法は、授業中の講評を主とします。

この授業は対面型をめざします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Unit 6 Esports	CD+Reading
3	Unit 6 Esports	Exercises
4	Unit 7 Unicorns	CD+Reading
5	Unit 7 Unicorns	Exercises
6	Unit 8 How Do Modern Musicians Make Money?	CD+Reading
7	Unit 8 How Do Modern Musicians Make Money?	Exercises
8	Unit 9 Space Business	CD+Reading
9	Unit 9 Space Business	Exercises

10	Unit 10 Going Cashless from a Business's Perspective	CD+Reading
11	Unit 10 Going Cashless from a Business's Perspective	Exercises
12	映像批判分析	映像対象については未定
13	映像批判分析 質疑応答	映像対象については未定 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書籍名 Global Pathways 英語で学ぶビジネス最前線
著者名 Jonathan Lynch 他 出版社 成美堂
出版年 2022 年 価格 2,090 円 ISBN 978 - 4 - 7919 - 7248 - 7

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

成美堂音声ファイルストリーミング <http://seibido.co.jp/ad641>

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %) の総合判断による。60 点以上が合格点である。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面所業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。

教科書の音声は、成美堂の HP にアクセスして使用できる。

<http://seibido.co.jp/ad641>

[None]

None

[None]

None

[None]

None

[None]

None

[None]

None

【Outline (in English)】

This class is face-to-face lessons.

Global Pathways is a comprehensive textbook for learning about not only the new era of business world but also the latest social issues. With 350 words of English text, there are plenty of exercises for vocabulary, comprehension, writing, listening, and speaking. This textbook carefully selected interesting themes such as "Gigwork", "Subscribing", and "e Sports" to understand the new state of society. The text is approximately 350 words long, and includes a variety of exercises in vocabulary, comprehension, writing, listening, and speaking, so that students can learn grammar consciously and spontaneously.

This course deals with the A, B, C. It also enhances the development of students' skill in D.

Students will learn vocabulary and phrases relevant to contemporary society through studying Global Pathways text, gain an understanding of issues facing English-speaking cultures and international societies, and improve their English language skills and abilities for living and working abroad.

This class is intended to be face-to-face lessons. The class format may be unavoidably changed due to the spread of corona infection, details of which will be posted on the learning support system.

Since this is an exercise-type class, I would like you to speak up at least once per class.

Ideally, we would like to complete this text, which is one theme per unit, in two classes. First we will listen to the CD video, paying attention to important words and phrases, then we will read and understand the Reading English text, and then we will do the exercises. At the end of the semester, we will choose an informative film to critique and exchange ideas.

In-text audio and video will be available through Seibido's website access.

The main method of feedback will be in-class critiques.

Preparation for each class is necessary. You will need to look up the vocabulary carefully before coming to class. You may use any dictionary you like. Read the English sentences in the reading section. After the reading of each chapter, you are expected to do the homework: practice exercises in each unit. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

Attendance of at least 2/3 of the class is required. Evaluation will be based on the contribution to the class (50%) and a written test (50%). 60 points or more is a passing grade.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

The above is the case for face-to-face classes, and appropriate changes will be made when online classes are switched to face-to-face classes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景 (世界情勢) が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。

受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

授業実施形態の説明

この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requires urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週 1 時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト (教科書)】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷 南雲堂
山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 4" 金星堂

【参考書】

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題、提出物: 50%、授業への取り組み: 20%、期末課題: 30%

毎回の課題、授業への取り組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom, Zoom を使用する
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要

【Outline (in English)】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。

メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。尚、課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期の進め方等	休暇中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週 1 時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 4" 金星堂

【参考書】

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題・提出物： 50%、授業への取組み： 20%、期末課題： 30%

毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

出席確認、資料配布、課題提出等は、Google クラウドと学習支援システムを通して実施予定。パソコンとマイク付きヘッドホンが必要。

【Outline (in English)】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

本間 章郎

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようにすることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようにすることを期待します。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 時事英語に類出する重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストは語彙の理解や、リスニングなどを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。小テスト等は、適宜、受講者に返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Chapter 1: 国内政治	本文読解
第 3 回	Chapter 1: 国内政治	問題演習
第 4 回	Chapter 2: 経済・ビジネス (1)	本文読解
第 5 回	Chapter 2: 経済・ビジネス (1)	問題演習
第 6 回	Chapter 3: 経済・ビジネス (2)	本文読解
第 7 回	Chapter 3: 経済・ビジネス (2)	問題演習
第 8 回	Chapter 4: 外交・国際会議	本文読解
第 9 回	Chapter 4: 外交・国際会議	問題演習
第 10 回	Chapter 5: 軍事	本文読解
第 11 回	Chapter 5: 軍事	問題演習
第 12 回	Chapter 6: 海外政治情勢	本文読解
第 13 回	Chapter 6: 海外政治情勢	問題演習

第 14 回 試験・まとめと解説 授業の内容の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を指示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

English for Mass Communication 2022 Edition (『時事英語の総合演習 — 2022 年度版』)

堀江洋文他著 朝日出版社 2022 年 1700 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (60%)、英作文 (20%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) と (4) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から判断します。なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位取得を認めないので注意してください。オンライン授業の場合も、授業の始めに点呼によって出席を確認します。但し、授業中、問題を当てて名前を呼んでも何の応答もない場合、あるいは課題などの提出がない場合は欠席 1 回となります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、コロナ感染対策による変則的な授業形態を取らざるを得なかったため、教科書以外のニュース記事の要約をおこなう機会が十分に確保できなかったことが残念です。今年度は実施する時間を十分に取りたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics range widely from politics or economy to entertainment or sports, which help students understand contemporary issues in Japan and the world. Some students may think it is rather difficult to read news reports in English. But most of students know more or less about these topics, because these topics were reported in Japanese news media. I think it is easy for them to get the gist of the news reports. The topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to comprehend news in English properly, memorize important words and improve English writing & listening.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have reviewed and read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, writing : 20%, quizzes: 20%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

本間 章郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、複数のパラグラフからなる英語の文章を的確に読むことのできる能力の育成を目指します。授業では英字新聞を中心とする、時事英語の教科書を使用します。前後のパラグラフの関連性を意識して、重要な情報を的確につかみ取り、内容を把握できるようにすることを意識してください。同時に時事英語を理解する上で必要な単語や語句を覚えていきます。自分で英語の勉強を進める上で、英字新聞に限らず、さまざまなメディアの英語に接すると思いますが、授業で学んだ単語・語句、あるいは表現などを活用できるようにすることを期待します。

【到達目標】

授業の到達目標としては、英語の技能の運用能力の向上を目指して次の目標を意識してほしいと思います。

- (1) ある程度の分量の英文を読んで、内容を適切に理解する。
- (2) 英文を聞いて、内容を理解し、重要な単語を聞き取る。
- (3) わかりやすく自分の考えをまとめた英文を書く。
- (4) 時事英語に類出する重要な単語・語句を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進めていきます。基本的に教科書の練習問題を通して、内容理解、及びリスニングの練習をおこないます。教科書に関連したテーマを設定し、英作文を提出してもらいます。また、数回、小テストをおこないます。小テストは語彙の理解や、リスニングなどを問う問題になります。授業の進捗と受講者の教科書の内容への理解に応じて、授業の中で教科書以外のニュース英語を取り上げます。小テスト等は、適宜、受講者に返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	授業の目標と進め方の説明
第 2 回	Chapter 7: 文化・社会	本文読解
第 3 回	Chapter 7: 文化・社会	問題演習
第 4 回	Chapter 8: 犯罪・事件	本文読解
第 5 回	Chapter 8: 犯罪・事件	問題演習
第 6 回	Chapter 9: 裁判・法令	本文読解
第 7 回	Chapter 9: 裁判・法令	問題演習
第 8 回	Chapter 10: 地球環境・気象	本文読解
第 9 回	Chapter 10: 地球環境・気象	問題演習
第 10 回	Chapter 11: 資源・エネルギー	本文読解
第 11 回	Chapter 11: 資源・エネルギー	問題演習

第 12 回 Chapter 12: 人口問題 本文読解 & 問題演習

第 13 回 Chapter 13: 科学・技術 本文読解 & 問題演習

第 14 回 試験・まとめと解説 授業の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の終わりに、次の授業で前もってやっておいてほしい内容を示します。該当する英文を読み、わからない単語・表現を調べて内容を把握し、問題演習などを自宅で済ませて授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

English for Mass Communication 2022 Edition (『時事英語の総合演習 — 2022 年度版』)

堀江洋文他著 朝日出版社 2022 年 1700 円

【参考書】

参考書は特にありません。

【成績評価の方法と基準】

学期末テスト (60%)、英作文 (20%)、小テスト (20%) から成績を評価します。主に到達目標の (1) と (2) と (4) を毎回の授業と小テスト、および学期末テストから、(3) を英作文から判断します。なお、各学期の欠席が 4 回以上になった場合は、原則として単位取得を認めないので注意してください。オンライン授業の場合も、授業の始めに点呼によって出席を確認します。但し、授業中、問題を当てて名前を呼んでも何の応答もない場合、あるいは課題などの提出がない場合は欠席 1 回となります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、コロナ感染対策による変則的な授業形態を取らざるを得なかったため、教科書以外のニュース記事の要約をおこなう機会が十分に確保できなかったことが残念です。今年度は実施する時間を十分に取りたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, students will be introduced to various contemporary issues of Japan and the World through news reports in English. The news topics range widely from politics or economy to entertainment or sports, which help students understand contemporary issues in Japan and the world. Some students may think it is rather difficult to read news reports in English. But most of students know more or less about these topics, because these topics were reported in Japanese news media. I think it is easy for them to get the gist of the news reports. The topics help students realize how critical various problems facing Japan and the world are. By reading the news articles, students will keep in mind the logical relationships between paragraphs and get proper understanding of them. And students have to memorize frequently used words and phrases in English news reports. These words and phrases related with important topics are helpful for students willing to read or watch more news reports in English. I hope students can improve their English skills and get a better sense of various contemporary issues.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to comprehend news in English properly, memorize important words and improve English writing & listening.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have reviewed and read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, writing : 20%, quizzes: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

使用教科書は、興味深いさまざまなトピックを通じて現代を読み解きつつ、歴史との関連を学べる、平易な英語で書かれた読み物を軸に構成されている。リーディング・スキルを中心として総合的に英語力を養いつつ、大学生にふさわしい教養・知識を身につける。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

各授業の最後に、理解を確かめるためのリフレクションペーパーを課す。(原則として翌週返却。)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業、英語学習についての説明。
2	Lesson 1 Miracle Cure, or Just a Lemon?	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)
3	Lesson 1 Miracle Cure, or Just a Lemon?	後半 (Part 3, Part 4)
4	Lesson 2: Stolen Goods	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)
5	Lesson 2: Stolen Goods	後半 (Part 3, Part 4)
6	Lesson 3: Okinawa Ink	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)
7	Lesson 3: Okinawa Ink	後半 (Part 3, Part 4)
8	Lesson 4: No More Tears	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)
9	Lesson 4: No More Tears	後半 (Part 3, Part 4)
10	Lesson 5: The Way of the Pub	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2), 後半 (Part 3, Part 4)
11	Lesson 6: Whodunnit	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2), 後半 (Part 3, Part 4)

12	Lesson 7: Checkpoint Charlie and the Berlin Wall	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)、後半 (Part 3, Part 4)
13	まとめ①	Lesson 1～7 の復習・復習試験
14	まとめ②	復習試験返却、Lesson 1～7 のトピックに関連する資料の読解・視聴。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習は必須である。(1)Part 1 (読み物) については、音声 (教科書会社のサイトからダウンロード可能) を聞きながら読み、不明点を辞書等でできる限り調べておく。(2)Looking Ahead, Part 2～Part 4 (付属の問題) については各問の指示に従って解いておく。

予習時の不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけるか、ノートに書き出しておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Jim Knudsen, annotated by Yu Umemiya, 『Everyday History 現代から紐解く歴史と文化』南雲堂, 2021 年。

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。

予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (リフレクションペーパーなど) 40 %、および復習試験 60 % の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

・ペア/グループワークにより学生同士で学び合う時間を十分に設ける。

・リフレクションペーパーの作成・提出、添削、フィードバックは、対面授業においてもオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する (「教材」配布、「課題」配布・提出、等) ため、PC 等の端末 (デバイス)、イヤホンを持参してください。

・予告のうえ、授業中に Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class concerns the intriguing links between the past and the present, covering a wide range of topics from “science to slavery, books to sports, art to magic,” as the preface says. Through reading the passages and working on the accompanying exercises, students will be able to increase their active vocabulary and improve their reading, listening, and writing skills, and gain intellectual knowledge required for university students.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.

Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (40%) and review test(s) (60%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

使用教科書は、興味深いさまざまなトピックを通じて現代を読み解きつつ、歴史との関連を学べる、平易な英語で書かれた読み物を軸に構成されている。リーディング・スキルを中心として総合的に英語力を養いつつ、大学生にふさわしい教養・知識を身につける。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。
講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。
各授業の最後に、理解を確かめるためのリフレクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lesson 8 Queen Victoria's "Gift"	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)
2	Lesson 8 Queen Victoria's "Gift"	後半 (Part 3, Part 4)
3	Lesson 9 Two Scottish Heritages	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)
4	Lesson 9 Two Scottish Heritages	後半 (Part 3, Part 4)
5	Lesson 10 Do You Believe in Magic?	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)
6	Lesson 10 Do You Believe in Magic?	後半 (Part 3, Part 4)
7	Lesson 11 That Sinking Feeling	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)
8	Lesson 11 That Sinking Feeling	後半 (Part 3, Part 4)
9	Lesson 12 Famous Street Artist's Joke and Gesture	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)、後半 (Part 3, Part 4)
10	Lesson 13 Lost in Space-Almost	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)、後半 (Part 3, Part 4)
11	Lesson 14 A Zoo Story	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)、後半 (Part 3, Part 4)

12	Lesson 15 Olympian Progress	前半 (Looking Ahead, Part 1, Part 2)、後半 (Part 3, Part 4)
13	まとめ①	Lesson 8～15 の復習・復習試験実施
14	まとめ②	復習試験返却、Lesson 8～15 のトピックに関連する資料の読解・視聴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。(1)Part 1（読み物）については、音声（教科書会社のサイトからダウンロード可能）を聞きながら読み、不明点を辞書等でできる限り調べておく。(2)Looking Ahead, Part 2～Part 4（付属の問題）については各問の指示に従って解いておく。
予習時の不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけるか、ノートに書き出しておく。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Jim Knudsen, annotated by Yu Umemiya, 『Everyday History 現代から紐解く歴史と文化』南雲堂, 2021 年。

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リフレクションペーパーなど）40 %、および復習試験 60 % の総合評価。
4 回以上欠席の場合、単位を与えない。
遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

・ペア／グループワークにより学生同士で学び合う時間を十分に設ける。
・リフレクションペーパーの作成・提出、添削、フィードバックは、対面授業においてもオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。
・予告のうえ、授業中に Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class concerns the intriguing links between the past and the present, covering a wide range of topics from “science to slavery, books to sports, art to magic,” as the preface says. Through reading the passages and working on the accompanying exercises, students will be able to increase their active vocabulary and improve their reading, listening, and writing skills, and gain intellectual knowledge required for university students.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.

Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (40%) and review test(s) (60%).

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
大和久 悌一郎	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 1/Mon.1	
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。

【到達目標】

- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。
- ・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。
- ・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていきます。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Chapter 1	Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（精読）
3	Chapter 1	Chapter 1 Washoku on the rise 和食が人気に（再読、リスニング、質疑応答）
4	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（精読）
5	Chapter 2	Chapter 2 Female android helps men become fashionistas 女性型アンドロイドが男性をファッションistaに（再読、リスニング、質疑応答）
6	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の 4 分の 1 がネット依存（精読）
7	Chapter 3	Chapter 3 Quarter of high schoolers net-dependent: study 高校生の 4 分の 1 がネット依存（再読、リスニング、質疑応答）

8	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ（精読）
9	Chapter 4	Chapter 4 Japan local products 日本の地産品を世界へ（再読、リスニング、質疑応答）
10	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼主主に会えたハチ公（精読）
11	Chapter 5	Chapter 5 Hachiko finally reunited with master ついに飼主主に会えたハチ公（再読、リスニング、質疑応答）
12	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のためのすり（精読）
13	Chapter 6	Chapter 6 Hi-tech handrail aims to ease passage for the elderly 高齢者のためのすり（再読、リスニング、質疑応答）
14	Chapter 7	Chapter 7 26-year-old designs Honda's new sports car 26 歳がスポーツカーをデザイン（精読）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語については授業後に復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験 40% で評価します。30 分以上の遅刻は欠席とみなし、また 3 回の遅刻は 1 回の欠席とみなします。4 回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料の配布やアンケートを行いますので、アクセスできる環境を用意しておいてください。オンラインでの回は、資料配布ですので、zoom などの動画に対応する必要はありません。

【Outline (in English)】

[Learning Objectives] To develop abilities to read, listen to, speak, and write in English in every day life, such as reading newspapers, listening to and discussing news broadcasting. [Learning activities outside of classroom] reading and listening textbook before and after class. [Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion): 60%, Term-end exam: 40%.

LANe100LA			8	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（精読）
English 1 II			9	Chapter 11	Chapter 11 Nation's workers to undergo stress tests 全国の労働者にストレステスト（再読、リスニング、質疑応答）
大和久 悌一郎			10	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（精読）
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：月 1/Mon.1			11	Chapter 12	Chapter 12 New high-rise to tower over 都心に新構想のビルの発表（再読、リスニング、質疑応答）
単位数：1 単位			12	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（精読）
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：			13	Chapter 13	Chapter 13 Historic festival kicks off In Nagasaki 長崎のおくんち、始まる（再読、リスニング、質疑応答）
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】			14	Chapter 14	Chapter 14 UN Women opens Japan office 国連女性事務所を東京に開設（精読、リスニング、質疑応答）
国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な時事問題・日常生活においても英語読解は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。			【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
【到達目標】			事前に該当ページについては予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。		
・TOEIC レベルのリーディングで用いられる文法事項の基礎を理解する。			【テキスト（教科書）】		
・TOEIC レベルのリーディングで用いられる語彙の基礎を身につける。			津田晶子、金志佳代子、Kelly MacDonald 著『NTV News24 English 一日テレ News24 English で考える日本事情』英宝社、2017 年		
・英語時事ニュースの要旨を把握できる、基礎力を身につける。			【参考書】		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】			授業内で適宜指示します。		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3			【成績評価の方法と基準】		
【授業の進め方と方法】			平常点（出席・予習・小テスト等）60%、学期末試験 40%で評価します。30分を過ぎた場合は遅刻とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。		
日本のニュースについて英語で発信されたテキストを用いて、読解を進めていきます。基本的にテキスト1章分を2回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。			【学生の意見等からの気づき】		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】			特になし		
あり/Yes			【Outline (in English)】		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】			[Learning Objectives] To develop abilities to read, listen to, speak, and write in English in every day life, such as reading newspapers, listening to and discussing news broadcasting. [Learning activities outside of classroom] reading and listening textbook before and after class. [Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion) : 60%, Term-end exam : 40%.		
なし/No					
【授業計画】 授業形態：対面/face to face					
回	テーマ	内容			
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。			
2	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（精読）			
3	Chapter 8	Chapter 8 Flight attendants compete to be Master of Hospitality 客室乗務員のおもてなしコンテスト（再読、リスニング、質疑応答）			
4	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（精読）			
5	Chapter 9	Chapter 9 Japan unveils rescue robot 日本の災害救助ロボット（再読、リスニング、質疑応答）			
6	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（精読）			
7	Chapter 10	Chapter 10 Japanese tea ceremony celebrates peace at UN 国連でお茶会（再読、リスニング、質疑応答）			

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ブレグジット (Brexit) という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

- ・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
- ・この授業はオンライン (リアルタイム配信型) で、Zoom で実施します。
- ・授業各回の連絡は、学習支援システム (Hoppii) で、その都度提示します。
- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声聞き、予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は? (前半)
3	Chapter 1	(後半)
4	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状 (前半)
5	Chapter 2	(後半)
6	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来 (前半)
7	Chapter 3	(後半)
8	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」 (前半)
9	Chapter 4	(後半)

10	Chapter 5 Social class	階級社会の実情 (前半)
11	Chapter 5	(後半)
12	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み (前半)
13	Chapter 6	(後半)
14	Chapter 7 University students	大学と高等教育 (前半)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい (改定新版)』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円 + 税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』(研究社)が入っている電子辞書をお勧めします (紙媒体でも可)。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (授業参加度、授業態度等) 30 % + 平常の課題 20 % + 学期末試験 (レポート) 50 % = 100 %
- ・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。
- ・授業態度が悪い (居眠り、私語等) 場合は減点対象となりうる。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら適宜判断します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), mid-term assignment (20%), and term-end essay (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉を知ったことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 University students and higher education	(後半)
2	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性 (前半)
3	Chapter 8	(後半)
4	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術、発明、ビジネス (前半)
5	Chapter 9	(後半)
6	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま (前半)
7	Chapter 10	(後半)
8	Chapter 11 Food	英国の食文化 (前半)
9	Chapter 11	(後半)
10	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜 (前半)
11	Chapter 13	(後半)

12	chapter 15 The arts	芸術 (前半)
13	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」 (前半)
14	Chapter 16	(後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい（改定新版）音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダース英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお勧めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30 % + 平常の課題 20 % + 学期末試験 50 % = 100 %
- ・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1 回の欠席につき平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), mid-term assignment (20%), and term-end examination (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用し、メディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分け、それぞれ以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。

前半の回:

・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習と Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2

・CNN のテキスト各 Unit 中、Before listening の演習

後半の回:

・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4

・CNN のテキスト各 Unit 中、Listening と After listening の演習

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	TOEIC® テキスト Unit 1 前半 + CNN テキスト Unit 1 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Void Found in Giza's Great Pyramid のリーディング
3	TOEIC® テキスト Unit 1 後半 + CNN テキスト Unit 1 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Void Found in Giza's Great Pyramid のリスニング、リーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 2 前半 + CNN テキスト Unit 2 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Railway Apologizes for 20-Second Error のリーディング

5	TOEIC® テキスト Unit 2 後半 + CNN テキスト Unit 2 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Railway Apologizes for 20-Second Error のリスニング、リーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 3 前半 + CNN テキスト Unit 3 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Observers Report Nine-Hour Rainbow のリーディング
7	TOEIC® テキスト Unit 3 後半 + CNN テキスト Unit 3 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Observers Report Nine-Hour Rainbow のリスニング、リーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 4 前半 + CNN テキスト Unit 4 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Death of Chef Paul Bocuse のリーディング
9	TOEIC® テキスト Unit 4 後半 + CNN テキスト Unit 4 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Death of Chef Paul Bocuse のリスニング、リーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 5 前半 + CNN テキスト Unit 5 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + KFC Runs Out of Chicken のリーディング
11	TOEIC® テキスト Unit 5 後半 + CNN テキスト Unit 5 後半	資格試験問題を使ったリスニング + KFC Runs Out of Chicken のリスニング、リーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 6 前半 + CNN テキスト Unit 6 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Pope Disallows Death Penalty のリーディング
13	TOEIC® テキスト Unit 6 後半 + CNN テキスト Unit 6 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Pope Disallows Death Penalty のリスニング、リーディング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした試験、まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト (教科書)】

30-Second CNN Short News: Culture and Society in a Changing World, Yasushi Mano 編著, (朝日出版社, 2021 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (や小テスト) を 70 %、平常点を 30 % とし、総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline (in English)】

・ This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly. The goals of this course are also to help students cultivate their understanding of various aspects of the world and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.

・ After each class meeting, students will be expected to review the lesson and write down the words, phrases, or expressions they are unfamiliar with in their own vocabulary notebooks. Required study time is at least one hour for each class meeting.

・ Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分け、それぞれ以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。

前半の回:

・ TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習と Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2

・ CNN のテキスト各 Unit 中、Before listening の演習

後半の回:

・ TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4

・ CNN のテキスト各 Unit 中、Listening と After listening の演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	TOEIC® テキスト Unit 7 前半 + CNN テキスト Unit 7 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + New Zealand's "First Baby" at the UN のリーディング
3	TOEIC® テキスト Unit 7 後半 + CNN テキスト Unit 7 後半	資格試験問題を使ったリスニング + New Zealand's "First Baby" at the UN のリスニング、リーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 8 前半 + CNN テキスト Unit 8 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Rare Appearance of "Living Goddess" のリーディング

5	TOEIC® テキスト Unit 8 後半+ CNN テキスト Unit 8 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Rare Appearance of "Living Goddess"のリスニング、リー ディング
6	TOEIC® テキスト Unit 9 前半+ CNN テキスト Unit 9 前半	資格試験問題を使ったリスニン グ、表現 + Adventurer Swims around Britain のリーディング
7	TOEIC® テキスト Unit 9 後半+ CNN テキスト Unit 9 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Adventurer Swims around Britain のリスニング、リーディ ング
8	TOEIC® テキスト Unit 10 前半+ CNN テキスト Unit 10 前半	資格試験問題を使ったリスニン グ、表現 + Emperor's Final New Year's Speech のリーディング
9	TOEIC® テキスト Unit 10 後半+ CNN テキスト Unit 10 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Emperor's Final New Year's Speech のリスニング、リーディ ング
10	TOEIC® テキスト Unit 11 前半+ CNN テキスト Unit 11 前半	資格試験問題を使ったリスニン グ、表現 + Better Investment with Gender Balance のリーディング
11	TOEIC® テキスト Unit 11 後半+ CNN テキスト Unit 11 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Better Investment with Gender Balance のリスニング、 リーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 12 前半+ CNN テキスト Unit 12 前半	資格試験問題を使ったリスニン グ、表現 + Taiwan's First Same-Sex Marriages のリーディング
13	TOEIC® テキスト Unit 12 後半+ CNN テキスト Unit 12 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Taiwan's First Same-Sex Marriages のリスニング、リー ディング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした試 験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストを
つくり復習すること。

【テキスト（教科書）】

30-Second CNN Short News: Culture and Society in a
Changing World, Yasushi Mano 編著, (朝日出版社, 2021 年),
¥1,200 + tax
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised
Edition-, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（や小テスト）を 70 %、平常点を 30 %とし、総合的に
評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は
3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から
30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、
交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない
場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもら
えるような指示も出したいと思います。

【Outline (in English)】

・ This course aims to improve students' English language skills
in reading, listening, and writing, using two textbooks, one
made up of news stories drawn from CNN TV shows and
the other consisting of practice tests to prepare students for
TOEIC® examination. Students will develop their abilities to
understand the information accurately and express themselves
clearly. The goals of this course are also to help students
cultivate their understanding of various aspects of the world
and acquire the habit of showing a diligent attitude toward
more complex written or spoken information while trying to
deal with what seems difficult for them to understand by
referring to dictionaries or other necessary sources.
・ After each class meeting, students will be expected to review
the lesson and write down the words, phrases, or expressions
they are unfamiliar with in their own vocabulary notebooks.
Required study time is at least one hour for each class meeting.
・ Final grade will be decided based on term-end examination
(70%) and in-class contribution (30%). In principle, four and
more absences will not be permitted per semester to receive
academic credit for the course. Students 30 minutes or more
late will be considered absent. If they will come late three
times, they will be considered absent one time.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
小田井 勝彦	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金 2/Fri.2
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

- ・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
- ・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
- ・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2 回で 1 章のペースで進めていきます。まず教科書の Warm Up に取り組み、授業で扱う内容に関する基礎知識を学びます。そして本文を 1 文 1 文日本語に直し、英文の構造をしっかりと確認しながら、読解を進めます。そして本文の読解後、教科書の練習問題を通じて、内容理解を深め、語彙の定着、リスニングエクササイズ、話題に関して自分の意見を書くライティングを行ないます。授業中に回収したライティングや中間テストは採点后講評または返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、教科書、評価方法などについて説明。
2	Chapter 1 Colonialism < Warm Up と読解>	Chapter 1 の Warm Up と本文の前半を読解します。
3	Chapter 1 Colonialism < 読 解と Exercise >	Chapter 1 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
4	Chapter 2 Postcolonialism < Warm Up と読解>	Chapter 2 の Warm Up と本文の前半を読解します。
5	Chapter 2 Postcolonialism < 読 解と Exercise >	Chapter 2 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
6	Chapter 3 Neocolonialism < Warm Up と読解>	Chapter 3 の Warm Up と本文の前半を読解します。

7	Chapter 3 Neocolonialism < 読 解と Exercise >	Chapter 3 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
8	中間テストと解説	unit 1～3 を試験範囲とし、試験 およびまとめ、解説を行ないま す。
9	Chapter 4 The UK < Warm Up と読解 >	Chapter 4 の Warm Up と本文 の前半を読解します。
10	Chapter 4 The UK < 読解と Exercise >	Chapter 4 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
11	Chapter 5 Ireland < Warm Up と読解 >	Chapter 5 の Warm Up と本文 の前半を読解します。
12	Chapter 5 Ireland < 読解と Exercise >	Chapter 5 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
13	総復習	これまでの総復習をします
14	期末テストと解説	unit 4～5 を試験範囲とし、試験 およびまとめ、解説を行ないま す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を日本語に訳す。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

JA Kusaka, Jesse Elam, Dax Thomas『グローバル・マインドへの道』（松柏社、2022）

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末テスト 40%、平常点 20%で評価します。
4 回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

単調にならないよう様々なアクティビティを行いたいと思います

【Outline (in English)】

The goal of this class is that students will improve literacy in English and get to understand logical passages. In order to achieve the goal, students will read refined passages about the modern world. In addition, students will do listening and writing practices.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小田井 勝彦

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を

鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

- ・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
- ・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
- ・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようにになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

2 回で 1 章のペースで進めていきます。まず教科書の Warm Up に取り組み、授業で扱う内容に関する基礎知識を学びます。そして本文を 1 文 1 文日本語に直し、英文の構造をしっかりと確認しながら、読解を進めます。そして本文の読解後、教科書の練習問題を通じて、内容理解を深め、語彙の定着、リスニングエクササイズ、話題に関して自分の意見を書くライティングを行ないます。

授業中に回収したライティングや中間テストは採点后講評または返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 6 Nigeria < Warm Up と読解>	Chapter 6 の Warm Up と本文の前半を読解します。
2	Chapter 6 Nigeria < 読解と Exercise >	Chapter 6 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
3	Chapter 7 South Africa < Warm Up と読解>	Chapter 7 の Warm Up と本文の前半を読解します
4	Chapter 7 South Africa < 読解と Exercise >	Chapter 7 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
5	Chapter 8 New Zealand < Warm Up と読解>	Chapter 8 の Warm Up と本文の前半を読解します

6	Chapter 8 New Zealand < 読解と Exercise >	Chapter 8 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
7	中間テストと解説	unit 6~8 を試験範囲とし、試験およびまとめ、解説を行ないます。
8	Chapter 9 Australia < Warm Up と読解>	Chapter 9 の Warm Up と本文の前半を読解します
9	Chapter 9 Australia < 読解と Exercise >	Chapter 9 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
10	Chapter 10 Singapore < Warm Up と読解>	Chapter 10 の Warm Up と本文の前半を読解します
11	Chapter 10 Singapore < 読解と Exercise >	Chapter 10 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
12	Chapter 11 India < Warm Up と読解>	Chapter 11 の Warm Up と本文の前半を読解します
13	Chapter 11 India < 読解と Exercise >	Chapter 11 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
14	期末テストと解説	unit 9~11 を試験範囲とし、試験およびまとめ、解説を行ないます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を日本語に訳す。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

JA Kusaka, Jesse Elam, Dax Thomas『グローバル・マインドへの道』(松柏社、2022)

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい (電子辞書も可)

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末テスト 40%、平常点 20%で評価します。
4 回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行ないません。

【学生の意見等からの気づき】

単調にならないよう様々なアクティビティを行いたいと思います

【Outline (in English)】

The goal of this class is that students will improve literacy in English and get to understand logical passages. In order to achieve the goal, students will read refined passages about the modern world. In addition, students will do listening and writing practices.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

竹内 晶子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりと覚えながら、実際の英語ニュース記事を聴き取り、また読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった発音の訓練なども行っていきます。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に類出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書をもちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	unit 1-I: Can Babies Choose Between Good and Bad?	reading and listening
3	unit 1-II: Can Babies Choose Between Good and Bad?	reading and writing
4	unit 2-I: Half-Empty or Half-Full?	reading and listening
5	unit 2-II: Half-Empty or Half-Full?	reading and writing
6	unit 3-I: How to Pass a Test	reading and listening
7	unit 3-II: How to Pass a Test	reading and writing
8	unit 4-I: Soccer Brain Study	reading and listening

9	unit 4-II: Soccer Brain Study	reading and writing
10	unit 5-I: Google Glass for Firefighters	reading and listening
11	unit 5-II: Google Glass for Firefighters	reading and writing
12	unit 6: Women on Submarine	reading and listening
13	Unit6: Women on Submarine	reading and writing
14	Review Exam	Units 1-6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です（教科書に訳を書き込むのは不可）。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。ほぼ毎週、授業 2 日前が締切の予習テストと、授業 5 日後が締切の復習テストを Hoppii 上で行います。英文ライティングの提出、リスニングテストの準備も課題となります。本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】

毎週の予習テスト：20 %

毎週の復習テスト：20 %

積極的なクラス参加（課題、リスニングテスト含む）：30 %

期末テスト：30 %

【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

【Learning Objectives】

Students will learn to read English newspaper articles with more ease.

They will also learn how to express their opinions on current issues both in spoken and written forms.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are required to read the assigned articles before each class with the use of dictionaries. Almost every week, there are small tests to check the students' preparation as well as their comprehension of the previous class.

【Grading Criteria/Policy】

Students who miss more than 3 classes won't get a credit.

weekly preparatory exam : 20%

weekly review exam : 20%

active class participation (including listening exams) : 30%

final exam:30%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

竹内 晶子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界に流通する情報の中で、日本語だけを使ってアクセスできるものなどごく一部でしかありません。インターネットの時代、英語で発信された膨大な情報が手の届くところにあるのだから、それを利用しない手はない筈です。その基礎となるのが、高校までに学んだ英語です。この授業では、文法・語彙・構文をしっかりとおさえながら、実際の英語ニュース記事を聴き取り、また読んでいきます。また、読んだ記事を鵜呑みにせず「批判的に分析する」critical thinking の訓練、およびまとまった意見を英語で論理的に書く訓練、記事をつかった発音の訓練なども行っていきます。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルになれ、読解および聴解によって、記事概要を容易に把握できるようになる。
- ・記事の要約やそれに対する自分の意見を、文法的に正確な文章で論理的に表現することができる。
- ・政治・経済・文化などのさまざまな分野の記事に頻出する基本単語を習得する。
- ・書かれた内容を鵜呑みにせず、それを批判的に分析するスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

教科書を持ちいて、世界に発信された様々な英語ニュースをまず聴解し、さらに読解します。全訳をノートに書いてくることが必須の予習です。授業内ではアトランダムに訳をあて、内容理解とともに構文把握を確認していきます。

授業時間中にはリスニングテスト、発音の練習、critical thinking の実践も行います。英文ライティングの提出も課題となります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業紹介
2	unit 7-I: i-Phone Musician	reading and listening
3	unit 7-II: i-Phone Musician	reading and writing
4	unit 8: Half-Empty or Half-Full?	reading and listening
5	unit 9: Smell of Success	reading and writing
6	unit 10-I: Octocopter	reading and listening
7	unit 10-II: Octocopter	reading and writing
8	unit 11-I: Staying Safe Online	reading and listening
9	unit 11-II: Staying Safe Online	reading and writing
10	unit 12: Air Pollution in Asian Cities	reading and listening

11	unit 13: Protecting Michelangelo's Paintings	reading and writing
12	unit 14: Choosing Jury	reading and listening
13	Unit 15: Light Pollution	reading and writing
14	Review Exam	Units 7-15

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキスト全訳をノートに書いてくることが必須の予習です (教科書に訳を書き込むのは不可)。あてられたその場で訳をつくる場合は、予習をしてこなかったものとみなします。

ほぼ毎週、授業 2 日前が締切の予習テストと、授業 5 日後が締切の復習テストを Hoppii 上で行います。

英文ライティングの提出、リスニングテストの準備も課題となります。本授業の準備・復習時間は、約 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『CNN Student News で学ぶ読解と作文演習 CNN Student News for Reading & Writing』朝日出版社、2018 年。

【参考書】

『リーダーズ・リーダーズプラス英和辞典』研究社。

【成績評価の方法と基準】

毎週の予習テスト: 20 %

毎週の復習テスト: 20 %

積極的なクラス参加 (課題、リスニングテスト含む): 30 %

期末テスト: 30 %

【学生の意見等からの気づき】

構文把握を丁寧に行います。

【その他の重要事項】

原則として、欠席が四回以上になると単位修得の権利を失います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Students will learn reading/listening/writing skills in English, using CNN Student News.

【Learning Objectives】

Students will learn to read English newspaper articles with more ease.

They will also learn how to express their opinions on current issues both in spoken and written forms.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are required to read the assigned articles before each class with the use of dictionaries. Almost every week, there are small tests to check the students' preparation as well as their comprehension of the previous class.

【Grading Criteria/Policy】

Students who miss more than 3 classes won't get a credit.

weekly preparatory exam : 20%

weekly review exam : 20%

active class participation (including listening exams) : 30%

final exam:30%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。学生は、毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」(仮題) を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

学生は以下の目標を掲げ、到達できるようにします。

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信! SNS 英語術」(仮題)

①指定のニュースを辞書を引きながら速読します。

②ニュースの解説

③クラスでの議論

2 テキストの学習

① Words& Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要の説明
2	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (語彙、DVD)
3	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (訳読)
4	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (まとめ)
5	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (語彙)
6	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (DVD)
7	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (訳読)

8	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (まとめ)
9	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (語彙)
10	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (DVD)
11	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (訳読)
12	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (まとめ)
13	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (語彙)
14	最新のニュース	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は以下のように、準備学習、復習をする。

1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業に出席しましょう。）
2. 復習（テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80 %、平常点 20 % 合格点は 60 %。欠席が 4 回以上の場合、単位の認定はいたしません。

学生は、期末レポートでは、パラグラフを意識しながら読解できたか、文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できたか、辞書を使えたか、ニュース英語を理解したか、自律的に課題に取り組めたか等で評価いたします。

期末レポートは、必ず提出期限内に Hoppii に提出してください。その他の提出手段は認めておりません。やむを得ず病気がでる期限に遅延する場合は、医師による診断書が必要になりますので注意してください。一度提出したレポートを再提出することはできません。平常点は、授業中の積極性、態度等により評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

学生はテキストの内容把握に時間を要するため、DVD を丁寧に見ていくようにします。

【学生が準備すべき機器他】

英和、和英辞書を持参すること

【その他の重要事項】

授業はすべて Zoom で行います。

マイク付きヘッドセットを用意し、間隔をあけて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。

上記のシラバスは、授業進行上、変更を加えます。

担当教員との連絡方法は、授業中にお知らせいたします。

【Outline (in English)】

< Outline >

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. In the beginning of every class, the students will read the current news. After that, the students will read and listen to the several phrases of Japanese culture.

< Goals >

The students will attain the following goals in this term:

1. To improve reading skills while paying attention to the structures of paragraphs.
2. To summarize the reading materials and express the students' opinions in English.
3. To use English-English dictionary or English-Japanese dictionary effectively.
4. To understand News in English and express the students' opinions in English
5. To Study English by themselves even outside classroom.

< Work to be done outside class >

The students will prepare for the class and review the class as follows:

1.To prepare for the class by reading aloud and translating the text.

(The students have to understand where to ask in the next class.)

2.To review the class by reading aloud three times and by checking the content of the text and vocabulary)

The students need to study two hours for this class.

< Grading criteria >

Term-end paper 80% Attendance 20% Passing Grade 60%

The students cannot be absent from class more than four times for credits.

The students will be judged if they attain five goals above.

The students have to submit their papers to Hoppii before the set deadline. Other means will not be allowed. If the students cannot submit them due to circumstances beyond their control(illness, for example), the students need to attach medical certificate by a doctor. The students cannot correct papers that they once submitted.

Attendance includes the students' positive attitudes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。学生は、毎時間 NHK の「世界へ発信!SNS 英語術」(仮題)を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

学生は、以下の目標を掲げ、到達できる。

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自立的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信！ SNS 英語術」(仮題)

①ニュースを辞書を引きながら読解します。

②ニュースの解説

③クラスでの議論

2 テキストの学習

① Words& Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (DVD)
2	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (訳読)
3	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (まとめ)
4	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (語彙)
5	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (DVD)
6	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (訳読)
7	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (まとめ)

8	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (語彙)
9	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (DVD)
10	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (訳読)
11	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (まとめ)
12	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (語彙)
13	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (DVD)
14	テキストの学習	Breaking Out(訳読 まとめ)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、準備学習と復習を以下のように行う。

1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読（パラグラフごと）に大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。
2. 復習テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki,& Erika C. Yamazaki.(2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

学生は、以下のように評価される。

期末レポート 80 %、平常点 20 %、合格点 60 %

欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。

期末レポートは、必ず提出期限内に Hoppii に提出してください。その他の提出手段は認めておりません。やむを得ず病気がでる期限に遅延する場合は、医師による診断書が必要になりますので注意してください。一度提出したレポートを再提出することはできません。平常点は、授業中の積極性、態度等により評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

学生は教科書の DVD を難しいと感じているようなので、丁寧に解説していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

英和和英辞書

【その他の重要事項】

授業はすべて Zoom で行います。

マイク付きヘッドセットを用意し、間隔を空けて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。

上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。担当教員との連絡方法は、授業中に指示いたします。

【Outline (in English)】

< Outline >

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. In the beginning of every class, the students will read the current news. After that, the students will read and listen to the several phrases of Japanese culture.

< Goals >

The students will attain the following goals in this term:

- 1.To improve reading skills while paying attention to the structures of paragraphs.
2. To summarize the reading materials and express the students' opinions in English.
3. To use English-English dictionary or English-Japanese dictionary effectively.
- 4.To understand News in English and express the students' opinions in English
5. To Study English by themselves even outside classroom.

< Work to be done outside class >

The students will prepare for the class and review the class as follows:

1.To prepare for the class by reading aloud and translating the text.

(The students have to understand where to ask in the next class.)

2.To review the class by reading aloud three times and by checking the content of the text and vocabulary)

The students need to study two hours for this class.

< Grading criteria >

Term-end paper 80% Attendance 20% Passing Grade 60%

The students cannot be absent from class more than four times for credits.

The students will be judged if they attain five goals above.

The students have to submit their papers to Hoppii before the set deadline. Other means will not be allowed. If the students cannot submit them due to circumstances beyond their control(illness, for example), the students need to attach medical certificate by a doctor. The students cannot correct papers that they once submitted.

Attendance includes the students' positive attitudes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み (チャンク・リーディング)、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力が鍛えられることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型 (= 協働学習) の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL (コンピュータ支援の語学学習) 教室の特性を活かして、様々な学習ツール (グループワーク機能、音声 & 文字チャット、音声録音など) を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Plot Synopsis	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 3 回	Unit 1: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 4 回	Unit 2: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 5 回	Unit 2: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 6 回	Unit 3: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 7 回	Unit 3: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 8 回	Unit 4: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 9 回	Unit 4: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 10 回	Unit 5: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension

第 11 回 Unit 5: Movie Viewing

Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 12 回 Unit 6: Plot Synopsis

Vocabulary / Reading / Reading Comprehension

第 13 回 発表

口頭発表とクラスメートによる評価

第 14 回 期末試験 (筆記)

まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト (教科書)】

Active English through Movies (金星堂, 2021)

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (筆記) 50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う (ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く)。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

音読練習の徹底化を図り、音声をクラスメートと共有したことが功を奏したようで、音読 (発音や英語らしいリズム) の向上を実感した学生が多かった。その反面、チャンキングの理解が足りない学生が一定数いたようなので、改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint. The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声 & 文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 6: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 3 回	Unit 7: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 4 回	Unit 7: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 5 回	Unit 8: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 6 回	Unit 8: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 7 回	Unit 9: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 8 回	Unit 9: Movie Viewing	Listening Comprehension / Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 9 回	Unit 10: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension

第 10 回 Unit 10: Movie Viewing

第 11 回 Unit 11: Plot Synopsis

第 12 回 Unit 11: Movie Viewing

第 13 回 発表

第 14 回 期末試験（筆記）

Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
Dictation & Role Play / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

口頭発表とクラスメートによる評価

まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies（金星堂，2021）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

音読練習の結果、自信を持って読める学生が前期よりも増えてきた。今学期からグループワークで文法の解説を課したが、基礎文法を理解していない学生が一定数いることを知り、文法学習の必要性を改めて感じた。

【学生が準備すべき機器他】

学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

利根川 真紀

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではリーディングを中心に勉強します。現代社会の幅広いトピックについて書かれたある程度の長さの文章を、パラグラフ構成に注意して、より良く速く読めるようになることを目指します。語彙力を高めていくことも目標のひとつです。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も身につけます。

【到達目標】

- 1 アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
- 2 パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
- 3 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる (資料としての英語文献に慣れる)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説をするほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。授業の初めに、前回授業で提出された小テストにフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 2. Health Care Megatrends: How Well Can Your Doctor Play Video Games? 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 2 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 6. Global Warming: Get Ready to Mitigate and Adapt 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 6 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	Chapter 9. Personalization: The Megatrend that is Reshaping Marketing 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
7 回目	Chapter 9 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
8 回目	新聞・雑誌記事等 選択	各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する
9 回目	Chapter 11. Urbanization: The Pros and Cons 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する

10 回目	Chapter 11 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
11 回目	新聞・雑誌記事等 導入	投票で決めた記事の大枠を把握する
12 回目	新聞・雑誌記事等 詳細	投票で決めた記事の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト 導入	スクリプトの大枠を把握する
14 回目	TED のスクリプト 詳細	スクリプトの詳細を理解する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。記事紹介に向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

【テキスト (教科書)】

『Megatrends Shaping Our Future (新たな時代を見据えて)』(成美堂)

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (40 %)、課題提出と毎週の小テスト (40 %)、記事紹介課題関連 (20 %)。欠席が 4 回以上になると、原則として単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline (in English)】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. In addition to studying the textbook, each student will search independently for an interesting article in English newspapers and magazines and will become familiar with authentic materials offered in English. Students' required study time for each class meeting is at least one hour. Grading will be based on class participation (40%), assignments & weekly quizzes (40 %), journal article assignments (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive an academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

利根川 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、パラグラフの理解や語彙力の向上に力を入れ、現代社会の幅広いトピックについて書かれた文章を正確に、そして速く読むことができるようにしていきます。読んだ内容をもとに、自分の意見を英語で書くことができるようになることも目指します。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、様々な英語の文体に慣れ、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

【到達目標】

- 1 アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
- 2 パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
- 3 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説をするほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行ないます。授業の初めに、前回授業で提出された小テストにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション、ブック・プレゼンテーションの準備	授業内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 4. The Globalization of Food: Advantages and Disadvantages 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 4 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 7. Deadly Natural Disasters: Dealing with Tsunamis 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 7 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	ブック・プレゼンテーション（1～11）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（前半）とレスポンス
7 回目	ブック・プレゼンテーション（12～24）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（後半）とレスポンス
8 回目	ブックパッセージについてのフォローアップ	単語・イディオム・構文のチェック

9 回目	Chapter 10. Rethinking Regulation: Finance and Investment after the Subprime Loan Meltdown 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 10 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
11 回目	Chapter 12. Depopulation: Vanishing Villages in Rural Japan 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
12 回目	Chapter 12 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト 導入	スクリプトの大枠を把握する
14 回目	TED のスクリプト 詳細	スクリプトの細部を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。ブックプレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

【テキスト（教科書）】

『Megatrends Shaping Our Future（新たな時代を見据えて）』（成美堂）

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（40 %）、課題提出と毎週の小テスト（40 %）、ブックプレゼンテーション課題関連（20 %）。欠席が 4 回以上になると、原則として単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline (in English)】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. In addition to studying the textbook, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice. Students' required study time for each class meeting is at least one hour. Grading will be based on class participation (40%), assignments & weekly quizzes (40 %), book presentation (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive an academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。精読や英文解釈については毎回授業内で都度確認、説明を行うので必ず予習をすること。

課題に関しても小テストとは別に提出を必要とする。

なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter1	語彙の予習と本文の精読
2	CXchapter1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Chapter1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Chapter2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Chapter2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Chapter3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Chapter3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Chapter4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Chapter4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Chapter5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Chapter5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Chapter6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Chapter6,7	Unit6 小テスト、Unit7 の語彙の予習と本文の精読
14	Chapter7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』

田中孝信、野田三貴、筒井香代子編著

音羽書房鶴見書店

2016 年初版発行 2021 年第 7 刷発行 2000 円＋税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.

The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。精読や英文解釈については毎回授業内で都度確認、説明を行うので必ず予習をすること。

課題に関しても小テストとは別に提出を必要とする

なお、感染症の拡大状況によってはオンライン授業との併用とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Unit14 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』

田中孝信、野田三貴、筒井香代子

音羽書房鶴見書店

2016 年初版発行、2021 年 7 刷発行 2000 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.

The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は 4 技能 (リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング) の学習を中心にを行います。春学期と秋学期のリーディング、リスニングおよびスピーキングの教科書としては、NHK の映像付き英語インタビュー番組から 15 トピックが精選され、それぞれに **Building Background, Checking Key Points, Organizing Information** などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴しながら、現代社会の課題について深く考えてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。適宜、**Sharing Our Views** の設問を活用してスピーキングの能力を養成します。

また、春学期・秋学期を通じて、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法を習得してもらい、ライティングの能力の涵養も目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。適宜、課題を出して遂行度を点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Voice 1 "Ride-Hailing Innovation: Creating Jobs through Technology" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Voice 1 "Ride-Hailing Innovation: Creating Jobs through Technology" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 3 回	Voice 2 "Bringing Medicine to the African Backcountry" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。

第 4 回	Voice 2 "Bringing Medicine to the African Backcountry" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 5 回	Voice 3 "Saving Children in Poverty through Music" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Voice 3 "Saving Children in Poverty through Music" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Voice 4 "The Matcha Business: A Maverick Spirit" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Voice 4 "The Matcha Business: A Maverick Spirit" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 10 回	Voice 5 "French Refugee Integration" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Voice 5 "French Refugee Integration" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 12 回	Voice 6 "The Power of Biologging" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Voice 6 "The Power of Biologging" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

小林めぐみ他編著『Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk ―世界を変える声を聞く―』(金星堂、2021 年) 2600 円 (税別)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (45 点) と期末試験 (45 点) を実施し、学期末に課す英語小エッセー (10 点) を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、ほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading, listening, and speaking abilities by use of 15 interviews from NHK Direct Talks. Participants can meet 15 creative problem-solvers trying to make the world a better place, and build the skills participants need to tackle the challenge. This course also aims to improve participants' basic academic writing skill they will be asked to acquire as undergraduates.

By the end of the course, participants are expected to view the videos easily, comprehend the text accurately, and write in English their short essays in clear paragraphs.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の学習を中心にを行います。春学期と秋学期のリーディング、リスニングおよびスピーキングの教科書としては、NHK の映像付き英語インタビュー番組から 15 トピックが精選され、それぞれに Building Background, Checking Key Points, Organizing Information などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴しながら、現代社会の課題について深く考えてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。適宜、Sharing Our Views の設問を活用してスピーキングの能力を養成します。

また、春学期・秋学期を通じて、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法を習得してもらい、ライティングの能力の涵養も目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。適宜、課題を出して遂行度を点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Voice 7 "Farming Is the Future"①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Voice 7 "Farming Is the Future"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 3 回	Voice 8 "New Challenges for a Fashion Giant"①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Voice 8 "New Challenges for a Fashion Giant"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。

第 5 回	Voice 9 "Helping the Socially Vulnerable" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Voice 9 "Helping the Socially Vulnerable" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Voice 10 "The Danish Recipe for Happiness" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Voice 10 "The Danish Recipe for Happiness" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 10 回	Voice 11 "Knitting the Future by Hand" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Voice 11 "Knitting the Future by Hand" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。プリント教材を使用し内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 12 回	Voice 12 "Towards a Zero-Waste Future" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実にします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Voice 12 "Towards a Zero-Waste Future" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小林めぐみ他編著『Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk ―世界を変える声を聞く』（金星堂、2021 年）2600 円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、ほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading, listening, and speaking abilities by use of 15 interviews from NHK Direct Talks. Participants can meet 15 creative problem-solvers trying to make the world a better place, and build the skills participants need to tackle the challenge. This course also aims to improve participants' basic academic writing skill they will be asked to acquire as undergraduates.

By the end of the course, participants are expected to view the videos easily, comprehend the text accurately, and write in English their short essays in clear paragraphs.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で説明できる
- (2) 教材レベルの英語の音声を開いて内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
- (3) 教材の多様なトピックについて（とくに一つについては自分の関心に結びつけて情報収集・多面的考察・出典明示して）情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、また、使う目線から便利な語彙や表現をピックアップして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声はスピーキングや音読のモデルとして活用し、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して（リスニング・スピーキング・読解にも役立つ）音読練習を行い、自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語で要約や説明、論理的に意見交換する練習や、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、その場で指名して答えてもらったり、小テストや課題で確認します。質問や小テスト・課題等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション。 Unit 1 Cross-cultural understanding 導入	授業の進め方・評価について。リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
2	Unit 1 High & Low 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
3	Unit 2 Foods 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
4	Unit 2 Sustaining Culture 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
5	Unit 3 Foreign language learning 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
6	Unit 3 Will Machine Translation Replace Human Translators? 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
7	Unit 4 Sports 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）

8	Unit 4 Obstacle Course Racing 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
9	Unit 5 Fashion 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
10	Unit 5 The History of Jeans 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
11	Unit 6 Living things 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
12	Unit 6 Safer Distance 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）。プレゼンテーションのアドバース
13	プレゼンテーション・リハーサル	プレゼンテーションの準備・練習・アドバイス
14	プレゼンテーション。春学期のまとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：(1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も言えるよう準備。(2) 会話と文章の主旨の把握につとめる。未知の語句は文脈から類推し、辞書で確認する。(3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1～2 文程度）を日本語と英語で練習する。(4) ダウンロード音声の区切り・抑揚・明瞭な発音に留意して音読練習する。②復習：(1) 理解を確認しながらテキストを再読。復習用資料を活用して書いたり声に出して定着させる。(2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイングする。(3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。(4) 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。(5) 書籍やウェブサイト等で情報収集、知識・視野を広げる。③ 学期末プレゼンテーション準備：プレゼン用資料を参考に少しずつ準備し、原稿を指示に沿って期限内に提出し、リハーサル・推敲する。※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとします。目標を持って授業に毎回出席し、理解を深めながら積極的に参加、復習で苦手克服・実力向上を目指します。

【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）※関連資料を使用する際は配布または指示します

【参考書】

随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み・小テスト／課題など）85%、プレゼンテーション 15%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が 4 回以上になると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】

意見交換・プレゼンテーションなどが刺激となり能動的に学べたという意見や継続的な予習と授業参加で力が伸びた実感などが聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートする内容・手法の充実を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参してください

【その他の重要事項】

授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各々の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】

This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations (and short talks) on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.

The goals are to develop the abilities to read, summarize and comment on the essays, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's opinions and ideas about the topics.

Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least an hour per week preparing for and reviewing each class.

Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (85%), final presentation (15%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で説明できる
- (2) 教材レベルの英語の音声聞いて内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
- (3) 教材の多様なトピックについて (とくに一つについては自分の関心に結びつけて情報収集・多面的考察・出典明示して) 情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、また、使う目線から便利な語彙や表現をピックアップして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声はスピーキングや音読のモデルとして活用し、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して (リスニング・スピーキング・読解にも役立つ) 音読練習を行い、自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語で要約や説明、論理的に意見交換する練習や、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、その場で指名して答えてもらったり、小テストや課題で確認します。質問や小テスト・課題等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Art 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
2	Unit 7 Moving Pictures, Before There Were Movies 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
3	Unit 8 Global issues 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
4	Unit 8 Jack's Cambodian Blog 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
5	Unit 9 Japanese culture 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
6	Unit 9 Cosplay: Bringing Anime to Life 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
7	Unit 10 Human rights 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)

8	Unit 10 Terrorism and Torture 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
9	Unit 11 Health & medical issues 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
10	Unit 11 How to Live a Long Life: Secrets of the Japanese 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
11	Unit 12 Environmental issues 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
12	Unit 12 Great Barrier Reef Speech 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）。プレゼンテーションのアドバース
13	プレゼンテーション・リハーサル	プレゼンテーション・リハーサル
14	プレゼンテーション。秋学期のまとめ	発表・意見交換・講評。学期を振り返る（アンケート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：(1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も言えるよう準備。(2) 会話と文章の主旨の把握につとめる。未知の語句は文脈から類推し、辞書で確認する。(3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1～2 文程度）を日本語と英語で練習する。(4) ダウンロード音声の区切り・抑揚・明瞭な発音に留意して音読練習する。②復習：(1) 理解を確認しながらテキストを再読。復習用資料を活用して書いたり声に出して定着させる。(2) ダウンロード音声（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイングする。(3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。(4) 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。(5) 書籍やウェブサイト等で情報収集、知識・視野を広げる。③ 学期末プレゼンテーション準備：プレゼン用資料を参考に少しずつ準備し、原稿を指示に沿って期限内に提出し、リハーサル・推敲する。※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとします。目標を持って授業に毎回出席し、理解を深めながら積極的に参加、復習で苦手克服・実力向上を目指します。

【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）※関連資料を使用する際は配布または指示します

【参考書】

随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み・小テスト／課題など）85%、プレゼンテーション 15%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が 4 回以上になると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】

意見交換・プレゼンテーションなどが刺激となり能動的に学べたという意見や継続的な予習と授業参加で力が伸びた実感などが聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートする内容・手法の充実を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参してください

【その他の重要事項】

授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】

This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations (and short talks) on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.

The goals are to develop the abilities to read, summarize and comment on the essays, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's opinions and ideas about the topics.

Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least an hour per week preparing for and reviewing each class.

Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (85%), final presentation (15%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

食料と食文化のグローバル化に伴い、外国人との情報交換、海外への観光旅行、留学などの可能性が増している。この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得する。前期は、読解力を身につけるために、通訳訓練法の頭ごなし訳などの訳出テクニックを習得する。基礎的な英語を復習しながら、更に英語力のレベルアップを図る。

【到達目標】

- ・食文化をテーマに英米の文化を理解する
- ・リスニング力を向上させ、簡単な通訳ができるようになる
- ・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、順番に訳出して、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと自己紹介ゲーム	授業内容、授業の進め方、成績のつけ方、出欠について説明する。自己紹介をする。
2	Unit 1 Counting Calories	ダイエットについての語彙や英語表現について学ぶ。
3	Unit 1 Dieting: Japan VS. America	食について、日本とアメリカの考え方の違いについて学ぶ。
4	Unit 2 A New Sports Tradition	新しいスポーツの伝統として、テールゲートパーティーについて学ぶ。
5	Unit 2 The Tailgate Party	テールゲートパーティーの内容や、それについての語彙や英語表現について学ぶ。
6	Unit 3 As American as Apple Pie	お茶に招かれて、手作りのアップルパイを出される設定の会話を学ぶ。
7	Unit 3 An Apple a Day	リンゴの栄養や、歴史について、語彙や英語表現を学ぶ。
8	Unit 4 The Shimannto River and Sweetfish Dishes	四万十川と鮎料理についての語彙や英語表現について学ぶ。
9	Unit 4 Best-Before and Use-By Dates	賞味期限と消費期限の意味について、語彙と英語表現について学ぶ。
10	Unit 5 Drive-Thru	ドライブスルーでの会話について、語彙と英語表現について学ぶ。

11	Unit 5 Cooking for a Family VS. Eating Out	家庭料理 VS 外食のテーマで、食文化の変化について、語彙や英語表現について学ぶ。
12	Unit 6 Mother's Curry	日本のカレーとインドのカレーの違いについての会話を通して、語彙や英語表現について学ぶ。
13	Unit 6 Japanese Flavors and the Traditional Diet	日本の伝統料理についての語彙や英語表現について学ぶ。
14	期末試験	まとめ、期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト (教科書)】

『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生 鈴木理枝 関根伸太郎 宮下リンダ 南雲堂 ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】

学生のレベルを鑑み、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験: (筆記) 50 %

平常点: 50 % (授業への参加度、態度、発表、小テスト)

成績評価の基準

- (1) 内容を把握しているか
 - (2) 適切に訳出できるか
 - (3) リスニング力が身についているか
- 欠席 4 回以上で単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】

発表中心の双方向の授業に対して学生から高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。また、学生が、より一層英語が好きになるよう工夫して、楽しい授業を心がける。

【Outline (in English)】

Course Outline:

In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick Response, Shadowing, and Synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.

Learning Objectives:

(1) Understanding British and American culture with the theme of food culture

(2) Acquire Listening skills

(3) Learn translation techniques

Learning activities outside of classroom

Preparatory learning:

For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.

Review:

Review that what you learned in class.

Grading Criteria/Policy:

Final exam: 50%

Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)

Grade evaluation criteria:

(1) Understanding the contents

(2) Appropriate translation

(3) Acquire listening skills

Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

後期もテキストを中心に通訳訓練法を取り入れながら、総合的な英語力の育成に努める。リピーティング、シャドーイング等の訓練を行い、集中力を身につけ、スピーキング、リスニング力の向上に努める。この授業の目的は、基礎英語力をベースにして、日常生活に役立つ実践的な英語力を身につけることである。

【到達目標】

- ・食文化をテーマに英米の文化を理解する
- ・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
- ・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

後期の授業も同様に、テキストを中心に演習授業になる。各学生は予習して、授業に臨み、順番に訳出をして、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、シンクローディング、シャドーイングの訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、学生にアドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・Unit 7 Supplemental Health	サプリメントに関する会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
2	Unit 8 Coffee or Tea?①	コーヒーと紅茶の効用についての会話を通して、語彙と英語表現を習得する。
3	Unit 8 Tea Time: The difference between Green, Black, and Red Tea ②	お茶にもいろいろな種類がある。それぞれのお茶の効用が書かれた読み物を通して、語彙や英語表現を習得する。
4	Unit 9 Vegetable Garden ①	菜園についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
5	Unit 9 On the History of Mayonnaise ②	マヨネーズの歴史と栄養について読み、語彙や英語表現を習得する。
6	Unit 10 Local Delicacies ①	日本のご馳走についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
7	Unit 10 Different National Cuisines in Japan ②	日本で味わえる各国料理について読み、語彙や英語表現を習得する。
8	Unit 11 Halloween Barmbrack ①	アイルランドのハロウィーンのパンについての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
9	Unit 11 History of Halloween ②	ハロウィーンの歴史を読み、語彙や英語表現を習得する。

10	Unit 12 Thanksgiving Break ①	感謝祭休暇についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
11	Unit 12 The American Holiday Rush: Thanksgiving to New Year's ②	アメリカの祝祭日、感謝祭から新年にかけての伝統行事について読み、語彙や英語表現を習得する。
12	Unit 13 Christmas Recipe: Roast Turkey	クリスマス料理の定番であるロースターキーのレシピを読み、語彙や英語表現を習得する。
13	Unit 14 Saint Valentine's Day	バレンタインデーの歴史について読み、語彙や英語表現を習得する。
14	期末試験	まとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
準備学習

分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。
復習時間

授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生 鈴木理枝 関根伸太郎 宮下リンダ 南雲堂、ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】

学生のレベルを鑑みて、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 %、
平常点 50 %（授業への参加度、態度、発表、出席状況）
成績評価の基準

- (1) 内容を把握しているか
 - (2) 適切に訳出できるか
 - (3) リスニング力が身についているか
- 欠席 4 回以上は単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】

発表中心の双方向の授業に対して学生から高評価をもらい、今後も英語力と同時に積極性を身につける授業を展開していく。また、学生が、より一層英語が好きになるよう工夫して、楽しい授業を心がける。

【Outline (in English)】

Course Outline:01

In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick Response, Shadowing, and Synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.

Learning Objectives:

- (1) Understanding British and American culture with the theme of food culture
- (2) Acquire Listening skills
- (3) Learn translation techniques

Learning activities outside of classroom:

Preparatory learning:

For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.

Review:

Review that what you learned in class.

Grading Criteria/Policy:

Final exam: 50%

Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)

Grade evaluation criteria:

- (1) Understanding the contents

- (2) Appropriate translation
 (3) Acquire listening skills
 Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景 (世界情勢) が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。

受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

授業実施形態の説明

この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requires urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5刷 南雲堂
山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 4" 金星堂

【参考書】

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題、提出物：50%、授業への取組み：20%、期末課題：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom, Zoom を使用する
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要

【Outline (in English)】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。

メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

尚、課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、秋学期の進め方等	休期中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 4" 金星堂

【参考書】

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題・提出物：50%、授業への取組み：20%、期末課題：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

出席確認、資料配布、課題提出等は、Google クラウドと学習支援システムを通して実施予定。パソコンとマイク付きヘッドホンが必要。

【Outline (in English)】

Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読む力だけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①辞書を効果的に利用しながら、高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
- ②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
- ③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
- ④わからない語句や文法があっても辞書を使わずに出来るだけ正確に内容を推測できる
- ⑤各履修者が自分に合った、継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらい場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき3回授業を行い、3回目の授業で復習のための小テストを行います。

学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に2回行います。小テスト・定期試験ともに授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明・PC を利用した演習 ・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブイトやアプケーションの紹介
2	Unit 1 Places	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
3	Unit 1 Places	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
4	Unit 1 Places	テキストのトピックについて考察 記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 1 の小テスト
5	Unit 2 Festivals and celebrations	記事の読解、文法・語彙・発音の確認

6	Unit 2 Festivals and celebrations	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
7	Unit 2 Festivals and celebrations	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 2 の小テスト
8	中間テスト	試験の実施、解説、復習
9	Unit 3 The Internet and technology	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
10	Unit 3 The Internet and technology	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
11	Unit 3 The Internet and technology	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 3 の小テスト
12	Unit 4 Weather and climate	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
13	Unit 4 Weather and climate	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 2), Cambridge University Press

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 10%、小テスト 20%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位習得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業用資料はなるべく事前にアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】

・ Course Outline and Learning Objectives

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes(e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

・ Learning Activities Outside of Classroom

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.

・ Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, quiz: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は English 1I からのステップアップとして、より長い英語の文章を速く正確に読み取る訓練を行います。これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、Introduction/Body/Conclusion Paragraph, Thesis Statement, Topic Sentence といった英文の構成をすばやく把握する能力を身につけます。また、読んだ英文を要約し、関連するトピックに対する意見を簡潔な英文で表現するパラグラフ・ライティングの練習を行います。

【到達目標】

この授業は以下の 6 つを到達目標とします:

- ①長文の英語を正確にかつ速く読みとることができる
 - ②現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要な語彙力を増やす
 - ③わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測することができる
 - ④英語の文章の構成をすばやく把握する能力を習得する
 - ⑤英文の内容を要約する方法を身につける
- 読んだ英文に関連するトピックに関する自分の意見を簡潔な英文で表現する方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき 3 回授業を行います。同時に、読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。ライティング課題はコメント・添削をしたのち、返却します。

学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に 2 回行います。定期試験は授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	UNIT 5 Sports and competition	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
2	UNIT 5 Sports and competition	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
3	UNIT 5 Sports and competition	記事の読解、Main Point(s)
4	UNIT 6 Business	記事の読解、Topic Sentence(s)
5	UNIT 6 Business	記事の読解、Supporting Sentence(s)
6	UNIT 6 Business	記事の読解、Concluding Sentence(s)
7	中間テスト	試験の実施、解説、復習
8	UNIT 7 People	記事の読解、要約
9	UNIT 7 People	記事の読解、要約

10	UNIT 7 People	記事の読解、自分の意見を表現する
11	UNIT 8 The universe	記事の読解、自分の意見を表現する
12	UNIT 8 The universe	記事の読解、人と自分の意見を表現する
13	UNIT 8 The universe	記事の読解、人と自分の意見を表現する
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 2), Cambridge University Press

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献 (グループ/ペアワークへの参加) 10%、ライティング課題 20%、中間・期末試験各 35% で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位習得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業用資料はなるべく事前にアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】

・ Course Outline and Learning Objectives

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

・ Learning Activities Outside of Classroom

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.

・ Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, writing assignments: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

宇野 毅

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・現代英語の総合的学力向上
- ・平易な英文を読んで、背後にある文化的な事柄を的確に理解する。

【到達目標】

- ・日英文化に関する平易なエッセイを読んで、その中に出てくる文化事象の違いを習得できるように、日英比較文化論的見地からも授業を進める。
- ・本講義では、英語を通してその背後にある社会や文化を修得して、グローバルな異文化の世界に対応できるようになることが、究極的な到達目標といえるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・受講生諸君は、必ず予習をして忘れずに辞書を持参する事。次週の学習範囲の予習が毎週の宿題である。出席は極めて重要であるが、教室にいるだけでは出席にはならないので、注意が必要である。
- ・対面授業を基本とするが、状況によって変わることがあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 1 Trainspotting (前半)	イギリスの鉄道： 本文理解・解説 意見交換
第 2 回	Chapter 1 Trainspotting (後半)	鉄道事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 3 回	Chapter 2 Pedal Power (前半)	イギリスの自転車事情 本文理解・解説 意見交換
第 4 回	Chapter 2 Pedal Power (後半)	自転車利用の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 5 回	Chapter 3 Crime and Punishment (前半)	イギリスの犯罪事情 本文理解・解説 意見交換
第 6 回	Chapter 3 Crime and Punishment (後半)	犯罪事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 7 回	Chapter 4 Power to the People (前半)	イギリス人の権利 本文理解・解説 意見交換
第 8 回	Chapter 4 Power to the People (後半)	権利意識の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 9 回	Chapter 5 Please, Belt Up! (前半)	イギリスの自動車事情 本文理解・解説 意見交換

第 10 回	Chapter 5 Please, Belt Up! (後半)	自動車事情の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 11 回	Chapter 6 Rise of the Vending Machines (前半)	イギリスの自動販売機は？ 本文理解・解説 意見交換
第 12 回	Chapter 6 Rise of the Vending Machines (後半)	自動販売機の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 13 回	Chapter 7 Lovely Day, Isn't It? (前半)	英国の気候 本文理解・解説 意見交換
第 14 回	Chapter 7 Lovely Day, Isn't It? (後半)	気候の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ 試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業出席には、必ず予習が必須である。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて【最低でも】2 時間を標準とする。
- ・(できれば紙の) 辞書持参も必須である。

【テキスト（教科書）】

Your Japan, My Japan『わかる日本と不思議な日本』（南雲堂）

【参考書】

『(増補版) 現代イギリスの社会と文化 ゆとりと思いやりの国』（彩流社）

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験等 60 点・平常点 40 点等を基準として評価する。
- ・原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない事になっている。

【学生の意見等からの気づき】

- ・真面目にきちんと努力した人が報われる。

【Outline (in English)】

- ・ Perfect understanding of the English Language and culture
- ・ Improvement of the English 4 skills

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

宇野 毅

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ・現代英語の総合的学力向上。
- ・平易な英文を読んで、背後にある文化的な事柄を的確に理解する。

【到達目標】

- ・日英文化に関する平易なエッセイを読んで、その中に出てくる文化事象の違いを習得できるように、日英比較文化論的見地からも授業を進める。
- ・本講義では、英語を通してその背後にある社会や文化を修得して、グローバルな異文化の世界に対応できるようになることが、究極的な到達目標といえるであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

- ・受講生諸君は、必ず予習をして忘れずに辞書を持参する事。次週の学習範囲の予習が毎週の宿題である。出席は極めて重要であるが、教室にいないだけでは出席にはならないので、注意が必要である。
- ・対面授業を基本とするが、状況によって変わることがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Chapter 8 The Graduate 前半	英語圏の卒業式 本文理解・解説 意見交換
第 2 回	Chapter 8 The Graduate 後半	卒業式の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 3 回	Chapter 9 A Change for the Worse 前半	欧米人の食事傾向 本文理解・解説 意見交換
第 4 回	Chapter 9 A Change for the Worse 後半	食事の日英比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 5 回	Chapter 10 Is Bigger Always Better? 前半	車の環境問題 本文理解・解説 意見交換
第 6 回	Chapter 10 Is Bigger Always Better? 後半	日英環境比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 7 回	Chapter 11 The Land of the Loudspeaker 前半	イギリスの選挙 本文理解・解説 意見交換
第 8 回	Chapter 11 The Land of the Loudspeaker 後半	日英政治比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 9 回	Chapter 12 Taxi! 前半	欧米のタクシー事情 本文理解・解説 意見交換
第 10 回	Chapter 12 Taxi! 後半	日英タクシー事情比較 内容確認・問題練習 まとめ

第 11 回	Chapter 13 Responsible Sleeping 前半	仕事と睡眠 本文理解・解説 意見交換
第 12 回	Chapter 13 Responsible Sleeping 後半	日英ライフワークバランス比較 内容確認・問題練習 まとめ
第 13 回	Chapter 14 That's Rubbish! 前半	イギリスの環境問題 本文理解・解説 意見交換
第 14 回	Chapter 14 That's Rubbish! 後半	日英環境問題比較 内容確認・問題練習 まとめ 試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業出席には、必ず予習が必須である。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて【最低でも】2 時間を標準とする。
- ・(できれば紙の) 辞書持参も必須である。

【テキスト (教科書)】

Your Japan, My Japan『わかる日本と不思議な日本』(南雲堂)

【参考書】

『現代イギリスの社会と文化 ゆとりとおもいやりの国』(彩流社)

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 60 点・平常点 40 点等を基準として評価する
- ・原則として、欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない事になっている。

【学生の意見等からの気づき】

- ・真面目にきちんと努力した人が報われる。

【Outline (in English)】

- ・ Perfect understanding of English Language and culture
- ・ Improvement of the English 4 skill

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用し、メディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分け、それぞれ以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。

前半の回:

・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習と Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2

・CNN のテキスト各 Unit 中、Before listening の演習

後半の回:

・TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4

・CNN のテキスト各 Unit 中、Listening と After listening の演習

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	TOEIC® テキスト Unit 1 前半 + CNN テキスト Unit 1 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Void Found in Giza's Great Pyramid のリーディング
3	TOEIC® テキスト Unit 1 後半 + CNN テキスト Unit 1 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Void Found in Giza's Great Pyramid のリスニング、リーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 2 前半 + CNN テキスト Unit 2 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Railway Apologizes for 20-Second Error のリーディング

5	TOEIC® テキスト Unit 2 後半 + CNN テキスト Unit 2 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Railway Apologizes for 20-Second Error のリスニング、リーディング
6	TOEIC® テキスト Unit 3 前半 + CNN テキスト Unit 3 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Observers Report Nine-Hour Rainbow のリーディング
7	TOEIC® テキスト Unit 3 後半 + CNN テキスト Unit 3 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Observers Report Nine-Hour Rainbow のリスニング、リーディング
8	TOEIC® テキスト Unit 4 前半 + CNN テキスト Unit 4 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Death of Chef Paul Bocuse のリーディング
9	TOEIC® テキスト Unit 4 後半 + CNN テキスト Unit 4 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Death of Chef Paul Bocuse のリスニング、リーディング
10	TOEIC® テキスト Unit 5 前半 + CNN テキスト Unit 5 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + KFC Runs Out of Chicken のリーディング
11	TOEIC® テキスト Unit 5 後半 + CNN テキスト Unit 5 後半	資格試験問題を使ったリスニング + KFC Runs Out of Chicken のリスニング、リーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 6 前半 + CNN テキスト Unit 6 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Pope Disallows Death Penalty のリーディング
13	TOEIC® テキスト Unit 6 後半 + CNN テキスト Unit 6 後半	資格試験問題を使ったリスニング + Pope Disallows Death Penalty のリスニング、リーディング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト（教科書）】

30-Second CNN Short News: Culture and Society in a Changing World, Yasushi Mano 編著, (朝日出版社, 2021 年), ¥1,200 + tax

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（や小テスト）を 70 %、平常点を 30 %とし、総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てでも、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

【Outline (in English)】

・ This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly. The goals of this course are also to help students cultivate their understanding of various aspects of the world and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.

・ After each class meeting, students will be expected to review the lesson and write down the words, phrases, or expressions they are unfamiliar with in their own vocabulary notebooks. Required study time is at least one hour for each class meeting.

・ Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

余田 剛

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CNN で配信されたニュースを素材として扱ったテキストを使用してメディアの英語に触れることと、TOEIC® 用対策問題の演習をおこなうことを通して、リーディング、リスニングと、表現に関する英語の語学の学習をすることをテーマとする。

【到達目標】

1) 英語の運用能力

より多くの語彙・語法についての知識と、基本的なリーディングとリスニングを中心とした英語の技能を身に付ける。

2) 文化理解

世界中で起こる現代社会の様々な問題について、独自の分析ができることに意識を向けながら、見聞を広める。

3) 分からないことを調べる姿勢

さらなる語学力獲得と文化理解につなげるために、自分の分からないことがあれば謙虚に、意欲的に、辞書や辞典や本やインターネットなどを調べながら、自力で情報を理解しようとする姿勢を身に付けることが重要である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業計画に示した各 Unit 前半の回と後半の回とで内容を分け、それぞれ以下の個所の演習を行う。授業時間内にその場で課題として問題を解いてもらいその答えや解説をフィードバックとして口頭で提示する。

前半の回:

・ TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Warm-up Exercise の演習と表現の練習と Mini-TOEIC® Listening の Part 1 と 2

・ CNN のテキスト各 Unit 中、Before listening の演習

後半の回:

・ TOEIC® のテキスト各 Unit 中、Mini-TOEIC® Listening の Part 3 と 4

・ CNN のテキスト各 Unit 中、Listening と After listening の演習

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明
2	TOEIC® テキスト Unit 7 前半 + CNN テキスト Unit 7 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + New Zealand's "First Baby" at the UN のリーディング
3	TOEIC® テキスト Unit 7 後半 + CNN テキスト Unit 7 後半	資格試験問題を使ったリスニング + New Zealand's "First Baby" at the UN のリスニング、リーディング
4	TOEIC® テキスト Unit 8 前半 + CNN テキスト Unit 8 前半	資格試験問題を使ったリスニング、表現 + Rare Appearance of "Living Goddess" のリーディング

5	TOEIC® テキスト Unit 8 後半＋ CNN テキスト Unit 8 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Rare Appearance of "Living Goddess" のリスニング、リー ディング
6	TOEIC® テキスト Unit 9 前半＋ CNN テキスト Unit 9 前半	資格試験問題を使ったリスニン グ、表現 ＋ Adventurer Swims around Britain のリーディング
7	TOEIC® テキスト Unit 9 後半＋ CNN テキスト Unit 9 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Adventurer Swims around Britain のリスニング、リーディ ング
8	TOEIC® テキスト Unit 10 前半＋ CNN テキスト Unit 10 前半	資格試験問題を使ったリスニン グ、表現 ＋ Emperor's Final New Year's Speech のリーディング
9	TOEIC® テキスト Unit 10 後半＋ CNN テキスト Unit 10 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Emperor's Final New Year's Speech のリスニング、リーディ ング
10	TOEIC® テキスト Unit 11 前半＋ CNN テキスト Unit 11 前半	資格試験問題を使ったリスニン グ、表現 ＋ Better Investment with Gender Balance のリーディング
11	TOEIC® テキスト Unit 11 後半＋ CNN テキスト Unit 11 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Better Investment with Gender Balance のリスニング、 リーディング
12	TOEIC® テキスト Unit 12 前半＋ CNN テキスト Unit 12 前半	資格試験問題を使ったリスニン グ、表現 ＋ Taiwan's First Same-Sex Marriages のリーディング
13	TOEIC® テキスト Unit 12 後半＋ CNN テキスト Unit 12 後半	資格試験問題を使ったリスニング ＋ Taiwan's First Same-Sex Marriages のリスニング、リー ディング
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした試 験、まとめと解説

【Outline (in English)】

・ This course aims to improve students' English language skills in reading, listening, and writing, using two textbooks, one made up of news stories drawn from CNN TV shows and the other consisting of practice tests to prepare students for TOEIC® examination. Students will develop their abilities to understand the information accurately and express themselves clearly. The goals of this course are also to help students cultivate their understanding of various aspects of the world and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.

・ After each class meeting, students will be expected to review the lesson and write down the words, phrases, or expressions they are unfamiliar with in their own vocabulary notebooks. Required study time is at least one hour for each class meeting.

・ Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業後各自わからなかった単語や表現などをまとめた語彙リストをつくり復習すること。

【テキスト（教科書）】

30-Second CNN Short News: Culture and Society in a Changing World, Yasushi Mano 編著, (朝日出版社, 2021 年), ¥1,200 + tax
Practical Situations for the TOEIC® Test Listening-Revised Edition-, Kayo Yoshida 他著, (成美堂, 2019 年), ¥1,300 + tax

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（や小テスト）を 70 %、平常点を 30 %とし、総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また授業開始から 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕をもって来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の自習は目標は学生が各自立てても、なかなか実現できない場合が多いため、授業の延長で同じテキストを使って自習をしてもらえるような指示も出したいと思います。

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は 4 技能 (リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング) の学習を中心にを行います。春学期と秋学期のリーディング、リスニングおよびスピーキングの教科書としては、NHK の映像付き英語インタビュー番組から 15 トピックが精選され、それぞれに **Building Background, Checking Key Points, Organizing Information** などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴しながら、現代社会の課題について深く考えてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。適宜、**Sharing Our Views** の設問を活用してスピーキングの能力を養成します。

また、春学期・秋学期を通じて、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法を習得してもらい、ライティングの能力の涵養も目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。適宜、課題を出して遂行度を点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Voice 1 "Ride-Hailing Innovation: Creating Jobs through Technology" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Voice 1 "Ride-Hailing Innovation: Creating Jobs through Technology" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 3 回	Voice 2 "Bringing Medicine to the African Backcountry" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。

第 4 回	Voice 2 "Bringing Medicine to the African Backcountry" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 5 回	Voice 3 "Saving Children in Poverty through Music" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Voice 3 "Saving Children in Poverty through Music" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Voice 4 "The Matcha Business: A Maverick Spirit" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Voice 4 "The Matcha Business: A Maverick Spirit" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 10 回	Voice 5 "French Refugee Integration" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Voice 5 "French Refugee Integration" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 12 回	Voice 6 "The Power of Biologging" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Voice 6 "The Power of Biologging" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、宿題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

小林めぐみ他編著『Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk ―世界を変える声を聞く―』(金星堂、2021 年) 2600 円 (税別)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (45 点) と期末試験 (45 点) を実施し、学期末に課す英語小エッセー (10 点) を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、ほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading, listening, and speaking abilities by use of 15 interviews from NHK Direct Talks. Participants can meet 15 creative problem-solvers trying to make the world a better place, and build the skills participants need to tackle the challenge. This course also aims to improve participants' basic academic writing skill they will be asked to acquire as undergraduates.

By the end of the course, participants are expected to view the videos easily, comprehend the text accurately, and write in English their short essays in clear paragraphs.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

萩原 眞一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる基礎的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディング、リスニングおよびスピーキングの教科書としては、NHK の映像付き英語インタビュー番組から 15 トピックが精選され、それぞれに Building Background, Checking Key Points, Organizing Information などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴しながら、現代社会の課題について深く考えてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。適宜、Sharing Our Views の設問を活用してスピーキングの能力を養成します。

また、春学期・秋学期を通じて、人文科学系の論文を書く上で役立つ基礎的な表現法を習得してもらい、ライティングの能力の涵養も目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。英語の小エッセーを作成できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点においてほぼ 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。適宜、課題を出して遂行度を点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Voice 7 "Farming Is the Future"①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Voice 7 "Farming Is the Future"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 3 回	Voice 8 "New Challenges for a Fashion Giant"①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとし、語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Voice 8 "New Challenges for a Fashion Giant"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。

第 5 回	Voice 9 "Helping the Socially Vulnerable" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Voice 9 "Helping the Socially Vulnerable" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Voice 10 "The Danish Recipe for Happiness" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Voice 10 "The Danish Recipe for Happiness" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 10 回	Voice 11 "Knitting the Future by Hand" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Voice 11 "Knitting the Future by Hand" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 12 回	Voice 12 "Towards a Zero-Waste Future" ①	DVD を活用して Interview Part 1 と Part 2 の聴解と読解を確実なものとしします。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Voice 12 "Towards a Zero-Waste Future" ②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。プリント教材を使用しライティングの向上を目指します。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小林めぐみ他編著『Inspiring Voices: 15 Interviews from NHK Direct Talk ―世界を変える声を聞く』（金星堂、2021 年）2600 円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、ほぼ 60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading, listening, and speaking abilities by use of 15 interviews from NHK Direct Talks. Participants can meet 15 creative problem-solvers trying to make the world a better place, and build the skills participants need to tackle the challenge. This course also aims to improve participants' academic writing skill they will be asked to acquire as undergraduates.

By the end of the course, participants are expected to view the videos easily, comprehend the text accurately, and write in English their short essays in clear paragraphs.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、学生は 1 年を通して近年のイギリスの様々な社会文化問題を取り上げた英語のリーディングテキストを読みます。リーディングテキストは、5～7 パラグラフからなる 200words 程度の短めの英文で、取り扱う内容は近年のイギリスにおける移民問題からファッション、王室、マスメディア、階級問題など、多岐にわたります。本授業における学習の中心は、英文読解力の向上と、それに必要不可欠な語彙力の強化です。英語は語彙の非常に多い言語であり、語彙力の増強は総合的な英語力の向上に直結します。そのために本授業では、効果的な英語の辞書の引き方や派生語の覚え方など、語彙力増強を目指した様々なトレーニングに取り組みます。

【到達目標】

本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。

- ①英語の辞書の使い方を覚える。
- ②英単語の派生語や関連語を覚え、英語の語彙力を増強する。
- ③ 200～300words 程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容が理解できる。
- ④イギリス文化に親しみイギリス社会が抱える諸問題を理解する。
- ⑤現代イギリスの社会文化問題に触れることで、日本の文化や社会を相対化して見る比較文化的視点を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。

2 回の授業で 1Chapter を学び終えます。学生は、リーディングテキストの自分の担当箇所を発表します。また、授業内でリアクションペーパー提出なども行います。これらのワークは、すべて平常点として評価されますので、しっかりと参加してください。

初回授業のガイダンスと、最終授業の筆記試験はオンラインで行われます。それ以外の授業は原則対面授業を行う予定ですが、感染症や災害などの様々な状況に応じて Zoom 授業を行うこともあります。これらの授業予定は、すべて授業支援システムを通じて事前に案内しますので、授業支援システムを必ずチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4 月 11 日	ガイダンス	授業の方針説明 テキストの紹介、導入
4 月 18 日	Chapter 1: Multi-Cultural UK	リーディング
4 月 25 日	Chapter 1: Multi-Cultural UK	リーディング、リスニング
5 月 9 日	Chapter 2: English Garden	リーディング
5 月 16 日	Chapter 2: English Garden	リーディング、リスニング
5 月 23 日	Chapter 3: The British Royal Family	リーディング

5 月 30 日	Chapter 3: The British Royal Family	リーディング、リスニング
6 月 6 日	Chapter 4: Education in the UK	リーディング
6 月 13 日	Chapter 4: Education in the UK	リーディング、リスニング
6 月 20 日	Chapter 5: Eating in Britain	リーディング
6 月 27 日	Chapter 5: Eating in Britain	リーディング、リスニング
7 月 4 日	Chapter 6: Health & the Medical System	リーディング
7 月 11 日	Chapter 6: Health & the Medical System	リーディング、リスニング
7 月 18 日	学期末筆記試験	オンライン筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業の準備学習は特に指定しませんが、復習の課題を毎回出します。課題の取り組みは、平常点として評価しますので、しっかりと取り組んでください。課題は、授業支援システムを通じて出題、チェック等行います。

【テキスト（教科書）】

【教科書名】 Modern Britain: Culture, Society and History

【著者】 James C. House, Michiko Miyoshi

【出版社】 松柏社

【出版年】 2021 年

【価格】 2000 円

【参考書】

参考書は特に指定しませんが、必要に応じて授業内で適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

成績は 100 点満点で評価し、60 点以上で合格です。

成績評価の内訳は、平常点 40 %、学期末筆記試験 60 %です。平常点は通常授業の授業参加や課題の取り組み、小テストなどを評価します。

4 回以上欠席をすると単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを通じた復習課題の提出により、学生の学習効率が上がり成績の上昇につながったため、本授業でも授業支援システムを通じて復習課題を出題します。

【学生が準備すべき機器他】

授業の案内や課題提出等、全て授業支援システムを通じて行います。また初回授業は Zoom で行いますので、パソコンなどのネットワーク環境を整えてください。また、辞書の引き方の指導を行うので、辞書は必携です。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, students will read short essays which pick up various topics about social or cultural problems in Britain of late years. Each essay is written in English with about 200 ~ 300 words and composed of 5~7 paragraphs. The topics cover various subjects: immigrants, fashion, royal family, mass media, and class issues, etc. The focus of this class will be improving students' reading skill and reinforcing student's vocabulary which is indispensable for English reading. English is the language with a lot of words, therefore, increasing vocabulary is directly connected with improving the four skills of English. In order to achieve this goal, students in this class will work on various training intended for increasing vocabulary including dictionary using and learning of related words.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、学生は 1 年を通して近年のイギリスの様々な社会文化問題を取り上げた英語のリーディングテキストを読みます。リーディングテキストは、5~7 パラグラフからなる 200words 程度の短めの英文で、取り扱う内容は近年のイギリスにおける移民問題からファッション、王室、マスメディア、階級問題など、多岐にわたります。本授業における学習の中心は、英文読解力の向上と、それに必要不可欠な語彙力の強化です。英語は語彙の非常に多い言語であり、語彙力の増強は総合的な英語力の向上に直結します。そのために本授業では、効果的な英語の辞書の引き方や派生語の覚え方など、語彙力増強を目指した様々なトレーニングに取り組みます。

【到達目標】

本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。

- ①英語の辞書の使い方を覚える。
- ②英単語の派生語や関連語を覚え、英語の語彙力を増強する。
- ③ 200~300words 程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容が理解できる。
- ④イギリス文化に親しみイギリス社会が抱える諸問題を理解する。
- ⑤現代イギリスの社会文化問題に触れることで、日本の文化や社会を相対化して見る比較文化的視点を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。

学生は、リーディングテキストの自分の担当箇所を発表します。また、授業内でリアクションペーパー提出なども行います。これらのワークは、すべて平常点として評価されますので、しっかりと参加してください。

初回授業のガイダンスと、最終授業の筆記試験はオンラインで行われます。それ以外の授業は原則対面授業を行う予定ですが、感染症や災害などの様々な状況に応じて Zoom 授業を行うこともあります。これらの授業予定は、すべて授業支援システムを通じて事前に案内しますので、授業支援システムを必ずチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
9 月 26 日	Chapter 7: Music & Fashion ①	リーディング
10 月 3 日	Chapter 7: Music & Fashion ②	リーディング、リスニング
10 月 10 日	Chapter 8: Tourism ①	リーディング
10 月 17 日	Chapter 8: Tourism ②	リーディング、リスニング
10 月 24 日	Chapter 9: Post Brexit Britain ①	リーディング
10 月 31 日	Chapter 9: Post Brexit Britain ②	リーディング、リスニング

11 月 7 日 Chapter 10: Leisure & Sport in the UK ①

11 月 14 日 Chapter 10: Leisure & Sport in the UK ②

11 月 21 日 Chapter 11: The British Empire

11 月 28 日 Chapter 12: Media in the UK

12 月 5 日 Chapter 13: Regions of Britain

12 月 12 日 Chapter 14: God & a Dog

12 月 19 日 Chapter 15: Class & Money

1 月 16 日 学期末筆記試験 オンライン筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

春学期よりも授業速度を上げるため、事前学習が不可欠です。Warm-up の語彙の問題は授業前に予習してください。復習の課題は春学期同様毎回出します。課題の取り組みは、平常点として評価しますので、しっかりと取り組んでください。課題は、授業支援システムを通じて出題、チェック等行います。

【テキスト (教科書)】

【教科書名】Enjoy English with Charlie Brown and Friends: Language and Culture in Peanuts

【著者】外山晴子

【出版社】南雲堂

【出版年】2021 年

【価格】2530 円

【参考書】

参考書は特に指定しませんが、必要に応じて授業内で適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

成績は 100 点満点で評価し、60 点以上で合格です。

成績評価の内訳は、平常点 40 %、学期末筆記試験 60 %です。平常点は通常授業の授業参加や課題の取り組み、小テストなどを評価します。

4 回以上欠席をすると単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを通じた復習課題の提出により、学生の学習効率が上がり成績の向上につながったため、本授業でも授業支援システムを通じて復習課題を出題します。

【学生が準備すべき機器他】

授業の案内や課題提出等、全て授業支援システムを通じて行います。また初回授業は Zoom で行いますので、パソコンなどのネットワーク環境を整えてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, students will read short essays which pick up various topics about social or cultural problems in Britain of late years. Each essay is written in English with about 200 ~300 words and composed of 5~7 paragraphs. The topics cover various subjects: immigrants, fashion, royal family, mass media, and class issues, etc. The focus of this class will be improving students' reading skill and reinforcing student's vocabulary which is indispensable for English reading. English is the language with a lot of words, therefore, increasing vocabulary is directly connected with improving the four skills of English. In order to achieve this goal, students in this class will work on various training intended for increasing vocabulary including dictionary using and learning of related words.

LANe100LA	
English 1 I	2017 年度以降入学者
小田井 勝彦	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：金 1/Fri.1
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造（topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など）およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を

鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

- ・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
- ・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
- ・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようにになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

2 回で 1 章のペースで進めていきます。まず教科書の Warm Up に取り組み、授業で扱う内容に関する基礎知識を学びます。そして本文を 1 文 1 文日本語に直し、英文の構造をしっかりと確認しながら、読解を進めます。そして本文の読解後、教科書の練習問題を通じて、内容理解を深め、語彙の定着、リスニングエクササイズ、話題に関して自分の意見を書くライティングを行ないます。

授業中に回収したライティングや中間テストは採点后講評または返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方、教科書、評価方法などについて説明。
2	Chapter 1 Colonialism < Warm Up と読解>	Chapter 1 の Warm Up と本文の前半を読解します。
3	Chapter 1 Colonialism < 読 解と Exercise >	Chapter 1 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
4	Chapter 2 Postcolonialism < Warm Up と読解>	Chapter 2 の Warm Up と本文の前半を読解します。
5	Chapter 2 Postcolonialism < 読 解と Exercise >	Chapter 2 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
6	Chapter 3 Neocolonialism < Warm Up と読解>	Chapter 3 の Warm Up と本文の前半を読解します。

7	Chapter 3 Neocolonialism < 読 解と Exercise >	Chapter 3 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
8	中間テストと解説	unit 1～3 を試験範囲とし、試験 およびまとめ、解説を行ないま す。
9	Chapter 4 The UK < Warm Up と読解 >	Chapter 4 の Warm Up と本文 の前半を読解します。
10	Chapter 4 The UK < 読解と Exercise >	Chapter 4 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
11	Chapter 5 Ireland < Warm Up と読解 >	Chapter 5 の Warm Up と本文 の前半を読解します。
12	Chapter 5 Ireland < 読解と Exercise >	Chapter 5 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
13	総復習	これまでの総復習をします
14	期末テストと解説	unit 4～5 を試験範囲とし、試験 およびまとめ、解説を行ないま す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を日本語に訳す。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

JA Kusaka, Jesse Elam, Dax Thomas『グローバル・マインドへの道』（松柏社、2022）

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末テスト 40%、平常点 20%で評価します。
4 回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

単調にならないよう様々なアクティビティを行いたいと思います

【Outline (in English)】

The goal of this class is that students will improve literacy in English and get to understand logical passages. In order to achieve the goal, students will read refined passages about the modern world. In addition, students will do listening and writing practices.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小田井 勝彦

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。特にパラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置きます。さらに、得られた情報を

鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行います。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。また精読した英文の要旨や、それについての批評的なコメントなどを英語で書く練習も行います。

【到達目標】

- ・英語の文章を読むのに必要な語彙・文法を習得する
- ・パラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりを理解し、英語の文章の論旨を正確に理解できるようになる
- ・正しい態度で、批判的に文章を読み、自らの意見を英語で発信できるようにになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

2 回で 1 章のペースで進めていきます。まず教科書の Warm Up に取り組み、授業で扱う内容に関する基礎知識を学びます。そして本文を 1 文 1 文日本語に直し、英文の構造をしっかりと確認しながら、読解を進めます。そして本文の読解後、教科書の練習問題を通じて、内容理解を深め、語彙の定着、リスニングエクササイズ、話題に関して自分の意見を書くライティングを行ないます。

授業中に回収したライティングや中間テストは採点后講評または返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 6 Nigeria < Warm Up と読解>	Chapter 6 の Warm Up と本文の前半を読解します。
2	Chapter 6 Nigeria < 読解と Exercise >	Chapter 6 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
3	Chapter 7 South Africa < Warm Up と読解>	Chapter 7 の Warm Up と本文の前半を読解します
4	Chapter 7 South Africa < 読解と Exercise >	Chapter 7 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
5	Chapter 8 New Zealand < Warm Up と読解>	Chapter 8 の Warm Up と本文の前半を読解します

6	Chapter 8 New Zealand < 読解と Exercise >	Chapter 8 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
7	中間テストと解説	unit 6~8 を試験範囲とし、試験およびまとめ、解説を行ないます。
8	Chapter 9 Australia < Warm Up と読解>	Chapter 9 の Warm Up と本文の前半を読解します
9	Chapter 9 Australia < 読解と Exercise >	Chapter 9 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
10	Chapter 10 Singapore < Warm Up と読解>	Chapter 10 の Warm Up と本文の前半を読解します
11	Chapter 10 Singapore < 読解と Exercise >	Chapter 10 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
12	Chapter 11 India < Warm Up と読解>	Chapter 11 の Warm Up と本文の前半を読解します
13	Chapter 11 India < 読解と Exercise >	Chapter 11 の本文後半と Comprehension Questions, Vocabulary, Listening, Further Study を行ないます。
14	期末テストと解説	unit 9~11 を試験範囲とし、試験およびまとめ、解説を行ないます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に、知らない語彙について辞書を引き、教科書の本文を日本語に訳す。授業後は、間違えに気付いた箇所について確認し、語彙を覚える。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

JA Kusaka, Jesse Elam, Dax Thomas『グローバル・マインドへの道』(松柏社、2022)

【参考書】

各自『ジーニアス英和辞典』など学習用英和辞典を用意して下さい (電子辞書も可)

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末テスト 40%、平常点 20%で評価します。
4 回以上欠席した場合には、原則として単位認定を行ないません。

【学生の意見等からの気づき】

単調にならないよう様々なアクティビティを行いたいと思います

【Outline (in English)】

The goal of this class is that students will improve literacy in English and get to understand logical passages. In order to achieve the goal, students will read refined passages about the modern world. In addition, students will do listening and writing practices.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。また、読み解いた英文の要旨の執筆を行い、批判的なコメントを準備・発表を行うことによって、読む力だけでなく、書く力、聞く力、話す力といった基本的な 4 技能を学習します。

【到達目標】

この授業を通して、スキミングやスキニングのスキルを習得し、英文の要点を素早く読解することができるようになることを目標とします。素早く的確に読解をした上で、クリティカルな感想をもち、短いエッセイを書けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1 つのチャプターを 3 週に分けて進めます。1 週目と 2 週目はリーディング、3 週目はリフレクションを行います。リーディングのパートでは、授業の前までに教科書の文章を読み、課題として文章の要約を提出します。3 週目にはリーディングのパートで学んだことを活かし、ショートエッセイを書き、提出します。適宜ペアやグループ分けをし、ピアレビューを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The class rules and goals will be explained in the class room. Students will be assigned to set their goals for this semester.
2	Presentation/Chapter 1	5mins mini presentation. Photo Stories [Reading 1]
3	Chapter 1 cont.	Photo Stories [Reading 2]
4	Chapter 1 cont.	Photo stories [Reflection]
5	Chapter 2	The Circular Economy [Reading 1]
6	Chapter 2 cont.	The Circular Economy [Reading 2]
7	Chapter 2 cont.	The Circular Economy [Reflect]
8	Chapter 3	Changing History [Reading 1]
9	Chapter 3 cont.	Changing History [Reading 2]
10	Chapter 3 cont.	Changing History [Reflect]
11	Chapter 4	Leading Business [Reading 1]
12	Chapter 4 cont.	Leading Business [Reading 2]
13	Chapter 4 cont.	Leading Business [Reflect]
14	Final	Final exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各ユニットの 1 週目と 2 週目は教科書の課題文を読み、要約を書くことが求められる。3 週目にはショートエッセイを書くために、事前に調べ学習が求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

教科書： Laurie Blass et al. (2022) Reflect: Reading & Writing. Cengage Learning.

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでも構わないが、品詞や意味だけではなく、用法や類語も調べられるものを用意すること。

その他授業で使用する参考資料を適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出や受講態度）40%， Final Exam 60%

原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位習得を認めない。

遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this course, the students will be expected to learn the skills to read the texts in English, such as skimming and scanning. Students will also be expected to summarize the text and present their critiques.

【到達目標 (Learning Objectives)】 After finishing this course, the students will be able to understand the basic structure of paragraphs. Students will be able to read English texts strategically and summarize the contents.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 Students are expected to prepare for the class by reading assignments, summarizing the reading, and reviewing the feedback every week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class participation including quizzes and assignments (40%), and the final examination (60%).

In principle, no more than 4 absences per semester are allowed. Late arrivals are considered to be up to 30 minutes after the start of class, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、前期に引き続き、主に英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養います。また、読み解いた英文の要旨の執筆を行い、批判的なコメントを準備・発表を行うことによって、読む力だけでなく、書く力、聞く力、話す力といった基本的な 4 技能を学習します。

【到達目標】

この授業を通して、スキミングやスキニングのスキルを習得し、英文の要点を素早く読解することができるようになることを目標とします。素早く的確に読解をした上で、クリティカルな感想をもち、短いエッセイを書けるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

1 つのチャプターを 3 週に分けて進めます。1 週目と 2 週目はリーディング、3 週目はリフレクションを行います。リーディングのパートでは、授業の前までに教科書の文章を読み、課題として文章の要約を提出します。3 週目にはリーディングのパートで学んだことを活かし、ショートエッセイを書き、提出します。適宜ペアやグループ分けをし、ピアレビューを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The class rules and goals will be explained in the class room. Students will be assigned to set their goals for this semester.
2	Chapter 5	Sharing a Laugh [Reading 1]
3	Chapter 5 cont.	Sharing a Laugh [Reading 2]
4	Chapter 5 cont.	Sharing a Laugh [Reflection]
5	Chapter 6	Our Changing City [Reading 1]
6	Chapter 6 cont.	Our Changing City [Reading 2]
7	Chapter 6 cont.	Our Changing City [Reflection]
8	Chapter 7	Attracting Tourists [Reading 1]
9	Chapter 7 cont.	Attracting Tourists [Reading 2]
10	Chapter 7 cont.	Attracting Tourists [Reflection]
11	Chapter 8	Breaking Records [Reading 1]
12	Chapter 8 cont.	Breaking Records [Reading 2]
13	Chapter 8 cont.	Breaking Records [Reflection] + Final Review
14	Final	Final Exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各ユニットの 1 週目と 2 週目は教科書の課題文を読み、要約を書くことが求められる。3 週目にはショートエッセイを書くために、事前に調べ学習が求められる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

教科書: Laurie Blass et al. (2022) Reflect: Reading & Writing. Cengage Learning.

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでも構わないが、品詞や意味だけではなく、用法や類語も調べられるものを用意すること。

その他授業で使用する参考資料を適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (課題の提出や受講態度) 40%, Final Exam 60%

原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位習得を認めない。

遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

授業の概要 (Course outline) In this course, the students will be expected to learn the skills to read the texts in English, such as skimming and scanning. Students will also be expected to summarize the text and present their critiques.

【到達目標 (Learning Objectives)】 After finishing this course, the students will be able to understand the basic structure of paragraphs. Students will be able to read English texts strategically and summarize the contents.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 Students are expected to prepare for the class by reading assignments, summarizing the reading, and reviewing the feedback every week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class participation including quizzes and assignments (40%), and the final examination (60%).

In principle, no more than 4 absences per semester are allowed. Late arrivals are considered to be up to 30 minutes after the start of class, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。

毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるためのリフレクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、予習復習の仕方、辞書の活用法、などについて Unit 1 の冒頭を用いて説明する。 第 1～3 パラグラフ、および練習問題
2	Unit 1 The Concept of Beauty「美」の概念 ＜前半＞	
3	Unit 1 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題
4	Unit 2 Greek Mythology – Stories of Gods and Humans ギリシア神話—— 神々と人間の物語 ＜前半＞	第 1～3 パラグラフ、および練習問題
5	Unit 2 ＜後半＞	第 4～7 パラグラフ、および練習問題

6	Unit 3 The Bible — Mainstay of Christianity 聖書——キリスト 教の支柱 ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ、および練習問題
7	Unit 3 ＜後半＞	第 5～6 パラグラフ、および練習問題
8	Unit 4 Renaissance — Transcending Cultural Movements ルネサンス—— ジャンルを横断する ムーブメント ＜前半＞	第 1～4 パラグラフ、および練習問題
9	Unit 4 ＜後半＞	第 5～6 パラグラフ、および練習問題
10	Unit 5 The Structure of Fictional Literature	各自のレポートに基づく、グループワーク
11	Unit 7 The English Language 英語の変遷 ＜前半＞	第 1～5 パラグラフ、および練習問題
12	Unit 7 ＜後半＞	第 6～7 パラグラフ、および練習問題
13	復習・復習試験	前半：Unit1～4,7 の復習、補足 後半：復習試験
14	Unit 6 The Theater and Acting	各自のレポートに基づく、グループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は必須である。

教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や章末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton / 小田 島 恒 志,
TRANSCULTURE:Transcending Time, Region and Ethnicity,
Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ 響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。

毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回のリフレクションペーパー 40 %、レポート 10 %）、復習試験 50 % の成績の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

・ペア／グループワークを積極的にとりいれる。

・リフレクションペーパーの作成・提出、添削、フィードバックは、対面授業であってもオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。

・予告のうえ、授業中に Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook that discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings. They will also attain knowledge necessary for their university studies.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.

Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (40%), short report(s) (10%), and review test(s) (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度の長さの論理的な英語の文章を正確に理解するためのリーディング・スキルを身につける。同時に、速読・精読の使い分け、要約・批評の仕方についても学ぶ。

使用教科書は、さまざまな文化が時代、宗教、民族を超えて交錯し、影響し合い、変容するさまを、15 の切り口から概観したエッセイ集である。大学生、とりわけ文学部生に必須の知識を、知的な英文を通じて吸収することができるだろう。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提として授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

音声教材を用いた、テキストの聴き取りや音読の練習も行う。

毎回の授業の最後に、本文の理解を深めるための小テストおよびアクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8 The Rise of Cities 都 市の隆盛	各自のレポートにもとづくグループワーク
2	Unit 9 Trusting in Recorded History 歴史という記録の信頼 性 <前半>	第 1～3 段落、および練習問題
3	Unit 9 <後半>	第 4～8 段落、および練習問題
4	Unit 10 Battles on Board Games 盤上の戦い—— チェス／将棋／チャト ランガ…	各自のレポートにもとづくグループワーク

5	Unit 11 How Democracy Works 民主主義という制度＜前半＞	第 1～2 段落、および練習問題
6	Unit 11 ＜後半＞	第 3～6 段落、および練習問題
7	Unit 12 Marriage and the State 結婚と国家＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
8	Unit 12 ＜後半＞	第 4～5 段落、および練習問題
9	Unit 13 The Meaning of Prayers 「祈り」のもつ意味＜前半＞	第 1～3 段落、および練習問題
10	Unit 13 ＜後半＞	第 4～5 段落、および練習問題
11	Unit 15 The Importance of Discipline 「しつけ＝規律」の重要性＜前半＞	第 1～4 段落、および練習問題
12	Unit 15 ＜後半＞	第 5～6 段落、および練習問題
13	復習・復習試験	前半：Unit 8, 9, 11, 12, 13, 15 の復習、補足 後半：復習試験
14	Unit 14 Mankind and Laughter 笑い人間	各自のレポートに基づくグループワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の各 Unit を、音声（教科書会社の HP から無料でダウンロードできる）を聞きながら一通り読み、不明箇所印をつける。それから印をつけた箇所を辞書や巻末注等で調べる。（残った不明箇所については授業中に解決すること。）最後に、末尾の練習問題を解く。予習の過程で、音読練習も行うことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Christopher Belton/小田島恒志, TRANSCULTURE: Transcending Time, Region and Ethnicity, Kinseido, 2017. [『多元文化論エッセイ——響き合う文化たち』金星堂]

【参考書】

大学～一般向けの英和および英英辞書、各 1 点以上。

いずれも各自の好みで選んで構わないが、用例を豊富に載せているものを 1 点は使用すること。

毎回の授業にも持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎回のリフレクションペーパー 40 %、および、提出物 10 %）、および復習試験 50 % の成績の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

・ペア／グループワークを活用して、受講者が互いに教え合う環境、発言や質問のしやすい環境を作る。

・リフレクションペーパーの作成・提出、添削、フィードバックは、対面授業においてもオンラインで実施する。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。

・予告のうえ、授業中に Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook that discusses the cultural side of globalization, students will learn how to grasp the meaning and content of logical writings.

They will also attain knowledge necessary for their university studies.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.

Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (40%), short report(s) (10%), and review test(s) (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力が鍛えられることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声 & 文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Plot Synopsis	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 3 回	Unit 1: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 4 回	Unit 2: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 5 回	Unit 2: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 6 回	Unit 3: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 7 回	Unit 3: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 8 回	Unit 4: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 9 回	Unit 4: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 10 回	Unit 5: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension

第 11 回 Unit 5: Movie Viewing

Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 12 回 Unit 6: Plot Synopsis

Vocabulary / Reading / Reading Comprehension

第 13 回 発表

口頭発表とクラスメートによる評価

第 14 回 期末試験（筆記）

まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies（金星堂，2021）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。
欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

音読練習の徹底化を図り、音声をクラスメートと共有したことが功を奏したようで、音読（発音や英語らしいリズム）の向上を実感した学生が多かった。その一方、音声をクラスメートの前で流すことに抵抗のある学生もいた。1、2 名ではあるが、何か対策を講じたい。

【学生が準備すべき機器他】

学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint. The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。学習内容のトピックについて、平易な英語で自分の意見を伝える練習も行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声 & 文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 6: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 3 回	Unit 7: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 4 回	Unit 7: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 5 回	Unit 8: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 6 回	Unit 8: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 7 回	Unit 9: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 8 回	Unit 9: Movie Viewing	Listening Comprehension / Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 9 回	Unit 10: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension

第 10 回 Unit 10: Movie Viewing

第 11 回 Unit 11: Plot Synopsis

第 12 回 Unit 11: Movie Viewing

Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
Dictation & Role Play / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 13 回 発表

口頭発表とクラスメートによる評価

第 14 回 期末試験（筆記）

まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies（金星堂、2021）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

音読練習の結果、自信を持って読める学生が前期よりも増えてきた。今学期からグループワークで文法の解説を課したが、基礎文法を理解していない学生が一定数いることを知り、文法学習の必要性を改めて感じた。

【学生が準備すべき機器他】

学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

・ Students will learn to read efficiently.

・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.

・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

利根川 真紀

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではリーディングを中心に勉強します。現代社会の幅広いトピックについて書かれたある程度の長さの文章を、パラグラフ構成に注意して、より良く速く読めるようになることを目指します。語彙力を高めていくことも目標のひとつです。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も身につけます。

【到達目標】

- 1 アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
- 2 パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
- 3 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる (資料としての英語文献に慣れる)

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説をするほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。授業の初めに、前回授業で提出された小テストにフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 2. Health Care Megatrends: How Well Can Your Doctor Play Video Games? 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 2 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 6. Global Warming: Get Ready to Mitigate and Adapt 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 6 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	Chapter 9. Personalization: The Megatrend that is Reshaping Marketing 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
7 回目	Chapter 9 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
8 回目	新聞・雑誌記事等 選択	各自が持ち寄った記事を紹介し、投票する
9 回目	Chapter 11. Urbanization: The Pros and Cons 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する

10 回目	Chapter 11 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
11 回目	新聞・雑誌記事等 導入	投票で決めた記事の大枠を把握する
12 回目	新聞・雑誌記事等 詳細	投票で決めた記事の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト 導入	スクリプトの大枠を把握する
14 回目	TED のスクリプト 詳細	スクリプトの詳細を理解する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。記事紹介に向けて、各自が関心のある記事を探して読み、提出課題を作成します。

【テキスト (教科書)】

『Megatrends Shaping Our Future (新たな時代を見据えて)』(成美堂)

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み (40 %)、課題提出と毎週の小テスト (40 %)、記事紹介課題関連 (20 %)。欠席が 4 回以上になると、原則として単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline (in English)】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. In addition to studying the textbook, each student will search independently for an interesting article in English newspapers and magazines and will become familiar with authentic materials offered in English. Students' required study time for each class meeting is at least one hour. Grading will be based on class participation (40%), assignments & weekly quizzes (40 %), journal article assignments (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive an academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

利根川 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、パラグラフの理解や語彙力の向上に力を入れ、現代社会の幅広いトピックについて書かれた文章を正確に、そして速く読むことができるようにしていきます。読んだ内容をもとに、自分の意見を英語で書くことができるようになることも目指します。さらに、教科書以外の英文資料も駆使することによって、様々な英語の文体に慣れ、社会の動向について理解を深め、多角的、国際的な視野も養いましょう。

【到達目標】

- 1 アクセントや発音にも注意を払いつつ、語彙力を高める
- 2 パラグラフ・リーディングの癖をつけ、長文の理解力を養う
- 3 英語の文章を読み、その内容に対して意見をもてるようになる（資料としての英語文献に慣れる）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを適宜利用し、予習してわからなかった部分の解説をするほか、ペアワークやグループワークも取り入れて、内容理解の確認や英語表現の練習を行ないます。英語の発音やアクセントにも注意を払うことによって、リスニングの力も同時につけていきましょう。なお、春学期の終わりに詳しく説明しますが、夏休み中に洋書を一冊読んでおいてください。秋学期の授業で、読んだ本について各自がプレゼンテーションを行ないます。授業の初めに、前回授業で提出された小テストにフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション、ブック・プレゼンテーションの準備	授業内容・進め方の説明
2 回目	Chapter 4. The Globalization of Food: Advantages and Disadvantages 導入	健康についての文章の大枠を把握する
3 回目	Chapter 4 詳細	健康についての文章の細部を理解する
4 回目	Chapter 7. Deadly Natural Disasters: Dealing with Tsunamis 導入	環境についての文章の大枠を把握する
5 回目	Chapter 7 詳細	環境についての文章の細部を理解する
6 回目	ブック・プレゼンテーション（1～11）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（前半）とレスポンス
7 回目	ブック・プレゼンテーション（12～24）	夏休みに読んだ洋書のプレゼン（後半）とレスポンス
8 回目	ブックパッセージについてのフォローアップ	単語・イディオム・構文のチェック

9 回目	Chapter 10. Rethinking Regulation: Finance and Investment after the Subprime Loan Meltdown 導入	ビジネスについての文章の大枠を把握する
10 回目	Chapter 10 詳細	ビジネスについての文章の細部を理解する
11 回目	Chapter 12. Depopulation: Vanishing Villages in Rural Japan 導入	ライフスタイルについての文章の大枠を把握する
12 回目	Chapter 12 詳細	ライフスタイルについての文章の細部を理解する
13 回目	TED のスクリプト 導入	スクリプトの大枠を把握する
14 回目	TED のスクリプト 詳細	スクリプトの細部を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業は予習を前提に進みますので、予習として、本文を少なくとも 3 回は音読し、わからない単語は調べ、段落ごとに 1 行程度に要約します。また、各チャプターから内容的に一番印象に残る 1 文、英語として一番難しい 1 文をそれぞれ選んでから、授業に出席するようにします。復習に関しては、翌週の授業開始時のチェックに備えて取り組みます。ブックプレゼンテーションに向けて、クラスメートが選んだパッセージにもすべて目を通して課題を提出します。

【テキスト（教科書）】

『Megatrends Shaping Our Future（新たな時代を見据えて）』（成美堂）

【参考書】

辞書等は初回の授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（40 %）、課題提出と毎週の小テスト（40 %）、ブックプレゼンテーション課題関連（20 %）。欠席が 4 回以上になると、原則として単位修得の資格を失います。遅刻・早退は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

パラグラフごとの内容把握の際に、あらかじめ準備したチャートなどが理解の助けになるという意見があったので、今年度も適宜工夫したいと思います。

【Outline (in English)】

This course aims to improve students' reading skills and strategies, with an emphasis on paragraph reading. Through pair work practices and group activities, the course will help to expand one's active vocabulary. In addition to studying the textbook, each student will give a 5-minute presentation on an English book of his or her own choice. Students' required study time for each class meeting is at least one hour. Grading will be based on class participation (40%), assignments & weekly quizzes (40 %), book presentation (20%). In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive an academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で説明できる
- (2) 教材レベルの英語の音声を開いて内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
- (3) 教材の多様なトピックについて (とくに一つについては自分の関心に結びつけて情報収集・多面的考察・出典明示して) 情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、また、使う目線から便利な語彙や表現をピックアップして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声はスピーキングや音読のモデルとして活用し、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して (リスニング・スピーキング・読解にも役立つ) 音読練習を行い、自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語で要約や説明、論理的に意見交換する練習や、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、その場で指名して答えてもらったり、小テストや課題で確認します。質問や小テスト・課題等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション。 Unit 1 Cross-cultural understanding 導入	授業の進め方・評価について。リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
2	Unit 1 High & Low 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
3	Unit 2 Foods 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
4	Unit 2 Sustaining Culture 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
5	Unit 3 Foreign language learning 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
6	Unit 3 Will Machine Translation Replace Human Translators? 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
7	Unit 4 Sports 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)

8	Unit 4 Obstacle Course Racing 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
9	Unit 5 Fashion 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
10	Unit 5 The History of Jeans 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
11	Unit 6 Living things 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
12	Unit 6 Safer Distance 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング (要約・精読・意見交換)。プレゼンテーションのアドバイス
13	プレゼンテーション・リハーサル	プレゼンテーションの準備・練習・アドバイス
14	プレゼンテーション。春学期のまとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習: (1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も言えるよう準備。(2) 会話と文章の主旨の把握につとめる。未知の語句は文脈から類推し、辞書で確認する。(3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約 (1~2 文程度) を日本語と英語で練習する。(4) ダウンロード音声の区切り・抑揚・明瞭な発音に留意して音読練習する。②復習: (1) 理解を確認しながらテキストを再読。復習用資料を活用して書いたり声に出して定着させる。(2) ダウンロード音声を (テキストを見ながら／見ないで) リピート／シャドーイングする。(3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。(4) 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。(5) 書籍やウェブサイト等で情報収集、知識・視野を広げる。③ 学期末プレゼンテーション準備: プレゼン用資料を参考に少しずつ準備し、原稿を指示に沿って期限内に提出し、リハーサル・推敲する。※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとします。目標を持って授業に毎回出席し、理解を深めながら積極的に参加、復習で苦手克服・実力向上を目指します。

【テキスト (教科書)】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate* (4 技能統合型で学ぶ英語コース: 中級編) 金星堂、2,000 円 (税別) ※関連資料を使用する際は配布または指示します

【参考書】

随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への取り組み・小テスト／課題など) 85%、プレゼンテーション 15% の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が 4 回以上になると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】

意見交換・プレゼンテーションなどが刺激となり能動的に学べたという意見や継続的な予習と授業参加で力が伸びた実感などが聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートする内容・手法の充実を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参してください

【その他の重要事項】

授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各大学のメール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】

This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations (and short talks) on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.

The goals are to develop the abilities to read, summarize and comment on the essays, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's opinions and ideas about the topics.

Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least an hour per week preparing for and reviewing each class.

Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (85%), final presentation (15%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で説明できる
- (2) 教材レベルの英語の音声を聞いて内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
- (3) 教材の多様なトピックについて（とくに一つについては自分の関心に結びつけて情報収集・多面的考察・出典明示して）情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、また、使う目線から便利な語彙や表現をピックアップして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声はスピーキングや音読のモデルとして活用し、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して（リスニング・スピーキング・読解にも役立つ）音読練習を行い、自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語で要約や説明、論理的に意見交換する練習や、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、その場で指名して答えてもらったり、小テストや課題で確認します。質問や小テスト・課題等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Art 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
2	Unit 7 Moving Pictures, Before There Were Movies 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
3	Unit 8 Global issues 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
4	Unit 8 Jack's Cambodian Blog 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
5	Unit 9 Japanese culture 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
6	Unit 9 Cosplay: Bringing Anime to Life 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
7	Unit 10 Human rights 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）

8	Unit 10 Terrorism and Torture	リーディング (要約・精読・意見交換) 理解と考察
9	Unit 11 Health & medical issues	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換) 導入
10	Unit 11 How to Live a Long Life: Secrets of the Japanese	リーディング (要約・精読・意見交換) 理解と考察
11	Unit 12 Environmental issues	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換) 導入
12	Unit 12 Great Barrier Reef Speech	リーディング (要約・精読・意見交換)。プレゼンテーションのアドバース・リハーサル導入
13	プレゼンテーション・リハーサル	プレゼンテーション・リハーサル
14	プレゼンテーション。	発表・意見交換・講評。学期を振り返る (アンケート)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習: (1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も言えるよう準備。(2) 会話と文章の主旨の把握につとめる。未知の語句は文脈から類推し、辞書で確認する。(3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約 (1~2 文程度) を日本語と英語で練習する。(4) ダウンロード音声の区切り・抑揚・明瞭な発音に留意して音読練習する。②復習: (1) 理解を確認しながらテキストを再読。復習用資料を活用して書いたり声に出して定着させる。(2) ダウンロード音声 (テキストを見ながら／見ないで) リピート／シャドーイングする。(3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。(4) 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。(5) 書籍やウェブサイト等で情報収集、知識・視野を広げる。③ 学期末プレゼンテーション準備: プレゼン用資料を参考に少しずつ準備し、原稿を指示に沿って期限内に提出し、リハーサル・推敲する。※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとします。目標を持って授業に毎回出席し、理解を深めながら積極的に参加、復習で苦手克服・実力向上を目指します。

【テキスト (教科書)】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate* (4 技能統合型で学ぶ英語コース: 中級編) 金星堂、2,000 円 (税別) ※関連資料を使用する際は配布または指示します

【参考書】

随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への取り組み・小テスト／課題など) 85%、プレゼンテーション 15% の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が 4 回以上になると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】

意見交換・プレゼンテーションなどが刺激となり能動的に学べたという意見や継続的な予習と授業参加で力が伸びた実感などが聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートする内容・手法の充実を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参してください

【その他の重要事項】

授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】

This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations (and short talks) on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.

The goals are to develop the abilities to read, summarize and comment on the essays, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's opinions and ideas about the topics.

Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least an hour per week preparing for and reviewing each class.

Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (85%), final presentation (15%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

清水 純子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『ワクワクさせる美術品泥棒の物語を使って、英語を教えてください』— Olive Green はロンドン・ブックフェア国際優秀賞を受賞しています。英語学習のために撮り下ろされたドラマ「Olive Green」映像付コースブックテキストの 2 冊目、A2 編です。リスニングとスピーキングの 2 つの能力は、日本人学習者にとって苦手とされてきましたが、実際の言語使用において必要不可欠です。この映画を繰り返し視聴することにより、学習者は過度な負担を感じることなく、リスニング能力のレベルアップを行うことが可能となります。またこの映画は英語学習用に特別に撮り下ろされ、文法事項が導入されています。Olive Green は、楽しんで学習できる待望の英語テキストです。

【到達目標】

学生は、Olive Green 2 の音声と映像をテキストを通して楽しく学ぶことによって、現代国際社会に関わる単語と言い回しを学び、英語圏文化とグローバルな社会におけるしきたりを理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルを向上できる。このコースでは、A, B, C の成績評価を取得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面型です。コロナ感染拡大によって授業形式をやむなく変更することもあります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

演習型なので、1 回の授業で 1 度は発言したいです。

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたいです。まず重要な語句に注意しながらビデオを見て、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図ります。

テキスト内音声と映像は朝日出版社 HP アクセスによって利用可能です。

<https://text.asahipress.com/free/english/>

フィードバック方法は、授業中の講評を主とします。

この授業は対面型をめざします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Unit 1 In the Middle of Nowhere その 1	DVD+Reading
3	Unit 1 In the Middle of Nowhere その 2	CD + Reading + DVD + Exercises
4	Unit 1 In the Middle of Nowhere その 3	DVD + Exercises

5 Unit 2 Blackmail DVD+Reading

その 1

6 Unit 2 Blackmail CD + Reading + DVD + Exercises

その 2

7 Unit 2 Blackmail DVD + Exercises

その 3

8 Unit 3 Home Sweet Home その 1

9 Unit 3 Home Sweet Home その 2

10 Unit 3 Home Sweet Home その 3

11 Unit 4 Negotiations その 1

12 Unit 4 Negotiations その 2

13 Unit 4 Negotiations その 2

14 授業内まとめのテストとその解説

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

Unit 4 Negotiations その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書籍名 オリブグリーン ミステリードラマで学ぶ実用英語 CEFR-2

Olive Green: Learning English through a Mystery Drama (CEFR-A2) /

著者名 浅利庸子他 / 出版社 朝日出版社/

出版年 2022 年/価格 2,640 円 /

ISBN 978 - 4 - 255 - 15683 - 5 C1082/

シリーズの 2 冊目なので注意！

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

朝日出版社音声・映像ストーリーミング

<https://text.asahipress.com/free/english/>

【成績評価の方法と基準】

2/3 以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度 (50%)、そして筆記テスト (50 %) の総合判断による。60 点以上が合格点である。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面所業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。

教科書の音声は、朝日出版社 HP にアクセスして使用できる。

<https://text.asahipress.com/free/english/>

[None]

None

[None]

None

[None]

None

[None]

None

[None]

None

[Outline (in English)]

This class is face-to-face lessons.

"Olive Green" teaches English with an exciting story of an art thief. "Olive Green" is a winner of the London Book Fair International Award of Excellence. This is the second A2 edition of the course book text with Olive Green video, a drama filmed for English language learning. Listening and speaking are two skills that have been considered weak by Japanese learners, but are essential for actual language use. Repeated viewing of this film will allow learners to improve their listening skills without feeling overwhelmed. "Olive Green" is the long-awaited English textbook that makes learning fun.

This course deals with the A, B, C. It also enhances the development of students' skill in D.

Students will learn words and phrases relevant to modern international society, understand English-speaking cultures and conventions in the global community, and improve their English language skills and abilities for living and working abroad by learning audio and video from Olive Green2 through the text in a fun way.

The class format may be unavoidably changed due to the spread of corona infection, details of which will be posted on the learning support system.

Since this is an exercise-type class, I would like you to speak up at least once per class.

Ideally, we would like to complete this text, which is one theme per unit, in two classes. First we will listen to the CD, paying attention to important words and phrases, then we will read and understand the text, and do the exercises. At the end of the semester, we will choose an informative film to critique and exchange ideas.

In-text audio will be available through Seibido's website access.

The main method of feedback will be in-class critiques.

Preparation for each class is necessary. You will need to look up the vocabulary carefully before coming to class. You may use any dictionary you like. Read the English sentences in the reading section. After the reading of each chapter, you are expected to do the homework: practice exercises in each unit. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

Attendance of at least 2/3 of the class is required. Evaluation will be based on the contribution to the class (50%) and a written test (50%). 60 points or more is a passing grade.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

The above is the case for face-to-face classes, and appropriate changes will be made when online classes are switched to face-to-face classes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

清水 純子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

『ワクワクさせる美術品泥棒の物語を使って、英語を教えてくれる』— Olive Green はロンドン・ブックフェア国際優秀賞を受賞しています。英語学習のために撮り下ろされたドラマ「Olive Green」映像付コースブックテキストの 2 冊目、A2 編です。リスニングとスピーキングの 2 つの能力は、日本人学習者にとって苦手とされてきましたが、実際の言語使用において必要不可欠です。この映画を繰り返し視聴することにより、学習者は過度な負担を感じることなく、リスニング能力のレベルアップを行うことが可能となります。またこの映画は英語学習用に特別に撮り下ろされ、文法事項が導入されています。Olive Green は、楽しんで学習できる待望の英語テキストです。

【到達目標】

学生は、Olive Green 2 の音声と映像をテキストを通して楽しく学ぶことによって、現代国際社会に関わる単語と言い回しを学び、英語圏文化とグローバルな社会におけるしきたりを理解し、海外での生活と活躍に役立つ英語力とスキルを向上できる。このコースでは、A, B, C の成績評価を取得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面型です。コロナ感染拡大によって授業形式をやむなく変更することもあります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

演習型なので、1 回の授業で 1 度は発言したいです。

1 ユニットで 1 テーマをなす本テキストを理想的には 2 回の授業で仕上げたいです。まず重要な語句に注意しながらビデオを見て、Reading の英文を読んで理解し、次に練習問題を解く。学期の終わりには、有益な映画を選んで批評と意見交換を図ります。

テキスト内音声と映像は朝日出版社 HP アクセスによって利用可能です。

<https://text.asahipress.com/free/english/>

フィードバック方法は、授業中の講評を主とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業を受講するにあたっての留意点出欠、遅刻、予習、復習、テスト、評価、部活、その他について質疑応答
2	Unit 5 Visiting Cloutier その 1	DVD+Reading
3	Unit 5 Visiting Cloutier その 2	CD + Reading + DVD + Exercises
4	Unit 5 Visiting Cloutier その 3	DVD+Exercises
5	Unit 6 At Alfie's Place その 1	DVD+Reading
6	Unit 6 At Alfie's Place その 2	CD + Reading + DVD + Exercises

7	Unit 6 At Alfie's Place その3	DVD+Exercises
8	Unit 7 David in a Trap その1	DVD+Reading
9	Unit 7 David in a Trap その2	CD + Reading + DVD + Exercises
10	Unit 7 David in a Trap その3	DVD+Exercises
11	Unit 8 Confrontation その1	DVD+Reading
12	Unit 8 Confrontation その2	CD + Reading + DVD + Exercises
13	Unit 8 Confrontation その3	DVD+Exercises 今学期学習したことの質疑応答 + まとめテストの説明
14	授業内まとめのテストとその解説	DVD+Exercises 内容は未定ならびに秘密事項

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習をして授業に臨んでほしい。授業に臨む前に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。リーディング部分の英文を読んでおく。各章のリーディング終了後には宿題:各チャプター内の練習問題をこなす。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書籍名 オリーブグリーン ミステリードラマで学ぶ実用英語 CEFR-2

Olive Green: Learning English through a Mystery Drama (CEFR-A2) /

著者名 浅利庸子他 / 出版社 朝日出版社/出版年 2022 年/価格 2,640 円 /

ISBN 978 - 4 - 255 - 15683 - 5 C1082/

シリーズの2冊目なので注意！

【参考書】

各人の気に入った辞書およびインターネット情報担当教員から履修者へのコメント：毎回予習をして授業に臨んでほしい。特に単語を丹念に調べる必要がある。使用する辞書は気に入ったものであれば何でもよい。

朝日出版社音声・映像ストーリーミング

<https://text.asahipress.com/free/english/>

【成績評価の方法と基準】

2/3以上の出席を必要とする。評価方法は授業内貢献度(50%)、そして筆記テスト(50%)の総合判断による。60点以上が合格点である。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。以上は対面授業の場合であり、オンライン授業に切り替わった場合は適切な変更を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容ややり方についての希望やコメント、質問を積極的に発言してほしい。アンケートまで待たずに教えていただけると、早めに改善できる可能性もある。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（紙、電子、web すべて可）

【その他の重要事項】

やむを得ない欠席および早退遅刻においては、事前および事後に届けしてほしい。交通機関の遅延も考慮する場合もある。

コロナ流行下の授業により、学習の方法が変更になる可能性はあるが、指定した教科書を使用する。

対面がオンラインに急に変わる場合は相談します。

教科書の音声は、朝日出版社 HP にアクセスして使用できる。

<https://text.asahipress.com/free/english>

【Outline (in English)】

This class is face-to-face lessons.

"Olive Green" teaches English with an exciting story of an art thief. "Olive Green" is a winner of the London Book Fair International Award of Excellence. This is the second A2 edition of the course book text with Olive Green video, a drama filmed for English language learning. Listening and speaking are two skills that have been considered weak by Japanese learners, but are essential for actual language use. Repeated viewing of this film will allow learners to improve their listening skills without feeling overwhelmed. "Olive Green" is the long-awaited English textbook that makes learning fun. This course deals with the A, B, C. It also enhances the development of students' skill in D.

Students will learn words and phrases relevant to modern international society, understand English-speaking cultures and conventions in the global community, and improve their English language skills and abilities for living and working abroad by learning audio and video from Olive Green2 through the text in a fun way.

The class format may be unavoidably changed due to the spread of corona infection, details of which will be posted on the learning support system.

Since this is an exercise-type class, I would like you to speak up at least once per class.

Ideally, we would like to complete this text, which is one theme per unit, in two classes. First we will listen to the CD, paying attention to important words and phrases, then we will read and understand the text, and do the exercises. At the end of the semester, we will choose an informative film to critique and exchange ideas.

In-text audio will be available through Seibido's website access.

The main method of feedback will be in-class critiques.

Preparation for each class is necessary. You will need to look up the vocabulary carefully before coming to class. You may use any dictionary you like. Read the English sentences in the reading section. After the reading of each chapter, you are expected to do the homework: practice exercises in each unit. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

Attendance of at least 2/3 of the class is required. Evaluation will be based on the contribution to the class (50%) and a written test (50%). 60 points or more is a passing grade.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

The above is the case for face-to-face classes, and appropriate changes will be made when online classes are switched to face-to-face classes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする可能性もある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter1	語彙の予習と本文の精読
2	CXchapter1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Chapter1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Chapter2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Chapter2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Chapter3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Chapter3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Chapter4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Chapter4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Chapter5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Chapter5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Chapter6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Chapter6,7	Unit6 小テスト、Unit7 の語彙の予習と本文の精読
14	Chapter7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト (教科書)】

『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』

田中孝信、野田三貴、筒井香代子編著

音羽書房鶴見書店

2016 年初版発行 2021 年第 7 刷発行 2000 円 + 税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

(音声を用いたリスニングがあるため)

【Outline (in English)】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.

The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。なお、感染症の拡大状況によってはオンライン授業との併用とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Unit14 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』

田中孝信、野田三貴、筒井香代子

音羽書房鶴見書店

2016 年初版発行、2021 年 7 刷発行 2000 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.

The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生は、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立つてとらえることができるようになることを目的としています。学生は、毎時間 NHK の「世界へ発信! SNS 英語術」(仮題) を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

学生は以下の目標を掲げ、到達できるようにします。

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自律的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信! SNS 英語術」(仮題)

①指定のニュースを辞書を引きながら速読します。

②ニュースの解説

③クラスでの議論

2 テキストの学習

① Words& Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概要の説明
2	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (語彙、DVD)
3	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (訳読)
4	最新のニュース テキストの学習	Manga Message for the Young (まとめ)
5	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (語彙)
6	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (DVD)
7	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (訳読)

8	最新のニュース テキストの学習	Jumping for the Victory (まとめ)
9	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (語彙)
10	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (DVD)
11	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (訳読)
12	最新のニュース テキストの学習	Seeking Quality over Cost (まとめ)
13	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (語彙)
14	最新のニュース	春学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は以下のように、準備学習、復習をする。

1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読 (パラグラフごとに大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業に出席しましょう。)
 2. 復習 (テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。)
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80 %、平常点 20 % 合格点は 60 %。欠席が 4 回以上の場合、単位の認定はいたしません。

学生は、期末レポートでは、パラグラフを意識しながら読解できたか、文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できたか、辞書を使えたか、ニュース英語を理解したか、自律的に課題に取り組めたか等で評価いたします。

期末レポートは、必ず提出期限内に Hoppii に提出してください。その他の提出手段は認めておりません。やむを得ず病気がでる期限に遅延する場合は、医師による診断書が必要になりますので注意してください。一度提出したレポートを再提出することはできません。平常点は、授業中の積極性、態度等により評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

学生はテキストの内容把握に時間を要するため、DVD を丁寧に見ていくようにします。

【学生が準備すべき機器他】

英和、和英辞書を持参すること

【その他の重要事項】

授業はすべて Zoom で行います。

マイク付きヘッドセットを用意し、間隔をあけて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。

上記のシラバスは、授業進行上、変更を加えます。

担当教員との連絡方法は、授業中にお知らせいたします。

【Outline (in English)】

< Outline >

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. In the beginning of every class, the students will read the current news. After that, the students will read and listen to the several phrases of Japanese culture.

< Goals >

The students will attain the following goals in this term:

1. To improve reading skills while paying attention to the structures of paragraphs.
2. To summarize the reading materials and express the students' opinions in English.
3. To use English-English dictionary or English-Japanese dictionary effectively.
4. To understand News in English and express the students' opinions in English
5. To Study English by themselves even outside classroom.

< Work to be done outside class >

The students will prepare for the class and review the class as follows:

1.To prepare for the class by reading aloud and translating the text.

(The students have to understand where to ask in the next class.)

2.To review the class by reading aloud three times and by checking the content of the text and vocabulary)

The students need to study two hours for this class.

< Grading criteria >

Term-end paper 80% Attendance 20% Passing Grade 60%

The students cannot be absent from class more than four times for credits.

The students will be judged if they attain five goals above.

The students have to submit their papers to Hoppii before the set deadline. Other means will not be allowed. If the students cannot submit them due to circumstances beyond their control(illness, for example), the students need to attach medical certificate by a doctor. The students cannot correct papers that they once submitted.

Attendance includes the students' positive attitudes.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

村松 美映子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、読む、書く、聞く、話すといった英語運用能力を高めるとともに、日本と日本文化を国際的な視座に立ってとらえることができるようになることを目的としています。学生は、毎時間 NHK の「世界へ発信!SNS 英語術」(仮題)を使い、現在ニュースで話題になっているテーマを取り上げ、読解を行います。そして外国人の視点から見た日本の諸相を話題にした教材を使い、国際的文脈の中での日本をさらに深くとらえて行きます。

【到達目標】

学生は、以下の目標を掲げ、到達できる。

1. 文章のパラグラフを意識しながら、精読、速読の力を高めることができる。
2. 文章の要旨をまとめたり、自分の意見を英語で表現できるようになる。
3. 未習の単語、熟語が出てきたときに、辞書を効果的に使うことができるようになる。
4. ある程度の長さのニュース英語を理解し、自分の意見を英語で表現できるようになる。
5. 授業外でも自立的に英語を学べる姿勢を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1.NHK「世界へ発信！ SNS 英語術」(仮題)

①ニュースを辞書を引きながら読解します。

②ニュースの解説

③クラスでの議論

2 テキストの学習

① Words& Phrases

② Before you Watch

③ Watch the News

④ Understand the News

⑤ News の読解

⑥ Review the Key Expressions

課題のフィードバックは、各学生にメールで伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (DVD)
2	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (訳読)
3	最新のニュース テキストの学習	Getting Dads Home Earlier (まとめ)
4	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (語彙)
5	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (DVD)
6	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (訳読)
7	最新のニュース テキストの学習	Plugging Privacy (まとめ)

8	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (語彙)
9	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (DVD)
10	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (訳読)
11	最新のニュース テキストの学習	Recycling Messages of Hope (まとめ)
12	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (語彙)
13	最新のニュース テキストの学習	Breaking Out (DVD)
14	テキストの学習	Breaking Out(訳読 まとめ)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

学生は、準備学習と復習を以下のように行う。

1. 準備学習テキストの指定箇所の予習。音読、訳読 (パラグラフごと) に大体の意味が分かるまで精読し、分からない箇所はどこか明らかにしてから授業を受けましょう。
2. 復習テキストは音読 3 回。内容と語彙の確認をしましょう。他のニュースにもふれるようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Tasuroh Yamazaki, Stella M. Yamazaki, & Erika C. Yamazaki. (2017) What's on Japan, Kinseido

【参考書】

VOA Learning English <https://learningenglish.voanews.com/>

【成績評価の方法と基準】

学生は、以下のように評価される。

期末レポート 80 %、平常点 20 %、合格点 60 %

欠席が 4 回以上の場合は、単位の認定はいたしません。

期末レポートは、必ず提出期限内に Hoppii に提出してください。その他の提出手段は認めておりません。やむを得ず病気がでる期限に遅延する場合は、医師による診断書が必要になりますので注意してください。一度提出したレポートを再提出することはできません。平常点は、授業中の積極性、態度等により評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

学生は教科書の DVD を難しいと感じているようなので、丁寧に解説していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

英和和英辞書

【その他の重要事項】

授業はすべて Zoom で行います。

マイク付きヘッドセットを用意し、間隔を空けて着席し、換気をする等の感染予防対策をとってください。

上記のシラバスは、授業進行上、若干の変更を加えることがあります。担当教員との連絡方法は、授業中に指示いたします。

【Outline (in English)】

< Outline >

The students are to study the four areas of English: Reading, Writing, Listening, Speaking, and also to view Japan and Japanese culture from the international points of views. In the beginning of every class, the students will read the current news. After that, the students will read and listen to the several phrases of Japanese culture.

< Goals >

The students will attain the following goals in this term:

1. To improve reading skills while paying attention to the structures of paragraphs.
2. To summarize the reading materials and express the students' opinions in English.
3. To use English-English dictionary or English-Japanese dictionary effectively.
4. To understand News in English and express the students' opinions in English
5. To Study English by themselves even outside classroom.

< Work to be done outside class >

The students will prepare for the class and review the class as follows:

1. To prepare for the class by reading aloud and translating the text.

(The students have to understand where to ask in the next class.)

2. To review the class by reading aloud three times and by checking the content of the text and vocabulary)

The students need to study two hours for this class.

< Grading criteria >

Term-end paper 80% Attendance 20% Passing Grade 60%

The students cannot be absent from class more than four times for credits.

The students will be judged if they attain five goals above.

The students have to submit their papers to Hoppii before the set deadline. Other means will not be allowed. If the students cannot submit them due to circumstances beyond their control (illness, for example), the students need to attach medical certificate by a doctor. The students cannot correct papers that they once submitted.

Attendance includes the students' positive attitudes.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で説明できる
- (2) 教材レベルの英語の音声を開いて内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
- (3) 教材の多様なトピックについて（とくに一つについては自分の関心に結びつけて情報収集・多面的考察・出典明示して）情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、また、使う目線から便利な語彙や表現をピックアップして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声はスピーキングや音読のモデルとして活用し、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して（リスニング・スピーキング・読解にも役立つ）音読練習を行い、自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語で要約や説明、論理的に意見交換する練習や、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、その場で指名して答えてもらったり、小テストや課題で確認します。質問や小テスト・課題等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション。 Unit 1 Cross-cultural understanding 導入	授業の進め方・評価について。リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
2	Unit 1 High & Low 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
3	Unit 2 Foods 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
4	Unit 2 Sustaining Culture 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
5	Unit 3 Foreign language learning 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
6	Unit 3 Will Machine Translation Replace Human Translators? 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
7	Unit 4 Sports 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）

8	Unit 4 Obstacle Course Racing 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
9	Unit 5 Fashion 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
10	Unit 5 The History of Jeans 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
11	Unit 6 Living things 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
12	Unit 6 Safer Distance 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）。プレゼンテーションのアドバース
13	プレゼンテーション・リハーサル	プレゼンテーションの準備・練習・アドバイス
14	プレゼンテーション。春学期のまとめ	発表・意見交換・講評。学期の振り返りと今後の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：(1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も言えるよう準備。(2) 会話と文章の主旨の把握につとめる。未知の語句は文脈から類推し、辞書で確認する。(3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1～2 文程度）を日本語と英語で練習する。(4) ダウンロード音声の区切り・抑揚・明瞭な発音に留意して音読練習する。②復習：(1) 理解を確認しながらテキストを再読。復習用資料を活用して書いたり声に出して定着させる。(2) ダウンロード音声を（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイングする。(3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。(4) 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。(5) 書籍やウェブサイト等で情報収集、知識・視野を広げる。③ 学期末プレゼンテーション準備：プレゼン用資料を参考に少しずつ準備し、原稿を指示に沿って期限内に提出し、リハーサル・推敲する。※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとします。目標を持って授業に毎回出席し、理解を深めながら積極的に参加、復習で苦手克服・実力向上を目指します。

【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）※関連資料を使用する際は配布または指示します

【参考書】

随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み・小テスト／課題など）85%、プレゼンテーション 15%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が 4 回以上になると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】

意見交換・プレゼンテーションなどが刺激となり能動的に学べたという意見や継続的な予習と授業参加で力が伸びた実感などが聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートする内容・手法の充実を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参してください

【その他の重要事項】

授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各々の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】

This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations (and short talks) on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.

The goals are to develop the abilities to read, summarize and comment on the essays, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's opinions and ideas about the topics.

Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least an hour per week preparing for and reviewing each class.

Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (85%), final presentation (15%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

岩坪 友子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会・文化の諸相を扱う英語教材を通して、知識や問題意識、クリティカル・シンキング力を養いながら、主として英語リーディング力とリスニング力を伸ばします。話された／書かれた内容を理解し、考察し、要約・説明したり意見を述べる練習を繰り返すことで、自信と関心を深めます。

【到達目標】

- (1) 教材レベルの英語の文章について、構成・内容を理解し、日本語や平易な英語で説明できる
- (2) 教材レベルの英語の音声を聞いて内容を理解できるとともに、伝わりやすいイントネーションで発音・音読できる
- (3) 教材の多様なトピックについて (とくに一つについては自分の関心に結びつけて情報収集・多面的考察・出典明示して) 情報や自分の見解を日本語や平易な英語で論理的に表現できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

予習を前提として、授業ではまとまった長さの会話および文章の内容や表現の確認・練習を行います。教科書は各課リスニングとリーディングのパートから成り、受信 → 考察 → 発信の流れを促す構成です。リスニングでは音の性質・会話の展開・話者の態度・表現などに注目します。リーディングでは全体および各パラグラフの構成・要旨の把握を主眼とし、また、使う目線から便利な語彙や表現をピックアップして論理的な表現方法を身につけることを目指します。付属音声はスピーキングや音読のモデルとして活用し、単語の強勢・抑揚・間の取り方に留意して (リスニング・スピーキング・読解にも役立つ) 音読練習を行い、自然で明瞭な発話を目指します。ペア・グループ・クラス全体で、日本語や英語で要約や説明、論理的に意見交換する練習や、会話・音読練習を行います。予習・復習や理解・考察などについて、その場で指名して答えてもらったり、小テストや課題で確認します。質問や小テスト・課題等へのフィードバックやアドバイスを授業内で行います。学期末プレゼンテーションは指示に沿って原稿を期日までに提出し、リハーサル・推敲を経て実施します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7 Art 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
2	Unit 7 Moving Pictures, Before There Were Movies 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
3	Unit 8 Global issues 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
4	Unit 8 Jack's Cambodian Blog 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
5	Unit 9 Japanese culture 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)
6	Unit 9 Cosplay: Bringing Anime to Life 理解と考察	リーディング (要約・精読・意見交換)
7	Unit 10 Human rights 導入	リスニング。リーディング (速読・要約・意見交換)

8	Unit 10 Terrorism and Torture 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
9	Unit 11 Health & medical issues 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
10	Unit 11 How to Live a Long Life: Secrets of the Japanese 理解と考察	リーディング（要約・精読・意見交換）
11	Unit 12 Environmental issues 導入	リスニング。リーディング（速読・要約・意見交換）
12	Unit 12 Great Barrier Reef Speech 理解と考察。プレゼンテーション・リハーサル導入	リーディング（要約・精読・意見交換）。プレゼンテーションのアドバース
13	プレゼンテーション・リハーサル	プレゼンテーション・リハーサル
14	プレゼンテーション。秋学期のまとめ	発表・意見交換・講評。学期を振り返る（アンケート）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

①予習：(1) テキストのリスニング・リーディング問題を解き、根拠も言えるよう準備。(2) 会話と文章の主旨の把握につとめる。未知の語句は文脈から類推し、辞書で確認する。(3) 文章構成を意識して、パラグラフごとの要約（1～2 文程度）を日本語と英語で練習する。(4) ダウンロード音声の区切り・抑揚・明瞭な発音に留意して音読練習する。②復習：(1) 理解を確認しながらテキストを再読。復習用資料を活用して書いたり声に出して定着させる。(2) ダウンロード音声（テキストを見ながら／見ないで）リピート／シャドーイングする。(3) テキストで使われているキーワードや表現を使って内容の要約を言って／書いてみる。(4) 題材に対する自分の意見を言って／書いてみる。(5) 書籍やウェブサイト等で情報収集、知識・視野を広げる。③ 学期末プレゼンテーション準備：プレゼン用資料を参考に少しずつ準備し、原稿を指示に沿って期限内に提出し、リハーサル・推敲する。※予習 → 授業 → 復習を基本のセットとします。目標を持って授業に毎回出席し、理解を深めながら積極的に参加、復習で苦手克服・実力向上を目指します。

【テキスト（教科書）】

VELC 研究会教材開発グループ、望月正道、静哲人、熊澤孝昭 編著、*AMBITIONS Intermediate*（4 技能統合型で学ぶ英語コース：中級編）金星堂、2,000 円（税別）※関連資料を使用する際は配布または指示します

【参考書】

随時授業中に紹介・指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み・小テスト／課題など）85%、プレゼンテーション 15%の割合で、上記到達目標 (1)(2)(3) の達成度に照らして評価します。※欠席が 4 回以上になると原則として単位取得の資格を失いますので注意してください

【学生の意見等からの気づき】

意見交換・プレゼンテーションなどが刺激となり能動的に学べたという意見や継続的な予習と授業参加で力が伸びた実感などが聞かれましたので、みなさんの取り組みをサポートする内容・手法の充実を図りたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参してください

【その他の重要事項】

授業の連絡事項や課題・資料配布などに学習支援システムを使います。各自の大学メール・アカウントとともに、こまめにチェックしてください

【Outline (in English)】

This course is designed to help students develop their reading and listening skills. Students will read essays on a wide range of issues in the world today and listen to conversations (and short talks) on a variety of related topics, thinking critically about them. Students will also give a short presentation, integrating skills and knowledge acquired during the course and developing their confidence in English communication.

The goals are to develop the abilities to read, summarize and comment on the essays, grasp the main points of spoken materials, read aloud effectively, and communicate one's opinions and ideas about the topics.

Completing assignments (preparation for the class, including listening to a recording, reading the text and answering questions) before each class meeting is essential. Students are expected to spend at least an hour per week preparing for and reviewing each class.

Grading criteria: active class participation, assignments and quizzes (85%), final presentation (15%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

近藤 隆子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界の国々の歴史・文化・社会などを扱う英語教材を通して、他国について様々な角度から理解を深めるとともに、総合的な英語力を養う。主として英語のリーディング力とリスニング力を伸ばす。各課は、リーディング中心の前半とリスニング中心の後半で構成されている。前半では、Warm-up Exercise で各国に関する背景知識をクラスメートと活性化し、Vocabulary Exercise で Reading の中に出てくる重要語彙を予習したうえで、Reading と Reading Comprehension で読解練習をし、読む力を育成する。そして、後半では、英語のネイティブスピーカーが各国について視覚的に紹介する映像と地元の人々がそれぞれの国について話すインタビュー形式の映像の視聴をとおして、聴解練習をしていく。英語のネイティブスピーカーだけではなく、ノンネイティブスピーカーの英語にも触れ、聴く力を育成する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できる
- ・目的に応じた速度で効果的に英文を読むことができる
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を把握できる
- ・英語で書かれた・話された内容を、日本語や英語で要約・説明できる
- ・論理的に文法・構文を説明できる
- ・世界で使用されている様々な英語を効果的に聞き取り、意味をつかむことができる
- ・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

受講生は予習として Reading passage を事前に読み、online videos を視聴し、指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って予習してきた問題・内容確認を行います。また、文章の内容や注意すべき文法・構文、語彙などを確認します。ペア・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合ってください。一つのチャプターが終わったら、次の週に小テストを行います。小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、Chapter 1 India	授業の概要説明, Chapter 1 India の Warm-up Exercise, Vocabulary Exercise, 文章の速読の練習
第 2 回	Chapter 1 India, Chapter 2 Philippines	Chapter 1 India: Online video 内容確認 Chapter 2 Philippines: 文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認
第 3 回	Chapter 3 Thailand	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 4 回	Chapter 4 Vietnam	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

第 5 回	Chapter 5 Korea	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 6 回	Chapter 6 France	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 7 回	Chapter 7 Italy	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 8 回	Chapter 8 Denmark	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 9 回	Chapter 9 Portugal	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 10 回	Chapter 10 Turkey	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 11 回	Chapter 11 Egypt	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 12 回	Chapter 12 South Africa	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 13 回	Chapter 13 Brazil	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 14 回	Chapter 14 Peru	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習: 指示に従って、教科書の本文の要約、エクササイズ、オンラインビデオの視聴、内容理解をしたうえで、授業に出席する。
復習: 学習した内容が定着するよう (同時に、小テスト対策として)、語彙、文法事項、本文内容、オンラインビデオの内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Scott Berlin & Megumi Kobayashi. "World Adventures" 金星堂、2021 年、2300 円 (税別)

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期中の小テスト 60%、課題 30%、平常点 10%による総合評価。特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります (30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします)。オンライン授業 (Zoom 使用) の場合も同様で、授業の最初に出席状況を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業に出席してください
- ・授業には辞書を持参してください (英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い)
- ・積極的に授業に参加することが求められます
- ・授業中の携帯電話の使用は不可です (教室での授業の場合)
- ・速隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students deepen their understanding of other countries from various perspectives and cultivate comprehensive English abilities. This course mainly enhances the development of students' skills in reading and listening in English.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Students should be able to read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes
- Students will acquire effective listening skills
- Students should be able to use dictionaries effectively

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on vocabulary quizzes and unit tests (60%), homework assignments (30%), and in-class contribution (10%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

近藤 隆子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の国々の歴史・文化・社会などを扱う英語教材を通して、他国について様々な角度から理解を深めるとともに、総合的な英語力を養う。主として英語のリーディング力とリスニング力を伸ばす。各課は、リーディング中心の前半とリスニング中心の後半で構成されている。前半では、**Warm-up Exercise** で各国に関する背景知識をクラスメートと活性化し、**Vocabulary Exercise** で **Reading** の中に出てくる重要語彙を予習したうえで、**Reading** と **Reading Comprehension** で読解練習をし、読む力を育成する。そして、後半では、英語のネイティブスピーカーが各国について視覚的に紹介する映像と地元の人がそれぞれの国について話すインタビュー形式の映像の視聴をとおして聴解練習をしていく。英語のネイティブスピーカーだけではなく、ノンネイティブスピーカーの英語にも触れ、聴く力を育成する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できる
- ・目的に応じた速度で効果的に英文を読むことができる
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を把握できる
- ・英語で書かれた・話された内容を、日本語や英語で要約・説明できる
- ・論理的に文法・構文を説明できる
- ・世界で使用されている様々な英語を効果的に聞き取り、意味をつかむことができる
- ・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生は予習として **Reading passage** を事前に読み、**online videos** を視聴し、指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って予習してきた問題・内容確認を行います。また、文章の内容や注意すべき文法・構文、語彙などを確認します。ペア・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合ってください。一つのチャプターが終わったら、次の週に小テストを行います。小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、 Chapter 1 Australia	授業の概要説明、文章の内容確認、 エクササイズ、Online video 内容確認
第 2 回	Chapter 2 Indonesia	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 3 回	Chapter 3 Singapore	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 4 回	Chapter 4 China	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 5 回	Chapter 5 Argentina	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 6 回	Chapter 6 Mexico	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト

第 7 回	Chapter 7 Germany	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 8 回	Chapter 8 Finland	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 9 回	Chapter 9 Poland	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 10 回	Chapter 10 Spain	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 11 回	Chapter 11 Greece	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 12 回	Chapter 12 Kenya	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 13 回	Chapter 13 Morocco	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 14 回	Chapter 14 Lebanon	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト

Grading will be decided based on vocabulary quizzes and unit tests (60%), homework assignments (30%), and in-class contribution (10%).

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指示に従って教科書の本文の要約、エクササイズ、オンラインビデオの視聴、内容理解をしたうえで、授業に出席する。

復習：学習した内容が定着するよう（同時に、小テスト対策として）、語彙、文法事項、本文内容、オンラインビデオの内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Scott Berlin & Megumi Kobayashi. "On Board for More World Adventures" 金星堂、2021 年、2300 円（税別）

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期中の小テスト 60%、課題 30%、平常点 10%による総合評価。特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。オンライン授業（Zoom 使用）の場合も同様で、授業の最初に出席状況を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業に出席してください
- ・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
- ・積極的に授業に参加することが求められます
- ・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
- ・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students deepen their understanding of other countries from various perspectives and cultivate comprehensive English abilities. This course mainly enhances the development of students' skills in reading and listening in English.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Students should be able to read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes
- Students will acquire effective listening skills
- Students should be able to use dictionaries effectively

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。

速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。

必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。This course introduces reading and writing to students taking this course.

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取る。また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。Students will learn how to paraphrase what they have read and then write in English a summary of and comments on what they have read. The goals of this course are to reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

Students will attend seminar in English I class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。

Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。

Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容と提出率で評価します。レポートでの評価 100 %、セメスター内で、4 回以上のレポート未提出をした場合には単位取得が不可能になります。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report 100 %.

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goals of this course are to reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports 100 %.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掴み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにする。英語辞書の効果的な使い方が出来るようにする。This course introduces reading and writing to students taking this course.

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。Students will learn how to paraphrase what they have read and then write in English a summary of and comments on what they have read. The goals of this course are reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。Students will attend seminar in English I class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。

Chapter Japan

Japan を学習する。

9

ビデオ ビデオ学習。
試験 試験を行う。

ビデオ学習をする。
試験を行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Major Countries In The World (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円 + 税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容と提出率で評価します。レポートでの評価 100 %、セメスター内で、4 回以上のレポート未提出をした場合には単位取得が不可能になります。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report 100 %.

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。
英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。
授業中、スマホはカバンの中にしまっておくこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goals of this course are to reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports 100 %.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
- ・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、Zoom で実施します。
- ・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声聞き、予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？ (前半)
3	Chapter 1	(後半)
4	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状 (前半)
5	Chapter 2	(後半)
6	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来 (前半)
7	Chapter 3	(後半)
8	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」 (前半)
9	Chapter 4	(後半)

10	Chapter 5 Social class	階級社会の実情 (前半)
11	Chapter 5	(後半)
12	Chapter 6 Schools and education	学校教育の仕組み (前半)
13	Chapter 6	(後半)
14	Chapter 7 University students	大学と高等教育 (前半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、授業態度等）30 % + 平常の課題 20 % + 学期末試験（レポート）50 % = 100 %
- ・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。
- ・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点対象となりうる。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら適宜判断します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), mid-term assignment (20%), and term-end essay (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ブレグジット (Brexit) という言葉を聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習しておくこと。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 University students and higher education	(後半)
2	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性 (前半)
3	Chapter 8	(後半)
4	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術, 発明, ビジネス (前半)
5	Chapter 9	(後半)
6	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま (前半)
7	Chapter 10	(後半)
8	Chapter 11 Food	英国の食文化 (前半)
9	Chapter 11	(後半)
10	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜 (前半)
11	Chapter 13	(後半)

12	chapter 15 The arts	芸術 (前半)
13	Chapter 16 Homes, gardens and the countryside	「home」と「garden」 (前半)
14	Chapter 16	(後半)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のいま』を知りたい (改定新版) 音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円 + 税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』(研究社)が入っている電子辞書をお勧めします (紙媒体でも可)。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (授業参加度、授業態度等) 30 % + 平常の課題 20 % + 学期末試験 50 % = 100 %
- ・各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1 回の欠席につき平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。
- ・授業態度が悪い (居眠り、私語等) 場合は減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), mid-term assignment (20%), and term-end examination (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることと読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・ペアまたはグループ・ワークを中心に集中力を持って内容を理解し大意をつかむ
- ・内容把握後に音読することで英語独特のリズムと英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力を上げる
- ・ユニットごとに単語の試験を実施し修得確認の機会を設ける
- ・パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する
- ・質問などへのフィードバックは授業内またはメールで行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Reviewing the context; Reading aloud
4	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary

5	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Note-taking: Reviewing the context; Reading aloud
6	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
7	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
8	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
13	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習では各パッセージを事前に読み、練習問題に目を通しておく。筆者が「なにを」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書きだす
- ・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習し、日本語を介さず理解できるように復唱することを習慣化する
- ・理解するだけで満足せず、それを英語で「自分の言葉で」説明する練習も面倒がらずに繰り返していく
- ・ユニットごとに実施される単語の試験で修得程度を確認すること
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ¥3,060+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

- ・授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視）
- ・ユニットごとに行われる小テスト 20 %
- ・Review text 50 %

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・対面授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進みます。単語レベルでも英語を英語で説明することに苦労したようですが次第に考える習慣がつき、さらに筆者が「言おうとしていること」であるメイン・アイデアを把握できた受講生は、英語で説明したり発話することに抵抗がなくなってきたようでした。ただ話はなんとなくできても、理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するとなると簡単ではなく、適切な長さにまとめる練習が必要となりました。
- ・オンライン授業では逆に「自分のペース」で徹底して英語の「発音練習」や「フレーズ修得」ができており、自分の弱点や不得意な部分に「気付ける」ような学習の進め方が出来たようでした。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書。電子辞書や携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】

- ・授業中の共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます
- ・感染症対策として授業では不織布のマスク着用を求めます
- ・欠席や課題提出の遅延に関してメールで連絡する場合には、必ず理由とその証拠を提示してください

【Outline (in English)】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

< Learning Objectives >

- ・ You will expand your vocabulary
- ・ You will learn the natural flow of English; get used to pronouncing English sentences and improving your pronunciation
- ・ You will be able to guess words in context
- ・ You will identify main ideas as well as supporting detail
- ・ You will identify the structure and outline the passage
- ・ You will be able to read between the lines, make inferences and draw appropriate conclusions
- ・ You will be able to retell the story in English

< Learning Activities outside of class >

- ・ Preparation: You are expected to understand the subject of each chapter and go through the reading passage before each class. Write out the topic ("what" is the passage about) and "how" the author explains his or her ideas/claim in the passage
- ・ Review: Review thoroughly on new words and phrases you come across and make a habit of using such expressions; Do make sure to retell the story you have understood in your own words
- ・ University guidelines suggest preparation and review should take around an hour a week for a one-credit course

< Grading Criteria/Policy >

Active participation and positive attitude 30%, quizzes 20%, exam 50%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意をとることで読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・ 英語独自の音やリズムを身につける
- ・ 英語を口に出して言うことに慣れる
- ・ 難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・ 英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・ エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・ 各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・ 把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・ ペアまたはグループ・ワークを中心に集中力を持って内容を理解し大意をつかむ
- ・ 内容把握後に音読することで英語独特のリズムと英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力上げる
- ・ ユニットごとに単語の試験を実施し修得確認の機会を設ける
- ・ パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する
- ・ 質問などへのフィードバックは授業内またはメールで行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	General Briefing	General briefing
2	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One)	Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
3	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
4	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One&Two)	Reviewing; Writing
5	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud

6	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
7	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One & Two)	Reviewing; Writing
8	Unit 8: GOVERNMENT- Interpreting the Law (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 8: GOVERNMENT- Interpreting the Law (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 9: ECONOMICS- Bartering in the 21st Century (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 9: ECONOMICS- Bartering in the 21st Century (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
13	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習では各パッセージを事前に読み、練習問題に目を通しておく。筆者が「なにを」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書きだす
- ・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習し、日本語を介さず理解できるように復唱することを習慣化する
- ・理解するだけで満足せず、それを英語で「自分の言葉で」説明する練習も面倒がらずに繰り返していく
- ・ユニットごとに実施される単語の試験で修得程度を確認すること
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

Botcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ¥3,060+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

- ・授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけでなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に **oral activity** を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。予習は必須であるが、正解でないことで減点にはならない。）

ユニットごとに行われる小テスト 20%

・Review Text 50%

適切な理由のない遅刻（授業開始から 30 分以内）は 2 回で欠席扱いとする。また各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

・対面授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進みます。単語レベルでも英語を英語で説明することに苦勞したようですが次第に考える習慣がつき、さらに筆者が「言おうとしていること」であるメイン・アイディアを把握できた受講生は、英語で説明したり発話することに抵抗がなくなってきたようでした。ただ話はなんとなくできて、理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するとなると簡単ではなく、適切な長さにまとめる練習が必要となりました。

・オンライン授業では逆に「自分のペース」で徹底して英語の「発音練習」や「フレーズ修得」ができており、自分の弱点や不得意な部分に「気付ける」ような学習の進め方が出来たようでした。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】

- ・授業中の共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます
- ・感染症対策として授業では不織布のマスク着用を求めます
- ・欠席や課題提出の遅延に関してメールで連絡する場合には、必ず理由とその証拠を提示してください

【Outline (in English)】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

< Learning Objectives >

- ・You will expand your vocabulary
- ・You will learn the natural flow of English; get used to pronouncing English sentences and improving your pronunciation
- ・You will be able to guess words in context
- ・You will identify main ideas as well as supporting detail
- ・You will identify the structure and outline the passage
- ・You will be able to read between the lines, make inferences and draw appropriate conclusions
- ・You will be able to retell the story in English

< Learning Activities outside of class >

- ・Preparation: You are expected to understand the subject of each chapter and go through the reading passage before each class. Write out the topic ("what" is the passage about) and "how" the author explains his or her ideas/claim in the passage
- ・Review: Review thoroughly on new words and phrases you come across and make a habit of using such expressions; Do make sure to retell the story you have understood in your own words
- ・University guidelines suggest preparation and review should take around an hour a week for a one-credit course

< Grading Criteria/Policy >

Active participation and positive attitude 30%, quizzes 20%, exam 50%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第3回	Is it in your blood? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第8回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。

第11回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第12回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト (教科書)】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス. (¥2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題 (60%)

期末テスト (40%)

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第3回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第4回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第5回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第6回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第7回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第8回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第10回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。

第11回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第12回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第13回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第14回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥2,600 円＋税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末テスト (40%)

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が3回に達するごとに1回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習 (単語調べ、解答作成など) をしてくる。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習していったほしい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解: 試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1 (続き)	文法: 主語と目的語
4	Unit 2	読解: 食生活に関する英文
5	Unit 2 (続き)	文法: 述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解: サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3 (続き)	文法: 様々な修飾
8	Unit 4	読解: 映画に関する英文
9	Unit 4 (続き)	文法: 完了形
10	Unit 5	読解: 社会制度に関する英文
11	Unit 5 (続き)	文法: 不定詞
12	Unit 6	読解: ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6 (続き)	文法: 動名詞および現在分詞
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING : 読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING : 本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES : 問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト (教科書)】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング—正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】

- 文法の参考書は
 - ・『FOREST』 桐原書店を薦める。
 - 英和辞典は
 - ・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』 研究社
 - ・『研究社英和大辞典』 研究社
 - ・『ランダムハウス英和大辞典』 小学館
 - ・『ジーニアス英和大辞典』 大修館書店
- を薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

- ・欠席が 3 回以内であること (遅刻については下記参照)。
 - ・受講態度が良好であること (無予習、私語、居眠りは厳禁)
 - ・期末試験の結果が 100 点満点中 60 点以上であること。
- 以上 3 点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・期末試験 50 %
- ・平常点 (学習態度および受講態度) 50 %

遅刻の扱い

- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達するごとに 1 回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる (1 分の遅刻は 10 と記録する)。
- ・なお、中座 (用便等の理由で一時退室する行為) や早退 (体調不良等で授業終了前に退室する行為) も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席

- ・座席は指定する。

オフィスアワー

- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. rightly understand and explain the example sentences in BEFORE READING, based on the grammatical knowledge learned in GRAMMAR FOCUS and BEFORE READING.

-B. rightly understand and explain the structure and meaning of every sentence of the passage in READING, and rightly answer the related questions.

-C. rightly answer the grammar questions in ACTIVITIES.

Learning Activities Outside of Classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the textbook and prepare for oral questions about them from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term end examination: 50% and in-class oral questions: 50%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するの
で必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。指名時の
回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表
する。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR
FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法
事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進
め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに
答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英
文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解：リサイクルに関する英文
2	Unit 7 (続き)	文法：助動詞
3	Unit 8	読解：起業に関する英文
4	Unit 8 (続き)	文法：関係詞
5	Unit 9	読解：伝統文化に関する英文
6	Unit 9 (続き)	文法：it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解：日本文化に関する英文
8	Unit 10 (続き)	文法：受動文
9	Unit 11	読解：健康に関する英文
10	Unit 11 (続き)	文法：比較の表現
11	Unit 12	読解：消費行動に関する英文
12	Unit 12 (続き)	文法：名詞構文
13	Unit 13	読解：日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング―正しい英語の読み方』金星堂

【参考書】

文法の参考書は

- ・『FOREST』桐原書店

を薦める。

英和辞典は

- ・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』研究社

- ・『研究社英和大辞典』研究社

- ・『ランダムハウス英和大辞典』小学館

をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

- ・欠席が3回以内であること（遅刻については下記参照）。
- ・受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
- ・期末試験成績が100点満点中60点以上であること。

以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。

- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・期末試験 50 %
- ・平常点（学習態度および受講態度） 50 %

遅刻の扱い

- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
- ・なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席

- ・座席は指定する。

オフィスアワー

- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. rightly understand and explain the example sentences in BEFORE READING, based on the grammatical knowledge learned in GRAMMAR FOCUS and BEFORE READING.
- B. rightly understand and explain the structure and meaning of every sentence of the passage in READING, and rightly answer the related questions.
- C. rightly answer the grammar questions in ACTIVITIES.

Learning Activities Outside of Classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the textbook and prepare for oral questions about them from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term end examination: 50% and in-class oral questions: 50%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田口 清一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

- * 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- * 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- * 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
- * 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインにて、「オンデマンド型」で行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

課題の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通して、各回の課題に対し次回の授業で解説を行う。最終回には春学期全体の講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理（可算と不可算）
第 3 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理（冠詞と限定詞）
第 4 回	Chapter1(Four Countries) ①	本文読解・リスニング・音読
第 5 回	Chapter1(Four Countries) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 6 回	Chapter2(The Lake District) ①	本文読解・リスニング・音読
第 7 回	Chapter2(The Lake District) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文

第 8 回	Chapter3(Stratford-upon-Avon) ①	本文読解・リスニング・音読
第 9 回	Chapter3(Stratford-upon-Avon) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 10 回	Chapter4(London through the Ages) ①	本文読解・リスニング・音読
第 11 回	Chapter4(London through the Ages) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 12 回	Chapter5(Wessex) ①	本文読解・リスニング・音読
第 13 回	Chapter5(Wessex) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 14 回	学期末の講評	春学期の課題の講評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文読解においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。

尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、合わせて最低でも 1 時間は割くことが標準となる。

【テキスト（教科書）】

Cultural Walks in Britain(イギリス文化散策) 成美堂

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書（体系的にある程度詳しく記述されたもの）を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業となるため、「平常点」のみで評価する。具体的には、毎回の課題提出 40 %、その出来 60 % で評価する。課題に取り組む際に、【到達目標】に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。

尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が 4 回以上ある場合は単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もあるので、今年度も、本質的な論理に関しては丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Objectives】

The main purpose of this course is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

The final objective of this course is to understand English in the English modes of thinking, not in the Japanese ones.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students will be expected to spend at least an hour in preparing for and reviewing each class.

【Grading Criteria】

Each student's final grade will be decided, based on his or her submissions of the required assignments(40%) and their results(60%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

田口 清一

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識 (一般教養) が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

- * 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。
- * 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。
- * 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。
- * 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。
- * 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインにて、「オンデマンド型」で行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

課題の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通して、各回の課題に対し次回の授業で解説を行う。最終回には年間を通しての総評も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語と英語の相違	文圧縮 (名詞構文)
第 2 回	日本語と英語の相違	人称代名詞
第 3 回	Chapter6(Winchester)	本文読解・リスニング・音読 ①
第 4 回	Chapter6(Winchester)	本文読解・リスニング・音読、英 ② 作文
第 5 回	Chapter7(Oxbridge)	本文読解・リスニング・音読 ①
第 6 回	Chapter7(Oxbridge)	本文読解・リスニング・音読、英 ② 作文
第 7 回	Chapter8(The Cotswolds)	① 本文読解・リスニング・音読
第 8 回	Chapter8(The Cotswolds)	② 本文読解・リスニング・音読、英 作文

第 9 回 Chapter9(Caterbury) 本文読解・リスニング・音読
①

第 10 回 Chapter9(Canterbury) 本文読解・リスニング・音読、英
② 作文

第 11 回 Chapter10(Manchester) 本文読解・リスニング・音読
①

第 12 回 Chapter10(Manchester) 本文読解・リスニング・音読、英
② 作文

第 13 回 年間の仕上げ 読解問題演習

第 14 回 今年度の総括 年間のまとめと総評

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文読解においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。英作問題においては必ず自分の解答を用意して、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。

尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、合わせて最低でも 1 時間は割くことが標準となる。

【テキスト (教科書)】

Cultural Walks in Britain(イギリス文化散策) 成美堂

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書 (体系的にある程度詳しく記述されたもの) を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業となるため、「平常点」のみで評価する。具体的には、毎回の課題提出 40 %、その出来 60 % で評価する。課題に取り組む際に、【到達目標】に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。秋学期は春学期からの習熟度も考慮に入れる。

尚、課題提出が出席に相当するので、未提出の課題が 4 回以上ある場合は単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もあるので、今年度も、本質的な論理に関しては丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

The final objective of this course is to understand English in the English modes of thinking, not in the Japanese ones.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students will be expected to spend at least an hour in preparing for and reviewing each class.

【Grading Criteria】

Each student's final grade will be decided, based on his or her submissions of the required assignments(40%) and their results(60%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業で、学生はアメリカの漫画家チャールズ・シュルツの **Peanuts** を題材にしたテキストを用い、実用的実践的な英語表現の習得と、300～400 字程度のリーディングテキスト読解に取り組みます。リーディングテキストの内容は、**Peanuts** の漫画が示唆するアメリカ社会を取り扱った社会文化的、心理学的テーマが中心となります。英語の学習とはコミュニケーションの学習であり、第 2 外国語として英語を学習する目的とは言語を用いた他者とのコミュニケーション能力の獲得です。英語はいまや世界共通語と言ってよく、英語によるコミュニケーション能力を獲得することはグローバル社会を生きていくうえで必須です。本授業の中心はリーディングですが、受信型の授業にとどまらない、コミュニケーション能力の獲得に向けた学生参加型の授業を行います。その方法の 1 つとして、**Peanuts** に登場するキャラクターを用いたロールプレイや、漫画の台詞のシャドーイングなど、様々なアクティビティを行う予定です。

【到達目標】

本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。

- ① **make** や **give**, **run** などの基本動詞を用いたイディオムや口語表現の習得。
- ② イディオムや口語表現を適切に用いた英語コミュニケーション能力。
- ③ 大文字で書かれた英語のコミックの短い表現に慣れる。
- ④ 英語らしい抑揚やアクセント、アーティキュレーションで漫画の台詞を喋ることができる。
- ⑤ 300～400 字程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。

ペアワーク、グループワークなど学生参加型のワークを多く行う予定です。また、授業内でリアクションペーパー提出なども行います。これらのワークは、すべて平常点として評価されますので、しっかりと参加してください。

初回授業のガイダンスと、最終授業の筆記試験はオンラインで行われます。それ以外の授業は原則対面授業を行う予定ですが、感染症や災害などの様々な状況に応じて **Zoom** 授業を行うこともあります。これらの授業予定は、すべて授業支援システムを通じて事前に案内しますので、授業支援システムを必ずチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4 月 7 日	ガイダンス	授業の方針説明 テキストの紹介、導入
4 月 14 日	Lesson 1: Body Language in Peanuts	動詞 make の使い方 リスニング、ライティング
4 月 21 日	Lesson 1: Body Language in Peanuts	リーディング

4 月 28 日	Lesson 2: Lucy's Psychiatry Stand	動詞 give の使い方 リスニング、ライティング
5 月 12 日	Lesson 2: Lucy's Psychiatry Stand	リーディング
5 月 19 日	Lesson 3: Friends Forever	動詞 run の使い方 リスニング、ライティング
5 月 26 日	Lesson 3: Friends Forever	リーディング
6 月 2 日	Lesson 4: Peanuts as a Social Group	動詞 come の使い方 リスニング、ライティング
6 月 9 日	Lesson 4: Peanuts as a Social Group	リーディング
6 月 16 日	Lesson 5: Schroeder the Music Lover	動詞 get の使い方 リスニング、ライティング
6 月 23 日	Lesson 5: Schroeder the Music Lover	リーディング
6 月 30 日	Lesson 6: Girls in Peanuts	動詞 take の使い方 リスニング、ライティング
7 月 7 日	Lesson 6: Girls in Peanuts	リーディング
7 月 14 日	学期末筆記試験	オンライン筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業の準備学習は特に指定しませんが、復習の課題を毎回出します。課題の取り組みは、平常点として評価しますので、しっかりと取り組んでください。課題は、授業支援システムを通じて出題、チェック等行います。

【テキスト（教科書）】

【教科書名】Enjoy English with Charlie Brown and Friends: Language and Culture in Peanuts

【著者】外山晴子

【出版社】南雲堂

【出版年】2021 年

【価格】2530 円

【参考書】

参考書は特に指定しませんが、必要に応じて授業内で適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

成績は 100 点満点で評価し、60 点以上で合格です。
成績評価の内訳は、平常点 40 %、学期末筆記試験 60 % です。平常点は通常授業の授業参加や課題の取り組み、小テストなどを評価します。

4 回以上欠席をすると単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを通じた復習課題の提出により、学生の学習効率が上がり成績の上昇につながったため、本授業でも授業支援システムを通じて復習課題を出題します。

【学生が準備すべき機器他】

授業の案内や課題提出等、全て授業支援システムを通じて行います。また初回授業は **Zoom** で行いますので、パソコンなどのネットワーク環境を整えてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, students will work on two goals of improving English skills; one is learning of various English expressions which can be used in conversation and the other is reading of English essays with 300~400 words. The course will be taught with the textbook based on classic Peanuts comic strips written by the famous American cartoonist, Charles Schulz. Reading text is a 300~400-word essay dealing with the cultural, social, and even philosophical themes suggested in Peanuts cartoons. Studying English is studying communication and the aim of learning English as the second language is to learn oral communication with people of other tongue. English is the universal language in today's world, and acquiring the ability of communicating in English is indispensable for living in this global world. The main focus of this class is reading, however, students will participate in various activities intended to improving students' communicating ability, such as playing of comic scenes or shadowing of parts of characters.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業で、学生はアメリカの漫画家チャールズ・シュルツの **Peanuts** を題材にしたテキストを用い、実用的実践的な英語表現の習得と、300~400 字程度のリーディングテキスト読解に取り組みます。リーディングテキストの内容は、**Peanuts** の漫画が示唆するアメリカ社会を取り扱った社会文化的、心理学的テーマが中心となります。英語の学習とはコミュニケーションの学習であり、第 2 外国語として英語を学習する目的とは言語を用いた他者とのコミュニケーション能力の獲得です。英語はいまや世界共通語と言ってよく、英語によるコミュニケーション能力を獲得することはグローバル社会を生きていくうえで必須です。本授業の中心はリーディングですが、受信型の授業にとどまらない、コミュニケーション能力の獲得に向けた学生参加型の授業を行います。その方法の 1 つとして、**Peanuts** に登場するキャラクターを用いたロールプレイや、漫画の台詞のシャドーイングなど、様々なアクティビティを行う予定です。

【到達目標】

本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。

- ① **make** や **give**、**run** などの基本動詞を用いたイディオムや口語表現の習得。
- ② イディオムや口語表現を適切に用いた英語コミュニケーション能力。
- ③ 大文字で書かれた英語のコミックの短い表現に慣れる。
- ④ 英語らしい抑揚やアクセント、アーティキュレーションで漫画の台詞を喋ることができる。
- ⑤ 300~400 字程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。

ペアワーク、グループワークなど学生参加型のワークを多く行う予定です。また、授業内でリアクションペーパー提出なども行います。これらのワークは、すべて平常点として評価されますので、しっかりと参加してください。

初回授業のガイダンスと、最終授業の筆記試験はオンラインで行われます。それ以外の授業は原則対面授業を行う予定ですが、感染症や災害などの様々な状況に応じて **Zoom** 授業を行うこともあります。これらの授業予定は、すべて授業支援システムを通じて事前に案内しますので、授業支援システムを必ずチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9 月 22 日	Lesson 7: Sally and her Legal Beagle	動詞 put の使い方、リスニング、ライティング
9 月 29 日	Lesson 7: Sally and her Legal Beagle	リーディング
10 月 6 日	Lesson 8: Linus's Security Blanket	動詞 set の使い方、リスニング、ライティング
10 月 13 日	Lesson 8: Linus's Security Blanket	リーディング

10 月 20 日	Lesson 9: Crabby Lucy	動詞 see の使い方、リスニング、ライティング
10 月 27 日	Lesson 9: Crabby Lucy	リーディング
11 月 10 日	Lesson 10: Someday My Great Pumpkin Will Come	動詞 turn の使い方、リスニング、ライティング
11 月 17 日	Lesson 10: Someday My Great Pumpkin Will Come	リーディング
11 月 24 日	Lesson 11: Good Grief! It's Valentine's Day	動詞 do の使い方、リスニング、ライティング
12 月 1 日	Lesson 11: Good Grief! It's Valentine's Day	リーディング
12 月 8 日	Lesson 12: Woodstock, the Ultimate Naturalist?	動詞 keep の使い方、リスニング、ライティング
12 月 15 日	Lesson 12: Woodstock, the Ultimate Naturalist?	リーディング
12 月 22 日	Lesson 13: The Life and Work of Charles Schulz	動詞 go の使い方、リスニング、ライティング、リーディング
1 月 12 日	学期末筆記試験	オンライン筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業の準備学習は特に指定しませんが、復習の課題を毎回出します。課題の取り組みは、平常点として評価しますので、しっかりと取り組んでください。課題は、授業支援システムを通じて出題、チェック等行います。

【テキスト（教科書）】

【教科書名】 Enjoy English with Charlie Brown and Friends: Language and Culture in Peanuts

【著者】 外山晴子

【出版社】 南雲堂

【出版年】 2021 年

【価格】 2530 円

【参考書】

参考書は特に指定しませんが、必要に応じて授業内で適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

成績は 100 点満点で評価し、60 点以上で合格です。
成績評価の内訳は、平常点 40 %、学期末筆記試験 60 %です。平常点は通常授業の授業参加や課題の取り組み、小テストなどを評価します。

4 回以上欠席をすると単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを通じた復習課題の提出により、学生の学習効率が上がり成績の上昇につながったため、本授業でも授業支援システムを通じて復習課題を出題します。

【学生が準備すべき機器他】

授業の案内や課題提出等、全て授業支援システムを通じて行います。また初回授業は Zoom で行いますので、パソコンなどのネットワーク環境を整えてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, students will work on two goals of improving English skills; one is learning of various English expressions which can be used in conversation and the other is reading of English essays with 300~400 words. The course will be taught with the textbook based on classic Peanuts comic strips written by the famous American cartoonist, Charles Schulz. Reading text is a 300~400-word essay dealing with the cultural, social, and even philosophical themes suggested in Peanuts cartoons. Studying English is studying communication and the aim of learning English as the second language is to learn oral communication with people of other tongue. English is the universal language in today's world, and acquiring the ability of communicating in English is indispensable for living in this global world. The main focus of this class is reading, however, students will participate in various activities intended to improve students' communicating ability, such as playing of comic scenes or shadowing of parts of characters.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 和久

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

基本的な英文の読解 (リーディング) と聴解 (リスニング) の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC (トイック) のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解 (リーディング) のセクションでは、TOEIC や TOEFL (トフル) の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解 (リスニング) のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。ほぼ毎回課題を出します。提出していただいた課題は、解答と共に返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①【トピックセンテンス】
8	テキストの演習	パラグラフの構造②【展開の仕方】
9	テキストの演習	パラグラフの構造③【情報構造】
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【コンクリュージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

読解 (リーディング) に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解 (リスニング) については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布します。

【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験成績 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

久しぶりの対面授業ではあるが、『ズーム』などの教授手段も積極的に取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. The goal of this course is to enhance students' ability of reading and listening. Students are expected to do the assignment before and after the class at least for an hour. Final grade will be calculated according to the following process: Weekly assignment (50%), term-end examination (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイック）のスコアを上げることが目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。提出していただいた課題は、その都度、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞・ギリシャ語系】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接頭辞・ラテン語系】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞・ラテン語系】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞・ギリシャ語系】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【二重母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【二重子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【連結】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験成績 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

久しぶりの対面授業ではあるが、《ズーム》などの教授手段も積極的に取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. The goal of this course is to enhance students' ability of reading and listening. Students are expected to do the assignment before and after the class at least for an hour. Final grade will be calculated according to the following process: Weekly assignment (50%), term-end examination (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

渡辺 英依美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】

- この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。
- (1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解する。
 - (2) 多面的な視点でパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉える。
 - (3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の読解を確認し、関連する知識を少人数のグループディスカッションで深めていく。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 1: Travel (1)	Scanning
3	Unit 1: Travel (2)	Predicting
4	Unit 2: Fashion (1)	Skimming for the main idea
5	Unit 2: Fashion (2)	Identifying main and supporting ideas
6	Unit 3: Disappearing Animals (1)	Identifying meaning from context
7	Unit 3: Disappearing Animals (2)	Identifying main ideas within paragraphs
8	Mid-semester Examination	Mid-semester exam
	Unit 4: Big Money (1)	Identifying cause and effect
9	Review of the Exam	Review of the exam
	Unit 4: Big Money (2)	Previewing
10	Unit 5: Celebrations Around the World (1)	Using subheadings to predict content
11	Unit 5: Celebrations Around the World (2)	Recognizing sequence of events
12	Unit 6: It's a Mystery! (1)	Making inferences
13	Unit 6: It's a Mystery! (2)	Identifying main ideas within paragraphs
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習が必須。個々の単語を理解するだけでなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning. [¥2,750 (税別)]

【参考書】

必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・課題の提出 25 %

中間試験 35%

期末試験 40 %

欠席が 4 回以上の場合、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングとグループワークが好評だったので今後も積極的に取り入れる予定。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to improve reading and critical thinking skills in English. Students will read a variety of topics and issues in the present-day society, and participate in small group discussions. Based on a flipped learning model, students will prepare for each chapter of the textbook prior to attending the class.

【Learning Objectives】

By taking this class, students will be able to:

- (1) Read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes.
- (2) Critically read and analyze texts and grasp the writer's views.
- (3) Present thoughts and opinions on related issues in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for each class so that they can actively participate in class discussions. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on the following criteria:

Class participation/assignments 25 %

Mid-semester examination 35%

Final examination 40 %

More than 3 absences will result in failure of the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

渡辺 英依美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】

- この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。
- (1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解する。
 - (2) 多面的な視点でパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉える。
 - (3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の読解を確認し、関連する知識を少人数のグループディスカッションで深めていく。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 7: Health and Fitness (1)	Scanning
3	Unit 7: Health and Fitness (2)	Predicting
4	Unit 8: Space and Flight (1)	Identifying main and supporting ideas
5	Unit 8: Space and Flight (2)	Making inferences
6	Unit 9: The Changing Family (1)	Recognizing facts and opinions
7	Unit 9: The Changing Family (2)	Previewing
8	Mid-semester Examination	Mid-semester exam
	Unit 10: The Future of Education (1)	Arguing for and against a topic
9	Unit 10: The Future of Education (2)	Review of the exam
		Identifying meaning from context
10	Unit 11: The Mystery of Memory (1)	Identifying main ideas within paragraphs
11	Unit 11: The Mystery of Memory (2)	Scanning
12	Unit 12: Comics (1)	Recognizing sequence of events
13	Unit 12: Comics (2)	Identifying main and supporting ideas
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が必須。個々の単語を理解するだけでなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning. [¥2,750（税別）]

【参考書】

必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・課題の提出 25 %

中間試験 35%

期末試験 40 %

欠席が 4 回以上の場合、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングとグループワークが好評だったので今後も積極的に取り入れる予定。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to improve reading and critical thinking skills in English. Students will read a variety of topics and issues in the present-day society, and participate in small group discussions. Based on a flipped learning model, students will prepare for each chapter of the textbook prior to attending the class.

【Learning Objectives】

By taking this class, students will be able to:

- (1) Read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes.
- (2) Critically read and analyze texts and grasp the writer's views.
- (3) Present thoughts and opinions on related issues in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for each class so that they can actively participate in class discussions. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on the following criteria:

Class participation/assignments 25 %

Mid-semester examination 35%

Final examination 40 %

More than 3 absences will result in failure of the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする可能性もある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter1	語彙の予習と本文の精読
2	CXchapter1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Chapter1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Chapter2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Chapter2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Chapter3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Chapter3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Chapter4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Chapter4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Chapter5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Chapter5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Chapter6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Chapter6,7	Unit6 小テスト、Unit7 の語彙の予習と本文の精読
14	Chapter7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト (教科書)】

『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』

田中孝信、野田三貴、筒井香代子編著

音羽書房鶴見書店

2016 年初版発行 2021 年第 7 刷発行 2000 円 + 税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

(音声を用いたリスニングがあるため)

【Outline (in English)】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.

The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。なお、感染症の拡大状況によってはオンライン授業との併用とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』

田中孝信、野田三貴、筒井香代子

音羽書房鶴見書店

2016 年初版発行、2021 年 7 刷発行 2000 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

（音声を用いたリスニングがあるため）

【Outline (in English)】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.

The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

高校までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。All in English のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、全授業回を対面で行います。毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスク립トの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要を説明する
2	Unit 10a	A cooperative society
3	Workbook 10a	Social animals
4	Unit 10b	The Power of play
5	Workbook 10b	How play made our world
6	Unit 10c	Living free?
7	Workbook: 10c	Rebuilding society
8	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
9	Unit 10f	Initiation with ants
10	Unit 11a	Emotional intelligence
11	Workbook 11a	Hikikomori
12	Unit 11b	Thinking fast and slow
13	Workbook 11b	Don't overthink it
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を聞き、内容についてのメモを取った後でスク립トを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみをもち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書: Life (Second Edition) 6B Combo Split

著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson

出版社: National Geographic Learning

出版年: 2019

価格: 2,860 円

【参考書】

https://ngl.cengage.com/life

https://www.bbc.com/news

https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts

https://www.npr.org/podcasts-and-shows

https://www.democracynow.org/

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中、4 回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
 遅刻、30 分以上の場合は欠席扱い。遅刻 2 回で 1 回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「類義語、関連語など多くの単語の知識を深めることができた。」「緊張感があり、得るものが多い授業だった。」という授業の意図したことに対してしっかりと反応を示してくれたコメントがありました。また、テキストの本文と関連した新聞、雑誌等からの補足資料については、「引用なされる補足の記事も本文と併せて読むことで、より立体的に話の内容が掴めて楽しかった。」というコメントがありました。しかし一方で、「教科書をもう少し取り扱って欲しかった。」という、もっともな意見もありました。今年度は補足資料をより厳選し、学生がせっかくな買ったテキストを授業で最大限活用するように努めたいと思います。また、授業の「緊張感」に関しては、それが過度に陥らないように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class. (Grading Criteria/Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)

Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)

Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)

Students must earn at least 60% points to pass the course.

If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

Arriving late twice will equal one absence.

If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

藤井 道行

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1I までに学んだことを基礎にして、学生が、英語 4 技能の中でも、特に「読む」「聞く」の分野における意欲を高め、スキルを伸ばすことを目的とした授業を徹底した演習スタイルで行います。**All in English** のテキストには、再読・再聴に耐える中身の充実したものを選びました。

【到達目標】

ある程度の長さの様々なスタイルの英文の内容を、文章に応じて速読、精読を柔軟に使い分けながら正確に把握する力を持つことができる。また、読み取った、聞き取った内容についての批評的なコメントを、英語で簡潔に口頭あるいは文章で表現する意欲と能力をもつことができる。そうした目標を達成するために必要とされる基本的な文法事項を定着させること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、全授業回を対面で行います。

毎回の授業は、学生が自分の予習の成果を発表することをメインとした、演習形式で行います。予習の内容に関しては、「授業時間外の学習」の項目に記載してあります。もう少し補って言えば、テキストの本文の語句、表現、文法事項、内容についての補足説明のような講義的な時間帯は当然ありますが、学生が、各タスクに答えること、文章をパラグラフごとに要約すること、本文全体を読んで考えたことを発表することが授業の中心となります。また、本文とリスニングのスキットの音読にも十分時間を割き、各トピックについての理解、関心を深めます。

「授業計画」は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11c	Who's working for who?
2	Unit 7a	Selfie world
3	Unit 7b	Creating a buzz
4	Workbook 7b	Follow us!
5	Unit 7c	A hacker's life
6	Unit 8a	World music
7	中間試験	中間試験実施 まとめと解説
8	Unit 8b	Healing music
9	Workbook 8b	Music therapy
10	Unit 8c	One love
11	Unit 9a	Dear little daughter
12	Unit 9b	The story of Martin Guerre
13	Workbook 12a	Aerial view
14	期末試験	期末試験実施 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、上記の「授業計画」に即した準備学習をコンスタントに行い授業に臨むことが必要となります。準備学習のどこに力点を置くかは学生により多少の違いがあると思いますが、必須事項を挙げると次のようになります。

- リーディングのパートを速読し、内容をおおまかに掴む。
 - テキストの内容把握問題、文法問題等の豊富な各タスクに取り組む。
 - 本文を熟読し、気になる語句、表現を英和・英英辞典を使って調べる。その場合、語の定義だけでなく例文にも目を通す。
 - 熟読の過程で、疑問点等をメモする。また、本文の内容を整理するために要約文を書く。
 - リスニングのパートは、オンラインで音声資料を開き、内容についてのメモを取った後でスキットを読み、聞き取れなかった箇所をチェックする。
 - 時間の許す範囲で、各回のトピックに親しみを持ち、理解を深めるために、本文のキーとなる人物・事柄をオンライン等で調べる。
- この準備学習の段階で特に心がけたいことは、テキストの内容が無理なく頭に入るように、文章を声に出して正確に読めるようにすることです。授業後には、その回に出てきた語句、内容、文法事項等を整理するために本文を読み直し、音声資料を聞き直すこと。
- 本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書: Life (Second Edition) 6B Combo Split
 著者: Paul Dummett/John Hughes/Helen Stephenson
 出版社: National Geographic Learning
 出版年: 2019
 価格: 2,860 円

【参考書】

<https://ngl.cengage.com/life>
<https://www.bbc.com/news>
<https://www.bbc.co.uk/sounds/podcasts>
<https://www.npr.org/podcasts-and-shows>
<https://www.democracynow.org/>

【成績評価の方法と基準】

中間試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 期末試験:40% (授業内容の理解度を測るための、聞き取りも含めた総合問題)
 平常点:20% (授業内でのあらゆる活動、具体的には、指名による、あるいは自主的な発表、積極的な質問、予習の確認のための単語の問題に答える等)
 単位を取得するためには、60%以上の点を得ることが必要となります。
 学期中、4回以上授業を欠席した場合は、原則として単位を得ることはできません。
 遅刻は、30分以上の場合は欠席扱い。遅刻2回で1回分の欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

前年度のアンケートでは、「類義語、関連語など多くの単語の知識を深めることができた。」「緊張感があり、得るものが多い授業だった。」という授業の意図したことに対してしっかりと反応を示してくれたコメントがありました。また、テキストの本文と関連した新聞、雑誌等からの補足資料については、「引用なされる補足の記事も本文と併せて読むことで、より立体的に話の内容が掴めて楽しかった。」というコメントがありました。しかし一方で、「教科書をもう少し取り扱って欲しかった。」という、もっともな意見もありました。今年度は補足資料をより厳選し、学生がせっかく買ったテキストを授業で最大限活用するように努めたいと思います。また、授業の「緊張感」に関しては、それが過度に陥らないように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、授業後、あるいは「学内メール」で受け付けます。

【Outline (in English)】**(Course Outline)**

This course will be conducted in a participatory learning environment. The goal of this course is to enhance students' reading and listening skills and improve grammar skills. In class, students will not just memorize words, phrases, and sentence patterns. They will have lots of opportunities to read, listen, think, and talk. Also, depending on the nature of the text and the purpose of reading it, students will either read quickly or attentively. This will allow them to learn when to use a dictionary and when not to. Some students may think their textbooks are a little too challenging in the beginning, partly because all the writing is in English. To overcome this concern, they only have to come to class well prepared (self-study is vital!), and then they will get the most out of their textbook readings. Students who study a lot outside of class are likely to be actively engaged in their class activities.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to:

- (1) improve and expand their vocabulary through extensive reading.
- (2) read quickly or attentively depending on the nature of the text and the purpose of the reading.
- (3) identify essential and non-essential information in the text.
- (4) learn when to look up words in the dictionary and when not to while reading the text.
- (5) take notes on spoken material and summarize its content.
- (6) give feedback on what they have read or listened to in simple written and spoken English.

(Learning activities outside of class)

Needless to say, preparation for class activities differs for each student. However, one thing they should include in their pre-class activities is reading the text out loud. Even though silent reading enables students to read faster, reading aloud is a great means of actively engaging with the course material. This practice helps them understand what they are reading at a deeper level. It also boosts their listening and speaking skills. Their study time should be at least one hour for each class.

(Grading Criteria /Policy)

Students' final course grades will be determined based on the following criteria:

Mid-term Exam : 40% (the exam will cover the material from the first half of the course)

Final Exam: 40% (the exam will cover the material from the second half of the course)

Participation: 20% (how often students contribute positively to class activities will be evaluated, not just their presence in class)

Students must earn at least 60% points to pass the course.

If students miss four or more classes, they will be automatically graded with a 'fail' for the course.

Arriving late twice will equal one absence.

If students are late more than thirty minutes, they will be counted absent.

The proposed schedule is subject to change.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者リチャード・パウエルが、四つの地域からなる United Kingdom について、それぞれの地域の特色を述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際の知識を学ぶことができる。I use a textbook which Richard Powell writes about the characteristics of four countries in Britain. Students can learn the diverse and practical knowledge from a textbook.

【到達目標】

Dialogue、Passage、Exercise を行うことにより実践力を高める。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

Students can raise the level by learning Dialogue, Passage, Exercise. And they can have a international sense of communication by learning cultural background.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行う。

フィードバック方法 最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。

授業実施形態 対面授業とオンライン授業（リアルタイム配信型）を組み合わせて、授業を行います。The way of feedback At last class of spring term, I explain about the summary of this term. Class style it is a combination of face to face and online form(zoom).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Arriving in London	London の代表的な公共交通機関には、世界で最も古い列車である地下鉄 (tube)、London 市内を走行する赤い二階建てバス (double decker)、cube というタクシーがある。列車やバスにはブリペイド式のオイスターカードが使用できる。
②	Unit 1 Arriving in London	Unit1 の Exercise を行う。
③	Unit 2 London's museums and art galleries	イギリスの主な博物館や美術館は入場料無料である。London にある National Gallery や Tate Modern も無料であり、多くの人に絵画や展示品を見せる機会を与えている。
④	Unit 2 London's museums and art galleries	Unit2 の Exercise を行う。

⑤	Unit 3 Royal palaces and castles	イギリスには英王室にゆかりのあるいくつかの城がある。その中には女王の私邸である Windsor 城や公邸である Buckingham 宮殿を始めとして、女王が夏の大半を過ごす Balmoral 城がある。Unit3 の Exercise を行う。
⑥	Unit 3 Royal palaces and castles	
⑦	Unit 5 Shopping in London	London には Harrods や Fortnum and Mason のような伝統的な店がある一方で、多くのリーズナブルな品物を販売する fair (市) がある。Unit5 の Exercise を行う。
⑧	Unit 5 Shopping in London	
⑨	Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury	Somerset は、田園地方であり、cider (リンゴ酒)、beer、cheese の製造でよく知られている。Unit7 の Exercise を行う。
⑩	Unit 7 Cheddar, Wells and Glastonbury	
⑪	Unit 10 The Yorkshire Dales	Yorkshire は、イングランドの一番北の州であり、スコットランドとの境界の州である。The Yorkshire Dales という国立公園となっている渓谷が広がっている。Unit10 の Exercise を行う。
⑫	Unit 10 The Yorkshire Dales	
⑬	Unit 11 Newcastle-upon-Tyne	Newcastle-upon-Tyne は、イングランドとスコットランドとの境界の Tyne 川のほとりにある町である。Newcastle の対岸には、Gateshead の町があり、そこには、歩行者と自転車専用の Gateshead Millennium Bridge がある。試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説
⑭	試験日	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの Comprehension, Vocabulary, Expressions を読んで、授業に望んでください。It takes an hour for students to review and prepare for this class.

I hope You, students will attend this class preparing for Comprehension, Vocabulary, Expressions.

【テキスト（教科書）】

Touring Britain (Richard Powell) 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 % として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

Grades are evaluated as final exam of spring term is 50% and normal point is 50%.

Grades aren't evaluated in case that students are absent from this class 4 or more each term.

Three lateness is regarded as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持たという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

Students comment that they've got the detailed knowledge about Britain and British Culture.

【Outline (in English)】

Using the textbook about United Kingdom written by an English author, students can learn the diverse and practical knowledge.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イギリス人の著者リチャード・パウエルが、四つの地域からなる United Kingdom について、それぞれの地域の特色を述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際の知識を学ぶことができる。I use a textbook which Richard Powell writes about the characteristics of four countries in Britain. Students can learn the diverse and practical knowledge from a textbook.

【到達目標】

Dialogue, Passage, Exercise を行うことにより実践力を高める。文化的背景を英語で学ぶことで国際的なコミュニケーション能力を高める。

Students can raise the level by learning Dialogue, Passage, Exercise. And they can have a international sense of communication by learning cultural background.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行う。

フィードバック方法 最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。

授業実施形態 対面授業とオンライン授業 (リアルタイム配信型) を組み合わせて、授業を行います。The way of feedback At last class of spring term, I explain about the summary of this term. Class style it is a combination of face to face and online form(zoom).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Unit 12 Swansea and Gower	Swansea は、ウェールズの首都 Cardiff の次に大きな町であり、20 世紀の詩人 Dylan Thomas の故郷でもある。
②	Unit 12 Swansea and Gower	Unit12 の Exercise を行う。
③	Unit 13 Brecon Beacons	ウェールズの Brecon Beacons は、イギリスの国立公園の一つである。自然の美しい地域として指定されていて、そこには植物や動物を保護する特別な法律がある。
④	Unit 13 Brecon Beacons	Unit13 の Exercise を行う。
⑤	Unit 14 Conwy and Caernarfon	北ウェールズの Conwy と Caernarfon の町には、それぞれ Conwy 城と Caernarfon 城がある。
⑥	Unit 14 Conwy and Caernarfon	Unit14 の Exercise を行う。

⑦	Unit 15 Edinburgh	ブリテン島の北部の地域にある Edinburgh は、多くの学者や科学者を輩出していることから、'Athens of North' 「北のアテネ」と呼ばれている。 Unit15 の Exercise を行う。
⑧	Unit 15 Edinburgh	
⑨	Unit 16 Glasgow	Glasgow は、19 世紀の産業革命の時代には、造船業で発達したが、現在は、Glasgow 出身の建築家 Charles Rennie Macintosh ゆかりの建造物を多くの観光客が訪れる場所となっている。 Unit16 の Exercise を行う。
⑩	Unit 16 Glasgow	
⑪	Unit 18 Belfast	アイルランドは、イギリスの自治領である北アイルランドと南のアイルランド共和国に分離している。1990 年代初頭まで、北アイルランドでは、プロテスタント系住民とカソリック系住民の間で、毎日のように小競り合いが起きていた。しかし、1998 年に平和協定が結ばれてからは、抗争はなくなっている。 Unit18 の Exercise を行う。
⑫	Unit 18 Belfast	
⑬	Unit 19 Causeway Coast	Belfast から Londonderry までの道路沿いに広がっている Causeway の海岸には、世界遺産の火山岩からなる何千もの六角形の石柱群がある。 試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説
⑭	試験日	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの Comprehension, Vocabulary, Expressions の予習をして、授業に望んでください。It takes an hour for students to review and prepare for this class.

I hope You, students will attend this class preparing for Comprehension, Vocabulary, Expressions.

【テキスト (教科書)】

Touring Britain (Richard Powell) 朝日出版社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 % として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻を 3 回で欠席 1 とみなす。

Grades are evaluated as final exam of spring term is 50% and normal point is 50%.

Grades aren't evaluated in case that students are absent from this class 4 or more each term.

Three lateness is regarded as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持たという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

Students comment that they've got the detailed knowledge about Britain and British Culture.

【Outline (in English)】

Using the textbook about United Kingdom written by an English author, students can learn the diverse and practical knowledge.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学 Aspects of British Culture: Academic Approaches』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学 Aspects of British Cultures: Academic Approaches』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意の説明をします。
2	Chapter 1	The Country of Diversity
3	Chapter 2	England, Wales, Scotland, and Northern Island
4	Chapter 3	The Power of the Commonwealth
5	Chapter 4	The Birth of Cultural Studies in the UK
6	Chapter 5	The Languages of the UK
7	Chapter 6	The Development of Journalism in the UK
8	Chapter 7	The Vessel of Worldwide Art and Culture
9	英文講読	イギリスの文化に関連する内容
10	英文講読	イギリスの社会に関連する内容
11	英文講読	イギリスの芸術に関連する内容
12	英文講読	イギリスの科学に関連する内容
13	復習	Chapter 1～Chapter 7 の復習

14 期末試験・まとめ 今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Noriyuku Harada, Andrew Houwen, Akira Morita『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学』2022 年、金星堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】

Through reading stories in the textbook “Aspects of British Culture: Academic Approaches” which consists of 15 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following : term-end exam 80%, exams for each chapter and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『真実のイギリス: 文化、社会、芸術そして科学 Aspects of British Culture: Academic Approaches』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『真実のイギリス: 文化、社会、芸術そして科学 Aspects of British Cultures: Academic Approaches』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 8	The Relationship between Japan and the UK
2	Chapter 9	The History of British Democracy
3	Chapter 10	The British Debate about the Economy
4	Chapter 11	With or Without God : The Development of the National Sciences
5	Chapter 12	The Country of Satire
6	Chapter 13	Nature and British People
7	Chapter 14	An Oxbridge Education
8	Chapter 15	British Community Life
9	英文講読	イギリスの文化に関連する内容
10	英文講読	イギリスの社会に関連する内容
11	英文講読	イギリスの芸術に関連する内容
12	英文講読	イギリスの科学に関連する内容
13	復習	Chapter 8~Chapter 15 の復習

- 14 期末試験・まとめ 今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Noriyuku Harada, Andrew Houwen, Akira Morita『真実のイギリス: 文化、社会、芸術そして科学』2022 年、金星堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み (20%) と期末試験 (80%) から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください (欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります)。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】

Through reading stories in the textbook “Aspects of British Culture: Academic Approaches” which consists of 15 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end exam 80%, exams for each chapter and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

メディア英語の構成、語法をつかんだ上、リスニング力・語彙力の強化、記事の背景（世界情勢）が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

メディア英語の基本を理解することがこの授業の主眼である。英語を手段にして、メディアがいかなる情報を世界に発信しているのかを検討して欲しい。つまり、「英語を学ぶ」ことだけでなく、「英語から学ぶ」ことを目標としたい。

受講生は教科書、映像素材、プリント等を通して、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。

授業実施形態の説明

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容・進め方、テキストの紹介など
2	英語ニュースのきまり	英字新聞の読み方、テレビニュースの見方
3	Sanrio takes big risk with new strategy	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
4	New nine-year school category eyed	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
5	Species going extinct up to 10,000 times faster than normal	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
6	Kiwi's DNA link to elephant ancestor recasts evolution of flightless birds	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
7	Mountain Day created as newest official public holiday	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
8	Simplest animals may help cure brain disease	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解

9	One-third of all people are now fat, and no country is immune: Study	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
10	Superbug threat requires urgent world action: Scientist	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Japan neglecting wetlands: Ministry	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	In Internet era, firms build online 'dam' for stressed out staff	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週 1 時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 4" 金星堂

【参考書】

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題、提出物： 50%、授業への取り組み： 20%、期末課題： 30%

毎回の課題、授業への取り組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が 4 回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom, Zoom を使用する
大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となるので準備されたい。

【Outline (in English)】

Course outline:

The main focus of this lesson is to become accustomed to, understand, and consider media English. I would like you to make an effort to feel the present of the world directly by using English. In class, I would like to use actual news as materials to grasp headlines, composition, and grammar, as well as strengthen listening and vocabulary skills and understand the background.

Learning objectives: Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

Learning activities outside of classroom: In order to learn media English, daily news understanding is compulsory. I want you to continue to follow world news such as newspapers, TV, and the Internet.

Outside of class, one hour or more of preparation / review is standard every week using online videos for self-study.

Grading criteria/policy:

Class assignments 50%, class discussion 20%, term-end assignments 30%

Comprehensive evaluation will be made in consideration of each assignment, class approach, and term-end assignment. As a general rule, those who are absent four times or more will be disqualified from earning credits.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

大澤 岳彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディア英語に慣れ、理解し、検討することが、この授業の主眼である。英語を手段にして、世界の今を直に感じられるように努力してもらいたい。授業では、実際の記事、ニュースを素材にして、ヘッドライン、構成、語法をつかむのは、勿論のこと、リスニング力・語彙力の強化と背景の理解を最大の課題としたい。

【到達目標】

リスニング力・語彙力向上のほか、ニュースの核心（ニュースバリュー）を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期授業では、テレビニュースを積極的に活用してみたい。受講生は、自分の興味ある分野を選び、その関連するニュースについて検討することになる。

メディア英語の理解には、背景知識や専門用語の理解など、不断の努力が必要である。積極的にリサーチすることを期待している。受講生は提出物、課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれ、ニュースの裏が読める一味違った人になって欲しい。尚、課題提出、フィードバックは Google Classroom を通して実施する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 秋学期の進め方等	休暇中ニュースのフォローアップ
2	新聞、ニュース英語の 共通点、相違点	英字新聞、テレビニュース英語の 形式、構成の理解
3	WHO urged not to restrict e-cigarettes	ヘッドライン、構成、語法、語 彙、背景の理解
4	Baby boomers becoming gray gang	ヘッドライン、構成、語法、語 彙、背景の理解
5	Hokkaido town offers donors 'free' balloon rides	ヘッドライン、構成、語法、語 彙、背景の理解
6	As male hunters dwindle, 'hunter girls' take up shotguns	ヘッドライン、構成、語法、語 彙、背景の理解
7	Feral cats causing extinction of unique Australian mammals	ヘッドライン、構成、語法、語 彙、背景の理解
8	Easier-to-use retro cellphones making a comeback	ヘッドライン、構成、語法、語 彙、背景の理解
9	Tokyo to boost foreign-language signs, into ahead of 2020 Olympics	ヘッドライン、構成、語法、語 彙、背景の理解

10	Tea, wine stepped in shared history	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
11	Evidence found of planet that hit Earth, made moon	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
12	Stunning pterosaur eggs found	ヘッドライン、構成、語法、語彙、背景の理解
13	Anchors Strike Back 1	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。
14	Anchors Strike Back 2	期末課題などを通じ、積極的にメディア英語の世界にふれる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

メディア英語の学習のためには、日々のニュース理解がまず必要である。新聞、テレビ、ネットなどの世界ニュースを継続してフォローしてもらいたい。

授業外では、自習用オンラインビデオを使って、毎週1時間以上の予習・復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤岳彦、堤龍一郎 "A Shorter Course in Newspaper English" Revised edition 5 刷 南雲堂

山根繁、山根キャサリン "Broadcast: ABC World News Tonight 4" 金星堂

【参考書】

新語、固有名詞を詳細に説明している語数の多い辞書を用意のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業時の課題・提出物：50%、授業への取組み：20%、期末課題：30%

毎回の課題、授業への取組み、期末課題を考慮して総合的に評価する。欠席が4回以上になった物は原則として単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の提出物を学生との大事なコミュニケーションツールと考えている。記入された感想、質問、リクエスト等を授業で出来る限りフィードバックしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

出席確認、資料配布、課題提出等は、Google クラウドと学習支援システムを通して実施予定。パソコンとマイク付きヘッドホンが必要となるので、準備されたい。

【Outline (in English)】

Course outline:

The main focus of this lesson is to become accustomed to, understand, and consider media English. I would like you to make an effort to feel the present of the world directly by using English. In class, I would like to use actual news as materials to grasp headlines, composition, and grammar, as well as strengthen listening and vocabulary skills and understand the background.

Learning objectives: Delivers classes that raise students' desire to learn as well as their Media English ability, classes that give students a sense of achievement in their studies so that they themselves take the initiative in their Media English learning.

Learning activities outside of classroom: In order to learn media English, daily news understanding is compulsory. I want you to continue to follow world news such as newspapers, TV, and the Internet.

Outside of class, one hour or more of preparation / review is standard every week using online videos for self-study.

Grading criteria/policy:

Class assignments 50%, class discussion 20%, term-end assignments 30%

Comprehensive evaluation will be made in consideration of each assignment, class approach, and term-end assignment.

As a general rule, those who are absent four times or more will be disqualified from earning credits.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

滝沢 玄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまな出来事について英文を読むことによって、批評意識と知的関心を高める。

【到達目標】

各章のテーマが提起する問題について、パラグラフ間の論理的な筋道を的確に把握する。批評的な観点を持ちながら読み、自らの意見の発信につなげる。会話に生かせるよう、イントネーションやアクセントを意識して英文を読む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

以下、対面授業を前提として

予習を前提として挙手による発言を優先し、必要に応じてランダムに当てる。各ユニットを読む前に予習チェックを兼ねた小テスト（テキスト参照可）を行なう。それから語句問題を解いたあと本文を音読し、読解の問題を解き、関連したパラグラフの要点と話の展開をおさえる。ユニット読了の翌週にあらかじめ割り当てられたグループが、内容に関連した質問について英語でディスカッションをする。課題のフィードバックは可能な限り速やかに対処する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の概要についての説明。時間があれば Unit 1 に入る。
第2回	Unit 1	100 円ショッピング
第3回	Unit 1-2	100 円ショッピング／仕事と生活のバランス
第4回	Unit 2	仕事と生活のバランス
第5回	Unit 4	ベーシックインカム
第6回	Unit 4-5	ベーシックインカム/リモートワーク
第7回	Unit 5	リモートワーク
第8回	Unit 6	商売の秘訣
第9回	Unit 6-7	商売の秘訣/ゲーマーの秘密の生涯
第10回	Unit 7	ゲーマーの秘密の生涯
第11回	Unit 8	ソーシャルメディア
第12回	Unit 8-9	ソーシャルメディア/おひとりさま
第13回	Unit 9	おひとりさま
第14回	Test	春学期の授業を範囲とした筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

上でもふれたとおり、毎回のユニットを読む前に小テストがあるので、準備を怠るとその損失は少なくない。

単語は意味を調べるだけでなくアクセントを事前にチェックし、ダウンロード音声で音読を練習する。各パラグラフの要点は説明できるようにしておき、語句・読解問題も事前に解いておく。

【テキスト（教科書）】

David Rear, Understanding the World Today (成美堂、2022 年), ¥1900 (税別)

【参考書】

(書く必要はないと思うが) 英語辞書。単語や成句の意味だけでなく、アクセントのチェックなどにも十分に活用すること。スマートフォンやタブレットはときに重要なツールになりうることは確かだが、特に認める場合を除いては電子あるいは本の辞書を推奨する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 15 %、ディスカッション 15%、平常点(予習をふまえた授業での積極的発言) 20 %。グループ活動に参加しなかった場合、試験欠席と同等にみなす。欠席が 4 回以上の者には単位修得を認めないが、ただの出席点はないので誤解のないように。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを聞いている人が暇にならぬよう、何らかの形でフィードバックを設けたい。

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to develop critical awareness through reading about various phenomena in modern society. Students are also required to express their opinions about these topics in English.

Before each class meeting, you will be expected to have made preparations for the relevant chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%; group discussion: 15%; quizzes and assignments: 15%; in-class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

滝沢 玄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまな出来事について英文を読むことによって、批評意識と知的関心を高める。

【到達目標】

各章のテーマが提起する問題について、パラグラフ間の論理的な筋道を的確に把握する。批評的な観点を持ちながら読み、自らの意見の発信につなげる。会話に生かせるよう、イントネーションやアクセントを意識して英文を読む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下対面授業を前提として

演習形式で進め、予習を前提として挙手による発言を優先し、必要に応じてランダムに当てる。各ユニットを読む前に予習チェックを兼ねた小テスト（テキスト参照可）を行なう。それから語句問題を解いたあと本文を音読し、読解の問題を解き、関連したパラグラフの要点と話の展開をおさえる。ユニット読了の翌週にあらかじめ割り当てられたグループが、内容に関連した質問について英語でディスカッションをする。課題に対するフィードバックは可能な限り速やかに対処する。

とりあげるユニットは教員が選んだものを優先し、そのあとで未読のユニットに戻るが、予定通りに消化できるかどうかは授業の進捗状況に左右される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Review etc.	春学期試験レビュー、時間によってプリント配布か、テキストに入る。
第 2 回	Unit 11	英語の方言
第 3 回	Unit 11-13	英語の方言/メンタリズム
第 4 回	Unit 13	メンタリズム
第 5 回	Unit 16	太陽光発電
第 6 回	Unit 16-17	太陽光発電/ワクチン
第 7 回	Unit 17	ワクチン
第 8 回	Unit 20	ロボットの役割
第 9 回	Unit 20/3	ロボットの役割/創業 2000 年の日本企業
第 10 回	Unit 3	創業 2000 年の日本企業
第 11 回	Unit 10	幸せの秘訣
第 12 回	Unit 10-14	幸せの秘訣/言語の起源
第 13 回	Unit 14	言語の起源
第 14 回	Test	秋学期の授業を範囲とした筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

上でもふれたとおり、毎回のユニットを読む前に小テストがあるので、準備を怠るとその損失は少なくない。

単語は意味を調べるだけでなくアクセントを事前にチェックし、ダウンロード音声で音読を練習する。各パラグラフの要点は説明できるようにしておき、語句・読解問題も事前に解いておく。

【テキスト（教科書）】

David Rear, Understanding the World Today (成美堂、2022 年), ¥1900 (税別)

【参考書】

(書く必要はないと思うが) 英語辞書。単語や成句の意味だけでなく、アクセントのチェックなどにも十分に活用すること。スマートフォンやタブレットはときに重要なツールになりうることは確かだが、特に認める場合を除いては電子あるいは本の辞書を推奨する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト 15 %、ディスカッション 15%、平常点(予習をふまえた授業での積極的発言) 20 %。グループ活動に参加しなかった場合、試験欠席と同様にみなす。欠席 4 回以上の者には単位修得を認めないが、ただの出席点はないので誤解のないように。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションを聞いている人が暇にならぬよう、何らかの形でフィードバックを設けたい。

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to develop critical awareness through reading about various phenomena in modern society. Students are also required to express their opinions about these topics in English.

Before each class meeting, you will be expected to have made preparations for the relevant chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%; group discussion: 15%; quizzes and assignments: 15%; in-class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞を教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
- ・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
- ・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
- ・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
- ・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
- ・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は【対面授業】です。ただし、スピーキングを重点的に確認する機会を設けるため、Zoom を用いたオンライン授業を 2 回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

ユニット 1 つにつき、2 回の授業を充てる。

1 回目の授業は、リスニングと読解（大意把握、精読）を中心に進める。

2 回目の授業では、読解（精読の続き）と文法事項の確認、作文を行う。

いずれの授業でも、グループやペアで英語を話す時間を設ける。なお、提出した課題（作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 2: Treaty to eliminate nukes takes effect	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
3	Unit 2: Treaty to eliminate nukes takes effect	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
4	Unit 3: Lockdown-weary Malaysians get appetite for drive-in dining	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読

5	Unit 3: Lockdown-weary Malaysians get appetite for drive-in dining	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
6	Unit 6: Black kings, but no politics - Murphy returns in Coming 2 America	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
7	Unit 6: Black kings, but no politics - Murphy returns in Coming 2 America	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
8	Unit 7: Learning as avatars may become new norm	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
9	Unit 7: Learning as avatars may become new norm	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
10	Unit 9: Nippon Steel aims to achieve decarbonization by 2050	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
11	Unit 9: Nippon Steel aims to achieve decarbonization by 2050	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
12	Unit 10: Harvard astronomer argues that alien vessel paid us a visit	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
13	Unit 10: Harvard astronomer argues that alien vessel paid us a visit	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1 回目の授業前] 1. 記事を読み上げた音声をおおまかに聞き取れるようにしておく。2. 記事を読んで大意を把握する。3. 単語や文法事項について調べておく。4. 学習支援システムの予習問題に解答する。(以上 1 時間程度)

[2 回目の授業後] 1. 学習支援システムの復習問題に解答する。2. 作文を仕上げて提出する。(以上 1 時間程度)

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Meet the world 2022 (若有保彦編、成美堂、2022 年、2,200 円)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%

平常点(作文、スピーキング、予習・復習の提出状況、受講態度) 40%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士でのグループワークや英語で話す時間を増やす。授業時間内に作文を書く時間を設けるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】

Through reading English newspaper articles, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞を教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
- ・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
- ・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
- ・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
- ・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
- ・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は【対面授業】です。ただし、スピーキングを重点的に確認する機会を設けるため、Zoom を用いたオンライン授業を 2 回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

ユニット 1 つにつき、2 回の授業を充てる。

1 回目の授業は、リスニングと読解（大意把握、精読）を中心に進める。

2 回目の授業では、読解（精読の続き）と文法事項の確認、作文を行う。

いずれの授業でも、グループやペアで英語を話す時間を設ける。なお、提出した課題（作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明、春学期の復習
2	Unit 11: Remnants of 'railway on the shore'	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
3	Unit 11: Remnants of 'railway on the shore'	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
4	Unit 12: AI to protect crowding at evacuation centers	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
5	Unit 12: AI to protect crowding at evacuation centers	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文

6	Unit 13: U.S. seeks participation of Japan, 'Five Eyes' in 5G team versus China	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
7	Unit 13: U.S. seeks participation of Japan, 'Five Eyes' in 5G team versus China	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
8	Unit 14: Labor ministry mulls plan for flexible childcare leave	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
9	Unit 14: Labor ministry mulls plan for flexible childcare leave	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
10	Unit 15: Buses help deliver packages to sparsely populated area	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
11	Unit 15: Buses help deliver packages to sparsely populated area	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
12	Unit 18: Food suppliers find ways to survive amid pandemic	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
13	Unit 18: Food suppliers find ways to survive amid pandemic	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1 回目の授業前] 1. 記事を読み上げた音声をおおまかに聞き取れるようにしておく。2. 記事を読んで大意を把握する。3. 単語や文法事項について調べておく。4. 学習支援システムの予習問題に解答する。（以上 1 時間程度）

[2 回目の授業後] 1. 学習支援システムの復習問題に解答する。2. 作文を仕上げて提出する。（以上 1 時間程度）
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Meet the world 2022（若有保彦編、成美堂、2022 年、2,200 円）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%

平常点（作文、スピーキング、予習・復習の提出状況、受講態度）40%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士でのグループワークや英語で話す時間を増やす。授業時間内に作文を書く時間を設けるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】

Through reading English newspaper articles, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

滝沢 玄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

より高い次元の読解力を身につけ、アメリカ社会について深く知る。

【到達目標】

英語学習のみならず、現代日本の政治・経済・文化にも多大な影響力を与える、アメリカについての知見を深める。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ間のつながりを意識して読み、長いエッセイの焦点を絞りこむ能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下、対面授業を前提として話を進める。

各ユニットの語彙、読解問題は事前の準備を前提に、テキスト付属のアプリに、端末を使って毎回解答を提出する。授業ではその回答にもとづいたレビューを行なったうえで、本文を朗読し、各パラグラフの構成や論旨を確認し、長文など必要な箇所を精読する。挙手による発言、その的確さを平常のポイントとして加算する。毎回のユニット終了の翌週には、リスニングの小テストが行なわれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の方向について説明。時間によってテキストに入る。
第 2 回	Unit 1	Gun Control
第 3 回	Unit 1-2	Gun Control/Trump's Border Wall
第 4 回	Unit 2	Trump's Border Wall
第 5 回	Unit 3	Occupy Wall Street
第 6 回	Unit 3-4	Occupy Wall Street/Racism in America
第 7 回	Unit 4	Racism in America
第 8 回	Unit 5	Obamacare and the Fear of Socialism
第 9 回	Unit 5-6	Obamacare and the Fear of Socialism/Native American Struggles
第 10 回	Unit 6	Native American Struggles
第 11 回	Unit 7	Women's Rights Movement
第 12 回	Unit 7-8	Women's Rights Movement/U.S. Evangelicals
第 13 回	Unit 8	U.S. Evangelicals
第 14 回	Test	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点をまとめ、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむこと。音声はダウンロードできるので事前に音声を聞き、朗読の練習に役立てることでリスニングのテストにつながる。

【テキスト（教科書）】

Yukihiro Tsukada et als., Inside and Out (金星堂, 2022), ¥2000.

【参考書】

レベルの高い英文を読むには『リーダーズ英和』（研究社）など語彙の充実した英語辞書は欠かせない。

書物ではないが、より最新のアメリカ事情について知るには、(2022年2月現在) 木曜午後10時半から BS 朝日で放映中の『町山智浩のアメリカを今を知る TV with CNN』が参考になる。YouTube で過去の放送（オフィシャルなもの）の視聴も可能。

【成績評価の方法と基準】

最終試験50%、小テストと課題提出30%、授業への積極的参加と発言20%。欠席4回以上の者は単位取得対象外となるが、出席のみに点数を与えることはないので誤解のないように。

【学生の意見等からの気づき】

今年度もマスクとアクリル板から自由になることはないだろうから、それら伝達上の障壁を何とか乗り越えたい。

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to acquire higher reading skills, with a view to a further understanding of American society and culture. Students are also required to build up their vocabulary.

Before each class meeting, you will be expected to have made preparations for the relevant chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

term-end examination: 50%; quizzes and assignments: 30%; in-class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

滝沢 玄

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

より高い次元の読解力を身につけ、アメリカ社会について深く知る。

【到達目標】

英語学習のみならず、現代日本の政治・経済・文化にも多大な影響力を与える、アメリカについての知見を深める。論理的な英文を読みこなすのに必要とされる語彙を増やし、論旨の進め方やパラグラフ間のつながりを意識して読み、長いエッセイの焦点を絞りこむ能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

以下、対面授業を前提として話を進める。

各ユニットの語彙、読解問題は事前の準備を前提に、テキスト付属のアプリに、端末を使って毎回解答を提出する。授業ではその回答にもとづいたレビューを行なったうえで、本文を朗読し、各パラグラフの構成や論旨を確認し、長文など必要な箇所を精読する。挙手による発言、その的確さを平常のポイントとして加算する。毎回のユニット終了の翌週には、リスニングの小テストが行なわれる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Review, etc.	春学期試験レビュー。他時間に依りてプリント使用予定。
第2回	Unit 9	The Student Loan Crisis
第3回	Unit 9-10	The Student Loan Crisis/Dirty Tricks in Congress
第4回	Unit 10	Dirty Tricks in Congress
第5回	Unit 11	Shale Gas
第6回	Unit 11-12	Shale Gas/Plastic Garbage in the Ocean
第7回	Unit 12	Plastic Garbage in the Ocean
第8回	Unit 13	Genetically Modified Foods
第9回	Unit 13-14	Genetically Modified Foods/Big Tech's Hegemony
第10回	Unit 14	Big Tech's Hegemony
第11回	Unit 15	True Cost: Beyond Globalization
第12回	Unit 15/Video Watching	True Cost: Beyond Globalization
第13回	Video Watching	進度に応じて、テキストに関連した映像を視聴の予定。
第14回	Test	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

リーディング本文の単語や語句は事前に調べ、パラグラフごとに要点をまとめ、語句や読解問題は事前に解いたうえで授業にのぞむこと。音声はダウンロードできるので事前に音声を聞き、朗読の練習に役立てることでリスニングのテストにつながる。

【テキスト（教科書）】

Yukihiro Tsukada et als., Inside and Out (金星堂, 2022), ¥2000.

【参考書】

レベルの高い英文を読むには『リーダーズ英和』（研究社）など語彙の充実した英語辞書は欠かせない。

書物ではないが、より最新のアメリカ事情について知るには、(2022年2月現在)木曜午後10時半からBS朝日で放映中の『町山智浩のアメリカを今を知るTV with CNN』が参考になる。YouTubeで過去の放送（オフィシャルなもの）の視聴も可能。

【成績評価の方法と基準】

最終試験50%、小テストと課題提出30%、授業への積極的参加と発言20%。欠席4回以上の者は単位取得対象外となるが、出席のみに点数を与えることはないので誤解のないように。

【学生の意見等からの気づき】

今年度もマスクとアクリル板から自由になることはないだろうから、それら伝達上の障壁を何とか乗り越えたい。

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to acquire higher reading skills, with a view to a further understanding of American society and culture. Students are also required to build up their vocabulary.

Before each class meeting, you will be expected to have made preparations for the relevant chapter. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

term-end examination: 50%; quizzes and assignments: 30%; in-class contribution: 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017年度以降入学者

近藤 隆子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の国々の歴史・文化・社会などを扱う英語教材を通して、他国について様々な角度から理解を深めるとともに、総合的な英語力を養う。主として英語のリーディング力とリスニング力を伸ばす。各課は、リーディング中心の前半とリスニング中心の後半で構成されている。前半では、Warm-up Exercise で各国に関する背景知識をクラスメートと活性化し、Vocabulary Exercise で Reading の中に出てくる重要語彙を予習したうえで、Reading と Reading Comprehension で読解練習をし、読む力を育成する。そして、後半では、英語のネイティブスピーカーが各国について視覚的に紹介する映像と地元の人がそれぞれの国について話すインタビュー形式の映像の視聴をとおして、聴解練習をしていく。英語のネイティブスピーカーだけではなく、ノンネイティブスピーカーの英語にも触れ、聴く力を育成する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できる
- ・目的に応じた速度で効果的に英文を読むことができる
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を把握できる
- ・英語で書かれた・話された内容を、日本語や英語で要約・説明できる
- ・論理的に文法・構文を説明できる
- ・世界で使用されている様々な英語を効果的に聞き取り、意味をつかむことができる
- ・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

受講生は予習として Reading passage を事前に読み、online videos を視聴し、指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って予習してきた問題・内容確認を行います。また、文章の内容や注意すべき文法・構文、語彙などを確認します。ペア・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合ってください。一つのチャプターが終わったら、次の週に小テストを行います。小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション、Chapter 1 India	授業の概要説明, Chapter 1 India の Warm-up Exercise, Vocabulary Exercise, 文章の速読の練習
第2回	Chapter 1 India, Chapter 2 Philippines	Chapter 1 India: Online video 内容確認 Chapter 2 Philippines: 文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認
第3回	Chapter 3 Thailand	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第4回	Chapter 4 Vietnam	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

第 5 回	Chapter 5 Korea	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 6 回	Chapter 6 France	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 7 回	Chapter 7 Italy	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 8 回	Chapter 8 Denmark	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 9 回	Chapter 9 Portugal	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 10 回	Chapter 10 Turkey	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 11 回	Chapter 11 Egypt	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 12 回	Chapter 12 South Africa	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 13 回	Chapter 13 Brazil	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト
第 14 回	Chapter 14 Peru	文章の内容確認、エクササイズ、 Online video 内容確認、小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指示に従って、教科書の本文の要約、エクササイズ、オンラインビデオの視聴、内容理解をしたうえで、授業に出席する。

復習：学習した内容が定着するよう（同時に、小テスト対策として）、語彙、文法事項、本文内容、オンラインビデオの内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Scott Berlin & Megumi Kobayashi. "World Adventures" 金星堂、2021 年、2300 円（税別）

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期中の小テスト 60%、課題 30%、平常点 10%による総合評価。特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

オンライン授業（Zoom 使用）の場合も同様で、授業の最初に出席状況を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業に出席してください
- ・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
- ・積極的に授業に参加することが求められます
- ・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
- ・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students deepen their understanding of other countries from various perspectives and cultivate comprehensive English abilities. This course mainly enhances the development of students' skills in reading and listening in English.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Students should be able to read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes
- Students will acquire effective listening skills
- Students should be able to use dictionaries effectively

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on vocabulary quizzes and unit tests (60%), homework assignments (30%), and in-class contribution (10%).

LANe100LA	
English 1 II	2017 年度以降入学者
近藤 隆子	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：木 2/Thu.2
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の国々の歴史・文化・社会などを扱う英語教材を通して、他国について様々な角度から理解を深めるとともに、総合的な英語力を養う。主として英語のリーディング力とリスニング力を伸ばす。各課は、リーディング中心の前半とリスニング中心の後半で構成されている。前半では、Warm-up Exercise で各国に関する背景知識をクラスメートと活性化し、Vocabulary Exercise で Reading の中に出てくる重要語彙を予習したうえで、Reading と Reading Comprehension で読解練習をし、読む力を育成する。そして、後半では、英語のネイティブスピーカーが各国について視覚的に紹介する映像と地元の人がそれぞれの国について話すインタビュー形式の映像の視聴をとおして聴解練習をしていく。英語のネイティブスピーカーだけではなく、ノンネイティブスピーカーの英語にも触れ、聴く力を育成する。

【到達目標】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できる
- ・目的に応じた速度で効果的に英文を読むことができる
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を把握できる
- ・英語で書かれた・話された内容を、日本語や英語で要約・説明できる
- ・論理的に文法・構文を説明できる
- ・世界で使用されている様々な英語を効果的に聞き取り、意味をつかむことができる
- ・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生は予習として Reading passage を事前に読み、online videos を視聴し、指定された問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って予習してきた問題・内容確認を行います。また、文章の内容や注意すべき文法・構文、語彙などを確認します。ペア・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、教員が提示する問題について話し合っていたいただきます。一つのチャプターが終わったら、次の週に小テストを行います。小テスト、課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、Chapter 1 Australia	授業の概要説明、文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認
第 2 回	Chapter 2 Indonesia	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 3 回	Chapter 3 Singapore	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 4 回	Chapter 4 China	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 5 回	Chapter 5 Argentina	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 6 回	Chapter 6 Mexico	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

第 7 回	Chapter 7 Germany	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 8 回	Chapter 8 Finland	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 9 回	Chapter 9 Poland	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 10 回	Chapter 10 Spain	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 11 回	Chapter 11 Greece	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 12 回	Chapter 12 Kenya	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 13 回	Chapter 13 Morocco	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト
第 14 回	Chapter 14 Lebanon	文章の内容確認、エクササイズ、Online video 内容確認、小テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指示に従って教科書の本文の要約、エクササイズ、オンラインビデオの視聴、内容理解をしたうえで、授業に出席する。
復習：学習した内容が定着するよう（同時に、小テスト対策として）、語彙、文法事項、本文内容、オンラインビデオの内容を復習する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Scott Berlin & Megumi Kobayashi. "On Board for More World Adventures" 金星堂、2021 年、2300 円（税別）

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期中の小テスト 60%、課題 30%、平常点 10%による総合評価。特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。オンライン授業（Zoom 使用）の場合も同様で、授業の最初に出席状況を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業に出席してください
- ・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
- ・積極的に授業に参加することが求められます
- ・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
- ・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students deepen their understanding of other countries from various perspectives and cultivate comprehensive English abilities. This course mainly enhances the development of students' skills in reading and listening in English.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Students should be able to read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes
- Students will acquire effective listening skills
- Students should be able to use dictionaries effectively

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on vocabulary quizzes and unit tests (60%), homework assignments (30%), and in-class contribution (10%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田口 清一

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識 (一般教養) が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めていきたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

* 英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。

* 英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。

* 読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。

* 日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。

* 英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインにて、「オンデマンド型」で行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行ってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

課題の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通して、各回の課題に対し次回の授業で解説を行う。最終回には春学期全体の講評も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	年間の授業についての説明
第 2 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理 (可算と不可算)
第 3 回	英語の論理と考え方	名詞を中心とした論理 (冠詞と限定詞)
第 4 回	Chapter1(Four Countries) ①	本文読解・リスニング・音読
第 5 回	Chapter1(Four Countries) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 6 回	Chapter2(The Lake District) ①	本文読解・リスニング・音読
第 7 回	Chapter2(The Lake District) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文

第 8 回	Chapter3(Stratford-upon-Avon) ①	本文読解・リスニング・音読
第 9 回	Chapter3(Stratford-upon-Avon) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 10 回	Chapter4(London through the Ages) ①	本文読解・リスニング・音読
第 11 回	Chapter4(London through the Ages) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 12 回	Chapter5(Wessex) ①	本文読解・リスニング・音読
第 13 回	Chapter5(Wessex) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 14 回	学期末の講評	春学期の課題の講評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文読解においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に、辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べること。各回の授業のポイントは次回までに必ず復習しておくこと。

尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、合わせて最低でも 1 時間は割くことが標準となる。

【テキスト（教科書）】

Cultural Walks in Britain(イギリス文化散策) 成美堂

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書(体系的にある程度詳しく記述されたもの)を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業となるため、「平常点」のみで評価する。具体的には、毎回の課題提出 40 %、その出来 60 % で評価する。課題に取り組む際に、【到達目標】に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。

尚、課題提出が出席に相当するので、原則として未提出の課題が 4 回以上ある場合は単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もあるので、今年度も、本質的な論理に関しては丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline (in English)】

[Course Outline and Objectives]

The main purpose of this course is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

The final objective of this course is to understand English in the English modes of thinking, not in the Japanese ones.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Students will be expected to spend at least an hour in preparing for and reviewing each class.

[Grading Criteria]

Each student's final grade will be decided, based on his or her submissions of the required assignments(40%) and their results(60%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

田口 清一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学入学時までの英語力に更に磨きをかけるために、グローバルな視野に立ち、語彙・文法・背景知識（一般教養）が三位一体となった総合的英語力の向上を目指す。語彙に関しては重要な語源を活用した能率的な方法によって豊かにしていき、文法に関しては特に「コミュニケーション」という観点から体系的かつ本質的理解を深めたい。こうした純粋に語学的要素に一般教養という要素が加わって初めて本物の読解力と表現力が得られるのである。

【到達目標】

以下の達成を主眼とする。

＊英文の正確かつ迅速な理解のために、一語・一句を疎かにしない精密な読みができるようにする。

＊英文の内容と文脈を常に考えながら読む習慣を身に付ける。

＊読解と表現に必要な文法を体系的に身に付ける。

＊日々の英語学習においてリスニングを習慣化し、英語の耳を養う。

＊英語の根本的論理を理解し、「日本語モード」ではなく「英語モード」で英文を捉えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインにて、「オンデマンド型」で行う。本文の精読による英文の正確かつ深い読みの訓練を柱とし、各箇所について必要なコメントを加えると共に、関連事項の解説などを行なってゆく。授業では、日本語と英語の論理や発想の違いに常に留意しながら、英語的論理で英文を理解した上で「自然な日本語」に翻訳する力を磨くと共に、理解した内容について英語で表現する能力も高めてゆきたい。同時にテキストの内容から、真の英語理解に不可欠なイギリスの文化や歴史に関する認識をも深められれば一石二鳥であろう。年間を通して、無味乾燥な「暗記語学」ではなく、「知的に考える語学」というものを実践したい。

課題の提出とフィードバックは「学習支援システム」を通して、各回の課題に対し次回の授業で解説を行う。最終回には年間を通しての総評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語と英語の相違	文圧縮(名詞構文)
第 2 回	日本語と英語の相違	人称代名詞
第 3 回	Chapter6(Winchester) ①	本文読解・リスニング・音読
第 4 回	Chapter6(Winchester) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 5 回	Chapter7(Oxbridge) ①	本文読解・リスニング・音読
第 6 回	Chapter7(Oxbridge) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文
第 7 回	Chapter8(The Cotswolds) ①	本文読解・リスニング・音読
第 8 回	Chapter8(The Cotswolds) ②	本文読解・リスニング・音読、英作文

第 9 回	Chapter9(Caterbury)	本文読解・リスニング・音読 ①
第 10 回	Chapter9(Canterbury)	本文読解・リスニング・音読、英 ② 作文
第 11 回	Chapter10(Manchester)	本文読解・リスニング・音読 ①
第 12 回	Chapter10(Manchester)	本文読解・リスニング・音読、英 ② 作文
第 13 回	年間の仕上げ	読解問題演習
第 14 回	今年度の総括	年間のまとめと総評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の課題に対して、しっかりした予習・復習が必須である。本文読解においては、リスニングを行った後に必ず英文を数回音読した上で精読すること。その際に辞書を調べる場合には用例も含めて必ずその項目を全て読むこと。また、文法・構文的にあやふやな時には必ず文法書を調べる。英作問題においては必ず自分の解答を用意して、授業の解説で自ら添削すること。各回の授業のポイントとは次回までに必ず復習しておくこと。

尚、予習・復習に要する時間は個人差があると思われるが、合わせて最低でも 1 時間は割くことが標準となる。

【テキスト（教科書）】

Cultural Walks in Britain(イギリス文化散策) 成美堂

【参考書】

特に指定はしないが、必ず文法書(体系的にある程度詳しく記述されたもの)を一冊は備え、予習・復習の際や、自分で英文を読み書きする際には辞書だけでなく、必ず文法書も参照することが重要である。

【成績評価の方法と基準】

オンライン授業となるため、「平常点」のみで評価する。具体的には、毎回の課題提出 40 %、その出来 60 % で評価する。課題に取り組む際に、【到達目標】に掲げた項目をどの程度意識して行っているかを重視する。秋学期は春学期からの習熟度も考慮に入れる。

尚、課題提出が出席に相当するので、未提出の課題が 4 回以上ある場合は単位修得の資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

真剣に取り組んだ学生からは、英語の見方が変わったという感想もあるので、今年度も、本質的な論理に関しては丁寧に解説していきたいと思う。

【その他の重要事項】

年間を通してのレベル・アップを目指すので、春学期・秋学期合わせての履修を原則とする。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

The main purpose of this class is to improve the ability in English from a broader point of view by integrating vocabulary and grammar with cultural literacy. For enriching vocabulary, it is necessary to make good use of important etymologies; for understanding grammar systematically and fundamentally, it will be examined from the perspective of "communicative grammar". To these genuinely linguistic factors, the factor of cultural literacy should be added to acquire a real understanding of English.

The final objective of this course is to understand English in the English modes of thinking, not in the Japanese ones.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Students will be expected to spend at least an hour in preparing for and reviewing each class.

【Grading Criteria】

Each student's final grade will be decided, based on his or her submissions of the required assignments(40%) and their results(60%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複数のパラグラフからなる英文を読む。構文など、文法事項に関することを学ぶ。

速読や精読など目的に応じた速度で効果的に読む訓練をする。

必要な知識・情報を掴み取るを訓練をする。書き手の感情や意図、論旨を正確に把握する訓練をする。精読した英文の要旨や、それについてのコメントなどを英語で書く練習をする。英語辞書の効果的な使い方について学習する。This course introduces reading and writing to students taking this course.

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取る、また書き手の感情や意図を掴むことが出来る。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力を養うことが出来る。「聴く力」の育成も、授業の一環で行い、精読した英文の要旨や、それについての批判的コメントなどを英語で書ける。Students will learn how to paraphrase what they have read and then write in English a summary of and comments on what they have read. The goals of this course are to reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

Students will attend seminar in English I class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイ	1 年間の予定、授業の	1 年間の授業の予定、進め方など
ンス	進め方などを説明する。	を説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。

Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容と提出率で評価します。レポートでの評価 100 %、セメスター内で、4 回以上のレポート未提出をした場合には単位取得が不可能になります。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goals of this course are to reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports 100 %.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として複数のパラグラフからなる英文を読めるようにする。速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来るようにする。必要な知識・情報を掴み取ることが出来るようにする。書き手の感情や意図を掴むことが出来るようにする。英語辞書の効果的な使い方が出来るようにする。This course introduces reading and writing to students taking this course.

【到達目標】

複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことが出来る。特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意しつつ、構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報を掴み取ること、また書き手の感情や意図を掴むことができる。さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力が出来る。「聴く力」の育成出来る。また、精読した英文の要旨や、それについての批判的なコメントを英語で書ける。Students will learn how to paraphrase what they have read and then write in English a summary of and comments on what they have read. The goals of this course are to reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

Students will attend seminar in English I class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。

Chapter Japan
9

Japan を学習する。

ビデオ ビデオを学習。
試験 試験を行う。ビデオ学習をする。
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld (世界の主要国) 鳳書房 1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容と提出率で評価します。レポートでの評価 100 %、セメスター内で、4 回以上のレポート未提出をした場合には単位取得が不可能になります。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【その他の重要事項】

授業中の私語、食事は禁止します。

英語の授業なので、辞書または電子辞書を持参すること。

授業中、スマホはカバンの中にしめておくこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goals of this course are to reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports 100 %.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

水野 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】

英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

『Skills for Better Reading 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2022 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英文に内在する論理構造のパターンを実感するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進度については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Conclusions/Reasons (1)	Headline: Tokyo assembly split after vote amid pandemic Olympics fears (1)
第 02 回	Conclusions/Reasons (2)	Headline: Tokyo assembly split after vote amid pandemic Olympics fears (2)
第 03 回	Social Trends (1)	Headline: IMF sees stronger global growth as some COVID clouds begin to clear (1)
第 04 回	Social Trends (2)	Headline: IMF sees stronger global growth as some COVID clouds begin to clear (2)
第 05 回	Results/Causes (1)	Headline: Inflation? Not in Japan. And that could hold a warning for the U.S. (1)
第 06 回	Results/Causes (2)	Headline: Inflation? Not in Japan. And that could hold a warning for the U.S. (2)
第 07 回	Several Explanations (1)	Headline: G7 chides China on rights, demands COVID origins investigation (1)
第 08 回	Several Explanations (2)	Headline: G7 chides China on rights, demands COVID origins investigation (2)

第 09 回	Comparisons (1)	Headline: Japan's submarines to 'choke' Chinese navy (1)
第 10 回	Comparisons (2)	Headline: Japan's submarines to 'choke' Chinese navy (2)
第 11 回	For and Against (1)	Headline: China's Communist Party celebrates centennial (1)
第 12 回	For and Against (2)	Headline: China's Communist Party celebrates centennial (2)
第 13 回	Classification (1)	Headline: Time for a national plan to support Japan's 'young carers' (1)
第 14 回	Classification (2)	Headline: Time for a national plan to support Japan's 'young carers' (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子『Skills for Better Reading < Intermediate > Third Edition 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉[第 3 版]』（南雲堂）ISBN:9784523179269
堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2022 Edition 時事英語の総合演習 2022 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156811

【参考書】

必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.

Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination (100 %)

Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

水野 太朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生の英文読解能力の向上を主たる目的とします。その際、論理構造に対する意識と実用的な英語についての理解に重点を置きます。

【到達目標】

英文の論理構成を体得することによって、読解を円滑に進められる技術を身につけてゆきます。また、メディアで流通しているような実践的な英語に取り組むことを通じて、今般の社会においても通用しうる読解力を涵養してゆきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

『Skills for Better Reading 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉』と『English for Mass Communication 時事英語の総合演習 2022 年度版』の二冊を教材として使用します。前者は英文に内在する論理構造のパターンを実感するため、後者は実社会で用いられている英語の文章についてより理解を深めるために、それぞれ精読してゆく予定です。授業に際しては一文ずつ受講生を指名し、口頭で訳出してもらったうえで、順次ポイントをおさえながら解説してゆきます。また、音読による即読即解の訓練も行いたいと思います。進度については授業中の演習を通じ、習熟度を確認しつつ適宜調整するつもりです。必要であれば追加の講読用教材もプリントの形で配布します。なお、質問等に対するフィードバックは授業中に随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Conclusions/Reasons (1)	Headline: Asian American group receives nearly 3,800 reports of hate and bias (1)
第 02 回	Conclusions/Reasons (2)	Headline: Asian American group receives nearly 3,800 reports of hate and bias (2)
第 03 回	Social Trends (1)	Headline: Japan court says not recognizing same-sex marriage unconstitutional (1)
第 04 回	Social Trends (2)	Headline: Japan court says not recognizing same-sex marriage unconstitutional (2)
第 05 回	Results/Causes (1)	Headline: Unfrozen world: Arctic thaw becomes major source of global risk (1)
第 06 回	Results/Causes (2)	Headline: Unfrozen world: Arctic thaw becomes major source of global risk (2)
第 07 回	Several Explanations (1)	Headline: Japan boosts renewable energy target for 2030 energy mix (1)
第 08 回	Several Explanations (2)	Headline: Japan boosts renewable energy target for 2030 energy mix (2)

第 09 回	Comparisons (1)	Headline: China announces three-child limit in major policy shift (1)
第 10 回	Comparisons (2)	Headline: China announces three-child limit in major policy shift (2)
第 11 回	For and Against (1)	Headline: No ET, no answers: Intel report is inconclusive about UFOs (1)
第 12 回	For and Against (2)	Headline: No ET, no answers: Intel report is inconclusive about UFOs (2)
第 13 回	Classification (1)	Headline: Rugby: Brave Blossoms cherish historic Lions test, despite defeat (1)
第 14 回	Classification (2)	Headline: Rugby: Brave Blossoms cherish historic Lions test, despite defeat (2)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業においては、教科書を事前に読んでおくことが前提となります。授業の予習・復習には少なくとも一時間を要します。

【テキスト（教科書）】

石谷由美子『Skills for Better Reading < Intermediate > Third Edition 構造で読む英文エッセイ〈中級編〉[第 3 版]』（南雲堂）ISBN:9784523179269

堀江洋文、加藤香織、小西和久、宮崎修二、内野泰子（編著）『English for Mass Communication 2022 Edition 時事英語の総合演習 2022 年度版』（朝日出版社）ISBN:9784255156811

【参考書】

必要に応じて、授業時にプリントを配布します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

なお、ILAC 英語科目に共通するルールとして「各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない」という項目があり、本科目もこれに該当しますので、十分に留意してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度・習熟度に応じて、進度を適宜調整したいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline: In this course, students are mainly expected to improve their reading skill in English, paying attention to paragraph structure and comprehending practical English.

Learning objectives: The goals of this course are to acquire better reading skill by learning the logical structure of English and to develop an understanding of contemporary world through the language for the media.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading criteria / Policies: Final grade will be decided based on term-end examination (100 %)

Absence guideline for ILAC English courses: In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit for the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するので必ず予習（単語調べ、解答作成など）をしてくること。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容の説明等
2	Unit 1	読解：試験やアンケートに関する英文
3	Unit 1（続き）	文法：主語と目的語
4	Unit 2	読解：食生活に関する英文
5	Unit 2（続き）	文法：述部、付加語、補語
6	Unit 3	読解：サブカルチャーに関する英文
7	Unit 3（続き）	文法：様々な修飾
8	Unit 4	読解：映画に関する英文
9	Unit 4（続き）	文法：完了形
10	Unit 5	読解：社会制度に関する英文
11	Unit 5（続き）	文法：不定詞
12	Unit 6	読解：ポピュラーミュージックに関する英文
13	Unit 6（続き）	文法：動名詞および現在分詞
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

- ・ GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING：読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・ READING：本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ ACTIVITIES：問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト（教科書）】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング—正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】

文法の参考書は

- ・『FOREST』 桐原書店

を薦める。

英和辞典は

- ・『リーダーズ英和辞典＋リーダーズプラス』 研究社
- ・『研究社英和大辞典』 研究社
- ・『ランダムハウス英和大辞典』 小学館
- ・『ジーニアス英和大辞典』 大修館書店

を薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

- ・ 欠席が3回以内であること（遅刻については下記参照）。
 - ・ 受講態度が良好であること（無予習、私語、居眠りは厳禁）
 - ・ 期末試験の結果が100点満点中60点以上であること。
- 以上3点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・ なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

- ・ 上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・ 期末試験 50 %
- ・ 平常点（学習態度および受講態度） 50 %

遅刻の扱い

- ・ 遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・ 遅刻は分数を記録し、合計が60の倍数に達するごとに1回の欠席とする。記録は10分刻みとし、端数は切り上げる（1分の遅刻は10と記録する）。
- ・ なお、中座（用便等の理由で一時退室する行為）や早退（体調不良等で授業終了前に退室する行為）も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席

- ・ 座席は指定する。

オフィスアワー

- ・ 授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly. The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. rightly understand and explain the example sentences in BEFORE READING, based on the grammatical knowledge learned in GRAMMAR FOCUS and BEFORE READING.
- B. rightly understand and explain the structure and meaning of every sentence of the passage in READING, and rightly answer the related questions.

-C. rightly answer the grammar questions in ACTIVITIES.

Learning Activities Outside of Classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the textbook and prepare for oral questions about them from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term end examination: 50% and in-class oral questions: 50%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

坂梨 健史郎

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

- ・複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解し、また理解したことを日本語と英語で説明できる力を養う。
- ・特にパラグラフの構造およびパラグラフ同士のつながりに留意する。
- ・構文・論旨を正確に把握し、必要な知識・情報をつかみ取ること、また書き手の感情や意図をつかむことに重点を置く。
- ・さらに、得られた情報を鵜呑みにするのではなく、多面的・客観的観点から分析する、いわゆる批判的思考力の養成も行う。
- ・異なる分野の語彙力の強化および文法・語法の整理・活用を図る。
- ・朗読テープを用いて「聴く力」の育成も行う。
- ・また、英語辞書の効果的な使い方についても指導する。

【到達目標】

- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING で扱う文法事項を踏まえて、BEFORE READING の各例文を正確に理解し説明できる。
- ・READING の本文の構文や意味を正確に理解した上で説明できるとともに、関連する設問に正解できる。
- ・ACTIVITIES の各文法問題に正解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキスト本文の講読および問題演習。授業中に全員に指名するの必ず予習 (単語調べ、解答作成など) をしてくる。指名時の回答に対しては即座に正誤判定を行い、正解およびコメントを発表する。
- ・各ユニットは 4 セクションで構成されている。GRAMMAR FOCUS、BEFORE READING および ACTIVITIES では文法事項の復習と整理に努める。READING では本文の訳読を主体に進め、またパラグラフごとに和文および英文の設問があるのでそれに答えることで、より深い読みを目指す。興味深いテーマと明快な英文で書かれたエッセイを楽しみつつ学習して欲しい。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7	読解: リサイクルに関する英文
2	Unit 7 (続き)	文法: 助動詞
3	Unit 8	読解: 起業に関する英文
4	Unit 8 (続き)	文法: 関係詞
5	Unit 9	読解: 伝統文化に関する英文
6	Unit 9 (続き)	文法: it や there を用いる構文
7	Unit 10	読解: 日本文化に関する英文
8	Unit 10 (続き)	文法: 受動文
9	Unit 11	読解: 健康に関する英文
10	Unit 11 (続き)	文法: 比較の表現
11	Unit 12	読解: 消費行動に関する英文
12	Unit 12 (続き)	文法: 名詞構文
13	Unit 13	読解: 日本と西洋の文化比較に関する英文
14	試験・まとめと解説	授業時間内に実施する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 必ず予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
- ・GRAMMAR FOCUS および BEFORE READING : 読んでくる。例文中の単語や表現の意味を調べてくる。
- ・READING : 本文については読んで、指名されたら訳せるように、単語や表現の意味を調べてくる。設問については解答を和文および英文で作成してくる。
- ・ACTIVITIES : 問題文の意味を調べ、解答を作成してくる。

【テキスト (教科書)】

『Ins & Outs: Reading Focusing on Grammar Skills 文法中心のパラグラフリーディング—正しい英語の読み方』 金星堂

【参考書】

- 文法の参考書は
 - ・『FOREST』 桐原書店を薦める。
 - 英和辞典は
 - ・『リーダーズ英和辞典+リーダーズプラス』 研究社
 - ・『研究社英和大辞典』 研究社
 - ・『ランダムハウス英和大辞典』 小学館
- をどれかを薦めるが、どれも大部なので電子辞書でないと携帯が難しい。

【成績評価の方法と基準】

単位取得条件

- ・欠席が 3 回以内であること (遅刻については下記参照)。
 - ・受講態度が良好であること (無予習、私語、居眠りは厳禁)
 - ・期末試験成績が 100 点満点中 60 点以上であること。
- 以上 3 点をすべて満たす者のみが単位を取得できる。
- ・なお、受講態度や学習態度が不良の者は、欠席扱いや学期途中での履修取り消し等の措置を取ることがある。

期末試験

- ・上記「授業の到達目標」がどの程度達成できているかを測る内容とする。

成績評価

- ・期末試験 50 %
- ・平常点 (学習態度および受講態度) 50 %

遅刻の扱い

- ・遅刻とは「出欠確認後に教室に入る行為」を指す。遅刻の理由は問わない。
- ・遅刻は分数を記録し、合計が 60 の倍数に達するごとに 1 回の欠席とする。記録は 10 分刻みとし、端数は切り上げる (1 分の遅刻は 10 と記録する)。
- ・なお、中座 (用便等の理由で一時退室する行為) や早退 (体調不良等で授業終了前に退室する行為) も遅刻と同様に扱う。

【学生の意見等からの気づき】

「文法をもっと教えて欲しい」という指摘があった。基本的にはテキストの内容に沿って授業を進めるが、関連する文法事項にもなるべく多く触れたいと思う。

【その他の重要事項】

座席

- ・座席は指定する。

オフィスアワー

- ・授業に関する質問や相談は授業の前後に受け付ける。

【Outline (in English)】

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. rightly understand and explain the example sentences in BEFORE READING, based on the grammatical knowledge learned in GRAMMAR FOCUS and BEFORE READING.

-B. rightly understand and explain the structure and meaning of every sentence of the passage in READING, and rightly answer the related questions.

-C. rightly answer the grammar questions in ACTIVITIES.

Learning Activities Outside of Classroom

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant pages from the textbook and prepare for oral questions about them from the teacher. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term end examination: 50% and in-class oral questions: 50%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業で、学生はアメリカの漫画家チャールズ・シュルツの **Peanuts** を題材にしたテキストを用い、実用的実践的な英語表現の習得と、300～400 字程度のリーディングテキスト読解に取り組みます。リーディングテキストの内容は、**Peanuts** の漫画が示唆するアメリカ社会を取り扱った社会文化的、心理学的テーマが中心となります。英語の学習とはコミュニケーションの学習であり、第 2 外国語として英語を学習する目的とは言語を用いた他者とのコミュニケーション能力の獲得です。英語はいまや世界共通語と言ってよく、英語によるコミュニケーション能力を獲得することはグローバル社会を生きていくうえで必須です。本授業の中心はリーディングですが、受信型の授業にとどまらない、コミュニケーション能力の獲得に向けた学生参加型の授業を行います。その方法の 1 つとして、**Peanuts** に登場するキャラクターを用いたロールプレイや、漫画の台詞のシャドーイングなど、様々なアクティビティを行う予定です。

【到達目標】

本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。

- ① **make** や **give**, **run** などの基本動詞を用いたイディオムや口語表現の習得。
- ② イディオムや口語表現を適切に用いた英語コミュニケーション能力。
- ③ 大文字で書かれた英語のコミックの短い表現に慣れる。
- ④ 英語らしい抑揚やアクセント、アーティキュレーションで漫画の台詞を喋ることができる。
- ⑤ 300～400 字程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。

ペアワーク、グループワークなど学生参加型のワークを多く行う予定です。また、授業内でリアクションペーパー提出なども行います。これらのワークは、すべて平常点として評価されますので、しっかりと参加してください。

初回授業のガイダンスと、最終授業の筆記試験はオンラインで行われます。それ以外の授業は原則対面授業を行う予定ですが、感染症や災害などの様々な状況に応じて **Zoom** 授業を行うこともあります。これらの授業予定は、すべて授業支援システムを通じて事前に案内しますので、授業支援システムを必ずチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4 月 7 日	ガイダンス	授業の方針説明 テキストの紹介、導入
4 月 14 日	Lesson 1: Body Language in Peanuts	動詞 make の使い方 リスニング、ライティング
4 月 21 日	Lesson 1: Body Language in Peanuts	リーディング

4 月 28 日	Lesson 2: Lucy's Psychiatry Stand	動詞 give の用い方 リスニング、ライティング
5 月 12 日	Lesson 2: Lucy's Psychiatry Stand	リーディング
5 月 19 日	Lesson 3: Friends Forever	動詞 run の用い方 リスニング、ライティング
5 月 26 日	Lesson 3: Friends Forever	リーディング
6 月 2 日	Lesson 4: Peanuts as a Social Group	動詞 come の用い方 リスニング、ライティング
6 月 9 日	Lesson 4: Peanuts as a Social Group	リーディング
6 月 16 日	Lesson 5: Schroeder the Music Lover	動詞 get の用い方 リスニング、ライティング
6 月 23 日	Lesson 5: Schroeder the Music Lover	リーディング
6 月 30 日	Lesson 6: Girls in Peanuts	動詞 take の用い方 リスニング、ライティング
7 月 7 日	Lesson 6: Girls in Peanuts	リーディング
7 月 14 日	学期末筆記試験	オンライン筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業の準備学習は特に指定しませんが、復習の課題を毎回出します。課題の取り組みは、平常点として評価しますので、しっかりと取り組んでください。課題は、授業支援システムを通じて出題、チェック等行います。

【テキスト（教科書）】

【教科書名】Enjoy English with Charlie Brown and Friends: Language and Culture in Peanuts

【著者】外山晴子

【出版社】南雲堂

【出版年】2021 年

【価格】2530 円

【参考書】

参考書は特に指定しませんが、必要に応じて授業内で適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

成績は 100 点満点で評価し、60 点以上で合格です。
成績評価の内訳は、平常点 40 %、学期末筆記試験 60 %です。平常点は通常授業の授業参加や課題の取り組み、小テストなどを評価します。

4 回以上欠席をすると単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを通じた復習課題の提出により、学生の学習効率が上がり成績の上昇につながったため、本授業でも授業支援システムを通じて復習課題を出題します。

【学生が準備すべき機器他】

授業の案内や課題提出等、全て授業支援システムを通じて行います。また初回授業は Zoom で行いますので、パソコンなどのネットワーク環境を整えてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, students will work on two goals of improving English skills; one is learning of various English expressions which can be used in conversation and the other is reading of English essays with 300~400 words. The course will be taught with the textbook based on classic Peanuts comic strips written by the famous American cartoonist, Charles Schulz. Reading text is a 300~400-word essay dealing with the cultural, social, and even philosophical themes suggested in Peanuts cartoons. Studying English is studying communication and the aim of learning English as the second language is to learn oral communication with people of other tongue. English is the universal language in today's world, and acquiring the ability of communicating in English is indispensable for living in this global world. The main focus of this class is reading, however, students will participate in various activities intended to improving students' communicating ability, such as playing of comic scenes or shadowing of parts of characters.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

高井 美紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業で、学生はアメリカの漫画家チャールズ・シュルツの **Peanuts** を題材にしたテキストを用い、実用的実践的な英語表現の習得と、300～400 字程度のリーディングテキスト読解に取り組みます。リーディングテキストの内容は、**Peanuts** の漫画が示唆するアメリカ社会を取り扱った社会文化的、心理学的テーマが中心となります。英語の学習とはコミュニケーションの学習であり、第 2 外国語として英語を学習する目的とは言語を用いた他者とのコミュニケーション能力の獲得です。英語はいまや世界共通語と言ってよく、英語によるコミュニケーション能力を獲得することはグローバル社会を生きていくうえで必須です。本授業の中心はリーディングですが、受信型の授業にとどまらない、コミュニケーション能力の獲得に向けた学生参加型の授業を行います。その方法の 1 つとして、**Peanuts** に登場するキャラクターを用いたロールプレイや、漫画の台詞のシャドーイングなど、様々なアクティビティを行う予定です。

【到達目標】

本授業を履修することにより、学生は以下の能力を獲得します。

- ① **make** や **give**, **run** などの基本動詞を用いたイディオムや口語表現の習得。
- ② イディオムや口語表現を適切に用いた英語コミュニケーション能力。
- ③ 大文字で書かれた英語のコミックの短い表現に慣れる。
- ④ 英語らしい抑揚やアクセント、アーティキュレーションで漫画の台詞を喋ることができる。
- ⑤ 300～400 字程度の複数パラグラフからなる英文を読み、その内容を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行います。

ペアワーク、グループワークなど学生参加型のワークを多く行う予定です。また、授業内でリアクションペーパー提出なども行います。これらのワークは、すべて平常点として評価されますので、しっかりと参加してください。

初回授業のガイダンスと、最終授業の筆記試験はオンラインで行われます。それ以外の授業は原則対面授業を行う予定ですが、感染症や災害などの様々な状況に応じて **Zoom** 授業を行うこともあります。これらの授業予定は、すべて授業支援システムを通じて事前に案内しますので、授業支援システムを必ずチェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9 月 22 日	Lesson 7: Sally and her Legal Beagle	動詞 put の使い方、リスニング、ライティング
9 月 29 日	Lesson 7: Sally and her Legal Beagle	リーディング
10 月 6 日	Lesson 8: Linus's Security Blanket	動詞 set の使い方、リスニング、ライティング
10 月 13 日	Lesson 8: Linus's Security Blanket	リーディング

10 月 20 日	Lesson 9: Crabby Lucy	動詞 see の使い方、リスニング、ライティング
10 月 27 日	Lesson 9: Crabby Lucy	リーディング
11 月 10 日	Lesson 10: Someday My Great Pumpkin Will Come	動詞 turn の使い方、リスニング、ライティング
11 月 17 日	Lesson 10: Someday My Great Pumpkin Will Come	リーディング
11 月 24 日	Lesson 11: Good Grief! It's Valentine's Day	動詞 do の使い方、リスニング、ライティング
12 月 1 日	Lesson 11: Good Grief! It's Valentine's Day	リーディング
12 月 8 日	Lesson 12: Woodstock, the Ultimate Naturalist?	動詞 keep の使い方、リスニング、ライティング
12 月 15 日	Lesson 12: Woodstock, the Ultimate Naturalist?	リーディング
7 月 7 日	Lesson 13: The Life and Work of Charles Schulz	動詞 go の使い方、リスニング、ライティング、リーディング
1 月 12 日	学期末筆記試験	オンライン筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業の準備学習は特に指定しませんが、復習の課題を毎回出します。課題の取り組みは、平常点として評価しますので、しっかりと取り組んでください。課題は、授業支援システムを通じて出題、チェック等行います。

【テキスト（教科書）】

【教科書名】Enjoy English with Charlie Brown and Friends: Language and Culture in Peanuts

【著者】外山晴子

【出版社】南雲堂

【出版年】2021 年

【価格】2530 円

【参考書】

参考書は特に指定しませんが、必要に応じて授業内で適宜案内します。

【成績評価の方法と基準】

成績は 100 点満点で評価し、60 点以上で合格です。
成績評価の内訳は、平常点 40 %、学期末筆記試験 60 %です。平常点は通常授業の授業参加や課題の取り組み、小テストなどを評価します。
4 回以上欠席をすると単位取得不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムを通じた復習課題の提出により、学生の学習効率が上がり成績の上昇につながったため、本授業でも授業支援システムを通じて復習課題を出題します。

【学生が準備すべき機器他】

授業の案内や課題提出等、全て授業支援システムを通じて行います。また初回授業は **Zoom** で行いますので、パソコンなどのネットワーク環境を整えてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, students will work on two goals of improving English skills; one is learning of various English expressions which can be used in conversation and the other is reading of English essays with 300~400 words. The course will be taught with the textbook based on classic Peanuts comic strips written by the famous American cartoonist, Charles Schulz. Reading text is a 300~400-word essay dealing with the cultural, social, and even philosophical themes suggested in Peanuts cartoons. Studying English is studying communication and the aim of learning English as the second language is to learn oral communication with people of other tongue. English is the universal language in today's world, and acquiring the ability of communicating in English is indispensable for living in this global world. The main focus of this class is reading, however, students will participate in various activities intended to improving students' communicating ability, such as playing of comic scenes or shadowing of parts of characters.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

齊藤 昇

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日常生活や現代社会のトピックを英語で表現する力を養います。適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

【到達目標】

日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短篇小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

必要なプリントなどを提示しながらアメリカ短篇小説を読み、適宜、日常生活のトピックを英語表現することを授業で行います。次の授業において課題等に答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の読みと英語表現スキルの養い。
2 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (2)	O・ヘンリーの短篇小説の中のユーモアの英語表現スキルの養い。
3 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (3)	O・ヘンリーの短篇小説のペイソスの英語表現スキルの養い。小テストを実施。
4 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (4)	O・ヘンリーの短篇小説のウィットの英語表現スキルの養い。
5 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (5)	O・ヘンリーの短篇小説のユニークな英語表現スキルの養い。
6 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (6)	O・ヘンリーの短篇小説の古典的な英語表現スキルの養い。小テストを実施。
7 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (7)	O・ヘンリーの短篇小説の英語表現と現在の英語表現の相違について。
8 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (8)	O・ヘンリーの短篇小説の特徴的な英語表現について。小テストを実施。
9 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (9)	O・ヘンリーの短篇小説のどんでん返しの英語表現について。
10 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説の歴史的な文化理解について。
11 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (10)	O・ヘンリーの短篇小説と今の意義について。小テストを実施。
12 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (11)	O・ヘンリーの短篇小説の優れた英語表現について。
13 回	テキスト講読とトピックの英語表現 (1)	O・ヘンリーの短篇小説に表現された英語を使つての英作スキルを養う。

14 回 テキスト講読とトピック O・ヘンリーの短篇小説の意義と
クの英語表現 (12) 英語表現について。小テストを実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読んで、全体の文脈の把握をする。また、様々な日常生活のトピック英語に接する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

O.Henry: The Best Short Stories by J.Suzuki and N.Saito (松柏社)

【参考書】

授業時に指示する

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業のプレゼンの評価 30%と適宜実施する小テストの評価 30%と平常点 40%を総合的に考慮して成績評価とする。ただし、学期欠席が 4 回以上の場合は原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The program in the class fosters the ability to read some short stories critically, to appreciate the power of language to shape presentation. And it encourages students to develop their own style of writing English. As learning objectives, to obtain some useful patterns of the text. Learning activities outside of classroom; to prepare the context carefully in advance. Grading criteria ; mainly focusing some small tests in class and class-activities.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

齊藤 昇

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では日常生活や現代社会のトピックを英語で表現する力を養います。適宜、様々な日常生活のトピックを授業で提示し、それを適切な英語でプレゼンします。またアメリカの短篇小説を講読して文化的な比較も行います。

【到達目標】

日常生活のトピックを英語で表現する力を養い、短篇小説の講読を通して読む力と知識を養います。それによって受講生の英語を書くスキルと講読力の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

必要な教材を活用してアメリカ短篇小説を講読し、その文化的背景と英語表現を習得します。と同時に日常生活のトピックを英語表現できるスキルを養います。それらを授業でプレゼンしてもらいます。それには丁寧な予習と日ごろの英文文脈の把握の努力が必要です。次回の授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	O・ヘンリーの短篇小説「20 年後」の構成説明。
2 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(1) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の歴史的な背景について。
3 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(2) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の英文の特徴について。授業内小テスト実施。
4 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(3) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のユーモアについて。
5 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(4) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のウィットについて。授業内小テスト実施。
6 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(5) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の歴史的背景と英文表現の特徴について。
7 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(6) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」のペイソスについて。授業内小テスト実施。
8 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(7) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の英語表現の特徴について。
9 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(8) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」の口語体の英文表現について。授業内小テスト実施。
10 回	テキスト講読と日常生活 活トピックの英語表現	(9) O・ヘンリーの短篇小説の「20 年後」に表現された日常英語表現について。

11 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (11)	O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の一葉」の英文表現の比較について。授業内小テスト実施。
12 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (12)	O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の一葉」のユーモアの英語表現の比較について。
13 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (13)	O・ヘンリーの短篇小説の「20年後」と「最後の一葉」のウィットの英語表現の比較について。
14 回	テキスト講読と日常生活トピックの英語表現 (14)	O・ヘンリーの短篇小説における作家の特性と英語表現の特徴について。授業内小テスト実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

丁寧なテキスト精読と日常生活のトピック英文の文脈把握に努力すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

O.Henry: The Best Short Stories by J.Suzuki and N. Saito (松柏社) とプリント配布。

【参考書】

授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業のプレゼンの評価 30%と適宜実施する小テストの評価 30%と平常点 40%を総合的に判断して成績評価とする。ただし、学期欠席が 4 回以上の場合原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

The program in the class fosters the ability to read some short stories critically, to appreciate the power of language to shape presentation. And it encourages students to develop their own style of writing English. As learning objectives, to obtain some useful patterns of the text. Learning activities outside of classroom; to prepare the context carefully in advance. Grading criteria; mainly focusing some small tests in class and class-activities.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 和久

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少し手も近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイーック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセッションでは、TOEIC や TOEFL（トーフル）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセッションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。併せて、英語の発音の基本的な練習をします。提出課題等は、その都度チェックして返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと ブレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	トピック・センテンス①【主語】
3	テキストの演習	トピック・センテンス②【動詞】
4	テキストの演習	文と文の関係①【順接】
5	テキストの演習	文と文の関係②【逆接】
6	テキストの演習	文と文の関係③【付加、例示、その他】
7	テキストの演習	パラグラフの構造①【トピックセンテンス】
8	テキストの演習	パラグラフの全体構造②【展開の仕方】
9	テキストの演習	パラグラフの構造③【情報構造】
10	テキストの演習	エッセイの全体構造①【イントロダクション】
11	テキストの演習	エッセイの全体構造②【ボディ】
12	テキストの演習	エッセイの全体構造③【コンクルージョン】
13	テキストの演習	全体のまとめ
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点 30 %、試験 70 パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

久しぶりの対面授業ではあるが、《ズーム》などの教授手段も積極的に取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. The goal of this course is to enhance students' ability of reading and listening. Students are expected to do the assignment before and after the class at least for an hour. Final grade will be calculated according to the following process: Weekly assignment (50%), term-end examination (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 和久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な英文の読解（リーディング）と聴解（リスニング）の実力を向上させるための演習を行います。リーディングに関しては、文法的に正確に読むことがまず必要です。リスニングに関しては、英語の基本的な音をきちんと聞き取りかつ自分で発音できることがまず必要です。

【到達目標】

上記の目的に少しでも近づくことが到達目標です。具体的には、英語の検定試験として広く利用されている TOEIC（トイーック）のスコアを上げることを目標とすることを皆さんにはおすすめしています。学内で受検する機会もあるはずですので、最低一年に一度は受けてみましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は大きく二つの部分に分けられます。読解（リーディング）のセクションでは、TOEIC や TOEFL（トーフ）の問題を使いながら、それを読み、基本的な文法や語彙を復習・習得し、更に設問に適切に答える練習をします。同様に、聴解（リスニング）のセクションでは、問題を解きながら、基本的な英語を聞く練習をします。提出していただいた課題は、その都度、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションと プレイズメント・テスト	授業の内容を説明します。皆さんの現在の英語力を知るために、簡単なテストを行います。
2	テキストの演習	英単語の構造①【接頭辞・ギリシャ語系】
3	テキストの演習	英単語の構造②【接頭辞・ラテン語系】
4	テキストの演習	英単語の構造③【語幹・ラテン語系】
5	テキストの演習	英単語の構造④【語幹・ギリシャ語系】
6	テキストの演習	英単語の構造⑤【接尾辞・ラテン語系】
7	テキストの演習	英単語の構造⑥【接尾辞・ギリシャ語系】
8	テキストの演習	英語の発音①【母音】
9	テキストの演習	英語の発音②【二重母音】
10	テキストの演習	英語の発音③【子音】
11	テキストの演習	英語の発音④【二重子音】
12	テキストの演習	英語の発音⑤【連結】
13	テキストの演習	英語の発音【イントネーション】
14	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解（リーディング）に関しては、授業の前に問題を簡単に読んで設問に答えておくことおすすめします。わからない単語や熟語があっても構いませんし、設問の解答に自信がなくても構いません。授業後には、主として単語と熟語の復習を行ってください。聴解（リスニング）については、特に予習・復習は必要ありません。授業中に集中してください。この授業の準備・復習時間はあわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

『公式 TOEIC LISTENING & READING 問題集』が便利です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績を見て、評価をします。出席は必須です。平常点30%、試験成績70パーセントの割合です。遅刻等が多い場合には、出席とは見なさない場合もありますので、注意してください。欠席はその分を最終評価からマイナスします。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

久しぶりの対面授業ではあるが、『ズーム』などの教授手段も積極的に取り入れたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with a basic training of reading and listening comprehension of academic and business English. The goal of this course is to enhance students' ability of reading and listening. Students are expected to do the assignment before and after the class at least for an hour. Final grade will be calculated according to the following process: Weekly assignment (50%), term-end examination (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の5技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1章に2～3回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。なお、感染症拡大の状況を鑑みて、オンラインと対面授業とのハイブリッド方式とする可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter1	語彙の予習と本文の精読
2	Chapter1	Listening, Writing 等の問題演習
3	Chapter1,2	Unit1 小テスト、Unit2 の語彙の予習と本文の精読
4	Chapter2	Listening, Writing 等の問題演習
5	Chapter2,3	Unit2 小テスト、Unit3 の語彙の予習と本文の精読
6	Chapter3	Listening, Writing 等の問題演習
7	Chapter3,4	Unit3 小テスト、Unit4 の語彙の予習と本文の精読
8	Chapter4	Listening, Writing 等の問題演習
9	Chapter4,5	Unit4 小テスト、Unit5 の語彙の予習と本文の精読
10	Chapter5	Listening, Writing 等の問題演習
11	Chapter5,6	Unit5 小テスト、Unit6 の語彙の予習と本文の精読
12	Chapter6	Listening, Writing 等の問題演習
13	Chapter6,7	Unit6 小テスト、Unit7 の語彙の予習と本文の精読
14	Chapter7	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』

田中孝信、野田三貴、筒井香代子編著

音羽書房鶴見書店

2016 年初版発行 2021 年第 7 刷発行 2000 円＋税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

(音声を用いたリスニングがあるため)

【Outline (in English)】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.

The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 季実子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキスト上での様々な題材を通して、文化理解を深めるとともに、英語の 5 技能を総合的に強化する。

【到達目標】

テキストの中で扱われている多種多様な題材を通して、口語表現を含んだ会話表現を含む、「読む、書く、聞く、話す、議論する」の各技能を高めることを目標とする。同時に、15 の題材を通しての知識を向上させることも目標の一つである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに添って、語彙学習、読解、リスニング、会話、作文などの課題を行う。

1 章に 2～3 回を当てる予定で、各章のまとめとして小テストを行う。課題のフィードバックに関しては授業内、あるいは次の週に充てる。なお、感染症の拡大状況によってはオンライン授業との併用とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit7,8	Unit7 小テスト、Unit8 の語彙の予習と本文の精読
2	Unit8	Listening, Writing 等の問題演習
3	Unit8,9	Unit8 小テスト、Unit9 の語彙の予習と本文の精読
4	Unit9	Listening, Writing 等の問題演習
5	Unit9,10	Unit9 小テスト、Unit10 の語彙の予習と本文の精読
6	Unit10	Listening, Writing 等の問題演習
7	Unit10,11	Unit10 小テスト、Unit11 の語彙の予習と本文の精読
8	Unit11	Listening, Writing 等の問題演習
9	Unit11,12	Unit11 小テスト、Unit12 の語彙の予習と本文の精読
10	Unit12	Listening, Writing 等の問題演習
11	Unit12,13	Unit12 小テスト、Unit13 の語彙の予習と本文の精読
12	Unit13	Listening, Writing 等の問題演習
13	Unit13,14	Unit13 小テスト、Unit14 の語彙の予習と本文の精読
14	Unit14	Listening, Writing 等の問題演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

事前に次回学習範囲の和訳、単語のチェック、問題演習などの予習を行う。

また授業内で示された次回課題に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

『タイムズとガーディアンでめぐる知の世界』

田中孝信、野田三貴、筒井香代子

音羽書房鶴見書店

2016 年初版発行、2021 年 7 刷発行 2000 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

小テスト 70%

平常点 15%

その他提出物 15%

とします

なお、4 回以上欠席、あるいは課題不提出の場合

単位が認定されません

【学生の意見等からの気づき】

英語だけでなくテキストの中で扱われている題材について適宜解説をする予定です

【学生が準備すべき機器他】

辞書

オンライン学習時はリソースを視聴できるような PC 環境

(音声を用いたリスニングがあるため)

【Outline (in English)】

In this course, we will learn 5 skills through text. The interesting topics from Newspaper's articles will give you information about different culture.

The goal of this course are to read, listen to, and summarize English articles, and speak and write the students' views on the issues.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short test 70%, in class contribution 15%, assignments 15%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

渡辺 英依美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】

この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。

- (1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解する。
- (2) 多面的な視点でパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉える。
- (3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の読解を確認し、関連する知識を少人数のグループディスカッションで深めていく。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 1: Travel (1)	Scanning
3	Unit 1: Travel (2)	Predicting
4	Unit 2: Fashion (1)	Skimming for the main idea
5	Unit 2: Fashion (2)	Identifying main and supporting ideas
6	Unit 3: Disappearing Animals (1)	Identifying meaning from context
7	Unit 3: Disappearing Animals (2)	Identifying main ideas within paragraphs
8	Mid-semester Examination	Mid-semester exam
	Unit 4: Big Money (1)	Identifying cause and effect
9	Review of the Exam	Review of the exam
	Unit 4: Big Money (2)	Previewing
10	Unit 5: Celebrations Around the World (1)	Using subheadings to predict content
11	Unit 5: Celebrations Around the World (2)	Recognizing sequence of events
12	Unit 6: It's a Mystery! (1)	Making inferences
13	Unit 6: It's a Mystery! (2)	Identifying main ideas within paragraphs
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が必須。個々の単語を理解するだけでなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning. [¥2,750（税別）]

【参考書】

必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・課題の提出 25 %

中間試験 35%

期末試験 40 %

欠席が4回以上の場合、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングとグループワークが好評だったので今後も積極的に取り入れる予定。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to improve reading and critical thinking skills in English. Students will read a variety of topics and issues in the present-day society, and participate in small group discussions. Based on a flipped learning model, students will prepare for each chapter of the textbook prior to attending the class.

【Learning Objectives】

By taking this class, students will be able to:

- (1) Read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes.
- (2) Critically read and analyze texts and grasp the writer's views.
- (3) Present thoughts and opinions on related issues in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for each class so that they can actively participate in class discussions. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on the following criteria:

Class participation/assignments 25 %

Mid-semester examination 35%

Final examination 40 %

More than 3 absences will result in failure of the course.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

渡辺 英依美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

読解を中心に英語力の向上を図る。専門科目の履修時や卒業後も、関心や目的に応じて英文を多面的に解釈し、さらに英語による議論や記述を可能にするための基礎作りを行う。

【到達目標】

この授業を履修することにより、以下の技能の獲得が期待される。

- (1) 目的に応じた速度で英文を読み、書き手の意図を理解する。
- (2) 多面的な視点でパラグラフを分析し、知識・情報を正確に捉える。
- (3) 書かれた内容について自分の意見を英語で述べる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

反転形式で進めるので、テキストの予習が必須である。受講生は毎週発表を求められる。授業では各自の読解を確認し、関連する知識を少人数のグループディスカッションで深めていく。各課題や中間テストの結果は翌週の授業内に講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Outlining course content
2	Unit 7: Health and Fitness (1)	Scanning
3	Unit 7: Health and Fitness (2)	Predicting
4	Unit 8: Space and Flight (1)	Identifying main and supporting ideas
5	Unit 8: Space and Flight (2)	Making inferences
6	Unit 9: The Changing Family (1)	Recognizing facts and opinions
7	Unit 9: The Changing Family (2)	Previewing
8	Mid-semester Examination	Mid-semester exam
	Unit 10: The Future of Education (1)	Arguing for and against a topic
9	Unit 10: The Future of Education (2)	Review of the exam
		Identifying meaning from context
10	Unit 11: The Mystery of Memory (1)	Identifying main ideas within paragraphs
11	Unit 11: The Mystery of Memory (2)	Scanning
12	Unit 12: Comics (1)	Recognizing sequence of events
13	Unit 12: Comics (2)	Identifying main and supporting ideas
14	Summary and Final Exam	Review and final examination

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習が必須。個々の単語を理解するだけでなく、構文・論旨を正確に把握し、設問等にも答えられるよう準備しておくこと。本授業の予復習は1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Anderson, N. J. (2014). *Active Skills for Reading 3* (3rd ed.). Heinle Cengage Learning. [¥2,750（税別）]

【参考書】

必要に応じて授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の発表・課題の提出 25 %

中間試験 35%

期末試験 40 %

欠席が4回以上の場合、原則として単位を修得できない。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングとグループワークが好評だったので今後も積極的に取り入れる予定。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

This course aims to improve reading and critical thinking skills in English. Students will read a variety of topics and issues in the present-day society, and participate in small group discussions. Based on a flipped learning model, students will prepare for each chapter of the textbook prior to attending the class.

【Learning Objectives】

By taking this class, students will be able to:

- (1) Read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes.
- (2) Critically read and analyze texts and grasp the writer's views.
- (3) Present thoughts and opinions on related issues in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to prepare for each class so that they can actively participate in class discussions. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【Grading Criteria /Policy】

Evaluation will be based on the following criteria:

Class participation/assignments 25 %

Mid-semester examination 35%

Final examination 40 %

More than 3 absences will result in failure of the course.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第2回	Is it in your blood? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第3回	Is it in your blood? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第4回	An unpunished crime (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第5回	An unpunished crime (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第6回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第7回	Extensive reading Q & A with Julian Bamford (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第8回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第9回	Money matters (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第10回	Money matters (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。

第 11 回	Is netspeak harming the English language? (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 12 回	Is netspeak harming the English language? (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。

平常点および課題 (60%)

期末テスト (40%)

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々なテーマの英文記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけでなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。1 章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明をします。
第 2 回	Language and the world (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 3 回	Language and the world (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 4 回	Population crisis (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 5 回	Population crisis (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 6 回	The greatest show on earth (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 7 回	The greatest show on earth (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	Consumer beware: advertising techniques (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 10 回	Consumer beware: advertising techniques (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。

第 11 回	For an effective interview (前半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 12 回	For an effective interview (後半)	単語の意味、文法構造を意識しつつ記事の内容をまとめる。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	講読した記事を振り返るテストです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ Essential Reading Second Edition Level 3, ゴフ クリス/マカボイ ジャッキー/マイルズ スコット, マクミラン ランゲージハウス, (¥2,600 円+税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末テスト (40%)

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: Before each class, students will be expected to spend one hour to read and prepare questions to ask.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉を知ったことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とします。
- ・この授業はオンライン（リアルタイム配信型）で、Zoom で実施します。
- ・授業各回の連絡は、学習支援システム（Hoppii）で、その都度提示します。
- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず音声を開き、予習してくること。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業説明
2	Chapter 1 The United Kingdom?	英国人の国籍は？ (前半)
3	Chapter 1	(後半)
4	Chapter 2 Multicultural Britain	多民族社会の現状 (前半)
5	Chapter 2	(後半)
6	Chapter 3 The UK and the EU	EU 離脱と UK の未来 (前半)
7	Chapter 3	(後半)
8	Chapter 4 Tea	なんといっても「ティー」 (前半)
9	Chapter 4	(後半)

10	Chapter 5	階級社会の実情
	Social class	(前半)
11	Chapter 5	(後半)
12	Chapter 6	学校教育の仕組み
	Schools and education	(前半)
13	Chapter 6	(後半)
14	Chapter 7	大学と高等教育
	University students	(前半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のくいま』を知りたい（改定新版）』羽羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋平常の課題 20 %＋学期末試験（レポート）50 %＝100 %

・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。

・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点対象となりうる。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時は、パソコンが必要となります。大学で授業を受ける際は、マイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら適宜判断します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), mid-term assignment (20%), and term-end essay (50%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ブレグジット（Brexit）という言葉聞いたことがあるだろう。イギリスの EU 離脱はヨーロッパで大きな問題となっている。そこで、このクラスでは、イギリスに関するテキストを使って、イギリス文化への理解を深めつつ、リーディングとリスニングのスキルの向上を目的とする。特にリーディングにおいて、正確に文章をよみとることができるようにする。

テキストのテーマは政治、文化、芸術など多様であり、テキストを通じてイギリスという、ヨーロッパで重要な国を理解することが可能となっている。

【到達目標】

- ・学生が複数のパラグラフからなる英語の文章を正確に理解できるようになる。
- ・学生が構文・論旨を正確に把握し、必要な知識や情報を把握できるようになる。
- ・学生が得られた情報を多面的・客観的に分析し、批判的思考力を身に付けられるようになる。
- ・高校まではアメリカ英語に触れることが多かったかと思うが、ここではイギリス英語の発音にも慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

- ・テキストの読解および問題演習。授業中に学生全員に指名するので、必ず予習してくること。
- ・わからない単語は辞書をひいて 5 回ずつ練習して下さい。
- ・音声教材を用いて、テキストの聞き取りを行う。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 University students and higher education	(後半)
2	Chapter 8 Women in society	活躍する英国女性 (前半)
3	Chapter 8	(後半)
4	Chapter 9 Science, inventions and business	科学技術、発明、ビジネス (前半)
5	Chapter 9	(後半)
6	Chapter 10 Politics and government	英国政治のいま (前半)
7	Chapter 10	(後半)
8	Chapter 11 Food	英国の食文化 (前半)
9	Chapter 11	(後半)
10	Chapter 13 Fantasy and castles	ファンタジーの系譜 (前半)
11	Chapter 13	(後半)

12	chapter 15	芸術 (前半)
13	Chapter 16	「home」と「garden」 (前半)
14	Chapter 16	(後半)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。わからない単語は辞書で調べ、ノートもしくはルーズリーフに 5 回ずつ練習する。テキスト本文の音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.otowatsurumi.com/3838>

リスニング問題の音声は学習支援システムからダウンロードしてください。

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Tim Knight 著『Welcome to Britain, Revised Edition 英国のいま』を知りたい（改定新版）』音羽書房鶴見書店、2018 年、1800 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）が入っている電子辞書をお薦めします（紙媒体でも可）。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、授業態度等）30 %＋平常の課題 20 %＋学期末試験 50 %＝100 %

・各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。
・1 回の欠席につき平常点から 10 点の減点とする。1 回の遅刻及び早退は 3 点の減点とし、30 分以上遅刻もしくは早退した場合は欠席扱いとする。

・授業態度が悪い（居眠り、私語等）場合は減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

イギリスの文化について、授業の最初に補足説明を行い、英文読解への理解を深める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

I think you have heard of "Brexit." The British decision to leave the EU is becoming a very important factor in the world. This course introduces the British culture to students by reading a textbook on Britain.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to improve the reading and listening skills as well as understanding the British culture. Especially, students will be required to read the English text precisely. The topics of the textbook vary from politics, culture to art. Therefore, students will be able to understand the background of Britain.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to read the textbook beforehand. Your study time will be about one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), mid-term assignment (20%), and term-end examination (50%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学 Aspects of British Culture: Academic Approaches』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学 Aspects of British Cultures: Academic Approaches』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Chapter 1	The Country of Diversity
3	Chapter 2	England, Wales, Scotland, and Northern Island
4	Chapter 3	The Power of the Commonwealth
5	Chapter 4	The Birth of Cultural Studies in the UK
6	Chapter 5	The Languages of the UK
7	Chapter 6	The Development of Journalism in the UK
8	Chapter 7	The Vessel of Worldwide Art and Culture
9	英文講読	イギリスの文化に関連する内容
10	英文講読	イギリスの社会に関連する内容
11	英文講読	イギリスの芸術に関連する内容
12	英文講読	イギリスの科学に関連する内容
13	復習	Chapter 1～Chapter 7 の復習

14 期末試験・まとめ 今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Noriyuku Harada, Andrew Houwen, Akira Morita『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学』2022 年、金星堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】

Through reading stories in the textbook “Aspects of British Culture: Academic Approaches” which consists of 15 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following : term-end exam 80%, exams for each chapter and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学 Aspects of British Culture: Academic Approaches』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキスト『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学 Aspects of British Cultures: Academic Approaches』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。テキスト内容の解説・確認の終了後、説明した内容を中心に作成した確認テストをおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、そのテストや予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 8	The Relationship between Japan and the UK
2	Chapter 9	The History of British Democracy
3	Chapter 10	The British Debate about the Economy
4	Chapter 11	With or Without God : The Development of the National Sciences
5	Chapter 12	The Country of Satire
6	Chapter 13	Nature and British People
7	Chapter 14	An Oxbridge Education
8	Chapter 15	British Community Life
9	英文講読	イギリスの文化に関連する内容
10	英文講読	イギリスの社会に関連する内容
11	英文講読	イギリスの芸術に関連する内容
12	英文講読	イギリスの科学に関連する内容
13	復習	Chapter 8～Chapter 15 の復習

14 期末試験・まとめ 今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Noriyuku Harada, Andrew Houwen, Akira Morita『真実のイギリス：文化、社会、芸術そして科学』2022 年、金星堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期の両方を通年科目として履修することが望ましいです。

【Outline (in English)】

Through reading stories in the textbook “Aspects of British Culture: Academic Approaches” which consists of 15 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each chapter, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the chapter. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following : term-end exam 80%, exams for each chapter and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることと読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・リーディングやエクササイズを通して語彙力を上げる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・ペアまたはグループ・ワークを中心に集中力を持って内容を理解し大意をつかむ
- ・内容把握後に音読することで英語独特のリズムと英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力を上げる
- ・ユニットごとに単語の試験を実施し修得確認の機会を設ける
- ・パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるように練習する
- ・質問などへのフィードバックは授業内またはメールで行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	General briefing
2	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Comprehension; Building vocabulary
3	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading One)	Reviewing the context; Reading aloud
4	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary

5	Unit 1: HEALTH SCIENCES-the Therapeutic Effects of Animals (Reading Two)	Note-taking; Reviewing the context; Reading aloud
6	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
7	Unit 2: PSYCHOLOGY-Dealing with Change (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
8	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 3: LINGUISTICS-Little Known Languages (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 4: ANIMAL BEHAVIOR-Elephants (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
13	Unit 5: SOCIAL PSYCHOLOGY-Teaching Tolerance (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習では各パッセージを事前に読み、練習問題に目を通しておく。筆者が「なにを」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書きだす
- ・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習し、日本語を介さず理解できるように復唱することを習慣化する
- ・理解するだけで満足せず、それを英語で「自分の言葉で」説明する練習も面倒がらずに繰り返していく
- ・ユニットごとに実施される単語の試験で修得程度を確認すること
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ¥3,060+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com/

【成績評価の方法と基準】

- ・授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけでなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視）
- ・ユニットごとに行われる小テスト 20 %
- ・Review text 50 %

適切な理由のない遅刻（授業開始から30分以内）は2回で欠席扱いとする。また各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・対面授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進みます。単語レベルでも英語を英語で説明することに苦勞したようですが次第に考える習慣がつき、さらに筆者が「言おうとしていること」であるメイン・アイディアを把握できた受講生は、英語で説明したり発話することに抵抗がなくなってきたようでした。ただ話はなんとなくできて、理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するとなると簡単ではなく、適切な長さにまとめる練習が必要となりました。
- ・オンライン授業では逆に「自分のペース」で徹底して英語の「発音練習」や「フレーズ修得」ができており、自分の弱点や不得意な部分に「気付ける」ような学習の進め方が出来たようでした。

【学生が準備すべき機器他】

英語の辞書。電子辞書や携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】

- ・授業中の共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます
- ・感染症対策として授業では不織布のマスク着用を求めます
- ・欠席や課題提出の遅延に関してメールで連絡する場合には、必ず理由とその証拠を提示してください

【Outline (in English)】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

< Learning Objectives >

- ・ You will expand your vocabulary
- ・ You will learn the natural flow of English; get used to pronouncing English sentences and improving your pronunciation
- ・ You will be able to guess words in context
- ・ You will identify main ideas as well as supporting detail
- ・ You will identify the structure and outline the passage
- ・ You will be able to read between the lines, make inferences and draw appropriate conclusions
- ・ You will be able to retell the story in English

< Learning Activities outside of class >

- ・ Preparation: You are expected to understand the subject of each chapter and go through the reading passage before each class. Write out the topic ("what" is the passage about) and "how" the author explains his or her ideas/claim in the passage
- ・ Review: Review thoroughly on new words and phrases you come across and make a habit of using such expressions; Do make sure to retell the story you have understood in your own words
- ・ University guidelines suggest preparation and review should take around an hour a week for a one-credit course

< Grading Criteria/Policy >

Active participation and positive attitude 30%, quizzes 20%, exam 50%

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

杉 亜希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常的に使われる自然な英語で書かれている教材を使い、様々なタイプの英文エッセイを読みながら、効果的に英文を読むためのストラテジーを学び応用する力をつけていく。各パラグラフの構造とパラグラフ同士のつながりを意識しながら全体の流れと大意を取ることと読解力を上げていき、さらにその内容を「自分の言葉」で説明する練習をする。

【到達目標】

- ・英語独自の音やリズムを身につける
- ・英語を口に出して言うことに慣れる
- ・難しい単語の理解に執着せず、文脈から意味を予測できる
- ・英語のセンテンスをフレーズごとに英語のままの順序で把握できる
- ・エッセイから必要な「情報」を取り出し、メモすることができる
- ・各パラグラフの論旨、そしてエッセイ全体の構造を把握できる
- ・把握した内容を自分の言葉で説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ・ペアまたはグループ・ワークを中心に集中力を持って内容を理解し大意をつかむ
- ・内容把握後に音読することで英語独特のリズムと英語を口にすることに慣れ、重要なフレーズを自分のものにすることで、語彙・表現力を上げる
- ・ユニットごとに単語の試験を実施し修得確認の機会を設ける
- ・パラグラフに始まり、文章全体の要旨を英語で説明できるよう練習する
- ・質問などへのフィードバックは授業内またはメールで行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	General Briefing	General briefing
2	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One)	Comprehension; Building Vocabulary; Reading aloud
3	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
4	Unit 6: PUBLIC ART-Experiencing Familiar Places in a New Way (Reading One&Two)	Reviewing; Writing
5	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud

6	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud
7	Unit 7: SOCIOLOGY-The Bystander Effect (Reading One & Two)	Reviewing; Writing
8	Unit 8: GOVERNMENT- Interpreting the Law (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
9	Unit 8: GOVERNMENT- Interpreting the Law (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
10	Unit 9: ECONOMICS- Bartering in the 21st Century (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
11	Unit 9: ECONOMICS- Bartering in the 21st Century (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
12	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading One)	Vocabulary test; Comprehension; Building vocabulary; Reading aloud
13	Unit 10: NEUROLOGY-The Brain (Reading Two)	Comprehension; Building vocabulary; Note-taking; Reading aloud; Writing
14	Review Test	Review Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習では各パッセージを事前に読み、練習問題に目を通しておく。筆者が「なにを」「どのように」主張・説明しているかを把握し、英語で書きだす
- ・テキストで使用されたフレーズ表現を徹底して復習し、日本語を介さず理解できるように復唱することを習慣化する
- ・理解するだけで満足せず、それを英語で「自分の言葉で」説明する練習も面倒がらずに繰り返していく
- ・ユニットごとに実施される単語の試験で修得程度を確認すること
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

Bottcher, E., Longman Academic Reading Series 1 (Pearson, 2017, ¥3,060+税)

【参考書】

An English-English dictionary should be used as well as a Japanese-English or English-Japanese dictionary.
<http://dictionary.cambridge.org/>
<http://www.merriam-webster.com/>
 Thesaurus: <http://thesaurus.com/>
 Britannica: www.britannica.com

【成績評価の方法と基準】

- ・授業態度・積極性 30 %（授業にただ参加するだけではなく、英語を声に出して言うことを各自が習慣づけられるようにするためにも、特に oral activity を中心とした授業中の英語への積極的な取り組みを重視する。予習は必須であるが、正解でないことで減点にはならない。）
 - ・ユニットごとに行われる小テスト 20%
 - ・Review Text 50%
- 適切な理由のない遅刻（授業開始から 30 分以内）は 2 回で欠席扱いとする。また各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

・対面授業は皆さんの積極的な参加があるとテンポよく進みます。単語レベルでも英語を英語で説明することに苦労したようですが次第に考える習慣がつき、さらに筆者が「言おうとしていること」であるメイン・アイデアを把握できた受講生は、英語で説明したり発話することに抵抗がなくなってきたようでした。ただ話はなんとなくできても、理解した内容を筆者の立てた筋道に沿って説明するとなると簡単ではなく、適切な長さにまとめる練習が必要となりました。

・オンライン授業では逆に「自分のペース」で徹底して英語の「発音練習」や「フレーズ修得」ができており、自分の弱点や不得意な部分に「気付ける」ような学習の進め方が出来たようでした。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書、また携帯電話やスマホの辞書アプリの使用を認めるが、授業中に許可なく携帯やスマホのその他のアプリの使用が見られた場合には禁止せざるを得なくなることを肝に銘じて使用すること。

【その他の重要事項】

・授業中の共同作業では大人として積極的な協力姿勢が求められます
 ・感染症対策として授業では不織布のマスク着用を求めます
 ・欠席や課題提出の遅延に関してメールで連絡する場合には、必ず理由とその証拠を提示してください

【Outline (in English)】

This course is designed to give opportunities to read authentic English passages from a wide range of subjects effectively and to acquire a habit of thinking logically by recognizing the flow of ideas and learning structural patterns. We will also aim at expanding your vocabulary and phrases to develop your confidence of presenting your ideas in your words.

< Learning Objectives >

- ・ You will expand your vocabulary
- ・ You will learn the natural flow of English; get used to pronouncing English sentences and improving your pronunciation
- ・ You will be able to guess words in context
- ・ You will identify main ideas as well as supporting detail
- ・ You will identify the structure and outline the passage
- ・ You will be able to read between the lines, make inferences and draw appropriate conclusions
- ・ You will be able to retell the story in English

< Learning Activities outside of class >

・ Preparation: You are expected to understand the subject of each chapter and go through the reading passage before each class. Write out the topic ("what" is the passage about) and "how" the author explains his or her ideas/claim in the passage
 ・ Review: Review thoroughly on new words and phrases you come across and make a habit of using such expressions; Do make sure to retell the story you have understood in your own words

・ University guidelines suggest preparation and review should take around an hour a week for a one-credit course

< Grading Criteria/Policy >

Active participation and positive attitude 30%, quizzes 20%, exam 50%

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者ビル・ベンフィールドが、The Lake District（湖水地方）や、ノッティンガムの Sherwood Forest（シャーウッドの森）のようなイギリスの真髄ともいえる場所を訪れ、その土地の有名な出身者について述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際の知識を学ぶことができる。British writer,Bill Benfield visits a heart of Britain such as The Lake District,Sherwood Forest of Nottingham and writes about the famous person from this place.

【到達目標】

Reading Comprehension、Listening Comprehension を行うことにより、実践力を高める。

文化的背景を英語で学ぶことで、国際的なコミュニケーション能力を高める。

Students can raise the level by learning Reading Passage,Reading Comprehension,Listening Comprehension. And they can have a international sense of communication by learning cultural background.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行う。

フィードバック方法 最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。

授業実施形態 対面授業とオンライン（リアルタイム配信型）の授業を組み合わせで行います。The way of feedback At last class of spring term, I explain about the summary of this term. Class style it is a combination of face to face and online form(zoom).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	Chapter1 Four Countries	私達がイギリスと呼んでいる国は、実際にはブリテンという国で、4つの地域から構成されている。こういった地域は、かつては4つの国であり、独自の言語や習慣を持っていた。
(2)	Chapter1 Four Countries	Chapter1 の Exercise を行う。
(3)	Chapter2 The Lake District	イングランド北西部の湖水地方は、湖と小高い丘のある風光明媚な場所である。この美しい自然を背景にして、ロマン派の詩人ワーズワスや『ピーターラビットの物語』の作者ベアトリクス・ポターが作品を書いた。
(4)	Chapter2 The Lake District	Chapter2 の Exercise を行う。

- (5) Chapter3 Stratford-upon-Avon ストラットフォードは、16 世紀の劇作家シェイクスピアが生まれたエイボン川のほとりにあるイギリス中部の町である。ここには、シェイクスピアの妻、アン・ハッサウェイの実家や彼が洗礼し、そして埋葬された聖トリニティチャーチがある。
- (6) Chapter3 Stratford-upon-Avon Chapter3 の Exercise を行う。
- (7) Chapter4 London Through the Ages ロンドンには、11 世紀に造られたウエストミンスター寺院やロンドン塔のような多くのランドマークがある。現在のランドマークは、モダンブリテインを意識して作られたロンドン・アイである。
- (8) Chapter4 London Through the Ages Chapter4 の Exercise を行う。
- (9) Chapter5 Wessex イングランド南西部のウェセックスは、19 世紀の作家トマス・ハーディの故郷である。ハーディは、ウェセックス・ノベルといわれる代表作、『テス』『日陰者ジュード』『遙か狂乱の群れを離れて』の作品を書いた。
- (10) Chapter5 Wessex Chapter5 の Exercise を行う。
- (11) Chapter6 Winchester ウィンチェスターは、ローマ人によって築かれ、9 世紀には、サクソンの王アルフレッド大王が、首都にした町である。ウィンチェスターの町ゆかりのもう 1 人の人物は、19 世紀の作家ジェイン・オースティンである。
- (12) Chapter6 Winchester Chapter6 の Exercise を行う。
- (13) Chapter8 The Cotswolds コッツウォルズは、ロンドンの西部にある石灰岩の丘陵地帯である。また、この地方は、絵のように美しい糖蜜色の外壁の家で知られている場所である。
- (14) 試験日 試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

Students comment that they've got the detailed knowledge about Britain and British Culture.

【Outline (in English)】

Using the textbook about United Kingdom written by an English author, students can learn the diverse and practical knowledge.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキストの Reading Passage、Reading Comprehension、Listening Comprehension を読んで、授業に望んでください。I hope that students attend this class after reading Reading Passage, Reading Comprehension, Listening Comprehension.

【テキスト（教科書）】

Cultural Walks in Britain (Bill Benfield) 成美堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点 50%として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得を認めない。遅刻 3 回で欠席 1 とみなす。

Grades are evaluated as final exam of spring term is 50% and normal point is 50%.

Grades aren't evaluated in case that students are absent from this class 4 or more each term.

Three lateness is regarded as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

池田 しおり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス人の著者ビル・ベンフィールドが、The Lake District（湖水地方）や、Cotswolds、ノッティンガムの Sherwood Forest（シャーウッドの森）のようなイギリスの真髄ともいえる場所を訪れ、その土地の有名な出身者について述べているテキストを使用する。テキストから、多様で実際の知識を学ぶことができる。British writer, Bill Benfield visits a heart of Britain such as The Lake District, Sherwood Forest of Nottingham and writes about the famous person from this place.

【到達目標】

Reading Comprehension、Listening Comprehension を行うことにより、実践力を高める。
文化的背景を英語で学ぶことで、国際的なコミュニケーション能力を高める。

Students can raise the level by learning Reading Passage, Reading Comprehension, Listening Comprehension. And they can have a international sense of communication by learning cultural background.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

演習の形式で行う。

フィードバック方法 最終授業では、13 回までの講義内容のまとめと解説を行う。

授業実施形態 対面授業とオンライン（リアルタイム配信型）の授業を組み合わせて行います。The way of feedback At last class of spring term, I explain about the summary of this term. Class style it is a combination of face to face and online form(zoom).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	Chapter 11	ロンドン中心部のベーカーストリートには、現在 Sherlock Holmes の museum がある。museum には、ホームズが関わった事件のさまざまな場面が、人形で再現されている。
(2)	Chapter 11	Chapter 11 の Exercise を行う。
(3)	Chapter 14 The Potteries	イングランド中部は、potteries（陶器生産地帯）として知られていて、Stoke-on-Trent には、ウェッジウッドの工場がある。
(4)	Chapter 14 The Potteries	Chapter 14 の Exercise を行う。

(5)	Chapter 15 Yorkshire	ヨークシャーの村ハワースは、産業都市に囲まれながら、美しい自然が残されているところである。19 世紀の小説家エミリー・ブロンテは、この美しい自然を背景に『嵐が丘』の作品を書いた。
(6)	Chapter 15	Chapter 15 の Exercise を行う。
(7)	Chapter 16 Nottingham	ノッティンガムのシャーウッドの森には、富める者から奪い、貧しき者に施しを与えるという、庶民の英雄であるロビンフッド伝説がある。『息子と恋人』を書いた 20 世紀の小説家、D.H. Lawrence も、この町の出身である。
(8)	Chapter 16 Nottingham	Chapter 16 の Exercise を行う。
(9)	Chapter 17 Edinburgh: The Athens of the North	スコットランドの首都エディンバラは、大規模な夏祭りが開かれることから、“the Festival City”と呼ばれる。
(10)	Chapter 17 Edinburgh: The Athens of the North	Chapter 17 の Exercise を行う。
(11)	Chapter 19 Dublin	アイルランドの首都ダブリンは、そのパブに代表されるように活気があり、ホスピタリティに溢れているところである。ダブリン出身の 20 世紀の作家ジェイムズ・ジョイスは、ダブリンの町にたいする思いを『若い詩人の肖像』の中で書いた。
(12)	Chapter 19 Dublin	Chapter 19 の Exercise を行う。
(13)	Chapter 20 Irish-Americans	19 世紀中頃のジャガイモの飢饉で、アイルランドの人は、餓えるか新天地アメリカに渡るかの選択を迫られた。この時、アメリカに渡った人の中には、John F. Kennedy の祖父もいた。現在、アメリカには、アイルランド人の血を引くと主張するおよそ 4000 万人の人がいる。
(14)	試験日	試験範囲は授業で進んだ範囲とする。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキストの Reading Passage、Reading Comprehension、Listening Comprehension を読んで、授業に望んでください。I hope that students attend this class after reading Reading Passage, Reading Comprehension, Listening Comprehension.

【テキスト（教科書）】

Cultural Walks in Britain (Bill Benfield) 成美堂

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、平常点 50%として評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。遅刻 3 回で欠席 1 とみなす。

Grades are evaluated as final exam of spring term is 50% and normal point is 50%.

Grades aren't evaluated in case that students are absent from this class 4 or more each term.

Three lateness is regarded as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

イギリスや、イギリスの文化についての詳しい知識が持てたという学生からの声があり、このことをさらに深めて授業を行う。

Students comment that they've got the detailed knowledge about Britain and British Culture.

【Outline (in English)】

Using the textbook about United Kingdom written by an English author, students can learn the diverse and practical knowledge.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代文化・社会をめぐるさまざまなトピックを、多岐にわたるアプローチで捉えた英語の文章を読む。リーディングの力を段階的に伸ばしつつ、リスニングやライティングにも慣れる。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、意味のかたまりを意識して一定の速さで正確に読むことができる。
2. 平易な英語の文章を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる。
3. 読んで理解できる英文を、聞き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、英語で問いを立てたり、要約したり、コメントしたりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ペアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

毎回の授業の最後に、理解を確認するためのリフレクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業について。学習方法について。
2	Unit 1 The Pencil	リーディングのコツ： Scanning
3	Unit 2 Running Marathons	Scanning
4	Unit 3 Superstition	Topic Sentences
5	Unit 4 The Printing Press	Topic Sentences
6	Unit 5 How Safe Is Air Travel?	Supporting Sentences
7	復習・復習試験 (1)	Unit 1～5 の復習、および復習試験の実施
8	Unit 6 Jazz Music	Supporting Sentences
9	Unit 7 Inflation (Unit 8 The Word "Hello")	Discourse Markers
10	Unit 9 Trans Fats (Unit 10 Braille)	Time Order
11	Unit 11 Nightmares	Cause and Effect
12	Unit 12 The Power of Positive Thinking	Cause and Effect
13	(Unit 13 The Andes Mountain Range)/ Unit 14 Freedom Riders	Guessing the meaning of unfamiliar words

14 復習・復習試験 (2) Unit 6, 7, 9, 11, 12, 14 の復習、および復習試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。本文を読み、練習問題を解いておくこと。本文の標準的な準備学習の流れとしては、(1) 音声（各自ダウンロード／ストリーミングできる）を聞きながら一通り目を通し、(2) 不明点を辞書等でできるだけ調べ、(3) 残った不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけたりノートに書き出したりしておく。本文の音読練習もなるべく行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Maiko Ikeda, Ayaka Shimizu, Zachary Fillingham, Owain Mckimm, and Judy Majekwski『リーディング力アップのための 7 つの方略 Book 2 (Success with Reading: Boost Your Reading Skills, Book 2)』成美堂, 2021.

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リフレクションペーパー）40 %、および復習試験 60 % の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

・ベア／グループワークは教育効果は高いが、参加が苦手な学生がいることにも配慮する。
・リフレクションペーパーの作成・提出、添削、フィードバックは、対面授業においてもオンライン実施する。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。
・予告のうえ、授業中に Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. Using a textbook designed primarily to help students read English faster with precision, students will gain intellectual knowledge as well, because the topics are wide-ranging, from the pencil to inflation and the approaches to them vary in field, such as cultural history, psychology, and economics.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.

Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (40%) and review test(s) (60%).

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

中和 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食物の歴史を平易な英文で学びながら、リーディング・スキルを中心とした英語力を高める。

【到達目標】

1. 英文を、一語ずつ立ちどまることなく、「意味のかたまり」を意識して一定の速さで正確に読むことができる（フレーズ・リーディング）。
2. 英語の長文を、パラグラフの構造・構成を意識して一定の速さで正確に読むことができる（パラグラフ・リーディング）。
3. 読んで理解できる英語を、聴き取りによっても理解することができる。
4. 読んだ英文に関して、日本語・英語の両方で問いを立てたり、要約したり、批評したりすることができる。
5. 使える語彙を増やす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

全員の準備学習を前提とし、教科書の構成に沿って授業を進める。

講師が学生を当てて答えさせたり、解説をしたりするほかに、ベアまたはグループワークをとりいれ、学生同士で問題解決を行う時間を設ける。

毎回の授業の最後に、理解を確認するためのリフレクションペーパーを課す。（原則として翌週返却。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業についての説明
2	Lesson 1 The Pig or the Pork	本文読解、エクササイズ、リスニング
3	Lesson 2 Do You Like Garlic?	本文読解、エクササイズ、リスニング
4	Lesson 3 Sweet as Sugar	本文読解、エクササイズ、リスニング
5	Lesson 4 Our daily Bread	本文読解、エクササイズ、リスニング
6	Lesson 5 Do You Like Caviar?	本文読解、エクササイズ、リスニング
7	復習①	Lesson 1～5 の復習、復習試験実施
8	Lesson 6 Apples	本文読解、エクササイズ、リスニング
9	Lesson 7 The White Gold: Salt	本文読解、エクササイズ、リスニング
10	Lesson 8 Say Cheese	本文読解、エクササイズ、リスニング
11	Lesson 11 Rice	本文読解、エクササイズ、リスニング
12	Lesson 12 Pasta	本文読解、エクササイズ、リスニング
13	復習②	Lesson 6, 7, 8, 11, 12 の復習、復習試験実施

14 まとめ 「食の歴史」関連資料の読解・視聴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習は必須である。本文を読み、練習問題を解いておくこと。本文の標準的な準備学習の流れとしては、(1) 音声（各自教科書会社の HP からダウンロードできる）を聞きながら一通り目を通し、(2) 不明点を辞書等でできるだけ調べ、(3) 残った不明点については、授業中にすぐに質問できるように印をつけたりノートに書き出したりしておく。本文の音読練習もなるべく行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Elena Taralunga Tamura and Midori Takahashi『Food in History 英語で学ぶ食の歴史』英宝社、2022 年改訂版。

【参考書】

高校～一般向けの英和および英英辞書、各 1 冊以上。
いずれも各自の好みで選んで構わないが、必ず語義だけでなく用例を豊富に載せているものを選ぶこと。
予習に使用するほか、毎回の授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リフレクションペーパー）40 %、および復習試験 60 % の総合評価。

4 回以上欠席の場合、単位を与えない。

遅刻や授業態度の不良については、頻度や程度に応じて、総合点から減点する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

・ペア／グループワークは教育効果は高いが、参加が苦手な学生がいることにも配慮する。
・リフレクションペーパーの作成・提出、添削、フィードバックは、対面授業においてもオンライン実施する。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを活用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC 等の端末（デバイス）、イヤホンを持参してください。
・予告のうえ、授業中に Zoom を用いる可能性があります。その場合は、自分用のマイク付きヘッドセットの持参が必要となります。

【Outline (in English)】

Course outline: English 1 focuses on developing reading, listening, and summarizing skills. The textbook used in this class is on food and its history. Through reading the passage and working on the accompanying exercises, students will be able to increase their active vocabulary and improve their reading, listening, and writing skills, and to understand some aspects of western civilization and culture as well.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to acquire the skills mentioned above, mainly through practicing phrase reading, paragraph reading, summarizing and commenting on the reading passage of each unit.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to prepare for each class meeting by reading the passage and working on the accompanying exercises.

Grading Policies: Grading will be decided based on reflection papers (40%) and review test(s) (60%).

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ペア／グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。映画を視聴しながら内容理解を深め、教科書の英文をかたまりごとに分けて前から読み解く訓練を行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Plot Synopsis	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 3 回	Unit 1: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 4 回	Unit 2: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 5 回	Unit 2: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 6 回	Unit 3: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 7 回	Unit 3: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 8 回	Unit 4: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 9 回	Unit 4: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 10 回	Unit 5: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 11 回	Unit 5: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 12 回	Unit 6: Plot Synopsis	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 13 回	発表	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
 ・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies（金星堂、2021）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布型授業であったが、音読練習の徹底化を図り、ウェブの掲示板で音声共有したことが功を奏したようで、音読（発音や英語らしいリズム）が向上した学生が多かった。その反面、チャンキングの理解が足りない学生が一定数いた。より一層きめ細い指導の必要性を感じた。

【学生が準備すべき機器他】

校内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 6: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 3 回	Unit 7: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 4 回	Unit 7: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 5 回	Unit 8: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 6 回	Unit 8: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 7 回	Unit 9: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 8 回	Unit 9: Movie Viewing	Listening Comprehension / Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 9 回	Unit 10: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 10 回	Unit 10: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 11 回	Unit 11: Plot Synopsis	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 12 回	Unit 11: Movie Viewing	Dictation & Role Play / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 13 回	発表	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
 ・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies（金星堂、2021）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布型授業であったが、音読練習の徹底化を図り、ウェブの掲示板で音声共有したことが功を奏したようで、音読（発音や英語らしいリズム）が向上した学生が多かった。今学期は対面授業を数回行なったが、グループワークが楽しかったという感想が多く寄せられた。対面で学び合うことの大切さを再認識した。

【学生が準備すべき機器他】

学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。映画を視聴しながら内容理解を深め、教科書の英文をかたまりごとに分けて前から読み解く訓練を行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 1: Plot Synopsis	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 3 回	Unit 1: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 4 回	Unit 2: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 5 回	Unit 2: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 6 回	Unit 3: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 7 回	Unit 3: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 8 回	Unit 4: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 9 回	Unit 4: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 10 回	Unit 5: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 11 回	Unit 5: Movie Viewing	Dictation / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 12 回	Unit 6: Plot Synopsis	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 13 回	発表	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
 ・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies（金星堂、2021）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布型授業であったが、音読練習の徹底化を図り、ウェブの掲示板で音声共有したことが功を奏したようで、音読（発音や英語らしいリズム）が向上した学生が多かった。その反面、チャンキングの理解が足りない学生が一定数いた。より一層きめ細い指導の必要性を感じた。

【学生が準備すべき機器他】

校内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 1 II

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

英文を正確にすばやく読み取る力を養う。そのために英文を意味のかたまりごとに読み（チャンク・リーディング）、ある一定の速度で安定的に読む訓練を行う。音読とチャンク・リーディングは車の両輪のようなものであるから、音読練習も時間をかけて行う。意味のかたまりを意識し、英語らしい読み方を身につけることによって、リスニング力やライティング力も鍛えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ペア / グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。教科書の英文をかたまりごとに分け、前から読んで理解する訓練を行う。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声＆文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の説明・プレテスト
第 2 回	Unit 6: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 3 回	Unit 7: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 4 回	Unit 7: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 5 回	Unit 8: Movie Review	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 6 回	Unit 8: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 7 回	Unit 9: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 8 回	Unit 9: Movie Viewing	Listening Comprehension / Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion
第 9 回	Unit 10: Background Information	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 10 回	Unit 10: Movie Viewing	Note Taking / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 11 回	Unit 11: Plot Synopsis	Vocabulary / Reading / Reading Comprehension
第 12 回	Unit 11: Movie Viewing	Dictation & Role Play / Listening Comprehension / Critical Thinking & Discussion

第 13 回	発表	口頭発表とクラスメートによる評価
第 14 回	期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
 ・テキストの予習と英文のチャンク分け、音読練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につける。
 ・ペア・ワークやグループ・ワークを頻繁に行う参加型の授業なので、予習を怠ると授業に参加できないばかりか、他の受講生にも迷惑がかかる。準備学習は授業参加の必須条件である。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies（金星堂、2021）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50 % + 発表 20 % + 提出課題 20 % + 平常点 10 % によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布型授業であったが、音読練習の徹底化を図り、ウェブの掲示板で音声共有したことが功を奏したようで、音読（発音や英語らしいリズム）が向上した学生が多かった。今学期は対面授業を数回行なったが、グループワークが楽しかったという感想が多く寄せられた。対面で学び合うことの大切さを再認識した。

【学生が準備すべき機器他】

学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておく必要がある。資料配布や課題提出には、大学の授業支援システムだけでなく、担当教員の授業ページも利用する。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

教科書は初回授業までに購入しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint. The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading practice. The course will examine American culture and society through film. It expects students to gain an increased critical understanding of them and express themselves effectively.

- ・ Students will learn to read efficiently.
- ・ Students will develop critical and analytical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings, writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2, readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3, readings, Quiz #2 Writing assignment #2: Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4, readings, Quiz #3 Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
 There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
 University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will be emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回をZoomで実施します。

教科書"Impact Issues"に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をします。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをしながら授業を進めていく。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
2	Unit 1 First Impression	Read The Academic Advisor. Read the unit well and do the exercises and understand it. Think why first impressions are important.
3	Unit 1	Put yourself in the characters of Sandy and Tamara. Who do you agree with and why.
4	Unit 2 Big or small	What do you think of living in a big city or living in a small town. What are the merits and the demerits of each.
5	Unit 2 Big or small	Continuation of the previous unit. Group discussion on why you want to live in a small town or a big city.

6	Unit 3 The Good language Learner	What is to to learn a new language. You have all studied English for a number of years. What do you think about it,
7	Unit 3 The Good language Learner.	Group Activity . What do you think about learning a new language. Is it necessary to learn a new language or not.
8	Unit 5 Forever Single	What is your idea on marriage. Is marriage important for everybody? What do you think about what Angela is saying. Do you agree or disagree.
9	Unit 5 Forever Single	What do you think about LGBTQ. Is marriage necessary for them? Talk about whether marriage is important for them and why.
10	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	Why is it important to think about what we eat? Do we think about global warming or about our environment we eat?
11	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation	Talk about the why we need to think about global warming and our environment. What do we think about SDGs.
12	Unit 7 What's for lunch? Preparing for the presentation.	What are the problems when about food loss and food waste. Need we think about it? Preparing for the presentation.
13	Presentation	Presentation.
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour or more a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2

Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%。とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となります、

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、デイスカッションなどを通して練習していく。教科書には多くの activities が記載されているのどそれらを通して role playing を行って行きたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書”Impact Issues”に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をします。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとうして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
2	Unit8 Your Online Past	How is online convenient? Is the internet necessary? Why? What are the merits and demerits of online?
3	Unit 6 Your Online Past	What do we need to be careful when we post on online? What are the problems with posting on online. Have you had any problems?
4	Unit 10 My Student Life	Now you are university students. What do you think is important in university life?

5	Unit 10 My Student Life	What are our values during university life. What do we need to do for our future in university. Is going to a university important?	Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.
6	Unit 11 International Relationships	Now we live in an international world. What is important for us to live in this international world?	
7	Unit 11 International Relationships	What are the advantages and disadvantages of a international relationship?	
8	Unit 12 Create another future	What do you think of our earth at the moment? do you think it is a livable place even in 50 years from now?	
9	Unit 12 Create another future	What do you think of SDGs. Is it important for our future? Why do we have to take care of earth?	
10	Unit 12 Create another future Preparing for the presentation	What can we do to for our future earth?	
11	Unit 16 What makes you happy? Preparing for the presentation	What is happiness to you? What does it mean?	
12	Unit 16 What makes you happy? Preparing for the presentation	What makes you happy? Does wealth make you happy or is it something else that makes you happy think about it.	
13	Presentation	Presentation	
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour or more a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2

Richard R Day Josep Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom を使用する場合には、大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their class mates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to help students enjoy improving their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】

Students will develop the ability to more accurately and fluently express themselves, both orally and in writing.

In addition, students will develop a greater ability to match meaning and form, thereby learning to make better choices when participating in English communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students will work mostly in pairs and in small groups. Students will practise new material covered by the teacher, both in class and for homework. There will be three short presentation tasks, one performed alone, one performed with a single partner, and one performed in a small group. Feedback on all tasks will be provided.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Hobbies; Likes and Dislikes	Mental and Material Processes. Primary Tense Present.
3	Describing Appearance and Personality	Relational Processes, Primary Tense Present
4	Speaking Test 1 - Introducing Myself Feedback and discussion.	3-Minute Presentation using the material taught hitherto. Plus Feedback and discussion.
5	The Best Day Of My Life	Material, Relational and Existential Processes; Primary Tense Past
6	What Is/Was Happening?	Introducing Secondary Tense Present
7	What Have/Had You Done?	Introducing Secondary Tense Past
8	Speaking Test 2 - Interview Role Play. Feedback and discussion	Pairwork - Interview a partner about their past, using the material taught hitherto. Plus feedback and discussion.
9	Future Plans - Certain.	Talking about Future Certainty in English. Primary Tense Present, Secondary Tense Present, Secondary Tense Future,

10	Future Plans - Uncertain	Using Primary Tense Future to discuss uncertain future plans.
11	That Must Be True!	Introducing Modal Assessment - Probability, Usuality
12	Giving Advice.	Modal Assessment - Obligation, Ability.
13	Course Overview and Final Speaking Test Preparation	We review all the material covered hitherto, and practise for the final speaking test.
14	Speaking Test 3 - Group Discussion. Feedback.	In small groups, students will have a 7-10 minute discussion, using all the material taught in this course. Plus feedback.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

The teacher will provide his own materials.

【参考書】

There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%

Speaking Tests: 70%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM.

【None】

、

【Outline (in English)】

This course is designed to help students enjoy improving their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to help students continue to improve their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】

Students will continue to develop the ability to accurately and fluently express themselves, both orally and in writing. Students will further develop the skill to match meaning with form, thereby learning to make better choices when participating in English communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will work mostly in pairs and in small groups. Students will practise new material covered by the teacher, both in class and for homework. There will be several short presentation tasks, performed alone, and in small groups. Feedback on all tasks will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the Course
2	The Important Thing is...	Information Structure and Thematic Structure
3	Introduction to English Intonation	Syllables and Rhythm.
4	Speak With Confidence!	Tone groups
5	Speaking Test 1 - Making a Speech. Feedback and discussion.	3-5 minute speech given by each student. Plus feedback and discussion
6	What Would You Do?	Practising the grammar of hypothetical situations
7	Telling A Story	Using a variety of verb tenses to tell a narrative
8	Describing People And Things	Understanding the English Nominal Group
9	Speaking Test 2 - Group Discussion. Feedback.	Students will discuss a topic for 7-10 minutes using the material covered hitherto. Plus feedback.
10	You Know What I'm Talking About!	Mastering the use of Deictics.
11	Discussion Skills - Focus on The Speaker	How speakers in a discussion can keep a conversation going.
12	Discussion Skills - Focus on The Listeners	How listeners in a discussion can keep a conversation going.

13	Put it Together!	We review and practise all the skills learned hitherto.
14	Speaking Test 3 - Group Discussion. Feedback.	Students will discuss a topic for 7-10 minutes using all the material covered in this course. Plus feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

The teacher will provide his own materials.

【参考書】

There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%

Speaking Tests: 70%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM.

【None】

,

【Outline (in English)】

This course is designed to help students continue to improve their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本 (中級)』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

・この授業は Zoom を用いて「オンライン (リアルタイム配信型)」として実施する。

教科書『改定版 アメリカ口語教本 (中級)』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。

提出された課題に関しては全体の講評を中心に個別でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習 (シャドーイング入門)
3 回目	教科書 1 章	教科書に基づく演習 (教科書 1 章)
4 回目	教科書 2 章	教科書に基づく演習 (教科書 2 章)
5 回目	教科書 3 章	教科書に基づく演習 (教科書 3 章)
6 回目	教科書 4 章	教科書に基づく演習 (教科書 4 章)
7 回目	パラグラフ・ライティング (入門)	パラグラフ・ライティング (入門)
8 回目	教科書 5 章	教科書に基づく演習 (教科書 5 章)
9 回目	教科書 6 章	教科書に基づく演習 (教科書 6 章)
10 回目	教科書 7 章	教科書に基づく演習 (教科書 7 章)
11 回目	教科書 8 章	教科書に基づく演習 (教科書 8 章)

12 回目	教科書 9 章	教科書に基づく演習 (教科書 9 章)
13 回目	パラグラフ・ライティング (実践編)	パラグラフ・ライティング演習 (実践編)
14 回目	まとめ	オンラインメディアを活用したシャドーイング学習法について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してから授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

研究社『改定版 アメリカ口語教本 (中級用)』

【参考書】

木内裕也・工藤紘実『耳と口が「英語モード」になる 同時通訳者のシャドーイング』(KADOKAWA)。
研究社『改定版 アメリカ口語教本 (上級用)』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ (ベレ出版)。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』(ティエス企画)。

【成績評価の方法と基準】

演習 (60 %)、ライティング課題 (40 %)

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度もオンライン授業として実施した。
効率の良い学習方法の伝達につとめたが、現在のオンラインメディアなども活用する形で英語に触れる具体的な学習法を伝達することにつとめた。
オンライン授業を通して、ラーニングシステムをはじめて本格的に使う機会を得た。ツールの有効活用は今後も継承したい。

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice.

【Learning Objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 60% (2) essays submitted in due time = 40%.

Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「English2 I」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

- ・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
- ・会話表現演習／瞬間英作文を通じてアウトプットの回路を身につける。
- ・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を通じてオンライン（リアルタイム配信型）として実施する。

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。

提出された課題に関しては全体の講評を中心に個別でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
7 回目	検定試験型ライティング（導入）	検定試験型ライティングのパターンについて
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）

11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）
13 回目	検定試験型ライティング（実践編）	検定試験型ライティング（実践編）
14 回目	まとめ	インタビューを素材にしたシャドーイングの学習法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習して授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級用）』

【参考書】

木内裕也・工藤紘実『耳と口が「英語モード」になる 同時通訳者のシャドーイング』（KADOKAWA）。

研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級用）』。

スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。

森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ（ペレ出版）。

四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（ティエス企画）。

【成績評価の方法と基準】

演習（60 %）、ライティング課題（40 %）

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度もオンライン授業として実施した。

効率の良い学習方法の伝達につとめたが、現在のオンラインメディアなども活用する形で英語に触れる具体的な学習法を伝えることにつとめた。

オンライン授業を通して、ラーニングシステムをはじめて本格的に使う機会を得た。ツールの有効活用は今後も継承したい。

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要で。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice.

【Learning Objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 60% (2) essays submitted in due time = 40%.

Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	What makes a good paragraph	How to write a good paragraph (topic sentences, supporting sentences and concluding sentences)
第 3 回	Peer editing	A. Select a short article from http://www.voanews.com , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. make groups for presentations selected from topic list provided by the instructor
第 4 回	differences/commonalities	Paragraph writing practice. Any academic theme acceptable. Group work on presentations
第 5 回	inside looking out	C. TED Talk, "Your Body Language May Shape Who You Are" (21:02) Q & A D. Work on presentations
第 6 回	Outline	A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.

第 7 回 discussion

A. Select a short article from <http://www.japantoday.com>, highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class.
B. work on presentations

第 8 回 Peer editing

A. Peer editing on typed paragraphs
B. Group work on presentations

第 9 回 Short speeches

Short speeches on what you are most passionate about (no digital games, anime etc.)

第 10 回 TED Talk

B. Tony Robbins TED Talk, "Why We Do What We Do" (21:45)
C. Q & A

第 11 回 presentations

Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.

第 12 回 presentations

2~3 group presentations + Q & A

第 13 回 get ready

2~3 group presentations + Q & A

第 14 回 conversation

active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	Discuss what you did during your summer break.
第 2 回	Mistakes	How to avoid awkward expressions in writing and speaking https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/
第 3 回	Going global	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	writing	In class writing rough draft paragraph on globalization Typed paragraph due next week. Peer editing and discussion on globalization.
第 5 回	TED Talk	A. TED Talk, "The Habits of Happiness," Matthieu Ricard (20:54) B. Group work, Q & A C. Work on presentations
第 6 回	opinion	Outline due for one page essay. Essay due on week 11 In class work on essay selected from list provided by the instructor.

第 7 回 Group Discussion

A. Cultural taboos: discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.

第 8 回 Read and discuss

A. Select a short article from <http://www.japantoday.com>, highlight important points and discuss it in small groups. You must be prepared before class.

第 9 回 Short speeches

B. work on presentations
A. Bring a small and meaningful item from home and give a short speech.

第 10 回 final group

B. Work on presentations.
The entire class will be used in solidifying the presentations.

第 11 回 presentations

Groups of 4 to 5 students will give presentations. One page essay due.

第 12 回 presentations

Groups of 4 to 5 students will give presentations.

第 13 回 get ready

Group discussions selected from list provided by instructor. See

第 14 回 conversation

<https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/>
active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class unless I say differently. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

You will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough

13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested to work with the same partner more.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset.

Prepare an English dictionary. Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【Outline (in English)】

Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

You will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, must, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden and Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested fewer partner changes.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Prepare an English dictionary.

Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【Outline (in English)】

Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students will work individually, and with a partner and in small groups (— in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines, and possibly online on Zoom). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	explanation of class requirements/ "getting to know each other."
2	1A Are you? Can you? Did you?	Word order in questions.
3	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
4	1C The Remake Project	present continuous.
5	1C Vermeer's "Milkmaid"	prepositions of place.
6	2A Where's my passport?	past simple past, holidays.
7	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
8	2C One dark October evening	time sequencers and connectors, verb phrases.
9	4A Who does what?	present perfect, housework.
10	4B In your basket	present perfect or simple past.
11	4 B The story of the ice cream sellers	shopping.

12	4C #great weekend	adjectives ending -ed and -ing.
13	4C The history of the weekend	something/anything. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ reviewing chapters 1, 2, 4.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

In case Zoom meetings are held, a computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera will be needed. Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】

This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will work individually, and with a partner and in small groups (— in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines, and possibly online on Zoom). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	5A Life changes	comparative adjectives and adverbs.
2	5B World Cities	superlatives.
3	5B Twelve lost wallets	describing a town or city.
4	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
5	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs. .
6	6B I'll always love you	will/won't, shall (other uses).
7	6C The meaning of dreaming	be going to (plans/predictions), present continuous (future arrangements).
8	6C Dream interpretations	review of verb forms, modifiers.
9	8B Murphy's law	if-clause, confusing verbs.
10	9A Beware of the dog.	animals and insects.
11	9A Would you know what to do?	if-clause (second conditional).

12	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
13	9C Scream queens	present perfect or past simple/ biographies. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ book revision.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

In case Zoom meetings are held, a computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera will be needed. Google Classroom will be used.

【Outline (in English)】

This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のParagraphを書く練習を行い、最終的には複数のParagraphからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第1課 In-Flight Announcements	この教科書の使い方 第1課 単語 単語 ディクテーション
4	第1課	発音 口頭練習
5	第2課 At Immigration and Customs	単語 ディクテーション
6	第2課	第1課小テスト 発音 口頭練習
7	第3課 Getting to a Hotel	単語 ディクテーション
8	第3課	第2課小テスト 発音 口頭練習
9	第4課 Checking into a Hotel	第3課小テスト 単語 ディクテーション
10	第4課	発音 口頭練習

11	第5課 Checking in without a Reservation	第4課小テスト 単語 ディクテーション
12	第5課	発音 口頭練習
13	第6課 At a Restaurant	第5課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

実用観光英語 -改訂新版- 島田 他著 2019 年 成美堂
1900 円

ISBN978-4-7919-7185-5

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %

小テスト 10 %

レポート課題・発言点 20 %

平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は3回で欠席1回に換算される。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

Learning Objectives

Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.

Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課 Taking the Subway	単語 ディクテーション 発音
3	第 7 課	口頭練習
4	第 8 課 At a Fast -Food Restaurant	7 課小テスト 単語 ディクテーション
5	第 8 課	発音 口頭練習
6	第 9 課 Hotel Service	単語 ディクテーション
7	第 9 課	第 8 課小テスト 発音 口頭練習
8	第 10 課 Booking a Tour	単語 ディクテーション
9	第 10 課	第 9 課小テスト 発音 口頭練習

10	第 11 課 Health Care	単語 ディクテーション
11	第 11 課	第 10 課小テスト 発音 口頭練習
12	第 12 課 Shopping	第 11 課小テスト 単語 ディクテーション
13	予備日	復習・発表など
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

実用観光英語 ―改訂新版― 島田 他著 2019 年 成美堂
1900 円
ISBN978-4-7919-7185-5

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %

小テスト 10 %

レポート課題・発言点 20 %

平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

Learning Objectives

Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.

Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will assist students in acquiring more effective listening skills so as to enable them to be more competent in interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture with a greater emphasis on a variety of task based activities including periodic individual and small group presentations. The topics will be taken mainly from the text with supplemental materials used as appropriate. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reactions to the video.

In Week 7 and the final class, unit tests are reviewed as well as comments and explanations given for assignments (exercises, reports, presentations, etc.) completed.

*Please note that this is a hybrid class, meaning that we will meet some weeks in person and other weeks on Zoom. Please refer to Hoppii

(Announcements) for details.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages. Student career presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, grammar focus and reading comprehension.

7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Test scores; comments/ explanations on homework assignments (unit exercises, reports, etc) Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Interchange activity: Asking classmates to borrow, lend or refuse to lend something.
10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories; notetaking.
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing your own story; Groups: creating a news story.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations on creative news stories.
13	Units 3&4 test	Listening, grammar focus, vocabulary and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed and feedback of Spring term.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

There will be weekly assignments mainly from the text. Students are expected to come to class fully prepared, having completed the assigned homework (Unit exercises, readings, teacher assigned tasks) and thus be able to contribute to class activities.

The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト (教科書)】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is as follows:

Oral dictation and vocabulary quizzes, Unit tests: 50%

Participation (including the timely completion of all homework assignments) 30%

Individual and small group presentations: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

NA (新担当者のためなし)

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii and Zoom will be used extensively throughout the term. Students attending a Zoom class on campus will need a headset.

【Outline (in English)】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】

Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience on relevant topics. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities in pairs and groups. There will continue to be periodic individual and group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to listening exercises and DVD showings.

In Week 8 and in the final class, unit test scores are returned as well as comments and explanations of all assignments (written reports, presentations, etc) given during the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	Student country presentations and follow-up student reactions.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Units 5 & 6 test.	Listening, grammar review, and reading.
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Test scores returned; comments and explanations on assignments (reports, presentations) are given.
9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Group discussion

10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.
11	Environmental solutions	Group topic presentations on various environmental issues.
12	The past and the future.	Talking about historical events and people; talking about the future. Exercises and practice.
13	Units 7 & 10 test.	Listening, grammar review, reading and writing (about a famous Japanese person).
14	Review of Units 7& 10.	Units 7& 10 test scores are returned; comments and explanations of completed assignments given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to come to class fully prepared, having completed all assigned homework from the previous class, and thus able to participate in current class discussion.

*The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ￥ 2750

【参考書】

Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is based on:

Unit Tests and Oral dictation quizzes: 50%

Participation: (including the timely completion of homework assignments both written and reading): 30%

Performance in individual and group presentations: 20%

In principle no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

【Outline (in English)】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge, and experience both orally and in writing. Furthermore, students will acquire more effective listening skills so as to enable them to be more competent interacting in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroted. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Getting to know you	Listening exercise: self-introduction; Speaking: my oldest friend; Grammar explanation and practice: present, past, future tenses; question forming
Week 3	Unit 1 Getting to know you	Reading: blind date; Vocabulary in context; Verbs of similar meaning; Writing: using homonyms – words with two different meanings
Week 4	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading and listening exercise: I love what I do; Speaking: my perfect day, pair work; Grammar: present simple and present continuous; have/ have got

Week 5	Unit 2 Whatever makes you happy	Reading: the happiness quiz; Vocabulary review; Listening and speaking exercise: talking about neighbours; group discussion: important things in life
Week 6	Unit 3 What's in the news?	Listening exercise: news article; Grammar: past simple and past continuous; regular and irregular verbs; Speaking exercise: talking about the news, group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)
Week 7	Unit 3 What's in the news?	Listening: radio news; Reading: The flight attendant who lost his cool; Vocabulary: adverbs, time expressions; Writing exercise: rewriting a postcard using a variety of adjectives
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening: the secret to a long life; Grammar explanation and practice: expressions of quantity, articles; Vocabulary: expressions for counting things
Week 10	Unit 4 Eat, drink, and be merry!	Listening and reading: unusual places to eat; Speaking: going shopping; Writing exercise: email to an old friend
Week 11	Unit 5 Looking forward	Listening: How does it feel to be 20-something? Grammar: future forms – going to, will and present continuous; Speaking exercise: talking about your likes and plans
Week 12	Unit 5 Looking forward	Reading with comprehension: Hope for the future; Vocabulary: phrasal verbs; Speaking: expressing doubt and certainty
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】

English to English dictionary:
<https://dictionary.cambridge.org/>
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】

The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them become more active and confident communicators in the global society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 The way I see it	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair work; Grammar: comparatives and superlatives
Week 3	Unit 6 The way I see it	Reading and speaking: multicultural London; Vocabulary: synonyms and antonyms; Writing assignment: The town where I was born
Week 4	Unit 7 Living history	Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Listening exercise: Frieda Hoffmann – archaeologist and writer; Grammar explanation and practice: present perfect
Week 5	Unit 7 Living history	Reading: Living history; Vocabulary review; Listening and speaking: a family history

Week 6	Unit 8 Girls and boys	Listening and speaking practice: talking about famous people; Grammar: have to, should, must
Week 7	Unit 8 Girls and boys	Reading and speaking: families with all boys or all girls; Group work: things to wear
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements and introducing topics for presentation No. 2
Week 9	Unit 9 Time for a story	Reading and listening exercise: Aesop's fable; Grammar practice: narrative tenses and conjunctions
Week 10	Unit 9 Time for a story	Reading and speaking: describing a story; Writing exercise: writing about a book or a film
Week 11	Unit 10 Our interactive world	Listening and speaking exercise: inventions; Grammar: passives
Week 12	Unit 10 Our interactive world	Reading with comprehension: Five Internet firsts; Speaking: talking on the phone, pair work
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

John and Liz Soars: New Headway Pre-Intermediate Student's Book with Oxford Online Skills (Fourth Edition), Oxford University Press, 2013. ISBN: 978-0-19-476759-0

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course)

- Writing assignments and tests: 40%

- Presentations: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Andrew E. Chen

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an On-Demand class for 2022. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language. Homework assignments may be shared with the whole class for comprehension check and motivation. They should be considered good examples of student work and are used to further discussion. Results of quizzes and midterms will be reviewed in class. Each and every student's performance may not be addressed individually but selected and representative ones will be chosen in general. 授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	1A Who's who? Word order in questions	Common verb phrases, classroom language. Introduction to writing. Understanding process writing.

②	1B Who knows you better? Simple present tense	Personality adjectives, third person and plural-s. Family. Pre-Writing: gathering ideas, choosing and narrowing a topic.
③	1C At the Moulin Rouge Present continuous tense	Prepositions of place. The body. The structure of a paragraph: the definition and parts of a paragraph.
④	1D The Devil's Dictionary Defining relative clauses	Expressions for paraphrasing. The structure of a paragraph: identifying and writing topic sentences.
⑤	2A Right place, wrong time Simple past tense, regular and irregular verbs	Vacations, -ed endings, irregular verbs. The development of a paragraph: paragraph support and development.
⑥	2B A moment in time Past continuous tense	Prepositions of time and place: in, on, at. The development of a paragraph: writing concluding sentences, peer editing.
⑦	2C Fifty years of pop music Questions with and without auxiliaries	Question words. Pop music. Descriptive paragraphs: organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions.
⑧	2D One October evening So, because, but, although. Midterm Exam	Verb Phrases. Descriptive paragraphs: using connecting words and phrases to write a paragraph that describes a process.
⑨	3A Where are you going? Going to, present continuous (future arrangements)	look (for, through, etc.) Opinion paragraph: distinguishing between fact and opinion, organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments.
⑩	3B The pessimist's phrase book Will/Won't (predictions)	Opposite verbs. Opinion paragraphs: using transition words to express causality, modal expressions to make recommendations.
⑪	3C I'll always love you Will/ Won't (promises, offers, decisions)	Verb + back. Comparison / Contrast paragraph: organizing comparison / contrasting paragraphs.
⑫	3D I was only dreaming Review of Tenses: present, past, and future	Verb + prepositions. Comparison/ Contrast paragraphs: connecting words used for comparing and contrasting topics, writing advantages and disadvantages of comparison/ contrast paragraphs.
⑬	4A From rags to riches Present perfect(experience) + ever, never; present perfect or simple past?	Clothes. Problem/ Solution paragraphs: using real and unreal conditionals.
⑭	4B Family conflicts Present perfect + yet and already. Final Exam	Verb phrases. Problem/ Solution paragraph: writing a two-paragraph paper with linking phrases.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】

Audio Student Book, Audio Workbook, Video On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: <https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja>

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30% Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed. * For On Demand classes due to the pandemic, if students complete the assignment(s) for the week, students are counted as present. If no assignments are submitted, then students are counted as absent. For Face to Face classes in case the class format changes, students will be counted as present only if students attend the class regardless if assignments are completed or not. 出席は毎回確認します。オンライン授業に移行した際は課題を全部完成すればその授業を出席となります。未提出の場合は欠席となります。対面授業の場合は課題の提出にもかかわらず、出席した方しか出席となりません。

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」「大変だけど、やりがいのある授業でした」「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】

Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007.

Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline (in English)】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Andrew E. Chen

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This is an On-Demand class for 2022. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language. Homework assignments may be shared with the whole class for comprehension check and motivation. They should be considered good examples of student work and are used to further discussion. Results of quizzes and midterms will be reviewed in class. Each and every student's performance may not be addressed individually but selected and representative ones will be chosen in general. 授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	5A Are you a party animal? Uses of the infinitive.	Verbs + infinitive. The structure of an essay: the five paragraph essay.
②	5B What makes you feel good? Uses of the -ing form.	Verbs followed by -ing. The structure of an essay: formatting an essay, writing a thesis statement.

③	5C How much can you learn in a month? Have to, don't have to, must, must not, can't.	Modifiers, a little (bit), extremely, fairly, really, etc. Outlining an essay: the purpose of an outline, reading and outlining essays.
④	5D The name of the game Expressing movement.	Prepositions of movement, sports. Editing thesis statements. Identifying thesis statements in academic journals.
⑤	6A If something bad can happen, it will If + present: will + base form (first conditional)	Confusing verbs. Introductions and conclusions: the purpose of an introduction, types of information in introductions.
⑥	6B Never smile at a crocodile If + past; would + base form (second conditional)	Animals. Introductions and conclusions: the purpose of a conclusion, writing conclusions.
⑦	6C Decisions, decisions May/ Might (possibility)	Word building; noun formation. Unity and coherence: the importance of unity in essay writing, editing an essay for unity.
⑧	6D What should I do? Should / Shouldn't Midterm Exam	Get, sentence stress. Unity and coherence: the importance of coherence in essay writing, creating coherence.
⑨	7A Famous fears and phobias? Present perfect + for and since	Words related to fear. Opinion essay responses, Editorials.
⑩	7B Born to direct Present perfect of simple past?	Biographies. Newspaper editorials and responses.
⑪	7C I used to be a rebel Used to	School subjects; history, geography, etc. Essays for Examinations. Peer Editing of essay rough drafts.
⑫	7D The mothers of invention Passive	Verbs; invent, discover, etc. Essays for examination, graph descriptions. 2nd essay draft and peer editing, punctuation.
⑬	8A I hate weekends! Something, anything, nothing 8B How old is your body? Quantifiers, too, not enough	Adjectives ending in -ed and -ing. Writing timed essays. Health and Lifestyle. Final Essay draft: proof reading. Final essay due.
⑭	8C Waking up is hard to do Word order of phrasal verbs. 8D "I'm Jim." "So am I." so/ neither + auxiliaries Final Exam	Phrasal Verbs. Similarities. Return of final essays.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】

Audio Student Book, Audio Workbook, Video On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: <https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja>

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed. * For On Demand classes due to the pandemic, if students complete the assignment(s) for the week, students are counted as present. If no assignments are submitted, then students are counted as absent. For Face to Face classes in class the class format changes, students will be counted as present only if students attend the class regardless if assignments are completed or not. 出席は毎回確認します。オンライン授業に移行した際は課題を全部完成すればその授業を出席となります。未提出の場合は欠席となります。対面授業の場合は課題の提出にもかかわらず、出席した方しか出席となりません。

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」「大変だけど、やりがいのある授業でした」「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】

Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline (in English)】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must either be uploaded, or printed on A4 paper before the deadline.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editing
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form

Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which will require around 2 hours of work & must either be uploaded or printed on A4 paper, before the deadline. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will be made available online for further study & guidance.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to prepare & upload, or print reports.

【その他の重要事項】

Regular attendance is required, and a willingness to practice & improve your English writing skills, and submit assignments on time.

【Outline (in English)】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment. Issues such as sexism, racism & homophobia will be examined, while students will be introduced to new & challenging vocabulary, and be able to extensively practice their audio-visual skills.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.
3. To introduce students to new vocabulary, and offer practice in sentence structure responses

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.

Each week students will be assigned a reading passage, with both vocabulary & comprehension questions, in preparation for the following lesson. In addition, students will be required to prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10+ minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned an additional reading passage & vocabulary exercise as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Review & Preview	Review the previous semester & summer vacation, explain about new semester
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Elliot 1 (The Ballet Class):	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Elliot 2 (The Private Lesson)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,

Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Elliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend approximately 1 hour on each weekly reading assignment, and 30 minutes to prepare vocabulary & review the previous lesson's material, prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since all materials will be available online, students must either download & print, or download and have ready on their laptop or tablet device, the required files before the lesson begins.

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

30% - Classroom & Homework Assignments

40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation

Student will receive feedback & guidance on each report.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will also be available online for students to review and gain further practice with the audio-visual materials.

【学生が準備すべき機器他】

Students will require a laptop or tablet device with a reliable internet connection, in order to download materials, and to prepare and either upload or print reports.

【Outline (in English)】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】

To help students become more fluent in English by building their vocabulary and teaching them structures for communicative tasks such as giving opinions. The students will learn English for travel such as booking an airline ticket, making a hotel reservation, and ordering food in a restaurant.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

There will be some lectures by the Instructor and interactive activities such as pair work, group work, and discussion. There will be some individual presentation assignments. Any written assignments will receive feedback by the Instructor assigning a grade. For presentations, I will give verbal feedback and assign a grade for them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introductions	Question words - Where were you born? What is your hobby?
Class 2	Getting to know you	Reading - A Blind Date, Discussion - Talking about your friends
Class 3	Whatever makes you happy	She works in comedy clubs. She makes people laugh
Class 4	Whatever makes you happy	Money - the best things in life are free Discussion - What's important to you?
Class 5	What's in the news?	Walking the Amazon
Class 6	The flight attendant who lost his cool	Discussion - Famous for 15 minutes
Class 7	Eat, drink, and be merry!	A couple talks about their diet.
Class 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants
Class 9	Looking forward	The girl with two families
Class 10	How does it feel to be in your twenties?	Living at home/leaving home
Class 11	The way I see it	Multicultural London
Class 12	Talking about a new country	Describing my hometown
Class 13	Review	Will review material that will be on a speaking exam

Class 14 Final Examination & Review Will have short interviews with students covering the course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

American Headway Book 2 (Thurd Edition) by John and Liz Soars, Oxford University Press

【参考書】

It would be useful for students to have an English-Japanese dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation - 40%, Midterm Exam - 30%, and Final Exam - 30% In principle, no more than three absences are allowed per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Will consider.

【学生が準備すべき機器他】

The textbook.

【Outline (in English)】

Course Objectives]

To give students maximum opportunities to communicate

To build student confidence in interpersonal communication

To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This once a week required class for first-year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】

To help students become more fluent in English by building their vocabulary and teaching them structures for communicative tasks such as giving opinions. The students will learn English for travel such as booking an airline ticket, making a hotel reservation, and ordering food in a restaurant.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

There will be some lectures by the Instructor and interactive activities such as pair work, group work, and discussion. There will be some individual presentation assignments. Any written assignments will receive feedback by the Instructor assigning a grade. For presentations, I will give verbal feedback and assign a grade for them.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Living History	Have you ever done anything dangerous? Family history
Class 2	Living History	Living in a stately home, The upper class and inherited wealth
Class 3	Girls and Boys	An interview with Jessica Ennis, Olympic champion
Class 4	Girls and Boys	Families with all boys or all girls, People talk about their families
Class 5	Time for a Story	Good and evil - The strange case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde
Class 6	Time for a Story	My favorite writers - Harper Lee and Robert Louis Stevenson
Class 7	Midterm Exam	Discussion questions on Living History, Girls and boys, or Time for a story
Class 8	Our interactive world	Smartphones, On the phone - Can I speak to >>> ? I'm calling because
Class 9	Our interactive world	Five internet firsts, Modern life drives me crazy!
Class 10	Life's what you make it	Good news, bad news, Four generations of Gettys - a tragic dynasty

Class 11	Life's what you make it	Alison's life - A woman talks about her marriage, husband, and children
Class 12	Just wondering	Life, the universe, and everything
Class 13	Review	smartphones, good news, bad news, Life and the universe
Class 14	Final Examination & Review	Discussion question on smartphones, good news, bad news, Life and the universe

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

American Headway Book 2 - Third Edition by John and Liz Soars

Publisher: Oxford University Press

【参考書】

An English-Japanese Dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

Classroom participation - 40%, Midterm Exam - 30% and Final Exam - 30%

In principle, no more than three absences are allowed per semester.

【学生の意見等からの気づき】

I will consider changes.

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have the textbook.

【Outline (in English)】

Course Objectives

To give students maximum opportunities to communicate

To build student confidence in interpersonal communication

To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

関野 佳苗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TED Talks の動画を教材とした教科書を使用し、リスニング・スピーキング、そしてプレゼンテーション能力の養成を目指します。教科書の段階的アクティビティを通じて、語彙力やノートテイキングスキルといったインプットのための技術を身に付けるとともに、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力といった、アウトプットのための技術を身に付けていきます。

【到達目標】

ネイティブスピーカーのスピーチを理解するためのリスニング能力を身につける。
 パラグラフの基本構造を理解し、自らの意見を短い文章で表現することができる。
 聞き手を意識した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

前期では Unit1、Unit2、Unit4 を扱います。
 授業ではまずテーマに関連した講義やインタビュー音声を通してリスニングスキルやノートテイキング能力といったインプットのためのスキルの向上を目指します（Part 1）。次に TED Talks の動画を用い、引き続きインプットのためのスキルの向上を目指しつつ、スピーチの理解を深めていきます（Part 2）。その後、教員からのフィードバックを踏まえながら、個人もしくはグループでのプレゼンテーションやディスカッションの原稿を作成します。（Put it Together）各授業では、前回の授業で提出された課題や、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明および使用テキスト、TED Talks の紹介
第 2 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 1-1	数とデータを聞き取る
第 3 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 1-2	提案をする
第 4 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 2	トピックを強調する
第 5 回	Unit 1Put it Together グループプレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 6 回	Unit 1Put it Together 発表	原稿へのフィードバック、原稿の修正、発表
第 7 回	Unit 2Connecting to Nature Part 1	スピーカーの感情を聞き取る
第 8 回	Unit 2Connecting to Nature Part 2	視覚資料を使用する

第 9 回	Unit 2Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 10 回	Unit 2Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプト作成、発表
第 11 回	Unit4Music, Music Everywhere Part 1	理由を聞き取る
第 12 回	Unit4Music, Music Everywhere Part 2	効果的な導入を使用する
第 13 回	Unit4Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 14 回	Unit4Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプトの作成、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

準備学習：

教科書に目を通し、わからない単語や表現を調べる。

Vocabulary を行う。

復習：

次の授業に向けて、各アクティビティの回答、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。

授業の内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

21st Century Communication : Listening, Speaking, and Critical Thinking Level 1 Student Book, Cengage Language 2960 円、978-1-305-94592-0

電子辞書、もしくは紙の辞書を持参して授業に参加すること。

【参考書】

これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

- ・予習、復習を行っているか。
- ・グループワーク等に積極的に参加しているか。
- プレゼンテーション（3 回） 30 %
- ・説得力のある構成、テーマに沿った内容か。
- ・文法・表現が正確な英語を使用できているか。
- ・ユニットごとのテーマを意識し、プレゼンテーションに取り入れているか。
- ・聞き手を意識したプレゼンテーションができているか。

提出課題 30 %

- ・各授業のワークシート、アウトライン、スクリプト

総合評価 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は実践的な部分を中心としていたが、今年度は段階的に考えを組み立てていくこと、そしてグループで意見を組み立てていく点に重点をおいていく。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。

2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得できません。（公欠の基準は大学の決まりに準じます）

教員の指示なくノート PC やスマートフォンの使用があった場合、その日の授業は欠席となります。

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to develop students' listening, speaking, and basic presentation skills with TED Talks videos. Through step-by-step activities in the textbook, students will acquire basic skills for input, such as vocabulary and note-taking skills, as well as skills for output, such as critical thinking and presentation skills.

【Learning Objectives】

Students will acquire listening skills for understanding English speech.

Students will understand paragraph writing and be able to express their own opinion in short passages.

Students will be able to deliver short effective presentations in English.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Preparation:

to look through textbooks and look up unfamiliar words and expressions

to do Vocabulary

Review:

to review the answers of each activity

to check the phrases and vocabulary to express your answers correctly

to reread the textbook and prepare to ask questions if you have

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process.

Class participation(40 %), Presentation (30 %), and assignments(30 %).

Students will fail the class if his/her final grade is below 60% or he/she is absent more than four times.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

関野 佳苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業に引き続き、リスニング・スピーキング、そしてプレゼンテーション能力の養成を目指します。TED Talks を教材としながら、教科書の段階的アクティビティを通じて、語彙力やノートテイキングスキルといったインプットのための技術を身につけるとともに、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力といった、アウトプットのための技術を身につけていきます。

【到達目標】

各ユニットのテーマについての語彙、ネイティブスピーカーのスピーチを理解するためのリスニング能力を身につける。

パラグラフの基本構造を理解し、自らの意見を短い文章で表現することができる。

聞き手を意識した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業ではまずテーマに関連した講義やインタビュー音声を通してリスニングスキルやノートテイキング能力といったインプットのためのスキルの向上を目指します（Part 1）。次に TED Talks の動画を用い、引き続きインプットのためのスキルの向上を目指しつつ、スピーチの理解を深めていきます（Part 2）。その後、教員からのフィードバックを踏まえながら、個人もしくはグループでのプレゼンテーションやディスカッションの原稿を作成します。（Put it Together）各授業では、前回の授業で提出された課題や、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 5 Give Thanks Part 1-1	キーワードを聞き取る
第 2 回	Unit 5 Give Thanks Part 1-2	例を挙げる
第 3 回	Unit 5 Give Thanks Part 2	ストーリーを使う
第 4 回	Unit 5 Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 5 回	Unit 5 Put it Together 発表	スクリプトへのフィードバック、 修正、発表
第 6 回	Unit 6 Tell Me Why... Part 1	推測する
第 7 回	Unit 6 Tell Me Why... Part 2	聞き手を意識する
第 8 回	Unit 6 Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 9 回	Unit 6 Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプト作成、発表
第 10 回	Unit 7 The Livable City Part 1-1	問題と解決策を聞き取る

第 11 回	Unit7The Livable City Part 1-2	解決策を考える
第 12 回	Unit7The Livable City Part 2	問題と解決策を提示する
第 13 回	Unit7Put it Together Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 14 回	Unit7Put it Together 発表	スクリプトへのフィードバック、 修正、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

準備学習：

教科書に目を通し、わからない単語や表現を調べる。

Vocabulary を行う。

復習：

次回の授業に向けて、各アクティビティの回答、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。

授業の内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

21st Century Communication : Listening, Speaking, and Critical Thinking Level 1 Student Book、Cengage Language 2960 円、978-1-305-94592-0

電子辞書、もしくは紙の辞書を持参して授業に参加すること。

【参考書】

これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

- ・ 予習、復習を行っているか。
- ・ グループワーク等に積極的に参加しているか。

プレゼンテーション（3 回） 30 %

- ・ 説得力のある構成、テーマに沿った内容か。
- ・ 文法・表現が正確な英語を使用できているか。
- ・ ユニットごとのテーマを意識し、プレゼンテーションに取り入れているか。

- ・ 聞き手を意識したプレゼンテーションができていないか。

提出課題 30 %

- ・ 各授業のワークシート、アウトライン、スクリプト

総合評価 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は実践的な部分を中心としていたが、今年度は段階的に考えを組み立てていくこと、そしてグループで意見を組み立てていく点に重点をおいていく。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は持参するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。

2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得できません。
（公欠の基準は大学の決まりに準じます）

教員の指示なくノート PC やスマートフォンの使用があった場合、その日の授業は欠席となります。

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to develop students' listening, speaking, and basic presentation skills with TED Talks videos. Through step-by-step activities in the textbook, students will acquire basic skills for input, such as vocabulary and note-taking skills, as well as skills for output, such as critical thinking and presentation skills.

【Learning Objectives】

Students will acquire listening skills for understanding English speech.

Students will understand paragraph writing and be able to express their own opinion in short passages.

Students will be able to deliver short effective presentations in English.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Preparation:

to look through textbooks and look up unfamiliar words and expressions

to do Vocabulary

Review:

to review the answers of each activity

to check the phrases and vocabulary to express your answers correctly

to reread the textbook and prepare to ask questions if you have 【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process.

Class participation(40 %), Presentation (30 %), and assignments(30 %).

Students will fail the class if his/her final grade is below 60% or he/she is absent more than four times.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. While in-class activities focus on listening and speaking, assignments are mostly based on reading and writing. Grammar is introduced, practiced and reviewed as part of communication-based approach to learning. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

【到達目標】

The ultimate goal of this course is to introduce current English to students in a practical way so that they can develop competence, and thus confidence to apply it in everyday situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

The method is largely communicative based. Each class will have some lecture, but there will be a strong focus on student to student interaction/participation, namely speaking, in task-based activities in pairs and groups throughout the term. Weekly written, listening and speaking assignments taken from the textbook as well as occasional supplemental handouts will serve as the basis for the course. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to English 2	Class policies/procedures; student expectations.
2	Meeting people	Exchanging personal information. Listening for details.
3	Childhood memories	Talking and writing about your childhood.
4	Transportation services	Asking for and giving information.
5	Tourism campaign	Group presentations
6	Unit Test 1	Units 1&2
7	Houses and apartments	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail.
8	Lifestyle changes	Talking about change; Expressing wishes.
9	Food and snacks	Likes and dislikes. Talking about food.
10	Food recipes	Presentations: Step by step. Describing how to make something.
11	Household chores	Talking about family life; making requests.

12	Complaints, excuses, apologies	Responding to complaints and requests. Asking for a favor.
13	Travel planning.	Describing vacation plans; giving travel advice.
14	Unit Test II	Units 3,4,5.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.

【テキスト (教科書)】

Interchange 2, Fifth Edition Jack C Richards Cambridge University Press 2017 ¥ 2750

【参考書】

Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation criteria for the course:

Participation: 30% (including the timely completion of all assignments, reading and written)

Mini presentations, paired and small group: 30%

Unit Tests, oral dictation and vocabulary quizzes: 40%

* Please be aware that, in principle, no more than 3 absences are permitted throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

Students seem to enjoy the textbook. Speaking and listening activities are found useful and fun.

【学生が準備すべき機器他】

Students do not need to prepare any equipment unless it is requested from them prior to a class.

【その他の重要事項】

N/A

【Outline (in English)】

This is a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. While in-class activities focus on listening and speaking, assignments are mostly based on reading and writing. Grammar is introduced, practiced and reviewed as part of communication-based approach to learning. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a continuation of English 2 I taught in the Spring semester. It remains as a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. In-class activities continue with a focus on listening and speaking, and outside work is mostly assigned on reading and writing. Grammar activities are exercised with a communication-based approach. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

【到達目標】

Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and more effectively express themselves in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term.	Student expectations and objectives.
2	Technology: The world of computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological devices.	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Life in the past and present.	Talking about change; comparing time periods.
5	Life in the future; consequences	Describing a person's past, present and possible future.
6	Review of units 7&9	Unit 7&8 test
7	Abilities and skills.	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits.
8	Careers and job preferences.	Writing: an online job application; Interchange activity: interviewing for a job
9	World landmarks and monuments.	Talking about modern wonders. Describing landmarks.
10	World knowledge: Cities and countries.	Discussing facts about cities and countries; Group presentations
11	Storytelling.	Describing recent past events and experiences.

12	Holidays and festivals	Describing holidays, festival and special events.
13	Review	Units 9,10 & 11 test.
14	Final review and course wrap-up.	Review of unit test; student evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments prior to class.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

【参考書】

Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on:

Class participation (including the timely completion of homework assignments) 30%, oral presentations, individual and small group: 30%, and Unit Tests 40%.

*Attendance is expected every class. No more than three absences are allowed throughout the term. Without a valid reason (i.e. a medical emergency or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

When there is a need, class announcement will be provided.

【Outline (in English)】

This course is a continuation of English 2 I taught in the Spring semester. It remains as a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. In-class activities continue with a focus on listening and speaking, and outside work is mostly assigned on reading and writing. Grammar activities are exercised with a communication-based approach. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 2/Sat.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本 (中級)』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどの演習をくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
・会話表現演習／瞬間英作文を通じて、アウトプットの回路を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

・この授業は Zoom を用いて「オンライン (リアルタイム配信型)」として実施する。

教科書『改定版 アメリカ口語教本 (中級)』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。

提出された課題に関しては全体の講評を中心に個別でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	シャドーイング入門	シャドーイング演習 (シャドーイング入門)
3 回目	教科書 1 章	教科書に基づく演習 (教科書 1 章)
4 回目	教科書 2 章	教科書に基づく演習 (教科書 2 章)
5 回目	教科書 3 章	教科書に基づく演習 (教科書 3 章)
6 回目	教科書 4 章	教科書に基づく演習 (教科書 4 章)
7 回目	パラグラフ・ライティング (入門)	パラグラフ・ライティング (入門)
8 回目	教科書 5 章	教科書に基づく演習 (教科書 5 章)
9 回目	教科書 6 章	教科書に基づく演習 (教科書 6 章)
10 回目	教科書 7 章	教科書に基づく演習 (教科書 7 章)
11 回目	教科書 8 章	教科書に基づく演習 (教科書 8 章)

12 回目	教科書 9 章	教科書に基づく演習 (教科書 9 章)
13 回目	パラグラフ・ライティング (実践編)	パラグラフ・ライティング演習 (実践編)
14 回目	まとめ	オンラインメディアを活用したシャドーイング学習法について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習してから授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

研究社『改定版 アメリカ口語教本 (中級用)』

【参考書】

木内裕也・工藤紘実『耳と口が「英語モード」になる 同時通訳者のシャドーイング』(KADOKAWA)。
研究社『改定版 アメリカ口語教本 (上級用)』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ (ベレ出版)。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』(ティエス企画)。

【成績評価の方法と基準】

演習 (60 %)、ライティング課題 (40 %)

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度もオンライン授業として実施した。
効率の良い学習方法の伝達につとめたが、現在のオンラインメディアなども活用する形で英語に触れる具体的な学習法を伝達することにつとめた。
オンライン授業を通して、ラーニングシステムをはじめて本格的に使う機会を得た。ツールの有効活用は今後も継承したい。

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice.

【Learning Objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 60% (2) essays submitted in due time = 40%.

Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「English2 I」を継続する形で、定評ある口語会話教材『アメリカ口語教本（中級）』を用い、インプット／アウトプットの訓練を行う。ボキャブラリー／フレーズの増強、イントネーション／リズムなどの音声面によるインプットと、短い時間でのレスポンスによるアウトプットの訓練を行うことは、英語によるコミュニケーションの幅を広げていくうえで有益である。単調な作業に映るかもしれないが、音読／リスニングのトレーニングをくりかえし行うことにより、英語によるリズム感を体得することを主眼とする。

【到達目標】

- ・パターン・プラクティス、音読・オーバーラッピング・シャドーイングなどをくりかえすことによって英語表現をインプットする学習方法について学ぶ。
- ・会話表現演習／瞬間英作文を通じてアウトプットの回路を身につける。
- ・パラグラフ・ライティングの基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は Zoom を通じてオンライン（リアルタイム配信型）として実施する。

教科書『改定版 アメリカ口語教本（中級）』を軸に、音読・オーバーラッピング・シャドーイング・瞬間英作文の演習を通して英語で表現する練習を行う。

提出された課題に関しては全体の講評を中心に個別でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	イントロダクション	授業の運営方針について。「シャドーイング／瞬間英作文」の学習法。
2 回目	教科書 10 章	教科書に基づく演習（教科書 10 章）
3 回目	教科書 11 章	教科書に基づく演習（教科書 11 章）
4 回目	教科書 12 章	教科書に基づく演習（教科書 12 章）
5 回目	教科書 13 章	教科書に基づく演習（教科書 13 章）
6 回目	教科書 14 章	教科書に基づく演習（教科書 14 章）
7 回目	検定試験型ライティング（導入）	検定試験型ライティングのパターンについて
8 回目	教科書 15 章	教科書に基づく演習（教科書 15 章）
9 回目	教科書 16 章	教科書に基づく演習（教科書 16 章）
10 回目	教科書 17 章	教科書に基づく演習（教科書 17 章）

11 回目	教科書 18 章	教科書に基づく演習（教科書 18 章）
12 回目	教科書 19 章	教科書に基づく演習（教科書 19 章）
13 回目	検定試験型ライティング（実践編）	検定試験型ライティング（実践編）
14 回目	まとめ	インタビューを素材にしたシャドーイングの学習法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

翌週までに教室外でのシャドーイング演習に基づいた復習を行う。身体に英語表現のリズムが染み込むまでくりかえし練習して授業に臨むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

研究社『改定版 アメリカ口語教本（中級用）』

【参考書】

木内裕也・工藤紘実『耳と口が「英語モード」になる 同時通訳者のシャドーイング』（KADOKAWA）。
研究社『改定版 アメリカ口語教本（上級用）』。
スクリーンプレイ社による映画シナリオ教材シリーズ。
森沢洋介『話すための瞬間英作文』シリーズ（ペレ出版）。
四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（ティエス企画）。

【成績評価の方法と基準】

演習（60 %）、ライティング課題（40 %）

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

2021 年度もオンライン授業として実施した。
効率の良い学習方法の伝達につとめたが、現在のオンラインメディアなども活用する形で英語に触れる具体的な学習法を伝えることにつとめた。
オンライン授業を通して、ラーニングシステムをはじめ本格的に使う機会を得た。ツールの有効活用は今後も継承したい。

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要で。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students with opportunities to improve their English listening and speaking abilities through “shadowing” practice.

【Learning Objectives】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs. Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects = 60% (2) essays submitted in due time = 40%.

Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. While in-class activities focus on listening and speaking, assignments are mostly based on reading and writing. Grammar is introduced, practiced and reviewed as part of communication-based approach to learning. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

【到達目標】

The ultimate goal of this course is to introduce current English to students in a practical way so that they can develop competence, and thus confidence to apply it in everyday situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

The method is largely communicative based. Each class will have some lecture, but there will be a strong focus on student to student interaction/participation, namely speaking, in task-based activities in pairs and groups throughout the term. Weekly written, listening and speaking assignments taken from the textbook as well as occasional supplemental handouts will serve as the basis for the course. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to English 2	Class policies/procedures; student expectations.
2	Meeting people	Exchanging personal information. Listening for details.
3	Childhood memories	Talking and writing about your childhood.
4	Transportation services	Asking for and giving information.
5	Tourism campaign	Group presentations
6	Unit Test 1	Units 1&2
7	Houses and apartments	Evaluations and comparisons. Writing an e-mail.
8	Lifestyle changes	Talking about change; Expressing wishes.
9	Food and snacks	Likes and dislikes. Talking about food.
10	Food recipes	Presentations: Step by step. Describing how to make something.
11	Household chores	Talking about family life; making requests.

12	Complaints, excuses, apologies	Responding to complaints and requests. Asking for a favor.
13	Travel planning.	Describing vacation plans; giving travel advice.
14	Unit Test II	Units 3,4,5.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete all assignments and come to class fully prepared for discussion and class activities.

【テキスト (教科書)】

Interchange 2, Fifth Edition Jack C Richards Cambridge University Press 2017 ¥ 2750

【参考書】

Interchange 2, Fifth Edition: Self-Study DVD-ROM Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation criteria for the course:

Participation: 30% (including the timely completion of all assignments, reading and written)

Mini presentations, paired and small group: 30%

Unit Tests, oral dictation and vocabulary quizzes: 40%

* Please be aware that, in principle, no more than 3 absences are permitted throughout the term. A fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

Students seem to enjoy the textbook. Speaking and listening activities are found useful and fun.

【学生が準備すべき機器他】

Students do not need to prepare any equipment unless it is requested from them prior to a class.

【その他の重要事項】

N/A

【Outline (in English)】

This is a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. While in-class activities focus on listening and speaking, assignments are mostly based on reading and writing. Grammar is introduced, practiced and reviewed as part of communication-based approach to learning. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in the English speaking world.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

GENC BURCU

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a continuation of English 2 I taught in the Spring semester. It remains as a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. In-class activities continue with a focus on listening and speaking, and outside work is mostly assigned on reading and writing. Grammar activities are exercised with a communication-based approach. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

【到達目標】

Students will continue developing competence in their abilities to communicate in English as they build vocabulary and fluency to interact and more effectively express themselves in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The methodology will continue to be largely communicative based. Each class will have a minimal amount of lecture with a strong focus on task based activities in pairs and groups. Feedback on all assignments will be provided during the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to English Fall term.	Student expectations and objectives.
2	Technology: The world of computers	Talking about computer usage; computer vocabulary
3	Technological devices.	Giving instructions and suggestions. Writing: an instruction manual
4	Life in the past and present.	Talking about change; comparing time periods.
5	Life in the future; consequences	Describing a person's past, present and possible future.
6	Review of units 7&9	Unit 7&8 test
7	Abilities and skills.	Review of unit 7&9 test; describing skills and abilities; personality traits.
8	Careers and job preferences.	Writing: an online job application; Interchange activity: interviewing for a job
9	World landmarks and monuments.	Talking about modern wonders. Describing landmarks.
10	World knowledge: Cities and countries.	Discussing facts about cities and countries; Group presentations
11	Storytelling.	Describing recent past events and experiences.

12	Holidays and festivals	Describing holidays, festival and special events.
13	Review	Units 9,10 & 11 test.
14	Final review and course wrap-up.	Review of unit test; student evaluations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to have fully completed all written, reading and speaking preparation assignments prior to class.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Fifth Edition, Jack C. Richards Cambridge University Press, 2017.

【参考書】

Interchange Fifth Edition: Online Self-Study, Level 2.

【成績評価の方法と基準】

Grading criteria for this course will be based on:

Class participation (including the timely completion of homework assignments) 30%, oral presentations, individual and small group: 30%, and Unit Tests 40%.

*Attendance is expected every class. No more than three absences are allowed throughout the term. Without a valid reason (i.e. a medical emergency or family problem) a fourth absence will result in failure for the term.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

When there is a need, class announcement will be provided.

【Outline (in English)】

This course is a continuation of English 2 I taught in the Spring semester. It remains as a mainly task-based course in which all four language skills are practiced. In-class activities continue with a focus on listening and speaking, and outside work is mostly assigned on reading and writing. Grammar activities are exercised with a communication-based approach. The overall goal is to assist students in acquiring critical language skills to be able to communicate at a minimal, but survivable level in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and online research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction.	Meet the instructor. Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading. Lecture #1 Excerpts from How The West Was Won (1962) and Cimarron (1931). HW Reading: The Frontier.
Week 2	The West: A Time and A Place.	Quiz # 1 Lecture #2: Excerpts from Cimarron. "Black Hats" vs "White hats." HW: Make sure you have a means of organizing your notes.

Week 3 East vs West.

Quiz #2

Lecture #3: The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier. Part One of Stagecoach.

HW Reading: John Ford's Stagecoach.

Quiz #3

Lecture #4 On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts.

HW Reading: The Timeless Wickedness of Ellsworth H. Gatewood.

Quiz #4

Lecture #5: Excerpts from Stagecoach: The search for redemption.

HW: Establish a clear timeline of events in the film.

Quiz #5

Lecture #6: Excerpts from Stagecoach: Final Confrontations.

HW Reading: Wagon Trains of the Old West.

Quiz #6

Lecture #7: Excerpts from A Bend of The River (1952) and Wagon Master (1950).

HW Reading: Cattle Ranching and Cattle Drives.

Review and reorganize all lecture notes and quizzes. Make sure all quizzes and other work have been submitted.

Quiz # 7

Lecture #8: Excerpts from Red Rive (1948).

HW Reading: Branding, Howard Hawkes.

Quiz #8

Lecture #9: Excerpts from Red River (1948). Back to White and Black hats again.

HW Reading: The Catastrophic Situation of Texas Cattle Ranchers.

Quiz #9

Lecture #10: Excerpts from Red River (1948) "I don't want to have to kill you ..."

HW Reading: Cowboy Clothes, Coffee and Food.

Quiz #10

Lecture #11: Excerpts from Red River (1948) "Who will stop me?"

HW Reading: Wayne and Clift, Dunson and Matt.

Quiz #11

Lecture #12: The nature of Matt and Tom's relationship.

HW Reading: The Economics of Inequality.

Week 4 The Victims of Social Prejudice.

Week 5 Finding Common Ground.

Week 6 Redemption and Revenge.

Week 7 Cattle Culture in the American West.

Week 8 Comprehensive Midterm Review.

Week 9 Manifest Destiny.

Week 10 A Question of Survival.

Week 11 The Culture of Violence.

Week 12 Power struggle between Generations.

Week 13 Screening Between the Lines.

Week	Juvenile	Quiz #12
14	Delinquency and the West.	Lecture #13: Excerpts from The Left handed Gun (1958) HW Reading: The True Story of Billy The Kid.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research online. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use online dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to twelve quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and online research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Another Search for Redemption Content.	Lecture #1: Excerpts from The Gunfighter (1950). HW Reading: The Range Wars.
Week 2	The West: A Time and A Place.	Quiz #1 Lecture #2: Excerpts from Shane (1953), Seeing through the eyes of a child. HW Reading: Free Range vs The Homestead Act.
Week 3	Why Shane stays in the Valley.	Quiz #2 Lecture #3: Excerpts from Shane (1953), Another pair of eyes HW Reading: The Great Gun Debate.
Week 4	Still Another Search for Redemption.	Quiz #3 Lecture #4: Excerpts from Shane (1953), A case of murder. HW Reading: The Stump.

Week 5	The Shadow Self.	Quiz #4 Lecture #5: Excerpts from Shane (1953), When a man confronts himself. HW Reading: A very surprising ending.
Week 6	Lawless Lawmen Content.	Quiz #5 Lecture #6: Excerpts from The Westerner (1940), One Eyed Kicks (1961) and Unforgiven (1992). HW Reading: Lawmen of The Old West.
Week 7	Comprehensive Midterm Review.	Review and reorganize all lecture notes and quizzes. Make sure all quizzes and other work has been submitted.
Week 8	Law vs Lawlessness	Quiz #6 Lecture #7: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), "What kind of Community is this?" HW Reading: Cattle Ranching and Cattle Drives.
Week 9	Manifest Destiny	Quiz #7 Lecture #8: Excerpts The Man Who Shot Liberty Valance (1962), The John Ford Acting Company. HW: prepare to make a timeline of events in the film.
Week 10	A Question of Survival.	Quiz #8 Lecture #9: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), Going to school with John Ford. HW Reading: Aging Icons of the Western.
Week 11	The Culture of Violence .	Quiz #9 Lecture #10: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), "When the truth becomes legend, print the legend." HW Reading: The American Indian.
Week 12	Images of the American Indian: Stereotypes.	Quiz #10 Lecture #11: Excerpts from Cimarron (1931), Stagecoach (1939), and Drums Along The Mohawk (1939). HW Reading: Weapons and Warriors.
Week 13	Evolving Images of the American Indian: from Savagery to Nobility.	Quiz #11 Lecture #12: Excerpts from She Wore a Yellow Ribbon (1949), Winchester '73 (1950), and Broken Arrow (1950). HW Reading: Compare and Contrast films about the American Indian.
Week 14	The Evolution of John Ford and the Image of the American Indian.	Quiz #12 Lecture #13: Excerpts from The Searchers (1956), Cheyenne Autumn (1964). HW Reading: When John Ford Lost his Audience.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research online. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available online for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use online dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to twelve quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいことを相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書"Speaking of Critical Thinking"に入る前に簡単なリスニングを簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのをしっかりと読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをととして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
2	Unit 1 First Impressions	Read the unit well and do the exercises and understand it.
3	Unit 1 First Impressions	Who do you agree with, Sandy or Tamara? Why do you think they have different ideas?
4	Unit 2 Big or small	What do you think of living in a big city or a small town.
5	Unit 2 Big or small	What are the merits and the demerits of each. Where would you like to live? depending on your age?
6	Unit 3 The Good Language Learner	What is it to learn a new language? Do you think it is important to learn a new language?

7	Unit 3 The Good Language Learner	What are the pros and cons of learning a new language.
8	Unit 5 Forever Single	What is your idea on marriage? Is marriage important for every one? why?
9	Unit 5 Forever Single	What do you think about what Angela is talking about. Do you agree or disagree. Is marriage important for LGBTQ? Why?
10	Unit 7 What's for lunch	What do you think about the environment we are living in now. Is it important to talk about what we eat?
11	Unit 7 What's for lunch Preparing for the presentation	Do we think about our environment and global warming? What does SDGs mean to you. Preparing for the presentation
12	Unit 7 Preparing for the presentation.	Talk about SDGs and about Food loss and food loss. How will it affect our future.ion? Preparing for the presentation Preparing for the presentation.
13	Presentation	Presentation.
14	Exam & Summary	Exam of what was studied in the first semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2

Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka Pearson Pearson

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5 %）ディスカッション（10 %）プレゼンテーション（15 %）期末試験（70 %）計100 %とする。

なお 60 %以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their class mates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン (リアルタイム配信型) です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書 "Speaking of Critical Thinking" に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をします。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Presenting the interview done during the summer holidays.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan.
2	Unit 8 Your Online Past	How is online convenient? Is the internet necessary? Why? What are the merits and demerits of online?
3	Unit 8 Your Online Past	What do we need to be careful when we post on online? What are the problems with posting on online. Have you had any problems?
4	Unit 10 My Student Life	Now you are university students. What do you think is important in university life?

5	Unit 10 My Student Life	What are our values during university life. What do we need to do for our future in university. Is going to a university important?
6	Unit 11 International Relationships	Now we live in an international world. What is important for us to live in this international world?
7	Unit 11 International Relationships	What are the advantages and disadvantages of a international relationship?
8	Unit 12 Create Another Future	What do you think of our earth at the moment? do you think it is a livable place even in 50 years from now?
9	Unit 12 Create Another Future	What do you think of SDGs. Is it important for our future? Why do we have to take care of earth?
10	Unit12 Create Another Future Preparing for the presentation	Think about what we need for our future earth and for our children.
11	Unit 16 What makes you happy? Preparing for the presentation"	What is happiness to you? Think about the country Bhutan and what the king is doing for the people.
12	Unit 16 What makes you happy Preparing for the presentation	What are the elements of happiness. What does it mean to be happy.
13	Presentation	Presentation
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト (教科書)】

Impact Issues 2
Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka
Pearson

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点 (5%)、ディスカッション (10%)、発表等 15%、期末試験 70% 計 100% とする。なお 60% 以上を合格とする。各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them. Learning Objectives: The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their class mates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

You will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation & Getting to Know You. Unit 1. Where are you from?	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	Unit 1. Charlotte's choice	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	Unit 1. Mr and Mrs Clark and Percy	Clothes. Prepositions of place
4	Unit 2. Right Place Wrong Person	Holidays. Past simple
5	Unit 2. The story behind the photo	Prepositions of time and place: at, in, on. Past continuous
6	Unit 3. Plans and dreams	Airports. Plans & predictions
7	Unit 3. Let's meet again	Future arrangements. Verbs + prepositions
8	Unit 3. What's the word?	Defining. Paraphrasing
9	Unit 4. Fashion and shopping	Shopping. Present perfect vs. past simple
10	Unit 5. No time for anything	Time expressions. Comparative adjectives
11	Unit 5. Superlative cities	Describing a city. Superlative adjectives
12	Unit 5. How much is too much?	Health & the body. Too much, not enough
13	Unit 6. Are you a pessimist?	Predictions. Opposites
14	Unit 6. The meaning of dreaming	Review of verb forms: present, past, and future.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, and Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

* Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more partner changes and to watch the video story.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Bring an English dictionary. Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【Outline (in English)】

Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Feedback will be given online and in the classroom. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7. How to... & Being happy	Infinitive + to. Verbs + ing
2	Unit 7. Learn a language in a month	Have to, don't have to, mustn't
3	Unit 8. I don't know what to do	Advice. Should
4	Unit 8. If something can go wrong...	Confusing verbs. If + present, will + infinitive
5	Unit 9. What would you do?	Animals. If + past, would + infinitive
6	Unit 9. I've been afraid of it for years	Phobias. Present perfect+ for and since
7	Unit 9. Born to sing	Biographies. Present perfect or past simple
8	Unit 10. The mothers of invention	Passive.
9	Unit 10. Could do better	School subjects. Used to
10	Unit 11. Are you a morning person?	Phrasal verbs
11	Unit 11. What a coincidence!	So, neither. Similarities
12	Unit 12. Strange but true!	Past perfect. Verb phrases
13	Unit 12. Gossip is good for you	Reported speech. Say or tell?
14	Unit 12. The Quiz	Question types. Book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks as well as listening to the text CD.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, and Jerry Lambert. English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book with Online Practice, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring a good English dictionary.

Register for the online practice, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code. Completing these activities will sometimes be homework.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 35%

Report 10%

Quizzes 35%

Speaking test 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more chances to listen to the videos.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. Bring an English dictionary. Sign up for the online games, quizzes and download the extra audio activities for our textbook. The textbook contains the activation code.

【Outline (in English)】

Use English and express yourself.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to help students enjoy improving their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】

Students will develop the ability to more accurately and fluently express themselves, both orally and in writing.

In addition, students will develop a greater ability to match meaning and form, thereby learning to make better choices when participating in English communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students will work mostly in pairs and in small groups. Students will practise new material covered by the teacher, both in class and for homework. There will be three short presentation tasks, one performed alone, one performed with a single partner, and one performed in a small group. Feedback on all tasks will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the course
2	Hobbies; Likes and Dislikes	Mental and Material Processes. Primary Tense Present.
3	Describing Appearance and Personality	Relational Processes, Primary Tense Present
4	Speaking Test 1 - Introducing Myself Feedback and discussion.	3-Minute Presentation using the material taught hitherto. Plus Feedback and discussion.
5	The Best Day Of My Life	Material, Relational and Existential Processes; Primary Tense Past
6	What Is/Was Happening?	Introducing Secondary Tense Present
7	What Have/Had You Done?	Introducing Secondary Tense Past
8	Speaking Test 2 - Interview Role Play. Feedback and discussion	Pairwork - Interview a partner about their past, using the material taught hitherto. Plus feedback and discussion.
9	Future Plans - Certain.	Talking about Future Certainty in English. Primary Tense Present, Secondary Tense Present, Secondary Tense Future,

10	Future Plans - Uncertain	Using Primary Tense Future to discuss uncertain future plans.
11	That Must Be True!	Introducing Modal Assessment - Probability, Usuality
12	Giving Advice.	Modal Assessment - Obligation, Ability.
13	Course Overview and Final Speaking Test Preparation	We review all the material covered hitherto, and practise for the final speaking test.
14	Speaking Test 3 - Group Discussion. Feedback.	In small groups, students will have a 7-10 minute discussion, using all the material taught in this course. Plus feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

The teacher will provide his own materials.

【参考書】

There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%

Speaking Tests: 70%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM.

【None】

、

【Outline (in English)】

This course is designed to help students enjoy improving their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

JUSTIN FALKUS

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 2/Sat.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to help students continue to improve their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】

Students will continue to develop the ability to accurately and fluently express themselves, both orally and in writing.

Students will further develop the skill to match meaning with form, thereby learning to make better choices when participating in English communication.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students will work mostly in pairs and in small groups. Students will practise new material covered by the teacher, both in class and for homework. There will be several short presentation tasks, performed alone, and in small groups. Feedback on all tasks will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Introduction to the Course
2	The Important Thing is...	Information Structure and Thematic Structure
3	Introduction to English Intonation	Syllables and Rhythm.
4	Speak With Confidence!	Tone groups
5	Speaking Test 1 - Making a Speech. Feedback and discussion.	3-5 minute speech given by each student. Plus feedback and discussion
6	What Would You Do?	Practising the grammar of hypothetical situations
7	Telling A Story	Using a variety of verb tenses to tell a narrative
8	Describing People And Things	Understanding the English Nominal Group
9	Speaking Test 2 - Group Discussion. Feedback.	Students will discuss a topic for 7-10 minutes using the material covered hitherto. Plus feedback.
10	You Know What I'm Talking About!	Mastering the use of Deictics.
11	Discussion Skills - Focus on The Speaker	How speakers in a discussion can keep a conversation going.
12	Discussion Skills - Focus on The Listeners	How listeners in a discussion can keep a conversation going.

13	Put it Together!	We review and practise all the skills learned hitherto.
14	Speaking Test 3 - Group Discussion. Feedback.	Students will discuss a topic for 7-10 minutes using all the material covered in this course. Plus feedback.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students are expected to review all material covered in class, and to prepare adequately for speaking tests. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

The teacher will provide his own materials.

【参考書】

There are no particular references for this class.

【成績評価の方法と基準】

Participation: (including the timely completion of all homework assignments) 30%

Speaking Tests: 70%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

The intention at the moment is to conduct the class face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to ZOOM.

【None】

,

【Outline (in English)】

This course is designed to help students continue to improve their understanding of the language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will work individually, and with a partner and in small groups (— in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines, and possibly online on Zoom). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	explanation of class requirements/ "getting to know each other."
2	1A Are you? Can you? Did you?	Word order in questions.
3	1B The Perfect Date	simple present, describing people.
4	1C The Remake Project	present continuous.
5	1C Vermeer's "Milkmaid"	prepositions of place.
6	2A Where's my passport?	past simple past, holidays.
7	2B That's me in the picture	past continuous, prepositions of time and place.
8	2C One dark October evening	time sequencers and connectors, verb phrases.
9	4A Who does what?	present perfect, housework.
10	4B In your basket	present perfect or simple past.
11	4 B The story of the ice cream sellers	shopping.

12	4C #great weekend	adjectives ending -ed and -ing.
13	4C The history of the weekend	something/anything. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ reviewing chapters 1, 2, 4.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

In case Zoom meetings are held, a computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera will be needed. Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】

This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 2/Sat.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students will work individually, and with a partner and in small groups (— in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines, and possibly online on Zoom). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	5A Life changes	comparative adjectives and adverbs.
2	5B World Cities	superlatives.
3	5B Twelve lost wallets	describing a town or city.
4	5C How much is enough?	quantifiers, health and the body.
5	6A Think positive – or negative?	will/won't, opposite verbs. .
6	6B I'll always love you	will/won't, shall (other uses).
7	6C The meaning of dreaming	be going to (plans/predictions), present continuous (future arrangements).
8	6C Dream interpretations	review of verb forms, modifiers.
9	8B Murphy's law	if-clause, confusing verbs.
10	9A Beware of the dog.	animals and insects.
11	9A Would you know what to do?	if-clause (second conditional).

12	9B Fearof.net	present perfect + for/since, sentence stress.
13	9C Scream queens	present perfect or past simple/ biographies. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ book revision.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. English File: 4th Edition Pre-Intermediate Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. English File (4th edition): Pre-Intermediate: Workbook with Key. Oxford University Press, 2019.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

In case Zoom meetings are held, a computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera will be needed. Google Classroom will be used.

【Outline (in English)】

This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第1課	この教科書の使い方
3	第1課	第1課
4	接客コミュニケーション	単語 リスニング
4	第1課	発音 口頭練習
5	第2課	単語 リスニング
6	機内サービス	第1課小テスト 発音 口頭練習
7	第3課	単語
8	LCC と FSC	ディクテーション
8	第3課	第2課小テスト 発音 口頭練習
9	第4課	単語
9	面接重視の航空会社	ディクテーション
10	第4課	発音 口頭練習
11	第5課	第4課小テスト
	チケット販売	単語 ディクテーション

12	第5課	発音 口頭練習
13	第6課 アトラクション	第5課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

ホスピタリティ・コミュニケーション 仁科 他著 2018 年
三修社 1700 円
ISBN978-4-384-33477-7

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %
小テスト 10 %
レポート課題・発言点 20 %
平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は3回で欠席1回に換算される。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

Learning Objectives

Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.

Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第7課	秋学期の授業の進め方など
2	第7課 トラブル発生	単語 リスニング
3	第7課	発音 口頭練習
4	第8課 業界の先輩メッセージ	7課小テスト 単語 リスニング
5	第8課	発音 口頭練習
6	第9課 ホテル業務内容	単語 リスニング
7	第9課	第8課小テスト 発音 口頭練習
8	第10課 料飲部門	単語 リスニング

9	第 10 課	第 9 課小テスト 発音 口頭練習
10	第 11 課 トラブル発生	単語 リスニング
11	第 11 課	第 10 課小テスト 発音 口頭練習
12	第 12 課 ホテル業界就職活動	第 11 課小テスト 単語 リスニング
13	第 12 課 ホテル業界情報	発音 口頭練習
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

ホスピタリティ・コミュニケーション 仁科 他著 2018 年
三修社 1700 円
ISBN978-4-384-33477-7

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %
小テスト 10 %
レポート課題・発言点 20 %
平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

Learning Objectives

Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.

Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

【到達目標】

Students will develop the ability to more fluently express their opinions, knowledge and experience, both orally and in writing. In addition, this course will also assist students in acquiring more effective listening skills so as enabling students to be more competent when interacting in the English speaking world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a greater emphasis on a variety of task based activities (unit exercises, readings, discussion) and individual and group presentations. The topics will be taken from the text as well as from supplemental materials. There will also be occasional text related DVD showings with accompanying exercises, discussion, and reaction to the video.

In Week 7 and in the final class, unit tests are reviewed as well as comments and explanations given for all assignments completed.

*Please note that this is a hybrid class, meaning that we will meet some weeks on Zoom and other times in person. Please refer to Hoppii (Announcements) for details.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation.	Introduction to the class, course guidelines and student expectations.
2	Personality types and qualities.	Describing personalities; expressing likes and dislikes.
3	Relationships: turn ons and turn offs	Agreeing and disagreeing. Writing a description of a best friend.
4	Jobs and job skills.	Describing jobs; discussing the positives and negative aspects of jobs.
5	Careers of the future.	Talking about possible careers. Writing about career advantages. Student presentations.
6	Unit Test 1	Units 1&2: Listening for details, grammar review, reading comprehension.

7	Review of Unit test and introduction to Unit 3: Lend a hand	Unit test scores, comments and explanations on homework assignments (unit exercises, reports, presentations,etc.) Making, accepting, declining requests.
8	Favors; formal and informal requests.	Listening and understanding indirect requests; requests with modals, if clauses and gerunds.
9	Borrowing and lending.	Asking classmates to borrow items; lending or refusing to lend something.
10	Unit 4: What happened?	Listening and reading about unusual news stories.
11	The media; top news stories on TV, radio and online.	Writing about your own story. Create your own news stories.
12	Narrating a story; Describing events and experiences in the past.	Group presentations.
13	Units 3&4 test	Listening for details, grammar and reading.
14	Review of Semester 1	Units 3&4 test reviewed; comments and explanations on term assignments given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be weekly assignments from the text (unit exercises and readings) as well as teacher assigned tasks. Students are expected to come to class fully prepared by having completed all assignments beforehand.

The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards: Cambridge University Press 2017. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Interchange Fifth Edition Online Self-Study.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is as follows:

Oral dictation/vocabulary quizzes and Unit tests: 50%

Participation: (including *attendance and the timely completion of all homework assignments, reading and writing) 30%

Individual and small group presentations: 20%

*In principle no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

NA（新担当者のためなし）

【学生が準備すべき機器他】

The learning support system, specifically Hoppii, will be used for matters of importance relating to previous and upcoming classes (eg homework assignment reminders and clarifications).

【Outline (in English)】

This course is designed to facilitate and enable students to acquire the critical language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills are exercised with a classroom focus on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

MICHAEL F.MURPHY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world.

【到達目標】

Through textbook exercises, discussions and presentations, students will continue to develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge, and experience. There will be continued emphasis on listening and speaking as students gain greater fluency and communication skills in discussing various topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will have a minimal amount of lecture, with a strong emphasis on various task-based activities (individual, paired and group). There will be periodic group presentations on topics from the text as well as discussion and reaction to Interchange DVD showings.

In Week 8 and in the final class, unit test scores are returned; comments and explanations of assignments (written reports, presentations, etc.) are given.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Fall term.	Course objectives/ student expectations.
2	Unit 5: Expanding your horizons	Living abroad; Exercises and discussion.
3	What's the custom?	Cultural differences; traveling abroad; learning about foreign customs.
4	Crossing cultures.	Student country presentations and follow-up class reactions.
5	Unit 6: That needs fixing.	Everyday problems; problems with electronics; listening for details.
6	Consumer complaints.	Describing problems, making complaints; explaining something that needs to be done.
7	Unit 5 & 6 test	Listening for details; grammar review and reading.
8	Review of units 5 & 6 test. Introduction to Unit 7: The world we live in.	Test scores returned; comments and explanations on assignments are given.
9	Current issues.	Listening, identifying and describing environmental problems. Exercises and practice.

10	Endangered animals and places.	DVD: Endangered islands. Exercises for material comprehension and reactions.
11	Environmental solutions	Group topic presentations on various issues.
12	The past and the future. Historical events.	Talking about historical events and people; talking about the future. Exercises and practice.
13	Units 7 & 10 test.	Listening, grammar review, reading and writing (about a famous Japanese person).
14	Review of Fall term.	Units 7& 10 test scores returned; comments and explanations of all assignments (written reports, presentations, etc.) for the Fall term are given.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

There will be weekly assignments from the text (unit exercises, writing, reading) as well as teacher assigned. Students are expected to come to class fully prepared by having completed all assignments beforehand.

The standard preparatory study and review time for this class is one hour.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3, Fifth Edition. Jack C. Richards Cambridge University press, 2017. ￥ 2750

【参考書】

Interchange Fifth Edition Self- study DVD ROM Level 3.

【成績評価の方法と基準】

The grading criteria for this course is based on:

Oral dictation/vocabulary quizzes and Unit Tests: 50%

Participation: (including attendance and the timely completion of homework assignments both written and reading: 30%

Performance in individual and group presentations: 20%

*In principal, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

NA (新担当者のためなし)

【Outline (in English)】

This course is designed to facilitate in helping students acquire the necessary language skills needed to effectively communicate in today's English speaking world. All four skills (reading, writing, listening and speaking) will be practiced with a special classroom emphasis on listening and speaking.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による意思疎通や議論に参加するために必要となる基礎的技術の習得を目指します。

身近な話題や現代における問題を扱った教材に含まれる読み物や映像の情報をベースに、受講者同士が英語で自身の考えを示しながら議論し、最終的には簡単なプレゼンテーションの準備をします。

【到達目標】

- ・ある程度自分の考えを英語で伝えることができると同時に、相手の考えを英語で聞き取ることができるようにする
- ・英語のプレゼンテーションをある程度理解し、内容と構成を整理して、メモをとること (notetaking) ができる
- ・パラグラフを基本単位とするプレゼンテーションやエッセイの構成を理解し、説得力のある短い文章を作成することができる
- ・簡単なプレゼンテーションを、聞き手が理解しやすい英語で行なうことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各授業回は、教科書およびそれに付随する教材 (TED Talks) をベースに進めていきます。

・リスニング、ノートテイキング、スピーキング (発音含む)、プレゼンテーションに関するさまざまなスキルについてのコラムを、受講生に内容確認しながら説明します。

・教科書の各設問について、受講生の中から無作為に指名し、答えを回答してもらいます。

・教科書でディスカッションの指示がある場合、ペアもしくはグループでディスカッションし、その中から無作為に指名し、内容を回答してもらいます。

・ノートテイキングで作成したメモやプレゼンテーションの資料 (アウトライン、スクリプト、VA など) は課題として提出します。

・提出された課題の一部については、次の授業回で言及し、クラス全体にフィードバックします。

・グループもしくは個人での英語プレゼンテーションの機会を学期中に 2 回以上設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバス内容およびそれ以外の事項について説明する（あるいは検討する）ほか、次回以降の予習や課題についても話すので、必ず出席してください。 当然のことながら出席にカウントされます。
2	Independent Student Handbook	教科書の構成や ISH の解説
3	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 1 pp.2-8
4	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 1 アウトラインについて pp.8-11

5	Unit 1: Small Actions, Big Results	PART 2 TED Talks について pp.12-17
6	Unit 1: Small Actions, Big Results	PUT IT TOGETHER グループ発表の準備 (アウトライン) pp.18-20
7	Unit 1: Small Actions, Big Results	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
8	Unit 1: Small Actions, Big Results	Group presentations
9	Unit 2: Connecting to Nature	PART 1 pp.22-28
10	Unit 2: Connecting to Nature	PART 1 thought group と pause について pp.28-31
11	Unit 2: Connecting to Nature	PART 2 略語と記号について pp.32-37
12	Unit 2: Connecting to Nature	PUT IT TOGETHER 個人発表の準備 (アウトライン) pp.39-41
13	Unit 2: Connecting to Nature	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
14	Unit 2: Connecting to Nature	Individual presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。

授業は事前に教科書を十分予習したことを前提として進めます。教科書で正答を選ぶだけでは十分な予習とは見なされません。見慣れぬ／聞き慣れぬ語彙やフレーズは積極的に調べてノートするようにします。

語彙は必ず音声とセットで覚えるようにします。そうでないと語彙がリスニング問題にまったく役立ちません。したがって音声データの利用は必須であり、利用しているという前提で授業への参加度を評価していきます。

【テキスト (教科書)】

21st Century Communication: Listening, Speaking and Critical Thinking, Student Book 1A Split Edition (Cengage Learning, 2017), ¥ 2,360+税, 978-1-337-68859-8

授業時には、必ず紙媒体もしくは専用装置型の英和辞典もしくは英英辞典を持参して下さい (つまり Web 辞書・辞書アプリ以外)。

【参考書】

TED Talks (TED 公式サイト) : <https://www.ted.com/talks>

教科書で扱う TED Talks のフルバージョンを視聴できます。英語・日本語を含む各国語の字幕も表示可能であり、自主学習の際のリスニングの内容確認に有用です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業への取り組み) : 60%

- ・受け答えにおいて予習・復習を踏まえた発言ができているか
- ・グループやペアの活動・議論に積極的に参加し、貢献しているか
- ・明瞭かつ正確な英語の発音ができているか

提出課題 : 20%

- ・アウトライン
- ・スクリプト

・VA

・その他

プレゼンテーションの完成度 : 20%

- ・構成
 - ・英語 (正確な英語および Unit ごとに課される表現の使用)
 - ・事実に照らして妥当であり、十分な説得力をもつ内容か
 - ・聞き手の理解を助ける工夫
- 欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失いません。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ (初回授業時に説明) を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

不正について

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

課題のスケジュールをより規則的に管理します。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や補助教材の配布、その他教員とのやりとりは学習支援システムおよび大学アカウントの E メールで行なわれます。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, students will improve their skills in English (i.e. listening, writing, and speaking) through notetaking and group/individual presentations on everyday topics or current issues.

Learning Objectives:

Students are expected to master some English communication skills (speaking and listening); understand the structures and contents of presentations given in English; learn how to write logically coherent and persuasive paragraphs according to basic structures of the English essay; give well-structured presentations in plain English.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to look up unfamiliar words and phrases; listen to the audio materials on Resources page of this class in Hoppii; carefully watch the relevant videos on TED website.

Grading Criteria/Policy:

Class contribution: 60%, Assignments: 20%, Presentations: 20%. Students with four absences will be disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による意思疎通や議論に参加するために必要となる基礎的技術の習得を目指します。

身近な話題や現代における問題を扱った教材に含まれる読み物や映像の情報をベースに、受講者同士が英語で自身の考えを示しながら議論し、最終的には簡単なプレゼンテーションの準備をします。

【到達目標】

- ・ある程度自分の考えを英語で伝えることができると同時に、相手の考えを英語で聞き取ることができるようにする
- ・英語のプレゼンテーションをある程度理解し、内容と構成を整理して、メモをとること (notetaking) ができる
- ・パラグラフを基本単位とするプレゼンテーションやエッセイの構成を理解し、説得力のある短い文章を作成することができる
- ・簡単なプレゼンテーションを、聞き手が理解しやすい英語で行なうことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各授業回は、教科書およびそれに付随する教材 (TED Talks) をベースに進めていきます。

- ・リスニング、ノートテイキング、スピーキング（発音含む）、プレゼンテーションに関するさまざまなスキルについてのコラムを、受講生に内容確認しながら説明します。
- ・教科書の各設問について、受講生の中から無作為に指名し、答えを回答してもらいます。
- ・教科書でディスカッションの指示がある場合、ペアもしくはグループでディスカッションし、その中から無作為に指名し、内容を回答してもらいます。
- ・ノートテイキングで作成したメモやプレゼンテーションの資料（アウトライン、スクリプト、VA など）は課題として提出します。
- ・提出された課題の一部については、次の授業回で言及し、クラス全体にフィードバックします。
- ・グループもしくは個人での英語プレゼンテーションの機会を学期中に 2 回以上設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	今学期の授業計画について
	Unit 3: Going Places	pp.42-46
2	Unit 3: Going Places	PART 1 signpost について インデントについて listing signals について pp.46-49
3	Unit 3: Going Places	PART 1 抑揚について pp.50-51 PART 2 pp.52-54
4	Unit 3: Going Places	PART 2 pp.55-58

5	Unit 3: Going Places	PUT IT TOGETHER グループ発表の準備（アウトライン） pp.59-60
6	Unit 3: Going Places	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
7	Unit 3: Going Places	Panel discussions
8	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 1 pp.62-67
9	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 1 因果関係について 縮約形について pp.67-71
10	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 2 pp.72-76
11	Unit 4: Music, Music Everywhere	PART 2 文の簡略化について pp.75-78
12	Unit 4: Music, Music Everywhere	PUT IT TOGETHER 個人発表の準備（アウトライン） pp.79-80
13	Unit 4: Music, Music Everywhere	PUT IT TOGETHER アウトラインへのフィードバック スクリプトの準備
14	Unit 4: Music, Music Everywhere	Individual presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします。

授業は事前に教科書を十分予習したことを前提として進めます。教科書で正答を選ぶだけでは十分な予習とは見なされません。見慣れぬ／聞き慣れぬ語彙やフレーズは積極的に調べてノートするようにします。

語彙は必ず音声とセットで覚えるようにします。そうでないと語彙がリスニング問題にまったく役立ちません。したがって音声データの利用は必須であり、利用しているという前提で授業への参加度を評価していきます。

【テキスト（教科書）】

21st Century Communication: Listening, Speaking and Critical Thinking, Student Book 1A Split Edition (Cengage Learning, 2017), ¥ 2,360+税, 978-1-337-68859-8

授業時には、必ず紙媒体もしくは専用装置型の英和辞典もしくは英英辞典を持参して下さい（つまり Web 辞書・辞書アプリ以外）。

【参考書】

TED Talks (TED 公式サイト) : <https://www.ted.com/talks>

教科書で扱う TED Talks のフルバージョンを視聴できます。英語・日本語を含む各国語の字幕も表示可能であり、自主学習の際のリスニングの内容確認に有用です。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への取り組み）： 60%

- ・受け答えにおいて予習・復習を踏まえた発言ができているか
- ・グループやペアの活動・議論に積極的に参加し、貢献しているか
- ・明瞭かつ正確な英語の発音ができているか

提出課題： 20%

- ・アウトライン
- ・スクリプト

- ・VA
- ・その他

プレゼンテーションの完成度： 20%

- ・構成
- ・英語（正確な英語および Unit ごとに課される表現の使用）
- ・事実に照らして妥当であり、十分な説得力をもつ内容か
- ・聞き手の理解を助ける工夫
- 欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

不正について

各課題においてコピー、他受講者の引き写し、著作物の剽窃、機械翻訳を行なったことが発覚した場合、該当授業回の評価は取り消されます。複数回の不正が発覚した場合は、単位取得資格を停止します。複数の受講生が関与した場合、全員同様の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

課題のスケジュールをより規則的に管理します。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や補助教材の配布、その他教員とのやりとりは学習支援システムおよび大学アカウントの E メールで行なわれます。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, students will improve their skills in English (i.e. listening, writing, and speaking) through notetaking and group/individual presentations on everyday topics or current issues.

Learning Objectives:

Students are expected to master some English communication skills (speaking and listening); understand the structures and contents of presentations given in English; learn how to write logically coherent and persuasive paragraphs according to basic structures of the English essay; give well-structured presentations in plain English.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to look up unfamiliar words and phrases; listen to the audio materials on Resources page of this class in Hoppii; carefully watch the relevant videos on TED website.

Grading Criteria/Policy:

Class contribution: 60%, Assignments: 20%, Presentations: 20%. Students with four absences will be disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Andrew E. Chen

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This is an On-Demand class for 2022. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language. Homework assignments may be shared with the whole class for comprehension check and motivation. They should be considered good examples of student work and are used to further discussion. Results of quizzes and midterms will be reviewed in class. Each and every student's performance may not be addressed individually but selected and representative ones will be chosen in general. 授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	1A Who's who? Word order in questions	Common verb phrases, classroom language. Introduction to writing. Understanding process writing.

- | | | |
|---|--|--|
| ② | 1B Who knows you better?
Simple present tense | Personality adjectives, third person and plural-s. Family. Pre-Writing: gathering ideas, choosing and narrowing a topic. |
| ③ | 1C At the Moulin Rouge
Present continuous tense | Prepositions of place. The body. The structure of a paragraph: the definition and parts of a paragraph. |
| ④ | 1D The Devil's Dictionary
Defining relative clauses | Expressions for paraphrasing. The structure of a paragraph: identifying and writing topic sentences. |
| ⑤ | 2A Right place, wrong time
Simple past tense, regular and irregular verbs | Vacations, -ed endings, irregular verbs. The development of a paragraph: paragraph support and development. |
| ⑥ | 2B A moment in time
Past continuous tense | Prepositions of time and place: in, on, at. The development of a paragraph: writing concluding sentences, peer editing. |
| ⑦ | 2C Fifty years of pop music
Questions with and without auxiliaries | Question words. Pop music. Descriptive paragraphs: organizing and writing descriptive paragraphs using adjectives and prepositions. |
| ⑧ | 2D One October evening
So, because, but, although. Midterm Exam | Verb Phrases. Descriptive paragraphs: using connecting words and phrases to write a paragraph that describes a process. |
| ⑨ | 3A Where are you going?
Going to, present continuous (future arrangements) | look (for, through, etc.) Opinion paragraph: distinguishing between fact and opinion, organizing and writing paragraphs expressing opinions and arguments. |
| ⑩ | 3B The pessimist's phrase book
Will/Won't (predictions) | Opposite verbs. Opinion paragraphs: using transition words to express causality, modal expressions to make recommendations. |
| ⑪ | 3C I'll always love you
Will/ Won't (promises, offers, decisions) | Verb + back. Comparison / Contrast paragraph: organizing comparison / contrasting paragraphs. |
| ⑫ | 3D I was only dreaming
Review of Tenses: present, past, and future | Verb + prepositions. Comparison/ Contrast paragraphs: connecting words used for comparing and contrasting topics, writing advantages and disadvantages of comparison/ contrast paragraphs. |
| ⑬ | 4A From rags to riches
Present perfect(experience) + ever, never; present perfect or simple past? | Clothes. Problem/ Solution paragraphs: using real and unreal conditionals. |
| ⑭ | 4B Family conflicts
Present perfect + yet and already.
Final Exam | Verb phrases. Problem/ Solution paragraph: writing a two-paragraph paper with linking phrases. |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】

Audio Student Book, Audio Workbook, Video On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: <https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja>

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed. * For On Demand classes due to the pandemic, if students complete the assignment(s) for the week, students are counted as present. If no assignments are submitted, then students are counted as absent. For Face to Face classes in class the class format changes, students will be counted as present only if students attend the class regardless if assignments are completed or not. 出席は毎回確認します。オンライン授業に移行した際は課題を全部完成すればその授業を出席となります。未提出の場合は欠席となります。対面授業の場合は課題の提出にもかかわらず、出席した方しか出席となりません。

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」「大変だけど、やりがいのある授業でした」「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというのもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】

Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline (in English)】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Andrew E. Chen

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 2/Sat.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

【到達目標】

Students will reach a level of proficiency that enables one to engage in day-to-day conversation as one living in an English-speaking society. Students will exchange opinions, ideas, and information on academic topics and social issues.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This is an On-Demand class for 2022. Instructions and assignments will be given through Hoppii and Google Classroom. Students will receive feedback on their writing assignments and speaking tasks individually and/or collectively as a class via Hoppii and Classroom. Grammar mistakes from students' assignments will be provided on a regular basis. Students are to review and correct the mistakes. Check hoppii.hosei.ac.jp and Classroom for details. Homework assignments are marked complete or incomplete. More important assignments are given letter grades or points. Students' confidence will be developed through speaking and writing tasks. Student will further practice reading and listening skills using original materials. This four skills course is not a lecture course, and students are expected to participate actively and to demonstrate productive skills of the target language. Homework assignments may be shared with the whole class for comprehension check and motivation. They should be considered good examples of student work and are used to further discussion. Results of quizzes and midterms will be reviewed in class. Each and every student's performance may not be addressed individually but selected and representative ones will be chosen in general. 授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
①	5A Are you a party animal? Uses of the infinitive.	Verbs + infinitive. The structure of an essay: the five paragraph essay.
②	5B What makes you feel good? Uses of the -ing form.	Verbs followed by -ing. The structure of an essay: formatting an essay, writing a thesis statement.

- ③ 5C How much can you learn in a month?
Have to, don't have to, must, must not, can't.
- ④ 5D The name of the game
Expressing movement.
- ⑤ 6A If something bad can happen, it will
If + present: will + base form (first conditional)
- ⑥ 6B Never smile at a crocodile
If + past; would + base form (second conditional)
- ⑦ 6C Decisions, decisions
May/ Might (possibility)
- ⑧ 6D What should I do?
Should / Shouldn't
Midterm Exam
- ⑨ 7A Famous fears and phobias?
Present perfect + for and since
- ⑩ 7B Born to direct
Present perfect of simple past?
- ⑪ 7C I used to be a rebel
Used to
- ⑫ 7D The mothers of invention
Passive
- ⑬ 8A I hate weekends! Something, anything, nothing
8B How old is your body?
Quantifiers, too, not enough
- ⑭ 8C Waking up is hard to do
Word order of phrasal verbs.
8D "I'm Jim." "So am I."
so/ neither + auxiliaries
Final Exam
- Modifiers, a little (bit), extremely, fairly, really, etc.
Outlining an essay: the purpose of an outline, reading and outlining essays.
- Prepositions of movement, sports.
Editing thesis statements.
Identifying thesis statements in academic journals.
- Confusing verbs.
Introductions and conclusions: the purpose of an introduction, types of information in introductions.
- Animals.
Introductions and conclusions: the purpose of a conclusion, writing conclusions.
- Word building; noun formation.
Unity and coherence: the importance of unity in essay writing, editing an essay for unity.
- Get, sentence stress.
Unity and coherence: the importance of coherence in essay writing, creating coherence.
- Words related to fear.
Opinion essay responses, Editorials.
- Biographies.
Newspaper editorials and responses.
- School subjects; history, geography, etc.
Essays for Examinations. Peer Editing of essay rough drafts.
- Verbs; invent, discover, etc.
Essays for examination, graph descriptions. 2nd essay draft and peer editing, punctuation.
- Adjectives ending in -ed and -ing.
Writing timed essays.
Health and Lifestyle.
Final Essay draft: proof reading. Final essay due.
- Phrasal Verbs.
Similarities.
Return of final essays.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are to prepare for lessons before class by looking up new vocabulary and reading the reading section of each lesson. Students should review lessons by doing the grammar exercises for each lesson after class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

American English File Level 2 Student Book by Christina Latham-Koenig and Clive Oxenden, published by Oxford University Press 2nd edition 2013. ISBN: 978-0-19-477616-5. Handouts and worksheets for TV drama videos to enhance listening skills further will be provided by the instructor.

【参考書】

Audio Student Book, Audio Workbook, Video On the Street, Video Short Movies, Video Practical English: <https://elt.oup.com/student/americanenglishfile/level02/?cc=jp&selLanguage=ja>

【成績評価の方法と基準】

Attendance/Attitude/Participation/Effort 30%
Homework and Writing Assignments 30% Tests, Quizzes, and Presentations 40% Attendance is taken for every class. Two unexcused absences will affect your grade. No makeup assignments or reports will be accepted for unexcused absences. Arriving twenty minutes after class has started will be counted as an absence. Being late two times counts as one absence. In principle, no more than three absences will be allowed. * For On Demand classes due to the pandemic, if students complete the assignment(s) for the week, students are counted as present. If no assignments are submitted, then students are counted as absent. For Face to Face classes in class the class format changes, students will be counted as present only if students attend the class regardless if assignments are completed or not. 出席は毎回確認します。オンライン授業に移行した際は課題を全部完成すればその授業を出席となります。未提出の場合は欠席となります。対面授業の場合は課題の提出にもかかわらず、出席した方しか出席となりません。

【学生の意見等からの気づき】

「ちょっと話すのが早い」「すべて英語きつい」先生が非常にやさしい」「役に立つ表現を覚えられました」「課題がありすぎる」「英語でプレゼンテーションのは難しかったが、達成感があったのでやってよかった」「大変だけど、やりがいのある授業でした」「課題はけっこうあったが、先生がやさしかった」「発表することが多かったので、発表に抵抗感がなくなったからです」「先生が優しく教えて下さるので難しかったが、楽しく受講出来た」「課題によって力をつけてくださりありがたかった」「課題が多かったというのもあり、英語を読み取る力がついたことを実感した」「課題が多すぎて、内容を丁寧に理解する時間がなくなる」「毎週課題の量が多く、前期の授業の中でも一番時間を使いました」「みなさんオンデマンドになって暇だと思っているのか、信じられない量の課題を出してくる」

【学生が準備すべき機器他】

Students should access Hoppii and Google Classrooms to submit assignments, tests, and to receive evaluation and feedback for their work from the instructor. Students may be asked to submit a video for presentation and short voice recordings for oral communication tasks and pronunciation exercises.

【その他の重要事項】

The instructor is a native speaker of American English from San Francisco, California, USA. He has taught in Japan for over 20 years and has been teaching at Hosei University since 2007. Students who speak Japanese in this English language course, despite reminders to use English, do not stand a good chance to receive an S or an A+.

【Outline (in English)】

The objective of this course is to reinforce grammar patterns students acquired in the past and to introduce new patterns for oral communication and discussion. The four productive and receptive skills of speaking, listening, reading, and writing will be covered; however, the emphasis will be on speaking, writing, and discussion skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

関野 佳苗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TED Talks の動画を教材とした教科書を使用し、リスニング・スピーキング、そしてプレゼンテーション能力の養成を目指します。教科書の段階的アクティビティを通じて、語彙力やノートテイキングスキルといったインプットのための技術を身に着けるとともに、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力といった、アウトプットのための技術を身に着けていきます。

【到達目標】

ネイティブスピーカーのスピーチを理解するためのリスニング能力を身につける。

パラグラフの基本構造を理解し、自らの意見を短い文章で表現することができる。

聞き手を意識した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

前期では Unit1、Unit2、Unit4 を扱います。

授業ではまずテーマに関連した講義やインタビュー音声を通してリスニングスキルやノートテイキング能力といったインプットのためのスキルの向上を目指します（Part 1）。次に TED Talks の動画を用い、引き続きインプットのためのスキルの向上を目指しつつ、スピーチの理解を深めていきます（Part 2）。その後、教員からのフィードバックを踏まえながら、個人もしくはグループでのプレゼンテーションやディスカッションの原稿を作成します。（Put it Together）各授業では、前回の授業で提出された課題や、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方の説明および使用テキスト、TED Talks の紹介
第 2 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 1-1	数とデータを聞き取る
第 3 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 1-2	提案をする
第 4 回	Unit 1Small Actions, Big Results Part 2	トピックを強調する
第 5 回	Unit 1Put it Together グループプレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 6 回	Unit 1Put it Together 発表	原稿へのフィードバック、原稿の修正、発表
第 7 回	Unit 2Connecting to Nature Part 1	スピーカーの感情を聞き取る
第 8 回	Unit 2Connecting to Nature Part 2	視覚資料を使用する

第 9 回	Unit 2Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 10 回	Unit 2Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプト作成、発表
第 11 回	Unit4Music, Music Everywhere Part 1	理由を聞き取る
第 12 回	Unit4Music, Music Everywhere Part 2	効果的な導入を使用する
第 13 回	Unit4Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 14 回	Unit4Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプトの作成、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

準備学習：

教科書に目を通し、わからない単語や表現を調べる。

Vocabulary を行う。

復習：

次の授業に向けて、各アクティビティの回答、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。

授業の内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

21st Century Communication : Listening, Speaking, and Critical Thinking Level 1 Student Book, Cengage Language
2960 円、978-1-305-94592-0

電子辞書、もしくは紙の辞書を持参して授業に参加すること。

【参考書】

これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

- ・予習、復習を行っているか。
- ・グループワーク等に積極的に参加しているか。

プレゼンテーション（3 回） 30 %

- ・説得力のある構成、テーマに沿った内容か。
- ・文法・表現が正確な英語を使用できているか。
- ・ユニットごとのテーマを意識し、プレゼンテーションに取り入れているか。
- ・聞き手を意識したプレゼンテーションができているか。

提出課題 30 %

- ・各授業のワークシート、アウトライン、スクリプト

総合評価 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は実践的な部分を中心としていたが、今年度は段階的に考えを組み立てていくこと、そしてグループで意見を組み立てていく点に重点をおいていく。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を持参するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。

2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得できません。（公欠の基準は大学の決まりに準じます）

教員の指示なくノート PC やスマートフォンの使用があった場合、その日の授業は欠席となります。

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to develop students' listening, speaking, and basic presentation skills with TED Talks videos. Through step-by-step activities in the textbook, students will acquire basic skills for input, such as vocabulary and note-taking skills, as well as skills for output, such as critical thinking and presentation skills.

【Learning Objectives】

Students will acquire listening skills for understanding English speech.

Students will understand paragraph writing and be able to express their own opinion in short passages.

Students will be able to deliver short effective presentations in English.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Preparation:

to look through textbooks and look up unfamiliar words and expressions

to do Vocabulary

Review:

to review the answers of each activity

to check the phrases and vocabulary to express your answers correctly

to reread the textbook and prepare to ask questions if you have

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process.

Class participation(40 %), Presentation (30 %), and assignments(30 %).

Students will fail the class if his/her final grade is below 60% or he/she is absent more than four times.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

関野 佳苗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の授業に引き続き、リスニング・スピーキング、そしてプレゼンテーション能力の養成を目指します。TED Talks を教材としながら、教科書の段階的アクティビティを通じて、語彙力やノートテイキングスキルといったインプットのための技術を身に着けるとともに、クリティカルシンキング、プレゼンテーション能力といった、アウトプットのための技術を身に着けていきます。

【到達目標】

各ユニットのテーマについての語彙、ネイティブスピーカーのスピーチを理解するためのリスニング能力を身につける。
 パラグラフの基本構造を理解し、自らの意見を短い文章で表現することができる。
 聞き手を意識した短いプレゼンテーションを英語で行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業ではまずテーマに関連した講義やインタビュー音声を通してリスニングスキルやノートテイキング能力といったインプットのためのスキルの向上を目指します (Part 1)。次に TED Talks の動画を用い、引き続きインプットのためのスキルの向上を目指しつつ、スピーチの理解を深めていきます (Part 2)。その後、教員からのフィードバックを踏まえながら、個人もしくはグループでのプレゼンテーションやディスカッションの原稿を作成します。(Put it Together) 各授業では、前回の授業で提出された課題や、リアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 5 Give Thanks Part 1-1	キーワードを聞き取る
第 2 回	Unit 5 Give Thanks Part 1-2	例を挙げる
第 3 回	Unit 5 Give Thanks Part 2	ストーリーを使う
第 4 回	Unit 5 Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 5 回	Unit 5 Put it Together 発表	スクリプトへのフィードバック、 修正、発表
第 6 回	Unit 6 Tell Me Why... Part 1	推測する
第 7 回	Unit 6 Tell Me Why... Part 2	聞き手を意識する
第 8 回	Unit 6 Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン作成
第 9 回	Unit 6 Put it Together 発表	アウトラインへのフィードバック、スクリプト作成、発表
第 10 回	Unit 7 The Livable City Part 1-1	問題と解決策を聞き取る

第 11 回	Unit 7 The Livable City Part 1-2	解決策を考える
第 12 回	Unit 7 The Livable City Part 2	問題と解決策を提示する
第 13 回	Unit 7 Put it Together 個人プレゼンテーションの準備	グループワークでのアイデアの精査 アウトライン・スクリプト作成
第 14 回	Unit 7 Put it Together 発表	スクリプトへのフィードバック、 修正、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

準備学習：

教科書に目を通し、わからない単語や表現を調べる。

Vocabulary を行う。

復習：

次回の授業に向けて、各アクティビティの回答、またそれを正しく表現する言い回し、語彙などを調べる。

授業の内容を踏まえて教科書を読み直す。改めて疑問や気づいた点があれば次回の授業で質問ができるようにしておく。

【テキスト（教科書）】

21st Century Communication : Listening, Speaking, and Critical Thinking Level 1 Student Book, Cengage Language 2960 円、978-1-305-94592-0

電子辞書、もしくは紙の辞書を持参して授業に参加すること。

【参考書】

これまで使用していた文法書を参考書として使用してください。ない場合は高校生レベルの文法書で構わないので手元において、わからないときに参照できるようにしておくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %

・予習、復習を行っているか。

・グループワーク等に積極的に参加しているか。

プレゼンテーション（3 回） 30 %

・説得力のある構成、テーマに沿った内容か。

・文法・表現が正確な英語を使用できているか。

・ユニットごとのテーマを意識し、プレゼンテーションに取り入れているか。

・聞き手を意識したプレゼンテーションができていないか。

提出課題 30 %

・各授業のワークシート、アウトライン、スクリプト

総合評価 60%以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

前年度は実践的な部分を中心としていたが、今年度は段階的に考えを組み立てていくこと、そしてグループで意見を組み立てていく点に重点をおいていく。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は持参するようにしてください。

【その他の重要事項】

授業開始後 30 分以降の入室は欠席とみなします。

2 回の遅刻で 1 回の欠席とします。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得できません。（公欠の基準は大学の決まりに準じます）

教員の指示なくノート PC やスマートフォンの使用があった場合、その日の授業は欠席となります。

遅延の場合には必ず証明できるものを持参してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to develop students' listening, speaking, and basic presentation skills with TED Talks videos. Through step-by-step activities in the textbook, students will acquire basic skills for input, such as vocabulary and note-taking skills, as well as skills for output, such as critical thinking and presentation skills.

【Learning Objectives】

Students will acquire listening skills for understanding English speech.

Students will understand paragraph writing and be able to express their own opinion in short passages.

Students will be able to deliver short effective presentations in English.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Preparation:

to look through textbooks and look up unfamiliar words and expressions

to do Vocabulary

Review:

to review the answers of each activity

to check the phrases and vocabulary to express your answers correctly

to reread the textbook and prepare to ask questions if you have

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process.

Class participation(40 %), Presentation (30 %), and assignments(30 %).

Students will fail the class if his/her final grade is below 60% or he/she is absent more than four times.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must either be uploaded, or printed on A4 paper before the deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editing
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form

Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which will require around 2 hours of work & must either be uploaded or printed on A4 paper, before the deadline. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will be made available online for further study & guidance.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to prepare & upload, or print reports.

【その他の重要事項】

Regular attendance is required, and a willingness to practice & improve your English writing skills, and submit assignments on time.

【Outline (in English)】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment. Issues such as sexism, racism & homophobia will be examined, while students will be introduced to new & challenging vocabulary, and be able to extensively practice their audio-visual skills.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.
3. To introduce students to new vocabulary, and offer practice in sentence structure responses

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.

Each week students will be assigned a reading passage, with both vocabulary & comprehension questions, in preparation for the following lesson. In addition, students will be required to prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10+ minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned an additional reading passage & vocabulary exercise as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Review & preview	Review the previous semester & summer vacation, explain about new semester
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Elliot 1 (The Ballet Class):	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Elliot 2 (The Private Lesson)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,

Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Elliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend approximately 1 hour on each weekly reading assignment, and 30 minutes to prepare vocabulary & review the previous lesson's material, prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since all materials will be available online, students must either download & print, or download and have ready on their laptop or tablet device, the required files before the lesson begins.

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

30% - Classroom & Homework Assignments

40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation

Student will receive feedback & guidance on each report.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will also be available online for students to review and gain further practice with the audio-visual materials.

【学生が準備すべき機器他】

Students will require a laptop or tablet device with a reliable internet connection, in order to download materials, and to prepare and either upload or print reports.

【Outline (in English)】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	What makes a good paragraph	How to write a good paragraph (topic sentences, supporting sentences and concluding sentences)
第 3 回	Peer editing	A. Select a short article from http://www.voanews.com , highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class. B. make groups for presentations selected from topic list provided by the instructor
第 4 回	differences/commonalities	Paragraph writing practice. Any academic theme acceptable. Group work on presentations
第 5 回	inside looking out	C. TED Talk, "Your Body Language May Shape Who You Are" (21:02) Q & A D. Work on presentations
第 6 回	Outline	A. Outline due for one page essay. Essay due on week 11. B. In class work on essay.

第 7 回 discussion

A. Select a short article from <http://www.japantoday.com>, highlight important points and discuss it in small groups, You must be prepared before class.
B. work on presentations

第 8 回 Peer editing

A. Peer editing on typed paragraphs
B. Group work on presentations

第 9 回 Short speeches

Short speeches on what you are most passionate about (no digital games, anime etc.)

第 10 回 TED Talk

B. Tony Robbins TED Talk, "Why We Do What We Do" (21:45)
C. Q & A

第 11 回 presentations

Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class. One page essay due.

第 12 回 presentations

2~3 group presentations + Q & A

第 13 回 get ready

2~3 group presentations + Q & A

第 14 回 conversation

active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking, listening and writing skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Group work will be aimed at facilitating discussions, and presentations are required. Finally, logically organized paragraph structure will be practiced leading to one short essay. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	Discuss what you did during your summer break.
第 2 回	Mistakes	How to avoid awkward expressions in writing and speaking https://blog.oxforddictionaries.com/2017/01/09/mistakes-learning-english/
第 3 回	Going global	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	writing	In class writing rough draft paragraph on globalization Typed paragraph due next week. Peer editing and discussion on globalization.
第 5 回	TED Talk	A. TED Talk, "The Habits of Happiness," Matthieu Ricard (20:54) B. Group work, Q & A C. Work on presentations
第 6 回	opinion	Outline due for one page essay. Essay due on week 11 In class work on essay selected from list provided by the instructor.

第 7 回 Group Discussion

A. Cultural taboos: discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.

第 8 回 Read and discuss

A. Select a short article from <http://www.japantoday.com>, highlight important points and discuss it in small groups. You must be prepared before class.

第 9 回 Short speeches

B. work on presentations
A. Bring a small and meaningful item from home and give a short speech.

第 10 回 final group

B. Work on presentations.
The entire class will be used in solidifying the presentations.

第 11 回 presentations

Groups of 4 to 5 students will give presentations. One page essay due.

第 12 回 presentations

Groups of 4 to 5 students will give presentations.

第 13 回 get ready

Group discussions selected from list provided by instructor. See

第 14 回 conversation

<https://www.fluentu.com/blog/educator-english/esl-discussion-topics-for-adults/>
active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The typed paragraphs are to be completed before coming to class unless I say differently. Late work without an official documented excuse will result in a lower grade.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
None

【参考書】

As described throughout this syllabus

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 30% Paragraphs and essay = 35% Presentations = 35%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English will result in higher participation points. required. Any form of plagiarism is unacceptable. Elaboration on this will be provided in class.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 2/Sat.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This once a week required class for first year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】

To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

There will be some lectures by the Instructor and interactive activities such as pairwork, group work, and discussion. There will be some individual presentation assignments. Any written assignments will receive feedback by the Instructor assigning a grade. For presentations, I will give verbal feedback and assign a grade for them.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introductions	Question words - Where were you born? What is your hobby?
Class 2	Getting to know you	Reading - A Blind Date, Discussion - Talking about your friends
Class 3	Whatever makes you happy	She works in comedy clubs. She makes people laugh
Class 4	Whatever makes you happy	Money - the best Things in life are free Discussion - What's important to you?
Class 5	What's in the news?	Walking the Amazon
Class 6	The flight attendant who lost his cool.	Discussion - Famous for 15 minutes
Class 7	Eat, drink, and be merry!	A couple talks about their diet.
Class 8	Unusual places to eat	People talk about their experiences eating in restaurants
Class 9	Looking forward	The girl with two families
Class 10	How does it feel to be in your twenties?	Living at home/ leaving home
Class 11	The way I see	Multicultural London
Class 12	People talk about who they like in their family	Deciding what to do in Los Angeles
Class 13	Review	Will review material that will be on a speaking exam

Class 14	Final Examination and Review	Will have short interviews with students covering the course materials
----------	------------------------------	--

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

American Headway Book 2 - Third Edition Authors - John and Liz Soars
Publisher: Oxford University Press

【参考書】

An English-Japanese Dictionary would be useful.

【成績評価の方法と基準】

Classroom participation - 40%, Midterm Exam - 30%, Final Exam - 30%

In principle, no more than three absences are allowed per semester.

【学生の意見等からの気づき】

I will consider changes.

【Outline (in English)】

To help students become more fluent in English by building their vocabulary and teaching them structures for communicative tasks such as giving opinions. The students will learn English for travel such as booking an airline ticket, making a hotel reservation, and ordering food in a restaurant.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

PATRICK M MCEVILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This once a week required class for first year students develops the range of English language skills (with an emphasis on oral communication) by applying practical communication strategies to help build on those linguistic skills learned by students in high school.

【到達目標】

To give students maximum opportunities to communicate
To build student confidence in interpersonal communication
To develop the basic study skills needed to successfully carry out their English study at this institution.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

There will be some lectures by the Instructor and interactive activities such as pairwork, group work, and discussion. There will be some individual presentation assignments. Any written assignments will receive feedback by the Instructor assigning a grade. For presentations, I will give verbal feedback and assign a grade for them.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Living History	Have you ever done anything dangerous? Family history
Class 2	Living History	Living in a stately home, The upper class and inherited wealth
Class 3	Girls and boys	An interview with Jessica Ennis, Olympic champion
Class 4	Girls and boys	Families with all boys or all girls, People talk about their families
Class 5	Time for a story	Good and evil - The strange case of Dr. Jekyll and Mr. Hyde
Class 6	Time for a story	My favorite writer - Harper Lee and Robert Louis Stevenson
Class 7	Midterm Exam	Discussion questions on Living History, Girls and boys, or Time for a story
Class 8	Our interactive world	Smartphones, On the phone - Can I speak to >>> ? I'm calling because
Class 9	Our interactive world	Five internet firsts, Modern life drives me crazy!
Class 10	Life's what you make it	Good news, bad news, Four generations of Gettys - a tragic dynasty

Class 11	Life's what you make it	Alison's life - A woman talks about her marriage, husband, and children
Class 12	Just wondering	Life, the universe, and everything
Class 13	Review	Smartphones, good news, bad news, Life and the universe
Class 14	Final Examination and Review	Discussion question on smartphones, good news, bad news, Life and the universe

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

American Headway - Book 2 - Third Edition Authors: John and Liz Soars
Publisher: Oxford University Press

【参考書】

An English-Japanese Dictionary could be useful.

【成績評価の方法と基準】

Classroom participation - 40% Midterm exam - 30% Final Exam - 30%
In principle, no more than three absences are allowed per semester.

【学生の意見等からの気づき】

I will consider changes.

【Outline (in English)】

To help students become more fluent in English by building their vocabulary and teaching them structures for communicative tasks such as giving opinions. The students will learn English for travel such as booking an airline ticket, making a hotel reservation, and ordering food in a restaurant.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

石原 紀子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using paragraph writing. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This class involves a number of highly interactive activities. Depending on the pandemic situation, class may be delivered face-to-face, online, or through combination. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information
2	Ice-breaking and class discussion	ice-breaking activity, how to participate in discussion
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
4	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
5	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary

6	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
7	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
8	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
9	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
10	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
12	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
13	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
14	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content may be distributed in the course website. Bring some loose sheets of paper for occasional writing practice.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments and writing (20%)
- 3) Weekly quizzes (60%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in special circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught as much as possible in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【その他の重要事項】

この授業では履修者同士のインタラクションを含む活動を数多く行いますので、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性があります。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知します。

【Outline (in English)】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using multiple paragraphs. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This class involves a number of highly interactive activities. Depending on the pandemic situation, class may be delivered face-to-face, online, or through combination. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking

6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Treatment of animals (Unit 11): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies

【Outline (in English)】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online (“Core Vocabulary”) before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content may be distributed in the course website. Bring some loose sheets of paper for occasional writing practice.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments and writing (20%)
- 3) Unit quizzes (60%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in special circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught as much as possible in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【その他の重要事項】

この授業では履修者同士のインタラクションを含む活動を数多く行いますので、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性があります。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知します。

LANe100LA		2	夢や願望を表現する	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 自分がしたいことを口頭で表現する。 理由を表す表現を使って自分がしたいことを英文を書く。
English 2 I				
2017 年度以降入学者				
岩崎 博				
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：金 2/Fri.2 単位数：1 単位		3	オミクロン株感染拡大を伝える映像ニュースを見る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 映像ニュースを見てオミクロン拡大の現状を知る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 th の発音を習得する。
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：		4	スポーツやレジャーについて語る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 禁止の表現を使って英会話する。 スポーツやレジャーに関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		5	地球温暖化加速を伝える映像ニュースを見る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 温暖化による永久凍土融解がさらなる温暖化を引き起こす悪循環が起きていることを知る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 /θ/と/v/の発音を習得する。
スピーチ・プレゼンテーション、ライティング、リスニングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。さらに、英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。		6	習慣を表現する	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 話題を変える表現を使って英会話をする。 頻度を表す表現を使って習慣的行為に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
【到達目標】		7	中国少子化を伝える映像ニュースを見る	一人っ子政策を廃止した中国が人口減に直面している現状とその背景を知る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 /w/の発音を習得する。
英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。		8	社会的慣習について語る	提案の表現を使って英会話する。 条件を表す表現を使って社会的慣習に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
効果的なスピーチのやり方を習得する。		9	北朝鮮ロケット発射を伝える映像ニュースを見る	バイデン政権に変わって以来、ロケット発射を繰り返す北朝鮮の意図を考える。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 /s/と/z/の発音を習得する。
英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようにする。		10	大学生活について語る	言い換えの表現を使って英会話をする。 賛成・反対を表す表現を使って大学生活に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようにする。		11	アカデミック・ライティング1（4 パラグラフからなるエッセイの構造）	自分の意見を主張する 4 パラグラフからなるエッセイの構造を理解し、エッセイプランを作成する。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようになる。		12	アカデミック・ライティング2（エッセイプランから英文作成へ）	エッセイプランから英文を作成する方法を学ぶ。 特に辞書の使い方を詳しく学習する。
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		13	文化伝統を伝える	許可を求める表現を使って英会話をする。 事物描写型の 1 パラグラフからなる英文を書く。
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3				
【授業の進め方と方法】				
①リスニングとスピーキング。授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。				
②プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。				
③ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。特にエッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。				
④フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。②は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。③に関しては、最初に作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつける。				
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes				
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No				
【授業計画】 授業形態：対面/face to face				
回	テーマ	内容		
1	授業の説明	暴徒による国会乱入事件をめぐる、ペンス前副大統領がトランプ前大統領を非難した映像ニュースを用いて、聞き取りとシャドーイングを行う。		

- 14 提出されたエッセイに 添削しコメントを添えてエッセイ
対するフィードバック を返却する。
添削・コメントというフィード
バックから、学生はエッセイライ
ティングの技法を学び直す。
学生が作成したエッセイの代表的
な間違いを辞書を活用しながら正
しく書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
ただし、スピーチの作成準備には 5 時間前後、エッセイ作成には 8 時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定個所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。

英文エッセイの作成（春学期に二度）。

【テキスト（教科書）】

『English in Tune』、Robert Hickling 他、センゲージラーニング

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。

一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。

4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。

オンライン授業では課題の提出を持って出席とする。

原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにします。

ライティングの比重を高くする。

英語で発言する機会を増やす。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。辞書を持参して下さい。

教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English.

Participants are expected to spend one hour answering assigned questions on the textbook before the class and reviewing what they have learned after the class.

Final grade will be decided based on class-participation 40 %, essays 30 % and term-end examination 30 %.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スピーチ・プレゼンテーション、ライティング、リスニングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。さらに、英語エッセイの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】

英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。

シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。

効果的なスピーチのやり方を習得する。

英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作成できるようにする。

英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようにする。

辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

①リスニングとスピーキング。授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようにすることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。

②プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。

③ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセイの基本構造を学習する。特にエッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセイを作成する。

④フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。②は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。③に関しては、最初に作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ナキウサギ絶滅危機を伝える映像ニュースを見る	絶滅が危惧されるナキウサギの映像を見て、地球温暖化が切実な問題になっていることを実感する。ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 n,m,ng の発音を習得する。

2	日本の四季を表現する	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 フィラーを効果的に使い英会話を する。 列挙の表現を使って季節を描写する 1 パラグラフからなる英文を書く。
3	オミクロン株感染拡大を伝える映像ニュースを見る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 映像ニュースを見てオミクロン拡大の現状を知る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 破裂音の発音を習得する。
4	SNS の影響力を記述する	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 自分の気持ちを伝える表現を使って英会話を。 対比・対象の表現を使って SNS に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
5	仲良しクマの悲劇を伝える映像ニュースを見る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 野生生物を餌付けすることが、極めて危険であり、自然を破壊する行為にほかならない事実を理解する。 餌付けによって「仲良し」になったクマの末路を見る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。
6	安全安心を記述する	r の発音を習得する。 過去の出来事を振り返る表現を使って英会話を。 目的を表す表現を使って安全安心に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
7	少年の拒食症を伝える映像ニュースを見る	拒食症の背景にある細さ願望について考察するとともに、ダイエットは太りやすい身体を、筋トレは太りにくい身体を作るという基本的な事実を知る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。
8	IT テクノロジーについて語る	l の発音を習得する。 明瞭化を求める表現を使って英会話を。 例示を表す表現を使って IT テクノロジーに関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
9	アジア人襲撃を伝えるニュース映像を見る	米ではコロナ感染が始まって以来、日系アメリカ人を始め、アジア人に対する殺人・暴力行為が止まらない事実を知り、その背景にある根深い人種差別について考える。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。
10	祝賀と祭りを記述する	脱落する音の発音を習得する。 予定を表す表現を使って英会話を。 日本文化固有の概念について説明する 1 パラグラフからなる英文を書く。
11	アカデミック・ライティング 1 (原因から結果へ向かうエッセイの構造)	原因から結果へ向かう 4 パラグラフからなるエッセイの構造を学び、エッセイプランを作成する。

12	アカデミック・ライティング 2 (エッセイプランから英文作成へ)	エッセイプランから英文を作成する方法を再度学ぶ。 特に辞書の使い方を再度詳しく学習する。
13	環境について語る	依頼を断る表現を使って英会話を。 結果を表す表現を使って環境問題を論じる 1 パラグラフからなる英文を書く。
14	提出されたエッセイに対するフィードバック	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。ただし、スピーチの作成準備には 5 時間前後、エッセイ作成には 8 時間前後を要す。
授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。
スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（秋学期に一度）。
英文エッセイの作成（秋学期に一度）。

【テキスト（教科書）】

『English in Tune』、Robert Hickling 他、センゲージラーニング

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。
一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。
4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。
オンライン授業では課題の提出を持って出席とする。
原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生の授業参加をもっと促す。
英会話にもっと時間を割く。
学生とのコミュニケーションをもっととる。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。
辞書を持参して下さい。
教師と学生の対話を通して、適度楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】

This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English. Participants are expected to spend one hour answering assigned questions on the textbook before the class and reviewing what they have learned after the class. Final grade will be decided based on class-participation 40 %,essays 30 % and term-end examination 30 %.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall fluency in spoken and written English. Students will learn to express themselves clearly in writing and speaking in a variety of situations and for a variety of topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course	Explanation of class requirements, tasks, goals.
	Explanation of class requirements, tasks, goals.	Vocabulary assessment
		Ice breakers
Week 2	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: vocabulary & listening	Introducing yourself
		Using used to for habitual actions
Week 3	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: reading & speaking	Asking about and explaining childhood experiences
Week 4	Unit 1 Describing the past & explaining personal information: discussion & writing	Discuss things in common with classmates
		Essential components of paragraphs
		Using English-English dictionaries
Week 5	Unit 2 Transportation and Transportation problems: vocabulary & listening	Talking about Transportation and its problems, Evaluating city services
Week 6	Unit 2 Transportation and Transportation problems: reading & speaking	Asking for and giving information, Asking indirect questions

Week 7	Unit 2 Transportation and Transportation problems: discussion & writing	Discuss cities to visit & evaluate them
		Write a paragraph on 3 problems in city
Week 8	Quiz Units 1-2	Quiz Units 1-2
	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: vocabulary & listening	Describing positive and negative features, making comparisons
Week 9	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: reading & speaking	Asking about and stating wishes. Using "too", "enough", and "as...as"
Week 10	Unit 3 Describing housing, lifestyle changes, stating wishes: discussion & writing	Comparing houses to apartments
		Compare wishes in the present time
		Write & explain 3 personal wishes
Week 11	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: vocabulary & listening	Talking about food.
		Stating likes and dislikes
Week 12	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: reading & speaking	Contrasting simple past with present perfect
		Using sequence adverbs to signal steps
Week 13	Unit 4 Explaining food, recipes, instructions: discussion & writing	Discuss experiences
		Describe how to do something
		Editing marks & peer editing
Week 14	Quiz: units 3-4	Quiz: units 3-4
	Presentation on 3 problems in a city	Presentation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%
* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline (in English)】

Course outline:

This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
- Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
- Make presentations in small groups and in front of the class.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria:

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 50%

Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer
Week 2	Unit 5 Going places: vocabulary & listening	Describing vacation plans Stating personal plans in the future
Week 3	Unit 5 Going Places: reading & speaking	Giving travel advice Explaining future plans Using modals for necessity & suggestion
Week 4	Unit 5 Going Places: reading & speaking	Discuss how to do activities Write paragraph on a process
Week 5	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: vocabulary & listening	Making requests Accepting and refusing
Week 6	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: reading & speaking	Complaining, apologizing, making excuses
Week 7	Unit 6 Complaints, requests, excuses, apologies: discussion & writing	Discuss making apologies and giving excuses Writing: 3 suggestions for handling a situation

Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 What do you use this for: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Use of technology Using infinitives of purpose	Homework 25% Class participation 15% Quizzes/Tests 50% Speech/Presentation 10%
Week 9	Unit 7 What do you use this for: reading & speaking	Using imperatives & infinitives Giving advice	
Week 10	Unit 7 What do you use this for: discussion & writing	Discuss advice for problems Write about uses for technological devices	
Week 11	Unit 8 Time to celebrate: vocabulary & listening	Describing holidays & festivals Relative clauses of time	
Week 12	Unit 8 Time to celebrate: reading & speaking	Discussing pros and cons Adverb clauses of time	
Week 13	Unit 8 Time to celebrate: discussion & writing	Discuss customs & celebrations	
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on a process	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62023-6

【参考書】

Interchange 2, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation and attendance.

Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

*In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline (in English)】

Course outline:
This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
- Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
- Make presentations in small groups and in front of the class.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria:

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. Students will develop their speaking skills by discussing issues in pairs or groups and by making presentations about topics of personal interest. Students are encouraged to express their opinions and ideas clearly in academic writing and in presentations and to apply critical thinking skills in the analysis and discussion of reading passages.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online". All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. Students will study 5 units in the textbook in the first semester. As each unit is completed, students will discuss the topics introduced in the unit with a partner or in small groups. Students will practice writing academic paragraphs and giving presentations with peer feedback. There will also be periodic quizzes on the textbook content.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class and in Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	- Course overview - Intro	- Self-introductions - Ice-breaker activity
Week 2	- Course rules - Icebreakers - Begin unit 1(A time to remember) - Simple past tens questions/answers	- Unit 1 grammar focus page3,5 - Unit 1 worksheets
Week 3	- Finish unit 1 - Describing changes - Using "(didn't) used to"	- End of unit reading p.7 - Self-study unit 1 - Writing 1 paragraph on 3 ways that you have changed

Week 4	- Unit 2 (Caught in the rush) - Opinion statements with adverbs of quantity - Giving opinions on public transportation	Unit 2 grammar focus (p. 9, 11)
Week 5	- Unit 2 Asking indirect questions - Mentioning advantages/disadvantages	- Unit 2 worksheets - Write 1 paragraph 3 problems in your city - Self-study unit 2 - Review units 1-2 for quiz
Week 6	- Quiz unit 1- 2 - Introduce Unit 3 vocabulary and grammar	- Unit 3 grammar focus p.17 - Presentation # 1
Week 7	- Give presentation 1 - Unit 3 (Time for a Change) - Evaluating & comparing housing	- Strategies for presentations - Peer feedback
Week 8	- Introduce Unit 4 (I've never heard of that) - Talking about experiences - Using the simple past and present perfect	- Unit 4 grammar focus P.23 - Review for Unit 4 quiz
Week 9	- Unit 4 Describing steps in a process - Using sequence adverbs - Ordering events in a process	- Unit 4 worksheets - Unit 4 reading p.27 - Self-study unit 4 - Unit 4 grammar focus p. 25 - Writing- 1 paragraph on 5-step process
Week 10	- Presentation #2 (5 step process) - Quiz unit 3-4 - Introduce unit 5 vocabulary and grammar	Unit 5 grammar focus p. 31, 33
Week 11	- Unit 5 (Going places) - Talking about the future will/be going to - Talking about plans	- Unit 5 reading p. 35 - Self-study unit 5 - Research: Advice (3 suggestions) for situation*
Week 12	- Explain advice in class - Describing necessity and giving suggestions	Prepare for discussion on travel destination
Week 13	- Quiz unit 5 - Group discussion: travel destination	Prepare for presentation #2
Week 14	Final presentations	- Peer feedback - Course review - Final comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The first class will be "online". All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. Active participation is essential. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Assignments will be submitted in Google Classroom with feedback online and in the next class.

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Student's Book, Richards 5th ed. ISBN:978-1-316-62023-6

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

30% Weekly homework and paragraph assignment

20% Two Presentations

30% Quizzes/tests

* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

In this course, students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study academic writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

【到達目標】

The goal of this course is to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. Students will develop speaking skills by discussing issues in pairs or groups and by making presentations about topics of personal interest. Students are encouraged to express their opinions and ideas clearly in academic writing and in presentations and to apply critical thinking skills in the analysis and discussion of reading passages.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online". All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. Students will study 5 units in the textbook in the second semester. As each unit is completed, students will discuss the topics introduced in the unit with a partner or in small groups. Students will practice writing academic paragraphs and giving presentations with peer feedback. There will also be periodic quizzes on the textbook content. Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class and in Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	- Ice breakers: - Summer break - Introduce Unit 4 (I've never heard of that) - Talking about experiences - Using the simple past and Present perfect	- Unit 4 grammar focus P.23 - Review for Unit 4 quiz
Week 2	- Unit 4 Describing steps in a process - Using sequence adverbs - Ordering events in a process	- Unit 4 reading - Self-study unit 4 - Unit 4 grammar focus p. 25 - Writing- 1 paragraph on 5-step process
Week 3	- Quiz unit 3-4 - Introduce unit 5 vocabulary and grammar	Unit 5 grammar focus p. 31, 33

Week 4	- Unit 5 (Going places) - Talking about the future will/be going to - Talking about plans	- Unit 5 reading p. 35 - Self-study unit 5 - Research: Prepare for presentation (5-step process)
Week 5	- Presentation #1(5 step process) - Explain advice in class - Introduce unit 6	Unit 6 grammar focus p 37,39
Week 6	- Unit 6 (OK no problem) - Using phrasal verbs - Making polite requests with "would" "mind"	Unit 6 reading p. 41 Self-study unit 6
Week 7	Quiz unit 5-6	Unit 7 grammar focus page45,47
Week 8	- Begin unit 7 (What's this for?) - Infinitives and gerunds of purpose	- End of unit reading p.49 - Self-study unit 7 - Writing 1 paragraph: Advice on how to use cell phone, scooter, or computer
Week 9	- Finish unit 7 - Giving suggestions on how to use Sth. - Using "(didn't) used to"	Unit 8 grammar focus p. 51, 54
Week 10	- Presentation 1: Explain how to use Sth - Unit 8 (Let's Celebrate) - Relative clauses of time to describe holidays - Explaining holidays and foreign customs	- Self-study unit 8 - Review units 7-8 for quiz
Week 11	- Presentation #2(Advice) - Unit 8 using adverb time clauses - Explaining how to celebrate holidays	- Write 1 paragraph on a holiday or festival - Unit 9 grammar focus p.59
Week 12	- Quiz unit 7- 8 - Introduce Unit 9 vocabulary and grammar - Describing change	Prepare for final presentation
Week 13	- Unit 9 (Back to the future) - Conditional sentences/future consequences - Final presentations	Prepare for final presentation
Week 14	Final presentations	Peer Feedback Course Review Final Comments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The first class will be "online". All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. Active participation is essential. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Assignments will be submitted in Google Classroom with feedback online and in the next class.

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2 Student's Book , Richards 5th ed. ISBN: 978-1-316-62023-6

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

30% Weekly homework and paragraph assignment

20% Two presentations

30% Quizzes/tests

* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

In this course, students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木 真奈美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17
5	Units 3-4	pp.18-25

6	Preparation for Debates	You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Units 5-6 Preparation for a Group Presentation	pp.26-33 You will prepare for a group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Units 7-8	pp.34-41
13	Units 9-10	pp.42-49
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
- 2) to watch or listen to an English program regularly.

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鈴木 真奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.
5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.

6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
10	Presentation	You will make a presentation.
11	Presentation	You will continue to make a presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
- 2) to watch or listen to an English program regularly.

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (50%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生によるグループワークや発表の時間も設ける。

質問は授業内か授業前後に適宜回答する。課題に関するフィードバックは授業内容に含む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明 教科書 Unit1 の導入
第 2 回	Unit1-1	Job Interview (1) テキストを元に別れの挨拶を学び 実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit2-1	First Day on the Job (1) テキストを元に依頼の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 4 回	Unit2-2	First Day on the Job (2) 助動詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit3-1	Hurricane on the Weekend (1) テキストを元に反論の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 6 回	Unit3-2	Hurricane on the Weekend (2) 関係代名詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 7 回	Unit4-1	Andy's Makeover (1) テキストを元に困惑の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 8 回	Unit4-2	Andy's Makeover (2) 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 9 回	Group work 1	グループワーク① リサーチ
第 10 回	Group work 2	グループワーク② 発表の準備
第 11 回	Presentation	グループワーク③ 発表
第 12 回	Unit5-1	Andy Meets Christian (1) 聞き返す表現を学び実際に使う訓練を行う

第 13 回 Unit5-2	Andy Meets Christian (2) 助動詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 14 回 期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
テキストを事前に読み課された宿題を行う。
授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。
課題の制作や準備。

【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の宿題・授業への貢献度（30%）
グループワーク・発表（30%）
期末試験（40%）
欠席 4 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The aim of this course is to help students develop their skills of listening, speaking and writing. Throughout researching and presentation, students also practice articulating their opinions in English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to develop skills of listening and writing, and to be able to make a presentation in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Group work and presentation: 30%, in class contribution: 30%

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生によるグループワークや発表の時間も設ける。

質問は授業内か授業前後に適宜回答する。課題に関するフィードバックは授業内容に含む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 Unit6-1		春学期テストのフィードバック Unit6 導入 テキストを元に希望を伝える表現を学び実際に使う訓練を行う
第 2 回 Unit6-2		Miranda's Request 分詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 3 回 Unit7-1		Nate's Birthday (1) テキストを元に驚きを示す表現を学び実際に使う訓練を行う
第 4 回 Unit7-2		Nate's Birthday (2) 仮定法の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 5 回 Unit8-1		Andy's Decision (1) テキストを元に確認する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 6 回 Unit8-2		Andy's Decision (2) 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 7 回 Unit9-1		Break up with Nate (1) テキストを元に提案する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 8 回 Unit9-2		Break up with Nate (2) 動名詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 9 回 Group work 1		グループワーク① リサーチ
第 10 回 Group work 2		グループワーク② 発表準備
第 11 回 Presentation		グループワーク③ 発表

第 12 回 Unit10-1	The Dream Job (1) テキストを元に意思・予定を述べる表現を学び実際に使う訓練を行う
第 13 回 Unit10-2	The Dream Job (2) 受動態の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 14 回 期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
テキストを事前に読み課された宿題をする。
授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。
課題の制作や発表準備。

【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編『『ブラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の宿題・課題（30%）

中間課題（30%）

期末試験（40%）

欠席が 4 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】 【Course Outline】

The aim of this course is to help students develop their skills of listening, speaking and writing. Throughout researching and presentation, students also practice articulating their opinions in English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to develop skills of listening, writing and speaking, and to be able to make a presentation in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Group work and presentation: 30%, in class contribution: 30%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society

【到達目標】

Students will practice and improve proficiency in all four language skills: Listening, Speaking, Reading, and Writing. How much students improve is dependent on how hard they apply themselves inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

NOTE: For the month of April classes will be conducted ONLINE.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work
3	Unit 1 Video: Another Country	Video Worksheet activities. Paragraph Writing & assignment explanation.
4	Unit 2: The Way we Live	Writing assignment due. Reading and pair work: Practice asking questions.
5	Writing Improvement Instruction	Common grammar and preposition mistakes.
6	Unit 2 Video: New York City's Park in the Sky	Video listening practice; worksheet questions and research assignment
7	Location Research report/ mini-Presentations	Quiz on Units 1-2 vocabulary and grammar.
8	Unit 3: What Happened Next?	Practice past simple (questions and answers) in pair and group activities.

9	Unit 3: Telling a story & Video	Past tense practice. The Titanic video listening practice. Worksheet assignment.
10	Titanic research report	Students report research on video from previous week. Explanation of Song Journal activity.
11	Unit 4: The Marketplace	Reading comprehension and practice using “how much/many”.
12	Unit 4 Pt. II	Song Journal writing due. Activities — using polite language. Explanation of how to give effective presentations.
13	Song Journal Presentations	Student give mini-presentations on song journal content; Q & A
14	Mini-presentations II.	Final quiz on Units 3 & 4. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. Students should also practice listening with the CD-Rom provided in the text. More detailed explanation will be given during the class period.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars: American Headway Level 2 (3rd edition). Oxford University Press

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, writing assignments, presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More attention in class will be paid to how to write logical, coherent, and grammatically correct paragraphs and essays in English.

【学生が準備すべき機器他】

Students must have a working computer and wifi connection for online classes.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week.

Coming late to class twice = one absence (except for a good reason, like late trains, etc.)

【Outline (in English)】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning and Using English for Global Communication: This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in basic English.

【到達目標】

Students will improve in all four language skills: listening, speaking, reading and writing. How much they improve depends on how hard they work in and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and homework.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 5: What Do You Want to Do?	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports.
2	Unit 5: Future Activities	Future tense practice—questions and answers in pair and group work.
3	Unit 5 video: A Green City for the Future	Video Worksheet activities and discussion. Assign research.
4	Energy and Conservation Reports	Students report on research. Begin Unit 6: Places and Things
5	Unit 6: What's it Like?	Practice on describing family with instruction on how to write an essay.
6	Unit 6: My family—similarities and differences	Essays due. Unit 6 reading assignment and pair/group activities. Role play textbook dialogue.
7	Writing Instruction; Video: Scotland	Essay writing feedback; Video Worksheet activities, research assignment.
8	Unit 6 Report and Wrap-up	Quiz on Units 5 & 6. Pair presentation assignment: Interview and Country Report.

9	Countries & Culture	Instruction on giving effective presentations. Begin Unit 7: The World of Work! Present perfect and past simple practice.
10	Student Country Presentations	Speaking and listening practice. Q & A.
11	Unit 7: Careers and Jobs	Textbook Reading activities Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 7 Video: Two Famous Firsts	Video worksheet and supplemental activities; final essay assignment.
13	Unit 8: Do's and Don't's	Final Essay Due; practice giving advice (have to/should)
14	Units 7-8 Review and Wrap-up.	Return final essays. Quiz on Units 7 & 8.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to work/read ahead in the text by doing the readings and completing the activities assigned. Other homework assignments will be assigned in class.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars. American Headway 2 (3rd Edition).

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, short essays, individual and group presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More instruction will be provided on how to write short position statements and essays, as well as how to improve presentation skills.

【その他の重要事項】

In principle students are permitted up to 3 unexcused absences during the semester. Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason—such as train delays, etc)

【Outline (in English)】

While attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and so we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will also be given various writing assignments throughout the semester to practice expressing themselves in writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and online research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction.	Meet the instructor. Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading. Lecture #1 Excerpts from How The West Was Won (1962) and Cimarron (1931). HW Reading: The Frontier.
Week 2	The West: A Time and A Place.	Quiz # 1 Lecture #2: Excerpts from Cimarron. "Black Hats" vs "White hats." HW: Make sure you have a means of organizing your notes.

Week 3	East vs West.	Quiz #2 Lecture #3: The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier. Part One of Stagecoach. HW Reading: John Ford's Stagecoach.
Week 4	The Victims of Social Prejudice.	Quiz #3 Lecture #4 On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts. HW Reading: The Timeless Wickedness of Ellsworth H. Gatewood.
Week 5	Finding Common Ground.	Quiz #4 Lecture #5: Excerpts from Stagecoach: The search for redemption. HW: Establish a clear timeline of events in the film.
Week 6	Redemption and Revenge.	Quiz #5 Lecture #6: Excerpts from Stagecoach: Final Confrontations. HW Reading: Wagon Trains of the Old West.
Week 7	Cattle Culture in the American West.	Quiz #6 Lecture #7: Excerpts from A Bend of The River (1952) and Wagon Master (1950). HW Reading: Cattle Ranching and Cattle Drives.
Week 8	Comprehensive Midterm Review.	Review and reorganize all lecture notes and quizzes. Make sure all quizzes and other work have been submitted.
Week 9	Manifest Destiny.	Quiz # 7 Lecture #8: Excerpts from Red Rive (1948). HW Reading: Branding, Howard Hawkes.
Week 10	A Question of Survival.	Quiz #8 Lecture #9: Excerpts from Red River (1948). Back to White and Black hats again. HW Reading: The Catastrophic Situation of Texas Cattle Ranchers.
Week 11	The Culture of Violence.	Quiz #9 Lecture #10: Excerpts from Red River (1948) "I don't want to have to kill you ..." HW Reading: Cowboy Clothes, Coffee and Food.
Week 12	Power struggle between Generations.	Quiz #10 Lecture #11: Excerpts from Red River (1948) "Who will stop me?" HW Reading: Wayne and Clift, Dunson and Matt.
Week 13	Screening Between the Lines.	Quiz #11 Lecture #12: The nature of Matt and Tom's relationship. HW Reading: The Economics of Inequality.

Week 14	Juvenile Delinquency and the West.	Quiz #12 Lecture #13: Excerpts from The Left handed Gun (1958) HW Reading: The True Story of Billy The Kid.
---------	------------------------------------	---

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research online. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use online dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to twelve quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and online research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Another Search for Redemption Content.	Lecture #1: Excerpts from The Gunfighter (1950). HW Reading: The Range Wars.
Week 2	The West: A Time and A Place.	Quiz #1 Lecture #2: Excerpts from Shane (1953), Seeing through the eyes of a child. HW Reading: Free Range vs The Homestead Act.
Week 3	Why Shane stays in the Valley.	Quiz #2 Lecture #3: Excerpts from Shane (1953), Another pair of eyes HW Reading: The Great Gun Debate.
Week 4	Still Another Search for Redemption.	Quiz #3 Lecture #4: Excerpts from Shane (1953), A case of murder. HW Reading: The Stump.

Week 5 The Shadow Self.

Quiz #4

Lecture #5: Excerpts from Shane (1953), When a man confronts himself.

HW Reading: A very surprising ending.

Week 6 Lawless Lawmen Content.

Quiz #5

Lecture #6: Excerpts from The Westerner (1940), One Eyed Kicks (1961) and Unforgiven (1992).

HW Reading: Lawmen of The Old West.

Week 7 Comprehensive Midterm Review.

Review and reorganize all lecture notes and quizzes. Make sure all quizzes and other work has been submitted.

Week 8 Law vs Lawlessness

Quiz #6

Lecture #7: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), "What kind of Community is this?"

HW Reading: Cattle Ranching and Cattle Drives.

Week 9 Manifest Destiny

Quiz #7

Lecture #8: Excerpts The Man Who Shot Liberty Valance (1962), The John Ford Acting Company.

HW: prepare to make a timeline of events in the film.

Week 10 A Question of Survival.

Quiz #8

Lecture #9: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), Going to school with John Ford.

HW Reading: Aging Icons of the Western.

Week 11 The Culture of Violence .

Quiz #9

Lecture #10: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), "When the truth becomes legend, print the legend."

HW Reading: The American Indian.

Week 12 Images of the American Indian: Stereotypes.

Quiz #10

Lecture #11: Excerpts from Cimarron (1931), Stagecoach (1939), and Drums Along The Mohawk (1939).

HW Reading: Weapons and Warriors.

Week 13 Evolving Images of the American Indian: from Savagery to Nobility.

Quiz #11

Lecture #12: Excerpts from She Wore a Yellow Ribbon (1949), Winchester '73(1950), and Broken Arrow (1950).
HW Reading: Compare and Contrast films about the American Indian.

Week 14 The Evolution of John Ford and the Image of the American Indian.

Quiz #12

Lecture #13: Excerpts from The Searchers (1956), Cheyenne Autumn (1964).
HW Reading: When John Ford Lost his Audience.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research online. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available online for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use online dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to twelve quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

近藤 隆子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミック・エッセイ、論文のアブストラクト、プレゼンテーションのスクリプトとスライドの書き方について扱う英語教材を通して、アカデミック・ライティングのスキルを養う。具体的には、自分の知識、経験、意見をフォーマルな英語で効果的に表現する力を育成する。また、自分の考えを的確に伝えるために必要な語彙や表現も学習する。

【到達目標】

- ・論理的構成をもつパラグラフを英語で書けるようになる
- ・英語で自分の意見を表現したり、グループでディスカッションする力を身につける
- ・他の学生の英語を聴いて理解し、質問できるようになる
- ・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生は予習として教科書の指定された箇所を読み、問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って、エッセイを書くために必要な技法と語彙について説明していきます。ペアワーク・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、それぞれの意見を交換したり、英語でディスカッションをしてもらいます。課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	Unit 1 Key Features of Academic Essay	エッセイの重要な特徴について学ぶ
第 3 回	Unit 2 Title of Your Essay	タイトルの決定について学ぶ
第 4 回	Unit 3 Introduction of Your Essay	イントロダクションの役割について学ぶ
第 5 回	Unit 4 Body of Your Essay	ボディの構造について学ぶ
第 6 回	Unit 5 Conclusion of Your Essay	コンクルージョンのまとめ方について学ぶ
第 7 回	Unit 6-1 Feedback from Others	フィードバックの方法について学ぶ
第 8 回	Unit 6-2 Feedback from Others	フィードバックに挑戦する
第 9 回	Unit 7-1 Submitting Your Final Draft	エッセイの最終原稿提出に必要なプロセスを学ぶ
第 10 回	Unit 7-2 Submitting Your Final Draft	エッセイの最終原稿を提出する
第 11 回	筆記試験	試験・解説
第 12 回	Essay writing 1	様々なトピックに関するエッセイを書き、クラスメートにピア・レビューをしてもらったものを最終原稿に仕上げる

- 第 13 回 Essay writing 2 様々なトピックに関するエッセイを書き、クラスメートにピア・レビューをしてもらったものを最終原稿に仕上げる
- 第 14 回 Semester review 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員の指示に従って教科書の指定範囲を予習する。

・ Warm-up Reading を読み、Comprehension Check をする
・ Put It into Practice で Organization（文の構成）、Language（言語表現スタイル）、Content（伝達する内容）について読み、練習問題をする

・ Do It Yourself で各章で取り上げた技法を練習する
課題が出された場合は、期限までに解答したうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Akiko Miyama, Mitsuko Yukishige, Tomoko Onabe, Junko Murao & Ashley Moore. "3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language" 金星堂、2019 年、2000 円（税別）

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業への貢献（グループ／ペアワークへの参加）30 %、課題 20 %、エッセイ 20 %、筆記試験 30 % で評価します。
特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。
また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・ 初回の授業に出席してください
- ・ 授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
- ・ 積極的に授業に参加することが求められます
- ・ 授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
- ・ 遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students develop their academic writing skills using a textbook that deals with how to write academic essays, abstracts, presentation scripts and slides in English. It will also help students learn the vocabulary and expressions necessary to accurately convey their thoughts.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Students should be able to write logically organized paragraphs
- Students should be able to effectively participate in and facilitate discussions
- Students should acquire effective listening skills
- Students should be able to use dictionaries effectively

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on examination (30%), paragraphs and essay (20%), homework assignments (20%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

近藤 隆子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミック・エッセイ、論文のアブストラクト、プレゼンテーションのスク립トとスライドの書き方について扱う英語教材を通して、アカデミック・ライティングのスキルを養う。具体的には、自分の知識、経験、意見をフォーマルな英語で効果的に表現する力を育成する。また、自分の考えを的確に伝えるために必要な語彙や表現も学習する。

【到達目標】

- ・ 論理的構成をもつパラグラフを英語で書けるようになる
- ・ 英語で自分の意見を表現したり、グループでディスカッションする力を身につける
- ・ 効果的なプレゼンテーションを行うための知識を身につける
- ・ 他の学生の英語を聴いて理解し、質問できるようになる
- ・ 英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生は予習として教科書の指定された箇所を読み、問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って、アブストラクトやプレゼンテーションのスク립ト・スライドを書くために必要な技法と語彙について説明していきます。ペアワーク・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、それぞれの意見を交換したり、英語でプレゼンテーションやディスカッションをしてもらいます。
課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、春学期の復習	授業の概要説明、春学期に学んだエッセイの書き方について復習する
第 2 回	Unit 8 Structure of a Research Paper	リサーチ・ペーパーの構造とイントロダクションについて学ぶ
第 3 回	Unit 9 Key Concepts of an Abstract	アブストラクトの重要な特徴について学ぶ
第 4 回	Unit 10 First Draft of Your Abstract	アブストラクトの草案を書く
第 5 回	Unit 11-1 Rewriting Your Abstract	アブストラクトの最終原稿を仕上げる
第 6 回	Unit 11-2 Rewriting Your Abstract	クラスメートとアブストラクトのピア・レビューをしてみよう
第 7 回	Unit 12 Key Concepts of Presentations	プレゼンテーションの基本的特徴について学ぶ
第 8 回	Unit 13 Preparing Visual Aids	視覚資料を作成する
第 9 回	Unit 14 Finishing Your Scripts	発表原稿を完成させる
第 10 回	Unit 15 Evaluating Your Presentation	プレゼンテーションの評価の仕方を学ぶ

第 11 回	筆記試験	試験
第 12 回	プレゼンテーションの準備	筆記試験の解説、グループでのプレゼンテーションの練習
第 13 回	プレゼンテーション (1)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
第 14 回	プレゼンテーション (2)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員の指示に従って教科書の指定範囲を予習する。

- ・ Warm-up Reading を読み、Comprehension Check をする
- ・ Put It into Practice で Organization（文の構成）、Language（言語表現スタイル）、Content（伝達する内容）について読み、練習問題をする
- ・ Do It Yourself で各章で取り上げた技法を練習する

課題が出された場合は、期限までに解答したうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Akiko Miyama, Mitsuko Yukishige, Tomoko Onabe, Junko Murao & Ashley Moore. "3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language" 金星堂、2019 年、2000 円（税別）

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業への貢献（グループ／ペアワークへの参加）30 %、課題 20 %、プレゼンテーション 20 %、筆記試験 30 % で評価します。特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・ 初回の授業に出席してください
- ・ 授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
- ・ 積極的に授業に参加することが求められます
- ・ 授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
- ・ 遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students develop their academic writing skills using a textbook that deals with how to write academic essays, abstracts, presentation scripts and slides in English. It will also help students learn the vocabulary and expressions necessary to accurately convey their thoughts.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Students should be able to write logically organized paragraphs
- Students should be able to effectively participate in and facilitate discussions and give presentations
- Students should acquire effective listening skills
- Students should be able to use dictionaries effectively

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on examination (30%), presentations (20%), homework assignments (20%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings, writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2, readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3, readings, Quiz #2 Writing assignment #2: Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4, readings, Quiz #3 Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5 , readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6 , readings, Quiz #5 Writing assignment #4 Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows . Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7 , readings , Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading , Quiz # 7 Writing assignment #5 concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading , Quiz # 8 Writing assignment # 6 . Writing a whole paragraph .
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading , Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12 , readings, Quiz #11 Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
 There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
 University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will be emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answer questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1, readings, Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2, readings, Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus, fire and blasphemy	Transcript of lecture #3, readings, Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6, readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7, readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8, readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings, Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings, Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula, Dracula Curse of the Werewolf, Frankenstein, Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11, readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror, sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Robert D. Hinton

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

At the beginning of each class, feedback for the previous class will be given in the form of comments on submitted assignments. In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	Personality scales survey	Brainstorming and learning about New York City
Week 4	Personality presentation	Student presentations
Week 5	American justice system	A study of judges and courts in USA
Week 6	Crime and punishment	Students will decide what punishments are appropriate for crimes
Week 7	survival in nature	Students will take a survival quiz
Week 8	Survival in society	Techniques for surviving
Week 9	Survival in differing environments	Dealing with culture shock
Week 10	Learning about Tokyo	Students will discover areas of interest in Tokyo
Week 11	Tokyo critique presentation	Student presentations

Week 12	Group work for study of the culture of a foreign country	Students will do research about the culture/society of a foreign country and create a poster
Week 13	Poster presentation session	Student presentations
Week 14	Poster presentation session	Student presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). No more than three absences will be permitted.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline (in English)】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Robert D. Hinton

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

At the beginning of each class, feedback for the previous class will be given in the form of comments on submitted assignments. In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	American icon - Oprah Winfrey	Information search about this icon
Week 4	Oprah Winfrey - a biography of success	Students will learn more about this Oprah and start their research project
Week 5	Icon research project	Student will prepare for presentations, peer feedback
Week 6	Icon presentations	Student presentations
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Race relations in USA	Students will learn about different ethnic groups in USA
Week 11	Stereotyping	How stereotyping occurs and related issue
Week 12	Culture differences	Students will do a simulation activity
Week 13	Mass media	How stereotyping occurs and related issue

Week 14 Commercials Students will evaluate the appeal of commercials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). No more than three absences will be permitted.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline (in English)】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を繰り返し行います。また関心の高いトピックについて、プレゼンテーションを行う練習をします。こうした練習を通して「聴く力」を育成することも目的のひとつです。

【到達目標】

この授業は以下の4つを到達目標とします：

- ①日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識、経験、意見を効果的に口頭および文章で表現することができる
- ②英語でプレゼンテーションを効果的に行うことができる
- ③効果的に、英語を聞き取り、意味をつかむことができる
- ④パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) に留意し、論理的構成をもつパラグラフを書くことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

以下の3つの活動を中心に毎回の授業を行います。

- ①スピーキングに重点を置いたテキストを用いた英語表現の習得と会話の練習（リスニングの練習を含む）
- ②自分の知識、経験、意見を書く練習（小エッセイを複数回提出。提出されたエッセイは添削・コメントして返却します）
- ③学期後半に授業内で行うプレゼンテーション大会のための準備
いずれも講師の指示した予習・準備をしていることを前提に授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明
2	・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブサイトやアプリ ・ケースの紹介	PC を利用した演習
3	テキスト Unit1-1・2 プレゼンのトピックを考える①	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
4	テキスト Unit1-3・4 プレゼンのトピックを考える②	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備
5	テキスト Unit1-5 プレゼンの構成を考える①	テキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 プレゼンテーション大会のための準備

6	テキスト Unit2-1・2 プレゼンの構成を考える②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
7	テキスト Unit2-3・4 プレゼンの台本を書く①	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
8	テキスト Unit2-5 プレゼンの台本を書く②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
9	中間テスト	試験の実施、解説、復習
10	テキスト Unit3-1・2 プレゼンのビジュアル・エイドを作る①	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
11	テキスト Unit3-3・4 プレゼンのビジュアル・エイドを作る②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
12	テキスト Unit3-5 プレゼンの練習をする	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
13	プレゼンテーション①	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
14	プレゼンテーション②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, Kathryn O'Dell. Evolve Level 3 Student's Book with Online Practice
(Cambridge University Press ¥ 3,000)

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献（グループ／ペアワークへの参加）10%、課題への取り組み 20%、中間試験 35%、プレゼンテーション 35%で評価します。
欠席回数が 4 回以上で単位取得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

引き続きプレゼンテーションの準備は少しずつ丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

PC やスマートフォンを持参してもらいます。

【Outline (in English)】

・ Course Outline and Learning Objectives

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

・ Learning Activities Outside of Classroom

The following three activities will be the focus of each class, and students will need to prepare for them.

- 1) English expression and conversation practice using texts with an emphasis on speaking (including listening practice)
- 2) Practice writing about your own knowledge, experiences, and opinions (multiple submissions of small essays)
- 3) Preparation for the presentation contest

・ Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, assignment work: 20%, mid-term exam: 35%, presentation: 35%. If you are absent more than 4 times, you will not be able to receive credit.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、English2 I で学んだことを発展させ、日常生活や現代社会に関するやや難易度の高いトピックについての自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のParagraphを書く練習を行い、最終的には複数のParagraphからなる短いレポートを書けるようにします。また関心の高いトピックについて、プレゼンテーションを行う練習をします。こうした練習を通して「聴く力」を育成することも目的のひとつです。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします:

- ①日常生活や現代社会に関する、ある程度難しいトピックについて、自分の知識、経験、意見を効果的に口頭および文章で表現することができる
- ②英語でプレゼンテーションを効果的に行うことができる
- ③効果的に、英語を聞き取り、意味をつかむことができる
- ④Paragraph構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) に留意し、論理的構成をもつParagraphを書くことができる
- ⑤複数のParagraphからなる短いレポートを書くことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

以下の3つの活動を中心に毎回の授業を行います。

- ①スピーキングに重点を置いたテキストを用いた英語表現の習得と会話の練習 (リスニングの練習を含む)
 - ②自分の知識、経験、意見を書く練習 (学期末にレポートを完成させるために小エッセイを複数回提出。提出されたエッセイは添削・コメントして返却します)
 - ③授業内で行うプレゼンテーション大会のための準備
- いずれも講師の指示した予習・準備をしていることを前提に授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト Unit 4-1・2 プレゼンのトピックを 考える	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
2	テキスト Unit 4-3・4 プレゼンの構成を考え る	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
3	テキスト Unit 4-5 プレゼンの台本を書く ①	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
4	テキスト Unit 5-1・2 プレゼンの台本を書く ②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備

5	テキスト Unit 5-3 プレゼンのビジュアル・エイドを作る	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
6	テキスト Unit 5-4 プレゼンの練習を行う	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 プレゼンテーション大会のための 準備
7	プレゼンテーション①	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
8	プレゼンテーション②	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
9	テキスト Unit 5-5 英語でレポートを書く ①	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆 (テーマを決める)
10	テキスト Unit 6-1・2 英語でレポートを書く ②	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆 (構成を考える)
11	テキスト Unit 6-3 英語でレポートを書く ③	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆 (文章を推敲する)
12	テキスト Unit 6-4 英語でレポートを書く ④	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆 (文章を推敲する)
13	テキスト Unit 6-5 英語でレポートを書く ⑤	テキストを用いた英語表現の習得 と会話の練習 レポートの執筆 (文章を推敲する、Peer review)
14	英語でレポートを書く ⑥	レポートの執筆 (Peer review)、 フォーマットの調整、提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Leslie Anne Hendra, Mark Ibbotson, Kathryn O'Dell. Evolve Level 3 Student's Book with Online Practice (Cambridge University Press ¥ 3,000)

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献 (グループ/ペアワークへの参加) 10%、課題への取り組み 20%、レポート 35%、プレゼンテーション 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位取得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

引き続きプレゼンテーションとエッセイの準備を少しずつ丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

PC やスマートフォンを持参してもらいます。

【Outline (in English)】

・ Course Outline and Learning Objectives

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form. Drawing attention to the basic paragraph structure e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then to write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

・ Learning Activities Outside of Classroom

The following three activities will be the focus of each class,

and students will need to prepare for them.

- 1) English expression and conversation practice using texts with an emphasis on speaking (including listening practice)
- 2) Practice writing about your own knowledge, experiences, and opinions (submit an essay at the end of the semester)
- 3) Preparation for the presentation contest

・ Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%,
assignment work: 20%, essay: 35%, presentation: 35%.

If you are absent more than 4 times, you will not be able to receive credit.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

【到達目標】

論理的構成を持つパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、パラグラフの基本的な構成を学び、パラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。英語でのプレゼンテーション、ペアワーク、グループワークをおこなう。

予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 パラグラフの構造
2	The Topic Sentence (1)	主題文とは
3	The Topic Sentence (2)	主題文を書く
4	The Supporting Sentences (1)	支持文とは
5	The Supporting Sentences (2)	支持文を書く
6	The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは
7	The Concluding Sentence (2)	まとめの文を書く
8	Listing (1)	列挙のパラグラフとは
9	Listing (2)	列挙のパラグラフを書く
10	Time Order (1)	時間的順序のパラグラフとは
11	Time Order (2)	時間的順序のパラグラフを書く
12	Classification (1)	分類のパラグラフとは
13	Classification (2)	分類のパラグラフを書く
14	筆記試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

指示に従って教科書を予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。予習テストが出題された場合は、期限までに解答する。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2020 年
2200 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合は原則的に単位修得を認めない。予習テスト・課題を提出しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。英語で発話しやすくなるよう、グループワークで使える英語表現を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出に学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、必ず毎日チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. The course will also help students acquire effective listening skills.

[Learning objectives]

By the end of this course, students should be able to write a logically organized paragraph, participate in and facilitate discussions, and deliver presentations.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text and submitted a test to check the understanding. They will also be given writing and speaking assignments during the semester. The required study time is at least one hour for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), writing assignments (30%) and final exam (40%).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 2/Fri.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

【到達目標】

論理的構成を持つ、様々な内容のパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションおよび質疑応答をおこなえるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、効果的なパラグラフとプレゼンテーションを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。ユニットによっては英語での発表もおこなう。英語でのプレゼンテーション、ペアワーク、グループワークをおこなう。

予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは
2	Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを書く
3	Comparison and Contrast (3)	パラグラフの発表
4	Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは
5	Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを書く
6	Cause and Effect (3)	パラグラフの発表
7	Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは
8	Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを書く
9	Problem-solution (3)	パラグラフの発表
10	Introduction	プレゼンテーションの導入を書く
11	Body	プレゼンテーションの展開部を書く
12	Conclusion	プレゼンテーションの結論部を書く
13	Presentation practice	グループでのプレゼンテーション
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。予習テストが出題された場合は、期限までに解答する。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2020 年
2200 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合は原則として単位修得を認めない。予習テスト・課題を提出しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。
英語での質疑応答やディスカッションがしやすくなるよう、実例を示し、テーマ設定や導入の仕方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出には学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、必ず毎日チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. The course will also help students acquire effective listening skills.

[Learning objectives]

By the end of this course, students should be able to write logically organized paragraphs about different topics, participate in and facilitate discussions, and deliver presentations.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text and submitted a test to check the understanding. They will also be given writing and speaking assignments during the semester. The required study time is at least one hour for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), writing assignments (30%) and final exam (40%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Introduction to the course, students and teacher. Listening 1: The psychology of first impressions Making Inferences
2	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening 2: A review of books about first impressions Suffixes
3	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening Quiz Pronunciation and taking conversational turns.
4	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 1: A billion pounds of spices Listening for causes and effects
5	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 2: A world of food Adjective-noun collocations
6	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening Quiz Giving advice
7	Mid-semester speaking task	Group speaking task

8	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 1: Shaped by change, promoting change Listening for time markers
9	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 2: An interview with Barbara Ehrenreich Using a word web
10	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening Quiz Tag questions
11	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Asking for and giving reasons Listening 1: Targeting children with advertising Identifying fact and opinion
12	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 2: The Influence of Online Ads Using context clues to identify meaning
13	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening Quiz Modals expressing attitude Giving and supporting your opinions
14	Final tasks	Final speaking tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

Please purchase the textbook for this course before the start of the semester.

学期が始まる前に、このコースの教科書を購入してください

【参考書】

Worksheet

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)

Mid-semester task (15%)

Homework completion and listening quizzes (48%)

Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Introduction to the semester and a speaking task about your summer vacation. Listening 1: A lifetime of risks.
2	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening 2: Science of the edge Vocabulary skill: Word families
3	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening Quiz Giving a short presentation
4	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Deliver a short presentation Basic paragraph structure
5	Academic Writing	Basic paragraph structure
6	Mid-semester task	Speaking and writing task
7	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 1: Sudden wealth Listening for signposts
8	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 2: Happiness breeds success... and Money! Vocabulary: Idioms

9	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening quiz Agreeing and disagreeing
10	Academic writing	Introductory paragraphs
11	Academic writing	Body paragraphs and concluding paragraphs
12	Academic writing	Concluding paragraphs and transitions between paragraphs
13	Academic writing	Essay outline and format
14	Final tasks	Final speaking and writing tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

Title: Longman Academic Writing Series Student Book with MyEnglishLab & app (4th Edition) (Level 3 - Paragraphs to essays)
Publisher: Pearson Japan
Author: Alice Oshima, Ann Hogue
ISBN: 9780136838531

【参考書】

Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and listening quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Introduction to the course, students and teacher. Listening 1: The psychology of first impressions Making Inferences
2	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening 2: A review of books about first impressions Suffixes
3	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening Quiz Pronunciation and taking conversational turns.
4	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 1: A billion pounds of spices Listening for causes and effects
5	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 2: A world of food Adjective-noun collocations
6	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening Quiz Giving advice
7	Mid-semester speaking task	Group speaking task

8	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 1: Shaped by change, promoting change Listening for time markers
9	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 2: An interview with Barbara Ehrenreich Using a word web
10	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening Quiz Tag questions
11	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Asking for and giving reasons Listening 1: Targeting children with advertising Identifying fact and opinion
12	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 2: The Influence of Online Ads Using context clues to identify meaning
13	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening Quiz Modals expressing attitude Giving and supporting your opinions
14	Final tasks	Final speaking tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

Please purchase the textbook for this course before the start of the semester.

学期が始まる前に、このコースの教科書を購入してください

【参考書】

Worksheet

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)

Mid-semester task (15%)

Homework completion and listening quizzes (48%)

Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Introduction to the semester and a speaking task about your summer vacation. Listening 1: A lifetime of risks.
2	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening 2: Science of the edge Vocabulary skill: Word families
3	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening Quiz Giving a short presentation
4	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Deliver a short presentation Basic paragraph structure
5	Academic Writing	Basic paragraph structure
6	Mid-semester task	Speaking and writing task
7	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 1: Sudden wealth Listening for signposts
8	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 2: Happiness breeds success... and Money! Vocabulary: Idioms

9	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening quiz Agreeing and disagreeing
10	Academic writing	Introductory paragraphs
11	Academic writing	Body paragraphs and concluding paragraphs
12	Academic writing	Concluding paragraphs and transitions between paragraphs
13	Academic writing	Essay outline and format
14	Final tasks	Final speaking and writing tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

Title: Longman Academic Writing Series Student Book with MyEnglishLab & app (4th Edition) (Level 3 - Paragraphs to essays)
Publisher: Pearson Japan
Author: Alice Oshima, Ann Hogue
ISBN: 9780136838531

【参考書】

Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and listening quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

衣笠 正晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常のなかの多様なトピックについて知識や経験、意見を効果的に平易な英語で表現できる力を身につけることを目的とします。日本文化を題材にしたテキストを用いて、スピーチやプレゼンテーションの練習、論理的構成をもつパラグラフを書く練習をおこないます。

【到達目標】

- 1) トピックに関する英語情報を聴き取り／読み取り、整理できるようになる。
- 2) 自分の知識や経験、意見をわかりやすい英語で表現できるようになる。
- 3) 論理的な構成をもったパラグラフを英語で書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

原則としてテキストの各章を 2 週にかけて学びます。1 週目にはトピックに関する語彙の習得・理解、教材の聴き取り、それにもとづく口頭での意見発表の練習をおこないます。2 週目にはトピックにもとづくパラグラフ作成の練習をおこないます。毎回予習確認のためにクイズ（小テスト）を実施し、リアクションシートを提出してもらいます。リアクションシートのコメント・質問には翌週授業や学習支援システムでフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学期授業計画の説明
2	Getting to Know You (1)	教科書 Unit 1 にもとづくスピーキング
3	Getting to Know You (2)	教科書 Unit 1 にもとづくライティング
4	My Hometown (1)	教科書 Unit 2 にもとづくスピーキング
5	My Hometown (2)	教科書 Unit 2 にもとづくライティング
6	Japanese Food (1)	教科書 Unit 3 にもとづくスピーキング
7	Japanese Food (2)	教科書 Unit 3 にもとづくライティング
8	The Traditional Japanese House (1)	教科書 Unit 4 にもとづくスピーキング
9	The Traditional Japanese House (2)	教科書 Unit 4 にもとづくライティング
10	The Japanese Language (1)	教科書 Unit 5 にもとづくスピーキング
11	The Japanese Language (2)	教科書 Unit 5 にもとづくライティング
12	Explaining Japanese Things (1)	教科書 Unit 6 にもとづくスピーキング
13	Explaining Japanese Things (2)	教科書 Unit 6 にもとづくライティング
14	学期末試験とまとめ	筆記による試験＋学期授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従ってテキストを予習し、問題の解答を作成するとともに、語彙や知識の整理をおこない、トピックに関する口頭での意見発表の準備をおこなう。またトピックに関連する英文（パラグラフ）を作成する。

※なお本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Simon Capper (著) *This Is Japan* < New Edition > (英語で伝える日本の文化と生活) (センゲージ ラーニング、2021 年) 税抜価格 2,200 円

※このほか必要に応じてプリントを配付・使用します。

【参考書】

随時授業中に指示します。なお授業には辞書を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、小テストなど。30 %）、提出物（ライティング課題など。30 %）、学期末試験（40 %）をあわせて評価します。評価にあたっては【到達目標】の各項目がどの程度達成できているかに注目します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士によるグループワーク、ペアワークを多く実施したことについて、履修者から好評を得ました。ピアレビューを通じた自発的な気づきや学びの機会として、今後も積極的に生かしてゆきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付や課題の提出、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・初回授業までに教科書を購入し、持参してください。
- ・出席者の状況に合わせて授業の進め方に変更を加えたり、教材を差し替えたりする場合があります。
- ・初回授業で授業履修にあたって守るべき事柄を説明しますので、遵守してください。
- ・欠席が学期中 4 回を超えた場合は原則として単位履修の資格を失います。また遅刻 3 回を欠席 1 回としてカウントします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is for students to develop their ability to effectively express their opinions, knowledge and experience in everyday life in lucid English. At the end of this course, students are expected to understand how to give speeches and presentations as well as how to write a logically organized paragraph on topics they are familiar with. Students are expected to have completed the required assignments after each class meeting. The required study time is at least one hour for each class meeting. The overall grade will be decided based on class participation (30%), submitted papers (30%), and term-end examination (50%).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

衣笠 正晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常のなかの多様なトピックについて知識や経験、意見を効果的に明快な英語で表現できる力を身につけることを目的とします。日本文化を題材にしたテキストを用いて、プレゼンテーションやディスカッションなどの練習、複数のパラグラフからなる短いレポート（エッセイ）を書く練習をおこないます。

【到達目標】

- 1) トピックに関する英語情報を聴き取り／読み取り、整理できるようになる。
- 2) 自分の知識や経験、意見をわかりやすい英語で表現できるようになる。
- 3) 複数のパラグラフからなる短い文章（レポート）を書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

原則としてテキストの各章を 2 週にかけて学びます。1 週目にはトピックに関する語彙の習得・理解、教材の聴き取り、それにもとづく口頭での意見発表の練習をおこないます。2 週目にはトピックにもとづくパラグラフまたはレポート作成の練習をおこないます。毎回予習確認のためにクイズ（小テスト）を実施し、リアクションシートを提出してもらいます。リアクションシートのコメント・質問には翌週授業でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	学期授業計画の説明
2	Good Manners, Bad Manners (1)	教科書 Unit 7 にもとづくスピーキング
3	Good Manners, Bad Manners (2)	教科書 Unit 7 にもとづくライティング
4	Special Days and Events (1)	教科書 Unit 8 にもとづくスピーキング
5	Special Days and Events (2)	教科書 Unit 8 にもとづくライティング
6	School and University Life (1)	教科書 Unit 9 にもとづくスピーキング
7	School and University Life (2)	教科書 Unit 9 にもとづくライティング
8	Famous Japanese People and Movies (1)	教科書 Unit 10 にもとづくスピーキング
9	Famous Japanese People and Movies (2)	教科書 Unit 10 にもとづくライティング
10	Visiting Temples and Shrines (1)	教科書 Unit 11 にもとづくスピーキング
11	Visiting Temples and Shrines (2)	教科書 Unit 11 にもとづくライティング
12	Invisible Cultures (1)	教科書 Unit 12 にもとづくスピーキング

13	Invisible Cultures (2)	教科書 Unit 12 にもとづくライティング
14	学期末試験とまとめ	筆記による試験＋学期授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従ってテキストを予習し、問題の解答を作成するとともに、語彙や知識の整理をおこない、トピックに関する口頭での意見発表の準備をおこなう。またトピックに関連する英文（パラブラフ）を作成する。

※なお本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Simon Capper (著) *This Is Japan* < New Edition > (英語で伝える日本の文化と生活) (センゲージ ラーニング、2021 年) 税抜価格 2,200 円

※このほか必要に応じてプリントを配付・使用します。

【参考書】

随時授業中に指示します。授業には辞書を持参してください。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、小テストなど。30 %）、提出物（ライティング課題など。30 %）、学期末試験（40 %）をあわせて評価します。評価にあたっては【到達目標】の各項目がどの程度達成できているかに注目します。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士によるグループワーク、ペアワークを多く実施したことについて、履修者から好評を得ました。ピアレビューを通じた自発的な気づきや学びの機会として、今後も積極的に生かしてゆきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付や課題の提出、授業に関する連絡など、学期を通じて学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・出席者の状況に合わせて授業の進め方に変更を加えたり、教材を差し替えたりする場合があります。
- ・担当教員から説明している授業履修にあたっての注意事項を遵守してください。
- ・欠席が学期中 4 回を超えた場合は原則として単位履修の資格を失います。また遅刻 3 回を欠席 1 回としてカウントします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is for students to develop their ability to effectively express their opinions, knowledge and experience in everyday life in lucid English. At the end of this course, students are expected to understand how to participate in discussions and give presentations as well as how to write a short essay with multiple paragraphs on topics they are familiar with. Students are expected to have completed the required assignments after each class meeting. The required study time is at least one hour for each class meeting. The overall grade will be decided based on class participation (30%), submitted papers (30%), and term-end examination (50%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for communicating in a global society. Students will study and improve all four English skills: Listening, Speaking, Reading and Writing.

【到達目標】

Students will practice and improve proficiency in all four language skills: Listening, Speaking, Reading, and Writing. How much students improve is dependent on how hard they apply themselves inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work
3	Unit 1 Video: Another Country	Video Worksheet activities. Paragraph Writing & assignment explanation.
4	Unit 2: The Way we Live	Writing assignment due. Reading and pair work: Practice asking questions.
5	Writing Improvement Instruction	Common grammar and preposition mistakes.
6	Unit 2 Video: New York City's Park in the Sky	Video listening practice; worksheet questions and research assignment
7	Location Research report/ mini-Presentations	Quiz on Units 1-2 vocabulary and grammar.
8	Unit 3: What Happened Next?	Practice past simple (questions and answers) in pair and group activities.
9	Unit 3: Telling a story & Video	Past tense practice. The Titanic video listening practice. Wworksheet assignment.

10	Titanic research report	Students report research on video from previous week. Explanation of Song Journal activity.
11	Unit 4: The Marketplace	Reading comprehension and practice using “how much/many”.
12	Unit 4 Pt. II	Song Journal writing due. Activities — using polite language. Explanation of how to give effective presentations.
13	Song Journal Presentations	Student give mini-presentations on song journal content; Q & A
14	Mini-presentations II.	Final quiz on Units 3 & 4. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session.

Students should also practice listening with the CD-Rom provided in the text.

More detailed explanation will be given during the class period. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars: American Headway Level 2 (3rd edition). Oxford University Press

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, writing assignments, presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More attention in class will be paid to how to write logical, coherent, and grammatically correct paragraphs and essays in English.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week.

Coming late to class twice = one absence (except for a good reason, like late trains)

【Outline (in English)】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning and Using English for Global Communication: This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in basic English.

【到達目標】

Students will improve in all four language skills: listening, speaking, reading and writing. How much they improve depends on how hard they work in and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and homework.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 5: What Do You Want to Do?	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports.
2	Unit 5: Future Activities	Future tense practice—questions and answers in pair and group work.
3	Unit 5 video: A Green City for the Future	Video Worksheet activities and discussion. Assign research.
4	Energy and Conservation Reports	Students report on research. Begin Unit 6: Places and Things
5	Unit 6: What's it Like?	Practice on describing family with instruction on how to write an essay.
6	Unit 6: My family—similarities and differences	Essays due. Unit 6 reading assignment and pair/group activities. Role play textbook dialogue.
7	Writing Instruction; Video: Scotland	Essay writing feedback; Video Worksheet activities, research assignment.
8	Unit 6 Report and Wrap-up	Quiz on Units 5 & 6. Pair presentation assignment: Interview and Country Report.

9	Countries & Culture	Instruction on giving effective presentations. Begin Unit 7: The World of Work! Present perfect and past simple practice.
10	Student Country Presentations	Speaking and listening practice. Q & A.
11	Unit 7: Careers and Jobs	Textbook Reading activities Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 7 Video: Two Famous Firsts	Video worksheet and supplemental activities; final essay assignment.
13	Unit 8: Do's and Don't's	Final Essay Due; practice giving advice (have to/should)
14	Units 7-8 Review and Wrap-up.	Return final essays. Quiz on Units 7 & 8.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to work/read ahead in the text by doing the readings and completing the activities assigned. Other homework assignments will be assigned in class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars. American Headway 2 (3rd Edition). Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%
Quizzes, short essays, individual and group presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More instruction will be provided on how to write short position statements and essays, as well as how to improve presentation skills.

【その他の重要事項】

In principle students are permitted up to 3 unexcused absences during the semester. Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason—such as train delays, etc)

【Outline (in English)】

While attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and so we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will also be given various writing assignments throughout the semester to practice expressing themselves in writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Introduction to the course, students and teacher. Listening 1: The psychology of first impressions Making Inferences
2	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening 2: A review of books about first impressions Suffixes
3	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening Quiz Pronunciation and taking conversational turns.
4	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 1: A billion pounds of spices Listening for causes and effects
5	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 2: A world of food Adjective-noun collocations
6	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening Quiz Giving advice
7	Mid-semester speaking task	Group speaking task

8	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 1: Shaped by change, promoting change Listening for time markers
9	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 2: An interview with Barbara Ehrenreich Using a word web
10	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening Quiz Tag questions
11	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Asking for and giving reasons Listening 1: Targeting children with advertising Identifying fact and opinion
12	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 2: The Influence of Online Ads Using context clues to identify meaning
13	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening Quiz Modals expressing attitude Giving and supporting your opinions
14	Final tasks	Final speaking tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

Please purchase the textbook for this course before the start of the semester.

学期が始まる前に、このコースの教科書を購入してください

【参考書】

Worksheet

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)

Mid-semester task (15%)

Homework completion and listening quizzes (48%)

Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Introduction to the semester and a speaking task about your summer vacation. Listening 1: A lifetime of risks.
2	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening 2: Science of the edge Vocabulary skill: Word families
3	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening Quiz Giving a short presentation
4	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Deliver a short presentation Basic paragraph structure
5	Academic Writing	Basic paragraph structure
6	Mid-semester task	Speaking and writing task
7	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 1: Sudden wealth Listening for signposts
8	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 2: Happiness breeds success... and Money! Vocabulary: Idioms

9	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening quiz Agreeing and disagreeing
10	Academic writing	Introductory paragraphs
11	Academic writing	Body paragraphs and concluding paragraphs
12	Academic writing	Concluding paragraphs and transitions between paragraphs
13	Academic writing	Essay outline and format
14	Final tasks	Final speaking and writing tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

Title: Longman Academic Writing Series Student Book with MyEnglishLab & app (4th Edition) (Level 3 - Paragraphs to essays)
Publisher: Pearson Japan
Author: Alice Oshima, Ann Hogue
ISBN: 9780136838531

【参考書】

Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and listening quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をとともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17
5	Units 3-4	pp.18-25

6	Preparation for Debates	You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Units 5-6 Preparation for a Group Presentation	pp.26-33 You will prepare for a group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Units 7-8	pp.34-41
13	Units 9-10	pp.42-49
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
- 2) to watch or listen to an English program regularly.

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鈴木 眞奈美

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた4技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をとともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.
5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.

6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
10	Presentation	You will make a presentation.
11	Presentation	You will continue to make a presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【Outline (in English)】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
- 2) to watch or listen to an English program regularly.

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (50%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スピーチ・プレゼンテーション、ライティング、リスニングの基本的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。さらに、英語エッセーの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を学ぶ。

【到達目標】

英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。
シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるようにする。
効果的なスピーチのやり方を習得する。
英語エッセーの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセーを作成できるようになる。
英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグラフを作成できるようになる。
辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

- ①リスニングとスピーキング。授業の前半に最新の英語のニュースを聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテレビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイングを徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解できるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。
- ②プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。
- ③ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプのエッセーの基本構造を学習する。特にエッセイプランを作成し、基本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラグラフからなるエッセーを作成する。
- ④フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを出す。②は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。③に関しては、最初に作成したエッセーに関して、教師が添削を行い詳細なコメントをつける。2 回目以降のエッセーには簡単なコメントをつける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	暴徒による国会乱入事件をめぐる、ペンス前副大統領がトランプ前大統領を非難した映像ニュースを用いて、聞き取りとシャドーイングを行う。

2	夢や願望を表現する	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 自分がしたいことを口頭で表現する。 理由を表す表現を使って自分がしたいことを英文を書く。
3	オミクロン株感染拡大を伝える映像ニュースを見る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 映像ニュースを見てオミクロン拡大の現状を知る。 ニュース映像を使った聞き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 th の発音を習得する。
4	スポーツやレジャーについて語る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 禁止の表現を使って英会話する。 スポーツやレジャーに関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
5	地球温暖化加速を伝える映像ニュースを見る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 温暖化による永久凍土融解がさらなる温暖化を引き起こす悪循環が起きていることを知る。 ニュース映像を使った聞き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 /θ/と/v/の発音を習得する。
6	習慣を表現する	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 話題を変える表現を使って英会話をする。 頻度を表す表現を使って習慣的行為に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
7	中国少子化を伝える映像ニュースを見る	一人っ子政策を廃止した中国が人口減に直面している現状とその背景を知る。 ニュース映像を使った聞き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 /w/の発音を習得する。
8	社会的慣習について語る	提案の表現を使って英会話する。 条件を表す表現を使って社会的慣習に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
9	北朝鮮ロケット発射を伝える映像ニュースを見る	バイデン政権に変わって以来、ロケット発射を繰り返す北朝鮮の意図を考える。 ニュース映像を使った聞き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 /s/と/z/の発音を習得する。
10	大学生活について語る	言い換えの表現を使って英会話をする。 賛成・反対を表す表現を使って大学生活に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。
11	アカデミック・ライティング 1（4 パラグラフからなるエッセーの構造）	自分の意見を主張する 4 パラグラフからなるエッセーの構造を理解し、エッセイプランを作成する。
12	アカデミック・ライティング 2（エッセイプランから英文作成へ）	エッセイプランから英文を作成する方法を学ぶ。 特に辞書の使い方を詳しく学習する。
13	文化伝統を伝える	許可を求める表現を使って英会話をする。 事物描写型の 1 パラグラフからなる英文を書く。

- 14 提出されたエッセイに 添削しコメントを添えてエッセイ
対するフィードバック を返却する。
添削・コメントというフィード
バックから、学生はエッセイライ
ティングの技法を学び直す。
学生が作成したエッセイの代表的
な間違いを辞書を活用しながら正
しく書き直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
ただし、スピーチの作成準備には 5 時間前後、エッセイ作成には 8
時間前後を要す。

授業の予習。テキストの指定個所の問題を解く。具体的にはパラグ
ラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。
授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英
語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する
準備をする。

スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（春学期に一度）。

英文エッセイの作成（春学期に二度）。

【テキスト（教科書）】

『English in Tune』、Robert Hickling 他、センゲージラーニング

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセント
の比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回
数によって決まる。

一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。

4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。

オンライン授業では課題の提出を持って出席とする。

原則的に遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

リスニング教材をより興味深いものにします。

ライティングの比重を高くする。

英語で発言する機会を増やす。

【その他の重要事項】

この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に
関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホ
をいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。
辞書を持参して下さい。

教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業
を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発
言を期待しています。

【Outline (in English)】

This course is to help students improve their skills of listening,
speaking, and writing. In order to acquire better listening
and speaking skills, participants learn distinctive sounds
of English and are expected to be able to pronounce them
correctly. Participants are required to make presentations
in the class. Regarding writing, participants learn the basic
structure of the academic essay and how to make an essay
composed of four paragraphs by making good use of various
kinds of dictionaries useful for writing good English.

Participants are expected to spend one hours answering
assigned questions on the textbook before the class and
reviewing what they have learned after the class.

Final grade will be decided based on class-participation 40
%, essays 30 % and term-end examination 30 %.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スピーチ・プレゼンテーション、ライティング、リスニングの基本
的な技術を習得することを目的にする。音声の特徴を理解し、発音
能力を高めることによって、リスニング能力の向上を目指す。また、
自分の言いたいことを口頭で効果的に伝える方法を学ぶ。さらに、
英語エッセイの構造を学び、アカデミックな論文を作成する技術を
学ぶ。

【到達目標】

英語の音声上の特徴を知り、自分で発音できるようになる。

シャドーイングという学習法を実践し、英語を耳から理解できるよ
うにする。

効果的なスピーチのやり方を習得する。

英語エッセイの形式を理解し、4 パラグラフからなるエッセイを作
成できるようになる。

英文のパラグラフの構造を理解し、主題文と支持文から成るパラグ
ラフを作成できるようになる。

辞書の使い方を学び、英文を作成するとき様々な辞書を活用できる
ようなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：
DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

①リスニングとスピーキング。授業の前半に最新の英語のニュース
を聞きながら、スクリプトの穴埋めを行う。教材にはアメリカのテ
レビニュースを用いる。リスニング能力強化のために、英語特有の
音声の法則を知り英語の発音を向上させる。また、シャドーイング
を徹底的に行い英語の発音リズムを体得し、英語を感覚的に理解で
きるようになることによってスピーキング能力向上につなげる。英
語ニュースの内容を理解した後、それを英語で要約し、最終的には
自分の意見を英語で発表する。教材は毎回作成する。

②プレゼンテーション。あるテーマに関して毎回 5 人が英語でプレ
ゼンテーションを行う。それに関してクラスで話し合う。

③ライティング。テキスト内の問題を解きながら、様々なタイプの
エッセイの基本構造を学習する。特にエッセイプランを作成し、基
本構造を自分のものにする。エッセイプランにしたがって、4 パラ
グラフからなるエッセイを作成する。

④フィードバック。①に関しては授業中に教師が口頭でコメントを
出す。②は、プレゼン原稿にコメントをつけて返却する。③に関し
ては、最初に作成したエッセイに関して、教師が添削を行い詳細な
コメントをつける。2 回目以降のエッセイには簡単なコメントをつ
ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ナキウサギ絶滅危機を 伝える映像ニュースを 見る	絶滅が危惧されるナキウサギの映 像を見て、地球温暖化が切実な問 題になっていることを実感する。 ニュース映像を使った聴き取りを 行なったのちシャドーイングを実 践する。 n,m,ng の発音を習得する。

2	日本の四季を表現する	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 フィラーを効果的に使い英会話を する。 列挙の表現を使って季節を描写する 1 パラグラフからなる英文を書く。	12	アカデミック・ライティング 2 (エッセイプランから英文作成へ)	エッセイプランから英文を作成する方法を再度学ぶ。 特に辞書の使い方を再度詳しく学習する。
3	オミクロン株感染拡大を伝える映像ニュースを見る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 映像ニュースを見てオミクロン拡大の現状を知る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。 破裂音の発音を習得する。	13	環境について語る	依頼を断る表現を使って英会話を する。 結果を表す表現を使って環境問題を論じる 1 パラグラフからなる英文を書く。
4	SNS の影響力を記述する	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 自分の気持ちを伝える表現を使って英会話する。 対比・対象の表現を使って SNS に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。	14	提出されたエッセイに対するフィードバック	添削されたエッセイをコメントを添えて返却する。 学生が作成したエッセイの代表的な間違いを辞書を活用しながら正しく書き直す。
5	仲良しクマの悲劇を伝える映像ニュースを見る	指名された学生 5 名が英語でスピーチを行う。 野生生物を餌付けすることが、極めて危険であり、自然を破壊する行為にほかならない事実を理解する。 餌付けによって「仲良し」になったクマの末路を見る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。	【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。ただし、スピーチの作成準備には 5 時間前後、エッセイ作成には 8 時間前後を要す。 授業の予習。テキストの指定箇所の問題を解く。具体的にはパラグラフの構造分析、和文英訳、英文エッセイのレイアウト作成をする。 授業の復習。前回聞いた英語ニュースのシャドーイングをする、英語ニュースの内容を英語で要約し、自分の意見をクラスで発表する準備をする。 スピーチ原稿の作成とスピーチの練習（秋学期に一度）。 英文エッセイの作成（秋学期に一度）。		
6	安全安心を記述する	r の発音を習得する。 過去の出来事を振り返る表現を使って英会話をする。 目的を表す表現を使って安全安心に関する 1 パラグラフからなる英文を書く。	【テキスト（教科書）】 『English in Tune』、Robert Hickling 他、センゲージラーニング 【参考書】 なし。		
7	少年の拒食症を伝える映像ニュースを見る	拒食症の背景にある細さ願望について考察するとともに、ダイエットは太りやすい身体を、筋トレは太りにくい身体を作るという基本的な事実を知る。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。	【成績評価の方法と基準】 授業参加 40 パーセント、レポート・スピーチ・試験 60 パーセントの比率で評価する。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まる。 一度休むごとに授業参加点から 2 点ずつ引いていく。 4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めない。 オンライン授業では課題の提出を持って出席とする。 原則的に遅刻は認めない。		
8	IT テクノロジーについて語る	l の発音を習得する。 明瞭化を求める表現を使って英会話する。 例示を表す表現を使って IT テクノロジーに関する 1 パラグラフからなる英文を書く。	【学生の意見等からの気づき】 学生の授業参加をもっと促す。 英会話にもっと時間を割く。 学生とのコミュニケーションをもっととる。		
9	アジア人襲撃を伝えるニュース映像を見る	米ではコロナ感染が始まって以来、日系アメリカ人を始め、アジア人に対する殺人・暴力行為が止まらない事実を知り、その背景にある根深い人種差別について考える。 ニュース映像を使った聴き取りを行なったのちシャドーイングを実践する。	【その他の重要事項】 この授業は演習中心なので、出席を重視しています。遅刻・欠席に関しては厳しく対処します。また、授業と関係のない目的でスマホをいじるなど、常識的におかしいと思われる行為は慎んで下さい。 辞書を持参して下さい。 教師と学生の対話を通して、適度楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。		
10	祝賀と祭りを記述する	脱落する音の発音を習得する。 予定を表す表現を使って英会話をする。 日本文化固有の概念について説明する 1 パラグラフからなる英文を書く。	【Outline (in English)】 This course is to help students improve their skills of listening, speaking, and writing. In order to acquire better listening and speaking skills, participants learn distinctive sounds of English and are expected to be able to pronounce them correctly. Participants are required to make presentations in the class. Regarding writing, participants learn the basic structure of the academic essay and how to make an essay composed of four paragraphs by making good use of various kinds of dictionaries useful for writing good English. Participants are expected to spend one hour answering assigned questions on the textbook before the class and reviewing what they have learned after the class. Final grade will be decided based on class-participation 40 %,essays 30 % and term-end examination 30 %.		
11	アカデミック・ライティング 1（原因から結果へ向かうエッセイの構造）	原因から結果へ向かう 4 パラグラフからなるエッセイの構造を学び、エッセイプランを作成する。			

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Introduction to the course, students and teacher. Listening 1: The psychology of first impressions Making Inferences
2	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening 2: A review of books about first impressions Suffixes
3	Unit 1 Sociology - Are first impressions accurate?	Listening Quiz Pronunciation and taking conversational turns.
4	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 1: A billion pounds of spices Listening for causes and effects
5	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening 2: A world of food Adjective-noun collocations
6	Unit 2 Nutritional Science - Why do we change the foods we eat?	Listening Quiz Giving advice
7	Mid-semester speaking task	Group speaking task

8	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 1: Shaped by change, promoting change Listening for time markers
9	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening 2: An interview with Barbara Ehrenreich Using a word web
10	Unit 3 Psychology - In what ways is change good or bad?	Listening Quiz Tag questions
11	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Asking for and giving reasons Listening 1: Targeting children with advertising Identifying fact and opinion
12	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening 2: The Influence of Online Ads Using context clues to identify meaning
13	Unit 4 Marketing - How does advertising affect our behavior?	Listening Quiz Modals expressing attitude Giving and supporting your opinions
14	Final tasks	Final speaking tasks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking
Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

Please purchase the textbook for this course before the start of the semester.

学期が始まる前に、このコースの教科書を購入してください

【参考書】

Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and listening quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

CHRISTOPHER MASCHIO

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Effective communication opens up a lot of possibilities for anyone

wanting to work in an international environment. This course is for students who wish to practice and develop their speaking, listening, reading, and writing skills.

【到達目標】

1. Students will demonstrate improved speaking, listening, and writing fluency.
2. Students will become more capable of participating in spoken discourse.
3. Students will become familiar with academic writing.
4. Students will become better independent language learners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in group discussions, complete activities, and make presentations. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class orientation Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Introduction to the semester and a speaking task about your summer vacation. Listening 1: A lifetime of risks.
2	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening 2: Science of the edge Vocabulary skill: Word families
3	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives?	Listening Quiz Giving a short presentation
4	Unit 5 Behavioral Science - Does taking risks change our lives? Introduction to academic writing	Deliver a short presentation Basic paragraph structure
5	Academic Writing	Basic paragraph structure
6	Mid-semester task	Speaking and writing task
7	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 1: Sudden wealth Listening for signposts
8	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening 2: Happiness breeds success... and Money! Vocabulary: Idioms

9	Unit 7 Economics - Can money buy happiness?	Listening quiz Agreeing and disagreeing
10	Academic writing	Introductory paragraphs
11	Academic writing	Body paragraphs and concluding paragraphs
12	Academic writing	Concluding paragraphs and transitions between paragraphs
13	Academic writing	Essay outline and format
14	Final tasks	Final speaking and writing tasks

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete homework assignments from the textbook and worksheets that will be provided by the teacher. University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Title: Q: Skills for Success Level 3 Listening and Speaking Student Book with iQ Online Practice Third Edition
Publisher: Oxford University Press
Author: Miles Craven, Kristin Sherman
ISBN: 978-0-19-490515-2

Title: Longman Academic Writing Series Student Book with MyEnglishLab & app (4th Edition) (Level 3 - Paragraphs to essays)

Publisher: Pearson Japan
Author: Alice Oshima, Ann Hogue
ISBN: 9780136838531

【参考書】

Worksheet
Handouts

【成績評価の方法と基準】

Evaluation of in-class participation (14%)
Mid-semester task (15%)
Homework completion and listening quizzes (48%)
Final task (23%)

【学生の意見等からの気づき】

The teacher always welcomes feedback and encourages students to suggest changes to improve the course at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

HOPPII, the Hosei University learning management platform will be used throughout the semester.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus are subject to change according to the needs of the class. Class attendance is a course requirement. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【Outline (in English)】

This course will provide students with speaking, listening, and reading practice. It will also improve their vocabulary, grammatical knowledge, and academic writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術を習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生によるグループワークや発表の時間も設ける。

質問は授業内か授業前後に適宜回答する。課題に関するフィードバックは授業内容に含む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明 教科書 Unit1 の導入
第 2 回	Unit1-1	Job Interview (1) テキストを元に別れの挨拶を学び 実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit2-1	First Day on the Job (1) テキストを元に依頼の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 4 回	Unit2-2	First Day on the Job (2) 助動詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit3-1	Hurricane on the Weekend (1) テキストを元に反論の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 6 回	Unit3-2	Hurricane on the Weekend (2) 関係代名詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 7 回	Unit4-1	Andy's Makeover (1) テキストを元に困惑の表現を学び 実際に使う訓練を行う
第 8 回	Unit4-2	Andy's Makeover (2) 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 9 回	Group work 1	グループワーク① リサーチ
第 10 回	Group work 2	グループワーク② 発表の準備
第 11 回	Presentation	グループワーク③ 発表
第 12 回	Unit5-1	Andy Meets Christian (1) 聞き返す表現を学び実際に使う訓練を行う

第 13 回 Unit5-2

Andy Meets Christian (2)

助動詞の復習をし、実際に使う訓練を行う

第 14 回 期末試験

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストを事前に読み課された宿題を行う。

授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。

課題の制作や準備。

【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編 『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の宿題・授業への貢献度（30%）

グループワーク・発表（30%）

期末試験（40%）

欠席 4 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The aim of this course is to help students develop their skills of listening, speaking and writing. Throughout researching and presentation, students also practice articulating their opinions in English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to develop skills of listening and speaking, and to be able to make a presentation in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Group work and presentation: 30%, in class contribution: 30%

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

宮本 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストを用いながら語彙や表現のバリエーションを増やし、リスニング、スピーキング、ライティングの技術を総合的に養う。また、課題制作と英語による発表を通じて、英語で自分の意見を述べる訓練を行う。

【到達目標】

リスニング、スピーキングの能力を向上させる。

英語で文章を書く技術習得する。

プレゼンテーション力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定した教科書を用いて授業を進めるが、学生によるグループワークや発表の時間も設ける。

質問は授業内か授業前後に適宜回答する。課題に関するフィードバックは授業内容に含む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit6-1	春学期テストのフィードバック Unit6 導入 テキストを元に希望を伝える表現を学び実際に使う訓練を行う
第 2 回	Unit6-2	Miranda's Request 分詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 3 回	Unit7-1	Nate's Birthday (1) テキストを元に驚きを示す表現を学び実際に使う訓練を行う
第 4 回	Unit7-2	Nate's Birthday (2) 仮定法の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 5 回	Unit8-1	Andy's Decision (1) テキストを元に確認する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 6 回	Unit8-2	Andy's Decision (2) 現在進行形の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 7 回	Unit9-1	Break up with Nate (1) テキストを元に提案する表現を学び実際に使う訓練を行う
第 8 回	Unit9-2	Break up with Nate (2) 動名詞の復習をし、実際に使う訓練を行う
第 9 回	Group work 1	グループワーク① リサーチ
第 10 回	Group work 2	グループワーク② 発表準備
第 11 回	Presentation	グループワーク③ 発表

第 12 回 Unit10-1

The Dream Job (1)

テキストを元に意思・予定を述べる表現を学び実際に使う訓練を行う

第 13 回 Unit10-2

The Dream Job (2)

受動態の復習をし、実際に使う訓練を行う

第 14 回 期末試験

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

テキストを事前に読み課された宿題をする。

授業で学んだ語彙や表現、文法の復習を行う。

課題の制作や発表準備。

【テキスト（教科書）】

Aline Brosh McKenna 著、角山照彦、Simon Capper 編『『プラダを着た悪魔』で学ぶコミュニケーション英語』、松柏社、2,200 円（税別）

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各回の宿題・課題（30%）

中間課題（30%）

期末試験（40%）

欠席が 4 回以上の者は期末試験受験の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】 【Course Outline】

The aim of this course is to help students develop their skills of listening, speaking and writing. Throughout researching and presentation, students also practice articulating their opinions in English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to develop skills of listening, writing and speaking, and to be able to make a presentation in English.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Grading will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, Group work and presentation: 30%, in class contribution: 30%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among 5 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Students will give a short presentation at the end of the term.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course Explanation of class requirements, tasks, goals.	Explanation of class requirements, tasks, goals. Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Introductions, greetings, names, nationalities: vocabulary & listening	Introducing yourself; "Be" verbs in questions & statements
Week 3	Unit 1 Introductions, greetings, names, nationalities: reading & speaking	Exchanging personal information; Starting & ending a conversation; Subject pronouns & possessive adjectives
Week 4	Unit 1 Introductions, greetings, names, & nationalities: discussion & writing	Sharing & collecting information about classmates Trendy names Using English-English dictionaries Paragraph components
Week 5	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules: vocabulary & listening	Asking for & giving opinions; Simple present wh- questions
Week 6	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules: reading & speaking	Describing daily schedules; prepositions of time

Week 7	Unit 2 Jobs, workplaces, daily schedules: discussion & writing	Comparing things in common Write a paragraph on job you want to do
Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Shopping; prices; colors; material: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Talking about prices; Giving opinions; Discussing preferences
Week 9	Unit 3 Shopping; prices; colors; material: reading & speaking	Comparing with adjectives; How much/Which questions
Week 10	Unit 3 Shopping; prices; colors; material: discussion & writing	Negotiating prices Unique products Write about unusual product you would purchase
Week 11	Unit 4 Music, movies, & entertainment: vocabulary & listening	Questions with "do"; Talking about likes & dislikes
Week 12	Unit 4 Music, movies, & entertainment: reading & speaking	Giving opinions; making invitations & excuses
Week 13	Unit 4 Music, movies, & entertainment: discussion & writing	Discuss what you need & want to do Events in a famous person's life Editing marks & peer editing
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation	Quiz: units 3-4 Presentation on job you want to do

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 1(5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)

Students' book ISBN 978-1-316-62031-1

【参考書】

Self Study online

Interchange 1 Workbook, Jack C. Richards (Cambridge University Press)

<http://www.cambridge.org/interchangeacademy/>

Vocabulary development:

<https://quizlet.com/KreggJ>

<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 50%

Speech/Presentation 10%

* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook

Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline (in English)】

Course outline:

This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.

- Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
- Make presentations in small groups and in front of the class.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria:

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 50%

Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among 5 units from the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Students will give a short presentation at the end of the term. Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer
Week 2	Unit 5 Families & relationships: vocabulary & listening	Talking about family & family members; Present continuous questions
Week 3	Unit 5 Families & relationships: vocabulary & listening	Using quantifiers; Exchanging information about the present
Week 4	Unit 5 Families & relationships: reading & speaking	Discuss typical families Write paragraph on 3 things to do before retiring
Week 5	Unit 6 How often do you run: vocabulary & listening	Sports & fitness Adverbs of frequency
Week 6	Unit 6 How often do you run: reading & speaking	Asking & answering questions with "how." Weekly activities
Week 7	Unit 6 How often do you run: discussion & writing	Discuss personal talents & abilities Staying healthy Writing: 1 paragraph on the most exciting sport

Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 Free time & weekend activities: reading & speaking	Quiz Units 5-6 Questions-simple past
Week 9	Unit 7 Free time & weekend activities: reading & speaking	Talking about past events; Giving opinions about past experiences
Week 10	Unit 7 Free time & weekend activities: discussion & writing	Discuss memories & interesting vacations Write about an interesting vacation
Week 11	Unit 8 Stores & places in a city: vocabulary & listening	Asking about and describing locations; Prepositions of place
Week 12	Unit 8 Stores & places in a city: reading & speaking	Asking about quantity; How much/how many with nouns
Week 13	Unit 8 Stores & places in a city: discussion & writing	Discuss hip neighborhoods Play guessing game Citing outside sources in writing
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on 3 goals before retirement

Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria:
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 1(5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62031-1

【参考書】

Self Study online
Interchange 1 Workbook, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
<http://www.cambridge.org/interchangearecade/>
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%

* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline (in English)】

Course outline:
This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
- Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
- Make presentations in small groups and in front of the class.

Learning activities outside of classroom:

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course Lecture #1 What Is Horror?	Transcript of lecture, worksheet and readings, writing assignment #1: Formatting
Week 2	Lecture #2 The Man of 1,000 faces: Excerpts from The Hunchback of Notre Dame	Transcript of lecture 2, readings, Quiz #1
Week 3	Lecture #3 The Ugly and the Evil. Excerpts from The Phantom of the Opera	Transcript of lecture 3, readings, Quiz #2; Writing assignment #2; Compare and Contrast
Week 4	Lecture #4 The Real Monsters: Tod Browning's Freaks	Transcript of lecture 4, readings, Quiz #3; Prepare for discussions.

Week 5	Class discussions in small groups on topics selected by students	Each group will have fifteen minutes to discuss the topic of their choosing while those not so engaged work on writing assignment #3: Topic sentences
Week 6	Lecture #5 Replacing Lon Chaney, Looking homeward. Excerpts from Waxworks, Cat and The Canary	Transcript of lecture 5, readings, Quiz #4
Week 7	Lecture #6 The Man Who Laughs	Transcript of lecture 6, readings, Quiz #5; Writing assignment #4; Supporting sentences
Week 8	Lecture # 7 Casting Shadows. Excerpts from Nosferatu and Shadow of The Vampire	Transcript of lecture 7, readings, Quiz #6
Week 9	Lecture #8 Excerpts from Dracula	Transcript of lecture 8, reading, Quiz # 7; Writing assignment #5; concluding sentences
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Shadow of the Vampire, Bram Stoker's Dracula and Interview with the Vampire	Transcript of lecture 9, reading, Quiz # 8; Writing assignment # 6. Writing a whole paragraph.
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Nosferatu and Bram Stoker's Dracula	Transcript of lecture 10, reading, Quiz # 9
Week 12	Lecture #11 Excerpts from White Zombie	Transcript of lecture 11, readings, Quiz #10
Week 13	Lecture #12 Excerpts from Vampyre	Transcript of lecture 12, readings, Quiz #11; Prepare for Discussions
Week 14	Small group discussions based on essays completed for writing assignment #6	Each group will have fifteen minutes to discuss the conclusions they reached in their essay

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include shifting aesthetic standards and the history of Western moral values, cultural taboos and universals, iconography and censorship.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil , guilt and innocence , class conflict and the status of women in society

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will continue to be a focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasized which lead to the production of coherent, cohesive multi-paragraph essays. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films , listen to lectures, read transcripts of the lectures , read additional supporting materials , do worksheets and on line research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions , make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Lecture #1 Excerpts 1-10 from Frankenstein. The greatest horror film ever made?	Transcript of lecture #1 , readings , Quiz #1 HW: The Origins of Evil. Writing assignment #1 . Sequencing events
Week 2	Lecture #2 Excerpts from Frankenstein. cast, production, breaking the fourth wall	Transcript of lecture #2 , readings , Quiz #2 HW: The Origins of Evil.
Week 3	Lecture #3 Excerpts from Frankenstein. The Myth of Prometheus , fire and blasphemy	Transcript of lecture #3 , readings , Quiz #3 HW: Boris Karloff Writing assignment #2 . Giving details
Week 4	Lecture #4 Excerpts from Frankenstein. The face of the Monster revealed, the light,	Transcript of Lecture #4, readings, Quiz#4 HW: The First Horror Sequel Writing assignment #3 Guilty or not guilty? The Multi-paragraph essay .

Week 5	Lecture #5 Excerpts from The Bride of Frankenstein; What is a sequel and why are they made?	Transcript of Lecture #5, readings, Quiz#5 HW: The Hollywood Production Code
Week 6	Lecture #6 Excerpts from Frankenstein, Dracula's Daughter, Son Of Frankenstein, Son of Dracula : Censorship in Hollywood.	Transcript of Lecture #6 , readings, Quiz #6 HW : The Fall of the House of Laemmle
Week 7	Class discussions in small groups	Each group has 15 minutes to discuss the conclusions they reached in their essays and argue for their positions
Week 8	Lecture #7 Excerpts from The Wolf Man ; Universal Studios returns to horror	Transcript of Lecture 7 , readings, quiz #7 HW Werewolf Tales
Week 9	Lecture #8 Excerpts from The Curse of the Werewolf : Nature vs nurture, an old debate	Transcript of Lecture #8 , readings, quiz #8 Writing assignment # 4 Why was Leon Cursed?
Week 10	Lecture #9 Excerpts from Curse of the Werewolf : The status of women in horror films (society)	Transcript of Lecture #9, readings , Quiz #9 HW: Contradictions in Curse of the Werewolf and a few thoughts on Criticism
Week 11	Lecture #10 Excerpts from Dracula, Curse of the Werewolf and Frankenstein: Blood, money and marriage	Transcript of Lecture 10, readings , Quiz #10 HW: Begin to choose topics for final discussions
Week 12	Lecture #11 Excerpts from Bram Stoker's Dracula , Dracula Curse of the Werewolf , Frankenstein , Shadow of the Vampire : Class conflict in the Horror film	Transcript of lecture 11 , readings, Quiz #11 HW Prepare for Final Discussions
Week 13	Small group discussions on student selected topics.	Students have 15 minutes per group to discuss a topic of their own choosing.
Week 14	Lecture #12 Excerpts from Blood for Dracula; Horror , sex and class : the economy of Horror	Transcript of lecture #12 and readings.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
 There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research on line.
 University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use on line dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade . First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester . The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester .

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses horror films as the content of the course. Themes covered include concepts of Good and Evil, guilt and innocence, class conflict and the status of women in society.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and online research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction.	Meet the instructor. Instructor explains the topic of the class, the method, syllabus, rules and grading. Lecture #1 Excerpts from How The West Was Won (1962) and Cimarron (1931). HW Reading: The Frontier.
Week 2	The West: A Time and A Place.	Quiz # 1 Lecture #2: Excerpts from Cimarron. "Black Hats" vs "White hats." HW: Make sure you have a means of organizing your notes.

Week 3 East vs West.

Week 4 The Victims of Social Prejudice.

Week 5 Finding Common Ground.

Week 6 Redemption and Revenge.

Week 7 Cattle Culture in the American West.

Week 8 Comprehensive Midterm Review.

Week 9 Manifest Destiny.

Week 10 A Question of Survival.

Week 11 The Culture of Violence.

Week 12 Power struggle between Generations.

Week 13 Screening Between the Lines.

Quiz #2

Lecture #3: The culture of the Eastern United States of the mid nineteenth century is compared to and contrasted with the culture of the West beyond the frontier. Part One of Stagecoach.

HW Reading: John Ford's Stagecoach.

Quiz #3

Lecture #4 On Part Two of Stagecoach: Social Prejudice and Outcasts.

HW Reading: The Timeless Wickedness of Ellsworth H. Gatewood.

Quiz #4

Lecture #5: Excerpts from Stagecoach: The search for redemption.

HW: Establish a clear timeline of events in the film.

Quiz #5

Lecture #6: Excerpts from Stagecoach: Final Confrontations.

HW Reading: Wagon Trains of the Old West.

Quiz #6

Lecture #7: Excerpts from A Bend of The River (1952) and Wagon Master (1950).

HW Reading: Cattle Ranching and Cattle Drives.

Review and reorganize all lecture notes and quizzes. Make sure all quizzes and other work have been submitted.

Quiz # 7

Lecture #8: Excerpts from Red Rive (1948).

HW Reading: Branding, Howard Hawkes.

Quiz #8

Lecture #9: Excerpts from Red River (1948). Back to White and Black hats again.
HW Reading: The Catastrophic Situation of Texas Cattle Ranchers.

Quiz #9

Lecture #10: Excerpts from Red River (1948) "I don't want to have to kill you ..."

HW Reading: Cowboy Clothes, Coffee and Food.

Quiz #10

Lecture #11: Excerpts from Red River (1948) "Who will stop me?"

HW Reading: Wayne and Clift, Dunson and Matt.

Quiz #11

Lecture #12: The nature of Matt and Tom's relationship.

HW Reading: The Economics of Inequality.

Week	Juvenile	Quiz #12
14	Delinquency and the West.	Lecture #13: Excerpts from The Left handed Gun (1958) HW Reading: The True Story of Billy The Kid.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research online. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available on line for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use online dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to twelve quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ジェフリー B タロフスキー

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

【到達目標】

For first year students who have successfully completed their high-school English classes.

There will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions through the HOPPII system as well as (hopefully) zoom meetings from time to time.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students watch excerpts from selected films, listen to lectures, read transcripts of the lectures, read additional supporting materials, do worksheets and online research in order to prepare writing assignments and ask and answers questions, make comments and take weekly quizzes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
Week 1	Another Search for Redemption Content.	Lecture #1: Excerpts from The Gunfighter (1950). HW Reading: The Range Wars.
Week 2	The West: A Time and A Place.	Quiz #1 Lecture #2: Excerpts from Shane (1953), Seeing through the eyes of a child. HW Reading: Free Range vs The Homestead Act.
Week 3	Why Shane stays in the Valley.	Quiz #2 Lecture #3: Excerpts from Shane (1953), Another pair of eyes HW Reading: The Great Gun Debate.
Week 4	Still Another Search for Redemption.	Quiz #3 Lecture #4: Excerpts from Shane (1953), A case of murder. HW Reading: The Stump.

Week 5	The Shadow Self.	Quiz #4 Lecture #5: Excerpts from Shane (1953), When a man confronts himself. HW Reading: A very surprising ending.
Week 6	Lawless Lawmen Content.	Quiz #5 Lecture #6: Excerpts from The Westerner (1940), One Eyed Kicks (1961) and Unforgiven (1992). HW Reading: Lawmen of The Old West.
Week 7	Comprehensive Midterm Review.	Review and reorganize all lecture notes and quizzes. Make sure all quizzes and other work has been submitted.
Week 8	Law vs Lawlessness	Quiz #6 Lecture #7: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), "What kind of Community is this?" HW Reading: Cattle Ranching and Cattle Drives.
Week 9	Manifest Destiny	Quiz #7 Lecture #8: Excerpts The Man Who Shot Liberty Valance (1962), The John Ford Acting Company. HW: prepare to make a timeline of events in the film.
Week 10	A Question of Survival.	Quiz #8 Lecture #9: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), Going to school with John Ford. HW Reading: Aging Icons of the Western.
Week 11	The Culture of Violence .	Quiz #9 Lecture #10: Excerpts from The Man Who Shot Liberty Valance (1962), "When the truth becomes legend, print the legend." HW Reading: The American Indian.
Week 12	Images of the American Indian: Stereotypes.	Quiz #10 Lecture #11: Excerpts from Cimarron (1931), Stagecoach (1939), and Drums Along The Mohawk (1939). HW Reading: Weapons and Warriors.
Week 13	Evolving Images of the American Indian: from Savagery to Nobility.	Quiz #11 Lecture #12: Excerpts from She Wore a Yellow Ribbon (1949), Winchester '73 (1950), and Broken Arrow (1950). HW Reading: Compare and Contrast films about the American Indian.
Week 14	The Evolution of John Ford and the Image of the American Indian.	Quiz #12 Lecture #13: Excerpts from The Searchers (1956), Cheyenne Autumn (1964). HW Reading: When John Ford Lost his Audience.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

There will be homework assigned each week which will include both reading and listening assignments and may also include a writing component as well as research online. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

All the materials for this course will be provided by the instructor or will be available online for free.

【参考書】

Students should familiarize themselves with how to use online dictionaries.

【成績評価の方法と基準】

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to twelve quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students have asked for more guidance in their writing assignments and so there will be more time provided for that as well as some additional support materials.

【Outline (in English)】

This is a content based English language course which uses film as content. We study the American Western and try to understand the cultural background that created these films and why they are of such enduring interest to both Americans and people studying American culture.

As for learning objectives, there will be an initial focus on listening and note taking skills supplemented by readings which both reinforce the lectures and introduce additional topics for writing and discussion. Throughout the semester writing skills will emphasize the production of paragraphs with proper topic and supporting sentences along with a clear conclusion. Students will comment on lectures and readings and ask and answer questions.

Students are expected to study for a total of 1 hour outside of classroom for each lecture.

There are three components to the grade. First, there are usually quizzes given each week except for when the discussions are held. This amounts to between nine and eleven quizzes in the semester. The lowest two quiz grades are dropped and the average of the remaining quiz grades will count for 60% of the total grade for the class. Writing assignments all together will count for 30% of the grade and the remaining 10% of the grade will be based on participation in the class discussions. As per the guidelines established by the University only three absences will be permitted during the semester.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Robert D. Hinton

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

At the beginning of each class, feedback for the previous class will be given in the form of comments on submitted assignments. In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductions, understanding the course goals, student information	Basic information about procedure
Week 2	Culture study - focus New York	Brainstorming and learning about New York City
Week 3	Personality scales survey	Brainstorming and learning about New York City
Week 4	Personality presentation	Student presentations
Week 5	American justice system	A study of judges and courts in USA
Week 6	Crime and punishment	Students will decide what punishments are appropriate for crimes
Week 7	survival in nature	Students will take a survival quiz
Week 8	Survival in society	Techniques for surviving
Week 9	Survival in differing environments	Dealing with culture shock
Week 10	Learning about Tokyo	Students will discover areas of interest in Tokyo
Week 11	Tokyo critique presentation	Student presentations

Week 12	Group work for study of the culture of a foreign country	Students will do research about the culture/society of a foreign country and create a poster
Week 13	Poster presentation session	Student presentations
Week 14	Poster presentation session	Student presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). No more than three absences will be permitted.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline (in English)】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Robert D. Hinton

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to introduce students to a variety of topics related to culture of English speaking countries.

【到達目標】

The goal of this course is to increase fluency, accuracy, and knowledge in the areas of language and culture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

At the beginning of each class, feedback for the previous class will be given in the form of comments on submitted assignments. In this course students will have many opportunities to improve speaking, listening, reading and writing skills. Students will be encouraged to learn these skills through a variety of communicative and task based activities. Each week, students will participate in a myriad of activities to advance speaking, listening, reading and writing skills. Particular attention will be focused on improving communication skills. Students will be empowered with the skills to become more confident and competent communicators. Pair and group work, as well as individual presentations will be utilized.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Holiday	Students will do an interactive activity about their holiday
Week 2	Culture study - focus Australia	Students will collect information about Australia from a travel documentary
Week 3	American icon - Oprah Winfrey	Information search about this icon
Week 4	Oprah Winfrey - a biography of success	Students will learn more about this Oprah and start their research project
Week 5	Icon research project	Student will prepare for presentations, peer feedback
Week 6	Icon presentations	Student presentations
Week 7	Film critique/review	How to write a critique/review
Week 8	Group work on film critique	Students will work in groups to prepare for presentations
Week 9	Group presentations	Group presentations
Week 10	Race relations in USA	Students will learn about different ethnic groups in USA
Week 11	Stereotyping	How stereotyping occurs and related issue
Week 12	Culture differences	Students will do a simulation activity
Week 13	Mass media	How stereotyping occurs and related issue

Week 14 Commercials

Students will evaluate the appeal of commercials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will be assigned a one page report and/or do preparation for the next class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required for this course.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Weekly homework (40%), classroom participation (40%), and presentations (20%). No more than three absences will be permitted.

【学生の意見等からの気づき】

I appreciate student feedback and alter course materials based on that information.

【Outline (in English)】

This course will allow students to play an active role in language learning including activities focused on listening, speaking, reading and writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

近藤 隆子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

アカデミック・エッセイ、論文のアブストラクト、プレゼンテーションのスクリプトとスライドの書き方について扱う英語教材を通して、アカデミック・ライティングのスキルを養う。具体的には、自分の知識、経験、意見をフォーマルな英語で効果的に表現する力を育成する。また、自分の考えを的確に伝えるために必要な語彙や表現も学習する。

【到達目標】

- ・論理的構成をもつパラグラフを英語で書けるようになる
- ・英語で自分の意見を表現したり、グループでディスカッションする力を身につける
- ・他の学生の英語を聴いて理解し、質問できるようになる
- ・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

受講生は予習として教科書の指定された箇所を読み、問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って、エッセイを書くために必要な技法と語彙について説明していきます。ペアワーク・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、それぞれの意見を交換したり、英語でディスカッションをしてもらいます。課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	Unit 1 Key Features of Academic Essay	エッセイの重要な特徴について学ぶ
第 3 回	Unit 2 Title of Your Essay	タイトルの決定について学ぶ
第 4 回	Unit 3 Introduction of Your Essay	イントロダクションの役割について学ぶ
第 5 回	Unit 4 Body of Your Essay	ボディの構造について学ぶ
第 6 回	Unit 5 Conclusion of Your Essay	コンクルージョンのまとめ方について学ぶ
第 7 回	Unit 6-1 Feedback from Others	フィードバックの方法について学ぶ
第 8 回	Unit 6-2 Feedback from Others	フィードバックに挑戦する
第 9 回	Unit 7-1 Submitting Your Final Draft	エッセイの最終原稿提出に必要なプロセスを学ぶ
第 10 回	Unit 7-2 Submitting Your Final Draft	エッセイの最終原稿を提出する
第 11 回	筆記試験	試験・解説
第 12 回	Essay writing 1	様々なトピックに関するエッセイを書き、クラスメートにピア・レビューをしてもらったものを最終原稿に仕上げる

第 13 回 Essay writing 2

様々なトピックに関するエッセイを書き、クラスメートにピア・レビューをしてもらったものを最終原稿に仕上げる

第 14 回 Semester review

春学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教員の指示に従って教科書の指定範囲を予習する。

- ・ Warm-up Reading を読み、Comprehension Check をする
 - ・ Put It into Practice で Organization (文の構成)、Language (言語表現スタイル)、Content (伝達する内容) について読み、練習問題をする
 - ・ Do It Yourself で各章で取り上げた技法を練習する
- 課題が出された場合は、期限までに解答したうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Akiko Miyama, Mitsuko Yukishige, Tomoko Onabe, Junko Murao & Ashley Moore. "3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language" 金星堂、2019 年、2000 円 (税別)

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業への貢献 (グループ/ペアワークへの参加) 30 %、課題 20 %、エッセイ 20 %、筆記試験 30 % で評価します。特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります (30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします)。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業に出席してください
- ・授業には辞書を持参してください (英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い)
- ・積極的に授業に参加することが求められます
- ・授業中の携帯電話の使用は不可です (教室での授業の場合)
- ・遅隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students develop their academic writing skills using a textbook that deals with how to write academic essays, abstracts, presentation scripts and slides in English. It will also help students learn the vocabulary and expressions necessary to accurately convey their thoughts.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Students should be able to write logically organized paragraphs
- Students should be able to effectively participate in and facilitate discussions
- Students should acquire effective listening skills
- Students should be able to use dictionaries effectively

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on examination (30%), paragraphs and essay (20%), homework assignments (20%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

近藤 隆子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミック・エッセイ、論文のアブストラクト、プレゼンテーションのスクリプトとスライドの書き方について扱う英語教材を通して、アカデミック・ライティングのスキルを養う。具体的には、自分の知識、経験、意見をフォーマルな英語で効果的に表現する力を育成する。また、自分の考えを的確に伝えるために必要な語彙や表現も学習する。

【到達目標】

- ・論理的構成をもつパラグラフを英語で書けるようになる
- ・英語で自分の意見を表現したり、グループでディスカッションする力を身につける
- ・効果的なプレゼンテーションを行うための知識を身につける
- ・他の学生の英語を聴いて理解し、質問できるようになる
- ・英語辞書を効果的に使うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生は予習として教科書の指定された箇所を読み、問題を解いてから授業に臨んでください。授業では、基本的に教科書に沿って、アブストラクトやプレゼンテーションのスクリプト・スライドを書くために必要な技法と語彙について説明していきます。ペアワーク・グループワークの時間を多く設け、予習で分からなかった箇所を学生同士で説明し合ったり、それぞれの意見を交換したり、英語でプレゼンテーションやディスカッションをしてもらいます。課題へのフィードバックは学習支援システムと授業にて、適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、春学期の復習	授業の概要説明、春学期に学んだエッセイの書き方について復習する
第 2 回	Unit 8 Structure of a Research Paper	リサーチ・ペーパーの構造とイントロダクションについて学ぶ
第 3 回	Unit 9 Key Concepts of an Abstract	アブストラクトの重要な特徴について学ぶ
第 4 回	Unit 10 First Draft of Your Abstract	アブストラクトの草案を書く
第 5 回	Unit 11-1 Rewriting Your Abstract	アブストラクトの最終原稿を仕上げる
第 6 回	Unit 11-2 Rewriting Your Abstract	クラスメートとアブストラクトのピア・レビューをしてみよう
第 7 回	Unit 12 Key Concepts of Presentations	プレゼンテーションの基本的特徴について学ぶ
第 8 回	Unit 13 Preparing Visual Aids	視覚資料を作成する
第 9 回	Unit 14 Finishing Your Scripts	発表原稿を完成させる
第 10 回	Unit 15 Evaluating Your Presentation	プレゼンテーションの評価の仕方を学ぶ

第 11 回	筆記試験	試験
第 12 回	プレゼンテーションの準備	筆記試験の解説、グループでのプレゼンテーションの練習
第 13 回	プレゼンテーション (1)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答
第 14 回	プレゼンテーション (2)	受講者によるプレゼンテーション、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員の指示に従って教科書の指定範囲を予習する。

- ・ Warm-up Reading を読み、Comprehension Check をする
 - ・ Put It into Practice で Organization（文の構成）、Language（言語表現スタイル）、Content（伝達する内容）について読み、練習問題をする
 - ・ Do It Yourself で各章で取り上げた技法を練習する
- 課題が出された場合は、期限までに解答したうえで授業に出席する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Akiko Miyama, Mitsuko Yukishige, Tomoko Onabe, Junko Muraio & Ashley Moore. "3-Point Academic Writing: Organization, Content, Language" 金星堂、2019 年、2000 円（税別）

【参考書】

授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業への貢献（グループ／ペアワークへの参加）30 %、課題 20 %、プレゼンテーション 20 %、筆記試験 30 % で評価します。特別な理由なく講義を 4 回欠席した場合、不合格となります（30 分を超えた遅刻は 1 回の欠席とみなします）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布・課題の提出などには、学習支援システムを使用します。また、状況によっては、Zoom で授業を行うことがあります。

【その他の重要事項】

- ・初回の授業に出席してください
- ・授業には辞書を持参してください（英英辞典、英和・和英辞典どちらでも良い）
- ・積極的に授業に参加することが求められます
- ・授業中の携帯電話の使用は不可です（教室での授業の場合）
- ・遠隔の場合は代替案を授業中に指示します

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students develop their academic writing skills using a textbook that deals with how to write academic essays, abstracts, presentation scripts and slides in English. It will also help students learn the vocabulary and expressions necessary to accurately convey their thoughts.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Students should be able to write logically organized paragraphs
- Students should be able to effectively participate in and facilitate discussions and give presentations
- Students should acquire effective listening skills
- Students should be able to use dictionaries effectively

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignments. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on examination (30%), presentations (20%), homework assignments (20%), and in-class contribution (30%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

【到達目標】

論理的構成を持つパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションを聴いて理解し、質問できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、パラグラフの基本的な構成を学び、パラグラフを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。英語でのプレゼンテーション、ペアワーク、グループワークをおこなう。

予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方 パラグラフの構造
2	The Topic Sentence (1)	主題文とは
3	The Topic Sentence (2)	主題文を書く
4	The Supporting Sentences (1)	支持文とは
5	The Supporting Sentences (2)	支持文を書く
6	The Concluding Sentence (1)	まとめの文とは
7	The Concluding Sentence (2)	まとめの文を書く
8	Listing (1)	列挙のパラグラフとは
9	Listing (2)	列挙のパラグラフを書く
10	Time Order (1)	時間的順序のパラグラフとは
11	Time Order (2)	時間的順序のパラグラフを書く
12	Classification (1)	分類のパラグラフとは
13	Classification (2)	分類のパラグラフを書く
14	筆記試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

指示に従って教科書を予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。予習テストが出題された場合は、期限までに解答する。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2020 年 2200 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。

欠席が 4 回以上の場合は原則的に単位修得を認めない。予習テスト・課題を提出しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。英語で発話しやすくなるよう、グループワークで使える英語表現を紹介する。

【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出に学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、必ず毎日チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. The course will also help students acquire effective listening skills.

[Learning objectives]

By the end of this course, students should be able to write a logically organized paragraph, participate in and facilitate discussions, and deliver presentations.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text and submitted a test to check the understanding. They will also be given writing and speaking assignments during the semester. The required study time is at least one hour for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), writing assignments (30%) and final exam (40%).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

山崎 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を英語で効果的に表現する力を養う。具体的には、英語でパラグラフを書く力、グループでディスカッションする力、効果的なプレゼンテーションを行う力を育成する。

【到達目標】

論理的構成を持つ、様々な内容のパラグラフを英語で書けるようになる。平易な英語で自分の意見を表現できるようになる。英語での短いプレゼンテーションおよび質疑応答をおこなえるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、効果的なパラグラフとプレゼンテーションを書くために必要な技法と語彙を身につける。定期的に予習テストと発音課題を出題し、ユニットごとにライティングの宿題を課す。ユニットによっては英語での発表もおこなう。英語でのプレゼンテーション、ペアワーク、グループワークをおこなう。

予習テストと課題は学習支援システムを通じて出題とフィードバックをおこなう。

対面授業を基本とするが、必要に応じてオンライン授業の回を設ける可能性もある。毎回の授業形態は事前に学習支援システムから通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Comparison and Contrast (1)	比較・対比のパラグラフとは
2	Comparison and Contrast (2)	比較・対比のパラグラフを書く
3	Comparison and Contrast (3)	パラグラフの発表
4	Cause and Effect (1)	原因と結果のパラグラフとは
5	Cause and Effect (2)	原因と結果のパラグラフを書く
6	Cause and Effect (3)	パラグラフの発表
7	Problem-solution (1)	問題解決のパラグラフとは
8	Problem-solution (2)	問題解決のパラグラフを書く
9	Problem-solution (3)	パラグラフの発表
10	Introduction	プレゼンテーションの導入を書く
11	Body	プレゼンテーションの展開部を書く
12	Conclusion	プレゼンテーションの結論部を書く
13	Presentation practice	グループでのプレゼンテーション
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指示に従ってテキストを予習し、単語の意味調べなどを済ませた状態で出席すること。予習テストが出題された場合は、期限までに解答する。授業中に学んだ英語表現は覚えて使えるようにする。出された課題の指示にしたがって、英語の文章を書く、または発音練習をする。

【テキスト（教科書）】

Message Delivered < Lower Intermediate > 南雲堂 2020 年 2200 円（税別）

【参考書】

授業中に指示する。辞書は必ず持参すること。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、ライティング課題 30 %、試験 40 %。
欠席が 4 回以上の場合は原則として単位修得を認めない。予習テスト・課題を提出しなかった場合は平常点を減点する。遅刻・早退は減点の対象となる。

【学生の意見等からの気づき】

グループワークが効果的だったようなので、引き続き取り入れる。英語での質疑応答やディスカッションがしやすくなるよう、実例を示し、テーマ設定や導入の仕方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

情報の周知や課題提出には学習支援システムを使用する。必要に応じて Zoom と Google Document も使用する可能性がある。Zoom の回には、受講環境により、ヘッドセットが必要となる場合がある。

【その他の重要事項】

学習支援システムに掲載する情報は、大学から付与されたメールアドレスに届くので、必ず毎日チェックすること。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience in English. The course will also help students acquire effective listening skills.

[Learning objectives]

By the end of this course, students should be able to write logically organized paragraphs about different topics, participate in and facilitate discussions, and deliver presentations.

[Learning activities outside of classroom]

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text and submitted a test to check the understanding. They will also be given writing and speaking assignments during the semester. The required study time is at least one hour for each class meeting.

[Grading criteria /Policy]

Grading will be decided based on in-class contribution (30%), writing assignments (30%) and final exam (40%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

THOMAS G POWER

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, students will develop the academic skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

【到達目標】

The goal of this course is to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. Students will develop speaking skills by discussing issues in pairs or groups and by making presentations about topics of personal interest. Students are encouraged to express their opinions and ideas clearly in academic writing and in presentations and to apply critical thinking skills in the analysis and discussion of reading passages.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

The first class will be "online". All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. Students will study 5 units in the textbook in the first semester. As each unit is completed, students will discuss the topics introduced in the unit with a partner or in small groups. Students will practice writing academic paragraphs and giving presentations with peer feedback. There will also be periodic quizzes on the textbook content. Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class and in Google Classroom.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction:	Self-introductions, Ice-breaker requirements, tasks, activity goals
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships	Asking questions Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships	Discussing pet peeves Linked sounds
Week 4	Unit 1 Describing personality & relationships	Crossword Puzzle Info gap Personality Questionnaire
Week 5	Unit 2 Jobs, career skills	Comparing with gerund phrases Paragraph format and structure
Week 6	Unit 2 Jobs, career skills	Job titles and job definitions Important personal qualities for jobs

Week 7	Unit 2 Jobs, career skills	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 8	Unit 3 Favors, requests, messages	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests
Week 9	Unit 3 Favors, requests, messages	Unreleased consonants Collocations
Week 10	Unit 3 Favors, requests, messages	Leaving messages, Making indirect requests
Week 11	Unit 4 Narrating a story	Describing events in the past Using past verb forms
Week 12	Unit 4 Narrating a story	Listen to news broadcasts React to news
Week 13	Unit 5 Comparing different cultures	Quiz Units 3-4 Describing customs Giving advice Using modals of necessity
Week 14	Presentations- Which Job is better? (or) My 3 pet peeves	Presentations Interchange 3 Discussion activity

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The first class will be "online". All other classes will be face-to-face on the Ichigaya campus unless otherwise announced. Active participation is essential. It is important that you are well prepared for each class and meet on time. If you are absent, you must complete all missed assignments, inform me in person or by email, and be ready for the next class. Assignments will be submitted in Google Classroom with feedback online and in the next class.

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Interchange 3 Student's Book, Richards 5th ed. ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most research will be done on the internet and in the library.

【成績評価の方法と基準】

You will be graded on:

20% Active participation in English

30% Weekly homework and paragraph assignment

20% Two Presentations

30% Quizzes/tests

* Students must attend 80% of the classes in order to pass. (No more than 3 unexcused absences are allowed.)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【Outline (in English)】

In this course, students will develop the academic skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms. Students will study paragraph writing, critical thinking skills, discussion skills, and presentation skills in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer Review narration of events
Week 2	Unit 5 Comparing different cultures: vocabulary & listening	Describing customs State feelings about living abroad
Week 3	Unit 5 Comparing different cultures: reading & speaking	Stating customs in complex sentences
Week 4	Unit 5 Comparing different cultures: discussion & writing	Discuss foreign & Japanese customs Write 2 paragraphs on foreign customs
Week 5	Unit 6 Describing problems: vocabulary & listening	Making complaints Describing problems with household items
Week 6	Unit 6 Describing problems: reading & speaking	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems

Week 7	Unit 6 Describing problems: discussion & writing	Describe problems in rooms of a house Write about a problem with something purchased
Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 Environmental and world issues: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Identifying, describing problems Using the passive voice to point out negative effects
Week 9	Unit 7 Environmental and world issues: reading & speaking	Coming up with solutions to problems Using infinitives of purpose
Week 10	Unit 7 Environmental and world issues: discussion & writing	Discuss social problems & solutions Write about social problems
Week 11	Unit 8. Learning and education: vocabulary & listening	Describing preferences, Talking about learning methods
Week 12	Unit 8. Learning and education: reading & speaking	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 13	Unit 8. Learning and education: discussion & writing	Discuss self improvement & ways to learn things
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on foreign customs & social problems

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Self-Study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%
Class participation 15%
Quizzes/Tests 50%
Speech/Presentation 10%
* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook
Students should join Google Classroom for this course.
Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline (in English)】

In this course, students will learn to develop their communicative competence by express their opinions, knowledge, and experience effectively in speaking and writing for a variety of purposes and situations.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

石原 紀子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using paragraph writing. You will become aware of some social issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This class involves a number of highly interactive activities. Depending on the pandemic situation, class may be delivered face-to-face, online, or through combination. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Self-introduction, course information, ice-breaking activity
2	The effects of advertising (Unit 1): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary
3	The effects of advertising (Unit 1): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
4	Extreme sports (Unit 2): Day 1	Critical cartoon, discussion, core vocabulary, essay structure and writing

5	Extreme sports (Unit 2): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
6	Our aging population (Unit 3): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Our aging population (Unit 3): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
8	Robots in the home (Unit 4): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
9	Robots in the home (Unit 4): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Animals: Our research partners? (Unit 5): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	The online information database (Unit 6): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	The online information database (Unit 6): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies for the summer

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You must finish some reading/listening tasks and learn the vocabulary online before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content may be distributed in the course website. Bring some loose sheets of paper for occasional writing practice.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments and writing (20%)
- 3) Weekly quizzes (60%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in special circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught as much as possible in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【その他の重要事項】

この授業は履修者同士のインタラクションが多い活動を数多く行いますので、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性があります。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知します。

【Outline (in English)】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

石原 紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for understanding others and expressing yourself in basic English. The main goal is communication, not translation or accuracy. We will focus on listening and speaking skills, but you will also practice writing academically using multiple paragraphs. You will become aware of some issues in the world and able to communicate your ideas about them in English. You will also gain an enhanced understanding of global cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This class involves a number of highly interactive activities. Depending on the pandemic situation, class may be delivered face-to-face, online, or through combination. Please check the announcement to be made on Hoppii before the start of the course.

Before class you must prepare for the class meeting by using the book and online exercises independently (see below). In class, we review the new material, practice the language in pairs, and discuss ideas in small groups. You are encouraged to actively participate in the task/problem-based learning (TBL/PBL) through group work. Feedback will be given immediately upon your response to unit quizzes. Oral feedback will be provided in interaction throughout the course. Written feedback will be offered for your written essays within a week of submission.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course information, warm-up activities
2	Online advertising (Unit 7): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
3	Online advertising (Unit 7): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
4	Winning at any cost (Unit 8): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary, essay structure and writing
5	Winning at any cost (Unit 8): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking

6	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
7	Do you want to live forever? (Unit 9): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
8	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
9	I lost my job to a machine (Unit 10): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
10	Treatment of animals (Unit 11): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
11	Treatment of animals (Unit 11): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking, essay structure and writing
12	Who owns the news? (Unit 12): Day 1	Critical cartoons, discussion, core vocabulary
13	Who owns the news? (Unit 12): Day 2	Discussion, understanding inferences, critical thinking
14	Wrap-up	Final reflection and independent studies

【Outline (in English)】

In this course, you will read and listen to essays on timely topics, practice the language, and exchange your opinions and experiences related to the themes. We will focus on the development of frequently-used vocabulary and general fluency in discussion. In order to improve your communicative English, you need to practice English before and after each class meeting as instructed using online materials.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You must finish the specified listening/reading and comprehension tasks as well as vocabulary exercises online (“Core Vocabulary”) before coming to class. Also study the textbook to become familiar with the topic of the week and to get ready for discussion. Preview and review your lesson thoroughly after class for at least one hour each week.

University guidelines suggest the preparation and review time of around an hour a week for a one-credit course. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

In Focus 1 (2014) by Brown, Culligan, & Phillips. Cambridge University Press.

【参考書】

Handouts related to the course content may be distributed in the course website. Bring some loose sheets of paper for occasional writing practice.

【成績評価の方法と基準】

- 1) Participation (20%)
- 2) Online assignments and writing (20%)
- 3) Unit quizzes (60%)

Regular attendance is essential in order to benefit from the interactive nature of this course. You will not be able to pass this course if you miss more than three class periods a semester except in special circumstances.

【学生の意見等からの気づき】

Most students have very little opportunity to use English outside of class. In order to maximize the chance, this class will be taught as much as possible in English. It's all right to make mistakes; focus on communication! Participate actively and express your ideas openly.

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、Google Classroom、Zoom 等を使用して授業を行いますので、大学のアカウントでログインし、大学の電子メールを毎日確認してください。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。Please be prepared to use Hoppii, Google Classroom, and Zoom with your university account and check your university email daily. You will need to use a headset with a microphone if you are attending class on campus.

【その他の重要事項】

この授業では履修者同士のインタラクションを含む活動を数多く行いますので、感染状況など社会情勢により授業形態を柔軟に変更する可能性があります。詳細は授業開始前に授業支援システムにより周知します。

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

DONALD W WHYTE

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】

The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid them in preparation for presentations on the topics covered.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In pairs and in groups, students will read, discuss and write about a variety of topics.

Homework will be given to prepare students for the following class.

Submission of assignments and individual feedback will be on the Learning Management System.

General feedback on assignments will be given in class.

If we cannot meet in the classroom, real time Zoom meetings will be arranged. In both cases, active participation is essential.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course	Explanation of the course, class "rules" and expectations. Pair work and group discussion practice.
Week 2	Unit 1 Learning with a purpose.	Goals and plan of action
Week 3	Unit 2 Speaking up in class.	Overcoming barriers
Week 4	Unit 3 Information everywhere.	Becoming information literate
Week 5	Presentation 1	All students to give a presentation on the topics covered so far.
Week 6	Unit 4 Preparing for a trip	Planning ahead
Week 7	What is culture ?	Examining the meaning of culture and how it is always changing.

Week 8	Unit 5 Living in a new culture.	Overcoming culture shock.
Week 9	Unit 6 Cultural stereotypes.	Developing respect for others.
Week 10	Presentation 2	All students to give a presentation on the previous three topics.
Week 11	Unit 7 You are what you eat.	Maintaining a healthy Diet.
Week 12	Unit 8 Living with water.	The natural way to health.
Week 13	Unit 9 Problems and hope.	Protecting the environment.
Week 14	Presentation 3	All students to give a presentation on the previous three topics.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will be given to help students prepare for the following lesson.

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class.

It is recommended that students spend 1-2 hours a week outside of class so that they are properly prepared for the following class.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Richard McMahon(2017) Presenting Different Opinions. Na'un-do Co. Ltd. ISBN4-523-17413-X

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most of which will be on the internet.

【成績評価の方法と基準】

Class participation - 20%

Homework/classroom assignments - 20%

Presentation 1 - 20%

Presentation 2 - 20%

Presentation 3 - 20%

Total - 100%

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given supplementary materials and references to allow them to examine the topics in a more thorough way.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

DONALD W WHYTE

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

【到達目標】

The goal of this course is to improve all aspects of English study. Reading skills will be introduced to improve comprehension. Vocabulary exercises will aid in all aspects. The basic structure of a paragraph will be studied so that students are able to organize their thoughts in a logical way. This will aid them in preparation for presentations on the topics covered.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

In pairs and in groups, students will read, discuss and write about a variety of topics.

Homework will be given to prepare students for the following class.

Submission of assignments and individual feedback will be on the Learning Management System.

General feedback on assignments will be given in class.

If we cannot meet in the classroom, real time Zoom meetings will be arranged. In both cases, active participation is essential

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction to the course.	Explanation of the course, class "rules" and expectations. Pair work and group discussion practice.
Week 2	Women's Rights.	Considering human rights and equality around the world.
Week 3	Consumerism.	How to be a conscientious shopper.
Week 4	The Workplace.	The changing world of work.
Week 5	Presentation 1	All students to give a presentation on an aspect of "Society" that we have considered.
Week 6	Relationships.	Traditional v alternative relationships
Week 7	Caring.	Caring for children, the old and the disabled.
Week 8	Volunteering.	How to help others through volunteer work, charity and donations
Week 9	The relation between humans and nature.	Caring for the plant and animal world.

Week 10	Presentation 2	All students to give a presentation on "Relationships".
Week 11	Newspapers.	The traditional media.
Week 12	Television.	The good and bad influence of all visual media
Week 13	Technology.	The effect of AI and social media.
Week 14	Presentation 3	All students to give a presentation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will be given to help students prepare for the following lesson.

Students are required to practice all assigned readings at home so they can be spoken and read fluently in class. Presentations are to be researched and prepared outside of class.

It is recommended that students spend 1-2 hours a week outside of class so that they are properly prepared for the following class.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

ISBN4-523-17413-X Richard McMahon(2017) Presenting Different Opinions. Na'un-do Co. Ltd.

【参考書】

Students are required to refer to various sources when researching for writing and presentation assignments. Most of which will be on the internet.

【成績評価の方法と基準】

Participation - 20%

Homework/classroom assignments - 20%

Presentation 1 - 20%

Presentation 2 - 20%

Presentation 3 - 20%

Total - 100%

【学生の意見等からの気づき】

Students will be given supplementary materials and references to develop a deeper understanding of the topics.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide students with the opportunity to improve their academic skills, think critically, and present their opinions in reports and presentations on a variety of topics in English.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System (HOPPII).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and getting to know you	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	1B: The perfect date	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	1C: The Remake Project	Clothes. Prepositions of place
4	Practical English: Hotel problems	Reporting problems, offer to do something, greeting a friend
5	2A OMG! Where's my passport	Past simple
6	2B That's me in the picture	Past continuous
7	2C One dark October evening	Time sequencers, connectors
8	3A Trip Aside	Be going to (plans, predictions)
9	3B Put it in your calendar!	Present continuous (future arrangements)
10	3C Word games	Defining relative clauses
11	Practical English: Restaurant Problems	Ordering food in a restaurant, explaining a problem, asking about somebody's plans
12	4A Who does what?	Present perfect + yet, just, already
13	4B In your basket	Present perfect vs. past simple
14	Revise & Check	Reviewing Units 1-4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring an English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Test after each chapter 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 4 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more often.

【Outline (in English)】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Feedback will be given on the Learning Management System (hOPPII).

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	5A I want it now!	Comparative adjectives and adverbs, as ... as
2	5B Twelve lost wallets	Superlatives + ever+ present perfect
3	5C How much is enough?	Quantifiers
4	Practical English: The wrong shoes	Making suggestions, Taking something back to a shop, Arranging a time to meet somebody
5	6A Think positive - or negative	Will/won't predictions
6	6B I'll always love you	Will/won't/shall
7	6C The meaning of dreaming	Review of verb forms present, past and future
8	7A First day nerves	Uses with the infinitive with to
9	7B Happiness is ...	Uses of the gerund
10	7C Could you pass the test?	Have to, don't have to, must, mustn't
11	Practical English: At the pharmacy	Describing symptoms when feeling ill, getting medicine at a pharmacy
12	8A Should I stay or should I go?	should
13	8B Murphy's Law	if+present, will+infinitive
14	Revise & Check	Reviewing Unit 5-8

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework will include writing and preparation tasks. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring an English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Tests/Presentation/Composition 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 4 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested easier listening exercises.

【Outline (in English)】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

【到達目標】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format and in spoken language, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization. Students will be encouraged to express their opinion in spoken English giving reasons and asking questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.

We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

All assignments will be issued, submitted and returned in digital format via Google Classroom. All written assignments will be returned with detailed comments showing how students can improve their writing skills.

This is an online course and all lessons will be taught on Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction of Course / Google Classroom / Policies.	Introduction of English Writing, assignments and assessment.
2.	Vacations	Vocabulary of vacations and small group discussion. Giving an opinion.
3.	Vacations: Listening	Listening to expressions to give an opinion. Shadowing with Audio and Text.
4.	Vacations: Group Discussion	Small group discussion and planning a vacation
5.	Vacations: Writing	Basic paragraph structure using Adjectives: Topic Sentence, Supporting ideas, Concluding sentence.
6.	Part-Time jobs:	Vocabulary and discussion of part-time jobs.

7.	Part time jobs: Listening	Listening to expressions to give reasons. Shadowing with Audio and Text.
8.	Part time jobs: Group discussions	Small group discussions and giving advice about part time jobs.
9.	Part time jobs: Writing	Write a paragraph to give advice and reasons about having a part time job at university.
10.	Hopes and Dreams:	Vocabulary and discussion of work and future actions.
11.	Hopes and dreams: Listening	Listening to different styles of questions. Shadowing with Audio and Text. Closed/Open/Choose questions
12.	Hopes and Dreams: Group discussion	Small group discussions and giving advice about part time jobs. Negative and tag questions
13.	Hopes and Dreams: Writing	Prepare a paragraph about future activities.
14.	BBC Ideas Video	Watch a BBC Ideas video and complete a worksheet.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 Homework assignments writing different styles of paragraph.

All assignments written in digital format and submitted via Gmail.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book One", Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Written Homework Assignment:20%

Worksheet Assignments:30%

Participation: 20%

3 Mini-Tests: 15%

On-line Homework: 15%

Attendance: In Principle: no more than 3 absences are allowed to achieve a Credit grade for this course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability. Access to Zoom (Zoom.us) is required. Students will be required to use headphones if joining the lesson from Hosei University classrooms. Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom". Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code is: 17lp5sk

【Outline (in English)】

The course will focus on Academic writing as a process. Students will prepare paragraphs with Topic Sentences, Supporting ideas and concluding sentences. The course will also allow students to practice their English speaking skills through discussion of topics provided by the text book. Reading and listening skills will also be practiced. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is a required course for first year students. Students will practice speaking and listening skills but the focus of this course is on effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will be able to apply these skills to any other subjects that they study in their university studies and in future work environments.

【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.

Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity. Students will prepare an essay outline with: an Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.

Students may be required to prepare a short presentation in which they demonstrate their understanding of the correct format for an Academic Essay. All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction of goals for semester 2.	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Eating Out: Understanding Criteria	Small group discussion. Vocabulary for criteria
Class 3	Eating Out.	Listening and shadowing. Where does English come from?

Class 4	Eating out.	Group task: Grade a restaurant using criteria. Why is English the International language of Trade?
Class 5	Eating Out.	Writing: Prepare an Essay outline about a Topic.
Class 6	Family: Agreeing and Disagreeing	Small group discussions. Essay Structure Introduction, Body Conclusion Thesis statement
Class 7	Family	Listening and Shadowing. Ballad Groups: Prepare a ballad presentation
Class 8	Family.	Using expressions for agreeing and disagreeing. Ballad preparation
Class 9	Family:	Role Play a family problem. Writing: Cohesive Body paragraphs
Class 10	Interests: Supporting your reasons.	Small group discussions and Vocabulary. Ballad Presentation preparation.
Class 11	Interests	Listening and shadowing. Using supporting sentences in speech and writing.
Class 12	Interests	Writing: Conclusion paragraphs. Final Ballad Preparation
Class 13	Presentation	Groups present their Ballad Presentations to the class.
Class 14	Final Presentations and Review	Groups present their Ballad Presentations to the class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book One" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】

To be advised during course

【成績評価の方法と基準】

Homework written assignments: 30%

Mini-tests: 15%

On-line homework: 15%

Participation: 20%

Presentation: 10%

Video Worksheets: 10%

"In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course".

【学生の意見等からの気づき】

New Text-book and course structure. More focus on speaking.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their devices to class. A smartphone is acceptable but a tablet or laptop device is strongly encouraged. Students should have access to Japanese English and English - English e-dictionaries. Paper and pens/pencils might be required for mind-mapping and preparing diagrams.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom". Please download "Classroom" from the Google store before the first lesson. The Course code for the class is: 5ro3v2j

【Outline (in English)】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice preparing a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Peer editing, using standard word processor software, will be practiced.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木 真奈美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17
5	Units 3-4	pp.18-25

6	Preparation for Debates	You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Units 5-6 Preparation for a Group Presentation	pp.26-33 You will prepare for a group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Units 7-8	pp.34-41
13	Units 9-10	pp.42-49
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
- 2) to watch or listen to an English program regularly.

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鈴木 真奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.
5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.

6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
10	Presentation	You will make a presentation.
11	Presentation	You will continue to make a presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
- 2) to watch or listen to an English program regularly.

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (50%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

SHAWN M DE HAVEN

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

The goals of this course are as follows:

- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1: Good Memories (Getting to know each other)	Get to know each other in pairs Practice past tense
2	Unit 1	Listening practice Write a paragraph about what they did as a child
3	Unit 2: Life in the City	Talk about their hometown in pairs Work on quantity expressions
4	Unit 2	Listening practice Giving directions skit
5	Unit 3: Making Changes	Talk about their home in pairs Look for an apartment near campus
6	Unit 3	Listening practice Read article and discuss
7	Midterm (Units 1-3)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 4: Have you ever tried it?	Discuss eating habits in pairs and groups Review grammar focus
9	Unit 4	Listening and reading practice Presentation on cooking
10	Unit 5: Hit the road!	Talk about vacation plans in pairs/groups Review future tense
11	Unit 5	Listening practice Write a paragraph about travel

12	Unit 6: Sure! I'll do it.	Talk about living with other people. Practice orders/requests
13	Unit 6	Listening/ reading practice Produce a skit with the grammar learned
14	Final exam (Units 4-6)	Test on vocabulary and grammar
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.		
【テキスト（教科書）】		
Interchange 2, 5th edition		
【参考書】		
Dictionary: https://www.merriam-webster.com Grammar help: https://www.grammarly.com		
【成績評価の方法と基準】		
Mid-term 25%		
Final Exam 25%		
Writing Assignments 25%		
Presentations and Effort 25%		
No more than 3 absences will be allowed.		
Feedback will be given in class and online.		
【学生の意見等からの気づき】		
No feedback.		
【学生が準備すべき機器他】		
Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities. (tablet preferred if possible)		
【その他の重要事項】		
None.		
【Outline (in English)】		
The aim of this course is to reinforce grammar skills while helping students improve their speaking, listening, reading, and writing skills.		

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

SHAWN M DE HAVEN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

The goals of this course are as follows:

- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Talk in pairs about technology Grammar focus on infinitives and gerunds
2	Unit 7	Listening practice Write a message to your roommate
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair and group work Review grammar
4	Unit 8	Pair and group work Review vocabulary Write about your favorite holiday
5	Unit 9: Only time will tell	Pair and listening work about differences in the past
6	Unit 9	Pair and group work Practice word pairings Discuss and practice cause/effect sentences Reading practice
7	Midterm (Units 7-9)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 10:	Pair and group work Prepare biographical presentation (using Padlet)
9	Unit 10	Make a presentation in front of class
10	Unit 11: It's really worth seeing!	Discuss landmarks and other sites in pairs/ groups Practice passive voice

11	Unit 11	Pair and group work Write a guide to your city.
12	Unit 13: That's entertainment!	Pair and group work regarding movies Practice particles as adjectives
13	Unit 13	Role playing Write and film a movie review
14	Final exam (Units 10-12)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2, 5th edition

【参考書】

Dictionary:

<https://www.merriam-webster.com>

Grammar help:

<https://www.grammarly.com>

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentations and Effort 25%

No more than 3 absences will be allowed.

Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities.
(tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】

None.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to reinforce grammar skills while helping students improve their speaking, listening, reading, and writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での **speaking, writing, listening** の練習をすることで、情報収集や **paragraph writing, discussion** に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、**speaking** や **writing** で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方として、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に **listening, speaking, writing** の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには **reading** のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、**speaking** のパフォーマンステストや語彙テストも行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO 小テスト (語彙, 表現)
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading に関するテストを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ (日本語)・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習 (語彙や内容のチェック) し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト (教科書)】

テキスト名： Time Zones 4 (Second Edition) - Student Book (Text only)

著者： David Bohlke and Jennifer Wilkin

出版社： Cengage Learning

出版年： 2016 年

価格： 2250 円 + 税

ISBN: 9781305259874

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 % (授業中の活動・小テスト・課題)
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻 (授業開始時刻から 10 分を超える場合) で 1 回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの (交通機関の遅延証明書等) がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。通信可能な電子辞書やスマートフォン等のアプリケーションの辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【その他の重要事項】

授業に関する質問がある場合、授業前後に教室にて受け付けます。メールで質問する場合は、授業支援システムにて、この授業の「お知らせ」を参照してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build up the vocabulary knowledge needed to gather information to write essay paragraphs and have discussions in English.

< Learning Objectives >

1. Students will be able to use the English expressions they have learned, and will be able to give their ideas and experiences to classmates verbally.
2. By using English expressions they have learned, the students will be able to share their opinions with each other.
3. Students will be able to write essay paragraphs in logical order, and they will be able to express their ideas and experiences to classmates within the composition.
4. Students will be able to understand all the vocabulary in the textbook and they will be able to use them when speaking and writing.

< Learning activities outside of classroom >

In this course, students should be prepared for class and should be able to review what they have learned in one hour. Before class for Unit (1), students should check the meanings of new vocabulary and phrases in “Language Focus”, and practice reading them out loud. Before class for Unit (2), students should read the passage in the Unit in advance, and write down the following in their notebooks: new vocabulary, summary of the passage in Japanese, and “Comprehension” answers. In addition, students should preview what they will learn beforehand in order to understand topics for discussions in the textbook. After class, students have to review what they have learned.

< Grading Criteria/Policy >

1. Class activities (small tests and writing assignments) 30%
2. Preparation (vocabulary, summary and “Comprehension” answers) 20%
3. Final test 50%
 - ・Students will fail the course if they are absent four times or more during the entire unit.
 - ・If a student is late three times, it is counted as one absence.
 - ・Students should show proof of their delay and absence.
 - ・Students who talk in class, use a phone, doze/sleep, or come to class without the textbook will be get a black mark.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での **speaking, writing, listening** の練習をすることで、情報収集や **essay writing, discussion** に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、**speaking** や **writing** で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方として、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に **listening, speaking, writing** の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには **reading** のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、**speaking** のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティ
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO 小テスト (語彙, 表現)
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading に関するテストを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には **Language Focus** の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「**Reading** の予習」を行ってください。「**Reading** の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ (日本語)・**Comprehension** の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習 (語彙や内容のチェック) し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト (教科書)】

テキスト名: **Time Zones 4 (Third Edition) - Student Book (Text only)**

著者: **David Bohlke and Jennifer Wilkin**

出版社: **Cengage Learning**

出版年: **2016 年**

価格: **2250 円 + 税**

ISBN: **9781305259874**

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 % (授業中の活動・小テスト・課題)
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻 (授業開始時刻から 10 分を超える場合) で 1 回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの (交通機関の遅延証明書等) がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。通信可能な電子辞書やスマートフォン等のアプリケーションの辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【その他の重要事項】

授業に関する質問がある場合、授業前後に教室にて受け付けます。メールで質問する場合は、授業支援システムにて、この授業の「お知らせ」を参照してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build up the vocabulary knowledge needed to gather information to write essays and have discussions in English.

< Learning Objectives >

1. Students will be able to use the English expressions they have learned, and will be able to give their ideas and experiences to classmates verbally.
2. By using English expressions they have learned, the students will be able to share their opinions with each other.
3. Students will be able to write essay paragraphs in logical order, and they will be able to express their ideas and experiences to classmates within the composition.
4. Students will be able to understand all the vocabulary in the textbook and they will be able to use them when speaking and writing.

< Learning activities outside of classroom >

In this course, students should be prepared for class and should be able to review what they have learned in one hour. Before class for Unit (1), students should check the meanings of new vocabulary and phrases in "Language Focus", and practice reading them out loud. Before class for Unit (2), students should read the passage in the Unit in advance, and write down the following in their notebooks: new vocabulary, summary of the passage in Japanese, and "Comprehension" answers. In addition, students should preview what they will learn beforehand in order to understand topics for discussions in the textbook. After class, students have to review what they have learned.

< Grading Criteria/Policy >

1. Class activities (small tests and writing assignments) 30%
2. Preparation (vocabulary, summary and "Comprehension" answers) 20%
3. Final test 50%
 - ・ Students will fail the course if they are absent four times or more during the entire unit.
 - ・ If a student is late three times, it is counted as one absence.
 - ・ Students should show proof of their delay and absence.
 - ・ Students who talk in class, use a phone, doze/sleep, or come to class without the textbook will be get a black mark.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。オリンピックが延長になり、コロナが蔓延しているなかで外国人が少なく彼らに話しかける機会もないと思われますが積極的に話せるようにして欲しいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の進め方に関しては以下のとおりです。教科書"Impact Issues 2"に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をします。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでものをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがあってそれらをおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

フィードバックとしては予習復習をきちんとしてくること。各ユニットにおいてのテーマを把握するように。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Self Introduction	Introducing your self by interacting with your class mates in English
2	Unit 1 First Impressions	What is your first impression of people when you meet them. What do you liked in others, what is most attractive to you?
3	Unit 1 First Impressions	Continuation of the previous unit. Who do you agree with, Sandy or Tamara? Why? Discussions on what appearance and personality/lifestyle mean to you and what your class mates think about it.
4	Unit 2 Big or Small	What do you think of living in a big city or a small town? Where would you rather live?
5	Unit 2 Big or Small	Continuation of the previous unit. What are the pros and cons of a living in a big city or a small town. Discuss.

6	Unit 3 The Good Language Learner	What do you think about local language? Is it important to learn the local language when you are visiting that place?
7	Unit 3 The Good Language Learner	Is English an international language? Do we have to learn it? Why?
8	Unit 5 Forever Single	Is marriage important? What do you think about being single?
9	Unit 5 Forever Single	What are the merits or demerits of being single or being married? What do you think about LGBTQ.
10	Unit 7 What's for Lunch Preparation of the presentation	How are we thinking about our environment? Does food have any relationship to climate change?
11	Unit 7 What's for Lunch Preparation of the presentation	How does food relate to global warming? Consider about food loss and food waste.
12	Unit 7 What's for Lunch Preparation of the presentation	What kind of healthy food do we eat? Think about food loss and food waste.
13	Presentation	Presentation
14	Test	Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキストに関しては授業内で話された課題などの予習・復習などの準備学習・宿題をしてクラスメートとディスカッションができるようにする。

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2

Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka Pearson

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%。とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom を使用します。そのため大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要となります、

【Outline (in English)】

Outline and objectives

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their class mates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria For preparing for the class, students are required to read the text book and understand what is written there. Policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書”Impact Issues 2”に入る前に簡単なリスニングを簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Presenting the interview done during the summer holidays. Poetry	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on their interview with foreigners visiting Japan studying poetry. Or read the poem.
2	Studying poetry	"What do I Remember of the Evacuation" Studying the symbols in the poetry.
3	Unit 6 Our Online Past	We live in a world of SNS. What is the danger of online posting?
4	Unit 6 Our Online Past	Did you have any problems of online posting or do you know of any who had problems? Discuss.
5	Poem Recitation	Reciting the poem you have written.

6	Unit 10 My Student Life	Because of Covid 19, we are forced to have an inconvenient life. What do you think about university life in times like this.
7	Unit 10 My Student Life	What is the purpose of going to a university? Discuss the pros and cons.
8	Unit 11 International Relationships	We live in a global world right now. The world is getting smaller and smaller. What are the advantages and the disadvantages of an international marriage.
9	Unit 11 International Relationships	What is the most important thing in an international relationship. What is it to be international.
10	Unit 12 Create another Future Preparing for the presentation	What is the problem in our world right now? What do you think will happen in our future?
11	Unit 12 Create another Future Preparing for the presentation	How serious we have to think about our future. Do we think of our future lightly or not.
12	Unit 12 Create another Future Preparing for the presentation	What can we do to save our world we live in. Think about SDGs.
13	Presentation	Presentation
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation."

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2

Richard R Day Joseph Shales Junko Yamanaka

Pearson

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%。とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their class mates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハ・ラク・ラフという文章形式の構造を理解し、英語でパラグラフを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを知り、実践する。題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようにする。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ・ラク・ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べることができる。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリスムで話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

最初にパラグラフ形式の特徴と、その論証的構造を講義する。次いで特定のテーマで実際にパラグラフを書く。推敲プロセスの数段階で講師のチェックと添削が入る。次に、書き上げたパラグラフをもとにしてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに関する実践的な講義を行い、発表の構成方法、プレゼン資料の作成に関するコツなどを知る。それを踏まえてスクリプトを練り上げる。プレゼン資料の作成や発音練習を経た上で、プレゼンテーションする。発表者は他の学生からの評価や感想を得る。学生たちのプレゼンを受けて、同一テーマでさらにもうひとつパラグラフを仕上げる。パラグラフやスクリプトの推敲段階で講師の添削やピアレビューによるフィードバックを行う。またプレゼンテーションに対するフィードバックは、評価ポイントを指定したうえで聞き手の学生にも感想やコメントを求める。

授業ではネットの音声素材や講師が作ったウェブアプリを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	パラグラフについて	・パラグラフの内容と構造 ・パラグラフの見本 ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
3	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティングの講義 ・パラグラフの各文を繋ぐ英語表現と使い処 ・プロセスライティング 1
4	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティング 2 ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2
5	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティング 3 (アウトラインの提出)

6	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティング 4 (第 1 稿の提出) ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
7	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティング 5 ・プレゼンテーションの方法と心構え
8	ライティング課題 1 プレゼンテーション 課題 「優れた経営」	・プロセスライティング 6 ・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題 4
9	プレゼンテーション 課題 ライティング課題 2 「優れた経営」	・プレゼンテーションの準備
10	プレゼンテーション 課題 ライティング課題 2 「優れた経営」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 1 ・ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション 課題 ライティング課題 2 「優れた経営」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 2 (アウ トラインの提出)
12	ライティング課題 2 「優れた経営」	・プロセスライティング 3 (第 1 稿の提出) ・単語テスト ・ディクテーション課題 6
13	ライティング課題 2 「優れた経営」	・プロセスライティング 4
14	ライティング課題 2 「優れた経営」	・プロセスライティング 5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間にも必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

・『LINKS 1500 —大学生のためのトピック別必修英単語—』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）
その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス）30%、ライティング課題 45%、プレゼンテーション 25%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。
30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

Objectives

- Knowledge of the form and logical contents of paragraph
- Ability to argue about your opinions academically
- Ability to write them in an English paragraph
- Ability to make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. You will receive corrections and comments on your drafts from a tutor and students. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Writing assignments 45%
- Presentation assignment 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前学期に引き続いてパラグラフ形式の英文作成、およびプレゼンテーションを行い、これらの習熟度を深める。

題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようにする。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ・ラク・ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べるができる。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリスニングで話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

パラグラフ形式とその論証的構造をおさらいする。今学期も別のテーマで実際にパラグラフを書く。推敲プロセスの数段階で講師のチェックと添削が入る。次に、書き上げたパラグラフをもとにしてプレゼンテーションを行う。発表の構成方法、プレゼン資料の作成に関するコツなどを復習する。それを踏まえてスクリプトを練り上げる。プレゼン資料の作成や発音練習を経た上で、プレゼンテーションする。発表者は他の学生からの評価や感想を得る。学生たちのプレゼンを受けて、同一テーマでさらにもうひとつパラグラフを仕上げる。パラグラフやスクリプトの推敲段階で講師の添削やピアレビューによるフィードバックを行う。またプレゼンテーションに対するフィードバックは、評価ポイントを指定したうえで聞き手の学生にも感想やコメントを求める。

授業ではネットの音声素材や講師が作ったウェブアプリを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	ライティング課題 1「教育論」	・パラグラフの内容と構造（おさらい） ・春学期のフィードバックとパラグラフの見本 ・プロセスライティング 1 ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
3	ライティング課題 1「教育論」	・プロセスライティング 2
4	ライティング課題 1「教育論」	・プロセスライティング 3（アウトラインの提出） ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2

5	ライティング課題 1「教育論」	・プロセスライティング 4（第 1 稿の提出）
6	ライティング課題 1「教育論」	・プロセスライティング 5 ・プレゼンテーションの方法と心構え（おさらい） ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
7	ライティング課題 1 プレゼンテーション課題 「教育論」	・プロセスライティング 6 ・プレゼンテーションの準備
8	ライティング課題 1 プレゼンテーション課題 「教育論」	・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題 4
9	プレゼンテーション課題 ライティング課題 2 「教育論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 1
10	プレゼンテーション課題 ライティング課題 2 「教育論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 2 ・ディクテーション課題 5
11	ライティング課題 2 「教育論」	・プロセスライティング 3（アウトラインの提出）
12	ライティング課題 2 「教育論」	・プロセスライティング 4（第 1 稿の提出） ・ディクテーション課題 6 ・プロセスライティング 5
13	ライティング課題 2 「教育論」	・プロセスライティング 6
14	ライティング課題 2 「教育論」	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間にも必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
- ・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
- ・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス）30%、ライティング課題 45%、プレゼンテーション 25%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

Objectives

- Knowledge of the form and logical contents of paragraph
- Ability to argue about your opinions academically
- Ability to write them in an English paragraph
- Ability to make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. You will receive corrections and comments on your drafts from a tutor and students. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Writing assignments 45%
- Presentation assignment 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.

Feed back will be given via Google classroom comments, via email or in review sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice

week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids
week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation preparation, homework.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange intro fifth edition Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

Homework 40%

Oral presentation and Quizzes 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: “In principle, no more than 3 absences per term are allowed.”

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing material

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc. Feedback will be given in comments in Google classroom, via email, or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation- visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot
week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms

week 14 Oral Presentations companies, hotels, restaurants, on where our stores, government parents work

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Oral presentation and quiz 40%

Homework 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

paper, writing material, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Email contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なトピックを英語の文章を paragraph を使って書き、さらにそれを使って口頭で発表できるようになる。前期は一つの paragraph をさまざまな様式で書けるようになることを目指す。さらに、様々なトピックに関する英文の内容をリスニングで内容把握し、音で語彙を増やし聞く能力を高めることに前期は焦点を当てる。

【到達目標】

- ・ paragraph writing をいろいろなトピックで書くことができる。
- ・ エッセイの構成を理解して短いエッセイが書ける。
- ・ 人前でプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション: シラバスに 基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタビューし、 それをまとめて発表する。
2	Chapter 1	パラグラフとは何か理解する
3	Chapter 2	出来事を伝えるパラグラフについて理解する
4	Chapter 2: Writing & Presentation	出来事を伝えるパラグラフを書いて発表する
5	Chapter 3	手続きや手順を説明するパラグラフについて理解する
6	Chapter 3: Writing & presentation	手続きや手順を説明するパラグラフを書いて発表する
7	Chapter 4	感情を描写するパラグラフについて理解する
8	Chapter 4: Writing & presentation	感情を描写するパラグラフを書いて発表する
9	Chapter 5	人を描写するパラグラフについて理解する
10	Chapter 5: Writing & presentation	人を描写するパラグラフを書いて発表する
11	Chapter 6	場所を描写するパラグラフについて理解する
12	Chapter 6: Writing & presentation	場所を描写するパラグラフを書いて発表する

13	Chapter 7	人物や物事を定義するパラグラフについて理解する
14	期末試験 Term-end examination	パラグラフライティング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題として提出。学生は正式な様式に従って英文を書く。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『Smart Writing ーはじめてのパラグラフ・ライティングー』、仲谷都、吉原学、Ruth Fallon 著、成美堂、2017 年初版、2000 円（税別）、ISBN: 9784791960323

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 30 %、発表 30 %、提出物 20 %、平常点 20 % （提出期限厳守、質問等）の総合評価。

欠席が 4 回以上の場合、単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

提出物の時間厳守。

必ず辞書を持参してください。

授業の前後に質問等を受けつけます。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline)

The students are supposed to learn how to write a paragraph. Then they will be able to make a presentation based on it.

The students are supposed to get used to speaking in front of the other students through short presentations in order to cultivate their language proficiency.

到達目標 (Learning Objectives)

1: The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%, assignments: 20%

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近なトピックを英語の文章を paragraph を使って書き、さらにそれを使って口頭で発表できるようになる。前期は一つの paragraph をさまざまな様式で書けるようになることを目指す。さらに、様々なトピックに関する英文の内容をリスニングで内容把握し、音で語彙を増やし聞く能力を高めることに前期は焦点を当てる。

【到達目標】

- ・ paragraph writing をいろいろなトピックで書くことができる。
- ・ エッセイの構成を理解して短いエッセイが書ける。
- ・ 人前でプレゼンテーションができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス Chapter 8	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 比較と対照についてのパラグラフを理解する
第 2 回	Chapter 8: Writing & presentation	比較と対象についてのパラグラフを書いて発表する
第 3 回	Chapter 9	原因と結果についてのパラグラフを理解する
第 4 回	Chapter 9: Writing & presentation	原因と結果についてのパラグラフを書いて発表する
第 5 回	Chapter 10	問題と解決策についてのパラグラフを理解する
第 6 回	Chapter 10: Writing & presentation	問題と解決策についてのパラグラフを書いて発表する
第 7 回	Chapter 11	賛成意見を述べるパラグラフについて理解する
第 8 回	Chapter 11: Writing & Presentation	賛成意見を述べるパラグラフを書いて発表する
第 9 回	Chapter 12	反対意見を述べるパラグラフについて理解する
第 10 回	Chapter 12: Writing & presentation	反対意見を述べるパラグラフを書いて発表する
第 11 回	Chapter 13	データ分析についてのパラグラフを理解する
第 12 回	Chapter 13: Writing & presentation	データ分析についてのパラグラフを書いて発表する

第 13 回 Chapter 14

英文 E メール・英文レターの書き方を理解する

第 14 回 期末試験
Term-end
examination

エッセイライティング

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

paragraph writing の課題を宿題として提出。学生は正式な様式に従って英文を書く。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『Smart Writing ーはじめてのパラグラフ・ライティングー』、仲谷都、吉原学、Ruth Fallon 著、成美堂、2017 年初版、2000 円（税別）、ISBN: 9784791960323

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 30 %、発表 30 %、提出物 20 %、平常点 20 % （提出期限厳守、質問等）の総合評価。

欠席が 4 回以上の場合、単位修得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

提出物の時間厳守。

必ず辞書を持参してください。

授業の前後に質問等を受けつけます。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline)

The students are supposed to learn how to write a paragraph. Then they will be able to make a presentation based on it.

The students are supposed to get used to speaking in front of the other students through short presentations in order to cultivate their language proficiency.

到達目標 (Learning Objectives)

1: The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 20%, assignments: 20%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を理解し、さらに書くことを目標とします。コロナが収束すれば、以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力も身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail を紹介し、e-mail の書き方と論理的な構成をもつ英文を学びます。

【到達目標】

この授業では、日常生活において使われている英語の表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいます。基礎的な実用英語と e-mail の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思っています。誰もが関心を持っているコロナの問題なども取り上げ、英米人がどのように考え、対処しているのかも紹介したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では listening にも力を入れますので、Key Expressions と Mini-conversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できるようにしましょう。授業では日常生活や現代社会の様々なことについて書かれている英米人との e-mail を紹介しますので、論理的な英文の理解と書き方を学びます。章が終わるたびに確認テストを行います。確認テストの結果をもとに、学生が授業の内容を把握しているかどうかを確認し、必要があれば、補足説明をいたします。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。少人数クラスの利点を活かし、学生を指名するので、積極的に授業に参加してもらいます。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明 Chapter 1 Hi! How are you?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
2	Chapter 1	4. Power Listening One More Lesson e-mail 解説
3	Chapter 2 What's your major?	確認テスト Chapter 1 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説

4	Chapter 2	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説	Through listening exercises and memorizing dialogues, you will gain confidence in your speaking ability and in your hearing skills. You will also learn how to write e-mails in English. Learning activities outside of classroom Students will be expected to memorize the following sections of the text: Key Expressions and Mini-conversations. Grading Criteria Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examinations: 70% and class contributions 30%.
5	Chapter 3 What did she look like?	確認テスト Chapter 2 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説	
6	Chapter 3	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説	
7	Chapter 4 Let's take a trip!	確認テスト Chapter 3 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説	
8	Chapter 4	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説	
9	Chapter 5 How about going out for dinner?	確認テスト Chapter 4 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説	
10	Chapter 5	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説	
11	Chapter 6 Let's go shopping!	確認テスト Chapter 5 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説	
12	Chapter 6	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説	
13	春学期復習	chapter1-6 確認テスト Chapter 6	
14	授業内試験	試験・まとめと解説	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。

各学期、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得はとれません。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話を習得し、論理的構成を持つパラグラフの理解と英文の書き方を学びましょう。

【Outline (in English)】**Course outline**

The aim of this course is to help students learn how to converse in English using a variety of topics that you come across in everyday situations.

Learning Objectives

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を理解し、さらに書くことを目標とします。コロナが収束すれば、以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力も身につけましょう。英米人とやり取りしている **e-mail** を紹介し、**e-mail** の書き方と論理的な構成をもつ英文を学びます。

【到達目標】

この授業では、日常生活において使われている英語の表現を学びます。さらに日本人が苦手とする **listening** の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいます。基礎的な実用英語と **e-mail** の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思っています。誰もが関心を持っているコロナの問題なども取り上げ、英米人がどのように考え、対処しているのかも紹介したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では **listening** にも力を入れますので、**Key Expressions** と **Mini-conversations** については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できるようにしましょう。授業では日常生活や現代社会の様々なことについて書かれている英米人との **e-mail** を紹介しますので、論理的な英文の理解と書き方を学びます。章が終わるたびに確認テストを行います。確認テストの結果をもとに、学生が授業の内容を把握しているかどうかを確認し、必要があれば、補足説明をいたします。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。少人数クラスの利点を活かし、学生を指名するので、積極的に授業に参加してもらいます。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 How are you feeling?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
2	Chapter 7	4. Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
3	Chapter 8 Hello? Can I speak to Mary?	確認テスト Chapter 7 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介

4	Chapter 8	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
5	Chapter 9 I'm so busy.	確認テスト Chapter 8 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
6	Chapter 10	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
7	Chapter 10 What do you do?	確認テスト Chapter 9 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
8	Chapter 10	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
9	Chapter 11 Let's watch sports!	確認テスト Chapter 10 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
10	Chapter 11	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
11	Chapter 12 Let's celebrate!	確認テスト Chapter 11 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
12	Chapter 12	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
13	秋学期復習	Chapter 8～12 確認テスト Chapter 12
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介します

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。各学期、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話を習得し、論理的構成を持つパラグラフの理解と英文の書き方を学びましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn how to converse in English using a variety of topics that you come across in everyday situations.
Learning Objectives

Through listening exercises and memorizing dialogues, you will gain confidence in your speaking ability and in your hearing skills. You will also learn how to write e-mails in English.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to memorize the following sections of the text: Key Expressions and Mini-conversations.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examinations: 70% and class contributions 30%.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL DONOVAN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

【到達目標】

This course will enable students to attune themselves to native English using a range of materials. It will improve their ability to understand authentic English and increase their overall confidence in the target language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practised and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

All materials will be delivered and collected online via Hoppii for both face to face and online classes. All assignments are submitted online via Hoppii with online feedback and of course face to face feedback as a group or individually when possible and appropriate.

Students can contact the instructor at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com (ID yourself clearly Hosei / Name / Number)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course details explanation. An explanation of course contents and grading. Self introductions.	Think about your self introduction in English and think of any questions you might have about the course.
2	Japan Culture Quiz	Answer a quiz and make a similar quiz in English about Japanese culture.
3	Letter Correction	Identifying and correcting typical mistakes in a letter and composing a reply.
4	Mini Car video	History of the Mini car video and exercises. Using passive tenses. Q & A.
5	International Culture Quiz	Answer a quiz and make a similar quiz in English about international culture.

6	Japan Times newspaper front page	Answering and asking questions based on the front page news of the Japan Times newspaper.	【Outline (in English)】 Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.
7	Midway review	How are you doing? Talking about what's happening and what you have been doing.	
8	Sherlock Holmes video	Video and associated exercises on the famous fictional character Sherlock Holmes. Past tenses, descriptions of people.	
9	Mousetrap	Talking about systems and processes using passive tenses. Designing a mousetrap.	
10	Purple Violin video	Video and associated exercises on an unusual street musician. Talking about interests and hobbies.	
11	UFO stories I	Narratives, telling stories. Using pictures to make an interesting story about a UFO.	
12	UFO stories II	Narratives, telling stories. Using pictures to make an interesting story about a UFO.	
13	The near future	Talking about the future, plans and possibilities.	
14	End of term review and consolidation	Review and consolidation. Q & A on past term and next term.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. All materials will be available online. Each assignment contains specific instructions and details relating to preparation and review. Some assignments require specific preparation and will be explained beforehand. Others will require follow up, again explained as and when needed. All preparation, review exercises, further reading and additional information will be provided in the worksheet or as web links. Details will be provided as we progress depending on how things develop.

【テキスト（教科書）】

No textbook required. Materials are provided by the teacher.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Missing more than three class assignments will imperil a passing grade.

100% awarded to assignments completed.

Students should complete all the assignments.

【学生の意見等からの気づき】

In the case of face to face classes I am available before and after the class and of course best of all talk to me in class.

Students can also contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time.

ID yourself clearly Hosei / Your name and number (in English)

Communicate in English only please.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students can contact me at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com

(ID yourself clearly Hosei / Name / Number) If you have a problem, please ask.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

MICHAEL DONOVAN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

【到達目標】

This course will enable students to attune themselves to native English using a range of materials. It will improve their ability to understand authentic English and increase their overall confidence in the target language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practised and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

All materials will be delivered and collected online via Hoppii for both face to face and online classes. All assignments are submitted online via Hoppii with online feedback and of course face to face feedback as a group or individually when possible and appropriate.

Students can contact the instructor at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com (ID yourself clearly Hosei / Name / Number)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	From summer until now	Talking about the holidays, things you did and didn't do.
2	Romance story	Narratives, telling a story, vocabulary and grammar exercises. Creating a story.
3	International News Quiz	Asking and answering questions on recent international news stories.
4	Jogging	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
5	How We Met	Listening, Q & A, talking about first meetings.
6	Money	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.

7	Midway review	How are you doing? Talking about what's happening and what you have been doing.
8	Cultural Differences	Cultural differences. Giving advice to a first time traveller in Japan.
9	The future	Talking about the future. Possibilities, probability. What will and won't happen.
10	BBC video	Video on the history of the BBC and related exercises.
11	Japan News Quiz	Asking and answering questions on recent news stories in Japan.
12	Books, movies, music	Talking about interests and favourites.
13	Reunion	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
14	End of term review and consolidation	Review and consolidation. End of term activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. All materials will be available online. Each assignment contains specific instructions and details relating to preparation and review. Some assignments require specific preparation and will be explained beforehand. Others will require follow up, again explained as and when needed. All preparation, review exercises, further reading and additional information will be provided in the worksheet or as web links. Details will be provided as we progress depending on how things develop.

【テキスト（教科書）】

No textbook required. Materials are provided by the teacher.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Missing more than three class assignments will imperil a passing grade.

100% awarded to assignments completed.

Students should complete all the assignments.

【学生の意見等からの気づき】

In the case of face to face classes I am available before and after the class and of course best of all talk to me in class.

Students can also contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time.

ID yourself clearly Hosei / Your name and number (in English) Communicate in English only please.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students can contact me at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com

(ID yourself clearly Hosei / Name / Number) If you have a problem, please ask.

【Outline (in English)】

Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must either be uploaded, or printed on A4 paper before the deadline.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editing
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form

Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which will require around 2 hours of work & must either be uploaded or printed on A4 paper, before the deadline. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will be made available online for further study & guidance.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to prepare & upload, or print reports.

【その他の重要事項】

Regular attendance is required, and a willingness to practice & improve your English writing skills, and submit assignments on time.

【Outline (in English)】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment. Issues such as sexism, racism & homophobia will be examined, while students will be introduced to new & challenging vocabulary, and be able to extensively practice their audio-visual skills.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.
3. To introduce students to new vocabulary, and offer practice in sentence structure responses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.

Each week students will be assigned a reading passage, with both vocabulary & comprehension questions, in preparation for the following lesson. In addition, students will be required to prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10+ minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned an additional reading passage & vocabulary exercise as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the lesson.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Review & Preview	Review the previous semester & summer vacation, explain about new semester
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Elliot 1 (The Ballet Class):	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Elliot 2 (The Private Lesson)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,

Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Elliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend approximately 1 hour on each weekly reading assignment, and 30 minutes to prepare vocabulary & review the previous lesson's material, prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No set text is required. However, since all materials will be available online, students must either download & print, or download and have ready on their laptop or tablet device, the required files before the lesson begins.

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:
 30% - Participation & Punctuality
 30% - Classroom & Homework Assignments
 40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation
 Student will receive feedback & guidance on each report.
 In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will also be available online for students to review and gain further practice with the audio-visual materials.

【学生が準備すべき機器他】

Students will require a laptop or tablet device with a reliable internet connection, in order to download materials, and to prepare and either upload or print reports.

【Outline (in English)】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】

1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態 対面授業（新型コロナウイルスの感染状況に応じて授業形態に変更がある場合は授業と学習支援システム Hoppii のお知らせから連絡するので確認してください） 授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。適宜 Hoppii から課題を出題します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストの紹介
2	Unit 1 Forming the Band, Queen ①	映画視聴, P9-10 Vocabulary, Plot Synopsis, Reading
3	Unit 1 Forming the Band, Queen ②	P11-12 Reading Comprehension, Expressions, Dictation
4	Unit 1 Forming the Band, Queen ③ Unit 2 Bohemian Rhapsody ①	P13-15 Listening Comprehension, Discussion, Writing Unit 2 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
5	Unit 2 Bohemian Rhapsody ②	P16-17 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 2 Bohemian Rhapsody ③	P18-20 Dictation, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 3 Drifting Apart Queen ①	P21-22 Unit 3 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
8	Unit 3 Drifting Apart Queen ②	P22-24 Reading, Reading Comprehension, Expressions, Dictation
9	Unit 3 Drifting Apart Queen ③ Unit 4 The Truth Comes Out ①	P24-26 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴

10	Unit 4 The Truth Comes Out ②	P27-29 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension
11	Unit 4 The Truth Comes Out ③	P30-32 Listening Comprehension, Discussion, Writing
12	Unit 5 Performing in Live Aid ①	P33-35 Unit 5 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 5 Performing in Live Aid ②	P36-38 Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能 塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】

1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態 対面授業（新型コロナウイルスの感染状況に応じて授業形態に変更がある場合は授業と学習支援システム Hoppii のお知らせから連絡するので確認してください） 授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。Hoppii から課題を出題します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストと後期の映画の紹介
2	Unit 6 Applying for a Senior Internship ①	Unit 6 映画視聴, P41-42 Vocabulary, Plot Synopsis, Reading
3	Unit 6 Applying for a Senior Internship ②	P43-44 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
4	Unit 6 Applying for a Senior Internship ③	P45-47 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
	Unit 7 The Working Environment at ATF ①	Unit 7 映画視聴 Movie Review, Vocabulary
5	Unit 7 The Working Environment at ATF ②	P48-49 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 7 The Working Environment at ATF ③	P50-52 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 8 The Problems ATF Faces ①	P53-54 Unit 8 映画視聴, Movie Review, Vocabulary, Reading
8	Unit 8 The Problems ATF Faces ②	P55-56 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking

9	Unit 8 The Problems ATF Faces ③ Unit 9 Working Women & Work Life Balance ①	57-59 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ②	P59-61 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
11	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ③	P62-64 Listening Comprehension, Note Taking, Discussion, Writing
12	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ①	P65-67 Unit 10 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ②	P68-70 Note Taking, Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を 試験範囲とします。秋学期全体の まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能 堀見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 1st half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied. Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of course	Explanation of class requirements, tasks, goals
	Explanation of class requirements, tasks, goals	Vocabulary assessment Ice breakers
Week 2	Unit 1 Describing personality & relationships: vocabulary & listening	Agreeing, Disagreeing, expressing likes and dislikes,
Week 3	Unit 1 Describing personality & relationships: reading & speaking	Complaining, Describing personality types, Relative clauses
Week 4	Unit 1 Describing personality & relationships: discussion & writing	Discuss personality traits Essential components of paragraphs Using English-English dictionaries
Week 5	Unit 2 Jobs, career skills: vocabulary & listening	Comparing with gerund phrases
Week 6	Unit 2 Jobs, career skills: reading & speaking	Strategies for keeping your job. Expressing advantages and disadvantages.
Week 7	Unit 2 Jobs, career skills: discussion & writing	Discuss seating arrangement for networking event Write a paragraph on 3 pet peeves

Week 8	Quiz Units 1-2 Unit 3 Favors, requests, messages: vocabulary & listening	Quiz Units 1-2 Accepting and declining requests, Making requests	Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class. Grading Criteria: Homework 25% Class participation 15% Quizzes/Tests 50% Speech/Presentation 10%
Week 9	Unit 3 Favors, requests, message: reading & speaking	Leaving messages Making indirect requests	
Week 10	Unit 3 Favors, requests, messages: discussion & writing	Make direct requests & respond Discuss different kinds of requests Write 2 paragraphs comparing 2 jobs	
Week 11	Unit 4 Narrating a story: vocabulary & listening	Describing events in the past Using past verb forms	
Week 12	Unit 4 Narrating a story: reading & speaking	Listen to news broadcasts React to news	
Week 13	Unit 4 Narrating a story: discussion & writing	Narrate & discuss unusual stories Editing marks & peer editing	
Week 14	Quiz: units 3-4 Presentation on pet peeves	Quiz: units 3-4 Presentation	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press) ISBN: 978-1-316-62051-9
Students' book

【参考書】

Self-study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
Vocabulary development:
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.

Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 50%

Speech/Presentation 10%

* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook

Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline (in English)】

Course outline:

This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
- Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
- Make presentations in small groups and in front of the class.

Learning activities outside of classroom:

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Kregg Johnston

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Students will develop the skills needed to express their opinions, knowledge, and experience in English in both written and oral forms.

【到達目標】

This course aims to improve students overall English fluency in both spoken and written forms. The students will learn to express their ideas clearly in writing at the paragraph level. The students will also improve their oral fluency by discussing issues in pairs or groups and making speeches for a variety of situations and topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Class time is divided equally among the 8 units of the 2nd half of the textbook and each unit will be covered in 2 weeks. In the 2nd week, after completing each unit, students will spend time discussing/debating the topics introduced in that unit. A paragraph writing assignment will also be given based on the topics in selected units allowing the students to express their opinions in writing. There will be periodic quizzes on material studied.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Ice breakers Review of past tense	Ice breakers Compare activities over the summer Review narration of events
Week 2	Unit 5 Comparing different cultures: vocabulary & listening	Describing customs State feelings about living abroad
Week 3	Unit 5 Comparing different cultures: reading & speaking	Stating customs in complex sentences
Week 4	Unit 5 Comparing different cultures: discussion & writing	Discuss foreign & Japanese customs Write 2 paragraphs on foreign customs
Week 5	Unit 6 Describing problems: vocabulary & listening	Making complaints Describing problems with household items
Week 6	Unit 6 Describing problems: reading & speaking	Using the passive voice to emphasize result of action Offering solutions to problems
Week 7	Unit 6 Describing problems: discussion & writing	Describe problems in rooms of a house Write about a problem with something purchased

Week 8	Quiz Units 5-6 Unit 7 Environmental and world issues: vocabulary & listening	Quiz Units 5-6 Identifying, describing problems Using the passive voice to point out negative effects
Week 9	Unit 7 Environmental and world issues: reading & speaking	Coming up with solutions to problems Using infinitives of purpose
Week 10	Unit 7 Environmental and world issues: discussion & writing	Discuss social problems & solutions Write about social problems
Week 11	Unit 8. Learning and education: vocabulary & listening	Describing preferences, Talking about learning methods
Week 12	Unit 8. Learning and education: reading & speaking	Discussing pros and cons Asking questions of choice
Week 13	Unit 8. Learning and education: discussion & writing	Discuss self improvement & ways to learn things
Week 14	Quiz: units 7-8 Presentation	Quiz: units 7-8 Presentation on foreign customs & social problems

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Interchange 3 (5th edition), Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Students' book ISBN 978-1-316-62051-9

【参考書】

Self-Study online
Interchange 3, Jack C. Richards (Cambridge University Press)
Workbook
<https://quizlet.com/KreggJ>
<https://www.memrise.com/>

【成績評価の方法と基準】

Grade points are given for the satisfactory completion of assignments, performance on quizzes, as well as for the degree of class participation.
Homework 25%

Class participation 15%

Quizzes/Tests 50%

Speech/Presentation 100%

* In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on vocabulary development & communication & discussion skills.

【学生が準備すべき機器他】

Students should purchase the textbook

Students should join Google Classroom for this course. Information for joining the Google Classroom for this course will be posted on HOPII(学習支援システム)

【Outline (in English)】

Course outline:

This course deals with the development English communication in written and spoken forms. It also enhances the development of students' skills in listening and, grammar usage, and vocabulary development.

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Express opinions, knowledge and experience orally and in writing.
- Participate in and lead discussions on topics introduced in class.
- Make presentations in small groups and in front of the class.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the assigned homework exercises after each class meeting and review before each in-class quiz given. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria:
 Homework 25%
 Class participation 15%
 Quizzes/Tests 50%
 Speech/Presentation 10%

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見などを効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフから成る短いレポートを書くことができることを目指します。また、関心の高いトピックについては、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションを行う練習も取り入れます。

【到達目標】

1. 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見を 口頭や文章で効果的に表現できるようになる
2. パラグラフの構造に留意し、論理構成を持つ文章を英語で書くことができるようになる
3. 英語の辞書を効果的に使うことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、自分の経験や考えを英語で書いたり、表現したりすることに重点を置き、講義とグループワークを組み合わせで進めます。春学期は、テキストのトピックに従って、自分の経験や考えを短い文章にまとめる練習を中心に行います。各自で書いたエッセイは、教員によるフィードバックのほか、受講生同士で読み合ったり、コメントを付け合ったりするなど、コミュニケーションを大切にしながら授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業についての説明
2	Unit 1-A: People	Introducing a person to someone else
3	Unit 1-B: Lessons learned	Write about something you learned
4	Unit 2-A: Foods we like	Making suggestions
5	Unit 2-B: Eating well	Write a restaurant review
6	Unit 3-A: You're in luck!	Talking about possibility
7	Unit 3-B: Unsolved mysteries	Do research and write about an issue
8	Unit 4-A: Lifestyle trends	Disagreeing
9	Unit 4-B: Fashion trends	Give fashion advice to someone looking for a job
10	Unit 5-A: Running errands	Making appointments
11	Unit 5-B: My neighborhood	Write about your neighborhood
12	Unit 6-A: Starting out	Responding
13	Unit 6-B: After graduation	Write about your college experience

14 Course Review Writing an essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。授業内容に即した課題を出します。指示に従って取り組んでください。また、テキストに対応したウェブサイトを活用して、授業の予習・復習に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

James R. Morgan and Nancy Douglas, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016) — 2,900+tax yen

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（小テスト、課題、授業への参加態度など） 40%

- 学期末レポート 60%

原則として、4回以上欠席すると単位の修得が認められません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、グループワークやペアワークを通して会話の練習をしたことが好評でした。今年度も引き続き、グループやペアでの活動を取り入れていきたいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will encourage students to confidently express their opinions and experiences about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand English language regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will study and learn the structure and function of a paragraph, learn how to compose a short essay, and write a short essay composed of paragraphs.

(Learning Objectives)

Students will be able to:

- effectively express their opinion, knowledge, and experience on daily life

- understand the basic construction of an essay written in English and write a short essay composed of paragraphs

- use an appropriate dictionary based on the assignment or task (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on:

- Quizzes, weekly assignments, participation (40%)

- Final Exam (60%)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見などを効果的に表現する力を養います。論理的な構成の文章を英語で書く練習に加えて、秋学期はいくつかのトピックについて、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを重点的に行います。これらの活動を通して、自分の考えや経験を他者に伝えたり、他者から出された意見について返答したりする練習をします。

【到達目標】

1. 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見を口頭や文章で効果的に表現できるようになる
2. 効果的なプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションができるようになる
3. 英語の辞書を効果的に使うことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、自分の経験や考えを英語で書いたり、表現したりすることに重点を置き、講義とグループワークを組み合わせで進めます。秋学期は、テキストのトピックについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心に行います。春学期に学んだ「書く力」をもとにして、自分の意見や経験を英語で説明したり、聞き手の意見に返答したりする練習を行います。また、授業の冒頭で小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業についての説明
2	Unit 7-A: Parties	Inviting someone to do something
3	Unit 7-B: Festivals and holidays	Write about a holiday
4	Unit 8-A: What's the story about?	Keeping a story going
5	Unit 8-B: Modern fairy tales	Write an email about previous event
6	Unit 9-A: Workplace traits	Interviewing for a job
7	Unit 9-B: Dream jobs	Write a presentation about an interesting career
8	Unit 10-A: Using the telephone	Using the telephone
9	Unit 10-B: Always connected	Describe your phone use
10	Preparation for a presentation (1)	Choosing a topic
11	Preparation for a presentation (2)	Making an outline
12	Preparation for a presentation (3)	Writing a script
13	Actual Presentation	Giving the presentation

14 Course Review Presentation Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業内容に即した課題を出します。指示に従って取り組んでください。また、テキストに対応したウェブサイトを活用して、授業の予習・復習に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

James R. Morgan and Nancy Douglas, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016) — 2,900+tax yen

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（小テスト、課題、授業への参加態度など） 40%
- 学期末課題 60%

原則として、4 回以上欠席すると単位の修得が認められません。

【学生の意見等からの気づき】

グループやペアで課題に取り組む機会を設けたことが好評でした。オンライン授業が続く中でも、自分と違う考えに触れることができ、学びの幅が広がったという声が聞かれました。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will encourage students to confidently express their opinions and experiences about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand English language regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). Students will practice and learn the skills necessary to compose a text regarding their experiences, knowledge, and opinions about various issues. In addition, presentation skills will be introduced during the autumn semester. Students will be expected to prepare and deliver an effective, interactive presentation.

(Learning Objectives)

- effectively express their opinion, knowledge, and experience on daily life
- prepare and deliver a presentation
- use an English dictionary appropriately with purpose

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on:

- Quizzes, weekly assignments, participation (40%)
- Final Exam (60%)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Note: This is a hybrid class which will meet mostly in person but some weeks on Zoom. Feedback will be provided during class and on Google classroom.

1. Reading articles from book.
2. Listening and watching audio/video.
3. Speaking and Role play in Pair & Groups.
4. Individual Presentations about a topic.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines
2	Unit 1: Lifestyles	Speaking & Listening p. 4-5. Pair Work. Homework: reading
3	Unit 1: Lifestyles	Listening & Speaking activities p. 6-7 Homework: reading p. 9
4	Unit 2: Leisure	Review reading. Speaking & Listening p. 10-11 Homework: reading p. 12
5	Unit 3: Getting Along	Review reading. Speaking and Listening in pairs. p. 12-3. Homework: writing p. 14
6	Unit 9: Getting Along	Review writing. Speaking and Listening in pairs. p. 14-5. Homework: reading p. 15

7	Unit 3: Getting Along	Pair & Group. p.18-9 Write an email.
8	Midterm on Units 1-3	Written test on grammar and vocabulary.
9	Unit 4: Interests	Review email writing. Speaking & Listening activities in pairs. p. 24-5. Homework: reading p. 29
10	Unit 5: Telling a Story	Review reading. Speaking & Listening in pairs. p30-1. Homework: writing p. 35
11	Unit 5: Telling a Story	Listening and Group work. p. 32-33. Homework: grammar
12	Unit 6: Celebrations	Listening & Pair Work about special events. p. 36-7. Homework: reading p. 41
13	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening activities in pairs. p. 37. Homework: review for final exam
14	Final Exam	Written test about grammar & vocabulary.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Miles Craven: Breakthrough Plus (2nd edition). Macmillan Education. Level 2

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

In principle, no more than 3 absences are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access. Also knowledge of Google classroom, Zoom and Hoppii.

【Outline (in English)】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills. Feedback will be provided during class and after activities.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening p. 38-9. Homework: reading p. 41
2	Unit 7: Food & Drink	Speaking & Listening p. 44-5. Homework: reading p. 49
3	Unit 7: continued	Pair work p. 46-7 Homework: writing p. 49
4	Unit 8: Rules	Pair & Group Work p. 50-1. Homework: reading p. 55
5	Unit 8: Rules	Speaking & Listening p. 52-3. Homework: writing p. 55
6	Unit 9: Adventures	Pair & Group Work p. 56-7. Homework: writing p. 61
7	Unit 9: Adventures	Review writing and for mid-term exam
8	Mid-term exam	Written test
9	Unit 10: Health	Pair & Group work p. 64-5. Homework: reading p. 69
10	Unit 10: Health	Speaking & Listening p. 66-7. Homework: writing p. 69
11	Unit 11: Comparisons	Review writing. Pair & Group work p. 70-1. Homework: reading p. 75
12	Unit 11: Comparisons	Pair & Group Work p. 76-7. Homework: writing p. 81
13	Unit 12: The modern world	Review writing and final exam topics.

14 Final Exam on Grammar & Vocabulary Test.
10,11 & 12

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. Preparation and review should take 1 hour a week according to university guidelines. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Miles Craven: Breakthrough Plus 2 (2nd edition). Macmillan Education

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

In principle, no more than 3 absences will be allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access

【Outline (in English)】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・基本的な会話ができるようになる。
- ・即興で簡単なスピーチをできるようにする。
- ・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
- ・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
- ・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
- ・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

＜重要＞この授業は【対面授業】です。ただし、スピーキングを重点的に確認する機会を設けるため、Zoom を用いたオンライン授業を 2 回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

1 つのユニットを 2 回の授業で進める。

1 回目の授業ではリスニングと文法事項の確認を行う。

2 回目の授業ではリーディングとライティングを扱う。

いずれの授業でも英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。

学期中 2 回のオンライン授業では、即興でミニプレゼンを行ってもらう。

最終課題として、複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。なお、提出した課題（作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: I Love Mixing Music!	リスニング、文法事項の確認
3	Unit 1: I Love Mixing Music!	読解、リスニング、作文
4	Unit 2: How Long Have You Been Doing Archery?	リスニング、文法事項の確認
5	Unit 2: How Long Have You Been Doing Archery?	読解、リスニング、作文
6	ミニプレゼン	スピーキングのテスト
7	Unit 3: What Should I Do?	リスニング、文法事項の確認
8	Unit 3: What Should I Do?	読解、リスニング、作文

9	Unit 4: The Koala Was Taken to a Shelter	リスニング、文法事項の確認
10	Unit 4: The Koala Was Taken to a Shelter	読解、リスニング、作文
11	Unit 5: How Are They Made?	リスニング、文法事項の確認
12	Unit 5: How Are They Made?	読解、リスニング、作文
13	ミニプレゼン	スピーキングのテスト
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1 回目の授業前] 1. 単語や文法事項について調べておく。2. 学習支援システムの予習問題に解答する。（以上 1 時間程度）

[2 回目の授業後] 1. 学習支援システムの復習問題に解答する。2. 作文を仕上げて提出する。（以上 1 時間程度）

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Time Zones 4, 3rd Edition (David Bohlke, Cengage Learning, 2021, ¥ 2,300)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最終課題 30%

期末試験 20%

ミニプレゼン 20%

平常点（作文、予習・復習の提出状況、受講態度）30%

【学生の意見等からの気づき】

学生同士でのグループワークや英語で話す時間を増やす。授業時間内に作文を書く時間を設けるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】

Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・基本的な会話ができるようになる。
- ・即興で簡単なスピーチをできるようにする。
- ・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
- ・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
- ・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
- ・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

＜重要＞この授業は【対面授業】です。ただし、スピーキングを重点的に確認する機会を設けるため、Zoom を用いたオンライン授業を 2 回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

1 つのユニットを 2 回の授業で進める。

1 回目の授業ではリスニングと文法事項の確認を行う。

2 回目の授業ではリーディングとライティングを扱う。

いずれの授業でも英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。

学期中 2 回のオンライン授業では、即興でミニプレゼンを行ってもらう。

最終課題として、複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。

なお、提出した課題（作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明、春学期の復習
2	Unit 6: Look at Those Narwhals!	リスニング、文法事項の確認
3	Unit 6: Look at Those Narwhals!	読解、リスニング、作文
4	Unit 7: It Might have Been a Temple	リスニング、文法事項の確認
5	Unit 7: It Might have Been a Temple	読解、リスニング、作文
6	ミニプレゼン	スピーキングのテスト
7	Unit 8: It's Taller Than the Eiffel Tower!	リスニング、文法事項の確認
8	Unit 8: It's Taller Than the Eiffel Tower!	読解、リスニング、作文
9	Unit 9: He's a Great Actor, Isn't He?	リスニング、文法事項の確認

10	Unit 9: He's a Great Actor, Isn't He?	読解、リスニング、作文
11	Unit 10: I Wish I Could Be an Olympic Athlete!	リスニング、文法事項の確認
12	Unit 10: I Wish I Could Be an Olympic Athlete!	読解、リスニング、作文
13	ミニプレゼン	スピーキングのテスト
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1 回目の授業前] 1. 単語や文法事項について調べておく。2. 学習支援システムの予習問題に解答する。(以上 1 時間程度)

[2 回目の授業後] 1. 学習支援システムの復習問題に解答する。2. 作文を仕上げて提出する。(以上 1 時間程度)

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Time Zones 4, 3rd Edition (David Bohlke, Cengage Learning, 2021, ¥ 2,300)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最終課題 30%

期末試験 20%

ミニプレゼン 20%

平常点（作文、予習・復習の提出状況、受講態度）30%

【学生の意見等からの気づき】

学生同士でのグループワークや英語で話す時間を増やす。授業時間内に作文を書く時間を設けるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】

Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での **speaking, writing, listening** の練習をすることで、情報収集や **paragraph writing, discussion** に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、**speaking** や **writing** で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方として、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に **listening, speaking, writing** の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには **reading** のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、**speaking** のパフォーマンステストや語彙テストも行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業説明、アクティビティー
2	Unit 1 (1) I Love Making Jewelry!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 1 (2) I Love Making Jewelry!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 2 (1) How Long Have You Been Playing Cricket?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 2 (2) How Long Have You Been Playing Cricket?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 3 (1) You Could Ask for Advice	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 3 (2) You Could Ask for Advice	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

8	Unit 4 (1) The Koala Was Taken to a Shelter	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 4 (2) The Koala Was Taken to a Shelter	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 5 (1) How Was It Formed?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 5 (2) How Was It Formed?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 6 (1) Look at That Narwhal!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 6 (2) Look at That Narwhal!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO 小テスト (語彙, 表現)
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading に関するテストを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には Language Focus の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「Reading の予習」を行ってください。「Reading の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ (日本語)・Comprehension の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習 (語彙や内容のチェック) し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れおきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト (教科書)】

テキスト名: Time Zones 4 (Second Edition) - Student Book (Text only)

著者: David Bohlke and Jennifer Wilkin

出版社: Cengage Learning

出版年: 2016 年

価格: 2250 円 + 税

ISBN: 9781305259874

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 % (授業中の活動・小テスト・課題)
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻 (授業開始時刻から 10 分を超える場合) で 1 回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの (交通機関の遅延証明書等) がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。通信可能な電子辞書やスマートフォン等のアプリケーションの辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【その他の重要事項】

授業に関する質問がある場合、授業前後に教室にて受け付けます。メールで質問する場合は、授業支援システムにて、この授業の「お知らせ」を参照してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build up the vocabulary knowledge needed to gather information to write essay paragraphs and have discussions in English.

< Learning Objectives >

1. Students will be able to use the English expressions they have learned, and will be able to give their ideas and experiences to classmates verbally.
2. By using English expressions they have learned, the students will be able to share their opinions with each other.
3. Students will be able to write essay paragraphs in logical order, and they will be able to express their ideas and experiences to classmates within the composition.
4. Students will be able to understand all the vocabulary in the textbook and they will be able to use them when speaking and writing.

< Learning activities outside of classroom >

In this course, students should be prepared for class and should be able to review what they have learned in one hour. Before class for Unit (1), students should check the meanings of new vocabulary and phrases in “Language Focus”, and practice reading them out loud. Before class for Unit (2), students should read the passage in the Unit in advance, and write down the following in their notebooks: new vocabulary, summary of the passage in Japanese, and “Comprehension” answers. In addition, students should preview what they will learn beforehand in order to understand topics for discussions in the textbook. After class, students have to review what they have learned.

< Grading Criteria/Policy >

1. Class activities (small tests and writing assignments) 30%
2. Preparation (vocabulary, summary and “Comprehension” answers) 20%
3. Final test 50%
 - ・Students will fail the course if they are absent four times or more during the entire unit.
 - ・If a student is late three times, it is counted as one absence.
 - ・Students should show proof of their delay and absence.
 - ・Students who talk in class, use a phone, doze/sleep, or come to class without the textbook will be get a black mark.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鹿子嶋 由佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会の様々なトピックについて、自分の意見や経験を英語で表現したり、他の受講生の意見や経験を英語で聴いたりする力を養います。また、受講生同士で意見交換をするディスカッションの練習も行います。授業内での **speaking, writing, listening** の練習をすることで、情報収集や **essay writing, discussion** に必要な語彙力の向上を目指します。

【到達目標】

1. 基本的な英語表現を用いて、自分の意見や経験を口頭で他者に伝えることができるようになる。
2. 既習表現を駆使しながら、受講生同士で意見交換し合えるようになる。
3. 論理的にパラグラフを構成して、自分の意見や経験を文章で他者に伝えることができるようになる。
4. テキスト内の語彙をすべて理解し、**speaking** や **writing** で使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

各 Unit の進め方として、1 つの Unit を前半と後半に分け、2 週にわたって 1 つの Unit を学習していきます。授業前に、指定した箇所の学習を各受講生が済ませていることを前提に授業を進めます。授業内では、その予習事項の確認やテキストを中心に **listening, speaking, writing** の練習を行います。意見交換の練習では、ペアワークやグループワークを行います。テキストには **reading** のセクションもありますので、内容を確実に理解し、英語での意見交換の際に生かせるように進めていきます。学期中には学習進捗状況を確認するために、**speaking** のパフォーマンステストや語彙テストなども行います。各課題のフィードバックは、授業中に各受講生と全体に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warm-up	春学期の復習、アクティビティ
2	Unit 7 (1) It Might Have Been a Temple	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
3	Unit 7 (2) It Might Have Been a Temple	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
4	Unit 8 (1) It's Taller than the Eiffel Tower!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
5	Unit 8 (2) It's Taller than the Eiffel Tower!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
6	Unit 9 (1) He's a Great Director, Isn't He?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
7	Unit 9 (2) He's a Great Director, Isn't He?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO

8	Unit 10 (1) I Wish I Could Be an Athlete!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
9	Unit 10 (2) I Wish I Could Be an Athlete!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
10	Unit 11 (1) What Would You Do?	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
11	Unit 11 (2) What Would You Do?	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO
12	Unit 12 (1) You Should Eat More Fruit!	Preview, Language Focus, The Real World, Pronunciation, Communication
13	Unit 12 (2) You Should Eat More Fruit!	Reading, Comprehension, Writing, VIDEO 小テスト（語彙、表現）
14	期末テスト	Listening, Writing, Reading に関するテストを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。受講生は、授業前に該当箇所の予習を行ってください。各 Unit の (1) を授業で学習する前には **Language Focus** の意味確認と発声練習を行い、そして各 Unit の (2) を授業で学習する前には「**Reading** の予習」を行ってください。「**Reading** の予習」では、受講生が各自ノートに、意味を調べた語や語句のリスト・英文のまとめ（日本語）・**Comprehension** の解答を書いてきてください。また、予習指定箇所学習予定以外の範囲も予習（語彙や内容のチェック）し、あらかじめディスカッション等のトピックに慣れておきましょう。授業後には、既習事項を綿密に復習してください。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：Time Zones 4 (Third Edition) - Student Book (Text only)

著者：David Bohlke and Jennifer Wilkin

出版社：Cengage Learning

出版年：2016 年

価格：2250 円＋税

ISBN: 9781305259874

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 30 %（授業中の活動・小テスト・課題）
2. 予習 20%
3. 期末試験 50%
 - ・欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位取得資格を失います。
 - ・3 回の遅刻（授業開始時刻から 10 分を超える場合）で 1 回の欠席とします。
 - ・遅刻や欠席に関して、証明できるもの（交通機関の遅延証明書等）がある場合は必ず担当者に渡してください。
 - ・授業に関係のない私語、携帯電話の使用、居眠り、教科書・辞書の不携帯は減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の学習状況をみながら、基礎的な事項から応用的な事項まで確認していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡は授業支援システムを使用します。授業中に使用する辞書は、書籍または電子辞書とします。通信可能な電子辞書やスマートフォン等のアプリケーションの辞書を使用する場合は、その旨を担当者に伝えること。

【その他の重要事項】

授業に関する質問がある場合、授業前後に教室にて受け付けます。メールで質問する場合は、授業支援システムにて、この授業の「お知らせ」を参照してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills needed to express and share their opinions and experiences on various daily and modern social topics in English. It also enhances the development of students' skills in discussing topics with classmates. By practicing speaking, writing and listening, it will help students build up the vocabulary knowledge needed to gather information to write essays and have discussions in English.

< Learning Objectives >

1. Students will be able to use the English expressions they have learned, and will be able to give their ideas and experiences to classmates verbally.
2. By using English expressions they have learned, the students will be able to share their opinions with each other.
3. Students will be able to write essay paragraphs in logical order, and they will be able to express their ideas and experiences to classmates within the composition.
4. Students will be able to understand all the vocabulary in the textbook and they will be able to use them when speaking and writing.

< Learning activities outside of classroom >

In this course, students should be prepared for class and should be able to review what they have learned in one hour. Before class for Unit (1), students should check the meanings of new vocabulary and phrases in "Language Focus", and practice reading them out loud. Before class for Unit (2), students should read the passage in the Unit in advance, and write down the following in their notebooks: new vocabulary, summary of the passage in Japanese, and "Comprehension" answers. In addition, students should preview what they will learn beforehand in order to understand topics for discussions in the textbook. After class, students have to review what they have learned.

< Grading Criteria/Policy >

1. Class activities (small tests and writing assignments) 30%
2. Preparation (vocabulary, summary and "Comprehension" answers) 20%
3. Final test 50%
 - ・ Students will fail the course if they are absent four times or more during the entire unit.
 - ・ If a student is late three times, it is counted as one absence.
 - ・ Students should show proof of their delay and absence.
 - ・ Students who talk in class, use a phone, doze/sleep, or come to class without the textbook will be get a black mark.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Submission of assignments and feedback will be on the Learning Management System HOPPII.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and getting to know you	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	1B: The perfect date	Describing people: appearance and personality. Present simple
3	1C: The Remake Project	Clothes. Prepositions of place
4	Practical English: Hotel problems	Reporting problems, offer to do something, greeting a friend
5	2A OMG! Where's my passport	Past simple
6	2B That's me in the picture	Past continuous
7	2C One dark October evening	Time sequencers, connectors
8	3A Trip Aside	Be going to (plans, predictions)
9	3B Put it in your calendar!	Present continuous (future arrangements)
10	3C Word games	Defining relative clauses
11	Practical English: Restaurant Problems	Ordering food in a restaurant, explaining a problem, asking about somebody's plans

12	4A Who does what?	Present perfect + yet, just, already
13	4B In your basket	Present perfect vs. past simple
14	Revise & Check	Reviewing Units 1-4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring an English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Test/Presentation/Composition 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 4 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested listening tracks to be repeated more often.

【Outline (in English)】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

【到達目標】

This course will help students to improve their ability to communicate in English. Students will increase their confidence in English through talking, reading and writing about a variety of everyday topics. Students will focus in particular on developing and explaining their own opinions and ideas.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. We will follow the themes in the textbook closely. You will have many opportunities to improve your everyday spoken English communication and discuss information and ideas in English. Please come to class ready to participate actively and positively. Feedback will be given on the Learning Management System (hOPPII).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	5A I want it now!	Comparative adjectives and adverbs, as ... as
2	5B Twelve lost wallets	Superlatives + ever+ present perfect
3	5C How much is enough?	Quantifiers
4	Practical English: The wrong shoes	Making suggestions, Taking something back to a shop, Arranging a time to meet somebody
5	6A Think positive - or negative	Will/won't predictions
6	6B I'll always love you	Will/won't/shall
7	6C The meaning of dreaming	Review of verb forms present, past and future
8	7A First day nerves	Uses with the infinitive with to
9	7B Happiness is ...	Uses of the gerund
10	7C Could you pass the test?	Have to, don't have to, must, mustn't
11	Practical English: At the pharmacy	Describing symptoms when feeling ill, getting medicine at a pharmacy
12	8A Should I stay or should I go?	should

13	8B Murphy's Law	if+present, will+infinitive
14	Revise & Check	Reviewing Unit 5-8

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework will include writing and preparation tasks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig, Clive Oxenden, English File: 4th Edition, Pre-Intermediate Student Book, Oxford University Press, 2019.

【参考書】

Please bring an English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 40%

Tests/Presentation/Composition 60%

*Please remember university policy permits a maximum of 4 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested easier listening exercises.

【Outline (in English)】

The objectives of this course are to reinforce grammar patterns learned in the past and to introduce new grammar for English oral communication and conversation as well as to practice speaking, listening and writing English. Talk a lot about your own ideas and experiences, and share them with classmates.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The course will introduce writing as a process, from the initial gathering of information, brainstorming, organizing ideas to the writing of different paragraph styles.

Students will read texts and discuss, in pairs or small groups, the features of different paragraph styles. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding. We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

【到達目標】

This course will enable the student to communicate his/her thoughts, in written format and in spoken language, to a given audience. The course will cover paragraph development and organization. Students will be encouraged to express their opinion in spoken English giving reasons and asking questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Students will participate in pair and group activities to practice reading, speaking and listening skills. Students will practice writing logically organized paragraphs using the basic paragraph structure: Topic sentence, Supporting sentences, Conclusion.

We will watch some academic presentations to compare the spoken format to the written format.

All assignments will be issued, submitted and returned in digital format via Google Classroom. All written assignments will be returned with detailed comments showing how students can improve their writing skills.

This is an online course and all lessons will be taught on Zoom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction of Course / Google Classroom / Policies.	Introduction of English Writing, assignments and assessment.
2.	Vacations	Vocabulary of vacations and small group discussion. Giving an opinion.
3.	Vacations: Listening	Listening to expressions to give an opinion. Shadowing with Audio and Text.
4.	Vacations: Group Discussion	Small group discussion and planning a vacation
5.	Vacations: Writing	Basic paragraph structure using Adjectives: Topic Sentence, Supporting ideas, Concluding sentence.
6.	Part-Time jobs:	Vocabulary and discussion of part-time jobs.

- | | | |
|-----|---------------------------------------|--|
| 7. | Part time jobs:
Listening | Listening to expressions to give reasons. Shadowing with Audio and Text. |
| 8. | Part time jobs:
Group discussions | Small group discussions and giving advice about part time jobs. |
| 9. | Part time jobs:
Writing | Write a paragraph to give advice and reasons about having a part time job at university. |
| 10. | Hopes and Dreams: | Vocabulary and discussion of work and future actions. |
| 11. | Hopes and dreams:
Listening | Listening to different styles of questions. Shadowing with Audio and Text.
Closed/Open/Choose questions |
| 12. | Hopes and Dreams:
Group discussion | Small group discussions and giving advice about part time jobs. Negative and tag questions |
| 13. | Hopes and Dreams:
Writing | Prepare a paragraph about future activities. |
| 14. | BBC Ideas Video | Watch a BBC Ideas video and complete a worksheet. |

【Outline (in English)】

The course will focus on Academic writing as a process. Students will prepare paragraphs with Topic Sentences, Supporting ideas and concluding sentences. The course will also allow students to practice their English speaking skills through discussion of topics provided by the text book. Reading and listening skills will also be practiced. Worksheet quizzes will be set to check the students understanding.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

3 Homework assignments writing different styles of paragraph.

All assignments written in digital format and submitted via Gmail.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book One", Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Written Homework Assignment:20%

Worksheet Assignments:30%

Participation: 20%

3 Mini-Tests: 15%

On-line Homework: 15%

Attendance: In Principle: no more than 3 absences are allowed to achieve a Credit grade for this course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A portable electronic device, laptop or tablet is best, with a Word Processing capability. Access to Zoom (Zoom.us) is required. Students will be required to use headphones if joining the lesson from Hosei University classrooms.

Hosei Gmail account details will be required. We will use Hosei University wi-fi service.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using "Classroom". Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Classroom" Course code is: oop4wtx

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is a required course for first year students. Students will practice speaking and listening skills but the focus of this course is on effectively expressing opinions, knowledge and experiences in the written form. Students will be able to apply these skills to any other subjects that they study in their university studies and in future work environments.

【到達目標】

Students will develop their abilities to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in the written form.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

Listening and speaking: Students will be required to participate in pair and group discussions of issues related to their everyday opinions, knowledge and experience.

Writing: Students will be taught the basic structure of Academic style essays: Grammatical devices will be taught, as appropriate, for different paragraph types to achieve Unity.

Students will prepare an essay outline with: an Introduction and Thesis statement, 2-3 body paragraphs and a Concluding paragraph.

Students may be required to prepare a short presentation in which they demonstrate their understanding of the correct format for an Academic Essay. All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction of goals for semester 2.	Review of Semester 1 Objectives and achievements. Join Classroom
Class 2	Eating Out: Understanding Criteria	Small group discussion. Vocabulary for criteria
Class 3	Eating Out.	Listening and shadowing. Where does English come from?

Class 4 Eating out.

Group task: Grade a restaurant using criteria. Why is English the International language of Trade?

Class 5 Eating Out.

Writing: Prepare an Essay outline about a Topic.

Class 6 Family: Agreeing and Disagreeing

Small group discussions. Essay Structure Introduction, Body Conclusion Thesis statement

Class 7 Family

Listening and Shadowing. Ballad Groups: Prepare a ballad presentation

Class 8 Family.

Using expressions for agreeing and disagreeing. Ballad preparation

Class 9 Family:

Role Play a family problem. Writing: Cohesive Body paragraphs

Class 10 Interests: Supporting your reasons.

Small group discussions and Vocabulary. Ballad Presentation preparation.

Class 11 Interests

Listening and shadowing. Using supporting sentences in speech and writing.

Class 12 Interests

Writing: Conclusion paragraphs.

Class 13 Presentation

Final Ballad Preparation Groups present their Ballad Presentations to the class.

Class 14 Final Presentations and Review

Groups present their Ballad Presentations to the class.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be some short, simple, written homework assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course. Each homework assignment will be 10% of total course value.

【テキスト (教科書)】

The English Course "Discussion Book One" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB1. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】

To be advised during course

【成績評価の方法と基準】

Homework written assignments: 30%

Mini-tests: 15%

Online homework: 15%

Participation: 20%

Presentation: 10%

Video Worksheets: 10%

"In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course".

【学生の意見等からの気づき】

New Text-book and course structure. More focus on speaking.

【学生が準備すべき機器他】

Students should bring their devices to class. A smartphone is acceptable but a tablet or laptop device is strongly encouraged. Students should have access to Japanese English and English - English e-dictionaries. Paper and pens/pencils might be required for mind-mapping and preparing diagrams.

【その他の重要事項】

We will use Google “Classroom” to send, submit and record all assignments. Students will be required to join the subject using “Classroom”. Please download “Classroom” from the Google store before the first lesson. The Course code for the class is: pccwbws

【Outline (in English)】

Students will participate in pair and group activities to practice speaking and listening skills. Students will practice preparing a short essay with multiple paragraphs that have unity and cohesion. Peer editing, using standard word processor software, will be practiced.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】

1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態 対面授業（新型コロナウイルスの感染状況に応じて授業形態に変更がある場合は授業と学習支援システム Hoppii のお知らせから連絡するので確認してください） 授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。適宜 Hoppii から課題を出題します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストの紹介
2	Unit 1 Forming the Band, Queen ①	映画視聴, P9-10 Vocabulary, Plot Synopsis, Reading
3	Unit 1 Forming the Band, Queen ②	P11-12 Reading Comprehension, Expressions, Dictation
4	Unit 1 Forming the Band, Queen ③ Unit 2 Bohemian Rhapsody ①	P13-15 Listening Comprehension, Discussion, Writing Unit 2 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
5	Unit 2 Bohemian Rhapsody ②	P16-17 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 2 Bohemian Rhapsody ③	P18-20 Dictation, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 3 Drifting Apart Queen ①	P21-22 Unit 3 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
8	Unit 3 Drifting Apart Queen ②	P22-24 Reading, Reading Comprehension, Expressions, Dictation
9	Unit 3 Drifting Apart Queen ③ Unit 4 The Truth Comes Out ①	P24-26 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴

10	Unit 4 The Truth Comes Out ②	P27-29 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension
11	Unit 4 The Truth Comes Out ③	P30-32 Listening Comprehension, Discussion, Writing
12	Unit 5 Performing in Live Aid ①	P33-35 Unit 5 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 5 Performing in Live Aid ②	P36-38 Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能 塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】

1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態 対面授業（新型コロナウイルスの感染状況に応じて授業形態に変更がある場合は授業と学習支援システム Hoppii のお知らせから連絡するので確認してください） 授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をするので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。適宜 Hoppii から課題を出題します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストと後期の映画の紹介
2	Unit 6 Applying for a Senior Internship ①	Unit 6 映画視聴, P41-42 Vocabulary, Plot Synopsis, Reading
3	Unit 6 Applying for a Senior Internship ②	P43-44 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
4	Unit 6 Applying for a Senior Internship ③	P45-47 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
	Unit 7 The Working Environment at ATF ①	Unit 7 映画視聴 Movie Review, Vocabulary
5	Unit 7 The Working Environment at ATF ②	P48-49 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 7 The Working Environment at ATF ③	P50-52 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 8 The Problems ATF Faces ①	P53-54 Unit 8 映画視聴, Movie Review, Vocabulary, Reading
8	Unit 8 The Problems ATF Faces ②	P55-56 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking

9	Unit 8 The Problems ATF Faces ③ Unit 9 Working Women & Work Life Balance ①	57-59 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ②	P59-61 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
11	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ③	P62-64 Listening Comprehension, Note Taking, Discussion, Writing
12	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ①	P65-67 Unit 10 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ②	P68-70 Note Taking, Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第 1 回から 13 回までの授業内容を 試験範囲とします。秋学期全体の まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies アクティブ・ラーニング型 映画で学ぶ英語 4 技能 塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英作文や会話で自分の意見をアウトプットできる機会を増やしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていきたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書「Impact Issues 2」に入る前に簡単なリスニングをし簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。

各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introducing yourself by interacting with your partner in English. Be able to introduce your partner to the rest of the class.
2	Unit 1	Read the unit well and do the exercises and understand it.
3	Unit 1 First Impressions	Continuation of the previous unit. who do you agree with Sandy and Tamara. Why
4	Unit 2 Big or Small	What is it to live in a big city or a small town. Compare the merits and demerits or each.
5	Unit 2 Big or small	Because of Covid 19, people are moving from a big city to a small city. Which would you like to live in and why?
6	Unit 3 The Good Language Learner	What do you think about a local language? Is it important in the world we live in now?

7	Unit 3 The Good Language Learner	Is English the only language to become international? What are the pros and cons of English and the local language.
8	Unit 5 Forever Single	What do you think about being single or getting married? Do you agree with Angela's thoughts?
9	Unit 5 Forever Single	What do you think of the merits and demerits of marriage. What do you think of LGBTQ.
10	Unit 7 What's for Lunch Preparing for the presentation	Does food have any relationship with what we eat? Think about it. Preparing for the presentation
11	Unit 7 What's for Lunch Preparing for the presentation	Why do we have to think about what we eat. What is happening to our earth? Preparing for the presentation
12	Unit 7 What's for Lunch Preparing for the presentation.	What should we do to save the earth for our future generations to come. Preparing for the presentation.
13	Presentation	Presentation.
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation."

【テキスト（教科書）】

Impact Issues 2 Presenting your ideas in English (Third edition)
Pearson
Richard R.Day Joseph Shaules Junko Yamanaka

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。春学期ではまず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにするということが秋学期ではもっと長い文章で話せるようにして行きたい。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書"Impact Issues 2" に入る前に簡単なリスニングを簡単な会話をする。この教科書は様々なテーマをユニットごとに扱っているのでそれをしっかり読み、内容を理解しその内容に対してその都度そのテーマに関して自分の意見が言えるようにする。またこの教科書は様々な activity などがありそれらをとおして英語に一層親しんでいきたいと思う。前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。自分の意見をクラスの前で言える様に大小のプレゼンテーションを授業内で多く行う。各ユニットで出題されている単語などの意味及び文章も作れるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Presenting the interview done during the summer holidays or poetry.	Depending on the circumstances with Covid 19, students will present their task on your interview with foreigners visiting Japan or studying poetry.
2	Studying Poetry	Reading " What Do I Remember of the Evacuation" Studying the symbols
3	Unit 8 Our Online Past	We live in a very convenient world of internet and SNS. But what is the danger?
4	Unit 8 Our Online Past	Have you ever been in trouble posting your personal information? How are you aware of exposing your information.
5	Poetry Recitation	Recite the poem that you have written

6	Unit 10 My Student Life	We live in a confusing world at the moment dealing with Corona.What is the purpose of attending classes in unversity.	Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work, presentation and test at the end of the term.
7	Unit 10 My Student Life	What can we do after graduating university. What can we do something for ourselves and others.	
8	Unit 11 International Relationships	The world is getting smaller and smaller. We will have to think how to communicate with our neighbors around our countries.	
9	Unit 11 International Relationship	By being friendly with our neighboring countries, we might be getting involved personally. What do you think about international marriage.	
10	Unit 12 Create another Future Preparing for the presentation	What is happening to our earth right now. What should we do to save the earth?	
11	Unit 12 Create another Future Preparing for the presentation	Think of what is happening to our earth and what measures can we take.	
12	Unit 9 Create another Future Preparing for the presentation	Think of SDGs and for our future children to come. Discuss what we can do.	
13	Presentation	Presentation	
14	Exam & Summary	Exam of what was studied during the semester	

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

JAMES D SHORT

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves confidently in English. It imparts to students understanding of challenges we face in the modern world, and the language proficiency required to participate successfully within it.

【到達目標】

This course will engender in students the knowledge and ability to engage with the subject material and learning challenges presented by the instructor and produce appropriate responses to them in English.

As a result of studying this course, students will gain the skills to achieve the following:

1. Approach a new issue systematically in order to understand it clearly.
2. Formulate plans to address problems presented by the instructor.
3. Conduct meaningful research to further understanding.
4. Present responses in English in a sophisticated manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

1. Instruction by the teacher will be conducted as much as possible in English.
2. Classroom activities and discussions will generally be based on readings and exercises from the course textbooks.
3. Students are expected to use English to participate in classroom discussions and group activities.
4. Classroom participation includes mini-presentations followed by questions from classmates. Students will be expected to ask questions about the content of their classmates' presentations.
5. Students will receive feedback and comments on classroom activities and homework assignments directly from the teacher throughout the term.
6. Timekeeping, participation in classroom activities, and submission of homework assignments are very important and will be evaluated.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Class Orientation	Explanation of the course and required study methods
2	How Much Do You Agree? (HMDYA) Unit 1: We should keep early hours	Describing different daily routines
3	HMDYA Unit 1: Effects on health	Discussion about healthy work and study lifestyles

4	Ready to Present (RTP) Unit 1: Self-Introduction	How to structure an engaging presentation
5	RTP Unit 1: Becoming familiar with each other	Presentations about your life and main interests
6	HMDYA Unit 3: Club activities should be banned at schools	Describing Junior High and Senior High club experiences
7	HMDYA Unit 3: Article about excessive pressures on Junior High and Senior High students	Discussion about the advantages and disadvantages of club activities
8	RTP Unit 2: The Orange Spoons	Appropriate facial and hand gestures for presentations
9	RTP Unit 2: An Important Person or Thing	Presentations about something important in your life
10	HMDYA Unit 4: Study abroad experience should be a requirement for university graduation	Investigating opportunities for overseas study
11	HMDYA Unit 4: How to make best use of your time at university	Discussion about the advantages and disadvantages of overseas study
12	RTP Unit 3: Angkor Wat	How to make eye-catching presentation slides
13	RTP Unit 3: Places that mean a lot to us	Presentations about places that are special to you
14	End of semester review	Discussion about the post-coronavirus world

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Be sure to read the class materials beforehand for advance learning. Students will be called upon in each class and are expected to be prepared.

Each week students should prepare for the next class by reading written materials, completing assigned homework, studying vocabulary, and reviewing materials from previous classes.

When participating in a discussion, students should summarize their thoughts beforehand and mull over other students' opinions and indications afterwards in order to deepen their thinking.

【テキスト (教科書)】

"How Much Do You Agree? Evolving Opinions" by Toshihiko Kobayashi and Jeremie Bouchard, Sanshusha: 2019; price 2000 yen. ISBN 978-4-384-33486-9

"Ready To Present", Herman Bartelen and Malcolm Kostiuik, National Geographic Learning, 2019; price 2700 yen. ISBN 978-4-86312-351-9

【参考書】

Students are recommended to have an electronic English-Japanese dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of classroom participation (40%), homework (20%), and individual and/or group presentations (40%).

**Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable in this case.

【その他の重要事項】

The instructor reserves the right to modify this course syllabus if necessary.

【Outline (in English)】

This course aims to cultivate in students the ability to absorb, internalize and respond to a variety of stimulating material in English in an effective manner. The course will be taught as an ongoing and varied discussion which from time to time will be led by the students themselves. Students will periodically take responsibility for their own learning through conducting research and seeking answers to the questions and learning scenarios presented by the instructor.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

JAMES D SHORT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves confidently in English. It imparts to students understanding of challenges we face in the modern world, and the language proficiency required to participate successfully within it.

【到達目標】

This course will engender in students the knowledge and ability to engage with the subject material and learning challenges presented by the instructor and produce appropriate responses to them in English.

As a result of studying this course, students will gain the skills to achieve the following:

1. Approach a new issue systematically in order to understand it clearly.
2. Formulate plans to address problems presented by the instructor.
3. Conduct meaningful research to further understanding.
4. Present responses in English in a sophisticated manner.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1. Instruction by the teacher will be conducted as much as possible in English.
2. Classroom activities and discussions will generally be based on readings and exercises from the course textbooks.
3. Students are expected to use English to participate in classroom discussions and group activities.
4. Classroom participation includes mini-presentations followed by questions from classmates. Students will be expected to ask questions about the content of their classmates' presentations.
5. Students will receive feedback and comments on classroom activities and homework assignments directly from the teacher throughout the term.
6. Timekeeping, participation in classroom activities, and submission of homework assignments are very important and will be evaluated.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	How Much Do You Agree? (HMDYA) Unit 7: We should consider important rules and manners for online communication	Describing personal use of SNS communication tools
2	HMDYA Unit 7: Real-life examples of online bullying	Discussion about ways to reduce abuse that occurs on the internet

3	Ready To Present (RTP) Unit 4: Opinions	Emphasizing words with gestures
4	RTP Unit 4: Something that you believe strongly	Presentations about an issue that is important to you
5	HMDYA Unit 8: More Japanese companies should use English as their main language of business	Investigating Japanese companies that are becoming more internationalized
6	HMDYA Unit 8: What type of company would you like to work in?	Discussion about working environments that attract you
7	RTP Unit 5: Vincent Van Gogh	Presentation techniques to engage your audience
8	RTP Unit 5: Biography of a famous person	Presentations about famous people that you admire
9	HMDYA Unit 9: School and company uniforms should be abolished	Investigating fashionable and unfashionable school and company uniforms
10	HMDYA Unit 9: What clothes are appropriate for school and work?	Discussion about what students and adults should wear in the classroom or office
11	RTP Unit 6: Overdoing things	Gestures for storytelling
12	RTP Unit 6: Stories from your own life	Presentations about life lessons that you have learned
13	HMDYA Unit 11: We should limit the number of tourists from abroad	Investigating tourism in Japan before and after the pandemic
14	End of semester review	Discussion about future professional and personal goals

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Be sure to read the class materials beforehand for advance learning. Students will be called upon in each class and are expected to be prepared.

Each week students should prepare for the next class by reading written materials, completing assigned homework, studying vocabulary, and reviewing materials from previous classes.

When participating in a discussion, students should summarize their thoughts beforehand and mull over other students' opinions and indications afterwards in order to deepen their thinking.

【テキスト（教科書）】

"How Much Do You Agree? Evolving Opinions" by Toshihiko Kobayashi and Jeremie Bouchard, Sanshusha: 2019; price 2000 yen. ISBN 978-4-384-33486-9

"Ready To Present", Herman Bartelen and Malcolm Kostiuik, National Geographic Learning, 2019; price 2700 yen. ISBN 978-4-86312-351-9

【参考書】

Students are recommended to have an electronic English-Japanese dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of classroom participation (40%), homework (20%), and individual and/or group presentations (40%).

**Class attendance is a course requirement.

Students are allowed no more than three absences in the semester.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable in this case.

【その他の重要事項】

The instructor reserves the right to modify this course syllabus if necessary.

【Outline (in English)】

This course aims to cultivate in students the ability to absorb, internalize and respond to a variety of stimulating material in English in an effective manner. The course will be taught as an ongoing and varied discussion which from time to time will be led by the students themselves. Students will periodically take responsibility for their own learning through conducting research and seeking answers to the questions and learning scenarios presented by the instructor.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハ・ラク・ラフという文章形式の構造を理解し、英語でパラグラフを書く。また、プレゼンテーションの心得とコツを知り、実践する。題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションでできるように。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ・ラク・ラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べるができる。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリスニングで話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

最初にパラグラフ形式の特徴と、その論証的構造を講義する。次いで特定のテーマで実際にパラグラフを書く。推敲プロセスの数段階で講師のチェックと添削が入る。次に、書き上げたパラグラフをもとにしてプレゼンテーションを行う。プレゼンテーションに関する実践的な講義を行い、発表の構成方法、プレゼン資料の作成に関するコツなどを知る。それを踏まえてスクリプトを練り上げる。プレゼン資料の作成や発音練習を経た上で、プレゼンテーションする。発表者は他の学生からの評価や感想を得る。学生たちのプレゼンを受けて、同一テーマでさらにもうひとつパラグラフを仕上げる。パラグラフやスクリプトの推敲段階で講師の添削やピアレビューによるフィードバックを行う。またプレゼンテーションに対するフィードバックは、評価ポイントを指定したうえで聞き手の学生にも感想やコメントを求める。

授業ではネットの音声素材や講師が作ったウェブアプリを利用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	パラグラフについて	・パラグラフの内容と構造 ・パラグラフの見本 ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
3	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティングの講義 ・パラグラフの各文を繋ぐ英語表現と使い処 ・プロセスライティング 1
4	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティング 2 ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2
5	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティング 3 (アウトラインの提出)

6	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティング 4 (第 1 稿の提出) ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
7	ライティング課題 1 「優れた経営」	・プロセスライティング 5 ・プレゼンテーションの方法と心構え
8	ライティング課題 1 プレゼンテーション課題 「優れた経営」	・プロセスライティング 6 ・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題 4
9	プレゼンテーション課題 ライティング課題 2 「優れた経営」	・プレゼンテーションの準備
10	プレゼンテーション課題 ライティング課題 2 「優れた経営」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 1 ・ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション課題 ライティング課題 2 「優れた経営」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 2 (アウトラインの提出)
12	ライティング課題 2 「優れた経営」	・プロセスライティング 3 (第 1 稿の提出) ・単語テスト ・ディクテーション課題 6
13	ライティング課題 2 「優れた経営」	・プロセスライティング 4
14	ライティング課題 2 「優れた経営」	・プロセスライティング 5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間にも必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

- ・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語―』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
- ・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
- ・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス）30%、ライティング課題 45%、プレゼンテーション 25%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

Objectives

- Knowledge of the form and logical contents of paragraph
- Ability to argue about your opinions academically
- Ability to write them in an English paragraph
- Ability to make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. You will receive corrections and comments on your drafts from a tutor and students. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Writing assignments 45%
- Presentation assignment 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

前学期に引き続いてパラグラフ形式の英文作成、およびプレゼンテーションを行い、これらの習熟度を深める。

題材にふさわしい英語表現と内容を選んで文章を書ける。英語でプレゼンテーションする経験を積む。プレゼンテーションは原則として聴衆に顔を向けて話すものだから、原稿の内容は頭に入れ、なおかつ、正確な発音でプレゼンテーションできるようになる。発音指導を通して正しい英語の発音を身につける。

【到達目標】

- ・ハ^oラク^oラフの形式と内容を理解する。
- ・自分の意見を形成し、アカデミックライティングの考え方に則りながら、それを筋道立てて述べ^oることができる。
- ・パラグラフの形式と内容で英文を書ける。
- ・その内容をもとにしてプレゼンテーションをする。
- ・正しい英語の発音を身につけ、英語らしいアクセントとリス^oムで^o話せる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

パラグラフ形式とその論証的構造をおさらいする。今学期も別のテーマで実際にパラグラフを書く。推敲プロセスの数段階で講師のチェックと添削が入る。次に、書き上げたパラグラフをもとにしてプレゼンテーションを行う。発表の構成方法、プレゼン資料の作成に関するコツなどを復習する。それを踏まえてスクリプトを練り上げる。プレゼン資料の作成や発音練習を経た上で、プレゼンテーションする。発表者は他の学生からの評価や感想を得る。学生たちのプレゼンを受けて、同一テーマでさらにもうひとつパラグラフを仕上げる。パラグラフやスクリプトの推敲段階で講師の添削やピアレビューによるフィードバックを行う。またプレゼンテーションに対するフィードバックは、評価ポイントを指定したうえで聞き手の学生にも感想やコメントを求める。

授業ではネットの音声素材や講師が作ったウェブアプリを利用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要の説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明
2	ライティング課題 1 「教育論」	・パラグラフの内容と構造 (おさらい) ・春学期のフィードバックとパラグラフの見本 ・プロセスライティング 1 ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
3	ライティング課題 1 「教育論」	・プロセスライティング 2
4	ライティング課題 1 「教育論」	・プロセスライティング 3 (アウトラインの提出) ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2

5	ライティング課題 1 「教育論」	・プロセスライティング 4 (第 1 稿の提出)
6	ライティング課題 1 「教育論」	・プロセスライティング 5 ・プレゼンテーションの方法と心構え (おさらい) ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
7	ライティング課題 1 プレゼンテーション 課題 「教育論」	・プロセスライティング 6 ・プレゼンテーションの準備
8	ライティング課題 1 プレゼンテーション 課題 「教育論」	・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題 4
9	プレゼンテーション 課題 ライティング課題 2 「教育論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 1
10	プレゼンテーション 課題 ライティング課題 2 「教育論」	・プレゼンテーション本番 ・プロセスライティング 2 ・ディクテーション課題 5
11	ライティング課題 2 「教育論」	・プロセスライティング 3 (アウトラインの提出)
12	ライティング課題 2 「教育論」	・プロセスライティング 4 (第 1 稿の提出) ・ディクテーション課題 6
13	ライティング課題 2 「教育論」	・プロセスライティング 5
14	ライティング課題 2 「教育論」	・プロセスライティング 6

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業は指定した内容の予習を前提にして進める。読み手本位を基本思想とするパラグラフの作成は、読者のコメントを受けた改稿作業が必須であるから、講師や他の学生から受けたコメントを草稿に反映させる時間にも必要になる。パワーポイントなど、プレゼンテーションの資料作成や予行練習も必要になる。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）
・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）
・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の提出、小テスト、授業時のパフォーマンス）30%、ライティング課題 45%、プレゼンテーション 25%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ頻繁に学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】

You write up your experience and/or opinion in the form of paragraph. And you make a presentation with correct English pronunciation and accents. You build your writing and speaking skills step by step to reach the goals. You start to write down a short sequence of sentences, then a paragraph. You learn how to speak vowels, consonants, complex vowels, then to speak an English sentence, and finally a paragraph.

Objectives

- Knowledge of the form and logical contents of paragraph
- Ability to argue about your opinions academically
- Ability to write them in an English paragraph
- Ability to make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. You will receive corrections and comments on your drafts from a tutor and students. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Writing assignments 45%
- Presentation assignment 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

Common English that students can use everyday

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, video activities, etc.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction of syllabus general class rules	syllabus recount and rules
Week 2	Starting conversations	Greetings, name usage, personal titles
Week 3	Keeping the conversation going	use of questions and understanding answers
Weeks 4	Identifying objects	in the classroom and office
Weeks 5	Identifying objects quiz review	outside elements - public and family homes
Weeks 6	quiz on greetings and objects language and grammar exercises	greetings- hellos and goodbyes
week 7	Nationalities and geography in Asia Oral Presentation Preparation Discussions	Thailand, Japan, Korea, Vietnam Discussion of presentation themes
week 8	Nationalities and geography in North America Presentation - structure	Canada, Mexico, USA Structure- Introduction/Body/Conclusion
week 9	Nationalities and geography in Western Europe Presentation - physical elements	France, Germany, The UK, Italy, Switzerland body language, use of voice

week 10	Clothing styles Presentation - visual elements	formal clothing types visual aids
week 11	Clothing styles	informal clothing review
week 12	Oral Presentations on social themes	speeches on social trends
week 13	Oral Presentations on cultural themes	speeches on cultural differences
week 14	Oral Presentations	speeches on academic trends

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Presentation preparation, homework.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Interchange intro fifth edition Jack Richards
9781316620113

【参考書】

Handouts

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

Homework 40%

Oral presentation and Quizzes 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, paper, writing material

【その他の重要事項】

Contact email
kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students will learn English using the 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing).

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Common English that students can use everyday.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, etc. Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Welcome back -Review	Review of first semester themes
Week 2	What are you doing?	activities, time
Week 3	time Family, Neighborhoods, Quiz	telling time relations ,places, functions of place,etc., Quiz -activities, time
Week 4	work commute Apartments and houses	rooms, appliances, and furniture
Week 5	places people live	types- suburbs/countryside/cities
Week 6	Oral presentation preparation- structure Script review I	main points introduction/body/conclusion
Week 7	Script review II Presentation - physical elements	support body language and voice
Week 8	Where people live I Presentation - slide work	apartments backgrounds
week 9	Where people live II Presentation- visuals I	houses fonts
week 10	Work habits Presentation - visuals II	images
week 11	Job types	outdoor, indoor
week 12	Oral Presentations on commuting	public transport, car, on foot
week 13	Oral Presentations on living places	houses, apartments, rooms

week 14 Oral Presentations companies, hotels, restaurants, on where our stores, government parents work

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Homework, oral preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange Intro fifth Edition by Jack Richards

9781316620113

【参考書】

Handouts and text

【成績評価の方法と基準】

Class participation 20%

Oral presentation and quiz 40%

Homework 40%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More written video work desired.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students will learn English using 4 skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

SHAWN M DE HAVEN

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

The goals of this course are as follows:

- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1: Good Memories (Getting to know each other)	Get to know each other in pairs Practice past tense
2	Unit 1	Listening practice Write a paragraph about what they did as a child
3	Unit 2: Life in the City	Talk about their hometown in pairs Work on quantity expressions
4	Unit 2	Listening practice Giving directions skit
5	Unit 3: Making Changes	Talk about their home in pairs Look for an apartment near campus
6	Unit 3	Listening practice Read article and discuss
7	Midterm (Units 1-3)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 4: Have you ever tried it?	Discuss eating habits in pairs and groups Review grammar focus
9	Unit 4	Listening and reading practice Presentation on cooking
10	Unit 5: Hit the road!	Talk about vacation plans in pairs/groups Review future tense
11	Unit 5	Listening practice Write a paragraph about travel

12	Unit 6: Sure! I'll do it.	Talk about living with other people. Practice orders/requests
13	Unit 6	Listening/ reading practice Produce a skit with the grammar learned
14	Final exam (Units 4-6)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Interchange 2, 5th edition

【参考書】

Dictionary:

<https://www.merriam-webster.com>

Grammar help:

<https://www.grammarly.com>

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentations and Effort 25%

No more than 3 absences will be allowed.

Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities.
(tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】

None.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to reinforce grammar skills while helping you improve your speaking, listening, reading, and writing skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

SHAWN M DE HAVEN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop the language skills needed for students to express themselves in English. The class will focus on oral communication and listening skills. You will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

The goals of this course are as follows:

- You will be able to effectively express your opinions, knowledge, and experiences in oral and written form.
- You will be able to logically organize and write a paragraph and eventually a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn how to effectively express yourself through working in pairs, groups, making presentations, and producing scripted skits. Feedback will be provided in class after presentations and electronically after projects.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7: What do you use this for?	Talk in pairs about technology Grammar focus on infinitives and gerunds
2	Unit 7	Listening practice Write a message to your roommate
3	Unit 8: Time to celebrate!	Pair and group work Review grammar
4	Unit 8	Pair and group work Review vocabulary Write about your favorite holiday
5	Unit 9: Only time will tell	Pair and listening work about differences in the past
6	Unit 9	Pair and group work Practice word pairings Discuss and practice cause/effect sentences Reading practice
7	Midterm (Units 7-9)	Test on grammar and vocabulary
8	Unit 10:	Pair and group work Prepare biographical presentation (using Padlet)
9	Unit 10	Make a presentation in front of class
10	Unit 11: It's really worth seeing!	Discuss landmarks and other sites in pairs/ groups Practice passive voice

11	Unit 11	Pair and group work Write a guide to your city.
12	Unit 13: That's entertainment!	Pair and group work regarding movies Practice particles as adjectives
13	Unit 13	Role playing Write and film a movie review
14	Final exam (Units 10-12)	Test on vocabulary and grammar

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Interchange 2, 5th edition

【参考書】

Dictionary:

<https://www.merriam-webster.com>

Grammar help:

<https://www.grammarly.com>

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentations and Effort 25%

No more than 3 absences will be allowed.

Feedback will be given in class and online.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a computer, tablet, or smartphone to class for activities.
(tablet preferred if possible)

【その他の重要事項】

None.

【Outline (in English)】

The aim of this course is to reinforce grammar skills while helping students improve their speaking, listening, reading, and writing skills.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を理解し、さらに書くことを目標とします。コロナが収束すれば、以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力も身につけましょう。英米人とやり取りしている e-mail を紹介し、e-mail の書き方と論理的な構成をもつ英文を学びます。

【到達目標】

この授業では、日常生活において使われている英語の表現を学びます。さらに日本人が苦手とする listening の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいます。基礎的な実用英語と e-mail の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思っています。誰もが関心を持っているコロナの問題なども取り上げ、英米人がどのように考え、対処しているのかも紹介したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では listening にも力を入れますので、Key Expressions と Mini-conversations については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できるようにしましょう。授業では日常生活や現代社会の様々なことについて書かれている英米人との e-mail を紹介するので、論理的な英文の理解と書き方を学びます。章が終わるたびに確認テストを行います。確認テストの結果をもとに、学生が授業の内容を把握しているかどうかを確認し、必要があれば、補足説明をいたします。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。少人数クラスの利点を活かし、学生を指名するので、積極的に授業に参加してもらいます。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の方針を説明 Chapter 1 Hi! How are you?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
2	Chapter 1	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
3	Chapter 2 What's your major?	確認テスト Chapter 1 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説

4	Chapter 2	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
5	Chapter 3 What did she look like?	確認テスト Chapter 2 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
6	Chapter 3	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
7	Chapter 4 Let's take a trip!	確認テスト Chapter 3 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
8	Chapter 4	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
9	Chapter 5 How about going out for dinner?	確認テスト Chapter 4 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
10	Chapter 5	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
11	Chapter 6 Let's go shopping!	確認テスト Chapter 5 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 解説
12	Chapter 6	4.Power Listening One More Lesson e-mail 解説
13	春学期復習	chapter1-6 確認テスト Chapter 6
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。

各学期、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得はみとめません。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話を習得し、論理的構成を持つパラグラフの理解と英文の書き方を学びましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn how to converse in English using a variety of topics that you come across in everyday situations.

Learning Objectives

Through listening exercises and memorizing dialogues, you will gain confidence in your speaking ability and in your hearing skills. You will also learn how to write e-mails in English.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to memorize the following sections of the text: Key Expressions and Mini-conversations.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examinations: 70% and class contributions 30%.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

門馬 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎的な英会話の表現を身につけ、論理的な英文を理解し、さらに書くことを目標とします。コロナが収束すれば、以前と同じように、多くの外国人が日本を訪れるようになると思います。困っている外国人を見かけた場合には、英語で話しかけ、手助けできる会話力も身につけましょう。英米人とやり取りしている **e-mail** を紹介し、**e-mail** の書き方と論理的な構成をもつ英文を学びます。

【到達目標】

この授業では、日常生活において使われている英語の表現を学びます。さらに日本人が苦手とする **listening** の力をつけましょう。実際に外国の方と話をしなければならない時のことを想定して練習します。TOEIC(R) や TOEFL(R) で高得点を取っていても英会話がほとんどできない人もいます。基礎的な実用英語と **e-mail** の書き方の習得を目指します。論理的な構成をもつパラグラフを理解し、さらに書く力をつけることにつなげていきたいと思っています。誰もが関心を持っているコロナの問題なども取り上げ、英米人がどのように考え、対処しているのかも紹介したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業では **listening** にも力を入れますので、**Key Expressions** と **Mini-conversations** については予習はしなくてけっこうです。復習は必ず行い、必要な会話を暗記してください。さらに学んだ会話をもとに学生各自の状況に応用できるようにしましょう。授業では日常生活や現代社会の様々なことについて書かれている英米人との **e-mail** を紹介しますので、論理的な英文の理解と書き方を学びます。章が終わるたびに確認テストを行います。確認テストの結果をもとに、学生が授業の内容を把握しているかどうかを確認し、必要があれば、補足説明をいたします。

本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。少人数クラスの利点を活かし、学生を指名するので、積極的に授業に参加してもらいます。

なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chapter 7 How are you feeling?	1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
2	Chapter 7	4. Power Listening One More Lesson e-mail 紹介
3	Chapter 8 Hello? Can I speak to Mary?	確認テスト Chapter 7 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介

4	Chapter 8	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
5	Chapter 9 I'm so busy.	確認テスト Chapter 8 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
6	Chapter 10	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
7	Chapter 10 What do you do?	確認テスト Chapter 9 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
8	Chapter 10	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
9	Chapter 11 Let's watch sports!	確認テスト Chapter 10 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
10	Chapter 11	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
11	Chapter 12 Let's celebrate!	確認テスト Chapter 11 1. Key Expressions 2. Mini-conversations 3. Listening Challenge e-mail 紹介
12	Chapter 12	2. Mini-conversations One More Lesson e-mail 紹介
13	秋学期復習	Chapter 8～12 確認テスト Chapter 12
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。特に復習には力を入れてください。University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Simply Speaking『大学生のためのやさしい英会話』
Diane H. Nagatomo（金星堂）

【参考書】

必要な参考書、資料等については授業で紹介します

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、確認テスト等平常点（30 %）で成績を評価します。
各学期、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位習得はとれません。遅刻 3 回で欠席 1 回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに基づき授業を進めたい

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

目標を持って英会話を習得し、論理的構成を持つパラグラフの理解と英文の書き方を学びましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn how to converse in English using a variety of topics that you come across in everyday situations.

Learning Objectives

Through listening exercises and memorizing dialogues, you will gain confidence in your speaking ability and in your hearing skills. You will also learn how to write e-mails in English.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to memorize the following sections of the text: Key Expressions and Mini-conversations.

Grading Criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examinations: 70% and class contributions 30%.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Through a variety of stimulating topics and a number of different writing techniques, students will be challenged to improve their compositional skills to a satisfactory academic level.

【到達目標】

To produce competent written assignments in English, students need to be able to generate ideas & organize them on paper, create the various paragraph types that are used in writing assignments and order & link paragraphs into cohesive & coherent essays. This course will provide students with a variety of stimulating writing tasks, plenty of practice to help students master each stage of the writing process & models of writing that are based on real assignments. In addition to format, grammar & punctuation review, students will be helped through the transition from paragraph structuring to basic essay composition.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Each class will cover a separate writing skill, grammatical structures & vocabulary required.

Students will be able to read samples before practicing various writing tasks.

Writing assignments will be set as homework and must either be uploaded, or printed on A4 paper before the deadline.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introductory Class	Textbook introduction, required material guidance and class schedule
Week 2	Writing - Format & Process	Essential features of an academic report layout & the thought process of writing an essay
Week 3	Writing - Pre-Writing	Topic selection, brainstorming & editing
Week 4	Writing - The Structure of a Paragraph	Topic sentence, supporting points & concluding sentence
Week 5	Writing - The Development of a Paragraph	Using details, an explanation or an example to construct a paragraph
Week 6	Writing - Descriptive Paragraphs	Describing places & people using adjectives & prepositions of position
Week 7	Writing - Process Paragraphs	Use of Transition words/Conjunctions & the imperative verb form

Week 8	Writing - Opinion Paragraphs	Opinions vs facts & causative adverbs
Week 9	Writing - The Structure of an Essay	Introduction, body paragraphs & conclusion
Week 10	Writing - Thesis Statements	Effective construction of a thesis statement
Week 11	Writing - Outlines	Correct outline format & common errors
Week 12	Writing - Problem/Solution Writing	Use of the first conditional & linking phrases
Week 13	Writing - Introductions & Conclusions	How to write effective opening & closing paragraphs
Week 14	Writing - Comparison & Contrast Writing	Explaining similarities & differences

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare homework prior to each class on a weekly basis. In addition, regular reports will be assigned which will require around 2 hours of work & must either be uploaded or printed on A4 paper, before the deadline. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

'Writing Essay's by Dorothy E. Zemach & Lisa A. Ghulldu.
Publisher: Macmillan Language House

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at every lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:

30% - Participation & Punctuality

40% - Course Work

30% - Term-End Report

Feedback including corrections & a grade for each report will be given to students individually during lesson time.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will be made available online for further study & guidance.

【学生が準備すべき機器他】

Access to a PC & Printer in order to prepare & upload, or print reports.

【その他の重要事項】

Regular attendance is required, and a willingness to practice & improve your English writing skills, and submit assignments on time.

【Outline (in English)】

This course allows students to proceed step by step through the writing process, from paragraph to essay, acquiring the necessary skills to produce reports suitable for the academic environment.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

Richard.J.Burrows

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Through the lives of 2 young people growing up in present day United Kingdom, we will look at the difficulty of fulfilling your talent and ambition in a challenging environment. Issues such as sexism, racism & homophobia will be examined, while students will be introduced to new & challenging vocabulary, and be able to extensively practice their audio-visual skills.

【到達目標】

1. To give students the opportunity to discuss & analyze issues related to growing up and education in a different culture & environment.
2. To expose students to everyday spoken English through the film's dialogue and weekly pairwork practice.
3. To introduce students to new vocabulary, and offer practice in sentence structure responses.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This course is based on 2 recent films that explore the subject of growing up with a talent or gift and struggling to fulfill it in hostile circumstances. In 'Billy Elliot', students will focus on growing up in contemporary northern England with a story about a boy with a talent for ballet at the time of the miners' strike of the 1980s. In 'Bend It Like Beckham', focus will shift to an Indian girl growing up in a traditional family in a multi-cultural community with a talent for playing soccer.

Each week students will be assigned a reading passage, with both vocabulary & comprehension questions, in preparation for the following lesson. In addition, students will be required to prepare relevant vocabulary and preview themes that will be raised in that lesson's segment. After viewing two 10+ minute segments of the film, students will complete pairwork comprehension questions and analyze a piece of dialogue. Students will be assigned an additional reading passage & vocabulary exercise as homework as well as completing a review of what has been seen and discussed in the lesson.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Review & Preview	Review the previous semester & summer vacation, explain about new semester
Weeks 2	Speaking & Listening: Billy Elliot 1 (The Ballet Class):	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 3	Speaking & Listening: Billy Elliot 2 (The Private Lesson)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,

Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 3 (Family Trouble)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 4	Speaking & Listening: Billy Elliot 4 (The Audition)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 5	Speaking & Listening: Billy Elliot 5 (Leaving Home)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 6	Writing: Billy Elliot Report	Mid-Term Evaluation
Week 7	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 1 (Jess & her family)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 8	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 2 (Playing for the Team)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 9	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 3 (Trouble in Germany)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 10	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 4 (Jess vs Jules)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 12	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 5 (The Final Match)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 13	Speaking & Listening: Bend It Like Beckham 6 (Going to America)	Reading assignment, Preview, Vocabulary, Listening Comprehension questions x 2, Review,
Week 14	Writing: Bend It Like Beckham	Final Evaluation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to spend approximately 1 hour on each weekly reading assignment, and 30 minutes to prepare vocabulary & review the previous lesson's material, prior to each class. In addition, students will have to write a 1,200 word report for each film. No more than 3 absences will be permitted. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

No set text is required. However, since all materials will be available online, students must either download & print, or download and have ready on their laptop or tablet device, the required files before the lesson begins.

【参考書】

An electronic or smartphone dictionary, or dictionary app is required at each lesson.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be decided according to the following criteria:
30% - Participation & Punctuality
30% - Classroom & Homework Assignments
40% - Mid-term Written Assignment & Final Evaluation
Student will receive feedback & guidance on each report.
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

All of the class materials will also be available online for students to review and gain further practice with the audio-visual materials.

【学生が準備すべき機器他】

Students will require a laptop or tablet device with a reliable internet connection, in order to download materials, and to prepare and either upload or print reports.

【Outline (in English)】

As students enter university, they are faced with questions about their identity & future. Both of these films seek to offer guidance & encouragement on what is possible for young people with clear aims & sufficient determination to see their goals realized.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

MICHAEL DONOVAN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

【到達目標】

This course will enable students to attune themselves to native English using a range of materials. It will improve their ability to understand authentic English and increase their overall confidence in the target language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practised and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

All materials will be delivered and collected online via Hoppii for both face to face and online classes. All assignments are submitted online via Hoppii with online feedback and of course face to face feedback as a group or individually when possible and appropriate.

Students can contact the instructor at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com (ID yourself clearly Hosei / Name / Number)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course details explanation. Self introductions. An explanation of course contents and grading.	Think about your self introduction in English and think of any questions you might have about the course.
2	Japan Culture Quiz	Answer a quiz and make a similar quiz in English about Japanese culture.
3	Letter Correction	Identifying and correcting typical mistakes in a letter and composing a reply.
4	Mini Car video	History of the Mini car video and exercises. Using passive tenses. Q & A.
5	International Culture Quiz	Answer a quiz and make a similar quiz in English about international culture.

6	Japan Times newspaper front page	Answering and asking questions based on the front page news of the Japan Times newspaper.	【Outline (in English)】 Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.
7	Midway review	How are you doing? Talking about what's happening and what you have been doing.	
8	Sherlock Holmes video	Video and associated exercises on the famous fictional character Sherlock Holmes. Past tenses, descriptions of people.	
9	Mousetrap	Talking about systems and processes using passive tenses. Designing a mousetrap.	
10	Purple Violin video	Video and associated exercises on an unusual street musician. Talking about interests and hobbies.	
11	UFO stories I	Narratives, telling stories. Using pictures to make an interesting story about a UFO.	
12	UFO stories II	Narratives, telling stories. Using pictures to make an interesting story about a UFO.	
13	The near future.	Talking about the future, plans and possibilities.	
14	End of term review and consolidation	Review and consolidation. Q & A on past term and next term.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. All materials will be available online. Each assignment contains specific instructions and details relating to preparation and review. Some assignments require specific preparation and will be explained beforehand. Others will require follow up, again explained as and when needed. All preparation, review exercises, further reading and additional information will be provided in the worksheet or as web links. Details will be provided as we progress depending on how things develop.

【テキスト（教科書）】

No textbook required. Materials are provided by the teacher.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Missing more than three class assignments will imperil a passing grade.

100% awarded to assignments completed.

Students should complete all the assignments.

【学生の意見等からの気づき】

In the case of face to face classes I am available before and after the class and of course best of all talk to me in class.

Students can also contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time.

ID yourself clearly Kanagawa / Your name and number (in English)

Communicate in English only please.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students can contact me at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com

(ID yourself clearly Hosei / Name / Number) If you have a problem, please ask.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

MICHAEL DONOVAN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

【到達目標】

This course will enable students to attune themselves to native English using a range of materials. It will improve their ability to understand authentic English and increase their overall confidence in the target language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Direct method will be used. All lessons are conducted in English with the bare minimum of Japanese used for the sake of expediency. Language points will be presented, practised and then used in freer, interactive activities in pairs and groups and sometimes as an individual presentation. Vocabulary and new expressions are introduced in each class. There will be plenty of opportunity for students to utilize target language and expressions. Active participation is essential for the success of the course.

All materials will be delivered and collected online via Hoppii for both face to face and online classes. All assignments are submitted online via Hoppii with online feedback and of course face to face feedback as a group or individually when possible and appropriate.

Students can contact the instructor at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com (ID yourself clearly Hosei / Name / Number)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	From summer until now.	Talking about the holidays, things you did and didn't do.
2	Romance story	Narratives, telling a story, vocabulary and grammar exercises. Creating a story.
3	International News Quiz	Asking and answering questions on recent international news stories.
4	Jogging	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
5	How We Met	Listening, Q & A, talking about first meetings.
6	Money	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.

7	Midway review	How are you doing? Talking about what's happening and what you have been doing.
8	Cultural Differences	Cultural differences. Giving advice to a first time traveller in Japan.
9	The future	Talking about the future. Possibilities, probability. What will and won't happen
10	BBC video	Video on the history of the BBC and related exercises.
11	Japan News Quiz	Asking and answering questions on recent news stories in Japan.
12	Books, movies, music.	Talking about interests and favourites.
13	Reunion	Picture story. Narratives, vocabulary and grammar exercises. Creating and telling a story.
14	End of term review and consolidation	Review and consolidation. End of term activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. All materials will be available online. Each assignment contains specific instructions and details relating to preparation and review. Some assignments require specific preparation and will be explained beforehand. Others will require follow up, again explained as and when needed. All preparation, review exercises, further reading and additional information will be provided in the worksheet or as web links. Details will be provided as we progress depending on how things develop.

【テキスト（教科書）】

No textbook required. Materials are provided by the teacher.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Missing more than three class assignments will imperil a passing grade.

100% awarded to assignments completed.

Students should complete all the assignments.

【学生の意見等からの気づき】

In the case of face to face classes I am available before and after the class and of course best of all talk to me in class.

Students can also contact me directly on zoo57@yahoo.com at any time.

ID yourself clearly Hosei / Your name and number (in English) Communicate in English only please.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

Students can contact me at anytime 7 days a week directly on zoo57@yahoo.com

(ID yourself clearly Hosei / Name / Number) If you have a problem, please ask.

【Outline (in English)】

Each week students work through a topic that uses authentic native speaker English. This will enable students to experience native English and improve their knowledge of native speaker English culture.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Learning English for communicating in a global society. Students will study and improve all four English skills: Listening, Speaking, Reading and Writing.

【到達目標】

Students will practice and improve proficiency in all four language skills: Listening, Speaking, Reading, and Writing. How much students improve is dependent on how hard they apply themselves inside and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

NOTE: For the month of April classes will be conducted ONLINE, then move to F2F every other week for the rest of the semester.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Getting to Know Each Other	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work
3	Unit 1 Video: Another Country	Video Worksheet activities. Paragraph Writing & assignment explanation.
4	Unit 2: The Way we Live	Writing assignment due. Reading and pair work: Practice asking questions.
5	Writing Improvement Instruction	Common grammar and preposition mistakes.
6	Unit 2 Video: New York City's Park in the Sky	Video listening practice; worksheet questions and research assignment
7	Location Research report/ mini-Presentations	Quiz on Units 1-2 vocabulary and grammar.
8	Unit 3: What Happened Next?	Practice past simple (questions and answers) in pair and group activities.

9	Unit 3: Telling a story & Video	Past tense practice. The Titanic video listening practice. Wworksheet assignment.
10	Titanic research report	Students report research on video from previous week. Explanation of Song Journal activity.
11	Unit 4: The Marketplace	Reading comprehension and practice using "how much/many".
12	Unit 4 Pt. II	Song Journal writing due. Activities — using polite language. Explanation of how to give effective presentations.
13	Song Journal Presentations	Student give mini-presentations on song journal content; Q & A
14	Mini-presentations II.	Final quiz on Units 3 & 4. Course wrap up.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session.

University guidelines suggest preparation and review should be around one hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Liz and John Soars: American Headway Level 2 (3rd edition). Oxford University Press

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, writing assignments, presentations: 70%

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent during a test/quiz must contact the instructor to make it up within one week. Coming late to class twice = one absence (except for a good reason, like late trains, or illness)

【学生の意見等からの気づき】

More attention in class will be paid to how to write logical, coherent, and grammatically correct paragraphs and essays in English.

【Outline (in English)】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning and Using English for Global Communication: This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in basic English.

【到達目標】

Students will improve in all four language skills: listening, speaking, reading and writing. How much they improve depends on how hard they work in and outside the classroom.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role playing dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and homework.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online using Google Classroom. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 5: What Do You Want to Do?	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports.
2	Unit 5: Future Activities	Future tense practice—questions and answers in pair and group work.
3	Unit 5 video: A Green City for the Future	Video Worksheet activities and discussion. Assign research.
4	Energy and Conservation Reports	Students report on research. Begin Unit 6: Places and Things
5	Unit 6: What's it Like?	Practice on describing family with instruction on how to write an essay.
6	Unit 6: My family—similarities and differences	Essays due. Unit 6 reading assignment and pair/group activities. Role play textbook dialogue.
7	Writing Instruction; Video: Scotland	Essay writing feedback; Video Worksheet activities, research assignment.
8	Unit 6 Report and Wrap-up	Quiz on Units 5 & 6. Pair presentation assignment: Interview and Country Report.

9	Countries & Culture	Instruction on giving effective presentations. Begin Unit 7: The World of Work! Present perfect and past simple practice.
10	Student Country Presentations	Speaking and listening practice. Q & A.
11	Unit 7: Careers and Jobs	Textbook Reading activities Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 7 Video: Two Famous Firsts	Video worksheet and supplemental activities; final essay assignment.
13	Unit 8: Do's and Don'ts	Final Essay Due; practice giving advice (have to/should)
14	Units 7-8 Review and Wrap-up.	Return final essays. Quiz on Units 7 & 8.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to work/read ahead in the text by doing the readings and completing the activities assigned. Other homework assignments will be assigned in class.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Liz and John Soars. American Headway 2 (3rd Edition).

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】

Class attendance & participation: 30%

Quizzes, short essays, individual and group presentations: 70%

【学生の意見等からの気づき】

More instruction will be provided on how to write short position statements and essays, as well as how to improve presentation skills.

【その他の重要事項】

In principle students are permitted up to 3 unexcused absences during the semester. Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason—such as train delays, etc)

【Outline (in English)】

While attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and so we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will also be given various writing assignments throughout the semester to practice expressing themselves in writing.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

DYLAN O SCUDDER

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however special emphasis will be placed on academic reading and writing skills.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the socio-linguistic communication skills used in an English-speaking academic context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This is a completely online course. For details, please see HOPPII, the University's Learning Management System. Feedback on class assignments will be provided by email and/or in one-on-one discussions between the lecturer and the student. Students may request additional feedback on class assignments at any time during the semester. Various themes related to life in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to academic reading and writing skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
One	Your Vision: What is your dream job and how can English help you get it?	Classwork: Write one page (200-400 words) about your dream job and how English can help you get your dream job. Email me your classwork by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp Homework: Textbook Part 1, questions 4-7 (submit with classwork by the end of class next week).

Two	Problem-Solving 1/2	Classwork: Textbook, Part 1, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 1, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Three	Problem-Solving 2/2	Classwork: Textbook, Part 1, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 1, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Four	Analyzing Costs and Benefits 1/2	Classwork: Textbook, Part 2, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 2, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Five	Analyzing Costs and Benefits 2/2	Classwork: Textbook, Part 2, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 2, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Six	Brainstorming Basics 1/2	Classwork: Textbook, Part 3, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 3, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Seven	Brainstorming Basics 2/2	Classwork: Textbook, Part 3, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 3, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Eight	Corporate Governance 1/2	Classwork: Textbook, Part 4, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 4, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp

Nine	Corporate Governance 2/2	Classwork: Textbook, Part 4, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 4, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Ten	Risk Management 1/2	Classwork: Textbook, Part 5, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 5, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Eleven	Risk Management 2/2	Classwork: Textbook, Part 5, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 5, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Twelve	Cause-Effect Analysis 1/2	Classwork: Textbook, Part 6, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 6, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Thirteen	Cause-Effect Analysis 2/2	Classwork: Textbook, Part 6, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 6, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Fourteen	Summarizing Lessons Learned	Classwork: 1-page summary of the 3 main points you learned this semester (200-400 words). Homework: No homework required Email me your classwork by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
Preparation and review should be around one hour per week.
Preparation (homework) is a reflection paper of 200-400 words each week. Similar to your classwork, you will write your answers to the homework questions in the template that I will give you. You will submit your homework together with your classwork by the end of each class.

【テキスト（教科書）】

We will use the below textbook for classwork and homework.
Global Dilemmas: Cases from the Democratic Republic of the Congo and the Philippines

Rakuten Kobo: <https://books.rakuten.co.jp/rk/ad75a7a3815f3fc9b5939fc883d2a223/>

【参考書】

Any recommended references will be provided during class.

【成績評価の方法と基準】

Note: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Assuming that students are absent 3 times or less, their performance will be graded as described below.

Classwork: 50%

Homework: 50%

All classwork must be submitted via email by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp. The classwork requires answering 3-4 questions in the textbook each week. You can always find the classwork assignment for each class in the syllabus. You will submit the classwork to me by the end of each class using a classwork template that I will give you. Your classwork each week will be one page (200-400 words). As written above, you will submit your classwork together with your homework by the end of each class by email to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

All homework must be submitted via email by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp. You will write your homework using a template that I will give you. Your homework each week will also consist of one page (200-400 words). You will submit your homework together with your classwork by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

There are no points for incomplete or late assignments.

In summary, if you complete and submit all the classwork and homework on time, you can expect a correspondingly good grade.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

In order to complete and submit the classwork and homework for this class, you will need a computer and an internet connection.

【Outline (in English)】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however special emphasis will be placed on academic reading and writing skills.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

DYLAN O SCUDDER

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however special emphasis will be placed on academic reading and writing skills.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' English language skills and academic abilities to interact successfully in an all English-speaking university environment. Students will work on expanding on their general knowledge of intercultural communication and the socio-linguistic communication skills used in an English-speaking academic context.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This is a completely online course. For details, please see HOPPII, the University's Learning Management System. Feedback on class assignments will be provided by email and/or in one-on-one discussions between the lecturer and the student. Students may request additional feedback on class assignments at any time during the semester. Various themes related to life in the English-speaking world will be explored in depth. Students will be expected to not only participate in classroom activities, but also find and analyze information from various forms of English media independently and complete weekly homework assignments. Special emphasis will be given to academic reading and writing skills.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
One	How does your ability to use English influence your future?	Classwork: Write one page (200-400 words) about how your ability to use English will influence your future. Email me your classwork by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp Homework: Textbook Part 1, questions 4-7 (submit with classwork by the end of class next week).

Two	Crisis Management 1/2	Classwork: Textbook, Part 1, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 1, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Three	Crisis Management 2/2	Classwork: Textbook, Part 1, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 1, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Four	Strategy and Tactics 1/2	Classwork: Textbook, Part 2, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 2, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Five	Strategy and Tactics 2/2	Classwork: Textbook, Part 2, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 2, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Six	Logical Thinking 1/2	Classwork: Textbook, Part 3, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 3, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Seven	Logical Thinking 2/2	Classwork: Textbook, Part 3, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 3, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Eight	Organizational Development 1/2	Classwork: Textbook, Part 4, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 4, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp

Nine	Organizational Development 2/2	Classwork: Textbook, Part 4, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 4, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Ten	Action Research 1/2	Classwork: Textbook, Part 5, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 5, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Eleven	Action Research 2/2	Classwork: Textbook, Part 5, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 5, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Twelve	Force-Field Analysis 1/2	Classwork: Textbook, Part 6, questions 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 6, questions 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Thirteen	Force-Field Analysis 2/2	Classwork: Textbook, Part 6, "Learning Outcomes" 1-3. Total: 200-400 words. Homework: Textbook, Part 6, "Learning Outcomes" 4-7. Total: 200-400 words. Email me your classwork and homework by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp
Fourteen	Summarizing Lessons Learned	Classwork: 1-page summary of the 3 main points you learned this semester (200-400 words). Homework: No homework required Email me your classwork by the end of class at dylan.scudder.67@hosei.ac.jp

【成績評価の方法と基準】

Note: In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Assuming that students are absent 3 times or less, their performance will be graded as described below.

Classwork: 50%

Homework: 50%

All classwork must be submitted via email by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp. The classwork requires answering 3-4 questions in the textbook each week. You can always find the classwork assignment for each class in the syllabus. You will submit the classwork to me by the end of each class using a classwork template that I will give you. Your classwork each week will be one page (200-400 words). As written above, you will submit your classwork together with your homework by the end of each class by email to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

All homework must be submitted via email by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp. You will write your homework using a template that I will give you. Your homework each week will also consist of one page (200-400 words). You will submit your homework together with your classwork by the end of each class to dylan.scudder.67@hosei.ac.jp.

There are no points for incomplete or late assignments.

In summary, if you complete and submit all the classwork and homework on time, you can expect a correspondingly good grade.

【学生の意見等からの気づき】

Nothing in particular.

【学生が準備すべき機器他】

In order to complete and submit the classwork and homework for this class, you will need a computer and an internet connection.

【Outline (in English)】

I use communicative English language pedagogy and classroom practices common in English as a Second Language (ESL) programs at universities in English-speaking countries. Students are expected to advance all their language skills, however special emphasis will be placed on academic reading and writing skills.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

We will use the below textbook for classwork and homework.
Global Dilemmas: Cases from Japan and Colombia
<https://books.rakuten.co.jp/rk/0f05f5ddf935317e8b918e0968de4f8a/?l-id=item-c-relation-08>

【参考書】

Any recommended references will be provided during class.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見などを効果的に表現する力を養います。論理的な構成の paragraph を書く練習を行い、最終的には複数の paragraph から成る短いレポートを書くことができることを目指します。また、関心の高いトピックについては、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションを行う練習も取り入れます。

【到達目標】

1. 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見を 口頭や文章で効果的に表現できるようになる
2. paragraph の構造に留意し、論理構成を持つ文章を英語で書くことができるようになる
3. 英語の辞書を効果的に使うことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、自分の経験や考えを英語で書いたり、表現したりすることに重点を置き、講義とグループワークを組み合わせで進めます。春学期は、テキストのトピックに従って、自分の経験や考えを短い文章にまとめる練習を中心に行います。各自で書いたエッセイは、教員によるフィードバックのほか、受講生同士で読み合ったり、コメントを付け合ったりするなど、コミュニケーションを大切にしながら授業を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業についての説明
2	Unit 1-A: People	Introducing a person to someone else
3	Unit 1-B: Lessons learned	Write about something you learned
4	Unit 2-A: Foods we like	Making suggestions
5	Unit 2-B: Eating well	Write a restaurant review
6	Unit 3-A: You're in luck!	Talking about possibility
7	Unit 3-B: Unsolved mysteries	Do research and write about an issue
8	Unit 4-A: Lifestyle trends	Disagreeing
9	Unit 4-B: Fashion trends	Give fashion advice to someone looking for a job
10	Unit 5-A: Running errands	Making appointments
11	Unit 5-B: My neighborhood	Write about your neighborhood
12	Unit 6-A: Starting out	Responding
13	Unit 6-B: After graduation	Write about your college experience

14 Course Review

Writing an essay

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業内容に即した課題を出します。指示に従って取り組んでください。また、テキストに対応したウェブサイトを活用して、授業の予習・復習に努めましょう。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

James R. Morgan and Nancy Douglas, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016) — 2,900+tax yen

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点 (小テスト、課題、授業への参加態度など) 40%

- 学期末レポート 60%

原則として、4 回以上欠席すると単位の修得が認められません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は、グループワークやペアワークを通して会話の練習をしたことが好評でした。今年度も引き続き、グループやペアでの活動を取り入れていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This class will encourage students to confidently express their opinions and experiences about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand English language regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). In addition, they will be given opportunities to improve their ability to write an effective composition. They will study and learn the structure and function of a paragraph, learn how to compose a short essay, and write a short essay composed of paragraphs.

(Learning Objectives)

Students will be able to:

- effectively express their opinion, knowledge, and experience on daily life
- understand the basic construction of an essay written in English and write a short essay composed of paragraphs
- use an appropriate dictionary based on the assignment or task (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on:

- Quizzes, weekly assignments, participation (40%)
- Final Exam (60%)

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

川澄 亜岐子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見などを効果的に表現する力を養います。論理的な構成の文章を英語で書く練習に加えて、秋学期はいくつかのトピックについて、プレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを重点的に行います。これらの活動を通して、自分の考えや経験を他者に伝えたり、他者から出された意見について返答したりする練習をします。

【到達目標】

1. 日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、自分の知識や経験、意見を 口頭や文章で効果的に表現できるようになる
2. 効果的なプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションができるようになる
3. 英語の辞書を効果的に使うことができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は、自分の経験や考えを英語で書いたり、表現したりすることに重点を置き、講義とグループワークを組み合わせで進めます。秋学期は、テキストのトピックについてのディスカッションやプレゼンテーションを中心に行います。春学期に学んだ「書く力」をもとにして、自分の意見や経験を英語で説明したり、聞き手の意見に返答したりする練習を行います。また、授業の冒頭で小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業についての説明
2	Unit 7-A: Parties	Inviting someone to do something
3	Unit 7-B: Festivals and holidays	Write about a holiday
4	Unit 8-A: What's the story about?	Keeping a story going
5	Unit 8-B: Modern fairy tales	Write an email about previous event
6	Unit 9-A: Workplace traits	Interviewing for a job
7	Unit 9-B: Dream jobs	Write a presentation about an interesting career
8	Unit 10-A: Using the telephone	Using the telephone
9	Unit 10-B: Always connected	Describe your phone use
10	Preparation for a presentation (1)	Choosing a topic
11	Preparation for a presentation (2)	Making an outline
12	Preparation for a presentation (3)	Writing a script
13	Actual Presentation	Giving the presentation

14 Course Review

Presentation Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。授業内容に即した課題を出します。指示に従って取り組んでください。また、テキストに対応したウェブサイトを活用して、授業の予習・復習に努めましょう。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

James R. Morgan and Nancy Douglas, World Link 2 (3rd edition, Cengage Learning, 2016) — 2,900+tax yen

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（小テスト、課題、授業への参加態度など） 40%

- 学期末課題 60%

原則として、4 回以上欠席すると単位の修得が認められません。

【学生の意見等からの気づき】

グループやペアで課題に取り組む機会を設けたことが好評でした。オンライン授業が続く中でも、自分と違う考えに触れることができ、学びの幅が広がったという声が聞かれました。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class will encourage students to confidently express their opinions and experiences about a wide range of topics. It will help them to develop their ability to understand English language regarding familiar topics (e.g. daily life and social issues). Students will practice and learn the skills necessary to compose a text regarding their experiences, knowledge, and opinions about various issues. In addition, presentation skills will be introduced during the autumn semester. Students will be expected to prepare and deliver an effective, interactive presentation.

(Learning Objectives)

- effectively express their opinion, knowledge, and experience on daily life

- prepare and deliver a presentation

- use an English dictionary appropriately with purpose

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignment after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on:

- Quizzes, weekly assignments, participation (40%)

- Final Exam (60%)

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 1/Tue.1
 単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Feedback will be provided during class and on Google classroom.

1. Reading articles from book.
2. Listening and watching audio/video.
3. Speaking and Role play in Pair & Groups.
4. Individual Presentations about a topic.
5. Writing paragraphs and short essay.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: Lifestyles	Pair & group work. p. 4-5
3	Unit 1: Lifestyles	Pair & Group work. p. 6-7. Homework: reading p. 9
4	Unit 2: Leisure	Review reading. Speaking and Listening p. 10-11. Homework: reading
5	Unit 2: Leisure	Review reading. Speaking & Listening p. 12-3. Homework: reading
6	Unit 3: Getting Along	Review reading. Pair and Group work p.16-7. Homework: write an email p. 21
7	Unit 3: Getting Along	Review writing. Review for mid-term exam.

8	Midterm on Units 1-3	Written test on grammar and vocabulary.
9	Unit 4: Interests	Review email writing. Speaking & Listening activities p.24-5. Homework: reading p. 29
10	Unit 4: Interests	Review reading. Pair & Group work p. 30-1. Homework: grammar
11	Unit 5: Telling a Story	Speaking & Listening work in pairs. p. 32-3. Homework: writing p. 35
12	Unit 5: telling a Story	Review writing. Pair & Group work. p. 36-7. Homework: reading p. 41
13	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening activities. Review for Final Exam
14	Final Exam	Written test about grammar & vocabulary.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト (教科書)】

Miles Craven: Breakthrough Plus 2 (2nd edition). Macmillan Education

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

In principle, no more than 3 absences are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Student need smartphone or ipad or pc with a headset to participate in Zoom classes. They also need to know how to use Google classroom and Hoppii.

【Outline (in English)】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【到達目標】

Students will develop their skills to effectively express their opinions, knowledge and experience both orally and in written form. Drawing attention to the basic paragraph structure (e.g. topic sentence, supporting sentences and concluding sentence), students will be required to learn how to write a logically organized paragraph, and then write a short essay with multiple paragraphs.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

Students will learn how to effectively participate in and facilitate discussions and/or give presentations and speeches, depending on their English levels. The course will also help students acquire effective listening skills. Feedback will be given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening p. 38-9. Homework: reading p. 41
2	Unit 6: Celebrations	Speaking & Listening p. 44-5. Homework: reading p. 49
3	Unit 7: Food/Drink	Speaking & Listening p. 46-7. Homework: reading
4	Unit 7: Food/drink	Pair & Group Work p. 48-9. Homework: wrting
5	Unit 9: Rules	Speaking & Listenng. p. 50-1. Homework: reading p. 55
6	Unit 9: Rules	Pair & Group Work. p. 56-7. Homework: writing p. 61
7	Unit 9: continued	Review writing & provide feedback. Review for Mid-term exam.
8	Mid-term exam	Written exam
9	Unit 10: Health	Speaking & Listening p. 64-5. Homework: Writing p. 69
10	Unit 11: Comparisons	Review writing. Speaking & Listening p. 70-1. Homework: reading p. 75
11	Unit 11: Comparisons	Speaking & Listening p. 76-7. Homework: writing p. 81
12	Unit 12: The modern world	Review writing and provide feedback. Speaking & Listening p. 82-3

13 Unit 12: The Review topics for final exam

modern world

14 Final Exam

Grammar & Vocabulary Test.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to read ahead in the textbook and complete activities before the next class session. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Miles Craven: Breakthrough Plus 2 (2nd edition). Macmillan Education.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Mid-term 25%

Final Exam 25%

Writing Assignments 25%

Presentation & Effort 25%

In principle, no more than 3 absences are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access

【Outline (in English)】

This course will be given entirely in English. Students will participate in a variety of activities that involves all four skills of reading, writing, listening and speaking. These activities include role play dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

鈴木 真奈美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Writing: Goals and Self-introduction	I will introduce this course. You will learn how to introduce yourself. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Speaking: Self-Introduction Thank-you Letter	You will introduce yourself in class. You will learn how to write a thank-you letter.
3	Shadowing and Summarizing	You will watch a DVD on shadowing and summarizing in class.
4	Review of Shadowing and Summarizing Units 1-2	You will review shadowing and summarizing. pp.10-17
5	Units 3-4	pp.18-25

6	Preparation for Debates	You will learn about debates and prepare for your debates on issues you select.
7	Debate	You will do the debate.
8	Debate	You will continue to do the debate.
9	Units 5-6 Preparation for a Group Presentation	pp.26-33 You will prepare for a group presentation.
10	Presentation	You will make a group presentation.
11	Presentation	You will continue to make a group presentation.
12	Units 7-8	pp.34-41
13	Units 9-10	pp.42-49
14	Discussion Review Reflection	You will discuss your favorite topics with your classmates. You will review what you have learned in this class and discuss impressive units with your classmates. You will reflect on your academic achievement this semester.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
- 2) to watch or listen to an English program regularly.

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (5%), debate (5%) assignments (10%), and final examination (60%)

*If you have four absences per semester without permission, do not debate, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope that we will enjoy learning English together.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

鈴木 真奈美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、英語のライティングとスピーキングを中心に学習しますが、リーディング、リスニングも含めた 4 技能を統合的に発展させることを目標とします。クラスでは英語でのコミュニケーションの機会がたくさんあります。ディベートやグループプレゼンテーションも行います。このような授業に積極的に参加することで良い学習環境をともに創造していきましょう。

【到達目標】

You will try to achieve four goals: 1) to improve your English writing and speaking communicative competence; 2) to know and understand yourself better; 3) to think of your future life and career through the course work; and 4) to progress your English proficiency (listening, speaking, reading and writing) holistically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

You will learn:

- 1) communication strategies (e.g., shadowing and summarizing)
- 2) basic English writing knowledge (e.g., organization, topic sentences, how to write a letter or an e-mail)
- 3) presentation/debate skills and strategies
- 4) collaborative learning
- 5) the importance of understanding various perspectives on controversial issues and logical thinking
- 6) practice making small talk in every class

*I will give you my oral and written feedback on your assignments in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction; Review; Setting Goals	I will introduce this course. You will review what you learned in the previous semester. You will set your goals for this semester and this English course and write them in English.
2	Unit 11	pp.50-53 You will discuss the topic of each chapter.
3	Unit 12	pp.54-57 You will discuss the topic of each chapter.
4	Unit 13	pp.58-61 You will discuss the topic of each chapter.
5	Unit 14	pp.62-65 You will discuss the topic of each chapter.

6	Unit 15	pp.66-69 You will discuss the topic of each chapter.
7	Unit 16	pp.70-73 You will discuss the topic of each chapter.
8	Units 17-18	pp.74-81 You will discuss the topic of each chapter.
9	Preparation for Presentation	You will prepare for your presentation.
10	Presentation	You will make a presentation.
11	Presentation	You will continue to make a presentation.
12	Review	You will review what you learn in this class and discuss impressive units with your classmates.
13	Discussion	You will discuss your favorite topics with your classmates.
14	Discussion Reflection	You will continue to discuss your favorite topics with your classmates. You will reflect on your academic performance and set your goals for the next academic year.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected:

- 1) to read assigned units and look up words and phrases you don't know in the dictionary before the class.
- 2) to watch or listen to an English program regularly.

University guidelines suggest preparation and review are around four hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Title: Impact Issues 3: Presenting your ideas in English (3rd Edition)

Authors: Richard R. Day, Joseph Shaules, and Junko Yamanaka

Publisher: Pearson Education South Asia

Publishing Year: 2019

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English

【成績評価の方法と基準】

class participation (20%), presentation (20%), assignments (10%), and final examination (50%)

*If you have four absences per semester without permission, do not make a group presentation, or do not take a term examination, you cannot receive a credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

I hope you will come to like studying English more and that you will keep on learning English.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (Hosei's Educational Internet System), E-mail

【その他の重要事項】

What you are expected for every class:

- 1) to bring an English-English dictionary
- 2) to contact me when you are absent from class

*Good manners and collaborative learning are important in this class.

*Depending on the Covid-19 pandemic, some classes will be conducted online using Zoom.

【Outline (in English)】

You will learn English writing and speaking mainly in this class. However, this course aims to enhance your English (listening, speaking, reading and writing) holistically. You will have a lot of chances to communicate with your classmates and me in English. You will also debate and make a group presentation with your classmates. You are expected to make a good learning community through participation in this class.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身の回りのさまざまなトピックについての知識や自分の意見を、効果的に表現する力を養います。パラグラフの要素を理解し、論理的な短い文章を書く練習を行います。日本語でも英語でもどんな言語でも必要な論理的な文章の構造を学びます。

【到達目標】

- ・身の回りのトピックについて自分で調べることができる。
- ・学んだ知識や自分の意見を論理的に整理することができる。
- ・論理的な文章の構成が理解できる。
- ・論理的に自分の意見を発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。Unit 3 までは文の構造や書き方の基礎的な説明を行う。2 週目の授業までに Unit 1 と 2 をしっかりと読んでくること。その後は、教科書の説明に沿って授業内で実際にライティングのワークを行うので、毎回しっかりと教科書を予習してくること。適宜ペアやグループ分けをし、ピアレビューを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	The class rules and goals will be explained in the class room. Students will be assigned to set their goals for this course.
2	Unit 1 & 2	What is Cubing and Power system? What is writing?
3	Unit 3	About the Paragraph
4	Unit 3 cont.	Finish writing Self-introduction speech
5	Unit 4	Descriptive Paragraph
6	Unit 4 cont.	Revise
7	Unit 5	Comparison and Contrast Paragraph
8	Unit 5 cont.	Revise
9	Unit 6	Process Paragraph
10	Unit 6 cont.	Revise
11	Unit 7	Narrative Paragraph
12	Unit 7 cont.	Revise
13	Review	Preparation for the final writing
14	Final Exam	Final Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、教科書の指定された箇所を読み、指定された宿題を完成し、次の授業までに提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Matthew A. Tylor and David E. Kluge. (2012) Basic Steps to Academic Writing : From Paragraphs to Essay. Cengage Learning.

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでもいいが、品詞や意味のほかにも用法、類語などが調べられるものを用意すること。

【成績評価の方法と基準】

課題提出を含めた平常点 (40%), 期末試験 (60%)。
原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位習得を認めない。
遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。
遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回課題は PDF 形式で提出が必要になるので、各自 Word などのドキュメントを PDF に書き出せるように準備しておくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this course, the students will be expected to learn the skills to write the paragraphs logically in English. In this course, CUBING system and POWER system will be introduced. Students also practice the presentation based on their writings.

【到達目標 (Learning Objectives)】 After finishing this course, the students will be able to understand the basic structure of paragraphs. Students will be able to write English texts strategically.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 Students are expected to be prepared for the class by reading and writing assignments and reviewing the feedback every week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class participation and assignments (40%), and the final examination (60%).

In principle, no more than 4 absences per semester are allowed. Late arrivals are considered to be up to 30 minutes after the start of class, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身の回りのさまざまなトピックについての知識や自分の意見を、効果的に表現する力を養います。パラグラフの要素を理解し、論理的な短い文章を書く練習を行います。日本語でも英語でもどんな言語でも必要な論理的な文章の構造を学びます。後期ではさらに、プレゼンテーションも加え、論理的な文章作成を論理的な口頭説明に応用する方法も習得します。

【到達目標】

- ・身の回りのトピックについて自分で調べることができる。
- ・学んだ知識や自分の意見を論理的に整理することができる。
- ・論理的な文章の構成が理解できる。
- ・論理的に自分の意見を発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。教科書の説明に沿って授業内で実際にライティングのワークを行うので、毎回しっかりと教科書を予習してくること。適宜ペアやグループ分けをし、ピアレビューを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	The class rules and goals will be explained in the class room. Students will be assigned to set their goals for this course.
2	Unit 8	Summary Paragraph
3	Unit 8 cont.	Summary Paragraph Presentation
4	Unit 9	Analysis Paragraph
5	Unit 9 cont.	Analysis Paragraph Presentation
6	Unit 10	Cause and Effect Paragraph
7	Unit 10 cont.	Cause and Effect Paragraph Presentation
8	Unit 11	Persuasive Paragraph
9	Unit 11 cont.	Persuasive Paragraph Presentation
10	Unit 12	Problem-Solution Paragraph
11	Unit 12 cont.	Problem-Solution Paragraph
12	Unit 14	Changing a Paragraph into an Essay
13	Unit 14 cont.	Changing a Paragraph into an Essay
		Final Review
14	Final Exam	Final Essay Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、教科書の指定された箇所を読み、指定された宿題を完成し、次の授業までに提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Matthew A. Tylor and David E. Kluge. (2012) Basic Steps to Academic Writing : From Paragraphs to Essay. Cengage Learning.

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでもいいが、品詞や意味のほかにも用法、類語などが調べられるものを用意すること。

【成績評価の方法と基準】

課題提出を含めた平常点 (40%), 期末試験 (60%)。

原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位取得を認めない。

遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回課題は PDF 形式で提出が必要になるので、各自 Word などのドキュメントを PDF に書き出せるように準備しておくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this course, the students will be expected to learn the skills to write the paragraphs logically in English. In this course, CUBING system and POWER system will be introduced. Students also practice expressing their opinions to the class.

【到達目標 (Learning Objectives)】 After finishing this course, the students will be able to understand the basic structure of paragraphs. Students will be able to write English texts strategically.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 Students are expected to be prepared for the class by reading and writing assignments and reviewing the feedback every week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class participation and assignments (40%), and the final examination (60%).

In principle, no more than 4 absences per semester are allowed. Late arrivals are considered to be up to 30 minutes after the start of class, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身の回りのさまざまなトピックについての知識や自分の意見を、効果的に表現する力を養います。パラグラフの要素を理解し、論理的な短い文章を書く練習を行います。日本語でも英語でもどんな言語でも必要な論理的な文章の構造を学びます。

【到達目標】

- ・身の回りのトピックについて自分で調べることができる。
- ・学んだ知識や自分の意見を論理的に整理することができる。
- ・論理的な文章の構成が理解できる。
- ・論理的に自分の意見を発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。Unit 3 までは文の構造や書き方の基礎的な説明を行う。2 週目の授業までに Unit 1 と 2 をしっかりと読んでくること。その後は、教科書の説明に沿って授業内で実際にライティングのワークを行うので、毎回しっかりと教科書を予習してこること。適宜ペアやグループ分けをし、ピアレビューを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	The class rules and goals will be explained in the class room. Students will be assigned to set their goals for this course.
2	Unit 1 & 2	What is Cubing and Power system? What is writing?
3	Unit 3	About the Paragraph
4	Unit 3 cont.	Finish writing Self-introduction speech
5	Unit 4	Descriptive Paragraph
6	Unit 4 cont.	Revise
7	Unit 5	Comparison and Contrast Paragraph
8	Unit 5 cont.	Revise
9	Unit 6	Process Paragraph
10	Unit 6 cont.	Revise
11	Unit 7	Narrative Paragraph
12	Unit 7 cont.	Revise
13	Review	Preparation for the final writing
14	Final Exam	Final Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、教科書の指定された箇所を読み、指定された宿題を完成し、次の授業までに提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Matthew A. Tylor and David E. Kluge. (2012) Basic Steps to Academic Writing : From Paragraphs to Essay. Cengage Learning.

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでもいいが、品詞や意味のほかにも用法、類語などが調べられるものを用意すること。

【成績評価の方法と基準】

課題提出を含めた平常点 (40%), 期末試験 (60%)。

原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位習得を認めない。

遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回課題は PDF 形式で提出が必要になるので、各自 Word などのドキュメントを PDF に書き出せるように準備しておくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this course, the students will be expected to learn the skills to write the paragraphs logically in English. In this course, CUBING system and POWER system will be introduced. Students also practice the presentation based on their writings.

【到達目標 (Learning Objectives)】 After finishing this course, the students will be able to understand the basic structure of paragraphs. Students will be able to write English texts strategically.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 Students are expected to be prepared for the class by reading and writing assignments and reviewing the feedback every week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class participation and assignments (40%), and the final examination (60%).

In principle, no more than 4 absences per semester are allowed. Late arrivals are considered to be up to 30 minutes after the start of class, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 4/Sat.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身の回りのさまざまなトピックについての知識や自分の意見を、効果的に表現する力を養います。パラグラフの要素を理解し、論理的な短い文章を書く練習を行います。日本語でも英語でもどんな言語でも必要な論理的な文章の構造を学びます。後期ではさらに、プレゼンテーションも加え、論理的な文章作成を論理的な口頭説明に応用する方法も習得します。

【到達目標】

- ・身の回りのトピックについて自分で調べることができる。
- ・学んだ知識や自分の意見を論理的に整理することができる。
- ・論理的な文章の構成が理解できる。
- ・論理的に自分の意見を発信できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って授業を進める。教科書の説明に沿って授業内で実際にライティングのワークを行うので、毎回しっかりと教科書を予習してこよう。適宜ペアやグループ分けをし、ピアレビューを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	The class rules and goals will be explained in the class room. Students will be assigned to set their goals for this course.
2	Unit 8	Summary Paragraph
3	Unit 8 cont.	Summary Paragraph Presentation
4	Unit 9	Analysis Paragraph
5	Unit 9 cont.	Analysis Paragraph Presentation
6	Unit 10	Cause and Effect Paragraph
7	Unit 10 cont.	Cause and Effect Paragraph Presentation
8	Unit 11	Persuasive Paragraph
9	Unit 11 cont.	Persuasive Paragraph Presentation
10	Unit 12	Problem-Solution Paragraph
11	Unit 12 cont.	Problem-Solution Paragraph
12	Unit 14	Changing a Paragraph into an Essay
13	Unit 14 cont.	Changing a Paragraph into an Essay
		Final Review
14	Final Exam	Final Essay Writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、教科書の指定された箇所を読み、指定された宿題を完成し、次の授業までに提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Matthew A. Tylor and David E. Kluge. (2012) Basic Steps to Academic Writing : From Paragraphs to Essay. Cengage Learning.

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでもいいが、品詞や意味のほかにも用法、類語などが調べられるものを用意すること。

【成績評価の方法と基準】

課題提出を含めた平常点 (40%), 期末試験 (60%)。

原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位取得を認めない。

遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回課題は PDF 形式で提出が必要になるので、各自 Word などのドキュメントを PDF に書き出せるように準備しておくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 In this course, the students will be expected to learn the skills to write the paragraphs logically in English. In this course, CUBING system and POWER system will be introduced. Students also practice expressing their opinions to the class.

【到達目標 (Learning Objectives)】 After finishing this course, the students will be able to understand the basic structure of paragraphs. Students will be able to write English texts strategically.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 Students are expected to be prepared for the class by reading and writing assignments and reviewing the feedback every week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class participation and assignments (40%), and the final examination (60%).

In principle, no more than 4 absences per semester are allowed. Late arrivals are considered to be up to 30 minutes after the start of class, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe100LA

English 2 I

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学習用に製作された映像ドラマを導入した教科書を題材に、(1) ドラマを通してリスニング力の増強をはかる、(2) スピーキングに必要な会話表現を学ぶ。

『オリブ・グリーン：ミステリードラマで学ぶ実用英語 (CEFR-A2)』(第2巻)を教科書として、ミステリードラマを通して、英語で物語の展開を楽しむことを目指す。学習用に製作されていることから、語彙・会話表現についてディクテーションやクイズを通して無理なく身につけられる構成になっている。また、各課で学んだ会話表現を活用するアクティビティも盛り込まれていることから、リスニング・コンプリヘンション能力およびアウトプット力を増強する。

【到達目標】

(1) ドラマを通して、リスニング・コンプリヘンション力を身につける。

(2) 学んだ会話表現をアウトプットする練習を通して、会話表現力を増強する。

(3) パラグラフ・ライティングを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は「オンデマンド（資料型）」として実施する。指示や課題を学習支援システムで配信する。

演習として、教科書の課題を毎回進めていく。

ライティング演習も導入する。

課題に関しては、ラーニングシステムを通じて提出する。フィードバックに関しては全体の講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書『オリブ・グリーン：ミステリードラマで学ぶ実用英語 (CEFR-A2)』(第2巻)についての導入	教科書『オリブ・グリーン——ミステリードラマで学ぶ実用英語』(第2巻)の構成、ドラマの内容について。
第 2 回	教科書の演習 (第1章)	Ch. 1 "In the Middle of Nowhere"
第 3 回	教科書の演習 (第2章)	Ch. 2 "Blackmail"
第 4 回	教科書の演習 (第3章)	Ch. 3 "Home Sweet Home"
第 5 回	教科書の演習 (第4章)	Ch. 4 "Negotiations"
第 6 回	教科書の演習 (第5章)	Ch. 5 "Visiting Cloutier"
第 7 回	教科書の演習 (第6章)	Ch. 6 "At Alfie's Place"
第 8 回	ライティング演習 (1)	教科書の復習をライティング課題につなげる。「ミステリードラマについて英語でレビューを書く」

第 9 回	教科書の演習（第 7 章）	Ch. 7 "David in a Trap"
第 10 回	教科書の演習（第 8 章）	Ch. 8 "Confrontation"
第 11 回	教科書の演習（第 9 章）	Ch. 9 "Digging a Grave"
第 12 回	教科書の演習（第 10 章）	Ch. 10 "Another Confrontation"
第 13 回	教科書の演習（第 11 章）	Ch. 11 "Great, Now We're Trapped"
第 14 回	まとめ／ライティング演習（2）	教科書の復習をライティング課題につなげる。「ミステリードラマについて英語でレビューを書く」（仕上げ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『オリブ・グリーン——ミステリードラマで学ぶ実用英語（CEFR-A2）』（朝日出版社、2022 年）＊ 2022 年の新刊

【参考書】

スクリーンプレイ社による映画を題材にした英語学習教材『スクリーンプレイ』シリーズ。

四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』（ティエス企画）。

【成績評価の方法と基準】

・毎回実施する教科書を用いた演習課題（関連したライティング課題を含む）＝ 100 %
 （学期の「まとめ」とする最終課題は配点の比重を高く設定する）

【学生の意見等からの気づき】

主として再履修者を対象とする授業であり、学習内容と効果を最大限重視して行った。教室での対面授業が一般的であった際は出席に難がある場合も多かったが、オンライン授業と混在している現在では、オンライン授業を苦手とする層も存在する。一方でやはりペアワークなどのアクティビティを苦手とする層もいる。すべての層の期待や要求にこたえることは不可能であるが、学習効果を最優先として教科書の課題を徹底させることを目指した。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを通じて課題を提出する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to develop students' listening ability. Students will watch and listen to a mystery drama at natural speed in order to get accustomed to rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in daily conversations.

【Learning Objectives】

The goal is to develop students' listening ability so that they can grasp the outline and the main point of the drama and pick out necessary information.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on weekly assignments submitted in due time = 100%.

LANe100LA

English 2 II

2017 年度以降入学者

中垣 恒太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 3/Sat.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オンライン映像教材を導入した総合英語教科書を用いて、（1）リスニング力の増強をはかる、（2）ディスカッションに必要な準備の仕方、会話表現を学ぶ。

『映像で学ぶアメリカの素顔——都市・人々・視点』を教科書として、オンライン映像教材を通して、英語で内容を把握ができることを目指す。学習用に製作されていることから、語彙・会話表現についてディクテーションやクイズを通して無理なく身につけられる構成になっている。また、各課で学んだ会話表現を活用するアクティビティも盛り込まれていることから、リスニング・コンプリヘンション能力およびアウトプット力を増強する。

アメリカの多様な地域文化を題材とする教科書を通して、異文化に対する理解を深めることも狙いとする。

【到達目標】

- （1）オンライン映像教材を通して、リスニング・コンプリヘンション力を身につける。
- （2）学んだ会話表現をアウトプットする練習を通して、会話表現力を増強する。
- （3）ディスカッションに必要な準備の仕方を学び、内容を踏まえた上での確に意見を述べる。
- （4）パラグラフ・ライティングを身につける。
- （5）英語を通して異文化に対する理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）として実施する。指示や課題を学習支援システムを通して提示する。

演習として、教科書の課題を毎回進めていく。課題に関しては、ラーニングシステムを通じて提出する。フィードバックに関しては全体の講評を中心に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	教科書『映像で学ぶアメリカの素顔——都市・人々・視点』の構成	教科書『映像で学ぶアメリカの素顔——都市・人々・視点』の構成について。
第 2 回	教科書の演習（第 1 章）——アメリカ東海岸の文化	Unit 1 "Boston, Massachusetts"
第 3 回	教科書の演習（第 2 章）——アメリカ東海岸の文化	Unit 2 "Maine"
第 4 回	教科書の演習（第 3 章）——アメリカ東海岸の文化	Unit 3 "New York City ①"
第 5 回	教科書の演習（第 5 章）——アメリカの首都	Unit 5 "Washington, D.C."

第 6 回	教科書の演習 (第 6 章) —— アメリカの南部文化	Unit 6 "Charleston, South Carolina"
第 7 回	教科書の演習 (第 7 章) —— アメリカの南部文化	Unit 7 "Savannah, Georgia"
第 8 回	ライティング演習①	「ライティング演習」①——パラグラフ・ライティング入門
第 9 回	教科書の演習 (第 9 章) —— アメリカの西部文化	Unit 9 "Austin, Texas"
第 10 回	教科書の演習 (第 11 章) —— アメリカの西部文化	Unit 11 "Santa Fe, New Mexico"
第 11 回	教科書の演習 (第 12 章) —— アメリカの西部文化	Unit 12 "Arizona (Grand Canyon, Route 66)"
第 12 回	教科書の演習 (第 13 章) —— アメリカの西部文化	Unit 13 "Los Angeles ①"
第 13 回	教科書の演習 (第 15 章) —— アメリカの西部文化	Unit 15 "Seattle, Washington"
第 14 回	まとめ+「ライティング演習」②	教科書のまとめ+「ライティング演習」②——効果的なパラグラフ・ライティング

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

『映像で学ぶアメリカの素顔——都市・人々・視点』(金星堂、2020 年)

【参考書】

スクリーンプレイ社による映画を題材にした英語学習教材『スクリーンプレイ』シリーズ。

四軒家忍『TOEFL テスト集中攻略ライティング』(テイエス企画)。

【成績評価の方法と基準】

・毎回実施する教科書を用いた演習課題 (ライティング課題を含む) = 100 %

(まとめとなる最終課題は配点の比重を高く設定する)

【学生の意見等からの気づき】

主として再履修者を対象とする授業であり、学習内容と効果を最大限重視して行った。教室での対面授業が一般的であった際は出席に難がある場合も多かったが、オンライン授業と混在している現在では、オンライン授業を苦手とする層も存在する。一方でやはりペアワークなどのアクティビティを苦手とする層もいる。すべての層の期待や要求にこたえることは不可能であるが、学習効果を最優先として教科書の課題を徹底させることを目指した。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて課題提出を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to develop students' listening ability. Students will watch and listen to actual video interviews at natural speed in order to get accustomed to rhythms, and the pitch and intonation of natural spoken English. Students will also learn phrases and expressions typically found in broadcast English.

【Learning Objectives】

The goal is to develop students' listening ability so that they can grasp the outline and the main point of the broadcast and pick out necessary information.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and after each class. Specific instructions will be given.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation will be based on weekly assignments submitted in due time = 100%.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れではない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身に付ける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文として課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く: トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意ください」前半講読
3	Chapter 1-2 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く: トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意ください」後半講読
4	Chapter 6-1 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン: 機械は社会にどのような変化をもたらしているか」前半講読

5	Chapter 6-2 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」後半講読
6	Chapter 11-1 Saving the Environment: Can one person make a difference?	「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」前半講読
7	Chapter 11-2 Saving the Environment: Can one person make a difference?	「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」後半講読
8	Chapter 16-1 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question?	「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」前半講読
9	Chapter 16-2 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question?	「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」後半講読
10	Chapter 2-1 Watch This: Should the film industry be more socially responsible?	「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」前半講読
11	Chapter 2-2 Watch This: Should the film industry be more socially responsible?	「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」後半講読
12	Chapter 7 -1 More Than Enough: Are some people just too rich?	「必要以上のお金： お金持ちすぎる人もいる？」前半講読
13	Chapter 7 -2 More Than Enough: Are some people just too rich?	「必要以上のお金： お金持ちすぎる人もいる？」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間を取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017 年, 1,900 円 + 税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。

授業への貢献 10 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 10 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor make from other materials.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身につける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Chapter 12-1 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態: 動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」前半講読
3	Chapter 12-2 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態: 動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」後半講読
4	Chapter 17-1 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想: 身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」前半講読

5	Chapter 17-2 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想: 身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」後半講読
6	Chapter 3-1 Girl Power: Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー: アクション女優は女性をエンパワーメントするか」前半講読
7	Chapter 3-2 Girl Power: Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー: アクション女優は女性をエンパワーメントするか」後半講読
8	Chapter 15-1 Highly Contagious: Is the world ready for the next outbreak?	「強い感染力: 次の大発生に世界は準備ができていだろうか」前半講読
9	Chapter 15-2 Highly Contagious: Is the world ready for the next outbreak?	「強い感染力: 次の大発生に世界は準備ができていだろうか」後半講読
10	Chapter 18-1 The Golden Rule: How do people decide what is moral and immoral?	「黄金律: 人々はどのように道徳と不道徳を決定しているのだろうか」前半講読
11	Chapter 18-2 The Golden Rule: How do people decide what is moral and immoral?	「黄金律: 人々はどのように道徳と不道徳を決定しているのだろうか」後半講読
12	Chapter 4-1 It's Just a Game: What are some of the big debates in sports today?	「ただのゲームじゃないか。今日、スポーツ界でとても大きな議論を読んでいることは何か」前半講読
13	Chapter 4-2 It's Just a Game: What are some of the big debates in sports today?	「ただのゲームじゃないか。今日、スポーツ界でとても大きな議論を読んでいることは何か」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト (教科書)】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017 年, 1,900 円+税)

【参考書】

英語系辞書 (特に英英辞書)

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。

授業への貢献 10 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 10 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from other materials.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5%. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で学術・社会問題を考えるのに必要なリーディング・スキルと批判的思考力を修得します。リスニングの練習もおこない、英語による情報収集力を身につけます。基礎的なライティングの技法も指導します。

【到達目標】

学期の終わりまでに次のことができるようになるのが目標です。
・主題、細部、文脈を意識しながら基礎的な英文を読むことができる。
・幅広い話題の英文を批判的に読むことができる。
・身近な話題の英語の情報を聴き取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の単元ごとに以下のタスクを行います。3 回の授業で一単元進みます。

・ビデオタスク
・リーディング 1 回目
・リーディング 2 回目
・語彙・表現学習
・クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
パラグラフ・ライティング、その他の課題は必ず回収し、添削などのフィードバックを行なって返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明、『リスニング・ハンドブック』の説明
2	Unit1-1	Unit1:ビデオタスクとリーディング 1
3	Unit1-2	Unit1:リーディング 2 と語彙・表現学習
4	Unit1-3	Unit1:クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
5	Unit2-1	Unit2:ビデオタスクとリーディング 1
6	Unit2-2	Unit2:リーディング 2 と語彙・表現学習
7	Unit2-3	Unit2:クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
8	Unit3-1	Unit3:ビデオタスクとリーディング 1
9	Unit3-2	Unit3:リーディング 2 と語彙・表現学習
10	Unit3-3	Unit3:クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
11	Unit4-1	Unit4:ビデオタスクとリーディング 1
12	Unit4-2	Unit4:リーディング 2 と語彙・表現学習
13	Unit4-3	Unit4:クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
14	Review	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教科書の予習をしたうえで授業に臨んでください。
・授業内で示された演習課題に取り組んでください。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Unlock Level 2 Reading, Writing & Critical Thinking (Second Edition) by Richard O'Neill, Michele Lewis, with Chris Sowton. Cambridge UP.

【参考書】

授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：60%
- ・提出物（4 回のライティング課題）：40%
- ・4 回以上欠席した受講生は単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

- ・ Course outline: This course is designed to help students to acquire reading and critical thinking skills to address academic and social issues. Listening comprehension and paragraph writing tasks are also assigned to foster their ability to gather information and express their thoughts in English.
- ・ Learning Objectives: By the end of this course, students will have an ability to read passages written in simple English paying attention to the main ideas, details, and contexts, so that they can read a variety of articles critically. They will acquire listening skills to understand what people are saying in everyday English.
- ・ Learning activities outside of the classroom: Preparation for exercises in the textbook. Additional tasks will be assigned.
- ・ Grading Criteria/Policy: In class activity 60%, Four writing assignments 40%. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で学術・社会問題を考えるためのリーディング・スキルと批判的思考力を伸長します。リスニングの練習もおこない、英語による情報収集力を充実させます。ライティングの技法も継続して指導します。

【到達目標】

- 学期の終わりまでに次のことができるようになるのが目標です。
 - ・主題、細部、文脈を意識しながら、まとまった長さの英文を読むことができる。
 - ・学術・社会的なトピックの英文を批判的に読むことができる。
 - ・より幅広い話題の英語の情報を聴き取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の単元ごとに以下のタスクを行います。3 回の授業で一単元進みます。

- ・ビデオタスク
 - ・リーディング 1 回目
 - ・リーディング 2 回目
 - ・語彙・表現学習
 - ・クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
- パラグラフ・ライティング、その他の課題は必ず回収し、添削などのフィードバックを行なって返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明、『リスニング・ハンドブック』の確認
2	Unit5-1	Unit5: ビデオタスクとリーディング 1
3	Unit5-2	Unit5: リーディング 2 と語彙・表現学習
4	Unit5-3	Unit5: クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
5	Unit6-1	Unit6: ビデオタスクとリーディング 1
6	Unit6-2	Unit6: リーディング 2 と語彙・表現学習
7	Unit6-3	Unit6: クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
8	Unit7-1	Unit7: ビデオタスクとリーディング 1
9	Unit7-2	Unit7: リーディング 2 と語彙・表現学習
10	Unit7-3	Unit7: クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング
11	Unit8-1	Unit8: ビデオタスクとリーディング 1
12	Unit8-2	Unit8: リーディング 2 と語彙・表現学習
13	Unit8-3	Unit8: クリティカル・シンキングとパラグラフ・ライティング

14 Review まとめて復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教科書の予習をしたうえで授業に臨んでください。
 ・授業内で示された演習課題に取り組んでください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Unlock Level 2 Reading, Writing & Critical Thinking (Second Edition) by Richard O'Neill, Michele Lewis, with Chris Sowton. Cambridge UP.

【参考書】

授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：60%
- ・提出物（4 回のライティング課題）：40%
- ・4 回以上欠席した受講者は単位取得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・Course outline: This course is designed to help students to improve reading and critical thinking skills to address academic and social issues. Listening comprehension and paragraph writing tasks are also assigned to develop their capacity to gather information and express their thoughts in English.
 ・Learning Objectives: By the end of this course, students will have an ability to read long passages written in English paying attention to the main ideas, details, and contexts, so that they can read articles about academic and social subjects critically. They will enhance listening skills to understand a wide range of topics in English.
 ・Learning activities outside of the classroom: Preparation for exercises in the textbook. Additional tasks will be assigned.
 ・Grading Criteria/Policy: In class activity 60%, Four writing assignments 40%. In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストコロナリスムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること, (2) 英語のみならず, その背景にある問題を調べて把握すること, (3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します（事前に担当者を割り当てることもあります）。それ以外に特定のトピックに基づいた発表をしてもらいます。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。
 （フィードバック方法について）リアクションペーパーに書かれた質問は全て次の授業で取り上げて回答、コメントはクラス全体で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	ウォームアップを含めて授業の内容説明、発表の順番決め、『リスニング・ハンドブック』の説明。
2	Chap 1, "Colonialism and Imperialism"	精読、ニュース英語のリスニング。
3	Chap 1, "Colonialism and Imperialism" (前回の続き)	精読、ニュース英語のリスニング。
4	Chap 2, "Theories of Colonial Discourses"	精読、ニュース英語のリスニング。
5	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン、ニュース英語のリスニング。
6	Chap 2, "Theories of Colonial Discourses" (前回の続き)	精読、ニュース英語のリスニング。
7	Chap 3, "Reading Orientalism (Part 1)"	精読、ニュース英語のリスニング。
8	Chap 4, "Reading Orientalism (Part 2)"	精読、ニュース英語のリスニング。
9	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン、ニュース英語のリスニング。
10	Chap 5, "Imagining the Nation: Forging Tradition and History"	精読、ニュース英語のリスニング。

11	Chap 5, "Imagining the Nation: Forging Tradition and History"(前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
12	Chap 6, "The Disenchantment with Nationalism"	精読. ニュース英語のリスニング.
13	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン. ニュース英語のリスニング.
14	まとめと確認	議論とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では英語で発表する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。毎回課題提出が必須です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバル化へ』, John McLeod, 木村茂雄他編注（英宝社, 2015）。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）, および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題含む平常点 (20%) と試験 (80%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席及び課題提出する必要があります。

病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。また、難解な箇所の説明にも今まで以上に力を入れたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to read "post-colonialism" through an introductory book and discuss what is needed in the world of "globalisation".

The goal of this course is to acquire the above-mentioned knowledge and ability to discuss it.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end exam: 80%, assignments: 20%

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期科目「英語 1」に引き続いて、ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること, (2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること, (3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します（事前に担当者を割り当てることもあります）。それ以外に特定のトピックに基づいた発表をしてもらいます。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

（フィードバック方法について）リアクションペーパーに書かれた質問は全て次の授業で取り上げて回答、コメントはクラス全体で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chap 7, "English in the Colonies"	精読. ニュース英語のリスニング.
2	Chap 7, "English in the Colonies"(前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
3	Chap 8, "Interrogating the Text"	精読. ニュース英語のリスニング.
4	Chap 8, "Interrogating the Text" (前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
5	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン. ニュース英語のリスニング.
6	Chap 9, "The 'Double Colonisation' of Women"	精読. ニュース英語のリスニング.
7	Chap 9, "The 'Double Colonisation' of Women"(前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
8	Chap 10, "Migration, Colonialism and Decolonisation"	精読. ニュース英語のリスニング.
9	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン. ニュース英語のリスニング.

10	Chap 10, "Migration, Colonialism and Decolonisation"(前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
11	Chap 11, "Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"	精読. ニュース英語のリスニング.
12	Chap 11, "Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"(前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
13	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン. ニュース英語のリスニング.
14	まとめと確認テスト	議論とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。毎回課題提出が必須です。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバリゼーションへ』, John McLeod, 木村茂雄他編注（英宝社, 2015）.

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』（東京：研究社, 1999）, および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題を含めた平常点 (20%) と試験 (80%) から総合的に評価します。
あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。
病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席及び課題提出する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。
未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。
遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。リスニングのコツについても丁寧に説明するつもりです。

【Outline (in English)】

Following the course in the spring term, students will learn how to read "post-colonialism" and what is needed in the world of "globalisation".

The goal of this course is to acquire the above-mentioned knowledge and ability to discuss it.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end exam: 80%, assignments: 20%

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるれば、国内の出来事が海外に影響を及ぼすこともあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。
重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。
この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。
この授業で皆さんは、
・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面で対応できるようにする
・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるよう準備する
・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。

授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

記事内容の要点・感想ほか課題類の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。提出物の一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
2	Unit 1 (1)	エストニアからの教訓: コロナ禍でのデジタル学習に秀でる Lessons from Estonia: why it excels at digital learning during Covid 小テスト
3	Unit 1 (2)	(前回の続き) The Advantages and Disadvantages of Online Courses
4	Unit 5 (1)	コロナ禍でユダヤ教超正統派社会からの脱出早まる Virus Hastens Exit from Israel's Ultra-Orthodox Community 小テスト
5	Unit 5 (2)	(前回の続き) Israel reopens to fully vaccinated 'Green Pass' holders — nearly half of the population
6	Unit 10 (1)	インド映画産業が発展するにつれて女性の役割がより意味深くなる As Bollywood Evolves, Women Find Deeper Roles 小テスト
7	Unit 10 (2)	(前回の続き) Female characters in Indian films
8	Unit 14 (1)	Indian female film directors Kppop とタイの反政府運動との繋がり K-pop's social media power spurs Thailand's youth protests 小テスト
9	Unit 14 (2)	(前回の続き) K-pop fan base and support for political activism
10	Unit 15 (1)	中国大手ハイテク企業、社員死亡で注視される Worker Deaths Put Big Tech in China Under Scrutiny 小テスト
11	Unit 15 (2)	(前回の続き) 'Nightmare' conditions at Chinese factories where Hasbro and Disney toys are made
12	Unit 17 (1)	iPhone のはるか前に無線社会の基礎を築いた人たち They Laid Foundation for a Wireless Society 小テスト
13	Unit 17 (2)	(前回の続き) Clay Pots Everywhere Quenched Myanmar's Thirst, Until They Vanished
14	試験・まとめと解説	Unit 8 のフィードバック 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします)。

具体的には、
・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

・代名詞が出てきた際に、文中の何 (もしくは誰) を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。

・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。

・もし自分に馴染みのないテーマ (人物、国や地域、スポーツの種目など) を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト (教科書)】

高橋優身 (他)、『English through the News Media — 2022 Edition — (ニュースメディアの英語 — 演習と解説 2022 年度版 —)』、朝日出版社、2022 年、1700 円 (税別)

【参考書】

(皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく) 実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』(研究社) です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。(電子辞書にせよ紙媒体にせよ) 英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ (初回授業時に説明) を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとの背景事情の説明にもっと時間を割きます。

【学生が準備すべき機器他】

Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Course outline:

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

Learning Objectives:

Students are expected to master some expressions peculiar to the English news media; understand the contents and main messages of the news articles they read; comprehend the contents of news clips they listen to; acquire a habit of reading up on subjects they are not familiar with.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to find out and learn English expressions peculiar to the news media; gain accurate information from the texts; listen to the streaming audio contents; independently read up on the unfamiliar subjects in the texts.

Grading Criteria/Policy:

Term-end examination: 70%, class contribution: 30%. Students with four absences are disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

永井 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。

重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。

この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。

加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には英語 1 と変わりません。

ただし、英語 1 からの「ステップアップ」であるため、英語 1 で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 18 (1)	ロシアの反政権活動家、ただの「うるさいやつ」から英雄的シンボルに A Life in Opposition: Navalny's Path From Gadfly to Heroic Symbol 小テスト
2	Unit 18 (2)	（前回の続き） Aleksei Navalny Was Poisoned at His Hotel, His Team Says
3	Unit 19 (1)	アフガニスタンの病院、貧しい人たちの腎臓で大儲け In Afghanistan, a Pooming Kidney Trade Preys on the Poor 小テスト
4	Unit 19 (2)	（前回の続き） Illegal organ trafficking business in Afghanistan

5	Unit 22 (1)	グリーンランドのレアアースを巡り、米中による争奪戦 Mining magnets: Arctic island finds green power can be a curse 小テスト
6	Unit 22 (2)	(前回の続き) The Arctic Council (AC)
7	Unit 23 (1)	ポピュリストか「独裁者」か、それとも？ Why Salvadoreans love their populist president, Nayib Bukele 小テスト
8	Unit 23 (2)	(前回の続き) El Salvador polls: More power for President Nayib Bukele?
9	Unit 24 (1)	外国人旅行者頼みのオーストラリア農業、収穫でさず Without Backpackers to Pick Them, Crops Rot by the Ton in Australia 小テスト
10	Unit 24 (2)	(前回の続き) Temporary workers with working holiday visas in Australia
11	Unit 25 (1)	世界中の人のためにも、大統領のコロナ失政に終止符を！ It's time for Africa to rein in Tanzania's anti-vaxxer president 小テスト
12	Unit 25 (2)	(前回の続き) Samia Suluhu Hassan -- Tanzania's new president
13	予備日およびパラグラフ・ライティング指導	学期中に進行が遅れていた場合はこの回で調整します。 また、パラグラフ・ライティングの指導も行ないます。 いずれにせよ、必ず出席して下さい。
14	試験・まとめと解説	年度全体の授業の講評 筆記試験の実施の要領は英語 1 の時と同じです。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします）。

具体的には、

・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。
・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずですよ。

・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『English through the News Media -- 2022 Edition --（ニュースメディアの英語 -- 演習と解説 2022 年度版--）』、朝日出版社、2022 年、1700 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 %を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。
・欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートすることの 1 年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入學したので、ただごまかし続けて 1 年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Course outline:

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

Learning Objectives:

Students are expected to master some expressions peculiar to the English news media; understand the contents and main messages of the news articles they read; comprehend the contents of news clips they listen to; acquire a habit of reading up on subjects they are not familiar with.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to find out and learn English expressions peculiar to the news media; gain accurate information from the texts; listen to the streaming audio contents; independently read up on the unfamiliar subjects in the texts.

Grading Criteria/Policy:

Term-end examination: 70%, class contribution: 30%. Students with four absences are disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験 まとめ	これまで履修したテキスト及び解説から出題
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	履修したテキストと解説から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストの英文を読み、わからない単語・表現がある場合には必ず事前に辞書を使って調べておくようにしてください。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 40 %

試験（中間・期末） 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を

合格とする。尚、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

(Learning Objectives)

By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.

(Learning activities outside of classroom)

Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Mid-term and Final Exams 60%

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	中間試験	学習したテキストから出題
8	経済と社会（2）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（3）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	これまで学習した範囲から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 40 %

試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を

合格とする。尚、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

(Learning Objectives)

By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.

(Learning activities outside of classroom)

Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Mid-term and Final Exams 60%

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにすること、またそれを音声としてもしっかりと聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものによいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント
- ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です）
- ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
- ・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント

ただし、理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1-1	Unit1 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit1-2	Unit1 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit2-1	Unit2 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit2-2	Unit2 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit3-1	Unit3 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

7	Unit3-2	Unit3 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit4-1	Unit4 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit4-2	Unit4 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit5-1	Unit5 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit5-2	Unit5 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit6-1	Unit6 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit6-2	Unit6 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ (期末試験)	試験範囲、詳しい内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読していただくことは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。リスニングの練習を行うことも求められます。

【テキスト (教科書)】

『15 章版: ニュースメディアの英語—演習と解説 2022 年度版—』
(朝日出版社、2022 年)

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」(大修館)
他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です (初回の授業で説明します)。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など) 35%
期末試験 65%
公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで諸々の連絡をします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. Students are required to read excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. Furthermore, this course will give them the opportunity to listen to the excerpts and other materials.
At the end of the course, students are expected to acquire abovementioned skills.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
Their overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 65%, In-class contribution: 35%

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1
単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかりと聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものでよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- 授業は基本的には以下の手順で進めます。
- ・前回の授業のリアクションペーパーに関してのコメント
 - ・読解解説 (指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要です)
 - ・読んだテキストのリスニング (ディクテーション含む)
 - ・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント
- ただし、理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit7-1	Unit7 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit7-2	Unit7 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit8-1	Unit8 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit8-2	Unit8 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit9-1	Unit9 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

7	Unit9-2	Unit9 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit10-1	Unit10 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit10-2	Unit10 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit11-1	Unit11 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit11-2	Unit11 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit12-1	Unit12 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit12-2	Unit12 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、詳しい内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。リスニングの練習を行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】

『15 章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2022 年度版—』（朝日出版社、2022 年）

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）35%

期末試験 65%

公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで諸々の連絡をします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. Students are required to read excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. Furthermore, this course will give them the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

At the end of the course, students are expected to acquire abovementioned skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.

Their overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 65%, In-class contribution: 35%

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れなければならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を独力で理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身に付ける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文として課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明
2	Chapter 1-1 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意ください」前半講読
3	Chapter 1-2 Type It Up: How can writing something get you in trouble?	「文章を書く：トラブルに巻き込まれないように書く時にはご注意ください」後半講読
4	Chapter 6-1 Man Versus Machine: How are machines changing society?	「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」前半講読

- | | | |
|----|--|--|
| 5 | Chapter 6-2 Man Versus Machine: How are machines changing society? | 「人間 vs マシン：機械は社会にどのような変化をもたらしているか」後半講読 |
| 6 | Chapter 11-1 Saving the Environment: Can one person make a difference? | 「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」前半講読 |
| 7 | Chapter 11-2 Saving the Environment: Can one person make a difference? | 「環境保全：一人一人の自助努力に効果はあるか」後半講読 |
| 8 | Chapter 16-1 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question? | 「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」前半講読 |
| 9 | Chapter 16-2 Unsolved Mysteries: Has science answered all of the big question? | 「未解決の謎：科学はすべての疑問に答えたか」後半講読 |
| 10 | Chapter 2-1 Watch This: Should the film industry be more socially responsible? | 「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」前半講読 |
| 11 | Chapter 2-2 Watch This: Should the film industry be more socially responsible? | 「見てみよう：映画産業はさらなる社会的責任を果たすべきか」後半講読 |
| 12 | Chapter 7 -1 More Than Enough: Are some people just too rich? | 「必要以上のお金： お金持ちすぎる人もいる？」前半講読 |
| 13 | Chapter 7 -2 More Than Enough: Are some people just too rich? | 「必要以上のお金： お金持ちすぎる人もいる？」後半講読 |
| 14 | まとめと期末テスト | まとめと期末テスト、解説 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著, 成美堂, 2017 年, 1,900 円 + 税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。
授業への貢献 10 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 10 %
欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor make from other materials.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5 %. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

小川 真也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は読解力と語彙を高めることである。学生はパラグラフ構造とパラグラフ同士の関係性に注意を払いながら、社会問題や現代事象を扱う英文を読み、英語の読解力を高めるとともに、英語を通して知識を得られるようになることが望まれる。

また、自分自身の意見を持つことも重要である。筆者の意見を理解することも重要だが、疑問があれば、その意見を容易く受け入れはならない。筆者と自身との意見の相違を見極め、自分自身の意見をまとめ、それを英語で表現できるようになることが望まれる。

リスニング能力を高めることも重視する。教員が作成したリスニング問題を解き、リスニング力を高めて頂きたい。

【到達目標】

この授業ではリーディングを中心に次の点を目標に学習する。

- ①英語で書かれた文章を読む上で必要な文法事項と語彙を身につける。
- ②まとまった量の英語の文章を速く読み、理解できるようになる。
- ③段落の構造も意識して論理の流れを把握できるようになる。
- ④練習問題を通して、リスニングの力を身につける。
- ⑤記事についての自分の意見を英作文することで、英語で表現する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は演習形式を取り、2 回の授業で 1 つの chapter を扱う。授業の初めにテキストから作成したリスニング問題を実施する。正確に読むことに主眼を置き、単語・熟語・文法事項等を確認しながら記事を訳読し、段落ごとに要約し、トピック全体の理解を図る。段落ごとの要約とトピックに対する意見を英作文して課題として提出する。提出課題は教員が添削するので、添削された箇所を確認し、英語の表現や内容理解などを深める。

chapter ごとに前半後半に分けて 2 回、復習の小テストを実施する。フィードバックとして英作文は教員が添削し、返却する。小テスト・期末テストに関してはテスト終了後に模範解答を提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の実施の仕方の説明と英作文
2	Chapter 12-1 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」前半講読
3	Chapter 12-2 It's a Zoo Out There: How far can zoos go to teach people about animals?	「動物園の実態：動物園は動物のことをどれだけ私たちに伝えられるのか」後半講読
4	Chapter 17-1 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」前半講読

5	Chapter 17-2 Reality and Illusion: How can you be sure that the world around you is real?	「現実と幻想：身の回りの出来事が本当に『現実』だと確信は持てるか」後半講読
6	Chapter 3-1 Girl Power : Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」前半講読
7	Chapter 3-2 Girl Power : Do female action stars really empower women?	「ガールズパワー：アクション女優は女性をエンパワーメントするか」後半講読
8	Chapter 15-1 Highly Contagious: Is the world ready for the next outbreak?	「強い感染力：次の大発生に世界は準備ができていだろうか」前半講読
9	Chapter 15-2 Highly Contagious: Is the world ready for the next outbreak?	「強い感染力：次の大発生に世界は準備ができていだろうか」後半講読
10	Chapter 18-1 The Golden Rule: How do people decide what is moral and immoral?	「黄金律：人々はどのように道徳と不道徳を決定しているのだろうか」前半講読
11	Chapter 18-2 The Golden Rule: How do people decide what is moral and immoral?	「黄金律：人々はどのように道徳と不道徳を決定しているのだろうか」後半講読
12	Chapter 4-1 It's Just a Game: What are some of the big debates in sports today?	「ただのゲームじゃないか。今日、スポーツ界でとても大きな議論を読んでいることは何か」前半講読
13	Chapter 4-2 It's Just a Game: What are some of the big debates in sports today?	「ただのゲームじゃないか。今日、スポーツ界でとても大きな議論を読んでいることは何か」後半講読
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習を前提に授業を進め、chapter ごとに 2 回小テストを実施するので、少なくとも 1 時間取って、教科書を読み、授業後には予習時にわからなかった箇所を復習すること。小テストでは英単語の定義が問われるので、予め英英辞書を使って単語の定義を調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

Thinking about Our Place in the World (Francois de Soete 著、成美堂、2017 年、1,900 円＋税)

【参考書】

英語系辞書（特に英英辞書）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 満点とし、60 点以上が合格となる。

授業への貢献 10 % 小テスト 30 % 期末テスト 50 % 英作文 10 %

欠席回数が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。授業開始から 30 分以上の遅刻した場合は欠席扱い、遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

テキストに物足りなくなった場合や難しく感じられる場合、代替の記事を読む。

【Outline (in English)】

One of the main objectives in this course is improvement of reading skill and developing of students' vocabulary. Students will read English passages discussing social issues and recent events, paying much attention to paragraph structure and relationship between paragraphs. The ability to read and comprehend the argument of the passage and to acquire the knowledge and information through English will be improved by reading articles.

Another objective is formation and expression of students' own opinion. Emphasis should be put on understanding the writer's feeling and intention. However, students should not accept the writer's opinion easily if they have questions or doubts. Students have to form their own opinion after they find out the difference between the writer's opinion and theirs. In addition, they will practice summarizing the passages they read and writing the opinion which they formed in English.

Listening skill is also regarded as an important factor. Listening skill will be developed through the quizzes which the instructor makes from other materials.

This class has five learning objectives.

First, They are expected to acquire the knowledge of English grammar, words and phrases which is necessary to read English.

Second, students are expected to acquire the ability to understand middle-length English articles by themselves.

Third, students are expected to acquire the capacity to grasp logic of them, considering what role each paragraph has.

Fourth, students are expected to improve their listening skill through exercises.

Fifth, students are expected to acquire the faculty to write their own thoughts about articles in English.

The final evaluating score between 60% and 100% will be awarded. Percentages of evaluation are Presentation (Reading and Translating) 15%, Quizzes 30%, Final exam 50%, and Writing 5%. Credits will not be given to those who have missed 4 class hours or its equivalent in being late. When being late for thirty minutes is considered as one absence. Being late two times will be counted as one absence.

As for learning activities outside of classroom, students have to prepare and review for at least one hour. Students have to read texts and consult dictionaries about unknown words and phrases before class. After finishing reading an article, students have to reread it and review what you didn't understand for quizzes. As students answer the English definitions of words in quizzes, they have to consult an English-English dictionary.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は長文の英語を正確に読み取る訓練を行います。大学入学までにみなさんが身につけた語彙や文法、発音を復習・補強すると同時に、それらを利用して英語の資料を読みとく能力を培うことを目指します。しっかりと辞書をひいて英文を一文一文読む力だけでなく、辞書に頼らずに内容をできるだけ正確に推測する能力を身につけましょう。

【到達目標】

この授業は以下の5つを到達目標とします：

- ①辞書を効果的に利用しながら、高校時代に培った文法・語彙・発音を復習し強化する
- ②長文の英語を正確に読みとる力を身につける
- ③現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要とされる語彙力を増やす
- ④わからない語句や文法があっても辞書を使わずに出来るだけ正確に内容を推測できる
- ⑤各履修者が自分に合った、継続的に英語学習を続けるための手段を取得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらい場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき3回授業を行い、3回目の授業で復習のための小テストを行います。

学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に2回行います。小テスト・定期試験ともに授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業方針・内容の説明・PCを利用した演習 ・英語での E-Mail の書き方を学ぶ ・英語学習のためのウェブサイトやアプリの紹介
2	Unit 1 Places	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
3	Unit 1 Places	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
4	Unit 1 Places	テキストのトピックについて考察 記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 1 の小テスト
5	Unit 2 Festivals and celebrations	記事の読解、文法・語彙・発音の確認

6	Unit 2 Festivals and celebrations	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
7	Unit 2 Festivals and celebrations	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 2 の小テスト
8	中間テスト	試験の実施、解説、復習
9	Unit 3 The Internet and technology	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
10	Unit 3 The Internet and technology	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 テキストのトピックについて考察
11	Unit 3 The Internet and technology	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察 Unit 3 の小テスト
12	Unit 4 Weather and climate	記事の読解、文法・語彙・発音の確認
13	Unit 4 Weather and climate	記事の読解、文法・語彙・発音の確認 時事について考察
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてきてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 2), Cambridge University Press

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献(グループ/ペアワークへの参加) 10%、小テスト 20%、中間・期末試験各 35%で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位習得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業用資料はなるべく事前にアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】

・ Course Outline and Learning Objectives

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes(e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

・ Learning Activities Outside of Classroom

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.

・ Grading Criteria /Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, quiz: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

遠藤 郁子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は英語 1 からのステップアップとして、より長い英語の文章を速く正確に読み取る訓練を行います。これまで学んだ語彙や文法を利用して英語の資料を読みとくだけでなく、Introduction/Body/Conclusion Paragraph, Thesis Statement, Topic Sentence といった英文の構成をすばやく把握する能力を身につけます。また、読んだ英文を要約し、関連するトピックに対する意見を簡潔な英文で表現するパラグラフ・ライティングの練習を行います。

【到達目標】

この授業は以下の 6 つを到達目標とします:

- ①長文の英語を正確にかつ速く読みとることができる
 - ②現代の時事的な諸問題を扱った文章を読むうえで必要な語彙力を増やす
 - ③わからない語句や文法があっても出来るだけ正確に推測することができる
 - ④英語の文章の構成をすばやく把握する能力を習得する
 - ⑤英文の内容を要約する方法を身につける
- 読んだ英文に関連するトピックに関する自分の意見を簡潔な英文で表現する方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

現代の時事的な諸問題を扱う英語のエッセイを各自予習として辞書をひきながら読み、あらかじめ指定されたエクササイズを解いてから授業に臨みます。授業ではその文章の内容や注意すべき文法事項、語彙、発音などを確認します。教師が確認する場合もありますが、グループやペアワークで確認してもらう場合が多いのでしっかり予習しましょう。基本的にひとつの文章につき 3 回授業を行います。同時に、読んだ文章を要約したり、トピックに対する自分の意見を短い英文にまとめたりする訓練を行い、ライティング課題を課します。ライティング課題は添削・コメントをして返却します。

学習内容の理解を確認・復習するための定期試験を学期中に 2 回行います。定期試験は授業内で解説を行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	UNIT 5 Sports and competition	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
2	UNIT 5 Sports and competition	記事の読解、英語の文章の構成、Thesis Statement
3	UNIT 5 Sports and competition	記事の読解、Main Point(s)
4	UNIT 6 Business	記事の読解、Topic Sentence(s)
5	UNIT 6 Business	記事の読解、Supporting Sentence(s)
6	UNIT 6 Business	記事の読解、Concluding Sentence(s)
7	中間テスト	試験の実施、解説、復習
8	UNIT 7 People	記事の読解、要約
9	UNIT 7 People	記事の読解、要約
10	UNIT 7 People	記事の読解、自分の意見を表現する

11	UNIT 8 The universe	記事の読解、自分の意見を表現する
12	UNIT 8 The universe	記事の読解、人と自分の意見を表現する
13	UNIT 8 The universe	記事の読解、人と自分の意見を表現する
14	期末試験	試験の実施、解説、復習

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業のために辞書をていねいにひきながらテキストを読み、設問に答えてください。指定された記事のすべてをわかるために予習するのではなく、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識し、授業で理解できるようにするために予習をしましょう。定期試験は普段の予習と復習および小テスト対策をしっかりすれば確実に得点できるはずです。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Unlock: Reading, Writing & Critical Thinking (Level 2), Cambridge University Press

【参考書】

英語学習ウェブサイトやアプリケーションなど、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献 (グループ/ペアワークへの参加) 10%、ライティング課題 20%、中間・期末試験各 35% で評価します。欠席回数が 4 回以上で単位習得は不可となります。

【学生の意見等からの気づき】

授業用資料はなるべく事前にアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

PC やスマートフォンの持ち込みをお願いする場合があります。このクラスでは Google Classroom を使用します。

【Outline (in English)】

・ Course Outline and Learning Objectives

Students will read passages of multiple paragraphs at a speed necessary for different purposes (e.g. speed-reading and close reading). Attention should be paid to paragraph structure, e.g., topic sentence, supporting sentence, and concluding sentence, and the logical relationship between paragraphs. Students will learn how to comprehend the structure and the argument of the passage, acquire the knowledge and information they need, and grasp the writer's intention and feelings. In addition, the course will help students foster critical thinking skills, that is, skills to make an objective and multifaceted analysis of the given information, instead of accepting it unquestioningly.

The course will offer instruction of and practice in the development of effective listening skills. Students will also learn how to paraphrase what they have read, and then write in English a summary of and comments on what they have read.

・ Learning Activities Outside of Classroom

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Please read the text and answer the questions for each class while carefully reading the dictionary. It is not necessary to prepare in order to understand all of the assigned articles, but rather to clearly identify what you do not understand and how, so that you can understand it in class.

・ Grading Criteria / Policy

Class contribution (participation in group/pair work): 10%, writing assignments: 20%, mid-term and final exam: 35% each. Students who are absent more than 4 times will not be allowed to receive credit.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します（事前に担当者を割り当てることもあります）。それ以外に特定のトピックに基づいた発表をしてもらいます。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

（フィードバック方法について）リアクションペーパーに書かれた質問は全て次の授業で取り上げて回答、コメントはクラス全体で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	ウォームアップを含めて授業の内容説明、発表の順番決め、『リスニング・ハンドブック』の説明。
2	Chap 1, "Colonialism and Imperialism"	精読。ニュース英語のリスニング。
3	Chap 1, "Colonialism and Imperialism" (前回の続き)	精読。ニュース英語のリスニング。
4	Chap 2, "Theories of Colonial Discourses"	精読。ニュース英語のリスニング。
5	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン。ニュース英語のリスニング。
6	Chap 2, "Theories of Colonial Discourses" (前回の続き)	精読。ニュース英語のリスニング。
7	Chap 3, "Reading Orientalism (Part 1)"	精読。ニュース英語のリスニング。
8	Chap 4, "Reading Orientalism (Part 2)"	精読。ニュース英語のリスニング。
9	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン。ニュース英語のリスニング。
10	Chap 5, "Imagining the Nation: Forging Tradition and History"	精読。ニュース英語のリスニング。

11	Chap 5, "Imagining the Nation: Forging Tradition and History" (前回の続き)	精読。ニュース英語のリスニング。
12	Chap 6, "The Disenchantment with Nationalism"	精読。ニュース英語のリスニング。
13	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン。ニュース英語のリスニング。
14	まとめと確認	議論とテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備、授業では英語で発表する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。毎回課題提出が必須です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバル化へ』, John McLeod, 木村茂雄他編注 (英宝社, 2015)。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』(東京：研究社, 1999), および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題含む平常点 (20%) と試験 (80%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席及び課題提出する必要があります。

病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。また、難解な箇所の説明にも今まで以上に力を入れたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn how to read "post-colonialism" through an introductory book and discuss what is needed in the world of "globalisation".

The goal of this course is to acquire the above-mentioned knowledge and ability to discuss it.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end exam: 80%, assignments: 20%

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

宇治谷 義英

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期科目「英語 1」に引き続いて、ポストコロニアリズムについて書かれた入門書を使って英文を読んでまとめると同時に「グローバル化」が叫ばれる中で必要な考え方を身につける。

【到達目標】

(1) 教材の英文を正確に読めること、(2) 英語のみならず、その背景にある問題を調べて把握すること、(3) 自分なりのコメントを英語で表現できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

テキスト本文については基本的に精読します (事前に担当者を割り当てることもあります)。それ以外に特定のトピックに基づいた発表をしてもらいます。また、ニュースを使ってリスニングの練習もおこないます。

(フィードバック方法について) リアクションペーパーに書かれた質問は全て次の授業で取り上げて回答、コメントはクラス全体で共有します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chap 7, "English in the Colonies"	精読. ニュース英語のリスニング.
2	Chap 7, "English in the Colonies" (前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
3	Chap 8, "Interrogating the Text"	精読. ニュース英語のリスニング.
4	Chap 8, "Interrogating the Text" (前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
5	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン. ニュース英語のリスニング.
6	Chap 9, "The 'Double Colonisation' of Women"	精読. ニュース英語のリスニング.
7	Chap 9, "The 'Double Colonisation' of Women" (前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
8	Chap 10, "Migration, Colonialism and Decolonisation"	精読. ニュース英語のリスニング.
9	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン. ニュース英語のリスニング.

10	Chap 10, "Migration, Colonialism and Decolonisation" (前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
11	Chap 11, "Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity"	精読. ニュース英語のリスニング.
12	Chap 11, "Cultural Diversity, Cultural Difference, Cultural Hybridity" (前回の続き)	精読. ニュース英語のリスニング.
13	学生によるプレゼン	学生によるプレゼン. ニュース英語のリスニング.
14	まとめと確認テスト	議論とテスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

英和辞典は言うまでもなくネット等を利用して不明な語彙、表現をできる限り調べ、授業に臨むこと。発表については、事前に資料を準備する。また、与えられたトピックについての英作文の課題にも取り組む。毎回課題提出が必須です。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『英語で読む現代世界の文化・社会・言語—植民地主義からグローバル化へ』, John McLeod, 木村茂雄他編注 (英宝社, 2015)。

【参考書】

『リーダーズ英和辞典』(東京: 研究社, 1999), および専門用語についてはネットでの検索が役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題を含めた平常点 (20%) と試験 (80%) から総合的に評価します。あらかじめ割り当てられた発表の準備を怠った場合、正当な理由なく発表日に欠席するなどした場合は不合格となります。

病気などのやむを得ない事情を除いて、原則として全授業出席及び課題提出する必要があります。病欠も含めた欠席回数が 4 回を数えた時点で単位取得の資格を失います。

未予習での出席は欠席扱いとし、授業中に雑談など受講の意志が見られない者もその場で退席を指示し、その日は欠席扱いとします。

遅刻は授業開始の合図から 20 分以内に入室した者だけ認めますが、2 回の遅刻につき 1 回の欠席と見なします。朝の交通機関にはしばしば遅れが出ます。電車の遅延は 20 分以上遅れが出た場合のみ考慮します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に対するフィードバックにも力を入れたいと思います。リスニングのコツについても丁寧に説明するつもりです。

【Outline (in English)】

Following the course in the spring term, students will learn how to read "post-colonialism" and what is needed in the world of "globalisation".

The goal of this course is to acquire the above-mentioned knowledge and ability to discuss it.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end exam: 80%, assignments: 20%

LANe100LA		【授業計画】 授業形態：対面/face to face	
英語 1	2017 年度以降入学者	回	テーマ 内容
永井 大輔	開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：木 2/Thu.2 単位数：1 単位 他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	1	イントロダクション このシラバスに書かれた内容の説明だけでなく、学期中・授業中の注意点や、次回以降の授業に必要な課題についても言及しますので、必ず出席して下さい。出席数にもカウントされます。
		2	Unit 1 (1) エストニアからの教訓：コロナ禍でのデジタル学習に秀でる Lessons from Estonia: why it excels at digital learning during Covid
		3	Unit 1 (2) 小テスト (前回の続き) The Advantages and Disadvantages of Online Courses
		4	Unit 5 (1) コロナ禍でユダヤ教超正統派社会からの脱出早まる Virus Hastens Exit from Israel's Ultra-Orthodox Community
		5	Unit 5 (2) 小テスト (前回の続き) Israel reopens to fully vaccinated 'Green Pass' holders — nearly half of the population
		6	Unit 10 (1) インド映画産業が発展するにつれて女性の役割がより意味深くなる As Bollywood Evolves, Women Find Deeper Roles
		7	Unit 10 (2) 小テスト (前回の続き) Female characters in Indian films
		8	Unit 14 (1) Indian female film directors Kppop とタイの反政府運動との繋がりがり K-pop's social media power spurs Thailand's youth protests
		9	Unit 14 (2) 小テスト (前回の続き) K-pop fan base and support for political activism
		10	Unit 15 (1) 中国大手ハイテク企業、社員死亡で注視される Worker Deaths Put Big Tech in China Under Scrutiny
		11	Unit 15 (2) 小テスト (前回の続き) 'Nightmare' conditions at Chinese factories where Hasbro and Disney toys are made
		12	Unit 17 (1) iPhone のはるか前に無線社会の基礎を築いた人たち They Laid Foundation for a Wireless Society
		13	Unit 17 (2) 小テスト (前回の続き) Clay Pots Everywhere Quenched Myanmar's Thirst, Until They Vanished
		14	試験・まとめと解説 Unit 8 のフィードバック 筆記試験は、単位取得資格がある人は必ず受けて下さい。授業内試験なので、通常の授業と同じ時間・同じ教室で実施します。

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。

【到達目標】

長文の英語を正確に読み取る力を身につけます。なるべく辞書に頼らないで新聞・雑誌を読む力を養うことが目標です。この授業で皆さんは、
・ニュースメディア独特の英語の使い方があることを知り、それに文体・語彙・熟語の面で対応できるようにする
・高校までの文法のおさらいをしつつ、文章の内容・情報を正確に読み取れるようにする
・発音に対してこれまで以上に意識をし、音声でのニュースメディアの英語にも対応できるように準備する
・未知の、あるいはやや複雑な時事問題について自主的に調べる習慣をつけ、見識を広める
ことを目指して下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

国内外の有名な新聞の記事で構成された教科書を使用します。ニュースの内容は社会・文化・政治経済から環境・娯楽・スポーツまで多岐にわたります。

授業中は、朗読の発音に気をつけつつ、アトランダムに指名しながら記事の内容を確認していきます。予習を怠って指名されてから初めて文章に目を通すような行為は、授業を共にしているクラス全体に迷惑がかかりますので、絶対にやめて下さい。

語彙やフレーズ、内容の把握具合、そして音声でのニュース理解を確認する小テストも実施する予定です。

記事内容の要点・感想ほか課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。提出物の一部は次の授業回でのフィードバックで取り上げます。

当然のことですが、聞かなくてもよい授業は一回もありません。各文の読解のポイントは聞き逃さず、メモをとりましょう。毎回の出席が原則です。欠席や遅刻の回数には限度を設けます。たとえ限度内であったとしても、欠席した分の遅れを皆さん自身が取り戻す努力をしなければ、単位取得はおぼつかなくなるでしょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。

この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします）。

具体的には、

- ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。

- ・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。

- ・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。

- ・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種目など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『English through the News Media -- 2022 Edition --（ニュースメディアの英語 -- 演習と解説 2022 年度版 -- ）』、朝日出版社、2022 年、1700 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 %を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、**Summary** と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

テーマごとの背景事情の説明にもっと時間を割きます。

【学生が準備すべき機器他】

Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Course outline:

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

Learning Objectives:

Students are expected to master some expressions peculiar to the English news media; understand the contents and main messages of the news articles they read; comprehend the contents of news clips they listen to; acquire a habit of reading up on subjects they are not familiar with.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to find out and learn English expressions peculiar to the news media; gain accurate information from the texts; listen to the streaming audio contents; independently read up on the unfamiliar subjects in the texts.

Grading Criteria/Policy:

Term-end examination: 70%, class contribution: 30%. Students with four absences are disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA		
英語 3		
2017 年度以降入学者		
永井 大輔		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：木 2/Thu.2		
単位数：1 単位		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 海外の出来事が国内の政治やビジネス、日常生活に影響することもあるなかで、成功するため（あるいは失敗しないため）には、皆さんは国内外のニュースに常日頃から注意を向けなければなりません。重要なニュースがすべて日本語になっているわけではないため、皆さんは世界各国のメディアが配信している英語のニュースから情報を得ることが必要になるでしょう。この授業で皆さんは、みずからの今後を左右する情報の世界への鍵を手に入れるため、ニュースメディアの英語に触れて熟達することを目指します。 【到達目標】 英語 1 からのステップアップとして、長文の英語を正確に、かつ速く読み取る力を身につけることを目標とします。加えて今学期は、英文パラグラフ・ライティングについての初歩的な知識を身につけ、SA や語学認定試験に備えます。 【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1 【授業の進め方と方法】 基本的には英語 1 と変わりません。ただし、英語 1 からの「ステップアップ」であるため、英語 1 で指摘したポイントについて、同じだけの時間を費やして繰り返すことはしません。そのため、教科書の進行速度が上がって時間的な余裕が生まれる可能性があります。その場合は別のリーディングもしくはリスニング教材（実物の記事やニュース）を用意して挑戦してみましょう。 【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし / No 【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし / No 【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
1	Unit 18 (1)	ロシアの反政権活動家、ただの「うるさいやつ」から英雄的シンボルに A Life in Opposition: Navalny's Path From Gadfly to Heroic Symbol 小テスト (前回の続き)
2	Unit 18 (2)	Aleksei Navalny Was Poisoned at His Hotel, His Team Says
3	Unit 19 (1)	アフガニスタンの病院、貧しい人たちの腎臓で大儲け In Afghanistan, a Pooming Kidney Trade Preys on the Poor 小テスト (前回の続き)
4	Unit 19 (2)	Illegal organ trafficking business in Afghanistan
5	Unit 22 (1)	グリーンランドのレアアースを巡り、米中による争奪戦 Mining magnets: Arctic island finds green power can be a curse 小テスト (前回の続き)
6	Unit 22 (2)	The Arctic Council (AC)
7	Unit 23 (1)	ポピュリストか「独裁者」か、それとも？ Why Salvadoreans love their populist president, Nayib Bukele 小テスト (前回の続き)
8	Unit 23 (2)	El Salvador polls: More power for President Nayib Bukele?
9	Unit 24 (1)	外国人旅行者頼みのオーストラリア農業、収穫できず Without Backpackers to Pick Them, Crops Rot by the Ton in Australia 小テスト (前回の続き)
10	Unit 24 (2)	Temporary workers with working holiday visas in Australia
11	Unit 25 (1)	世界中の人のためにも、大統領のコロナ失政に終止符を！ It's time for Africa to rein in Tanzania's anti-vaxxer president 小テスト (前回の続き)
12	Unit 25 (2)	Samia Suluhu Hassan — Tanzania's new president
13	予備日およびパラグラフ・ライティング指導	学期中に進行が遅れていた場合はこの回で調整します。 また、パラグラフ・ライティングの指導も行ないます。 いずれにせよ、必ず出席して下さい。 年度全体の授業の講評 筆記試験の実施の要領は英語 1 の時と同じです。
14	試験・まとめと解説	
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】 ダンスや楽器の演奏にしてもそうですが、語学の習熟において大きな違いを生み出すのは、皆さんがそれぞれ授業外で行う学習です。授業で指名された瞬間だけをしのぐ、筆記試験の問題だけをしのぐ、といった勉強法では、実際に役立つ英語運用能力は少しも育ちません。そこは授業の進め方ではなく、皆さんの意識にかかっているのです。 この授業では読解が中心になりますから、予習には、教科書の記事の内容を正確に理解することに一番の時間を割いて下さい（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間以上を標準とします）。具体的には、 ・初めて見る単語・フレーズだけでなく、自分の知っている日本語の意味をあててみても何かしっくりとこない、と感じたら、どんな基本的な言葉であれ、面倒くさがらずにこまめに辞書を引かなければいけません。 ・代名詞が出てきた際に、文中の何（もしくは誰）を指しているのか、自分で本当に分かっているのかどうか確認しなければいけません。 ・段落全体で見た場合に、その中の文の内容が他の文の内容と矛盾していないか、意味不明な支離滅裂な文章になっていないか確認しなければいけません。もしそうなら、どこかで読み間違えているはずです。		

・もし自分に馴染みのないテーマ（人物、国や地域、スポーツの種類など）を扱った記事を読む際には、知っていそうな人に訊いたり、インターネットで検索したりして、納得のいくまで自分で積極的に調べなければいけません。教科書にはある程度の注釈がついていますが、実物の英文記事にはついていません。今のうちから、実際に使われている英語と付き合っていくのに必要な意識と習慣を身につけます。

【テキスト（教科書）】

高橋優身（他）、『English through the News Media -- 2022 Edition -- （ニュースメディアの英語 -- 演習と解説 2022 年度版 -- ）』、朝日出版社、2022 年、1700 円（税別）

【参考書】

（皆さんの習熟度に配慮した教科書の英語ではなく）実生活や仕事で英語の文章を読むには、それ相応の項目数をもった辞書、いわゆる実用辞典が必要です。

大学卒業後も使い物になる辞書が欲しいのであれば、最も勧められるのは『リーダーズ英和辞典』（研究社）です。値段は安くありませんが、数少ない実用英和辞典の一つです。（電子辞書にせよ紙媒体にせよ）英和辞典を新しく購入する予定の人は、参考にして下さい。アプリもあります。

『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトのニュースは、小テストで使用されることがあります。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験の結果と平常点で総合的に評価します。

前者が 70 %、後者が 30 % を占めます。

筆記試験では、授業で扱った全ての内容の中から、「授業の到達目標」で掲げた項目についてチェックします。

読解や語彙、知識についてそれぞれ出題しますので、予習・復習・授業中のメモを欠かさず行いましょう。

また、Summary と記事を音声化したファイルを各自ダウンロードして、リスニングに備えて下さい。『リスニング・ハンドブック』で紹介されたサイトを小テストで使用することもあります。

平常点には小テストの点数や課題も含まれます。それぞれ点数としては微々たるものですが、欠席を一回すれば合計としての平常点をそれなりに失うだけでなく、筆記試験の首尾にも悪影響が及ぶ危険があります。絶対に安易な気持ちで欠席や遅刻をしないで下さい。

・欠席および遅刻について

学期中に 4 回欠席した受講生は単位取得資格を失います。遅刻は累積 3 回で欠席 1 回と同等の扱いとします。その他授業に対する貢献が著しく低いと教員が判断し、授業中にペナルティ（初回授業時に説明）を受けた場合は、遅刻と同等の扱いとし、遅刻と同じ累積勘定に加えられます。30 分以上の遅刻は、出席簿上欠席扱いとします。欠席・遅刻・ペナルティは平常点の減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

教科書の記事とは別の文章を読みたいという場合には、遠慮なく申し出て下さい。

高校までの学習英語とは全く性質の違う英語を読むことに、また授業外の学習活動で要求されることの多さに「キツイ」と感じる人もいます。しかし、それは実社会で使われている本物の「生きた英語」にほとんど初めて接するのであれば当然のことなのです。逆にゼロの状態からスタートするこの 1 年間こそが最も大切だとも言えます。

せっかく国際文化学部に入学したのでから、ただごまかし続けて 1 年間を無駄にするのではなく、実社会の英語と付き合っていく契機として活用しましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Unit ごとの記事内容の要点・感想ほか課題類の提出に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Course outline:

As events in other countries can have a significant impact on our domestic politics, business, or daily lives (and vice versa), we all have to pay attention to both worldwide and domestic news media every day.

Since not all news items are translated to Japanese, students will be required to obtain information from English news media around the world.

In this course, students will learn how to read and listen to English for mass communication.

Learning Objectives:

Students are expected to master some expressions peculiar to the English news media; understand the contents and main messages of the news articles they read; comprehend the contents of news clips they listen to; acquire a habit of reading up on subjects they are not familiar with.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to review and prepare for each lesson, which will require more than one hour. In their preparation, they should try to find out and learn English expressions peculiar to the news media; gain accurate information from the texts; listen to the streaming audio contents; independently read up on the unfamiliar subjects in the texts.

Grading Criteria/Policy:

Term-end examination: 70%, class contribution: 30%. Students with four absences are disqualified. Being late for three times will be counted as one absence.

LANe100LA

英語 1

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなトピックの英文を読むことで、国内外の時局をより広い視野から見直し、英語の読解力ならびに語彙力の向上をはかります。それぞれの内容について英語で自分の意見を述べるができるよう、語学力に加えて、思考力ならびに批判力を涵養します。

【到達目標】

速読による多読を基本とし、大意を捉えて内容を咀嚼する思考力、批判能力を養います。また、さまざまな文章を読むことのできる語彙力を身につけます。また、各自の意見を適切にまとめることができるよう表現力も養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストの内容の把握に加えて、テキスト内の単語・慣用表現などの類義語、類似表現を確認し、読解力の向上とともに、語彙力ならびに表現力の拡充をはかります。また、読んだ内容の理解を深めるため、それぞれのテーマについて英語で内容をまとめる練習をします。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の解説
2	言語と文化（1）	異文化理解
3	言語と文化（2）	文化の衝突
4	言語と文化（3）	英語公用語化
5	社会と環境（1）	環境破壊
6	社会と環境（2）	民族差別
7	中間試験 まとめ	これまで履修したテキスト及び解説から出題
8	経済と社会（1）	南北問題
9	経済と社会（2）	国際紛争
10	経済と社会（3）	児童労働
11	技術と人間（1）	臓器移植
12	技術と人間（2）	遺伝子組み換え
13	技術と人間（3）	インターネット中毒
14	学期末試験、まとめ	履修したテキストと解説から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週テキストの英文を読み、わからない単語・表現がある場合には必ず事前に辞書を使って調べておくようにしてください。授業の復習・予習に一時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを使用します。

【参考書】

その都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 40 %

試験（中間・期末） 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。尚、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を紹介します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

(Learning Objectives)

By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.

(Learning activities outside of classroom)

Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Mid-term and Final Exams 60%

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

北 文美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最近の時事問題に関するニュース、資料、論文などを講読し、当該分野の視野を広めるとともに、テキストを批判的に読むスキルを学びます。また、各回の問題について各自英語で意見をまとめることのできる力を身につけます。

【到達目標】

英語で書かれた専門性の高いテキストを正確に読み、自分の意見を英語でまとめることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最近の時事問題に関連した資料を読み、語彙の整理を行い、語彙・表現の拡充をはかります。また、英文を書く上で必要なスキルを、各自が実際に英文を書き、フィードバックすることで定着させます。対面授業を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライティングの解説
2	情報と社会（1）	ビックデータ
3	情報と社会（2）	情報操作
4	情報と社会（3）	マーケティング戦略
5	情報と社会（4）	CSR
6	経済と社会（1）	児童労働
7	中間試験	学習したテキストから出題
8	経済と社会（2）	遺伝子組み換え
9	経済と社会（3）	能力給
10	技術と人間（1）	流通システム
11	技術と人間（2）	流通とインターネット
12	技術と人間（3）	働き方改革
13	技術と人間（4）	テレワーク
14	学期末試験、まとめ	これまで学習した範囲から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業前に英文テキストを読んでおいてください。授業の予習・復習に一時間以上必要になります。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を事前に配布します。

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題の提出 40 %

試験 60 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を

合格とする。尚、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

英作文の例を挙げます。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course aims to improve reading and writing skills in English, and to prepare students to develop critical thinking skills through widely ranged texts.

(Learning Objectives)

By the end of the semester, students are expected to deepen their understanding about the command of the English language.

(Learning activities outside of classroom)

Students must read the course material before each class, and spend more than one hour preparing for each lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Mid-term and Final Exams 60%

LANe100LA	
英語 1	2017 年度以降入学者
岩下 弘史	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：木 2/Thu.2
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかりと聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものでのよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント
- ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要）
- ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
- ・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント

ただし、理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit1-1	Unit1 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit1-2	Unit1 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit2-1	Unit2 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit2-2	Unit2 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit3-1	Unit3 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

7	Unit3-2	Unit3 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit4-1	Unit4 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit4-2	Unit4 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit5-1	Unit5 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit5-2	Unit5 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit6-1	Unit6 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit6-2	Unit6 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、詳しい内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。リスニングの練習を行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】

『15 章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2022 年度版—』（朝日出版社、2022 年）

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）35%
期末試験 65%
公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで諸々の連絡をします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. Students are required to read excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. Furthermore, this course will give them the opportunity to listen to the excerpts and other materials.
At the end of the course, students are expected to acquire abovementioned skills.
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.
Their overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 65%, In-class contribution: 35%

LANe100LA

英語 3

2017 年度以降入学者

岩下 弘史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、高校までに身につけた英語の知識を再確認しながら、主に英語ニューステキストの読み聴きを学習します。難易度は標準的な英文を読むこととなりますが、辞書を用いながら文構造や文法事項を含めて完全に理解すること、そこに出てきた単語を使いこなせるように自分のものにする、またそれを音声としてもしっかりと聴き取って理解できるようになることを通じて一つのテキストから得られる様々な知識を定着させることを目指します。またこれと併せて、授業内容についてのリアクションペーパーという形で、シンプルなものでのよいので間違いのない英文が書けるようになる訓練をする機会も持ちます。この際にも辞書を含めた様々な媒体を用いて、より正確なものが書けるようになることが目標となります。

【到達目標】

- ・英語ニュース記事のスタイルに親しむ。
- ・テキスト内に出てきた単語をしっかりと暗記しボキャブラリーを増やす。
- ・辞書を使いながら英文の構造をしっかりと理解して読めるようになる。
- ・リスニング学習を通して英語の音、リズム、イントネーションに親しむ。
- ・文法的に正確な英文を書くことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には以下の手順で進めます。

- ・前回の授業のリアクションペーパーに関するコメント
- ・読解解説（指名して英文を音読し訳読をしてもらうので予習が必要）
- ・読んだテキストのリスニング（ディクテーション含む）
- ・リアクションペーパーに学んだニュースの内容等について英語でコメント

ただし、理解度や進度によっては授業内容を柔軟に変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	具体的な授業の進め方について説明します。教科書を持参してください。
2	Unit7-1	Unit7 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
3	Unit7-2	Unit7 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
4	Unit8-1	Unit8 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
5	Unit8-2	Unit8 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
6	Unit9-1	Unit9 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング

7	Unit9-2	Unit9 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
8	Unit10-1	Unit10 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
9	Unit10-2	Unit10 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
10	Unit11-1	Unit11 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
11	Unit11-2	Unit11 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
12	Unit12-1	Unit12 前半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
13	Unit12-2	Unit12 後半部分の解説とリスニング練習、テキストの内容についてのライティング
14	まとめ（期末試験）	試験範囲、詳しい内容については授業内で説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
詳しくはガイダンス時に説明しますが、精読してくることは必須です。分量は決して多くないですがその分辞書を引いて構造にも気を配り日本語訳を作ってきてください。リスニングの練習を行うことも求められます。

【テキスト（教科書）】

『15 章版：ニュースメディアの英語—演習と解説 2022 年度版—』（朝日出版社、2022 年）

【参考書】

「ジーニアス英和辞典」（大修館）

他の辞書でも構いませんが、このレベルのものは必要です（初回の授業で説明します）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度や予習状況、出席、リアクションペーパーの内容など）35%
期末試験 65%
公欠を除いて 4 回以上の欠席があった場合は、ガイドラインに基づき原則として単位を認定しません。また、特段の理由のない 45 分以上の遅刻や早退は欠席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで諸々の連絡をします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and general grammatical knowledge in English needed to achieve a better performance in their university studies. Students are required to read excerpts from newspaper on several topics such as international politics, education and economy. They are also required to write a very short essay about them in every classes. Furthermore, this course will give them the opportunity to listen to the excerpts and other materials.

At the end of the course, students are expected to acquire abovementioned skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Their study time will be more than four hours for a class.

Their overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 65%, In-class contribution: 35%

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
 単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】

Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This will be a real-time class at the Ichigaya campus. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and self-introductions
Class 2	Unit 1 Extreme Sports	Formulating and supporting opinions
Class 3	Unit 1 Extreme Sports	Group discussion Individual vs team sports
Class 4	Unit 2 Identity Theft	Asking for and giving advice
Class 5	Unit 2 Identity Theft	Group discussion How to avoid identity theft
Class 6	Writing Workshop	Writing clear & concise sentences
Class 7	Unit 3 Space Exploration	Making and confirming predictions
Class 8	Unit 3 Space Exploration	Group discussion Future of space tourism
Class 9	Unit 4 Being Persuasive	Using logical and emotional appeals
Class 10	Unit 4 Being Persuasive	Group discussion Comparative advertising
Class 11	Individual Speech (3-5 min)	What makes you different from other people? or What makes Japan different from other countries?

Class 12	Individual Speech (3-5 min)	What makes you different from other people? or What makes Japan different from other countries?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final exam (units 1-4)	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson) ISBN 978-0-13-404981-6 (¥3,564)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Classroom activities
 40%-Outside assignments*
 30%-Final exam

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

*Assignment 1—Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)

*Assignment 2—Prepare a 3-5 speech on

- What makes you different from other people? or,
- What makes Japan different from other countries?

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】

Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

The class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and student interviews
Class 2	Unit 5 Careers	Using follow-up questions to extend conversations
Class 3	Unit 5 Careers	Job interview role play
Class 4	Unit 6 Tourism	Considering all sides of an issue
Class 5	Unit 6 Tourism	Design a tour campaign for a local Japan site
Class 6	Writing workshop	Writing a paragraph with topic and supporting sentences
Class 7	Unit 7 Marriage	Using polite expressions to agree & disagree
Class 8	Unit 7 Marriage	Group discussion Pros & cons of marriage
Class 9	Unit 8 Climate change	Analyzing & explaining (presenting) data
Class 10	Unit 8 Climate change	Group discussion Ways to address climate change
Class 11	Individual speech (3-5 min)	3-5 minute talk on a. What would you like to change about yourself? or b. What would you like to change about Japan?

Class 12	Individual speech (3-5 min)	What would you like to change about yourself? or What would you like to change about Japan?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final Exam (units 6-10)	In-class exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson)

ISBN 978-0-13-404981-6 (¥3,564)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Classroom activities

40%-Outside assignments*

30%-Final exam

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

*Assignment 1 — Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)

*Assignment 2 — Prepare a 3-5 min speech on

a. What would you like to change about yourself? or,

b. What would you like to change about Japan?

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	my major	paper: Why I chose my major
第 3 回	culture	A. handout: What is Culture? How is living in a different culture a challenge? B. make groups for presentations related to student's SA experience.
第 4 回	differences/ commonalities	paper: differences and commonalities between Japanese students and students in your host country.
第 5 回	inside looking out	A. handout: How the U.S. is viewed from an international perspective. B. work on presentations
第 6 回	employment	paper: how studying abroad will set your employment apart from other students.
第 7 回	Social life	A. Discuss the social life that you would like to have while broad. B. work on presentations

第 8 回 childhood experiences

paper: write about several of your favorite childhood experiences.

第 9 回 traveling

A. discuss places that you have been & places that you would like to travel to

B. Work on presentations.

第 10 回 final group presentation preparation

Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class.

第 11 回 presentations

groups of 4 to 5 students will give presentations

第 12 回 presentations

groups of 4 to 5 students will give presentations

第 13 回 get ready

paper: Preparation to study abroad, getting visa, researching host country etc.

第 14 回 conversation

active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会（¥2,200）

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40% Papers = 35% Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ジェyson ポール スミス

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	discuss what you did during your summer break.
第 2 回	my major	paper: what I expect from the SA program
第 3 回	culture	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	loneliness	paper: homesickness while abroad
第 5 回	safety	A. handout: common sense safety while abroad B. work on presentations
第 6 回	opinion	paper: open topic
第 7 回	cultural taboos	A. Discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	food	paper: Write about different food and the Japanese food that you will miss while abroad
第 9 回	traveling	A. Discuss places that you have been & places that you would like to travel to. B. Work on presentations.

第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	paper: open topic (student choice)
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』 ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会 (¥2,200)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

ジョナサン・エイブル

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Themes and situations relevant to the students' needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.

An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

【到達目標】

The goal of this course is to give the student confidence in their practical English skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In principle this is a face to face class. If the necessity arises it can be given online via Zoom, and students will be fully informed of any changes via Hoppii.

The emphasis is on confidence building through practise.

Students will be given varied opportunities to communicate in English with each other and the teacher.

A textbook covering all the English language skills provides an anchor for studies, but extensive extra materials will also be used.

Students will give small-group presentations in class in the middle of the semester on topics relevant to study abroad.

Feedback on assignments will be given to individual students face to face.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Familiarising with the course and teacher.
2	Self-introduction	How to present yourself in class and outside.
3	Language	Looking at the English language and its place in the world.
4	Numbers	A variety of uses for numbers and how we express them.
5	Locations	How to explain and use locations from small to global.
6	Time	The various expressions and importance of time.
7	Preparation for presentations	Topics, group formation and planning for the following week.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	Relationships	Exploring family and other relationships across cultures.
10	Animals	A different set of relationships.
11	Home	Where we live and how it compares with other cultures.

12	Food	What we eat, why and how we eat it.
13	Sport	What, How and Why we play.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Pre-reading texts. Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Global Pre-Intermediate. MacMillan Pub.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 35%

Writing tasks: 20%

Presentation : 20%

Final interview test 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

Themes and situations relevant to the students' needs and experiences will be explored in order to promote comprehension and responsiveness.

An awareness of foreign cultures and the ability to communicate ones own are central to the process.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ジョナサン・エイブル

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.

Once again the emphasis is on confidence through practise.

【到達目標】

The goal is to achieve confident communication across cultures.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

In principle this is a face to face class. If the necessity arises it can be given online via Zoom, and students will be fully informed of any changes via Hoppii.

Please see Hoppii for details. In these classes students will address the wider world, communicating their own opinions and responding to those of others.

Continuing with the same basic text we will also use other media from host countries to explore daily life and cultural context.

There will be small-group presentations in class.

Feedback on assignments will be given face to face to individual students.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Explanation of course content including writing example.
2	Entertainment	Movies, TV, Games and how we use them.
3	News	How we get our news. Writing week.
4	Work	Jobs in Japan and across the world.
5	Skills	What we can and can't do. Writing week.
6	Education	Learning in different cultures.
7	Presentation preparation	Forming groups, choosing topics and planning for next class.
8	Presentations	Group presentations given in class.
9	People	Examining how we feel about particular people. Writing week.
10	Weather	The seasons and weather as cultural phenomena.
11	Travelling	Good and bad experiences. Writing week.
12	Life events	Examining rites of passage.
13	Life on earth	Discussing nature. Writing week.
14	Review and Test	Self-assessment and Interview.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Pre-reading texts. Preparation of specific grammar and vocabulary. Presentation preparation.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Global Pre-Intermediate. MacMillan Pub.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Participation: 35%

Writing tasks: 20%

Presentation: 20%

Final interview test 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【Outline (in English)】

Building on the experience of 英語 2, this semester's classes will aim to broaden the students' communicative scope.

Once again the emphasis is on confidence through practise.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

棚木 玲子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communication skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills—reading, writing, listening and speaking—although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given in class or via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation – What to expect
2	Being descriptive (1)	Using adjectives
3	Being descriptive (2)	Describing yourself and others
4	Asking Questions (1)	Asking for the 5W1H
5	Asking Questions (2)	Flow and continuance
6	Format (1)	How to write an academic essay
7	Discussion (1)	Being clear and persuasive – structure
8	Discussion (2)	Being clear and persuasive – support
9	Format (2)	Evaluation /Peer editing
10	Summarizing (1)	What is a summary?
11	Summarizing (2)	Diagramming, para-phrasing, quoting
12	Presentation (1)	stress / pronunciation / intonation
13	Presentation (2)	voice control / body language / effective audio-visual materials

14 Wrap-up Examination

Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given in class.

【テキスト（教科書）】

Material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline (in English)】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

棚木 玲子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】

Building on the achievements of English 2, the goal of this course is for students to further develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deeper understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills – reading, writing, listening and speaking – although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given via the Learning Management System.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese dishes
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations
12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation

13	Culture (3)	What is “intercultural communication”?
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the designated material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given by the instructor.

【テキスト (教科書)】

Material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline (in English)】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parrotting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending Money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parrotting)

Week 7 Unit 3 Jobs

Watching video (TED Talks);
Reading: A dancer's dream;
Writing: describing a dream job

Week 8 Presentation No. 1

Students' presentations No. 1: parrotting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation

Week 9 Unit 4 Talents

Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.

Week 10 Unit 4 Talents

Watching video (TED Talks);
Reading: Pro gaming as a dream career; Vocabulary review

Week 11 Unit 5 Technology

Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of

Week 12 Unit 5 Technology

Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 13 Presentation No. 2

Students' presentations No. 2 on the chosen topic

Week 14 Course wrap up

Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Presentations: 40%

- Writing assignments, homework and tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook.

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】

The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading assignment: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Presentations: 40%

- Writing assignments, homework and tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook.

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Students will work individually, and with a partner and in small groups (in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines, and possibly online on Zoom). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	explanation of class requirements
2	1A Questions and answers	question formation
3	1B "The Mystery of the Lighthouse Keepers"	auxiliary verbs
4	1B Personality test	the..., the... + comparatives
5	2A Illnesses and injuries	present perfect simple and continuous
6	2A "Confessions of a cyberchondriac"	writing an informal email
7	2B Age-gap friendship	using adjectives as nouns
8	2B Dressing one's age	writing descriptions
9	3A Air Travel	narrative tenses, past perfect continuous
10	3A "Routine flight goes 'batty'"	irregular past forms, sentence rhythm
11	3B 50 word stories	the position of adverbs and adverbial phrases

12	3B "The Necklace"	writing a short story.
13	4A Stormy weather	future perfect and future continuous. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ reviewing chapters 1, 2, 3

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

In case Zoom meetings are held, a computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera will be needed. Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】

This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will work individually, and with a partner and in small groups (in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines, and possibly online on Zoom). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	4B A risky business	zero and first conditionals
2	4B Extreme sports	expressions with "take"
3	5A I'm a survivor	feelings, word stress
4	5A Lost in the jungle	unreal conditionals
5	5B Wish you were here	wish for the present/ future, expressing feelings with verbs or -ed/-ing adjectives
6	5B Regrets	wish for past regrets
7	6A The way we used to sleep	used to, be used to, get used to
8	6A Facts about sleep	causal explanations
9	7B How to improve your acting skills	verbs of the senses, the body
10	7B How to spot a liar	describing a photo
11	8A Cutting crime	the passive (all forms)
12	8B Fake news	reporting verbs
13	8B The speed of news	how to spot fake news. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

In case Zoom meetings are held, a computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera will be needed. Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】

This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】

Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

This will be a real-time class at the Ichigaya campus. Each class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and self-introductions
Class 2	Unit 1 Extreme Sports	Formulating and supporting opinions
Class 3	Unit 1 Extreme Sports	Group discussion Team vs individual sports
Class 4	Unit 2 Identity Theft	Asking for and giving advice
Class 5	Unit 2 Identity Theft	Group discussion How to avoid identity theft
Class 6	Writing Workshop	Writing clear & concise sentences
Class 7	Unit 3 Space Exploration	Making and confirming predictions
Class 8	Unit 3 Space Exploration	Group discussion Future of space tourism
Class 9	Unit 4 Being Persuasive	Using logical and emotional appeals
Class 10	Unit 4 Being Persuasive	Group discussion Comparative advertising
Class 11	Individual Speech (3-5 min)	What makes you different from other people? or What makes Japan different from other countries?

Class 12	Individual Speech (3-5 min)	What makes you different from other people? or What makes Japan different from other countries?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final exam (units 1-4)	In-class exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson) ISBN 978-0-13-404981-6 (¥3,564)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

*Assignment 1—Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)

*Assignment 2—Prepare a 3-5 min speech on

a. What makes you different from other people? or,

b. What makes Japan different from other countries?

【学生の意見等からの気づき】

None

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

RICHARD SHEEHAN

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to improve students' listening, speaking and writing skills through a series of in-class activities and outside assignments to allow them to become more competent and confident English communicators.

【到達目標】

Students should be able to communicate in a variety of English speaking situations that they may encounter when living or studying abroad, as well as express their ideas and opinions, both verbally and in writing, in a coherent and concise fashion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The class will incorporate short lectures supplemented by textbook exercises, class discussions and group activities. Students will be required to share and support their opinions with each other and to prepare a short speech on a given topic. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term either in person or through email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Class Overview	Explanation of class rules & objectives and student interviews
Class 2	Unit 5 Careers	Using follow-up questions to extend conversations
Class 3	Unit 5 Careers	Job interview role play
Class 4	Unit 6 Tourism	Considering all sides of an issue
Class 5	Unit 6 Tourism	Design a tour campaign for a local Japanese site
Class 6	Writing workshop	Writing a paragraph with topic and supporting sentences
Class 7	Unit 7 Marriage	Using polite expressions to agree & disagree
Class 8	Unit 7 Marriage	Group discussion Pros & cons of marriage
Class 9	Unit 8 Climate change	Analyzing & explaining (presenting) data
Class 10	Unit 8 Climate change	Group discussion Ways to address climate change
Class 11	Individual speech (3-5 min)	What would you like to change about yourself? or What would you like to change about Japan?

Class 12	Individual speech (3-5 min)	What would you like to change about yourself? or What would you like to change about Japan?
Class 13	Final exam review	Vocabulary & listening practice
Class 14	Final Exam (units 6-10)	In-class exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

NorthStar 3 Listening & Speaking 4th edition (Pearson)
ISBN 978-0-13-404981-6 (¥3,564)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

30%-Classroom activities
40%-Outside assignments*
30%-Final exam

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

*Assignment 1 — Keep a weekly journal of English activities being done outside of class (at least one activity per week)

*Assignment 2 — Prepare a 3-5 min speech on

- What would you like to change about yourself? or,
- What would you like to change about Japan?

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

Classes will integrate short lectures with listening exercises and group speaking activities with the aim of improving oral communication skills. Students will also be expected to complete outside reading and writing assignments with the aim of improving their written communication skills.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【到達目標】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	class intro	go over syllabus, introductions, discuss what you did during your spring break
第 2 回	my major	paper: Why I chose my major
第 3 回	culture	A. handout: What is Culture? How is living in a different culture a challenge? B. make groups for presentations related to student's SA experience.
第 4 回	differences/ commonalities	paper: differences and commonalities between Japanese students and students in your host country.
第 5 回	inside looking out	A. handout: How the U.S. is viewed from an international perspective. B. work on presentations
第 6 回	employment	paper: how studying abroad will set your employment apart from other students.
第 7 回	Social life	A. Discuss the social life that you would like to have while broad. B. work on presentations

第 8 回 childhood experiences

paper: write about several of your favorite childhood experiences.

第 9 回 traveling

A. discuss places that you have been & places that you would like to travel to
B. Work on presentations.

第 10 回 final group presentation preparation

Entire class utilized by solidifying group presentations. Topics will be covered in class.

第 11 回 presentations

groups of 4 to 5 students will give presentations

第 12 回 presentations

groups of 4 to 5 students will give presentations

第 13 回 get ready

paper: Preparation to study abroad, getting visa, researching host country etc.

第 14 回 conversation

active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around 4

hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会（¥2,200）

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40% Papers = 35% Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ジェイソン ポール スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

【到達目標】

This course will emphasize speaking ENGLISH. Each semester there will be five (one page) bi-weekly writing assignments to facilitate discussion.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Students receive feedback as follows on each assignment they submit; the teacher evaluates their work with a letter grade as well as written comments on their work and suggestions for any improvements needed. Writing assignments must be typed. Pair work, speaking, listening and taking notes are all important in this class. There will be further bi-weekly less formal discussions; Note taking and Q & A will be important here as well. All of these points will help build student vocabulary and listening & speaking skills. The teacher reserves the right to make changes in the syllabus when necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	catching up	discuss what you did during your summer break.
第 2 回	my major	paper: what I expect from the SA program
第 3 回	culture	A. handout: globalization B. make groups for presentations (different members from last semester)
第 4 回	loneliness	paper: homesickness while abroad
第 5 回	safety	A. handout: common sense safety while abroad B. work on presentations
第 6 回	opinion	paper: open topic
第 7 回	cultural taboos	A. Discuss different acceptable and unacceptable behavior/folkways B. Work on presentations.
第 8 回	food	paper: Write about different food and the Japanese food that you will miss while abroad
第 9 回	traveling	A. Discuss places that you have been & places that you would like to travel to. B. Work on presentations.

第 10 回	final group	The entire class will be used in solidifying the presentations.
第 11 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 12 回	presentations	Groups of 4 to 5 students will give presentations.
第 13 回	get ready	paper: open topic (student choice)
第 14 回	conversation	active and fun conversation board game

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The papers are to be completed before coming to class. They will not be graded on the mechanics of writing such as grammar, spelling etc. They will be used to help students prepare for the topic of discussion and are meant to facilitate discussion.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

『元経済産業省英文校閲者が書いたビジネスによく効く英語の本』 ジリアン・ヨーク/森下 均著、一般財団法人経済産業調査会（¥2,200）

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Group work & participation = 40%, Papers = 35%, Presentations = 25%

There are no tests in this class. Without a train delay slip students will be counted absent if more than 15 minutes late. Maximum of 3 absences. Speaking in English is required.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide participants with an active approach to increasing their speaking and listening skills while guided and encouraged by the instructor.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Getting to know each other
Week 2	Unit 1 Passions	Listening to dialogue; Talking about favourites, pair & group work; Grammar explanation and practice: present simple
Week 3	Unit 1 Passions	Reading assignment; Watching video (TED Talks); Writing: introducing yourself by email
Week 4	Unit 2 Spending Money	Talking about shopping; Listening: How I spend my money; Grammar explanation and practice: adverbs, expressions of frequency
Week 5	Unit 2 Spending Money	Reading: creative ways to obtain new things; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 6	Unit 3 Jobs	Listening and speaking practice: talking about jobs, pair & group work; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting)

Week 7	Unit 3 Jobs	Watching video (TED Talks); Reading: A dancer's dream; Writing: describing a dream job
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 4 Talents	Listening and speaking practice: talking about abilities, pair & group work; Grammar explanation and practice: can and can't, be good at sth.
Week 10	Unit 4 Talents	Watching video (TED Talks); Reading: Pro gaming as a dream career; Vocabulary review
Week 11	Unit 5 Technology	Listening and speaking exercise: talking about gadgets; Grammar: much, many, a lot of
Week 12	Unit 5 Technology	Reading with comprehension: Flying like a bird; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Enjoying and learning a song

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week. Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】

English to English dictionary:
<https://dictionary.cambridge.org/>
Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare two presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Presentations: 40%

- Writing assignments, homework and tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook.

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】

The content of lessons may differ from the syllabus depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

URBANOVA Jana

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning English for active communication in the international environment

【到達目標】

This course aims to develop the four language skills (listening, speaking, reading and writing) by placing special emphasis on active communication abilities. Students will practice and learn to express themselves effectively in speaking and writing which will help them to be prepared for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be conducted entirely in English. Students will develop speaking skills by participating in a variety of activities, such as pair & group work, delivering a presentation and practicing parroting. There will also be regular listening and reading exercises, as well as short writing assignments based on the topics discussed in each unit. Through these exercises, students will become more familiar with the active use of language and gain higher word consciousness of vocabulary used in context.

Comments and explanation about assignments and answers to questions from students are given at the end of each class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	Explanation of course requirements, tasks and goals; Review of the main points studied in the spring semester
Week 2	Unit 6 Challenges	Listening and speaking practice: talking about challenges, pair & group work; Grammar: time clauses; Language focus: describing sequence
Week 3	Unit 6 Challenges	Reading assignment: Living without fear; Watching video (TED Talks); Writing assignment: making suggestions
Week 4	Unit 7 Wild places	Watching model presentation; Explaining requirements for presentation No. 1 (parroting); Talking about places; Grammar explanation and practice: comparatives and superlatives
Week 5	Unit 7 Wild places	Reading: An otherworldly place; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)

Week 6	Unit 8 Confidence	Listening and speaking practice: talking about appearance and personality, pair & group work; Grammar: modifying adverbs
Week 7	Unit 8 Confidence	Watching video (TED Talks); Reading: The pressure to be 'perfect'; Discussion: asking opinion
Week 8	Presentation No. 1	Students' presentations No. 1: parroting; Explaining requirements for presentation No. 2, preparations and watching model presentation
Week 9	Unit 9 Achievements	Listening and speaking practice: talking about personal achievements, pair & group work; Grammar explanation and practice: past simple; Language focus: talking about the past
Week 10	Unit 9 Achievements	Watching video (TED Talks); Reading: From Pole to Pole; Vocabulary review
Week 11	Unit 10 Creative cities	Listening and speaking exercise: talking about one's neighbourhood; Grammar: should and shouldn't
Week 12	Unit 10 Creative cities	Reading with comprehension: Reshaping a city; Vocabulary review; Watching video (TED Talks)
Week 13	Presentation No. 2	Students' presentations No. 2 on the chosen topic
Week 14	Course wrap up	Final test; Watching an old Japanese tale; group discussion: expressing your opinion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Required time for work to be done outside of class: 1 hour per week.

Required work: class preparation, vocabulary review, homework, preparation for presentations.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

David Bohlke and Stephanie Parker: Keynote Elementary, Cengage Learning, 2018. Student's Book ISBN: 978-1-337-27391-6

【参考書】

English to English dictionary:

<https://dictionary.cambridge.org/>

Further references will be provided by the instructor during the class.

【成績評価の方法と基準】

Students are expected to actively participate in class, prepare short presentations, complete writing assignments and pass the final test.

- Active participation in class: 20%

(In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for students to receive academic credit in the course)

- Presentations: 40%

- Writing assignments, homework and tests: 40%

【学生の意見等からの気づき】

There are no student comments that would require major changes to the course.

The instructor is always happy to receive feedback on how to make learning more enjoyable and effective.

【学生が準備すべき機器他】

● Textbook.

● Students should also prepare a notepad and pencil/pen to write notes, instructions, writing assignments, etc. when requested.

【その他の重要事項】

The contents and timing of the syllabus may change depending on the needs and language level of the students taking this class.

【Outline (in English)】

Learning English for active communication in the international environment

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will work individually, and with a partner and in small groups (in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines, and possibly online on Zoom). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	explanation of class requirements
2	1A Questions and answers	question formation
3	1B "The Mystery of the Lighthouse Keepers"	auxiliary verbs
4	1B Personality test	the..., the... + comparatives
5	2A Illnesses and injuries	present perfect simple and continuous
6	2A "Confessions of a cyberchondriac"	writing an informal email
7	2B Age-gap friendship	using adjectives as nouns
8	2B Dressing one's age	writing descriptions
9	3A Air Travel	narrative tenses, past perfect continuous
10	3A "Routine flight goes 'batty'"	irregular past forms, sentence rhythm
11	3B 50 word stories	the position of adverbs and adverbial phrases

12	3B "The Necklace"	writing a short story.
13	4A Stormy weather	future perfect and future continuous. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ reviewing chapters 1, 2, 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

In case Zoom meetings are held, a computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera will be needed. Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

ROBIN F WEICHERT

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Understand texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

【到達目標】

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will practice speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will work individually, and with a partner and in small groups (in the classroom as far as feasible under Covid-19 prevention guidelines, and possibly online on Zoom). Equal importance will be given to production (spoken and written), and to listening and reading tasks. Exercises will be done both in class and as homework. There will be a quiz at the end of the semester. At least once during the semester, each student will give an oral presentation. Feedback on presentations, assignments and quizzes will be provided in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	4B A risky business	zero and first conditionals
2	4B Extreme sports	expressions with "take"
3	5A I'm a survivor	feelings, word stress
4	5A Lost in the jungle	unreal conditionals
5	5B Wish you were here	wish for the present/ future, expressing feelings with verbs or -ed/-ing adjectives
6	5B Regrets	wish for past regrets
7	6A The way we used to sleep	used to, be used to, get used to
8	6A Facts about sleep	causal explanations
9	7B How to improve your acting skills	verbs of the senses, the body
10	7B How to spot a liar	describing a photo
11	8A Cutting crime	the passive (all forms)
12	8B Fake news	reporting verbs
13	8B The speed of news	how to spot fake news. Quiz.
14	Semester review	checking quiz results/ book revision

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review grammar lessons, prepare new vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. — University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Christina Latham-Koenig et al. American English File 4 (3rd Edition): Student Book with Online Practice. Oxford University Press. ¥ 3,200

【参考書】

Christina Latham-Koenig et al. American English File: 4 (3rd Edition): Workbook with Key. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), quizzes and tests (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

In case Zoom meetings are held, a computer or laptop which has speakers, a microphone and a video camera will be needed. Google Classroom will be used. Please check Hoppii for the class code and join the class on Google Classroom.

【Outline (in English)】

This course is designed for students to practice and develop listening, speaking, reading, and writing skills. Students will study texts of diverse content, articulate own ideas and give short presentations.

The course aims at improving students' overall ability to access various contents and to communicate in English. Students will learn to express themselves idiomatically in a range of situations regularly encountered in everyday and academic life. They will acquire speaking and writing skills in order to become able to describe experiences and events and give reasons and explanations for opinions and plans. Students will also train to structure their own thoughts and express them orally and in writing.

Outside of class, students are expected to review grammar lessons and vocabulary, do online exercises, and complete writing assignments. The required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be based on participation in class activities (25%), homework (25%), a quiz (25%), and a presentation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

佐藤 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Communication and academic skills in English

【到達目標】

Through this course students will develop confidence and skill in using English as a means of self-expression and learning. More specifically, students will learn the following:

- 1) many vocabulary items
- 2) basics of effective oral communication
- 3) critical thinking
- 4) current affairs and cultural issues
- 5) basics of group discussion
- 6) basics of group presentation
- 7) basic rules of email writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. Each class centres around pair and group work based on reading and/or listening homework on current affairs and/or cultural issues. The overall class atmosphere is friendly and informal. The lessons will be given in English and online via Zoom given the on-going Covid-19 crisis. Important information will be distributed via HOPPII, and the notifications will be sent to your *Hosei email address*. Students have opportunities to ask questions, give opinions, and voice concerns etc both in class and in a post-lesson questionnaire conducted after each lesson. Feedback on these will be typically given in the next lesson. Feedback on the homework and presentations will be given in class and/or via HOPPII.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction, getting to know each other, course descriptions, Q & A	Communicative activities, course descriptions, plans for the semester, homework, Q & A
2	Basics of oral communication, planned speech, understanding Current Issue 1	Show & Tell 1, comprehension check on reading HW on Topic 1, homework, Q & A
3	Vocabulary quiz 1, unplanned speech, basics of group discussion, discussing Current Issue 1 (1)	Vocabulary quiz 1, conversation, group discussion (1) on Topic 1, homework, Q & A
4	Planned speech, Discussing Current Issue 1 (2)	Story of my name, group discussion (2) on Topic 1, homework, Q & A

5	Vocabulary quiz 2, unplanned speech, discussing Current Issue 1 (3), basics of group presentation (1)	Vocabulary quiz 2, conversation, group discussion (2) on Topic 1, basics of group presentation (1), homework, Q & A
6	Planned speech, basics of group presentation (2), preparing for Presentation 1	Show & Tell 2, basics of group presentation (2), preparation for the group presentation on Topic 1, homework, Q & A
7	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1, homework, Q & A
8	Unplanned speech, feedback on Presentation 1, understanding Current Issue 2	Conversation, peer- and teacher feedback on Presentation 1, comprehension check on Topic 2 material, homework, Q & A
9	Vocabulary quiz 3, unplanned speech, discussing Current Issue 2 (1)	Vocabulary quiz 3, conversation, group discussion on Topic 2 (1), homework, Q & A
10	Planned speech, discussing Current Issue 2 (2)	Show & Tell 3, group discussion on Topic 2 (2), homework, Q & A
11	Unplanned speech, discussing Current Issue 2 (3), basics of group presentation (3)	Conversation, group discussion on Topic 2 (3), basics of group presentation (3), homework, Q & A
12	Unplanned speech, basics of group presentation (4), preparing for Presentation 2	Conversation, basics of group presentation (4), preparation for the group presentation on Topic 2, homework, Q & A
13	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2, homework, Q & A
14	Unplanned speech, feedback on Presentation 2, recap of the semester & student feedback	Conversation, peer- and teacher feedback on presentation 2, recap of the semester, student feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is assigned. Materials and homework information will be distributed via HOPPII.

【参考書】

Good dictionaries that suit your level and need

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 25%

Homework and quizzes: 40%

Presentations: 35%

Please note that any student who misses the equivalent of more than 3 classes will not pass this course except in extreme circumstances. Please also note that absence does not excuse students from doing homework. When absent, students are also responsible for obtaining information etc by contacting the teacher and/or other students and for coming back to class in the following week with all the preparation done.

【学生の意見等からの気づき】

Although conducted online, this course seems to have enabled students to enjoy "talking" to each other in English, make friends, and develop a sense of community through its many communicative activities. Students also felt discussion and presentation skills very useful, and the topics interesting.

【学生が準備すべき機器他】

A computer (preferable) or a mobile phone is necessary to attend our Zoom lessons. A headset is needed to avoid audio feedback if you take the lesson/s on campus. Students are also required to use slides (e.g. PowerPoint) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g. Word).

【Outline (in English)】

Communication and academic skills in English

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

佐藤 陽子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Communication and academic skills in English

【到達目標】

Students will develop greater confidence and skill in using English as a means of self-expression and learning. More specifically, students will learn and/or practise the following:

- 1) many vocabulary items
- 2) basics of effective oral communication
- 3) basics of clear English pronunciation
- 4) critical thinking
- 5) learner autonomy
- 6) group discussion skills
- 7) group presentation skills
- 8) current affairs and cultural issues
- 9) basics of academic writing

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in a variety of activities that involves the four skills of reading, writing, listening and speaking. Each class centres around pair and group work based on reading and/or listening homework on current affairs and/or cultural issues. The overall class atmosphere is friendly and informal. The lessons will be given in English and online via Zoom given the on-going Covid-19 crisis. Important information will be distributed via HOPPIL, and the notifications will be sent to your *Hosei email address*. Students have opportunities to ask questions, give opinions, and voice concerns etc both in class and in a post-lesson questionnaire conducted after each lesson. Feedback on these will be typically given in the next lesson. Feedback on the homework and presentations will be given in class and/or via HOPPIL.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Welcome back, plans for the semester	Communicative activities, plans for the semester, homework, Q & A
2	Planned speech 1, understanding Current Issue 1	Show & Tell 1, comprehension check on reading material on Topic 1, homework, Q & A
3	Vocabulary quiz 1, unplanned speech, discussing Current Issue 1 (1), basics of essay writing (1)	Vocabulary quiz 1, conversation, group discussion (1) on Topic 1, basics of essay writing (1)
4	Vocabulary quiz 2, unplanned speech, discussing Current Issue 1 (2), basics of essay writing (2)	Vocabulary quiz 2, conversation, group discussion (2) on Topic 1, basics of essay writing (2), homework, Q & A

5	Planned speech, discussing Current Issue 1 (3), preparing for Presentation 1	Show & Tell 2, group discussion (2) on Topic 1, preparation for the group presentation on Topic 1, homework, Q & A
6	Presenting on Current Issue 1	Group presentations on Topic 1, homework, Q & A
7	Unplanned speech, feedback on Presentation 1, brainstorming on Current Issue 2	Conversation, peer- and teacher feedback on presentation 1, 2, brainstorming on Topic 2, homework, Q & A
8	Planned speech, discussing Current Issue 2 (1)	Show & Tell 3, group discussion on Topic 2 (1), homework, Q & A
9	Unplanned speech, discussing Current Issue 2 (2), basics of essay writing (3)	Conversation, group discussion on Topic 2 (2), basics of essay writing (3), homework, Q & A
10	Unplanned speech, discussing Current Issue 2 (3)	Conversation, group discussion on Topic 2 (3), homework, Q & A
11	Unplanned speech, preparing for Presentation 2	Conversation, preparation for the group presentation on Topic 2, homework, Q & A
12	Presenting on Current Issue 2	Group presentations on Topic 2, homework, Q & A
13	Feedback on Presentation 2, discussing essay drafts	Peer- and teacher feedback on presentation 2, share & discuss essay drafts, homework, Q & A
14	Unplanned speech, discussing essay drafts, recap of the semester, student feedback	Conversation, discuss essay drafts, recap of the semester, student feedback, homework, Q & A

【学生が準備すべき機器他】

A computer (preferable) or a mobile phone is necessary to attend our Zoom lessons. A headset is needed to avoid audio feedback if you take the lesson/s on campus. Students are also required to use slides (e.g. PowerPoint) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g. Word).

【Outline (in English)】

Communication and academic skills in English

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments and prepare for regular vocabulary quizzes and presentations. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No textbook is assigned. Materials and homework information will be distributed via HOPPIL.

【参考書】

Good dictionaries that suit your level and need

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 25%

Homework and quizzes: 35%

Presentations & an essay: 40%

Please note that any student who misses the equivalent of more than 3 classes will not pass this course except in extreme circumstances. Please also note that absence does not excuse students from doing homework. When absent, students are also responsible for obtaining information etc by contacting the teacher and/or other students and for coming back to class in the following week with all the preparation done.

【学生の意見等からの気づき】

Although conducted online, this course seems to have enabled students to enjoy "talking" to each other in English, make friends, and develop a sense of community through its many communicative activities. Students also felt discussion, presentation, and essay writing skills very useful, and the topics interesting.

LANe100LA

英語 2

2017 年度以降入学者

棚木 玲子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】

The goal of this course is for students to develop their English communication skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deep understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills—reading, writing, listening and speaking—although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given in class or via the Learning Management System.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Course orientation – What to expect
2	Being descriptive (1)	Using adjectives
3	Being descriptive (2)	Describing yourself and others
4	Asking Questions (1)	Asking for the 5W1H
5	Asking Questions (2)	Flow and continuance
6	Format (1)	How to write an academic essay
7	Discussion (1)	Being clear and persuasive – structure
8	Discussion (2)	Being clear and persuasive – support
9	Format (2)	Evaluation /Peer editing
10	Summarizing (1)	What is a summary?
11	Summarizing (2)	Diagramming, para-phrasing, quoting
12	Presentation (1)	stress / pronunciation / intonation
13	Presentation (2)	voice control / body language / effective audio-visual materials

14 Wrap-up Examination

Review / Q and A

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given in class.

【テキスト (教科書)】

Material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline (in English)】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and content of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語 4

2017 年度以降入学者

棚木 玲子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

【到達目標】

Building on the achievements of English 2, the goal of this course is for students to further develop their English communicative skills that are necessary in dealing with various situations. Students will also attain a deeper understanding of the issues that are chosen as class material. Vocabulary building and critical thinking skills will also be promoted.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Exercises will be done alone, in pairs, or in small groups. Skills for presentation and discussion – in other words, expressing yourself logically and coherently – will be worked on as well. Relaxed yet serious interactions are strongly encouraged. Since this class is for students to communicate, you will be using all four language skills – reading, writing, listening and speaking – although the main focus will be on the latter three. Feedback will be given via the Learning Management System.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Interview / presentation	Reviewing summer
2	Pronunciation exercise (1)	vowels / stress / intonation
3	Pronunciation exercise (2)	consonants / stress / intonation
4	Introducing Japan(1)	Religion and annual events
5	Introducing Japan(2)	Religion and annual events – Comparing with other countries
6	Introducing Japan(3)	Visiting a “power spot”
7	Format (3)	Academic essay –review
8	Introducing Japan(4)	Choosing 5 typical Japanese dishes
9	Introducing Japan(5)	Food presentation
10	Introducing Japan(6)	Customs and manners at the table
11	Culture (1)	Image and associations
12	Culture (2)	Origin of the word, a broader interpretation

13	Culture (3)	What is “intercultural communication”?
14	Wrap-up Examination	Review / Q and A

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

This course is designed to be very interactive, so weekly preparation(writing scripts for presentation, reading the designated material, research, completing worksheets, etc.) is essential. Students are expected to spend at least 60 minutes per week before and/or after each class. Specific instructions will be given by the instructor.

【テキスト（教科書）】

Material will be provided in class or posted on the Learning Management System.

【参考書】

Reference books and material will be suggested by the instructor as needed.

【成績評価の方法と基準】

Evaluation will be based on (1) active class participation and commitment in class projects - 30%(2)essays submitted in due time - 20%(3) quizzes and final examination - 50%. Details will be given in class. In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Interactivity in class, class atmosphere, as well as feedback including comments on/suggestions for essays were appreciated so the instructor will maintain such style.

【Outline (in English)】

The objective of this course is for students to understand others, and make themselves understood in English. For that objective, we will focus on fostering the abilities to 1) quickly grasp the meaning and contents of various utterances, and 2) express your opinions or thoughts verbally or in written sentences.

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

TOBY TRAUB

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines. handout discussion activities
2	Unit 1: Getting to Know Each Other Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Unit 1 Environmental Issues Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

4	The Way we Live Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Unit 2 Technology: Friend or Foe Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
6	Unit 2 Political Refugees Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	Protests and dissent Research report/ mini- Presentations Connecting the dots Love and Loss Death	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Music and Art Unit 3: Global thinking Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Unit 3: Seize the day Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

10	Unit 3: Swim against the stream. Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
11	Unit 4: What will your verse be? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
12	The road less traveled. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment. Tips for the Quiz
13	Meritocracy and Theocracy Quiz Song lesson	Quiz Song lesson
14	Wrap-up	Go over quiz Speaking activity

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete a writing assignment every week in preparation for discussion. This writing assignment will usually require research.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>

<https://www.japantimes.co.jp/news/>

<https://www.yahoo.com/news/>

<http://www.bbc.com/news>

<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations: 60%

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

This syllabus is subject to revision, and likely will change based on the students' needs, and topics will be based on relevant social issues of the moment.

Quizzes are not testing your English ability, but on the content of the course.

【Outline (in English)】

This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of the world with an emphasis on American social, political, and popular culture.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

TOBY TRAUB

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Learning English for communicating in a global society.

【到達目標】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will also practice writing paragraphs and short essays.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Students will participate in a variety of activities that involve all four skills of reading, writing, listening and speaking. Students will be asked to read short articles, prepare for discussion by briefly writing their opinions, and then participate in discussions, usually in pairs. Reading comprehension will be checked, and new vocabulary will be reviewed after matching activities.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Welcome back	What I did over summer break. Recent happenings in the news. Research and writing assignment.
2	Homelessness Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment..
3	Art and War Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions big writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

4	Human Compassion Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.
5	Is telling lies bad? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
6	Immigration good, or bad? Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions writing assignment	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
7	How neighborhoods happen. Introduce big presentation. Create teams. Go over expectations.	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
8	Rules versus freedom Presentation topics due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Listening activity Homework: Conversation preparation writing assignment.
9	Japan surveillance state. Outline of presentations due. Current Events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.

10	Fabulous Japan Draft of words of presentations due. Current events/Writing skills/Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	【Outline (in English)】 This is a content based course aimed at helping students improve their confidence and skills in overall English communication as well as to increase their knowledge of American culture.
11	Christmas and holidays. 5 Powerpoints due Christmas/holiday comprehension skill building activity.Reading skills/discussions	Check homework, engage in discussion of prepared homework topic. Handout. Read article, check comprehension, prepare for in-class discussion. Discussion Textbook activities Homework: Conversation preparation writing assignment.	
12	Presentation Day.	Tips for the Quiz	
13	Song lesson My Winter break Pandemics	Song lesson Discussion activity. No homework except to study for big quiz.	
14	Big quiz	Quiz Games Puzzle	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are given a writing assignment almost every week. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Handouts will be given in class.

【参考書】

These resources might be useful for extra reading practice, and for completing some of the homework assignments.

<https://japantoday.com/>

<https://www.japantimes.co.jp/news/>

<https://www.yahoo.com/news/>

<http://www.bbc.com/news>

<https://news.google.com/news/>

【成績評価の方法と基準】

Class participation: 40%

Quizzes, writing assignments, presentations:60%

Departmental guidelines state that more than three absences will result in automatic failure of the course.

Obviously, when you are absent, it will hurt your class participation grade.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK). Translation software is strictly forbidden. You may use your phone in class ONLY for a dictionary app. Or, on a rare occasion, they could be used for purposes related to the class. I recommend using a dedicated electronic dictionary.

【その他の重要事項】

This is a challenging course, but you will learn a lot, and improve your English a lot. Because the course is challenging, you will have a proud sense of accomplishment when you have finished the course.

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

ラスカイル L. ハウザー

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English 5: Academic writing and presentation skills.

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students continue to give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.

13	Transitions 1	An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
14	Transitions 2	Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

None

【参考書】

Materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations: 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

More attention will be put on pair and group work than in the past.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

English 5: Academic writing and presentation skills. Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

ラスカイル L. ハウザー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing causes and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students continue to present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.

13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Additional materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations: 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This year, more emphasis will be put on pair and group work.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

English 6: Academic writing and presentation skills.

Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

CHIA-WEI KANG

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 5 is a 4-Skills required course for 1st-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills with a focus on communicative reading and writing. This course's objective brings out the communicative elements of reading and writing through pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will demonstrate their critical thinking skills by expressing their insights and opinions in group discussions, presentations, and written forms. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

【到達目標】

The goals of the course are for students:

1. To learn and apply strategic listening skills to aid listening comprehension
2. To develop speaking skills and practice new expressions through output activities
3. To learn how to use skimming and scanning to identify main ideas and supporting details
4. To learn how to write various types of paragraphs effectively through writing exercises and assignments
5. To apply critical thinking strategies in analyzing texts
6. To become better independent language learners

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The instructor would like to create a “safe” learning environment for students. “Safe” means that students can try to express their opinions and understand others’ viewpoints without feeling judged. The overall class vibe is informal. Students participate in various activities involving reading, writing, listen, and speaking. Students are expected to listen to others and interact with others actively in group discussions. While presenting their topics, students should use audio-visual aids.

Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback to in-class discussions. Students will receive a graded presentation rubric with the instructor's written comments for presentations and paragraphs.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/Unit 1: Happiness	Course orientation, Icebreaking, Unit 1: Pre-reading activities
Lesson 2	Unit 1: Happiness	Reading 1: “Is There a Recipe for Happiness?” Reading Skills, Critical Thinking Skills, Discussions

Lesson 3	Unit 1: Happiness	Reading 2: “Four Keys to Happiness,” Group discussion based on the given response sheet. Opinion paragraph writing
Lesson 4	Unit 2: Inventive Solutions	Unit 2: Pre-reading activities Reading 1: “The Power of Creativity,” Reading Skills Writing Workshop 1 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 5	Unit 2: Inventive Solutions	Reading 2: “Big Ideas, Little Packages?” Group discussion based on the given response sheet. Problem/Solution paragraph writing
Lesson 6	Unit 2: Inventive Solutions	Unit 3: Pre-reading activities Reading 1: “The Power of Crowds,” Reading Skills Writing Workshop 2 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 7	Unit 3: Connected Lives	Reading 2: “Internet Island,” Group discussion based on the given response sheet. Descriptive paragraph writing
Lesson 8	Unit 3: Connected Lives	Unit 5: Pre-reading activities Reading 1: “The Art of Memory,” Reading Skills Writing Workshop 3 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 9	Unit 3: Connected Lives	Reading 2: “Sleep and Memory,” Group discussion based on the given response sheet. Paragraph writing Individual Presentation
Lesson 10	Unit 5: Memory and Learning	
Lesson 11	Unit 5: Memory and Learning	
Lesson 12	Unit 5: Memory and Learning	
Lesson 13	Individual Presentation	
Lesson 14	Final Task	Final Task

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around one hour a week for a one-credit course; as a result, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations.

【テキスト（教科書）】

Title: Pathways Reading and Writing book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)

Publisher: Cengage Learning

ISBN: 978-1-33-762511-1

Price: ¥ 3,270

【参考書】

Bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 20%

Homework and quizzes: 30% (10 homework assignments: 3%, including 4 vocabulary quizzes, 4 response sheets, and 2 extra assignments)

Paragraph Writings: 30% (3 paragraphs: 10% each)

Presentation: 10%

Final Task: 10%

Attendance policy: In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

This course has not received any comments from the previous term.

【学生が準備すべき機器他】

Students are required to use slides (e.g., PowerPoint, Google Slides) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g., Word, Google Doc). Some important information will be distributed via HOPPII.

【Outline (in English)】

English 5 is a 4-Skills required course for 1st-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four English skills with a focus on communicative reading and writing. This course's objective brings out the communicative elements of reading and writing through pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will demonstrate their critical thinking skills by expressing their insights and opinions in group discussions, presentations, and written forms. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

CHIA-WEI KANG

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6 is a 4-Skills required course for 1st-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four skills in English, focusing on communicative reading and writing. The course introduces the communicative elements of reading and writing through pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will demonstrate their critical thinking skills by expressing their insights and opinions in group discussions, presentations, and written forms. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

【到達目標】

The goals of the course are for students:

1. To learn and apply strategic listening skills to aid listening comprehension
2. To develop speaking skills and practice new expressions through output activities
3. To learn how to use skimming and scanning to identify main ideas and supporting details
4. To learn how to write various types of paragraphs effectively through writing activities and assignments
5. To learn how to properly quote and cite sources
6. To apply critical thinking strategies in analyzing texts
7. To become better independent language learners

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The instructor would like to create a “safe” learning environment for students. “Safe” means that students can try to express their opinions and try to understand others’ viewpoints without feeling being judged. The overall class vibe is informal. Students participate various activities involving reading, writing, listen, and speaking. Students are expected to listen to others and interact with others actively in group discussions. While presenting their topics, students should use audio-visual aids.

Regarding the feedback on class assignments, the instructor will give oral feedback to in-class discussions. For presentations and essays, students will receive a graded presentation rubric with the instructor’s written comments.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Introduction/Unit 6: Animals and Medicine	Course orientation, Icebreaking, Unit 6: Pre-reading activities
Lesson 2	Unit 6: Animals and Medicine	Reading 1: “The Snake Chaser,” Reading Skills, Critical Thinking Skills, Discussions

Lesson 3	Unit 6: Animals and Medicine	Reading 2: "A Haven for Chimps," Group discussion based on the given response sheet. Argumentative Paragraph
Lesson 4	Unit 7: Nature's Fury	Unit 2: Pre-reading activities Reading 1: "When Tornadoes Strike," Reading Skills
Lesson 5	Unit 7: Nature's Fury	Writing Workshop 1 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 6	Unit 7: Nature's Fury	Reading 2: "Wildfires," Group discussion based on the given response sheet. Organizing a Process Paragraph
Lesson 7	Unit 9: Form and Function	Unit 8: Pre-reading activities Reading 1: "What Are Feathers For," Reading Skills
Lesson 8	Unit 9: Form and Function	Writing Workshop 2 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 9	Unit 9: Form and Function	Reading 2: "Design by Nature," Group discussion based on the given response sheet. Writing a Summary Paragraph
Lesson 10	Unit 10: Smart Advice	Unit 10: Pre-reading activities Reading 1: "Turning Ideas into Reality," Reading Skills
Lesson 11	Unit 10: Smart Advice	Writing Workshop 3 Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 12	Unit 10: Smart Advice	Reading 2: "Lessons in Business," Group discussion based on the given response sheet. Giving Details that Support Advice
Lesson 13	Individual Presentation	Individual Presentation
Lesson 14	Final Task	Final Task

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。University guidelines suggest preparation and review are around one hour a week for a one-credit course; as a result, students are expected to work on homework assignments (listening, reading, and writing) and prepare for vocabulary quizzes, discussions, and presentations.

【テキスト（教科書）】

Title: Pathways Reading and Writing book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)
Publisher: Cengage Learning
ISBN: 978-1-33-762511-1
Price: ¥ 3,270

【参考書】

Always bring your dictionary to class. (Both paper and electronic dictionaries are accepted.)

【成績評価の方法と基準】

Students will be assessed based on the following criteria:

Class participation: 20%

Homework and quizzes: 30% (10 homework assignments: 3%, including 4 vocabulary quizzes, 4 response sheets, and 2 extra assignments)

Paragraph Writings: 30% (3 paragraphs: 10% each)

Presentation: 10%

Final Task: 10%

【学生の意見等からの気づき】

The course has not received any comments from the previous terms.

【学生が準備すべき機器他】

Students are required to use slides (e.g., PowerPoint, Google Slides) for their presentations and to submit written assignments using word-processing software (e.g., Word, Google Doc). Some important information will be distributed via HOPPIL.

【Outline (in English)】

English 6 is a 4-Skills required course for 1st-year students in the Faculty of Intercultural Communication scheduled to study abroad in the fall semester of their 2nd year. This course is based on four skills in English, focusing on communicative reading and writing. The course introduces the communicative elements of reading and writing through pre-reading, while-reading, and post-reading stages. Students will demonstrate their critical thinking skills by expressing their insights and opinions in group discussions, presentations, and written forms. The instructor reserves the right to modify this syllabus when necessary.

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be able to use English to talk about various topics.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents	gay issues, coming out
	Presentation preparation-structure	Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families	splitting time with parents
	Presentation preparation - physical elements	body language and voice
Week 8	Errands	errands and chores
	Presentation preparation-visual elements I	slide backgrounds
week 9	Neighborhoods	suburban, countryside, metro
	Presentation preparation- visual elements II	slide fonts
week 10	Parties types	types- wedding, house
	Presentation preparation	warming, birthday, showers
	script practice	using a script to speak

week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes
week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and written), and Internet research.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

World Link Book 2 (National Geographic Learning) 4th edition
978-0-357-50218-1

【参考書】

textbook, handouts, class blog, selected websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

Homework 40%

Group Presentation 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students will learn English using four skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc. Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories Presentation preparation	Aesops and others
Week 6	Jobs Presentation preparation-structure	examining jobs in the technology and travel industries Introduction/body/conclusion
Week 7	elements of work Presentation preparation-physical elements	looking at jobs abroad use of voice and body language
Week 8	telecommunications Presentation preparation-visual elements I	land lines, smartphones slide backgrounds
week 9	Telecommunications II Presentation preparation visual elements II	Internet websites font usage

week 10	Travel in Japan Presentation preparation scripts	Areas of Japan Using a script for a speech
week 11	Travel outside Japan Presentation preparation notes usage	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia using notes to make a speech natural
week 12	Presentations on fables	stories from Japan and elsewhere
week 13	Presentations on work	jobs we do: inside and outside
week 14	Presentations on telecommunications	Internet, smartphones, and landlines

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

homework (blog and regular), group presentation preparation. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

World link Book 2 (National Geographic Learning) 4th edition
978-0-357-50218-1

【参考書】

textbook, handouts, blog website, other websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

Homework 40%

Group presentation 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Email contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

DANIEL G DUSZA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course (English 5) is for first-year Intercultural Communication students with a strong focus on improving all English communication skills before studying abroad. Students will improve their reading and writing fluency through various communicative, problem-solving activities. By the end of this course, students will be confident in communicating their opinions, critical thinking skills, and solutions to problems associated with living as global citizens.

【到達目標】

The goal of the course is to develop students' receptive (listening and reading) and interactive (speaking and writing) abilities by learning techniques and strategies that help students communicate personal ideas and experiences, respond to media (text, audio, photos and videos), critically assess communications, and synthesize this information to solve problems at a level that could be understood by an English speaker.

Specific goals include:

1. Improve reading fluency, imageability, and prediction.
2. Improve and understand the differences in writing summaries, short essays, emails and messages, journaling, and reflections
3. Improve critical analysis of various forms of media and provide problem assessments and solutions through written and spoken communication

Course content will include fluency in reading and writing through explicit extensive reading and summarizing, listening and reporting through extensive practice in using spoken and written English in various activities and assignments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a face to face class (unless circumstances change). The majority of classes will follow a synchronous, flipped learning, with in-class discussions of learned content, presentations, critical thinking and reflective reporting. The overall term will contain tasks which require the target language to complete. These tasks will be used for solving real-world problems (PBL). The role of the teacher is to direct learning attention, and provide scaffolding for language and technical skills, and facilitate learning. Students will play a direct role in being the producer and source of information. Assessment will include peers and self-correction during the course of performing tasks and solving problems, corrective feedback and formative/summative assessment from the instructor on class activities, mini-tests and assignments throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Class Orientation Intro to Learning Through Tech	Course orientation, Enquiring and writing about others. Introduction to Journals using Google Sites Writing Response
Lesson 2	Reading-Fluency Unit 1: Happiness	Pre-reading 1: "Is There a Recipe for Happiness?" Reading Skills, Critical Thinking Skills, Discussions
Lesson 3	Reading-Fluency Unit 1: Happiness	Pre-Reading 2: "Four Keys to Happiness," Group discussion based on the given response sheet. Opinion paragraph writing
Lesson 4	Reading-Fluency Unit 2: Inventive Solutions	Unit 2: Pre-reading activities Reading 1: "The Power of Creativity," Reading Skills
Lesson 5	Reading-Fluency Unit 2: Inventive Solutions	Writing Workshop-1 CT-Skills, Discussions, Presentation, Reflection and Journals
Lesson 6	Reading-Fluency Unit 2: Inventive Solutions	Reading 2: "Big Ideas, Little Packages?" Group discussion. CT and Problem-Solving
Lesson 7	Unit-2: Inventive Solutions	Presentation with narrative writing Small group presentations with narrative submission and reflection
Lesson 8	Unit 3: Connected Lives	Pre-reading activities Reading 1: "The Power of Crowds," Reading Skills
Lesson 9	Unit 3: Connected Lives	"Internet Island," Group discussion based on the given response sheet. Descriptive paragraph writing
Lesson 10	Unit 3: Connected Lives	Writing Workshop 2 Critical Thinking Skills, Discussions, Presentation, and Reflection
Lesson 11	Unit 5: Memory and Learning	Pre-reading activities Reading 1: "The Art of Memory," Reading Skills
Lesson 12	Unit 5: Memory and Learning	Reading 2: "Sleep and Memory," Group discussion based on the given response sheet. Paragraph writing
Lesson 13	Unit 5: Memory and Learning	Research Project about any unit in this semester. Written essay and presentation.
Lesson 14	Upload presentation and Essay to the class journal.	Final presentation, Essay Report, and Reflection assessment.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students are expected to prepare paper or internet based homework for sharing with small groups at the beginning of the next class. Supervised reflection and journaling activities will generally be held at the end of each class; however, they may need completing at home occasionally.

【テキスト（教科書）】

Title: Pathways Reading and Writing Book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)

Publisher: Cengage Learning

ISBN: 978-1-33-762511-1

Price: ¥ 3,270

【参考書】

Reference material will be provided to students according to their self directed interests.

【成績評価の方法と基準】

Students are assessed based on the following criteria:

Class participation from pre-readings (Flipped-learning) 20%
Writing: Workshop Essays and Narratives 20% (5% each)
Reflections 20%

Presentation Content: 20%

Journal Content: Summaries, Presentations, and Reflections: 20%

Attendance policy: In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

The end of term reflection will include student assessment of the course. (Students are invited to comment on the course at any time and include critique in their monthly reflections)

【学生が準備すべき機器他】

Students are excepted to have access to a computer and the Internet for homework and assessment submission. It would be beneficial for students to bring smartphones, iPads, or Laptops to the class for ease of searching for and sharing information. (Let your instructor know if this is difficult.)

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary. Students are excepted to have access to computer and internet for homework and assessment submission. Paper submission will generally not be accepted. The teacher has many years of award winning essay, presentation, and web building skills. Therefore, the practical work is an important (and enjoyable) communicative part of this course.

【Outline (in English)】

This course is for first-year Intercultural Communication students with a strong focus on improving English communication skills before studying abroad.

The aim of the course is to improve students reading and writing fluency, content imageability and self-expression, and finally communication skills across various media. By the end of this course, students should be able to collaborate and source knowledge from the internet, critically evaluate information and present their opinions to small and large groups.

After four weeks of skill training, students will be able to collaborate on self-directed projects according to their developing interest areas. The focus is to develop skills that will be useful beyond the classroom.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

DANIEL G DUSZA

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course (English 6) is for first-year Intercultural Communication students with a strong focus on improving all English communication skills before studying abroad. Students will improve their reading and writing fluency through various communicative, problem-solving activities. By the end of this course, students will be confident in communicating their opinions, critical thinking skills, and solutions to problems associated with living as global citizens.

【到達目標】

Building on what was studied in English-5 during Semester-1, the goal of the course is to further develop students' ability to interact more successfully in English. Specific goals for students include:

1. how to apply strategic communication skills in listening, reading, writing, speaking and other forms of communicative media.
2. how to use fluency skills, skimming, scanning, and predicting to identify main ideas and supporting details.
3. how to participate in active video and face-to-face conferencing
4. understanding various types of written forms and using these for reflection and further learning
5. how to collect and store information to properly quote and cite sources
6. how to apply critical thinking and problem-solving skills in various communications settings
7. how to become culturally aware, independent language learners

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a face to face class (unless circumstances change). The majority of classes will follow a synchronous, flipped learning, with in-class discussions of learned content, presentations, critical thinking and reflective reporting. The overall term will contain tasks which require the target language to complete. These tasks will be used for solving real world problems (PBL). The role of the teacher is to direct learning attention, provide scaffolding for language and technical skills, and facilitate learning. Students will play a direct role in being the producer and source of information. Assessment will include peers and self-correction during the course of performing tasks and solving problems, corrective feedback and formative/summative assessment from the instructor on class activities, mini-tests and assignments throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Lesson 1	Class Orientation Learning Through Tech	Course orientation Writing individual reflection and plan for S2
Lesson 2	Writing Fluency U7 Global Challenges	Pre-reading 1: A Need for Change CT - Critical Thinking PS - Problem-Solving Reflection / Journal
Lesson 3	Writing Fluency U7 Global Challenges	Pre-reading 2: Sustainable Future CT & PS Reflection / Journal
Lesson 4	Writing Fluency U7 Global Challenges	Discussion and Writing Workshop 1 CT & PS, Discussions Skills
Lesson 5	Writing Fluency U8 Medical (and Tech) Innovations	Pre-Reading 1: The Healer of Cordoba Reading/Summarizing Skills
Lesson 6	Writing Fluency U8 Medical (and Tech) Innovations	Pre-reading 2: Medical Frontiers Group discussion Research-based (Timed) Essay writing process
Lesson 7	Writing Fluency U7-8 Global Problems and Medical (and Tech) Innovations	Each student to research any breakthrough in science to solve any recognized problem (Solution can be fiction)
Lesson 8	Presentation Skills U9 World Languages (World Englishes)	Pre-Reading 1: The Future of English Reading/Writing, CT/PS, and Discussion skills
Lesson 9	Presentation Skills U9 World Languages (World Englishes)	Pre-Reading 2: Vanishing Voices Reading/Writing, CT/PS, and Discussion skills
Lesson 10	Presentation Skills U9 World Languages (World Englishes)	Present a research proposal Literature Review (3+ items), Knowledge Gap, Method, Expected outcome
Lesson 11	Enquiry and Global Citizenship Unit 10: Survival Instinct	Pre-Reading 1: Deadly Summit Reading/Writing, CT/PS, and discussion/negotiation/debating skills
Lesson 12	Enquiry and Global Citizenship Unit 10: Survival Instinct	Pre-Reading 2: Breath of Life Reading/Writing, CT/PS, and discussion/negotiation/debating skills
Lesson 13	Global Citizenship and Reflection	Final presentation. Students may choose their presentation media. A Rubric will be provided. There needs to be explicit display of genre specific English use, problems solving and global citizenship.
Lesson 14	Final Presentation and Reflection	Presentations Review and first-year journal completion.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students are expected to prepare paper or internet-based homework for sharing with small groups at the beginning of the next class. Supervised reflection and journaling activities will generally be held at the end of each class; however, they may need completing at home occasionally.

【テキスト (教科書)】

Title: Pathways Reading and Writing Book 2 (Student Book with Online Workbook Access Code)

Publisher: Cengage Learning

ISBN: 978-1-33-762511-1

Price: ¥ 3,270

【参考書】

Reference material will be provided to students according to their self-directed interests.

【成績評価の方法と基準】

Students are assessed based on the following criteria:

Class participation:

Pre-readings and flipped-learning 20%

Writing:

Workshop Essays and Narratives 20% (5% each)

Reflections 20%

Presentation Content: 20%

Journal Content: Summaries, Presentations, and Reflections: 20%

Attendance policy: In principle, no more than three absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

The end of term reflection will include student assessment of the course. (Students are invited to comment on the course at any time and include critique in their monthly reflections.)

【学生が準備すべき機器他】

Students are expected to have access to computer and internet for homework and assessment submission. It would be beneficial for students to bring smartphones, iPads, or Laptops to the class for ease of searching for and sharing information. (Let your instructor know if this is difficult.)

【その他の重要事項】

Class attendance is a course requirement. Students are allowed no more than three absences in the semester. The instructor reserves the right to modify this course syllabus whenever necessary. Students are expected to have access to computer and internet for homework and assessment submission. Paper submission will generally not be accepted. The teacher has many years of award winning essay, presentation, and web building skills. Therefore, practical work is an important (and enjoyable) communicative part of this course.

【Outline (in English)】

This course is for first-year Intercultural Communication students with a strong focus on improving English communication skills before studying abroad.

The aim of the course is to improve students reading and writing fluency, content imageability and self-expression, and finally, communication skills across various media. By the end of this course, students should be able to collaborate and source knowledge from the internet, critically evaluate information and present their opinions to small and large groups.

Students will continue to improve the skills acquired during the first term (English-5). The course will be delivered with a greater focus on self-directed skill training, problem-solving in projects that are even more open to individual interest areas. The focus is to develop skills that will be useful beyond the classroom in the international English speaking community.

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

ラスカイル L. ハウザー

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 5/Fri.5

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English 5: Academic writing and presentation skills.

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	Students introduce themselves in short presentations.
2	Language and Learning 1	Writing a descriptive essay about how to learn a language. Recognizing idioms.
3	Language and Learning 2	Essay form and function. Using graphic organizers to visualize main ideas and details.
4	Danger and Daring 1	Writing and informal essay about an explorer. Brainstorming.
5	Danger and Daring 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
6	Gender and Relationships 1	A descriptive essay comparing communication style differences between men and women.
7	Gender and Relationships 2	Paragraph development. Recognizing supporting information from experts.
8	Student presentations	Students give presentations and give constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students continue to give presentations and give constructive criticism.
10	Beauty and Aesthetics 1	A cause and effect essay on an aspect of personal aesthetics.
11	Beauty and Aesthetics 2	Types of supporting materials. Using a timeline.
12	Essay peer editing.	Students work in groups to edit and improve each other's essays.

13	Transitions 1	An informal essay that describes and analyzes a rite of passage.
14	Transitions 2	Organizing supporting material. Analyzing a well-developed paragraph.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

None

【参考書】

Materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

This year, a new textbook has been chosen, and a heavier emphasis will be placed on written work.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

English 5: Academic writing and presentation skills.

Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

ラスカイル L. ハウザー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

【到達目標】

This class is designed to help students improve their academic and critical writing and presentations skills to prepare them for studying abroad.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of reading which will need to be finished for homework. These readings will then serve as both models for their own writing, and as topics for discussion. Peer evaluation, editing and group work will all be important elements of this class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Review of English 5	A review of the ideas and concepts of 英語 5.
2	The Mind 1	An analysis essay that describes and interprets a dream.
3	The Mind 2	Paragraph organization: levels of generalization. Gathering information.
4	Working 1	An analysis essay on the qualities that contribute to success at work.
5	Working 2	Causal relationships: Analyzing causes and effects.
6	Breakthroughs 1	A definition essay that describes an important energy conservation development.
7	Breakthroughs 2	Using a graphic organizer to summarize advantages and disadvantages.
8	Student presentations	Students present in groups and offer constructive criticism.
9	Student presentations continued	Students continue to present in groups and offer constructive criticism.
10	Peer essay review	Students review and editing of each others' essays.
11	Art and Entertainment 1	An interpretation essay that describes a work of art and what it says about the artist or the artist's culture.
12	Art and Entertainment 2	Interpreting images. Using a graphic organizer to make comparisons.

13	Conflict and Reconciliation 1	An argument essay that explains a problem and presents one or more solutions.
14	Conflict and Reconciliation 2	Discussing problems and solutions. Using consensus to solve a problem.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will need to read and prepare opinions before class. Students will also need to prepare writing and group presentations outside of class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

Additional materials will be provided by the instructor.

【成績評価の方法と基準】

Students will receive feedback and comments on homework assignments and in-class activities throughout the term. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Class participation: 20%

Homework: 20%

Group presentations 20%

Essays and written assignments: 40%

【学生の意見等からの気づき】

More attention will be put on pair and group work than in the past.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

English 6: Academic Writing and Presentations Skills

Academic writing and presentation are similar in many ways. In this class, we will focus on the structures of writing and presentation and learn to do both more effectively.

LANe100LA

英語 5

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will be able to use English to talk about various topics.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher. Students should be willing and able to research outside of class.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus on speaking and listening skills. These include; scripted debate, drama, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, blog commenting, web research, etc.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction	explanation of course work and related activities
Week 2	Japanese Food	regional dishes and snacks/ health issues
Week 3	Other Asian food	different varieties of food
Week 4	Western food	differences, cooking styles
Week 5	Family trends - single parents	divorces, legal separations, visitation rights
Week 6	Family trends -same sex parents	gay issues, coming out
	Presentation preparation-structure	Introduction/body/conclusion
Week 7	Family trends -divided families	splitting time with parents
	Presentation preparation - physical elements	body language and voice
Week 8	Errands	errands and chores
	Presentation preparation-visual elements I	slide backgrounds
week 9	Neighborhoods	suburban, countryside, metro
	Presentation preparation- visual elements II	slide fonts
week 10	Parties types	types- wedding, house
	Presentation preparation	warming, birthday, showers
	script practice	using a script to speak

week 11	Parties- venues Presentation preparation notes usage	places- amusement parks, hotels, restaurants practice using notes
week 12	Presentations on food	Japanese, Asian, Western
week 13	Presentations on errands/ neighborhoods	suburbs, countryside, and metro areas
week 14	Presentations on parties	from weddings to graduation parties

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and written), and Internet research.

University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

World Link Book 2 (National Geographic Learning) 4th edition
978-0-357-50218-1

【参考書】

textbook, handouts, class blog, selected websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

Homework 40%

Group Presentation 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Contact email

kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students will learn English using four skill areas (reading, writing, speaking, and listening).

LANe100LA

英語 6

2017 年度以降入学者

ウォルター・カズマー

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This class builds on skills gained in the first semester class with additional language skills being added.

【到達目標】

This class encompasses all four skill areas and students are required to participate in pair and group activities as well as do individual work as assigned by the teacher.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This class uses a variety of activities to focus primarily on speaking and listening skills. These include; drama, blog commenting, skits, role-playing, listening for gist, listening for details, choral recitation, storytelling, group presenting etc. Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Introduction and review	outline main class contents and give overview of some activities from last semester
Week 2	Japanese festivals	holidays, customs and celebrations, etc.
Week 3	Foreign festivals	famous festivals in Europe, the US and in Asia
Week 4	Japanese Fables and stories	famous area tales and their morals
Week 5	Foreign Fables and stories Presentation preparation	Aesops and others
Week 6	Jobs Presentation preparation-structure	examining jobs in the technology and travel industries
Week 7	elements of work Presentation preparation-physical elements	Introduction/body/conclusion looking at jobs abroad
Week 8	telecommunications Presentation preparation-visual elements I	use of voice and body language
Week 9	telecommunications II Presentation preparation visual elements II	land lines, smartphones slide backgrounds
		Internet websites font usage

week 10	Travel in Japan Presentation preparation scripts	Areas of Japan Using a script for a speech
week 11	Travel outside Japan Presentation preparation notes usage	Some of the areas of the world Europe, N. America, Asia using notes to make a speech natural
week 12	Presentations on fables	stories from Japan and elsewhere
week 13	Presentations on work	jobs we do: inside and outside
week 14	Presentations on telecommunications	Internet, smartphones, and landlines

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

homework (blog and regular), group presentation preparation. University guidelines suggest preparation and review are around 4hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

World link Book 2 (National Geographic Learning) 4th edition 978-0-357-50218-1

【参考書】

textbook, handouts, blog website, other websites

【成績評価の方法と基準】

Participation 20%

Homework 40%

Group presentation 40%

For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

More presentation preparation now required in class.

【学生が準備すべき機器他】

PC or smartphone, writing material, paper

【その他の重要事項】

Email contact

kasmersensei@gmail.com

【Outline (in English)】

Students study English using four skill areas (listening, speaking, reading, and writing).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロス、フードロス、コロナなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発進していけるようにする。コロナに関してどのように開発途上国にワクチンが行き渡るのかをも考えていきたいと思う。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書である **You, Me and the World** を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回 2～3 人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。また前の授業の復習をしながらフィードバックをして行く。学期末にはそれぞれグループに分かれて 10～15 分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the class. Introducing yourself by interacting with your partner in English.
2	Unit 1 Waste and Recycling	What is happening with our garbage? Think about how we are dealing with our garbage. How much garbage do we throw away each week. Are we doing anything for the environment?
3	Unit 1	What do you do with our garbage? What can we do with what we cannot throw away as garbage.

4	Unit 1	Role Play What can we do if our incinerator is old and emits dioxin. Also at the same time, the landfill is full. Think of a solution.
5	Unit 2 Endangered species	Why are some animals, plants, fish etc becoming extinct or endangered.
6	Unit 2	What are the reasons of the living creatures' extinction or they being endangered. think of how much Human being is playing a part in this and why.
7	Unit 2	Do you think endangered species should be protected? Discuss the pros and cons why they should be protected or not.
8	Unit 3 Rainforests	What is happening to the rainforests? Why are they important? Why are they being destroyed?
9	Unit 3	Discuss what should be done to save rainforests and why.
10	Unit 4 Global warming. Start preparing for the presentation	"What are the causes of global warming? What is a presentation. The class will be divided into groups and each group will think of a theme connected to global warming. The presentation is 10-15 minutes. Explain the presentation using power point."
11	Unit 4 Preparing for the presentation	What are the effects of global warming. What can we do to prevent global warming?
12	Unit 4 Preparing for the presentation	Preparing for the presentation. How do we deal with the problems of global warming.
13	Presentation	Preparing for the presentation. Presentation
14	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation."

【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)

David Peaty

Kinseido

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%。とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them and to further gain knowledge on SDGs.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work (15%), presentation (15%) and test at the end of the term (70%).

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1992年に Severne Suzuki がリオの会議で発表したものも読んでいきたいと思う。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていきたい。

【到達目標】

世界で起こっている環境問題ならびに様々な問題に深く取り組んで行く。開発途上国の抱える問題、先進国が与える影響などを考えていく。また環境問題に関して英語で話せるようにしていく。昨年は Greta Thunberg が世界で環境問題に対して将来の危機に関して発信していた。私達も彼女に見習い環境問題に取り組まなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書である You, Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回2～3人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。先進国の開発途上国への影響をかんがえる。また前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。学期末にはそれぞれグループに分かれて10～15分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Presentation of the questionnaire during the summer holidays	Depending on the situation of Covid 19, presentation of the result of the questionnaire to the foreigners during the summer holidays.
2	Unit 5 Energy	Think about where energy comes from. Why do we use fossil energy?
3	Unit 5	Think about where energy comes from. Is there any other energy we can use instead of fossil fuel? What is renewable energy and sustainable energy? How can we save energy?
4	Unit 5	Discussion on energy resources. Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy. Talk about SDGs.

5	Reading the speech on Severne Suzuki and questions on her speech.	Reading the speech of Severne Suzuki.
6	Speeches on Severne Suzuki and questions on her speech.	Speeches of Severne Suzuki.
7	Unit 6. Developing countries	What is happening in the developing countries. What can we do to help them.
8	Unit 6	Talk about the problems existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems.
9	Unit 6	Talk about the problems existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems
10	Unit 6	What is Village Concern trying to do? Why do you think Village Concern doing this.
11	Unit 7 Human Rights Prepare for the presentation	"What kind of right do we have? Can we exercise our rights on anything? Prepare for the presentation."
12	Unit 7 Prepare for the presentation	How do we feel about the following issues. Discuss the death penalty, know exactly how your tax money is spent, parents to use physical punishment at home, physical punishment at school and treatment towards ethnic minorities.
13	Presentation	Presentation
Test	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 2 hours a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)
David Peaty
Kinseido

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%。とする。なお60%以上を合格とする。欠席4回以上の場合は単位取得は不可である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various environmental problems happening around the world and to further gain knowledge on SDGs.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English on environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English. We will also focus on the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work (15%), presentation (15%) and test at the end of the term (70%).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。This course introduces reading and writing to students taking this course.

【到達目標】

英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。Students will learn how to paraphrase what they have read and then write in English a summary of and comments on what they have read. The goals of this course are to reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞き、学生に音読してもらい、内容について質問し答えてもらいます。

Students will attend seminar in English I class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
試験	試験を行う。	試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容と提出率で評価します。レポートでの評価 100 %、セメスター内で、4 回以上のレポート未提出をした場合には単位取得が不可能になります。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report 100 %.

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goals of this course are to reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports 100 %.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。This course introduces reading and writing to students taking this course.

【到達目標】

英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。

Students will learn how to paraphrase what they have read and then write in English a summary of and comments on what they have read. The goals of this course are to reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

Students will attend seminar in English I class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ 試験	ビデオを学習。 試験を行う。	ビデオ学習をする。 試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld（世界の主要国） 鳳書房 1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容と提出率で評価します。レポートでの評価 100 %、セメスター内で、4 回以上のレポート未提出をした場合には単位取得が不可能になります。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report 100 %.

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goals of this course are to reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports 100 %.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『進化するイギリス The Heart of Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】

テキストの読解や設問、確認テストを通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
- ④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『進化するイギリス The Heart of Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	Daniel Radcliffe
3	Unit 2	Should Heathrow Be Allowed to Expand?
4	Unit 3	The Olympic Legacy
5	Unit 4	Happy Birthday, London Underground!
6	Unit 5	A Snapshot of Britain
7	Unit 6	The King in the Car Park
8	Unit 7	Charity Ships
9	Unit 8	Ships and Bristol Fashion
10	Unit 9	Boomerang Kids
11	Unit 10	Book Clubs
12	英文講読	イギリスの社会に関連する内容
13	英文講読	イギリスの文化に関連する内容

14 期末試験・まとめ 今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, Atsushi Mukuhira『進化するイギリス The Heart of Britain』2014 年、成美堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【Outline (in English)】

Through reading stories in the textbook “The Heart of Britain” which consists of 20 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading, composition and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following : term-end exam 80%, exams for each unit and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『進化するイギリス The Heart of Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
- ④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『進化するイギリス The Heart of Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11	Let's Get a Pret!
2	Unit 12	Modern Scotland
3	Unit 13	Celebrating Jane Austen
4	Unit 14	Fortnum and Mason - Grocers to the Queen
5	Unit 15	You Can Expect Some Sunshine Later
6	Unit 16	The Welsh People
7	Unit 17	The London Theatre
8	Unit 18	The Diamond Queen
9	Unit 19	Banks and Bankers
10	Unit 20	Tea Time
11	英文講読	イギリスの政治に関連する内容
12	英文講読	イギリスの芸術に関連する内容
13	英文講読	イギリスの教育に関連する内容
14	復習と期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, Atsushi Mukuhira『進化するイギリス The Heart of Britain』2014 年、成美堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【Outline (in English)】

Through reading stories in the textbook “The Heart of Britain” which consists of 20 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading, composition and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following : term-end exam 80%, exams for each unit and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第 2 回	Listening 小テスト 1 Lesson 3 Higher Education	Ceremony 聴解 Can the Humanities be Saved? 英文読解、コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 Lesson 3 Higher Education	School Life 聴解 Can the Humanities be Saved? 語彙問題と Listening&Dictation
第 4 回	Listening 小テスト 3 Lesson 2 Social Psychology	Transportation 聴解 How Far Will People Go? 英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Outdoor Activities 聴解 How Far Will People Go? 語彙問題と Listening&Dictation
第 6 回	Listening 小テスト 5 Lesson 4 Musical Theater	Weather 聴解 Yellowface 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 Lesson 4 Musical Theater	Holiday Plans 聴解 Yellowface 語彙問題と Listening&Dictation

第 8 回	Listening 小テスト 7 Lesson 5 The Environment	Resort Area 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 Lesson 5 The Environment	Job Experience 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 語彙問題と Listening&Dictation
第 10 回	Listening 小テスト 9 環境問題の英文読解	Summer Sale 聴解 追加プリントによる英文読解
第 11 回	Listening 小テスト 10 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Restaurant 聴解 Not So Stupid After All 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Listening 小テスト 11 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Review Test1・2 聴解 Not So Stupid After All 語彙問題と Listening&Dictation
第 13 回	パラグラフ論理展開学習	Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するためには辞書で単語を調べながら英文を読んでくることが必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. 南雲堂

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening. 成美堂

【参考書】

特に指定しないが、必ず英和辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 6 0 %、平常点 4 0 %。平常点は授業参加度 1 0 %、リスニング小テスト平均点 1 0 %、Writing・和訳などの課題 2 0 % を原則とする。よって、評価点は試験 6 0 点、平常点 4 0 点の合計 1 0 0 点とし、6 0 % 以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

単語が難しいという意見をいただくことがあったが、英語圏の教養ある人が読むレベルの英文に触れてほしいので語彙力も大切だと理解していただきたい。教科書は語彙力強化も意図して作られているので、単語のまとめや問題も多い。これらだけを見ると非常に難度が高いと思いがちだが、Reading Passage はこのような単語ばかりでなく、なじみのある単語の中に難しいものが混じる程度である。授業は Reading Passage を読み進めるので、難しい単語だけのテストなどは実施しない。英文の中に出てきたものを理解できればよいために心配しなくてよい。

【Outline (in English)】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class and every student is required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs, which enables students to cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知ることのあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Restaurant 聴解 Mapping the Brain 英文読解、 コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Arts & Entertainment 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Sports Events 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Having a Party 聴解 No Shoot! 語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Health 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Christmas 聴解 The Reality of Virtual Reality 語彙問題と Listening&Dictation
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 10 Literature	Cleanup 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 英文読解、コメント Writing

第 8 回	Listening 小テスト 8 Lesson 10 Literature	Our Traditions & Customs 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 語彙問題と Listening&Dictation
第 9 回	Listening 小テスト 9 Lesson 11 Art Appreciation	Examinations 聴解 Accounting for Taste 英文読解、 コメント Writing
第 10 回	Listening 小テスト 10 Lesson 11 Art Appreciation	Housing 聴解 Accounting for Taste 語彙問題 と Listening&Dictation
第 11 回	Listening 小テスト 11 Lesson 12 Cybercrime	Review Test3・4 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コ メント Writing
第 12 回	Lesson 12 Cybercrime 英文エッセイの構成と 書き方	The Dark Tetrad 語彙問題と Listening&Dictation プリントによる説明
第 13 回	エッセイ論理展開学習	読んだものへの意見を述べる Essay Writing を通して英語長 文の論理展開を学ぶ
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するためには辞書で単語を調べながら英文を読んでいくことが必要。教科書にある **Listening&Dictation** 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。**Writing** も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. 南雲堂

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening. 成美堂

【参考書】

特に指定しないが、必ず英和辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、**Writing**・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

単語が難しいという意見をいただくことがあったが、英語圏の教養ある人が読むレベルの英文に触れてほしいので語彙力も大切だと理解していただきたい。教科書は語彙力強化も意図して作られているので、単語のまとめや問題も多い。これらだけを見ると非常に難度が高いと思いますが、**Reading Passage** はこのような単語ばかりでなく、なじみのある単語の中に難しいものが混じる程度である。授業は **Reading Passage** を読み進めるので、難しい単語だけのテストなどは実施しない。英文の中に出てきたものを理解できればよいため心配しなくてよい。

【Outline (in English)】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class and every student is required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs, which enables students to cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Chapter 1	Fake Online Reviews
第 3 回	Chapter 2	Could I Become a YouTuber?
第 4 回	Chapter 3	Selling Viral Videos Makes Big Money
第 5 回	Chapter 1 ~ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ~ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 4	Retro Video Games Become Popular Again
第 7 回	Chapter 5	Why Don't We Ask Siri?
第 8 回	Chapter 6	Uncanny Valley
第 9 回	Chapter 7	Toddlers and Technology
第 10 回	Chapter 4 ~ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ~ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 8	No More Game-Changing Technology?
第 12 回	Chapter 9	Waiting in Line for Delicious New Food
第 13 回	Chapter 10	Sympathy for the Delivery Man
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい! 社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Chapter 11	Black Friday
第 3 回	Chapter 12	Graduation Trips
第 4 回	Chapter 13	Aspects of Sneaker Culture
第 5 回	Chapter 11 ～ Chapter 13 の中 Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ～ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 14	The Union Jack as Fashion Symbol
第 7 回	Chapter 15	Trends in Fitness
第 8 回	Chapter 16	Smart Rings
第 9 回	Chapter 17	Photogenicity
第 10 回	Chapter 14 ～ Chapter 17 の中 Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ～ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 18	Stress Relief
第 12 回	Chapter 19	Young Women Turn to Gaming
第 13 回	Chapter 20	Young People and Criticism
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。

語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界の最近の動向についての文を読み、現代の問題を理解し、英語の読解力を養う。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

CD でテキストの音読を聞き、リピートすることから始め、理解できているか確認するために、アットランダムに学生を指し、教科書の英文を読み、日本語訳をしたり、口頭で問題に答えてもらう。課題を課す場合は、Hoppii (学習支援システム) に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキストの説明、辞書の使い方について説明する。学生さんたちには自己紹介を日本語でもらう。教科書はこの日までになるべく買っておいてください。
2	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong この日までに教科書を手に入れましょう。	日本の 100 円ショップ: 絶好調の理由について学ぶ。テキストの予習復習をする。
3	Unit 2 Work-Life Balance: Do it like the Germans	仕事と生活のバランス: ドイツ人を見習え。テキストの予習復習をする。
4	Unit 3 Lasting the Ages: Japan's 200-year-old companies	創業 200 年の日本企業について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5	Unit 4 Universal Basic Income: An idea whose time has come?	ユニバーサル・ベーシックインカムについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
6	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work	リモートワークについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
7	Unit 6 Tricks of the Trade: How companies get us to spend	商売の秘訣、企業はどのように私たちの購買意欲を刺激するか、について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	ゲーマーの秘密の生涯、自分の体から脱出した少年について学ぶ。テキストの予習復習をする。

9	Unit 8 Social Media: Big tech's addiction to addiction	ソーシャルメディア、依存させて利益を得るテクノロジー会社について学ぶ。テキストの予習復習をする。
10	Unit 9 Super Solos: Catering to Japan's singletons	日本の一人客の需要について学ぶ。テキストの予習復習をする。
11	Unit 10 Happiness: What is the secret?	幸福、秘訣は何かについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
12	Unit 11 Dialects: How English is spoken across the world	方言、英語は世界中でどのように話されているかについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
13	残りの Chapter で、学生が読みたい Chapter を読む-1	どのチャプターになるかは分からないので、明言できない。
14	まとめ	前期末テストを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。辞書を使ってリーディング部分を読み、問題を解いておいてください。

【テキスト (教科書)】

Dad Rear『Understanding the World Today』成美堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最後の授業の後に行う試験を 50%、通常点を 50% で計算します。課題の未提出 (もし実施した場合)、最後のテストの未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

テキスト

【Outline (in English)】

Through reading a text called *Understanding the World Today*, the object of this class is to develop English reading skills and understand today's issues.

Study the textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

The grade is given from the total of class activity 50% and the final exam 50%.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスの真実の姿を描いたテキストを読みながら、英語の読解力アップを目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

各授業で予習をしてきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。その後、各章の読解を確認する問題を解いていきます。課題を課す場合は、Hoppii に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	前期のテキストの続き、生徒が読みたい前期のテキストの残りの章から1章を読む。	前期のテキストの続き、内容は、前期に学生にアンケートをとって決める。後期のテキストを買っておく。
2 回目	Chapter 1 The Country of Diversity	イギリスの Diversity について学ぶ。テキストの予習復習をする。
3 回目	Chapter 2 England, Wales, Scotland, and Northern Ireland	United Kingdom を構成する 4 つの nations について学ぶ。テキストの予習復習をする。
4 回目	Chapter 3 The Power of the Commonwealth	コモンウェルスについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
5 回目	Chapter 4 The Birth of Cultural Studies in the UK	イギリスの文化の研究の誕生について学ぶ。テキストの予習復習をする。
6 回目	Chapter 5 The Languages of the UK	イギリスの様々な言語について学ぶ。テキストの予習復習をする。
7 回目	Chapter 6 The Development of Journalism in the UK	イギリスのジャーナリズムについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
8 回目	Chapter 7 The Vessel of Worldwide Art and Culture	イギリスの文化とアートの現状について学ぶ。テキストの予習復習をする。
9 回目	Chapter 8 The Relationship between Japan and the UK	日本とイギリスとの関係について学ぶ。テキストの予習復習をする。
10 回目	Chapter 9 The History of British Democracy	イギリスの民主主義の歴史について学ぶ。テキストの予習復習をする。

11 回目	Chapter 10 The British Debate about the Economy	イギリスの経済について学ぶ。テキストの予習復習をする。
12 回目	Chapter 11 With or Without God: The Development of the Natural Science	イギリスの自然科学の発展について学ぶ。テキストの予習復習をする。
13 回目	Chapter 12 The Country of Satire	イギリスの風刺について学ぶ。テキストの予習復習をする。
14 回目	復習 まとめ テスト	復習／まとめを行う。テストに備えて、学期内で行なった課の復習をしておく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。Warm-Up, Vocabulary-Building を辞書を活用して予習しておく。Reading Passage を辞書を活用して読め、かつ、訳せるように予習し、その後の問題で本文に出てきた単語の理解を深め、本文理解の質問に答えておく。

【テキスト（教科書）】

Noriyuki Harada, Andrew Houwen, Akira Morita 『Aspects of British Culture: Academic Approaches』 金星堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40%、最後のテストを 60% で計算します。最後のテスト未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

Through reading a textbook called *Aspects of British Culture: Academic Approaches*, the object of this class is to develop English reading skills and understand more about Britain. Study textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 40% and the final exam 60%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小学校、中学校、そして高校において英語に親しんできたと思われるが大学では一層と英語に親しみ文法、読解を中心とするのではなくコミュニケーションを図りながら英語を道具としてそれぞれの専門分野で生かしていけるようにして行きたい。

【到達目標】

英語で考えられるようにし英語で相手に伝わるようにして行きたい。まず短く簡単な英語でいいので自分の言いたいこと相手に伝えられるようにする。日常の様々なトピックについて自分の知識、経験、意見を口頭で表現していくことをプレゼンテーション、スピーチ、ディスカッションなどを通して練習していく。また聴く力も養っていききたいと思う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

温暖化、気候変動、絶滅危惧種、フードロスなど様々な私たちが地球にもたらした環境問題をどの様にして解決していけるか、解決できないまでもどの様にしたら減らしていけるかなどを意識して少しでも英語で発進していけるようにする。また前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。またそれぞれが興味のある環境問題に対してプレゼンテーションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	Introduction of the class. Introducing yourself by interacting with your partner in English.
2	Unit 1 Waste and Recycling	What is happening with our garbage? Think about how we are dealing with our garbage. How much garbage do we throw away each week. Are we doing anything for the environment?
3	Unit 1	What do you do with our garbage? What can we do with what we cannot throw away as garbage.
4	Unit 1	Role Play What can we do if our incinerator is old and emits dioxin. Also at the same time, the landfill is full. Think of a solution.
5	Unit 2 Endangered species	Why are some animals, plants, fish etc becoming extinct or endangered.

6	Unit 2	What are the reasons of the living creatures' extinction or they being endangered. think of how much Human being is playing a part in this and why.
7	Unit 2	Do you think endangered species should be protected? Discuss the pros and cons why they should be protected or not.
8	Unit 3 Rainforests	What is happening to the rainforests? Why are they important? Why are they being destroyed?
9	Unit 3	Discuss what should be done to save rainforests and why.
10	Unit 4 Global warming. Start preparing for the presentation	What are the causes of global warming? What is a presentation. The class will be divided into groups and each group will think of a theme connected to global warming. The presentation is 10-15 minutes. Explain the presentation using a power point.
11	Unit 4 Preparing for the presentation	What are the effects of global warming. What can we do to prevent global warming? Preparing for the presentation.
12	Unit 4 Preparing for the presentation	How do we deal with the problems of global warming. Preparing for the presentation.
13	Presentation	Presentation
14	Exam	Exam of what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 1 hour a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation."

【テキスト（教科書）】

You, Me and the World Second edition

David peaty

Kinseido

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。各学期欠席が4回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to widen their knowledge towards various global issues happening around them and to further gain knowledge on SDGs.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English on environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work (15%), presentation (15%) and test at the end of the term (70%).

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

北原 ルック 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一昨年 Greta Thunburg が世界ので環境問題に対して将来の危機に関して声を発進していました。私たちも彼女に見習い環境問題に取り組まなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていききたい。また1992年に Severne Suzuki がリオの会議で発表したものも読んでいききたいと思う。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行く。そして自分たちが何ができるかを探っていききたい。

【到達目標】

世界で起こっている環境問題ならびに様々な問題に深く取り組んで行く。開発途上国の抱える問題、先進国が与える影響などを考えていく。また環境問題に関して英語で話せるようにしていく。昨年は Greta Thunberg ならびに Severne Suzuki が世界ので環境問題に対して将来の危機に関して発進していた。私たちも彼女たちに見習い環境問題に取り組まなければならないと思われる。春学期で学んだことを基に秋学期では環境問題により一層深く取り組んで行き自分たちに何ができるかを探っていききたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンライン（リアルタイム配信型）です。すべての回を Zoom で実施します。

教科書である You, Me and the World を中心に授業を進めていく。教科書をよく読み環境問題に関しての問題を考える。教科書に入る前に簡単なリスニングをし耳を英語に慣らしていく。また授業の初めに毎回2～3人ずつ簡単なスピーチをしてもらう。教科書においてはそれぞれのユニットの課題、問題点などを考えていく。先進国の開発途上国への影響をかんがえる。また前の授業での復習をしながらフィードバックをして行く。

学期末にはそれぞれグループに分かれて10～15分のプレゼンテーションをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Presentation of the questionnaire during the summer holidays	Depending on how Covid 19 is. Presentation of the result of the questionnaire to the foreigners during the summer holidays.
2	Unit 5 Energy	Think about where energy comes from. Why do we use fossil energy?
3	Unit 5	Discussion on energy resources. Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.
4	Unit 5	Discussion on energy resources. Talk about the advantages and disadvantages on the production of energy.

5	Speech of Severne Suzuki.	Reading the speech Severne Suzuki.
6	Speeches of Severne Suzuki and questions.	Speeches of Suzuki. Discuss what you can do to send out a message to people with concrete ideas.
7	"Unit 6. Developing countries"	What is happening in the developing countries. What can we do to help them.
8	Unit 6	Talk about the problems existing in many developing countries. What are the basic facts, causes and solutions to these problems.
9	Unit 6	What is Village Concern trying to do? Why do you think Village Concern doing this.
10	Unit 7 Human rights Start preparing for a presentation	"What is human rights? Does everyone in the world have a human right? Start preparing for a presentation.
11	Unit 7 Prepare for the presentation	What kind of right do we have? Can we exercise our rights on anything? Prepare for the presentation.
12	Unit 7 Prepare for the presentation	How do we feel about the following issues. Discuss the death penalty, know exactly how your tax money is spent, parents to use physical punishment at home, physical punishment at school and treatment towards ethnic minorities.
13	Presentation	Presentation
14	Exam	Exam on what was studied during the semester.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The students are required to prepare and review 2 hours a week for each of the units including the preparation for a group discussion and a presentation.

【テキスト（教科書）】

You, Me and the World (Second edition)

David Peaty

Kinseido

【参考書】

NA

【成績評価の方法と基準】

成績の評価と方法については授業での平常点（5%）、ディスカッション（10%）、発表等15%、期末試験70% 計100%とする。なお60%以上を合格とする。

4回以上の欠席の場合は単位の取得は不可である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学で Zoom 授業を受ける際には マイク付きのヘッドセットが必要となります。

【Outline (in English)】

This class is to enhance the students to deepen their knowledge towards environmental problems and to continue to gain knowledge on SDGs.

Learning Objectives; The students are encouraged to speak in English as much as possible and to communicate with their classmates in English on environmental problems. Through discussion and presentation, students will share their ideas on various problems in English. We will also focus on the speeches of Greta Thunberg and Severne Suzuki.

Learning activities outside of class room: Although it is hard to communicate with foreigners under such circumstances with Covid 19, students are as much as possible try to communicate with foreigners.

Grading criteria/policy: Basically, the grades will be depended on class work (15%), presentation (15%) and test at the end of the term (70%).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。This course introduces reading and writing to students taking this course.

【到達目標】

英語の文章を正確に、かつ速読や精読など目的に応じた速度で読むことのできる力を養う。また、基本的な英文を書けるようにする。Students will learn how to paraphrase what they have read and then write in English a summary of and comments on what they have read. The goals of this course are to reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド（資料型）です。指示や課題を学習支援システムで配信します。授業のフィードバックの方法は、学習支援システムで行い、課題の解答をして解説します。

Students will attend seminar in English I class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
ガイダンス	1 年間の予定、授業の進め方などを説明する。	1 年間の授業の予定、進め方などを説明する。
Chapter 1	Growth and Development	Growth and Development の章を読み、内容を考える。
Chapter 2	Human Body / Sleep	Human Body / Sleep を学習する。
Chapter 3	Health and fitness / Allergies	Health and fitness / Allergies を学習する。
Chapter 4	Diseases (1)	Diseases (1) を学習する。
Chapter 5	Diseases (2)	Diseases (2) を学習する。
Chapter 6	Immunity / AIDS	Immunity / AIDS を学習する。
Chapter 7	Smoking / Cancer	Smoking / Cancer を学習する。
Chapter 8	Medicine	Medicine を学習する。
Chapter 9	Complementary medicine	Complementary medicine を学習する。
Chapter 10	First Aids / Doctors	First Aids / Doctors を学習する。
Chapter 11	Nightingale, Florence / Nurses	Nightingale, Florence / Nurses を学習する。
Chapter 12	Hospitals	Hospitals を学習する。
復習と試験	復習と試験を行う。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Life and Health（生活と健康）（鳳書房）1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English（桐原書店）

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容と提出率で評価します。レポートでの評価 100 %、セメスター内で、4 回以上のレポート未提出をした場合には単位取得が不可能になります。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report 100 %。

【学生の意見等からの気づき】

気力が感じられる授業を心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goals of this course are to reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports 100 %.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

小泉 和弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャンルを限定せず、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主としてテキスト上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行う。This course introduces reading and writing taking this course.

【到達目標】

英文を正しく、早く読めるようにする。また、基本的な英作文を出来るようにする。

Students will learn how to paraphrase what they have read and then write in English a summary of and comments on what they have read. The goals are this course to reading and writing.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

演習形式をとります。まず、CD を聞いて、学生に英文を読んでもらい、その文章に対して質問をし、学生はその答えをします。

Students will attend seminar in English I class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
Chapter 1	United Kingdom / England	United Kingdom / England を学習する。
Chapter 2	Germany (1)	Germany (1) を学習する。
Chapter 2	Germany (2)	Germany (2) を学習する。
Chapter 3	France (1)	France (1) を学習する。
Chapter 3	France (2)	France (2) を学習する。
Chapter 4	Italy	Italy を学習する。
Chapter 5	United States of America (1)	United States of America (1) を学習する。
Chapter 5	United States of America (2)	United States of America (2) を学習する。
Chapter 6	Canada	Canada を学習する。
Chapter 7	Russia	Russia を学習する。
Chapter 8	China	China を学習する。
Chapter 9	Japan	Japan を学習する。
ビデオ	ビデオを学習。	ビデオ学習をする。
復習と試験	復習と試験を行う。	試験・まとめと解説試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、音読と知らない単語を辞書で調べておくこと。授業後は、Ex.4 の 8 つの文は、重要なイディオムを含むので覚えること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Major Countries In The Woeld（世界の主要国） 鳳書房 1,800 円＋税

【参考書】

Longman Dictionary of Contemporary English 桐原書店

【成績評価の方法と基準】

レポートの内容と提出率で評価します。レポートでの評価 100 %、セメスター内で、4 回以上のレポート未提出をした場合には単位取得が不可能になります。

Your overall grade in the class will be decided based on the following Report 100 %.

【学生の意見等からの気づき】

気力を感じられる授業をするように心がけます。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces reading and writing to students taking this course. (Learning Objectives) The goals of this course are to reading and writing. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting. (Grading Criteria / Policies) Your overall grade in the class will be decided based on the following Reports 100 %.

LANe100LA	
English 1 - I	2017 年度以降入学者
吉江 秀和	
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 2/Mon.2	
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『進化するイギリス The Heart of Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】

テキストの読解や設問、確認テストを通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
- ④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『進化するイギリス The Heart of Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	予習のやり方や授業の進め方など、授業を受けるうえでの注意点の説明をします。
2	Unit 1	Daniel Radcliffe
3	Unit 2	Should Heathrow Be Allowed to Expand?
4	Unit 3	The Olympic Legacy
5	Unit 4	Happy Birthday, London Underground!
6	Unit 5	A Snapshot of Britain
7	Unit 6	The King in the Car Park
8	Unit 7	Charity Ships
9	Unit 8	Ships and Bristol Fashion
10	Unit 9	Boomerang Kids
11	Unit 10	Book Clubs
12	英文講読	イギリスの社会に関連する内容
13	英文講読	イギリスの文化に関連する内容

14	期末試験・まとめ	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説
----	----------	----------------------------------

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, Atsushi Mukuhira『進化するイギリス The Heart of Britain』2014 年、成美堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【Outline (in English)】

Through reading stories in the textbook “The Heart of Britain” which consists of 20 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading, composition and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following : term-end exam 80%, exams for each unit and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

吉江 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリスのさまざまな内容について英語で学ぶテキスト『進化するイギリス The Heart of Britain』の英文の精読と、内容に関連する問題を解くことで、包括的に英語学習をすすめていきます。その際に、英文の概訳ではなく、構文を意識した読解力を身につけていくとともに、関連する内容を確認することで英文をより深く理解する方策を身につけていきます。また、テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティングをおこないます。

【到達目標】

テキストの読解を通じて以下のことを目標とする。

- ①英文を読む際に構文を意識して一文ずつ丁寧に読むことを身につける。
- ②英文を確実に理解するための語彙や表現を覚えて、文法事項の理解を深める。
- ③リスニングを繰り返すことにより、英語の聞き取りの力をつける。
- ④テキストの設問や確認テストを通じて、英文のライティング力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキスト『進化するイギリス The Heart of Britain』を事前に精読し、その内容に関連するテキストの問題を解いてきてもらいます。その際に、予習の段階で構文の理解をより深めるための作業をしてもらいます。授業では、構文や英文内容理解の確認とともに、テキストの問題の答え合わせを指名しながらおこないます。実施した確認テストの採点・返却後、授業内で全体に対しておこなう解説、テストに記載された個々へのコメントや評価などのフィードバックや、自分で予習したものを活用して自分の理解度を確認して改めて復習をしてもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 11	Let's Get a Pret!
2	Unit 12	Modern Scotland
3	Unit 13	Celebrating Jane Austen
4	Unit 14	Fortnum and Mason - Grocers to the Queen
5	Unit 15	You Can Expect Some Sunshine Later
6	Unit 16	The Welsh People
7	Unit 17	The London Theatre
8	Unit 18	The Diamond Queen
9	Unit 19	Banks and Bankers
10	Unit 20	Tea Time
11	英文講読	イギリスの政治に関連する内容
12	英文講読	イギリスの芸術に関連する内容
13	英文講読	イギリスの教育に関連する内容
14	復習と期末試験	今まで学習してきた内容を期末試験で確認します。試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習をおこなってください。予習のやり方・提出については最初の授業で説明します。英文を単に訳すのではなく構文の読み取りを意識しておこない、授業中に発問された際に、できる限りスムーズに答えられるように準備をしてきてください。また、授業内では単なる英語に関する発問だけでなく、テキスト内容に関する追加的な発問もおこないますので、内容に関連する用語や背景などを自分で調べてきてください。

英文や言及していることについて予習の段階でわからないところがあるのは仕方ありませんが、それらも解決の糸口だけでも見つけられるように努力をしてください。その予習の状況も踏まえて平常点が付けられます。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

John H. Randle, Atsushi Mukuhira『進化するイギリス The Heart of Britain』2014 年、成美堂、1,900 円+税

【参考書】

必要な際には授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

確認テストや予習の状況などで判断する授業への取り組み（20%）と期末試験（80%）から総合的に評価。欠席が 4 回以上の場合は原則として単位取得資格を失うため、欠席回数に注意してください（欠席回数が 4 回に満たなくても欠席回数が多くなればその分、授業への取り組みの評価に影響します。また、予習が不十分であったり、授業への取り組みが芳しくなかったりする場合は、授業への出席とみなさない可能性があります）。また、期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失いますので注意願います。

【学生の意見等からの気づき】

構文や日本語訳などの確認についてはできる限り時間をかけておこなっていきます。

テキストの内容を理解するために、テキスト以外のものを参照する必要がある場合もあります。その際には、できる限りの情報を提示します。

【学生が準備すべき機器他】

辞書を必ず持参してください。

【Outline (in English)】

Through reading stories in the textbook “The Heart of Britain” which consists of 20 topics about Britain, students mainly study how to read the sentences correctly. When students read the sentences, they try to analyse sentence structures as precisely as possible. After completing each unit, students have an achievement test on reading comprehension, English compositions and analysing the sentences in the unit. At the end of the course, students will be expected to improve their proficiency in reading, composition and listening, and to have a wider vocabulary of English. Students will be expected to spend at least 1 hour to prepare and review lessons. Your overall grade in the class will be decided based on the following : term-end exam 80%, exams for each unit and in-class contribution, 20%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening, Active Reading と Critical Thinking について	Lesson 1 Language を解説しながら、テキスト構成、授業内容、評価等に関する説明を行う
第 2 回	Listening 小テスト 1 Lesson 3 Higher Education	Ceremony 聴解 Can the Humanities be Saved? 英文読解、コメント Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 Lesson 3 Higher Education	School Life 聴解 Can the Humanities be Saved? 語彙問題と Listening&Dictation
第 4 回	Listening 小テスト 3 Lesson 2 Social Psychology	Transportation 聴解 How Far Will People Go? 英文読解、コメント Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 Lesson 2 Social Psychology	Outdoor Activities 聴解 How Far Will People Go? 語彙問題と Listening&Dictation
第 6 回	Listening 小テスト 5 Lesson 4 Musical Theater	Weather 聴解 Yellowface 英文読解、コメント Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 Lesson 4 Musical Theater	Holiday Plans 聴解 Yellowface 語彙問題と Listening&Dictation

第 8 回	Listening 小テスト 7 Lesson 5 The Environment	Resort Area 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 英文読解、コメント Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 Lesson 5 The Environment	Job Experience 聴解 Meeting Mankind's Greatest Challenge 語彙問題と Listening&Dictation
第 10 回	Listening 小テスト 9 環境問題の英文読解	Summer Sale 聴解 追加プリントによる英文読解
第 11 回	Listening 小テスト 10 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Restaurant 聴解 Not So Stupid After All 英文読解、コメント Writing
第 12 回	Listening 小テスト 11 Lesson 6 Anthropology/Paleontology	Review Test1・2 聴解 Not So Stupid After All 語彙問題と Listening&Dictation
第 13 回	パラグラフ論理展開学習	Paragraph Writing を通して英語の論理展開を学ぶ
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分に理解するためには辞書で単語を調べながら英文を読んでくることが必要。教科書にある Listening&Dictation 問題音声は、インターネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。Writing も授業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal Arts and Humanities. 南雲堂

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening. 成美堂

【参考書】

特に指定しないが、必ず英和辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を持参すること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、Writing・和訳などの課題 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0 点となる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点がマイナスになる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

単語が難しいという意見をいただくことがあったが、英語圏の教養ある人が読むレベルの英文に触れてほしいので語彙力も大切だと理解していただきたい。教科書は語彙力強化も意図して作られているので、単語のまとめや問題も多い。これらだけを見ると非常に難度が高いと思いがちだが、Reading Passage はこのような単語ばかりでなく、なじみのある単語の中に難しいものが混じる程度である。授業は Reading Passage を読み進めるので、難しい単語だけのテストなどは実施しない。英文の中に出てきたものを理解できればよいため心配しなくてよい。

【Outline (in English)】

This class focuses on reading of academic English essays. The genre of topics of these essays are various such as language, social psychology, higher education, the environment, neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are based on the interest or a problem of our present day society. Each essay has around eight hundred words, is written in a high level of academic and literate English which has a complex sentence structure and syntax, and includes difficult vocabulary. Reading these essays enables students to have both active reading and critical thinking skill and they can acquire English proficiency sufficient as a university student. Additionally, writing a comment is another important task of this class and every student is required to write a comment in English after reading every essay. Beginning from writing a short paragraph, the final goal is writing an essay composed of more than at least three paragraphs, which enables students to cultivate academic writing skill enough to write a short report in the future. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会のさまざまなトピックに関するアカデミックな英文 Essay 読解を通して Active Reading と Critical-thinking のスキルを身につけ、大学生に必要な英語力を養成する。

【到達目標】

800 語程度の英文 Essay を読み、アカデミックな現代英語の論理展開や書き方を知る。テキスト英文は標準的な構文・文法にのっとり、大学生として知る必要のあるメディアや学問レベルの語彙を使って書かれているので、これを読むことで望ましい英語の文体が身に付き、ヴォキャブラリー強化ができる。語彙問題や内容理解のための設問も豊富なので、問題を解きながら正しく内容を捉える。また、Listening&Dictation 問題を通して音声による英語を理解する。読解内容に対して英語でコメントを書くが、まずは 1 パラグラフの要約やショートコメントから始め、複数パラグラフによる英文 Essay 形式で自分の考えを述べることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

毎回授業初めにリスニング小テストを行い、その後に読解に入る。英文の音読・日本語訳、語彙・内容把握問題を課すので、必ずこなすこと。英文読解後は関連する内容の Listening&Dictation を行う。また、要約やコメントの英文 Writing を随時行い、添削指導する。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Listening 小テスト 1 Lesson 7 Neuroscience	Restaurant 聴解 Mapping the Brain 英文読解、 コメント Writing
第 2 回	Listening 小テスト 2 Lesson 7 Neuroscience	Arts & Entertainment 聴解 Mapping the Brain 語彙問題と Listening&Dictation
第 3 回	Listening 小テスト 3 Lesson 8 Military History	Sports Events 聴解 No Shoot! 英文読解、コメント Writing
第 4 回	Listening 小テスト 4 Lesson 8 Military History	Having a Party 聴解 No Shoot! 語彙問題と Listening&Dictation
第 5 回	Listening 小テスト 5 Lesson 9 Technology	Health 聴解 The Reality of Virtual Reality 英文読解、コメント Writing
第 6 回	Listening 小テスト 6 Lesson 9 Technology	Christmas 聴解 The Reality of Virtual Reality 語彙問題と Listening&Dictation
第 7 回	Listening 小テスト 7 Lesson 10 Literature	Cleanup 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 英文読解、コメント Writing

第 8 回	Listening 小テスト 8 Lesson 10 Literature	Our Traditions & Customs 聴解 The Man Who Re-invented Christmas 語彙問題と Listening&Dictation
第 9 回	Listening 小テスト 9 Lesson 11 Art Appreciation	Examinations 聴解 Accounting for Taste 英文読解、 コメント Writing
第 10 回	Listening 小テスト 10 Lesson 11 Art Appreciation	Housing 聴解 Accounting for Taste 語彙問題 と Listening&Dictation
第 11 回	Listening 小テスト 11 Lesson 12 Cybercrime	Review Test3・4 聴解 The Dark Tetrad 英文読解、コ メント Writing
第 12 回	Lesson 12 Cybercrime 英文エッセイの構成と 書き方	The Dark Tetrad 語彙問題と Listening&Dictation プリントによる説明
第 13 回	エッセイ論理展開学習	読んだものへの意見を述べる Essay Writing を通して英語長 文の論理展開を学ぶ
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should
be around an hour a week for a one-credit course.

テキスト英文は全員参加で読んでいく。また、テキスト英文の構文
は難解というわけではないが、語彙はレベルが高く、授業内容を十分
に理解するためには辞書で単語を調べながら英文を読んでることが
必要。教科書にある **Listening&Dictation** 問題音声は、インター
ネット上でダウンロードし、事前に聴くことができる。なお、リス
ニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。**Writing** も授
業中に行うため自宅に持ち帰る必要はない。

【テキスト（教科書）】

Readers' Forum 3 ACTIVE ENGLISH: Readings in the Liberal
Arts and Humanities. 南雲堂

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening. 成美堂

【参考書】

特に指定しないが、必ず英和辞書を使うこと。授業にも毎回辞書を
持参すること。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リス
ニング小テスト平均点 10%、**Writing**・和訳などの課題 20%を
原則とする。よって、評価点は試験 60点、平常点 40点の合計 1
00点とし、60%以上の得点で合格。授業初めのリスニング小テ
スト終了後は遅刻と認めず欠席とし、リスニング小テストも 0点と
なる。課題を遂行しない、担当があるのに無断欠席などは課題点が
マイナスになる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得
の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課
題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課
題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠
席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨して
おり、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

単語が難しいという意見をいただくことがあったが、英語圏の教養
ある人が読むレベルの英文に触れてほしいので語彙力も大切だと理
解していただきたい。教科書は語彙力強化も意図して作られている
ので、単語のまとめや問題も多い。これらだけを見ると非常に難度
が高いと思いますが、**Reading Passage** はこのような単語ばかり
でなく、なじみのある単語の中に難しいものが混じる程度である。
授業は **Reading Passage** を読み進めるので、難しい単語だけのテ
ストなどは実施しない。英文の中に出てきたものを理解できればよ
いため心配しなくてよい。

【Outline (in English)】

This class focuses on reading of academic English essays.
The genre of topics of these essays are various such as lan-
guage, social psychology, higher education, the environment,
neuroscience, technology, cybercrime, and so on, which are
based on the interest or a problem of our present day society.
Each essay has around eight hundred words, is written in
a high level of academic and literate English which has a
complex sentence structure and syntax, and includes difficult
vocabulary. Reading these essays enables students to have
both active reading and critical thinking skill and they can
acquire English proficiency sufficient as a university student.
Additionally, writing a comment is another important task of
this class and every student is required to write a comment in
English after reading every essay. Beginning from writing a
short paragraph, the final goal is writing an essay composed of
more than at least three paragraphs, which enables students to
cultivate academic writing skill enough to write a short report
in the future. The required study time is at least one hour
for each class meeting. Before each class meeting, students
will be expected to have read the relevant part from the text.
However, they need not to prepare for the listening-mini test
and all the writing tasks are performed only in class. Every
student's overall grade in the class will be decided based on
the following: Term-end examination 60%, mini-listening test
average score 10%, writing score 10%, and in class contribution
20%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明
第 2 回	Chapter 1	Fake Online Reviews
第 3 回	Chapter 2	Could I Become a YouTuber?
第 4 回	Chapter 3	Selling Viral Videos Makes Big Money
第 5 回	Chapter 1 ~ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ~ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 4	Retro Video Games Become Popular Again
第 7 回	Chapter 5	Why Don't We Ask Siri?
第 8 回	Chapter 6	Uncanny Valley
第 9 回	Chapter 7	Toddlers and Technology
第 10 回	Chapter 4 ~ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ~ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 8	No More Game-Changing Technology?
第 12 回	Chapter 9	Waiting in Line for Delicious New Food
第 13 回	Chapter 10	Sympathy for the Delivery Man
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。
語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。
語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい! 社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))
配布プリントで授業を行うことがある。
英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。
4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。
授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。
スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson. Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),
Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「科学技術」・「旅行」・「ファッション」・「流行」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。春学期よりも量を重視し、速読演習も取り入れる。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力、文法力を高めることを目指す。
2. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
3. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。
4. 授業内での発表を通して、自分の意見を聞き手に伝えるプレゼンテーション能力の基礎を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。単語・熟語・文法・文章構造等を確認しながら、英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。語彙表現の小テストを実施するので、語彙の定着のために、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出および授業内で発表をする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。授業内での発表については、授業内でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	パラグラフ・リーディングと速読演習
第 2 回	Chapter 11	Black Friday
第 3 回	Chapter 12	Graduation Trips
第 4 回	Chapter 13	Aspects of Sneaker Culture
第 5 回	Chapter 11 ～ Chapter 13 の中 Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ～ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 6 回	Chapter 14	The Union Jack as Fashion Symbol
第 7 回	Chapter 15	Trends in Fitness
第 8 回	Chapter 16	Smart Rings
第 9 回	Chapter 17	Photogenicity
第 10 回	Chapter 14 ～ Chapter 17 の中 Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ～ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 18	Stress Relief
第 12 回	Chapter 19	Young Women Turn to Gaming
第 13 回	Chapter 20	Young People and Criticism
第 14 回	学期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。

語彙表現の復習小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Trend Watching 2 (『もっと知りたい！社会のいま 2』) (Jonathan Lynch 他著、成美堂、1,900 円 (税別))

配布プリントで授業を行うことがある。

英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書でも紙媒体でも可）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出と発表を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や、授業中の不適切な態度によっては、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

学生が自分の意見を述べる手段や発表する機会を、授業内に多めに取り入れていきたいと思う。クラス内で、意見を共有する場を設ける。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence.

Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions
5. Learn basic skills of presentation.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の最近の動向についての文を読み、現代の問題を理解し、英語の読解力を養う。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

CD でテキストの音読を聞き、リピートすることから始め、理解できているか確認するために、アットランダムに学生を指し、教科書の英文を読み、日本語訳をしたり、口頭で問題に答えてもらう。課題を課す場合は、Hoppii（学習支援システム）に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキストの説明、辞書の使い方について説明する。学生さんたちには自己紹介を日本語でしてもらう。教科書はこの日までになるべく買っておいてください。
2	Chapter 1 I Don't Know What to Believe この日までに教科書を手に入れましょう。	オンラインの嘘について学ぶ。テキストの予習復習をする。
3	Chapter 2 It's a Hikikomori World	引きこもりについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
4	Chapter 3 Not Just for Fun	遊びやゲームの重要性について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5	Chapter 4 See It While You Can	Over-Tourism について学ぶ。テキストの予習復習をする。
6	Chapter 5 The World's Greatest Gamers	E-スポーツについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
7	Chapter 6 3D-Printed Limbs and Robot Doctors	医療技術の進歩について学ぶ。テキストの予習復習をする。
8	Chapter 7 Fake Burgers and Electric Gum	新しい食品、食品の未来像について学ぶ。テキストの予習復習をする。
9	Chapter 8 The Sports Space Race	スポーツにおける科学の役割について学ぶ。テキストの予習復習をする。
10	Chapter 9 Turn Out the Lights	光汚染について学ぶ。テキストの予習復習をする。
11	Chapter 10 It's Good to Be Grumpy	不機嫌な気分の大切さについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
12	Chapter 11 A Full Working Week	どのくらい就労するべきかについて学ぶ。テキストの予習復習をする。

13 残りの Chapter で、どのチャプターになるかは分からないので、明言できない。

Chapter を読む-1

14 まとめ 前期末テスト。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの Reading の部分を、辞書を使って予習し、問題を解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

Anthony Sellick, James Bury & Kaori Horiuchi 『Grand Tour: Seeing the World』成美堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最後の授業の後に行うテストを 60%、通常点を 40% で計算します。もし課題を課した場合、課題の未提出、最後のテストの未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

テキスト

【Outline (in English)】

Through reading a textbook called *Grand Tour: Seeing the World*, the object of this class is to develop English reading skills and to understand more about today's issues. Study textbook, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 40% and the final exam 60%.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の会社を取り上げた 15 章のテキストを読みながら、英語の読解力アップを目指す。

【到達目標】

本授業の到達目標は、受講生が、英語を正しく発音し、英文の内容を日本語できちんと理解できる力を身につけることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

各授業で予習してきたことを確認するため、英文を正しく声を出して読み、日本語に訳すという作業を、順不同に学生を差してやってもらい、難しい箇所は説明を加えていきます。その後、各章の読解を確認する問題を解いていきます。課題を課す場合は、Hoppii に提出してもらい、フィードバックとして、Hoppii より返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	前期のテキストの続き、生徒が読みたい前期のテキストの残りの章から 1 章を読む。	前期のテキストの続き、内容は、前期に学生にアンケートをとって決める。後期のテキストを買っておく。
2 回目	Chapter 1 インテル株式会社	世界最大の共同=協働マーケティングを立ち上げたインテルについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
3 回目	Chapter 2 日本コカ・コーラ株式会社	新しい価値を創造し変化をもたらす日本コカ・コーラについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
4 回目	Chapter 3 シャネル株式会社、パルファン・クリスチャン・ディオール・ジャボン株式会社	日本の消費者に向けたブランド構築をしてきた 2 つの化粧品会社について学ぶ。テキストの予習復習をする。
5 回目	Chapter 4 サッポロビール株式会社	技術経営で大企業に変革を起こすサッポロビールについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
6 回目	Chapter 5 株式会社良品計画	時代をリードするブランドの再生について、株式会社良品計画を通して学ぶ。テキストの予習復習をする。
7 回目	Chapter 6 インテル株式会社	アメリカ本社との交渉先述で日本の品質管理を世界標準にしたインテルについて学ぶ。テキストの予習復習をする。
8 回目	Chapter 7 JR 九州高速船株式会社	困難なビジネスを長期的展望で黒字化した JR 九州高速船株式会社について学ぶ。テキストの予習復習をする。
9 回目	Chapter 8 株式会社資生堂	中国人のためのブランド作りと企業活動について株式会社資生堂を通じて学ぶ。テキストの予習復習をする。

10 回目	Chapter 9 株式会社東芝	新興国の開拓者について株式会社東芝を通じて学ぶ。テキストの予習復習をする。
11 回目	Chapter 10 インテル株式会社	日本の消費者に伝わるコミュニケーション戦略についてインテルを通して学ぶ。テキストの予習復習をする。
12 回目	Chapter 11 株式会社明月堂	地域密着ブランドで全国ブランドに対抗する株式会社明月堂について学ぶ。テキストの予習復習をする。
13 回目	Chapter 12 株式会社良品計画	ブランド・アイデンティティの持続とグローバルビジネス戦略について株式会社良品計画を通して学ぶ。テキストの予習復習をする。
14 回目	復習 まとめ テスト	復習／まとめを行う。テストに備えて、学期内で行なった課の復習をしておく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。Vocabulary を辞書を活用して予習し、授業中に Listening を CD を聴きながら穴埋めし、Reading を辞書を活用して読め、かつ、訳せるように予習し、Reading の後の質問に答えておく。

【テキスト（教科書）】

Yasuo Nakatani/ Ryan Smithers『Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan (2nd revised edition)』金星堂

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点を 40%、最後のテストを 60% で計算します。最後のテスト未受験、欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

Through reading a textbook called *Global Leadership: Case Studies of Business Leaders in Japan, 2nd Revised Edition*, the object of this class is to develop English reading skills and understand more about each Japanese company, especially each reading section, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 40% and the final exam 60%.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

幅広いトピックの多読と多聴を行います。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプット (reading and listening) をアウトプット (speaking and writing) に接続していきます

【到達目標】

- 1 多様なトピックのニュースを正確に聞き取ることができるようになること
- 2 テキストを正確に理解し分析できるようになること
- 3 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- (1) Reading: paragraph reading
 - (2) Listening: listening to mini-talks and global news
 - (3) Writing: summary and paragraph writing
 - (4) Speaking: preparation for presentation
- Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパーに対するフィードバックを行います)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1 Course Orientation	1 Explaining the course 2 Reading and listening practices
2	2 Understanding Issue: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks	1 Reading paragraphs on SNS 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
3	Understanding Issue: Eco or Ego?	1 Reading paragraphs on eco-friendliness 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
4	Understanding Issue: Clean Energy or Potential Threat?	1 Reading paragraphs on restoring nuclear power generation 2 Listening practice
5	Understanding Issue: Press freedom	1 Reading paragraphs on Press freedom 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas

6	Understanding Issue: Democracy	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
7	Learning Academic Writing (1)	1 Rewriting sentences 2 Listening practice
8	Learning Academic Writing (2)	1 Writing an effective summary 2 Listening practice
9	Understanding Issue: International Society	1 Reading paragraphs on International Society 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Larger Budget for Education	1 Reading paragraphs on Education Budget 2 Writing paragraphs on Education Budget
11	Learning basic presentation skills	1 Making a Presentation on Education Budget
12	Understanding Issue: Casinos	1 Reading paragraphs on legalizing Casinos 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
13	Understanding Issue: Globalization	1 Reading paragraphs on Globalization 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
14	Review and Test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly reading, listening or writing home assignments
- 2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト (教科書)】

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Cengage Learning)

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Final test (40%)
Home assignment (30%)
In-class contribution (30%)
In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (春学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I hope your enthusiastic participation will make each session exciting and of high quality.
みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうあることを期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

This advanced English class is for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. Students will learn skills in paragraph reading, news listening and well-structured writing. The goal is for students to be able to listen to news on a range of topics, to read multi-paragraph passages with accuracy and to write a well-structured paragraph about their own opinions. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (40%), the home assignment (30%) and the in-class contribution (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オーセンティック・マテリアルをより実践的に多読多聴します。「英語を読み聴く」「英語で考え発信する」へと発展させていくことを目的とします（Learning four skills of reading, listening, speaking and writing）

【到達目標】

- 1 多様なトピックを「英語で」学ぶことができるようになること
- 2 学んだトピックについての意見のやりとりを正確に聞き取ることができるようになること
- 3 学んだトピックについて論理的構成を持つエッセイが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- (1) Reading: paragraph reading
- (2) Listening: listening to mini-talks and global news
- (3) Writing: summary and paragraph writing
- (4) Speaking: preparation for presentation

Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパーに対するフィードバックを行います)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Understanding Issue	1 Explaining the course of this semester 2 Reading and Listening practices
2	Understanding Issue: Humans or AI?	1 Reading paragraphs on AI 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
3	Understanding Issue: A Brief History of Human Rights	1 Reading paragraphs on Human Rights 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
4	Understanding Issue: What is the Universal Declaration of Human Rights	1 Reading paragraphs on the Universal Declaration of Human Rights 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
5	Understanding Issue: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness?	1 Reading paragraphs on Homelessness 2 Paragraph Writing 3 Writing and speaking your ideas
6	Intensive Listening Practice: TED	1 Listening practice 3 Reading paragraphs on Hostile Architecture

7	Understanding Issue: Open Borders or Closed Societies?	1 Reading paragraphs on immigration policy 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
8	Learning Academic Writing (1)	1 Writing an agree or disagree essay 2 Listening practice
9	Learning Academic Writing (2)	1 peer editing 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Military Expenditures	1 Reading paragraphs on Military Expenditures 2 Listening practice
11	Understanding Issue: International Competitiveness	1 Reading paragraphs on International Competitiveness 2 Listening practice
12	Understanding Issue: What Makes a Nation Prosperous	1 Reading paragraphs on HDI and LPI 2 Listening practice
13	Understanding Issue: Direct or Indirect Taxes?"	1 Reading paragraphs on Tax Hikes 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
14	Review and test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

1 Weekly reading, listening, or writing home assignments

2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Cengage Learning)

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Final test (30%)

Essay Writing (20%)

Home assignment (20%)

In-class contribution (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (秋学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' support and encouragement will help to keep you motivated.

だんだんハードになってくると思いますが、励ましあいながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

This is an English class for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will learn about a wide range of topics through reading and listening to authentic materials. Students will also learn to write essays. The goal is for students to be able to understand a given topic through English, to accurately listen to arguments for and against the topic, and to write a well-structured essay. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (30%), the essay writing (20%), the home assignment (20%) and the in-class contribution (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 - I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

幅広いトピックの多読と多聴を行います。さらに、アカデミック・ライティングの基礎を学び、インプット（reading and listening）をアウトプット（speaking and writing）に接続していきます

【到達目標】

1 多様なトピックのニュースを正確に聞き取ることができるようになること

2 テキストを正確に理解し分析できるようになること

3 理解した内容についての要約と各自の意見を英語で書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

(1) Reading: paragraph reading

(2) Listening: listening to mini-talks and global news

(3) Writing: summary and paragraph writing

(4) Speaking: preparation for presentation

Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパーに対するフィードバックを行います)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1 Course Orientation 2 Understanding Issue	1 Explaining the course 2 Reading and listening practices
2	Understanding Issue: Staying Connected with Friends or Being Exposed to Risks	1 Reading paragraphs on SNS 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
3	Understanding Issue: Eco or Ego?	1 Reading paragraphs on eco-friendliness 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
4	Understanding Issue: Clean Energy or Potential Threat?	1 Reading paragraphs on restoring nuclear power generation 2 Listening practice
5	Understanding Issue: Press freedom	1 Reading paragraphs on Press freedom 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas

6	Understanding Issue: Democracy	1 Reading paragraphs on democracy 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
7	Learning Academic Writing (1)	1 Rewriting sentences 2 Listening practice
8	Learning Academic Writing (2)	1 Writing an effective summary 2 Listening practice
9	Understanding Issue: International Society	1 Reading paragraphs on International Society 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Larger Budget for Education	1 Reading paragraphs on Education Budget 2 Writing paragraphs on Education Budget
11	Learning basic presentation skills	1 Making a Presentation on Education Budget
12	Understanding Issue: Casinos	1 Reading paragraphs on legalizing Casinos 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
13	Understanding Issue: Globalization	1 Reading paragraphs on Globalization 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
14	Review and Test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course（本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします）

- 1 Weekly reading, listening or writing home assignments
- 2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト（教科書）】

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Cengage Learning)

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Final test (40%)

Home assignment (30%)

In-class contribution (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed（春学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない）

【学生の意見等からの気づき】

I hope your enthusiastic participation will make each session exciting and of high quality.

みなさんの積極的授業参加が授業の質を高めてきたと実感しています。本年度の授業もそうあることを期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii（学習支援システム）

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

This advanced English class is for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. Students will learn skills in paragraph reading, news listening and well-structured writing. The goal is for students to be able to listen to news on a range of topics, to read multi-paragraph passages with accuracy and to write a well-structured paragraph about their own opinions. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (40%), the home assignment (30%) and the in-class contribution (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 1 - II

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オーセンティック・マテリアルをより実践的に多読多聴します。「英語を読み聴く」「英語で考え発信する」へと発展させていくことを目的とします (Learning four skills of reading, listening, speaking and writing)

【到達目標】

- 1 多様なトピックを「英語で」学ぶことができるようになること
- 2 学んだトピックについての意見のやりとりを正確に聞き取ることができるようになること
- 3 学んだトピックについて論理的構成を持つエッセイが書けるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing:

- (1) Reading: paragraph reading
- (2) Listening: listening to mini-talks and global news
- (3) Writing: summary and paragraph writing
- (4) Speaking: preparation for presentation

Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やりアクションペーパーに対するフィードバックを行います)

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Understanding Issue	1 Explaining the course of this semester 2 Reading and Listening practices
2	Understanding Issue: Humans or AI?	1 Reading paragraphs on AI 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
3	Understanding Issue: A Brief History of Human Rights	1 Reading paragraphs on Human Rights 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
4	Understanding Issue: What is the Universal Declaration of Human Rights	1 Reading paragraphs on the Universal Declaration of Human Rights 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
5	Understanding Issue: Are the Homeless Responsible for Their Homelessness?	1 Reading paragraphs on Homelessness 2 Paragraph Writing 3 Writing and speaking your ideas
6	Intensive Listening Practice: TED	1 Listening practice 3 Reading paragraphs on Hostile Architecture

7	Understanding Issue: Open Borders or Closed Societies?	1 Reading paragraphs on immigration policy 2 Listening practice 3 Writing and speaking your ideas
8	Learning Academic Writing (1)	1 Writing an agree or disagree essay 2 Listening practice
9	Learning Academic Writing (2)	1 peer editing 2 Listening practice
10	Understanding Issue: Military Expenditures	1 Reading paragraphs on Military Expenditures 2 Listening practice
11	Understanding Issue: International Competitiveness	1 Reading paragraphs on International Competitiveness 2 Listening practice
12	Understanding Issue: What Makes a Nation Prosperous	1 Reading paragraphs on HDI and LPI 2 Listening practice
13	Understanding Issue: Direct or Indirect Taxes?"	1 Reading paragraphs on Tax Hikes 2 Listening practice 3 Exchanging your ideas
14	Review and test	Reviewing topics and test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly reading, listening, or writing home assignments
- 2 Weekly reading aloud and speaking practicing

【テキスト (教科書)】

Take a Stance: Discussing Today's Controversial Issues 2 (Cengage Learning)

【参考書】

Provided during sessions

【成績評価の方法と基準】

Final test (30%)

Essay Writing (20%)

Home assignment (20%)

In-class contribution (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed (秋学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

Your classmates' support and encouragement will help to keep you motivated.

だんだんハードになってくと思いますが、励ましあいながらさらなるレベルアップを図りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

This is an English class for learning four skills of reading, listening, speaking and writing. You will learn about a wide range of topics through reading and listening to authentic materials. Students will also learn to write essays. The goal is for students to be able to understand a given topic through English, to accurately listen to arguments for and against the topic, and to write a well-structured essay. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (30%), the essay writing (20%), the home assignment (20%) and the in-class contribution (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするできるようになります。そして、単に人前で話すだけでなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション：シラバスに基づく講義内容を説明する。 クラスメートにインタビューし、それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰かを考えて、その理由などをまとめてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションの原稿を書く。

第 6 回	プレゼンテーション	各自が尊敬する人・好きな人に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 7 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 8 回	ツアー・休暇の過ごし方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや休暇の過ごし方を考え、話し合う。
第 9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション原稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案するプレゼンテーションの原稿を作成する。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がツアーや休暇の過ごし方に関するプレゼンテーションをするだけでなく、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、良いところと、改善できるところをまとめる。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. Specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation. Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.

In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

到達目標 (Learning Objectives)

1: The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 20%, Presentations : 50%, in class contribution: 20%, assignments: 10%

LANe100LA

English 2- II

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション: シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタビューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。

第 4 回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 5 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 6 回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第 7 回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 8 回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 9 回	英会話（会話）	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 10 回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第 11 回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 13 回	英会話（会話とリスニング）	クラスメートとともに大学のキャンパスで使う英会話を行う。また、同様の内容の英会話のリスニングを行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation. First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation. Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.

In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

到達目標 (Learning Objectives)

1:The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 20%、Presentations : 50%、in class contribution: 20%、assignments: 10%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SDGs に焦点を絞った教科書用の英語ニュースの映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。持続可能性に関わる各テーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

- ・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
- ・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

授業 1 回でひとつの Unit(Goal) を学習する。Unit の内容に関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。スピーキング用のスクリプトやパワーポイント資料は、作成方法の指導、添削指導を授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Goal 1 貧困をなくそう	・ Exercises ・ ディクテーション課題 1 ・ 単語練習 1
3	Goal 2 飢餓をゼロに	・ Exercises
4	Goal 3 すべての人に健康と福祉を	・ Exercises ・ ディクテーション課題 2 ・ 単語練習 2
5	Goal 4 質の高い教育をみんなに	・ Exercises ・ プレゼンテーションの方法と心構え
	プレゼンテーション 1 「環境のために気をつけていること」	
6	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーションの準備 ・ ディクテーション課題 3 ・ 単語練習 3
7	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーション本番 1
8	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーション本番 2 ・ ディクテーション課題 4

9	Goal 5 ジェンダー平等を実現しよう	・ Exercises
10	Goal 6 安全な水とトイレを世界中に	・ Exercises ・ ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ 単語テスト ・ プレゼンテーションの準備 1
12	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーションの準備 2 ・ ディクテーション課題 6
13	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit(Goal) のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声 (授業内に指示する) で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト (教科書)】

『大学生のための CNN ニュース・リスニング: SDGs 編』、朝日出版社、2022 年、1200 円 (税別)

【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円 (税別) (以下の URL で無料でダウンロードできる音声ファイルが付属している。http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963)

・綿貫陽、マーク・ピーターセン (共著)、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円 (税込)

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円 (税別) その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業のパフォーマンス 30 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 35%

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイムオンライン授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、マイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news on SDGs are the main learning materials. You are required to form your opinions about the topics on sustainability and to speak them out in English.

Objectives

- Ability to listen to English on current issues

- Ability to form your arguments about them and make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. Each unit (goal) in the text contains exercises; you are required to solve them before coming to a class: as your homework. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%

- Vocabulary test 10%

- Presentation assignments 35%

- Other assignments 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2- II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs に焦点を絞った教科書用の英語ニュースの映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。持続可能性に関わる各テーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。

・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

授業 1 回でひとつの Unit(Goal) を学習する。Unit の内容に関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。スピーキング用のスクリプトやパワーポイント資料は、作成方法の指導、添削指導を授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの確認	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての確認。テキストの確認。
2	Goal 7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに。	・ Exercises ・ ディクテーション課題 1 ・ 単語練習 1
3	Goal 8 働きがいも経済成長も	・ Exercises
4	Goal 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	・ Exercises ・ ディクテーション課題 2 ・ 単語練習 2
5	Goal 10 人や国の不平等をなくそう	・ Exercises ・ プレゼンテーションの方法と心構え（復習）
	プレゼンテーション課題 1「環境問題に関する重要な発明」	
6	プレゼンテーション課題 1「環境問題に関する重要な発明」	・ プレゼンテーションの準備 ・ ディクテーション課題 3 ・ 単語練習 3
7	プレゼンテーション課題 1「環境問題に関する重要な発明」	・ プレゼンテーション本番 1
8	プレゼンテーション課題 1「環境問題に関する重要な発明」	・ プレゼンテーション本番 2 ・ ディクテーション課題 4

9	Goal 11 住み続けられるまちづくりを	・ Exercises
10	Goal 12 つくる責任、つかう責任	・ Exercises ・ ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション課題 2 「再生可能エネルギーの企業」	・ 単語テスト ・ プレゼンテーションの準備 1
12	プレゼンテーション課題 2 「再生可能エネルギーの企業」	・ プレゼンテーションの準備 2 ・ ディクテーション課題 6
13	プレゼンテーション課題 2 「再生可能エネルギーの企業」	・ プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2 「再生可能エネルギーの企業」	・ プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit(Goal) のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『大学生のための CNN ニュース・リスニング：SDGs 編』、朝日出版社、2022 年、1200 円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 ー大学生のためのトピック別必修英単語ー』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業のパフォーマンス 30 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持つてくる。

【Outline (in English)】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news on SDGs are the main learning materials. You are required to form your opinions about the topics on sustainability and to speak them out in English.

Objectives

- Ability to listen to English on current issues
- Ability to form your arguments about them and make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. Each unit (goal) in the text contains exercises; you are required to solve them before coming to a class: as your homework. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Vocabulary test 10%
- Presentation assignments 35%
- Other assignments 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA	
English 2 - I	2017 年度以降入学者
大曲 陽子	
開講時期：春学期授業/Spring	曜日・時限：木 2/Thu.2
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2022 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（資料配布型）とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では各自ニュースの音声聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、Definition で学習した語彙で Examples を完成させる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	時事問題プリント教材
2	Unit 1 新型コロナ早期封じ込め 「女性リーダー」	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 4/16
3	Unit 1 新型コロナ早期封じ込め 「女性リーダー」	スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
4	Unit 2 2020 年ノーベル平和賞 「世界食糧計画」	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 4/30
5	Unit 2 2020 年ノーベル平和賞 「世界食糧計画」	Unit 1 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
6	Unit 3 「ワクチン外交」に奔走する中国	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 5/21

7	Unit 3 「ワクチン外交」に奔走する中国	Unit 2 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
8	Unit 4 「オンライン」で世界の美術館巡り	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 6/4
9	Unit 4 「オンライン」で世界の美術館巡り	Unit 3 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
10	Unit 5 史上最悪の森林火災 オーストラリアの野生動物に被害	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 6/18
11	Unit 5 史上最悪の森林火災 オーストラリアの野生動物に被害	Unit 4 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
12	Unit 6 蚊と人間の遺伝子研究 最前線	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 7/2
13	Unit 6 蚊と人間の遺伝子研究 最前線	Unit 5 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
14	これまでのまとめと期末試験	Unit 6 語彙小テスト これまでのまとめと 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

オンライン授業では、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Definition, Examples 部分は採点し返却される。

対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかりと取って行う。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (23)

朝日出版 2090 円 (税込)

【参考書】

特になし

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●オンライン時 課題提出 10%・・・Examples は採点する。1 点×10 問=10 点 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする)

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10 点×6 回分 60 点 30%
●期末試験 50%

*欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe100LA

English 2- II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CNN International シリーズ 2022 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（資料配布型）とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では各自ニュースの音声聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、Definition で学習した語彙で Examples を完成させる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warming up	時事問題プリント教材
2	Unit 7 プラスチックを食べる虫 ごみ問題の救世主となるか	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 10/1
3	Unit 7 プラスチックを食べる虫 ごみ問題の救世主となるか	スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
4	Unit 8 NASA アルテミス計画 50 年ぶりに人類が月に	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 10/15
5	Unit 8 NASA アルテミス計画 50 年ぶりに人類が月に	Unit 7 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題

6	Unit 9 12 歳の天才少女ス ケーター 大けがから 奇跡の復活	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 10/29
7	Unit 9 12 歳の天才少女ス ケーター 大けがから 奇跡の復活	Unit 8 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
8	Unit 10 新素材で歴史建築を守 り抜く 日本だから こそ技術力	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 11/19
9	Unit 10 新素材で歴史建築を守 り抜く 日本だから こそ技術力	Unit 9 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
10	Unit 11 新型コロナ感染拡大で 進む「オンライン」授 業の課題	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 12/3
11	Unit 11 新型コロナ感染拡大で 進む「オンライン」授 業の課題	Unit 10 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
12	Unit 12 皇太子主導で変貌を遂 げるサウジアラビア	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 12/17
13	Unit 12 皇太子主導で変貌を遂 げるサウジアラビア	Unit 11 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
14	これまでのまとめと期 末試験	Unit 12 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

オンライン授業では、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Definition, Examples 部分は採点し返却される。

対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかり取って行う。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（23）
朝日出版 2090 円（税込）

【参考書】

特になし
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●オンライン時 課題提出 10%・・・Examples は採点する。1 点×10 問＝10 点（Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする）

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10 点×6 回分 60 点 30%

●期末試験 50%

*欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では量よりも正確さを重視し、論理的思考力・文化/教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。課題等の提出や全体に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて全体に対して行なう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Andy Meets Miranda (1)	ミランダの面接／課題レポートの指示 過去完了の使い方
②	Unit 1 Andy Meets Miranda (2)	ミランダの面接／前回のフィードバック・課題レポートの指示 面接の英語表現
③	Unit 2 Andy's First Day at Runway (1)	アンディの初出勤／前回のフィードバック・課題レポートの指示 関係代名詞
④	Unit 2 Andy's First Day at Runway (2)	アンディの初出勤／前回のフィードバック・課題レポートの指示 電話の応対の英語表現
⑤	Unit 3 Miranda, the Almighty (1)	すべてはミランダの手の中に／前回のフィードバック・課題レポートの指示 助動詞
⑥	Unit 3 Miranda, the Almighty (2)	すべてはミランダの手の中に／前回のフィードバック・課題レポートの指示 反論する英語表現
⑦	Unit 4 Andy's Metamorphosis (1)	アンディの変身／前回のフィードバック・課題レポートの指示 現在進行形の使い方
⑧	Unit 4 Andy's Metamorphosis (2)	アンディの変身／前回のフィードバック・課題レポートの指示 困惑を示す英語表現
⑨	Unit 5 Andy Performs a Miracle (1)	アンディ奇跡を起こす／前回のフィードバック・課題レポートの指示 助動詞の様々な使い分け
⑩	Unit 5 Andy Performs a Miracle (2)	アンディ奇跡を起こす／前回のフィードバック・課題レポートの指示 依頼する英語表現・希望を伝える英語表現

- ⑪ Intermission The Princess Diaries (1) アン・ハサウェイが主演する他の作品の一部を鑑賞し、彼女の発音とアクセントに慣れてきたかチェックする。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。
- ⑫ Intermission The Princess Diaries (2) 前回に引き続きアン・ハサウェイ他の作品の一部を鑑賞し、『ブラダを着た悪魔』と比較する。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。
- ⑬ 復習と学期末レポート課題の説明 Unit 1 から Unit 5 の各設問の復習を行い、学生の皆さんの答案を編集する。
- ⑭ 学期末レポート課題・まとめと解説 学期末レポート課題を提示し、レポートに関する質問等に答える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『ブラダを着た悪魔』, Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (10%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席回数が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持つてもらえるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to:

- acquire their basic listening skills for watching most of Hollywood movies without subtitles.
- extend their listening skills for understanding short talks, news, announcements and narrations.
- develop basic abilities to express their thoughts and opinions with accuracy.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least an hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss more than 3 class periods a semester except in extreme circumstances.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、秋学期でも主として音声上の英語運用能力を養うことに主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視して、量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。フィードバックは授業課題の提出レポートからいくつか問題点を取り上げ、全体に対して行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance/ 学期末レポート課題の全体に対するフィードバックと論評：秋学期最初の課題レポート	学期末レポート課題の全体に対するフィードバックと問題点の指摘と解説／課題レポートの指示
②	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (1)	アンディ株上昇／前回のフィードバック・課題レポートの指示 仮定法
③	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (2)	アンディ株上昇／前回のフィードバック・課題レポートの指示 驚きを示す英語表現
④	Unit 7 Andy's Dilemma (1)	アンディのジレンマ／前回のフィードバック・課題レポートの指示 動名詞
⑤	Unit 7 Andy's Dilemma (2)	アンディのジレンマ／前回のフィードバック・課題レポートの指示 提案の英語表現
⑥	Unit 8 A Night in Paris (1)	パリでの初日／前回のフィードバック・課題レポートの指示 受動態
⑦	Unit 8 A Night in Paris (2)	パリでの初日／前回のフィードバック・課題レポートの指示 意思・予定を述べる英語表現
⑧	Unit 9 A Plot against Miranda (1)	陰謀／前回のフィードバック・課題レポートの指示 関係代名詞
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	陰謀／前回のフィードバック・課題レポートの指示 称賛を表す英語表現

- | | | |
|---|----------------------------------|---|
| ⑩ | Unit 10 Andy's Final Choice (1) | 最後の選択／前回のフィードバック・課題レポートの指示 使役動詞 |
| ⑪ | Unit 10 Andy's Final Choice (2) | 最後の選択／前回のフィードバック・課題レポートの指示 丁寧な依頼の英語表現 |
| ⑫ | Post feminism in popular culture | Paul Hodgkinson の 'Media Culture and Society' (2017) の 13 章 'Media, Gender and Sexuality' の抜粋を読む。 |
| ⑬ | 復習と学期末レポート課題の説明 | Unit 6 から Unit 10 の各問題を復習し、提出された皆さんの解答を編集する。 |
| ⑭ | 学期末レポート課題・まとめと解説 | 学期末レポート課題を提示する。提出期限を指示し、質問等に答える。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』、Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (10%) を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席回数が4回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to:

- acquire their basic listening skills for watching most of Hollywood movies without subtitles.
- learn how Hollywood movies interact with all aspects of American cultural life.
- extend their listening skills for understanding short talks, news, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least an hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss more than 3 class periods a semester except in extreme circumstances.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第1課 接客コミュニケーション	この教科書の使い方 第1課 単語 リスニング
4	第1課	発音 口頭練習
5	第2課 機内サービス	単語 リスニング
6	第2課	第1課小テスト 発音 口頭練習
7	第3課 LCC と FSC	単語 ディクテーション
8	第3課	第2課小テスト 発音 口頭練習
9	第4課 面接重視の航空会社	第3課小テスト 単語 ディクテーション
10	第4課	発音 口頭練習
11	第5課 チケット販売	第4課小テスト 単語 ディクテーション

12	第5課	発音 口頭練習
13	第6課 アトラクション	第5課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

ホスピタリティ・コミュニケーション 仁科 他著 2018 年
三修社 1700 円
ISBN978-4-384-33477-7

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %

小テスト 10 %

レポート課題・発言点 20 %

平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は3回で欠席1回に換算される。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

Learning Objectives

Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.

Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課	単語
3	第 7 課	リスニング
4	第 7 課	発音
5	第 7 課	口頭練習
6	第 8 課	7 課小テスト
7	第 8 課	単語
8	第 8 課	リスニング
9	第 8 課	発音
10	第 8 課	口頭練習
11	第 9 課	単語
12	第 9 課	リスニング
13	第 9 課	発音
14	第 9 課	口頭練習
15	第 10 課	単語
16	第 10 課	リスニング
17	第 10 課	発音
18	第 10 課	口頭練習

10	第 11 課	単語
11	第 11 課	リスニング
12	第 11 課	第 10 課小テスト
13	第 11 課	発音
14	第 11 課	口頭練習
15	第 12 課	第 11 課小テスト
16	第 12 課	単語
17	第 12 課	リスニング
18	第 12 課	発音
19	第 12 課	口頭練習
20	第 12 課	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

ホスピタリティ・コミュニケーション 仁科 他著 2018 年三修社 1700 円
ISBN978-4-384-33477-7

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %

小テスト 10 %

レポート課題・発言点 20 %

平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。

各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

Learning Objectives

Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.

Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC®形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1	Ceremony 聴解 英語を書くときのポイント 1
第 3 回	Listening 小テスト 2	School Life 聴解 英語を書くときのポイント 2
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 1	Transportation 聴解 Unit1 老舗 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 2	Outdoor Activities 聴解 Unit2 制服 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 3	Weather 聴解 Unit3 ボランティア PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 4	Holiday Plans 聴解 Unit4 ハイテク生活 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 5	Resort Area 聴解 Unit5 和食器 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 DVD による Dictation 6 プレゼンテーションの方法	Directions 聴解 Unit6 主婦 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 10 回	Listening 小テスト 9 プレゼンテーションの方法と英文原稿の論理構成	Job Experience 聴解 英語 Paragraph 構成 PPT ファイルへの音声録音 英語 Speech 実演 DVD 視聴
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Summer Sale 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 1（写真説明）
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 2（写真説明）
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーション音声録音 済み PPT ファイルを鑑賞し、質疑応答を行う
第 14 回	復習と試験	試験（含 Listening）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストーリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用スクリプトはコピー冊子を配布)

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】

Longman Academic Writing Series

研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%）、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50 点、平常点 50 点で、合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0 点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

教科書空欄の単語 Dictation はできるが、スクリプトを読んでも細かいところまで意味が理解できないというご意見をいただいた。このため、昨年度秋学期から始めたスクリプト日本語訳の試みを今年度も継続して授業中に行う。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書

【Outline (in English)】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students can listen to the English report and discussion in the textbook before class with streaming audio. They need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, speaking score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 2- II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉 英文を書くときの形式	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ レポート作成、引用と参考文献表示
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Restaurant 聴解 Unit8 声優 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Arts & Entertainment 聴解 Unit9 和製料理 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Sports Events 聴解 Unit10 かばん PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Having a Party 聴解 Unit11 シニア PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Health 聴解 Unit12 お金 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Christmas 聴解 Unit13 猿 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 写真説明 Speaking1	Cleanup 聴解 Speaking & Writing TOEIC ® 写真問題 1
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking2	Our Traditions & Customs 聴解 Speaking & Writing TOEIC ® 写真問題 2
第 10 回	Listening 小テスト 9 英文エッセイについて 英語による質疑応答	Examinations 聴解 Paragraph から Essay へ 質疑応答練習
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原 稿作成 (1)	Housing 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原 稿作成 (2)	Review Test3・4 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応 答
第 14 回	復習と試験	試験 (含 Listening)・まとめと解 説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストーリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行いが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用スクリプトはコピー冊子を配布)

Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening (2020). 成美堂

このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】

Longman Academic Writing Series

研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%)、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50 点、平常点 50 点で、合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行いが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0 点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

教科書空欄の単語 Dictation はできるが、スクリプトを読んでも細かいところまで意味が理解できないというご意見をいただいた。このため、昨年度秋学期から始めたスクリプト日本語訳の試みを今年度も継続して授業中に行う。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書

【Outline (in English)】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC ® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC ® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students can listen to the English report and discussion in the textbook before class with streaming audio. They need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, speaking score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言葉の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするできるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス クラスメート紹介	オリエンテーション: シラバスに 基づき講義内容を説明する。 クラスメートにインタビューし、 それをまとめて発表する。
第 2 回	尊敬する人・好きな人	自分が尊敬する人・好きな人は誰か を考えて、その理由などをまと めてみる。
第 3 回	リスニング	プレゼンテーションのイントロと コンクルージョンを聞き、それら の内容を理解し、さらにそれぞれの 構成の仕方を学ぶ。
第 4 回	リスニング	プレゼンテーションのボディー部 分を聞き、その内容を理解し、さ らにその構成の仕方を学ぶ。
第 5 回	プレゼンテーション原 稿の作成	自分が尊敬する人・好きな人に 関するプレゼンテーションの原稿を 書く。

第 6 回	プレゼンテーション	各自が尊敬する人・好きな人に関 するプレゼンテーションをするだ けでなく、クラスメートのプレゼ ンテーションを聞き、良いところ と、改善できるところをまとめ る。
第 7 回	英会話 (リスニング)	日常的な内容の英会話のリスニ ングを行う。
第 8 回	ツアー・休暇の過ごし 方を提案する	自分が思う最高・最良のツアーや 休暇の過ごし方を考え、話し合 う。
第 9 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関する プレゼンテーションのイントロと コンクルージョンを聞き、それら の内容を理解し、さらにそれぞれの 構成の仕方を学ぶ。
第 10 回	リスニング	ツアーや休暇の過ごし方に関する プレゼンテーションのボディー部 分を聞き、その内容を理解し、さ らにその構成の仕方を学ぶ。
第 11 回	プレゼンテーション原 稿の作成	ツアーや休暇の過ごし方を提案す るプレゼンテーションの原稿を作 成する。
第 12 回	プレゼンテーション	各自がツアーや休暇の過ごし方 に関するプレゼンテーションをす るだけでなく、クラスメートの プレゼンテーションを聞き、良い ところと、改善できるところを まとめる。
第 13 回	英会話	クラスメートとともに日常的な 会話を英語で行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼ ンテーションの構成方法を用いて 筆記試験 (エッセイ・ライティ ング) を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』(中級編) 第 3 版、ケンブリッ
ジ大学出版。

英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題 (10%)、平常点 (20%)、期末試験 (20%)、授業内プレゼンテ
ーション (50%) の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にい
ない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除い
た遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証
を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授
業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いもの
となりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。

授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】

授業の概要 (Course outline)

In this class, you develop mainly listening and speaking ability.
specifically, you will learn how to give a presentation.

First, you will understand the way of organizing a presenta-
tion.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation. Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.

In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

到達目標 (Learning Objectives)

1: The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 20%, Presentations : 50%, in class contribution: 20%, assignments: 10%

LANe100LA

English 2- II

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。

具体的には、英語によるプレゼンテーションの方法を学びます。英語の文章構造は日本語のそれとは異なります。英語の論理を学ぶことで、論理的な思考方法とそれに基づいた意見の表明の仕方を身につけます。

単なるツールとしての英語ではなく、日本語とは異なるものの見方としての英語を学びます。そうすることで、日本語という言語の中で生きている自分たちがどのような存在なのか考えてみたいと思います。

【到達目標】

当授業ではプレゼンテーションを行うことを主としているので、人前で話をするができるようになります。そして、単に人前で話すだけではなく、どうしたら聞き手に話しかけ、聞き手を説得し、納得させることができるかがわかるようになります。英語の論理構造を知り、それを使うことができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの機会にクラスメートとペアで、あるいは一人で、発表のための原稿を作り、発表します。また、そのための方法を学びます。したがって、授業は、講義と演習、発表を取り混ぜたものになります。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 今時の若者	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 自分たちのライフスタイルなどに関するインタビューを考え、クラスメートにインタビューし、それをまとめる。
第 2 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのイントロとコンクルージョンを聞き、それらの内容を理解し、さらにそれぞれの構成の仕方を学ぶ。
第 3 回	リスニング	今時の若者に関するプレゼンテーションのボディー部分を聞き、その内容を理解し、さらにその構成の仕方を学ぶ。

第 4 回	プレゼンテーション	今時の若者に関するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 5 回	英会話（リスニング）	日常的な内容の英会話のリスニングを行う。
第 6 回	説明しよう！	自分が知らないことについて考え、調べ、まとめる。
第 7 回	リスニング	物事を説明するプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 8 回	プレゼンテーション	各自が関心を持っている事を説明するプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 9 回	英会話（会話）	クラスメートとともに日常的な会話を英語で行う。
第 10 回	自分の意見をいう	何かに対して賛成か反対か、自分の態度を決め、その理由を述べるために考える。
第 11 回	リスニング	自分の意見を述べているプレゼンテーションを聞き、その内容を理解して、構成を学ぶ。
第 12 回	プレゼンテーション	自分の意見を述べるプレゼンテーションを実践する。また、クラスメートのプレゼンテーションを聞き、それぞれの良いところと改善できるところを発表者に伝える。
第 13 回	英会話（会話とリスニング）	クラスメートとともに大学のキャンパスで使う英会話を行う。また、同様の内容の英会話のリスニングを行う。
第 14 回	試験・まとめと解説	これまでの授業で学んだプレゼンテーションの構成方法を用いて筆記試験（エッセイ・ライティング）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み内容を理解しておく。
授業中に指示された課題を、次の授業までに行っておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 2 Viewpoints, Cambridge University Press.

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

課題（10%）、平常点（20%）、期末試験（20%）、授業内プレゼンテーション（50%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
学生一人ひとりが発表するだけでなく、発表を聞くことも重要な授業の一部となっています。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）

In this class, you develop mainly listening and speaking ability. specifically, you will learn how to give a presentation. First, you will understand the way of organizing a presentation.

This will include how to make an introduction, a body paragraph, and a conclusion which constitute a presentation. Then, you will make and give a presentation on a specific topic. By doing so, you understand the difference between Japanese and English and learn how to think logically.

In other words, you find English not as a tool but a point of view so that you get a chance to think who you are.

到達目標 (Learning Objectives)

1:The goals of this course are to understand the structure of essay, to be able to write essays, and give presentations.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 20%、Presentations : 50%、in class contribution: 20%、assignments: 10%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SDGs に焦点を絞った教科書用の英語ニュースの映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。持続可能性に関わる各テーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。
・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業 1 回でひとつの Unit(Goal) を学習する。Unit の内容に関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。スピーキング用のスクリプトやパワーポイント資料は、作成方法の指導、添削指導を授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの説明	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての説明。テキストの説明。
2	Goal 1 貧困をなくそう	・ Exercises ・ ディクテーション課題 1 ・ 単語練習 1
3	Goal 2 飢餓をゼロに	・ Exercises
4	Goal 3 すべての人に健康と福祉を	・ Exercises ・ ディクテーション課題 2 ・ 単語練習 2
5	Goal 4 質の高い教育をみんなに	・ Exercises ・ プレゼンテーションの方法と心構え
	プレゼンテーション 1 「環境のために気をつけていること」	
6	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーションの準備 ・ ディクテーション課題 3 ・ 単語練習 3
7	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーション本番 1
8	プレゼンテーション課題 1 「環境のために気をつけていること」	・ プレゼンテーション本番 2 ・ ディクテーション課題 4

9	Goal 5 ジェンダー平等を実現しよう	・ Exercises
10	Goal 6 安全な水とトイレを世界中に	・ Exercises ・ ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ 単語テスト ・ プレゼンテーションの準備 1
12	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーションの準備 2 ・ ディクテーション課題 6
13	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2 「食肉の是非」	・ プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit(Goal) のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『大学生のための CNN ニュース・リスニング：SDGs 編』、朝日出版社、2022 年、1200 円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 一大学生のためのトピック別必修英単語』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ピーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業のパフォーマンス 30 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 35%

欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持ってくる。

【Outline (in English)】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news on SDGs are the main learning materials. You are required to form your opinions about the topics on sustainability and to speak them out in English.

Objectives

- Ability to listen to English on current issues

- Ability to form your arguments about them and make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. Each unit (goal) in the text contains exercises; you are required to solve them before coming to a class: as your homework. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%

- Vocabulary test 10%

- Presentation assignments 35%

- Other assignments 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

森永 豊

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SDGs に焦点を絞った教科書用の英語ニュースの映像・音声素材を使って、スピーキングとリスニングを中心に学ぶ。持続可能性に関わる各テーマについて耳から情報を吸収し、英語でアウトプットするプロセスに習熟する。

【到達目標】

・時事問題に関する英語情報に耳と活字からアクセスする基礎的な能力を持つ。

・そうした情報に基づいて自分の意見を形成し、これを簡潔な英語で述べる基礎能力がある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

授業 1 回でひとつの Unit(Goal) を学習する。Unit の内容に関連するテーマのスピーキング課題に取り組む。スピーキング用のスクリプトやパワーポイント資料は、作成方法の指導、添削指導を授業内および Google Classroom というクラス管理システム上で、個別に行う。隔回でディクテーションを行い、授業内で正解を公表し、フレーズや構文指導を行う。成績は Google Classroom で個別に公表する。ディクテーションとは表現力と構文知識を高め、英語を正確に聞き取って綴る能力を高めるトレーニングである。授業ではネットの音声素材を利用する。またパソコンなどからウェブアプリケーションを使う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要とテキストの確認	授業の概要と進め方、成績評価の基準についての確認。テキストの確認。
2	Goal 7 エネルギーをみんなに。そしてクリーンに。	・Exercises ・ディクテーション課題 1 ・単語練習 1
3	Goal 8 働きがいも経済成長も	・Exercises
4	Goal 9 産業と技術革新の基盤を作ろう	・Exercises ・ディクテーション課題 2 ・単語練習 2
5	Goal 10 人や国の不平等をなくそう	・Exercises ・プレゼンテーションの方法と心構え (復習)
	プレゼンテーション課題 1 「環境問題に関する重要な発明」	
6	プレゼンテーション課題 1 「環境問題に関する重要な発明」	・プレゼンテーションの準備 ・ディクテーション課題 3 ・単語練習 3
7	プレゼンテーション課題 1 「環境問題に関する重要な発明」	・プレゼンテーション本番 1
8	プレゼンテーション課題 1 「環境問題に関する重要な発明」	・プレゼンテーション本番 2 ・ディクテーション課題 4

9	Goal 11 住み続けられるまちづくりを	・ Exercises
10	Goal 12 つくる責任、つかう責任	・ Exercises ・ ディクテーション課題 5
11	プレゼンテーション課題 2「再生可能エネルギーの企業」	・ 単語テスト ・ プレゼンテーションの準備 1
12	プレゼンテーション課題 2「再生可能エネルギーの企業」	・ プレゼンテーションの準備 2 ・ ディクテーション課題 6
13	プレゼンテーション課題 2「再生可能エネルギーの企業」	・ プレゼンテーション本番 1
14	プレゼンテーション課題 2「再生可能エネルギーの企業」	・ プレゼンテーション本番 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。各授業はあらかじめ指定したテキストの範囲の予習、あるいは宿題の取り組みを前提にして進める。各 Unit(Goal) のニューススクリプトはウェブ上にアップロードされている音声（授業内に指示する）で聴くことができる。プレゼンテーションに向けてスクリプトやパワーポイントの作成、予行演習を行う。学期中に語彙テストを行うので単語やフレーズの暗記も必要になる。

【テキスト（教科書）】

『大学生のための CNN ニュース・リスニング：SDGs 編』、朝日出版社、2022 年、1200 円（税別）

【参考書】

・『LINKS 1500 ー大学生のためのトピック別必修英単語ー』、金星堂、2013 年、1800 円（税別）（以下の URL で無料にてダウンロードできる音声ファイルが付属している。<http://www.kinsei-do.co.jp/download/3963>）

・綿貫陽、マーク・ヒーターセン（共著）、『表現のための実践ロイヤル英文法』、旺文社、2011 年、1944 円（税込）

・『Oxford Learner's Thesaurus オックスフォード 英語類語活用辞典』、オックスフォード 大学出版局、2008 年、4700 円（税別）その他、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業のパフォーマンス 30 %、小テスト 10%、提出課題 25%、プレゼンテーション 35%
欠席が 4 回以上になった者は原則として単位取得の資格を失う。30 分以上の遅刻は欠席と見なし、3 回の遅刻は欠席 1 回とカウントする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方については、定期的かつ高い頻度で学生からのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業ではネットで配信されるテキストの音声素材を利用する。リアルタイム授業で必要となるツールは Zoom と Google Classroom である。その他に講師が作るウェブアプリケーションを利用する。パソコン、タブレット、スマホから受講可能。またウェブブラウザは Firefox、Google Chrome、Safari を推奨。Internet Explorer は非推奨。その他に、プレゼンテーションを行う際にはマイク付きのヘッドセットが必要である。

【その他の重要事項】

辞書を必ず持つてくる。

【Outline (in English)】

You learn English speaking and listening skills. Videos of recent CNN news on SDGs are the main learning materials. You are required to form your opinions about the topics on sustainability and to speak them out in English.

Objectives

- Ability to listen to English on current issues
- Ability to form your arguments about them and make a presentation with correct English pronunciation

Self-study

Self-study before and after a class takes an hour in total. Each unit (goal) in the text contains exercises; you are required to solve them before coming to a class: as your homework. Preparation for your presentation includes writing a script, creating visual aids, and doing a rehearsal. Taking a vocabulary test during a semester is mandatory.

Methods of grading

- Class participation (dictation assignments, vocabulary test, performances in a class) 30%
- Vocabulary test 10%
- Presentation assignments 35%
- Other assignments 25%

(You will fail the class with more than 3 absences. Being more than 30 min. late for a class amounts to an absence. Being late three times amounts to an absence.)

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CNN International シリーズ 2022 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業 (資料配布型) とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では各自ニュースの音声聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、Definition で学習した語彙で Examples を完成させる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	時事問題プリント教材
2	Unit 1 新型コロナ早期封じ込め 「女性リーダー」	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 4/16
3	Unit 1 新型コロナ早期封じ込め 「女性リーダー」	スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
4	Unit 2 2020 年ノーベル平和賞 「世界食糧計画」	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 4/30
5	Unit 2 2020 年ノーベル平和賞 「世界食糧計画」	Unit 1 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
6	Unit 3 「ワクチン外交」に奔走する中国	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 5/21

7	Unit 3 「ワクチン外交」に奔走する中国	Unit 2 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
8	Unit 4 「オンライン」で世界の美術館巡り	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 6/2
9	Unit 4 「オンライン」で世界の美術館巡り	Unit 3 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
10	Unit 5 史上最悪の森林火災 オーストラリアの野生動物に被害	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 6/18
11	Unit 5 史上最悪の森林火災 オーストラリアの野生動物に被害	Unit 4 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
12	Unit 6 蚊と人間の遺伝子研究 最前線	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 7/2
13	Unit 6 蚊と人間の遺伝子研究 最前線	Unit 5 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
14	これまでのまとめと期末試験	Unit 6 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

オンライン授業では、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Definition, Examples 部分は採点し返却される。

対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかりと取って行う。

【テキスト (教科書)】

CNN ビデオで見る世界のニュース (23)

朝日出版社 2090 円 (税込)

【参考書】

特になし

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●オンライン時 課題提出 10% … Examples は採点する。1 点×10 問=10 点 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする)

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10 点×6 回分 60 点 30%
●期末試験 50%

*欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている (空欄の内容全て解答している)、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe100LA

English 2- II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2022 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混迷の中にあっての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（資料配布型）とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では各自ニュースの音声聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、Definition で学習した語彙で Examples を完成させる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warming up	時事問題プリント教材
2	Unit 7 プラスチックを食べる虫 ごみ問題の救世主となるか	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 10/1
3	Unit 7 プラスチックを食べる虫 ごみ問題の救世主となるか	スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
4	Unit 8 NASA アルテミス計画 50 年ぶりに人類が月に	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 10/15
5	Unit 8 NASA アルテミス計画 50 年ぶりに人類が月に	Unit 7 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題

6	Unit 9 12 歳の天才少女ス ケーター 大けがか ら奇跡の復活	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 10/29
7	Unit 9 12 歳の天才少女ス ケーター 大けがか ら奇跡の復活	Unit 8 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
8	Unit 10 新素材で歴史建築を守 り抜く 日本だから こそ技術力	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 11/19
9	Unit 10 新素材で歴史建築を守 り抜く 日本だから こそ技術力	Unit 9 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
10	Unit 11 新型コロナ感染拡大で 進む「オンライン」授 業の課題	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 12/3
11	Unit 11 新型コロナ感染拡大で 進む「オンライン」授 業の課題	Unit 10 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
12	Unit 12 皇太子主導で変貌を遂 げるサウジアラビア	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 12/17
13	Unit 12 皇太子主導で変貌を遂 げるサウジアラビア	Unit 11 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
14	これまでのまとめと期 末試験	Unit 12 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験課題の提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

オンライン授業では、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行う。テキストの Definition をしっかりと調べて完成させ、指定の締め切り日までに提出する。Definition, Examples 部分は採点し返却される。

対面授業の際にはニューススクリプトが完成されていることを前提として内容理解の授業を行うので未知の語彙などがあれば調べておく。オンラインの週の学習時間をしっかりと取って行う。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース (23)
朝日出版社 2090 円（税込）

【参考書】

特になし
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●オンライン時 課題提出 10%・・・Examples は採点する。1 点×10 問=10 点 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする)

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10 点×6 回分 60 点 30%

●期末試験 50%

*欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

class contribution 10%

classroom quiz 30%

term-end examination 50%

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像を楽しみながら、4 技能のバランスの良い学習効果を念頭に置きつつ、主として音声上の英語運用能力を養う。効果的に英語を聞き取り意味をつかむ力を養う。情報の受容から発信へのプロセスを重視する。春学期では量よりも正確さを重視し、論理的思考力・文化/教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でそれなりに楽しむことができる。短い会話、ニュース、アナウンス、ナレーションなどが聞きとれ、自分の意思を伝える表現力がつく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、通年で鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。課題等の提出や全体に対するフィードバックは「学習支援システム」を通じて全体に対して行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Unit 1 Andy Meets Miranda (1)	ミランダの面接／課題レポートの指示 過去完了の使い方
②	Unit1 Andy Meets Miranda (2)	ミランダの面接／前回のフィードバック・課題レポートの指示 面接の英語表現
③	Unit 2 Andy's First Day at Runway (1)	アンディの初出勤／前回のフィードバック・課題レポートの指示 関係代名詞
④	Unit 2 Andy's First Day at Runway (2)	アンディの初出勤／前回のフィードバック・課題レポートの指示 電話の応対の英語表現
⑤	Unit 3 Miranda, the Almighty (1)	すべてはミランダの手の中に／前回のフィードバック・課題レポートの指示 助動詞
⑥	Unit 3 Miranda, the Almighty (2)	すべてはミランダの手の中に／前回のフィードバック・課題レポートの指示 反論する英語表現
⑦	Unit 4 Andy's Metamorphosis (1)	アンディの変身／前回のフィードバック・課題レポートの指示 現在進行形の使い方
⑧	Unit 4 Andy's Metamorphosis (2)	アンディの変身／前回のフィードバック・課題レポートの指示 困惑を示す英語表現
⑨	Unit 5 Andy Performs a Miracle (1)	アンディ奇跡を起こす／前回のフィードバック・課題レポートの指示 助動詞の様々な使い分け
⑩	Unit 5 Andy Performs a Miracle (2)	アンディ奇跡を起こす／前回のフィードバック・課題レポートの指示 依頼する英語表現・希望を伝える英語表現

- ⑪ Intermission The Princess Diaries (1) アン・ハサウェイが主演する他の作品の一部を鑑賞し、彼女の発音とアクセントに慣れてきたかチェックする。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。
- ⑫ Intermission The Princess Diaries (2) 前回に引き続きアン・ハサウェイ他の作品の一部を鑑賞し、『ブラダを着た悪魔』と比較する。但しネット上のコンテンツの状況により教材を変更する場合もある。
- ⑬ 復習と学期末レポート課題の説明 Unit 1 から Unit 5 の各設問の復習を行い、学生の皆さんの答案を編集する。
- ⑭ 学期末レポート課題・まとめと解説 学期末レポート課題を提示し、レポートに関する質問等に答える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作り、テキストから覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』, Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (10%) を総合して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席回数が 4 回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心をさらに持つてもらえるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aims of this course are:

- To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
 - To promote the development of effective listening skills.
 - To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
 - To introduce students to the English language and its cultural literacy.
- (Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to:

- acquire their basic listening skills for watching most of Hollywood movies without subtitles.
 - extend their listening skills for understanding short talks, news, announcements and narrations.
 - develop basic abilities to express their thoughts and opinions with accuracy.
- (Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least an hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss more than 3 class periods a semester except in extreme circumstances.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

吉川 直澄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、秋学期でも主として音声上の英語運用能力を養うことに主眼を置いて、映像を楽しみつつ、4 技能をバランス良く伸ばすための基礎力の仕上げにかかる。情報の受容から発信へのプロセスを重視して、量を消化することを重視し、論理的思考力・文化・教養・言語知識の習得を行なう。

【到達目標】

大抵のハリウッド映画なら英語音声でも楽しむことができる。映画の背景にあるアメリカの文化に関する知識が深まる。通常会話であれば、要点を理解し、適切に応答できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

アメリカ映画『ブラダを着た悪魔』を他の作品と比較しつつ、引き続き鑑賞し、生きた英語表現と現代アメリカ文化を学ぶ。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行なう。フィードバックは授業課題の提出レポートからいくつか問題点を取り上げ、全体に対して行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Guidance/ 学期末レポート課題のフィードバックと論評：秋学期最初の課題レポート	学期末レポート課題の全体に対するフィードバックと問題点の指摘と解説／課題レポートの指示
②	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (1)	アンディ株上昇／前回のフィードバック・課題レポートの指示 仮定法
③	Unit 6 Andy's Stock Goes Up (2)	アンディ株上昇／前回のフィードバック・課題レポートの指示 驚きを示す英語表現
④	Unit 7 Andy's Dilemma (1)	アンディのジレンマ／前回のフィードバック・課題レポートの指示 動名詞
⑤	Unit 7 Andy's Dilemma (2)	アンディのジレンマ／前回のフィードバック・課題レポートの指示 提案の英語表現
⑥	Unit 8 A Night in Paris (1)	パリでの初日／前回のフィードバック・課題レポートの指示 受動態
⑦	Unit 8 A Night in Paris (2)	パリでの初日／前回のフィードバック・課題レポートの指示 意思・予定を述べる英語表現
⑧	Unit 9 A Plot against Miranda (1)	陰謀／前回のフィードバック・課題レポートの指示 関係代名詞
⑨	Unit 9 A Plot against Miranda (2)	陰謀／前回のフィードバック・課題レポートの指示 称賛を表す英語表現

- | | | |
|---|----------------------------------|---|
| ⑩ | Unit 10 Andy's Final Choice (1) | 最後の選択／前回のフィードバック・課題レポートの指示 使役動詞 |
| ⑪ | Unit 10 Andy's Final Choice (2) | 最後の選択／前回のフィードバック・課題レポートの指示 丁寧な依頼の英語表現 |
| ⑫ | Post feminism in popular culture | Paul Hodgkinson の 'Media Culture and Society' (2017) の 13 章 'Media, Gender and Sexuality' の抜粋を読む。 |
| ⑬ | 復習と学期末レポート課題の説明 | Unit 6 から Unit 10 の各問題を復習し、提出された皆さんの解答を編集する。 |
| ⑭ | 学期末レポート課題・まとめと解説 | 学期末レポート課題を提示する。提出期限を指示し、質問等に答える。 |

13 weekly class assignments: 65%, term-end assignment: 25%, and in-class contribution: 10%.

Students will not be able to pass this course if they miss more than 3 class periods a semester except in extreme circumstances.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習。テキストを何度も音読すること。英語専用のノートを作成し、覚えるべき表現や単語を書き出し必ず例文も記入しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラダを着た悪魔』、Aline Brosh McKenna, 松柏社、ISBN978-4-88198-636-3, 2200 円

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

全 13 回の課題レポート (65%)、三段階評価する学期末レポート課題 (25%)、授業への積極的な参加・貢献 (10%) を総合的に検討して評価する。毎回の課題レポートの提出期限は翌週の授業日までとする。なお、この授業を受講する学生は必ず第一回目の授業に出席すること。欠席回数が4回以上になった者は原則として単位習得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

映画を通じて英米の文化や言葉に関心を持ってもらえるようにさらに努力します。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は「学習支援システム」を使用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aims of this course are:

1. To provide students with a general grounding in both speaking and listening skills, balancing all four skills of reading, writing, speaking and listening.
2. To promote the development of effective listening skills.
3. To train students in essential skills of constructing logically-organized paragraphs, drawing attention to the basic paragraph structure.
4. To introduce students to the English language and its cultural literacy.

(Learning Objective)

By the end of the course, students will be able to:

- acquire their basic listening skills for watching most of Hollywood movies without subtitles.
- learn how Hollywood movies interact with all aspects of American cultural life.
- extend their listening skills for understanding short talks, news, announcements and narrations.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to:

- spend at least an hour doing preparation and review of every course content.
- extend vocabulary more effectively by making their own vocabulary notebook.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process:

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションができるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書 (電子辞書可)、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この授業の進め方などを詳しく説明する
2	イントロダクション	基礎的な文法事項の確認
3	第1課 In-Flight Announcements	この教科書の使い方 第1課 単語 ディクテーション
4	第1課	発音 口頭練習
5	第2課 At Immigration and Customs	単語 ディクテーション
6	第2課	第1課小テスト 発音 口頭練習
7	第3課 Getting to a Hotel	単語 ディクテーション
8	第3課	第2課小テスト 発音 口頭練習
9	第4課 Checking into a Hotel	第3課小テスト 単語 ディクテーション
10	第4課	発音 口頭練習
11	第5課 Checking in without a Reservation	第4課小テスト 単語 ディクテーション

12	第5課	発音 口頭練習
13	第6課 At a Restaurant	第5課小テスト 単語 ディクテーション
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト (教科書)】

実用観光英語 -改訂新版- 島田 他著 2019 年 成美堂
1900 円
ISBN978-4-7919-7185-5

【参考書】

辞書 (電子辞書可) を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %

小テスト 10 %

レポート課題・発言点 20 %

平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は3回で欠席1回に換算される。

各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling

Learning Objectives

Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.

Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活や現代社会のさまざまなトピックについての自分の知識、意見を、口頭および文章で効果的に表現する力を養います。論理的な構成のパラグラフを書く練習を行い、最終的には複数のパラグラフからなる短いレポートを書けるようにします。

また関心の高いトピックについて、レベルに応じてプレゼンテーションやスピーチ、ディスカッションなどを行う練習をします。「聴く力」の育成も、授業の一環として行います。

【到達目標】

教科書で学んだ語彙や定型表現を使って、観光や海外旅行での様々な場面で双方向的コミュニケーションが口頭および文章でできるようになることを目指す。

またナチュラルスピードで話される英語を聞き取ることを目指す。海外旅行で使う表現を覚えることで、会話のインプット・アウトプットを行う。

ボキャブラリーやフレーズを覚えてパターンプラクティスを行い、英語によるコミュニケーションの幅を広げていく。また、そのために必要な効果的な辞書の使い方を学ぶ。

春学期に引き続きより滑らかにシャドーイングができるようにしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、予習を毎回必ず行うことを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず忘れずに持ってくる。適宜、発表、レポートを課す。対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方など
2	第 7 課 Taking the Subway	単語 ディクテーション
3	第 7 課	発音 口頭練習
4	第 8 課 At a Fast -Food Restaurant	7 課小テスト 単語 ディクテーション
5	第 8 課	発音 口頭練習
6	第 9 課 Hotel Service	単語 ディクテーション
7	第 9 課	第 8 課小テスト 発音 口頭練習
8	第 10 課 Booking a Tour	単語 ディクテーション
9	第 10 課	第 9 課小テスト 発音 口頭練習

10	第 11 課 Health Care	単語 ディクテーション
11	第 11 課	第 10 課小テスト 発音 口頭練習
12	第 12 課 Shopping	第 11 課小テスト 単語 ディクテーション
13	予備日	復習・発表など
14	授業時試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

実用観光英語 ―改訂新版― 島田 他著 2019 年 成美堂
1900 円
ISBN978-4-7919-7185-5

【参考書】

辞書（電子辞書可）を必ず持ってくる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %

小テスト 10 %

レポート課題・発言点 20 %

平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。

遅刻は 3 回で欠席 1 回に換算される。

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The primary objective of this class is to develop students' listening skills and to improve abilities in practical conversations when travelling.

Learning Objectives

Students will develop the ability to effectively express their knowledge and opinions, both orally and in writing, on a variety of topics in daily life and contemporary society. Students will practice writing logically structured paragraphs and will eventually be able to write short reports consisting of multiple paragraphs.

Students will also practice giving presentations, speeches, and discussions on topics of interest to them, depending on their level. Listening skills will also be developed as part of the class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC®形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リスニング、スピーキングと英語プレゼンテーションについて	授業の進め方。成績評価の基準などを説明する
第 2 回	Listening 小テスト 1	Ceremony 聴解 英語を書くときのポイント 1 「これをやると大減点」のよくある誤り
第 3 回	Listening 小テスト 2	School Life 聴解 英語を書くときのポイント 2 「日本語を英単語に置き換えるだけでは英文にならない」
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 1	Transportation 聴解 Unit1 老舗 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 2	Outdoor Activities 聴解 Unit2 制服 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 3	Weather 聴解 Unit3 ボランティア PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 4	Holiday Plans 聴解 Unit4 ハイテク生活 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 DVD による Dictation 5	Resort Area 聴解 Unit5 和食器 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 9 回	Listening 小テスト 8 DVD による Dictation 6 プレゼンテーションの方法	Directions 聴解 Unit6 主婦 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 10 回	Listening 小テスト 9 プレゼンテーションの方法と英文原稿の論理構成	Job Experience 聴解 英語 Paragraph 構成 PPT ファイルへの音声録音 英語 Speech 実演 DVD 視聴
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原稿作成（1）	Summer Sale 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 1（写真説明）
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原稿作成（2）	Review Test1・2 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 2（写真説明）
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーション音声録音 済み PPT ファイルを鑑賞し、質疑応答を行う
第 14 回	復習と試験	試験（含 Listening）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストーリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行うが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したものの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。

【テキスト（教科書）】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用スクリプトはコピー冊子を配布)

Practical Situations for the TOEIC® Test Listening (2020). 成美堂

このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】

Longman Academic Writing Series

研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%（授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%）、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50 点、平常点 50 点で、合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0 点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

教科書空欄の単語 Dictation はできるが、スクリプトを読んでも細かいところまで意味が理解できないというご意見をいただいた。このため、昨年度秋学期から始めたスクリプト日本語訳の試みを今年度も継続して授業中に行う。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書

【Outline (in English)】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students can listen to the English report and discussion in the textbook before class with streaming audio. They need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, speaking score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 2- II

2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声教材を使用し、ディクテーションやリスニングテストを通じて聴解力を高め、口頭での表現力につなげる。また、英語によるプレゼンテーションを行い、英語の論理展開のしかたを理解するとともに、英語を書く力を養成する。

【到達目標】

日本について外国人がどのように思っているかをレポート、スタジオディスカッションなどから知ることができる DVD 教材で Dictation 能力を、TOEIC® 形式のリスニングテストで聴解力および身の回りの事柄を英語で話す能力を身につける。英語プレゼンテーションを通じてパブリックスピーキングに慣れ、質疑応答で会話力を高める。英語でコメントやスピーチ原稿を作成し、英語表現力を高める。また、写真説明スピーキングや質疑応答を通して英会話力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2

【授業の進め方と方法】

授業初めに毎回リスニング小テストを行う。その後 DVD を視聴し、英文スクリプトのディクテーションを行う。DVD の内容について短い英文コメントを書いたり、テキストのサンプル英会話をもとにして質疑応答を行うこともある。また、学期後半には、英語によるプレゼンテーションを行う。スピーチ原稿作成では、プリント教材で英語の論理構成を学習し、英文原稿の添削指導を行う。プレゼンテーションでの話し方は DVD で学び、英語による写真描写 Speaking 問題と発音練習によりスピーチに備える。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	英語の話し言葉と書き言葉 英文を書くときの形式	スピーチ原稿からレポート、エッセイへ レポート作成、引用と参考文献表示
第 2 回	Listening 小テスト 1 DVD による Dictation 1	Restaurant 聴解 Unit8 声優 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 3 回	Listening 小テスト 2 DVD による Dictation 2	Arts & Entertainment 聴解 Unit9 和製料理 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 4 回	Listening 小テスト 3 DVD による Dictation 3	Sports Events 聴解 Unit10 かばん PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 5 回	Listening 小テスト 4 DVD による Dictation 4	Having a Party 聴解 Unit11 シニア PartI, PartII Short Reading Comment Writing

第 6 回	Listening 小テスト 5 DVD による Dictation 5	Health 聴解 Unit12 お金 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 7 回	Listening 小テスト 6 DVD による Dictation 6	Christmas 聴解 Unit13 猿 PartI, PartII Short Reading Comment Writing
第 8 回	Listening 小テスト 7 写真説明 Speaking1	Cleanup 聴解 Speaking & Writing TOEIC ® 写真問題 1
第 9 回	Listening 小テスト 8 写真説明 Speaking2	Our Traditions & Customs 聴解 Speaking & Writing TOEIC ® 写真問題 2
第 10 回	Listening 小テスト 9 英文エッセイについて 英語による質疑応答	Examinations 聴解 Paragraph から Essay へ 質疑応答練習
第 11 回	Listening 小テスト 10 プレゼンテーション原 稿作成 (1)	Housing 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿作成 発音練習 2
第 12 回	Listening 小テスト 11 プレゼンテーション原 稿作成 (2)	Review Test3・4 聴解 Introduction-Body-Conclusion のスピーチ原稿を作成 発音練習 3
第 13 回	プレゼンテーション	英語プレゼンテーションと質疑応 答
第 14 回	復習と試験	試験 (含 Listening)・まとめと解 説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Dictation に使うテキストの Web 動画マークのある箇所は、無料ストーリーミングで再生可能。リスニング小テストは毎回行いが、特に準備は必要ない。また、プレゼンテーションの英文原稿は授業中に作成するため自宅に持ち帰る必要はなく、授業中に作成したもの以外を使ってプレゼンテーションをすることは認めない。

【テキスト (教科書)】

Discovering Cool Japan (2019). 成美堂 (PartI の Dictation 用スクリプトはコピー冊子を配布)

Practical Situations for the TOEIC ® Test Listening (2020). 成美堂

このほか、Writing、Presentation などについてのプリントを適宜使用する。

【参考書】

Longman Academic Writing Series

研究社「英語モードが身につくライティング」

【成績評価の方法と基準】

平常点 50% (授業参加度 10%、Listening 小テスト平均点 10%、プレゼンテーション原稿 Writing 10%、スピーチ音声 10%、その他授業内課題 10%)、期末試験 50%。よって、評価点は試験 50 点、平常点 50 点で、合計 100 点とし、60%以上の得点で合格。授業初めにリスニング小テストを行うが、リスニングテスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、当日の小テスト点数も 0 点になる。遅刻・欠席は授業中にこなす課題の点が低くなり、評価点でたいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。なお、万一オンライン授業になった場合、各回の課題すべてを期限までに提出して出席となる。したがって、複数の課題があるときはすべて提出せねばならず、ひとつでも未提出だと欠席になる。また、オンライン授業でも授業時間中の参加を推奨しており、参加状況が良くないときは平常点に影響が出る。

【学生の意見等からの気づき】

教科書空欄の単語 Dictation はできるが、スクリプトを読んでも細かいところまで意味が理解できないというご意見をいただいた。このため、昨年度秋学期から始めたスクリプト日本語訳の試みを今年度も継続して授業中に行う。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書

【Outline (in English)】

This class focuses on listening and speaking English. The main textbook is composed of thirteen scripts of NHK Cool Japan, a TV program, and students have to fill in the blanks with words they dictate listening to a TV report and a studio discussion by foreigners in a DVD. The DVD has thirteen units such as Long-Established Business, Uniforms, Volunteer Work, High-Tech Living (Automobiles), Japanese Tableware, Homemakers of Japan, Seafood, Voice Actors, Japanized Foreign Dishes, Bags, Senior Citizens (Medical Checkups), Money, and Monkeys. Students can listen to English spoken not by a professional narrator but by ordinary people and this experience considerably contributes to improving listening proficiency. The sub textbook includes twenty-four short exams of TOEIC ® style listening, and students must take a short exam at the beginning of every class. Through these two kinds of listening activities, students can acquire listening ability and a skill of daily conversation enough to express themselves. Using these English conversation skills, students try to explain what is seen in a photograph which is taken from TOEIC ® speaking test. Moreover, they experience an English presentation, which enables them to have an opportunity of a public speaking to express his/her opinion and understand a logical way of English public speech writing. The required study time is at least one hour for each class meeting. Before each class meeting, students can listen to the English report and discussion in the textbook before class with streaming audio. They need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 50%, mini-listening test average score 10%, writing score 10%, speaking score 10%, and in class contribution 20%.

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

ESTHER STOCKWELL

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the textbook, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Hosei Learning Management System (hoppii).

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、本科目の授業は原則としてオンラインで行います。オンライン授業では、①学習支援システム（Hoppii）と② ZOOM（映像授業と小グループ、クラスディスカッション）、二つのツールを利用して行う予定です。

まず、①学習支援システム（Hoppii）についてですが、学習資料（Listening 音源）をアップロードします。学生はその Listening 音源と教科書を利用して、自習することができます。② ZOOM を利用して、オンラインでインタラクティブ映像授業を行います。対面授業と同じ方法で、教科書を持って、ZOOM のオンライン授業に参加してください。オンライン授業の中には毎週 Vocabulary Quiz とグループディスカッションも行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course	Overview of English 2-I subject and explaining online activities
Unit 1	Greetings & small talk	Listening for greetings and introduction
Unit 2	Making weekend plans	Listening for gist and time and number
Unit 3	Making complains	Listening for jobs, gist and details
Unit 4	Asking for reasons	Listening for reasons and details
Unit 5	Talking about people	Listening for praise or criticism and gist
Unit 6	Travel stories	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 2 to week 7 / After testing, check the test content

Unit 7	Talking about housing	Listening for negative and positive information
Unit 8	Telling stories	Listening for gist and details
Unit 9	Invitations	Listening for gist and details
Unit 11	Giving opinions Talking about a vacation	Listening for agreement and disagreement
Unit 12	Talking about cities improvement	Listening for gist and details Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 9 to week 13 / After the test, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about one hour to prepare and review a class.

【テキスト（教科書）】

書 名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

学習支援システム（Hoppii）

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations. Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

ESTHER STOCKWELL

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the textbook, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Hosei Learning Management System (hoppii).

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、本科目の授業は原則としてオンラインで行います。オンライン授業では、①学習支援システム (Hoppii) と② ZOOM (映像授業と小グループ、クラスディスカッション)、二つのツールを利用して行う予定です。

まず、①学習支援システム (Hoppii) についてですが、学習資料 (Listening 音源) をアップロードします。学生はその Listening 音源と教科書を利用して、自習することができます。② ZOOM を利用して、オンラインでインタラクティブ映像授業を行います。対面授業と同じ方法で、教科書を持って、ZOOM のオンライン授業に参加してください。オンライン授業の中には毎週 Vocabulary Quiz とグループディスカッションも行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 19	Talking about special days	Overview of English 2-II subject and Listening for gist, details, likes and dislikes
Unit 14	Describing clothes, time and numbers	Listening for gist and time and number
Unit 15	Asking about preferences	Listening for agreement and disagreement
Unit 16	Leaving and taking messages	Listening for topics and details
Unit 17	Talking about past events	Listening for sequence and making predictions
Unit 18	Talking about vacations and making a plan	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 1 to week 6 / After testing, check the test content

Unit 19	Talking about current events	Listening for topics and details
Unit 20	Expressing your views and opinions	Listening for gist, details, opinions and reasons
Unit 21	Describing famous people lives	Listening for gist, detail and sequence
Unit 22	Talking about food and nutrition	Listening for suggestions and sequence
Unit 23	Talking about difficult situations	Listening for details and attitudes
Unit 24	Talking about global issues	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 8 to week 13 / After testing, check the test content

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about one hour for preparation and review a class.

【テキスト (教科書)】

書 名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

学習支援システム (Hoppii)

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations. Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

LANe100LA

English 2 - I

2017 年度以降入学者

ESTHER STOCKWELL

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the textbook, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Hosei Learning Management System (hoppii).

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、本科目の授業は原則としてオンラインで行います。オンライン授業では、①学習支援システム（Hoppii）と② ZOOM（映像授業と小グループ、クラスディスカッション）、二つのツールを利用して行う予定です。

まず、①学習支援システム（Hoppii）についてですが、学習資料（Listening 音源）をアップロードします。学生はその Listening 音源と教科書を利用して、自習することができます。② ZOOM を利用して、オンラインでインタラクティブ映像授業を行います。対面授業と同じ方法で、教科書を持って、ZOOM のオンライン授業に参加してください。オンライン授業の中には毎週 Vocabulary Quiz とグループディスカッションも行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course	Overview of English 2-I subject and explaining online activities
Unit 1	Greetings & small talk	Listening for greetings and introduction
Unit 2	Making weekend plans	Listening for gist and time and number
Unit 3	Making complains	Listening for jobs, gist and details
Unit 4	Asking for reasons	Listening for reasons and details
Unit 5	Talking about people	Listening for praise or criticism and gist
Unit 6	Travel stories	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 2 to week 7 / After testing, check the test content

Unit 7	Talking about housing	Listening for negative and positive information
Unit 8	Telling stories	Listening for gist and details
Unit 9	Invitations	Listening for gist and details
Unit 11	Giving opinions Talking about a vacation	Listening for agreement and disagreement
Unit 12	Talking about cities improvement	Listening for gist and details Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 9 to week 13 / After the test, check the test content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about one hour for preparation and review a class.

【テキスト（教科書）】

書 名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

学習支援システム（Hoppii）

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations. Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

LANe100LA

English 2 - II

2017 年度以降入学者

ESTHER STOCKWELL

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 1/Thu.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of communication, and to help learners with everyday conversation, centred around listening, pronunciation and communication strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2

【授業の進め方と方法】

In the subject, we will cover each unit of the textbook, using online resources as supplements. Classes will involve pair and group work. Students can practice their listening skills with the provided online resources.

Feedback on assignments submitted by students will be provided in class or through the Hosei Learning Management System (hoppii).

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、本科目の授業は原則としてオンラインで行います。オンライン授業では、①学習支援システム (Hoppii) と② ZOOM (映像授業と小グループ、クラスディスカッション)、二つのツールを利用して行う予定です。

まず、①学習支援システム (Hoppii) についてですが、学習資料 (Listening 音源) をアップロードします。学生はその Listening 音源と教科書を利用して、自習することができます。② ZOOM を利用して、オンラインでインタラクティブ映像授業を行います。対面授業と同じ方法で、教科書を持って、ZOOM のオンライン授業に参加してください。オンライン授業の中には毎週 Vocabulary Quiz とグループディスカッションも行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 13	Talking about special days	Overview of English 2-II subject and Listening for gist, details, likes and dislikes
Unit 14	Describing clothes, time and numbers	Listening for gist and time and number
Unit 15	Asking about preferences	Listening for agreement and disagreement
Unit 16	Leaving and taking messages	Listening for topics and details
Unit 17	Talking about past events	Listening for sequence and making predictions
Unit 18	Talking about vacations and making a plan	Listening for acceptances, refusals and comparisons
Mid-term Test	Listening test	Review the content from week 1 to week 6 / After testing, check the test content

Unit 19	Talking about current events	Listening for topics and details
Unit 20	Expressing your views and opinions	Listening for gist, details, opinions and reasons
Unit 21	Describing famous people lives	Listening for gist, detail and sequence
Unit 22	Talking about food and nutrition	Listening for suggestions and sequence
Unit 23	Talking about difficult situations	Listening for details and attitudes
Unit 24	Talking about global issues	Listening for preferences and advice
End-term Test	Listening test	Review the content from week 8 to week 13 / After testing, check the test content

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Therefore, students are expected to take about one hour for preparation and review a class.

【テキスト (教科書)】

書 名: Expanding Tactics for Listening (Third Edition)

著者名: Jack C. Richards with Grant Trew

発行所: Oxford University Press

【参考書】

Listening website for this class:

www.oup.com/elt/tacticsforlistening3e

学習支援システム (Hoppii)

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%). If students miss 4 classes or more, they cannot pass this subject.

【学生の意見等からの気づき】

There were no particular requirements for this course from students. However, I would like to mention that students are expected to participate actively in class.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is the development of English listening skills. The course provides practice in conversation and listening across a wide range of subjects and situations. Students are expected to listen to the reference materials for the next class. In addition, they need to prepare for a weekly quiz on the units of the previous class. Assessment will consist of in-class participation (30%), two listening tests (40%), and ten weekly quizzes (30%).

LANe100LA		
英語 1 – I		
2017 年度以降入学者		
大曲 陽子		
開講時期：春学期授業/Spring 曜日・時限：月 1/Mon.1		
単位数：1 単位		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻く経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。		
【到達目標】		
タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方などを身に着けることも目指す。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1		
【授業の進め方と方法】		
本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（資料配布型）とする。		
ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。1 回目の授業では各自記事を読んで TF 内容問題に取り組み、Answer sheet を配布するので煽れに解答を記入して Hoppii を通して提出する。2 回目の授業では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、自分の考えをまとめる。		
Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。		
授業で取り上げる Chapter は以下の 6 つとする		
Chapter 1,4,5,7,8,10		
前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。		
適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。		
課題等に対するフィードバック方法		
毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。		
小テストは採点返却される。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	ガイダンス	初回授業 時事問題のプリント配布。
2	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 4/20
3	Unit 1 100-Yen Shops: Still going strong	本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think? 主にグループワークで行う。(英語解答)
4	Unit 4 Universal Basic Income: An idea whose time has come?	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 5/12
5	Unit 4 Universal Basic Income: An idea whose time has come?	Unit 1 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。
6	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 5/25
7	Unit 5 Remote Work: A new way to live and work	Unit 4 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think? (英語解答) 主にグループワークで行う。
8	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 6/8
9	Unit 7 The Secret Life of Gamers: The boy who escaped his body	Unit 5 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think? (英語解答) 主にグループワークで行う。
10	Unit 8 Social Media: Big Tech's addiction to addiction	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 6/22
11	Unit 8 Social Media: Big Tech's addiction to addiction	Unit 7 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think? (英語解答) 主にグループワークで行う。
12	Unit 10 Happiness: What is the secret?	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 7/6
13	Unit 10 Happiness: What is the secret?	Unit 8 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think? (英語解答) 主にグループワークで行う。
14	これまでのまとめと期末試験	これまでのまとめ Unit 10 語彙小テスト 期末試験
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習、復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各 Unit の Key Vocabulary を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。本文を各自読み込み内容理解をして対面授業に臨むこと。		
【テキスト（教科書）】		
Understanding the World Today 現代を取り巻く新しい真実 Dave Rear 著 成美堂 2090 円（税込み）		
【参考書】		
特になし。 辞書必携		

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

オンライン 10 点 10% (Answer Sheet の
空欄が全て解答されていること)
対面 10%

小テスト 10 点 × 6 回分 60 点 30%

期末試験 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が
全て記載されていて (解答されていて)、その授業回を出席とする。
(空欄の内容に全て解答すること)

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声
をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用する
か、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The aim of this course is help students acquire an understanding
the international situation, an environmental problem,
natural disasters, culture
and so on through the essays.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、
構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、
今社会を取り巻く経済不況や災害、環境問題や文化などの多岐にわ
たるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要と
する情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リー
ディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだ
けでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人
たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけ
でなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方などを身に着
けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
た能力を習得することができる (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャ
リアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業 (資
料配布型) とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。1 回目の授業では
各自記事を読んで TF 内容問題に取り組み、Answer sheet を配布
するので漏れに解答を記入して Hoppii を通して提出する。2 回目
の授業では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を
行い、自分の考えをまとめる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

授業で取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 13, 14, 15, 17, 18, 20

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、
後半の授業では exercise を解きながら精読する。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指
定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。
対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warming Up	履修者締め切り 時事問題プリント教材
2	Unit 13 Mentalism: Mastering the human brain	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 10/5
3	Unit 13 Mentalism: Mastering the human brain	本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。

4	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 10/17	オンライン 10 点 空欄が全て解答され 対面 10%	10% (Answer Sheet の 10%)
5	Unit 14 The Origins of Language: How did humans learn to speak	Unit 13 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。	小テスト 10 点 ×6 回分 60 点 期末試験 50%	30%
6	Unit 15 Memory Hack: The One Study habit every student needs to know	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 11/2	【学生の意見等からの気づき】 トピックに関連したプリントを配布する。	
7	Unit 15 Memory Hack: The One Study habit every student needs to know	Unit 14 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。	【学生が準備すべき機器他】 パソコン、スマートフォン使用。 課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声 をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。	
8	Unit 17 Vaccines: A History of keeping us safe	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 11/16	【その他の重要事項】 欠席は 3 回までとする。 担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用する か、または以下のアドレスにメールで連絡をください。 yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp	
9	Unit 17 Vaccines: A History of keeping us safe	Unit 15 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。	【Outline (in English)】 The aim of this course is help students acquire an understand- ing the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.	
10	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money?	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 11/30		
11	Unit 18 International Space Station: Is it worth the money?	Unit 17 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。		
12	Unit 20 Helping Hands: The growing role of robots in Japan	Key Vocabulary , True or False 提出締め切り 12/13		
13	Unit 20 Helping Hands: The growing role of robots in Japan	Unit 18 語彙小テスト 本文内容の確認 テキスト後半 Finding Specific Information, (日本語解答) What do you think?(英語解答) 主にグループワークで行う。		
14	これまでのまとめと期 末試験	Unit 20 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should
be around an hour a week for a one-credit course.

各 Unit の Key Vocabulary を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。
本文を各自読み込み内容理解をして対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Understanding the World Today 現代を取り巻く新しい真実
Dave Rear 著
成美堂 2090 円（税込み）

【参考書】

特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英字新聞を教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
- ・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
- ・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
- ・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
- ・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
- ・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は【対面授業】です。ただし、スピーキングを重点的に確認する機会を設けるため、Zoom を用いたオンライン授業を 2 回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

ユニット 1 つにつき、2 回の授業を充てる。

1 回目の授業は、リスニングと読解 (大意把握、精読) を中心に進める。

2 回目の授業では、読解 (精読の続き) と文法事項の確認、作文を行う。

いずれの授業でも、グループやペアで英語を話す時間を設ける。なお、提出した課題 (作文等) はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 2: Treaty to eliminate nukes takes effect	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
3	Unit 2: Treaty to eliminate nukes takes effect	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
4	Unit 3: Lockdown-weary Malaysians get appetite for drive-in dining	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
5	Unit 3: Lockdown-weary Malaysians get appetite for drive-in dining	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文

6	Unit 6: Black kings, but no politics - Murphy returns in Coming 2 America	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
7	Unit 6: Black kings, but no politics - Murphy returns in Coming 2 America	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
8	Unit 7: Learning as avatars may become new norm	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
9	Unit 7: Learning as avatars may become new norm	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
10	Online safaries, tours keep everyone safe	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
11	Online safaries, tours keep everyone safe	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
12	Harvard astronomer argues that alien vessel paid us a visit	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
13	Harvard astronomer argues that alien vessel paid us a visit	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

[1 回目の授業前] 1. 記事を読み上げた音声をおおまかに聞き取れるようにしておく。2. 記事を読んで大意を把握する。3. 単語や文法事項について調べておく。4. 学習支援システムの予習問題に解答する。(以上 1 時間程度)

[2 回目の授業後] 1. 学習支援システムの復習問題に解答する。2. 作文を仕上げて提出する。(以上 1 時間程度)

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Meet the world 2022 (若有保彦編、成美堂、2022 年、2,200 円)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%

平常点 (作文、スピーキング、予習・復習の提出状況、受講態度) 40%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当のため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書 (電子辞書可)。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】

Through reading English newspaper articles, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.

The goals of this course are to understand basic sentence structures and grammatical rules, acquire reading skills to gather and analyze information, and to improve ability in listening and writing.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.

Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in class contribution including assignment submissions (40%).

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英字新聞を教材として、正確にかつ批評的に「読む」力の向上を図るとともに、コミュニケーションに必要な「聴く・話す・書く」能力を養い、英語で発信される情報に対応できるようになる。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・英文を速読してその大意や要点、おおまかな構造をつかむことができるようになる。
- ・文章に使われている構文や文法を把握できるようになる。
- ・精読を通して書き手の考えや論理の展開について分析することができるようになる。
- ・標準的な速度で話される英語をおおまかに聞き取ることができるようになる。
- ・簡潔な英語で物事を説明したり、自分の考えを表明したりできるようになる。
- ・ニュースに使われる語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は【対面授業】です。ただし、スピーキングを重点的に確認する機会を設けるため、Zoom を用いたオンライン授業を 2 回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

ユニット 1 つにつき、2 回の授業を充てる。

1 回目の授業は、リスニングと読解（大意把握、精読）を中心に進める。

2 回目の授業では、読解（精読の続き）と文法事項の確認、作文を行う。

いずれの授業でも、グループやペアで英語を話す時間を設ける。なお、提出した課題（作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明、春学期の復習
2	Unit 11: Remnants of 'railway on the shore'	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
3	Unit 11: Remnants of 'railway on the shore'	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
4	Unit 12: AI to protect crowding at evacuation centers	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
5	Unit 12: AI to protect crowding at evacuation centers	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文

6	Unit 13: U.S. seeks participation of Japan, 'Five Eyes' in 5G team versus China	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
7	Unit 13: U.S. seeks participation of Japan, 'Five Eyes' in 5G team versus China	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
8	Unit 14: Labor ministry mulls plan for flexible childcare leave	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
9	Unit 14: Labor ministry mulls plan for flexible childcare leave	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
10	Unit 16: U.S. military families support Tohoku	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
11	Unit 16: U.S. military families support Tohoku	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
12	Unit 19: Young Singapore chefs serve up hopes for street food's future	リスニング、大意把握、内容についてのスピーキング、精読
13	Unit 19: Young Singapore chefs serve up hopes for street food's future	精読、文法事項の確認、作文のテーマについてのスピーキング、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【1 回目の授業前】 1. 記事を読み上げた音声をおおまかに聞き取れるようにしておく。2. 記事を読んで大意を把握する。3. 単語や文法事項について調べておく。4. 学習支援システムの予習問題に解答する。（以上 1 時間程度）

【2 回目の授業後】 1. 学習支援システムの復習問題に解答する。2. 作文を仕上げて提出する。（以上 1 時間程度）

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Meet the world 2022（若有保彦編、成美堂、2022 年、2,200 円）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%

平常点（作文、スピーキング、予習・復習の提出状況、受講態度）40%
欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当のため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】

Through reading English newspaper articles, students will develop their abilities to correctly understand and critically evaluate English texts. Students will also improve their basic English skills through listening, speaking, and writing activities.

The goals of this course are to understand basic sentence structures and grammatical rules, acquire reading skills to gather and analyze information, and to improve ability in listening and writing.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments. Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in class contribution including assignment submissions (40%).

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1
単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代米国の文化や社会について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションやライティングを行う。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

授業は Zoom を通じて行い、試験のみ対面とする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	America's Easter Tradition
2	Chapter 2	America's Inner-city Music
3	Chapter 3	African American Music
4	Chapter 4	The American Academy of Motion Picture Arts and Sciences
5	Chapter 5	American Fashion
6	Chapter 6	American Universities
7	Chapter 7	American Social Networking
8	Chapter 8	American Innovators and Innovation
9	Chapter 9	American Football
10	Chapter 10	Hollywood
11	Chapter 11	Walt Disney
12	Chapter 12	Historic Route 66
13	Chapter 13	American Fast Food
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Warm-up に取り組み、Reading1 および 2 のテキストを読み、訳してくる。ノートに日本語訳を用意し、授業時に淀みなく答えられるよう準備しておく。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておく。

【テキスト（教科書）】

Ryan Smithers, Craig Gamble 『Modern America: Culture, Society and History/現代米国の文化・社会・歴史』（松柏社、2021 年）、2000 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

試験 80%

4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline (in English)】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern America.

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英国の社会・文化について書かれた英文の読解を通して、複数のパラグラフから成る英文を正確に理解するためのリーディング・スキルと、音声から英語を聞き取って理解するリスニング・スキルを身につける。同時に、英語を通して情報を得、自分の意見を持つことができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・英語の文章を、パラグラフの構成を意識して正確に読む能力を身につける
- ・英語の文章を正確に聞き取る能力を身につける
- ・基本的な文法力を向上させる
- ・語彙力を増やす
- ・論理的な思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

一回の授業につき一つの unit を扱う。テキストの聞き取りと精読を行い、演習問題で内容の理解度を確認し、ディスカッションやライティングを行う。課題の提出やフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

授業は Zoom を通じて行い、試験のみ対面とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Multi-Cultural UK
2	Chapter 2	English Gardens
3	Chapter 3	The British Royal Family
4	Chapter 4	Education in the UK
5	Chapter 5	Eating in Britain
6	Chapter 6	Health & the Medical System
7	Chapter 7	Music & Fashion
8	Chapter 8	Tourism
9	Chapter 9	Post Brexit Britain
10	Chapter 10	Leisure & Sport in the UK
11	Chapter 11	The British Empire
12	Chapter 12	Media in the UK
13	Chapter 13	Regions of Britain
14	期末試験	復習と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

必ず事前に Warm-up に取り組み、Reading1 および 2 のテキストを読み、訳してくる。ノートに日本語訳を用意し、授業時に読みなく答えられるよう準備しておくこと。わからない箇所があれば、何がわからないか明らかにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

James C. House, 三好道子 『Modern Britain: Culture, Society and History/現代英国の文化・社会・歴史』（松柏社、2021 年）、2000 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

試験 80%

4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline (in English)】

This class aims to develop the abilities to read and listen to English materials and learn how to collect intelligence and to express their opinions in English. The materials are about culture and society of modern Britain.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

UK ロックの歴史を 50 年代から現代まで辿るテキストを使う。その精読及び速読を通して読解力を強化し、イギリスに対する理解を深めるとともに文化と社会の関係について考える。また、イギリス史を足掛かりに共時態の視点から日本の戦後史を見直し、歴史経験の違いと普遍性を見て行く。さらに、テキストに設定されたディベート演習を通して批判的な思考と論理的な文章を書く力を養う。テキストにはロックソングが教材として取り上げられているが、そのほかに映画などを追加して英語の音声に慣れる機会も設ける。

【到達目標】

- (1) 単語の意味をつないで適当に文意を類推するのではなく、文の構造や修飾関係を正確に把握した上で内容が理解できる。
- (2) 様々なテーマについて複数の立場から考え、自分の考えを平易な英語で書くことが出来る。
- (3) 英語の音声に慣れ、ポイントとなる部分を正しく聞き取ることが出来る。
- (4) 歴史を踏まえて異文化を理解することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を行います。テキストは全部で 15 ユニットから成っていますが、春学期は Unit 7 まで (ロック前史から 70 年代前半のパンクの登場まで) を扱い、映画鑑賞なども挟んで、60 年代と 70 年代前半を丁寧に見て行きます。テキストは精読、速読を取り混ぜ、意味や構文の取りにくい文に特に注意を払いながら読んでいきますが、予習を促し理解を深めるため、プリント教材による読解演習などを追加する予定です。各ユニットの Debate & Further Research のセクションについてはテキストのテーマには必ずしもとらわれず、日本社会も意識しつつ新たなテーマを設定し、自分の意見を短いレポート (英文、又は和文) にまとめてもらいます。(事情が許せば、グループトークの形でクラスメイトと意見交換してもらいましょう。) また、映画鑑賞の時間を設けるほか、テキストとは別にリスニング演習を加えます。

なお、提出してもらった課題は個々に採点等して返却するか、または授業内で全体としてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や英語読解のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Reading Practice Learning about History	Unit 1 Introduction: Rock Roots 若者文化台頭の歴史的背景
3	Reading Practice Writing Skills	Unit 1 パラグラフの構造について
4	Reading Practice Watching a Film	Unit 3 Early 1960s: Enter Rock and Roll <i>The Boat That Rocked</i> (1)
5	Learning about History Watching a Film	60 年代のイギリスと日本 <i>The Boat That Rocked</i> (2)

6	Reading Practice	Unit 3
	Discussing a Social Issue	60 年代の社会と文化に関連したテーマについて考える (1)
7	Reading Practice	Unit 4 Later 1960s: Into Psychedelic (速読)
8	Reading Practice	Unit 4 + Unit 6 Early 1970s: Glam Rock
9	Reading Practice	Unit 6
10	Discussing a Social Issue	60 年代の社会と文化に関連したテーマについて考える (2)
	Learning about History	70 年代前半のイギリスと日本
11	Reading Practice	Unit 7 Mid-1970s: Punk Rock
12	Reading Practice	Unit 7
	Learning about History	70 年代後半のイギリスと日本
13	Reading Practice	Unit 7
	Discussing a Social Issue	パンクロックをめぐるテーマについて考える
14	期末テスト	総括 + 読解の復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
Reading Passage の予習は必須。未知の単語を調べるのは勿論のこと、すぐに答えられるよう、精読のユニットはきちんと和訳しておく。また、文の構造や文意についても自分の頭でよく考え、疑問点があれば洗い出し、授業で質問して解消した上で復習する。クラスメートとの意見交換、又はレポートのため必要なりサーチを行い、短い英語または日本語の文章を用意する。

【テキスト（教科書）】

Paul Hullah & 寺西雅之 *Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価の方法＞

- ・期末に読解の復習テストを実施します。
 - ・小テスト形式の読解演習（辞書参照可）を適宜行い、短い英作文を課します。
 - ・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。
- ＜成績評価基準・評価の配分等＞
- ・期末テストと読解演習は到達目標の (1)(4) に対応し、授業を真面目によく聞き、学習したことがきちんと身についているかどうか、地道な努力が出来ているかどうかを見ます。
 - ・英作文やレポート／ディベートは到達目標の (1)～(4) に対応し、必要な資料を読み込んだり聞いたりして、自分の考えを論理的かつ正確でわかりやすい英語又は日本語で表現出来ているかどうかを見ます。
 - ・上記のほか、到達目標の (1)～(4) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末テスト (50%)、読解演習及びレポート、もしくはディベート用英作文 (30%)、平常点（英作文以外の提出物、授業内の読解やリスニングなどの演習、その他授業への貢献度など）(20%)

【学生の意見等からの気づき】

説明は口頭だけでなく板書やプリントも活用し、クラスメートとの意見交換の時間を出来るだけ取るようにします。

【その他の重要事項】

感染状況などによりオンライン授業に切り替える可能性もあります。

【Outline (in English)】

It is often said that in Britain the movements and styles of rock music, a key element of youth culture, are closely connected with the period and social climate from which they emerge. In this course, therefore, students will see how rock songs have reflected the views and moods of British people since the 1950s when rock music first arrived in Britain from the U.S. By reading the texts carefully, they are expected to develop the reading skills necessary to grasp the structure of complex sentences accurately. They will also, by exploring the history of UK rock music, not only learn more about Britain and the British but also understand the historical relationship between culture and society. Thereby, they will be able to expand their horizons as well. There will also be time for debate or group talk, and students are required to write, in English, a few short essays for them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 50%, reading comprehension tasks & writing assignments 30%, and in-class contribution 20%

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

80 年代から 2000 年代にいたる文化と歴史の関係について、特に 80 年代と 90 年代を中心にイギリスと日本を比較しながら考察する。また、引き続き Writing と Listening の力の向上も目指し、Reading については、正確に、かつ速くたくさん読める力を養う。

【到達目標】

- (1) Reading, Listening とともに英語の語順通りに意味を取ることが出来る。
- (2) 速読のコツを掴み、効率的な読み方が出来る。
- (3) レポート課題又はディベートを通して自分の考えを論理的かつ説得力のある英語または日本語で表現し、異文化や社会の課題についてより深く批判的な考察が出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じで、テキスト後半の Unit 9 からを対象とします。また、Skimming や Scanning などの代表的な速読方法を学び、より効率的な速読が出来るようにします。

課題に対するフィードバックについても、春学期同様、課題の性質により個々に返却するか、もしくは授業内で全体に対して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Reading Skills Learning about History	Skimming & Scanning について 80 年代のイギリスと日本
2	Reading Practice	Unit 12 Women in UK Rock (速読)
3	Reading Practice	Unit 12 + Unit 9 Early 1980s: New Romanticism and others
4	Reading Practice Discussing a Social Issue	Unit 9 フェミニズムに関連したテーマについて考える
5	Reading Practice	Unit 9 + Unit 10 Later 1980s: Romantic Realism
6	Reading Practice Watching a Film	Unit 10 Billy Elliot (1)
7	Reading Practice Watching a Film	Unit 10 Billy Elliot (2)
8	Reading Practice Learning about History	Unit 11 1990s: Britpop 90 年代のイギリスと日本
9	Reading Practice Discussing a Social Issue	Unit 11 80 年代の社会に関連したテーマについて考える
10	Reading Practice	Unit 14 2000s-Present: Where Now? Where Next?
11	Thinking about the Problems of Modern Society	21 世紀を迎えたイギリスと日本 : 現代社会の諸問題

12	Reading Practice Discussing a Social Issue	Unit 14 21 世紀を迎えた社会もしくはジェンダーに関連したテーマについて考える
13	Reading Practice	Unit 15 Conclusion: Function of Rock (速読)
14	期末テスト	総括 + 読解の復習テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。春学期同様、Reading Passage の予習は必須。ほかに、読解演習のプリントなどを使った復習やレポート又はディベートに備えたりサーチ及び英作文など。

【テキスト (教科書)】

Paul Hullar & 寺西雅之 *Rock UK - A Cultural History of Popular Music in Britain* (2012 CENGAGE Learning)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法>

- ・期末に読解の復習テストを実施します。
- ・小テスト形式の読解演習 (辞書参照可) を適宜行い、短い英作文を課します。

・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

<成績評価基準・評価の配分等>

- ・期末テストと読解演習は到達目標の (1)(2) に対応し、授業を真面目によく聞き、学習したことがきちんと身につけているかどうか、要点をしっかりと把握し、正確な読みが出来ているかどうかを見ます。
- ・英作文やレポート／ディベートは到達目標の (1)~(3) に対応し、与えられた資料だけでなく、自分でも必要な資料を集め、これを読み込んだり聞いたりした上で、自分の考えを論理的かつ正確でわかりやすい英語または日本語で表現出来ているかどうかを見ます。
- ・上記のほか、到達目標の (1)~(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末テスト (50%)、読解演習及びレポート／ディベート用英作文 (30%)、平常点 (英作文以外の提出物、授業内の読解やリスニングなどの演習、その他授業への貢献度など) (20%)

【学生の意見等からの気づき】

説明は口頭だけでなく板書やプリントも活用し、クラスメートとの意見交換の時間を出来るだけ取るようにします。

【その他の重要事項】

感染状況などによりオンライン授業に切り替える可能性もあります。

【Outline (in English)】

You will continue to read about the historical relationship between culture and society from the 1980s to the present and to compare the post-war histories of Britain and Japan. In addition, you are expected to understand complex sentences as you read them without translating each of them into Japanese, which is necessary for extensive reading and should also lead to your developing confidence in listening.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 50%, reading comprehension tasks & writing assignments 30%, and in-class contribution 20%

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら、人口問題、温暖化等の環境問題について考える。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。レポートは評価を付け後日返却する。オンライン授業に移行した際は、資料配布型の授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その① (資金提供)
第 3 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その② (外国代表)
第 4 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その③ (好印象)
第 5 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その④ (日本の過ち)
第 6 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑤ (公害病)
第 7 回	ストックホルム宣言	ストックホルム宣言に関する英文記事その⑥ (日本の貢献)
第 8 回	ストックホルム宣言	宣言文その① (環境の被造物)
第 9 回	ストックホルム宣言	宣言文その② (人間環境)
第 10 回	ストックホルム宣言	宣言文その③ (人間の能力)
第 11 回	ストックホルム宣言	宣言文その④ (発展途上国)
第 12 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑤ (低開発)
第 13 回	ストックホルム宣言	宣言文その⑥ (人口増加)
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

環境問題に関する基本的英文の理解力を試す。

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

This class will show you how your English reading skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to have your original opinions on environment.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら。温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。後日評価を付け返却する。オンライン授業に移行した際は、資料配布型の授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その① (自然環境)
第 2 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その② (責任)
第 3 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③ (天然資源)
第 4 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④ (アメリカンモデル)
第 5 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑤ (ブッシュ政権)
第 6 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑥ (アメリカの無能さ)
第 7 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その⑦ (日本の例)
第 8 回	東京宣言	宣言文その① (戦後期の日本)
第 9 回	東京宣言	宣言文その② (自然尊重)
第 10 回	東京宣言	宣言文その③ (日本社会の変化)
第 11 回	東京宣言	宣言文その④ (アメリカの弱点)
第 12 回	東京宣言	宣言文その⑤ (愛知和夫の希望)
第 13 回	東京宣言	宣言文その⑥ (日本の行動)
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

This class will show you how your English reading skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to have your original opinions on environment.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

鈴木 博雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学 1 年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【到達目標】

日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・英語の文章の構造を踏まえながら、精読、速読の作業を並行して行う。
- ・質疑応答により、予習や復習の状況を確認する。
- ・課題等に対するフィードバックは提出直後に口頭やコメント記述により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト Unit 1 前半	The amazing flying chair ①
2	テキスト Unit 1 後半	The amazing flying chair ②
3	テキスト Unit 2 前半	Dropping out of high school ①
4	テキスト Unit 2 後半	Dropping out of high school ②
5	テキスト Unit 3 前半	Bad medical advice?①
6	テキスト Unit 3 後半	Bad medical advice?②
7	テキスト Unit 4 前半	The Colonel's bad luck ①
8	テキスト Unit 4 後半	The Colonel's bad luck ②
9	テキスト Unit 5 前半	A world without birds ①
10	テキスト Unit 5 後半	A world without birds ②
11	テキスト Unit 6 前半	The great invention ①
12	テキスト Unit 6 後半	The great invention ②
13	テキスト Unit 7 前半	Garlic, wonder root ①
14	テキスト Unit 7 後半	Garlic, wonder root ②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『Premium Reader』（金星堂）

【ISBN：978-4-7647-3909-3】

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60%）、期末試験点（40%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
- ・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline (in English)】

- ① Reading everyday English, which will develop the basic skills to independently read English texts of various topics.
- ② Increasing basic vocabulary and improving the ability to read between the lines and summarize the text.
- ③ Reading the text carefully, using a dictionary to deepen the understanding of the content.
- ④ Evaluation will be made based on a comprehensive assessment method as follows:(1) Attitude toward the course, preparation and review, quizzes, etc.=60% (2)Final exam score=40% (3)In principle, students who are absent more than four times in a semester will not be allowed to receive the credit.
- ⑤ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

鈴木 博雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、日常的なテーマを扱った英文を読みながら、基礎語彙を増やし、行間を読む力や要約力を高める。その過程で英文内容についての質疑応答も行い、英語読解力を応用して、リスニングやスピーキングの基礎的なスキルを向上させる。

【到達目標】

春学期に養成した学力を踏まえ、大学 1 年次生が読解するのに相応しい日常的な英語を読むことにより、専門課程に進級したり、社会に出た後も、自らの関心や目的に沿って、さまざまな文体や話題の英文を主体的に読むための基礎力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・英語の文章の構造を踏まえながら、春学期よりも一層高度な精読、速読の作業を並行して行う。
- ・英文内容についての質疑応答を行い、予習、復習の状況を確認する。
- ・課題等に対するフィードバックは提出直後に口頭やコメント記述により行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 8 前半	John Chapman, a strange, but heroic man ①
2	Unit 8 後半	John Chapman, a strange, but heroic man ②
3	Unit 9 前半	Baseball curses ①
4	Unit 9 後半	Baseball curses ②
5	Unit 10 前半	Untimely death ①
6	Unit 10 後半	Untimely death ②
7	Unit 11 前半	Train gropers ①
8	Unit 11 後半	Train gropers ②
9	Unit 12 前半	Japan saves an anime star ①
10	Unit 12 後半	Japan saves an anime star ②
11	Unit 13 前半	Seeing red ①
12	Unit 13 後半	Seeing red ②
13	Unit 14 前半	What's your wish?①
14	Unit 14 後半	What's your wish?②

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。辞書を活用しながら、テキストを精読し、内容理解を深めておく。不明な点にマークし、質問事項をまとめておく。その他、必要に応じて前時に指示します。

【テキスト（教科書）】

『Premium Reader』（金星堂）

【ISBN：978-4-7647-3909-3】

【参考書】

適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（受講姿勢、予習、復習の状況、小テストなど）（60%）、期末試験点（40%）を総合的に判断して評価する。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

- ・英語を読むことの楽しさを味わいながら、大学英語の基礎力の充実を図りたい。
- ・個々の学生の語学力を伸ばす工夫を凝らしたい。

【Outline (in English)】

- ① Reading everyday English, which will develop the basic skills to independently read English texts of various topics.
- ② Increasing basic vocabulary and improving the ability to read between the lines and summarize the text.
- ③ Reading the text carefully, using a dictionary to deepen the understanding of the content.
- ④ Evaluation will be made based on a comprehensive assessment method as follows:(1) Attitude toward the course, preparation and review, quizzes, etc.=60% (2)Final exam score=40% (3)In principle, students who are absent more than four times in a semester will not be allowed to receive the credit.
- ⑤ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料と食文化のグローバル化に伴い、外国人との情報交換、海外への観光、留学などの可能性が増えています。この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得します。春学期は、読解力を身につけるために、通訳訓練法のスラッシュ・リーディングをして訳出テクニックを習得します。基礎的な英語をもう一度復習しながら、さらに英語力のレベルアップを図ります。

【到達目標】

- ・食文化をテーマに英米の文化を理解する
- ・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
- ・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、順番に訳出して、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・自己紹介ゲーム	授業内容、授業の進め方、成績のつけ方、出欠について説明する。自己紹介をする。
2	Unit 1 Counting Calories ①	On Dieting ダイエットについての語彙は英語表現について学ぶ
3	Unit 1 Counting Calories ②	Dieting: Japan VS. America 食について日本とアメリカの考え方の違いについて学ぶ
4	Unit 2 A New Sports Tradition ①	Before the Game 新しいスポーツの伝統として、テールゲートパーティーについて学ぶ
5	Unit 2 A New Sports Tradition ②	The Tailgate Party テールゲートパーティーの内容や、それについての語彙や英語表現について学ぶ
6	Unit 3 As American as Apple Pie ①	Homemade Apple Pie お茶に招かれて、手作りのアップルパイを出される設定の会話を学ぶ
7	Unit 3 As American as Apple Pie	An Apple a Day リンゴの栄養や、歴史について、語彙や英語表現を学ぶ。
8	Unit 4 Use as Directed	The Shimanto River and Sweetfish Dishes 四万十川とアユ料理についての語彙や英語表現について学ぶ

9	Unit 4 Use as Directed	Best-before and Use-by-Dates 賞味期限と消費期限の意味について、語彙や英語表現について学ぶ
10	Unit 5 The End of Home Cooking ①	Drive-Thru ドライブスルーでの会話について、語彙と英語表現について学ぶ
11	Unit 5 The End of Home Cooking ②	Cooking for a family VS. Eating Out 家庭料理 VS 外食のテーマで食文化の変化について、語彙や英語表現について学ぶ
12	Unit 6 Just Follow the Recipe ①	Mother's Curry 日本のカレーとインドのカレーの違いについて、語彙や英語表現について学ぶ
13	Unit 6 Just Follow the Recipe ②	Japanese Flavors and the Traditional Diet 日本の伝統料理についての語彙や英語表現について学ぶ
14	期末試験	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

準備学習：分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。

復習時間：授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生、鈴木理枝、関根紳太郎、宮下リンド、南雲堂

ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】

学生のレベルを鑑みて、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

平常点：50% (授業への参加度、態度、発表、小テスト)

成績評価の基準

- (1) 内容を把握しているか
 - (2) 適切に訳出できるか
 - (3) リスニング力が身についているか
- 欠席 4 回以上で、単位取得不可

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick response, shadowing, and synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.

Learning Objectives:

- (1) Understanding British and American culture with the theme of food culture
- (2) Acquire Listening skills
- (3) Learn translation techniques

Learning activities outside of classroom:

Preparatory learning:

For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.

Review:

Review that what you learned in class.

Grading Criteria/Policy:

Final exam: 50%

Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)

Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、食料と食文化のグローバル化に伴い、外国人との情報交換、海外への観光、留学などの可能性が増えています。この授業では、「現代の食をめぐる話題」と「英米の伝統的な祝祭と食文化」をテーマに取り上げ、日常生活に必要な英語を習得します。春学期は、読解力を身につけるために、通訳訓練法のスラッシュ・リーディングをして訳出テクニックを習得します。基礎的な英語をもう一度復習しながら、さらに英語力のレベルアップを図ります。

【到達目標】

- ・食文化をテーマに英米の文化を理解する
- ・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
- ・訳出テクニックを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、順番に訳出して、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・Unit 7 Supplemental Health	サブリメントに関する会話を通して、語彙と英語表現を習得する
2	Unit 8 Coffee or Tea?	コーヒーと紅茶の効用についての会話を通して、語彙と英語表現を習得する。
3	Unit 9 Fresh from the Garden	菜園についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
4	Unit 10 Local Delicacies	日本のご馳走についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
5	Unit 11 Halloween Barmbrack ①	アイルランドのハロウィーンのパンについての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
6	Unit 11 History of Halloween ②	ハロウィーンの歴史を読み、語彙や英語表現を習得する。
7	Unit 12 Thanksgiving Break	感謝祭休暇についての会話を通して、語彙や英語表現を習得する。
8	Unit 13 Turkey and All the Trimmings Christmas ①	クリスマスについての語彙や英語表現を習得する。
9	Unit 13 Christmas Recipe: Roast Turkey ②	クリスマス料理の定番料理であるロースターキーのレシピを読み、語彙や英語表現を習得する。

10	Unit 14 Saint Valentine's Day ①	バレンタインデーについての語彙 や英語表現を習得する。
11	Unit 14 St. Valentine ②	バレンタインデーの歴史について 読み、語彙や英語表現を習得す る。
12	Unit 15 The Meaning of Easter How to cook Hot Cross Buns ①	イースターのホットクロスバンズ についての会話を通して、語彙や 英語表現を習得する。
13	Unit 15 Celebrating Easter ②	イースターの意味や歴史について 読み、語彙や英語表現を習得す る。
14	期末試験	まとめ、期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

準備学習：分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておく
こと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をし
ておくこと。

復習：授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『Food for Thought』「現代の食を考える」須永紫乃生、鈴木理枝、
関根紳太郎、宮下リンダ、南雲堂

ISBN978-4-523-17651-0 C0082 1,700 円+税

【参考書】

学生のレベルを鑑みて、参考書を指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：50%

平常点：50% (授業への参加度、態度、発表、小テスト)

成績評価の基準

(1) 内容を把握しているか

(2) 適切に訳出できるか

(3) リスニング力が身についているか

欠席 4 回以上で、単位取得不可

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目のためアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick response, shadowing, and synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.

Learning objectives:

Learning activities of classroom

Preparatory learning

For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.

Review

Review that what you learned in class.

Grading Criteria/Policy

Final exam: 50%

Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)

Grade evaluation criteria

(1) Understanding the contents

(2) Appropriate translation

(3) Acquire listening skills

Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

英語 1 — I

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。
また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつ
かみ取る。

【到達目標】

英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説
明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャ
リアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによっ
て読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んで
いく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉
えたうえで文章全体の内容を適切に読み取っていく。さらに、構文
などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。また、課題等に対す
るフィードバックは、授業の始めに前回の学習内容の確認と併せて
クラス全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Chapter 1	授業の進め方およびテキストや成 績評価などの説明。ガイダンス後 に Chapter 1 に入る。
2	語彙の確認と内容の把 握	「イギリスの郵便制度」―読解に よる内容理解
3	構文の理解と練習問題	「イギリスの郵便制度」―練習問 題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把 握	「イギリス発祥のスポーツ」―読 解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	「イギリス発祥のスポーツ」―練 習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把 握	「ビートルズの国」―読解による 内容理解
7	構文の理解と練習問題	「ビートルズの国」―練習問題と 構文の確認
8	語彙の確認と内容の把 握	「ゆりかごから墓場まで?」―読解 による内容理解
9	構文の理解と練習問題	「ゆりかごから墓場まで?」―練習 問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把 握	「偉大なる小説家」―読解による 内容理解
11	構文の理解と練習問題	「偉大なる小説家」―練習問題と 構文の確認
12	語彙の確認と内容の把 握	「王室今昔物語」―読解による内 容理解
13	構文の理解と練習問題	「王室今昔物語」―練習問題と構 文の確認
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

授業の前に本文の単語を調べて文脈を追い、授業後に論述の展開を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

【テキスト（教科書）】

テキスト Cross-Cultural Views on Britain

著者 リチャード・H・ベント、井石哲也、井石令子
出版社 南雲堂

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%） 平常点（20%）

英文の内容を自らの言葉で説明できることを評価基準とする。

原則として欠席が 4 回以上の場合は、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行を急がずに、各章の内容を着実に消化させる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】

私語は減点対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this subject is to help students understand the content of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text. The goals of this course are to explain sentence structures correctly and explain the content of the text appropriately. Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた複数の段落からなる文章の内容を正確に理解する。また、本文の全体的な構成にも注意を払い、必要な情報や要旨をつかみ取る。

【到達目標】

英文の修飾関係を正しく説明できる。本文の趣旨を自らの言葉で説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

現代社会における諸問題をテーマにした英文を講読することによって読解力を高めると同時に、文章を細部に至るまで深く読み進んでいく。その過程においては、ひとつひとつの語句の意味を慎重に捉えたうえで文章全体の内容を適切に読み取っていく。さらに、構文などを基にして英文法の復習も適宜おこなう。また、課題等に対するフィードバックは、授業の始めに前回の学習内容の確認と併せてクラス全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスと Chapter 7	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。ガイダンス後に Chapter 7 に入る。
2	語彙の確認と内容の把握	「イギリス通貨とユーロ」―読解による内容理解
3	構文の理解と練習問題	「イギリス通貨とユーロ」―練習問題と構文の確認
4	語彙の確認と内容の把握	「チューブって何?」―読解による内容理解
5	構文の理解と練習問題	「チューブって何?」―練習問題と構文の確認
6	語彙の確認と内容の把握	「議会政治と現代」―読解による内容理解
7	構文の理解と練習問題	「議会政治と現代」―練習問題と構文の確認
8	語彙の確認と内容の把握	「イギリスの美術館・博物館」―読解による内容理解
9	構文の理解と練習問題	「イギリスの美術館・博物館」―練習問題と構文の確認
10	語彙の確認と内容の把握	「イギリスの住宅事情」―読解による内容理解
11	構文の理解と練習問題	「イギリスの住宅事情」―練習問題と構文の確認
12	語彙の確認と内容の把握	「イギリス料理は本当にまずい?」―読解による内容理解
13	構文の理解と練習問題	「イギリス料理は本当にまずい?」―練習問題と構文の確認
14	理解度の確認	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

授業の前に本文の単語を調べて文脈を追ひ、授業後に論述の展開を確認する。その後、授業前に自ら読み取った内容との相違点があれば改めて考察する。

【テキスト（教科書）】

テキスト Cross-Cultural Views on Britain

著者 リチャード・H・ベント、井石哲也、井石令子
出版社 南雲堂

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%） 平常点（20%）

英文の内容を自らの言葉で説明できることを評価基準とする。

原則として欠席が 4 回以上の場合、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進行を急がずに、各章の内容を着実に消化させる。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】

私語は減点対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this subject is to help students understand the content of articles consisting of some paragraphs written in English and pay attention to the overall composition of the text. The goals of this course are to explain sentence structures correctly and explain the content of the text appropriately. Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

アメリカに関する英文を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。後日評価を付け返却する。オンライン授業に移行した際は、資料配布型の授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	試験的に和訳し進捗等を説明する。
第 2 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその① (自由)
第 3 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその② (民主主義)
第 4 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその③ (自由の女神)
第 5 回	Gateway to the USA	移民社会アメリカその④ (エリス島)
第 6 回	Gateway to the USA	確認テスト
第 7 回	the Melting Pot	人種のるつぼその① (多民族国家)
第 8 回	the Melting Pot	人種のるつぼその② (アメリカ社会)
第 9 回	the Melting Pot	人種のるつぼその③ (少数民族集団)
第 10 回	the Melting Pot	人種のるつぼその④ (ヒスパニック)
第 11 回	the Melting Pot	確認テスト
第 12 回	the American Character	アメリカ人の特質その① (ワスプ)
第 13 回	the American Character	アメリカ人の特質その② (黒人)
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Background to the USA（金星堂）

【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

This class will show you how your reading skill on America can be developed. One hour is required for learning before and after class.

The goals of this course is to have your original opinions on America. Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカの文化、宗教、言語、人種等の様々な問題について学ぶ。

【到達目標】

学生諸君が受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解し、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

アメリカに関する英文を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。必要に応じて関係資料を配布する。和訳した内容について自分の意見を書いてレポートとして提出してもらう。後日評価を付け返却する。オンライン授業に移行した際は、資料配布型の授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	American English	アメリカ英語その① (boyfriend)
第 2 回	American English	アメリカ英語その② (beat up)
第 3 回	American English	アメリカ英語その③ (stupid)
第 4 回	American English	アメリカ英語その④ (faucet)
第 5 回	American English	確認テスト
第 6 回	Blacks and Whites	人種問題その① (南北戦争)
第 7 回	Blacks and Whites	人種問題その② (黒人街)
第 8 回	Blacks and Whites	人種問題その③ (最下層)
第 9 回	Blacks and Whites	人種問題その④ (人種関係)
第 10 回	Blacks and Whites	確認テスト
第 11 回	The American Indians	インディアン問題その① (歴史)
第 12 回	The American Indians	インディアン問題その② (居留地)
第 13 回	The American Indians	インディアン問題その③ (若いインディアン)
第 14 回	確認	定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。本授業の準備学習・復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Background to the USA（金星堂）

【参考書】

概説アメリカ史（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

アメリカに関する基本的な英文を理解する力を試す。平常点 20 %、期末試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明する。

【Outline (in English)】

This class will show you how your English reading skill on America can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to have your original opinions on America.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】

大学生として抑えておきたい心理学的、社会学的、およびビジネスに関する知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、グループ学習に慣れることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

○テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。中盤以降は、グループで学習し、発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。

○提出された課題へのフィードバックは、授業時に口頭もしくはプリント等で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	発音ドリル	発音の確認
第 3 講	Lesson 1(1) What Is Business Psychology?	内容の講読
第 4 講	Lesson 1(2) What Is Business Psychology?	内容の要約と意見のまとめ
第 5 講	Lesson 2 (2)The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 2 The Psychology of the Job Search	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 3 Rest Assured	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 4 Working with Robots	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 1
第 9 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 1	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 2
第 10 講	Lesson 5 It's a Man's World, Part 2	内容の理解、要約、意見のまとめ グループ学習 3
第 11 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 1	グループ・プレゼンテーション 1 (プレゼンの作成)
第 12 講	グループ学習のまとめとプレゼンテーション 2	グループ・プレゼンテーション 2 (発表準備)

復習	全体の復習	復習 (テキスト Lesson1-5 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り)
総括	総括	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習 (予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】

Mind Matters -The Psychology of Business and Work- Jim Knudsen 著 南雲堂
ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の教場練習への参加程度 (20%)、プレゼンテーション (20%) と各種レポート等 (10%) 及び期末試験 (50%) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないという意見が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上はプレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさんには頑張っていたいただきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、個人差があり、授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The target of this course will be to improve students reading and outputting ability in English. Especially it is going to be essentially important for Japanese university students to strongly improve their English skills in order to successfully function in the future as the members of the society of the internet era. I hope that this course will help guide all my class students to get used to joining in group working activities.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to read efficiently (to get information from written things without any problems).

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution: 20%, Presentations: 20%, Reports: 10%, Term-end examination :50%.

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実社会で用いられている英語を読んで理解し、発信できるようにすることが到達目標となります。とりわけ、インターネット時代に必要かつ基本的な知識を得られるような英文の接することが必要だと考えられます。本講義では、この目的にかなった教材を読んで理解し、アウトプットできるようにしていきます。また、グループ学習に慣れる練習をします。

【到達目標】

大学生として抑えておきたい心理学的、社会的な知識を含んだ英文が理解できるような基礎力をつけることです。また、対面学習時にはグループ学習に慣れることも目標とします。グループ・プレゼンテーションでは、英語で自分の意見を言えるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを読み、書かれている英語を理解し、その英文について英語で説明し、意見を述べたり書いたりする作業が中心となります。また、自分の意見を英語で述べる練習もします。対面学習時には、中盤以降はグループで学習し、英語で発表ができるように学んでいきます。授業時の指示は、状況に応じて、日本語と英語で行います。課題等のフィードバックは、授業時に口頭もしくはプリント等を用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	授業に関するガイダンス
第 2 講	夏休みの出来事を書く	夏休みの出来事をテンプレートを 用いて書く
第 3 講	夏休みの予定を書く	夏休みの予定をテンプレートを 用いて書く
第 4 講	Lesson 7 Me, Myself, and I	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 5 講	Lesson 8 Give and Take	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 6 講	Lesson 9 What a Troublemaker : The Office Gossip	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 7 講	Lesson 10 What a Troublemaker : The Office Control Freak	内容の理解、要約、意見のまとめ
第 8 講	Lesson 11 Handsome Is As Handsome Does	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 1)
第 9 講	Lesson 12 My Space, Your Space	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 2)
第 10 講	Lesson 13 So You Want to Be An Entrepreneur	内容の理解、要約、意見のまとめ (グループ学習 3)
第 11 講	グループ学習のまとめ	グループ・プレゼンテーション とプレゼンテーション 3 (打ち合わせ)

第 12 講 グループ学習のまとめ グループ・プレゼンテーション
とプレゼンテーション 4 (リハーサル練習)

4

復習 全体の復習 復習 (テキスト Lesson7-13 の内
容と学習スキルの復習及びプレゼ
ンの振り返り)

総括 総括 全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回 60 分程度の予習 (テキストの内容を把握しておく、語句や文章
やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく)、及び復習
(予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容
を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする)。詳細
は、教場指示とします。

【テキスト (教科書)】

Mind Matters - The Psychology of Business and Work - Jim
Knudsen 著 南雲堂 2017 年 ISBN 978-4-523-17859-0

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加程度 (50%) 及び期末試験 (50%) 等 (もしくは課
題) を全て考慮し、評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原
則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

クラスの人数が多いため、なかなか発言の機会が与えられないとい
う意見が毎年あり、本当に残念に思っていますが、必ず一度以上は
プレゼンテーションの機会を設けてありますので、ぜひみなさん
には頑張ってくださいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の
進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあ
ります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準としますが、
個人差があり、授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度
必要だと思います。また、プレゼンテーションでは、グループ性
と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、
グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90
分程度必要です。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The target of this course will be to improve students reading
and outputting ability in English. Especially it is going to
be essentially important for Japanese university students to
strongly improve their English skills in order to successfully
function in the future as the members of the society of the
internet era. I hope that this course will help guide all of my
class students to get used to joining in group working activities
if having classes on campus is available.

【Learning Objectives】

The goal of this course are to read and output English
efficiently.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have
read the relevant chapters from the text. Your required
study time is at least one hour for each.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the
following

In-class contribution (including presentations and group
works): 50%, Term-end examination: 50%.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

折笠 真美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English 1 is designed to develop students' basic academic
English skills and focuses on developing reading skills. The
objective of the course is to help students gain reading
strategies, identify the gist and important details, and acquire
information and knowledge needed for reading comprehension,
through reading various topics. The course will also provide
students with an opportunity to (1) learn academic writing
skills and (2) develop critical thinking skills through a variety
of reading materials. Furthermore, this course will also
aim to reinforce listening skills and vocabulary through class
activities.

【到達目標】

By the end of the course, students will:

- (a) be able to be familiar with paragraph and essay structure.
- (b) be able to identify the main idea and supporting ideas in paragraphs.
- (c) be able to critically read and analyze reading materials.
- (d) be able to write a summary of an article.
- (e) be able to do research and give short presentations on topics of their choice.
- (f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャ
リアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Each class will have reading and listening activities (individual
and group work) as well as a short lecture on the contents of the
textbook. Homework will be given regularly. Your attendance
and active participation in class is essential. Feedback on class
activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview U1: How You Read + How Well You Read	Introduction Check Reading Speed
		現在のリーディング力 を診断する
2	U2: Developing Your "Before Reading Skills"	Vocabulary Building Reading, Summary
	ブレ・リーディングス キルを磨く	
3	U3: Identifying the Main Idea	Vocabulary Building Reading, Summary
	重要な情報や概念 (メ インアイデア) を理解 する	
4	U4: Understanding Supporting Details to Find Main Ideas	Vocabulary Building Reading, Summary
	詳細情報を理解する	

5	U5: Using Signal Words to Predict Ideas アイデアの結びつきをシグナルワード (signal words) から理解する	Vocabulary Building Reading, Summary
6	U6: Using Referring Words to Follow Ideas 指示語 (reference) が誰を示すか、何を示すかを把握する	Vocabulary Building Reading, Summary
7	U7: Understanding Paragraph Organization (1) パラグラフ構造: 「比較 (comparison)」と「対照 (contrast)」を学ぶ	Vocabulary Building Reading, Summary
8	U8: Understanding Paragraph Organization (2) パラグラフ構造: 「原因と結果」を学ぶ	Vocabulary Building Reading, Summary
9	U9: Understanding Paragraph Organization (3) パラグラフ構造: 「時間順序」を学ぶ	Vocabulary Building Reading, Summary
10	U10: Understanding Paragraph Organization (4) パラグラフ構造: 「空間順序」を学ぶ	Vocabulary Building Reading, Summary
11	Preparation for Presentation 1	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation 2	Prepare for Slides and Scripts
13	Presentation	Presentations
14	Presentation / Final Exam	Presentations and Exam

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Ushiro Yuji, Nakagawa Chikako, & Le Mari Pavoux (2008). Reader's Ark: 20 Treasures of Effective Reading Techniques. Kinseido Publishing. ISBN: 978-4-7647-3865-2 (¥1900 + 税)
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】

TBA

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following criteria:

Active Participation (15%); Homework Assignments [Reading/Listening] (35%); Presentation (20%); Final Assignments/Exam (30%)

遅刻は 30 分までで、それ以降は欠席扱いとなります (遅刻 3 回で 1 回の欠席になります)。

4 回以上欠席した場合は、単位の認定をしません。

【学生の意見等からの気づき】

NA

【学生が準備すべき機器他】

辞書 (電子または紙媒体) を必ず持参してください。携帯電話を用いることは不可。

必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の授業では、マイク付きのヘッドセットを各自用意すること。

課題提出や資料閲覧は Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】

Academic Honesty (学問的誠実性) を遵守してください。

様々な不正行為 (例えば、【Plagiarism 剽窃】 - 出典元を適切に引用せず使用すること) など、防止について授業内でも説明します。

【Outline (in English)】

English 1 is designed to develop students' basic academic English skills and focuses on developing reading skills. The objective of the course is to help students gain reading strategies, identify the gist and important details, and acquire information and knowledge needed for reading comprehension, through reading various topics. The course will also provide students with an opportunity to (1) learn academic writing skills and (2) develop critical thinking skills through a variety of reading materials. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

LANe100LA

英語 1 - II

2017 年度以降入学者

折笠 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 1 is designed to develop students' basic academic English skills and focuses on developing reading skills. The objective of the course is to help students gain reading strategies, identify the gist and important details, and acquire information and knowledge needed for reading comprehension, through reading various topics. The course will also provide students with an opportunity to (1) learn academic writing skills and (2) develop critical thinking skills through a variety of reading materials. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】

By the end of the course, students will:

- (a) be able to be familiar with paragraph and essay structure.
- (b) be able to identify the main idea and supporting ideas in paragraphs.
- (c) be able to critically read and analyze reading materials.
- (d) be able to write summaries of articles.
- (e) be able to do research and give short presentations on topics of their choice.
- (f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Each class will have reading and listening activities (individual and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview U11: Summarizing the Ideas	Introduction Vocabulary Building Reading, Summary
	重要な情報を「要約する (summarize)」ストラテジーを磨く	
2	U12: Searching for Information	Vocabulary Building Reading, Summary
	必要な情報をスピーディに把握するストラテジーを磨く	
3	U13: Using Illustrations and Photos to Aid Comprehension	Vocabulary Building Reading, Summary
	視覚的な情報を効果的に使用する	

4	U14: Read Between the Lines	Vocabulary Building Reading, Summary
	登場人物の心情や、場面の状況を読み取る	
5	U15: Reading as a Guessing Game	Vocabulary Building Reading, Summary
	予測しながら楽しく読む	
6	U16: Critical Reading (1): Distinguishing Fact from Opinion	Vocabulary Building Reading, Summary
	「事実 (fact)」と「意見 (opinion)」を区別する	
7	U17: Critical Reading (2): Making Inferences	Vocabulary Building Reading, Summary
	明示情報から結論や筆者の立場を論理的に導き出す	
8	U18: Reading for Pleasure	Vocabulary Building Reading, Summary
	批評読みをこえた英文の楽しさを感じる	
9	U19: Understanding News Styles	Vocabulary Building Reading, Summary
	英文記事の見出しを理解する	
10	U20: Assess Your Achievement	Vocabulary Building Reading, Summary
	現在のリーディング力を診断する	
11	Preparation for Presentation 1	Research and Search for Articles
12	Preparation for Presentation 2	Prepare for Slides and Scripts
13	Presentation	Presentations
14	Presentation / Final Exam	Presentations and Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Ushiro Yuji, Nakagawa Chikako, & Le Mari Pavoux (2008). Reader's Ark: 20 Treasures of Effective Reading Techniques. Kinseido Publishing. ISBN: 978-4-7647-3865-2 (¥1900 + 税)
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】

TBA

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following criteria:
Active Participation (15%); Homework Assignments [Reading/Listening] (35%); Presentation (20%); Final Assignments/Exam (30%)

遅刻は 30 分までで、それ以降は欠席扱いとなります（遅刻 3 回で 1 回の欠席になります）。

4 回以上欠席した場合は、単位の認定をしません。

【学生の意見等からの気づき】

NA

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子または紙媒体）を必ず持参してください。携帯電話を用いることは不可。

必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の授業では、マイク付きのヘッドセットを各自用意すること。

課題提出や資料閲覧は Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】

Academic Honesty (学問的誠実性) を遵守してください。

様々な不正行為（例えば、【Plagiarism 剽窃】 - 出典元を適切に引用せず使用すること）など、防止について授業内でも説明します。

【Outline (in English)】

English 1 is designed to develop students' basic academic English skills and focuses on developing reading skills. The objective of the course is to help students gain reading strategies, identify the gist and important details, and acquire information and knowledge needed for reading comprehension, through reading various topics. The course will also provide students with an opportunity to (1) learn academic writing skills and (2) develop critical thinking skills through a variety of reading materials. Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

LANe100LA

英語 1 - I

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけます。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむことができますようにします。

【到達目標】

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる。
- ②これまでに培った語彙・文法・構文を復習し強化する。
- ③幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
- ④英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
- ⑤効果的に辞書を使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英語の文章の内容を的確につかむことができますようにします（題材は、文化、科学、時事など）。指定のテキストの他、新聞記事・雑誌の記事なども扱います。リスニングの練習も適宜行う予定です。課題について、間違いの多かった部分を中心に、クラス全体で共有します。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かしします。

【注】 下記の授業計画は、状況によって変更場合があります。

※授業は、教室対面による授業実施を中心にする予定ですが、コロナの感染拡大状況や留学生の入国状況等によって、オンラインで授業を行う週を設けることがあり得ます。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明 現在のリーディング力を診断
第 2 回	英文の内容を予測する ＜ 1 ＞	プレ・リーディングスキルを磨く [導入] 知らない単語を推測する
第 3 回	英文の内容を予測する ＜ 2 ＞	プレ・リーディングスキルを磨く [詳細] 単語学習方法、辞書の効果的な使い方を学ぶ
第 4 回	メイン・アイディアを理解する＜ 1 ＞	重要な情報や概念を理解する [導入] メインアイディアのカギとなる単語や句を探す 短い文章で練習
第 5 回	メインアイディアを理解する＜ 2 ＞	重要な情報や概念を理解する [詳細] 長文での実践
第 6 回	メインアイディアを理解する＜ 3 ＞	重要な情報や概念を理解する [展開] 文章構造を理解し、トピックセンテンスを参考に要約をする

第 7 回	詳細情報を理解する< 1 >	メインアイデアの説明や補足する情報 (supporting details) を理解する [導入] 短い文章で練習
第 8 回	詳細情報を理解する< 2 >	メインアイデアの説明や補足する情報 (supporting details) を理解する [詳細] 長文での実践
第 9 回	まとめ	前半のまとめ
第 10 回	プロジェクト < 1 >	プロジェクトの準備
第 11 回	プロジェクト < 2 >	プロジェクトの完成・発表
第 12 回	シグナルワードを理解する< 1 >	アイデアの結びつきをシグナルワードから理解する [導入] 短い文章で練習
第 13 回	シグナルワードを理解する< 2 >	アイデアの結びつきをシグナルワードから理解する [詳細] 長文での実践
第 14 回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習をし、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識して授業にのぞむようにする。
授業後、内容の復習をする。
その他、授業内で指示する。
授業の復習・予習に 1 時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

Reader's Ark (金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的参加、宿題・課題、プロジェクトの内容等）60 %

・期末テスト 40 %

*なお、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

遅刻 3 回で欠席 1 扱いになります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

【学生が準備すべき機器他】

コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。

*コロナの感染拡大状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline (in English)】

This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.

This course also uses listening text to help students improve their listening skills.

Grading criteria: 1) Term-end examination 40%, 2) In class contribution・assignments・quizzes 60%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least 1 hour to understand the course content.

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語の基本的な読解力・語彙力の向上をはかると同時に、様々な内容の英文を読むことで、内容に関する広い知識を身につけます。特にパラグラフの構造やパラグラフ同士のつながりに留意し、書かれていることの意味や情報を正確につかむことができますようにします。

【到達目標】

- ①パラグラフの構造およびパラグラフ同士の繋がりを正確に把握できる。
- ②これまでに培った語彙・文法・構文を復習し強化する。
- ③幅広いトピックについて書かれた英文を理解できるようになる。
- ④英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。
- ⑤効果的に辞書を使うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英語の文章の内容を的確につかむことができますようにします（題材は、文化、科学、時事など）。指定のテキストの他、新聞記事・雑誌の記事なども扱います。リスニングの練習も適宜行う予定です。課題について、間違いの多かった部分を中心に、クラス全体で共有します。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かしします。

【注】 下記の授業計画は、状況によって変更場合があります。

※授業は、教室対面による授業実施を中心にする予定ですが、コロナの感染拡大状況や留学生の入学状況等によって、オンラインで授業を行う週を設けることがあります。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習 要約をする	授業の進め方の説明 トピックセンテンスを見つけ情報をまとめる
第 2 回	パラグラフ構造を学ぶ< 1 >	分類・比較・対照の構造を意識して英文を読む [導入]
第 3 回	パラグラフ構造を学ぶ< 2 >	分類・比較・対照の構造を意識して英文を読む [詳細]
第 4 回	パラグラフ構造を学ぶ< 3 >	原因と結果、理由のつながりを意識して英文を読む [導入]
第 5 回	パラグラフ構造を学ぶ< 4 >	原因と結果、理由のつながりを意識して英文を読む [詳細]
第 6 回	新聞記事を読む< 1 >	新聞記事に特有のスタイルに注目して読む
第 7 回	新聞記事を読む< 2 >	詳細情報を理解する
第 8 回	プロジェクト< 1 >	プロジェクトの準備
第 9 回	意見・主張	自分の意見を述べる際に使う表現を学ぶ
第 10 回	プロジェクト< 2 >	プロジェクトの完成・発表
第 11 回	事実と意見の区別	述べられている情報が「意見」か「事実」かに注意して英文を読む
第 12 回	学術的な記事を読む< 1 >	学術的な記事のスタイルに注目して読む

第 13 回 学術的な記事を読む＜ 詳細情報を理解する
2 >

第 14 回 期末テスト・まとめ 期末テスト・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習をし、どこがどのようにわからないのかをはっきりと認識して授業にのぞむようにする。

授業後、内容の復習をする。

その他、授業内で指示する。

授業の復習・予習に 1 時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

Reader's Ark(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業への積極的参加、宿題・課題、プロジェクトの内容等） 60 %

・期末テスト 40 %

*なお、各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

遅刻 3 回で欠席 1 扱いになります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リーディング中心の授業ですが、リスニングの練習も増やします。

【学生が準備すべき機器他】

コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用することがあります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要で

【その他の重要事項】

電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。

*コロナの感染拡大状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline (in English)】

This course develops students' reading skills in English and widens their knowledge by understanding main ideas of a variety of different texts while enhancing their vocabulary. Students are expected to become aware of the structure of the texts, when reading.

This course also uses listening text to help students improve their listening skills.

Grading criteria: 1) Term-end examination 40%, 2) In class contribution・assignments・quizzes 60%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least 1 hour to understand the course content.

LANe100LA

英語 1－I

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高めると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化について学びます。

【到達目標】

英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せるようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得することができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英文等の内容に関する問題を解きます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さらに、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 『タイタニック』	オリエンテーション：シラバスに基づき講義内容を説明する。 映画『タイタニック』のあらすじと時代背景を理解する。
第 2 回	'My Heart Will Go On' Celine Dion	Celine Dion 'My Heart Will Go On' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 3 回	リスニング (TOEIC・写真描写問題)	TOEIC 形式の写真描写問題を解く。
第 4 回	リーディング (ナショナル・アイデンティティの和訳)	カナダのナショナル・アイデンティティに関する英文を日本語に訳す。
第 5 回	リーディング (ナショナル・アイデンティティの内容理解)	ナショナル・アイデンティティにまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 6 回	Maroon 5 'Sugar'	Maroon 5 'Sugar' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 7 回	リスニング (TOEIC・応答問題)	TOEIC 形式の応答問題を解く。
第 8 回	リーディング (結婚文化の和訳)	欧米の結婚に関する英文を日本語に訳す。
第 9 回	リーディング (結婚文化の内容理解)	欧米の結婚にまつわる英文の内容に関する問題を解く。
第 10 回	『ズートピア』	映画『ズートピア』のあらすじと背景を理解する。
第 11 回	'Try Everything'	'Try Everything' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 12 回	リーディング (迷信の和訳)	欧米の迷信にまつわる英文を日本語に訳す。

- 第 14 回 リーディング（迷信の 欧米の迷信にまつわる英文の内容
内容理解） に関する問題を解く。
第 14 回 授業内試験 春学期に学んだ内容に関する筆記
試験（リスニング問題を含む）を
行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト等を事前に読み、理解できない部分を明確にしておく。
授業中に学んだ内容を踏まえ、再度テキスト等を読み、理解できな
い箇所がないか確認する。もしわからないところがあれば次回の授
業で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs(New Edition) (『ポップスで学ぶ総合英
語』・角山照彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッ
ジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

授業参加（20%）、課題（50%）と期末試験（30%）の合計で評価し
ます。60 点以上で合格です。

4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。
毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にい
ない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除い
た遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証
を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。
皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いもの
となりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。
授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）

In this class, you develop mainly reading and listening
abilities.

Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics.
You also read short essays on western culture so you learn not
only how to read English, but also how to read western culture
and its point of view.

到達目標 (Learning Objectives)

1:The goals of this course are how to read and understand
essays in English and Western culture.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required
assignments after each class meeting. Your study time will be
more than one hour for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the
following

Term-end examination: 30%、in class contribution: 20%、
assignments: 50%

LANe100LA

英語 1－Ⅱ

2017 年度以降入学者

小堀 洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語音楽を通じて主に英語の読解力と文法力、リスニング力を高め
ると共に、それぞれの楽曲にまつわる英文を読むことで英語圏文化
について学びます。

【到達目標】

英語音楽の歌詞と英語圏文化に関する簡単な英文を日本語に訳せる
ようになり、またそれらに含まれる重要な文法事項を習得すること
ができます。さらに、楽曲やアーティストに関する文化的背景等を
学び、英米の文化を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャ
リアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、基本的に毎回学生の皆さんが英語を日本語に訳し、英
文等の内容に関する問題を解きます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーから
いくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。さら
に、リアクションペーパーや課題等における良いコメントは授業内
で紹介し、さらなる議論に活かします。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 『アナと雪の女王』	オリエンテーション：シラバスに 基づき講義内容を説明する。 『アナと雪の女王』のあらすじと 背景を理解する。
第 2 回	'Let It Go'	'Let It Go' を聞いて、その歌詞を 訳す。
第 3 回	リスニング (TOEIC・会話問題)	TOEIC 形式の会話問題を解く。
第 4 回	リーディング（ディズ ニー・和訳）	ディズニーに関する英文を日本語 に訳す。
第 5 回	リーディング（ディズ ニー・内容理解）	ディズニーにまつわる英文の内容 に関する問題を解く。
第 6 回	Bruno Mars 'Just The Way You Are'	Bruno Mars 'Just The Way You Are' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 7 回	リスニング（説明文問 題）	TOEIC 形式の説明文問題を解く。
第 8 回	『ハリーポッター』	映画『ハリーポッター』のあらす じと背景を理解する。
第 9 回	リーディング（ハリー ポッター・和訳）	『ハリー・ポッター』に関する英 文を日本語に訳す。
第 10 回	リーディング（ハリー ポッター・内容理解）	『ハリー・ポッター』にまつわる 英文の内容に関する問題を解く。
第 11 回	Ariana Grande 'Santa Tell Me'	Ariana Grande 'Santa Tell Me' を聞いて、その歌詞を訳す。
第 12 回	リーディング（クリス マス・和訳）	クリスマスに関する英文を訳し て、その内容を理解する。
第 13 回	リーディング（クリス マス・内容理解）	クリスマスにまつわる英文の内容 に関する問題を解く。

第 14 回 授業内試験

春学期に学んだ内容に関する筆記試験（リスニング問題を含む）を行う。・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト等を事前に読み、理解できない部分を明確にしておく。授業中に学んだ内容を踏まえ、再度テキスト等を読み、理解できない箇所がないか確認する。もしわからないところがあれば次回の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

English with Hit Songs(New Edition) (『ポップスで学ぶ総合英語』・角山照彦, Simon Capper, 成美堂. ISBN9784791930869

【参考書】

『マーフィーのケンブリッジ英文法』（中級編）第 3 版、ケンブリッジ大学出版。
英語を理解する上で重要な文法を理解するのにとても役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

授業参加（20%）、課題（50%）と期末試験（30%）の合計で評価します。60 点以上で合格です。
4 回以上欠席すると単位は与えられませんので注意してください。毎回授業のはじめに出席カードを配りますので、その時に教室にいない学生は欠席とみなします。また、公共交通機関の遅延等を除いた遅刻も欠席とします。公共交通機関の遅延等の場合は遅延証明証を持参してください。

【学生の意見等からの気づき】

本授業は学生の皆さんの積極的な参加を求めます。皆さんが積極的に授業に参加するほど本授業はより内容の濃いものとなりますので、積極的に楽しんで授業に参加してください。

【その他の重要事項】

授業時間の前後に、教室にて学生からの質問等を受けます。授業には必ず辞書を持参してください。

【Outline (in English)】

授業の概要（Course outline）

In this class, you develop mainly reading and listening abilities.

Specifically, you listen to pop songs and understand the lyrics. You also read short essays on western culture so you learn not only how to read English, but also how to read western culture and its point of view.

到達目標 (Learning Objectives)

1:The goals of this course are how to read and understand essays in English and Western culture.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%、in class contribution: 20%、assignments: 50%

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ビジネスに必要な語彙力と文法語法の基礎知識を身につけることを目的としています。授業では、社会で必要な英語の実践力を身につけさせるために、ビジネスで利用できる語彙や英語表現を通訳訓練法を用いて暗唱させたり、ペアワークを中心に進めていきます。リスニング力と読解力を身につけ、英語力の向上を目指します。出席重視。

【到達目標】

- ・日常生活に必要な英語を身につける
- ・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
- ・読解力を身につけ、英語の語順で読めるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、クイックレスポンス、リピーティングで語彙、表現を覚え、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。出席重視。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・自己紹介ゲーム	授業内容、進め方、成績、出欠についての説明、自己紹介ゲーム
2	Unit 1 人物の動作と状態	表・用紙をテーマに語彙、表現力とリスニング力を身につける
3	Unit 1 人物の動作と状態	表・用紙をテーマに素早く正確に読む訓練をする
4	Unit 2 疑問詞の用法	広告をテーマに語彙、表現力、リスニング力を身につける
5	Unit 2 疑問詞の用法	広告をテーマに素早く正確に読む訓練をする
6	Unit 3 日常での生活	日常生活に必要な英語をテーマに、品詞、語順に関する知識を身につける
7	Unit 3 日常生活での生活	日常生活をテーマに素早く正確に読む訓練をする
8	Unit 4 アナウンス・ツアー	アナウンスで使用する、動詞、時制、態の復習をする
9	Unit 4 アナウンス・ツアー	アナウンスをテーマにリスニングの訓練をする
10	Unit 5 物の状態と位置	物の状態と位置をテーマに、語彙、表現力、リスニング力を身につける
11	Unit 5 物の状態と位置	チャットをテーマに素早く正確に読む訓練をする
12	Unit 6 手紙、E メールをテーマに語彙、基本構文と応答の決まり文句	手紙、E メールをテーマに語彙、表現力、リスニング力を身につける
13	Unit 6 手紙、E メールをテーマに概要と基本構文と応答の決まり文句	手紙、E メールをテーマに概要をつかむ訓練をする

14 期末試験 まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

準備学習：分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。

復習：授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『Mastery Drills for the TOEIC L&R Test』 All in One Target 500

Koji Hayakawa 桐原書店

ISBN978-4-342-55015-7 C1082 1,700 円+税

【参考書】

学生のレベルを鑑みて、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50 % （積極的への参加度、態度、発表、小テスト）

期末試験：50 %

成績評価の基準

(1) 読解力を身につけているか

(2) リスニング力が身についているか

(3) ビジネスに必要な語彙、文法、語法が身についているか

欠席 4 回以上で単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick Response, Shadowing, and Synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.

Learning Objectives:

(1) Acquire the daily English

(2) Acquire Listening and translation skills

(3) Acquire Reading skills

Learning activities outside of classroom:

Preparatory learning:

For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.

Review:

Review that what you learned in class.

Grading Criteria/Policy:

Final exam: 50%

Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)

Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

鈴木 理枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、この授業では、ビジネスに必要な語彙力と文法語法の基礎知識を身につけることを目的としています。授業では、社会に必要な英語の実践力を身につけさせるために、ビジネスで利用できる語彙や英語表現を通訳訓練法を用いて暗唱させたり、ペアワークを中心に進めていきます。リスニング力と読解力を身につけ、英語力の向上を目指します。出席重視。

【到達目標】

- ・日常生活に必要な英語を身につける
- ・リスニング力を身につけ、簡単な通訳ができるようになる
- ・読解力を身につけ、英語の語順で読めるようにする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形式は、テキストを中心に、演習授業になる。各学生は、予習して授業に臨み、クイックレスポンス、リピーティングで語彙、表現を覚え、練習問題を解いていく。読解力の向上のみならず、音読やシャドーイングの通訳訓練法も取り入れ、リスニング力の向上にも努める。出席重視。発表後、毎回アドバイスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・Unit 7	電話での会話をテーマに、語彙、表現力、リスニング力を身につける
2	Unit 7	電話での会話をテーマに、代名詞、関係代名詞の用法を意識して、表現力を身につける
3	Unit 8	ラジオ放送・宣伝
4	Unit 8	ラジオ放送・宣伝
5	Unit 9	ダブルパッセージ
6	Unit 9	ダブルパッセージを素早く正確に読む訓練をする
7	Unit 10	オフィスでの会話①
8	Unit 10	オフィスでの会話①
9	Unit 11	留守番電話
10	Unit 11	留守番電話
11	Unit 12	オフィスでの会話②
12	Unit 12	オフィスでの会話②
13	1 年間の総復習	1 年間の総復習をして、1 年の学びを振り返る
14	期末試験	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

準備学習：分からない語彙、訳があれば、辞書を引き予習しておくこと CD を聞き、発音を確認しておくことテキストの練習問題をしておくこと。

復習：授業内で習得した内容について、復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

『Mastery Drills for the TOEIC L&R Test』 All in One Target 500

Koji Hayakawa 桐原書店

ISBN978-4-342-55015-7 C1082 1,700 円+税

【参考書】

学生のレベルを鑑みて、授業内で指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50 % （授業への参加度、態度、発表、小テスト）

期末試験：50 %

評価基準

(1) 内容を把握しているか

(2) リスニング力が身についているか

(3) 読解力が身についているか

欠席 4 回以上で単位取得不可。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

In this class, you will learn the daily English, with the themes of "modern food topics" and "traditional British and American festivals and food culture." Quick Response, Shadowing, and Synchronized reading are used to improve listening comprehension. Also, in order to acquire reading comprehension, you will acquire slash reading and translation techniques.

Preparatory learning

For vocabulary and translations that you do not understand, look up the dictionary and prepare. Listen to the CD and check the pronunciation. Do text exercises.

Review

Review that what you learned in class.

Grading Criteria/Policy

Final exam: 50%

Normal point: 50%(Participation in class, attitude, presentation)

Grade evaluation criteria

(1) Understanding the contents

(2) Acquire the daily English Conversation

(3) Acquire listening skills and interpretation

Credits can not be earned if absent 4 times or more.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

【到達目標】

さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をとおして単語や語群の配列を詳細に検討していく。さらに、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認なども行いながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。また、課題等に対するフィードバックは、授業の始めに前回の授業内容の確認と併せてクラス全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 1	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 1 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	英語の文の語順
3	英作文演習と構文の理解	主語の数と動詞の形
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	いろいろな動詞
5	英作文演習と構文の理解	目的語 2 つの文・ 1 つの文
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	目的語・補語のある文
7	英作文演習と構文の理解	情報の伝え方
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	現在形・現在進行形で表せること
9	英作文演習と構文の理解	過去形・過去進行形
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	未来表現
11	英作文演習と構文の理解	現在完了形
12	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	過去完了形・未来完了形

13 英作文演習と構文の理 助動詞
解

14 理解度の確認 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
授業の前に基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業後に授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

【テキスト（教科書）】

テキスト スキル統合型:英作文トレーニング

著者 野田小枝子

出版社 朝日出版社

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%） 平常点（20%）

自らの言葉で状況説明や意思伝達ができることを評価基準とする。

原則として欠席が 4 回以上の場合、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】

私語は減点対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.

At the end of the course, students are expected to express their own opinions and thoughts in various situations based on correct English grammar.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination(80%)and in-class contribution(20%).

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

亀岡 浩一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語による構文を正しく理解して自分の考えを英語で表現できるようになることを目指す。また、語彙力を高めて効果的に情報を発信できるようにする。

【到達目標】

さまざまな場面において英語で状況を適切に表現できる。自分の意見を正しい英文法に基づいて英語で表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英文の仕組みを主語と述語の関係で捉え、さまざまな種類の練習問題や演習をととして単語や語群の配列を詳細に検討していく。さらに、英語による表現力を高めるために、状況に応じて基本となる英文法の復習と確認なども行いながら、それぞれの場面にふさわしい表現を検討する。また、課題等に対するフィードバックは、授業の始めに前回の授業内容の確認と併せてクラス全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンスおよび Unit 13	授業の進め方およびテキストや成績評価などの説明。授業ガイダンス後に Unit 13 に入る。
2	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	条件文と仮定法
3	英作文演習と構文の理 解	仮定法を使った定型表現
4	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	受身形
5	英作文演習と構文の理 解	動名詞と不定詞
6	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	比較
7	英作文演習と構文の理 解	後置修飾
8	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	関係代名詞
9	英作文演習と構文の理 解	関係副詞
10	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	文のつなげ方
11	英作文演習と構文の理 解	分詞構文
12	内容把握のための練習問題と語彙や文法の整理	it を使った構文

13 英作文演習と構文の理 いろいろな否定文

解

14 理解度の確認 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
授業の前に基本となる単語の意味を調べて表現形式を具体的にまとめる。授業後に授業で扱った語句や練習問題の解答を復習し、その表現内容と構文を確認する。

【テキスト（教科書）】

テキスト スキル統合型:英作文トレーニング

著者 野田小枝子

出版社 朝日出版社

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%） 平常点（20%）

自らの言葉で状況説明や意思伝達ができることを評価基準とする。

原則として欠席が 4 回以上の場合、単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの表現に必要な文法項目を絞る。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器

【その他の重要事項】

私語は減点対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this subject is to help students express their own thoughts in English through understanding English syntax correctly. In addition, the students gradually enhance vocabulary skills for dissemination of information.

At the end of the course, students are expected to express their own opinions and thoughts in various situations based on correct English grammar.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination(80%)and in-class contribution(20%).

LANe100LA

英語 2－I

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な会話文を習得し、簡単な英文を聞いて理解できるようにする。

【到達目標】

簡単な英語を聞き取りその英語を用いて簡単な会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学生諸君には多くの基本会話文を読んでもらい、多くの基本英文を聞いてもらう。

授業中のレポートは後日評価を付け返却する。オンライン授業に移行した際は、資料配布型の授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	会話 Lesson One	Presentation を中心に練習する。(George)
第 2 回	会話 Lesson One	Application Dialogue を中心に練習する。(Bill)
第 3 回	会話 Lesson One	Application Dialogue を中心に練習する。(Pete)
第 4 回	Listening	Application Dialogue を用いて listening の練習をする。(Saturday)
第 5 回	Listening	プリントを用いて listening の練習をする。(pizza)
第 6 回	Listening	プリントを用いて listening の練習をする。(dinner)
第 7 回	会話 Lesson Two	Presentation を中心に練習する。(Bill Patterson)
第 8 回	会話 Lesson Two	Application Dialogue を中心に練習する。(Bill)
第 9 回	会話 Lesson Two	Application Dialogue を中心に練習する。(John)
第 10 回	Listening	Application Dialogue を用いて listening の練習をする。(chemists)
第 11 回	Listening	プリントを用いて listening の練習をする。(Professor McCarthy)
第 12 回	会話 Lesson Three	Presentation を中心に練習する。
第 13 回	面接試験	テキスト使用
第 14 回	面接試験	テキスト使用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず授業で学習した英文を暗記すること。予習よりも復習を中心に毎回 1 時間以上学習する必要がある。

【テキスト（教科書）】

『アメリカ口語教本一初級用』 William L. Clark 研究社

【参考書】

特に用いない。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、面接試験点 80 % 各学期 4 回以上の欠席は単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

This class will show you how your basic communicative English skill can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to develop your basic English skill.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生諸君が英語表現に慣れその表現を使えるようにする。

【到達目標】

簡単な英語を聞き取り、自分でも英語で表現できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

できるだけ多くの対話文を聞き、リスニング力を養成し、聞いた表現を用いて簡単な会話の練習をする。授業中のレポートは評価を付した後返却する。オンライン授業に移行した際は、資料配布型の授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	A Modern Home(解説)	Presentation を聞き、その内容について質問する。 (Paul Farly)
第 2 回	A Modern Home (導入)	Dialogue を聞く。 (Mary)
第 3 回	A Modern Home (応用)	Dialogue を読む。 (Jane)
第 4 回	A Modern Home (実践)	Dialogue の表現を用いて会話をする。 (interior decorator)
第 5 回	Micky's Home Town (解説)	Presentation を聞き、その内容について質問する。 (kitchen)
第 6 回	Micky's Home Town (導入)	Dialogue を聞く。 (Father's Day)
第 7 回	Micky's Home Town (応用)	Dialogue を読む。 (weekdays)
第 8 回	Micky's Home Town (実践)	Dialogue の表現を用いて会話をする。 (golf)
第 9 回	Two Successful Men (解説)	Presentation を聞き、その内容について質問をする。 (office)
第 10 回	Two Successful Men (導入)	Dialogue を聞く。 (Ben Franks)
第 11 回	Two Successful Men (応用)	Dialogue の表現を用いて会話をする。 (Phil)
第 12 回	Two Successful Men	二人の成功者その④ (Ben)
第 13 回	面接試験	テキスト使用
第 14 回	面接試験	テキスト使用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習よりも復習を中心に毎回 1 時間以上学習する必要がある。

【テキスト（教科書）】

アメリカ口語教本一初級用（研究者）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %

各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

This class will show you how your basic communicative English skill can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to develop your basic English skill.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。対面学習時にはグループ・プレゼンテーションの方法も学びます。

【到達目標】

英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。プレゼンテーションが英語で行えるような練習をします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。個人及びグループでのプレゼンテーションを効果的に行う方法も学びます。課題等のフィードバックは、授業時（対面授業もしくは双方向性授業）に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音練習	発音の練習をする
第 3 講	New York	梨沙、ニューヨークへ
	Week 1	
第 4 講	Week 2	由紀、ロンドンに到着
第 5 講	Week 3	自由の女神を見学
第 6 講	Week 4	ロンドンの暮らし
第 7 講	Week 5	シェウハウスへ引っ越し
第 8 講	Week 6	マンハッタンを楽しむ
第 9 講	Week 7&8	お好み焼きを作る
		ニューヨークでデート
第 10 講	Week 9&10	ビジネスの新展開
		初めての挫折
第 11 講	Week 11& 12	セブン・シスターズへ
		由紀、ロンドンへ戻る
第 12 講	プレゼンテーション練習	プレゼンテーション（練習とリハーサル）
復習	復習	復習（テキスト week 1-12 の内容と学習スキルの復習及びプレゼンの振り返り）
総括	総括	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。内容としては、毎回 60 分程度の予習（テキストの内容を把握しておく）、語句や文章やフレーズの意味や使用法を説明できるようにしておく）、及び復習（予習で行ったことを授業で確認し、何をやったかとテキストの内容を理解、把握し、テキストがなくても説明できるようにする）。詳細は、教場指示とします。

【テキスト（教科書）】

おとなの基礎英語 Season 6 松本茂監修 主婦の友社 2018 年
ISBN 978-4-07-426578-7

【参考書】

英和・和英辞書（電子辞書可）

【成績評価の方法と基準】

授業時の発言およびロールプレイングなど (50%) およびペーパーテストや課題等 (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

【学生が準備すべき機器他】

毎回、テキスト、ノート、辞書類を持参して下さい。また、授業の進行に伴って、あらかじめ映画や動画の視聴を求められることがあります。内容については、教場指示とします。

【その他の重要事項】

授業時以外の時間の学習が毎回 60 分から 90 分程度必要だと思われます。また、プレゼンテーションでは、グループ性と、一人 1 分以上の英語を原稿なしで話すことが求められますので、グループ内での打ち合わせやリハーサルの時間が毎回 60 分から 90 分程度必要です。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to output English efficiently (to get information from English written things without any problems and output correctly).

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution: 50% (including presentations and role playing trainings) Term-end examination and reports: 50%.

LAnE100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

戸嶋 まゆみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを英語で行うことを目的とし、ロール・プレイングやインタビュー、その他のアウトプットをすることで英語で意味のあるやりとりができるようになることを目標とします。効果的なプレゼンテーションの方法も学びます。

【到達目標】

英語で簡単なやり取りができるようになることが到達目標です。また、プレゼンテーションを英語で行います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英語と日本語で書かれたテキストを読み、内容等についてやりとりができるように演習を行います。また、グループでプレゼンテーションを英語で行います。課題等のフィードバックは、授業時に口頭もしくはプリント等を用いて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 講	ガイダンス	ガイダンス
第 2 講	発音クリニック	発音の確認
第 3 講	Week 13	ナディアの夢
第 4 講	Week 14	イザベラの夢
第 5 講	Week 15	由紀、NY に現れる
第 6 講	Week 16	梨紗の才能
第 7 講	Week 17-18	友紀の再出発 カムデン・タウン
第 8 講	Week 19-20	由紀とプライス 母娘の再会
第 9 講	Week 21-22	ジョンの告白 梨紗の夢、梨紗の決断
第 10 講	Week 23-24	アリスとの再会 友紀の再出発!
第 11 講	プレゼンテーションの技法	プレゼンテーションの技法を学ぶ
第 12 講	プレゼンテーション 3	プレゼンテーション 3
復習	復習	全体の復習
総括	総括	全体総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。予習・復習とクラス外で自己練習が必要です。

【テキスト（教科書）】

おとなの基礎英語 Season 6 松本茂監修 主婦の友社 2018 年
ISBN 978-4-07-426578-7

【参考書】

英和・和英辞書

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 (50%) およびペーパーテストや課題等 (50%) の合算で評価します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんが毎年とても頑張って成長していくのを楽しみにしています。ちょっと勇気を出せば、この講座は百倍楽しくなります

【学生が準備すべき機器他】

DVD およびプロジェクタを使用する場合があります。

【その他の重要事項】

プレゼンテーションでは、春学期からのバージョン・アップが求められます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course is designed to develop English communication abilities, including role playing, interviewing, writing brief notes, draft writing and group presentations.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to output English efficiently (to get information from English written things without any problems and output correctly).

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least one hour for each.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In-class contribution: 50% (including presentations and role playing trainings) Term-end examination and reports: 50%.

LANe100LA

英語2－I

2017 年度以降入学者

折笠 真美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

English 2 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills to communicate effectively in the English language through a variety of class activities. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills (paragraph writing). Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】

By the end of the course, students will:

- (a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics, both in speech and writing.
- (b) be able to discuss different topics.
- (c) be able to summarize the main points of discussion.
- (d) be able to give short presentations on topics of their choice.
- (e) be able to write paragraphs in an organized and logical manner.
- (f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

Each class will have oral and written activities (individual, pair and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview Ch1: The Organization of Paragraphs (1)	Introduction Vocabulary Building
2	Ch1: The Organization of Paragraphs (2)	Reading sample paragraphs
3	Ch1: The Organization of Paragraphs (3)	Structure & Mechanics
4	Ch2: Characteristics of Good Writing (1)	Introduction Vocabulary Building
5	Ch2: Characteristics of Good Writing (2)	Reading sample paragraphs
6	Ch2: Characteristics of Good Writing (3)	Structure & Mechanics
7	Ch3: The Writing Process (1)	Introduction Vocabulary Building
8	Ch3: The Writing Process (2)	Reading sample paragraphs

9	Ch3: The Writing Process (3)	Structure & Mechanics
10	Ch4 From Paragraph to Essay (1)	Introduction Vocabulary Building
11	Ch4 From Paragraph to Essay (2)	Reading sample paragraphs
12	Ch4 From Paragraph to Essay (3)	Structure & Mechanics
13	Presentation	Presentation
14	Presentation / Final Exam	Presentation / Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Boardman, Cynthia, A. & Jia Frydenberg (2008). Writing to Communicate 2: Paragraphs, Third Edition. Pearson Longman. ISBN: 978-0-13-235116-4 (¥3120 + 税)
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】

TBA

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following criteria:
Active Participation (15%); Writing/Listening Assignments (35%); Presentation (20%); Final Assignments/Exam (30%)
遅刻は 30 分までで、それ以降は欠席扱いとなります（遅刻 3 回で 1 回の欠席になります）。
4 回以上欠席した場合は、単位の認定をしません。

【学生の意見等からの気づき】

NA

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子または紙媒体）を必ず持参してください。携帯電話を用いることは不可。
必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の授業では、マイク付きのヘッドセットを各自用意すること。
課題提出や資料閲覧は Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】

Academic Honesty (学問的誠実性) を遵守してください。
様々な不正行為（例えば、【Plagiarism 剽窃】 - 出典元を適切に引用せず使用すること）など - 防止について授業内でも説明します。

【Outline (in English)】

English 2 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills to communicate effectively in the English language through a variety of class activities. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills (paragraph writing). Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

折笠 真美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English 2 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills to communicate effectively in the English language through a variety of class activities. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills (paragraph and essay writing). Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

【到達目標】

By the end of the course, students will:

- (a) be able to articulate their ideas and opinions about different topics, both in speech and writing.
- (b) be able to discuss different topics.
- (c) be able to summarize the main points of discussion.
- (d) be able to give short presentations on topics of their choice.
- (e) be able to write paragraphs and essays in an organized and logical manner.
- (f) learn about plagiarism and how to avoid it.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

Each class will have oral and written activities (individual and group work) as well as a short lecture on the contents of the textbook. Homework will be given regularly. Your attendance and active participation in class is essential. Feedback on class activities and assignments will be given in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Overview Ch5: The Thesis Statement (1)	Introduction Vocabulary Building
2	Ch5: The Thesis Statement (2)	Reading sample paragraphs
3	Ch5: The Thesis Statement (3)	Structure & Mechanics
4	Ch6: The Introductory Paragraph (1)	Introduction Vocabulary Building
5	Ch6: The Introductory Paragraph (2)	Reading sample paragraphs
6	Ch6: The Introductory Paragraph (3)	Structure & Mechanics
7	Ch7: The Concluding Paragraph (1)	Introduction Vocabulary Building

8	Ch7: The Concluding Paragraph (2)	Reading sample paragraphs
9	Ch7: The Concluding Paragraph (3)	Structure & Mechanics
10	Ch8: Body Paragraphs (1)	Introduction Vocabulary Building
11	Ch8: Body Paragraphs (2)	Reading sample paragraphs
12	Ch8: Body Paragraphs (3)	Structure & Mechanics
13	Presentation	Presentation
14	Presentation / Final Exam	Presentation / Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Boardman, Cynthia, A. & Jia Frydenberg (2008). Writing to Communicate 2: Paragraphs, Third Edition. Pearson Longman. ISBN: 978-0-13-235116-4 (¥3120 + 税)
Additional materials used in class will be posted on Google Classroom.

【参考書】

TBA

【成績評価の方法と基準】

Grading will be based on the following criteria:
Active Participation (15%); Writing/Listening Assignments (35%); Presentation (20%); Final Assignments/Exam (30%)
遅刻は 30 分までで、それ以降は欠席扱いとなります（遅刻 3 回で 1 回の欠席になります）。
4 回以上欠席した場合は、単位の認定をしません。

【学生の意見等からの気づき】

NA

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子または紙媒体）を必ず持参してください。携帯電話を用いることは不可。
必要に応じて Zoom も使用する可能性がある。Zoom の授業では、マイク付きのヘッドセットを各自用意すること。
課題提出や資料閲覧は Google Classroom を使用する。

【その他の重要事項】

Academic Honesty (学問的誠実性) を遵守してください。
様々な不正行為（例えば、【Plagiarism 剽窃】 - 出典元を適切に引用せず使用すること）など 防止について授業内でも説明します。

【Outline (in English)】

English 2 is designed to develop students' basic academic English skills with a focus on speaking and writing. The objective of the course is to help students acquire oral and written skills to communicate effectively in the English language through a variety of class activities. The course will provide students with an opportunity to (1) discuss various topics in a pair/group, (2) give presentations, and (3) develop academic English writing skills (paragraph and essay writing). Furthermore, this course will also aim to reinforce listening skills and vocabulary through class activities.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で表現する力を養います。日常生活だけではなく、大学生としてより広い社会問題や文化などについても、考えを整理して伝えることができる基礎作りを行います。基本例文から始め、論理的な構成をもつパラグラフを書く練習を行います。

【到達目標】

- ①総合的な英語力の向上。
- ②論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
- ③使える語彙を増やす。
- ④論理的な構成をもつパラグラフを書くことができる。
- ⑤英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) を理解し、身近なトピックについて、パラグラフの論理的構成をふまえたうえで、表現できるように基礎固めをします。リスニングの練習も適宜行います。
課題については、間違いの多かった部分を中心にクラス全体で共有し、フィードバックをします。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。

【注】下記の授業計画は、状況によって変更の場合があります。
※授業は、教室対面による授業実施を中心にする予定ですが、コロナの感染拡大状況や留学生の入学状況等によって、オンラインで授業を行う週を設けることがあり得ます。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明と自己紹介。
第 2 回	自己紹介・定義の仕方	自己紹介をする。英語圏にない文化、趣味などの表現の仕方を学ぶ。
第 3 回	出来事や経験を語る①	環境に関する記事、プロジェクトに関する報告を読み、文章の構造を理解する。
第 4 回	出来事や経験を語る②	時系列に沿って短い物語を表現する。
第 5 回	メインアイデアを理解する①	科学に関する文章読み、構成を理解する。トピックセンテンスに注目する。
第 6 回	メインアイデアを理解する②	トピックセンテンスを参考に要約をする。
第 7 回	メインアイデアを理解する③	文学作品の要約を読み、文章の組み立て、そこで使われている表現を学ぶ。
第 8 回	メインアイデアを理解する④	文と文のつながりの役割を果たす表現を学び、適切に使えるようにする。
第 9 回	まとめ	前半のまとめ。
第 10 回	プロジェクト①	プロジェクトの準備。

第 11 回	プロジェクト②	プロジェクトの完成・発表。
第 12 回	パラグラフの構造を学ぶ	トピックセンテンス、パラグラフの中の文の結びつきに注意し、表現をする。
第 13 回	要約の方法を学ぶ	重要な情報を含めて要約する。
第 14 回	期末試験、まとめ	期末試験、まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライティングの課題などが出された場合は、しっかり取り組むこと（次回授業を受ける前提となります）。

授業で学んだ重要表現については復習し、自分で使えるようにすること。

その他、授業内で指示します。

授業の復習・予習に 1 時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

Writing Frontiers(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的参加、宿題・課題およびプロジェクトの内容等）60 %

期末テスト 40 %

*なお各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

遅刻 3 回で欠席 1 回扱いです。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】

コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。

*コロナの感染拡大状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline (in English)】

This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.

Grading criteria: 1) Term-end examination 40%, 2) In class contribution・assignments・quizzes 60%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least 1 hour to understand the course content.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

福井 令恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の知識、経験、意見を、口頭および文章で表現する力を養います。日常生活だけではなく、大学生としてより広い社会問題や文化などについても、考えを整理して伝えることができる基礎作りを行います。基本例文から始め、論理的な構成をもつパラグラフを書く練習を行います。

【到達目標】

- ①総合的な英語力の向上。
- ②論理的な英文を書くために必要な基礎知識を身につける。
- ③使える語彙を増やす。
- ④論理的な構成をもつ短いパラグラフを書くことができる。
- ⑤英語を聞くことに慣れ、リスニング力が向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

パラグラフの構造 (topic sentence, supporting sentence, concluding sentence など) を理解し、身近なトピックについて、パラグラフの論理的構成をふまえたうえで、表現できるように基礎固めをします。リスニングの練習も適宜行います。

課題については、間違いの多かった部分を中心にクラス全体で共有し、フィードバックをします。良い内容については、授業内で紹介し、さらに理解を深めていくために活かします。

【注】 下記の授業計画は、状況によって変更場合があります。

※授業は、教室対面による授業実施を中心にする予定ですが、コロナの感染拡大状況や留学生の入学状況等によって、オンラインで授業を行う週を設けることがあり得ます。詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	授業の進め方の説明。 重要な情報を要約をするストラテジーを磨く。
第 2 回	パラグラフ構造①	「分類」について、関連する表現を学び、自分で使えるようにする。
第 3 回	パラグラフ構造②	「原因」と「結果」、「理由のつながり」を意識して英文記事を読む。
第 4 回	パラグラフ構造③	「原因」と「結果」、「理由のつながり」を意識し、社会課題について書かれた英文を読む。パラグラフ構造を理解する。
第 5 回	パラグラフ構造④	「原因」と「結果」の表現を学ぶ。各自が短い文章で表現する。
第 6 回	映画鑑賞とリスニング	関連した映画の一部を鑑賞し、リスニングを行う。
第 7 回	まとめ	前半のまとめ。
第 8 回	プロジェクト①	プロジェクトの準備。
第 9 回	意見・主張	自分の意見を述べる際に使う表現を学ぶ。
第 10 回	プロジェクト②	プロジェクトの完成・発表。
第 11 回	著名人のスピーチ①	概要を聞き取る。

- 第 12 回 著名人のスピーチ② リスニングの強化。
スピーチの構成について理解し、
より聞き取ることのできる部分を
増やす。
- 第 13 回 パラグラフからエッセイへ エッセイのスタイルを理解する。
- 第 14 回 期末試験、まとめ 期末試験、まとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライティングの課題などが出された場合は、しっかり取り組むこと（次回授業を受ける前提となります）。
授業で学んだ重要表現については復習し、自分で使えるようにすること。
その他、授業内で指示します。
授業の復習・予習に 1 時間以上必要です。

【テキスト（教科書）】

Writing Frontiers(金星堂)

その他、プリントを授業内で配布します。

【参考書】

適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的参加、宿題・課題およびプロジェクトの内容等）60 %

期末テスト 40 %

*なお各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

遅刻 3 回で欠席 1 回扱いです。

【学生の意見等からの気づき】

学生の英語レベルに合わせて、進度を調整します。リスニングの練習も増やすようにします。

【学生が準備すべき機器他】

コロナの感染拡大状況などにより Zoom を使用する場合があります。大学で Zoom 授業を受ける際にはマイク付きのヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

電子辞書（紙媒体でも可）を必ず持参すること。携帯電話を用いることは不可。

*コロナの感染状況等により上記の授業実施方法等に変更がある場合があります。変更や連絡は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡しますので、毎週確認してください。

【Outline (in English)】

This course aims to improve writing and listening skills in English. In the class, students will understand the structure of the text in English, enhance their vocabulary, and apply it when they write sentences /produce short paragraph(s). Students are also expected to improve their listening skills.

Grading criteria: 1) Term-end examination 40%, 2) In class contribution・assignments・quizzes 60%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least 1 hour to understand the course content.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

CNN International シリーズ 2022 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混迷の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に付けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業（資料配布型）とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では各自ニュースの音声聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、Definition で学習した語彙で Examples を完成させる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	時事問題プリント教材
2	Unit 1 新型コロナ早期封じ込め 「女性リーダー」	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 4/20
3	Unit 1 新型コロナ早期封じ込め 「女性リーダー」	スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
4	Unit 2 2020 年ノーベル平和賞 「世界食糧計画」	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 5/11
5	Unit 2 2020 年ノーベル平和賞 「世界食糧計画」	Unit 1 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
6	Unit 3 「ワクチン外交」に奔走する中国	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 5/25

7	Unit 3 「ワクチン外交」に奔走する中国	Unit 2 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
8	Unit 4 「オンライン」で世界の美術館巡り	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 6/8
9	Unit 4 「オンライン」で世界の美術館巡り	Unit 3 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
10	Unit 5 史上最悪の森林火災 オーストラリアの野生動物に被害	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 6/22
11	Unit 5 史上最悪の森林火災 オーストラリアの野生動物に被害	Unit 4 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
12	Unit 6 蚊と人間の遺伝子研究 最前線	definition ニューススクリプトの完成、 Hoppii を通して提出 締め切り 7/6
13	Unit 6 蚊と人間の遺伝子研究 最前線	Unit 5 語彙小テスト スクリプト、ニュース内容の確認 Examples 完成 内容の TF 問題
14	これまでのまとめと期末試験	Unit 6 語彙小テスト これまでのまとめ 期末試験

【Outline (in English)】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

オンライン授業では、ニュース音声をしっかり聞いてディクテーションを行い、テキストの **Definition** を完成させる。

【テキスト（教科書）】

CNN ビデオで見る世界のニュース（23）

朝日出版社 2090 円（税込）

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

オンライン	10 点	10%（Answer Sheet の空欄が全て解答されていること）
対面		10%

小テスト 10 点 × 6 回分 60 点 30%

期末試験 50%

*各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 **Answer Sheet** の回答欄が全て記載されていて（解答されていて）、その授業回を出席とする。（空欄の内容に全て解答すること）

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

大曲 陽子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

CNN International シリーズ 2022 年版を教材として、経済不況や震災、コロナウイルスといった世界的な混乱の中にあつての世界情勢を、ナマのニュース英語で理解していく

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング学習を通して、英語資格試験のためではなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力、批判的な視点の持ち方を身に着けていく。高い英語力だけでなく、社会的教養を身に着けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業 (資料配布型) とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Unit を学習する。1 回目の授業では各自ニュースの音声聞いてディクテーションして空欄を埋め、配布の Answer sheet に解答して Hoppii を通して締め切り日までに提出する。2 回目の授業では、全員がニューススクリプトを完成させていることを前提に内容理解を行い、Definition で学習した語彙で Examples を完成させる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、オンラインの時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warming Up	時事問題プリント教材
2	Unit 7	definition
	プラスチックを食べる虫	ニューススクリプトの完成、Hoppii を通して提出 締め切り
	ごみ問題の救世主となるか	10/5
3	Unit 7	スクリプト、ニュース内容の確認
	プラスチックを食べる虫	Examples 完成
	ごみ問題の救世主となるか	内容の TF 問題
4	Unit 8	definition
	NASA アルテミス計画	ニューススクリプトの完成、Hoppii を通して提出 締め切り
	50 年ぶりに人類が月に	10/19
5	Unit 8	Unit 7 語彙小テスト
	NASA アルテミス計画	スクリプト、ニュース内容の確認
	50 年ぶりに人類が月に	Examples 完成
		内容の TF 問題

6	Unit 9	definition
	12 歳の天才少女スケーター 大けがから奇跡の復活	ニューススクリプトの完成、Hoppii を通して提出 締め切り
7	Unit 9	Unit 8 語彙小テスト
	12 歳の天才少女スケーター 大けがから奇跡の復活	スクリプト、ニュース内容の確認
		Examples 完成
		内容の TF 問題
8	Unit 10	definition
	新素材で歴史建築を守り抜く 日本だからこそその技術力	ニューススクリプトの完成、Hoppii を通して提出 締め切り
9	Unit 10	Unit 9 語彙小テスト
	新素材で歴史建築を守り抜く 日本だからこそその技術力	スクリプト、ニュース内容の確認
		Examples 完成
		内容の TF 問題
10	Unit 11	definition
	新型コロナ感染拡大で進む「オンライン」授業の課題	ニューススクリプトの完成、Hoppii を通して提出 締め切り
11	Unit 11	Unit 10 語彙小テスト
	新型コロナ感染拡大で進む「オンライン」授業の課題	スクリプト、ニュース内容の確認
		Examples 完成
		内容の TF 問題
12	Unit 12	definition
	皇太子主導で変貌を遂げるサウジアラビア	ニューススクリプトの完成、Hoppii を通して提出 締め切り
13	Unit 12	Unit 11 語彙小テスト
	皇太子主導で変貌を遂げるサウジアラビア	スクリプト、ニュース内容の確認
		Examples 完成
		内容の TF 問題
14	これまでのまとめと期末試験	Unit 12 語彙小テスト
		これまでのまとめ
		期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

オンライン授業では、ニュース音声をしっかりと聞いてディクテーションを行い、テキストの Definition を完成させる。

【テキスト (教科書)】

CNN ビデオで見る世界のニュース (23)

朝日出版 2090 円 (税込み)

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

オンライン	10 点	10% (Answer Sheet の空欄が全て解答されていること)
対面		10%

小テスト 10 点 × 6 回分 60 点 30%

期末試験 50%

* 各学期、欠席 4 回以上で、原則として単位の修得は認められない。
* オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されていて (解答されていて)、その授業回を出席とする。(空欄の内容に全て解答すること)

【学生の意見等からの気づき】

Unit に関連したプリント教材を配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声をスマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through CNN original English.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・基本的な会話ができるようになる。
- ・簡単なスピーチやディスカッションができるようになる。
- ・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
- ・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
- ・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
- ・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

＜重要＞この授業は【対面授業】です。ただし、スピーキングを重点的に確認する機会を設けるため、Zoom を用いたオンライン授業を 2 回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

1 つのユニットを 2 回の授業で進める。

1 回目の授業ではリーディングとリスニングを行う。

2 回目の授業ではディスカッションとライティングを行う。

いずれの授業でも英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。

学期中 2 回のオンライン授業では、スピーキングのテストを兼ねたディスカッションを行う。

最終課題として、複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。なお、提出した課題（作文等）はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明
2	Unit 1: What Are Sustainable Development Goals?	読解、リスニング
3	Unit 1: What Are Sustainable Development Goals?	ディスカッション、作文
4	Unit2: What Is a Woman-Friendly Society?	読解、リスニング
5	Unit2: What Is a Woman-Friendly Society?	ディスカッション、作文
6	ディスカッション	スピーキングのテスト
7	Unit 3: Does Saving Infant's Lives Slow Population Growth?	読解、リスニング

8	Unit 3: Does Saving Infant's Lives Slow Population Growth?	ディスカッション、作文
9	Unit 4: Can Technology Solve the Water Crisis?	読解、リスニング
10	Unit 4: Can Technology Solve the Water Crisis?	ディスカッション、作文
11	ディスカッション	スピーキングのテスト
12	Unit 5: How Can Quality Education for All Be Achieved?	読解、リスニング
13	Unit 5: How Can Quality Education for All Be Achieved?	ディスカッション、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1 回目の授業]

授業前：1. 単語や文法事項について調べておく。2. 学習支援システムの予習問題に解答する。(以上 1 時間程度)

[2 回目の授業]

授業前：1. ディスカッションに必要な情報を収集する。2. 作文のアウトラインを考えておく。

授業後：1. 学習支援システムの復習問題に解答する。2. 作文を仕上げて提出する。(以上 1 時間程度)

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

SDGs で学ぶ英語ディスカッション (吉原令子ほか著、金星堂、2,200 円)

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最終課題 30%

期末試験 20%

ディスカッション 20%

平常点 (作文、予習・復習の提出状況、受講態度) 30%

欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当であるため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書 (電子辞書可)。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】

Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.

The goals of this course are to acquire basic skills for writing essays and improve ability for discussion and conversation.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.

Grading will be decided based on term-end essay (30%), term-end examination (20%), discussions (20%), and in class contribution including assignment submissions (30%).

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

飛田 英伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語での作文およびプレゼンテーションを通して、英語の表現方法を学び、コミュニケーション能力の向上を図る。

【到達目標】

- ・英語の文章の基本的な構造を理解する。
- ・基本的な会話ができるようになる。
- ・簡単なスピーチやディスカッションができるようになる。
- ・読みやすく、まとまりのある文章が書けるようになる。
- ・文脈や状況に応じた適切な言葉遣いができるようになる。
- ・コミュニケーションが十分にできるだけの聞き取り能力を身につける。
- ・コミュニケーションを行う上で必要な文法や語彙を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

＜重要＞この授業は【対面授業】です。ただし、スピーキングを重点的に確認する機会を設けるため、Zoom を用いたオンライン授業を 2 回実施する予定です。詳細は第 1 回の授業でお伝えします。

1 つのユニットを 2 回の授業で進める。

1 回目の授業ではリーディングとリスニングを行う。

2 回目の授業ではディスカッションとライティングを行う。

いずれの授業でも英語で発言したり、グループワークをしたりする機会を多く設ける。

学期中 2 回のオンライン授業では、スピーキングのテストを兼ねたディスカッションを行う。

最終課題として、複数のパラグラフから成る作文を提出してもらう。なお、提出した課題 (作文等) はコメントを付して返却し、フィードバックを行う。また、学習支援システムを使用し、予習で苦労した箇所や授業でわからなかったことを書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の内容・進め方についての説明、春学期の復習
2	Unit 6: What Does It Mean to Be a Sustainable City?	読解、リスニング
3	Unit 6: What Does It Mean to Be a Sustainable City?	ディスカッション、作文
4	Unit 7: Will Black Companies Survive in the Future?	読解、リスニング
5	Unit 7: Will Black Companies Survive in the Future?	ディスカッション、作文
6	ディスカッション	読解、リスニング
7	Unit 8: What Can We Do to Help Stop Child Labor?	スピーキングのテスト

8	Unit 8: What Can We Do to Help Stop Child Labor?	ディスカッション、作文
9	Unit 9: How Can We Reduce Food Waste?	読解、リスニング
10	Unit 9: How Can We Reduce Food Waste?	ディスカッション、作文
11	ディスカッション	スピーキングのテスト
12	Unit 10: Is a World without Plastic Possible?	読解、リスニング
12	Unit 10: Is a World without Plastic Possible?	ディスカッション、作文
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1 回目の授業]

授業前：1. 単語や文法事項について調べておく。2. 学習支援システムの予習問題に解答する。（以上 1 時間程度）

[2 回目の授業]

授業前：1. ディスカッションに必要な情報を収集する。2. 作文のアウトラインを考えておく。

授業後：1. 学習支援システムの復習問題に解答する。2. 作文を仕上げて提出する。（以上 1 時間程度）

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

SDGs で学ぶ英語ディスカッション（吉原令子ほか著、金星堂、2,200 円）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

最終課題 30%

期末試験 20%

ディスカッション 20%

平常点（作文、予習・復習の提出状況、受講態度）30%

欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当であるため、フィードバックはありません。

【学生が準備すべき機器他】

辞書（電子辞書可）。

学習支援システムと Zoom を使用する。スマホ、ノートパソコン、タブレット等、授業中に学習支援システムに接続できる機器の持参を奨励する。

【Outline (in English)】

Through writing and speaking English, students will develop their abilities to express various things and ideas, and deepen their understanding of the language.

The goals of this course are to acquire basic skills for writing essays and improve ability for discussion and conversation

Before and after each class meeting, students will be expected to spend an hour to complete the required assignments.

Grading will be decided based on term-end essay (30%), term-end examination (20%), discussions (20%), and in class contribution including assignment submissions (30%).

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。

【到達目標】

英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこないます。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1（精読、内要理解）
3	Unit 1	Unit 1: 空港で / 文型 1（再読、リスニング、質疑応答）
4	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2（精読、内要理解）
5	Unit 2	Unit 2: マンションに到着 / 文型 2（再読、リスニング、質疑応答）
6	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞（精読、内容理解）
7	Unit 3	Unit 3: お客様を迎える / 不定詞 1、動名詞（再読、リスニング、質疑応答）
8	Unit 4	Unit 4: デパ地下でお買い物 / 不定詞 2（精読、内要理解）
9	Unit 4	Unit 4: デパ地下でお買い物 / 不定詞 2（再読、リスニング、質疑応答）
10	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞（精読、内要理解）
11	Unit 5	Unit 5: お花見 / 分詞（再読、リスニング、質疑応答）
12	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1（精読、内要理解）

13	Unit 6	Unit 6: 浅草へ行こう! / 接続詞 1 (再読、リスニング、質疑応答)
14	Unit 7	Unit 7: 秋葉原を散策 / 接続詞 2 (精読、内要理解)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン！ - 続・イングリッシュ・ワンス・モア！ - Introduce Japan in Easy English-English Once More! II-』朝日出版社、2016 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（出席・予習・小テスト等）60%、期末試験40%で評価します。30分以上の遅刻は欠席とみなし、また3回の遅刻は1回の欠席とみなします。4回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料の配布やアンケートを行いますので、アクセスできる環境を用意しておいてください。オンラインでの回は、資料配布ですので、zoom などの動画に対応する必要はありません。

【Outline (in English)】

[Learning Objectives] To develop abilities to read, listen to, speak, and write in English in every day life, such as reading newspapers, listening to and discussing news broadcasting. [Learning activities outside of classroom] reading and listening textbook before and after class. [Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion): 60%, Term-end exam: 40%.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

大和久 悌一郎

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会の中で、専門的な学問領域のみならず、一般的な社会問題・日常生活においても英語でのコミュニケーション能力の向上は、現在、重要になってきている。そうした社会の中で用いられている英語に対応するために必要な英語読解能力の習得を目的として、語彙力や文法の理解をより確実に身につけるとともに、海外の社会のあり方についての理解も深めながら、英語運用能力の充実に努めることを目指したい。

【到達目標】

英語での表現や文章を正確に読解し、また聞き取る能力を養う。また、コミュニケーションにおいて用いられる表現を使い、情報の伝達や議論などを英語で簡潔に提示する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

テキストを用いて、リスニング及びディクテーションとプレゼンテーションの練習をおこないます。基本的にテキスト 1 章分を 2 回の授業で扱います。また補助資料として、適宜プリントで、時事問題やエッセイ、短編小説など、英語の新聞雑誌記事を読みます。毎回、リアクションペーパーでの出欠の確認をして、質問・感想・意見などの提出をお願いします。回答については、次の回で解説や応答を行います。授業にあたっては該当ページについての予習をおこなうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的、方針、進め方について説明する。
2	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（精読、内容理解）
3	Unit 8	Unit 8: 平和への祈り / 過去完了形（再読、リスニング、質疑応答）
4	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅） / 話法 1（精読、内容理解）
5	Unit 9	Unit 9: 京都旅行（新幹線の旅） / 話法 1（再読、リスニング、質疑応答）
6	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（精読、内容理解）
7	Unit 10	Unit 10: 茶道初体験 / 話法 2（再読、リスニング、質疑応答）
8	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（精読、内容理解）
9	Unit 11	Unit 11: 京都の思い出 / 関係代名詞 1（再読、リスニング、質疑応答）
10	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園） / 関係代名詞 2（精読、内容理解）
11	Unit 12	Unit 12: 日本滞在最後の日（築地市場～上野公園） / 関係代名詞 2（再読、リスニング、質疑応答）

12	Unit 13	Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞 (精読、内容理解)
13	Unit 13	Unit 13: 日本の事象を英語で説明 / 関係副詞 (再読、リスニング、質疑応答)
14	Unit 14	Unit 14: 最後の晩餐 / 仮定法 1 (精読、リスニング、質疑応答)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に該当ページについての予習をおこなうこと。また単語、熟語、慣例表現については復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

愛甲ゆかり、池田有花著、『初級英語で紹介するニッポン! -続・イングリッシュ・ワンス・モア! -Introduce Japan in Easy English- English Once More! II-』朝日出版社、2016 年

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席・予習・小テスト等) 60%、学期末レポート 40% で評価します。30 分を過ぎた場合は遅刻とみなし、また 3 回の遅刻は 1 回の欠席とみなします。4 回以上の欠席者は成績評価の対象から外すので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

[Learning Objectives] To develop abilities to read, listen to, speak, and write in English in every day life, such as reading newspapers, listening to and discussing news broadcasting. [Learning activities outside of classroom] reading and listening textbook before and after class. [Grading Criteria/Policy] Activities in class (attendance, question, and discussion): 60%, Term-end exam: 40%.

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

単文レベルの和文英訳から一歩進め、アカデミック・ライティングの基礎を身につけて平易な英語を使った説明や自己表現を行う。読み手にわかりやすいパラグラフの書き方を学ぶとともに、効果的に意図を伝えるスキルを実践し着実に身につけるため英文ライティングの演習を行う。同時に、プリント教材を使って英語の音声と口語表現に慣れる。

【到達目標】

- (1) 平易な英語で簡単な説明をしたり、自分の考えを述べることができる。
- (2) パラグラフ・ライティングの基礎を学び、首尾一貫性、結束性のある文章が書ける。
- (3) ナチュラルスピードの英語に慣れ、ポイントとなる部分の聞き取りができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を行います。テキストは 3 つの Part に分けられ、15 の章から成っています。春学期は、パラグラフ・ライティングの基礎を学ぶ Chapter 9 までを扱い、読み手にとって読みやすく説得力のあるパラグラフを書く基本と自分の考えをより具体的に記述する方法を学びます。同時に、意見を正確に伝えるための文法の見直しも適宜行います。各章では様々なアカデミック・ライティングのストラテジーが取り上げられており、ペア又はグループワークなどのタスクを経て、章ごとの課題 (SDGs に関連する社会的な問題) に沿った、まとまりのある文章を書いてもらうようになっています。ライティング・タスクの中には省略するものもありますが、いくつかは提出してもらいます。また、書くだけでなく、自己添削や互いの書いたものを読者目線でチェックする Peer Review の Activity もあります。さらに、聴解力強化のため、プリント教材を使った Listening 演習 (主にテスト形式) も行う予定です。なお、提出してもらった課題は個々に採点して返却するか、または授業内で全体としてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業内容や辞書の使い方、英語学習のポイントなどについて説明 Self-introduction Activity
2	Flows of Sentences	Chapter 1 英文の流れの作り方
	Listening Practice	Listening 演習
3	Basic Paragraph	Chapter 2 パラグラフの基本構造
	Listening Practice	Listening 演習
4	Developing Coherence	Chapter 3 パラグラフの一貫性の構築
	Listening Practice	Listening 演習
5	Creating Cohesion	Chapter 3 文法的 & 意味的結束
	Listening Practice	Listening 演習
6	Guiding Your Readers	Chapter 4 読者をいかに誘導するか：その方法
	Listening Practice	Listening 演習

7	Hedges and Boosters Listening Practice	Chapter 5 ヘッジとブースターの使い方 Listening 演習
8	Generating Ideas Listening Practice	Chapter 6 ブレインストーミング Listening 演習
9	Critical Thinking Listening Practice	Chapter 6 Topic: Convenient for Who? Listening 演習
10	How to Attract Your Readers Listening Practice	Chapter 7 Controlling Idea を備えた主題文を書く Listening 演習
11	Supporting Your Ideas Listening Practice	Chapter 7 + Chapter 8 支持文の書き方 Listening 演習
12	Concluding Paragraphs Listening Practice	Chapter 8 + Chapter 9 パラグラフの終わらせ方 Listening 演習
13	Problem-solving Paragraphs	Chapter 9 Topic: City and Environment
14	Listening Guided Writing	Review Test 指定されたテーマと様式によるワンパラグラフの作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
Model Essay は事前に目を通し、疑問点があればピックアップしてテキストのタスクがスムーズに行えるようにしておく。また、学習したポイントはその都度復習し、次の授業に活かせるようにしておく。その他、**Writing** やペア／グループワークのための準備及び指定された箇所の予習を行う。

【テキスト（教科書）】

中谷安男 *Academic Writing Strategies - Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals* (2020 金星堂)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

＜成績評価の方法＞

・期末にまとめた内容の文章（長めのワンパラグラフ）を書いてもらいます。

・原則として毎週、テスト形式又はディクテーションによる **Listening** 演習を行い、期末に **Review Test** を実施します。

・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

＜成績評価基準・評価の配分等＞

・期末の作文と授業内の **Writing** 関連のタスクは到達目標の (1)(2) に対応し、地道な努力を重ねて学習したことがきちんと身につけているかどうか、自分の考えを正確でわかりやすい英語を使い、論理的に表現出来ているかどうかを見ます。

・**Listening** 演習は到達目標の (3) に対応し、英語の語彙の多様性を認識し、勘頼みではなく、ポイントとなる部分を正しく聞き取れているかどうかを見ます。

・上記のほか、到達目標の (1)～(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が4回以上になった者は原則として単位修得の資格を失います。また、欠席、遅刻とも3回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

期末の作文 (40%)、**Listening** 演習 (**Review Test** 含む) (30%)、平常点（授業内の様々なタスクの出来具合、その他授業への貢献度など）(30%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はオンライン授業が多く、ペアワークなどクラスメートとの意見交換の時間が取れなかったのが、今年度は、制約があるかもしれませんが何らかの形で少しでも確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングについても、より丁寧に小さな演習を重ねることで基礎をしっかりと固め、最後の作文に取り組みやすくします。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the basics of paragraph writing and some useful writing skills so that they can, in the end, write a paragraph not only easy for readers to follow but also logical and convincing enough (Goal 1). For example, they will learn the basic paragraph structure, ways to develop coherence and create cohesion, how to generate ideas and persuade readers, and so on. The topics in the textbook are all global issues that have something to do with SDGs (Sustainable Development Goals). Students are expected, each week, to do several tasks, including pair work and group talk, in order to put what they have learned into practice, and finally write a long paragraph on a given theme in plain English (Goal 2). In addition, they will have some listening practice so that they can get used to natural-speed English and develop confidence in listening (Goal 3).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Guided writing 40%, listening tasks 30%, and other assignments & in-class contribution 30%.

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

溝部 敦子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エッセイ・ライティングとアカデミック・ペーパーの書き方の基礎を学んで複数のパラグラフから成るより長い文章に取り組む。また、リスニング演習を通して聴解力の向上を目指すとともに、正確な表現のための文法の見直しも適宜行う。

【到達目標】

- (1) 中級程度の英語を使って意思の伝達や自己表現ができる。
- (2) エッセイ・ライティングの基礎を身につけ、より長い論理的かつ説得力のある文章が書ける。
- (3) 耳にした順に英語の語順で内容を追うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に春学期と同じですが、Guided Writing は 2 回実施します。また、テキストの内容、もしくは何らかの形で SDGs に関連するようなテーマの映画を鑑賞し、初回の Guided Writing につなぐ予定です。テキストは Chapter 10 からです。パラグラフからエッセイへと重点を移し、比較や問題解決など、広い意味での大学の勉強に必要な（したがって、日本語で書くりポートにも応用可能な）論理的かつ説得力のある文章の書き方を学びます。フィードバックについても春学期と変わりません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Comparison & Contrast	Chapter 10 3つのタイプの比較と対照
	Listening Practice	Listening 演習
2	Thinking about Education	Chapter 10 Topic: Education for Future
	Listening Practice	Listening 演習
3	Writing Strategies	Process Writing
	Watching a Film	映画鑑賞 Part 1
4	Watching a Film	映画鑑賞 Part 2
	Essay Structure	Chapter 11 エッセイの構成と Thesis Statement の書き方
5	Listening Practice	Listening 演習
	Guided Writing	指定されたテーマと様式による長めのワンパラグラフの作文
6	Problem-solving Essay	Chapter 11+Chapter 12 問題解決型エッセイの書き方
	Listening Practice	Listening 演習
7	Solving Problems	Chapter 12 Topic: Eco-friendly 問題解決の方法と提示の仕方
8	The First Step for Academic Papers	Chapter 13 論文の構成
	Listening Practice	Listening 演習
9	Writing Introduction	Chapter 13 テーマの重要性の伝え方
	Listening Practice	Listening 演習
10	Creating a Research Niche	Chapter 14 研究論文の基礎
	Listening Practice	Listening 演習

11	A Persuasive Essay Listening Practice	Chapter 14 説得力のあるエッセイの書き方
12	Review	Listening 演習
13	Writing Strategies Listening	Chapter 15 Academic Writing の復習
		引用の仕方を学ぶ－剽窃を避けるために
14	Guided Writing	Review Test
		Outline Paragraph をエッセイに展開する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。春学期同様、Model Essay は事前に目を通し、テキストのタスクがスムーズに行えるようにしておく。その他、ポイントの復習や返却された課題の見直しなどを主体的に行うだけでなく、Writing やペア／グループワークのための準備及び指定された箇所の予習を行う。

【テキスト（教科書）】

中谷安男 Academic Writing Strategies - Focus on Global Issues for Sustainable Development Goals (2020 金星堂)

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価の方法>

・学期の前半と期末の 2 回、まとめた内容の文章（前半に長めのパラグラフ、期末にエッセイ）を書いてもらいます。

・ほぼ毎週、Listening 演習を行い、期末に Review Test を実施します。

・その他、授業内で行う様々な演習や出された課題への取り組みも授業への貢献度として評価します。

<成績評価基準・評価の配分等>

・学期前半と期末の Guided Writing と授業内の Writing 関連のタスクは到達目標の (1)(2) に対応し、学習したことがしっかりと身についているかどうか、自分の考えを正確かつわかりやすい英語で表現し、論理的かつ説得力のある形で述べられているかどうかを見ます。

・Listening 演習は到達目標の (3) に対応し、勘頼みではなく流れに沿って内容が理解出来ているかどうかを見ます。

・上記のほか、到達目標の (1)～(3) に対応して授業への貢献度などを加味し、総合的に判断して最終的な評価を決定します。ただし、欠席が 4 回以上となった者は原則として単位修得の資格を失います。

また、欠席、遅刻とも 3 回目から減点の対象となります。

配分は以下の通りです。

Guided Writing 2 回 (50%)、Listening 演習 (Review Test を含む) (30%)、平常点 (授業内の様々なタスクの出来具合、その他授業への貢献度など) (20%)

【学生の意見等からの気づき】
昨年度はオンライン授業もあり、ペア／グループワークなど、クラスメートとの意見交換の時間が取れなかったため、今年度は、制約はあるかも知れませんが何らかの形で少しでも確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングについては、より丁寧に小さな演習を重ねることで基礎をしっかりと固め、2 回の作文に取り組みやすくします。

【学生への意見等からの気づき】

昨年度はオンライン授業もあり、ペア／グループワークなど、クラスメートとの意見交換の時間が取れなかったため、今年度は、制約はあるかも知れませんが何らかの形で少しでも確保するようにしたいと思います。また、英文ライティングについては、より丁寧に小さな演習を重ねることで基礎をしっかりと固め、2 回の作文に取り組みやすくします。

【Outline (in English)】

Students will learn the basics of essay writing and academic papers and are required to write, following the instructions, one longer paragraph, and an essay or part of a research paper which is related to the topic they are interested in. Also, students will be given some opportunities to enhance their listening skill in one way or another. The three goals defined at the beginning of the spring semester will be, in somewhat updated forms, further pursued.

Again, before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Guided Writing 50%, listening tasks 30%, and other assignments & in-class contribution 20%.

LANe100LA

英語 2－I

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言を英文で読みながら、温暖化、酸性雨、森林伐採等の環境問題について考える。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。reading,listening,writing,speaking の能力を同時に要請する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する英文記事を読む。単に英文を和訳するのではなく、その背景を説明しながら和訳する。その内容について英語で質問をする。授業中のレポートは評価を付け後日返却する。オンライン授業に移行した際は、資料配布型の授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の説明	環境問題の背景
第 2 回	ストックホルム宣言 (背景)	ストックホルム宣言に関する英文 記事その① (資金提供)
第 3 回	ストックホルム宣言 (意義)	ストックホルム宣言に関する英文 記事その② (外国代表)
第 4 回	ストックホルム宣言 (問題点)	ストックホルム宣言に関する英文 記事その③ (好印象)
第 5 回	内容確認	記事内容についての英語質問
第 6 回	ストックホルム宣言 (汚染)	ストックホルム宣言に関する英文 記事その④ (公害病)
第 7 回	ストックホルム宣言 (評価)	ストックホルム宣言に関する英文 記事その⑤ (日本の貢献)
第 8 回	内容確認	記事内容についての英語質問
第 9 回	ストックホルム宣言 (人間)	宣言文その① (環境の被造物)
第 10 回	ストックホルム宣言 (汚染)	宣言文その② (人間環境)
第 11 回	ストックホルム宣言 (発展途上国)	宣言文その③ (人間の能力)
第 12 回	内容確認	宣言文についての英語質問
第 13 回	面接試験	英問英答 (出席番号前半) まとめと解説
第 14 回	面接試験	英問英答 (出席番号後半) まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。1 時間以上の予習を必要とする。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル・カーソン）

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、面接試験 80 % 各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

This class will show you how your English skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goals of this course is to have your opinions on environment.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

光野 昭雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境宣言文を読みながら、スモッグ、酸性雨等の問題について考える。reading,listening,writing,speaking の力を同時に養成する。

【到達目標】

受動的に英文を読むのではなく、正確に英文を理解して、自分に必要な情報を入手し、それを基に自分の考えを述べられるようにする。reading,listening,writing,speaking 能力を同時に要請する。学生諸君が主体的に読み、書き、聞き、話すことが求められる。授業中のレポートは評価を付け後日返却する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

環境宣言とそれに関する記事を英文で読む。テキスト内の表現を利用して英文を書き、それを基に会話をする。テキスト以外の環境問題に関する英文を聞く。授業中のレポートは評価点を付け後日返却する。オンライン授業に移行した際は、資料配布型の授業を行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その① (自然環境)
第 2 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その② (責任)
第 3 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その③ (天年資源)
第 4 回	東京宣言	東京宣言に関する英文記事その④ (アメリカンモデル)
第 5 回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第 6 回	東京宣言	内容表現を用いてのディクテーション
第 7 回	東京宣言	宣言文その① (ブッシュ政権)
第 8 回	東京宣言	宣言文その② (アメリカの無能さ)
第 9 回	東京宣言	宣言文その③ (日本の例)
第 10 回	東京宣言	宣言文その④ (戦後期の日本)
第 11 回	東京宣言	宣言文その⑤ (自然尊重)
第 12 回	東京宣言	内容についての英語での質疑応答
第 13 回	面接試験	英問英答 (出席番号前半) まとめと解説
第 14 回	面接試験	英問英答 (出席番号後半) まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず分からない単語の意味を調べ、授業前に一読しておく事。学習時間は 1 時間以上を必要とする。

【テキスト（教科書）】

人間環境宣言（鳳書房）

【参考書】

沈黙の春（レイチェル、カーソン）

【成績評価の方法と基準】

簡易な英文を聞き、理解し、自分の意見を表現する力を試す。
平常点 20 %、期末試験 80 %
各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位取得は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

説明の明瞭性を求められるので、できるだけ分かりやすく説明したい。

【Outline (in English)】

This class will show you how your English reading, writing, speaking, listening skill on environment can be developed. One hour is required for learning before and after class. The goal of this course is to have your original opinions on environment.

Grading Criteria test 80 % attitude 20 %

LANe100LA

英語 2 - I

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

インターネットや SNS の発達により、今日ではライティングの能力が必須となっている。そこで、このクラスでは、特にリスニングとライティングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

【到達目標】

- ・日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、学生が自分の意見を英語で表現できるようになる。
- ・学生が教材の英語を聞き取れるようになる。
- ・学生がメールを書いたり、グラフや図を英語で説明できるようになる。
- ・学生が論理的なパラグラフを書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・教員に基礎疾患があるため、春学期はオンラインでの開講とする。学習支援システム (Hoppii) を用いたオンデマンド授業 (資料型) とする。
- ・わからない単語は辞書を調べ、ルーズリーフやノートに 5 回ずつ練習してください。
- ・予習を行い、わからない単語は辞書で調べる。
- ・テキストの問題演習を行う。
- ・音声教材を用いて聞き取りを行う。
- ・英作文を書く。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 1 Welcome to the party!	友人へメールを書こう
2	Unit 2 I'm planning to study abroad	先輩や先生にメールを書こう
3	Unit 3 I'm afraid that it was damaged	苦情のメールを書こう
4	Unit 4 Let me introduce myself	自分の紹介文を書こう
5	Unit 5 My hobby is ...	自分の趣味を書こう
6	Unit 6 This is my dream	自分の夢を書こう
7	Unit 7 Isn't it exciting to go out?	自分の出来事を書こう
8	Unit 8 My memorial pictures	写真や絵を説明しよう
9	Unit 9 What I experienced	印象的な思い出を説明しよう

10	Unit 10 How long did you sleep?	グラフや図を説明しよう
11	Unit 11 I like tennis the best	アンケートをまとめよう
12	Unit 12 In my opinion ...	調査の結果から意見を言ってみよう
13	Unit 13 Do you agree with my idea?	賛成/反対を表明しよう
14	Unit 14 I'd like to have a 'free space'	自分の要望を述べよう

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。音声は教科書の HP から無料でダウンロードできるので、事前に聞いてくる。

<http://www.kinsei-do.co.jp/download/4040>

各回、英作文を提出し、添削されたものは、修正原稿を再提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

工藤洋路著『Have Fun Writing! 楽しく学ぶ英文ライティング入門』(金星堂、2017 年) 1800 円 + 税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』(研究社) と和英辞典が入っている電子辞書をお薦めします。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 (授業参加度、課題提出等) 30 % + 平常の英作文への評価 (授業内小テスト) 70 % = 100 %
- ・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。オンライン授業の場合、4 回以上課題を提出しなかった場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。オンラインの場合、1 回分の課題を提出しないと欠席扱いとなる。
- ・毎回の英作文が授業内小テストの扱いとなるため、課題を提出しなかった場合、その回の評価は 0 点となる。
- ・コピー&ペーストや翻訳ソフトの使用は不正とみなし、これらの行為を行ったことが明らかになった場合は、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ毎回英作文へのフィードバックをおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン学習時はパソコンやタブレットが必要となります (パソコンの方が望ましい)。

【その他の重要事項】

秋学期の授業形態に関しては、コロナの感染状況をみながら判断します。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

With the development of the Internet and SNS, the English communication is becoming more and more important today. So, this course aims to help students acquire basic English communication skills.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to improve the English listening and writing skills. By the end of the course, students should be able to express their opinions in English.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before the deadline. Your study time will be about one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

The final grade will be decided on regular assignments (30%) and the mid-term writing tests (70%).

LANe100LA

英語 2 - II

2017 年度以降入学者

豊口 真衣子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットや SNS の発達により、今日ではライティングの能力が必須となっている。そこで、このクラスでは、特にライティングのスキルを中心に、英語のコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

【到達目標】

- ・日常生活や現代社会のさまざまなトピックについて、学生が自分の意見を英語で表現できるようになる。
- ・特に、学生が大学生活に関連した内容の英文を書けるようになる。
- ・学生が論理的なパラグラフを書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・秋学期の授業形態は、コロナの感染状況をふまえて決定します。
- ・予習を行い、わからない単語は辞書で調べること。
- ・知らない単語はルーズリーフかノートに 5 回ずつ練習してください。
- ・テキストの問題演習を行う。
- ・英作文を書く。
- ・課題へのフィードバックは学習支援システムにて、適宜おこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Course Description
2	Unit 2	Daily Schedule
3	Unit 3	Weekly Schedule
4	Unit 4	Punctuality
5	Unit 5	Dream
6	Unit 6	Tests
7	Unit 7	Being Healthy
8	Unit 8	Comparison
9	Unit 9	Volunteer Work
10	Unit 10	Prediction
11	Unit 11	Eco-friendly
12	Unit 12	Vacation
13	Unit 13	What to Wear?
14	Unit 14	Going to a Hairdresser

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読み、問題を解いてくる。
各回、英作文を提出し、添削されたものは、修正原稿を再提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小室夕里著『Write Better with Patterns 辞書を活用する英文ライティング』（金星堂、2011 年）1900 円＋税

【参考書】

辞書は『リーダーズ英和辞典』（研究社）と和英辞典が入っている電子辞書をお勧めします。授業にも必ず持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題提出等）30 % + 平常の英作文への評価（授業内小テスト）70 % = 100 %

- ・各学期の欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。オンライン授業の場合、4 回以上課題を提出しなかった場合は、原則として単位修得を認めない。
- ・1 回の欠席につき、平常点から 10 点の減点とする。オンラインの場合、1 回分の課題を提出しないと欠席扱いになる。
- ・授業態度が悪い場合は減点する場合がある。
- ・毎回の英作文が授業内小テストの扱いとなるため、課題を提出しなかった場合、その回の評価は 0 点となる。
- ・コピー＆ペーストや翻訳ソフトの使用は不正とみなし、これらの行為を行った場合は、当該科目を不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多く英作文へのフィードバックをおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン学習時は、学習支援システムを用いるため、パソコンやタブレットが必要となります（パソコンの方が望ましい）。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

With the development of the Internet and SNS, the English communication is becoming more and more important today. So, this course aims to help students acquire basic English communication skills.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to improve the English listening and writing skills. By the end of the course, students should be able to express their opinions in English.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before the deadline. Your study time will be about one hour for a class.

(Grading Criteria/Policies)

The final grade will be decided on regular assignments (30%) and the mid-term writing tests (70%).

LANe100LA

英語 2－I

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を用いて自分の考えを表現し、効果的に情報を発信できるようになることを目指す。一年間かけて、論理的なパラグラフを正確な英語で書けるようになるために、今学期は基礎的な英文法の復習を行い、簡単な英文を書く練習を積み重ねる。

【到達目標】

- ・文法的に正確な英文を書けるようになる。
- ・英語を聞き取り、意味を掴むことができるようになる。
- ・文法力を向上させる。
- ・語彙力を向上させる。
- ・論理的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基礎的な英文法の解説を行い、簡単なリスニングと和文英訳に取り組む。適宜小テストなどを実施する。

授業は Zoom を通じて行い、試験のみ対面とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Be 動詞、普通動詞
2	Unit 2	進行形、未来形、命令形
3	Unit 3	完了形、受動態、冠詞
4	Unit 4	助動詞、接続詞
5	Unit 5	疑問詞
6	Unit 6	分詞、5 文型、知覚動詞、使役動詞
7	Unit 7	代名詞、前置詞
8	Unit 8	関係詞、as と that
9	Unit 9	不定詞、動名詞
10	Unit 10	形容詞、副詞、数と量、比較級、最上級
11	Unit 11	仮定法、不定代名詞、再帰代名詞
12	Unit 12	both, neither, either の使い分け、復習
13	Unit 13	まぎらわしい単語・略語、復習
14	期末試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。前回の復習をしっかりと行うこと。

【テキスト（教科書）】

高橋美津子『実践！ 使って身につく基礎英文法/ Building Solid English Grammar for Practical Use』（朝日出版社、2022 年）、1760 円

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%

試験 80%

4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を細やかに確認し、基礎的な文法事項を身に着けさせる。

【Outline (in English)】

In order to develop the abilities to write English paragraphs and to express their opinions in English, this class focus on reviewing English grammar and practicing on writing short sentences.

LANe100LA

英語 2－Ⅱ

2017 年度以降入学者

川野 芽生

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を用いて自分の考えを表現し、効果的に情報を発信できるようになることを目指す。複数のパラグラフからなる論理的なエッセイを書けるようになる。また、エッセイをもとにプレゼンテーションを行うことができるようになる。

【到達目標】

- ・ 複数のパラグラフからなる短い英文エッセイを書けるようになる。
- ・ 英語を聞き取り、意味を掴むことができるようになる。
- ・ 英語を用いて口頭で自分の意見を発表できるようになる。
- ・ 文法力を向上させる。
- ・ 語彙力を向上させる。
- ・ 論理的な思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

英文のパラグラフの構造や種類について学習し、演習問題を通して実際にパラグラフを書くことに取り組む。適宜 **Writing** の課題を課す。提出された課題のいくつかは授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Chapter 1	Explanatory Paragraphs
2	Chapter 2	Information Paragraphs
3	Chapter 3	Opinion Paragraphs
4	Chapter 4	Descriptive Paragraphs
5	Chapter 5	Comparative Paragraphs
6	Chapter 6	Contrast Paragraphs
7	Chapter 7	Cause and Effect Paragraphs
8	Chapter 8	Argumentative Paragraphs
9	Chapter 9	Problem and Solution Paragraphs
10	Chapter 10	Time-order Paragraphs
11	Chapter 11	Process Paragraphs
12	Chapter 12	Summaries
13	Chapter 13	Five Paragraph Essays
14	Chapter 14/15	Concluding Paragraphs for Essays/ Effective Ways to Begin an Essay

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。各 Unit のリーディング・パッセージは事前に読んで訳してくること。

【テキスト（教科書）】

川崎真理子ほか／ Real Writing: From Structured Paragraph to Complete Essay、南雲堂、2019 年

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %

レポート 80 %

4 回以上欠席した者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

課題や予習の負担が重くなりすぎないように、適正な量を考慮する。

【Outline (in English)】

This class aims to develop the abilities to write English essays and to express their opinions in English.

LANe100LA

Academic English R&W I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class as necessary.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1	Orientation. Getting to know you. Start unit 1.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Begin unit 1: Be an active reader.
Unit 1	Video: Social enterprise 101. Reading 1: A business close to her heart.	Using a dictionary: Choosing synonyms. Choose relevant information. Verb forms for describing the past. Collaborate on a social entrepreneurship idea.
Unit 1	Reading 2: So you want to be a social entrepreneur?	Consider the challenges of and evaluate opportunities for social entrepreneurship. Write a descriptive essay about a social enterprise.
Unit 2	Video: Caffeine 101. Reading 1: Coffee: making the modern world possible.	Inferring the meaning of idioms. Taking Write a summary of an academic text notes using questions. Recognizing positive redundancy.

Unit 2	Reading 2: Technology and sleep: what is the connection?	Question what you read. Summarize an academic text
Unit 2	Write a biographical paragraph.	Evaluate the effects of electronic devices on your life. Write a summary of an academic text.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 1 and 2 Vocabulary quiz.
Unit 3	Reading 1: A team's journey to success.	Determine a writer's purpose and audience. Formal and informal language.
Unit 3	Reading 2: Working together for success	Paraphrasing. Recognizing a writer's cultural context.
Unit 3	Carry out a SWOT analysis for a team.	Write an expository essay on teamwork.
Unit 4	Video: Architects learn from termites.	Make inferences. The passive voice to emphasize what's important.
Unit 4	Reading 1: Reach for the sky.	
Unit 4	Reading 2: Engineering miracle under the sea.	Analyze what motivates engineers. Evaluate engineering achievements.
Unit 4	Consider responses to engineering achievements.	Write a process essay describing an achievement in engineering.
Semester Class review.		Portfolio review and discussion.
Review		

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト (教科書)】

Reflect Reading and Writing Level 6. Christien Lee. First Edition 2022. (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and homework 20%

Writing assignments (portfolio of all drafts) 40%

Vocabulary quizzes 20%

Midterm and final exams 20%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students said the previous textbook was difficult.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】

In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

LANe100LA

Academic English L&S I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to prepare for academic study and to take English listening and speaking exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking TED Talks podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Orientation. Getting to know you.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Start Unit 1. Watch TED Talk. Vocabulary - prefixes.
Unit 1	Unit 1 - Necessities. Less stuff, more happiness	Pronunciation - relaxed pronunciation.
Unit 1	Unit 1 - Necessities. Less stuff, more happiness	Presentation skills - speech aims & using props. Presentation performance skill: Using props.

Unit 2	Unit 2 - Image and identity. Who am I? Think again	Dealing with accents. Noting who says what. Listening for details.
Unit 2	Unit 2 - Image and identity. Who am I? Think again	Building an argument. Presentation performance skill: Using humour.
Unit 3	Unit 3 - Harmony. Making peace is a marathon	Discourse markers. Distinguishing facts from opinion.
Unit 3	Unit 3 - Harmony. Making peace is a marathon	Presentation performance skill: Being relatable.
Unit 4	Unit 4 - Challenges. How I beat stage fright	Collaborative listening and note taking. Emotive language in speeches.
Unit 4	Unit 4 - Challenges. How I beat stage fright	Presentation performance skill: Controlling nerves.
Unit 5	Unit 5 - Inspiration. I'm not your inspiration, thank you very much	Understanding examples. Discussing challenging topics.
Unit 5	Unit 5 - Inspiration. I'm not your inspiration, thank you very much	Presentation performance skill: Repeating key ideas..
Unit 6	Unit 6 - Solutions. How to make filthy water drinkable	Listening for signposts. Giving supporting evidence.
Unit 6	Unit 6 - Solutions. How to make filthy water drinkable	Presentation performance skill: Giving a demonstration.
Semester Student Review	Student presentations	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】

Keynote Advanced Students Book. Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson. (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 20%

Quizzes 15%

Reports 20%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students enjoyed Ted Talks.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】

Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking authentic TED Talks. Students will learn about real ideas and actions that are changing the world. Students will get used to English spoken by people from all over the world. Students will improve their ability to handle various types of information and to assess it critically. Students will get better at expressing their own opinions and ideas. Students will learn how to use the simple presentation techniques used by TED speakers. Students will also listen to a variety of other materials chosen by themselves. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier and more effective. Students will listen become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 5	98	Distinguish facts from
Art	ART	opinions.Prefixes.
	Video: Counter	Evaluate evidence for
	mapping.	theories.
	Reading 1: Painting	
	prehistory.	
Unit 5	Reading 2: Making a	Consider the value of art from
	statement, one wall	the past.
	at a time.	Discuss issues around studying
		early art
Unit 5	Modern street	Write a review of a
	painting.	creative work.
6 Social	Video: Ghost town at	Explain causes
Science	the edge of the world.	and effects. Use past
		modals.Consider why places are
		abandoned.
Unit 6	Reading 1: From	Explore the potential of a ghost
	boom town to ghost	town.
	town.	
Unit 6	Reading 2: Lidar.	Write a cause-effect
		6 essay about an event in history.

Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 5 and 6. Vocabulary quiz.
Unit 7	Video: How do you prefer to communicate?	Annotate a text. Compare and/or contrast. Evaluate ideas about language and thought.
Unit 7	Reading 1: The language-thought connection.	Analyze potential areas of difficulty in communication.
Unit 7	Reading 2: Communication across cultures.	Examine reasons for communication breakdowns. Write a compare-contrast essay.
Unit 8	Video: Ethical decision making.	Analyze whether actions are ethical.
Unit 8	Reading 1: Ethics in business, travel, and sports.	Evaluate situations and make ethical decisions. Understand bias.
Unit 8	Reading 2: Learning from history's mistakes.	Unreal conditionals. Consider and apply ethics in experiments.
Unit 8	A cause-and-effect essay.	Write persuasively on an ethical question.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】

Reflect Reading and Writing Level 6. Christien Lee. First Edition 2022. (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and homework 20%
Writing assignments (portfolio of all drafts) 40%
Vocabulary quizzes 20%
Midterm and final exams 20%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】

In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to prepare for academic study and to take English listening exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking TED Talks podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 7	Unit 7 - Imagination.	Inferring meaning from context. Taking imagination seriously.
Unit 7	Unit 7 - Imagination.	Reading between the lines. Presentation performance skill: Being authentic.
Unit 8	Unit 8 - Working together. Build a tower, build a team.	Understanding contrastive stress. Supporting the main idea.
Unit 8	Unit 8 - Working together. Build a tower, build a team.	Presentation performance skill: Using visuals.
Unit 9	Unit 9 - Stress and relaxation. All it takes is ten mindful minutes.	Understanding mid-sentence changes in direction. Techniques for entertaining your audience.

Unit 9	Unit 9 - Stress and relaxation. All it takes is ten mindful minutes.	Presentation performance skill: Thinking about your audience.	more effective. Students will listen become more confident, fluent English speakers ready for any situation.
Unit 10	Unit 10 - Risk. Protecting twitter users (sometimes from themselves).	Reviewing note-taking. Noticing analogies.	
Unit 10	Unit 10 - Risk. Protecting twitter users (sometimes from themselves).	Presentation performance skill: Good pace and emphasis.	
Unit 11	Unit 11 - Vision. How to build with clay ... and community.	Dealing with different stress patterns. Valuing different cultures.	
Unit 11	Unit 11 - Vision. How to build with clay ... and community.	Presentation performance skill: Varying your tone of voice.	
Unit 12	26Unit 12 - The future. Image recognition that triggers augmented reality.	Thinking about the speaker's motivation.	
Unit 12	26Unit 12 - The future. Image recognition that triggers augmented reality.	Presentation performance skill: Being concise.	
Semester Test	Student presentations.	Presenting research. Evaluation. Review and discussion.	
Semester Review	Presenting research. Class review.	Evaluation. Review and discussion.	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】

Keynote Advanced Students Book. Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson. (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 25%

Quizzes 20%

Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students enjoyed choosing their own topics. We will do it more.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】

Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking authentic TED Talks. Students will learn about real ideas and actions that are changing the world. Students will get used to English spoken by people from all over the world. Students will improve their ability to handle various types of information and to assess it critically. Students will get better at expressing their own opinions and ideas. Students will learn how to use the simple presentation techniques used by TED speakers. Students will also listen to a variety of other materials chosen by themselves. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier and

LANe100LA

Academic English R&W I 2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class. Readings should be read at home and students will have group discussion about them.

【到達目標】

You will read 6 articles and write 6 short essays about them to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class, and we will meet some weeks in person and some weeks on Zoom. Students should do the reading at home and participate in group discussion in class. Feedback will be given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Handout of article 1 about USA. Discussion about it. Prepare writing outline.
2	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 1 descriptive style.
3	Reading	Discuss article 2 about China and prepare outline for writing 2.
4	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 2 analytical style
5	Reading	Discuss article 3 about India and prepare outline for writing 3. Writing 2 due
6	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 3 opinion style
7	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 4. Writing 3 due
8	Mid-term exam	online
9	Exam review	Review writing 4
10	Reading	Discuss article 4 about Thailand and prepare outline for writing 5 comparative style.
11	Writing review	Teacher review. Homework: reading article 5 about Myanmar and summarize in writing 6.

12	Presentations	Student present their summary of article 5 in 1 minute and critique each other.
13	Reading	Discuss article 6 about the Philippines. Homework: study for final.
14	Final exam	feedback & review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None. Handouts will be provided online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% writing
25% participation
In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need access to a computer or smartphone

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

Read a variety of articles including newspapers and magazines and identify the topic, main idea and support reasons and examples. Then practice writing about those articles.

LANe100LA

Academic English L&S I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about your own opinions and experiences with classmates. You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically

【到達目標】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class with some lessons in person and others online via Zoom. Learn to give opinions based on reading and listening to Ted Talks. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introductions	An explanation of the class requirements. Pair & Group discussion
2	Speaking	Pair & Group discussion about making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: study for mid-term
7	Mid-term exam	Feedback
8	Review Mid-term	Homework: watch video
9	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: watch video

10	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about improving lives. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: study for final.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% exams and quizzes

25% effort & class participation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Feedback will be given in class, over Zoom and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【1】

None

【2】

None

【3】

None

【4】

None

【Outline (in English)】

See above

LANe100LA

Academic English R&W II 2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Readings should be read before class and students will have group discussion about them in class. Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class.

Read a variety of articles and learn to identify the topic sentence, main idea and supporting reasons. Then practice academic writing using the information from the articles.

【到達目標】

You will read 6 articles and write 6 short essays to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Reading at home and group discussion in class. Feedback will be provided during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Handout of article.	Reading and group discussion. Homework: writing 1.
2	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 2 about Korea
3	Reading	Discuss article 2 and prepare outline for writing 2. Homework: writing 2.
4	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 3 about Taiwan
5	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 3. Homework: writing 3.
6	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 4 about Vietnam
7	Reading	Discuss article 4 and prepare outline for writing 4. Homework: writing 4.
8	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 5 about Bangladesh
9	Reading	Discuss article 5 and prepare outline for writing 5. Homework: writing 5
10	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 6 about Malaysia

11	Reading	Discuss article 6 and prepare outline for writing 6. Homework: writing 6
12	Writing review	Teacher will review writing. Homework: prepare for group discussion.
13	Group Discussion	Discussion. Homework: study for final exam.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

50% writing

25% reading quizzes

25% class participation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Computer access

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

See above

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about about your own opinions and experiences with class-mates. You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically

【到達目標】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

Group discussion. Feedback will be provided during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion about healthcare solutions. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about user experience. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about making suggestions. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about community builders. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about community building. Homework: study for mid-term exam
7	Mid-term exam	feedback Homework: watch video.

8	Speaking	Pair & Group discussion about changing places. Homework: watch video
9	Speaking	Pair & Group discussion about Barefoot college. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about Identity. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about global movement. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about Global Migration. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about Emotional Intelligence. Homework: study for final. Feedback
14	Final exam	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% exams and quizzes

25% effort & participation

In principle, no more than 3 absences allowed.

Feedback will be provided in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

none

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

See above

LANe100LA

Academic English R&W I 2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time, or submitted by email and checked by instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1 Rural Electrification Part One
2	Introduction/Overview	Lesson 1 Rural Electrification Part Two
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2 A Tornado Part One
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2 A Tornado Part Two
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3 A Big Demonstration
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 4 A Power Blackout
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 5 An Election Campaign
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 6 A Groundbreaking Ceremony
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 7 A Trade Agreement
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 8 The Job Market
11	Presentation II.1	Lesson 9 A Joint Venture
12	Presentation II.1	Lesson 10 A Troublesome passenger

13	Topic Sentences / Support 1	Lesson 11 A Bankruptcy
14	Topic Sentences / Support 1	Lesson 12 A Train Derailment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

If classes are conducted online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

N/A

LANe100LA

Academic English L&S I 2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Holiday xwords
2	Introduction/Overview	Food xwords (1)p4 A B /HW p8 1 A B
3	Food	Sports xwords/HW p11 C
4	Sports	PP matching activity/p6 listening/HW p10 reading A D
5	Countries of the World	Group guessing 1-7/Countries xwords/HW p10 5 A D
6	Money and Economy	Money and economy xwords/p11 8 C p154 3/HW p17 6 C
7	Travel	Tide xwords P18 1 B C p19 4 A B/HW p21 5 B
8	Shopping	Relative xwords P22 Grammar p23 Reading/HW p24 3
9	Health	School Subjects xwords P26 6 B C p27 7 A/HW p28 A D

10	Housework	Education xwords P30 5 D p31 7 A C/HW p34 D
11	Dreams	Cities of the world xwords P36 A B p37 6 A/HW p36 5 C
12	Describing Cities	Detergent xwords P38 1 A 2 B/HW p40 4 C
13	Complaints	Where would you hear these? P41 5 B p42 Grammar, Reading
14	Revise and Check	Revise semester content

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

If classes are conducted online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

N/A

LANe100LA

Academic English R&W II 2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email to the instructor for evaluation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 13 A Border Dispute Part One
2	Introduction / Overview	Lesson 13 A Border Dispute Part Two
3	Writing Skills: Review	Lesson 14 A Cable Car Accident Part One
4	Writing Skills: Review	Lesson 14 A Cable Car Accident Part Two
5	Presentation Skills: Review	Lesson 15 Capital Punishment
6	Presentation Skills: Review	Lesson 16 An International conference
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 17 A National Census
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 18 A Forest Fire
9	Academic Presentation I.1	Lesson 19 A Lottery Winner
10	Academic Presentation I.1	Lesson 20 A Prison Uprising

11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 21 An Oil Spill
12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 22 A Communications Satellite
13	Academic Presentation I.2	Lesson 23 The European Union
14	Academic Presentation I.2	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

If classes are conducted online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

N/A

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	How was your summer vacation?/HW p45 4 B
2	Meaning of Dreams	Halloween xwords (1) P44 3 p46 5 B p47 7 A/HW p48 1 C D
3	Happiness	Street scene A/B P51 B C D/HW p54 1 B p55 1 C
4	Learning Foreign Languages	Marathon print activity P56-57 6 C D /HW p58 C
5	Telling Stories	Hobbies xwords P59 2 A p60 6 B/HW p60-61 F G
6	Danger	Halloween xwords (2) P62 Grammar, Vocabulary/HW p66 6 B C

7	Evaluating Risk	Music xwords P65 B C p69 3/HW p70 4 D E
8	Nationalities	Reported speech activity p77 6 A B/HW p76 3 E
9	Inventions	IF matching activity P78 1 A p79 3 G/HW p80 4 A B
10	Describing Differences	Alligator xwords P82 Grammar, Vocabulary/HW p86 5 B
11	School Subjects	Food xwords (2) P90 4 A B C p91 5 B/HW p89 3 B C
12	Making Decisions	Christmas xwords P95 2 A Relative xwords/HW p94 1 C D
13	Reported Speech	P102 Grammar, Vocabulary
14	Review	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

If classes are conducted online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

N/A

LANe100LA

Academic English R&W I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 1	Orientation. Getting to know you.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Begin unit 1: Be an active reader.
Unit 1	Video: Social enterprise 101. Reading 1: A business close to her heart.	Using a dictionary: Choosing synonyms. Choose relevant information. Verb forms for describing the past. Collaborate on a social entrepreneurship idea.

Unit 1	Reading 2: So you want to be a social entrepreneur?	Consider the challenges of and evaluate opportunities for social entrepreneurship. Write a descriptive essay about a social enterprise.
Unit 2	Video: Caffeine 101. Reading 1: Coffee: making the modern world possible.	Inferring the meaning of idioms. Taking Write a summary of an 2 academic text notes using questions. Recognizing positive redundancy.
Unit 2	Reading 2: Technology and sleep: what is the connection?	Question what you read. Summarize an academic text
Unit 2	Write a biographical paragraph.	Evaluate the effects of electronic devices on your life. Write a summary of an academic text.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 1 and 2 Vocabulary quiz.
Unit 3	Reading 1: A team's journey to success. Behavioral Science/ Psychology	Determine a writer's purpose and audience. Formal and informal language.
Unit 3	Reading 2: Working together for success	Paraphrasing. Recognizing a writer's cultural context.
Unit 3	Carry out a SWOT analysis for a team.	Write an expository essay on teamwork.
Unit 4	Video: Architects learn from termites. Reading 1: Reach for the sky.	Make inferences. The passive voice to emphasize what's important.
Unit 4	Reading 2: Engineering miracle under the sea.	Analyze what motivates engineers. Evaluate engineering achievements.
Unit 4	Consider responses to engineering achievements.	Write a process essay describing an achievement in engineering.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.		
【テキスト（教科書）】		
Reflect Reading and Writing Level 6. Christien Lee. First Edition 2022. (Cengage Learning)		
【参考書】		
An English-English dictionary.		
【成績評価の方法と基準】		
Class participation and homework 20%		
Writing assignments(portfolio of all drafts)40%		
Vocabulary quizzes 20%		
Midterm and final exams 20%		
*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.		

【学生の意見等からの気づき】

Students said the previous textbook was difficult.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】

In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

LANe100LA

Academic English L&S I

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to prepare for academic study and to take English listening and speaking exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking TED Talks podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Orientation. Getting to know you.	An explanation of the class requirements. We will get to know each other. Start Unit 1.
Unit 1	Unit 1. Necessities.	Watch TED Talk. Vocabulary - prefixes.
Unit 1	Unit 1 - Necessities. Less stuff, more happiness	Pronunciation - relaxed pronunciation.
Unit 1	Unit 1 - Necessities. Less stuff, more happiness	Presentation skills - speech aims & using props. Presentation performance skill: Using props.
Unit 2	Unit 2 - Image and identity. Who am I? Think again	Dealing with accents. Noting who says what. Listening for details.
Unit 2	Unit 2 - Image and identity. Who am I? Think again	Building an argument. Presentation performance skill: Using humour.

Unit 3	Unit 3 - Harmony. Making peace is a marathon	Discourse markers. Distinguishing facts from opinion.
Unit 3	Unit 3 - Harmony. Making peace is a marathon	Presentation performance skill: Being relatable.
Unit 4	Unit 4 - Challenges. How I beat stage fright	Collaborative listening and note taking. Emotive language in speeches.
Unit 4	Unit 4 - Challenges. How I beat stage fright	Presentation performance skill: Controlling nerves.
Unit 5	Unit 5 - Inspiration. I'm not your inspiration, thank you very much	Understanding examples. Discussing challenging topics.
Unit 5	Unit 5 - Inspiration. I'm not your inspiration, thank you very much	Presentation performance skill: Repeating key ideas..
Unit 6	Unit 6 - Solutions. How to make filthy water drinkable	Listening for signposts. Giving supporting evidence.
Unit 6	Unit 6 - Solutions. How to make filthy water drinkable	Presentation performance skill: Giving a demonstration.
Semester Review	Student presentations	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】

Keynote Advanced Students Book. Lewis Lansford, Paul Dummett & Helen Stephenson. (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%

Presentations 20%

Quizzes 15%

Reports 20%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students enjoyed Ted Talks.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】

Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking authentic TED Talks. Students will learn about real ideas and actions that are changing the world. Students will get used to English spoken by people from all over the world. Students will improve their ability to handle various types of information and to assess it critically. Students will get better at expressing their own opinions and ideas. Students will learn how to use the simple presentation techniques used by TED speakers. Students will also listen to a variety of other materials chosen by themselves. Students will study lots of useful skills that will make listening to English easier and more effective. Students will listen become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' reading and writing skills. This class will help students to prepare for academic study, to take English reading exams such as TOEIC and IELTS. Furthermore, it will help students to get ready for the workplace of tomorrow.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable academic reading and writing skills including, skimming, scanning, vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically and writing and revising drafts. They will read and write a variety of authentic texts such as articles, essays, and stories. Students will develop their ability to accurately understand authentic texts and think critically about them. Students will also develop their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences in a clear and attractive way in the written form. Additionally, students will give critical feedback to classmates on their writing and receive useful feedback in return. Students will practise self-editing and peer editing as important methods to improve their work.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Active participation is necessary. Students will need to prepare for class well, so that we can explore each topic in depth. In class, we will exchange opinions, plan, revise and comment on each other's work in pairs and small groups. Two or three writing tasks will be required. Students will need to keep a portfolio/ record of their writing tasks online using Google Classroom. Feedback will be given online and in the class as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 5	98	Distinguish facts from
Art	ART	opinions.Prefixes.
	Video: Counter mapping.	Evaluate evidence for theories.
	Reading 1: Painting prehistory.	
Unit 5	Reading 2: Making a statement, one wall at a time.	Consider the value of art from the past.
		Discuss issues around studying early art
Unit 5	Modern street painting.	Write a review of a creative work.

6	Video: Ghost town at the edge of the world.	Explain causes and effects. Use past modals. Consider why places are abandoned.
Unit 6	Reading 1: From boom town to ghost town.	Explore the potential of a ghost town.
Unit 6	Reading 2: Lidar.	Write a cause-effect essay about an event in history.
Midterm Review & Quiz	Midterm review.	Review of unit 5 and 6. Vocabulary quiz.
Unit 7	Video: How do you prefer to communicate?	Annotate a text. Compare and/or contrast. Evaluate ideas about language and thought.
Unit 7	Reading 1: The language-thought connection.	Analyze potential areas of difficulty in communication.
Unit 7	Reading 2: Communication across cultures.	Examine reasons for communication breakdowns. Write a compare-contrast essay.
Unit 8	Video: Ethical decision making.	Analyze whether actions are ethical.
Behavioral Science/Ethics	Reading 1: Ethics in business, travel, and sports.	Evaluate situations and make ethical decisions. Understand bias.
Unit 8	Reading 2: Learning from history's mistakes.	Unreal conditionals. Consider and apply ethics in experiments.
Unit 8	A cause-and-effect essay.	Write persuasively on an ethical question.
Semester Review	Class review.	Portfolio review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
 /University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
 Homework will include reading assignments, review exercises, vocabulary exercises, writing drafts, self-editing and revising drafts, as well as preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class.

【テキスト（教科書）】

Reflect Reading and Writing Level 6. Christien Lee. First Edition 2022. (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

Class participation and homework 20%

Writing assignments (portfolio of all drafts) 40%

Vocabulary quizzes 20%

Midterm and final exams 20%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable.

【学生が準備すべき機器他】

Please check Hoppi for how to access the first class online. After that, we will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. *Students who attend the Zoom session on campus will need a headset. An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】

In this class, students will read and write several kinds of text. In addition, they will study lots of useful skills that will make reading and writing easier, faster and more effective.

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to develop students' listening and speaking skills. Students will develop their abilities to listen to a variety of spoken materials (e.g. the news, talks, lectures and interviews). This class will help students to prepare for academic study and to take English listening exams such as TOEIC and IELTS.

【到達目標】

Students will study and practise a number of valuable speaking and listening skills that can be used in both academic and everyday situations. Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking TED Talks podcasts and videos. Students will develop their ability to accurately understand authentic listening texts and think critically about them. They will practise many skills including; vocabulary building, note-taking, identifying main points, summarizing, gathering ideas, researching, outlining, organising ideas logically. Students will use these skills to improve their ability to express their opinions, exchange knowledge and experiences. Students will discuss, prepare short speeches and presentations, role plays and so on. Furthermore, by using materials on various topics regarding politics, society, history, and culture, students will improve their understanding of various aspects of the world.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Active participation is necessary. Students will need to prepare well for class, so that we can explore each topic in depth, make good progress and enjoy speaking. As a general rule, students are expected to use only English in class. Students will work individually, in pairs and small groups. Feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Unit 7	Unit 7 - Imagination. Taking imagination seriously.	Inferring meaning from context.
Unit 7	Unit 7 - Imagination. Taking imagination seriously.	Reading between the lines. Presentation performance skill: Being authentic.
Unit 8	Unit 8 - Working together. Build a tower, build a team.	Understanding contrastive stress. Supporting the main idea.
Unit 8	Unit 8 - Working together. Build a tower, build a team.	Presentation performance skill: Using visuals.
Unit 9	Unit 9 - Stress and relaxation. All it takes is ten mindful minutes.	Understanding mid-sentence changes in direction. Techniques for entertaining your audience.

Unit 9	Unit 9 - Stress and relaxation. All it takes is ten mindful minutes.	Presentation performance skill: Thinking about your audience.
Unit 10	Unit 10 - Risk. Protecting twitter users (sometimes from themselves).	Reviewing note-taking. Noticing analogies.
Unit 10	Unit 10 - Risk. Protecting twitter users (sometimes from themselves).	Presentation performance skill: Good pace and emphasis.
Unit 11	Unit 11 - Vision. How to build with clay ... and community.	Dealing with different stress patterns. Valuing different cultures.
Unit 11	Unit 11 - Vision. How to build with clay ... and community.	Presentation performance skill: Varying your tone of voice.
Unit 12	Unit 12 - The future. Image recognition that triggers augmented reality.	Thinking about the speaker's motivation.
Unit 12	Unit 12 - The future. Image recognition that triggers augmented reality.	Presentation performance skill: Being concise.
Semester Test	Student presentations.	Presenting research. Evaluation. Review and discussion.
Semester Review	Presenting research. Class review.	Evaluation. Review and discussion.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Homework will include listening, reading, review exercises and preparation tasks for class speaking activities. Students will have homework after every class. Students will be asked to keep a listening diary of Ted Talks, news, podcasts, drama and other English listening materials that interest them.

【テキスト（教科書）】

Pathways 3: Listening, Speaking, and Critical Thinking (Second Edition) by Becky Tarver Chase and Christien Lee (Cengage Learning)

【参考書】

An English-English dictionary.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 45%
Presentations 25%
Quizzes 20%
Reports 10%

*In principle, students can be absent a maximum of 3 times to receive academic credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

Students enjoyed choosing their own topics. We will do it more.

【学生が準備すべき機器他】

An English-English dictionary.

【その他の重要事項】

The above may change according to the interests and abilities of the class.

【Outline (in English)】

Students will watch and listen to inspiring and thought-provoking authentic TED Talks. Students will learn about real ideas and actions that are changing the world. Students will get used to English spoken by people from all over the world. Students will improve their ability to handle various types of information and to assess it critically. Students will get better at expressing their own opinions and ideas. Students will learn how to use the simple presentation techniques used by TED speakers. Students will also listen to a variety of other materials chosen by themselves. Students will study lots of

useful skills that will make listening to English easier and more effective. Students will listen become more confident, fluent English speakers ready for any situation.

LANe100LA

Academic English R&W I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Read a variety of articles including newspapers and magazines and identify the topic, main idea and support reasons and examples. Then practice writing about those articles. Learn how to skim and scan articles for the main idea and supporting details. Improve writing skills by writing summaries and opinion essays about the readings.

【到達目標】

You will read 6 articles and write 6 short essays about them to improve your reading and writing skills. You will also learn about different types of writing such as descriptive, analytical and persuasive. You will also learn new vocabulary.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class with some classes in person and some online via Zoom. Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class. Readings should be read at home and students will have group discussion about them.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Handout of article 1 about USA. Discussion about it. Prepare writing outline.
2	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 1 descriptive style.
3	Reading	Discuss article 2 about China and prepare outline for writing 2. Writing 1 due
4	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 2 analytical style.
5	Reading	Discuss article 3 about India and prepare outline for writing 3. Writing 2 due
6	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: writing 3 opinion style.
7	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 4. Writing 3 due
8	Mid-term exam	none
9	Exam review	Also review writing 4.

10	Reading	Discuss article 4 about Thailand and prepare outline for writing 5 comparative style.
11	Writing review	Teacher will review students writing. Homework: reading article 5 and summarize in writing 6.
12	Student presentation	Student present their summary of article 5 in 1 minutes and critique each other. Homework: read article 6
13	Discussion	Discuss article 6. Homework: study for final exam.
14	Final exam	review and return final writing assignment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

None required. Articles will be provided online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Writing 75%

Participation 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.
Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

See above

LANe100LA

Academic English L&S I

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about about your own opinions and experiences with classmates.

【到達目標】

You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

This is a hybrid class with some lessons in person and some online via Zoom. Learn to give give opinions based on reading and listening to Ted Talks. Feedback will be given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: watch video
7	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: study for mid-term
8	Mid-term exam	Feedback
9	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about improving lives. Homework: watch video

12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: prepare for final exam
14	Final exam	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% exams and quizzes

25% effort & class participation

In principle, no more than 3 absences allowed per term.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Students need to have a smartphone, ipad or pc and a headset to participate in the Zoom classes at home and in class. They also need to be familiar with Zoom, Hoppii and Google classroom.

【その他の重要事項】

None

【None】

none

【1】

none

【2】

none

【3】

none

【4】

none

【Outline (in English)】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback.

LANe100LA

Academic English R&W II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Read a variety of articles and learn to identify the topic sentence, main idea and supporting reasons. Then practice academic writing using the information from the articles. Readings should be read before class and students will have group discussion about them in class. Writing will be submitted on Google classroom and feedback will be provided online and in class

【到達目標】

To improve reading and writing skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Reading at home and group discussion in class. Feedback will be given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction and reading	Reading and group discussion. Homework: writing 1
2	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 2 about Korea
3	Reading	Discuss article 2 and prepare outline for writing 2. Homework: do writing 2.
4	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 3 about Taiwan
5	Reading	Discuss article 3 and prepare outline for writing 3.
6	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 4 about Indonesia
7	Reading	Discuss article 4 and prepare outline for writing 4
8	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 5 about Bangladesh
9	Reading	Discuss article 5 and prepare outline for writing 5
10	Writing review	Teacher will review writing. Homework: read article 6 about Malaysia.
11	Reading	Discuss article 6 and prepare outline for writing 6
12	Writing review	Teacher will review writing. Homework: submit final homework.
13	Review	Homework: study for final.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Handouts

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

50% writing

25% reading quizzes

25% class participation

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Computer/internet access

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

See above

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

ERIC J RITTER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Listen to TED Talks and investigate power ideas that are changing the world. Think critically about those ideas and talk about your own opinions and experiences with classmates. You will practice speaking and listening about the life-changing ideas in the TED Talks. You will make presentations and develop your opinions. You will improve your ability to handle various types of information and to assess it critically.

【到達目標】

Learn to give opinions based on reading and listening to TED Talks.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

You will watch and listen to 6 inspiring TED Talks. We will look at topics from various angles while building vocabulary and knowledge. You will work in pairs and groups and have many opportunities to communicate. You will make individual and group presentations in class. You will also practice academic skills such as note-taking, summarizing, gathering ideas, researching, organizing ideas logically and giving critical feedback. Feedback will be given during class and on Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Speaking	Pair & Group discussion about everyday heroes. Homework: watch video
2	Speaking	Pair & Group discussion about making an impact. Homework: watch video
3	Speaking	Pair & Group discussion about volunteering. Homework: watch video
4	Speaking	Pair & Group discussion about touching lives. Homework: watch video
5	Speaking	Pair & Group discussion about trends. Homework: watch video
6	Speaking	Pair & Group discussion about trends around us. Homework: prepare for mid-term exam
7	Mid-term exam	Feedback Homework: watch video
8	Speaking	Pair & Group discussion about technology trends. Homework: watch video

9	Speaking	Pair & Group discussion about starting a movement. Homework: watch video
10	Speaking	Pair & Group discussion about predicting trends. Homework: watch video
11	Speaking	Pair & Group discussion about proving lives. Homework: watch video
12	Speaking	Pair & Group discussion about health. Homework: watch video
13	Speaking	Pair & Group discussion about tech healthcare. Homework: prepare for final exam
14	Final exam	Feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Paul Dummet. Keynote 3. National Geographic/Cengage Learning

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

75% exams and quizzes.

25% class participation.

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

Computer and internet access

【その他の重要事項】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

See above

LANe100LA

Academic English R&W I

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time, or submitted by email and checked by instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 1 Rural Electrification Part One
2	Introduction/Overview	Lesson 1 Rural Electrification Part Two
3	Basic Presentation Skills	Lesson 2 A Tornado Part One
4	Basic Presentation Skills	Lesson 2 A Tornado Part Two
5	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 3 A Big Demonstration
6	Basic Writing Skills (common mistakes)	Lesson 4 A Power Blackout
7	Presentation I / Listening Skills	Lesson 5 An Election Campaign
8	Presentation I / Listening Skills	Lesson 6 A Groundbreaking Ceremony
9	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 7 A Trade Agreement
10	Basic Writing Skills (sentences)	Lesson 8 The Job market
11	Presentation II.1	Lesson 9 A Joint Venture
12	Presentation II.1	Lesson 10 A Troublesome Passenger

13	Topic Sentences / Support 1	Lesson 11 A Bankruptcy
14	Topic Sentences / Support 1	Lesson 12 A Train Derailment

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

If classes are conducted online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

N/A

LANe100LA

Academic English L&S I

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Holiday xwords
2	Introduction/Overview	Food xwords (1)p4 A B /HW p8 1 A B
3	Food	Sports xwords/HW p11 C
4	Sports	PP matching activity/p6 listening/HW p10 reading A D
5	Countries of the World	Group guessing 1-7/Countries xwords/HW p10 5 A D
6	Money and Economy	Money and economy xwords/p11 8 C p154 3/HW p17 6 C
7	Travel	Tide xwords P18 1 B C p19 4 A B/HW p21 5 B
8	Shopping	Relative xwords P22 Grammar p23 Reading/HW p24 3
9	Health	School Subjects xwords P26 6 B C p27 7 A/HW p28 A D

10	Housework	Education xwords P30 5 D p31 7 A C/HW p34 D
11	Dreams	Cities of the world xwords P36 A B p37 6 A/HW p36 5 C
12	Describing Cities	Detergent xwords P38 1 A 2 B/HW p40 4 C
13	Complaints	Where would you hear these? P41 5 B p42 Grammar, Reading
14	Revise and Check	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

If classes are conducted online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

N/A

LANe100LA

Academic English R&W II

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing reading and writing skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of reading and writing, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to write various types of paragraphs and short reports as well as to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week which will involve listening to a recording and completing a written transcription of its content. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email to the instructor for evaluation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	Lesson 13 A Border Dispute Part One
2	Introduction / Overview	Lesson 13 A Border Dispute Part Two
3	Writing Skills: Review	Lesson 14 A Cable Car Accident Part One
4	Writing Skills: Review	Lesson 14 A Cable Car Accident Part Two
5	Presentation Skills: Review	Lesson 15 Capital Punishment
6	Presentation Skills: Review	Lesson 16 An International conference
7	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 17 A National Census
8	Essay Writing: Basic Skills I.1	Lesson 18 A Forest Fire
9	Academic Presentation I.1	Lesson 19 A Lottery Winner
10	Academic Presentation I.1	Lesson 20 A Prison Uprising

11	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 21 An Oil Spill
12	Essay Writing: Basic Skills I.2	Lesson 22 A Communications Satellite
13	Academic Presentation I.2	Lesson 23 The European Union
14	Academic Presentation I.2	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

No Textbook. Instructor will provide all materials.

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

If classes are conducted online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

N/A

LANe100LA

Academic English L&S II

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course, which meets once a week, will focus on developing and practicing listening and speaking skills. In the second semester of this course, students will learn to write various types of short essays, participate in discussions, and deliver speeches on academic themes. Most class activities will consist of listening and speaking, grammar drills, and delivering presentations.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to express themselves on contemporary social and political issues. Students will also learn to communicate accurately and effectively in English and deliver speeches on topics of popular concern.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

Lessons will consist of student presentations and discussions as well as group activities and communication games. English will be used to gather, interpret, and present facts and opinions related to news events and ethical issues covering a variety of subjects, most of which will be chosen by the students themselves. Students will be expected to do about 25 to 35 minutes of homework each week. Occasional writing homework will also be assigned. Assignments will be reviewed during class time or submitted by email and checked by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction / Overview	How was your summer vacation?/HW p45 4 B
2	Meaning of Dreams	Halloween xwords (1) P44 3 p46 5 B p47 7 A/HW p48 1 C D
3	Happiness	Street scene A/B P51 B C D/HW p54 1 B p55 1 C
4	Learning Foreign Languages	Marathon print activity P56-57 6 C D /HW p58 C
5	Telling Stories	Hobbies xwords P59 2 A p60 6 B/HW p60-61 F G
6	Danger	Halloween xwords (2) P62 Grammar, Vocabulary/HW p66 6 B C

7	Evaluating Risk	Music xwords P65 B C p69 3/HW p70 4 D E
8	Nationalities	Reported speech activity p77 6 A B/HW p76 3 E
9	Inventions	IF matching activity P78 1 A p79 3 G/HW p80 4 A B
10	Describing Differences	Alligator xwords P82 Grammar, Vocabulary/HW p86 5 B
11	School Subjects	Food xwords (2) P90 4 A B C p91 5 B/HW p89 3 B C
12	Making Decisions	Christmas xwords P95 2 A Relative xwords/HW p94 1 C D
13	Reported Speech	P102 Grammar, Vocabulary
14	Review	Revise semester content

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep up on current events by reading a daily newspaper or website. Weekly homework assignments will consist of listening to a recording and completing a transcript of its contents. Students will also be expected to prepare presentations for delivery in class from time to time. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Latham-Koenig & C. Oxenden. English File Pre-Intermediate Student Book Fourth Edition. Oxford University Press ISBN:978-0-19-403741-9

【参考書】

None.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on class participation(25%), tests(25%), class presentations and written work(50%). Attendance is important for success in this course. In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

If classes are conducted online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

N/A

LANj100LA

日本語 1 I

2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が大学の講義や口頭発表を理解するために必要な日本語の聴解能力を養成する。学生は、ある程度の長さのスク립トの聴解／読解でポイントをつかみ、メモを作成する。教材に沿った演習を通して、情報の中で重要な部分を聞き取る訓練を行った後、要約文を書く。さらに、時に応じてその話題に関わる自国の状況を含め、口頭／文章で表現する機会を持つ。

【到達目標】

1. 学生は、大学の講義や発表の概要をつかめるようになる。
2. 学生は、ノートをとれるようになる。
3. 学生は、聞いたり読んだりした内容の要約ができるようになる。
4. 学生は、話題に関わる自国の状況を説明したり、意見が表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はおおよそ以下の手順で進める：

1. C Dを聴き、大意をつかみながらメモを作成。
 2. メモを元に、内容に関する Q & A、穴埋め問題に解答。その後正答の確認と解説
 3. 要約、自分自身の意見文を作成する。
 4. 構成を確認。教科書内の構成に関する穴埋め問題を自力で回答した後、答え合わせをして、文章全体の構成を確認する。
 5. 話題について話し合う（その際、話題に関わる自国の状況について調べ、まとめることもある。）
- * 3～5 のプロセスについては、課によって順序・内容が変わることがある。
- * 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppi/Google Classroom を用いて行う。
- * 授業で学習した語彙、表現については、翌週に小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・聴解とノート取り
第 1 課	量	・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 2 回	第 2 課 天神様	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 3 回	第 3 課 暗闇イベント	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 4 回	第 4 課 知里幸恵さん	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション

第 5 回	第 5 課 開発途上国支援	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 6 回	第 6 課 バイオミクリー	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 7 回	第 8 課 渋滞学	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 8 回	第 9 課 バイオトイレ	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 9 回	第 10 課 人はなぜ化粧をするのか	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 10 回	第 11 課 茶の湯	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 11 回	第 12 課 ガラスの天井	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 12 回	第 13 課 子どもの顔	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 13 回	第 14 課 防災教育	・聴解とノート取り ・関連 Q & A ・要約と構成チェック ・ディスカッション
第 14 回	期末試験	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に各話題に関わる自国の状況について調べ、まとめ、意見を整理しておくこと。
・授業後に、スクリプトを読み返し、基本的な語彙や表現を復習すること。
この授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト名：留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ聴解「上級」 著者：東京外国語大学留学生日本語教育センター 出版社：スリーエーネットワーク 価格：2000 円＋税

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 20 %
小テスト 20 %
各回の課題 30 %
期末試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

・PC、ノートパソコン、タブレット、スマートホンなど、またウェブカメラ、マイクなど Zoom でのオンライン授業を可能にするデバイス。（カメラ付き PC が好ましい）

【その他の重要事項】

※最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をするので、必ず出席すること。
※学生の入国状況、その他の事情の変化に伴って、授業形態および評価の方法に変更が加えられる可能性がある。
※課題は、遅れて提出した場合、評価点は与えられない。
※欠席が 4 回以上の学生に対しては原則として成績評価を行わない。

【Outline (in English)】

(Outline)

This class is for undergraduate students who study Japanese as second language. The aim of this course is to provide students with the sufficient skills for understanding short lectures and presentations given in Japanese.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students should be able to do the followings:

1. to understand short lectures and presentations in Japanese.
2. to take notes and analyze the structure of the discourse.
3. to summarize the contents of short lectures and presentations.
4. to discuss the given topics with the knowledge they acquired through their micro-research or learned from their own background culture.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 30%

Assignments 30%

Quizzes 20%

in class contribution 20%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LANj100LA

日本語 1 II

2017 年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

大学の講義やゼミの受講に必要な日本語の聴解・読解能力を養成する。学生は、ある程度の長さの大学の講義動画などを見聴きし、ポイントをつかみ、メモを作成する。そして、情報の中で重要な部分を取り取る訓練を行う。

【到達目標】

1. 学生は、講義やゼミの受講に必要な聴解・読解力がつく。
2. 学生は、ノートを取れるようになる。
3. 学生は、講義や発表の内容について質問や発言ができるようになる。
4. 学生は理解した内容について自分の意見をまとめて表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP1、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

授業はおおよそ以下の手順で進める:

1. 講義の内容について、予備知識を持つ
 2. 資料を見たり、ノートを取ったりしながら、20 分程度の大学の講義を聞く
 3. 内容についての質問に解答する
 4. 内容が正しく把握できているか確認する
 5. 当該テーマについて、さらに考えたり、調べたりする
 - 6.5 を踏まえ、口頭や文章で自分の意見を述べる
- * 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppi/Google Classroom を用いて行う。
- * 授業で学習した語彙、表現については、翌週に小テストを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・授業の進め方 ・講義を聴くということ
第 2 回	第 2 課 巡回セールスマン問題 (1)	・予備知識 ・「講義を聴く前に」 ・講義を聴く ・ノートを取る
第 3 回	第 2 課 巡回セールスマン問題 (2)	・「内容確認問題」 ・「発展学習」
第 4 回	第 3 課 「思う」という言葉 「～と思う」と「～と思っている」 (1)	・予備知識 ・「講義を聴く前に」 ・講義を聴く ・ノートを取る
第 5 回	第 3 課 「思う」という言葉 「～と思う」と「～と思っている」 (2)	・「内容確認問題」 ・「発展学習」
第 6 回	第 5 課 外国人児童生徒と日本語教育 (1)	・予備知識 ・「講義を聴く前に」 ・講義を聴く ・ノートを取る

第 7 回	第 5 課 外国人児童生徒と日本語教育 (2)	・「内容確認問題」 ・「発展学習」
第 8 回	第 7 課 日本は「国土が狭くて人口が多い」という神話 (1)	・予備知識 ・「講義を聴く前に」 ・講義を聴く ・ノートを取る
第 9 回	第 7 課 日本は「国土が狭くて人口が多い」という神話 (1)	・「内容確認問題」 ・「発展学習」
第 10 回	第 8 課 文化を読み解く ホフステードの研究から「不確実性の回避」 (1)	・予備知識 ・「講義を聴く前に」 ・講義を聴く ・ノートを取る
第 11 回	第 8 課 文化を読み解く ホフステードの研究から「不確実性の回避」 (2)	・「内容確認問題」 ・「発展学習」
第 12 回	第 9 課 食料自給率から見た日本の食生活の変化 (1)	・予備知識 ・「講義を聴く前に」 ・講義を聴く ・ノートを取る
第 13 回	第 9 課 食料自給率から見た日本の食生活の変化 (2)	・「内容確認問題」 ・「発展学習」
第 14 回	総まとめ	総まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後は、学生は練習問題で間違った箇所をチェックし、きちんと復習することで、授業で学んだことを消化する。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

テキスト名: 『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ動画で学ぶ大学の講義』 筆者: 東京外国語大学留学生日本語教育センター 編著 出版社: スリーエーネットワーク 価格: (2000 円 + 税)

【参考書】

上記テキストを適宜参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 20 %

小テスト 20 %

各回の課題 60 %

※欠席が 4 回以上の学生に対しては、原則として成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

スマホ、タブレット端末、あるいは PC など、インターネット接続が可能な機器。

【その他の重要事項】

※課題は、遅れて提出した場合、評価点は与えられない。

※学生の入国状況、その他の事情の変化に伴って、授業形態および評価の方法に変更が加えられる可能性がある。

※最新情報を Hoppii で確認すること。 また、法政のメールアカウントをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This class is for undergraduate students who study Japanese as second language. The aim of this course is to help students acquire the sufficient skills for understanding lectures and presentations given in Japanese.

(Learning Objectives)

By the end of this course, students should be able to do the followings:

1. to understand lectures and presentations in Japanese.
2. to take notes and analyze the structure of the discourse.
3. to ask questions and to give comments on the lectures and presentations.

4. to express their own opinions regarding what they have heard and to discuss the given topics with others.
(Learning activities outside of classroom)
Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Assignments 60%

Quizzes 20%

in class contribution 20%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LANj100LA

日本語 1 I

2017 年度以降入学者

中沢 佐企子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は授業での講義やプレゼンテーション等を聞き、正確に理解することが重要である。この授業ではニュース・解説等を聞き取る練習を通して、大学の講義や発表のみならず、仕事の場での会議等が正確に聞き取ることができるようになるための練習を行う。また、聞き取った内容をまとめたり要約したりすることができるようになる。また、口頭で発表する練習も行う。

【到達目標】

大学の講義、ニュースや解説等を聞き、ノートテイキングができるようになる。内容を正しく理解し、話の構成や論理の流れをたどることができるようになる。また、聞き取った内容をまとめ、人に伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 課題を見る。大まかな内容について確認する。
- 2 課題を見ながらメモを取る。質問などをして、内容を確認する。
- 3 学生同士で話し合いながら、メモを取った内容の確認をする。
- 4 課題を見ながらメモの最終チェックを行う。
- 5 メモを参考にして、課題の内容を指定した字数内でまとめて書く。
- 6 課題の内容やトピックについて討論・発表等を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス 聴解・口頭表現練習 1	授業の説明。 聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
2 回	聴解・口頭表現練習 2	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
3 回	聴解・口頭表現練習 3	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
4 回	聴解・口頭表現練習 4	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
5 回	聴解・口頭表現練習 5	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
6 回	聴解・口頭表現練習 6	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。

7 回	聴解・口頭表現練習 7	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
8 回	聴解・口頭表現練習 8	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
9 回	聴解・口頭表現練習 9	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
10 回	聴解・口頭表現練習 10	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
11 回	聴解・口頭表現練習 11	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
12 回	聴解・口頭表現練習 12	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
13 回	聴解・口頭表現練習 13	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。
14 回	聴解・口頭表現練習 14	聴解練習ではメモを取り、内容をまとめる練習を行う。口頭表現練習では、ディスカッションや発表等を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。
課題や発表のフィードバック後、各自復習し、自分の弱点を改善するように期待する。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

課題：聴解練習 70 %、口頭表現練習 20 %
平常点：10 %（授業での参加度・積極性・協調性を重視する。）
※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする
(1) 欠席回数が 4 回以下であること
(2) 授業で課題を提出していること

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業でもハイブリッド授業になる可能性が高いため、教室にはパソコン等の機器とヘッドセット（イヤホンとマイク）を持参してください。カメラも使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・出席を重視する。
- ・課題を遅れて提出した場合は-30 %で計算する。

【Outline (in English)】

In this course it is important for students to understand lectures and presentations correctly. Students will come to understand not only content in lectures and presentations but also conferences and business discussions through listening practice. Furthermore, students will be able to summarize the content. And students will make presentations in class.

LANj100LA

日本語 1 II

2017 年度以降入学者

中沢 佐企子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生にとって、大学の専門等の文章を読み、正確に理解することは重要である。この授業では、読解練習で様々な文章を読み、内容を正しく理解することができるようになる。また、内容をまとめたり要約したりできるようになる。内容についてディスカッションをしたり発表したりする練習も行う。

【到達目標】

様々な文章を読み、論旨や筆者の主張を正確に把握することができるようになる。また、読んだ内容を簡潔にまとめたり説明したりできるようになる。内容について、自分の意見を聞き手にわかりやすくまとめて伝えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 テキストを音読し、漢字の読み方やアクセント・イントネーション等について確認する。
- 2 テキストの内容について質問に答える。
- 3 課題に取り組む。
- 4 内容等について討論や発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス 読解・口頭表現練習 1	授業の説明。 教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
2 回	読解・口頭表現練習 2	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
3 回	読解・口頭表現練習 3	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
4 回	読解・口頭表現練習 4	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
5 回	読解・口頭表現練習 5	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
6 回	読解・口頭表現練習 6	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
7 回	読解・口頭表現練習 7	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
8 回	読解・口頭表現練習 8	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
9 回	読解・口頭表現練習 9	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。

10 回	読解・口頭表現練習 10	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
11 回	読解・口頭表現練習 11	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
12 回	読解・口頭表現練習 12	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
13 回	読解・口頭表現練習 13	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。
14 回	読解・口頭表現練習 14	教材を読み、質問に答えたり内容をまとめたりする。内容についての話し合いや発表も行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

読解力を高めるために、他の授業のテキストや参考文献等を積極的に読み、理解するように努める。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント教材。テキストは使用しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

課題：読解練習 70 %、口頭表現練習 20 %

平常点：10 %（授業での参加度・積極性・協調性を重視する。）

※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする

- (1) 欠席回数が 4 回以下であること
- (2) 授業で課題を提出していること

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業でもハイブリッド授業になる可能性が高いため、教室にはパソコン等の機器とヘッドセット（イヤホンとマイク）を持参してください。カメラも使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・出席を重視する。
- ・プリントは一人一回しか配布しない。
- ・課題を遅れて提出した場合は-30 %で計算する。

【Outline (in English)】

In this course it is important for students to read and understand university textbooks and papers correctly. Students will become able to read and understand studied texts through practice. And students will discuss and make presentations in class.

LANj100LA

日本語 2 I

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。

【到達目標】

1. 書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。
2. 使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
- 2 書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
- 3 1 回目の作文を書き、提出する。作文は手書きで書き、授業時間内に提出する。
- 4 次の授業で、1 回目の作文を返却・フィードバックし、書き直しをする。
- 5 最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 自己紹介 文体①	・授業運営の説明 ・書き言葉の文末表現
第 2 回	レポートに使われる文体	・書き言葉の文末表現、語彙と文の接続
第 3 回	文の基本①	・自動詞や受け身形を使った文 ・助詞「は」と「が」の使い分け
第 4 回	文の基本②	・語や文の名詞化 ・「の」と「こと」の使い分け ・パラフレーズ
第 5 回	首尾一貫した文	・呼応 ・複文の適切な使い方
第 6 回	各種記号と引用	・句読点と記号 ・引用文
第 7 回	段落	・段落の構造 ・段落の分け方と構成
第 8 回	仕組みの説明	・組織や物事の仕組みの分析と描写
第 9 回	歴史的な経過	・時系列的な説明のしかた ・過去と現在のつながりを示す
第 10 回	分類	・何らかの基準に基づいて分類し、その各々の要素について説明する方法
第 11 回	定義	・定義対象のカテゴリー分けと特徴の説明。定義づけ
第 12 回	比較・対象	二つ以上のものを比べ、その性格・性質を明らかにする
第 13 回	因果関係	原因・理由と結果の表現

第 14 回 期末試験

学習した表記、文法、語彙の復習
と小作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は、語彙・文法などの復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二通信子・佐藤不二子 (2020)『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

★上記教科書は、2003 初版から大きく改訂されているので、必ず「新訂版」を購入すること。

【参考書】

石黒圭・筒井千絵『留学生のためのここが大切文章表現のルール』スリーエーネットワーク

小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版

鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク

友松悦子『中級日本語学習者対象 小論文への 1 2 のステップ』スリーエーネットワーク

【成績評価の方法と基準】

課題 : 30%

平常点 : 20%

期末試験 : 50%で評価する

・授業を 4 回以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

・PC、ノートパソコン、タブレット、スマートホンなど、またウェブカメラ、マイクなど Zoom でのオンライン授業を可能にするデバイス（カメラ付きPCが好ましい）。

【その他の重要事項】

・平常点では、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to develop students' ability in the output of information, mainly through the practice of written expression. In order to train writing skills, we will especially use composition as a means of expression to develop academic skills for university. 【Learning Objectives】

1. Through writing practice, students will be able to write sentences that are typical of university students.
2. Students will be able to write sentences that are easy for readers to understand by paying attention not only to the vocabulary and grammar used, but also to the overall structure and development of the argument.

【Learning activities outside of classroom】

Students who are not able to use basic items such as language drills correctly will be required to review vocabulary and grammar. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

If you miss more than four classes, you will lose the qualification to take the final exam.

LANj100LA

日本語 2 II

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。前半はレポートの作成練習、後半は様々な実用的なテーマに沿って、簡潔かつ適切な文の書き方を身につける。

【到達目標】

1. 書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。
2. 使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
- 2 書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
- 3 1 回目の作文を書き、提出する。作文は手書きで書き、授業時間内に提出する。
- 4 次の授業で、1 回目の作文を返却・フィードバックし、書き直しをする。
- 5 最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	意見と根拠①	・効果的な意見の述べ方 ・意見表明の文末表現
第 2 回	意見と根拠②	・事実と意見のかき分け ・レポート論文における事実文、意見文、行動文の使い方の確認
第 3 回	資料の利用①	・資料の探し方と選別、利用のしかた
第 4 回	資料の利用②	・引用文の復習 ・参考文献の書き方
第 5 回	レポートの作成①	・レポートの構成と作成のプロセス
第 6 回	レポートの作成②	・レポートのドラフト作成
第 7 回	メールの書き方	（★レポート提出） ・同窓会への招待
第 8 回	お知らせのメール②	・長期欠席の通知
第 9 回	問い合わせのメール	・活動内容の問い合わせ ・資料請求など
第 10 回	お願いのメール①	・本の貸し出し依頼 ・期限の延期願い
第 11 回	お願いのメール②	・アドバイスを求める ・資料提供を求める
第 12 回	掲示板やメーリングリストを使う	・使い方と、トラブル回避の方法
第 13 回	自己アピールをする	・奨学金などへの応募
第 14 回	期末試験	学習した表記、文法、語彙の復習と小作文

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は、語彙・文法などの復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

二通信子・佐藤不二子『新訂版 留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク

野田尚史・森口稔『日本語を書くトレーニング』 ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

課題 : 30%

平常点 : 20%

期末試験 : 50%で評価する

・授業を 4 回以上欠席すると、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

・PC、ノートパソコン、タブレット、スマートホンなど、またウェブカメラ、マイクなど Zoom でのオンライン授業を可能にするデバイス。(カメラ付き PC が好ましい)

【その他の重要事項】

・平常点では、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to develop students' ability in the output of information, mainly through the practice of written expression. In order to practice writing skills, we will especially use the means of expression "composition" to develop academic skills for university. In the first half of the course, students will practice writing reports, and in the second half, they will learn how to write concise and appropriate sentences on a variety of practical topics.

【Learning Objectives】

1. Through writing practice, students will be able to write sentences that are typical of university students.
2. Students will be able to write sentences that are easy for readers to understand by paying attention not only to the vocabulary and grammar used, but also to the overall structure and development of the argument.

【Learning activities outside of classroom】

Students who are not able to use basic items such as language drills correctly will be required to review vocabulary and grammar. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

If you miss more than four classes, you will lose the qualification to take the final exam.

LANj100LA

日本語 2 I

2017 年度以降入学者

中沢 佐企子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。

【到達目標】

書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 テキストの言葉のドリルなどで基本事項の確認をする。
- 2 書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
- 3 1 回目の作文を書き、提出する。必ず締め切りまでに提出する。
- 4 次の授業で、1 回目の作文を返却・フィードバックし、書き直しをする。
- 5 最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業についての説明
	文章表現練習 1	作文を書く練習
2 回	文章表現練習 2	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
3 回	文章表現練習 3	言葉のドリル・話し合い・作文を書く練習
4 回	文章表現練習 4	話し合い・作文を書く練習
5 回	文章表現練習 5	話し合い・作文を書く練習
6 回	文章表現練習 6	話し合い・作文を書く練習
7 回	文章表現練習 7	話し合い・作文を書く練習
8 回	文章表現練習 8	話し合い・作文を書く練習
9 回	文章表現練習 9	話し合い・作文を書く練習
10 回	文章表現練習 10	話し合い・作文を書く練習
11 回	文章表現練習 11	話し合い・作文を書く練習
12 回	文章表現練習 12	話し合い・作文を書く練習
13 回	文章表現練習 13	話し合い・作文を書く練習
14 回	作文の発表	今学期に書いた作文を発表する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

言葉のドリルなどの基本事項が正しく使えない学生は、語彙・文法などの復習をする。

授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂東実子（2021）『大学生のための文章表現練習帳 第 2 版』国書刊行会

必ず 2021 年に出版された「第 2 版」を購入すること。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・話し合いや発表も含む）20 %、課題（作文）80 %

※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする

- (1) 欠席回数が4回以下であること
- (2) 授業で課題を提出していること
- (3) 最後の授業で発表をしていること

【学生の意見等からの気づき】

授業では予習等を重視し、学生の自主的な授業参加を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業でもハイブリッド授業になる可能性が高いため、教室にはパソコン等の機器とヘッドセット（イヤホンとマイク）を持参してください。カメラも使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・出席を重視する。
- ・プリントは一人一回しか配布しない。
- ・課題を遅れて提出した場合は-30 %で計算する。
- ・平常点では、授業中の発表を評価する。また、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】

Students will develop their academic skills through writing exercises. They will be able to write reports with proper languages as a university student.

LANj100LA

日本語Ⅱ

2017 年度以降入学者

中沢 佐企子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文章表現練習を中心に、主に情報のアウトプットの面の能力の養成を目指す。「書く」能力の訓練のために、特に「作文」という表現手段を利用し、大学におけるアカデミック・スキルを養う。春学期より長い文章を書く練習を行う。

【到達目標】

書く練習を通して、大学生らしい文章が書けるようになる。使用する語彙・文法のみならず、全体の構成や論の展開などについても気を配り、読み手に理解しやすい文章がかけられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 テキストの基本事項の確認をする。
- 2 書く練習を行う前に学生同士で話し合い等を行う。
- 3 1 回目の作文を書き、提出する。必ず締め切りまでに提出する。
- 4 次の授業で、1 回目の作文を返却・フィードバックし、書き直しをする。
- 5 最後の授業では、今学期に書いた作文を発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	ガイダンス	授業の説明
	文章表現練習 1	話し合い・作文を書く練習
2 回	文章表現練習 2	話し合い・作文を書く練習
3 回	文章表現練習 3	話し合い・作文を書く練習
4 回	文章表現練習 4	話し合い・作文を書く練習
5 回	文章表現練習 5	話し合い・作文を書く練習
6 回	文章表現練習 6	話し合い・作文を書く練習
7 回	文章表現練習 7	話し合い・作文を書く練習
8 回	文章表現練習 8	話し合い・作文を書く練習
9 回	文章表現練習 9	話し合い・作文を書く練習
10 回	文章表現練習 10	話し合い・作文を書く練習
11 回	文章表現練習 11	話し合い・作文を書く練習
12 回	文章表現練習 12	話し合い・作文を書く練習
13 回	文章表現練習 13	話し合い・作文を書く練習
14 回	作文の発表	今学期に書いた作文を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

間違いが多い学生は、語彙・文法などの復習をする。
授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

坂東実子（2021）『大学生のための文章表現練習帳 第2版』国書刊行会
必ず 2021 年に出版された「第2版」を購入すること。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加・話し合いや発表も含む）20 %、課題（作文）80 %

※以下の条件をすべて見なすものを評価の対象とする

- (1) 欠席回数が4回以下であること
- (2) 授業で課題を提出していること
- (3) 最後の授業で発表をしていること

【学生の意見等からの気づき】

授業では予習等を重視し、学生の自主的な授業参加を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業でもハイブリッド授業になる可能性が高いため、教室にはパソコン等の機器とヘッドセット（イヤホンとマイク）を持参してください。カメラも使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

- ・出席を重視する。
- ・プリントは一人一回しか配布しない。
- ・課題を遅れて提出した場合は-30 %で計算する。
- ・平常点では、授業中の発表を評価する。また、授業中の態度・積極性・協調性を重視する。

【Outline (in English)】

Students will develop their academic skills through writing exercises. They will be able to write reports with proper languages as a university student.

LANj100LA

日本語 2 I

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学の学部レポート作成に必要な作文技能を習得する。
対象は日本語を母語としない学部1年の学生を基本とする。

【到達目標】

アカデミック・ライティングの基礎となる語彙、文法、表現の知識を持ち、必要に応じてこれが使え。各学科のレポート作成にあたり、レポート文の文体や語彙、表現など、必要な基礎的知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP1、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップされた文章作成課題に取り組む。
課題に対する教師からのフィードバックを読み、課題に修正を加える。
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の説明 レポート執筆時の注意点
第2回	分かりやすい文章とは	・字体、字の大きさ、行間等、文 章作成ソフトの設定について ・文体
第3回	文章構成	・読み手を意識した文章（内容が 理解しやすい文章）を書く
第4回	メタ言語	・段落の分け方 ・メタ言語の役割
第5回	パラグラフ・ライティング①	・パラグラフ・ライティングとは？
第6回	パラグラフ・ライティング②	・パラグラフ・ライティングを実 践する
第7回	パラグラフ・ライティング③	・パラグラフ・ライティングを実 践する
第8回	簡潔な文を書くために	・名詞化 ・抽象概念
第9回	ミニレポートを書く①	・情報を集め、整理する
第10回	ミニレポートを書く②	・本論の構成を考える
第11回	ミニレポートを書く③	・本論に基づき序論を書く
第12回	ミニレポートを書く④	・結論を書く ・レポートを推敲する
第13回	期末レポート準備①	・期末レポート準備
第14回	期末レポート準備②	・期末レポート準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業外学習時間は1時間を標準とするが、授業内に課題が完成しない場合、また添削後に書き直しが指示された場合は、さらに30分ほど必要と想定している。

【テキスト（教科書）】

オリジナル教材

【参考書】

小森万里・三井久美子『レポート論文を書くための日本語文法』くろしお出版

鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク

【成績評価の方法と基準】

各回の課題 : 50%

期末レポート : 50%で評価する

・授業を4回以上欠席すると、単位認定資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

・学部1年生は、前期末の各教科の各種レポートの作成に不安や戸惑いがあるので、前期終了段階で基礎的なレポート作成の目安がほしいとの声が多かった。そのため、本授業では、前期終了少し前にはレポート作成技術のある程度習得し、学生のニーズに応えられるように努める。

・オンライン使用にあたっては、学生の接続環境や情報の管理に気を配り、また機器やソフトの使用方法についてさらに改善を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

・PC、ノートパソコン、タブレット、スマートホンなど、またウェブカメラ、マイクなど Zoom でのオンライン授業を可能にするデバイス。

【Outline (in English)】

This course will provide students with basic skills of academic writing in Japanese. It is basically designed for first-year students, who learn Japanese as their second language.

LANj100LA

日本語2Ⅱ

2017 年度以降入学者

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、レポートや論文執筆などの学術的な文章作成に必要な知識と技術の習得を目的とする。

【到達目標】

1. レポートや論文などを書くために必要な基本的な作文技術を習得する。
2. 的確な表現を使い、論理的な文章が書けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が課した課題に学生は個人またはグループで取り組む。

その後、課題に関連した発表を行う場合もある。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設ける。時間内に終わらなかった場合は、次回の授業までの宿題とする。

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	意見文1 (根拠に基づき主張する)	単なる感想・所感と説得力のある主張の違いを考える
第2回	意見文2 (異なる立場・視点から考える)	異なる立場・視点から主張とその根拠を考える
第3回	意見文3 (意見文の構造)	論拠 (data)、保証 (warrant)、反証 (rebuttal)、主張 (claim) を意識して文章の構成メモを作成する／クラスメイトと意見を交換する
第4回	意見文4 (本論執筆)	第3回で作成したメモをもとに本論を執筆する
第5回	意見文5 (本論を見直し、修正する)	チェック項目 (文章構成、パラグラフ・ライティング、メタ言語、文法 (動詞の自他、態、主述の対応) 等) に沿い、推敲する
第6回	意見文6 (序論の構成)	序論で問題の背景 (事象、データ等) を説明する、問いを提起する、本論の構成を予告する練習課題を行う
第7回	意見文7 (序論執筆)	第5回授業で完成した本論の序論を執筆する
第8回	意見文8 (結論執筆)	結論を執筆し、意見文を完成させる
第9回	引用の技法①	引用表現の種類、使い分け方、典拠の示し方、文献表の書き方を学ぶ
第10回	引用の技法②	文章を読解し、その概要を間接引用表現を用い作成する

第 11 回	引用の技法③	文章を読解し、その概要を間接引用表現を用い作成する
第 12 回	期末レポート準備①	参考文献を読み、情報を収集する。
第 13 回	期末レポート準備②	本論執筆のためのメモを作成する
第 14 回	期末レポート準備③	期末レポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教員が提起した問題、あるいは、課した課題に学生は個人でないしグループで取り組む。

文章作成課題を課す場合は、授業内に時間を設けるが、書き終わらなかった場合は、次回までに完成し提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・毎回、教材を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

・各授業の課題（60 %）

・期末課題（40 %）

※ 4 回以上欠席した場合は、原則として単位を出さない。

※ 課題の提出率が 70% 以下の場合は、履修不足とみなし、単位を出さない。

【学生の意見等からの気づき】

学術的な文章を書くことは容易ではありませんが、課題を通して「書き方」を意識化することができるようになりますと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業計画は学期途中で一部変更することがあります。

※ 最初の授業時に、具体的な授業進行予定やクラスルールなどに関する説明をしますので、必ず出席してください。

【Outline (in English)】

The objective of the class is to develop students' ability of writing for research activities. Students are expected to learn text structures, grammatical structures and expressions in academic Japanese.

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

児島 由理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間かけてドイツ語の初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題や読解テキストを通じて語彙や表現を覚えることも目標とします。

【到達目標】

必要かつ十分な文法説明に加えて練習問題でドイツ語文法への理解を深めることができます。

また、読解テキストを通じて語彙を増やし読解力を養います。

ドイツ語圏に渡航した場合にも役立つ会話表現も学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。しっかり身につくように、手と口と頭を働かせ、積極的に参加する授業を目指します。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

提出された課題・宿題は添削して返却し、授業でコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、ドイツ語圏概説、アルファベート、発音、挨拶など
第 2 回	Lektion 1	人称代名詞と動詞の現在人称変化（規則変化）、 sein の現在人称変化（不規則変化）
第 3 回	Lektion 1	定動詞の位置、自己紹介の表現
第 4 回	Lektion 2	名詞の性・数・格、定冠詞・不定冠詞、 haben の現在人称変化
第 5 回	Lektion 2	定冠詞・不定冠詞（続き）、 möchte の現在人称変化、ホテルに宿泊する時の会話
第 6 回	Lektion 1-2（復習）	Lesetext （読んで練習してみよう）
第 7 回	Lektion 3	不規則動詞の現在人称変化、人称代名詞の 3 格と 4 格
第 8 回	Lektion 3	非人称の es 、動詞の命令形、切符を買う時の会話
第 9 回	Lektion 4	名詞の複数形、定冠詞類
第 10 回	Lektion 4	不定冠詞類、買い物をする時の会話
第 11 回	Lektion 3-4（復習）	Lesetext （読んで練習してみよう）
第 12 回	Lektion 5	前置詞の格支配
第 13 回	Lektion 5	前置詞と定冠詞の融合形、道を尋ねる時の会話

第 14 回 期末試験

春学期に学習した内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。次の授業で答え合わせまたは提出とします。適宜小テストも行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ドイチュ☆ズーパー』小野寿美子・中川明博・西巻丈児
朝日出版社、2640 円

【参考書】

独和辞典を必ず購入すること。初回の授業で何点が紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、授業参加度（宿題・課題を含む平常点）30 % の割合で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

今後の状況次第で Zoom などオンライン授業に転換した場合に対応できるよう、パソコンやタブレットを用意しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.

In addition to the necessary and sufficient grammatical explanations, exercises will help students deepen their understanding of German grammar. In addition, they will be able to expand your vocabulary and develop their reading comprehension skills through reading texts.

They will also learn conversational expressions that will be useful when traveling to German-speaking countries.

All participants are required to attend continuously. They are also required to bring a dictionary and do their homework/prep work before attending.

Homework will be assigned each time and will be due in the next class. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.

The overall evaluation will be based on a final exam (70%) and class participation (normal points including homework and assignments) (30%).

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

児島 由理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間かけてドイツ語の初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題や読解テキストを通じて語彙や表現を覚えることも目標とします。

【到達目標】

必要かつ十分な文法説明に加えて練習問題を解くことでドイツ語文法への理解を深めることができます。

また、読解テキストを通じて語彙を増やし読解力を養います。

ドイツ語圏に渡航した場合にも役立つ会話表現も学ぶことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。それまでに学んだ知識を活かし、応用的な練習問題にも徐々に取り組んでいきます。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。しっかり身につくように、手と口と頭を働かせ、練習問題をしながら先に進んでいきます。

文法は積み重ねが大事です。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

提出された課題・宿題は添削して返却し、授業でコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	春学期に学習した内容の確認・復習
第 2 回	Lektion 6	話法の助動詞、未来の助動詞
第 3 回	Lektion 6	従属の接続詞と副文、両替をする時の会話
第 4 回	Lektion 5-6 (復習)	Lesetext (読んで練習してみよう)
第 5 回	Lektion 7	形容詞の格変化
第 6 回	Lektion 7	zu 不定詞句、レストランで注文する時の会話
第 7 回	Lektion 8	動詞の 3 基本形、過去人称変化
第 8 回	Lektion 8	過去人称変化 (続き)、オペラ観劇する時の会話
第 9 回	Lektion 7-8 (復習)	Lesetext (読んで練習してみよう)
第 10 回	Lektion 9	現在完了形、分離動詞
第 11 回	Lektion 9	分離動詞 (続き)、サッカー観戦する時の会話
第 12 回	Lektion 10	形容詞と副詞の比較、関係代名詞
第 13 回	Lektion 10	関係代名詞 (続き)、メールの書き方
第 14 回	期末試験	秋学期に学習した内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。次の授業で答え合わせまたは提出とします。適宜小テストも行います。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ドイツ☆ズーパー』 小野寿美子・中川明博・西巻丈児
朝日出版社、2640 円

【参考書】

独和辞典を必ず購入すること。初回の授業で何点か紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、授業参加度（宿題・課題を含む平常点）30 % の割合で総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

今後の状況次第で Zoom などオンライン授業に転換した場合に対応できるよう、パソコンやタブレットを用意しておくことが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.

The aim is mastering the basic grammar of the German language. Students learn vocabulary and expressions through exercises and reading texts as well as grammatical matters.

In addition to the necessary and sufficient grammatical explanations, exercises will help students deepen their understanding of German grammar. In addition, they will be able to expand your vocabulary and develop their reading comprehension skills through reading texts.

They will also learn conversational expressions that will be useful when traveling to German-speaking countries.

All participants are required to attend continuously. They are also required to bring a dictionary and do their homework/prep work before attending.

Homework will be assigned each time and will be due in the next class. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.

The overall evaluation will be based on a final exam (70%) and class participation (normal points including homework and assignments) (30%).

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法事項の習得・平易なテキストの読解・簡単な会話表現の練習

【到達目標】

基本的な文法事項を習得し、平易なテキストを読解、さらに簡単な会話表現を学びます。また、DVD 映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業は主に次の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習（各自で問題をやってもらったり、ペア練習を行います）
3. 映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	自己紹介 授業の進め方 ドイツ語とドイツ語圏について
2.	つづりの読み方と発音	発音と簡単な挨拶の口頭練習
3.	第 1 課（1）	動詞の現在人称変化（1）
4.	第 1 課（2）	sein と haben の現在人称変化 語順
5.	第 2 課（1）	定冠詞と名詞の格変化
6.	第 2 課（2）	不定冠詞と名詞の格変化
7.	第 2 課（3）	名詞の複数形 男性弱変化名詞
8.	第 1 回テスト	テストによるこれまでの復習 （1）
9.	第 3 課（1）	動詞の現在人称変化（2） 命令形
10.	第 3 課（2）	人称代名詞 非人称の es
11.	第 4 課（1）	定冠詞類
12.	第 4 課（2）	不定冠詞類
13.	第 5 課	前置詞の格支配
14.	第 2 回テスト	テストによるこれまでの復習 （2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 宿題となった練習問題
- 2) テキスト和訳の予習

【テキスト（教科書）】

前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 2.0』朝日出版社

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35 %
- 2) 第 2 回テスト 35 %

3) 平常点 (出席状況と受講態度) 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

1) 4 月の第 1 回目の授業時に、詳しいガイダンスを行います。教科書を購入してもらってください。

2) 上記の授業形態 (対面になるかオンラインになるか) は、あくまで予定です。コロナウイルスの感染状況により変更することがあります。各自、必ず事前に Hoppii 学習支援システムで確認してください。

【Outline (in English)】

1) This course deals with the German grammar/reading/conversation.

2) The goal of this course is to acquire the German grammar/reading/conversation.

3) Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

4) Your final grad will be decided based on the following

1. the 1. examination: 35%, 2. the 2. examination: 35%, 3. in class contribution: 30%

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 1/Tue.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得・平易なテキストの読解・簡単な会話表現の練習

【到達目標】

春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得し、平易なテキストを読解、さらに簡単な会話表現を練習します。また、DVD 映像を使用して、ドイツ語圏の社会・歴史・文化を多角的に紹介していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業は以下の 3 点から構成されます。

1. 講義
2. 実習 (各自で問題をやってもらったり、ペア練習を行います)
3. 映像鑑賞

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	第 6 課 (1)	話法の助動詞 未来形
2.	第 6 課 (2)	分離動詞・非分離動詞 接続詞
3.	第 7 課 (1)	動詞の三基本形
4.	第 7 課 (2)	過去形
5.	第 7 課 (3)	現在完了形
6.	第 8 課 (1)	再帰表現
7.	第 1 回テスト	テストによるこれまでの復習 (1)
8.	第 8 課 (2)	zu 不定詞
9.	第 9 課 (1)	形容詞の格変化
10.	第 9 課 (2)	形容詞・副詞の比較表現
11.	第 10 課 (1)	受動態 (1)
12.	第 10 課 (2)	受動態 (2)
13.	第 11 課	関係代名詞
14.	第 2 回テスト	テストによるこれまでの復習 (2)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 宿題となった練習問題
- 2) テキスト和訳の予習

【テキスト (教科書)】

前田・高木『ドイツ語ナビゲーション 2.0』朝日出版社

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

次の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35%
- 2) 第 2 回テスト 35%
- 3) 平常点 (出席状況と受講態度) 30%

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許すかぎり、個別の質問にできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

上記の授業授業形態（対面になるかオンラインになるか）は、あくまで予定です。コロナウィルスの感染状況により変更することがあります。各自、必ず事前に Hoppii 学習支援システムで確認してください。

【Outline (in English)】

- 1) This course deals with the German grammar/reading/conversation.
- 2) The goal of this course is to acquire the German grammar/reading/conversation.
- 3) Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
- 4) Your final grad will be decided based on the following
 1. the 1. examination: 35%, 2. the 2. examination: 35%, 3. in class contribution: 30%

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法の教科書を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

接続法までの初級文法を一通り学習することによって、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

※春学期は対面授業と Zoom によるオンライン授業（リアルタイム配信型）を組み合わせた形での開講を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況を見ながらの判断となる。授業形態およびオンライン授業への参加方法等具体的なことについては、授業開始日までに「学習支援システム」で提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 15 課からなり、各課とも文法、練習問題から構成されている。まず文法の説明をし、それから練習問題に取り組む。

なおフィードバック等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット
2	発音 1	発音の原則、母音の発音
3	発音 2	子音の発音
4	Lektion 1	発音小テスト 動詞の現在人称変化
5	Lektion 2	名詞の性／冠詞の格変化
6	Lektion 3	不規則変化動詞／命令形
7	Lektion 4	定冠詞類・不定冠詞類
8	Lektion 5	複数形／人称代名詞
9	Lektion 6	前置詞の格支配①
10	Lektion 6	前置詞の格支配②
11	Lektion 7	形容詞の格変化①
12	Lektion 7	形容詞の格変化②
13	Lektion 8	話法の助動詞
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』（白水社）ISBN9784560064207 ¥2,300

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、小テストの得点を 10 %、平常点を 30 % の合計で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題について予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline (in English)】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English. At the end of the course, students are expected to acquire the ability to participate in the intermediate course without hindrance.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60 %, Mid-term examination: 10 %, Usual performance score: 30 %

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法の教科書を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

接続法までの初級文法を一通り学習することによって、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）4、3 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

※秋学期は対面授業と Zoom によるオンライン授業（リアルタイム配信型）を組み合わせたかたちでの開講を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況を見ながらの判断となる。授業形態およびオンライン授業への参加方法等具体的なことについては、授業開始日までに「学習支援システム」で提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 15 課からなり、各課とも文法、練習問題から構成されている。まず文法の説明をし、それから練習問題に取り組む。

なおフィードバック等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 9	分離動詞
2	Lektion 9	接続詞と副文
3	Lektion 10	zu 不定詞
4	Lektion 10	再帰代名詞
5	Lektion 11	動詞の 3 基本形
6	Lektion 11	過去形
7	Lektion 12	現在完了形
8	Lektion 12	非人称表現
9	Lektion 13	受動態
10	Lektion 13	比較表現
11	Lektion 14	関係代名詞
12	Lektion 14	関係副詞
13	Lektion 15	接続法
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

上野成利、本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版]』（白水社）ISBN9784560064207 ¥2,300

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 70 %、平常点を 30 %の合計で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題について予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline (in English)】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English. At the end of the course, students are expected to acquire the ability to participate in the intermediate course without hindrance.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %, Usual performance score: 30 %

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を使いこなすためのドイツ語文法前半の習得を目的とする。

【到達目標】

簡単な文法事項に慣れ、使いこなしができる。発音のルールを知り、初めて見るドイツ語の単語が正しく発音できるようになる。簡単なドイツ語の文章を辞書を用いて読めるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

最初に文法事項の解説を行う。その後、できるだけたくさん問題を解き、発表してもらう。積極的な態度で授業に参加すること。重要な文法項目前半部分はすべて学習するので、欠席は極力避けること。2022 年度授業方針に従い対面授業を予定している。コロナ感染の状況により遠隔授業に変更するばあいは、あらかじめ指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 1 オリエンテーション 教科書、学習方法の説明	学習の仕方 ドイツ語のアルファベット 簡単なドイツ語の表現 規則動詞
2	Lektion 1. 2 規則動詞	発音、規則動詞・定形の位置 sein haben
3	Lektion 2 人称代名詞	人称代名詞と規則動詞の練習
4	Lektion 3 名詞の性と格	名詞の性と格変化 解説
5	Lektion 3 複数形	複数形の作り方 名詞の格変化の練習
6	Lektion 4 定冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類 解説
7	Lektion 4 不定冠詞類	定冠詞類と不定冠詞類 追加練習
8	Lektion 5 人称代名詞	人称代名詞の解説と練習
9	Lektion 5 語順と非人称動詞	語順の解説と練習 非人称動詞とは 追加練習
10	Lektion 6 不規則動詞	不規則動詞 解説と練習
11	Lektion 6 命令形	命令形の解説と練習
12	Lektion 7 前置詞とは	前置詞の格支配の解説と練習
13	Lektion 7 前置詞の用法	前置詞の用法の解説と練習
14	春学期での習得した知識の確認	試験と解説 今まで習得した文法事項の確認と 応用力のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を行い、わからないことがあれば、次の授業で質問すること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プロムナード やさしいドイツ語文法』改訂版 萩原他 （白水社）

【参考書】

テキストは参考書と違い説明は最小限である。既習事項があやふやになってきた場合の自習用として、「ゼロから始めるドイツ語一文法中心」在間進、三修社等の参考書は役に立ちます。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

様々なモチベーションの学生への配慮

【Outline (in English)】

The purpose of this course is learning the first half of German grammar to understand German.

Goal:

Students get used to German grammar. Students should know the pronunciation rules and be able to pronounce the German words you see for the first time correctly. Students should be able to understand basic German sentences using a dictionary. Learning activities outside of classroom:

You should ask if you have questions.

Your required study time is at least 1 hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ文法後半の学び、春学期に学んだ知識と合わせて、基本的なドイツ語文法全般を習得する。

【到達目標】

基本的なドイツ語文法の習得を終了し、辞書を使って様々な文章を読むことができる。簡単なドイツ語の文章が作れるようになる。さらなるドイツ語の学習のための基礎段階を完成させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

できるだけたくさん問題を練習してもらう。積極的な態度で授業に参加すること。重要な文法項目は、すべて学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 8 分離動詞・接続詞	分離動詞の解説と練習
2	Lektion 8 従属接続詞	従属接続詞の解説と練習
3	Lektion 9 話法の助動詞	話法の助動詞の解説と練習
4	Lektion 9 未来形	未来形の解説と練習 追加練習問題
5	Lektion 10 動詞の 3 基本形	動詞の 3 基本形の作り方
6	Lektion 10 過去形	過去形の解説と練習
7	Lektion 11 現在完了形	現在完了形の用法と練習
8	Lektion 11 受動態	受動態の用法
9	Lektion 12 形容詞	形容詞の語尾変化の解説と練習
10	Lektion 12 比較表現	比較級、最上級の練習
11	Lektion 13 再帰代名詞	再帰代名詞・再帰動詞・zu 不定詞の用法の練習
12	Lektion 14 関係代名詞	関係代名詞の解説と練習
13	Lektion 14 接続法	接続法の解説と練習
14	秋学期での習得した知識の確認	試験と解説 今まで習得した文法事項の確認と応用力のチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を行い、わからないことがあれば、次の授業で質問すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プロムナード やさしいドイツ語文法』萩原他 （白水社）
（春学期で使用したものです）

【参考書】

テキストは参考書と違い説明は最小限である。既習事項があやふやになってきた場合の自習用として、「ゼロから始めるドイツ語一文法中心」在間進、三修社 等の参考書は役に立つ。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

様々な学生への対応。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is learning the second half of German grammar to understand German.

Goal:

After learning basic German grammar, students can understand sentences using the dictionary. Students should be able to write easy German sentences. Students complete the basic steps for further learning German.

Learning activities outside of classroom:

Feel free to ask if you have any questions.

Your required study time is at least 1 hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、ドイツ語のごく基礎的な文法・表現を学ぶことにあります。教科書の前半の内容に基づき、発音の規則、動詞の変化、冠詞、前置詞などについて、基本的な知識を身に付けることを目指します。

【到達目標】

- (A) ドイツ語を正しく発音できる。
- (B) ドイツ語のごく基礎的な文法事項を理解できる。
- (C) ドイツ語のごく基礎的な文法事項を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に基づいて進めます。まずは文法事項を説明し、それから練習問題を解いて学習事項を定着していきます。受講者には、発音や文法事項の確認、グループワークをしてもらうため、積極的な参加を望みます。

適宜、確認のための小テストを行います。小テスト後、次の授業時に解説を加えたフィードバックを行います。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、ドイツ語の発音	授業の進め方や方法の確認 ドイツ語の発音 (1)
第 2 回	Lektion 1 (1)	ドイツ語の発音 (2) 人称代名詞
第 3 回	Lektion 1 (2)	動詞の現在人称変化 文の構成
第 4 回	Lektion 2 (1)	sein の現在人称変化 名詞の性と格
第 5 回	Lektion 2 (2)	複数形 冠詞
第 6 回	Lektion 3 (1)	haben と werden の変化 所有冠詞
第 7 回	Lektion 3 (2)	否定冠詞 人称代名詞の格変化
第 8 回	Lektion 4 (1)	さまざまな前置詞
第 9 回	Lektion 4 (2)	非人称の es
第 10 回	Lektion 5 (1)	動詞の 3 基本形
第 11 回	Lektion 5 (2)	動詞の過去人称変化
第 12 回	Lektion 6 (1)	現在完了形 接続詞
第 13 回	Lektion 6 (2)	zu 不定詞
第 14 回	試験・まとめと解説	ここまでの学習事項に関する期末試験の実施、そのまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。学習事項の定着のため、その都度、宿題や予習を指示します。

【テキスト（教科書）】

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』朝日出版社。

【参考書】

第 2 回目の授業までに独和辞典を用意してください。辞典については、第一回目の授業でもお話しするので、準備はその後でも構いません。

その他、『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社など。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（予習、授業への取り組み、小テストの結果などの総合評価）50 %、期末試験 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of German grammar and expression.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) pronounce German words, (B) understand the basic grammar of German language, and (C) use it practically.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and term-end examination (50%).

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、既習事項を踏まえ、さらにドイツ語の基礎的な文法・表現を学ぶことにあります。教科書の後半の内容に基づき、動詞・助動詞の様々な形や用法、様々な代名詞、形容詞の比較級や最上級などについて、基本的な知識を身に付けることを目指します。

【到達目標】

- (A) ドイツ語の基礎的な文法事項を身に付けることができる。
- (B) 簡単なドイツ語の文章・会話を理解することができる。
- (C) 学習事項を応用してドイツ語で自分のことを表現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができる（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に基づいて進めます。まずは文法事項を説明し、それから練習問題を解いて学習事項を定着していきます。受講者には、発音や文法事項の確認、グループワークをしてもらうため、積極的な参加を望みます。

適宜、確認のための小テストを行います。小テスト後、次の授業時に解説を加えたフィードバックを行います。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 既習事項の復習	授業の進め方や方法の確認 教科書 Lektion 1～6 の既習事項の復習
第 2 回	Lektion 7 (1)	話法の助動詞の現在人称変化 構文
第 3 回	Lektion 7 (2)	話法の助動詞の主な意味 未来形
第 4 回	Lektion 8 (1)	分離動詞と非分離動詞
第 5 回	Lektion 8 (2)	受動文
第 6 回	Lektion 9 (1)	動詞の現在人称変化（不規則変化）
第 7 回	Lektion 9 (2)	命令形
第 8 回	Lektion 10 (1)	接続法 接続法 2 式の人称変化
第 9 回	Lektion 10 (2)	接続法 2 式の用法（現在形）
第 10 回	Lektion 11 (1)	再帰代名詞の人称変化 再帰動詞
第 11 回	Lektion 11 (2)	形容詞の比較級と最上級の形態 比較級と最上級の用法
第 12 回	Lektion 12 (1)	関係代名詞の形と用法
第 13 回	Lektion 12 (2)	不定関係代名詞 wer, was
第 14 回	試験・まとめと解説	ここまでの学習事項に関する期末試験の実施、そのまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。学習事項の定着のため、その都度、宿題や予習を指示します。

【テキスト（教科書）】

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくなりやすく』朝日出版社。

【参考書】

独和辞典を必ず用意しておいてください。

その他、『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』白水社など。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（予習、授業への取り組み、小テストの結果などの総合評価）50 %、期末試験 50 %です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により昨年度のフィードバックはできませんが、受講者の意見はできるだけ取り入れたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of German grammar and expression.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) acquire basic knowledge of German grammar, (B) understand basic sentences in German, and (C) express oneself in German.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and term-end examination (50%).

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を初めて学ぶ学生のみなさんを対象に、ドイツ語文法の基礎をひととおり学習することを目的とする授業です。学習内容をもとに文法問題や会話練習に取り組むことにより、文法知識の効率的な習得を目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

ドイツ語の発音のルールを知り、初見の単語でも発音できる。

ドイツ語の基本的な口語表現を身につける。

独和辞典に習熟し、自律的なドイツ語学習に慣れ親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教員が文法事項を紹介します（講義形式）。

その後、文法事項の習得度をチェックするため、受講生のみなさんに文法問題を解いてもらいます。これとやらんで、パートナーとともに該当する文法事項を用いた会話練習を行います（演習形式）。課題に取り組んで知識の定着を図るとともに、疑問が残る点についてリアクションペーパーで質問を受け付けます（フィードバック）。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行ないます。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／ Lektion 0	アルファベット、発音、曜日、月、季節、数詞、挨拶
第 2 回	Lektion 1：動詞は主語の人称に応じて変化する（1）	人称代名詞（主語）／動詞の現在人称変化／文の構成
第 3 回	Lektion 1：動詞は主語の人称に応じて変化する（2）	sein（～です、がある、[英語の be 動詞にあたる]）の現在人称変化／練習問題
第 4 回	Lektion 2：冠詞は名詞の性と格を表す（1）	名詞の性と格／複数形／冠詞
第 5 回	Lektion 2：冠詞は名詞の性と格を表す（2）	重要動詞 haben と werden の変化／練習問題
第 6 回	Lektion 3：所有冠詞と否定冠詞（1）	所有冠詞／否定冠詞 kein
第 7 回	Lektion 3：所有冠詞と否定冠詞（2）	人称代名詞の格変化／練習問題
第 8 回	Lektion 4：前置詞が名詞の格を決める（1）	前置詞
第 9 回	Lektion 4：前置詞が名詞の格を決める（2）	非人称の es（英語の it にあたる）／練習問題
第 10 回	Lektion 5：過去形も主語に応じて変化する（1）	動詞の 3 基本形

- 第 11 回 **Lektion 5**：過去形も 動詞の過去人称変化／練習問題
主語に応じて変化する
(2)
- 第 12 回 **Lektion 6**：現在完了 現在完了形／接続詞
形は過去の事柄を表す
(1)
- 第 13 回 **Lektion 6**：現在完了 zu 不定詞／練習問題
形は過去の事柄を表す
(2)
- 第 14 回 理解度の確認 学期末テストにより、春学期に学習した内容の習熟度を測る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業まえには、授業であつかう文法事項の説明を読み、知らない単語などは辞書であらかじめ確認するようにしてください。また、練習問題に取り組み、会話練習の準備をしておいてください。授業後には、予習で誤答したところをとくに重点的にチェックしてください。また課題が出た場合には提出期限までに忘れずに取り組み、知識の定着を図ってください。

【テキスト（教科書）】

木下直也／日中鎮朗／岡本雅克ほか『ブリュッケ——初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』、朝日出版社、2021 年。
——なお、独和辞典を必ず準備してもらいます。ただし、詳しくは初回授業の際にお話しするので、その後に購入するようにしてください。

【参考書】

中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ——改訂版』、白水社、2003 年。
——その他については授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、課題提出など）：60 %
期末試験：40 %（受験しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の余裕があれば、課題のほかに小テストを行ない、知識の効率的な定着を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をととした受講を強くお勧めします。授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

This beginners' course is designed to introduce students to the basics of German grammar. Students will work on grammar questions and conversation exercises in order to acquire knowledge efficiently.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語文法の基礎を学習していきます。学習内容をもとに文法問題や会話練習に取り組むことにより、文法知識の効率的な習得を目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。
ドイツ語の発音のルールを知り、初見の単語でも発音できる。
ドイツ語の基本的な口語表現を身につける。
独和辞典に習熟し、自律的なドイツ語学習に慣れ親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員が文法事項を紹介（講義形式）。その後、文法事項の習得度をチェックするため、受講生のみなさんに文法問題を解いてもらいます。これとならんで、パートナーとともに該当する文法事項を用いた会話練習を行ないます（演習形式）。課題に取り組んで知識の定着を図るとともに、疑問が残る点についてリアクションペーパーで質問を受け付けます（フィードバック）。なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行ないます。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	Lektion 7 ：話法の助動詞（1）	話法の助動詞の現在人称変化／構文／話法の助動詞の主な意味
第 3 回	Lektion 7 ：話法の助動詞（2）	未来形／練習問題
第 4 回	Lektion 8 ：分離動詞（1）	分離動詞と非分離動詞
第 5 回	Lektion 8 ：分離動詞（2）	受動文／練習問題
第 6 回	Lektion 9 ：不規則動詞（1）	動詞の現在人称変化（不規則変化）
第 7 回	Lektion 9 ：不規則動詞（2）	命令形／練習問題
第 8 回	Lektion 10 ：非現実のモード、接続法第 2 式（1）	接続法／接続法第 2 式の人称変化
第 9 回	Lektion 10 ：非現実のモード、接続法第 2 式（2）	接続法第 2 式の用法／練習問題
第 10 回	Lektion 11 ：再帰表現（1）	再帰代名詞の人称変化／再帰動詞
第 11 回	Lektion 11 ：再帰表現（2）	形容詞の比較級と最上級の形態・用法／練習問題
第 12 回	Lektion 12 ：関係代名詞（1）	関係代名詞／関係代名詞の形と用法
第 13 回	Lektion 12 ：関係代名詞（2）	不定関係代名詞 wer, was ／練習問題

第 14 回 理解度の確認

学期末テストにより、秋学期に学習した内容の習熟度を測る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回の授業まえには、授業であつかう文法事項の説明を読み、知らない単語などは辞書であらかじめ確認するようにしてください。また、練習問題に取り組み、会話練習の準備をしておいてください。授業後には、予習で誤答したところをとくに重点的にチェックしてください。また課題が出た場合には提出期限までに忘れずに取り組み、知識の定着を図ってください。

【テキスト（教科書）】

木下直也／日中鎮朗／岡本雅克ほか『ブリュッケ——初級ドイツ語文法・ふかかわかりやすく』、朝日出版社、2021 年。
——なお、独和辞典を必ず準備してください。詳しくは初回授業の際にお話します。

【参考書】

中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ——改訂版』、白水社、2003 年。
——その他については授業中に適宜ご紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、課題提出など）：60 %
期末試験：40 %（受験しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の余裕があれば、課題のほかに小テストを行ない、知識の効率的な定着を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした受講を強くお勧めします。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

This beginners course is designed to introduce students to the basics of German grammar. Students will work on grammar questions and conversation exercises in order to acquire knowledge efficiently.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

原則として教科書にそって進めます。ひとつの課を 2 週かけて学びます。文法を解説したのち、練習問題やテキスト読解を通じて理解度の向上を図ります。受講生が積極的に疑問点を見つけ、教員に質問する姿勢が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、	発音の規則、数詞など
	発音	
第 2 回	Lektion 1	規則的動詞の現在人称変化／動詞の位置など
第 3 回	Lektion 1	復習と練習問題、読解
第 4 回	Lektion 2	sein, haben, werden ／並列の接続詞
第 5 回	Lektion 2	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化
第 7 回	Lektion 3	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 4	名詞の複数形／人称代名詞
第 9 回	Lektion 4	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion 5	不定冠詞類・定冠詞類
第 11 回	Lektion 5	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 6	動詞の現在人称変化 (III) ／命令形
第 13 回	Lektion 6	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子『ゲナウ！ グラマティック ノイ』第三書房、2018 年。

【参考書】

辞書については授業時にお話します。紙の辞書を推奨します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

授業への積極的な参加・予習の具合：40 %

以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では前期に引き続きドイツ語の基礎文法や基本的な発音の仕方を身につけます。またドイツ語学習を通じて外国語の文章を読むスキルや外国語を自律的に学ぶ方法を身につけ、母語も含めた総合的なコミュニケーション能力の向上を図ることも、この授業の目的です。

【到達目標】

- ・ドイツ語の発音の規則、初級文法を習得し、簡単な文章を読めるようになる。
- ・ドイツ語の学習を通じて、外国語の自律的な学習の仕方を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

原則として教科書にそって進めます。ひとつの課を 2 週かけて学びます。文法を解説したのち、練習問題やテキスト読解を通じて理解度の向上を図ります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期の復習
第 2 回	Lektion 7	話法の助動詞・未来形
第 3 回	Lektion 7	復習と練習問題／読解
第 4 回	Lektion 8	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞
第 5 回	Lektion 8	復習と練習問題／読解
第 6 回	Lektion 9	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞・従属の接続詞
第 7 回	Lektion 9	復習と練習問題／読解
第 8 回	Lektion 10	動詞の 3 基本形 (I)・過去形・現在完了形
第 9 回	Lektion 10	復習と練習問題／読解
第 10 回	Lektion 11	動詞の 3 基本形 (II)・受動態
第 11 回	Lektion 11	復習と練習問題／読解
第 12 回	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞
第 13 回	Lektion 12	復習と練習問題／読解
第 14 回	到達度の確認	これまでの復習と確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

くりかえし音読してから、予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子／亀ヶ谷昌秀／正木晶子／中野有希子『ゲナウ！ グラマ ティック ノイ』第三書房、2018 年。

【参考書】

辞書については授業時にお話します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

授業への積極的な参加・予習の具合：40 %

以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course aims to acquire preliminary German language skills by learning pronunciation and basic grammar.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to acquire elementary German skills. At the end of the course, students should be able to understand and use simple sentences.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

小野間 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語学習の基礎となる初級文法を学ぶ。

辞書を用いて平易なドイツ語のテキストが読める力を養成する。

【到達目標】

初級文法および基本的な語彙・表現を習得する。

ドイツ語を正確に発音できるようになる。

辞書を用いて平易なドイツ語のテキストを読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

はじめに文法事項について説明し、筆記および口頭での練習を通じて知識の定着を図る。

また、平易なドイツ語のテキストを読み、語彙や表現を学ぶ。

履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・読解テキストの和訳を行い、その都度教員が確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	ドイツ語のアルファベットと発音を学ぶ
第 2 回	動詞の現在人称変化 (I)	動詞の現在人称変化を学ぶ
第 3 回	動詞の現在人称変化 (I)	自己紹介文を読む
第 4 回	動詞の現在人称変化 (II)・並列の接続詞	注意が必要な動詞の現在人称変化・並列の接続詞を学ぶ
第 5 回	動詞の現在人称変化 (II)・並列の接続詞	ドイツ語とドイツ語に関するテキストを読む
第 6 回	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化を学ぶ
第 7 回	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化	部屋の中にあるものに関するテキストを読む
第 8 回	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化	名詞の複数形・人称代名詞を学ぶ
第 9 回	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化	市場での会話を読む
第 10 回	不定冠詞類・定冠詞類	不定冠詞類・定冠詞類を学ぶ
第 11 回	不定冠詞類・定冠詞類	きょうだいに関するテキストを読む
第 12 回	動詞の現在人称変化・命令形	動詞の現在人称変化・命令形を学ぶ
第 13 回	動詞の現在人称変化・命令形	家族に関するテキストを読む
第 14 回	試験・まとめ	前期に学んだ内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法事項は随時復習を心掛けること。

読解テキストは必ず予習を行ってから授業に臨むこと。授業中に予習を行うことは一切認めない。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ゲナウ！ グラマティック ノイ』新倉真矢子・亀ヶ谷昌秀・正木晶子・中野有希子著、第三書房、2018 年刊、2420 円（税込）
ISBN978-4-808-61049-4

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中野悠爾・平尾浩三・朝倉巧著、白水社、2003 年刊、1600 円（税別）
ISBN978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

テキスト和訳・発音練習・練習問題への取り組み 40 %と期末試験 60 %を総合的に判断する。
なお単位を取得するためには原則として授業実施回数 3 分の 2 以上の出席を必要とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

教務システムや Zoom に接続可能なデバイスを用意すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the rules of German grammar and commonly used expressions.

The goal of this course are to be able to master correct pronunciation and read texts in plain German with the help of a dictionary.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination:60%

Class attendance and attitude in Class:40%

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

小野間 亮子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語学習の基礎となる初級文法を学ぶ。
辞書を用いて平易なドイツ語のテキストを読める力を養成する。

【到達目標】

初級文法および基本的な語彙・表現を習得する。
ドイツ語を正確に発音できるようになる。
辞書を用いて平易なドイツ語のテキストを読むことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

はじめに文法事項について説明し、筆記および口頭での練習を通じて知識の定着を図る。

また、平易なドイツ語のテキストを読み、語彙や表現を学ぶ。
履修生は授業時間内にドイツ語の発音・練習問題の解答・読解テキストの和訳を行い、その都度教員が確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	話法の助動詞・未来形	話法の助動詞・未来形を学ぶ
第 2 回	話法の助動詞・未来形	ドイツの交通機関に関するテキストを読む
第 3 回	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞を学ぶ
第 4 回	前置詞・再帰代名詞・再帰動詞	夏休みの予定に関するテキストを読む
第 5 回	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞句・従属の接続詞	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞句・従属の接続詞を学ぶ
第 6 回	分離動詞・非分離動詞・zu 不定詞句・従属の接続詞	ホテルの紹介文を読む
第 7 回	動詞の 3 基本形・過去形・現在完了形	動詞の 3 基本形・過去形・現在完了形
第 8 回	動詞の 3 基本形・過去形・現在完了形	手紙を読む
第 9 回	動詞の 3 基本形・受動態	動詞の 3 基本形・受動態を学ぶ
第 10 回	動詞の 3 基本形・受動態	ドイツ現代史に関するテキストを読む
第 11 回	形容詞の変化・比較・関係代名詞	形容詞の変化・比較・関係代名詞を学ぶ
第 12 回	形容詞の変化・比較・関係代名詞	ドイツの四季に関するテキストを読む
第 13 回	接続法	接続法第 I 式・接続法第 II 式について学ぶ
第 14 回	試験・後期のまとめ	後期に学んだ内容を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法事項は随時復習を心掛けること。
読解テキストは必ず予習を行ってから授業に臨むこと。
授業中に予習を行うことは一切認めない。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ゲナウ！ グラマティック ノイ』新倉真矢子・亀ヶ谷昌秀・正木晶子・中野有希子著、第三書房、2018 年刊、2420 円（税込）
ISBN978-4-808-61049-4

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』中野悠爾・平尾浩三・朝倉巧著、白水社、2003 年刊、1600 円（税別）
ISBN978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

テキスト和訳・発音練習・練習問題への取り組み 40 %と期末試験 60 %を総合的に判断する。
なお成績評価の対象となるためには原則として授業実施回数 3 分の 2 以上の出席を必要とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

教務システムや Zoom に接続可能なデバイスを用意すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the rules of German grammar and commonly used expressions.

The goal of this course are to be able to master correct pronunciation and read texts in plain German with the help of a dictionary.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination:60%

Class attendance and attitude in Class:40%

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音のルールを知って、初見の単語でも発音できるようにする。
ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】

発音、動詞の現在形、名詞、前置詞、接続詞、代名詞、冠詞類を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面ですが、Zoom によるリアルタイムのオンラインになる回もありますので、「各回の授業形態」を見てください。
授業の最初に最新のドイツ事情、ドイツの生活習慣などを紹介します。学習支援システムの「お知らせ」欄に「お知らせ」をよく載せるので、メールでチェックできるようにして、メールが届くたびにすぐに見てください。特に初回の前は早めに「お知らせ」チェックをしてください。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
下の「その他の注意事項」も必ず早めに目を通すこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、勉強の仕方、勉強に役立つ情報などの説明。	授業の進め方、勉強の仕方、勉強に役立つ情報などを聞く。
2	アルファベット、つづりの読み方と発音	発音練習 発音練習は口の形を直せるように自宅から Zoomで行います。 可能なかぎり Zoomで口の形を見せられる場所で受講してください。
3	発音練習	前回の続き 口の形に気をつけながら発音練習。
4	発音練習の仕上げ	応用練習、クイズなどで発音練習の仕上げをする。
5	第 1 課：動詞の人称変化	動詞の人称変化について学ぶ
6	動詞の現在人称変化	動詞の現在人称変化、不定詞句と平叙文、疑問文について学ぶ
7	第 2 課：名詞の性、数、格	名詞の性、複数形についてについて学ぶ
8	名詞の格変化	名詞の格変化と格の用法について学ぶ
9	第 3 課：前置詞、接続詞	前置詞の格支配 前置詞と冠詞の融合形について学ぶ
10	従属接続詞と副文	従属接続詞と副文、不規則動詞について学ぶ

11	第 4 課: 人称代名詞、 再帰代名詞、再帰動詞	人称代名詞の格変化 不定冠詞類 再帰代名詞、再帰動詞について学 ぶ
12	第 5 課: 冠詞類	定冠詞類の格変化 不定冠詞類の格変化について学ぶ
13	命令の表現	命令の表現と提案の表現について 学ぶ
14	総復習 秋学期に向けての準備	学んだことが身につくような復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藺正彦著 朝日出版社

【参考書】

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

【成績評価の方法と基準】

出席は原則として 3 分の 2 以上を必要とする。配慮される場合については【その他の重要事項】を参照のこと。基本的には期末試験 70 %、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30 % の割合で総合評価する。遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントされる。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も楽しく、真剣に学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom ができる機器（教室ではスマートフォン、タブレットなど WiFi とつながるもの、自宅では PC があれば PC、なければスマートフォン、タブレットなど）、場合によってヘッドセット。

【その他の重要事項】

楽しく、まじめに勉強しましょう。
公欠届、診断書などはきちんと出してください。
教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を毎回手元に置き、使用すること。
対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけてください。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic grammar.

The goal is for students to master the basic grammar.

Before each class meeting, students will be expected to have read the next chapter from the text. 30 minutes.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. 30 minutes.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

外山 知子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎的な文法事項を習得する。

【到達目標】

動詞と助動詞の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面ですが、Zoom によるリアルタイムのオンラインになる回もありますので、「各回の授業形態」を見てください。
再帰代名詞、再帰動詞から接続法までの文法を習得します。授業の最初に最新のドイツ事情、ドイツの生活習慣などを紹介します。
学習支援システムも連絡や資料アップや課題提出などに使用するので、メールでチェックできるようにして、メールが届くたびにすぐに見てください。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。
下の「その他の重要事項」も必ず早めに読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだことを復習する 教科書と辞書を手に置くこと
2	6 課: 形容詞の格変化	形容詞の格変化について学ぶ
3	形容詞の比較変化	形容詞の比較変化について学ぶ
4	第 7 課: 分離動詞	分離動詞、非分離動詞について学ぶ
5	分離・非分離前綴り	分離・非分離前綴りについて学ぶ
6	第 8 課: 話法の助動詞	話法の助動詞の変化、話法の助動詞の各種用法について学ぶ
7	助動詞 werden, lassen	助動詞 werden, lassen について学ぶ
8	第 9 課: 過去形	動詞の 3 基本形、過去形について学ぶ
9	現在完了形	現在完了形について学ぶ
10	第 10 課: 受動態	受動態、状態受動、能動態と受動態について学ぶ
11	受動態の機能	受動態の機能について学ぶ
12	第 11 課: 関係文 関係副詞、指示代名詞	定関係代名詞、関係文、不定関係代名詞について学ぶ 関係副詞、指示代名詞について学ぶ
13	第 12 課: 接続法	接続法の変化、接続法第 1 式について学ぶ
14	接続法第 2 式 総復習	接続法第 2 式について学ぶ 秋学期に学んだことが身につくような復習と補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業の復習と随時出される課題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

『異文化理解のための初級ドイツ語文法』大藺正彦著 朝日出版社

【参考書】

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社

【成績評価の方法と基準】

出席は原則として 3 分の 2 以上を必要とする。配慮される場合については【その他の重要事項】を参照のこと。基本的には期末試験 70 %、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30 % の割合で総合評価する。遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントされる。

【学生の意見等からの気づき】

好奇心をもって授業にのぞんでもらえるように頑張ります。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom ができる機器（教室ではスマートフォンあるいはタブレットなど WiFi とつながるもの、自宅では PC があれば PC、なければスマートフォン、タブレットなど）、ヘッドセット。

【その他の重要事項】

春学期と基本的に同じ。

秋から履修する人は教科書を準備しておくこと。

毎回教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を手元に置き、使用すること。

公欠届、診断書などはきちんと出してください。

対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけてください。

休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the basic grammar.

The goal is for students to master the basic grammar.

Before each class meeting, students will be expected to have read the next chapter from the text. 30 minutes.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. 30 minutes.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LA

ドイツ語 1 I

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言葉について、文法を中心に練習問題を繰り返しながら、発音のルール、基礎的な文法事項を修得し、ドイツ語の表現と語順に慣れ親しむ授業です。辞書の使い方を学び、初歩的な表現や文章が理解できるようになることを目指します。

【到達目標】

ドイツ語文法の二つの基本事項として（１）名詞の格という概念を把握し、冠詞の格変化の仕方を身につけます。（２）主語に対応して動詞の語尾が様々な変化し、主語と動詞の対応によって文が成立することを学ぶことにより、ドイツ語のしくみを理解し習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語を始めて学ぶ者を対象とする授業である。ドイツ語を正しく発音し、ドイツ語を用いての日常の表現力を養う。各課の文法の説明をまず行ない、本文のドイツ語を読み、解釈し、聞き取ったりする練習を行う。各課の練習問題の答えなどは履修者に発表してもらい、各自で内容を確認し疑問点などは質問する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとアルファ	ABC の読み方・母音の発音 ベート
2	発音と挨拶	子音の発音・挨拶・曜日と月・数字
3	Lektion 1 動詞の現在人称変化（１）	人称代名詞・動詞（基本） の現在人称変化・動詞の位置
4	Lektion 1 動詞の現在人称変化（２）	sein・haben の現在人称変化
5	Lektion 2 名詞・冠詞	名詞の性と冠詞の格変化およびその用法
6	Lektion 2 複数形 Lektion 3 動詞の現在人称変化（２）	複数形の種類・語幹が変化する動詞の現在人称変化
7	Lektion 3 命令形 Lektion 4 定冠詞類	命令形・定冠詞類の種類と格変化
8	Lektion 4 不定冠詞類・否定文	不定冠詞類の種類と格変化 否定文の作り方
9	Lektion 5 人称代名詞・前置詞（１）	人称代名詞の 3 格と 4 格・ 3 格支配と 4 格支配の前置詞
10	Lektion 5 前置詞（２）	前置詞を用いたいろいろな表現（融合形など）
11	Lektion 6 話法の助動詞（１）	助動詞の種類と現在人称変化および用法

12	Lektion 6 話法の助動詞（2） 未来形	助動詞を用いた表現・未来形の形態と用法
13	Lektion 7 複合動詞 復習とまとめ	分離動詞と非分離動詞
14	春学期のまとめと試験	文法を中心としたまとめの説明と関連する試験の実施・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業の内容を確実に身につけ、次回授業のための準備をする。テキストの予習を行ない、未知の単語は独和辞典を引いて意味と用法を確認しておく。
課題は決して怠らないように。宿題は次回授業までに解答を出し、提出が求められた場合に備える。添削後に返却された答案は、再度間違いと正答を確認し、正しい知識を身につける。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「リヒトホーフ」ー初級ドイツ語文法ー 松鶴功記・他著 朝日出版社

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（資料のチェック、各回のレポート提出など）が 30%, 中間テストと期末テストが 70% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインやハイフレックス授業に転換になった場合には、学習支援システムや zoom などを使用するため接続可能なパソコンやプリンターなどが必要になることがあります。

【その他の重要事項】

独和辞書は持参すること

【Outline (in English)】

【Course outline】Elementary class of German language.
【Learning Objectives】Students can master the rules of pronunciation and the German grammar with many exercises. 【Learning activities outside of classroom】Students need altogether one hour on average for preparation and review of this lesson. 【Grading Criteria】A mark for class participation(including some reports)30%,a midterm and a term-end examination 70%: Grade evaluation is done by taking these points into account.

LANd100LA

ドイツ語 1 II

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言葉について、文法を中心に練習問題を繰り返しながら、発音のルール、基礎的な文法事項を修得し、ドイツ語の表現と語順に慣れ親しむ授業です。辞書の用い方を学び、初歩的な表現や文章が理解できるようになることを目指します。

【到達目標】

助動詞・分離動詞・不定詞・関係代名詞等、主にドイツ語の文章の根幹をなす特色の一つである枠構造に関する文法事項を学びます。さらに、現在形の展開形態として現在完了形・未来形等の時制の変化を、最後に、非現実の事柄が表現できる接続法について学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の文法が過不足なく明瞭に理解できるテキストを用います。テキストの練習問題を解き、学んだ知識の定着を図ります。文法事項の修得が進むにつれて、次第に複雑で深みのあるドイツ語表現の理解が可能になります。この授業で学んだ文法の知識を十分に活用して、ドイツ語 2 の授業でまとまった文章を通じて言葉を身につける試みをしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と秋学期の展望	春学期の復習をし、秋学期の授業の説明を行う。
2	Lektion 7 複合動詞・接続詞	分離動詞と非分離動詞の復習・接続詞の種類と副文
3	Lektion 8 動詞の 3 基本形	いろいろな動詞の 3 基本形（過去基本形・過去分詞）の説明
4	Lektion 8 過去形	過去形の人称変化と用法
5	Lektion 9 完了形	現在完了形と過去完了形について
6	Lektion 9 受動文	受動態の形態とその用法
7	Lektion 10 形容詞（1）	形容詞の 3 つの用法と格変化・名詞化について
8	Lektion 10 形容詞（2）	形容詞と副詞の比較表現
9	Lektion 11 再帰表現	再帰代名詞と再帰動詞および熟語
10	Lektion 11 zu 不定詞句	zu 不定詞句の形態と用法・英語との相違点
11	Lektion 12 関係詞	定関係代名詞と不定関係代名詞
12	Lektion 12 指示代名詞 Lektion 13 接続法（1）	指示代名詞の形と用法・接続法の 1 式と 2 式および時制
13	Lektion 13 接続法（2）	接続法の用法（要求・間接・非現実）の説明

14 秋学期の復習とまとめ ドイツ語文法のまとめの試験の実
の試験 施・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業の内容を確実に身につけ、次回授業のための準備をする。
テキストの予習を行ない、未知の単語は独和辞典を引いて意味と用
法を確認しておく。

課題は決して怠らないように。宿題は次回授業までに解答を出し、
提出が求められた場合に備える。添削後に返却された答案は、再度
間違いと正答を確認し、正しい知識を身につける。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「リヒトホーフ」ー初級ドイツ語文法ー 松鶴功記・他著 朝
日出版社

【参考書】

授業時に必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

春学期と同様、平常点（資料のチェック、各回のレポート提出など）
が 30%、中間テストと期末テストが 70%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンラインやハイフレックス授業に転換になった場合には、学習支
援システムや zoom などを使用するため、接続可能なパソコンやプ
リントアウトなどが必要になることがあります。

【その他の重要事項】

独和辞書は持参すること

【Outline (in English)】

【Course outline】Elementary class of German language.
【Learning Objectives】Students can master the rules of
pronunciation and the German grammar with many exercises.
【Learning activities outside of classroom】Students need
altogether one hour on average for preparation and review of
this lesson. 【Grading Criteria】A mark for class participation
(including some reports)30%,a midterm and a term-end
examination 70%: Grade evaluation is done by taking these
points into account.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

外山 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の発音のルールを知って、初見の単語でも発音できるよう
にする。

挨拶、数詞、会話文、文法を学ぶ。

【到達目標】

正しい発音を身につける。

独和辞典を用いて、初歩的なテキストを分析して理解する。
簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：
DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面ですが、Zoom によるリアルタイムのオンラインに
なる回もありますので、「各回の授業形態」をご覧ください。

授業の最初に最新のドイツ事情、ドイツの生活習慣などを紹介します。
発音練習を頻繁にしながら、教科書であいさつ、数詞、会話文、文
法を学びます。教科書の練習問題だけでは足りないので、教授資料
に付いている練習問題も解いていきます。

学習支援システムの「お知らせ」欄に「お知らせ」をよく載せるの
で、メールでチェックできるようにして、メールが届くたびにすぐ
に見てください。特に初回の前は早めに「お知らせをチェックして
ください。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行
う予定です。

下の「その他の注意事項」も早めに目を通すこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、勉強の 仕方、勉強に役立つ情 報などの説明。	授業の進め方、勉強の仕方、勉強 に役立つ情報などを聞く。 アルファベートに入る。
2	アルファベート、つづ りの読み方と発音。	発音練習は口の形を直せるように 自宅から Zoom で行います。 可能なかぎり Zoom で口の形を 見せられる場所で受講してくだ さい。 アルファベートの発音。「つづり と発音」の説明を聞いて、単語の 発音練習。
3	ドイツ語のあいさつ	「ドイツ語のあいさつ」であいさ つの発音 s 練習。数詞 (0-9) の発 音練習。 発音のクイズ。
4	Lektion 1 人称代名 詞、動詞の現在人称変 化、sein、疑問詞	Lektion 1 本文の動画を観て、 発音練習と文法説明。
5	Lektion 1 の文法と練 習問題	Lektion 1 の文法について補足 し、パートナー練習をしてから練 習問題を答え合わせする。その場 で応用の練習問題を解く。

- | | | |
|----|---|---|
| 6 | p.8 の Landeskunde
Lektion 2 haben、名詞の性、決定疑問文と答え方 | Lektion 2 本文の動画を観て、発音練習と文法説明。 |
| 7 | Lektion 2 の文法と練習問題 | Lektion 2 の文法について補足し、パートナー練習をしてから練習問題を答え合わせする。その場で応用の練習問題を解く。 |
| 8 | p.12 の Landeskunde と数詞 (10-19)
Lektion 3 定冠詞と名詞の各変化、名詞の複数形 | Lektion 3 本文の動画を観て、発音練習と文法説明。 |
| 9 | Lektion 3 の文法と練習問題 | Lektion 3 の文法について補足し、パートナー練習をしてから練習問題を答え合わせする。その場で応用の練習問題を解く。 |
| 10 | p.16 の Landeskunde と数詞 (20-29)
Lektion 4 不定冠詞、所有冠詞 (不定冠詞類)、否定冠詞 (不定冠詞類) | Lektion 4 本文の動画を観て、発音練習と文法説明。 |
| 11 | Lektion 4 の文法と練習問題 | Lektion 4 の文法について補足し、パートナー練習をしてから練習問題を答え合わせする。その場で応用の練習問題を解く。 |
| 12 | p.20 の Landeskunde と数詞 (30-39)
Lektion 5 現在人称変化の不規則な動詞 (1)、名詞の 3 格、人を表す疑問代名詞 | Lektion 5 本文の動画を観て、発音練習と文法説明。 |
| 13 | Lektion 5 の文法と練習問題 | Lektion 5 の文法について補足し、パートナー練習をしてから練習問題を答え合わせする。その場で応用の練習問題を解く。 |
| 14 | 全体の復習と授業内での試験 | 学んだことが身につくような復習。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業の復習と随時出される課題。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
学んだことはなるべくその日のうちに見返して定着させる。
ふだんから辞書をこまめに引いて、早く引けるようにする。

【テキスト（教科書）】

『イン・ドイチュラントー ドイツ語インフォメーション 映像付』秋田静男著
朝日出版社

【参考書】

『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社
『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾他著 白水社

【成績評価の方法と基準】

出席は原則として 3 分の 2 以上を必要とする。配慮される場合については【その他の重要事項】を参照のこと。基本的には期末試験 70 %、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30 % の割合で総合評価する。遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントされる。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も楽しく、真剣に学びましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom ができる機器（教室ではスマートフォン、タブレットなど WiFi とつながるもの、自宅では PC があれば PC、なければスマートフォン、タブレットなど）、場合によってヘッドセット。

【その他の重要事項】

楽しく、まじめに勉強しましょう。
公欠届、診断書などはきちんと出してください。

教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可しない）を毎回手元に置き、使用すること。
対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しずれることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気をつけていてください。
休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students improve in German and the mutual understanding of other cultures.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

Before each class meeting, students will be expected to have read the next chapter from the text. 30minutes.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. 30minutes.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LA		
ドイツ語 2 II		
2017 年度以降入学者		
外山 知子		
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：土 2/Sat.2		
単位数：1 単位		
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：		
【授業の概要と目的（何を学ぶか）】		
ドイツ語の習得とドイツ語圏の文化の学び 数詞、会話文、文法を学ぶ。		
【到達目標】		
正しい発音を身に付ける。 独和辞典を用いて、初歩的なテキストを分析して理解する。 簡単な会話ができる。		
【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】		
各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学 部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3		
【授業の進め方と方法】		
授業形態は対面ですが、Zoom によるリアルタイムのオンラインに なる回もありますので、「各回の授業形態」をご覧ください。 授業の最初に最新のドイツ事情、ドイツの生活習慣などを紹介します。 発音練習を頻繁にしながら、教科書であいさつ、数詞、会話文、文 法を学びます。教科書の練習問題だけでは足りないので、教授資料 に付いている練習問題も解いていきます。 学習支援システムの「お知らせ」欄に「お知らせ」をよく載せるの で、メールでチェックできるようにして、メールが届くたびにすぐ に見てください。特に初回の前は早めに「お知らせをチェックして ください。 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行 う予定です。 下の「その他の注意事項」も早めに目を通すこと。		
【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】		
あり / Yes		
【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】		
なし / No		
【授業計画】 授業形態：対面/face to face		
回	テーマ	内容
1	春学期で学んだことの 復習	Lektion 1 Lektion 5 までに学ん だことの要点を復習する。
2	Lektion 6 現在人称変 化の不規則な動詞 (2)、人称代名詞、非 人称の es	Lektion 6 本文の動画を観て、発 音練習と文法説明。
3	Lektion 6 の文法と練 習問題	Lektion 6 文法について補足し、 パートナー練習をしてから練習問 題を答え合わせする。その場で応 用の練習問題を解く。
4	p.28 の Landeskunde と数詞 (40-49) の発音練習。 Lektion 7 前置詞と定 冠詞との融合形	Lektion 7 本文の動画を観て、発 音練習と文法説明。
5	Lektion 7 の文法と練 習問題	Lektion 7 文法について補足し、 パートナー練習をしてから練習問 題を答え合わせする。その場で応 用の練習問題を解く。
6	p.32 の Landeskunde Lektion 8 話法の助動 詞、話法の助動詞の人 称変化、話法の助動詞 の主な意味	Lektion 8 本文の動画を観て、発 音練習と文法説明。
7	Lektion 8 の文法と練 習問題	Lektion 8 文法について補足し、 パートナー練習をしてから練習問 題を答え合わせする。その場で応 用の練習問題を解く。
8	p.36 の Landeskunde と数詞 (50-59) の発音練習。 Lektion 9 分離動詞、 命令形、時刻表現	Lektion 9 本文の動画を観て、発 音練習と文法説明。
9	Lektion 9 の文法と練 習問題	Lektion 9 文法について補足し、 パートナー練習をしてから練習問 題を答え合わせする。その場で応 用の練習問題を解く。
10	p.40 の Landeskunde と数詞 (60-100) の発音練習。 Lektion 10 形容詞の 格変化、再帰代名詞と 再帰動詞	Lektion 10 本文の動画を観て、 発音練習と文法説明。
11	Lektion 10 の文法と 練習問題	Lektion 10 文法について補足し、 パートナー練習をしてから練習問 題を答え合わせする。その場で応 用の練習問題を解く。
12	p.44 の Landeskunde Lektion 11 動詞の三 基本形、過去人称変化	Lektion 11 本文の動画を観て、 発音練習と文法説明。
13	Lektion 11 の文法と 練習問題	Lektion 11 文法について補足し、 パートナー練習をしてから練習問 題を答え合わせする。その場で応 用の練習問題を解く。
14	全体の復習と授業内で の試験	学んだことが身につくような復 習。
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
『イン・ドイチュラントー ドイツ語インフォメーション 映像付』秋 田静男著 朝日出版社		
【参考書】		
『ドイツ文法の要点』本郷健治著 三修社 『改訂版必携ドイツ文法総まとめ』中島悠爾他著 白水社		
【成績評価の方法と基準】		
出席は原則として 3 分の 2 以上を必要とする。配慮される場合につ いては【その他の重要事項】を参照のこと。基本的には期末試験 70 %、授業参加度（宿題、課題をふくむ平常点）30 % の割合で総 合評価する。遅刻 3 回で欠席 1 回にカウントされる。		
【学生の意見等からの気づき】		
今年度も楽しく、真剣に学びましょう。		
【学生が準備すべき機器他】		
Zoom ができる機器（教室ではスマートフォン、タブレットなど WiFi とつながるもの、自宅では PC があれば PC、なければスマートフォ ン、タブレットなど）、場合によってヘッドセット。		
【その他の重要事項】		
楽しく、まじめに勉強しましょう。 公欠届、診断書などはきちんと出してください。 教科書と独和辞典（電波の入る機器を辞書代わりに使うことは許可 しない）を毎回手元に置き、使用すること。 対面とオンラインを何回目にやるかは授業の進度によって、少しず れることがあります。学習支援システムの「お知らせ」はいつも気 をつけていてください。 休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な 理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告 しても配慮対象になりません。		
【Outline (in English)】		
The aim of this course is to help students improve in German and the mutual understanding of other cultures.		

The goal is for students to improve at speaking, listening, reading and writing.

Before each class meeting, students will be expected to have read the next chapter from the text. 30 minutes.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. 30 minutes.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(70%) and in-class contribution(30%).

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本（主）とします。初回だけではなく、授業の前には毎回、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。

授業は教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について・ドイツ語のアルファベット
第 2 回	発音	ドイツ語の発音ルール
第 3 回	第 1 章 (1)	動詞の現在人称変化、動詞 sein と haben の変化
第 4 回	第 1 章 (2)	動詞の位置
第 5 回	第 2 章 (1)	名詞の性、名詞の 1 格・4 格
第 6 回	第 2 章 (2)	所有冠詞
第 7 回	第 3 章 (1)	不規則動詞の現在人称変化
第 8 回	第 3 章 (2)	名詞の複数形
第 9 回	第 4 章 (1)	名詞の 3 格
第 10 回	第 4 章 (2)	前置詞と名詞の格
第 11 回	第 5 章 (1)	人称代名詞の 3・4 格
第 12 回	第 5 章 (2)	分離動詞、非分離動詞
第 13 回	第 6 章 (1)	話法の助動詞
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 と きめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2 6 0 0 円＋税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。

また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったため、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時にまでに用意すること。

【Outline (in English)】

Course outline

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

Learning Objectives

Over the course of one year, students will learn basic grammar and the fundamentals of the German language. By the end of the course, students should be able to read simple German texts and to communicate in basic German.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to prepare and review the course content and to submit assignments.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 40%, term-end examination: 60%

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本（主）とします。授業の前には毎回、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。

授業は春学期に引き続き、教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたらうで参加することが要求されます。辞書を用意すること。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 6 章 (2)	命令形
第 2 回	第 7 章 (1)	3・4 格支配の前置詞
第 3 回	第 7 章 (2)	並列接続詞
第 4 回	第 8 章 (1)	現在完了形
第 5 回	第 8 章 (2)	過去形
第 6 回	第 9 章 (1)	定冠詞類
第 7 回	第 9 章 (2)	副文
第 8 回	第 10 章 (1)	比較級と最上級
第 9 回	第 10 章 (2)	再帰代名詞と再帰動詞
第 10 回	第 11 章 (1)	形容詞の格変化
第 11 回	第 11 章 (2)	天候の表現（es の用法）
第 12 回	第 12 章 (1)	接続法第 2 式
第 13 回	第 12 章 (2)	zu 不定詞句
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2 6 0 0 円＋税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。

また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）
『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったので、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline (in English)】

Course outline

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

Learning Objectives

Over the course of one year, students will learn basic grammar and the fundamentals of the German language. By the end of the course, students should be able to read simple German texts and to communicate in basic German.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to prepare and review the course content and to submit assignments.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 40%, term-end examination: 60%

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

【到達目標】

基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1. 授業は主に次の 3 点から構成されます。

- 1) 講義
- 2) 実習
- 3) 映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	自己紹介 授業の進め方 ドイツ語とドイツ語圏について
2.	つづりの読み方と発音	母音・子音の発音 日常会話の基本的表現
3.	第 1 課（1）	動詞の現在人称変化
4.	第 1 課（2）	動詞の現在人称変化
5.	第 2 課（1）	名詞と冠詞の格変化
6.	第 2 課（2）	名詞と冠詞の格変化
7.	第 3 課（1）	名詞の複数形・人称代名詞
8.	第 3 課（2）	名詞の複数形・人称代名詞
9.	第 1 回目テスト	テスト・まとめと復習
10.	第 4 課（1）	動詞の現在人称変化（2）・命令法
11.	第 4 課（2）	動詞の現在人称変化（2）・命令法
12.	第 5 課（1）	定冠詞類・不定冠詞類
13.	第 5 課（2）	定冠詞類・不定冠詞類
14.	第 2 回目テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 宿題となった練習問題の解答
- 2) 宿題となったテキスト講読の和訳

【テキスト（教科書）】

- 1) 前田・高木『身につくドイツ文法＜ Leicht ＞ 2』郁文堂
- 2) 上記のテキストのほかに講読プリントを配布

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

以下の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35 %
- 2) 第 2 回テスト 35 %
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、学習支援システム上で、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

1) 上記の授業形態（対面になるかオンラインになるか）はあくまで予定です。コロナウィルスの感染状況により変更することがあります。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。

2) 4 月の第 1 回目の授業時に詳しいガイダンスを行います。教科書を購入してもってきてください。

【Outline (in English)】

1) This course deals with the German grammar/reading/conversation.

2) The goal of this course is to acquire the German grammar/reading/conversation.

3) Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

4) Your final grad will be decided based on the following

1. the 1. examination:35%, 2. the 2. examination:35%, 3. in class contribution: 30%

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

高木 葉子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、基本的な文法事項の習得と簡単なドイツ語の読解・会話

【到達目標】

春学期に引き続き、基本的な文法事項を習得しながら、ドイツ語の簡単な文章を読み、会話を練習していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

1. 授業は主に次の 3 点から構成されます。

- 1) 講義
- 2) 実習
- 3) 映像鑑賞

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	第 6 課（1）	前置詞
2.	第 6 課（2）	前置詞
3.	第 7 課（1）	話法の助動詞・未来形・非人称動詞
4.	第 7 課（2）	話法の助動詞・未来形・非人称動詞
5.	第 8 課（1）	分離動詞と非分離動詞・接続詞
6.	第 8 課（2）	分離動詞と非分離動詞・接続詞
7.	第 9 課（1）	動詞の 3 基本形・過去人称変化
8.	第 9 課（2）	動詞の 3 基本形・過去人称変化
9.	第 1 回目テスト	テスト・まとめと復習
10.	第 10 課（1）	現在完了・再帰表現
11.	第 10 課（2）	現在完了・再帰表現
12.	第 11 課	形容詞の格変化
13.	第 12 課	形容詞と副詞の比較変化・zu 不定詞
14.	第 2 回目テスト	テスト・まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 宿題となった練習問題の解答
- 2) 宿題となったテキスト講読の和訳

【テキスト（教科書）】

- 1) 前田・高木『身につくドイツ文法＜Leicht＞2』郁文堂
- 2) 上記のテキストのほかに講読プリントを配布

【参考書】

授業中、随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

次の 3 点を総合して評価します。

- 1) 第 1 回テスト 35 %
- 2) 第 2 回テスト 35 %
- 3) 平常点（出席状況と受講態度）30 %

【学生の意見等からの気づき】

授業が進行していくと、どうしてもクラスの中でレベルの差が出てきてしまいます。これを解消するため、時間が許す限り、個別の質問にもできるだけ丁寧に対応していきます。

【その他の重要事項】

上記の授業形態（対面になるかオンラインになるか）は、あくまで予定です。コロナウィルスの感染状況により変更することがあります。Hoppii 学習支援システムの「授業情報」で各回の授業形態を定期的に事前に確認してください。

【Outline (in English)】

- 1) This course deals with the German grammar/reading/conversation.
- 2) The goal of this course is to acquire the German grammar/reading/conversation.
- 3) Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.
- 4) Your final grad will be decided based on the following
 1. the 1. examination:35%, 2. the 2. examination:35%, 3. in class contribution: 30%

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

ADAM D JAMBOR

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語 2I では、教科書を用いてドイツ語の読解を体系的に学習します。ドイツ語の文章を読み解くことで基本的なドイツ語単語を身につけ、ドイツ語文法を具体的にどう使用されるか学ぶ。文章と練習問題を通して、ドイツ語圏とドイツ語という言葉に関する知識が得られます。

【到達目標】

前期：発音、規則動詞と不規則動詞の変化、名詞と代名詞、複数形、命令形、冠詞類と前置詞を習得する。独検 4 級の問題を読み解くようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明が終えた後、練習問題を通して実際にその文法を使い、習得する。会話とグループ練習を通してさらにドイツ語文法への理解を深め、基本的な文章を発言させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	アルファベット	ドイツ語の発音ルールを学ぶ
2 回	Lektion 0: あいさつ	あいさつの練習とドイツに関する基礎知識
3 回	Lektion 1: 自己紹介	人称代名詞と動詞の位置を学習する
4 回	動詞の変化・sein	規則動詞と sein の変化について学習する
5 回	Lektion 2: 趣味・余暇	動詞の不規則変化を学ぶ
6 回	Lektion 2: 名詞の格変化	定冠詞と不定冠詞の格変化を学ぶ
7 回	Lektion 3: 持ち物・食べ物	haben・4 格と結びつく動詞について学ぶ
8 回	Lektion 3: 否定冠詞	3 格と結びつく動詞と否定冠詞を学習する
9 回	Lektion 4: 家族・住居	2 格の用法・人称代名詞の格変化を習得する
10 回	Lektion 4: 複数形	名詞の複数形について学習する
11 回	Lektion 5: 自然・心身	所有冠詞について学ぶ
12 回	Lektion 5: 命令形	命令形を習得する
13 回	Lektion 6: 街歩き	前置詞について学ぶ
14 回	復習	今学期で習った内容をまとめて復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。前回の授業の文法を復習すること、単語を暗記すること、与えた課題・宿題に取り組むことが授業時間以外の主な学習です。

【テキスト（教科書）】

「ドライクラング・異文化理解のドイツ語」菅利恵著・大喜祐太著等、2020 年、郁文堂。3080 円
ISBN : 9784261012736

【参考書】

新・独検合格 単語+熟語 1800、在問進・亀ヶ谷昌秀、第三書房、2010 年、2530 円

ISBN：4808601451

【成績評価の方法と基準】

小テストの平均点数 70%、平常点 30%。

各 **Lektion** に関して小テストを行うため、全ての内容が問われる期末試験がありません。平常点において課題提出、出席、積極的な授業参加を総合的に評価

する。課題を行わない場合、平常点を減点する。

無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの課題・小テストの回答をより積極的に提供するように心掛けていきたいと思ひます。以前より積極的にパートナーワークに取り組める分かりやすい教科書に変更し、授業内でも学生がドイツ語を使う機会をさらに増やしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典

教室で授業を行えない場合、Zoom に接続可能なデバイス（パソコンやタブレットが望ましい）とマイク付きイヤホン（ヘッドセット）

【Outline (in English)】

This lecture aims at teaching basic German reading skills. By reading German dialogues and texts the students gain insight into basic grammar and pronunciation. The students will further learn basic facts about the German language and German culture and society.

Learning Objectives: We will learn the basic rules of pronunciation, the conjugation of regular and irregular verbs, nouns and pronouns, plural form, imperative form, definite and indefinite articles and prepositions. The students will be able to solve tasks of the Dokken Level 4.

Learning activities outside of classroom: The students are supposed to prepare and repeat the course contents for one hour per week. The main learning activities outside of classroom are repetition of the learnt grammar, memorizing vocabulary and doing homework or tasks, which are assigned by the teacher.

Grading Criteria /Policy: Point average of short tests 70%, course participation 30%. There will be a short test following the completion of every chapter. Therefore no final exam will be held. Course participation includes handing in homework and active participation during classes. If students fail to hand in their homework, points for the participation grade will be deducted. In case a student misses more than four classes without a reason, the student will not earn any credit for completing this course.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

ADAM D JAMBOR

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語 2I では、教科書を用いてドイツ語の読解を体系的に学習します。ドイツ語の文章を読み解くことで基本的なドイツ語単語を身につけ、ドイツ語文法を具体的にどう使用されるか学ぶ。文章と練習問題を通して、ドイツ語圏とドイツ語という言葉に関する知識が得られます。

【到達目標】

後期：動詞の現在完了形・過去形・未来形、話法助動詞、関係代名詞、形容詞の比較級・最上級と形容詞の格変化、接続詞と **Zu** 不定詞。補足として受動態と接続法を習得する。独検 4 級の問題を読み解くようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明が終えた後、練習問題を通して実際にその文法を使い、習得する。会話とグループ練習を通してさらにドイツ語文法への理解を深め、基本的な文章を発言させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Lektion 7: 交通	分離動詞と非分離動詞について学ぶ
2 回	Lektion 7: 時間	時間の表現を学ぶ
3 回	Lektion 8: 予定・計画	話法助動詞について学ぶ
4 回	Lektion 8: 未来形	非人称表現と未来形について学習する
5 回	Lektion 9: 学校	再帰代名詞と再帰動詞について学習する
6 回	Lektion 9: 従属接続詞	従属接続詞と Zu 不定詞を学ぶ
7 回	Lektion 10: 過去のできごと	現在完了形について学ぶ
8 回	Lektion 10: 過去形	過去形について学習する
9 回	Lektion 11: 祝祭	形容詞の付加語的用法を学ぶ
10 回	Lektion 11: 序数	序数と形容詞の比較級・最上級について学習する
11 回	Lektion 12: 政治・社会	関係代名詞と指示代名詞について学習する
12 回	文法補足：受動態	受動態について学習する
13 回	文法補足：接続法	接続法 1・2 式を学ぶ
14 回	復習	今学期で習った内容を復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。前回の授業の文法を復習すること、単語を暗記すること、与えた課題・宿題に取り組むことが授業時間以外の主な学習です。

【テキスト（教科書）】

「ドライクラング・異文化理解のドイツ語」菅利恵著・大喜祐太著等、2020 年、郁文堂。3080 円

ISBN：9784261012736

【参考書】

新・独検合格 単語+熟語 1800、在問進・亀ヶ谷昌秀、第三書房、2010 年、2530 円
ISBN：4808601451

【成績評価の方法と基準】

小テストの平均点数 70%、平常点 30%。

各 **Lektion** に関して小テストを行うため、全ての内容が問われる期末試験がありません。平常点において課題提出、出席、積極的な授業参加を総合的に評価する。課題を行わない場合、平常点を減点する。無断欠席が 4 回以上の場合、不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの課題・小テストの回答をより積極的に提供するように心掛けていきたいと思ひます。以前より積極的にパートナーワークに取り組める分かなりやすい教科書に変更し、授業内でも学生がドイツ語を使う機会をさらに増やしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典
教室で授業を行えない場合、Zoom に接続可能なデバイス（パソコンやタブレットが望ましい）とマイク付きイヤホン（ヘッドセット）

【Outline (in English)】

This lecture aims at teaching basic German reading skills. By reading German dialogues and texts the students gain insight into basic grammar and pronunciation. The students will further learn basic facts about the German language and German culture and society.

Learning Objectives: We will learn the perfect tense, past tense and future tense, the modal verbs, comparative and superlative, adjective declension, conjunctions and zu-infinitive. Passive and subjunctive might be additional contents of this course. The students will be able to solve tasks of the Dokken Level 4.

Learning activities outside of classroom: The students are supposed to prepare and repeat the course contents for one hour per week. The main learning activities outside of classroom are repetition of the learnt grammar, memorizing vocabulary and doing homework or tasks, which are assigned by the teacher.

Grading Criteria /Policy: Point average of short tests 70%, course participation 30%. There will be a short test following the completion of every chapter. Therefore no final exam will be held. Course participation includes handing in homework and active participation during classes. If students fail to hand in their homework, points for the participation grade will be deducted. In case a student misses more than four classes without a reason, the student will not earn any credit for completing this course.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、現代ドイツでよく引用されたり、パロディー化されている名言名句、諺や格言などをもとに、基礎ドイツ語を学ぶ。

【到達目標】

- ・基礎ドイツ語の能力、特に読解力を身につける。
- ・ドイツ人の価値観、文学や音楽などについて知識を広げる。
- ・Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

基本的にアップロードメディアを配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	発音、その他
②	動詞の現在人称変化	<i>Ich denke, also bin ich (hier falsch).</i>
③	名詞の性と格変化	<i>Der Name der Rose</i>
④	定冠詞類と不定冠詞類	<i>Jeder Mensch ist ein Künstler.</i>
⑤	前置詞の格支配	<i>Liebe geht durch den Magen.</i>
⑥	名詞の複数形	<i>Kleider machen Leute.</i>
⑦	中間テスト	①～⑥
⑧	形容詞の格変化	<i>Ein Freund, ein guter Freund, das ist das Beste, was es gibt auf der Welt.</i>
⑨	命令法	<i>Erkenne dich selbst!</i>
⑩	話法の助動詞	<i>Wer nicht hören will, muss fühlen.</i>
⑪	接続詞 (1)	<i>Mit Erstaunen bemerkte Aschenbach, dass der Knabe vollkommen schön war.</i>
⑫	分離動詞	<i>Ilsebill salzte nach.</i>
⑬	復習	⑧～⑬
⑭	試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

学習支援システム「Hoppii」を通じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。
手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

In this class we learn the basics of German grammar using memorable proverbs, famous sentences, refrains of popular songs etc. to become able to read simple texts.

(Learning Objectives)

- Acquire basic German proficiency, especially reading comprehension.
- Expand your knowledge of German values, literature and music.
- You will be able to study by yourself using the teaching materials on the Web.

(Learning activities outside of classroom)

The standard for preparatory study and review time for this class is 1 hour in total.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on worksheets (100%).

LANd100LA

ドイツ語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、現代ドイツでよく引用されたり、パロディー化されている名言名句、諺や格言などをもとに、基礎ドイツ語を学ぶ。

【到達目標】

- 基礎ドイツ語の能力、特に読解力を身につける。
- ドイツ人の価値観、文学や音楽、映画などについて知識を広げる。
- Web 上の教材を利用して独学できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

+++ オンライン「オンデマンド/資料・教材コンテンツ配付型」です。参照：【学生が準備すべき機器他】+++

基本的に教材を配信し、課題を出す。前回の授業で提出された課題からいくつか良い回答を取り上げ、課題に対する解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	過去	<i>Der Esel schrie, der Hund bellte, der Hahn krächte, die Katze miaute.</i>
②	現在完了	<i>Ich hab mein Herz in Heidelberg verloren.</i>
③	接続詞（2）	<i>Als Gregor Samsa eines Morgens aus unruhigen Träumen erwachte, (...)</i>
④	zu 不定詞	<i>Es ist nicht genug zu wissen, man muss auch anwenden. Es ist nicht genug zu wollen, man muss auch tun.</i>
⑤	形容詞の比較変化	<i>Schneller, höher, stärker! (Besser?)</i>
⑥	再帰動詞	<i>Wenn zwei sich streiten, freut sich der Dritte.</i>
⑦	中間テスト	①～⑥
⑧	関係文（1）	<i>Wer den Pfennig ehrt, betet den Taler an.</i>
⑨	関係文（2）	<i>Den lieb ich, der Unmögliches begehrt.</i>
⑩	受動	<i>Rom ist nicht an einem Tage erbaut worden.</i>
⑪	接続法（1）	<i>Edel sei der Mensch, hilfreich und gut.</i>
⑫	接続法（2）	<i>Katzen würden Wiskas kaufen.</i>
⑬	復習	⑧～⑫
⑭	学期末試験	試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準」〔文部科学省の大学設置基準によるデフォルト（初期）設定〕とするが、教室での学びとは違い、自分のペースで何度でも繰り返し学習を進めることができるため、「アクティブ」な自学自習が要件です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

学習支援システム「Hoppii」を通じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

PDF 入力フォームで課題を提出するには普通のパソコンが必要。
手書きの課題作成やスマホ写真による課題提出などは不可。

【Outline (in English)】

In this class we learn the basics of German grammar using memorable proverbs, famous sentences, refrains of popular songs etc. to become able to read simple texts.

（Learning Objectives）

- Acquire basic German proficiency, especially reading comprehension.
- Expand your knowledge of German values, literature and music.
- You will be able to study by yourself using the teaching materials on the Web.

（Learning activities outside of classroom）

The standard for preparatory study and review time for this class is 1 hour in total.

（Grading Criteria /Policies）

Grading will be decided based on worksheets (100%).

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得する。ドイツ語とはどんな言葉なのかを理解する。

【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、ドイツ語を正しく発音し、基本的な表現を口頭で練習し身につけ簡単な内容の事柄をドイツ語で表現できるよう目指す。また、辞書を使い、ドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ドイツ語を始めて学ぶ者を対象とする授業である。ドイツ語を正しく発音し、ドイツ語を用いての日常の表現力を養う。各課の文法の説明をまず行ない、本文のドイツ語を読み、解釈し、聞き取ったりする練習を行う。各課の練習問題の答えなどは履修者に発表してもらい、各自で内容を確認し疑問点などは質問するようにする

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション アルファベート	ドイツ語およびドイツ語圏の紹介。授業の進め方やテキストおよび辞書の説明などを行う。アルファベートの読み方。
2	アルファベートと単語の発音	アルファベートの読み方。単語の発音の原則と注意すべき母音・子音の説明。
3	動詞の形は変わります (1)	主語となる人称代名詞。現在形の形態と用法。
4	動詞の場所は決まっています	定動詞の位置 (1) (平叙文と疑問文)
5	冠詞と名詞の形も変わります	不定冠詞・定冠詞と名詞の性と格変化。2 格の位置、3 格と 4 格の順序。
6	名詞の複数の形・誰・何をあらわすものたち	複数形の種類と格変化・疑問詞 wer と was の用法。
7	母音が変わる動詞があります	語幹の母音が変わる 3 つのパターンと独特な変わり方をする動詞の現在人称変化を覚える。
8	命令の形は 3 種類です・まとめと練習	命令形の作り方と用法・これまでに学んだことの復習と問題練習。
9	冠詞の仲間たち	冠詞と同じような格変化をする定冠詞類や不定冠詞類の形と用法・否定の表現。
10	ich du er などにも 3 格・4 格があります	人称代名詞の格変化と 3 格・4 格の文章における順序。
11	前置詞の相手は決まっています	特定の格と結びつく前置詞の意味と用法 (2 格、3 格、4 格、3・4 格支配)

12	前置詞に関連した事柄	前置詞の融合形と特定の前置詞と結びつく動詞や形容詞を覚える。
13	総復習	春学期で学習した文法項目や各種の表現の復習とこれまでの疑問点の解明。
14	期末のまとめのテストと総括	文法と読解力のチェックをするための試験を実施する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に「授業テーマ」や「授業内容」を読み、教科書の該当箇所の情報を得たうえで、これに目を通して疑問点を明確にしておく。また独和辞典を引き、教科書付属の CD で発音練習などもしておく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「ドイツ語エコー」ースマート版ドイツ語スパイラルー
高橋秀彰・著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末のまとめのテストの他に、毎回の授業への取り組み方、課題の提出などの点も加味して到達目標に達しているかを考慮して総合的に評価する。中間のまとめのテストと到達目標に達しているかを問う期末のまとめのテストが 70 %、授業への取り組み方や課題の提出などが 30 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、履修者による発表や自発的な質問を行えるように徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ禍によりオンラインやハイフレックス授業に転換になった場合には、学習支援システムや Zoom 等を使用するため、接続可能なパソコンや資料保存のためにプリンターなどが必要になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】Elementary class of German language.
【Learning Objectives】Students can understand the rules of pronunciation and everyday german expressions with many exercises. 【Learning activities outside of classroom】Students need altogether one hour on average for preparation and review of this lesson. 【Grading Criteria】A mark for class participation(including some reports)30%, a midterm and a term-end examination 70%: Grade evaluation is done by taking these points into account.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

浦田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の基礎を修得し、文の内容を理解する。ドイツ語の発音に習熟する。春学期の文法項目を復習しながら、複雑になってきた文法を正確に理解する。ドイツ語の文章を読みすすめていく中で、ドイツとその文化への関心を深め、日本と日本文化との違いを認識する。

【到達目標】

文法の基礎とそれに関連したドイツ語の文を学習し、簡単な内容のことならドイツ語で表現できるようにする。ドイツ語を正しく発音し、基本表現を覚え、辞書を用いてドイツ語の文の内容が理解できるようにするなど総合的なドイツ語力を修得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期終了の箇所から順に学んでいく。文法は基礎を反復練習しながら、詳しく説明し、CD の発音を聞き、ドイツ語の文を全員で読む。テキストの本文や練習問題は、問題を指名した人にやってもらい、全員で音読練習をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学習した項目の復習およびプリントによる問題練習。
2	話法の助動詞・未来のこと	話法の助動詞の種類・用法と未来形の類似点および未来形の用法。
3	ふたつに分かれる動詞があります	分離動詞と非分離動詞の用法。枠構造についての説明。
4	形容詞にも語尾がつきます・形容詞は名詞としても使えます	形容詞の格変化の種類と名詞化された形容詞の意味するもの。
5	比較のしかた・動詞も形容詞のように使えます	形容詞および副詞の比較級と最上級の形とその使い方。現在分詞の形態。現在分詞と過去分詞の付加語としての用法。
6	動詞の 3 つの基本となる形	規則変化と不規則変化の過去基本形と過去分詞。
7	完了形には完了の助動詞が必要です	現在完了と過去完了の形態と用法。完了の助動詞は sein か haben か？
8	動詞の過去に気をつけましょう・語順を変える接続詞があります	過去の人称変化と用法について。定動詞の位置に関するまとめ。副文について。
9	受動態	受動の表現について学ぶ。動作受動と状態受動について。
10	zu + 不定詞の用法 (1)	zu 不定詞の基本的な構造と用法。英語との相違点。
11	zu + 不定詞の用法 (2)	zu 不定詞の注意すべき構造と用法。英語との相違点。
12	関係詞とは	先行詞のある関係代名詞の形と用法・関係詞を用いた文中での定動詞の位置の説明。

13	総復習	秋学期に学んだ項目の確認と練習。
14	期末試験	秋学期で学んだ文法と読解力のチェックのための試験を実施する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

独和辞典を引き、教科書付属の CD で発音練習をする。前もって「授業テーマ」や「授業内容」に目を通して、教科書の該当箇所の事項についての情報を得たうえで疑問点等を明確にしておく。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「ドイツ語エコー」－スマート版ドイツ語スパイララー
高橋秀彰・著 朝日出版社

【参考書】

必要に応じて授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間・期末のまとめのテストの他に、毎回の授業への取り組み方、課題の提出などの点も加味して到達目標に達しているかを考慮して総合的に評価する。中間のまとめのテストと到達目標に達しているかを問う期末のまとめのテストが 70 %、授業への取り組み方や課題の提出などが 30 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項についての説明をさらに詳しく行い、また履修者による発表や自主的な質問などができるように徹底する。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ禍によりオンラインやハイフレックス授業に転換になった場合には、学習支援システムや Zoom 等を使用するため、接続可能なパソコンや資料保存のためにプリンターなどが必要になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】Elementary class of German language.

【Learning Objectives】Students can understand the rules of pronunciation and everyday german expressions with many exercises. 【Learning activities outside of classroom】Students need altogether one hour on average for preparation and review of this lesson. 【Grading Criteria】A mark for class participation(including some reports)30%, a midterm and a term-end examination 70%: Grade evaluation is done by taking these points into account.

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を初めて学ぶ学生のみなさんを対象に、やさしい会話練習をととしてドイツ語文法を学習することを目的とする授業です。学んだ文法知識を動員し、また語彙を増やすことにより、ドイツ語を運用するための基礎を身につけることを目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的な文法事項を運用できる。
ドイツ語の発音のルールを知り、初見の単語でも発音できる。
ドイツ語の基本的な口語表現を身につける。
独和辞典に習熟し、自律的なドイツ語学習に慣れ親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員が文法事項を紹介します（講義形式）。その後、文法事項の習得度をチェックするため、受講生のみなさんに文法問題を解いてもらいます。これとやらんで、パートナーとともに該当する文法事項を用いた会話練習を行ないます（演習形式）。課題に取り組んで知識の定着を図るとともに、疑問が残る点についてリアクションペーパーで質問を受け付けます（フィードバック）。なお、大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行ないます。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	アルファベット、つづりと発音、語彙・表現
第 2 回	人称代名詞と動詞の現在人称変化、語順 (1)	人称代名詞／動詞の形と現在人称変化
第 3 回	人称代名詞と動詞の現在人称変化、語順 (2)	語順（定動詞の位置）／動詞 sein, haben の現在人称変化
第 4 回	不規則変化動詞、名詞の性と複数形 (1)	不規則変化動詞の現在人称変化／ja, nein, doch
第 5 回	不規則変化動詞、名詞の性と複数形 (2)	名詞の性／名詞の複数形
第 6 回	名詞・代名詞の格変化 (1)	名詞の格変化
第 7 回	名詞・代名詞の格変化 (2)	人称代名詞の格変化／疑問代名詞の格変化／不定代名詞
第 8 回	冠詞類、否定文、命令形 (1)	冠詞類
第 9 回	冠詞類、否定文、命令形 (2)	否定冠詞 kein と nicht の使い分け／nicht の位置／命令形の作り方
第 10 回	前置詞、接続詞 (1)	前置詞
第 11 回	前置詞、接続詞 (2)	前置詞の熟語的用法／前置詞と代名詞の融合形／接続詞と語順
第 12 回	話法の助動詞、分離動詞 (1)	話法の助動詞

第 13 回 話法の助動詞、分離動 未来形／分離動詞／非分離動詞
詞（2）

第 14 回 理解度の確認 学期末テストにより、春学期に学
習した内容の習熟度を測る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
毎回の授業まえには、授業であつかう文法事項の説明を読み、知らない単語などは辞書であらかじめ確認するようにしてください。また、練習問題に取り組み、会話練習の準備をしておいてください。授業後には、予習で誤答したところをとくに重点的にチェックしてください。また課題が出た場合には提出期限までに忘れずに取り組み、知識の定着を図ってください。

【テキスト（教科書）】

高橋亮介／川名真矢『アプライゼ——伝え合うドイツ語』、朝日出版社、2018 年。
——なお、独和辞典を必ず準備してもらいます。ただし、詳しくは初回授業の際にお話しするので、その後に購入するようにしてください。

【参考書】

中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ——改訂版』、白水社、2003 年。
——その他については授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、課題提出など）： 60 %
期末試験： 40 %（受験しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の余裕があれば、課題のほかに小テストを行ない、知識の効率的な定着を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした受講を強くお勧めします。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

This beginner class introduces students to German grammar through easy conversation exercises. The course aims to provide students with a foundation for using German by mobilizing their grammatical knowledge and expanding their vocabulary.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、やさしい会話練習をとおしてドイツ語文法の基礎を学習していきます。学習内容をもとに文法問題や会話練習に取り組むことにより、文法知識の効率的な習得を目指します。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的な文法事項を運用できる。
ドイツ語の発音のルールを知り、初見の単語でも発音できる。
ドイツ語の基本的な口語表現を身につける。
独和辞典に習熟し、自律的なドイツ語学習に慣れ親しむ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教員が文法事項を紹介（講義形式）。
その後、文法事項の習得度をチェックするため、受講生のみなさんに文法問題を解いてもらいます。これとならんで、パートナーとともに該当する文法事項を用いた会話練習を行ないます（演習形式）。課題に取り組んで知識の定着を図るとともに、疑問が残る点についてリアクションペーパーで質問を受け付けます（フィードバック）。なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行ないます。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期の復習
第 2 回	動詞の 3 基本形、過去の表わし方（1）	動詞の 3 基本形／過去人称変化
第 3 回	動詞の 3 基本形、過去の表わし方（2）	注意を要する過去分詞／過去の事の表わし方／現在完了形
第 4 回	形容詞の格変化と比較変化（1）	形容詞の格変化
第 5 回	形容詞の格変化と比較変化（2）	形容詞の比較変化／比較の表現
第 6 回	zu 不定詞、分詞（1）	zu 不定詞の用法
第 7 回	zu 不定詞、分詞（2）	現在分詞と過去分詞の用法／非人称 es の用法
第 8 回	再帰表現、関係代名詞（1）	再帰代名詞／再帰動詞
第 9 回	再帰表現、関係代名詞（2）	関係文と関係代名詞／関係代名詞の形と用法
第 10 回	受動態（1）	受動態／受動文と能動文の関係
第 11 回	受動態（2）	受動文の時制／自動詞を用いた受動文／状態受動
第 12 回	接続法（1）	接続法とは何か／接続法第 1 式のつくり方／接続法第 1 式の用法
第 13 回	接続法（2）	接続法第 2 式のつくり方／接続法第 2 式の用法
第 14 回	理解度の確認	学期末テストにより、秋学期に学習した内容の習熟度を測る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

毎回の授業まえには、授業であつかう文法事項の説明を読み、知らない単語などは辞書であらかじめ確認するようにしてください。また、練習問題に取り組み、会話練習の準備をしておいてください。授業後には、予習で誤答したところをとくに重点的にチェックしてください。また課題が出た場合には提出期限までに忘れずに取り組み、知識の定着を図ってください。

【テキスト（教科書）】

高橋亮介／川名真矢『アブライゼ——伝え合うドイツ語』、朝日出版社、2018 年。
——なお、独和辞典を必ず準備してください。詳しくは初回授業の際にお話しします。

【参考書】

中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧『必携ドイツ文法総まとめ——改訂版』、白水社、2003 年。
——その他については授業中に適宜ご紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、小テスト・課題提出など）：60 %
期末試験：40 %（受験しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の 3 分の 2 以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の余裕があれば、課題のほかに小テストを行ない、知識の効率的な定着を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期をとおした受講を強くお勧めします。
授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。
オフィスアワーは月曜 17:00～18:00 までとしますが、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

This beginners course is designed to introduce students to the basics of German grammar through easy conversation exercises. Students will work on grammar questions and conversation exercises in order to acquire knowledge efficiently. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語以外の外国語も学ぶことにより、多様な価値観や教養を身につけるための基礎的な能力を養う。

【到達目標】

簡単なドイツ語が辞書なしで読めるようになる。ドイツ語の基本的な文法事項の前半部分を習得することにより、ドイツ語の簡単な文章の意味が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の説明。その知識をもとにして練習問題を解いてもらう。文章の発音と読解の練習をする。解答をできるだけ多くの出席者に発表してもらい正解を全員で考える。

2022 年度法政大学授業方針にしたがい対面授業を実施する予定である。コロナ感染の状況の影響により遠隔授業を行う場合には、前もって指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	教科書の紹介。授業の進め方。ドイツ語とはなにか。アルファベット。簡単な表現。
2	Lektion 1 動詞の現在人称変化	発音の規則の解説と練習。ドイツ語でのあいさつ。現在人称変化。以下オンライン（リアルタイム型）で行う。
3	Lektion 1 動詞の現在人称変化の練習	人称代名詞と規則動詞の変化。sein 動詞。定動詞の位置。
4	Lektion 2 名詞の性、格変化	名詞の性、格変化、haben の文法の説明。問題練習。
5	Lektion 2 名詞の性、冠詞の格変化の練習	名詞の性、格変化、haben 等を使った表現の練習。2 課の読解。
6	Lektion 3 不規則動詞、命令形	不規則動詞、命令形の文法の説明。問題練習。
7	Lektion 3 不規則動詞、命令形の練習	不規則動詞、命令形を使った表現の練習。3 課の読解。
8	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類	定冠詞類・不定冠詞類の文法の説明。問題練習。
9	Lektion 4 定冠詞類・不定冠詞類の練習	定冠詞類・不定冠詞類を使った表現の練習。4 課の読解。
10	Lektion 5 複数形、人称代名詞	複数形、人称代名詞の文法の説明。問題練習。
11	Lektion 5 複数形、人称代名詞の練習	複数形、人称代名詞を使った表現の練習。5 課の読解。

12	Lektion 6 前置詞	前置詞の文法の説明。問題練習。
13	Lektion 7 形容詞の格変化	形容詞の変化（解説と練習）。
14	春学期の学修事項の確 認	到達度テスト 学修事項の確認と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書をひき予習する。学んだことを振り返り、わからないことがあれば次の回に質問する。教科書に添付された学修用 CD を聞いて発音になれる。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール [三訂版] 「上野成利他」白水社

【参考書】

任意の独和辞典

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

知識を確実にするためには、できるだけ多くの問題練習をする必要がある。

【Outline (in English)】

By learning foreign languages other than English, cultivate the basic ability to acquire diverse values and cultures.

Goal:

Students should be able to read easy German without a dictionary. By learning the first half of the basic German grammar, students should be able to understand the meaning of easy German sentences.

Learning activities outside of classroom:

Look up the words in a dictionary in advance. Feel free to ask if you have any questions. You can practice pronunciation by listening the CD attached to the textbook.

Your required study time is at least 1 hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

渡辺 国彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語以外の外国語も学習することにより、多様な価値観や教養を身につけるための基礎的な能力を養う。

【到達目標】

ドイツ語の基本的な文法事項の後半を習得することにより、ドイツ語の基本的な文章を理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の説明。修得した知識をもとに練習問題を解く。文章の発音と読解の練習。解答をできるだけ多くの出席者に発表してもらいその正解を全員で考える。

2022 年度全学授業方針に基づき対面授業を予定しているが、コロナ感染の状況により遠隔授業に変更になる場合にはあらかじめ指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 8	話法の助動詞、未来形の文法の説明。問題練習。
2	Lektion 8	話法の助動詞、未来形を使った表現の練習。8 課の読解。
3	Lektion 9	分離動詞、接続詞と副文の文法の説明。問題練習。
4	Lektion 9	分離動詞、接続詞と副文を使った表現の練習。9 課の読解。
5	Lektion 10 zu 不定詞、再帰代名詞	zu 不定詞、再帰代名詞の文法の説明。問題練習。
6	Lektion 10 zu 不定詞、再帰代名詞の練習	zu 不定詞、再帰代名詞を使った表現の練習。10 課の読解。
7	Lektion 11 三基本形、過去形	三基本形、過去形の文法の説明。問題練習。
8	Lektion 11 三基本形、過去形の練習	三基本形、過去形を使った表現の練習。11 課の読解。
9	Lektion 12 現在完了形	現在完了形の文法の説明。問題練習。
10	Lektion 12 現在完了形の練習	現在完了形を使った表現の練習。12 課の読解。
11	Lektion 13 受動態	受動態の文法の説明。問題練習。
12	Lektion 13. 14 受動態の練習 関係代名詞の説明	受動態を使った表現の練習。13 課の読解。

13	Lektion 14 関係代名詞	関係代名詞、関係副詞を使った表現の練習。接続法の練習。
	Lektion 15 接続法、関係副詞	
14	秋学期の学修事項の確認	到達度テスト 到達度の確認と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

辞書をひき予習する。学んだことを振り返り、わからないことがあれば次の回に質問できるように用意する。教科書に添付された学習用 CD を聞いて発音になれる。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール【三訂版】 「上野成利他」白水社

春学期に入手したものです。

【参考書】

任意の独和辞典

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (60%) と授業での発表等の平常点 (40%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

知識を確実にするためには、できるだけ多くの問題練習をする必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

遠隔授業に必要な PC 等

【Outline (in English)】

By learning foreign languages other than English, cultivate the basic ability to acquire diverse values and cultures.

Goal:

By learning the second half of the basic German grammar, students should be able to understand the basic German sentences.

Learning activities outside of classroom:

Look up the words in a dictionary in advance. Feel free to ask if you have any questions. You can practice pronunciation by listening the CD attached to the textbook.

Your required study time is at least 1 hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語の文法をひとつひとつ確認しつつ、適度の文章を読んでゆくことによってドイツ語運用になれていくことをめざします。さらに、文法知識の確認しながら、読解の助けにしていきます。テキストは **Deutschland wie es ist, ASAHI VERLAG(Masao Kasuga, Jun Matsuzawa)** リーダー部分が受講者にとってやさしいばあいは、能力に応じてプリントで読解問題は配布します。予習復習 60 分程度。

【到達目標】

学生が文法の基礎をまなび、またその読解練習をおこない、その結果、辞書を引き、初級中級程度のドイツ語文章を理解できるようになること。学生が、そのドイツ語を正しく発音できるようになること。ドイツ語圏の国々やその文化・経済・政治などについても、ある程度の知識を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

初級文法説明と運用演習・簡単な訳読講義。ドイツ文化圏の情報ソースの提示。画像・動画も利用する。課題のフィードバックは、教室授業が困難な場合は、Hoppii で受け付けます。大学の行動方針レベルがレベル 1 の場合は教場での講義、レベル 2 以後の場合は原則としてすべてオンライン授業 (Zoom 利用) で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

haruki@tt.rim.or.jp (緊急のときのみ)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 ガイダンス	講義内容と学生の指導方針を解説。アルファベットの発音。	ドイツ語をどうまなぶか適切な指導方針を告げる。よく使われる単語を使つての発音練習・挨拶など。
Lektion1	人称代名詞・動詞。動詞の現在人称変化。	sein, haben, trinken というよく使う動詞による動詞の現在人称変化になれる。
Lektion2	名詞の性と動詞の位置。	疑問文。Ja と nein
Lektion3	重要な不規則動詞。否定冠詞。	基本構文をまなぶ。
Lektion3	不規則動詞の文章読解。	簡単な訳読練習。
Lektion4	名詞の 1/3/4 格	配布プリント教材で簡単な訳読演習を行う。
Lektion4	名詞の 1/3/4 格を正しく訳読する。	格支配と例文復習
Lektion5	名詞の 2 格 前置詞	例文演習 (訳読)
Lektion5	人称代名詞 1/3/4 格	教材訳読 適宜プリントを配布する
Lektion5	人称代名詞	教材訳読 適宜プリントを配布する
Lektion6	3/4 格支配の前置詞	教材訳読 適宜プリントを配布する
Lektion7	話法の助動詞。	文章を丁寧に読んでいく。教材訳読
Lektion7	話法の助動詞のていねいな訳し方。	前期はテキスト第 7 課までを目標とする。
14 前記試験	ドイツ語の既読文章と初読文章のふたつを訳読する。プラス簡単な文法問題。	辞書使用可のペーパー試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生はテキストの予習ならびに復習を励行する。時間外学習（復習＋準備）は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Einfaches Deutsch mit Umweltgedanken. ドイツ環境問題へのアプローチ ノイ。(第三書房)

【参考書】

独和辞書は必携。講義内でも使用します。参考書としては、「NHK 出版音声 DL BOOK これからはじめる ドイツ語入門」高橋亮介著をおすすめします。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験/平常授業時の小テスト／レポートを総合評価する。成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格。総合評価 80 点以上 A,70 点以上 B,60 点以上を C と判定します。評価要素として定期試験 80 パーセント、提出レポートなど 20 パーセントを目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

英語に慣れ親しんできた学生諸君には、ヨーロッパのドイツ語やフランス語をはじめとする諸語は冠詞などの変化もあり、最初とはまどうことでもあると思いますが、現地では小学生がはじめる学びからはじめて、一気に上級の構文までまなぶようになる語学学習ですので、1 回 1 回に集中しましょう。わからないのではなく、おぼえるのが面倒なだけということがあります。初心にかえて、「復唱」を忘れずに。ただし、理解しない学生を残したまま進行せず、そのつど確認していきます。なにより、最初の数回が大事です。「習うより、慣れよ!」です。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom の接続が可能な機材・デバイスの準備、独和辞書（電子辞書も可）

【その他の重要事項】

出席重視。やむなく欠席する場合は事前・事後に、申し出て補うこと。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達します。とかくオンライン講義になると、個々人は孤立感を深めたり、わからぬままのこされていく感がしてくるものです。ちょっと不安になったりしたり、相談したり「よくわからない!」と SOS がだせるようにはしていきます。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

We aim to become familiar with German grammar by reading appropriate sentences while checking German grammar. In addition, we will help you read comprehension while checking your grammar knowledge. The student will be able to look up a dictionary and understand some German sentences. To acquire some knowledge about German-speaking countries and their culture. As Preparation and Review 60 minutes in total. A comprehensive evaluation of written exams at the end of the semester and presentations / submitted assignment reports. Grades will be evaluated on a scale of 100, with a score of 60 or higher passing. Comprehensive evaluation 80 points or more A,70 points or more is judged as B, and 60 points or more is judged as C.Students will be able to look up a dictionary and understand some German sentences. To acquire some knowledge about German-speaking countries and their culture, economy, politics.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生がドイツ語の初級程度の文法・訳読テキストを使い、ドイツ語圏の文化・歴史・政治・社会への関心や知識もふかめていく。テキストのほかに、適宜、リーディングの素材を配布して、読解力を高める練習をします。

【到達目標】

学生が辞書のちからもかりながら、ドイツ語の基本的な読解・運用能力を養う。さらに、ドイツを中心としたヨーロッパ世界への知識と関心を高めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法・訳読練習と教員による解説・講義。また映像・図版による資料の提示もある。大学の行動方針レベルがレベル 1 の場合は教場での講義、レベル 2 以後の場合は原則としてすべてオンライン授業 (Zoom 利用) で行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	訳読と理解 1 教材 8 課 分離動詞・再帰動詞	特殊な用法の動詞の説明
第 2 回	教材 8 課。es の用法と例文	多用される便利な表現
第 3 回	訳読と理解 3 教材 9 課/形容詞の格変化	日本人にはややこしい形容詞の各語尾をゆっくりていねいに解説する。
第 4 回	訳読と理解 4 教材 9 課/形容詞の名詞化	大文字かすれば名詞に早変わり。
第 5 回	訳読と理解 5 教材 10 課/ 動詞の三基本形	不定詞・過去基本形・過去分詞。表現の幅がひろがる。
第 6 回	訳読と理解 6 教材 10 課/ 過去人称変化	過去形にも人称変化？ しかし。それほどむずかしくはない。
第 7 回	訳読と理解 7 教材 11 課/ 完了形	ドイツ語には完了形が 2 パターンあるのが特徴です。
第 8 回	時事的現代文 1/教材 12 課 関係代名詞 1	関係文はなれるが一番です。構文構造は定冠詞に似ていて単純です。。
第 9 回	時事的現代文 2/教材 13 課 関係代名詞 2	同上
第 10 回	時事的現代文 3/教材 14 課 比較・現在分詞・zu 不定詞	ドイツの新聞・ネット・雑誌そのほかの記事から学生の力にみあった素材をピックアップして使用する。
第 11 回	時事的現代文 4/教材 15 課 受動	ドイツの新聞・ネットの記事から学生の力量にみあった素材をピックアップして使用する。(プリント配布)

- 第 12 回 時事的現代文 5/接続
法 1 ドイツの新聞・ネット・雑誌その
他の記事から学生の力量にみあつ
た素材をピックアップして使用す
る。(プリント配布)
- 第 13 回 時事的現代文 6/接続
法 2 ドイツの新聞・ネット・雑誌その
ほかの記事から学生の力量にあつ
た素材をピックアップして使用す
る。(プリント配布)
- 第 14 回 期末読解/訳読試験。 後期の配布テキストより出題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読む、練習問題の予習・復習。授業内で示される課題（レポート、問題）にとりくむ。準備学習・復習・宿題としてインターネットなどで検索してみてください。理解を深める一助ともなります。予習復習 60 分。

【テキスト（教科書）】

Deutschland,wie es ist.Masao Kasuga,Jun Matsuzawa,ASAHI VERLAG

【参考書】

授業時に細かく指示しますが、がつつり系として高橋亮介著『NHK 出版 音声 DL BOOK これからはじめる ドイツ語入門』が、発音もふくめて初学者が手に取るには推薦いたします。教室授業がはじまれば、それほど参考書はと必要としませんが、リモート授業がつづくようであれば、必要になるでしょう。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (70 %) 平常点として文法 + 読解 (30 %) による課題を課します。

【学生の意見等からの気づき】

予習などの平常点として各自のノートも授業内に評価する時間も学期末にもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom の接続が可能な機材・デバイスの準備。独和辞書 (電子辞書可)

【その他の重要事項】

出席重視とします。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

Syntax such as past form, passive voice. Sentences are usually written in the past, which is important knowledge for reading comprehension.

We aim to complete the basics of German beginner's grammar and leading and to be able to understand German up to the intermediate level. For students taking the course, after taking the course. We aim to have the ability to access and understand the information in each area of interest to some extent. After mastering the basic grammar, depending on your will, I would like to open a German "window" to lay the foundation for access to information from Europe and Germany. Students will be able to look up a dictionary and understand some German sentences. To acquire some knowledge about German-speaking countries and their culture. As Preparation and Review 60 minutes in total. Written test (70%). As a normal score, you will be given a grammar + reading comprehension task.(30%)

LANd100LA

ドイツ語 2 I

2017 年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常会話・読解など一文法の練習

基礎的な文法を練習します。

活きたドイツ語の表現・会話も学びます。

また、ドイツの旬な情報や日常を紹介しながら、ドイツの文化について触れます。

【到達目標】

簡単な文章が読めるようになります。

基礎的な文法や口語表現を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な文法をわかりやすく説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業についての説明・オリエンテーション	Einführung
②	Lektion 1 人と知り合う - 1 Kontakte 1 挨拶、発音	挨拶 発音 住所、出身についての会話
③	Lektion 1 人と知り合う - 1 Kontakte 1 簡単な自己紹介	自己紹介の練習 規則動詞の人称変化、疑問文
④	Lektion 2 人と知り合う - 2 Kontakte 2 自己紹介	自己紹介の練習 名詞の性、定冠詞、所有冠詞
⑤	Lektion 2 人と知り合う - 2 Kontakte 2 数	電話番号 1000 までの数
⑥	Lektion 3 専攻と言語 Studium und Sprache	不規則変化動詞の人称変化、語順、
⑦	総復習 Lektion 4 趣味 Hobbys 好きなこと	総復習 趣味についての語彙
⑧	Lektion 4 趣味 Hobbys 嫌いなこと	趣味についての会話の練習 否定文

⑨	Lektion 5 食事 Essen und Trinken 好物	食べ物・飲み物についての語彙、 簡単な会話 並列接続詞
⑩	Lektion 5 食事 Essen und Trinken 一日の食事	食べ物・飲み物についての会話 前置詞 mit, ohne
⑪	Lektion 6 家族と職業 Familie und Berufe	家族と職業について 複数形、形容詞
⑫	Lektion 7 持ち物 Gegenstände	持ち物について 代名詞の格変化、形容詞
⑬	総復習および予備日 Wiederholung	語彙・文法・会話の総復習
⑭	試験日 Prüfungstag	試験日と總め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤修子 「スツェーネン 1」 「場面で学ぶドイツ語」 ワークブック付き
三修社

ISBN 978-4-384-12245-9

他、別途配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価する

期末試験 40%

小テスト 20%

宿題 20%

平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿った授業の進め方ではなく、受講生にあわせて配布プリントを活用する。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course for beginner (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture)

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to read simple sentences and to understand basic grammar and colloquial expressions.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy:

Term-end examination: 40%, short tests: 20%, homework 20%, in-class contribution 20%.

LANd100LA

ドイツ語 2 II

2017 年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の基本知識を学習します。秋学期は、簡単な文章が読める程度の文法知識の習得を目指します。

【到達目標】

簡単な文章が読めるようになります。

基礎的な文法や口語表現を理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な文法をわかりやすく説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	復習	春学期の復習 Wiederholung
②	Lektion 8 住居 Wohnen 部屋・家具	住居についての語彙・簡単な会話 前置詞 auf, in, unter など
③	Lektion 8 住居 Wohnen 学生寮・一人暮らしなど	住居についての会話 所有冠詞
④	Lektion 9 時刻 Uhrzeit	時刻の言い方 日程についての簡単な会話 前置詞、分離動詞
⑤	Lektion 9 日付 Datum Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende	日付の言い方 前置詞、分離動詞 過去についての会話の入門 現在完了形、過去形
⑥	Lektion 10 週末の後 Nach dem Wochenende	過去についての会話 現在完了形、過去形
⑦	Lektion 11 街 Stadt	街についての語彙 道を尋ねる 命令形、前置詞
⑧	Lektion 11 大学 Universität 復習 Wiederholung	大学についての語彙・簡単な話 命令形、前置詞 復習
⑨	Lektion 12 休暇の前 Vor der Ferien	予定についての会話 話法の助動詞 wollen, können, möchten 話法の助動詞の説明・練習

⑩	話法の助動詞の説明・練習	話法の助動詞 dürfen, sollen, müssen
⑪	話法の助動詞の過去形	話法の助動詞の復習 話法の助動詞の過去形の練習
⑫	纏め・復習	一年間のドイツ語の纏めや復習
⑬	総復習および予備日 Wiederholung	一年間のドイツ語の纏めや復習 総復習および予備日
⑭	試験日 Prüfungstag	試験日と纏め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題・復習。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐藤修子 「スツェーネン 1」 「場面で学ぶドイツ語」 ワークブック付き
三修社

ISBN 978-4-384-12245-9

他、別途配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

以下の割合を目安として総合的に評価する

期末試験 40%

小テスト 20%

宿題 20%

平常点 20%

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に順じてプログラムを変更することもあります

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course for beginner (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture)

Learning Objectives:

By the end of the course, students should be able to read simple sentences and to understand basic grammar and colloquial expressions.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy:

Term-end examination: 40%, short tests: 20%, homework 20%, in-class contribution 20%.

LANd100LA

ドイツ語 (1) I

2017 年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語初級の講義です。文法初歩からはじめ、発音・基本会話・初級程度のドイツ文の理解をふくめた入門授業です。学生が、異文化理解のために、ヨーロッパ言語のひとつであるドイツ語り基本的運用をまなび、あわせてその文化的背景や現状をまなびます。学生が、グローバル時代の国際的視野をひろげる一助となることをめざします。

【到達目標】

学生がドイツ語のニュース記事を理解し、平易な日時用会話が運用できる。そのための文法ならびにリーディングスキルを習得します。ヨーロッパの代表的国のひとつドイツの現在の様々な事情をあわせて学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

初級入門テキストを使用し、読み書き話すの基本的能力の修得をめざします。ドイツ語での自己紹介からはじめて、いくつかのテーマで自分の意見を表明できる表現力を養う。英語での自己紹介能力に準ずるレベルで。教材(テキスト)は、2 週で Lektion をひとつずつ進めるペースで行います。警戒レベルが L1 の場合は対面型授業。L2 からは、自宅あるいは手持ちの PC による講義となります。L1 でも、受講が不可能な学生のためには HOPPII に授業内容を解説して掲載します。L2 になったときは、Zoom による講義となります。講義内容は、初級入門テキストを使用し、読み書き話すの基本的能力の修得をめざします。自己紹介からはじめて、いくつかのテーマで自分の意見を表明できる表現になれること。

英語での自己紹介能力に準ずるレベルです。教材(テキスト)は、2 週で Lektion をひとつずつ進めるペースで行います。レベル 2 以上の警戒レベルにおいては、課題などのレスポンスは、HOPPII の機能を活用します。場合によっては、例外的に教員個人のアドレスに送付して返送する手段も利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
初回	教材冒頭にある基本単語・日常単語による	アルファベットの発音。日常によく使われる単語をもちいての発音
入門講義	「発音」単語の読み方。練習。まずは習うより慣れよ!のあいさつなどの入門講義	つもりで。

Lektion1Wie heisst du? ① 人称代名詞と不定詞。定動詞の現在人称変化

Lektion1Wie heisst du? ② 定動詞の位置・語順・sein の現在人称変化。

Lektion2Was ist das?① 名詞の性と格について。
Lektion2Was ist das?② 冠詞の変化。haben の現在人称変化。

Lektion3Das Buch gehoert mir. ① 名詞の複数形・男性弱変化名詞と例外的名詞について。

Lektion3Das Buch gehoert mir. ② 人称代名詞

Lektion4不規則動詞①	不規則動詞の現在人称変化①
Faehrst du nach ～？ 君は～へ行きますか？	
Lektion4不規則動詞②	不規則動詞の現在人称変化②
例文で覚えましょう！	
Lektion5Meine Familie 私の家族	不定冠詞類 (所有冠詞・否定冠詞)
Lektion5Meine Familie 私の家族	定冠詞類
前期の復習	前期、これまでの復習と応用。テキストの Lektion8 までの予定。
前期の復習	前期、これまでの復習と応用。模擬試験練習も予定します。
前期試験	規定により実施します。詳細は開講以後にお知らせします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

Preparation and review are 60 minutes.

【テキスト（教科書）】

「つながるドイツ語みっとリーベ」中村・中川・大沢著 (朝日出版社)

【参考書】

中級独和辞書必須。授業時に細かく指示しますが、がっつり系として高橋亮介著『NHK 出版 音声 DL BOOK これからはじめるドイツ語入門』が、発音もふくめて初学者が手に取るには推薦いたします。教室授業がはじまれば、それほど参考書は必要としませんが、リモート授業がつづくようであれば、以上の参考書を推薦します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 (授業への参加率 10 パーセント②課題の提出)20 パーセント③定期試験 70 パーセントを目安にする。具体的には授業の参加度、ドイツ語の初級文法を理解し、簡単なドイツ作文、ドイツ語文章の読解力、正しく発音ができる等の能力の判定となります。これらは、個別ではなく総合的能力として判定いたします。まとめると平常点 30 % 定期試験 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

場合によっては遠隔講義もありえますので、孤立感がでないように、コミュニケーションや質問ができる環境をもうけます。はじめての語学なので、学生さんの苦労は想像できますので、困ったら相談してください。個々にではなく全体に、解決法をアナウンスするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom の接続が可能な機材・デバイスの準備。独和辞書 (電子辞書でも可)

【その他の重要事項】

質問・相談・欠席届けなどは、先生の haruki@tt.rim.or.jp へ送ってもかまいませんが、個別に対応するのではなく、教場または Web 上で、一般的な解答をあげていきます。多少のことであわてることはありません。学生諸君の精神的・肉体的健康を第一に配慮します。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

Learn German grammar and German reading. which includes pronunciation, basic conversation, and understanding of German sentences at the beginner level. Normal score (participation rate in class 10% (2) Submission of assignments) 20% (3) Regular exam 70% as a guide. Specifically, it is a judgment of the degree of participation in the class, understanding of the beginner's grammar of German, simple German composition, reading comprehension of German sentences, ability to pronounce correctly, etc. These are judged as comprehensive abilities, not individual ones. We aim to complete the basics of German beginner's and to be able to understand German up to the intermediate level. We aim to have the ability to access and understand Germany. In summary, it is evaluated with score of 30% and a regular test of 70%. Distance lectures are also possible, so create an environment where you can communicate and ask questions so that you do not feel isolated. As Preparation and Review 60 minutes in total.

LANd100LA

ドイツ語 (1) II

2017 年度以降入学者

天沼 春樹

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ドイツ語初級の文法および訳読の初歩講義の後期内容です。とくに読解のための知識と練習を重視します。言葉ゆ文化情報をおとして、異文化理解の基礎をつくります。

【到達目標】

学生がドイツ語初級の文法および訳読の基礎を完成し、中級程度へ進めるまでのドイツ語を理解できる能力をめざします。履修後において、それぞれ関心のある分野の情報にアクセスしある程度までは理解できる能力をめざします。基本文法をマスターしたあとは、各自の意欲によりますが、ドイツ語の「窓」をあけたことにより、ヨーロッパおよびドイツからの情報にアクセスできる土台を構築したいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

レベル 1 の場合は教場での講義とします。レベル 2 以後の場合はすべてオンライン授業となります。その際、Zoom による講義となります。基本的には解説・リピー練習が中心となります。Web 講義の場合は、学生氏君のレスポンスをもとめ、課題などで理解度を確かめていくようにします。そのフィードバックは、Hoppii の機能を利用して行います。いずれも Zoom が使えるの機材の準備が必要です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Lktion1 から 5 までの復習	夏休みをはさんでの後期最初は、前期の内容の確認をしていきます。
Lektion6	Wie komme ich zur Post?	前置詞の格支配。その運用を例文でまなぶ。
Lektion6	同上	前置詞をもちいた表現。日常会話での例など。
Lektion7	分離動詞・非分離動詞	時刻表現。不定詞 + gehenu などの慣用文。
Lektion7	分離動詞・非分離動詞を使った表現の訳読	辞書を引きまくって考えることも大事です。
Lektion8	話法の助動詞①	いわゆる英語の助動詞のことで
Lektion8	話法の助動詞②	話法の助動詞を使った例文の和訳練習。数をこなすことがマスターの決め手です。
Lektion9	再帰動詞と再帰代名詞 zu 不定詞	sich~self のことですが、動作が自らにもどってくるような動詞。なにいつてるかわかりませんが、たいしたことはありません。
Lektion9	再帰動詞の例文演習。	たくさん文章にふれて、なじむことです。
Lektion10	動詞の三基本形。	動詞の現在形・過去形・過去分詞のことです。
Lektion10	現在完了形	文字どおり完了形ですが、英語と違って会話文で多用されます。

Step up1	受動態のつくりかた。	概念は英語とおなじです。werden + 過去分詞 (文末) の構文。
Step up2	関係代名詞	関係代名詞はややこしいですが、習うより慣れろです。反復学習をしましょう。
後期試験・課題	文法問題 + 訳読	辞書使用可

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『つながるドイツ語みつとりーべ』朝日出版社

【参考書】

参考書といえば、高橋亮介著の NHK 出版 音声 DL BOOK 『これからはじめる ドイツ語入門』を、発音もふくめて初学者が手に取るには推薦いたします。教室授業がはじまれば、それほど参考書は必要としませんが、リモート授業がつづくようであれば、必要になるでしょう。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 (場合によってはレポート提出) では、ドイツ語和訳文 + 簡単な独作文 + 文法問題が基本となります。評価は平常時なら「教室試験 70 パーセント・レポート提出や授業参加率あわせて 30 パーセント」で評価します。レポートのみ提出の場合は、教材参照頻度も評価に入れます。

【学生の意見等からの気づき】

英語とくらべ、動詞の変化、冠詞の変化があつて、はじめはとつづくにくい語学であることはたしかですが、英語以外のヨーロッパ諸言語はフランス語でも他の言語でも、このはじめはややこしい変化はつきもののなのです。しかし、習うより慣れよ! の気持ちで、しばらくすると慣れてくるのがわかります。相変わらずなれなくて、めんどうと思えるのは、まだまだとりくむ時間や集中力が不足しているのではないのでしょうか。これは、遠隔授業だけでなく、平常の教室授業でも感じられます。まあ、できるだけわかりやすく説明していくつもりですが、覚えねばならんことは、ちゃんと覚えてください。

【学生が準備すべき機器他】

Zoom などか使用できる機材の準備をお願いします。自宅でもモバイルでもさしつかえありません。ただし、独和辞書は紙でも電子辞書でも必要です。

【その他の重要事項】

通学 (平常授業) にしろ遠隔授業にしろ、孤立感を深めないでください。かくいう先生だって、前年度の遠隔講義にはまいりました。なれないことであるし、ほかの人との連絡もわずかの孤独作業でしたからね。ドイツ語の文法や訳読だけでなく、ドイツでの経験や、わたしの得意分野のグリム童話やドイツ飛行船 Zeppelin の話なんかもしたいです。これまでは、講義のあいまいに、いろいろドイツでの映像を学生さんにお見せしていたんですが、もしまた遠隔になってしまったら、URL とかはりつけてみます。教室であれば DVD ソースを持参します。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

This is the first section half of the elementary lecture on German and Translation. Emphasis is placed on knowledge and practice for reading comprehension. The basics of grammar and translation for beginners. Aim for the ability to understand German up to the intermediate level. We aim to have the ability to access and understand the information in each area of interest to some extent. After mastering the basic grammar, depending on your will, I would like to open a German "window" to lay the foundation for access to information from Germany. In the examination (in a report), translation + grammar questions are the basic. The evaluation is evaluated at "70% classroom examinations, 30% including submission of reports and class participation rate" in normal times. If you submit only reports, the frequency of reference to the materials will also be included in the evaluation. Students will complete the basics of German. Beginner's grammar and this aim to be able to understand German up to the intermediate level. After mastering the basic grammar, depending on your will, I would like to open a German "window" to lay the foundation for access to information from Europe and Germany. As Preparation and Review 60 minutes in total.

LANd100LA

ドイツ語 (2) I

2017 年度以降入学者

平松 英人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級文法教科書を使って、ドイツ語の読み、書き、聞く、話す力をバランスよく習得する。「読む力」の習得に力点を置きながら、使用頻度の高い文法事項を重点的に学習することで、メリハリのある基礎力を身につける。また同じゲルマン諸語である英語との比較を通じて、異文化理解の視点を身につけることも目的とする。

【到達目標】

1 年間の授業を通じて関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力と、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 12 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 0	イントロダクション ドイツ語の発音
2	Lektion 1	自己紹介 動詞の現在人称変化 I-I 「出身はどこですか？」
3	Lektion 1	動詞の現在人称変化 I-II 二重母音
4	Lektion 2	ドイツ語圏の国々 動詞の現在人称変化 II-I 並列の接続詞
5	Lektion 2	ドイツ語の現在人称変化 II-II 母音の長短
6	Lektion 3	広告 定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化 I-I
7	Lektion 3	定冠詞・不定冠詞・否定冠詞の変化 I-II 子音
8	Lektion 1-3	これまでのまとめと確認テスト
9	Lektion 4	ドイツ語圏の食べ物・飲み物 名詞の複数形・人称代名詞 I-I
10	Lektion 4	名詞の複数形・人称代名詞 I-II 変母音
11	Lektion 5	家族と職業 不定冠詞類・定冠詞類 I-I
12	Lektion 5	不定冠詞類・定冠詞類 I-II R と L の発音
13	Lektion 6	余暇活動 動詞の現在人称変化 III 命令形
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子著『ゲナウ！レーゼンノイ』第三書房、2022 年、2,705 円（税込み）、ISBN9784808610593

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間の確認テストと期末テストの得点を 60 %、平常点を 40 % の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答あるいは提出すること。提出された課題は次の授業の冒頭で解説し、間違いやすいポイントや発展的な内容について説明を加える。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

ブレイクアウトセッションを用いたグループワークなど、対面授業よりも高い学習効果が期待できる場合には、授業の進捗と学生の理解度を考慮しながら、適宜（3～4 回程度）オンライン授業を実施する。オンライン授業には Zoom を利用するので、接続可能なデバイス（パソコンを推奨）を用意すること。

【Outline (in English)】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English. Learning Objectives: At the end of this course students gain basic communication skills to reach A2 level.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to spend 1 hour to review the last lesson as well as prepare for the next lesson.

Grading Criteria: Overall grade in this course will be decided based on the following:

Homework and performance in class: 40%

Midterm and final exams: 60%

LANd100LA

ドイツ語 (2) II

2017 年度以降入学者

平松 英人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では初級文法教科書を使って、ドイツ語の読み、書き、聞く、話す力をバランスよく習得する。「読む力」の習得に力点を置きながら、使用頻度の高い文法事項を重点的に学習することで、メリハリのある基礎力を身につける。また同じゲルマン諸語である英語との比較を通じて、異文化理解の視点を身につけることも目的とする。

【到達目標】

1 年間の授業を通じて関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力と、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 12 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 7	日記・メール 話法の助動詞・未来形 I-I
2	Lektion 7	話法の助動詞・未来形 I-II ch の発音
3	Lektion 8	祝祭 前置詞・再帰動詞 I-I
4	Lektion 8	前置詞・再帰動詞 I-II 特殊な子音の発音
5	Lektion 9	インタビュー 分離同士・非分離同士
6	Lektion 9	zu 不定詞・従属の接続詞 アクセント
7	Lektion 7-9	これまでのまとめと確認テスト
8	Lektion 10	動詞の 3 基本形 I-I 過去形
9	Lektion 10	動詞の 3 基本形 I-II 完了形
10	Lektion 11	動詞の 3 基本形 I-III 受動態
11	Lektion 11	動詞の 3 基本形 IV イントネーション・アクセント
12	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞 I-I
13	Lektion 12	形容詞の変化・比較・関係代名詞 I-II
14	期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新倉真矢子、亀ヶ谷昌秀、正木晶子、中野有希子著『ゲナウ！レーゼン
ノイ』第三書房、2022 年、2,705 円（税込み）、ISBN9784808610593

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間の確認テストと期末テストの得点を 60 %、平常点を 40 % の合計点で評価する。平常点は、会話文や読章の和訳、練習問題に的確に解答あるいは提出すること。提出された課題は次の授業の冒頭で解説し、間違いやすいポイントや発展的な内容について説明を加える。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

ブレイクアウトセッションを用いたグループワークなど、対面授業よりも高い学習効果が期待できる場合には、授業の進捗と学生の理解度を考慮しながら、適宜（3～4 回程度）オンライン授業を実施する。オンライン授業には Zoom を利用するので、接続可能なデバイス（パソコンを推奨）を用意すること。

【Outline (in English)】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English. Learning Objectives: At the end of this course students gain basic communication skills to reach A2 level.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to spend 1 hour to review the last lesson as well as prepare for the next lesson.

Grading Criteria: Overall grade in this course will be decided based on the following:

Homework and performance in class: 40%

Midterm and final exams: 60%

LANd100LA

ドイツ語 1

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。SA ドイツ語圏での留学準備として、この「ドイツ語 1」と「ドイツ語 3」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテキストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を常に振り返ることのできる（反省能力のある）学習者になることです。1 年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音とあいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則
2	Lektion1A：発音の規則、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？あいさつの表現
3	Lektion1A：発音の規則、動詞の現在人称変化（1）、定動詞と不定動詞（1）	自己紹介（1）、苗字と名前、不定詞と動詞の現在人称変化、数詞
4	Lektion1B：発音の規則、動詞の現在人称変化（2）、定動詞と不定動詞（2）、定動詞の位置と語順（1）	自己紹介（2）、自分の職業を言う
5	Lektion2A：名詞の性と格（1）	相手をお茶に誘う、自分の予定を説明する
6	Lektion2B：名詞の性と格（2）、「否定冠詞と所有冠詞」（1）	自分の家族について話す（1）

- | | | |
|----|--|--|
| 7 | Lektion2B ：否定冠詞と所有冠詞（2）、ja/nein/doch の使い方 | 自分の家族について話す（2） |
| 8 | Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（1） | 自分が今やっていることを説明する、人を招待する（1） |
| 9 | Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（2）、3格目的語の使い方 | 自分が今やっていることを説明する、人を招待する（2） |
| 10 | Lektion3B ：定冠詞類、人称代名詞の3・4格（1） | 旅行の計画をたてる（1） |
| 11 | Lektion3B ：人称代名詞の3・4格（2）、目的語の語順 | 旅行の計画をたてる（2） |
| 12 | Lektion4A ：前置詞（1） | 友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係を人に説明する（1） |
| 13 | Lektion4A ：前置詞（2） | 友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係や時間の経過を人に説明する（2） |
| 14 | まとめ | 学期末最終試験・まとめと解説 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごと新たな文法項目がでけますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。ドイツ語の文・文章はどれも必ず音読しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】

・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・「ドイツ語 2（SA）」とは内容がリンクしています。教科書も同一（『シュトラーセ・ノイ Ver.3』）のものを使用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute beginners, exclusively for participants of the SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(40%) and term-end examination (30%)

LANd100LA	
ドイツ語3	2017 年度以降入学者
熊田 泰章	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：火 1/Tue.1	
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語1」に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。SA ドイツ語圏での留学準備に重点を置き、ドイツ語圏の多様性にも触れながら、ドイツ語圏の滞在に必要な基礎的ドイツ語運用能力の習得を目指します。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。「ドイツ語1」の学習項目を積み上げながら、自分の触れているドイツ語が、どのようなシーンで活用されるのかを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ぜひ1年次のうちに、自身の学びかたそのものを意識するクセをつけましょう。第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）とその発音練習・会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、小テスト	春学期の復習、既習事項の小テスト
2	Lektion4A：前置詞（3）	友人と旅行をする、地図を観る、「移動先を示す」と「位置・場所を示す」ことの違いを理解する
3	Lektion4B：枠構造	ドイツ語の基本的な発想を理解すると話法の助動詞、話法の助動詞の種類について
4	Lektion4B：複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、「前つづり」の意味	ドイツ語の基本的な発想を理解する（2）、分離動詞の基本的な構文
5	Lektion5A：動詞の3基本形、現在完了形（1）	夏休みには何をしたの？（1）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（3）
6	Lektion5A/B：現在完了形（2）、過去時制と過去人称変化	夏休みには何をしたの？（2）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（4）

7	Lektion5B：過去時制と現在完了形の使い分け、ふたつの接続詞、従属接続詞と副文	過去の出来事を説明する、定動詞の位置と主文・副文の関係
8	Lektion6A：受動態（1）	誕生日という大切な日について（1）、なんで受動態にしなきゃいけないの？ドイツ語の基本的な発想を理解する
9	Lektion6A：受動態（2）	誕生日という大切な日について（2）、状態受動の意味
10	Lektion6B：zu 不定詞と zu 不定詞句	天候の表現、品詞を理解して文を作る
11	Lektion7A：形容詞の使い方、形容詞の付加語的用法	ショッピングに出かけよう（1）、色と好みの話、形容詞の使い方全般を文法でしっかり理解する
12	Lektion7A：形容詞の比較級・最上級	ショッピングに出かけよう（2）、形容詞と名詞の組み合わせ、比較・最上級の持つ意味と冠詞の持つ意味を統合させる
13	Lektion7B：再帰代名詞と再帰動詞	病気になったら？、他動詞の使い方と代名詞の意味をしっかりと理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごと新たな文法項目がでけますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかりと見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）
羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

【参考書】

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 35 %（外部試験の受験結果含）、小テスト（単語テスト）や提出物 30 %、学期末試験 35 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】

・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
・「ドイツ語4（SA）」とは内容がリンクしています。教科書も同一（『シュトラッセ・ノイ Ver.3』）のものを使用します。
・履修者には、2022 年 12 月実施予定の「ドイツ語技能検定試験」（公益財団法人ドイツ語学文学振興会主催）、2021 年度中に実施されるドイツ政府公認ドイツ語能力検定試験（Goethe Zertifikat）ないしオーストリア政府公認ドイツ語能力検定試験（ÖSD）の試験からどれか1つ以上を受験してもらいます（Goethe Zertifikat については割引料金適応）。受験級はそれぞれの学習段階にふさわしいものを選んでください。受験結果は上記「成績評価の方法と基準」のうち「授業への積極的な参加（35 %）」に加算されます（2023 年 1 月 25 日までに担当者に通知されたものに限る）。以上の受験費用は自己負担ですが、難しい場合はぜひ担当者に相談してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute beginners, exclusively for participants of the SA-Program in Germany (Leuphana Universität-Lüneburg) held by the Faculty of Intercultural Communication/Hosei University. This course introduces elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of German language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(35%), short tests(30%) and term-end examination (35%)

LANd100LA

ドイツ語 2

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するための授業です。SA ドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語 (外国語) の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

ペアワーク、グループワークを中心として会話練習や読解練習を行う。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/発音とあいさつの表現	授業の進め方について/ドイツ語のアルファベットの発音
2	Lektion 1A	発音の規則について/あいさつと自己紹介 (1) / 数詞
3	Lektion 1B	あいさつと自己紹介 (2) / 自分の職業を言う
4	Lektion 2A (1)	カフェやレストランで注文をする
5	Lektion 2A (2)	買い物をする
6	Lektion 2B (1)	自分の家族について話す (1)
7	Lektion 2B (2)	自分の家族について話す (2)
8	Lektion 3A (1)	自分のやっていることを説明する (1) / 人を招待する (1)
9	Lektion 3A (2)	自分のやっていることを説明する (2) / 人を招待する (2)
10	Lektion 3B (1)	旅行の計画をたてる (1) / 時刻を言う (1)
11	Lektion 3B (2)	旅行の計画をたてる (2) / 時刻を言う (2)
12	Lektion 4A (1)	友人と旅行をする (1) / 地図を観る (2) / 空間の位置関係を説明する
13	Lektion 4A (2)	友人と旅行をする (2) / 地図を観る (2) / 時間の経過を説明する
14	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな項目がでてきますので、学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直してください。またドイツ語の文・テキストは必ず音読してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3.0』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

授業への積極的な参加・予習の具合：40 %

以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典。とくに紙の辞典を勧めます。

・オンライン授業やハイフレックス授業に転換した際には、Zoom を使用します。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This preparatory course for studying abroad aims to acquire preliminary German skills. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to have preliminary German skills. At the end of course, students should be able to understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語 4

2017 年度以降入学者

遠藤 浩介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語 2」に引き続き、SA ドイツ語圏での留学準備として、コミュニケーション能力を中心とした、基本的なドイツ語運用能力の習得を目指します。またドイツ語学習を通して、「自分なりの外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

1. 日常的な状況で用いる平易なドイツ語を習得し、相手の言っていることを理解するだけでなく、こちらからアウトプットできるようにする。
2. ドイツ語学習を踏まえて、自分なりの外国語の学び方を身につける。
3. ドイツ語（外国語）の学習を通じて、自分の思考や感情を言語化する能力、とりわけ他者との言語コミュニケーションの能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ペアワーク、グループワークを中心として会話練習や読解練習を行う。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の復習
2	Lektion 4B (1)	旅先の楽しみ（1）／時を表す表現（1）
3	Lektion 4B (2)	旅先の楽しみ（2）／時を表す表現（2）
4	Lektion 5A (1)	夏休みにはなにをしたの？（1）／数詞（1）
5	Lektion 5A (2)/5B (1)	夏休みにはなにをしたの？（2）／数詞（2）
6	Lektion 5B (2)	過去の出来事を説明する
7	Lektion 6A (1)	誕生日のお祝い（1）／序数と日付
8	Lektion 6A (2)	誕生日のお祝い（2）
9	Lektion 6B	天気表現
10	Lektion 7A (1)	ショッピングに出かける（1）／形容詞を使ってみる
11	Lektion 7A (2)	ショッピングに出かける（2）／ものを比較してみる
12	Lektion 7B (1)	病気になったら？
13	Lektion 7B (2)	再帰動詞を使ってみる
14	まとめ	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業ごと新たな項目がでてきますので、学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直してください。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver. 3.0』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】

授業時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

授業への積極的な参加・予習の具合：40 %

以上を踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典。とくに紙の辞書を勧めます。

・オンライン授業やハイフレックス授業に転換した際には、Zoom を使用します。

【その他の重要事項】

学生の理解度に応じて授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This preparatory course for studying abroad aims to acquire preliminary German skills. One of the aims of this course is to learn a foreign language autonomously.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to have preliminary German skills. At the end of course, students should be able to understand and use familiar everyday expressions and very basic phrases.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than an hour for a class.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (60%), and in-class contribution (40%).

LANd100LA

ドイツ語 5

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills as well as communicative competence. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。

コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。

授業内の言語活動や課題に関しては、可能な限りその場でフードバックを口頭で行う。必要に応じて、HOPPII を通じて課題のポイントや問題点の指摘を行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面/face to face	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
対面/face to face	Begruessen und vorstellen 1 - du, Sie	einfache Phrasen
対面/face to face	Begruessen und vorstellen 2	einfache Phrasen, Verbkonjugation im Singular
対面/face to face	Laender, Sprachen	Idiomatik in Fragen und Antworten
対面/face to face	Berufe	Ja-/Nein-Fragen, W-Fragen
対面/face to face	Zahlen von 0 bis 100	einfache Zahlenanwendungen
対面/face to face	Deutsche Woerter?	Feminin - Maskulin - Neutrum
対面/face to face	Zahlen bis 1000	Telefonnummern, Hausnummern

対面/face to face	Informationen zur Person	Alphabet, Buchstabieren
対面/face to face	Auf der Meldestelle	Formulare auf Behoerden
対面/face to face	Einladung zum Kaffeetrinken	Verbkonjugation im Plural
対面/face to face	Was ist wo in unserem Buch?	bestimmter/unbestimmter/negativer Artikel
対面/face to face	Essen und Trinken	Nominativ und Akkusativ
対面/face to face	Zusammenfassung und Wiederholung	Syntax, Phrasen, Artikel, grammtisches Geschlecht, Kasus

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You need to prepare for and revise every lesson. There will be assignments in the "Arbeitsbuch" and on the Learning Management System (HOPPII) every week. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total.

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell, Lektion 1-4

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test after every unit, which accounts for 60%. Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%. Make sure to always arrive on time.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework based on the Arbeitsbuch. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total. Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd100LA

ドイツ語 6

2017 年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills as well as communicative competence. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座では、学生一人ひとりがドイツ語で基礎的なコミュニケーションができるようになることを目指す。Basic な言語運用能力の一層の定着を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。授業内の言語活動や課題に関しては、可能な限りその場でフードバックを口頭で行う。必要に応じて、HOPPII を通じて課題のポイントや問題点の指摘を行いたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Uebersicht ueber Kursinhalte und Durchfuehrung
2	Laender in Zahlen	Zahlen ueber 1000
3	Im Moebelhaus	Dinge bewerten: Adjektive, Adverbien
4	Haushaltsgeraete	Artikel im Nominativ und Akkusativ
5	Gespraechе im Kaufhaus	Definitpronomen
6	Gebrauchte Sachen	Zeit- und Mengenangaben
7	Beim neunten Nein kommen die Traenen	Text ueber Einkaufen mit Kindern & Diskussion
8	Einkaufen im Supermarkt	idiomatische Phrasen
9	Gespraechе mit Gaesten	idiomatische Phrasen
10	Tipps und Ratschlaege	Imperativ
11	Berufe: Vor-und Nachteile	Modalverben
12	Hobbys	Praepositionen mit Dativ und Akkusativ
13	Verabredungen	Idiomatik in typischen Situationen

14 Wiederholung und Syntax, Phrasen, Wortschatz Zusammenfassung

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You need to prepare for and revise every lesson. There will be assignments in the "Arbeitsbuch" and on the Learning Management System (HOPPII) every week. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total.

【テキスト（教科書）】

Tangram aktuell 1, Lektion 5-8

【参考書】

自分にあった辞書、電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test after each unit, which accounts for 60%. Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%. Make sure to always arrive on time.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will acquire basic knowledge and understanding of German vocabulary, phrases, sentence structures, grammar and pronunciation as well as communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework based on the Arbeitsbuch. The standard time for preparation and review of this class is 1 hour in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd100LA

ドイツ語 1

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初学者を対象に、ドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングです。この「ドイツ語 1」と「ドイツ語 3」（秋学期開講）とあわせて、初級文法の基礎固めをします。基本的なドイツ語運用能力の習得を目指すとともに、ドイツ語のテキストの読解にも徐々に慣れていきましょう。ドイツ語学習を通して「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読むとともに、自らもドイツ語で少しずつアウトプット（作文）ができるようになることです。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を常にふり返ることのできる（反省能力のある）学習者になることです。1 年次のうちに「自分の学び方」を意識するクセをつけましょう。そして第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）や会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、発音とあいさつの表現	授業の進め方と辞書についての説明、アルファベットと発音の規則
2	Lektion1A : 発音の規則、ドイツ語圏ってどこにあるの？	つづり字と発音の規則、ドイツ語ってどこで話されている言葉？あいさつの表現
3	Lektion1A : 発音の規則、動詞の現在人称変化（1）、定動詞と不定動詞（1）	自己紹介（1）、苗字と名前、不定詞と動詞の現在人称変化、数詞変化（1）、定動詞と不定動詞（1）
4	Lektion1B : 発音の規則、動詞の現在人称変化（2）、定動詞と不定動詞（2）、定動詞の位置と語順（1）	自己紹介（2）、自分の職業を言う
5	Lektion2A : 名詞の性と格（1）	相手をお茶に誘う、自分の予定を説明する（1）
6	Lektion2B : 名詞の性と格（2）、「否定冠詞と所有冠詞」（1）	自分の家族について話す（1）

- | | | |
|----|--|--|
| 7 | Lektion2B ：否定冠詞と所有冠詞（2）、ja/nein/doch の使い方 | 自分の家族について話す（2） |
| 8 | Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（1） | 自分が今やっていることを説明する、人を招待する（1） |
| 9 | Lektion3A ：語幹が変音する動詞の現在人称変化（2）、3 格目的語の使い方 | 自分が今やっていることを説明する、人を招待する（2） |
| 10 | Lektion3B ：定冠詞類（1）、人称代名詞の 3・4 格（1） | 旅行の計画をたてる（1） |
| 11 | Lektion3B ：人称代名詞の 3・4 格（2）、目的語の語順 | 旅行の計画をたてる（2） |
| 12 | Lektion4A ：前置詞（1） | 友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係を人に説明する（1） |
| 13 | Lektion4A ：前置詞（2） | 友人と旅行をする、地図を観る、空間の位置関係や時間の経過を人に説明する（2） |
| 14 | まとめ | 学期末最終試験・まとめと解説 |

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(40%) and term-end examination (30%)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごと新たな文法項目がでてきますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかり見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。ドイツ語の文・文章はどれも必ず音読しましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラーセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】

羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）

中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）

清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 %。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞典は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】

授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute beginners. This course introduces elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

LANd100LA

ドイツ語3

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語1」に引き続き、初級文法の理解・習得を中心にドイツ語の基本的な運用能力を獲得するためのトレーニングを行います。ドイツ語学習を通じて「大人の外国語の学び方」もしっかり身につけていきます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩を理解した上で平易なドイツ語を読み、また自らドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。「ドイツ語1」の学習項目を積み上げながら、自分の触れているドイツ語が、どのようなシーンで活用されるのかを実感してもらいたいと思います。第二の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。ぜひ1年次のうちに、自身の学びかたそのものを意識するクセをつけましょう。第三の目標は、ドイツ語（外国語）の学習が、自分の思考や感情を言語化する能力、さらには他者への対応能力といった総合的なコミュニケーション能力につながっている現実を理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が教科書に沿って文法解説を行ったあと、新出単語や例文を繰り返し発音練習します。その後はテキストの読解（グループワーク）とその発音練習・会話練習（ペアワーク）などの作業を通じて、テキストの内容や文法を確認していきます。グループワークとマルチメディア教材・資料も多用しながら、活気ある授業と受講生のより良い理解にも配慮します。

授業内で行われたアウトプットに対しては授業の場でコメントします。提出物のフィードバックは適宜全体と各自に向けて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、小テスト	春学期の復習、既習事項の小テスト
2	Lektion4A：前置詞（3）	友人と旅行をする、地図を観る、「移動先を示す」と「位置・場所を示す」ことの違いを理解する
3	Lektion4B：枠構造と話法の助動詞、話法の助動詞の種類について	ドイツ語の基本的な発想を理解する（1）、話法の助動詞を使う、そのココロを理解する
4	Lektion4B：複合動詞（分離動詞・非分離動詞）、「前つづり」の意味	ドイツ語の基本的な発想を理解する（2）、分離動詞の基本的な構文
5	Lektion5A：動詞の3基本形、現在完了形（1）	夏休みには何をしたの？（1）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（3）
6	Lektion5A/B：現在完了形（2）、過去時制と過去人称変化	夏休みには何をしたの？（2）、ドイツ語の基本的な発想を理解する（4）

7	Lektion5B：過去時制と現在完了形の使い分け、ふたつの接続詞、従属接続詞と副文	過去の出来事を説明する、定動詞の位置と主文・副文の関係
8	Lektion6A：受動態（1）	誕生日という大切な日について（1）、なんで受動態にしなきゃいけないの？ドイツ語の基本的な発想を理解する（5）
9	Lektion6A：受動態（2）	誕生日という大切な日について（2）、状態受動の意味
10	Lektion6B：zu 不定詞と zu 不定詞句	天候の表現、品詞を理解して文を作る（1）
11	Lektion7A：形容詞の使い方、形容詞の付加語的用法	ショッピングに出かけよう（1）、色と好みの話、形容詞の使い方全般を文法でしっかり理解する
12	Lektion7A：形容詞の比較級・最上級	ショッピングに出かけよう（2）、形容詞と名詞の組み合わせ、比較・最上級の持つ意味と冠詞の持つ意味を統合させる
13	Lektion7B：再帰代名詞と再帰動詞	病気になったら？、他動詞の使い方と代名詞の意味をしっかりと理解する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ごと新たな文法項目ができますので、復習は非常に重要です。学んだ箇所を次回授業までにしっかりと見直しましょう。こちらからも文法問題を中心とした宿題を出します。またドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

立教大学ドイツ語教育研究室編『シュトラッセ・ノイ Ver.3』（朝日出版社、2017 年）

【参考書】

羽鳥重雄・平塚久裕編『[改訂新版] 例文活用 ドイツ重要単語 4000』（白水社、2003 年）
中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
清野智昭『ドイツ語のしくみ＜新版＞』（白水社、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加 30 %、小テスト（単語テスト）40 %、学期末試験 30 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参加学生からのヒアリングは逐次行ない、参加者の意見や疑問に対する回答はできるだけ速やかに行ないます。学生と教員相互の意志の疎通が重要であると考えています。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書は必携です。紙媒体の辞書（特に自宅での学習で）を強く薦めます。

【その他の重要事項】

授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German course for absolute beginners. This course introduces elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines. The ultimate aim of this course is to get a way of learning foreign languages itself as a learner's perspective.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of german language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(40%) and term-end examination (30%)

LANd100LA

ドイツ語 2

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章が書ける。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナートレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現する練習を重ねます。練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかり復習します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

独和辞典を持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書は不可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション Herzlich Willkommen	自己紹介 アルファベット 人称変化 1
2	Name, Adresse, Beruf	職業 数字 0 - 1 0 0 0 人称変化 2
3	Panorama I	Auf der Berlinale ベルリン国際映画祭
4	Was ist das ?	名詞と冠詞 人称代名詞
5	Shoppern !	haben/möchten 格変化： 4 格 Blog を書く
6	Panorama II	Die Leipziger Fußgängerzone ライプチヒの歩道者天国
7	Tanzen oder wandern ?	不規則変化動詞 分離動詞 曜日 一週間の日記を書く

8	Familie und Freunde	所有冠詞 人称代名詞の 4 格 国、国籍、言語 sein の過去形
9	Panorama III	Die Alpen in Österreich オーストリア・アルプス
10	Kaffee oder lieber Schokolade ?	助動詞 1 無冠詞 値段の言い方
11	Kaffee oder lieber Schokolade ?	Einkaufsdialoge Im Kaffeehaus bestellen 買い物と注文
12	Termine	時刻 一日のスケジュール 助動詞 2 約束する
13	Termine	月と季節 haben の過去形 作文：理想の一日
14	Panorama IV	Auf dem Viktualienmarkt ヴィクトリアエンマルクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache

A1: Kursbuch Gesamtband

ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120482-2

Cornelsen Verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017 年 ￥1700 + 税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ￥1400 + 税

【成績評価の方法と基準】

小テスト 2 回 (20%)、授業への参加態度 (40%)、宿題 (20%)、プレゼンテーション (20%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (40%), homework (20%), 2 tests (20%), presentation (20%).

LANd100LA

ドイツ語 4

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、まったくの初心者がドイツ語の基礎を学ぶための授業です。授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標です。また、授業ではドイツ語圏の事情や習慣を紹介する教科書を使用します。日常生活における様々な場面を想定し、その場面に必要な表現の習得を通して、受講者はドイツ語圏の文化を実感できることでしょう。映像や音声、インターネットなどを用いて、ドイツ圏の文化に触れる機会も多く設けるようにしたいと思っています。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書の使い方を習得し、初歩的なテキストが理解できる。
- 4) 自分でも簡単な文章（が書ける）。
- 5) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取る。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、日常生活の様々な場面を想定し、実践的なパートナートレーニングやグループワークを通じて、自分の日常生活を描写したり、自分の考えや感情を表現したりする練習を重ねます。練習した表現を応用できるようにするために、宿題を通じ、教科書に出てくる単語やフレーズ、文法事項をしっかり復習します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

独和辞典を持参してください（紙辞書か電子辞書かは問いません。ただし無料オンライン辞書不可）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	前期の復習
2	Mit dem Auto oder zu Fuß ?	名詞の 3 格 3 格支配の前置詞 道案内
3	In der Firma	現在完了形 仕事について話す 旅行について書く
4	Panorama V	Verkehr in der Stadt
5	Mein Zuhause	3・4 格支配の前置詞 zu+形容詞 住まいについて話す
6	Gesund und fit	命令形 アドバイスをする 健康について話す
7	Panorama VI	Die Wohnsiedlung Hard in Zürich

8	Andere feiern, ich arbeite.	序数と日付 人称代名詞の 3 格 お祭りや祝祭日について話す 招待状を書く
9	T-Shirt oder Pullover?	非人称の es 3 格目的の動詞 服装と天気について話す。
10	Panorama VII	Von Ostern bis Weihnachten
11	Geradeaus bis zur Ampel	助動詞 3 駅でのアナウンスを理解する、切符を買う
12	Endlich Urlaub !	würde- gern +不定詞 丁寧なお願い 苦情を言う ホテルでの会話
13	Panorama VIII	Am Forggensee
14	プレゼンテーション	グループ発表 ドイツ語圏を旅する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、授業で指示された期限までに宿題を行ってください（提出してもらうこともあります）。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Panorama Deutsch als Fremdsprache

A1: Kursbuch Gesamtband

ISBN/Verlag: ISBN 978-3-06-120482-2

Cornelsen Verlag

【参考書】

『知ってほしい国 ドイツ』新野守広・飯田道子・梅田紅子編著 高文研 2017 年 ¥1700 + 税

『ドイツ語のしくみ』清野智昭著 白水社 2005 年 ¥1400 + 税

【成績評価の方法と基準】

小テスト 2 回 (20%)、授業への参加態度 (40%)、宿題 (20%)、プレゼンテーション (20%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Zoom で接続可能なデバイス（オンラインやハイフレックス型授業に転換になった場合）

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In the first-year course, the students will practice German in all four areas of language skills: listening, speaking, reading and writing. They will be expected to practice these skills in groups or with a partner. By using a textbook with audio-visual materials, containing topics of every-day life, the students will also have the chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (40%), homework (20%), 2 tests (20%), presentation (20%).

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の構造について詳細な解説をし、基本的な例文を暗記します。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ドイツ語の概要 1	綴りの読み方と発音 1 アルファベット等について
②	ドイツ語の概要 2	綴りの読み方と発音 2 発音記号について
③	Lektion1	規則変化動詞 動詞の位置（語順）
④	Lektion2	sein と haben 名詞の性と数
⑤	Lektion3	名詞の格 冠詞と名詞の格変化
⑥	Lektion4	不規則動詞変化 命令形
⑦	Lektion5	定冠詞類 不定冠詞類 指示代名詞 疑問代名詞
⑧	Lektion6	人称代名詞の格変化
⑨	Lektion6	前置詞の各支配
⑩	Lektion7	話法の助動詞 未来形
⑪	Lektion7	従属の接続詞と定動詞の位置
⑫	Lektion8	分離動詞
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説 Lektion8	期末試験についての講評 再帰動詞 es の用法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】

『わかるぞドイツ語! みえるぞドイツ! WEB 改訂版』

春日正男・松澤淳・Wolfgang Schlecht 著

朝日出版社 2022 年発行 定価 2750 円 (本体 2500 円 + 税 10%)

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（授業内演習等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in-class contribution: 40%.

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

畠山 勝彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、ドイツ語の文法構造についての基本的知識を獲得することを目的とします。ドイツ語と日本語の音声上、音韻上の違いについても詳細な説明をします。受講者はドイツ語と日本語の音声・音韻構造の違いを明確に理解できるようになります。

【到達目標】

辞書を用い自力でドイツ語の構文解析ができるようにします。ドイツ語の統語構造についての正確な理解を身につけ、自力でテキストの解析を行えるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ドイツ語の構造について詳細な解説をし、基本的な例文を暗記します。辞書は毎回必ず持参して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Lektion9	形容詞の格変化 1
②	Lektion9	形容詞の格変化 2
		形容詞の名詞化
③	Lektion10	動詞の 3 基本形
④	Lektion10	過去人称変化
⑤	Lektion11	完了形 1
⑥	Lektion11	完了形 2
⑦	Lektion12	定関係代名詞
⑧	Lektion12	不定関係代名詞
⑨	Lektion13	比較
⑩	Lektion13	現在分詞
		zu 不定詞
⑪	Lektion14	受動
		状態受動
⑫	Lektion15	接続法 1
⑬	期末試験	期末試験
⑭	期末試験解説	期末試験についての講評
	Lektion15	接続法 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ドイツ語のテキストについての予習は必要ありませんが、よく復習し、例文を暗記して次の授業に参加して下さい。

【テキスト（教科書）】

『わかるぞドイツ語! みえるぞドイツ! WEB 改訂版』
春日正男・松澤淳・Wolfgang Schlecht 著
朝日出版社 2022 年発行 定価 2750 円 (本体 2500 円＋税 10%)

【参考書】

『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』
中島悠爾、平尾浩三、朝倉巧著
白水社、定価 1,600 円＋税

【成績評価の方法と基準】

原則として、期末試験（筆記）60%、平常点（授業内演習等）40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音等の演習を積極的に行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して授業を行うことになった場合に備え、課題を確認したり課題を提出するために PC あるいはスマートフォンの準備をお願いします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic knowledge of grammatical structures of German language. A detailed explanation of phonetic and phonological differences between German and Japanese will be given. Participants will have a clear understanding of phonetic and phonological structures of both languages.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in-class contribution: 40%.

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

この授業は木曜日の「ドイツ語 2-I」とリレー授業を行います。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は木曜日の「ドイツ語 2-I」とリレー授業を行います。2 つの授業でおなじ教科書を使用します。

月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。

この授業は、手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

宿題や小テスト（毎回実施）については、授業内および学習支援システムを用いてフィードバックをおこないます。そのほか、中間テストと期末テストを各 1 回おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット・発音・数字
第 2 回	ドイツってどんな国？	あいさつ
第 3 回	自己紹介／ドイツの都市と河川	動詞の規則変化（単数と複数）・sein
第 4 回	趣味・余暇／ドイツの春の祝祭	動詞の不規則変化・名詞の格変化
第 5 回	持ち物・食べ物／ドイツへ移住する人々（前半）	haben・3/4 格と結びつく動詞・否定冠詞
第 6 回	持ち物・食べ物／ドイツへ移住する人々（後半）	haben・3/4 格と結びつく動詞・否定冠詞
第 7 回	中間テスト	第 1～第 6 回の内容を確認します。
第 8 回	家族・住居／ドイツの家族（前半）	2 格の用法・複数形・人称代名詞
第 9 回	家族・住居／ドイツの家族（後半）	2 格の用法・複数形・人称代名詞
第 10 回	自然・心身／ドイツの森（前半）	所有冠詞・定冠詞類・命令形

- 第 11 回 自然・心身／ドイツの 所有冠詞・定冠詞類・命令形
森（後半）
- 第 12 回 街歩き／ドイツの街路 前置詞
（前半）
- 第 13 回 街歩き／ドイツの街路 前置詞
（後半）
- 第 14 回 期末テスト 春学期に学習した内容すべてについて確認します。

Class participation such as submission of assignments (20%),
mid-term test (40%), end-of-term test (40%)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に小テストとして前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

夏休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドライクラング——異文化理解のドイツ語』

著者：菅利恵／大喜祐太／大河内朋子ほか著

出版社：郁文堂

ISBN：978-4-261-01273-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っている则便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ(改訂版)』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、学期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

外国語を学ぶことは、コミュニケーションの手段や技術を習得するだけではなく、それを通じて自分たちとは違う文化や社会について知り、それを理解する能力を身につけることです。

たしかに、大学で学んだからといって将来ドイツ語を使う職業に就くとは限りませんし、授業だけの学習量ではドイツ語が自由自在に操れるようにはなりません。

しかし、この授業に参加する皆さんは、ドイツ語の授業を通じて、今まで知らなかった新鮮で奥の深い世界がそこに広がっていることを知るでしょう。その世界をどのくらい知ろうとするかは皆さん次第です。ドイツ語は、他者理解・異文化理解へとつながる窓口なのです。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。

宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。

状況によりオンライン授業を実施します。自宅で Zoom に接続して授業を受けることができる環境を準備してください。教室で授業をする場合も、発音・会話や聞き取りの練習のために Zoom に接続してもらうことがあります。そのときはノート PC やタブレットを大学に持ってきてください。

【その他の重要事項】

独和辞書は必要になるので授業開始後できるだけ早く用意すること。

【Outline (in English)】

German Course for Beginners (A1 Level)

This class will be a relay class with "German 2-I" on Thursday. This is a year-long course to learn elementary grammar and acquire the basics of the German language. Emphasis is placed not only on grammar, but also on learning vocabulary and various expressions through practice exercises.

Homework will be assigned each time. There will also be a quiz at the beginning of each class to check the content of the previous class. The standard preparation and review time for this class will be one hour in total.

Handouts will be provided for students to practice during the summer vacation.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。

この授業は木曜日の「ドイツ語 2-II」とリレー授業を行います。

【到達目標】

一年間かけて初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。

秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。後半からは、それまでに学んだ知識を活かし、やや高度な文法や応用的な練習問題にも取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は木曜日の「ドイツ語 2-II」とリレー授業を行います。2つの授業でおなじ教科書を使用します。

月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。

週1回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。

この授業は手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。

宿題や小テスト（毎回実施）については、授業内および学習支援システムを用いてフィードバックをおこないます。そのほか、最終回に期末テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・確認テスト	春学期に学習した内容を確認します。
第2回	交通／移住するドイツの人々（前半）	分離・非分離動詞
第3回	交通／移住するドイツの人々（後半）	分離・非分離動詞
第4回	予定・計画／スイスとオーストリア（前半）	話法の助動詞・非人称表現・未来形
第5回	予定・計画／スイスとオーストリア（後半）	話法の助動詞・非人称表現・未来形
第6回	学校／ドイツの学校制度（前半）	再帰代名詞・従属接続詞・zu 不定詞句
第7回	学校／ドイツの学校制度（後半）	再帰代名詞・従属接続詞・zu 不定詞句
第8回	過去のできごと／ドイツ語の歴史（前半）	現在完了形・過去形
第9回	過去のできごと／ドイツ語の歴史（後半）	現在完了形・過去形
第10回	祝祭／ドイツの冬の祝祭（前半）	形容詞・序数・日付の表現・比較級
第11回	祝祭／ドイツの冬の祝祭（後半）	形容詞・序数・日付の表現・比較級

第12回 政治・社会／想起の文化（前半） 関係代名詞・関係副詞・指示代名詞

第13回 政治・社会／想起の文化（後半） 関係代名詞・関係副詞・指示代名詞

第14回 期末テスト 秋学期だけでなく1年間に学んだ内容についてテストします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に小テストとして前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

また、冬休み、春休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドライクラング——異文化理解のドイツ語』

著者：菅利恵／大喜祐太／大河内朋子ほか著

出版社：郁文堂

ISBN：978-4-261-01273-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っているとう便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加（20%）、中間テスト（40%）、期末テスト（40%）

【学生の意見等からの気づき】

外国語を学ぶことは、コミュニケーションの手段や技術を習得するだけではなく、それを通じて自分たちとは違う文化や社会について知り、それを理解する能力を身につけることです。

たしかに、大学で学んだからといって将来ドイツ語を使う職業に就くとは限りませんし、授業だけの学習量ではドイツ語が自由自在に操れるようにはなりません。

しかし、この授業に参加する皆さんは、ドイツ語の授業を通じて、今まで知らなかった新鮮で奥の深い世界がそこに広がっていることを知るでしょう。その世界をどのくらい知ろうとするかは皆さん次第です。ドイツ語は、他者理解・異文化理解へとつながる窓口なのです。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。

状況によりオンライン授業を実施します。自宅でZoomに接続して授業を受けることができる環境を準備してください。教室で授業をする場合も、発音・会話や聞き取りの練習のためにZoomに接続してもらうことがあります。そのときはノートPCやタブレットを大学に持ってきてください。

【その他の重要事項】

独和辞書を必ず用意し、毎回持ってくること。

【Outline (in English)】

German Course for Beginners (A1 Level)

This class will be a relay class with "German 2-II" on Thursday. This is a year-long course to learn elementary grammar and acquire the basics of the German language. Emphasis is placed not only on grammar, but also on learning vocabulary and various expressions through practice exercises.

Homework will be assigned each time. There will also be a quiz at the beginning of each class to check the content of the previous class. The standard preparation and review time for this class will be one hour in total.

Handouts will be provided for students to practice during the summer vacation.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation such as submission of assignments (20%), mid-term test (40%), end-of-term test (40%)

LANd100LA

ドイツ語 1 - I

2017 年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めて学ぶドイツ語という言語について、発音のルール、簡単な表現や基礎的な文法事項を体系的に学習していきます。辞書の使い方や、挨拶や自己紹介などの簡単な表現ができるようになることを目指します。

【到達目標】

ドイツ語を学ぶ上で重要な基本事項として、(1) 動詞の人称変化、(2) 名詞の性・数・格（変化）が挙げられます。授業および自主学習を通じて、主語に応じて動詞を変化させ、動詞に応じて目的語等を適切に格変化させて、ドイツ語の文を作ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の各課は「会話テキスト」、「キーセンテンス」、「説明と練習問題」からできています。まず「会話テキスト」で実際のドイツ語に触れ、「キーセンテンス」でその課で覚える表現を練習します。それから文法事項の説明をして、練習問題に進んでいきます。一方的に話を聞くのではなく、なるべくペアワーク等で実際にアウトプットする機会を多く取ります。また、動詞の変化などの確認小テストを適宜行います（実施については事前に予告します）。本授業は事前の予習を前提に進めていきます。毎回、各課の練習問題にひと通り取り組んだ上で授業に参加してください。課題等の提出・フィードバックは各回の授業内および「学習支援システム」を通じておこなう予定です。

また、辞書は必ず毎回持参してください。授業内で辞書の使い方や練習します。（紙辞書、電子辞書、辞書アプリ等、種類は問いませんが、Google 翻訳や DeepL 翻訳などオンライン上の無料辞書や機械翻訳は授業での使用を避けてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einführung	アルファベット、発音、あいさつ
2	Lektion 1A	動詞の現在人称変化
3	Lektion 1B	sein と haben の現在人称変化
4	Lektion 2A	名詞の性と冠詞、冠詞と名詞の格変化
5	Lektion 2B	所有冠詞
6	Lektion 2B	否定冠詞
7	Lektion 3A	動詞の現在人称変化（不規則）
8	Lektion 3A	命令・依頼の表現
9	Lektion 3B	定冠詞類の格変化、人称代名詞の格変化
10	Lektion 3B	wer と was の格変化
11	Lektion 4A	前置詞
12	Lektion 4A	前置詞
13	Lektion 4B	話法の助動詞、分離動詞
14	試験・まとめと解説	春学期に学んだ内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。教科書の巻末には文法の補足も載っているので、そちらも参照してください。日頃から辞書を引く癖をつけましょう。

【テキスト（教科書）】

新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラッセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社、2019 年。
（2400 円＋税）

【参考書】

中島悠爾ほか：『改訂版 必携ドイツ文法総まとめ』白水社。

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加（質問、自発的な発言等）20%
・単語小テスト 20%
・中間試験 30%
・学期末試験 30%
以上を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（電子辞書も OK）を必ず持参してください。Google 翻訳や DeepL などのオンライン無料辞書では対応できない課題があるので使用しないこと。
・課題等の提出については基本的に学習支援システム Hoppii を用います。
・また、オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoom を用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

・分からないことを分からないまま放置せずに積極的に質問してください。
・「授業計画」は、授業の進捗などにより変更する可能性があります。
・特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。無断欠席が 4 回を超えた場合、評価対象外となります。
・休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】

Course outline:

This is an introductory class of German language for first-year students. Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.

Learning Objectives:

Students will be able to understand the basic usage of verbs and nouns.

Students will be able to use simple expressions in German.

Learning activities outside of classroom:

The total time required for preparation and revision for the class is one hour.

Students should review what they have learnt on the day.

Students should get into the habit of using a dictionary on a regular basis.

Grading Criteria /Policy:

Students are assessed on the basis of their active participation and contribution to the class (20%), the results of a vocabulary test (20%), midterm and final examination (60%).

LANd100LA

ドイツ語 1 - II

2017 年度以降入学者

丸山 達也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、ドイツ語の基本的な事項を学んでいきます。春学期よりも豊かで多様な表現を身につけていきます。

【到達目標】

現在形以外の時制、接続詞や形容詞の使用など、春学期よりも豊かな表現を読解し、また自分でもアウトプットできるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の各課は「会話テキスト」、「キーセンテンス」、「説明と練習問題」からできています。まず「会話テキスト」で実際のドイツ語に触れ、「キーセンテンス」でその課で覚える表現を練習します。それから文法事項の説明をして、練習問題に進んでいきます。一方的に話を聞くのではなく、なるべくペアワーク等で実際にアウトプットする機会を多く取ります。また、動詞の変化などの確認小テストを適宜行います（実施については事前に予告します）。

本授業は事前の予習を前提に進めていきます。毎回、各課の練習問題にひと通り取り組んだ上で授業に参加してください。課題等の提出・フィードバックは各界の授業内および「学習支援システム」を通じておこなう予定です。

また、辞書は必ず毎回持参してください。（紙辞書、電子辞書、辞書アプリ等、種類は問いませんが、Google 翻訳や DeepL 翻訳などオンライン上の無料辞書や機械翻訳は授業での使用を避けてください。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Wiederholung	春学期のおさらい
2	Lektion 5A	動詞の 3 基本形
3	Lektion 5A	現在完了
4	Lektion 5B	過去人称変化 動詞の 3 基本形テスト
5	Lektion 5B	接続詞と副文 動詞の 3 基本形テスト
6	Lektion 6A	受動文、序数・日付
7	Lektion 6B	非人称の es, zu 不定詞句
8	中間テスト Lektion 7A	形容詞の格変化
9	Lektion 7A	形容詞の比較級・最上級
10	Lektion 7B	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 8A	関係文（1）
12	Lektion 8A	関係文（2）
13	Lektion 8B	接続法
14	学期末試験	秋学期で学んだ内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学のとりわけ初級段階では、やった分だけ力が付いていきます。復習は読み書きだけでなく、声に出す練習も重要です。教科書の巻末には文法の補足も載っているの、そちらも参照してください。日頃から辞書を引く癖をつけましょう。

【テキスト（教科書）】

新野守広・浜崎桂子（監修）『シュトラーセ・ノイ Ver. 3.0』朝日出版社、2019 年。
（2400 円＋税）

【参考書】

中島悠爾ほか：『改訂版 必携ドイツ文法総まとめ』白水社。

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な参加（質問、自発的な発言等）20%
・単語小テスト 20%
・中間試験 30%
・学期末試験 30%
以上を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典（電子辞書も OK）を必ず持参してください。Google 翻訳や DeepL などのオンライン無料辞書では対応できない課題があるので使用しないこと。
・課題等の提出については基本的に学習支援システム Hoppii を用います。
・また、オンラインあるいはハイフレックス授業へと授業方法を転換する必要が生じた場合には、zoom を用いて授業をおこないます。

【その他の重要事項】

・分からないことを分からないまま放置せずに積極的に質問してください。
・「授業計画」は、授業の進捗などにより変更する可能性があります。
・特に初級の段階では欠席した分だけついていくのが大変になるので、毎回出席してください。無断欠席が 4 回を超えた場合、評価対象外となります。
・休んだときは授業の前か終了後すぐに理由を連絡すること。正当な理由とみなされた場合にのみ配慮されます。何日も経ってから申告しても配慮対象になりません。

【Outline (in English)】

Course outline:

This is an introductory class of German language for first-year students. Learning basic grammar and developing basic 4 skills (reading, listening, speaking and writing) are the main focus of this class.

Learning Objectives:

Students will be able to express themselves using the past tense and present perfect tense.

Students will be able to use conjunctions and adjectives to express themselves more richly in writing and speaking.

Learning activities outside of classroom:

The total time required for preparation and revision for the class is one hour.

Students should review what they have learnt on the day.

Students should get into the habit of using a dictionary on a regular basis.

Grading Criteria /Policy:

Students are assessed on the basis of their active participation and contribution to the class (20%), the results of a vocabulary test (20%), midterm and final examination (60%).

LANd100LA

ドイツ語 2 - I

2017 年度以降入学者

長澤 優子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2
 単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本 (主) とします。初回だけではなく、授業の前には毎回、学習支援システム (Hoppii) 上のお知らせを必ず確認してください。

授業は教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について・ドイツ語のアルファベット
第 2 回	発音	ドイツ語の発音ルール
第 3 回	第 1 章 (1)	動詞の現在人称変化、動詞 sein と haben の変化
第 4 回	第 1 章 (2)	動詞の位置
第 5 回	第 2 章 (1)	名詞の性、名詞の 1 格・4 格
第 6 回	第 2 章 (2)	所有冠詞
第 7 回	第 3 章 (1)	不規則動詞の現在人称変化
第 8 回	第 3 章 (2)	名詞の複数形
第 9 回	第 4 章 (1)	名詞の 3 格
第 10 回	第 4 章 (2)	前置詞と名詞の格
第 11 回	第 5 章 (1)	人称代名詞の 3・4 格
第 12 回	第 5 章 (2)	分離動詞、非分離動詞
第 13 回	第 6 章 (1)	話法の助動詞
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

書名: 『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』
 著者: 清野智昭、時田伊津子、牛山さおり
 出版社: 朝日出版社
 価格: 2600 円 + 税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。

また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っている则便利で。

書名: 『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』 (中島悠爾/平尾浩三/朝倉巧共著、白水社)

『ドイツ語のしくみ』 (清野智昭著、白水社)

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習・復習や課題提出の状況など) 40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったため、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline (in English)】

Course outline

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

Learning Objectives

Over the course of one year, students will learn basic grammar and the fundamentals of the German language. By the end of the course, students should be able to read simple German texts and to communicate in basic German.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to prepare and review the course content and to submit assignments.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 40%, term-end examination: 60%

LANd100LA

ドイツ語 2 - II

2017 年度以降入学者

長澤 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてドイツ語を学ぶ人のための授業です。文法だけでなく、ドイツ語を通してドイツの文化や社会についても学びます。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学び、ドイツ語の基礎を身につけます。ドイツ語による簡単なテキストの読解と基本的な会話ができるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本（主）とします。授業の前には毎回、学習支援システム（Hoppii）上のお知らせを必ず確認してください。授業は春学期に引き続き、教科書に沿って進めていきます。クラスメートとの会話練習や練習問題を通じて、文法事項や色々な表現を身につけていきます。毎回予習・宿題をしたうえで参加することが要求されます。辞書を用意すること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 6 章 (2)	命令形
第 2 回	第 7 章 (1)	3・4 格支配の前置詞
第 3 回	第 7 章 (2)	並列接続詞
第 4 回	第 8 章 (1)	現在完了形
第 5 回	第 8 章 (2)	過去形
第 6 回	第 9 章 (1)	定冠詞類
第 7 回	第 9 章 (2)	副文
第 8 回	第 10 章 (1)	比較級と最上級
第 9 回	第 10 章 (2)	再帰代名詞と再帰動詞
第 10 回	第 11 章 (1)	形容詞の格変化
第 11 回	第 11 章 (2)	天候の表現（es の用法）
第 12 回	第 12 章 (1)	接続法第 2 式
第 13 回	第 12 章 (2)	zu 不定詞句
第 14 回	期末試験	第 1 回～第 13 回の内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、予習・復習および課題提出を行うことが必須です。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドイツ語の時間 ときめきミュンヘン』

著者：清野智昭、時田伊津子、牛山さおり

出版社：朝日出版社

価格：2600 円＋税

【参考書】

辞書を用意して下さい。紙の辞書でも電子辞書でも可。簡便な和独辞書がついているものがお勧めです。スマートフォンの辞書アプリは不可。

また下記の参考書は必ずしも購入の必要はありませんが、自宅学習の際などに持っていると便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』（中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著、白水社）

『ドイツ語のしくみ』（清野智昭著、白水社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習・復習や課題提出の状況など）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

学生同士での会話練習が楽しかったという声が多かったので、できるだけそのような時間を設けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配付のために学習支援システムを使用するので、パソコンあるいはタブレット端末を用意するか、マルチメディア室等を利用してください。

【その他の重要事項】

テキストは必ず初回の授業の時までに用意すること。

【Outline (in English)】

Course outline

This class is for students who study German for the first time. Not only German grammar, but also knowledge of German culture and society are taught.

Learning Objectives

Over the course of one year, students will learn basic grammar and the fundamentals of the German language. By the end of the course, students should be able to read simple German texts and to communicate in basic German.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to prepare and review the course content and to submit assignments.

Grading criteria

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

In class contribution: 40%, term-end examination: 60%

LANd100LA

ドイツ語 2 - I

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。この授業は月曜日の「ドイツ語 1-I」とリレー授業を行います。

【到達目標】

1 年間かけて初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。春学期では、初級文法のなかでも基礎にあたる部分を学びます。簡単な現在形の単文を読んだり書いたりできるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は月曜日の「ドイツ語 1-I」とリレー授業を行います。2 つの授業でおなじ教科書を使用します。

月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。

この授業は、手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。「課題」等に対するフィードバックの方法：対面の場合は紙媒体で採点して返却。オンラインの場合は Hoppii の課題提出を使い、返却を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	アルファベット・発音・数字
第 2 回	ドイツってどんな国？	あいさつ
第 3 回	自己紹介／ドイツの都市と河川	動詞の規則変化（単数と複数）・sein
第 4 回	趣味・余暇／ドイツの春の祝祭	動詞の不規則変化・名詞の格変化
第 5 回	持ち物・食べ物／ドイツへ移住する人々（前半）	haben・3/4 格と結びつく動詞・否定冠詞
第 6 回	持ち物・食べ物／ドイツへ移住する人々（後半）	haben・3/4 格と結びつく動詞・否定冠詞
第 7 回	中間テスト	第 1～第 6 回の内容を確認します。
第 8 回	家族・住居／ドイツの家族（前半）	2 格の用法・複数形・人称代名詞
第 9 回	家族・住居／ドイツの家族（後半）	2 格の用法・複数形・人称代名詞
第 10 回	自然・心身／ドイツの森（前半）	所有冠詞・定冠詞類・命令形
第 11 回	自然・心身／ドイツの森（後半）	所有冠詞・定冠詞類・命令形

第 12 回 街歩き／ドイツの街路 前置詞（前半）

第 13 回 街歩き／ドイツの街路 前置詞（後半）

第 14 回 期末テスト 春学期に学習した内容すべてについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

また、夏休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドライクラング——異文化理解のドイツ語』

著者：菅利恵／大喜祐太／大河内朋子ほか著

出版社：郁文堂

ISBN：978-4-261-01273-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っているといいです。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ (改訂版)』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、学期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

分らないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。

状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoom で接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】

独和辞書は必要になるので授業開始後できるだけ早く用意すること。

【Outline (in English)】

In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding. The standard preparation and revision time for this class is one hour in total. Evaluation will be based on participation in class(20%), mid-term exam (40%), final exam (40%)

LAnd100LA

ドイツ語 2-II

2017 年度以降入学者

伊東 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しくドイツ語文法の学習をはじめようとする人のための授業です。この授業は月曜日の「ドイツ語 1-II」とリレー授業を行います。

【到達目標】

一年間かけて初級文法を学びます。文法事項だけでなく、練習問題を通じて語彙やいろいろな表現をおぼえることを重視します。秋学期では、春学期から引き続き初級文法の残りの部分を学びます。後半からは、それまでに学んだ知識を活かし、やや高度な文法や応用的な練習問題にも取り組んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は月曜日の「ドイツ語 1-II」とリレー授業を行います。2つの授業でおなじ教科書を使用します。

月曜日はおもに文法事項の説明と語彙の練習、木曜日は主として練習問題や会話練習、ドイツに関する追加の学習をします。

週 1 回教室に座っているだけでは絶対に語学力はつきません。とくに、初級文法はスポーツでいえば素振りや筋トレにあたる部分です。しっかり身につけるためには語彙や活用を暗記し、単語や文章をノートに書いたり、発音・発声練習を繰り返すことが大事です。

この授業は手と口とアタマを働かせ、積極的に参加する授業を目指します。参加者は必ず継続して出席してください。また辞書を用意し、宿題・予習をしたうえで参加することが要求されます。「課題」等に対するフィードバックの方法：対面の場合は紙媒体で返却。オンラインの場合は Hoppii の課題提出を使い、返却を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入・確認テスト	春学期に学習した内容を確認します。
第 2 回	交通／移住するドイツの人々（前半）	分離・非分離動詞
第 3 回	交通／移住するドイツの人々（後半）	分離・非分離動詞
第 4 回	予定・計画／スイスとオーストリア（前半）	話法の助動詞・非人称表現・未来形
第 5 回	予定・計画／スイスとオーストリア（後半）	話法の助動詞・非人称表現・未来形
第 6 回	学校／ドイツの学校制度（前半）	再帰代名詞・従属接続詞・zu 不定詞句
第 7 回	学校／ドイツの学校制度（後半）	再帰代名詞・従属接続詞・zu 不定詞句
第 8 回	過去のできごと／ドイツ語の歴史（前半）	現在完了形・過去形
第 9 回	過去のできごと／ドイツ語の歴史（後半）	現在完了形・過去形
第 10 回	祝祭／ドイツの冬の祝祭（前半）	形容詞・序数・日付の表現・比較級
第 11 回	祝祭／ドイツの冬の祝祭（後半）	形容詞・序数・日付の表現・比較級
第 12 回	政治・社会／想起の文化（前半）	関係代名詞・関係副詞・指示代名詞

第 13 回 政治・社会／想起の文化（後半） 関係代名詞・関係副詞・指示代名詞

第 14 回 期末テスト 秋学期だけでなく 1 年間に学んだ内容についてテストします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回宿題を出します。また授業の最初に、前回の授業内容をチェックする問題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

また、冬休み、春休み中の練習のためにプリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

書名：『ドライクラング——異文化理解のドイツ語』

著者：菅利恵／大喜祐太／大河内朋子ほか著

出版社：郁文堂

ISBN：978-4-261-01273-6

そのほか、必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

独和辞典は各自用意してください。

下記の参考書を自宅学習の際などに持っていると便利です。

書名：『必携ドイツ文法総まとめ（改訂版）』

著者：中島悠爾／平尾浩三／朝倉巧共著

出版社：白水社 ISBN：978-4-560-00492-0

【成績評価の方法と基準】

課題の提出など授業への参加 (20%)、中間テスト (40%)、期末テスト (40%)

【学生の意見等からの気づき】

分らないことがある場合はいつでも質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を出版社ホームページからダウンロードし、使用します。宿題としてドイツ語の文章や単語を発音し、録音して提出してもらうことがあります。

状況によってはオンライン授業になる可能性があるため、Zoom で接続可能な機器・接続環境を準備してください。

【その他の重要事項】

独和辞書を必ず用意し、毎回持ってくること。

【Outline (in English)】

In this class we will learn the pronunciation, basic grammar and actual conversations. The purpose of this class is to learn about German culture and history as well as language, to stimulate interest in German-speaking countries and to deepen their understanding. The standard preparation and revision time for this class is one hour in total. Evaluation will be based on participation in class(20%), mid-term exam (40%), final exam (40%)

LANd100LA

ドイツ語 2 - I

2017 年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と、両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験 (独検) 5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

※春学期は対面授業と Zoom によるオンライン授業 (リアルタイム配信型) を組み合わせた形での開講を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況を見ながらの判断となる。授業形態およびオンライン授業への参加方法等具体的なことについては、授業開始日までに「学習支援システム」で提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 15 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

なおフィードバック等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベット 発音の原則
2	発音 I	母音の発音 子音の発音①
3	発音 II	子音の発音② あいさつ 数詞 (1~12)
4	Lektion 1	小テスト (発音) 人称代名詞と動詞の現在人称変化 ／動詞 sein ・ haben の現在人称変化 (不規則動詞)
5	Lektion 1	語順／ ja ・ nein の使い方 会話文 読章 Guten Tag!
6	Lektion 2	名詞の性と冠詞／名詞の格／定冠詞と名詞の格変化／不定冠詞と名詞の格変化／格の用法
7	Lektion 2	名詞の複数形／人称代名詞の使い方 会話文 読章 Cool Japan
8	Lektion 3	動詞の現在人称変化 (2) (不規則動詞)／非人称の es

9	Lektion 3	命令形／時刻の表現 会話文 読章 Wien
10	Lektion 4	定冠詞類
11	Lektion 4	不定冠詞類／人称代名詞の 3 格と 4 格／ 3 格と 4 格の語順 会話文 読章 Porträt meiner Familie
12	Lektion 5	前置詞の格支配
13	Lektion 5	前置詞と定冠詞の融合形／疑問代名詞 wer と was の格変化
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

小野寿美子、中川明博、西巻丈児『ブーメラン・エルエー』(朝日出版社) ISBN9784255253800 ¥2,500

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 60 %、小テストの得点を 10 %、平常点を 30 % の合計点で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題についてしっかり予習してきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline (in English)】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English. At the end of the course, students are expected to acquire the ability to participate in the intermediate course without hindrance.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60 %、Mid-term examination: 10 %、Usual performance score: 30 %

LANd100LA

ドイツ語 2 - II

2017 年度以降入学者

岡本 雅克

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級文法読本を使って、ドイツ語を読み、書き、聞き、話す力をつけると同時に、会話文や読章を読み進めながら、とくに語彙力や読解力の向上をはかる。また英語と多くの共通点をもつドイツ語の習得と両者の比較を通じて、さらなる異文化理解の視点を身につけることを目的とする。

【到達目標】

関係代名詞までの初級文法を学びながら、平易なドイツ語を読める能力を養い、中級の授業に支障なく参加できる語学力を身につけると同時に、ドイツ語技能検定試験（独検）5、4 級に合格できる語学力を身につけることが、この授業の到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

※秋学期は対面授業とオンライン授業を組み合わせたかたちでの開講を予定しているが、新型コロナウイルスの感染状況を見ながらの判断となる。授業形態およびオンライン授業への参加方法等具体的なことについては、授業開始日までに「学習支援システム」で提示する。

授業は演習形式で行う。使用する教科書は 10 課からなり、各課とも文法、練習問題、会話文、読章から構成されている。文法の説明をしながら、練習問題に取り組み、文法事項を習得した上で、会話文や読章を読む。

なおフィードバック等は「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Lektion 6	話法の助動詞
2	Lektion 6	未来形／従属の接続詞と副文
3	Lektion 6	分離動詞と非分離動詞 会話文 読章 Ryota geht ins Konzert
4	Lektion 7	?形容詞の格語尾変化
5	Lektion 7	形容詞・副詞の比較 会話文 読章 Atomkraft? Nein Danke!
6	Lektion 8	動詞の 3 基本形
7	Lektion 8	現在完了形
8	Lektion 8	会話文 読章 Die Wartburg bei Eisenach
9	Lektion 9	過去形
10	Lektion 9	再帰代名詞と再帰動詞
11	Lektion 9	会話文 読章 Weimar, ein wichtiges Kulturzentrum
12	Lektion 10	zu 不定詞（句）
13	Lektion 10	関係代名詞
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

与えられた課題に取り組んだ上で授業にのぞむこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

小野寿美子、中川明博、西巻文児『ブーメラン・エルエー』（朝日出版社）ISBN9784255253800 ¥2,500

【参考書】

その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の得点を 70 %、平常点を 30 % の合計点で評価する。平常点は、授業中に練習問題にしっかり取り組むこと、あるいは、与えられた課題についてしっかり予習をしてきた形跡が認められることを標準とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度については、学生たちの理解度に応じて、柔軟に対応する。

【学生が準備すべき機器他】

授業がオンラインに転換になった場合、Zoom で接続可能なデバイス。

【Outline (in English)】

In this course, we use a textbook on grammar for beginners and aim to acquire the ability to read, write, listen and speak German. In addition, we cultivate a view of intercultural understanding through a comparison of German and English. At the end of the course, students are expected to acquire the ability to participate in the intermediate course without hindrance.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70 %, Usual performance score: 30 %

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初修者向けの文法の授業です。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介します。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）5 級レベル到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ペアの授業である「フランス語 2」のテキスト『アミカルマン プリュス』の文法補足説明、例文の発音練習、および下記のテキストを使った文法練習問題を行います。

課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	綴り字の読み方の基本
	(1)	
2	イントロダクション	綴りの読み方、数字、名詞の性と数
	(2)	
3	Leçon 1	不定冠詞・定冠詞
4	Leçon 1	主語人称代名詞、être、縮約
5	Leçon 2	avoir、疑問文、形容詞、強勢形
6	Leçon 2	否定文、否定の de
7	Leçon 3	er 動詞、指示形容詞
8	Leçon 3	ir 動詞、所有形容詞、部分冠詞
9	Leçon 4	aller, venir, faire, 非人称主語
10	Leçon 4	prendre、命令法、時間
11	Leçon 5	人称代名詞（直接目的補語）、比較級
12	Leçon 5	人称代名詞（間接目的補語）、最上級
13	Leçon 5	復習
14	期末試験	筆記試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題の文法練習問題に必ず取り組むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・斉藤昌三『アン・ドゥ・トロワ フランス語問題集』白水社、2019 年（1200 円＋税）

・澤田直、他『アミカルマン＜プリュス＞』駿河台出版社、2018 年（「フランス語 2」のテキストです。）

【参考書】

文法参考書、仏検対策問題集等を希望者に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %、小テスト 25 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

あまり細部にはこだわらず、分かりやすい簡潔な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも可）

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

The goal of this course is to obtain the level A1 of CEFR.

Before each class, students will be expected to have done their homework.

Their required study time is at least one hour for each class.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, in class contribution : 50%

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初修者向けの文法の授業です。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介します。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級レベル到達を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ペアの授業である「フランス語 2」のテキスト『アミカルマン プリュス』の文法補足説明、例文の発音練習、および下記のテキストを使った文法練習問題を行います。

課題や試験へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習	春学期の復習および試験解説
2	Leçon 6	代名動詞
3	Leçon 6	疑問形容詞、pouvoir, vouloir, devoir, il faut
4	Leçon 7	複合過去（avoir+過去分詞）
5	Leçon 7	複合過去（être+過去分詞）
6	Leçon 8	半過去、関係代名詞、強調構文
7	Leçon 8	受動態、接続詞 que
8	Leçon 9	単純未来
9	Leçon 9	ジェロンディフ、感嘆文、y, en
10	Leçon 10	条件法現在
11	Leçon 10	条件法過去
12	Leçon 10	接続法現在
13	Leçon 10	接続法過去
14	期末試験	筆記試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題の文法練習問題に必ず取り組むこと。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・斉藤昌三『アン・ドゥ・トロワ フランス語問題集』白水社、2019 年（1200 円＋税）

・澤田直、他『アミカルマン＜プリュス＞』駿河台出版社、2018 年（「フランス語 2」のテキストです。）

【参考書】

文法参考書、仏検対策問題集等を希望者に指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 25 %、小テスト 25 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

あまり細部にはこだわらず、分かりやすい簡潔な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも可）

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar.

The goal of this course is to obtain the level A1 of CEFR.

Before each class, students will be expected to have done their homework.

Their required study time is at least one hour for each class.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, in class contribution : 50%

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Bonjour! Bonjour! フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。

フランス語の発音のしくみを理解し、挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

【到達目標】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、スペルが読めるようになる。
2. 挨拶が交わせるようになる。
3. 文法の仕組みの基礎が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

指定された学内の教室で対面授業を行います。

授業の最初に小テストを行い、その後、文法を中心にテキストに沿って授業を進めます。テキストやプリントの練習問題に取り組んで復習してください。練習問題に取り組むことが理解するのにとても大切です。また、場合によっては課題をメールで送ってもらい、それを添削して返信することもあると思います。予習は特に必要ありません。

課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。

kaz.obata@nifty.com

出席は全授業回数の 3 分の 2 以上が必要です。

授業開始時間後 30 分以内が出席扱いとなり、それ以降は欠席扱いとなります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	簡単な挨拶表現 発音の仕組み	挨拶表現の発音練習をする 発音の仕組みを理解する
2	1 課	身近なものを提示する。 数 (0 - 20)
3	2 課	人や物の特徴を伝える。
4	3 課	持っている物、欲しい物を伝える。 自己紹介をする (1)。
5	4 課	好き嫌いを尋ね、答える。 日付や曜日を尋ね、答える。
6	5 課	自己紹介をする (2)。家族について伝える。
7	6 課	職業や趣味についてやりとりする。
8	中間テスト	6 課までの復習テスト
9	7 課	行く場所、これからすることを伝える。 ホテルの部屋を予約する。
10	8 課	出身地を伝える。少し前にしたことを伝える。買いたい品物を伝える。

11	9 課	代名詞を使ってやりとりする (1)。 簡単なメールを書く。
12	10 課	代名詞を使ってやりとりする (2)。 天候について話す。料理の材料を伝える。
13	11 課	1 日の過ごし方を伝える。
14	期末テスト	7 課から 11 課までの復習テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】

『フランス語文法初めての練習帳』、白水社、1,760 円

推薦辞書: 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社、4,620 円

【成績評価の方法と基準】

前提として出席が全体の 3 分の 2 以上が必要です。成績は、小テストと中間・期末テストによって総合的に評価します。小テストの合計点が 20%、中間・期末試験が各 40%として合計 100%です。60%以上が単位取得には必要です。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一步一步着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください!

【Outline (in English)】

- Course outline: You can understand how pronunciation works and grammar structure of French.

- Learning objectives: By taking this class, you will acquire the basic grammar and many expressions for communication.

Learning activities outside of classroom: You send the assignment by e-mail and get the knowledge by the feedback of correction.

- Grading Criteria: I evaluate by little test score of every lesson (20%) and big test score (80%).

- Study time requires at least one hour each time.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

【到達目標】

フランス語初級文法を身につける。

会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：
DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定された教室で対面授業を行います。

毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説
明します。練習問題が宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の
授業で確認します。

課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下
のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、
フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。
kaz.obata@nifty.com

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	12 課	過去にしたことを伝える (1)
2	13 課	過去にしたことを伝える (2)
3	14 課	市場で買い物をする。代名詞を 使ってやりとりをする。
4	15 課	比較級や最上級の表現を使う。
5	16 課	関係代名詞を用いて尋ね、答え る。
6	中間テスト	12 課から 16 課までの復習テスト
7	17 課	昔のことを伝える。過去の出来事 の背景を伝える (1)
8	17 課	昔のことを伝える、過去の出来事 や背景を伝える (2)
9	18 課	予定していることを伝える (1)
10	18 課	予定していることを伝える (2)
11	19 課	自分の理想を伝える (1)
12	19 課	自分の理想を伝える (2)
13	20 課	嬉しいこと、望むことを伝える。
14	期末テスト	17 課から 20 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フ
ランス語初級文法を身につけてください。

また、役に立つ会話表現を覚えてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、
2,100 円。

【参考書】

『フランス文法 はじめての練習帳』、中村敦子、白水社、1,760 円
推薦辞書：『ブチロワイヤル仏和辞典』、旺文社

【成績評価の方法と基準】

小テストが 20%、中間・期末テストが各 40%、合計 100%です。
60%以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出
席して、楽しみながら勉強を続けてください。

【Outline (in English)】

- Course outline : You can understand how pronunciation works
and grammar structure of French.

- Learning objectives : By taking this class, you will acquire the
basic grammar and many expressions for communication.

Learning activities outside of classroom : You send the
assignment by e-mail and get the knowledge by the feedback
of correction.

- Study time requires at least one hour each time.

- Grading Criteria : I evaluate by little test score of every lesson
(20%) and big test score (80%).

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験 5 級ならびに 4 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer, aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

Students will learn basic French grammar. Aim to obtain the 5th and 4th grades of the French certification test.

Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total.

Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚え、秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4 級ならびに 3 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

Students will learn basic French grammar. Aim to obtain Level 4 and Level 3 of the French certification test. Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total. Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学びます。

【到達目標】

フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第 2 回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第 3 回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第 4 回	L2 演習	L2 の練習問題
第 5 回	L3 動詞 1	動詞の活用
第 6 回	L3 演習	L3 の練習問題
第 7 回	L4 動詞 2	2つの規則動詞
第 8 回	L4 演習	L4 の練習問題
第 9 回	L5 不規則動詞	ALLER VENIR
第 10 回	L 5 演習	L5 練習問題
第 11 回	L6 形容詞	指示形容詞 所有形容詞
第 12 回	L6 演習	練習問題
第 13 回	L7 代名詞	疑問代名詞 関係代名詞
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ー

【参考書】

授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので購入してください。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %

平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline (in English)】

① To learn the Elementary grammar of French

② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.

③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.

④ Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 60 %, in class contribution: 40 %

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学んでいきます。

【到達目標】

フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って体系的に文法を解説して行きます。

まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。作文について、添削を行います。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	L8 人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第 2 回	L8 演習	L8 練習問題
第 3 回	L9 複合過去	複合過去について
第 4 回	L9 演習	練習問題
第 5 回	L10 代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第 6 回	L10 演習	練習問題
第 7 回	L11 未来形	単純未来
第 8 回	L11 演習	練習問題
第 9 回	L12 過去形	半過去・大過去
第 10 回	L12 演習	練習問題
第 11 回	L13 条件法	条件法
第 12 回	L13 演習	練習問題
第 13 回	L14 接続法	接続法
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー 言語と文化で学ぶ新フランス語文法 ー

【参考書】

教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので購入してください。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %

平常点 40 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline (in English)】

① To learn the Elementary grammar of French

② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.

③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.

④ Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 60 %, in class contribution: 40 %

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは主としてフランス語の初歩の文法を学びます。このクラスを履修する学生は基本的なフランス語の「読み」「書き」をあわせて学んでいきます。フランス語 1 II と合わせて最終的に初歩のフランス語の 4 技能の獲得を目指します。

【到達目標】

このクラスを履修する学生は、実用フランス語技能検定試験 5 級に合格するために必要なフランス語運用能力、とくに文法を学んでいきます。あわせて簡単なフランス語の文章を読むために必要な語彙や表現も身につけていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業である場合には演習形式で授業を進めていきます。また次週に向けた課題などにも積極的に取り組んでいただきたいと思います。遠隔授業を取り入れる場合にはオンデマンドと ZOOM などを対面授業と組み合わせて実施していきます。なお基本的には授業時間内にフィードバックを行います。LMS などを活用する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
発音 1	フランス語の発音	フランス語の発音 (母音や子音)
発音 2	フランス語の発音	フランス語の発音 (鼻母音や複合母音など)
発音 3	フランス語の発音	発音のまとめ
1 課	名詞の性と数	男性名詞と女性名詞
	冠詞	3 つの冠詞の用法
2 課	提示の表現	「もの」を提示する
	代名詞	表現 主語の代名詞
3 課	規則動詞の活用	規則動詞の直説法現在形の活用
4 課	疑問形と否定形	3 つの疑問形の作り方 否定の作り方
4 課	疑問文への応答	疑問文に肯定と否定で答える
	形容詞	指示形容詞の用法
5 課	形容詞の女性形	形容詞の女性形の作り方
	名詞や形容詞の複数形	名詞や形容詞の複数形の作り方
6 課	不規則動詞	重要な不規則動詞の活用と用法
	形容詞	疑問形容詞
7 課	命令形	命令文の作り方
	形容詞	所有形容詞
8 課	形容詞と名詞の比較級	形容詞と名詞の比較級、最上級の用法
	および最上級	特殊な形容詞と名詞の最上級、比較級の作り方
9 課	直説法複合過去	直説法複合過去の用法と作り方
復習	春学期の学習内容の確認と見直し	春学期に学習したテキスト 1 課から 9 課までの文法事項や動詞の活用を総合的に復習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は学習した文法事項の理解の定着のために復習の課題を行います。合わせて予習として次回学習予定の文法事項の大まかな理解を求められます。復習と予習合わせて 120 分が標準となります。

【テキスト（教科書）】

『ル・フランセ』 斉藤昌三、白水社、2019 年第 32 版

【参考書】

参考書に関しては特に指定はしません。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 %、期末テスト 50 %、小テストまたは課題提出 20 %

【学生の意見等からの気づき】

とくに大きな改善点の指摘はなかったが、練習問題の量を少し増やしていきたい。

【その他の重要事項】

授業形態（対面、オンデマンド授業）は COVID-19 の感染状況により変更がある場合もあります。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to help students acquire an ability for a elementary french grammar.

By the end of this course, students should be able to do the followings:

1 acquisition of a elementary french grammar

2 acquisition of a french vocabulary

3 improve french expressive power

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process

Mid-term report 30 %, term-end examination 50 % and in-class contribution, short examination(including homework) 20 %

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスを受講する学生はフランス語 1 I で学んだ文法事項の確認からはじめフランス語の初級文法の完成と外国語としてのフランス語の初歩の 4 技能の獲得を目指します。

【到達目標】

このクラスを受講する学生は外国語としてのフランス語の「読み」「書き」の基本をすべて学習します。結果として実用フランス語技能検定 4 級合格に必要な文法事項や語彙及び表現を習得していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業である場合には演習形式で進めていきます。受講学生の積極的な授業への取り組みを期待しています。また遠隔授業を取り入れる場合には、対面授業、オンデマンド、Zoom による授業を組み合わせて実施していく予定です。なお、基本的に授業時間内にフィードバックをしますが、LMS などを活用する場合もあります。小テストは予め形式等を知らせ、返却時に解説します。期末テスト等はテスト実施の同一時間内に解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
春学期	春学期の復習	テキスト 1 課から 9 課までの文法事項を復習する
9 課	直説法複合過去	直説法複合過去の否定形と倒置疑問形の作り方
10 課	関係代名詞	4 つの主要な関係代名詞の用法を学ぶ
10 課	疑問代名詞	疑問代名詞の種類と用法を学ぶ
11 課	人称代名詞	直接目的と間接目的の人称代名詞の用法 強勢形人称代名詞の用法
12 課	受動態	動詞の態を変える
	指示代名詞	指示代名詞の用法
12 課	強調構文	文の各要素を強調する
13 課	代名動詞	代名詞を伴う動詞の活用と用法
13 課	代名動詞の過去形 非人称構文	代名動詞の直説法複合過去形の作り方と用法 非人称構文の用法
14 課	直説法単純未来	未来時制の作り方と用法
14 課	中性代名詞	3 つの中性代名詞の用法
15 課	さまざまな過去時制	直説法半過去と大過去の作り方と用法
16 課	条件法現在形	条件法現在形の作り方と用法
17, 18 課	現在分詞とジェロン ディフ	現在分詞とジェロンディフの作り方と用法
	接続法	接続法の活用と用法
まとめ	秋学期のまとめ	秋学期で学習した文法事項の確認と復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は学習した文法事項の理解を深めるために毎日出される復習の課題をやる必要があります。同時に次週に学習予定の文法項目の大まかな理解も求められます。復習と予習で毎回 120 分程度時間を要します。

【テキスト（教科書）】

フランス語 1 I と同じテキスト

【参考書】

特に指示する参考書はありません

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 %、期末テスト 50 %、課題及び小テスト 20 %程度

【学生の意見等からの気づき】

課題の量を少し増やし、学生たちのさらなる文法理解につなげていきたい

【その他の重要事項】

授業形態（対面、オンライン）は COVID-19 の感染状況により、変更となる可能性もある。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to help students acquire an ability for a elementary french grammar.

By the end of this course, students should be able to the followings:

1 acquisition of a elementary french grammar

2 acquisition of a wide french vocabulary and expression

Before / after class, student will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be

30% Mid-term report, 50 % term-end examination and in-class contribution

,short examination(including homework)20%.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人を対象とするクラスです。フランス語に親しみながら、基本的な語彙と文法を学習します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

まず教師が文法事項を解説し、全員で教科書の例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題は基本的に「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	オリエンテーションとアルファベ	授業の進め方、勉強の仕方、成績の付け方などの説明。仏和辞典の紹介。アルファベ。
2 回目	フランス語の音。第1課。	アルファベ、フランス語の音、名詞。
3 回目	第1課続き。第2課。	冠詞、主語人称代名詞、動詞「～である」
4 回目	第3課。	動詞「持つ」、否定
5 回目	第4課。	部分冠詞、形容詞
6 回目	第5課。	第一群規則動詞、疑問文
7 回目	第6課。	指示形容詞、所有形容詞
8 回目	第7課。	「行く」と「来る」、縮約
9 回目	第8課。	近接未来と近接過去、非人称
10 回目	発音のまとめ	綴り字の読み方のまとめ
11 回目	第9課。	第二群規則動詞、命令法
12 回目	第10課。	疑問形容詞、疑問代名詞
13 回目	第10課続き。復習。	疑問代名詞（続き）、疑問副詞
14 回目	期末試験。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の練習問題は基本的に「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新・フランス語文法の〈基礎〉』、太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』森本・三野著、駿河台出版社、1900 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC スコアも「975 点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】

・ Course outline

This is a course for students who start to study French. You will learn especially French grammar.

・ Learning objectives

At the end of the course, students are expected to understand basic French grammar.

・ Lecture/Exercise

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 25%、in class contribution: 25 %

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の基本的な語彙と文法を学びます。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

まず教師が文法事項を解説し、全員で教科書の例文を音読、次に学生が練習問題を解く、という形で授業を進めます。練習問題は自作のプリントを多用します。教科書の練習問題は基本的に「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	第 1 1 課。	目的格人称代名詞
2 回目	第 1 2 課。	代名動詞
3 回目	第 1 3 課。第 1 4 課。	複合過去（1）
4 回目	第 1 4 課続き。	複合過去（2）
5 回目	第 1 5 課。	半過去
6 回目	第 1 6 課。	比較と最上級
7 回目	第 1 7 課。	単純未来
8 回目	第 1 8 課。	中性代名詞
9 回目	第 1 9 課。	関係代名詞 qui、que
10 回目	第 1 9 課続き。	関係代名詞 dont、où
11 回目	第 2 0 課。	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
12 回目	第 2 1 課。	条件法
13 回目	第 2 2 課。	接続法
14 回目	期末試験。	試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の練習問題は基本的に「課題」となります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新・フランス語文法の〈基礎〉』、太田、前田、渡辺著、駿河台出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を、より効果的なものに代えました。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドヴァイスができると思います。また、TOEIC スコアも「975 点」を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】

・ Course outline

Students taking this course will learn French grammar.

・ Learning objectives

At the end of the course, students are expected to understand basic French grammar.

・ Lecture/Exercise

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 25%、in class contribution: 25 %

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験 5 級ならびに 4 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

Students will learn basic French grammar. Aim to obtain the 5th and 4th grades of the French certification test.

Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total.

Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚え、秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4 級ならびに 3 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

Students will learn basic French grammar. Aim to obtain Level 4 and Level 3 of the French certification test. Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total. Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 1/Mon.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Bonjour! Bonjour! フランス語をはじめて学ぶ学生を対象に、フランス語の基礎となる文法をしっかりと習得することを目的とします。

フランス語の発音のしくみを理解し、挨拶表現や数字を身につけます。また、文法の仕組みの基本的な枠組みが理解できるようになります。

【到達目標】

1. フランス語の発音の仕組みを理解し、スペルが読めるようになる。
2. 挨拶が交わせるようになる。
3. 文法の仕組みの基礎が理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

指定された学内の教室で対面授業を行います。

授業の最初に小テストを行い、その後、文法を中心にテキストに沿って授業を進めます。テキストやプリントの練習問題に取り組んで復習してください。練習問題に取り組むことが理解するのにとても大切です。また、場合によっては課題をメールで送ってもらい、それを添削して返信することもあると思います。予習は特に必要ありません。課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。

kaz.obata@nifty.com

出席は全授業回数の 3 分の 2 以上が必要です。

授業開始時間後 30 分以内が出席扱いとなり、それ以降は欠席扱いとなります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	簡単な挨拶表現 発音の仕組み	挨拶表現の発音練習をする 発音の仕組みを理解する
2	1 課	身近なものを提示する。 数 (0 - 20)
3	2 課	人や物の特徴を伝える。
4	3 課	持っている物、欲しい物を伝える。 自己紹介をする (1)。
5	4 課	好き嫌いを尋ね、答える。 日付や曜日を尋ね、答える。
6	5 課	自己紹介をする (2)。家族について伝える。
7	6 課	職業や趣味についてやりとりする。
8	中間テスト	6 課までの復習テスト
9	7 課	行く場所、これからすることを伝える。 ホテルの部屋を予約する。
10	8 課	出身地を伝える。少し前にしたことを伝える。 買いたい品物を伝える。
11	9 課	代名詞を使ってやりとりする (1)。 簡単なメールを書く。

12	10 課	代名詞を使ってやりとりする (2)。 天候について話す。料理の材料を伝える。
13	11 課	1 日の過ごし方を伝える。
14	期末テスト	7 課から 11 課までの復習テスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、2,100 円。

【参考書】

『フランス語文法初めての練習帳』、白水社、1,760 円

推薦辞書: 『プチ・ロワイヤル仏和辞典』、旺文社、4,620 円

【成績評価の方法と基準】

前提として、授業回数の 3 分の 2 以上出席していることが必要です。成績は、小テストと中間・期末テストによって総合的に評価します。小テストの合計点が 20%、中間・期末試験が各 40%とします。60%以上が単位取得には必要です。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は覚えることが多いですが、できるだけ分かりやすく説明します。一步一步着実に勉強を続けていけば、フランス語そのものがどんどん面白くなってきます。異文化発見への旅に出るため、復習を怠ることなく、たゆまず頑張ってください!

【Outline (in English)】

- Course outline : You can understand how pronunciation works and grammar structure of French.

- Learning objectives : By taking this class, you will acquire the basic grammar and many expressions for communication.

Learning activities outside of classroom : You send the assignment by e-mail and get the knowledge by the feedback of correction.

- Grading Criteria : I evaluate by little test score of every lesson (20%) and big test score (80%).

- Study time requires at least one hour each time.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

小幡 一雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に続き、フランス語の初級文法を習得します。

【到達目標】

フランス語初級文法を身につける。

会話に役立つさまざまな表現を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：
DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

指定された教室で対面授業を行います。

毎回最初に小テストを行います。次に、テキストに沿って文法を説
明します。練習問題が宿題になります。宿題の解答や和訳は次回の
授業で確認します。

課題や小テストは教室で回収し添削して返却するか、メールで以下
のアドレス宛に送信してもらった回答を添削して返信するかして、
フィードバックを行いますので、必ず確認するようにしてください。
kaz.obata@nifty.com

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	12 課	過去にしたことを伝える (1)
2	13 課	過去にしたことを伝える (2)
3	14 課	市場で買い物をする。代名詞を 使ってやりとりをする。
4	15 課	比較級や最上級の表現を使う。
5	16 課	関係代名詞を用いて尋ね、答え る。
6	中間テスト	12 課から 16 課までの復習テスト
7	17 課	昔のことを伝える。過去の出来事 の背景を伝える (1)
8	17 課	昔のことを伝える、過去の出来事 や背景を伝える (2)
9	18 課	予定していることを伝える (1)
10	18 課	予定していることを伝える (2)
11	19 課	自分の理想を伝える (1)
12	19 課	自分の理想を伝える (2)
13	20 課	嬉しいこと、望むことを伝える。
14	期末テスト	17 課から 20 課までの復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回行う小テストや宿題をこなしながら、覚えるべきことを覚え、フ
ランス語初級文法を身につけてください。

また、役に立つ会話表現を覚えてください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ひとりでも学べるフランス語』、中村敦子、白水社、2020 年刊行、
2,100 円。

【参考書】

『フランス文法 はじめての練習帳』、中村敦子、白水社、1,760 円
推薦辞書：『ブチロワイヤル仏和辞典』、旺文社

【成績評価の方法と基準】

小テストが 20%、中間・期末テストが各 40%です。60%以上が合格
です。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく丁寧に説明します。無理なく進めていくので、毎回出
席して、楽しみながら勉強を続けてください。

【Outline (in English)】

- Course outline : You can understand how pronunciation works
and grammar structure of French.

- Learning objectives : By taking this class, you will acquire the
basic grammar and many expressions for communication.

Learning activities outside of classroom : You send the
assignment by e-mail and get the knowledge by the feedback
of correction.

- Grading Criteria : I evaluate by little test score of every lesson
(20%) and big test score (80%).

- Study time requires at least one hour each time.

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 5/Tue.5

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語の初級文法を基礎から学ぶ。

【到達目標】

この授業を学ぶことによって、実用フランス語検定試験の勉強をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業の場合は、文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行うが、その際、まず声を出して発音することに留意し、授業をすすめる。基本的に質問等は授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス語の綴りの読み方と発音	アルファベ、綴り字記号、母音字・子音字の読み方の規則解説と発音練習。
第 2 回	よく使う表現とあいさつ	フランス語の読み方・発音まとめ、発音の復習と補足的解説。
第 3 回	1 課: 名詞と冠詞	名詞、不定冠詞、定冠詞、リエゾン、アンシェヌマン、エリズイヨンの解説。問題練習。
第 4 回	2 課: 動詞 être	主語人称代名詞の解説。être の直説法現在。問題練習。
第 5 回	2 課: 動詞 avoir	avoir の直説法現在。il y a の表現。問題練習とディクテ。
第 6 回	3 課: 第 1 群規則動詞、否定形、疑問形、数詞	事項解説と問題練習、そのほか月日の表現。
第 7 回	3 課: 疑問形、数詞	事項解説と問題練習。ディクテ。
第 8 回	4 課: 形容詞	形容詞の性数一致の原則、位置。問題練習。
第 9 回	5 課: 指示形容詞・所有形容詞、強勢形	事項解説と問題練習、そのほか曜日表現。
第 10 回	5 課: 第 2 群規則動詞	事項解説。数字。問題練習。ディクテ。
第 11 回	6 課: 動詞の aller と venir、定冠詞の縮約、命令法	事項解説。国名と前置詞。近接未来と近接過去。問題練習。ディクテ。
第 12 回	7 課: 不規則動詞 prendre と faire、非人称構文、疑問形容詞	事項解説。天候表現、時間表現。週・月・曜日・日付の表現。ディクテ。
第 13 回	8 課: 疑問代名詞・疑問副詞。	事項解説。さまざまな否定表現。数字。問題練習。ディクテ。
第 14 回	期末試験	まとめの問題。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、下読み、復習など、合わせて 2 時間以上を標準とする。

【テキスト (教科書)】

『シェリーとフランス語』(三修社)

【参考書】

『フランス語ハンドブック』(白水社)

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70 %) と平常点 (30 %) とで総合成績評価し、合格点は 60 点以上である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning a basic French grammar.

You can study a French practical aptitude test by learning this course.

Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

この授業を学ぶことによって、実用フランス語検定試験の勉強をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の解説と、それに応じた問題練習を行う。その際、声を出して文を読み、フランス語を正確に発音できるように指導する。基本的に質問等は授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9 課：動詞 <i>vouloir</i> , <i>pouvoir</i> , <i>devoir</i> . 補語人称代名詞	事項解説. 補語人称代名詞の位置と語順. 問題練習.
第 2 回	10 課：比較	復習問題と補足解説.
第 3 回	10 課：現在分詞とジェロンディフ	事項解説. 位置を示す前置詞. 問題練習.
第 4 回	11 課：中性代名詞	事項解説と問題練習.
第 5 回	11 課：動詞 <i>savoir</i> と <i>connaître</i>	事項解説. さまざまな数量表現. ディクテ.
第 6 回	12 課：複合過去（1）	直説法複合過去形の解説. 問題練習.
第 7 回	12 課：複合過去（2）	時の表現. 時を表す前置詞. ディクテ.
第 8 回	13 課：関係代名詞	事項解説. 問題練習.
第 9 回	13 課：受動態, 強調構文	事項解説. 問題練習.
第 10 回	14 課：代名動詞	事項解説. 問題練習.
第 11 回	15 課：半過去, 単純未来	事項解説. 問題練習. ディクテ.
第 12 回	16 課：大過去, 前未来, 条件法	事項解説. 問題練習. ディクテ.
第 13 回	17, 18 課：直接話法と間接話法, 接続法	事項解説. 問題練習. ディクテ.
第 14 回	期末試験	まとめの問題.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、下読み、復習など、合わせて 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『シェリーとフランス語』（三修社）

【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 % と平常点 30 % とで総合成績評価し、合格点は 60 点以上である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning a basic French grammar.

You can study a French practical aptitude test by learning this course.

Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

LANf100LA

フランス語 1 I

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年間でフランス語の初級文法の習得を目指す。春学期は、初歩的な文法事項を学んでいく。文法事項をよく復習し、一つ一つをきちんと理解しながら進んでいくことが大事になる。

【到達目標】

春学期は、名詞、冠詞、形容詞、動詞の現在形などの文法事項を学ぶ。春学期が終了した段階で、動詞を現在形で正しく活用させて、簡単なフランス語の文が作れるレベルにまで到達することを目標とする。学期末試験では、そのレベルに達しているかを確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語の文法事項を解説し、練習問題に取り組んでもらう。そして学生を指名して答えてもらう形で、練習問題の答えを合わせをしていく。その際、学生からの質問を受け付ける。また、適宜、小テストを実施し、正誤の確認をしたのち、返却する。なお、授業内容に関する質問は、メールでも受け付ける。この授業は教室での対面で行うが、もし大学の定める行動指針がレベル 2 以上になった場合には、オンラインで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アルファベ フランス語の文字と発 音など	フランス語のアルファベットの発音を確認し、覚えてもらう。
第 2 回	第 1 課 フランス語の名詞	フランス語の名詞には性と数があることや、三種類の冠詞について説明する。
第 3 回	第 1 課 フランス語の冠詞	フランス語の三種類の冠詞について説明する。
第 4 回	第 2 課 主語人称代名詞と基本 動詞	主語人称代名詞の使い方と基本動詞の活用について説明する。
第 5 回	第 2 課 否定文の作り方	否定文の作り方と注意すべき点を説明する。
第 6 回	第 3 課 第 1 群規則動詞	第 1 群規則動詞の活用について説明する。
第 7 回	第 3 課 指示形容詞 所有形容詞	指示形容詞と所有形容詞の使い方について説明する。
第 8 回	第 4 課 形容詞の性数変化と位 置	形容詞の使い方について説明する。
第 9 回	第 5 課 疑問形 疑問形容詞 疑問副詞	疑問形の作り方、疑問代名詞と疑問副詞の使い方について説明する。
第 10 回	第 6 課 動詞 aller と venir	aller と venir の活用と、その特殊な使い方「近い未来」と「近い過去」について説明する。

第 11 回	第 7 課 第 2 群規則動詞 命令形	第 2 群規則動詞の活用と、命令形の作り方について説明する。
第 12 回	第 7 課 強勢形 非人称構文	強勢形と非人称構文について説明する。
第 13 回	第 8 課 比較級と最上級 強調構文	比較級と最上級の作り方を説明する。強調構文について説明する。
第 14 回	最後のまとめ	総復習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習よりも復習に重点をおいて、習った動詞の活用や文法事項をしっかり覚える。また、各自で練習問題に取り組む。予習復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新・コンタクト ABC』中川高行ほか著 朝日出版社 2100 円

【参考書】

仏和辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う小テストを 30%、学期末試験を 70% とし、合算して 100 点満点中、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の文法は難しいという意見が多いので、できるだけ分かりやすい説明をするよう努力したいと思う。

【Outline (in English)】

Course outline

Students aim to learn elementary grammar in French in on year. In the spring semester, students will learn elementary grammar.

Learning objectives

The goal is to learn nouns, articles, adjectives, and the tense of verbs, etc.

Learning activities outside of classroom

Students focus on review rather than preparation, and spend about two hours of out-of-class learning.

Grading Criteria

A few quizzes will be 30%, and the final exam will be 70%. A total of 60 points or more will be passed.

LANf100LA

フランス語 1 II

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続いて、フランス語の初級文法の習得を目指す。秋学期は、動詞の過去形や未来形などを学習し、フランス語の文章を読むための文法事項の完全理解を図る。

【到達目標】

秋学期は、代名動詞、複合過去、半過去、単純未来、条件法など、動詞関係の文法事項を学ぶ。また、関係代名詞なども学習する。最後まできちんと取り組んでいけば、初級文法の主要な項目を習得することができる。学期末テストでは、動詞の活用を中心に、重要事項を確認する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期と同様、フランス語の文法事項を解説し、練習問題に取り組んでもらう。そして学生を指名して答えてもらう形で、練習問題の答えを合わせをしていく。その際、学生からの質問を受け付ける。また、適宜、小テストを実施し、正誤の確認をしたのち、返却する。なお、授業内容に関する質問は、メールでも受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 9 課 複合過去その 1	他動詞を使った複合過去のつくり方と使い方を説明する。
第 2 回	第 9 課 複合過去その 2	一部の自動詞を使った複合過去の作り方と使い方を説明する。
第 3 回	第 10 課 直接目的の人称代名詞 間接目的の人称代名詞	直接目的と間接目的の人称代名詞について説明する。
第 4 回	第 10 課 代名動詞	代名動詞の活用と使い方について説明する。
第 5 回	第 11 課 中性代名詞	中性代名詞の使い方について説明する。
第 6 回	第 12 課 半過去	半過去の活用と使い方について説明する。
第 7 回	第 12 課 受動態	受動態のつくり方について説明する。
第 8 回	第 13 課 単純未来	単純未来の活用と使い方について説明する。
第 9 回	第 13 課 関係代名詞	関係代名詞の使い方について説明する。
第 10 回	第 13 課 現在分詞 ジェロンディフ	現在分詞とジェロンディフの使い方について説明する。
第 11 回	第 14 課 条件法現在	条件法現在の活用と使い方について説明する。
第 12 回	第 15 課 接続法現在	接続法現在の活用と使い方について説明する。
第 13 回	補遺 大過去 条件法過去 接続法過去	大過去、条件法過去、接続法過去の活用と使い方について説明する。

第 14 回 最後のまとめ 文法事項の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習よりも復習に重点をおいて、習った文法事項をしっかりと理解して、覚える。予習復習時間は、各 2 時間を基準とする。

【テキスト（教科書）】

『新・コンタクト ABC』中川高行ほか著 朝日出版社 2100 円

【参考書】

仏和辞書（電子辞書も可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う小テストを 30%、学期末試験を 70% とし、合算して 100 点満点中、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

秋学期の文法事項が頭に入らない学生が多いようなので、途中で挫折しないよう工夫したいと思う。

【Outline (in English)】

Course outline

Students aim to learn elementary grammar in French in one year. In the fall semester, students will try to understand the grammar necessary to read French sentences.

Learning objectives

The goal is to learn pronominal verbs, compound past, semi-past, simple future, relative pronouns, etc.

Learning activities outside of classroom

Students focus on review rather than preparation, and spend about two hours of out-of-class learning.

Grading Criteria

A few quizzes will be 30%, and the final exam will be 70%. A total of 60 points or more will be passed.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

石川 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初学者が会話表現を学ぶ授業です。フランス語の運用練習を通じて、フランス語を身近なものに感じるとともに、フランスの文化について知識を深めることを目指します。恥ずかしがらずに声を出して、フランス語で会話してみましょう。

【到達目標】

フランス語であいさつできるようになる。
フランス語で自己紹介できるようになる。
フランス語で簡単な日常会話ができるようになる。
フランス語で自分の意見を述べるができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ペアの授業である「フランス語 1」で学んだ文法事項をもとに、フランス語会話の実践演習を行います。
本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行する場合があります。
初回授業時に、今後の進め方等についてガイダンスを行います。
学生からの質問には授業時間内に、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・イントロダクション (1)	フランス語のアルファベ、挨拶
第 2 回	イントロダクション (2)	先生が用いる表現、リエゾン、エリジョン
第 3 回	Leçon 1	お店での簡単な会話
第 4 回	Leçon 1	簡単な自己紹介
第 5 回	Leçon 2	簡単な他己紹介、性格の表現
第 6 回	Leçon 2	疑問の表現、病気の表現
第 7 回	Leçon 3	お店での会話、お礼の表現
第 8 回	Leçon 3	場所の表現、疑問詞のまとめ
第 9 回	Leçon 4	天候や季節の表現
第 10 回	Leçon 4	時間の表現
第 11 回	Leçon 5	暦、日付の表現
第 12 回	Leçon 5	レストランでの表現
第 13 回	Leçon 5	これまでの復習、フランス語で自分の意見を述べてみる
第 14 回	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。とくに復習に力を入れてください。授業でやったことを未消化のまま次の週に持ち越さないようにしましょう。家でも声を出して練習することが大切です。そのさいは付属の音声ファイルを活用してください。

【テキスト（教科書）】

『アミカルマン＜ブリュス＞』澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著、駿河台出版社、2018 年、2300 円+税

【参考書】

『アン・ドゥ・トロワ - フランス語問題集』斎藤昌三著、白水社、2019 年、1200 円+税
（「フランス語 1」のテキストです。文法事項の確認は必ず行なってください。）

【成績評価の方法と基準】

授業内での毎回の取り組み： 25 %、複数の課題： 25 %、期末試験： 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実用フランス語技能検定試験（仏検）に向けた演習も行います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらも良いですが、手元に用意しておくとう便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】

This course is for students who start studying French. Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to speak about themselves in the French language. After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method. Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANf100LA

フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

石川 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初学者が会話表現を学ぶ授業です。先学期に引き続き、フランス語の運用練習を通じて、フランス語を身近なものに感じるとともに、フランスの文化について知識を深めることを目指します。恥ずかしがらずに声を出して、フランス語で会話してみましょう。

【到達目標】

フランス語で過去のことについて話せるようになる。
フランス語で未来のことについて話せるようになる。
フランス語で仕事や社会のことを話せるようになる。
フランス語で関心のある分野について話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ペアの授業である「フランス語 1」で学んだ文法事項をもとに、フランス語会話の実践演習を行います。重要な表現は何度も口に出して発音してもらいます。フランス語を聞いて、理解する力の伸長にも取り組みます。学生どうしで会話練習を行います。本授業は基本的には対面で進めることを想定していますが、状況に応じてオンライン授業へと移行する場合があります。学生からの質問には授業時間内に、または授業支援システムを通じてフィードバックしていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	復習・アイスブレイク	レシピの作成
第 2 回	Leçon 6	日常生活の表現、スポーツの表現
第 3 回	Leçon 6	勧誘・質問・許可の表現、on と ça
第 4 回	Leçon 7	過去のことを話す
第 5 回	Leçon 7	評価の表現
第 6 回	Leçon 8	理由の表現、会話での複合過去と半過去の使い分け
第 7 回	Leçon 8	意見・期待の表現、フランス語での手紙・メールの表現
第 8 回	Leçon 9	予定・時間の表現
第 9 回	Leçon 9	フランス語で感想を述べる
第 10 回	Leçon 10	招待・勧誘の表現
第 11 回	Leçon 10	予約の表現
第 12 回	Leçon 10	主観的な意見を述べる
第 13 回	Leçon 10	これまでの復習、フランス語で自分の意見を表現する
第 14 回	期末試験	試験と総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。とくに復習に力を入れ、授業でやったことを未消化のまま次の週に持ち越さないようにしてください。とくに、音声ファイルを活用して、何度も口に出して発音する練習をしてください。

【テキスト（教科書）】

『アミカルマン <ブリュス>』、澤田直、リリアンヌ・ラタンジオ、黒川学著、駿河台出版社、2018 年、2300 円+税

【参考書】

『アン・ドゥ・トロワ - フランス語問題集』 齊藤昌三著、白水社、2019 年、1200 円+税
（「フランス語 1」のテキストです。文法事項の確認は必ず行なってください。）

【成績評価の方法と基準】

授業内での毎回の取り組み： 25 %、複数の課題： 25 %、期末試験： 50 %で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実用フランス語技能検定試験（仏検）に向けた演習も行います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書に関しては、電子辞書、紙の辞書どちらも良いですが、手元に用意しておくとう便利です。授業の復習にぜひ活用してください。

【Outline (in English)】

This course is the continuation of my French course in spring. This course is for students who start to study French. Students will learn the basic expressions and vocabulary of the French language. At the end of the course, students will be able to express themselves in the French language.

After each class meeting, students will be expected to spend one hour on this review. Repeating learned expressions aloud will be a good method.

Grading will be decided based on in-class and out-class contribution (50%) and term-end examination(50%).

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

無い

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.

GOAL :

Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.

Learning Outside Class Hours :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson. One hour is required.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions Leçons 1 à 10
2	Leçon 11	周波数を表す
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

無い

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.

GOAL :

Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 3/Fri.3

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
- 4 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】

初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができ、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

各課のテキストの文法説明をする。

練習問題を解く。

フレンチポップスを歌う。

小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
授 業	発音の練習	年間授業計画
計 画		成績評価の方法
発 音 の	単語の読み方 1	0 課
仕 組 み		プレリユード 1
		アルファベの発音
母 音 字	単語の読み方 2	プレリユード 2
の 読 み		母音字の発音
方		
子 音 字	名詞と冠詞	1 課 文法説明
の 読 み		子音字の発音
方		
名 詞 と	「オー・シャンゼリゼ」	Leçon 1 練習問題
冠 詞		名詞と冠詞確認
動 詞	主語人称代名詞	2 課 文法説明
être	動詞 être	主語と動詞 être の使い方
主 語 の	「夢見るシャンソン人	Leçon 2 練習問題
意味	形」	主語と補語
動 詞	形容詞	3 課 文法説明
avoir	動詞 avoir	動詞 avoir の慣用表現
直 接 目	「子どもを抱いて」	Leçon 3 練習問題
的 語		直接目的語
規 則 動	-er 動詞、-ir 動詞。否	4 課 文法説明
詞 の 活	定文	規則動詞の活用
用		
間 接 目	「シェリーに口づけ」	Leçon 4 練習問題
的 語		間接目的語
不 規 則	疑問文、動詞	5 課 文法説明
活 用 の	aller/venir	前置詞の使い方
動 詞		不規則活用の動詞

近 接 未 「もう森へなんか行か
来・近 ない」
接過去
歌 と 文 フレンチ・ポップスの 前期文法のまとめ
法 の ま まとめ
とめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『ポップ・フランセ』(杉村裕史、2009 年、駿河台出版社、2500 + 税) (ISBN 978-4-411-00763-6 C 1085)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

前回の授業内容から、次の授業開始時に小テストを行う。

小テストと期末試験の評価割合は 50% + 50%。

小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算

して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。

4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。

遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受からない。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtubeなどで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】

辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar and learning to sing songs of French Pops.

This course introduces

A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.

The goals of this course are to

have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANf100LA	
フランス語 Ⅱ	2017 年度以降入学者
杉村 裕史	
開講時期：秋学期授業/Fall 曜日・時限：金 3/Fri.3	
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 フレンチポップスをフランス語で歌えるようにする
- 4 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】

初級フランス文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができ、大きな声でフレンチポップスを歌えるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

各課のテキストの文法説明をする。

練習問題を解く。

フレンチポップスを歌う。小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
後期授業計画	発音の復習	後期授業計画
業計画		成績評価の方法
疑問詞	疑問詞、比較級・最上級準助動詞	Leçon 7 文法説明
「ラストダンスは私に」	「ラストダンスは私に」	Leçon 7 練習問題
不規則動詞	不規則動詞	Leçon 8 文法説明
「愛すること」	「愛すること」	Leçon 8 練習問題
疑問代名詞・関係代名詞	疑問代名詞・関係代名詞	Leçon 9 文法説明
「愛のとりこ」	「愛のとりこ」	Leçon 9 練習問題
目的語代名詞、代名動詞	目的語代名詞、代名動詞	Leçon 10 文法説明
「いつものように」	「いつものように」	Leçon 10 練習問題
複合過去・半過去	複合過去・半過去	Leçon 11 文法説明
「シェリーに口づけ」	「シェリーに口づけ」	Leçon 11 練習問題

構文練習	Leçon 12 文法説明
「心に太陽を」	Leçon 12 練習問題
歌と文法	後期文法のまとめ
法	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポップ・フランス』（杉村裕史、2009 年、駿河台出版社、2500 + 税）（ISBN 978-4-411-00763-6 C 1085）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。

小テストと期末試験の評価割合は 50% + 50%。

小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。

4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。

遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受からない。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtubeなどで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】

辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar and learning to sing songs of French Pops.

This course introduces

A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.

The goals of this course are to

have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初心者のための会話表現を身につける。あわせてフランス語圏の文化を紹介する。

【到達目標】

この授業を学ぶことによって、実用フランス語検定試験の勉強をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業の場合、各課の例文を暗記し、つぎに文法事項を解説する。聞き取り問題を行い、フランス語の発音を学ぶ。質問等は基本的に授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction 1	フランス語の音と文字.
第 2 回	Introduction 2	フランス語の発音規則.
第 3 回	第 1 課	例文暗記. 冠詞, 提示表現.
第 4 回	第 2 課	例文暗記. 主語人称代名詞. 直説法現在の être, avoir 動詞の活用.
第 5 回	第 2 課つづき	まとめ聞き取り問題. 形容詞. 国名. 数詞. 前置詞まとめ 1.
第 6 回	第 3 課	例文暗記. -er 動詞の活用.
第 7 回	第 3 課つづき	否定文・疑問文の作り方, 答え方. 前置詞まとめ 2. まとめ聞き取り問題. 前置詞のまとめ 2.
第 8 回	第 4 課	例文暗記. aller, venir の活用. 近接未来・過去の用法.
第 9 回	第 4 課つづき	前置詞と冠詞の縮訳形. 形容詞の位置と男性第 2 形をもつ形容詞. 不定代名詞の on. 聞き取り問題.
第 10 回	第 5 課	例文暗記. -ir 動詞の活用.
第 11 回	第 5 課つづき	所有形容詞. 強勢形人称代名詞. 不定代名詞. まとめ聞き取り問題.
第 12 回	第 6 課	部分冠詞. 指示形容詞.
第 13 回	第 6 課つづき	-re 動詞の活用. 使役構文.
第 14 回	期末試験	まとめの総合問題.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、下読み、復習等、あわせて 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ディアグラム』（渡辺・須田著、三修社）

【参考書】

『フランス語ハンドブック』（白水社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）と平常点（30 %）とで総合成績評価し、合格点は 60 点以上である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is for beginners who are learning a basic French conversation, while it will give you a French culture.

You can study a French practical aptitude test by learning this course.

Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination(70%) and in class contribution(30%).

LANf100LA

フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

武田 昭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初心者のための会話表現を身につける。あわせてフランス語圏の文化を紹介する。

【到達目標】

この授業を学ぶことによって、実用フランス語検定試験の勉強をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

春学期に続き、7 課以降の例文を暗記し、つぎに文法規則を解説する。聞き取り問題を行い、フランス語の発音を学ぶ。またフランス文化映像で実際のフランス語にふれ、それに馴染むように指導したい。なお、質問等は授業時間内にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課	例文暗記。 疑問形容詞、非人称構文。 フランス文化映像。
第 2 回	第 7 課つづき	-re 動詞の直説法現在の活用 1. 月・曜日・季節のフランス語暗記。 補語と属詞。
第 3 回	第 8 課	例文暗記。 =re 動詞の直説法現在の活用 2. 疑問代名詞。 フランス文化映像。
第 4 回	第 8 課つづき	疑問代名詞の複合形。 疑問副詞、聞き取り問題練習。 フランス文化映像。
第 5 回	第 9 課	-oir 動詞の直説法現在の活用、補語人称代名詞 1. 移動手段の表現、指示代名詞。 前置詞のまとめ。
第 6 回	第 10 課	例文暗記。 命令法、補語人称代名詞 2. 比較級。 フランス文化映像。
第 7 回	第 11 課	例文暗記。 最上級表現。 直説法複合過去と用法。
第 8 回	第 11 課つづき	受動態。 冠詞のイメージ。 フランス文化映像。
第 9 回	第 12 課	例文暗記。 直説法半過去形と用法、代名動詞の活用と用法。
第 10 回	第 13 課	例文暗記。 直説法単純未来と用法、中性代名詞と用法。 フランス文化映像。

第 11 回 第 14 課

例文暗記。
条件法現在・過去。
関係代名詞と用法。
強調構文。

第 12 回 第 15 課

例文暗記。
接続法と用法。
現在分詞とジェロンディフの用法。

第 13 回 まとめ

7～15 課までのまとめ問題と聞き取り問題。

第 14 回 期末試験

まとめの総合問題。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、下読み、復習など、あわせて 2 時間以上を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ディアグラム』（渡辺・須田著、三修社）

【参考書】

フランス語ハンドブック（白水社）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 % と平常点 30 % とで総合成績評価し、合格点は 60 点以上である。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning a basic French conversation, while it will give you a French culture. You can study a French practical aptitude test by learning this course.

Your study time will be more than two hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination(70%) and in class contribution (30%).

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエンス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

無い

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.

GOAL :

Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語Ⅱ

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions Leçons 1 à 10
2	Leçon 11	周波数を表現する
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を提出することが必須です。

毎週新しい語彙と表現を覚えること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLEN+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

無い

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.

GOAL :

Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 4/Thu.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

このクラスはフランス語運用能力を養うことを目的としています。とりわけ基礎的なフランス語を「話す力」、「聞く力」をバランスよく、着実に身につけていきます。

【到達目標】

まずフランス語の読み方に慣れることから始め、簡単な日常会話での表現、基本動詞を用いた会話のための文章作成を学んでいきます。これにより学生みなさんは日常の様々な場面において使用できるフランス語の表現と文章を会話に取り入れていくことが出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業である場合には演習形式で進めていきます。授業中に学習した表現等を用いて、簡単なフランス語を用いて会話をおこなっていきます。同時にリスニングにも注力していきます。また場合によっては対面授業と遠隔授業を組み合わせた形の授業になることもあります。なお小テストは原則対面授業中に実施予定です。テストの範囲は予め伝えます。テストのフィードバックはテスト終了後、同一時間内におこないます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	フランス語の読みと発音	母音字と子音字の基本的な読み方を学習します
2 回	フランス語の読みと発音	鼻母音と注意する必要がある子音を集中的に学習します
3 回	フランス語の文章の読み	第 1 回、2 回の授業で学習した内容をふまえて、フランス語の文章を正しく読めるようにしていきます
4 回	簡単な表現	ごく簡単な挨拶の表現を学習し、主語人称代名詞を覚えさせます
5 回	冠詞や前置詞	定冠詞と日常よく用いる前置詞を学習し、会話の中で使っていきます
6 回	基本動詞の一つを学ぶ	Etre 動詞を学び、様々な会話のバリエーションに用いていきます
7 回	疑問文の作り方	3 種類の疑問の形を覚え、簡単な疑問文の作成と答え方を学びます
8 回	疑問副詞と名前を言う表現	場所をたずねる疑問の形と名前を答える表現などを学びます
9 回	2 つの冠詞と否定形	不定冠詞と部分冠詞の用法を学び、これを用いた会話文の作成をします。また否定の形もあわせて学習します。
10 回	基本動詞の使い方	Avoir 動詞を学び、この動詞を用いた様々な表現を用いて会話をします
11 回	否定のバリエーション	様々な否定の表現を学習し、文章を作成してみます

12 回	第 1 群規則動詞	規則動詞の活用を練習し、会話の中で使えるようにします
13 回	指示形容詞	前回の復習で規則動詞を用いた会話の練習と指示形容詞の用法を学習します
14 回	前期の振り返りと解説	前期に学習した内容をテストの形式でチェックし、その後、解説をしていきます

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

ほぼ毎回復習のための課題をだします。また次回の授業のために必要な語彙や表現を予めまとめておいていただきます。予習と復習をあわせて約 120 分を必要とします。

【テキスト (教科書)】

『ヌーヴォー!』小倉博史、朝日出版社、2015 年

【参考書】

とくに指定はしません

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 %、期末テスト 50 %、小テスト及び課題 20 %程度

【学生の意見等からの気づき】

課題や小テストの量と機会を増やしていきたい。

【その他の重要事項】

授業形態 (対面、オンデマンド授業) は COVID-19 の感染状況により変更になる場合があります。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

By the end of this course, students should be able to the followings:

1 acquisition of a wide french vocabulary and expression

2 acquisition of a ability for french everyday conversation

Before / after class, student will be expected to spend 2 hours to understand the course content(reading the textbook, doing the homework)

Final grade will be calculated

Mid-term report 30%, Term-end examination 50% and in-class contribution,

short examination(including homework) 20 %.

LANf100LA

フランス語Ⅱ

2017 年度以降入学者

寺家村 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは引き続き初歩のフランス語の「話す力」と「聞く力」をつけていきます。

【到達目標】

学生はこのクラスを履修することで、フランス語Ⅱ 1 に引き続いてフランスでの日常会話に必要な表現や語句を覚えてき、様々な生活場面でフランス語での表現が出来るようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業である場合は演習形式で授業を進めていきます。 フィードバックは原則授業内におこなっていきます。なお、小テストを実施する折は予め範囲などは伝え、翌週に返却するときに解説します。なお学期末のテスト等に関してはテスト実施の同一時間内に解説をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	所有形容詞と場所の前置詞	所有形容詞の用法を学び、それを会話の中で使っていきます。また場所の前置詞も覚えます。
2 回	品質形容詞と疑問形容詞	形容詞の基本的な使い方と疑問形容詞の用法を学び、会話の中で使ってみます。
3 回	年齢の表現、数詞と命令形	年齢を訪ねる表現と数の表現を学び、実際に会をしてみます。また命令形の用法も学習します。
4 回	時間や天気の表現	時間をたずね、それに答える表現を学びます。
5 回	形容詞と副詞の比較級、最上級	比較級と最上級の用法を学び、会話の中で文章を作成していきます
6 回	単純未来と近接未来	2つの未来形の形を学習し、実際に会話で使ってみます。
7 回	疑問代名詞	「ひと」と「もの」をたずねる疑問代名詞を学び、質問に的確に答えられるようにします。
8 回	複合過去形（1）と近接過去	2つの過去形の形と用法を学びます。そして実際に会話のなかで使ってみます。
9 回	複合過去形（2）	前回に引き続き複合過去形を学習し、会話での使用を更に進めていきます。
10 回	曜日、月、四季の表現。	7 曜日、1 2 カ月そして四季の言い方を学び、正しく発音できると同時に書けるようにする。
11 回	直説法半過去	半過去の用法を学び、複合過去との使い分けを意識しながら、会話の中で表現してみる。
12 回	条件法現在	主として会話で用いる「丁寧な表現」としての条件法を学び、会話の中で使ってみる。

13 回	不規則動詞	代表的な不規則動詞の活用を覚え、会話の中で使ってみる。
14 回	振り返りと解説	学期末テスト実施し、その後解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ毎回復習のための課題を出します。記述式のものとなる予定です。

【テキスト（教科書）】

フランス語Ⅱ I のテキストを継続使用します。

【参考書】

とくに指定はしません。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 30 %、期末テスト 50 %、課題の提出及び小テスト 20 % 程度

【学生の意見等からの気づき】

会話の小テストを適宜実施していく。

【その他の重要事項】

授業形態（対面授業、オンライン授業）は COVID-19 の感染状況により変更となる場合もあります。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to help students acquire an ability for elementary french conversation and hearing.

By the end of this course, students should be able to the followings:

1 acquisition of a large french vocabulary and expression

2 acquisition of a ability for a french everyday conversation

Before / after class, student will be expected to spend 2 hours to understand the course content (reading the textbook, doing the homework)

Final grade will be calculated

Mid-term report 30%, Term-end examination 50% and in-class contribution,

short examination (including homework)20 %

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】

フランス語で挨拶をする、自己紹介するなどの、初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行ってもらう。なお、その際には、感染防止の飛沫対策をしっかりと行う。

また、随時、フランス語の聞き取りテストを行い、正誤を確認した上で返却する。

なお、授業内容に関する質問などは、授業内で受け付ける。また、メールでも受け付ける。

この授業は教室での対面で行うが、もし大学の定める行動指針がレベル 2 以上になった場合には、オンラインで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	アルファベットなど
2	1 課 会話表現	フランス語で自己紹介をする。国籍を言う。元気かどうかを聞く。
3	1 課 文法	練習問題 数字 1～20
4	2 課 会話表現	フランス語で職業を言う。住所を言う。
5	2 課 文法	練習問題 数字 21～30
6	3 課 会話表現	フランス語で国籍を言う。カフェで注文する。
7	3 課 文法	練習問題 数字 31～69
8	4 課 会話表現	フランス語で、年齢を尋ねる、答える。
9	4 課 文法	練習問題 数字 0～69 の復習
10	5 課 会話表現	フランス語で、人物を描写する。国名を言う。
11	5 課 文法	練習問題 フランス語でインタビュー
12	6 課 会話表現	フランス語で、「これは何ですか」と尋ねる、答える。
13	6 課 文法	練習問題 数字 70～100
14	最後のまとめ	総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランス』ニコラ・ガイヤールほか著 朝日出版社 2400 円

【参考書】

仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う小テストの点数（70％）と、平常点（30％）を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline (in English)】

Course outline

In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.

Learning objectives

The goal is to be able to say hello and introduce yourself in French.

Learning activities outside of classroom

Students will definitely remember the French expressions they learned in class and practice to pronounce them correctly. The study time outside the class is about two hours.

Grading criteria

The score of several quizzes and the normal score are combined to give a maximum of 100 points, and a score of 60 or more is passed.

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

山口 雅敏

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を使って初歩的な会話ができるようになるように、フランス語の基本的な表現を中心に学習していく。

【到達目標】

フランス語で買い物をするときや、友人と話すときなどに使う初歩的な表現を身につけていく。簡単な会話であれば、ある程度できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語の基本的な表現の発音を確認した後、反復練習をする。適宜、ペアやグループになって会話の練習も行ってもらう。その際には、感染防止の飛沫対策をしっかりと行う。

また、随時、フランス語の聞き取りテストを行い、正誤を確認した上で返却する。

なお、授業内容に関する質問などは、授業内に受け付ける。また、メールでも質問を受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	7 課 会話表現	フランス語で好き嫌いを言う。
2	7 課 文法	練習問題 Il y a など
3	8 課 会話表現	フランス語で天気を尋ねる、答える。
4	8 課 文法	練習問題 比較級など
5	9 課 会話表現	フランス語でどんなスポーツをするかを言う。
6	10 課 会話表現	練習問題 フランス語で人を誘う、招待する。
7	11 課 会話表現	練習問題 フランス語で時刻を言う。
8	12 課 会話表現	練習問題 フランス語でアルバイトについて話す。
9	13 課 会話表現	練習問題 フランス語で料理を注文する。
10	14 課 会話表現	練習問題 フランス語で過去のことを話す。
11	14 課 文法	練習問題 複合過去
12	15 課 会話表現	フランス語で未来のことを話す。
13	15 課 文法	連数問題 近接未来

14 最後のまとめ 総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で習ったフランス語の表現を確実に覚えて、正確に発音できるようにする。予習復習の時間は各 2 時間とする。

【テキスト（教科書）】

『カフェ・フランス』ニコラ・ガイヤールほか著 朝日出版社 2400 円

【参考書】

仏和辞典（どこの出版社のものでも可）

【成績評価の方法と基準】

随時行う口頭テストの評価（70%）と、平常点（30%）を合わせて 100 点満点とし、60 点以上で合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語の発音が難しいという意見をよく聞くので、抵抗感なく発音できるように工夫したいと思う。

【Outline (in English)】

Course outline

In order to be able to conduct elementary conversation using French, we will learn mainly French basic expressions.

Learning objectives

The goal is to be able to have simple daily conversation in French.

Learning activities outside of classroom

Students will definitely remember the French expressions they learned in class and practice to pronounce them correctly. The study time outside the class is about two hours.

Grading criteria

The score of several quizzes and the normal score are combined to give a maximum of 100 points, and a score of 60 or more is passed.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

JULIEN AGAESSE

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語による会話と作文・読解、聴解等のスキルを伸ばすこと。授業を通して、フランスやフランコフォニーとその文化を発見してください。

自己紹介、自分の好み、日常生活について話すことができるようになる。

【到達目標】

フランス語で表現する練習を通じて、文法・語彙を血肉にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

文章と口頭のスキルを練習して、文法と語彙を吸収させます。グループワーク、簡単なプレゼンテーション、ゲーム、リスニング等。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

また、授業や宿題には GoogleClassroom を使用します。

さらに、学期途中に小テストを課すことがあります。

この学期中、オンラインコースを受講する必要がある場合は、ズーム (オンライン教室) を使用します。プログラムをコンピューターにダウンロードする必要があります。

小テストや課題について、授業での活動後、学生にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Initiation 1	授業の紹介
2	Initiation 2	挨拶
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいる所
4	Leçon 1	前のレッスンで見た要素の再利用
5	Leçon 2	数字、将来の職業
6	Leçon 2	レッスンで見た要素の再利用
7	Leçon 3	情報を尋ねる、フランコフォニーについて
8	Leçon 3	前のレッスンで見た要素の再利用
9	Leçon 4	好みについての話
10	Leçon 5	前のレッスンまでに学んだ要素の再利用
11	Leçon 6	好きな物事について話す
12	Leçon 6	人の身体の説明
13	復習	テストの準備のための復習
14	試験	最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
- ・復習として、作文練習や単語、文法の問題などを与える可能性がある。
- ・マニュアルや資料で理解の問題がないか必ず確認してください。
- ・わからない言葉、意味、発音は必ず検索してください。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、資料は Google classroom と Hoppii で配布する予定です。

【参考書】

レッスン中に参考書を伝えます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの出席と態度 20 %

宿題、発表等 20 %

Quiz 30 %

試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学のインターネットプラットフォームを介して学生にドキュメントを配る場合があります。Google ドライブと Google classroom も使用します。

インターネットに接続されたパソコンやタブレットが必要な活動を行います。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Outline and objectives: Develop skills in speaking and writing/reading and listening comprehension in French. Discover France, Francophonie and its culture through the class.

Be able to introduce themselves, talk about their preferences and daily life.

Goal: To develop grammar and vocabulary through the practice of expressing oneself in French.

Work to be done outside of class:

・The standard preparation and review time for this class is one hour in total.

・Some writing exercises, vocabulary, and grammar problems may be given as review.

・Please be sure to check the manual and materials for understanding problems.

・Be sure to search for any words, meanings, or pronunciations that you do not understand.

For the homeworks and the short test, Feedback will be provided to students following the class activities.

Grading criteria:

Class attendance and attitude 20%.

Homework, presentations, etc. 20%.

Quiz 30 20%.

Exams 30 20%.

LANf100LA

フランス語Ⅱ

2017 年度以降入学者

JULIEN AGAESSE

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語による会話と作文・読解、聴解等のスキルを伸ばすこと。授業を通して、フランスやフランコフォニーとその文化を発見してください。

自己紹介、自分の好み、日常生活について話すことができるようになる。

【到達目標】

フランス語で表現する練習を通じて、文法・語彙を血肉にすること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文章と口頭のスキルを練習して、文法と語彙を吸収させます。グループワーク、簡単なプレゼンテーション、ゲーム、リスニング等。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

また、授業や宿題には GoogleClassroom を使用します。

さらに、学期途中に小テストを課すことがあります。

この学期中、オンラインコースを受講する必要がある場合は、ズーム（オンライン教室）を使用します。プログラムをコンピューターにダウンロードする必要があります。

小テストや課題について、授業での活動後、学生にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Révisions	復習
2	leçon 7	国と観光地、フランス語の指示形容詞を解説
3	leçon 7	前のレッスンで見た要素の再利用
4	leçon 8	道を尋ねる
5	leçon 8	前のレッスンで見た要素の再利用
6	leçon 9	地元の活動や特産品についての話
7	leçon 9	前のレッスンで見た要素の再利用
8	leçon 10	日常の活動
9	leçon 10	前のレッスンで見た要素の再利用
10	leçon 11	毎日の活動
11	leçon 11	前のレッスンで見た要素の再利用
12	leçon 12	友達を招待する
13	Révisions 復習	テストのための練習
14	試験	最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
・復習として、作文練習や単語、文法の問題などを与える可能性がある。

・マニュアルや資料で理解の問題がないか必ず確認してください。

・わからない言葉、意味、発音は必ず検索してください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料は Google classroom と Hoppii で配布する予定です。

【参考書】

レッスン中に参考書を伝えます。

【成績評価の方法と基準】

クラスの出席と態度 20 %

宿題、発表等 20 %

Quiz 30 %

試験 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

大学のインターネットプラットフォームを介して学生にドキュメントを配る場合があります。Google ドライブと Googleclassroom も使用します。

インターネットに接続されたパソコンやタブレットが必要な活動を行います。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Outline and objectives: Develop skills in speaking and writing/reading and listening comprehension in French. Discover France, Francophonie and its culture through the class.

Be able to introduce themselves, talk about their preferences and daily life.

Goal: To develop grammar and vocabulary through the practice of expressing oneself in French.

Work to be done outside of class:

・The standard preparation and review time for this class is one hour in total.

・Some writing exercises, vocabulary, and grammar problems may be given as review.

・Please be sure to check the manual and materials for understanding problems.

・Be sure to search for any words, meanings, or pronunciations that you do not understand.

For the homeworks and the short test, Feedback will be provided to students following the class activities.

Grading criteria:

Class attendance and attitude 20%.

Homework, presentations, etc. 20%.

Quiz 30 20%.

Exams 30 20%.

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【Outline (in English)】

Course outline; practice of basic french dialogue

Learning objectives; simple dairy conversations

Learning activities outside of classroom; homework(1hour)

Grading criteria; 2 mini tests(25%x2) and final test(50%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

短いセンテンスのフランス語を繰り返し発話することで基礎的な会話文を丸覚えすること。

【到達目標】

簡単な日常会話の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項の説明はなるべく最小限に抑え、とにかくフランス語を口にする機会を多く持ってもらいます。

学生諸君には授業への積極的参加が強制的に求められます。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

提出物は添削したのち次の授業で返却します。

質問などは授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 課	自己紹介をする
第 2 回	第 1 課	名前、国籍、出身地を言う
第 3 回	第 2 課	人について語る
第 4 回	第 2 課	職業、住んでいるところ、話せる言語を言う
第 5 回	第 3 課	持ち物についてたずねる
第 6 回	第 3 課	動詞 avoir
第 7 回	第 4 課	好き嫌いを言う
第 8 回	第 4 課	数詞；21～59
第 9 回	第 1 回小テスト（予定）	第 1 回小テスト（予定）
第 10 回	第 5 課	行き先を言う
第 11 回	第 5 課	数詞；60～99
第 12 回	第 6 課	家族を紹介する
第 13 回	第 2 回小テスト（予定）	第 2 回小テスト（予定）
第 14 回	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回暗唱の宿題が出ます。必ず覚えてくること。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

『新オンプラティック』（朝日出版社）を使用します。

【参考書】

授業中に指示することもあるでしょう。

【成績評価の方法と基準】

筆記の期末試験（50 %）と口頭の小テスト 2 回（各 25 %）でつけます。

この点数に平常点（出席点ではない）を加算して最終評価を下します。詳しくは第一回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

学生間で与えられた課題の難易度に差が出てきてしまう。なるべくそれを解消したい。

LANf100LA

フランス語 2 II

2017 年度以降入学者

Learning activities outside of classroom; homework(1hour)
Grading criteria; 2 mini tests (25%x2)and final test(50%)

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、簡単な会話文の繰り返し発話練習です。

【到達目標】

基礎的な日常会話の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：
DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

フランス語 2 I 同様、履修者には積極的な授業参加が求められます。
文法説明もしますが、発話練習に多くの時間を割きます。
提出物は添削したうえで次の授業で返却します。
質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 7 課	食べ物、飲み物などを勧める
第 2 回	第 7 課	prendre, vouloir, boire
第 3 回	第 8 課	位置関係を示す
第 4 回	第 9 課	贈り物の相談をする
第 5 回	第 9 課	offrir, croire on
第 6 回	第 1 回小テスト（予定）	第 1 回小テスト（予定）
第 7 回	第 10 課	過去の行為、出来事を語る I
第 8 回	第 10 課	複合過去
第 9 回	第 11 課	過去の行為、出来事を語る II
第 10 回	第 2 回小テスト（予定）	第 2 回小テスト（予定）
第 11 回	第 12 課	過去の状態や習慣を語る
第 12 回	第 12 課	半過去
第 13 回	補遺 3, 4	日常を語る 計画について語る
第 14 回	総括	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

フランス語 2 I 同様、暗唱の宿題が毎回出ます。必ず丸暗記してく
ださい。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

『新オンブラティック』（朝日出版社）を使用します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

筆記の期末試験（50％）と口頭の小テスト 2 回（各 25％）でつ
けます。

それに平常点を加味して最終的な評価を下します。

詳しくは教室で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく落ちこぼれる学生を出さないように心がける。

【Outline (in English)】

Course outline; practice of basic french dialogue

Learning objectives; simple dairy conversation

LANf100LA

フランス語 2 I

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語を初めて学ぶ人を対象とするクラスです。フランス語に親しみながら、最初歩のフランス語会話の習得を目指します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）の A1 レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項は最低限にとどめ、基本表現を応用変化させながら、初歩的なフランス語会話力の習得を目指します。教科書の練習問題は基本的に「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、フランス語の挨拶。	授業の進め方と成績のつけ方。フランス語の挨拶。
②	Leçon 1	アルファベ。挨拶。
③	Leçon 1	アルファベ。自分の名前と国籍を言う。
④	Leçon 2	職業を言う。
⑤	Leçon 2	住所を言う。
⑥	Leçon 3	注文する。
⑦	Leçon 3	否定文。
⑧	Leçon 4	「～を持っていますか」
⑨	Leçon 4	「～を持っています／持っていない」
⑩	Leçon 5	第三者について質問する。
⑪	Leçon 5	第三者について返答する。
⑫	Leçon 6	「～は何ですか」
⑬	Leçon 6	「～はどこですか」
⑭	期末テスト。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新装 カフェ・フランセ』、ガイヤール、加藤、中川他著、朝日出版社

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ベアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEIC のスコアも 975 点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】

・ Course outline

This is a course for students who start to study French. You will learn especially French conversation.

・ Learning objectives

At the end of the course, students are expected to speak basic French .

・ Lecture/Exercise

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 25%、in class contribution: 25 %

LANf100LA

フランス語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

柴崎 秀穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なフランス語会話力の習得を目指します。

【到達目標】

簡単なフランス語が話せて、聞けて、書けて、読めるようになること。フランス文部省認定フランス語資格試験（DELF）のA1レベルに対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

文法事項は最低限にとどめ、基本表現を応用変化させながら、初歩的なフランス語会話力の習得を目指します。教科書の練習問題は基本的に「課題」とし、提出してもらった後、採点して返却、「正解と総評」を配布します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Leçon 7	好みを言う
②	Leçon 7	存在を言う
③	Leçon 8	着ているものを言う
④	Leçon 8	天気を言う
⑤	Leçon 9	スポーツは～をします
⑥	Leçon 9	朝食には～を食べます
⑦	Leçon 10	曜日／場所を言う
⑧	Leçon 10	交通手段を言う
⑨	Leçon 11	時刻を言う
⑩	Leçon 11	日常生活について
⑪	Leçon 12	目的格代名詞
⑫	Leçon 12	目的格代名詞（続き）
⑬	Leçon 12	仕事について
⑭	期末テスト。	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習の必要はありませんが、復習は必ずすること。毎回の授業の最初に、前回習った例文を暗唱してもらうので、きちんと覚えてきてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新装 カフェ・フランセ』、ガイヤール、加藤、中川他著、朝日出版

【参考書】

『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50 %）と平常点（50 %）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ベアの先生が文法を担当するので、こちらはコミュニケーションに特化した授業にしましょう。

【その他の重要事項】

若いころ短期間ですが、日仏会館日本事務所に勤務していました。仕事で使うフランス語および外国語一般について、アドバイスができると思います。また、TOEICのスコアも975点を持っていますので、英語との比較でフランス語を解説します。

【Outline (in English)】

・ Course outline

Students taking this course will learn especially French conversation.

・ Learning objectives

At the end of the course, students are expected to speak basic French .

・ Lecture/Exercise

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be almost an hour for a class.

・ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 25%、in class contribution: 25 %

LANf100LA

フランス語 (1) I

2017 年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法を学びます。コンピを組んでいるフランス人の先生の文法事項のサポートをおこないながら、授業を進めていきます。

【到達目標】

フランス語文法に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。また、同時にパートナーを組んでいるフランス人の先生の文法事項についても解説します。まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。作文については、添削を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について話します 必ず出席のこと
第 2 回	L1 フランス語の読み方	綴り字の読み方の規則
第 3 回	L2 冠詞	不定冠詞・定冠詞
第 4 回	L2 演習	L2 の練習問題
第 5 回	L3 動詞 1	動詞の活用
第 6 回	L3 演習	L3 の練習問題
第 7 回	L4 動詞 2	2つの規則動詞
第 8 回	L4 演習	L4 の練習問題
第 9 回	L5 不規則動詞	ALLER VENIR
第 10 回	L 5 演習	L5 練習問題
第 11 回	L6 形容詞	指示形容詞 所有形容詞
第 12 回	L6 演習	練習問題
第 13 回	L7 代名詞	疑問代名詞 関係代名詞
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー言語と文化で学ぶ新フランス語文法ー

【参考書】

授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【その他の重要事項】

個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline (in English)】

- ① To learn the Elementary grammar of French
- ② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.
- ③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.
- ④ Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 60 %, in class contribution: 40 %

LANf100LA

フランス語 (1) II

2017 年度以降入学者

佐藤 正和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ひきつづきコンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項を説明しながら、フランス語の初級文法を教えていきます。

【到達目標】

フランス語の読み方や発音に慣れ、辞書を使って簡単なフランス語の文章を読んだり書いたりできるようになるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に沿って進めていきます。コンビを組んでいるフランス人の先生の文法事項について解説を行いながら、体系的に文法を解説して行きます。

まず文法項目の説明をし、それから問題演習をするという形式で進めていきます。作文について、添削を行います。時間のある時には教科書以外の音声や映像も用いてフランス語に親しんでもらえるようにするつもりです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	L8 人称代名詞と強勢形	人称代名詞の順序
第 2 回	L8 演習	L8 練習問題
第 3 回	L9 複合過去	複合過去について
第 4 回	L9 演習	練習問題
第 5 回	L10 代名動詞	代名動詞と中性代名詞
第 6 回	L10 演習	練習問題
第 7 回	L11 未来形	単純未来
第 8 回	L11 演習	練習問題
第 9 回	L12 過去形	半過去・大過去
第 10 回	L12 演習	練習問題
第 11 回	L13 条件法	条件法
第 12 回	L13 演習	練習問題
第 13 回	L14 接続法	接続法
第 14 回	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法中心の授業なので、宿題をすることで、その日に勉強した文法項目や動詞の活用などを見直しておくといよいでしょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ボンジュール・フランス』（朝日出版社）
ー 言語と文化で学ぶ新フランス語文法 ー

【参考書】

授業で説明します。
教科書の問題を解くときに仏和辞典が必要なので持ってくるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 80 % 平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

個人的な理由によりオンラインで行う予定です

【Outline (in English)】

- ① To learn the Elementary grammar of French
- ② The goal is to become accustomed to French grammar and to be able to read and write simple French sentences using a dictionary.
- ③ Since this class is centered on grammar, it is a good idea to review the grammar items and verb conjugations you studied that day by doing your homework. The standard preparatory study / review time for this class is 1 hour in total.
- ④ Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANf100LA

フランス語 (2) I

2017 年度以降入学者

村松 マリ=エマニュエル

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 1/Fri.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初心者向けの、会話表現の授業とする。時間の許す限り、フランス語圏の文化や社会に関する情報を紹介する。「フランス語 1」と関連を図る。

【到達目標】

フランス人と会話やメールのやり取りが楽しめるようになることがこの授業の目的です。

You will be able to have pleasure to converse with a french speaking person.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

教科書を使って、まずはモデルの会話を練習し、学生どうしで応用練習をする。次は基礎文法と優しい練習問題をする。At first, you will do pattern practice exercises, then you will learn grammar and do short writing exercises.

期末試験に関するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
回 1	第 8 課、洋服と色 Lesson 8, Clothes and colors	「何着ていますか？」 "What are you wearing?"
回 2	第 8 課、比較する Lesson 8, Comparing	「A は B より～です。」 "A is ~than B."
回 3	第 9 課、朝食 Lesson 9, Breakfast	「朝食に～を取ります。」 "For breakfast I take ~."
回 4	第 9 課、頻度 Lesson 9, Frequency	「私はサッカー～します。」 "I ~do sports."
回 5	第 10 課、場所 Lesson 10, Place	「～へいきましょう。」 "Let's go to ~."
回 6	第 10 課、乗り物と期間 Lesson 10, means of transportation	「どうやって行きますか? どのぐらいの時間がかかりますか?」 "How will you go? How long does it take?"
回 7	第 11 課、時間 Lesson 11, Hour	「今何時ですか?」「～時から～時まで授業があります。」 "What time is it?"
回 8	第 11 課、日常生活 Lesson 11, Daily tasks	「私は～時に起きます。」 "I get up at ~o'clock."
回 9	第 12 課、人について Lesson 12, Asking information about somebody.	「彼女を知っていますか?」 "do you know her?"
回 10	第 12 課、自分のアルバイトについて話す Lesson 12, Speaking about your job.	「アルバイトをしていますか?」 "Do you have a job?"

回 11	第 13 課、フランスの食事 Lesson 13, French meals	「お昼に、何を食べましたか?」 "What did you eat for lunch?"
回 12	第 13 課、注文する・料理の感想 Lesson 13, Ordering in a restaurant.	「～をお願いします。」 「おいかったです。」 "~, please." "It was delicious."
回 13	第 14 課、過去のバカンスについて話す。 Lesson 14, Speaking about passed holidays.	「～へいきました。楽しかったです。」 "I went to ~. I had fun."
回 14	期末テスト Test	会話のテスト Oral test まとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎授業後に必ず復習を行うことが必要です。

About one hour for preparation and revision after every lesson.

【テキスト (教科書)】

カフェ・フランセ Café Français

ニコラ・ガイヤール Nicolas Gaillard

加藤 豊子 Toyoko Kato

中川 高行 Takayuki Nakagawa

フロランス・容子・シュードル Florence Yoko Sudre

朝日出版社 Editions ASAHI

【参考書】

特になし Nothing

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %+ 期末テスト 50 %

Average in the class 50 %+ Oral test 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし Nothing

【その他の重要事項】

必要に応じて上記のプログラムを少し変えることがある I may modify the program in case of necessity.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

It is a conversation class for beginners with a presentation of the french life and culture. It is in relation with the class "French 1" (Furansugo 1).

You will be able to have pleasure to converse with a french speaking person.

You will need about one hour for preparation and revision after every class.

Average in the class 50 %+ Oral test 50 %

Test no feedback will be done during the class.

LANf100LA	
フランス語 (2) II	2017 年度以降入学者
村松 マリ=エマニュエル	
開講時期：秋学期授業/Fall	曜日・時限：金 1/Fri.1
単位数：1 単位	
他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：	

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの、会話表現の授業とする。時間の許す限り、語圏の文化や社会に関する情報を紹介する。「フランス語 1」と関連を図る。

【到達目標】

フランス人と会話やメールのやり取りが楽しめるようになることがこの授業の目的です。

You will be able to have pleasure to converse with a french speaking person.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書を使って、まずはモデルの会話を練習し、学生どうしで応用練習をする。次は基礎文法と優しい練習問題をする。At first, you will do pattern pratcie exercises,ten you will learn grammar and do short writing exercises.

期末試験に関するフィードバックは授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
回 1	第 8 課、洋服と色 Lesson 8, Clothes and colors	「何着ていますか？」 "What are you wearing ?"
回 2	第 8 課、比較する Lesson 8,Comparing	「A は B より~です。」 "A is ~than B."
回 3	第 9 課、朝食 Lesson 9, Breakfast	「朝食に~を取ります。」 "For breakfast I take ~."
回 4	第 9 課、頻度 Lesson 9, Frequency	「私はサッカ~します。」 "I ~do sports."
回 5	第 10 課、場所 Lesson 10, Places	「~へいきましよう。」 "Lets go to ~."
回 6	第 10 課、乗り物と期間 Lesson 10, means of transportation	「どうやって行きますか? どのぐ らいの時間がかかりますか?」 "How will you go ? How long does it take ?"
回 7	第 11 課、時間 Lesson 11, Hour	「今何時ですか?」 「~時から~時 まで授業があります。」 "What time is it?"
回 8	第 11 課、日常生活 Lesson 11, Daily	「私は~時に起きます。」 "I get up at ~o'clock."
回 9	第 12 課、人について 情報を尋ねる Lesson 12, Asking information about somebody.	「彼女を知っていますか?」 "Do yo know her ?"
回 10	第 12 課、自分のアル バイトについて話す Lesson 12, Speaking about your job.	「アルバイトをしていますか?」 "Do you have a job ?"
回 11	第 13 課、フランスの 食事 Lesson 13, French meals	「お昼に、何を食べましたか?」 "What did you eat for lunch ?"

回 12	第 13 課、注文する・ 料理の感想 Lesson 13,Ordering in a restaurant.	「~をお願いします。」 「おいかったです。」 "~, please." "It was delicious."
回 13	第 14 課、過去のバカ ンスについて話す。 Lesson 14, Speaking about passed holidays.	「~へいきました。楽しかった です。」 "I went to ~. "I had fun."
回 14	期末テスト Test	会話のテスト Oral test まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。毎回復習を必ず行ってください。

【テキスト（教科書）】

カフェ・フランセ Café Français
ニコラ・ガイヤール Nicolas Gaillard
加藤 豊子 Toyoko Kato
中川 高行 Takayuki Nakagawa
フロランス・谷子・シュードル Florence Yoko Sudre
朝日出版社 Editions ASAHI

【参考書】

ホームページ
<http://text.asahipress.com/text-web/france/cafefrançais/index.html>

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %+期末テスト 50 % Average in the class 50 %+ Oral test 50 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし Nothing

【学生が準備すべき機器他】

教科書とノート
Text and note

【その他の重要事項】

必要に応じて上記のプログラムを少し変えることがある I may modify the program in case of necessity.

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

It is a conversation class for beginners with a presentation of the french life and culture. It is in relation with the class "French 1" (Furansugo 1).

You will be able to have pleasure to converse with a french speaking person.

You will need about one hour for preparation and revision after every lesson.

Average in the class 50 %+ Oral test 50 %

Test no feedback will be done during the class.

LANf100LA

フランス語 1

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フランス語 2・フランス語 5 とトリオの科目。初修フランス語学習者を対象とし、初歩のフランス語文法を体系的に学ぶ。

【到達目標】

SA アンジェに備え、春semester終了時にはフランス語実用技能検定試験 (仏検) 5 級合格に相当する語学力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

フランス語 2 およびフランス語 5 (ネイティヴ教師との会話実習) と同じテキスト (【テキスト 1】) を使い、連携しながら、各課の導入学習をする。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書 (【テキスト】 2) も使用する。知識の定着のために時々小テストを行う。宿題や小テストに関するフィードバックは授業や **hoppii** を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 1	-アルファベット -主語人称代名詞 -s'appeler (名前を言う)
2	Leçon 1	-動詞 être -qui を用いた疑問文
3	Leçon 2	-定冠詞と不定冠詞
4	Leçon 2	-形容詞の男性形／女性形 -前置詞
5	Leçon 3	-動詞 aller -所有形容詞 -疑問詞 quel(1)
6	Leçon 5	-定冠詞／不定冠詞のまとめ -Il y a -Qu'est-ce que～の使い方
7	Leçon 6	-人称代名詞強勢形 -動詞 avoir -否定文 -名詞と形容詞の性・数一致
8	Leçon 7	-疑問形容詞 quel(2) -comment と combien を用いた疑問文 -指示形容詞
9	Leçon 9	-様々な前置詞表現 -où を用いた疑問文
10	Leçon 10	-命令法 -前置詞と冠詞の縮約
11	Leçon 10	-動詞 prendre -中性代名詞 y
12	Leçon 11	-方角 -主語人称代名詞 on
13	期末テスト	-試験・まとめと解説
14	まとめ	-期末テストの返却・答え合わせ -補足

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

必ず復習を行い、付属の CD をよく聞き、声に出して読むこと。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

1) Guy Capelle, Robert Menand 『Le Nouveau Taxi! 1』 (Hachette)

2) 斎藤昌三『新版 3 段階チェック式フランス語トレーニング・コース』 (白水社、2200 円＋税)

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (宿題や小テストを含む) 50 %

期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業内で答え合わせができなかった宿題に関しては **hoppii** を通じて正答表か添削を配布する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed for beginners who are learning elementary French grammar.

【Learning Objectives】 Aptitude of DAPF Grade 5

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria/Policy】 Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANf100LA

フランス語 3

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 4・フランス語 6 とトリオの科目。フランス語 1 から引き続き、初級フランス語文法を体系的に学ぶ。

【到達目標】

SA アンジェに備え、仏検 4 級合格に相当する語学力の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

フランス語 2 およびフランス語 5（ネイティヴ教師との会話実習）と同じテキスト（【テキスト 1】）を使い、連携しながら、各課の導入学習をします。また文法学習を体系的に補うために、文法の教科書（【テキスト】2）も使用します。知識の定着のために時々小テストを行う。

宿題や小テストのフィードバックは授業や hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Leçon 13	-時間の言い方 -動詞 partir
2	Leçon 14	-動詞 faire - est-ce que を用いた疑問文 - 職業を表す名詞の性・数
3	Leçon 15	-動詞 lire, écrire -代名動詞
4	Leçon 15	-代名動詞 -faire + 部分冠詞 + スポーツ
5	Leçon 17	-部分冠詞 -動詞 boire, acheter
6	Leçon 18	-形容詞 beau の女性形・複数形 -複合過去 (1)
7	Leçon 19	-複合過去 (2) -前置詞 pour, dans を用いた時間の表現
8	まとめ・復習	複合過去
9	Leçon 21	-動詞 pouvoir -否定命令形
10	Leçon 21	-命令形における補語人称代名詞の位置
11	Leçon 22	-動詞 vouloir, savoir -非人称表現 Il faut ~ -近接未来
12	Leçon 23	-動詞 connaître -補語人称代名詞
13	期末テスト	-試験・まとめと解説
14	まとめ	-期末テストの返却・答え合わせ -補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず復習を行い、付属の CD をよく聞き、声に出して読むこと。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- 1) Guy Capelle, Robert Menand 『Le Nouveau Taxi! 1』 (Hachette)
- 2) 斎藤昌三『新版 3 段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2200 円 + 税)

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（宿題や小テストを含む）50 %

期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

授業内で答え合わせができなかった宿題に関しては hoppii を通じて正答表か添削を配布する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is designed for beginners who are learning elementary French grammar.

【Learning Objectives】 Aptitude of DAPF Grade 4

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria/Policy】 Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANf100LA

フランス語 2

2017 年度以降入学者

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 1（日本人教員）、フランス語 5（外国人教員）と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、フランス語の初歩を学びます。表現としては自己紹介、人やものの描写、道順の尋ね方など、文法としては、人称代名詞、文法上の性、現在時制の動詞の活用などを学びます。通じる発音を身に付ける訓練もします。

【到達目標】

SA に行って現地で生活し、学校で学ぶのに必要な知識と技能を身に付けることを目標とします。上記の事柄に関して、聞いてわかる、話す、読む、書くことができるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業を予定しています。

下記の教科書①（Nouveau Taxi）を 3 人の教員がリレーして担当します。全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行います。この教科書を SA 出発までの 1 年半（3 つのセメスター）で終わらせします。

私はさらに下記の教科書②を補助に用いて、特に文法を中心に担当します。この教科書により、初級、さらに中級の文法を、豊富な実例とともに体系的に学ぶことができます。感染状況を踏まえて発音や聞き取りの訓練や模擬会話もできる限り行います。

皆さんは学習支援システムを通して課題を学期中に数回提出することになります。私はそれを添削してやはり学習支援システムを通じてお返しします。また学期末にはまとめの試験をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation・Unité 1 L0 「知っている単語はどれかな」 数詞 アルファベット	授業の紹介 導入 フランス語版のキーボード配列
2	Unité 1 L1： 「ようこそ」	自己紹介／ 人称代名詞、規則動詞の現在時制、 基本動詞 être の単数
3	Unité 1 L2： 「誰ですか」	男性名詞と女性名詞、不規則動詞
4	Unité 1 L3： 「元気？」	不定冠詞、疑問詞
5	Unité 1 L4： メル友募集	E メール表現
6	ゲーム	まとめの読み物と練習問題
7	Unité 2 L5： 「どこにありますか」	定冠詞、基本動詞 être の複数
8	Unité 2 L6： 面通し	人の描写／ 基本動詞 avoir、否定文
9	Unité 2 L7： 買い物	疑問詞、指示形容詞

10	Unité 2 L8： 芸術家たち	エディット・ピアフの伝記映画
11	Unité 3 L9： アパートを借りる	位置の表現／前置詞
12	Unité 3 L10： ルーヴルに行くには	道順の説明／ 命令法、不規則動詞、縮約形
13	授業内試験 Unité 3 L11： 「よい旅行を！」	授業内試験 レユニオン島
14	試験の復習 Unité 3 L11：人や物を示す。	試験の復習 それは～だ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、予習・復習を欠かさないようにしてください。
音声ファイルを使って、例文は常に声を出して学びましょう。
フランスに関する情報に常に注意を払うようにしましょう。
出てきた単語は Excel などにまとめて覚えましょう。
1：アルファベットを学ぶ。フランス語のキーボード配列になれるようにする。
2-7：動詞 être の活用を覚える。文法の性に従って名詞や冠詞を覚える。
8-10：動詞 avoir の活用を覚える。否定文の作り方を学ぶ。
11：前置詞を使った位置表現を学ぶ。
12：命令文を学ぶ。不規則活用の動詞を学ぶ。
13：試験のための復習をする。
14：総復習。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

① *Le nouveau taxi 1*, Guy Capelle & Robert Menand 著, Hachette 社発行
『新装版タクシー！』の第 1 レベル（初級）を用います。世界中のフランス語学習者のために作られたコミュニケーション重視の教科書です。全部で 9 つの単位からなり、それぞれが 4 つの課から成り立ちます。見開きのページからなる 1 つの課には対話文、文法や表現のまとめ、聞き取り、文法、発話の練習問題が含まれます。また 4 課ごとつまりひとつの単位の終わりには総復習の問題があります。3 人の教員の授業の共通教科書です。
②『初級フランス語文法（三訂版）』、天羽均 他 著、朝日出版社。
初級とありますが、中級以上にも使える詳しい教科書です。発音に関しても詳しい説明が載っています。①の教科書を補って、文法を体系的に学び、時に振り返って調べなおすために用います。

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健 著、朝日出版社
『できる順仏検単語集』（5 級～2 級準備レベル）久松健一 著、駿河台出版社
辞書：初級『クラウン仏和辞典』三省堂／『ディコ仏和辞典』白水社／『ロベール・クレ』駿河台出版社
中級以上：『ロワイヤル仏和中辞典』旺文社

【成績評価の方法と基準】

課題や授業での活動（50 %）、期末試験成績（50 %）。
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して音声教材や映像教材を用いる。出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

教室では互いに距離を取って座るために、口頭練習がなかなかうまくいきません。これを工夫する手立てを考えます。

【Outline (in English)】

This course introduces students who are to participate in the SA France program to the basic level of the French language. It is relayed by other two teachers.
The students learn how to introduce themselves, how to describe persons or things, how to ask ways, etc. They learn also the grammar: pronouns, nouns, articles, grammatical genders, verbs in the present indicative, etc.
They train themselves to make themselves understood in oral communications.
At the end of this course they are expected to get practical knowledge on these items to get through during the SA program.

The students are to prepare and review their classes, which will require at least one hour. They must submit an assignment after each unit of lessons.

The final grade will be calculated according to total scores of assignments (50%) and terminal examination(50%).

LANf100LA

フランス語 4

2017 年度以降入学者

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 3（日本人教員）、フランス語 6（外国人教員）、フランス語コミュニケーション I（外国人教員）と連携し、SA アンジェへの参加を前提に、引き続きフランス語の初歩を学びます。表現としては、注文や依頼、要求など、文法としては不規則動詞、代名動詞、近接未来、過去時制などを学びます。

【到達目標】

SA での成果をあげるために必要な知識と技量をさらに増やすことを目標とします。駅やレストラン、大学など、日常での様々な場面に対応できるようにします。

フランス語検定試験 4 級もしくは 3 級、ヨーロッパ共通参照枠 A1 レベルの技能を身に着けることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教室での授業を予定しています。

春学期と同じ教科書（下記の **Nouveau Taxi**）を秋学期では 4 人の教員がリレーして担当します。全体の説明、文法の説明と練習、口頭や筆記による表現の練習を教科書や補助教材に基づき行います。私は特に文法を中心に担当します。使う教科書の文法の進度はやや遅いので、過去など一部の項目に関しては補助の教科書を用いてやや先取りして行う予定です。発音や聞き取りの訓練や模擬会話も状況が許す限り頻繁に行います。

皆さんは学習支援システムを通して課題を学期中に数回提出することになります。私はそれを添削してやはり学習支援システムを通じてお返しします。また学期末にはまとめの試験をする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation :	授業の紹介・春学期の総合まとめ
2	Unité 3 L12 :	マルセイユ界限
	これまでの復習	
3	Unité 4 L13 :	疑問詞、不規則動詞
	駅の窓口で	
4	Unité 4 L14 :	不規則動詞、行為者を表す名詞
	日常生活を説明する	
5	Unité 4 L15 :	不規則動詞、代名動詞
	週末の過ごし方を説明する	
6	Unité 4 L16 :	有名人に関する文章を読む
	「ロール・マノドゥって知ってますか。」	
7	まとめ	疑問詞、不規則動詞、代名動詞
	実用の知識	
8	Unité 5 L17 :	要求、飲食の習慣、量の表現／
	クレープを作る	部分冠詞
9	Unité 5 L18 :	過去の出来事、意見／
	「昨日何をしたの？」	複合過去（助動詞 avoir）
10	Unité 5 L19 :	過去について話す、期間／
	手紙	複合過去（助動詞 être）

11	Unité 5 L20 : 行事	お祭りについて説明する
12	Unité 6 L21 : 機内で／ホテルで	許可・禁止／ 否定命令、命令法と人称代名詞
13	授業内試験 Unité 6 L22 : 求人	授業内試験 非人称構文、近接未来
14	試験の復習 Unité 6 L23 : 直接目的語と間接目的語	試験の復習 提案／ 目的語としての人称代名詞

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予習・復習を欠かさないようにしてください。
音声ファイルを使って、例文は常に声を出して学びましょう。
駅での切符の買い方、提案の仕方など、声に出して演じましょう。
フランスに関する情報に常に注意を払うようにしましょう。
出てきた単語は Excel などにもまとめて覚えましょう。
参考書にあげた『ホームステイのフランス語』でホームステイで役に立つ表現を覚えてください。
1：春学期の復習をする。
2-4：不規則活用動詞を学ぶ。疑問詞の使い方を覚える。
5-7：代名動詞を学ぶ。不規則活用動詞を学ぶ。
8：部分冠詞を学ぶ。
9-11：複合過去を学ぶ。
12：命令法を学ぶ。試験のための復習をする。
13-14：非人称の表現を学ぶ。近接未来を学ぶ。総復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期の教科書を引き続き使います。

- ① *Le nouveau taxi 1*, Guy Capelle & Robert Menand 著, Hachette 発行
②『初級フランス語文法（三訂版）』、天羽均 他 著、朝日出版社。

【参考書】

『かんたんフランス文法小辞典』鈴木豊、久富健 著、朝日出版社
『ホームステイのフランス語』阿南婦美代 著、白水社

【成績評価の方法と基準】

課題や参加状況による平常点（50 %）、期末試験成績（50 %）を総合し評価します。
日ごろから教科書に出てきた例文はすべて声を出して読む、発音に注意して音声教材や映像教材を用いる、出てきた単語は活用も含めて書いて覚えることを心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

教室では互いに距離を取って座るために、口頭練習がなかなかうまくいきません。これを工夫する手立てを考えます。

【Outline (in English)】

Succeeding to the precedent course (French 2), this course introduces students who are to participate in the SA France program to the basic level of the French language. It is relayed by other three teachers.

The students learn how to command dishes or drinks, how to ask or demand something of someone else, etc. They also learn the grammar :irregular verbs, pronominal verbs, near future, past tense, etc.

The aim of this course is to get more knowledge of the French language necessary for effective study during the SA program. The students should be able to get through in a variety of situations in daily life: in a railroad station, a restaurant, the university campus, etc. At the end of the course, they are expected to reach the fourth or third grade level of the APEF or the AI level of CEFR.

The students are to prepare and review their classes, which will require at least one hour. They must submit an assignment after each unit of lessons.

The final grade will be calculated according to the total score of assignments (50%) and terminal examination(50%).

LANf100LA

フランス語 5

2017 年度以降入学者

PHILIPPE JORDY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 1，2 で学んだフランス語を実践的に応用します。

【到達目標】

コミュニケーション・スキルズを中心に授業を進めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

フランス人教師との対話を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話そうとする気分を養っていきます。発音練習・会話練習を毎回 LL 教室で行います。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	Orientation Unité 1 L0	授業の紹介
②	Unité 1 L1	紹介・自己紹介
③	Unité 1 L2	誰ですか
④	Unité 1 L3	お元気ですか
⑤	Unité 1 L4	メールのペンフレンド
⑥	まとめ	中間テスト
⑦	Unité 2 L5	どこにありますか
⑧	Unité 2 L6	人の描写
⑨	Unité 2 L7	買い物
⑩	Unité 2 L8	芸術家たち
⑪	Unité 3 L9	アパートを借りる
⑫	Unité 3 L10	道順の説明
⑬	Unité 3 L11	よい旅行を！
⑭	まとめ	復習 最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

徹底的な予習と復習が不可欠（SA フランス・西部カトリック大学の Cidef プログラムの準備として）。本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

【参考書】

仏和辞典が必要です。4 年間の語学期間がありますので、できれば、本の形で。
(例. Le Dico, 白水社)

【成績評価の方法と基準】

テスト（2 回以上）：50 %

宿題：25 %

参加度（積極性）：25 %

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音や語彙についての練習をさらに強化します。

【学生が準備すべき機器他】

LL 教室ですが、パソコンや録音機の持ち込みは構いません。

【その他の重要事項】

原則として対面授業となります。

【None】

none

【Outline (in English)】

French for beginners (1st semester). This course is focused on developing basic written or oral communication skills in French. It is aimed at students of the Study Abroad program in France. It prepares directly to the A1/A2 level of French proficiency tests.

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

The grading criteria are as follows : intermediate and final tests (50%), in class contribution (25%), homework assignment (correction in class or on the LMS system) : 25%.

LANf100LA

フランス語 6

2017 年度以降入学者

PHILIPPE JORDY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語 5 の続きですが、口頭表現と発音を重視した授業です。

【到達目標】

来年の留学先（SA フランス）を考慮しながら、フランス語基礎能力をのばすことを目的としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

フランス人教師との対話を通じて、フランス語を自発的かつ気軽に話そうとする気분을養っていきます。勿論、予習・復習を必要とします。発音練習・会話練習を毎回 LL 教室で行います。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の紹介	春学期の総合まとめ
②	Unité 3 L12	マルセイユ
③	Unité 4 L13	駅の窓口に
④	Unité 4 L14	スケジュール
⑤	Unité 4 L15	日常の行動、スポーツ
⑥	まとめ	中間テスト
⑦	Unité 4 L16	ロール・マノデュウ
⑧	Unité 5 L17	要求、飲食の習慣、量
⑨	Unité 5 L18	過去の出来事、意見
⑩	Unité 5 L19	過去について話す、期間
⑪	Unité 5 L20	行事
⑫	Unité 6 L21	許可・禁止
⑬	Unité 6 L22	求人
⑭	Unité 6 L23	提案
	まとめ	最終テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

徹底的な予習と復習が不可欠（SA フランス・西部カトリック大学の Cidef プログラムの準備として）。本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

LE NOUVEAU TAXI 1, Robert Menand, Hachette

【参考書】

仏和辞典が必要です。4 年間の語学期間がありますので、できれば、本の形で。

（例. Le Dico, 白水社）

【成績評価の方法と基準】

テスト（2 回以上）：50%

宿題：25%

参加度（積極性）：25%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

発音や語彙についての練習をさらに強化します。

【学生が準備すべき機器他】

LL 教室ですが、パソコンや録音機の持ち込みは構いません。

【その他の重要事項】

原則として対面授業となります。

【None】

none

【Outline (in English)】

French for beginners (2nd semester). This course is focused on developing basic written or oral communication skills in French. It is aimed at students of the Study Abroad program in France. It prepares directly to the A1/A2 level of French proficiency tests.

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

The grading criteria are as follows : intermediate and final tests (50%), in class contribution (25%), homework assignment (correction in class or on the LMS system) : 25%.

LANf100LA

フランス語 1

2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。

そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけでなく、できるだけの確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も確りを行います。

さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏 (= フランコフォニー)」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

【到達目標】

本授業は秋学期の「フランス語 3」に繋がる授業です。

一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。

加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようにします。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異(訛りなど)が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 2」(フランス人教員担当)と連携して授業を進めることになります。本授業「フランス語 1」では文法に重点を置くのに対して、「フランス語 2」は発話に重点を置きます。本授業では時に「フランス語圏 (= フランコフォニー)」に関する映像・音声等を見聞きする場合があります。

毎回の授業では、教科書を中心にして進めますが、特に文法事項に関しては配布資料などで教科書を補足します。

教科書や配布資料の練習問題は授業内で解答できない部分もあるため、ミニ課題として課すことになります。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Phonétique Initiation 1	・挨拶／自己紹介等 ・母音と子音 ・数字／強勢形
2	Vocabulaire de la classe Initiation 2	・教室で使うフランス語／挨拶／ 職業・国籍について尋ねる／名前の綴りを言う等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形

3	Unité 1 Leçon 1	・名前・職業・住んでいる所について尋ねる／自分の仕事を話す等 ・基礎動詞の現在形／人称代名詞／男性形と女性形
4	Unité 1 Leçon 1	・人について質問する等 ・基礎動詞の現在形／肯定形、否定形、疑問形
5	Unité 1 Leçon 2	・職業を尋ねる／やりたい職業を言う等 ・所有形容詞／名詞と形容詞の性数一致
6	Unité 1 Leçon 2	・何語を話すか言う（1）等 ・動詞 <i>vouloir</i> の条件法／国籍と言語
7	Unité 1 Leçon 3	・人について尋ねる／もの・ことを示す等 ・動詞 <i>connaître</i> の現在形単数／性数一致／前置詞＋国名 ・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）／したいことについて話す等
8	Unité 1 Leçon 3	・何語を話すか言う（2）等 ・人称代名詞と <i>on</i> ／観光名所の前に付く定冠詞
9	Unité 2 Leçon 4	・好きなものを言う／好き嫌いの程度（物）等 ・動詞 <i>aimer, préférer</i> の現在形単数／定冠詞
10	Unité 2 Leçon 4	・どちらが好きか言う等
11	Unité 2 Leçon 5	・副詞の位置／否定形／ <i>il y a...</i> ・好きなことを言う／好き嫌いの程度（行動）等
12	Unité 2 Leçon 5	・ER 動詞の現在形のすべて ・したいことについて話す等 ・動詞 <i>aimer</i> ＋ 動詞の不定詞／動詞 <i>vouloir</i> の条件法
13	Unité 2 Leçon 6	・好みを説明する／どちらが好きか理由を述べる等 ・形容詞の男性形、女性形／比較級の基礎／ <i>trouver ça</i> 形容詞 ・人を描写する等 ・理由の表現／ <i>C'est</i> ＋ 形容詞の男性形
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・教科書・配布資料の文章は、確りと読み込むこと。
- ・教科書・配布資料の問題は、必ず予習・復習しておくこと。
- ・意味や発音の分からない単語などは、必ず辞書で調べておくこと。
- ・教科書は文法を段階的に学ぶような構成にはなっていないため、自分自身で文法事項をまとめた上で「文法ノート」を作成すること。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・Gaël Crépieux et Philippe Callens 他著、『Spirale: nouvelle édition』, Hachette, 2015 年。

（＊購入の際には「新版」であることに注意してください。）

・以下の出版社サイトを介して、音声を聞くこともできる。

<https://www.hachette-japon.jp/spirale>

【参考書】

お奨め参考書

①文法全般：『ケータイ「万能」フランス語文法』, 久松健一著, 駿河台出版社, 2000 年；『増補改訂版 新リュミエール』, 森本英夫他著, 駿河台出版社, 2013 年。

②動詞活用：『フランス語動詞 60』, 久保田剛史他著, 朝日出版社, 2015 年。

③仏和辞典：（初級～）『ディコ仏和辞典』, 白水社；（中級～）『ロワイヤル仏和中辞典』, 旺文社；『ロバール・クレ 仏和辞典』, 駿河台出版社。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題、参加度など）：40 %

②期末テスト：60 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・学生の理解度を確認しながら、説明と練習のバランスや進度を調整する。
- ・説明が冗長にならないように気を付けながら、ただし確りと教える。
- ・説明を聞き取りやすい声で行う。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce French language to first-year students of the Faculty of Intercultural Communication (without SA France). In addition to basic learning of French language and cultures, we will enhance global understanding of the French speaking world by listening to (or seeing) audio-visual materials.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 40%, term-end test: 60%.

LANf100LA

フランス語 3

2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は「SA 先でフランス以外を選んだ国際文化学部の学生」を対象として、初級フランス語の知識および学習方法を習得することを目的とします。

そのために、本授業ではコミュニケーション中心の教科書『Spirale』を用いながら、日常的な会話や文章を理解するだけでなく、できるだけの確に反応する練習も行います。ただし、文法規則の解説も確りで行います。

さらに、本授業では「フランス共和国のフランス語を超えて、フランス語圏のフランス語へ」という観点を身に付けるために、「フランス語圏 (= フランコフォニー)」についても、時に資料・映像・音声を用いて簡単に紹介します。

【到達目標】

本授業は春学期の「フランス語 1」を引き継いだ授業です。

一年を通じて初級フランス語の知識を習得することで、簡単な日常会話ができるようになり、またその後の学習方法の基礎を身に付けることができます。特に、フランス語学習において課題となる「発音の基礎」「動詞活用」「冠詞・名詞・形容詞の性数一致」「肯定・否定・疑問の構文」等を集中的に扱うことで、自発的な発話と筆記ができるようになります。

加えて、フランス語がフランス共和国のみならず、フランスの旧植民地を含めた世界各地でも話される言語であることをイメージできるようにします。それと付随して、言語的・文化的に微妙な差異(訛りなど)が有する魅力を感じ取ることができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では教科書『Spirale』を用いて、「フランス語 4」(フランス人教員担当)と連携して授業を進めることになります。本授業「フランス語 3」では文法に重点を置くのに対して、「フランス語 4」は発話に重点を置きます。本授業では時に「フランス語圏 (= フランコフォニー)」に関する映像・音声等を見聞きする場合があります。

毎回の授業では、教科書を中心に進めますが、特に文法事項に関しては配布資料などで教科書を補足します。

教科書や配布資料の練習問題は授業内で解答できない部分もあるため、ミニ課題として課すことになります。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 春学期の復習	・自己紹介／他者紹介／国籍と職業／好き嫌い等 ・基礎動詞の活用／名詞と形容詞の性数一致
2	Unité 3 Leçon 7	・自分について話す (年齢)／科目について話す等 ・動詞 avoir の現在形／序数
3	Unité 3 Leçon 7	・時間の使い方、時間割について話す等 ・疑問形容詞 quel／曜日

4	Unité 3 Leçon 8	・持ち物について話す／所有を表す等 ・不定冠詞／人称代名詞の強勢形 ・物を借りる等
5	Unité 3 Leçon 8	・否定形 n'...pas de／所有形容詞
6	Unité 3 Leçon 9	・場所について説明する／場所について情報を求める等 ・C'est, Ce sont + 名詞／不定冠詞から定冠詞へ／動詞 savoir ・ある場所について尋ねる等 ・il y a／命令法／縮約
7	Unité 3 Leçon 9	・何をするか尋ねる、答える／何をするか尋ねる等 ・不規則動詞の活用／Qu'est-ce que...comme...?／否定形
8	Unité 4 Leçon 10	・詳しく訊く等 ・指示形容詞／特徴を言い、正確に伝える表現
9	Unité 4 Leçon 10	・趣味、余暇について話す／頻度を示す等 ・faire de, jouer de／否定形 (復習)／jouer à
10	Unité 4 Leçon 11	・習慣について話す等 ・中性代名詞 en／頻度を示す副詞／形容詞 autre
11	Unité 4 Leçon 12	・家族について話す／過去の出来事について語る等 ・所有形容詞／動詞 être の現在形／avoir を用いる複合過去／過去分詞の作り方
12	Unité 4 Leçon 12	・過去の出来事について語る等 ・avoir と être を用いる複合過去／過去分詞の作り方／複合過去の否定形
13	Unité 4 Leçon 12	・過去の出来事について語る等 ・avoir と être を用いる複合過去／複合過去の疑問形
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・教科書・配布資料の文章は、確りと読み込むこと。
・教科書・配布資料の問題は、必ず予習・復習しておくこと。
・意味や発音の分からない単語などは、必ず辞書で調べておくこと。
・教科書は文法を段階的に学ぶような構成にはなっていないため、自分自身で文法事項をまとめた上で「文法ノート」を作成すること。
本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

・Gaël Crépieux et Philippe Callens 他著、『Spirale: nouvelle édition』, Hachette, 2015 年。

(※購入の際には、「新版」であることに注意してください。)

・以下の出版社サイトを介して、音声を聞くこともできる。

<https://www.hachette-japon.jp/spirale>

【参考書】

お奨め参考書

①文法全般:『ケータイ「万能」フランス語文法』, 久松健一著, 駿河台出版社, 2000 年;『増補改訂版 新リュミエール』, 森本英夫他著, 駿河台出版社, 2013 年。

②動詞活用:『フランス語動詞 60』, 久保田剛史他著, 朝日出版社, 2015 年。

③仏和辞典: (初級〜)『ディコ仏和辞典』, 白水社; (中級〜)『ロワイヤル仏和中辞典』, 旺文社;『ロベール・クレ 仏和辞典』, 駿河台出版社。

【成績評価の方法と基準】

評価配分は、以下の通り

①平常点 (ミニ課題、参加度など): 40 %

②期末試験: 60 %

【学生の意見等からの気づき】

・学生の理解度を確認しながら、説明と練習のバランスや進度を調整する。

・説明が冗長にならないように気を付けながら、ただし確りと教える。

・説明を聞き取りやすい声音で行う。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce French language to first-year students of the Faculty of Intercultural Communication (without SA France). In addition to basic learning of French language and cultures, we will enhance global understanding of the French speaking world by listening to (or seeing) audio-visual materials.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 40%, term-end test: 60%

LANf100LA

フランス語 2

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエヌ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します。教科書に掲載されている練習問題や、その他の補足的な練習を授業で行います。宿題はクラスで添削します。受講中、受講後の生徒からの質問にも講師がお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	オリエンテーション
2	Leçon 1	発音練習① Phonétique
3	Leçon 1	発音練習② Phonétique
4	Leçon 2	男性形と女性形・動詞 ETRE
5	Leçon 3	ER 動詞・定冠詞①
6	Leçon 4	不規則動詞 VENIR など・数と時間
7	Leçon 5	不定冠詞・疑問文
8	Leçon 6	動詞 AVOIR・代名詞 EN と否定形
9	Leçon 7	所有形容詞・3人称の活用
10	Leçon 8	定冠詞②・不規則動詞 FAIRE
11	Leçon 9	現在形の活用・代名動詞
12	Leçon 10	近い未来・場所を表す前置詞
13	Leçon 11	複合過去①・程度の副詞
14	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

宿題:各レッスン終了後、レッスン中に学習した新しい単語や文法事項を学習する必要があります

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

無い

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.

GOAL :

Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語 4

2017 年度以降入学者

コリンヌ ヴァリエヌ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象とします。同じテキストを日本人教師と分担して進めます。この授業では主に会話を学びます。

【到達目標】

会話の例文を読んでからペアで練習します。学生同士のコミュニケーションが中心です。教科書の練習問題をしながら、聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、Hoppi などを活用する場合もある。

このクラスの目的は日常生活や旅行に必要な事柄をフランス語で表現できるようになることです。会話文や表現パターンを繰り返し声に出し、応用練習を行うことによって、話すことが自然と身に付き、自然の速さの聞き取りが容易にできるよう心がけながら授業を進めます。大切なのは、文法の知識を楽しく使いこなすことです。また、フランス語圏・文化などを紹介する DVD や字幕付きのフランス映画を鑑賞する予定です。必要に応じて日本語でも説明します

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	まとめ① Révisions	まとめ① Révisions Leçon 1 à 10
2	Leçon 11	周波数の表現方法
3	Leçon 12	複合過去①・程度の副詞
4	Leçon 13	複合過去②・代名詞 Y と EN
5	Leçon 14	半過去・最上級①
6	Leçon 15	部分冠詞・関係代名詞①
7	Leçon 16	直接目的語代名詞
8	Leçon 17	複合過去③・形容詞
9	Leçon 18	頻度と期間の表現
10	Leçon 19	間接目的語代名詞
11	Leçon 20	単純未来形・前未来系
12	Leçon 21	比較級
13	Leçon 22	関係代名詞②
14	まとめ② Révisions	まとめ② Révisions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。
宿題を提出することが必須です。
毎週新しい語彙と表現を覚えること。

【テキスト（教科書）】

SPIRALE NOUVELLE EDITION/LIVRE DE L'ELEVE

【教科書】著者:CREPIEUX+CALLENS+TAKASE+NEGISHI / ISBN:9782014015812

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、期末テスト 60 点

【学生の意見等からの気づき】

無い

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners. Students will share the same textbook with a Japanese teacher. In this class, you will learn mainly simple conversation.

GOAL :

Students will be able to read example sentences of conversation and then practice in pairs. The focus is on communication between students. Listening, reading, speaking, and writing skills are also practiced while doing exercises from the textbook.

PREPARATION :

Homework. The standard preparation and review time for this class is one hour combined. You have to learn and memorise new vocabulary and grammar point studied during the lesson.

GRADING CRITERIA :

Normal score: 40% (presence, participation and homework), final exam: 60%

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

提出物は添削したうえで次の授業で返却します。

質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	準備体操 (1)	フランス語の音に慣れましょう
第 2 回	準備体操 (2)	フランス語の特徴をつかみま
	第 1 課	しょう。 名詞の性と数
第 3 回	第 1 課	不定冠詞、定冠詞
	第 2 課	主語人称代名詞
		etre の直説法現在
		など
第 4 回	第 3 課	部分冠詞
		avoir の直説法現在
		など
第 5 回	第 4 課	-er 動詞の直説法現在形
		否定文
第 6 回	第 5 課	変則的な -er 動詞
		疑問文、否定文
第 7 回	第 6 課	形容詞 (女性形、複数形、位置)
第 8 回	第 7 課	語尾が -ir の動詞の直説法現在
		指示形容詞、所有形容詞
第 9 回	復習 1	第 1 回小テスト (予定)
第 10 回	第 8 課	aller,venir の直説法現在、近い
		未来、近い過去など
第 11 回	第 9 課	faire,prendre の直説法現在、疑
		問形容詞、疑問副詞
第 12 回	第 10 課	attendre の直説法現在、疑問代
		名詞
第 13 回	復習 2	第 2 回小テスト (予定)
第 14 課	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ア・ピエ！』（朝日出版社）

【参考書】

授業中に指示することもあるかと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。

この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。

詳細は第一回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline (in English)】

Course outline; study of elementary grammar of French language

Learning objectives; understanding of the elementary grammar

Learning activities outside of classroom; home work(1hour)

Grading Criteria; 2 minitests(25/150x2) and the final test(100/150)

LANf100LA

フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

提出物は添削したうえで次の授業で返却します。

質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	復習 1	第 1 課～第 10 課
第 2 回	第 11 課	vouloir, pouvoir の直説法現在、 非人称構文、命令法
第 3 回	第 12 課	人称代名詞強勢形、過去分詞、直 説法複合過去
第 4 回	第 13 課	強調構文、形容詞・副詞の比較 級・最上級
第 5 回	第 14 課	目的語人称代名詞
第 6 回	第 15 課	代名動詞の直説法現在、用法
第 7 回	復習 2	第 1 回小テスト (予定)
第 8 回	第 16 課	関係代名詞、受動態
第 9 回	第 17 課	直説法半過去、指示代名詞
第 10 回	第 18 課	直説法単純未来、中性代名詞
第 11 回	復習 3	第 2 回小テスト (予定)
第 12 回	第 19 課	条件法現在、現在分詞、ジェロン ディフ
第 13 回	第 20 課	接続法現在
第 14 回	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ア・ピエ！』（朝日出版社）を使用します。

【参考書】

授業中に指示することもあるかと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。

この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。

詳細は第一回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline (in English)】

Course outline; study of elementary grammar of French language

Learning objectives; understanding of the elementary grammar

Learning activities outside of classroom; homework(1hour)

Grading Criteria; 2 minitests(25/150x2), final test(100/150)

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間
環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

提出物は添削したうえで次の授業で返却します。

質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 0 課	発音と綴り
第 2 回	第 1 課	主語人称代名詞と動詞 etre の直説法現在ほか
第 3 回	第 2 課	冠詞、第一群規則動詞など
第 4 回	第 3 課	動詞 avoir 、第二群規則動詞の直説法現在 など
第 5 回	第 4 課	品質形容詞の位置など
第 6 回	第 5 課	動詞 aller, venir の直説法現在など
第 7 回	第 6 課	疑問副詞、疑問形容詞など
第 8 回	第 7 課	動詞 partir の直説法現在など
第 9 回	第 8 課	動詞 faire の直説法現在など
第 10 回	復習 1	第 1 回小テスト (予定)
第 11 回	第 9 課	命令法、所有形容詞など
第 12 回	第 10 課	様々な否定の用法、数量表現など
第 13 回	復習 2	第 2 回小テスト (予定)
第 14 課	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を必ずやってくる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『もう一歩先へのフランス語文法』（白水社）を使用します。

【参考書】

授業中に指示することもあるかと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合計 150 点満点でつけます。

この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評価を下します。

詳細は第一回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline (in English)】

Course outline; study of elementary grammar of French language

Learning objectives; understanding of the elementary grammar
Learning activities outside of classroom; home work(1hour)

Grading Criteria; 2 minitests(25/150x2) and the final test(100/150)

LANf100LA

フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

稲垣 正久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【到達目標】

フランス語の初級文法の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間
環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業は文法事項の説明と練習問題で構成されます。学生諸君には授
業への積極的な参加姿勢が強制的に求められます。とりわけ本年度
は問題を多く解いてもらい、理解をより深いものにすることを目指
します。宿題、自宅学習は毎回出されると思ってください。

提出物は添削したうえで次の授業で返却します。

質問等は授業の前後に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	復習 1	第 0 課～第 1 0 課
第 2 回	第 1 1 課	強勢形、目的補語人称代名詞など
第 3 回	第 1 2 課	代名動詞、非人称構文など
第 4 回	第 1 3 課	直説法複合過去など
第 5 回	復習 2	第 1 回小テスト (予定)
第 6 回	第 1 4 課	受動態、中性代名詞など
第 7 回	第 1 5 課	直説法半過去、大過去
第 8 回	第 1 6 課	関係代名詞
第 9 回	第 1 7 課	直説法単純未来、前未来など
第 10 回	第 1 8 課	所有代名詞、比較級・最上級
第 11 回	復習 3	第 2 回小テスト (予定)
第 12 回	第 2 0 課	条件法現在、条件法過去
第 13 回	第 2 2 課	接続法現在、接続法過去
	第 2 3 課	現在分詞、ジェロンディフ
第 14 回	総括	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回出される宿題を必ずやってくる。本授業の準備学習・復習
時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『もう一歩先へのフランス語文法』（白水社）を使用します。

【参考書】

授業中に指示することもあるかと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験が 100 点、動詞の活用に関する小テスト 2 回各 25 点、合
計 150 点満点でつけます。

この点数にいわゆる平常点（出席点ではない）を加算して、最終評
価を下します。

詳細は第一回目の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく脱落者を出さぬよう注意する。なお、「気づき」という言葉
は変だと思う。「気づいたこと」などの表現を用いるべきだ。

【Outline (in English)】

Course outline; study of elementary grammar of French language

Learning objectives; understanding of the elementary grammar

Learning activities outside of classroom; homework(1hour)

Grading Criteria; 2 minitests(25/150x2), final test(100/150)

LANf100LA

フランス語 1 - I

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者を対象として、フランス語の初歩を学びます。とくに、初級文法を勉強します。もちろん、発音や綴りの読み方も覚えます。

【到達目標】

アルファベットから始めて比較級まで学ぶ。フランス語検定試験5級ならびに4級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業では、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。この春学期に、アルファベットの学習から始めて、比較級まで学ぶ予定です。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス	授業説明、アルファベ
2)	leçon 2	名詞の性と数、冠詞
3)	leçon 2, leçon 3	主語人称代名詞、être と avoir の直説法現在
4)	leçon 3, leçon 4	C'est, etc. 第 1 群規則動詞、第 2 群規則動詞
5)	leçon 4, leçon 5	形容詞、基本文型、否定形
6)	leçon 5, leçon 6	不規則動詞 attendre, prendre、疑問形、oui, Non, Si
7)	leçon 6, leçon 7	所有形容詞、不規則動詞 prendre, faire、指示形容詞
8)	leçon 7, leçon 8	名詞と形容詞の女性形と複数形の特殊形、不規則動詞 acheter, préférer、aller と venir の直説法現在
9)	leçon 8, leçon 9	近接未来・近接過去、冠詞の縮約、不規則動詞 vouloir, pouvoir
10)	leçon 9	疑問代名詞
11)	leçon 9	疑問副詞、不規則動詞 savoir, connaître
12)	leçon 10	疑問形容詞、比較級
13)	leçon 10	比較級と最上級、不規則動詞 voir, commencer
14)	期末試験とまとめ	春学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

Students will learn basic French grammar. Aim to obtain the 5th and 4th grades of the French certification test.

Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total.

Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語 1 - II

2017 年度以降入学者

江澤 健一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語の初歩を学びます。文法規則や発音の仕方を少しずつ覚えます。秋学期は、過去や未来の表現などを勉強して、初級文法を一通り学びます。

【到達目標】

命令法の学習から始めて接続法まで学習する。フランス語検定試験 4 級ならびに 3 級の取得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教室では、教師が文法の説明をして、次に受講生の皆さんが練習問題に挑みます。その際、辞書が必要になりますから、毎回必ず持参してください。この授業は、文法学習が中心になりますが、発音や綴りの読み方の規則も確認しながら進めます。

基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	春学期の復習	春学期試験の復習
2)	leçon 11	命令法、非人称構文、不規則動詞 manger, dire
3)	leçon 12	過去分詞、直説法複合過去
4)	leçon 12, leçon 13	直説法複合過去、人称代名詞目的補語形、人称代名詞強勢形
5)	leçon 14	複合過去と目的補語人称代名詞、複合過去と過去分詞の一致
6)	leçon 15	関係代名詞、強調構文、指示代名詞
7)	leçon 16	代名動詞の活用と用法、不規則動詞 s'appeler
8)	leçon 17	直説法単純未来、中性代名詞 le, en, y、不規則動詞 devoir
9)	leçon 18	直説法半過去の活用と用法
10)	leçon 19	受動態、現在分詞、ジェロンディフ
11)	leçon 20	条件法現在の活用と用法
12)	leçon 21	条件法現在の活用と用法、接続法現在の活用と用法
13)	leçon 21	接続法現在の活用と用法、不規則動詞 vivre
14)	期末試験とまとめ	秋学期に学んだことを確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に、辞書を使って単語の意味を調べ、例文を読み、練習問題を解く。自宅で音読をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小野ゆり子、村松・マリ＝エマニュエル『マ・グラメール』白水社、2018 年、2300 円。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

テストの点数を基準にして評価します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

聞き取りやすい授業をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

Students will learn basic French grammar. Aim to obtain Level 4 and Level 3 of the French certification test. Before class, use a dictionary to look up the meaning of words, read example sentences, and solve exercises. Read aloud at home. The standard preparatory study / review time for this class is one hour in total. Evaluate based on test scores (100%).

LANf100LA

フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。

原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELTA A1 レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS など活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の紹介
	Initiation 1	挨拶
2	Initiation 2	自己紹介 数字
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいるところについて尋ねる 自分の仕事について話す
4	Leçon 1	ある人について質問する
5	Leçon 2	職業をたずねる やりたい職業を言う
6	Leçon 2	国籍をたずねる 何語を話すのか言う
7	Leçon 3	ある人についてたずねる 何かを示す
8	Test	中間テスト
	Leçon 3	何語を話すかを言う
9	Leçon 4	好きなものを言う 好き嫌いの程度を言い表す
10	Leçon 4	どちらが好きかを言う
11	Leçon 5	なにをするのが好きか言う
12	Leçon 5	好き嫌いの程度を言い表す したいことについて話す
13	Leçon 6	好みを説明する どちらが好きか理由を述べる
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（復習のために家で書く練習する）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette

ISDN：978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言等） 33 % で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声ダウンロードができます。

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

In this class, we study French conversation at a beginner level. This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4. The goal of this course is to teach French conversation and grammar. Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 33%, Mid-Term examination : 34%, in class contribution: 33%. To receive a credit, you must not be absent more than 4 times.

LANf100LA

フランス語 2 - II

2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語 2-1 と関連した授業です。

原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELTA A1 レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年) 科目について話す
3	Leçon 7	時間の使い方 時間割について話す
4	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
5	Leçon 8	物を借りる
6	Leçon 9	ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	余暇の過ごし方
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	生活習慣について話す
13	Leçon 12	家族について話す
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（家で書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette

ISDN：978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言等）33%で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声ダウンロードができます。

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

In this class, we study French conversation at a beginner level. This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4.

The goal of this course is to teach French conversation and grammar. Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 33%、Mid-Term examination : 34%、in class contribution: 33%. To receive a credit, you must not be absent more than 4 times.

LANf100LA

フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。

原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対 面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定 4～5 級）と口頭試験（DELF A 1 レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	授業の紹介
	Initiation 1	挨拶
2	Initiation 2	自己紹介 数字
3	Leçon 1	名前、職業、住んでいるところについて尋ねる 自分の仕事について話す
4	Leçon 1	ある人について質問する
5	Leçon 2	職業をたずねる やりたい職業を言う
6	Leçon 2	国籍をたずねる 何語を話すのか言う
7	Leçon 3	ある人についてたずねる 何かを示す
8	Test	中間テスト
	Leçon 3	何語を話すかを言う
9	Leçon 4	好きなものを言う 好き嫌いの程度を言い表す
10	Leçon 4	どちが好きかを言う
11	Leçon 5	何をするのが好きか言う
12	Leçon 5	好き嫌いの程度を言い表す したいことについて話す
13	Leçon 6	好みを説明する どちらが好きか理由を述べる
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（復習のために家で書く練習する）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette

ISDN : 978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言等）33%で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声をダウンロードができます。

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

In this class, we study French conversation at a beginner level. This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4. The goal of this course is to learn French conversation and grammar. Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 33%, Mid-Term examination : 34%, in class contribution: 33%. To receive a credit, you must not be absent more than 4 times.

LANf100LA

フランス語 2 - II

2017 年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてフランス語を習う学生を対象に、聞く・話す・読む・書くを勉強し、実践的な能力を強化する授業です。フランス語 2 - I と関連した授業です。

原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

このクラスの目標は日常生活に必要な表現と会話を身につけることです。また、話す練習を通して、文法を勉強します。フランス文化なども紹介し、その知識を養うことを目指します。

資格は筆記試験（フランス語検定 4 ～ 5 級）と口頭試験（DELTA A 1 レベル）に対応しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

会話の例文の説明を聞いた後、音読を繰り返し、発音と表現パターンを覚えます。その後、ペアで自分の会話を作って、ロールプレーなどで練習します。リスニングと筆記の文法の練習問題もします。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMS などを活用する場合もある

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Révisions	復習
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年) 科目について話す
3	Leçon 7	時間の使い方 時間割について話す
4	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
5	Leçon 8	物を借りる
6	Leçon 9	ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	余暇の過ごし方
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	生活習慣について話す
13	Leçon 12	家族について話す
14	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題（家で書く練習をする）本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

題名 Spirale 筆者 Gael Crépieux / Philippe Callens

出版社 Hachette

ISDN：978-2-01-401581-2

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 33% 期末試験 34 %、平常点（授業中の発言など） 33% で評価します。5 回以上欠席する者は評価の対象としないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランスの文化やフランス人の生活について詳しく話します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンで音声をダウンロードができます。

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

In this class, we study French conversation at a beginner level. This class prepares to DELF A1 or Futsuken level 5 or 4. The goal of this course is to learn French conversation and grammar. Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 33%, Mid-Term examination : 34%, in class contribution: 33%. To receive a credit, you must not be absent more than 4 times.

LANf100LA

フランス語 2 - I

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 初級のフランス語会話を学ぶ
- 4 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】

初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができるようになること。

文章を読んで理解できるようになること。

フランス文化の特質を知ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

各課のテキストの文法説明をする。

練習問題を解く。

会話練習をする。

小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
授 業	オリエンテーション	年間授業計画
計 画	発音の練習	成績評価の方法
発 音 の	Salut!	0 課
仕 組 み	アルファベットの読み方	つづり字の読み方
母 音 字	Bonjour!	1 課
の 読 み		名詞の性と数
方		
子 音 字	Un café, SVP.	挨拶の表現
の 読 み		
方		
名 詞 と	Je suis étudiant.	2 課
冠 詞		主語人称代名詞
動 詞	le Japon, japonais.	2 課 否定文・疑問文
être		
主 語 の	Mon grand frère	3 課
意味		主語人称代名詞（3 人称）
動 詞	Il habite à Paris.	3 課
avoir		形容詞、所有形容詞
直 接 目	J'aime beaucoup	4 課
的 語		-er 型動詞
規 則 動	Pourquoi?	4 課
詞 の 活		定冠詞
用		
間 接 目	Vous avez?	5 課
的 語		動詞 avoir
不 規 則	Vous avez faim?	5 課
活 用 の		疑問形容詞
動 詞		
近 接 未	Je vais au musée.	6 課 aller, venir
来・近		
接過去		

歌と文 OÙ es-tu? 6 課 前置詞と定冠詞の縮約

法のま 会話のまとめ

とめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『アン・タンデム!』（余語毅憲、2022 年、白水社、2300 + 税）（ISBN 978-4-560-06146-6 C3085）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。

小テストと期末試験の評価割合は 50% + 50%。

小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算

して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。

4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。

遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受けられない。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube など映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】

辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar and learning to sing songs of French Pops.

This course introduces

A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.

The goals of this course are to

have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LANf100LA

フランス語 2 - II

2017 年度以降入学者

杉村 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級フランス文法を学びながらフランス文化の多様性を知る。

- 1 フランス語の単語や文を発音できるようにする。
- 2 フランス文化を紹介した簡単な文を訳す力をつける。
- 3 初級フランス語会話に親しむ
- 4 フランス語を学ぶことにより、日本語の面白さを知る

【到達目標】

初級文法の基礎を学びつつ、きちんと発音ができること。

フランス語の文章を読んで理解すること。

フランス文化の特質を知ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

各課のテキストの文法説明をする。

練習問題を解く。

声を出して会話練習をする。

小テストや期末テストのフィードバックは、授業内に LINE や学習支援システムを通して行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
後期授 業計画	後期オリエンテーション Quelle heure est-il?	7 課 代名動詞
代名動 詞	Quel temps fait-il?	7 課 日常の習慣
近接未 来	On va aller	8 課 近接未来
近接過 去	Je viens de finir	8 課 近接過去
比較級	moins cher que	9 課 比較級
最上級	le plus cher	9 課 最上級
直接目 的語	Alors, je le prends	10 課 直接目的語
間接目 的語	Je peux sortir	10 課 間接目的語
過去分 詞	Tu as fait quoi?	11 課 過去分詞
複合過 去・半 過去	Je suis allé à	11 課 複合過去
非人称 構文	Ecoutez et parlez	12 課 非人称構文
命令法	Je sais nager Je peux nager	12 課 命令法
文法の まとめ	会話の総復習 疑問詞のまとめ	文法のまとめ 6 つの法
時制の まとめ	期末テスト	時制のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『アン・タンデム!』（余語綾憲、2022 年、白水社、2300 + 税）（ISBN 978-4-560-06146-6 C3085）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

前回の授業内容から、次回の授業開始時に小テストを行う。

小テストの合計と、期末試験の合計を 100 点満点に換算

して、法政大学の評価基準に応じて評価する。

毎回出席を取る。欠席は 3 回まで認める。

4 回以上欠席すると期末試験受験の対象から外れる。

遅刻は 30 分まで出席にするが、小テストは授業開始時に行うので、小テストが終了していれば、受けられない。

小テストと期末試験の評価割合は 50 % + 50 %。

【学生の意見等からの気づき】

映像を見せて欲しいとの要望があり、適宜 Youtube などで映像を見せていく

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・ライブの授業ではないが、資料をオンラインで配布することがあるので、指定された時は PC を持参して欲しい。

【その他の重要事項】

辞書を持参すること。どのような辞書を推薦するかは、教室で支持する。

【Outline (in English)】

This course is designed for beginners who are learning basis French grammar and learning to sing songs of French Pops.

This course introduces

A(learning french grammar, french culture and good pronunciation.

The goals of this course are to

have a good pronunciation, sing french pops, and read a french texte.

Learning activities outside of classroom, after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies; Your overall grade in the class will be decided based on the following ; Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LANr100LA

ロシア語 1 I

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とし、ロシア語のアルファベット、発音、初級文法を習得する。なお、本授業は「ロシア語 2 I」と連携している。

【到達目標】

(1) ロシア語の文字を読み書きすることができる。(2) ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間でロシア文字とその発音をしっかりとして習得する。その後、初級文法を教科書で学びながら、様々な練習問題を解くことにより、理解・定着を図る。視聴覚教材もふんだんに使い、まずはロシア語に親しむことを目指す。各課を終えるごとに小テストを実施し、理解度をこまめに確認しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第 1 課 文字の発音と書き方	ロシア語の文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第 1 課 文字と単語の発音、発音のテスト	ロシア語の文字と単語の発音（子音）、アクセント、発音のテスト
4	第 2 課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、挨拶の練習
5	第 2 課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第 3 課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第 3 課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第 4 課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第 4 課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
10	第 5 課 動詞の不定形と過去形	動詞（不定形と過去形）
11	第 5 課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明
12	第 6 課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
13	第 6 課 前置格	前置格の説明、春学期の復習
14	授業内試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には該当箇所を予習し、新出単語の意味を調べる。授業後には新たに学んだ事項を復習し、わからないところを次回の授業で質問する。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）
 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

露和・和露辞典（博友社「ロシア語辞典」（1995 年）など）
 和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）（60 %）、期末試験（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

語学学習にとどまらず、ロシアの社会状況や文化についても可能な限り触れる。

【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces you to the foundations of Russian language. In this semester, we will focus on mastery of alphabets, pronunciation, and basic grammar and vocabulary. The course will be followed by the “Russian I-2” course in the autumn semester. No prior knowledge of Russian is required.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) read and pronounce Russian alphabets and 2) explain basic Russian grammar.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare for the class and look up the meanings of new vocabulary. In this class, there will be a mini-test for each unit. Be sure to review the grammar and vocabulary before the mini-test. The standard preparation and review time for this class is one hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the following:

Class participation (including mini-tests): 60%, Term-end examination: 40%.

LANr100LA

ロシア語 1 II

2017 年度以降入学者

油本 真理

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の諸学者を対象とする。本授業ではロシア語の初級文法の習得に加え、簡単な会話、文章の読み書きを学ぶ。なお、本授業は「ロシア語 2 II」と連携している。

【到達目標】

(1) 簡単なロシア語会話ができる。(2) ロシア語の文章から情報を得たり、ロシア語で必要な情報を伝えたりすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら習得を目指す。また、文法の勉強と並行して会話練習や文章講読などにも取り組み、学んだ文法知識を実践する。各課を終えるごとに小テストを実施し、理解度をこまめに確認しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期に学んだ文法事項の確認
2	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の命令形、対格変化（名詞、人称代名詞）
3	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	対格変化、曜日の表現
4	第 7 課 動詞の命令形、対格、曜日の表現	動詞の変化（-с я、歯音、唇音）
5	第 8 課 運動の動詞	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
6	第 8 課 運動の動詞	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
7	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格
8	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の変化
9	第 9 課 形容詞・所有代名詞の対格、前置格	人称代名詞の変化
10	第 10 課 生格	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
11	第 10 課 生格	所有の表現、否定生格
12	第 11 課 与格と造格	与格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
13	第 11 課 与格と造格	造格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
14	まとめと確認	秋学期に学んだ文法事項のまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には該当箇所を予習し、新出単語の意味を調べる。授業後には新たに学んだ事項を復習し、わからないところを次の授業で質問する。また、小テストの前には必ず文法事項や語彙を復習する。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）
 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

露和・和露辞典（博友社『ロシア語辞典』（1995 年）など）
 和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）（60 %）、期末試験（40 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

重要な文法事項については繰り返し復習を行って確実な定着を図る。

【その他の重要事項】

授業計画は学生の習熟度により若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces you to the foundations of Russian language. It will be offered to students who take the “Russian 1 I” course in the spring semester. In this semester, we will focus on providing knowledge on Russian grammar and vocabulary, as well as basic reading, listening comprehension, speaking, and writing skills. By the end of this course, students will be able to 1) communicate in Russian through basic phrases and 2) read and write basic Russian texts.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) read and pronounce Russian alphabets and 2) explain basic Russian grammar.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to prepare for the class and look up the meanings of new vocabulary. In this class, there will be a mini-test for each unit. Be sure to review the grammar and vocabulary before the mini-test.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on the following:

Class participation (including mini-tests): 60%, Term-end examination: 40%.

LANr100LA

ロシア語 1 I

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1) 文字と発音の習得、2) 初級文法の最初の段階。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。

「ロシア語 1 II」とセットになっています。また、「ロシア語 2 I」と提携して行なわれる授業です。

ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。

次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。

まず文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。

小テストで復習しながら、着実にものにしていきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。

⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

この段階で最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。ロシア語は、初級段階の学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

授業時間外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 1 (Part 1).

The aim of this course is to learn Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.)

At the end of this course, students should be able to read and write Cyrillic alphabet and understand the most simple Russian sentences.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr100LA

ロシア語 1 II

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（後編）。1) 初級文法。2) 会話、読解、作文。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

「ロシア語 1 I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。

「ロシア語 2 II」と提携して行なわれる授業です。

ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。

文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。

学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習を始めましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編（2020/2021 年度版、2018/2019 年度版、両者の内容はまったく同一なので、どちらでも可）。

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %、期末試験 80 %。適宜、既習の内容を復習する小テストを行います。期末試験はこれら小テストを総括するテストです。ロシア語は、文法学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 1 (Part 2).

The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

At the end of this course, students should be able to read and write simple Russian texts and hold easy Russian conversations.

Befor/after each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr100LA

ロシア語 1 I

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語をはじめて学ぶ学生向けの授業です。ロシア語のアルファベット、単語の発音から始めて、簡単な文章を読み、辞書を用いて意味を理解できるようにします。

【到達目標】

教科書の単語と文法を着実に習得する。テキストが読めるようになる。練習問題や宿題を積み重ねて理解度を上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 2 との提携授業です。下記の授業計画にもとづき、文法説明を行い、テキストや練習問題をつうじて理解を深めます。適宜小テストを実施し、採点の上、次回授業で返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	子音の発音、単語の発音
4	基本文型	「～は～である」「～に～がある」という表現、平叙文と疑問文
5	名詞の性	人称代名詞や名詞の性別
6	名詞の複数	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「～の」という表現と名詞の性数との関係
8	形容詞	形容詞と名詞の性数の関係
9	動詞の過去形	主語の性数と動詞の過去形の作り方
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
12	動詞の未来形	主語の人称に応じた動詞の未来形の作り方
13	前置格	「～で」「～について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire elementary Russian.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire Russian words and grammar.

Learning Activities Outside of Classroom

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語 1 II

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で使った「初級ロシア語」の教科書を引き続き使い、ロシア語の文法学習を進めます。

【到達目標】

文法学習を進め、かんたんな会話や文章の読解、作文ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 2 との提携授業です。春学期同様、下記の授業計画にもとづき、文法説明を行い、テキストや練習問題をつうじて理解を深めます。適宜小テストを実施し、採点の上、次回授業で返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「～しろ」「～してください」という表現
3	対格	対格（～を）の作り方と、それをもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「～へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格と前置格の作り方、用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格と前置格の作り方、用法
7	名詞の生格	名詞の生格（～の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（～に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格の作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格の作り方と用法
14	秋学期試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。新出単語は各自で調べるようにしてください。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一、白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、
学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire the basics of Russian grammar.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire Russian words, grammar and expressions dealt in the textbook.

Learning Activities Outside of Classroom

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語 2 I

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の発音、読み方、書き方から始めます。それらを習得した後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題やテキストの読解などで応用力をつけることを目指します。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に返答できること。学んだ文法を理解し、運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 との連携授業です。ロシア語 1 で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化 (1)	動詞の現在人称変化（第 1 変化）の説明と練習
10	動詞の現在人称変化 (2)	動詞の現在人称変化（第 2 変化）の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言しやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語Ⅱ

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだこと復習しながら、練習問題やテキストの読解によって応用力を養います。ロシア語の特徴である 6 つの格変化と動詞の活用形を習得し、平易なロシア語の文章を日本語に訳したり、簡単なロシア語の会話ができるようになることを目指します。

【到達目標】

動詞の活用形（現在、過去、未来、命令形）を覚え、運用できること。格の用法を理解し、形を覚えること。平易なロシア語の文章を理解し、正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、コミュニケーションできること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。ロシア語 1 で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進捗によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case inflection).

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語 2 I

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語アルファベットの読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

【到達目標】

教科書の単語と文法を着実に習得する。テキストが的確に音読できるようになる。かんたんな挨拶、会話を理解し、適切に応答する。文法を応用しかんたんな表現を使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 との提携授業です。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、対話の練習を行います。本文を暗記してもらい発音チェックするなど、適宜小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンスとアルファベットの紹介
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	単語の発音、発音の規則
4	基本文型	「～は～である」「～に～がある」という表現、平叙文と疑問文、イントネーション
5	名詞の性	人称代名詞、名詞の性
6	名詞の複数形	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「～の」という表現と名詞の性数との関係
8	形容詞	名詞の性数に応じた形容詞の変化
9	動詞の過去形	主語の性数に応じた動詞の過去形の作り方
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
12	動詞の未来形	主語の人称に応じた動詞の現在形の作り方
13	前置格	「～で」「～について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつづじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、
学期末試験 60 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire elementary Russian.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire Russian words and grammar.

Learning Activities Outside of Classroom

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語 Ⅱ

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。

【到達目標】

学習した文法事項をもとにかんたんなロシア語の文章を理解し日本語に訳せるようになる。かんたんなロシア語の会話を理解し、それに適切に応えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音チェックをするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「～しろ」「～してください」という表現
3	対格	対格（～を）の作り方とそれをもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「～へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格の作り方と用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格、前置格の作り方と用法
7	名詞の生格	名詞の生格（～の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（～に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格の作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格の作り方と用法
14	秋学期試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編〔2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可〕

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %、
学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire the basics of Russian grammar.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire Russian words, grammar and expressions dealt in the textbook.

Learning Activities Outside of Classroom

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語 2 I

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語の文字の発音、読み方、書き方から始めます。それらを習得した後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題やテキストの読解などで応用力をつけることを目指します。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み、書けること。アクセントを意識して単語を発音できること。イントネーションを意識してまとまった文章を音読できること。簡単な挨拶を理解し、的確に返答できること。学んだ文法を理解し、運用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 との連携授業です。ロシア語 1 で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたち授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベット	文字の発音、書き方練習
2	文字と発音	発音の規則の説明と練習
3	文のイントネーション	イントネーションの紹介と練習
4	挨拶、人称代名詞	簡単な挨拶と人称代名詞の説明
5	名詞の性と数	名詞の性、単数・複数形
6	所有代名詞	所有代名詞の説明と練習
7	形容詞	形容詞の説明と練習
8	動詞の過去形	動詞の過去形の説明と練習
9	動詞の現在人称変化 (1)	動詞の現在人称変化（第 1 変化）の説明と練習
10	動詞の現在人称変化 (2)	動詞の現在人称変化（第 2 変化）の説明と練習
11	動詞の未来形	動詞の未来形の説明と練習
12	前置格	前置格の説明と練習
13	まとめと復習	既習事項のまとめと復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習して覚えるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編〔2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可〕

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語Ⅱ

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだことを復習しながら、練習問題やテキストの読解によって応用力を養います。ロシア語の特徴である 6 つの格変化と動詞の活用形を習得し、平易なロシア語の文章を日本語に訳したり、簡単なロシア語の会話ができるようになることを目指します。

【到達目標】

動詞の活用形（現在、過去、未来、命令形）を覚え、運用できること。格の用法を理解し、形を覚えること。簡単なロシア語の文章を理解し、正確に日本語に訳せること。簡単なロシア語の会話を理解し、コミュニケーションできること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。ロシア語 1 で学んだ単語、文法事項、文章表現を復習しながら、練習問題の答え合せと解説、テキストや会話の読解と解説、というかたちで授業を進めます。また知識の定着や習熟度の確認のために、定期的に課題や小テストを課します。添削したものは、次回の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	動詞の命令形	動詞の命令形の説明と練習
2	対格	対格の説明と練習
3	行き先と乗り物の表現	行先と交通手段の表現
4	所有代名詞・形容詞の格変化	所有代名詞と形容詞の格変化の練習
5	不規則な動詞	不規則な動詞の活用と用法
6	生格	生格の説明と練習
7	生格を使った表現	所有の表現、否定生格の表現
8	与格	与格の説明と練習
9	与格を使った表現	与格を要求する前置詞など
10	造格	造格の説明と練習
11	造格を使った表現	造格の表現や造格を要求する前置詞
12	名詞の格変化の復習	名詞の格変化の復習
13	所有代名詞・形容詞の格変化の復習	所有代名詞・形容詞の格変化の復習
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は事前に辞書で意味を調べ、覚えるようにしましょう。授業で学んだことはしっかり復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問・発言しやすい双方向的な授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進捗によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with verb-related grammar (past, present, future and imperative form) and declension (case inflection).

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語 1

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）の授業です。ロシア文字の読み方、書き方から始め、初級文法を学習します。ロシア語の発音とイントネーションを重視し、ロシア語の単語の聞き取りや簡単な文の作成までも練習します。

【到達目標】

ロシア語の文字、言葉、文書を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を理解することができる。

At the end of the course, students are expected to be able to read and write Russian letters, words and documents, to understand the basics of Russian grammar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。「ロシア語2」とセットになった授業です。まずはロシア語文字に慣れ、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることになります。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文字と発音（その1）	ロシア語に関する総合的説明。ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
2	文字と発音（その2）	ロシア語の単語の読み方の規則。
3	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
4	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
5	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
6	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
7	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
8	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
9	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。
10	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。

11	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
12	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
13	まとめと復習	ここまでの学習のポイント。期末試験対策。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この段階での最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

Students will be expected to have completed the required assignments (homework) after each class meeting. The standard preparation and review time for this course is one hour.

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編。[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

『博友社ロシア語辞典』

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、小テスト・宿題 50 %

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど)。

【その他の重要事項】

ご質問などは elena.mikami.66@hosei.ac.jp までお問い合わせください。

【Outline (in English)】

The main objective of the elementary course of the Russian language for beginners is to enable students to read Russian letters, to master Russian pronunciations, to understand the elementary Russian grammar.

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria: term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr100LA

ロシア語 3

2017 年度以降入学者

佐藤 千登勢

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 5/Mon.5

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 4、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきたいと思います。この授業が終わる頃には、ロシア語で平易な読み物が読めるようになり、簡単な会話表現が身に付いていることでしょう。具体的には、ロシア語能力検定試験 4 級もしくは 3 級程度の力がついているはずです。

【到達目標】

SA ロシアでの授業や生活で困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。文法事項としては、ロシア語能力検定試験 4 級から 3 級程度の力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

春学期と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。春学期に学んだ文法事項を復習するところから始め、引き続き、新たな文法事項を練習問題や読解を通して着実に身につけていきます。文法を学ぶことが語学上達の鍵ですので、一生懸命吸収してください。授業は音読に力を入れます。小テストや課題は教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	春学期期末試験の確認を通して復習を行う。
第 2 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の人称変化。	運動の動詞（定動詞と不定動詞）の概念について。その人称変化を確認。
第 3 回	運動の動詞（定動詞と不定動詞）。方向の指示方。交通手段。対格、前置格。	前回授業の復習。方向を示す副詞句。交通手段を表す表現。対格と前置格の復習。
第 4 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。	形容詞＋名詞の前置格、対格を覚える。
第 5 回	前置格、対格の形容詞・所有代名詞の変化。	前回授業の復習。テキストの読解と質疑応答。
第 6 回	生格（形容詞・所有代名詞も含む）。	形容詞＋名詞の生格を覚える。テキストの読解と質疑応答。
第 7 回	生格（形容詞・所有代名詞も含む）。	前回授業の復習。練習問題。テキストの読解と質疑応答。
第 8 回	与格と造格。	形容詞＋名詞の与格を覚える。テキストの読解と質疑応答。
第 9 回	与格と造格。	形容詞＋名詞のを造格を覚える。テキストの読解と質疑応答。
第 10 回	動詞の完了体・不完了体。練習問題。	動詞の完了体・不完了体の概念としくみについて。その区別を行う練習問題。
第 11 回	動詞の完了体・不完了体。	前回授業の復習と確認。
第 12 回	関係代名詞。テキスト読解。	関係代名詞のしくみについて。文章の中で、関係代名詞の機能を確認していく。

第 13 回	関係代名詞／目的を示す接続詞。テキスト読解。	前回の復習。目的を示す接続詞を学ぶ。仮定法のしくみについて。
第 14 回	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業内容の予習（とくに辞書を引く作業）。復習を兼ねた課題。本授業の予習・復習時間は合わせて 1 時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】

春学期に同じ。

【参考書】

春学期に同じ。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、期末試験（25 %）、小テスト（25 %）。この成績評価をもとに本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

文法と会話の力を身につけていく工夫を重ねていきます。

【Outline (in English)】

● Course outline

This course proceeds in close contact with courses: Russian 4 and Russian 6.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar: grammatical cases, grammatical aspects and relative pronoun. We will be able to read easy texts and have simple conversations in Russian.

● Learning objectives

Students will acquire daily Russian proficiency. Focus on developing communication skills as well as improving vocabulary and grammar. As for grammatical matters, you will acquire the ability of the Russian Language Proficiency Test Level 4 to Level 3.

● Learning activities outside of classroom

Preparation for the next lesson (especially the work of looking up a dictionary). It takes about 1.5 hours to prepare for the next lesson.

● Grading Criteria/Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance (50 %), term-end exam(25 %) and quizzes(25 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr100LA

ロシア語 2

2017 年度以降入学者

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1、ロシア語 5 と連携する授業です。単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎作りをしていきましょう。また、コミュニケーション手段としてのロシア語を身近に感じてもらうために、映画や歌謡を通して、習得した表現がどのように使われているのかを確認する時間もちます。ロシアの文化や慣習とつねに結び付けながら、また英語や日本語との比較を絶えず視野に入れながらロシア語の特殊性、面白さを発見していきましょう。

【到達目標】

ロシア語の文字、音声に慣れましょう。文法の初歩を確実に積み重ね、日常生活で欠かせない表現や単語を覚えて、ロシア語での簡単なコミュニケーションを楽しみます。音読に力を入れて、簡単なロシア語の文章を流麗に読めるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と同じ教材を使用し、それぞれの担当教員がリレー方式で授業を進めます。ロシア語 1 で学んだ文法事項を練習問題や簡単な口頭表現で定着させていきます。文法を学ぶことが、語学上達の鍵となりますので、一生懸命に吸収してください。授業は音読に力を入れます。課題や小テストは教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音	ガイダンス。 ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。
第 2 回	文字と発音	ロシア語のアルファベット。文字の確認と音に慣れる。
第 3 回	基本文型「これは何？」 「これは誰？」	物や人を尋ねる表現を覚え、基本的な名詞を覚えながら反復練習。
第 4 回	基本文型。名詞の性について。	平叙文の基本文型と疑問詞のない疑問文を確認しつつ、練習問題で基本文型の基礎固めを行う。名詞の性分類。
第 5 回	名詞の複数形。所有代名詞。自己紹介の練習。	名詞の複数形の作り方の基礎と例外を覚える。名詞の性と所有代名詞の関係を覚える。
第 6 回	名詞の複数形。所有代名詞。個数詞 1 ～ 10。	前回の内容を復習しながら、新たな例外も覚える。
第 7 回	指示代名詞と形容詞。個数詞 1 ～ 12。	名詞の性と形容詞の関係について覚える。モスクワの街について知る。個数詞を復習しながら 12 まで書けるようにする。
第 8 回	動詞の過去形。ロシア人の名前について。練習問題。個数詞 11 ～ 20。	動詞の過去形の作り方を覚える。ロシア人の名前・父称・姓について。個数詞を 20 まで覚える。
第 9 回	動詞の現在形。前置格。動詞の現在形。前置格。場所の表現。個数詞 11 ～ 20。	動詞の現在人称変化（第 1 変化／第 2 変化）を覚える。場所を表す前置格。個数詞の復習。
第 10 回	動詞の未来形。前置格。練習問題。個数詞 21 ～ 69。	動詞の未来形（合成未来）の作り方を覚える。個数詞を 69 まで口頭で言えるようにする。

第 11 回	動詞の命令形。曜日の表現。対格。「～が好き」を使った会話練習。個数詞 70 ～ 100。	動詞の命令形の作り方を覚える。個数詞を 100 まで口頭で言えるようにする。
第 12 回	動詞の歯音変化と唇音変化。再帰動詞の変化。個数詞 50 ～ 199。	動詞の歯音変化と唇音変化を覚える。再帰動詞のしくみと変化について。個数史を 199 まで口頭練習。
第 13 回	動詞の現在、過去、未来形の復習。個数詞 11 ～ 199。	春学期に学習したロシア語文法とロシア語の会話表現、疑問文、個数詞の復習を行う。
第 14 回	期末試験。	筆記とディクテーションからなる期末試験を実施。まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回授業内容の予習。復習を兼ねた課題。本授業の予習・復習時間は、合わせて 1 時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』（法政大学ロシア語担当教員編）（2018/2019 年度版）と（2020/2021 年度版）とは同一内容なので、どちらの版を入手しても問題ない。

【参考書】

和久利智一『入門ロシア語文法』改訂版（白水社）
木村彰一 他編『博友社ロシア語辞典』博友社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）、小テスト（25 %）、期末試験（25 %）として総合的に判断します。この評価をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

文法の基礎固めのために、分かり易い説明を心がけます。

【Outline (in English)】

● Course outline

This course proceeds in close contact with courses: Russian 1 and Russian 5.

In this course, we will acquire basics of Russian grammar and increase the vocabulary of Russian. We will be able to say greetings in Russian.

● Learning objectives

Students become accustomed to Russian letters and pronunciations. Make sure you build up the basics of grammar, learn expressions and words in everyday life, and enable easy communication in Russian. You will be able to read simple Russian sentences fluently.

● Learning activities outside of classroom

Preparation for the next lesson takes about 1.5 hours.

● Grading Criteria/Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance (50 %), term-end exam(25 %) and quizzes(25 %).To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANr100LA

ロシア語 4

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 3、ロシア語 6 と連携する授業です。春学期に引き続き、単語をフレーズのなかで覚えながら語彙力をつけ、さらに新たな文法事項を習得していくことで、ロシア語の基礎を盤石にしていきたいと思います。この授業が終わる頃には、ロシア語能力検定試験 4 級もしくは 3 級程度の力がつきます。

【到達目標】

SA ロシアでの授業や生活に困らない程度の日常的なロシア語運用能力を身につけるよう頑張ります。ロシアでの生活は、ロシア語でのコミュニケーションが成り立つ事で、その充実度や喜びは数倍も変わります。語彙力と文法力の増強はさることながら、コミュニケーション能力を身につけることに焦点を当てます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 3 と同じ教材を使用し、各担当教員がリレー方式で授業を行います。ロシア語 3 で学んだ文法事項を復習しつつ、練習問題を解いたり、テキストを読解することで応用力を養います。小テストや課題は教場で確認を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期で学んだ事項の確認と復習。
2	対格の用法	対格の説明と用法練習。
3	対格を使った表現	曜日など対格が含まれる表現の練習。
4	交通の表現	交通の手段と行先の表現（前置格、対格の応用）
5	所有代名詞・形容詞の格変化（前置格・対格）	所有代名詞・形容詞の格変化の説明と練習。
6	生格の用法	生格の説明と練習。
7	生格の用法	生格の説明と練習。
8	与格と造格の用法	与格と造格の説明と練習。
9	与格と造格の復習	名詞の格変化の総復習。
10	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の概念としくみ。練習問題。
11	動詞の完了体・不完了体	動詞の完了体・不完了体の復習
12	関係代名詞	関係代名詞のしくみについて
13	関係代名詞・目的を示す接続詞	関係代名詞の練習
14	期末試験	文法を確認する筆記試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学で予習、復習は大切です。新出単語は事前に辞書で意味を確認し、授業で学んだことはしっかり復習しましょう。格変化は変化表でくりかえし確認し覚えるようにしましょう。本授業の予習・復習時間は、合わせて 1 時間半を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』2020/2021 年度版 法政大学ロシア語担当教員編

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社
木村彰一 他編『博友社ロシア語辞典』博友社

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、期末試験（25%）、小テスト（25%）として総合的に判断します。この成績評価をもとに本授業の到達目標の 60%以上を達成した学生を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

双方向的な授業を心がけます。

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire the basics of Russian grammar.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire Russian words, grammar and expressions dealt in the textbook.

Learning Activities Outside of Classroom

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語 5

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1、2 と連携した授業です。ロシア語 1、2 で学んだことを復習しながら、ロシア語の正しい発音やイントネーション、基本的な単語や文法を習得します。

【到達目標】

ロシア語のアクセントの位置やイントネーションを確認して、正しく発音できるようになること。学んだ文法を理解し、運用できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1、2 で学んだことを復習しながら、知識の定着をはかるために練習問題を解き、語彙を増やすために小テストを実施します。また必要に応じて課題を課します。添削した小テストや課題は、次の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文字と発音	ロシア（キリル）文字の発音練習。
2	文字と発音	ロシア（キリル）文字の発音練習。
3	基本文型（～は～である。～に～がある。）	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の復習と練習。
4	基本文型（～は～である。～に～がある。）	平叙文と疑問文のイントネーションの練習、単語・表現の復習と練習。
5	名詞の複数、所有代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
6	形容詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
7	動詞の過去形、副詞、格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
8	動詞の現在形、未来形、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
9	動詞の現在形、未来形、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
10	動詞の命令形、対格、曜日	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
11	動詞の命令形、対格、曜日	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
12	運動の動詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
13	運動の動詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示した課題は必ずやってくる。小テストの内容や範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようにしてください。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 %の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度により若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This is a course for beginners. For the beginning, Russian alphabet, pronunciation of each letter, phonics and simple conversation for the first contact will be introduced. After that it deals with elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire elementary grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語 6

2017 年度以降入学者

上野 理恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 3、4 と連携した授業です。ロシア語 3、4 で学んだことを復習しながら、基本的な単語や文法を身につけ、総合的なロシア語力を養います。とくに格変化や数詞を使った表現の定着をはかります。

【到達目標】

教科書で学んだ文法事項を応用レベルで定着させること。ロシア語能力検定試験の 4 級・3 級レベルに合格する程度の力をつけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書で学んだことを復習しながら、知識の定着をはかるために練習問題を解き、語彙を増やすために小テストを実施します。また必要に応じて課題を課します。添削した小テストや課題は、次の授業時に返却しますが、「学習支援システム」を通して返却する場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	形容詞・所有代名詞の対格、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
2	形容詞・所有代名詞の対格、前置格	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
3	生格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
4	生格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
5	与格と造格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
6	与格と造格（名詞・形容詞・所有代名詞）	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
7	動詞の完了体、不完了体	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
8	動詞の完了体、不完了体	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
9	関係代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
10	関係代名詞	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
11	数詞と名詞の結合	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
12	数詞と名詞の結合	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
13	比較級、最上級、仮定法	テーマに関わる単語・表現の復習と練習。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で提示した課題は必ずやってくる。小テストの内容や範囲については前の週の授業で指定するので、覚えておくようにしてください。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』（改訂版）白水社
露和辞典（博友社ロシア語辞典、コンサイス露和辞典等）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、小テスト、課題提出などを含む）50 %、期末試験 50 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが質問や発言をしやすい授業を心がけます。

【その他の重要事項】

授業計画は、授業の進度によって若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation. It mainly deals with declension (case inflection) and expression of numbers.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire basic grammar to read and understand Russian texts and conversation.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50 %, in class contribution: 50 %

LANr100LA

ロシア語 1 - I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学で初めてロシア語を学ぶ学生のための授業です。アルファベットの文字と発音の習得から始め、基礎文法と基本単語を身につけ、初級テキストの正確な音読・和訳、簡単な露作文の作成、また、挨拶など初歩的なコミュニケーション能力を養成します。履歴書に資格として記載できるロシア語能力検定試験4級合格の準備を始めます。ロシア文化に関する知識も広げていきます。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットと単語を美しく正確に発音できる。ロシア語の文字をパソコンのキーボード入力や手書き（筆記体など）ができる。初級文法の最初のステップ（名詞、形容詞、動詞の変化など）を習得する。挨拶などの簡単な会話を覚え、実際に使ってみる。ロシア語能力検定試験4級合格をひとつの目標とし、単語や文法を着実に身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験4級合格に向けての練習問題も解いていきます。また視聴覚教材などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、第1課 文字の発音と書き方	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音（母音）、簡単な挨拶
2	第1課 文字と単語の発音	文字と単語の発音（子音）、アクセント
3	第2課 基本文型（～は...である）	基本文型（～は...である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、発音のミニテスト
4	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞
5	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
6	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
7	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞と指示代名詞
8	第4課 形容詞	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題
9	中間テスト、第5課 動詞の不定形と過去形	中間テスト（2課から4課）、第5課 動詞（不定形と過去形）
10	第5課 副詞と格について	副詞の作り方、格の説明
11	第6課 動詞の現在形と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と未来形（合成未来）
12	第6課 前置格	第6課 前置格

13	春学期の復習	春学期の復習（5課と6課の動詞と格変化を中心に復習）
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（5課・6課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につけましょう。課題は学習支援システムから提出をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）
 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]
 ・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
 露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
 『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

発音の学習後に発音のミニテスト、中間テストと最終週の期末テストを行います。この試験結果が評価の 70 % となります。その他の 30 % は平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド教材や視聴覚資料も豊富で分かりやすい授業だった、ロシア語能力検定試験への準備が授業内で出来るので良かったとの意見がありました。
 毎回皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、対面授業を基本とし開催します。授業形態の変更や諸連絡は学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning Objectives】 This is the first class for students learning Russian at university. Beginning with the acquisition of letters and pronunciation of the alphabet, you will acquire basic grammar and basic words, and develop basic communication skills such as accurate reading and Japanese translation of beginner's texts, creation of simple composition, and greetings. We will start preparing to pass Level 4 of the Russian Language Proficiency Test, which can be listed as a qualification in your resume. We will also expand our knowledge of Russian culture. 【Learning activities outside of classroom】 It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts). As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 After learning pronunciation, you will have a pronunciation mini-test, mid-term test and final week final test. This test result is 70% of the evaluation. The other 30% will be evaluated comprehensively based on normal points (degree of participation in class, attitude of approach), homework and assignments.

LANr100LA

ロシア語 1 - II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「ロシア語 1 - I」に続く授業です。この授業の目的は、初級ロシア語の「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけることです。そのために、1) 初級ロシア語文法の規則性を習得する、2) 辞書を用いて、和訳、露訳作文ができる、3) リスニング、リーディングの力を伸ばす、4) 挨拶などの会話ができるように学習します。5) ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、準備を進めていきましょう。

【到達目標】

ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ初級文法をきちんと使いこなしながら、辞書を用いてテキストの意味を理解し和訳できる。ロシア語の作文、リスニング力、会話力を伸ばし、毎年 5 月と 10 月に開催されるロシア語能力検定試験 4 級 3 級合格への準備を進める。「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。文法のエッセンスを取り上げ、繰り返しながら、文法の階段を登っていきましょう。そして習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文、会話をこなしていくことで、毎回確実に基礎の語学力が身につけていきます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第 7 課 動詞の命令形、曜日	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第 7 課 対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я 動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第 8 課 運動の動詞 1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第 8 課 運動の動詞 2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間試験・まとめと解説	中間試験・まとめと解説（7 課と 8 課）
7	第 9 課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第 9 課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第 10 課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）

12	第 11 課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の総復習	秋学期の総復習
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（9-11 課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。課題は学習支援システムから提出する。予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。その他にロシアの歴史や文学、芸術にも関心を持ち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をするなど、自己研鑽にも挑戦してみましょう。

【テキスト（教科書）】

- ・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）
- ・[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]
- ・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
 露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
 『ティータイムのロシア語《CD 付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 70 % となります。その他に平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題提出などを 30 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド教材や視聴覚資料も豊富で分かりやすい授業だった、ロシア語能力検定試験への準備が授業内で出来るので良かったとの意見がありました。
 毎回皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

ロシア語 1-I を履修していることが受講条件です。
 今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、対面授業を基本とし開催します。授業形態の変更や課題提出などは学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning Objectives】This course follows the spring semester "Russian 1-I". The main aim of this course is to acquire comprehensive language skills of "listening, reading, speaking and writing". The purpose of this course is 1) to learn the regularity of elementary Russian grammar, 2) to be able to translate Japanese and Russian using a dictionary, 3) to improve listening and reading skills, and 4) to have conversations such as greetings, 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 4. 【Learning activities outside of classroom】It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts). As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】In the fall semester, mid-term and final exams will be conducted as evaluation tests. This test result is 70% of the evaluation. In addition, the normal score (degree of participation in class, attitude of approach) and homework and assignment submission will be set at 30%, and a comprehensive evaluation will be given.

LANr100LA

ロシア語 1 - I

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（前篇）。1) 文字と発音の習得、2) 初級文法の最初の段階。

【到達目標】

ロシア語の文字を読み書きすることができる。ロシア語の文法の基本を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語をはじめて学ぶ学生を対象とします。
 「ロシア語 1-II」とセットになっています。また、「ロシア語 2-I」と提携して行なわれる授業です。
 ロシア語ではラテン文字と異なるキリル文字が用いられています。まずはこの馴染みのない文字に慣れることに集中します。自分の口で発音し、手で書くことによってマスターしていきましょう。授業への積極的な参加が不可欠です。
 次に、文字と発音の練習を継続しながら、だんだんと基本的な文法に取りかかることにします。ポイントとなるのは、動詞の過去形・現在形・未来形の変化を覚えること、それから英語などにはない「格」という仕組みを理解することです。
 まず文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。
 学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	文字と発音（その 1）	ロシア語のアルファベットの書き方と読み方。
②	文字と発音（その 2）	前回の続き。
③	文字と発音（その 3）	ロシア語の単語の読み方の規則。
④	基本文型	「～は…である」、「～に…がある」という表現。
⑤	名詞の性	名詞の男性、女性、中性の判別の仕方。
⑥	名詞の複数形	名詞の単数形から複数形を作る仕方。
⑦	所有代名詞	所有代名詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑧	形容詞	形容詞と名詞（男性単数・女性単数・中性単数／男性複数・女性複数・中性複数）との結合の仕方。
⑨	動詞の過去形	動詞の過去形は、主語である名詞が男性か女性か中性か、単数か複数かによって決まること。
⑩	名詞の格	名詞には六つの「格」（主格・生格・与格・対格・造格・前置格）があること。

⑪	動詞の現在形	動詞の現在形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑫	動詞の未来形	動詞の未来形は、主語の人称（わたし・あなた・彼・彼女など）によって決まること。
⑬	名詞の前置格	名詞の主格から前置格を作る仕方、名詞の前置格の意味。
⑭	期末試験	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

この段階で最も重要な準備学習は、暗唱や音読など、ロシア語を実際に声に出すことです。単語を辞書で調べる学習は、後から次第に増やすようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編（2020/2021 年度版、2018/2019 年度版、両者の内容はまったく同一なので、どちらでも可）。

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。適宜、既習の内容を復習するための課題の提示や小テストを行います。期末試験はこれら課題や小テストを総括するテストです。

ロシア語は、文法学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一歩一歩確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 1 (Part 1).

The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and the most introductory grammar (the gender of nouns, nouns in singular and plural, the past, present and future tenses of verbs, etc.)

At the end of this course, students should be able to read and write Cyrillic alphabet and understand the most simple Russian sentences.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr100LA

ロシア語 1 - II

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 1/Wed.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語入門（後編）。1) 初級文法。2) 会話、読解、作文。

【到達目標】

簡単な会話をロシア語で行ったり、必要最低限の情報をロシア語の文章から得る、またはロシア語で書くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

「ロシア語 1-I」に引き続き、ロシア語の初学者を対象とします。

「ロシア語 2-II」と提携して行なわれる授業です。

ここでの文法学習のポイントとなるのは、名詞（と形容詞・所有代名詞）の「格」の変化と意味を覚えることです。

文法事項を解説し、練習問題で理解を定着させる実習型の授業となります。

学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
①	春学期の復習	名詞の性・数・格、動詞の過去形・現在形・未来形。
②	動詞の命令形	命令の表現の作り方。
③	名詞の対格	名詞の主格から対格を作る仕方、名詞の対格の意味。曜日の表現。
④	運動の動詞（その 1）	運動の動詞の意味、現在形・過去形。
⑤	運動の動詞（その 2）	運動の動詞の使い分け。
⑥	形容詞の前置格と対格	名詞の前置格と形容詞の前置格、名詞の対格と形容詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑦	所有代名詞の前置格と対格	名詞の前置格と所有代名詞の前置格、名詞の対格と所有代名詞の対格、それぞれの結合の仕方。
⑧	名詞の生格	名詞の主格から生格を作る仕方、名詞の生格の意味。
⑨	形容詞・所有代名詞の生格	名詞の生格と形容詞・所有代名詞の生格との結合の仕方。
⑩	名詞の与格	名詞の主格から与格を作る仕方、名詞の与格の意味。
⑪	形容詞・所有代名詞の与格	名詞の与格と形容詞・所有代名詞との結合の仕方。
⑫	名詞の造格	名詞の主格から造格を作る仕方、名詞の造格の意味。
⑬	形容詞・所有代名詞の造格	名詞の造格と形容詞・所有代名詞の造格との結合の仕方。
⑭	期末試験、まとめと解説	文法問題。露文和訳。和文露訳。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

ロシア語を声に出す準備学習と復習に加えて、辞書で単語を引き、ロシア語の文章の意味を自分の力で理解する練習を始めましょう。春学期よりもずっと大変な学習になるので、努力が必要です。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編（2020/2021 年度版、2018/2019 年度版、両者の内容はまったく同一なので、どちらでも可）。

【参考書】

和久利誓一著『入門ロシア語文法（改訂版）』白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。適宜、既習の内容を復習するための課題の提示や小テストを行います。期末試験はこれら課題や小テストを総括するテストです。

ロシア語は、文法学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材をより一層利用するよう努める。

授業外の準備学習や復習に学習支援システムからの課題提出を活用する。

【Outline (in English)】

Elementary Russian 1 (Part 2).

The aim of this course is to learn introductory grammar (the cases of nouns, verbs of motion, etc.) and to practice elementary conversation, reading and writing.

At the end of this course, students should be able to read and write simple Russian texts and hold easy Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr100LA

ロシア語 2 - I

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を「聞く・読む・話す・書く」練習をこなし、大学で初めて学ぶ語学を確実に身につけます。この授業の目的は、1) ロシア語初級文法の規則性を理解し習得する、2) 習得した文法と辞書を用いて、和訳、露訳ができる、3) リスニング、リーディング、会話の練習をし、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につける、4) ロシア語能力検定試験 4 級合格を目指す。一緒に頑張りましょう。

【到達目標】

ロシア語のアルファベットを覚え、書けるようになる。単語の美しく正確な発音ができる。名詞を中心とした文法（形容詞、所有代名詞、指示代名詞）と動詞の変化を覚える。格の意味などロシア語の構文の構造を理解する。挨拶などの簡単な会話を覚える。ロシア語能力検定試験 4 級合格をひとつの目標とし、対象範囲の必須単語や文法などを確実に習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初の一ヶ月間で、ロシア文字とその発音をしっかりと習得します。初級文法を教科書で学びながら、ロシア語能力検定試験 4 級合格に向けての練習問題も解いていきます。また、視聴覚教材などを用い、「聞く・話す・読む・書く」等、五感でロシア語に親しみます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ロシア語の予備知識、文字と発音	ロシアとロシア語について、アルファベットと発音
2	第1課 ロシア文字の発音と書き方	ロシア文字の発音と書き方、発音練習（母音）
3	第1課 ロシア文字と単語の発音、発音のテスト	ロシア文字と単語の発音（子音）、アクセント、発音のテスト
4	第2課 基本文型（～は... である）	基本文型（～は... である）、イントネーション（平叙文と疑問文）、挨拶の練習
5	第2課 名詞の性、人称代名詞	名詞の性、人称代名詞、検定試験問題
6	第3課 名詞の複数形、正書法	名詞の複数形、正書法
7	第3課 所有代名詞	所有代名詞、会話と練習問題
8	第4課 形容詞と指示代名詞	形容詞の用法と指示代名詞
9	第4課 形容詞・中間試験・まとめと解説	形容詞（硬変化、軟変化）とその練習問題、中間試験・まとめと解説
10	第5課 動詞の不定形と過去形	動詞（不定形と過去形）
11	第5課 副詞と格	副詞の作り方、格の説明

12	第6課 動詞の現在形 と未来形	動詞の現在形（現在人称変化）と 未来形（合成未来）
13	第6課 前置格 春学期の復習	前置格の説明、春学期の復習
14	期末試験・まとめと解 説	期末試験（5課・6課）・まとめ と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新しい語学を学ぶ場合、スタート時点での数ヶ月が大切です。時間を見つけて積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行うリズムを身につけましょう。課題は学習支援システムから提出をお願いします。予習・復習・課題の解答準備等の時間は、毎回2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）
[2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]
・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）
『ティータムのロシア語《CD付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

発音などのミニテスト、中間テストと最終週の期末テストを行います。この試験結果が評価の70%となります。その他の30%は平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な発音練習、単語の小テストで基礎が出来たとの意見がありました。
オンデマンド教材や視聴覚資料も豊富で分かりやすい授業だった、ロシア語能力検定試験への準備が授業内で出来るので良かったとの意見がありました。皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めていきます。

【その他の重要事項】

今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、対面授業を基本とし開催します。授業形態の変更などの連絡事項は学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning Objectives】 This is the basic course for students learning Russian for the first time at university. The aims of this course are :1) to memorize the Russian alphabet and learn to pronounce words exactly; 2) to master basic grammar and vocabulary; 3) to be able to read simple sentences naturally aloud and understand their meaning ; 4) be able to develop elementary communication skills in Russian; 5) to pass the Russian language proficiency test (of Japan) at least level 4 ; 6) to know Russian culture. 【Learning activities outside of classroom】 It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts).As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】 Mini-tests such as pronunciation, mid-term tests and final exams for the final week.This test result is 70% of the evaluation. The other 30% will be evaluated comprehensively based on normal points (degree of participation in class, attitude of approach), homework and assignments.

LANr100LA

ロシア語2-II

2017 年度以降入学者

佐藤 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「ロシア語2-I」に続く授業です。この授業の目的は、初級ロシア語の「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけることです。この授業はロシア語の文法理解を深めます；1) 格変化がポイントのロシア語文法の構造の理解、2) 日常会話に必須の動詞の命令形の習得、3) 日本の感覚とは違う運動の動詞をマスターする。こうした学習はロシア語能力検定試験合格への準備となります。また、辞書を用いてのテキスト和訳、露訳作文、リスニング、リーディング、実践で使える会話の練習を行います。

【到達目標】

格変化を中心としたロシア語文法の構造を理解し、変化表を覚える。毎年5月と10月に開催されるロシア語能力検定試験4級3級合格をひとつの目標とし、格変化および運動の動詞などの練習問題が解ける。ロシア語テキストを速く正確に音読できる。学んだ文法を駆使しながら、辞書をひいてテキストの意味を理解し和訳できる。さらにリスニングや会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」、四方向からの語学力をバランスよく身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は、春学期の復習から入ります。動詞や名詞の変化形を復唱し、しっかりと覚えていきます。それに対応するロシア語能力検定試験の過去問題や対策問題を解きます。さらに習得した文法知識を駆使しながらテキストの和訳、露訳作文を行います。リスニング、リーディング、会話の練習を通し、「聴く、読む、話す、書く」という総合的な語学力を身につけます。課題等に対するフィードバックは、授業内および学習支援システム上で行います。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習（文法、テキスト音読等）
2	第7課 動詞の命令形	動詞の命令形とその練習問題、曜日の表現
3	第7課 対格変化、動詞の変化（-с я、歯音、唇音）	対格変化（名詞、人称代名詞）、-с я動詞、動詞の歯音変化と唇音変化
4	第8課 運動の動詞1	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
5	第8課 運動の動詞2	行き先や動作の対象・目標の表現、手段としての乗り物の表現、目的を表す不定形の用法
6	中間試験・まとめと解説	中間試験（7-8課）・まとめと解説、会話の練習、自己紹介等
7	第9課 前置格変化（名詞以外）	前置格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
8	第9課 対格変化（名詞以外）	対格変化（形容詞、所有代名詞、人称代名詞）
9	第10課 生格変化	生格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、人称代名詞）

10	第 10 課 所有の表現	所有の表現、否定生格
11	第 11 課 与格変化	与格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
12	第 11 課 造格変化	造格変化（名詞、人称代名詞、形容詞、所有代名詞）
13	秋学期の復習	教科書の練習問題を中心に検定試験 4 級 3 級の問題も解いていく
14	期末試験・まとめと解説	期末試験（9-11 課）・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に予習（新出単語を調べる、テキストを訳す、練習問題を解く）や復習（文法の暗記、テキスト音読練習）を行う。課題は学習支援システムから提出する。予習・復習・課題の解答等の時間は、毎回 2 時間を目安とします。その他にロシアの歴史や文学、芸術にも関心を持ち調べる。NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）などでリスニングの練習をするなど、自己研鑽にも挑戦してみましょう。

【テキスト（教科書）】

・「初級ロシア語」（法政大学ロシア語担当教員 編）
 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]
 ・授業内に適宜初級文法のプリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970 年、¥1404
 露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995 年、¥6291）が望ましい）
 『ティータタイムのロシア語《CD 付》』土岐康子、三神エレナ、佐藤裕子著、白水社、2019 年、¥2310

【成績評価の方法と基準】

秋学期は、中間テストと期末テストを評価テストとして行います。この試験結果が評価の 70 % となります。その他に平常点（授業への参加度、取り組みの姿勢）と宿題や課題提出などを 30 % とし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド教材や視聴覚資料も豊富で分かりやすい授業だった、ロシア語能力検定試験への準備が授業内で出来るので良かったとの意見がありました。
 毎回皆さんからのご意見や要望に真摯に耳を傾け、より良い授業ができるように努めています。

【その他の重要事項】

春学期のロシア語 2-I の履修が必須条件です。今年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止策を最大限講じながら、対面授業を基本とし開催します。授業形態の変化や課題等の連絡は学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline and learning Objectives】This course follows the spring semester "Russian 2-I". The main aim of this course is to acquire comprehensive language skills of "listening, reading, speaking and writing". This lesson will deepen your understanding of Russian grammar; 1) understanding the structure of Russian grammar, where case inflection is the key, 2) learning the imperative forms of verbs that are essential for everyday conversation, and 3) master exercise verb that are different from the Japanese sense. This learning prepares you to pass the Russian Language Proficiency Test. In addition, we will practice text-to-Japanese translation, Russian-translated composition, listening, reading, and conversation that can be used in practice using a dictionary. 【Learning activities outside of classroom】It is important to acquire the rhythm of actively preparing (searching for new words, translating texts, solving exercises) and reviewing (memorizing grammar, practicing reading aloud texts). As a guide, the time for preparation, review, and answering tasks for this class is 2 hours each time. 【Grading Criteria /Policy】In the fall semester, mid-term and final exams will be conducted as evaluation tests. This test result is 70% of the evaluation. In addition, the normal score (degree of participation in class, attitude of approach) and homework and assignment submission will be set at 30%, and a comprehensive evaluation will be given.

LANr100LA

ロシア語 2 - I

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語を初めて学ぶ学生を対象とした授業です。ロシア語アルファベットの読み方、書き方から始め、その後は、ロシア語 1 で学んだ文法事項を確認し、練習問題などで応用力をつけることを目的とします。

【到達目標】

教科書の単語と文法を着実に習得する。テキストが的確に音読できるようになる。かんたんな挨拶、会話を理解し、適切に応答する。文法を応用しかんたんな表現を使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音をチェックするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業ガイダンス、アルファベットの紹介
2	文字と発音	アルファベットの読み方と書き方、アクセント
3	文字と発音 (2)	単語の発音、発音の規則
4	基本文型	「～は～である」「～に～がある」という表現、平叙文と疑問文のイントネーション
5	名詞の性	人称代名詞、名詞の性別
6	名詞の複数形	名詞の性別ごとの複数形の作り方
7	所有代名詞	「～の」という表現と名詞の性数ごとの変化
8	形容詞	名詞の性数におうじた形容詞の変化
9	動詞の過去形	過去形の性数変化
10	格変化	名詞の格変化と格の基本的用法
11	動詞の現在形	動詞の現在人称変化
12	動詞の未来形	動詞の未来形の人称変化
13	前置格	「～で」「～について」という前置詞と前置格の作り方
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語は辞書で意味を確認し、授業で学んだことは復習しましょう。本授業の予習・復習は 2 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習・復習、課題提出、小テスト等）40 %、学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが積極的に発言できるような授業を目指します。

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire elementary Russian.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire Russian words and grammar.

Learning Activities Outside of Classroom

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANr100LA

ロシア語 2 - II

2017 年度以降入学者

小西 昌隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語 1 で学んだ文法事項の復習をしつつ、練習問題やテキストを読むことで応用力を養います。

【到達目標】

学習した文法事項をもとにかんたんなロシア語の文章を理解し日本語に訳せるようになる。かんたんなロシア語の会話を理解し、それに適切に応えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ロシア語 1 と連携して授業を行います。文法事項の説明、練習問題、テキストの読解、かんたんな対話の練習を行います。本文を暗記してもらい、発音をチェックするなど、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習内容を練習問題をつうじて復習する
2	動詞の命令形	「～しろ」「～してください」という表現
3	名詞の対格	対格（～を）の作り方、対格をもとにした曜日の表現
4	運動の動詞	定動詞、不定動詞の区別と「～へ」という行き先の表現
5	形容詞の対格、前置格	形容詞の対格、前置格の作り方と用法
6	所有代名詞の対格、前置格	所有代名詞の対格、前置格の作り方と用法
7	名詞の生格	名詞の生格（～の）の作り方
8	形容詞・所有代名詞の生格	形容詞・所有代名詞の生格の作り方と用法
9	生格を使ったさまざまな表現	所有の表現、否定生格
10	名詞の与格	名詞の与格（～に）の作り方と用法
11	名詞の造格	名詞の造格と作り方と用法
12	形容詞・所有代名詞の与格	形容詞・所有代名詞の与格の作り方と用法
13	形容詞・所有代名詞の造格	形容詞・所有代名詞の造格の作り方と用法
14	期末試験	教場試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。発音練習、単語の暗記、宿題をつうじた復習、反復など日々の学習が重要です。新出単語は各自、辞書で意味を調べるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『初級ロシア語』法政大学ロシア語担当教員編 [2020/2021 年度版、2018/2019 年度版 いずれでも可]

【参考書】

『入門ロシア語文法』改訂版 和久利誓一著 白水社

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加態度、予習、復習、課題提出、小テスト等）40 %
学期末試験 60 % の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんが積極的に参加できる授業にしたいと思います。

【Outline (in English)】

Course Outline

The aim of this course is to help students acquire elementary Russian.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire Russian words, grammar and expressions dealt in the textbook.

Learning Activities Outside of Classroom

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%; standard score (short tests, in-class contribution, etc.): 40%

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中、またはメールなどで行います。基本的に対面授業を行います。感染状況などにより学生の皆さんに不利益が生じる可能性がある場合は、オンライン授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。学期末試験に加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。評価の割合は、期末テスト 70%、平常点（e 宿題・小テスト含む）30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようで、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

One hour is required for each lesson for preparation (researching the meaning of newly appeared word, etc.) and review (practicing listening to Chinese conversation, etc.) of this class.

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term quiz(30%), term-end examination (70%), and in-class contribution.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中、またはメールなどで行います。

基本的に対面授業を行います。感染状況などにより学生の皆さんに不利益が生じる可能性がある場合は、オンライン授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。学期末試験に加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。評価の割合は、期末テスト70%、平常点（e宿題・小テスト含む）30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようで、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で音読や翻訳の練習を行い、単語帳を作成したり、e宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけます。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅でweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）の「e宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URLのページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「e宿題」などのweb教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点40%、自宅学習30%、期末試験30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用するweb教材（e宿題・Quizlet）、連絡やリアクションペーパー等で用いる学修支援システム、Googleclassroomの利用には、ネット環境と操作するデバイスが必要です。自宅のPC、学内のPC、タブレット、スマートフォンなどによる学習・利用が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、授業後やメール等を介し、担当者にお寄せください。必要に応じて場所を確保するなどし対応します。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語1Ⅱ

2017年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月2/Mon.2

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で音読や翻訳の練習を行い、単語帳を作成したり、e宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけます。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅でweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）の「e宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URLのページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「e宿題」などのweb教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点40%、自宅学習30%、期末試験30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用するweb教材（e宿題・Quizlet）、連絡やリアクションペーパー等で用いる学修支援システム、Googleclassroomの利用には、ネット環境と操作するデバイスが必要です。自宅のPC、学内のPC、タブレット、スマートフォンなどによる学習・利用が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、授業後やメール等を介し、担当者にお寄せください。必要に応じて場所を確保するなどし対応します。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
- 14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）を 40 %として評価します。出席回数が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とします）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）を 40 %として評価します。出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

野村 英登

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習
- 14 授業内試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e宿題 20 %で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

野村 英登

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 % で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『中日辞典』 小学館

『中日辞典』 講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・ 欠席が全授業回数の三分の一を超えたら不合格となる。
- ・ 遅刻を三回したら欠席一回に換算する。
- ・ 中間試験と期末試験の得点を 80 %、e 宿題の得点を 20 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ 問い合わせなどはなるべく授業時にしてください。
- ・ 病気などで欠席した場合は、次の登校時に伝えてもらえればよいです。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・欠席が全授業回数の三分の一を超えたら不合格となる。
- ・遅刻を三回したら欠席一回に換算する。
- ・中間試験と期末試験の得点 80 %、e 宿題の得点 20 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・問い合わせなどは授業時にお願いします。
- ・病気などで欠席した場合は次の登校時に伝えてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
- 14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

その他授業に関して緊急の連絡事項がある場合には、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせを確認するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経歴態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40％）および期末試験（60％）の結果に基づき、総合的に評価する。
なお、授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

その他授業に関して緊急の連絡事項がある場合には、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせを確認するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
- 14 授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）を 40 %として評価します。出席回数が授業回数の 3 分の 2 に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とします）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）を 40 %として評価します。出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は、成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者にとってわかりやすく、また興味を持って学習を続けたいと思えるような授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習・復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。・指示されたe宿題には必ず取り組んでください。・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

- ・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
- ・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効です。ぜひお勧めします。
- ・e宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

- ①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初學者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
- ②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期中と期末の2回の試験の合計50%、課題（e宿題含む）の完成度+平常点（小テスト、授業への参加意欲など）の合計50%の割合で総合的に評価します。

（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験30%、課題+平常点＝70%に変更し総合的に判断することとします）

【重要】対面授業にしろオンライン授業にしろ、この授業では課題の比重が大きいです。提出については以下の点くれぐれもご注意ください。

- ・なるべく完成度の高い回答を提出してください。課題の評価が低い＝成績の低評価につながります。
- ・締切日に遅れた場合、課題提出はできなくなり、評価材料にもなりません。
- ・何の断りもなく締切日が過ぎた課題を他の課題と一緒に提出されても、評価はしません。
- ・フィードバック後の修正再提出は大歓迎です。評価ももちろん修正します。あらかじめ、ご連絡をくだされば再提出期限を設定します。
- ・e宿題は授業終了後速やかに取り組むこと。積み残しすればするほど大変な思いをすることになります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・課題のフィードバックは引き続き丁寧に行うよう努めます。
- ・スライド画面については「背景を白くしてくれた方が見やすい」というご意見をいただいたので、改善します。多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
- ・コロナ対策のアクリル板で黒板が見えにくいというご意見をいただいたので、引き続きアクリル板が設置されている場合なるべく黒板を使わずにすむよう工夫をします。
- ・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
- ・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】

課題としてe宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習・復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。

- ・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。
- ・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。
- ・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。
- ・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

- ・予習では最低限音声聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
- ・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効です。ぜひお勧めします。
- ・e 宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

- ①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初學者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
- ②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、課題（e 宿題含む）の完成度＋平常点（小テスト、授業への参加意欲など）の合計 50%の割合で総合的に評価します。

（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）

【重要】対面授業にしるオンライン授業にしる、この授業では課題の比重が大きいです。提出については以下の点くれぐれもご注意ください。

- ・なるべく完成度の高い回答を提出してください。課題の評価が低い＝成績の低評価につながります。
- ・締切日に遅れた場合、課題提出はできなくなり、評価材料にもなりません。
- ・何の断りもなく締切日が過ぎた課題を他の課題と一緒に提出されても、評価はしません。
- ・フィードバック後の修正再提出は大歓迎です。評価ももちろん修正します。あらかじめ、ご連絡をくだされば再提出期限を設定します。
- ・e 宿題は授業終了後速やかに取り組むこと。積み残しすればするほど大変な思いをすることになります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・課題のフィードバックは引き続き丁寧に行うよう努めます。
- ・スライド画面については「背景を白くしてくれた方が見やすい」というご意見をいただいたので、改善します。多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
- ・コロナ対策のアクリル板で黒板が見えにくいというご意見をいただいたので、引き続きアクリル板が設置されている場合なるべく黒板を使わずにすむよう工夫をします。
- ・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
- ・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】

課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します

【成績評価の方法と基準】

平常点（e 宿題、各回の小テスト、課題）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（e 宿題、各回の小テスト、課題）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

出席状況が悪い学生は減点します。

対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 % で評価します。

コロナウィルスの感染状況によってオンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。

特殊な事情により、対面授業に参加できない学生は学事と相談し、証明書を提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期と同じです。

対面期末テスト 70 %、e宿題 30 %で評価します。

対面授業が出れない学生は必ず学事から証明書をもって提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

感染状況によって、オンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

※初回授業はオンラインで実施します。詳細は学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同人社）
そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 期末試験 : 50 %
- ② 「e 宿題」(予習・復習状況) : 20 %
- ③ 小テスト・授業への参加度 : 30 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材 (e 宿題) を使用しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

※初回授業はオンラインで実施します。詳細は学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）
そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 期末試験 : 50 %
- ② 「e宿題」(予習・復習状況) : 20 %
- ③ 小テスト・授業への参加度 : 30 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠のeラーニング教材(e宿題)を使用しますので、各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習
- 14 授業内試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e宿題 20 %、小テスト（発音・聞き取り）20 %、期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

対面を基本としますが状況によりオンライン授業を行う場合があります。受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、小テスト（発音・聞き取り）20 %、期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

対面を基本としますが状況によりオンライン授業を行う場合があります。受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

大野 広之

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 土 1/Sat.1

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：毎回の授業に際して学生が学びを通して考察したことについて記述を求めます。(50 %)

試験：学期末及び任意設定の試験により到達度を測定します。(50 %)

【学生の意見等からの気づき】

授業において学生の考察記述から学習プロセスにみられる弱点について授業でフィードバックして参りましたが、学生に対して個別指導をさらに強化することで理解が確かなものになるようです。従いまして、今後もさらに継続して参ります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：毎回の授業に際して学生が学びを通して考察したことについて記述を求めます。(50%)

試験：学期末及び任意設定の試験により到達度を測定します。(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業において学生の考察記述から学習プロセスにみられる弱点について授業でフィードバックして参りましたが、学生に対して個別指導をさらに強化することで理解が確かなものになるようです。従いまして、今後もさらに継続して参ります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中、またはメールなどで行います。

基本的に対面授業を行いますが、感染状況などにより学生の皆さんに不利益が生じる可能性がある場合は、オンライン授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。学期末試験に加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。評価の割合は、期末テスト 70%、平常点（e 宿題・小テスト含む）30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようで、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

渡部 れい子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業中、またはメールなどで行います。

基本的に対面授業を行います。感染状況などにより学生の皆さんに不利益が生じる可能性がある場合は、オンライン授業とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教室で指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。学期末試験に加え、授業内での小テスト、平常点（積極的に発言しているか、熱心に課題に取り組んでいるか、など）を総合的に判断し、評価します。評価の割合は、期末テスト70%、平常点（e宿題・小テスト含む）30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート結果では、多くの学生が授業を理解していたようで、今年度も分かりやすい授業を行えるよう工夫していきたいです。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

大野 広之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：毎回の授業に際して学生が学びを通して考察したことについて記述を求めます。(50 %)

試験：学期末及び任意設定の試験により到達度を測定します。(50 %)

【学生の意見等からの気づき】

授業において学生の考察記述から学習プロセスにみられる弱点について授業でフィードバックして参りましたが、学生に対して個別指導をさらに強化することで理解が確かなものになるようです。従いまして、今後もさらに継続して参ります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

大野 広之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

平常点：毎回の授業に際して学生が学びを通して考察したことについて記述を求めます。(50%)

試験：学期末及び任意設定の試験により到達度を測定します。(50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業において学生の考察記述から学習プロセスにみられる弱点について授業でフィードバックして参りましたが、学生に対して個別指導をさらに強化することで理解が確かなものになるようです。従いまして、今後もさらに継続して参ります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40 %）および期末試験（60 %）の結果に基づき、総合的に評価する。なお、授業回数の 3 分の 1 以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

試験範囲が広いので、復習の機会を十分に設けるよう心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

その他授業に関して緊急の連絡事項がある場合には、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせを確認するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

赤平 恵里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて授業時に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点〔授業態度・小テスト・暗唱など〕（40％）および期末試験（60％）の結果に基づき、総合的に評価する。

なお、授業回数の3分の1以上欠席した場合は、評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしい。

その他授業に関して緊急の連絡事項がある場合には、学習支援システムにて通知する。必ず受講前に学習支援システムのお知らせを確認するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習・復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

・指示されたe宿題には必ず取り組んでください。

・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

- ・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
- ・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効です。ぜひお勧めします。
- ・e 宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

- ①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初學者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
- ②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、課題（e 宿題含む）の完成度+平常点（小テスト、授業への参加意欲など）の合計 50%の割合で総合的に評価します。

（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題+平常点 = 70%に変更し総合的に判断することとします）

【重要】対面授業にしろオンライン授業にしろ、この授業では課題の比重が大きいです。提出については以下の点くれぐれもご注意ください。

- ・なるべく完成度の高い回答を提出してください。課題の評価が低い = 成績の低評価につながります。
- ・締切日に遅れた場合、課題提出はできなくなり、評価材料にもなりません。
- ・何の断りもなく締切日が過ぎた課題を他の課題と一緒に提出されても、評価はしません。
- ・フィードバック後の修正再提出は大歓迎です。評価ももちろん修正します。あらかじめ、ご連絡をくだされば再提出期限を設定します。
- ・e 宿題は授業終了後速やかに取り組むこと。積み残しすればするほど大変な思いをすることになります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・課題のフィードバックは引き続き丁寧に行うよう努めます。
- ・スライド画面については「背景を白くしてくれた方が見やすい」というご意見をいただいたので、改善します。多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
- ・コロナ対策のアクリル板で黒板が見えにくいというご意見をいただいたので、引き続きアクリル板が設置されている場合なるべく黒板を使わずにすむよう工夫をします。
- ・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
- ・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】

課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習・復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。

・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

・予習では最低限音声聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。

・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。

・e 宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。

②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、課題（e 宿題含む）の完成度＋平常点（小テスト、授業への参加意欲など）の合計 50%の割合で総合的に評価します。

（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）

【重要】対面授業にしるオンライン授業にしる、この授業では課題の比重が大きいです。提出については以下の点くれぐれもご注意ください。

・なるべく完成度の高い回答を提出してください。課題の評価が低い＝成績の低評価につながります。

・締切日に遅れた場合、課題提出はできなくなり、評価材料にもなりません。

・何の断りもなく締切日が過ぎた課題を他の課題と一緒に提出されても、評価はしません。

・フィードバック後の修正再提出は大歓迎です。評価ももちろん修正します。あらかじめ、ご連絡をくだされば再提出期限を設定します。

・e 宿題は授業終了後速やかに取り組むこと。積み残しすればするほど大変な思いをすることになります。

【学生の意見等からの気づき】

・課題のフィードバックは引き続き丁寧に行うよう努めます。

・スライド画面については「背景を白くしてくれた方が見やすい」というご意見をいただいたので、改善します。多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。

・コロナ対策のアクリル板で黒板が見えにくいというご意見をいただいたので、引き続きアクリル板が設置されている場合なるべく黒板を使わずにすむよう工夫をします。

・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらでも教えていただいたことがたくさんありました。

・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】

課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習
- 14 授業内試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e宿題 20 %、小テスト（発音・聞き取り）20 %、期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

対面を基本としますが状況によりオンライン授業を行う場合があります。受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、小テスト（発音・聞き取り）20 %、期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

対面を基本としますが状況によりオンライン授業を行う場合があります。
ます。受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

出席状況が悪い学生は減点します。
対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 % で評価します。
コロナウィルスの感染状況によってオンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。
特殊な事情により、対面授業に参加できない学生は学事と相談し、証明書を提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。
フィードバックは授業内に行います。
緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各
回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期と同じです。

対面期末テスト 70 %、e宿題 30 %で評価します。

対面授業が出れない学生は必ず学事から証明書をもらって提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

感染状況によって、オンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

野村 英登

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習
- 14 授業内試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e宿題 20 %で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

野村 英登

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

東京外国語大学言語モジュール

<http://www.coelang.tufs.ac.jp/mt/zh/>

【連載】宅女の部屋別宅

<https://www.ch-station.org/index-takujo/>

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、授業での課題 30 %、e 宿題 20 % で成績を評価します。

なお5回以上の欠席で期末試験の受験資格を失います。また遅刻2回で欠席1回とみなします。

【学生の意見等からの気づき】

文化の差異にもとづく中国語を学ぶ場合の難しさや楽しさを補足説明するようにします。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。

①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習

・復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。
・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。

・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」

10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第1課から第20課」	「第1課から第20課」までの復習
14	授業内試験	「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

- ・予習では最低限音声を聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。
- ・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。
- ・e宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

- ①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。
- ②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期中と期末の2回の試験の合計50%、課題（e宿題含む）の完成度+平常点（小テスト、授業への参加意欲など）の合計50%の割合で総合的に評価します。

（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験30%、課題+平常点=70%に変更し総合的に判断することとします）

【重要】対面授業にしろオンライン授業にしろ、この授業では課題の比重が大きいです。提出については以下の点くれぐれもご注意ください。

- ・なるべく完成度の高い回答を提出してください。課題の評価が低い=成績の低評価につながります。
- ・締切日に遅れた場合、課題提出はできなくなり、評価材料にもなりません。
- ・何の断りもなく締切日が過ぎた課題を他の課題と一緒に提出されても、評価はしません。
- ・フィードバック後の修正再提出は大歓迎です。評価ももちろん修正します。あらかじめ、ご連絡をくだされば再提出期限を設定します。
- ・e宿題は授業終了後速やかに取り組むこと。積み残しすればするほど大変な思いをすることになります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・課題のフィードバックは引き続き丁寧に行うよう努めます。
- ・スライド画面については「背景を白くしてくれた方が見やすい」というご意見をいただいたので、改善します。多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。
- ・コロナ対策の亚克力板で黒板が見えにくいというご意見をいただいたので、引き続き亚克力板が設置されている場合なるべく黒板を使わずにすむよう工夫をします。
- ・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。
- ・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

柴崎 公美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。この授業では次の通りに進行する予定です。

①その課の文法事項（ポイント）の説明 → ②単語の解説と音読 → ③本文の解説と音読練習

- ・復習のため適宜小テスト（音読あるいは書き取り）を行います。
- ・新出単語、補充単語、本文は予習、復習において何度も音読練習してください。

- ・練習問題は授業時間内に実施、解説するよう努めますが、宿題になることもあります。

- ・指示された e 宿題には必ず取り組んでください。

- ・課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習・復習が習得の鍵です。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

- ・予習では最低限音声聴きながら教科書本文を確認し、復習ではやはり音声を聴いて音読を繰り返すことに努めてください。

- ・ディクテーション（中国語の音声を聴いてそれを文字で書く）も非常に有効ですのでお勧めします。

- ・e 宿題には必ず取り組み、学んだ内容を定着させましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

お勧め辞書：

①『東方中国語辞典』（東方書店）中国語の初学者でも使いやすい学習辞典です。中国語理解のための工夫が凝らされています。

②『中日辞典』『日中辞典』（小学館）①の辞書よりも上級者向けです。収録後が多いので本格的に中国語を勉強しようと思ったら一冊持っていた方がよい辞書です。

参考書など：

『WHY?にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）問答無用の定番参考書兼問題集。

その他、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合、期中と期末の 2 回の試験の合計 50%、課題（e 宿題含む）の完成度＋平常点（小テスト、授業への参加意欲など）の合計 50%の割合で総合的に評価します。

（もしオンライン授業となった場合は上記の割合を試験 30%、課題＋平常点＝ 70%に変更し総合的に判断することとします）

【重要】対面授業にしるオンライン授業にしる、この授業では課題の比重が大きいです。提出については以下の点くれぐれもご注意ください。

- ・なるべく完成度の高い回答を提出してください。課題の評価が低い＝成績の低評価につながります。

- ・締切日に遅れた場合、課題提出はできなくなり、評価材料にもなりません。

- ・何の断りもなく締切日が過ぎた課題を他の課題と一緒に提出されても、評価はしません。

- ・フィードバック後の修正再提出は大歓迎です。評価ももちろん修正します。あらかじめ、ご連絡をくだされば再提出期限を設定します。

- ・e 宿題は授業終了後速やかに取り組むこと。積み残しすればするほど大変な思いをすることになります。

【学生の意見等からの気づき】

- ・課題のフィードバックは引き続き丁寧に行うよう努めます。

- ・スライド画面については「背景を白くしてくれた方が見やすい」というご意見をいただいたので、改善します。多様性を鑑み、ユニバーサルデザインを心がけます。

- ・コロナ対策のアクリル板で黒板が見えにくいというご意見をいただいたので、引き続きアクリル板が設置されている場合なるべく黒板を使わずにすむよう工夫をします。

- ・中国について、みなさんから疑問質問知りたいことをお寄せいただくのはとても興味深いです。ぜひお気軽にお声がけください。中国のアニメやゲーム事情などは、こちらも教えていただいたことがたくさんありました。

- ・受講について、こちらで考慮すべきご事情があれば遠慮せずご相談ください。できる限りお力になれるよういたします。

【学生が準備すべき機器他】

課題として e 宿題を使用しますので、各自でパソコンおよびスマートフォンなどインターネット学習ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で音読や翻訳の練習を行い、単語帳を作成したり、e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけます。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅で web 教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）の「e 宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URL のページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「e 宿題」などの web 教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点 40 %、自宅学習 30 %、期末試験 30 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用する web 教材（e 宿題・Quizlet）、連絡やリアクションペーパー等で用いる学修支援システム、Googleclassroom の利用には、ネット環境と操作するデバイスが必要です。自宅の PC、学内の PC、タブレット、スマートフォンなどによる学習・利用が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、授業後やメール等を介し、担当者にお寄せください。必要に応じて場所を確保するなどし対応します。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

福木 滋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で音読や翻訳の練習を行い、単語帳を作成したり、e宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけます。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

書籍ではありませんが、定期的な自宅学習として、授業終了後、自宅でweb教材『ポイント学習中国語初級デジタル版』（<http://fic.xsrv.jp/hosei>）の「e宿題」などに取り組んでいただき、その学習成果を成績に加味します。詳細は授業開始後にお知らせします。URLのページ下部からは解説書である『ブレンド学習の手引き』がダウンロードできるので参照してください。

【成績評価の方法と基準】

日々の学習成果を重視します。毎回行ってもらう「e宿題」などのweb教材を用いた自宅学習を評価に反映させ、加えて授業への参加姿勢などの平常点、期末試験（筆記）の結果を総合的に評価します。評価の割合は、平常点40%、自宅学習30%、期末試験30%となります。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の自宅学習は大変かと思いますが、最終的には一定の学習効果が得られますので、ほとんどの受講者には好意的に受け止められているようです。その他、受講者からの要望を受け、改善が必要で、かつ可能なものについては、できるだけ授業に反映させていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

自宅学習で使用するweb教材（e宿題・Quizlet）、連絡やリアクションペーパー等で用いる学修支援システム、Googleclassroomの利用には、ネット環境と操作するデバイスが必要です。自宅のPC、学内のPC、タブレット、スマートフォンなどによる学習・利用が可能です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問などについては、授業後やメール等を介し、担当者にお寄せください。必要に応じて場所を確保するなどし対応します。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（e 宿題、各回の小テスト、課題）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Learning activities outside of classroom:

Students are required to prepare and review. Look up the meanings of the new words in the textbook in advance, and practice pronunciation while listening to the accompanying CD. Understand and review the conversations and example sentences in the text.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following in-class performance: 40%(submissions/quizzes+e-shukudai),Term-end examination: 60%

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

大江 千晶

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（e 宿題、各回の小テスト、課題）40 %、期末試験 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Learning activities outside of classroom:

Students are required to prepare and review. Look up the meanings of the new words in the textbook in advance, and practice pronunciation while listening to the accompanying CD. Understand and review the conversations and example sentences in the text.

Grading Criteria /Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following in-class performance: 40%(submissions/quizzes+e-shukudai),Term-end examination: 60%

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

出席状況が悪い学生は減点します。

対面期末テスト 70 %、e 宿題 30 % で評価します。

コロナウイルスの感染状況によってオンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。

特殊な事情により、対面授業に参加できない学生は学事と相談し、証明書を提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

masako.aoki.xm@hosei.ac.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

春学期と同じです。

対面期末テスト 70 %、e宿題 30 %で評価します。

対面授業が出れない学生は必ず学事から証明書をもって提出してください。学事の証明がなければ許可しません。

感染状況によって、オンライン授業を余儀なくされる場合は、その都度指示します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト範囲をわかりやすく伝えます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『中日辞典』 小学館

『中日辞典』 講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・ 欠席が全授業回数の三分の一を超えたら不合格となる。
- ・ 遅刻を三回したら欠席一回に換算する。
- ・ 中間試験と期末試験の得点 80 %、e 宿題の得点 20 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ 問い合わせなどは授業時をお願いします。
- ・ 病気などで欠席した場合は、次の登校時に伝えてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

『中日辞典』講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・欠席が全授業回数の三分の一を超えたら不合格となる。
- ・遅刻を三回したら欠席一回に換算する。
- ・中間試験と期末試験の得点 80 %、e 宿題の得点 20 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・問い合わせなどは授業時にお願いします。
- ・病気などで欠席した場合は次の登校時に伝えてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や e 宿題等）30 %、中間試験 30 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度やe宿題等）30%、中間試験30%、期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。第1回目はオンライン授業です。また、通学に不安がある方は事前に申し出をお願いします。リモートで授業に参加できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % + 期末試験 40 % を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度を図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

関連科目

200 番台リベラルアーツ科目：中国語の世界 LA・LB 1 年～木・3 限 渡辺 大

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

木村 佳代子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60 % + 期末試験 40 % を総合して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度を図ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器

【その他の重要事項】

関連科目

200 番台リベラルアーツ科目：中国語の世界 LA・LB 1年～木・3 限 渡辺 大

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 I

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習
- 14 授業内試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufs.ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e宿題 20 %、小テスト（発音・聞き取り）20 %、期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

対面を基本としますが状況によりオンライン授業を行う場合があります。受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 II

2017 年度以降入学者

篠田 幸夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

「東京外国語大学言語モジュール 中国語」 <http://www.coelAng.tufts.Ac.jp/modules/zh/>

【成績評価の方法と基準】

e 宿題 20 %、小テスト（発音・聞き取り）20 %、期末テスト 60 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

対面を基本としますが状況によりオンライン授業を行う場合があります。受講するための通信環境、PC等を準備して下さい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

斉 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『中日辞典』 小学館

【成績評価の方法と基準】

1 e 宿題の実施。評価の三割を占める。2 授業参加（出席必須）、音読や練習問題の発表などの平常点。評価の二割を占める。3 期末試験。評価の五割を占める。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけのように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

斉 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方で
ピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】

1 e 宿題の実施。評価の三割を占める。2 授業参加（出席必須）、
音読や練習問題の発表などの平常点。評価の二割を占める。3 期
末試験。評価の五割を占める。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生か
らの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。
今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけのように心がけ
ていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will
improve the skills of listening, speaking, reading and writing
through studying pronunciation, grammar, conversation and
composition. One hour is required for each lesson for
preparation and review of this class. The method and
criteria for grade evaluation will be decided by each instructor.
See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする
文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、中国語1、2の教員が、一冊のテキスト
をリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、
文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するように
します。

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み
合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日にお
ける学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで
授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。

対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応
答を行います。

発声練習、本文の朗読指導は zoom にて行います。

課題等へのフィードバックは以下のように行います。

- (1) 対面授業時に説明します。
- (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
- (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして
回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回 に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつこ とば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第5課から「第10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」 に関する復習

9	「第 1 2 課」 あるいは 「第 1 3 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 1 4 課」 あるいは 「第 1 5 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 1 6 課」 あるいは 「第 1 7 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」
12	「第 1 8 課」 あるいは 「第 1 2 課から第 1 8 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 1 9 課」 あるいは 「第 2 0 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 1 9 課、2 0 課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点

②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度

③提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度

④提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度

*対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

検定試験準 4 級合格者：1 期終了時合格は 90 点プラス。

検定試験 4 級合格者：1 期終了時合格は 100 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていききたい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。

対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

発声練習、本文の朗読指導は zoom にて行います。

課題等へのフィードバックは以下ようになります。

(1) 対面授業時に説明します。

(2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。

(3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」

9	「第32課」 あるいは 「第33課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第34課」 あるいは 「第35課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第31課から35課」 あるいは 「第36課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	全体のまとめ	最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか1冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点65%、最終課題35%とする。

1) 平常点について（1回～13回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点

②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の6割程度

③提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の5割程度

④提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の2.5割程度

*対面授業またはzoomによるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14回目）

当日提出、35点分。

検定試験準4級合格者：I期終了時合格は90点プラス。

検定試験4級合格者：I期終了時合格は100点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

祝振媛 橘千早 『新中国語初級』 株式会社天々

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間テストと期末試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率は 70 % に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応をとること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約 40 分）。3) 文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	復習、文法問題の演習 1	「第 21 課から第 30 課」までの復習

- 13 復習、文法問題の演習 「第31課から第40課」までの
2 復習
- 14 秋期の文法問題の演習 「第21課から第40課」までの
文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

祝振媛 橘千早 『新中国語初級』 株式会社天々
康玉華 『漢語301句』 北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるため、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率の70%に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や e 宿題等）30 %、中間試験 30 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度やe宿題等）30%、中間試験30%、期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

斉 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木2/Thu.2

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『中日辞典』 小学館

【成績評価の方法と基準】

1 e 宿題の実施。評価の三割を占める。2 授業参加（出席必須）、音読や練習問題の発表などの平常点。評価の二割を占める。3 期末試験。評価の五割を占める。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけのように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

斉 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】

1 e 宿題の実施。評価の三割を占める。2 授業参加（出席必須）、音読や練習問題の発表などの平常点。評価の二割を占める。3 期末試験。評価の五割を占める。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけのように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017 年度以降入学者

斉 霞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】

1 e 宿題の実施。評価の三割を占める。2 授業参加（出席必須）、音読や練習問題の発表などの平常点。評価の二割を占める。3 期末試験。評価の五割を占める。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていたら心掛けていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

齊 霞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『中日辞典』小学館

【成績評価の方法と基準】

1 e 宿題の実施。評価の三割を占める。2 授業参加（出席必須）、音読や練習問題の発表などの平常点。評価の二割を占める。3 期末試験。評価の五割を占める。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度はアンケートでは特に回答を得ていませんが、個別に学生からの反応があり、語学でとくに自信がついたなどの声がありました。今年も続けて中国や中国語に興味を持っていただけのように心がけていきたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

黄 海萍

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月3/Mon.3

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、授業中に適宜小テストを行います。

課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。詳細は学習支援システムでお知らせします。また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	授業内口頭試験	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内筆記試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。また、付属の教材 CD や <http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中国語辞書を必ず 1 冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1、平常点 60 %（出席状況、課題、授業中に行う小テスト、各課の e 宿題）、期末試験 40 %（口頭・筆記）を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
2、欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合には不合格としますので注意してください。毎回の授業参加を重視してください。30 分以上遅れた場合、出席としてカウントしません。2 回の遅刻を 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお願いします。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

黄 海萍

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、授業内適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。詳細は学習支援システムでお知らせします。また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

12	「第21課から第30課」までの 復習	「第21課から第30課」までの 復習
13	授業内口頭試験	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内筆記試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。また、付属の教材CDや<http://fic.xsrv.jp/hosei/>を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中国語辞書を必ず1冊用意すること（電子辞書可）

瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。

ISBN-13:978-4876152971

2400 円＋税

その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1、平常点 60 %（出席状況、課題、授業中に行う小テスト、各課のe宿題）、期末試験 40 %（口頭・筆記）を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。

2、欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合には不合格としますので注意してください。毎回の授業参加を重視してください。30 分以上遅れた場合、出席としてカウントしません。2 回の遅刻を 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの反応はおおむね良かったので、今まで同様しっかりと中国語の基礎を固めるよう厳しく、ときおり優しく丁寧に指導していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお願いします。

毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。

授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。

授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

王 安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習
- 14 授業内試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題50%）＋中間テスト（20%）＋期末テスト（30%）＝100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の雰囲気明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、annwang@hosei.ac.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語2Ⅱ

2017年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」	「第21課から第30課」までの復習
13	「第31課から第40課」	「第31課から第40課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』 相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）
その他の資料は授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題50%）＋中間テスト（20%）＋期末テスト（30%）＝
100点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業の雰囲気明るく、文法の説明が分かりやすいとの評価を頂いてうれしいです。今後もたくさんの用例を提示しながら丁寧に文法項目を説明し、様々な工夫をして学習効果を確実に上げていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聴くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】

質問がある場合は、annwang@hosei.ac.jp まで連絡してください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40 %

中間テスト 20 %

期末試験 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより積極的に中国語を話そうサポートしたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方
でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40 %
中間テスト 20 %
期末試験 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより積極的に中国語を話そうサポートしたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017 年度以降入学者

黄 海萍

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話すの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、授業中に適宜小テストを行います。

課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。詳細は学習支援システムでお知らせします。また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」

11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	授業内口頭試験	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内筆記試験	「第 1 課から第 20 課」までの到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。また、付属の教材 CD や <http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中国語辞書を必ず 1 冊用意すること（電子辞書可）
瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。
ISBN-13:978-4876152971
2400 円＋税
その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1、平常点 60 %（出席状況、課題、授業中に行う小テスト、各課の e 宿題）、期末試験 40 %（口頭・筆記）を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。
2、欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合には不合格としますので注意してください。毎回の授業参加を重視してください。30 分以上遅れた場合、出席としてカウントしません。2 回の遅刻を 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。
毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。
授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。
授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。
授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

黄 海萍

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書くの力をバランスよくつけるのが目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、授業内適宜小テストを行います。
課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

本授業は対面実施を基本としますが、第一週目（初回授業）はオンラインとなります。詳細は学習支援システムでお知らせします。また、必要に応じてオンラインの回も適宜導入する可能性があります。変更する場合、事前に学習支援システム等で提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」

12	「第21課から第30課」までの 課」	「第21課から第30課」までの 復習
13	授業内口頭試験	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内筆記試験	「第21課から第40課」までの 到達度チェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事ですので、しっかり予習と復習をしておいてください。授業後は単語帳など各自に合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。また、付属の教材 CD や <http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかりと身につけるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中国語辞書を必ず1冊用意すること（電子辞書可）

瀬戸口 律子 (2015)『完全マスター中国語の文法』[改訂版] 語研。

ISBN-13:978-4876152971

2400 円＋税

その他の資料は授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1、平常点 60 %（出席状況、課題、授業中に行う小テスト、各課の e 宿題）、期末試験 40 %（口頭・筆記）を総合的に評価します。総合得点が 60 点以上の人を合格とします。

2、欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合には不合格としますので注意してください。毎回の授業参加を重視してください。30 分以上遅れた場合、出席としてカウントしません。2 回の遅刻を 1 回の欠席とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声教材を聞くことができる機器が必要です。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは特に設けませんが、質問があればいつでも気軽にお聞きください。

毎回の授業の最初に前回の復習をしますので、遅刻はないように努力してください。

授業中は、恥ずかしがらずに大きな声で発音練習し、積極的に授業に臨んでほしいです。

授業内テストの範囲、予習内容については授業中に指示します。

授業以外に予習、復習のための時間を必ず確保してください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

ショウ イクテイ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 50 % と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など) 50 % に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の学生のご意見を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

ショウ イクテイ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方で
ピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 50 %と平常点(学習態度、学習意欲、課題や小テストの
提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしてい
きたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や e 宿題等）30 %、中間試験 30 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度やe宿題等）30%、中間試験30%、期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月5/Mon.5

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

日中辞典、中日辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備してください。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中辞典、中日辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
http://fic.xsrv.jp/hosei

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 % で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 19 課から第 22 課」	「態」の復習
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 23 課から第 25 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 26 課」 あるいは 「第 27 課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第 28 課」 あるいは 「第 26 課から第 28 課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 29 課、30 課」 あるいは 「第 31 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 32 課」 あるいは 「第 33 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 34 課」 あるいは 「第 35 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 31 課から第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」

12	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」 「助動詞、兼語文、受け身表現、 把構文、存現文」の復習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、期末試験（70%）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 2 0 課」「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 2 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

祝振媛 橘千早 『新中国語初級』 株式会社天々

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の 60 % とし、中間テストと期末試験はそれぞれ成績の 20 % とします。平均点数が 60 点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率は 70 % に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応をとること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1) 小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2) テキストの学習（約 40 分）。3) 文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	復習、文法問題の演習 1	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習

- 13 復習、文法問題の演習 「第31課から第40課」までの
2 復習
- 14 秋期の文法問題の演習 「第21課から第40課」までの
文法問題の演習、確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

祝振媛 橘千早 『新中国語初級』 株式会社天々
康玉華 『漢語301句』 北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるため、PC や CD を用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいは zoom の授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率の70%に達していない者、課題を提出しない者に関しては、E と判定します。やむを得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取る。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチや聞取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方で
ピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチや聞き取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ
http://fic.xsrv.jp/hosei

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %（宿題や小テスト）と期末試験 70 % で成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、学生の習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

孫 琦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題等へのフィードバックは授業時間に行う。大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 19 課から第 22 課」	「態」の復習
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 23 課から第 25 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 26 課」 あるいは 「第 27 課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第 28 課」 あるいは 「第 26 課から第 28 課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 29 課、30 課」 あるいは 「第 31 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 32 課」 あるいは 「第 33 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 34 課」 あるいは 「第 35 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 31 課から第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」

12	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、 把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

法政大学中国語教研室教材用ページ

<http://fic.xsrv.jp/hosei>

【成績評価の方法と基準】

平常点（30％）、期末試験（70％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

発音練習を多く取り入れて、習得レベルに沿った授業展開を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

日中辞典、中日辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備してください。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中辞典、中日辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

薬 進

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。

対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

発声練習、本文の朗読指導は zoom にて行います。

課題等へのフィードバックは以下のように行います。

- (1) 対面授業時に説明します。
- (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
- (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第5課から「第10課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習

9	「第 1 2 課」 あるいは 「第 1 3 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 1 4 課」 あるいは 「第 1 5 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 1 6 課」 あるいは 「第 1 7 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」
12	「第 1 8 課」 あるいは 「第 1 2 課から第 1 8 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 1 9 課」 あるいは 「第 2 0 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 1 9 課、2 0 課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

- ①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点
- ②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度
- ③提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度
- ④提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度

*対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

検定試験準 4 級合格者：1 期終了時合格は 90 点プラス。

検定試験 4 級合格者：1 期終了時合格は 100 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

薬 進

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

授業形態はハイブリッド型授業（対面授業とオンライン授業の組み合わせ）となります。『学習支援システム』において、各授業日における学習内容（テキスト及び説明（音声））は、『課題』フォルダで授業日別に提示し、学習終了後に課題が必要です。

対面授業では、課題の要点解説や文法事項の詳細な解釈及び質疑応答を行います。

発声練習、本文の朗読指導は zoom にて行います。

課題等へのフィードバックは以下ようになります。

- (1) 対面授業時に説明します。
- (2) 「授業内掲示板」で随時受け付けして回答します。
- (3) 個別相談等は shin.yaku.56@hosei.ac.jp で随時受け付けして回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 1 9 課から第 2 2 課」	「態」の復習
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 3 課から第 2 5 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 2 6 課」 あるいは 「第 2 7 課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第 2 8 課」 あるいは 「第 2 6 課から第 2 8 課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 2 9 課、3 0 課」 あるいは 「第 3 1 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」

9	「第3 2 課」 あるいは 「第3 3 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第3 4 課」 あるいは 「第3 5 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第3 1 課から3 5 課」 あるいは 「第3 6 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第3 7 課」 あるいは 「第3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
13	「第3 9 課」 あるいは 「第4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	全体のまとめ	最終課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

中日辞典（東方書店、小学館、講談社など、どちらか 1 冊。電子辞書でもよい。

【成績評価の方法と基準】

評価基準は、平常点 65 %、最終課題 35 %とする。

1) 平常点について（1 回～13 回）

オンラインで提出する課題を対象に次の採点基準を採用します。

①提出期限内に提出し、必要な項目をすべて解答した場合の得点：満点

②提出期限内に提出したが、解答していない必要な項目があった場合：配点の 6 割程度

③提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、必要な項目をすべて解答した場合の得点：配点の 5 割程度

④提出期限切れ（期限過ぎて一週間まで受理）提出したが、解答していない必要な項目があった場合の得点：配点の 2.5 割程度

*対面授業または zoom によるオンライン授業に出席した場合、その日に設定される課題の提出はしなくても結構です。

2) 最終課題（14 回目）

当日提出、35 点分。

検定試験準 4 級合格者：I 期終了時合格は 90 点プラス。

検定試験 4 級合格者：I 期終了時合格は 100 点プラス。

【学生の意見等からの気づき】

進度について、速過ぎと妥当との両方の意見があるが、二三週ごとに意見を聴取し、随時スピード調整を行っていきたい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 1 0 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 1 1 課」 あるいは 「第 1 2 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 1 3 課」 あるいは 「第 1 4 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 1 5 課」 あるいは 「第 1 6 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 1 7 課」 あるいは 「第 1 8 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 1 9 課」 あるいは 「第 2 0 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定しませんが、普段の学習以外もっと興味があれば、以下の参考書がおすすめです。

木村英樹 著『中国語はじめての一步（新版）』（ちくま学芸文庫）
発音や文法の初歩から、中国語の背景にあるものの考え方や対人観・世界観まで、身近なエピソードとともに解説。楽しく学べる中国語入門。

HSK・中国語検定対策にオススメの参考書：

『中国語検定 HSK 公式過去問集』（スプリックス）

『各級問題集シリーズ中検・準 4 級』（光生館）など

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績 60 %、平常点 40 %（出席・授業時間内に行う小テスト・普段の授業への参加度と貢献度・口頭発表・課題など）を総合的に判断して評価します。

2022 年度の授業は基本対面で実施することを予定しています（状況に応じてオンライン授業を取り入れることもあります。また、新型コロナウイルスの感染拡大が生じた場合、オンラインによる授業に切り替える可能性も考えられます。その際、Hoppii を通じてお知らせします）。

*現時点では初回授業は対面で行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、学生の個別指導を強化して到達度チェックを図ってゆきます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度やe宿題等）30%、中間試験30%、期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

取 扱

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テストなどのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。この授業は対面形式で行いますが、新型コロナウイルスの感染状況により大学が対面授業の実施は困難と判断した場合は、それに合わせて授業形態を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業内指示

【成績評価の方法と基準】

期末テストを 50 %、会話の小テストや E 宿題をそれぞれ 20 %、また平常点を 10 %にし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生のやる気が引き起こせるように様々な工夫をし、また、万が一に備えてオンライン授業についても学生も教師も満足できるようにいろいろとトライしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

万が一に備え、オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備しておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

耿 函

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつくれるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テストなどのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。本授業は対面形式で行いますが、新型コロナウイルスの感染状況により大学が対面授業の実施は困難と判断した場合は、それに合わせて授業形態を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

授業内指示

【成績評価の方法と基準】

期末テストを50%、会話の小テストやE宿題をそれぞれ20%、また平常点を10%にし、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生のやる気が引き起こせるように様々な工夫を重ね、また、万に備えてオンライン授業についても学生も教師も満足できるようにいろいろとトライしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC等を準備してください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土1/Sat.1

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 2 0 課」「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 2 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト： 60 %

課題： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義のオンデマンド配信をした上、SNS 等を使って発音の個別指導をする。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. We should prepare and review about one hour a week. Term-end test:60% homework and paper:40%

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

課題：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義のオンデマンド配信をした上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese.

We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

We should prepare and review about one hour a week.

term-end test:60%

homework and paper:40%

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

ショウ イクテイ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月4/Mon.4

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 50 % と平常点 (学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など) 50 % に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の学生のご意見などを生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

シヨウ イクテイ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%と平常点(学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など)50%に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチや聞取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチや聞き取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチや聞取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチや聞き取りテストなどの平常点(40%)、期末試験(60%)という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40 %

中間テスト 20 %

期末試験 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより積極的に中国語を話そうサポートしたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40 %

中間テスト 20 %

期末試験 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより積極的に中国語を話そうサポートしたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40 %

中間テスト 20 %

期末試験 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより積極的に中国語を話そうサポートしたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40 %

中間テスト 20 %

期末試験 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより積極的に中国語を話そうサポートしたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2 I

2017年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 2 0 課」「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 2 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40 %
中間テスト 20 %
期末試験 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより積極的に中国語を話そうサポートしたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 II

2017 年度以降入学者

任 麗潔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学習態度 40 %

中間テスト 20 %

期末試験 20 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生がより積極的に中国語を話そうサポートしたいと思います。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語(1) I

2017年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 2 0 課」「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 2 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『中日辞典』 小学館

『中日辞典』 講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・ 欠席が全授業回数の三分の一を超えたら不合格となる。
- ・ 遅刻を三回したら欠席一回に換算する。
- ・ 中間試験と期末試験の得点 80 %、e 宿題の得点 80 % として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ 問い合わせなどは授業時をお願いします。
- ・ 病気などで欠席した場合は次の登校時に伝えてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語（1）Ⅱ

2017 年度以降入学者

鷲巣 益美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

『中日辞典』 小学館

『中日辞典』 講談社

【成績評価の方法と基準】

- ・欠席が全授業回数の三分の一を超えたら不合格となる。
- ・遅刻を三回したら欠席一回に換算する。
- ・中間試験と期末試験の得点 80 %、e 宿題の得点 20 %として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・問い合わせなどは授業時にお願いします。
- ・病気などで欠席した場合は次の登校時に伝えてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 (1) I

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

※初回授業はオンラインで実施します。詳細は学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの 復習
14	授業内試験	「第 21 課から第 40 課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同人社）
そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 期末試験 : 50 %
- ② 「e 宿題」(予習・復習状況) : 20 %
- ③ 小テスト・授業への参加度 : 30 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材 (e 宿題) を使用しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 (1) II

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。
※初回授業はオンラインで実施します。詳細は学習支援システムを確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

13	「第31課から第40課」までの 復習	「第31課から第40課」までの 復習
14	授業内試験	「第21課から第40課」までの 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY？にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）
そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 期末試験：50%
- ② 「e宿題」（予習・復習状況）：20%
- ③ 小テスト・授業への参加度：30%

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠のeラーニング教材（e宿題）を使用しますので、各自でスマートフォンあるいはPCができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語（2）I

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土2/Sat.2

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語1、2の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

授業実施に関する詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音2」 あるいは 「発音3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音3」は分量の関係で、2回に分けて進めます。
3	「発音3」 あるいは 「第4課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音1から4」の復習をします。
5	「第5課」 あるいは 「第6課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第7課」 あるいは 「第8課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第9課」 あるいは 「第10課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第11課」 あるいは 「第12課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文1」
9	「第13課」 あるいは 「第14課」	「動詞述語文2」 あるいは 「動詞述語文3」
10	「第15課」 あるいは 「第16課」	「動詞述語文4」 あるいは 「動詞述語文5」
11	「第17課」 あるいは 「第18課」	「動詞述語文6」 あるいは 「動詞述語文7」
12	「第19課」 あるいは 「第20課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 2 0 課」「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 2 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要な時に、指導します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の態度、課題の完成度、小テストなどは 60 %にし、期末テストは 40 %にします。オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、学習支援システムの「お知らせ」でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

発音の指導を徹底的にやるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講する場合、通信環境・PC の準備をしてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。

授業実施に関する詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習
14	授業内試験	「第 2 1 課から第 4 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要な時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の態度、課題の完成度、小テストなどは 60 %にし、期末テストは 40 %にします。

オンライン授業の場合、評価方法を変更する可能性があります。その時、学習支援システムの「お知らせ」でお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

発音の指導を徹底的にやるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講する場合、通信環境・PC の準備をしてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 (2) I

2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 2 0 課」「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 2 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト： 60 %

課題： 40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS 等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. We should prepare and review about one hour a week. term-end test:60% homework and paper:40%

LANc100LA

中国語 (2) II

2017 年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」 1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」 2 あるいは 「名詞述語文」 3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの
試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

課題：40 %

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese.

We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

We should prepare and review about one hour a week.

term-end test:60%

homework and paper:40%

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。

中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e-Learning を組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。

①小テスト（約 20 分）

教室での学習と e-Learning による自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。

②テキストの学習（約 50 分）

テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。

③コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）

前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。

（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは 中国語を学ぶ意義について考える	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の表記法
第 3 回	発音の基本 (2) 中国語の発音を理論的・体系的に理解する	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
第 4 回	中国語の基本構造 (1) 中国語の文法体系を概観する	中国語の四文型
第 5 回	中国語の基本構造 (2) 中国語の文法体系を概観する	連体修飾語・連用修飾語
第 6 回	中国語の基本構造 (3) 中国語の文法体系を概観する	補語

第 7 回	動詞述語文 (1) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “是” の用法
第 8 回	動詞述語文 (2) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	動詞 “有” の用法
第 9 回	動詞述語文 (3) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	名量詞・動量詞
第 10 回	動詞述語文 (4) 動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	連動文
第 11 回	中国語の態 (1) 中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	変化態
第 12 回	中国語の態 (2) 中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	経験態・進行態・持続態
第 13 回	形容詞述語文 形容詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	程度副詞、比較表現①～⑤
第 14 回	名詞述語文 名詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ	月日・曜日、時刻、金額の表現方法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は **e-Learning** による自宅学習の達成度に応じて与えられる。前回の授業までに学習した内容を **e-Learning** によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本学の中国語スタッフがリレー式授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）とそのデジタル版を併用する。

【参考書】

劉月華ほか『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

- ① **e-Learning**（e 宿題）の実施状況（40 %）
- ② 毎回授業の始めに実施する小テストの成績（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、**e-Learning** を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また **e-Learning** に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 1、5 では、毎回授業の後に **e-Learning** による自宅学習を宿題として課している。**e-Learning** の利用方法については、初回の授業で説明する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Chinese 1 - SA is a Chinese course designed specifically for the students who are going to study abroad in China next year.

In this course, students will develop their language abilities in the following:

Vocabulary: We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Grammar: We will learn the elementary grammar required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Students will improve their language skills by:

Expanding their vocabulary and improving their listening and speaking skills through the use of e-Learning.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use the Chinese language at the level of HSK1.

【Learning activities outside of the classroom】

Students will be expected to complete the required assignments after each class. These assignments are expected to require an hour or more for students to complete.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on short class examinations(60%) and class assignments(40%).

LANc100LA

中国語 3

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 火 2/Tue.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙 (300 語)、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

HSK (漢語水平考試) 2 級を取得するのに必要な中国語力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。

後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材を使い、留学先での暮らしを疑似体験しながら、そこで必要な表現力を身につけていく。

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2)	程度補語、数量補語 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ
第 2 回	補語 (3)	結果補語、方向補語 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ
第 3 回	補語 (4)	可能補語 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ
第 4 回	さまざまな表現 (1)	助動詞、兼語文 (使役表現) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する
第 5 回	さまざまな表現 (2)	受身表現、把構文 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する
第 6 回	さまざまな表現 (3)	存現文 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する
第 7 回	留学先での授業準備 (1)	e-Learning 教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく
第 8 回	留学先での授業準備 (2)	同上

第 9 回	留学先での授業準備 (3)	同上
第 10 回	留学先での授業準備 (4)	同上
第 11 回	留学先での授業準備 (5)	同上
第 12 回	留学先での授業準備 (6)	同上
第 13 回	留学先での授業準備 (7)	同上
第 14 回	留学先での授業準備 (8)	同上

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e-Learning による自宅学習の達成度に応じて与えられる。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級 (改訂版)』(東方書店)を使用する。

後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材と HSK (漢語水平考試) の過去問データを使用する。

【参考書】

劉月華『実用現代漢語語法』(外語教学与研究出版社)

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する (100 %)。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り (4 問 × 5 点 = 20 点)、短文の聞き取り (2 問 × 10 点 = 20 点)、日文中訳 (2 問 × 10 点 = 20 点)、e-Learning による自宅学習の達成度 (4 種 × 10 点 = 40 点) の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限 (最大 20 題) を設けることにした。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、春学期の授業と同じ。

【Outline (in English)】

〔Course outline〕

Chinese 3 - SA is a Chinese course designed specifically for the students who are going to study abroad in China next year.

In this course, students will develop their language abilities in the following:

Vocabulary: We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Grammar: We will learn the elementary grammar required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Students will improve their language skills by:

Expanding their vocabulary and improving their listening and speaking skills through the use of e-Learning.

〔Learning Objectives〕

The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use the Chinese language at the level of HSK2.

〔Learning activities outside of the classroom〕

Students will be expected to complete the required assignments after each class. These assignments are expected to require an hour or more for students to complete.

〔Grading Criteria / Policy〕

Grading will be decided based on short class examinations (60%) and class assignments (40%).

LANc100LA

中国語 2

2017 年度以降入学者

ショウ イクテイ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。大学の行動方針レベル 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」

12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験	「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 50 % と平常点（学習態度、学習意欲、課題や小テストの提出及び完成度など）50 % に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の学生のご意見を生かしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 4

2017 年度以降入学者

シヨウ イクテイ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランス良くつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際
文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が一冊のテキストをリレー式に進めます。新出
単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練
習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小
テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバック
は授業の中またはメールなどで行います。

大学の行動方針レベル 2 となった場合、この授業は原則としてオン
ラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
第 2 回	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
第 3 回	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
第 4 回	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
第 5 回	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
第 6 回	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
第 7 回	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
第 8 回	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
第 9 回	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
第 10 回	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
第 11 回	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
第 12 回	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習

第 13 回 「第 31 課から第 40 課」 「第 31 課から第 40 課」までの
復習

第 14 回 授業内試験 「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方で
ピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

必要なものは授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 50 %と平常点(学習態度、学習意欲、課題や小テストの
提出及び完成度など)50 %に基づいて、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

よりよい授業を目指すため、学生のご意見やご要望を生かしていき
たい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を用意することを勧める。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course
is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will
improve the skills of listening, speaking, reading and writing
through studying pronunciation, grammar, conversation and
composition. One hour is required for each lesson for
preparation and review of this class. The method and
criteria for grade evaluation will be decided by each instructor.
See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 5

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK1 級の合格に必要な語彙（150 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

HSK（漢語水平考試）1 級の取得に必要な語学力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2、5 の授業は、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で進めていく。

中国語 1、5 では、効率的かつゆとりある授業を行うため、教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせたブレンド型学習を行う。毎回の授業内容は下記のとおりである。

①小テスト（約 20 分）

教室での学習と e ラーニングによる自宅学習の成果を確認するため、毎回授業のはじめに小テストを行う。

②テキストの学習（約 50 分）

テキストを使いながら、発音や文法などを中心に学習する。

③コミュニケーション・トレーニング（約 20 分）

前回の授業で学習した表現を使いながら、学生同士でコミュニケーション・トレーニングを行う。

（例）クラス全員の氏名をたずねる、電話番号をたずねる、家族構成をたずねる等

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語とは	中国語の使用人口や方言、標準語の定義などについて学ぶ
第 2 回	発音の基本 (1)	中国語の表記法
	中国語の発音を理論的に・体系的に理解する	
第 3 回	発音の基本 (2)	中国語の声調、声母、韻母、二音節語の声調
	中国語の発音を理論的に・体系的に理解する	
第 4 回	中国語の基本構造 (1)	中国語の四文型
	中国語の文法体系を概観する	
第 5 回	中国語の基本構造 (2)	連体修飾語・連用修飾語
	中国語の文法体系を概観する	
第 6 回	中国語の基本構造 (3)	補語
	中国語の文法体系を概観する	

第 7 回 動詞述語文 (1) 動詞 “是” の用法

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 8 回 動詞述語文 (2) 動詞 “有” の用法

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 9 回 動詞述語文 (3) 名量詞・動量詞

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 10 回 動詞述語文 (4) 連動文

動詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 11 回 中国語の態 (1) 変化態

中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 12 回 中国語の態 (2) 経験態・進行態・持続態

中国語の態とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 13 回 形容詞述語文 程度副詞、比較表現①～⑤

形容詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

第 14 回 名詞述語文 月日・曜日、時刻、金額の表現方

名詞述語文の文法とそれを使ったさまざまな表現を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 1、5 では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e-Learning による自宅学習の達成度に応じて与えられる。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本学の中国語スタッフがリレー授業用に編纂した『ポイント学習中国語初級』（東方書店）とそのデジタル版を使用する。

【参考書】

劉月華ほか『實用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

① e-Learning（e 宿題）の実施状況（40 %）

② 毎回授業の始めに行う小テストの成績（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 1、5 では、毎回授業の後にデジタル教科書と e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、初回の授業で説明する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Chinese 5 - SA is a Chinese course designed specifically for the students who are going to study abroad in China next year.

In this course, students will develop their language abilities in the following:

Vocabulary: We will learn 150 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Grammar: We will learn the elementary grammar required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 1.

Students will improve their language skills by:

Expanding their vocabulary and improving their listening and speaking skills through the use of e-Learning.

[Learning Objectives]

The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use the Chinese language at the level of HSK1.

[Learning activities outside of the classroom]

Students will be expected to complete the required assignments after each class. These assignments are expected to require an hour or more for students to complete.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on short class examinations(60%) and class assignments(40%).

LANc100LA

中国語 6

2017 年度以降入学者

鈴木 靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA 中国に参加する学生を対象に、HSK2 級の合格に必要な語彙（300 語）、語法を学ぶ。また、e-Learning を活用し、語彙力とリスニング力、スピーキング力を強化する。

【到達目標】

HSK（漢語水平考試）2 級の取得に必要な中国語力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、中国語 1、2、5 と同じく、二人の教員が一冊のテキストを毎回一課ずつリレー式で授業を進めていく。

後半からは文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材を使い、留学先での暮らしを疑似体験しながら、そこで必要な表現力を身につけていく。

課題等に対するフィードバックの方法としては、受講生全員が参加する LINE のグループを用意し、これを通じて全員または個別に指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	補語 (2) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	程度補語、数量補語
第 2 回	補語 (3) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	結果補語、方向補語
第 3 回	補語 (4) 中国語の文法でもっとも難解とされる補語について学ぶ	可能補語
第 4 回	さまざまな表現 (1) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	助動詞、兼語文（使役表現）
第 5 回	さまざまな表現 (2) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	受身表現、把構文
第 6 回	さまざまな表現 (3) 中国語の初級文法の残された課題をまとめて学習する	存現文
第 7 回	留学準備 (1)	e-Learning 教材を使い、留学先での授業を疑似体験しながら、そこでの質疑応答に必要な表現力を身につけていく。
第 8 回	留学準備 (2)	同上
第 9 回	留学準備 (3)	同上
第 10 回	留学準備 (4)	同上

第 11 回	留学準備 (5)	同上
第 12 回	留学準備 (6)	同上
第 13 回	留学準備 (7)	同上
第 14 回	留学準備 (8)	同上

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国語 3、6 の授業では、毎回授業の初めに小テストを行うが、その配点の 40 % は e-Learning による自宅学習の達成度に当てられている。前回の授業までに学習した内容を e-Learning によって復習することで、中国語の力をしっかりと身につけていってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

前半は春学期と同じく『ポイント学習中国語初級』（東方書店）を使用する。

後半からはテキストは使用せず、文部科学省平成 24 年度グローバル人材育成推進事業の補助を受け開発した e-Learning 教材と HSK（漢語水平考試）の過去問データを使用する。

【参考書】

劉月華『実用現代漢語語法』（外語教学与研究出版社）

【成績評価の方法と基準】

成績は毎回授業のはじめに行う小テストの平均点によって評価する。

出題範囲は、前回の授業までに学習した内容すべて。

問題は、単語の聞き取り（4 問 × 5 点 = 20 点）、短文の聞き取り（2 問 × 10 点 = 20 点）、日文中訳（2 問 × 10 点 = 20 点）、e-Learning による自宅学習の達成度（4 種 × 10 点 = 40 点）の計 100 点。

【学生の意見等からの気づき】

学生のインターネット利用環境が PC からスマートフォンへと移行しているのを受け、e-Learning を改良して、スマートフォンによる読む・書く・聞く・話すの総合的学習を行えるようにした。また e-Learning に出題される復習問題の数が多すぎる場合があるとの意見をもとに、各課で出題される復習問題の数に上限（最大 20 題）を設けることにした。

【学生が準備すべき機器他】

中国語 3、6 では、毎回授業の後にデジタル教科書や e-Learning による自宅学習を宿題として課している。e-Learning の利用方法については、春学期の授業と同じ。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Chinese 6 - SA is a Chinese course designed specifically for the students who are going to study abroad in China next year.

In this course, students will develop their language abilities in the following:

Vocabulary: We will learn 300 words required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Grammar: We will learn the elementary grammar required for the HSK, Chinese Proficiency Test, level 2.

Students will improve their language skills by:

Expanding their vocabulary and improving their listening and speaking skills through the use of e-Learning.

[Learning Objectives]

The goal of this course is to develop the students' ability to understand and use the Chinese language at the level of HSK2.

[Learning activities outside of the classroom]

Students will be expected to complete the required assignments after each class. These assignments are expected to require an hour or more for students to complete.

[Grading Criteria /Policy]

Grading will be decided based on short class examinations(60%) and class assignments(40%).

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。

・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。

・この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e-Learning を組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二 音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您貴姓?]、動詞述語 文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、 名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、 連体修飾語・連用修飾語 [一年级的 学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動 詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口 人?]、動詞述語文（五）[这儿有 邮局吗?]

10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文 (六) [请再念一次]、 動詞述語文 (七) [去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗?]、 化態 [快要考试了]
12	復習	春学期の学習項目の総復習
13	HSK1 級問題	HSK1 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

大石智良 他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

・劉月華 (他) 2019『実用現代漢語語法 (第三版)』北京: 商務印書館
・相原茂 (他) 2016『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京: 同学社
・守屋宏則 (他) 2019『やさしく くわしい 中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京: 東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

【Outline (in English)】

【Outline】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・ After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)
・ Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
【Grading criteria】
・ The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc100LA

中国語 3

2017 年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心をもち、積極的に異文化を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト（約 20 分）、2. 前回の復習（約 10 分）、3. テキストの学習（約 40 分）、4. 問題演習・コミュニケーション活動など（約 30 分）。
- ・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。
- ・この授業ではブレンド型学習（教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。
- ・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	既習項目の復習・確認	既習項目（第一課～第二十課）の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水餃好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]

9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
11	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習	秋学期の学習項目の総復習
13	HSK2 級問題	HSK2 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

【参考書】

- 有用な文法書として以下のものをあけておく。
- ・劉月華 (他) 2019『実用現代漢語語法 (第三版)』北京：商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則 (他) 2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

【Outline (in English)】

【Outline】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
 - (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
 - (3) Students can pass HSK Level 2 by the end of the fall semester.
 - (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.
- 【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)
 - ・ Preparatory study and review time for this class are 1 hour.
- 【Grading criteria】**
- ・ The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc100LA

中国語 2

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチや聞取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 4

2017 年度以降入学者

薬 会

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめ解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

指定しません。

【成績評価の方法と基準】

スピーチや聞き取りテストなどの平常点 (40%)、期末試験 (60%) という割合で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1

2017 年度以降入学者

曾 士才

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音・基本的文法事項・基本表現を習得し、中国語の基礎力を確立する。また、中国語の学習を通じて、多様な言語で自己表現を行う楽しさを覚えてもらう。

【到達目標】

HSK1 級に合格するレベルの基礎力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、初めて中国語を学ぶ人が中国語の基礎力を確立することを目指す。中国語上達の鍵となる発音と、声調・ピンイン・簡体字の習得を徹底する。また、中国語の基本文型を理解する。文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに、第一課	イントロダクション、発音（一）
第2回	第二課、第三課	声母、ピンインのつづり方①、韻母
第3回	第三課、第四課	ピンインのつづり方②、韻母、声調
第4回	第五課、発音の仕上げ	人称代詞、姓名の表現、発音の総復習
第5回	第六課、第七課	四文型①動詞述語文、専攻分野のいろいろ、四文型②形容詞述語文
第6回	第八課、第九課	四文型③名詞述語文、数の数え方①、四文型④主述述語文、身体部分のいい方
第7回	第六課～第十課	中国語の基本構造について総復習
第8回	第十一課、第十二課	補語、動詞述語文（一）、国名・地域名のいろいろ
第9回	第十三課、第十四課	動詞述語文（二）、指示代詞①、数詞、量詞、動詞述語文（三）、所有の表現、文房具のいろいろ
第10回	第十五課、第十六課	動詞述語文（四）、家族構成の表現、動詞述語文（五）、指示代詞②、存在表現、所在表現、方位名詞、公共施設のいろいろ
第11回	第十七課、第十八課	動詞述語文（六）、名量詞、動量詞、動詞の重ね型、連動文、乗り物のいろいろ
第12回	第十二課～第十八課	動詞述語文の総復習
第13回	第十九課、第二十課	完了態、変化態
第14回	全体のまとめ	前期授業の総復習、練習問題、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてください。

そして、e ラーニング教材を使用して e 宿題を行い、前の週に学んだことの定着度を測ります。e 宿題については授業開始後に詳しく説明します。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 東方書店

【参考書】

辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テスト (100 %) で成績評価を行う。なお、毎回の小テストの内、40 % は e 宿題で評価する。本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。出席は成績評価の大前提である。

【学生の意見等からの気づき】

ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

e 宿題による復習をいったん怠るようになると、授業についていけなくなります。注意してください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to develop participants'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping participants develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.

【Learning Objectives】

At the end of this course, participants are expected to get a pass in HSK level 1.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, participants will be expected to steadily review what you have already learned. Participants will be also expected to do e-homework using e-learning materials. Your study time will be two hours.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: Quiz in each class meeting (100 %) . Of each quiz, 40% will be evaluated by e-homework.

LANc100LA

中国語 2

2017 年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

- 13 「第1課から第20課」「第1課から第20課」までの復習
- 14 授業内試験 「第1課から第20課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

祝振媛 橋千早 『新中国語初級』 株式会社天々

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間テストと期末試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PCやCDを用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいはzoomの授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率は70%に達していない者、課題を提出しない者に関しては、Eと判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取る。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語3

2017年度以降入学者

曾 士才

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木3/Thu.3

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音や声調をマスターするとともに、初級中国語の基本的文法事項・基本表現を習得する。また、最終的に中国語で簡単なコミュニケーションをはかれるようになってもらう。

【到達目標】

HSK2級に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、中国語を習い始めたばかりの人が、基本的文法を習得することを目指す。また文法事項の学習と同時に、日常会話表現を覚えてもらう。授業は本学用に編纂したテキストを使い、二人の教員がリレー式に進める。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第二十一課、第二十二課	経験態、可能表現、進行態・持続態
第2回	第十九課～第二十二課	中国語の態について総復習
第3回	第二十三課、第二十四課	形容詞述語文（一）、程度表現、形容詞述語文（二）、比較表現①～③、四季と寒暑
第4回	第二十五課、第二十六課	形容詞述語文（三）、比較表現④⑤、長さの単位
第5回	第二十三課～第二五課	形容詞述語文の総復習
第6回	第二十六課、第二七課	名詞述語文（一）、時間の表現
第7回	第二十八課、第二十九課	名詞述語文（一）、金額の表現、連体修飾語
第8回	第二十六課～第三十課	名詞述語文、連体修飾語、連用修飾語の総復習
第9回	第三十一課、第三十二課	程度補語、球技のいろいろ、数量補語
第10回	第三十三課、第三十四課	結果補語、方向補語、家電製品のいろいろ
第11回	第三十一課～第三十五課	可能補語、補語について総復習
第12回	第三十六課、第三十七課	助動詞、兼語文、使役表現
第13回	第三十八課、第三十九課	受身表現、把構文
第14回	第三十六課～第四十課	存現文、さまざまな表現について総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてください。

そして、eラーニング教材を使用してe宿題を行い、前の週に学んだことの定着度を測ります。e宿題については授業開始後に詳しく説明します。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著『ポイント学習 中国語初級 [改訂版]』東方書店

【参考書】

辞書は『中日辞典』（小学館）を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小テスト（100 %）で成績評価を行う。なお、毎回の小テストの内、40 %はe宿題で評価する。本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。出席は成績評価の大前提である。

【学生の意見等からの気づき】

ことばそのものの習得だけでなく、ことばを通して中国理解につながるような授業運営を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course aims to develop participants'skills in the areas of pronunciation, grammar, conversation and writing. This course focuses on helping participants develop basic Chinese communication ability, including reading, writing, listening and speaking.

【Learning Objectives】

At the end of this course, participants are expected to get a pass in HSK level 2

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, participants will be expected to steadily review what you have already learned. Participants will be also expected to do e-homework using e-learning materials. Your study time will be two hours.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be calculated according to the following process: Quiz in each class meeting (100 %) . Of each quiz, 40% will be evaluated by e-homework.

LANc100LA

中国語 4

2017 年度以降入学者

祝 振媛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って中国語の発音、基本的な語彙、文法を学ぶ。

【到達目標】

一年間の学習を通じて、読む、聞く、話す、書く力をバランスよく身につけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は授業の形態として、原則には面接授業を実施する。状況に応じて時には zoom の授業をも行う。授業はテキストに沿って一回一課の進度で進める。具体的に次のようである。1）小テスト（約 25 分）を毎回授業の最初に設ける。2）テキストの学習（約 40 分）。3）文法問題の演習、会話（約 35 分）。また授業は教室での学習と自宅での学習（予習、復習）を組み合わせる。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の内容に関する復習	「第1課から第20課」までの復習
2	「第21課」 あるいは 「第22課」	「動詞の経験態」 あるいは 「動詞の進行態」
3	「第23課」 あるいは 「第24課」	「副詞のいろいろ」 あるいは 「比較の表現」
4	「第25課」 あるいは 「第26課」	「数字の数え方」 あるいは 「月日の訪ね方」
5	「第27課」 あるいは 「第28課」	「時刻の言い方」 あるいは 「金額の言い方」
6	「第29課」 あるいは 「第30課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第31課」 あるいは 「第32課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第33課」 あるいは 「第34課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第35課」 あるいは 「第36課」	「可能補語」 あるいは 「能願動詞」
10	「第37課」 あるいは 「第38課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第21課から第30課」 までの復習	「第21課から第30課」までの復習

- 13 「第31課から第40課」までの
復習
- 14 秋期の文法問題の演習 「第21課から第40課」までの
文法問題の演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が重要なので、授業後は音声を開いたり、単語帳を作ったりするなど既習した内容をしっかり復習してほしい。また、<http://fic.xsrv.jp/hosei/> を活用し、習った内容をしっかり身につけるように努めてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールをも通じて行う。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

祝振媛 橘千早 『新中国語初級』 株式会社天々
康玉華 『漢語301句』 北京言語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の最初に行う小テスト及び授業の参加度は成績の60%とし、中間と期末の試験はそれぞれ成績の20%とします。平均点数が60点以上の人を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生とコミュニケーションを取りながら授業を展開することが評価されたので、今後も続けて行く。

【学生が準備すべき機器他】

中国語の発音を聞く必要があるので、PCやCDを用意してほしい。

【その他の重要事項】

本講義は面接授業、あるいはzoomの授業を実施しますので、全回の出席が成績評価の前提である。出席率の70%に達していない者、課題を提出しない者に関しては、Eと判定します。やむ得ない事情（健康不良など）があれば、各種の証明書の提出など、各自で然るべき対応を取ること。尚、毎回の授業の最初に小テストをするので、遅刻は厳禁。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語1-I

2017年度以降入学者

永江 貴子

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月1/Mon.1

単位数: 1単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の4技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として、対面授業で実施する。

基本的にテキストに沿って毎回1課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。

学習支援システムで提示された教員が作成した動画を視聴しながら、各自発音をし、ノートに本文を書き写し、理解を深める。

動画視聴後、次の2点の課題を提出する。

1. 学習支援システム提出（発音や練習問題）
 2. 各課のe宿題を実施（<https://fic.xsrv.jp/hosei/>）
- 課題等へのフィードバックは授業時間またはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二 音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語 文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、 名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、 連体修飾語・連用修飾語 [一年级的 学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動 詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口 人?]、動詞述語文（五）[这儿有 邮箱吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、 動詞述語文（七）[去中国干什 么?]

11	第十九課あるいは第二 十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変 化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習
13	中国語検定準 4 級 チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	中国語検定準 4 級 チャレンジ 2	筆記問題とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 (東方書店)

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華 他 『実用現代漢語語法 (増訂本)』 (商務印書館)
- ・守屋宏則 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』 (東方書店)
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 (同学社)

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』 (くろしお出版)] も出ている。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン学習が余儀なくされた。Zoom を用いた同時双方向型、学生がいつでも授業動画を視聴できるようなオンデマンド型など、様々な方法を試したが、いずれの場合でも、対面授業に比較すると、教員との関係が希薄になってしまうという点が授業アンケートで指摘された。適切に学生の疑問点を解決していくべく、対応していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を出し、各自で然るべき対応を取る。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として、対面授業で実施する。

基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。

学習支援システムで提示された教員が作成した動画を視聴しながら、各自発音をし、ノートに本文を書き写し、理解を深める。

動画視聴後、次の 2 点の課題を提出する。

1. 学習支援システム提出 (発音や練習問題)
2. 各課の e 宿題を実施 (<https://fic.xsrv.jp/hosei/>)

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]

10	第三十九課あるいは第 四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現 文 [大楼门口出来了一个高个子]
11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課まで の復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課まで の復習
13	中国語検定準 4 級 チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	リスニング問題とその 解説 2	筆記問題のその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 他 『實用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
- ・守屋宏則 『やさしく くわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『實用現代漢語語法』は和訳、『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出点と e 宿題により成績を評価する。

課題提出点 60 %、e 宿題 40 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン学習が余儀なくされた。Zoom を用いた同時双方向型、学生がいつでも授業動画を視聴できるようなオンデマンド型など、様々な方法を試したが、いずれの場合でも、対面授業に比較すると、教員との関係が希薄になってしまうという点が授業アンケートで指摘された。適切に学生の疑問点を解決していくべく、対応していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮箱吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態 まとめと解説	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 分時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一課 谁打得 第三十二課 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現 さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト
⑭	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テストなど） 25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 春学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として、対面授業で実施する。

基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。

学習支援システムで提示された教員が作成した動画を視聴しながら、各自発音をし、ノートに本文を書き写し、理解を深める。

動画視聴後、次の 2 点の課題を提出する。

1. 学習支援システム提出（発音や練習問題）
2. 各課の e 宿題を実施 (<https://fic.xsrv.jp/hosei/>)

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音（一）[簡体字とピンイン]、 発音（二）[声母]
3	第三課あるいは第四課	発音（三）[韻母]、発音（四）[二 音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語 文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、 名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、 連体修飾語・連用修飾語 [一年级的 学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動 詞述語文（一）[她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文（二）[这是什么?]、 動詞述語文（三）[你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文（四）[你家有几口 人?]、動詞述語文（五）[这儿有 邮箱吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文（六）[请再念一次]、 動詞述語文（七）[去中国干什 么?]

11	第十九課あるいは第二 十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変 化態 [快要考试了]
12	復習	教科書のポイントの総復習
13	中国語検定準 4 級 チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	中国語検定準 4 級 チャレンジ 2	筆記問題とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 (東方書店)

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華 他 『実用現代漢語語法 (増訂本)』 (商務印書館)
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい中国語文法の基礎』 (東方書店)
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 (同学社)

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『実用現代漢語語法』は和訳 [『現代中国語文法総覧』 (くろしお出版)] も出ている。勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあつた場合、チェックしていきたいと考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン学習が余儀なくされた。Zoom を用いた同時双方向型、学生がいつでも授業動画を視聴できるようなオンデマンド型など、様々な方法を試したが、いずれの場合でも、対面授業に比較すると、教員との関係が希薄になってしまうという点が授業アンケートで指摘された。適切に学生の疑問点を解決していくべく、対応していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を出し、各自で然るべき対応を取る。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

永江 貴子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) 秋学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に着ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として、対面授業で実施する。

基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。

学習支援システムで提示された教員が作成した動画を視聴しながら、各自発音をし、ノートに本文を書き写し、理解を深める。

動画視聴後、次の 2 点の課題を提出する。

1. 学習支援システム提出 (発音や練習問題)
2. 各課の e 宿題を実施 (<https://fic.xsrv.jp/hosei/>)

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールや学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
2	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
3	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
4	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
5	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
6	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
7	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
8	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
9	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]

10	第三十九課あるいは第 四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現 文 [大楼门口出来了一个高个子]
11	復習 1	教科書第 21 課から第 30 課まで の復習
12	復習 2	教科書第 31 課から第 40 課まで の復習
13	中国語検定準 4 級 チャレンジ 1	リスニング問題とその解説
14	リスニング問題とその 解説 2	筆記問題のその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei/>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』（東方書店）

【参考書】

必ずしも購入する必要はないが、有用な文法書として以下のものをあげておく。

- ・劉月華 他 『實用現代漢語語法（増訂本）』（商務印書館）
- ・守屋宏則 『やさしくくわしい 中国語文法の基礎』（東方書店）
- ・相原茂 他 『Why? にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』（同学社）

これらの本は、いずれも市ヶ谷キャンパス図書館に所蔵がある。『實用現代漢語語法』は和訳、『現代中国語文法総覧』（くろしお出版）も出ている。HSK の勉強などに役立ててほしい。その他の参考書に関しては、授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題提出点と e 宿題により成績を評価する。

課題提出点 60 %、e 宿題 40 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・中国語初学者にとっては、発音に不安を抱えている学生が多かった。授業では、できるだけ全学生に発音を促し、誤りなどがあった場合、チェックしていきたいと考えている。
- ・新型コロナウイルス感染症拡大により、オンライン学習が余儀なくされた。Zoom を用いた同時双方向型、学生がいつでも授業動画を視聴できるようなオンデマンド型など、様々な方法を試したが、いずれの場合でも、対面授業に比較すると、教員との関係が希薄になってしまうという点が授業アンケートで指摘された。適切に学生の疑問点を解決していくべく、対応していきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

【その他の重要事項】

- ・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。
- ・授業中に、中国語検定試験や HSK の紹介もする予定。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮箱吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態 まとめと解説	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 分時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一課 谁打得 第三十二課 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現 さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト
⑭	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テストなど） 25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮局吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態 まとめと解説	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 分時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号？
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点？ 第二十八課 这只手表多少钱？
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現 さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢？ 第三十八課 衣服都被淋湿了
⑪	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト
⑭	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テストなど） 25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」
12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習

13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	まとめ	復習 テストなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 19 課から第 22 課」	「態」の復習
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」 1 あるいは 「形容詞述語文」 2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 23 課から第 25 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 26 課」 あるいは 「第 27 課」	「名詞述語文」 1 あるいは 「名詞述語文」 2
6	「第 28 課」 あるいは 「第 26 課から第 28 課」	「名詞述語文」 3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 29 課、30 課」 あるいは 「第 31 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 32 課」 あるいは 「第 33 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 34 課」 あるいは 「第 35 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 31 課から第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、 把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮箱吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態 まとめと解説	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 分時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 2 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 2 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する。
⑦	補語	第三十一課 谁打得 第三十二課 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現 さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト
⑭	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テストなど） 25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - I

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 5 課から「第 10 課」	「補語」 あるいは 「あいさつことば、文型、文成分」に関する復習
9	「第 12 課」 あるいは 「第 13 課」	「動詞述語文 1」 あるいは 「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」 あるいは 「第 15 課」	「動詞述語文 3」 あるいは 「動詞述語文 4」
11	「第 16 課」 あるいは 「第 17 課」	「動詞述語文 5」 あるいは 「動詞述語文 6」

12	「第 18 課」 あるいは 「第 12 課から第 18 課」	「動詞述語文 7」 あるいは 「動詞述語文」の復習
13	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」
14	「第 19 課、20 課」	「態」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大事です。授業後は、単語帳を作るなど、各自に合ったやり方でピンインとともに新出単語、補充単語、本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 1 - II

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1・2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
2	「第 19 課から第 22 課」	「態」の復習
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 23 課から第 25 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「形容詞述語文」の復習
5	「第 26 課」 あるいは 「第 27 課」	「名詞述語文」1 あるいは 「名詞述語文」2
6	「第 28 課」 あるいは 「第 26 課から第 28 課」	「名詞述語文」3 あるいは 「名詞述語文」の復習
7	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
8	「第 29 課、30 課」 あるいは 「第 31 課」	「連体修飾語、連用修飾語」の復習 あるいは 「程度補語」
9	「第 32 課」 あるいは 「第 33 課」	「数量補語」 あるいは 「結果補語」
10	「第 34 課」 あるいは 「第 35 課」	「方向補語」 あるいは 「可能補語」
11	「第 31 課から第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「補語」の復習 あるいは 「助動詞」
12	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」

13	「第39課」 あるいは 「第40課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
14	「第36課から40課」	「助動詞、兼語文、受け身表現、 把構文、存現文」の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は予習復習が大事です。授業後は単語帳など各自合ったやり方でピンインとともに単語と本文を覚えるようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮箱吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態 まとめと解説	第十九課 这本书你看了吗？ 第二十課 快要考试了 前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 分時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 1－II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1－II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗? 第二十二課 你在做什么呢?
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗? 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号?
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点? 第二十八課 这只手表多少钱?
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮! 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する
⑦	補語	第三十一課 谁打得 第三十二課 你打了几年网球?
⑧	補語	第三十三課 对不起, 我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現 さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢?
⑪	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了 第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト
⑭	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 分時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1－I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1－I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の基本	第一課 発音（一）
第 2 回	発音の基本	第二課 発音（二）
第 3 回	発音の基本	第三課 発音（三）
第 4 回	発音の基本	第四課 発音（四）
第 5 回	発音の基本	第五課 您贵姓？
第 6 回	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
第 7 回	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
第 8 回	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
第 9 回	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
第 10 回	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
第 11 回	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
第 12 回	動詞述語文 / 中国語の態	第十八課 去中国干什么？ 第十九課 这本书你看了吗？
第 13 回	中国語の態	第二十課 快要考试了
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェックテスト・eラーニング実施状況）30 %

期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

発音チェックテストを6～7月に行ない、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
第 2 回	形容詞述語文	第二十三課 水饺好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
第 3 回	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
第 4 回	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号？ 第二十七課 现在几点？
第 5 回	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱？
第 6 回	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
第 7 回	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
第 8 回	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
第 9 回	補語	第三十五課 我听不懂
第 10 回	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢？
第 11 回	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
第 12 回	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
第 13 回	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト・e ラーニングの実施状況）30 %
期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

課文の暗誦テストを 11 月～12 月に実施し、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

・「中国語 1－I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1－I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。

・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。

この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？
		第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁
		第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语
		第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？
		第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？
		第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？
		第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？
⑬	中国語の態	第二十課 快要考试了
	まとめと解説	前期勉強した内容をまとめて総復習する
⑭	期末試験	暗記テスト・筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 分時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

賀 蘭

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・初級レベルの中国語を読んだり聞いたりして、中国の民風などを理解することができる。
- ・初級レベルの中国語を書いたり話したりして、自分の考えや意見などを相手に伝えることができる。
- ・秋学期の学習を完了した段階で、簡単な中国語を話せるように身に着ける。
- ・中国語圏の言語や文化に対する関心を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

- ・「中国語 1－II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1－II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。
 - ・問題演習、コミュニケーション活動などを行う。
 - ・毎週授業の内容をまとめ、一つの慣用句を作り暗誦させる。
- この授業ではブレンド型学習（教室の対面とオンライン授業と自宅の e ラーニングを組み合わせた学習）を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文 名詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿 第二十六課 今天几月几号？
④	名詞述語文	第二十七課 现在几点？ 第二十八課 这只手表多少钱？
⑤	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑥	まとめと解説	以上勉強した内容を復習する
⑦	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現 さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢？ 第三十八課 衣服都被淋湿了
⑪	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了 第四十課 大楼门口出来了一个高个子
⑫	まとめと解説	総復習
⑬	期末試験	暗記テスト
⑭	期末試験	筆記テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅で e 宿題を勉強する。
- ・本授業の準備学習・復習時間、宿題等は合わせて 40 分時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業内で指示する。（補充練習・補充文法などのプリントを配布すること）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（出席状況・授業態度・暗記テスト）25 %
- ・e 宿題 30 %
- ・期末試験 45 %
- ・授業内に小テストを行うことがある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1－I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1－I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発音の基本	第一課 発音（一）
第 2 回	発音の基本	第二課 発音（二）
第 3 回	発音の基本	第三課 発音（三）
第 4 回	発音の基本	第四課 発音（四）
第 5 回	発音の基本	第五課 您贵姓？
第 6 回	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
第 7 回	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
第 8 回	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
第 9 回	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
第 10 回	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
第 11 回	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
第 12 回	動詞述語文 / 中国語の態	第十八課 去中国干什么？ 第十九課 这本书你看了吗？
第 13 回	中国語の態	第二十課 快要考试了
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・発音チェックテスト・eラーニング実施状況）30 %

期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

発音チェックテストを6～7月に行ない、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。

※対面授業を基本にし、状況によってオンライン授業を組み合わせる。それにともなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。

※課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
第 2 回	形容詞述語文	第二十三課 水饺好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
第 3 回	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
第 4 回	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号？ 第二十七課 现在几点？
第 5 回	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱？
第 6 回	連体修飾語 連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
第 7 回	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
第 8 回	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
第 9 回	補語	第三十五課 我听不懂
第 10 回	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他 第三十七課 让谁讲好呢？
第 11 回	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
第 12 回	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
第 13 回	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子
第 14 回	授業の総まとめと期末試験	筆記・ヒアリング試験 まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・自宅での e ラーニングを行なう。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業のなかで指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・小テスト・暗誦テスト・e ラーニングの実施状況）30 %
期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

課文の暗誦テストを 11 月～12 月に実施し、成績評価の基礎点に加えることにした。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一課 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十課 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20 %
期末試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号？ 第二十七課 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得好？ 第三十二課 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20%

期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 4/Fri.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 2 0 課」「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 2 0 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や e 宿題等）30 %、中間試験 30 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 2 0 課」までの復習
2	「第 2 1 課」 あるいは 「第 2 2 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 2 3 課」 あるいは 「第 2 4 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 2 5 課」 あるいは 「第 2 6 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 2 7 課」 あるいは 「第 2 8 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 2 9 課」 あるいは 「第 3 0 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 3 1 課」 あるいは 「第 3 2 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 3 3 課」 あるいは 「第 3 4 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 3 5 課」 あるいは 「第 3 6 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 3 7 課」 あるいは 「第 3 8 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 3 9 課」 あるいは 「第 4 0 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 2 1 課から第 3 0 課」	「第 2 1 課から第 3 0 課」までの復習
13	「第 3 1 課から第 4 0 課」	「第 3 1 課から第 4 0 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度やe宿題等）30％、中間試験30％、期末試験40％

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語2-I

2017年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語1-I」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語1-I」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	発音の基本	第一课 発音（一）
②	発音の基本	第二課 発音（二）
③	発音の基本	第三課 発音（三）
④	発音の基本	第四課 発音（四）
⑤	発音の基本	第五課 您贵姓？
⑥	中国語の基本構造	第六課 你学习什么？ 第七課 北京大学很大
⑦	中国語の基本構造	第八課 我十八岁 第九課 你哪儿不舒服？
⑧	中国語の基本構造	第十課 一年级的学生都学外语 第十一課 你每天看几个小时？
⑨	動詞述語文	第十二課 她是谁？ 第十三課 这是什么？
⑩	動詞述語文	第十四課 你有铅笔吗？ 第十五課 你家有几口人？
⑪	動詞述語文	第十六課 这儿有邮筒吗？ 第十七課 请再念一次
⑫	動詞述語文	第十八課 去中国干什么？
⑬	中国語の態	第十九課 这本书你看了吗？
⑭	中国語の態	第二十課 快要考试了

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いているCDを繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20％

期末試験80％

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「中国語 1 - II」と連携した授業。テキストに沿って授業を進める。「中国語 1 - II」と共通のテキストを用い、二人の担当者がリレー式に教える。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	中国語の態	第二十一課 你去过海边儿吗？ 第二十二課 你在做什么呢？
②	形容詞述語文	第二十三課 水餃好吃吗？ 第二十四課 明天比今天还热
③	形容詞述語文	第二十五課 比泰山高一点儿
④	名詞述語文	第二十六課 今天几月几号？ 第二十七課 现在几点？
⑤	名詞述語文	第二十八課 这只手表多少钱？
⑥	連体修飾語・連用修飾語	第二十九課 你的这件新毛衣真漂亮！ 第三十課 我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月
⑦	補語	第三十一課 谁打得更好？ 第三十二課 你打了几年网球？
⑧	補語	第三十三課 对不起，我打错了 第三十四課 你退回去吧
⑨	補語	第三十五課 我听不懂
⑩	さまざまな表現	第三十六課 我不想见他
⑪	さまざまな表現	第三十七課 让谁讲好呢？
⑫	さまざまな表現	第三十八課 衣服都被淋湿了
⑬	さまざまな表現	第三十九課 我把衬衫弄脏了
⑭	さまざまな表現	第四十課 大楼门口出来了一个高个子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を覚え、中国語の語彙を増やす。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）
大石智良・凌志偉・曾士才・千野明日香・鈴木靖著

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20%

期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - I

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」 あるいは 「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 あるいは 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」 あるいは 「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方 「発音 3」は分量の関係で、2 回に分けて進めます。
3	「発音 3」 あるいは 「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」 あるいは 「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」 あるいは 「動詞述語文」
6	「第 7 課」 あるいは 「第 8 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」
7	「第 9 課」 あるいは 「第 10 課」	「主述述語文」 あるいは 「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」 あるいは 「第 12 課」	「補語」 あるいは 「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」 あるいは 「第 14 課」	「動詞述語文 2」 あるいは 「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」 あるいは 「第 16 課」	「動詞述語文 4」 あるいは 「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」 あるいは 「第 18 課」	「動詞述語文 6」 あるいは 「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」 あるいは 「第 20 課」	「完了態」 あるいは 「変化態」

13	「第 1 課から第 20 課」「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	授業内試験 「第 1 課から第 20 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示された e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』 東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度や e 宿題等）30 %、中間試験 30 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語 2 - II

2017 年度以降入学者

渋井 君也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、中国語の発音と文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

中国語 1、2 の教員が、一冊のテキストをリレー式に進めます。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。復習のため、適宜小テストを行います。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」 あるいは 「第 22 課」	「経験態」 あるいは 「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」 あるいは 「第 24 課」	「形容詞述語文」1 あるいは 「形容詞述語文」2
4	「第 25 課」 あるいは 「第 26 課」	「形容詞述語文」 あるいは 「名詞述語文」1
5	「第 27 課」 あるいは 「第 28 課」	「名詞述語文」2 あるいは 「名詞述語文」3
6	「第 29 課」 あるいは 「第 30 課」	「連体修飾語」 あるいは 「連用修飾語」
7	「第 31 課」 あるいは 「第 32 課」	「程度補語」 あるいは 「数量補語」
8	「第 33 課」 あるいは 「第 34 課」	「結果補語」 あるいは 「方向補語」
9	「第 35 課」 あるいは 「第 36 課」	「可能補語」 あるいは 「助動詞」
10	「第 37 課」 あるいは 「第 38 課」	「兼語文」 あるいは 「受け身表現」
11	「第 39 課」 あるいは 「第 40 課」	「把構文」 あるいは 「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習

14 授業内試験 「第21課から第40課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各自で単語帳を作成したり、担当教員から指示されたe宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の態度やe宿題等）30%、中間試験30%、期末試験40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 I

2017年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身につけることを目標とします。

【到達目標】

中国語の基礎を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

最初の数回は発音篇、その後文法を中心とした本篇に入ります。本篇の各課は本文・文法・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。新出語句、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。また、毎回単語、または文法例文の小テスト、本文の暗誦等を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・中国語とは	授業の進め方について・中国語の基礎
②	発音 1	発音
③	発音 2	発音
④	発音 3	発音
⑤	発音 4	発音
⑥	第 1 課	文法
⑦	第 1 課	文法
⑧	第 2 課	文法
⑨	第 2 課	文法
⑩	第 3 課	文法
⑪	第 3 課	文法
⑫	第 4 課	文法
⑬	第 4 課	文法
⑭	授業のまとめと試験	発音 1～4、第 1～4 課の試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。授業後には各自で単語帳を作成したり、課文を繰り返し音読するなどして、各回に学習した内容をしっかりと身につけるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級中国語 この1冊 - 4技能の習得を目指して-』丸尾誠他著、金星堂、2019年

【参考書】

『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東方書店、2010年

【成績評価の方法と基準】

期末試験60%、小テスト・課題・平常点（授業態度）40%として評価します。

出席回数が授業回数の3分の2に及ばなかった者は成績評価の対象としません（遅刻・早退は2回で欠席1回とします）。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 II

2017 年度以降入学者

池田 麻希子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音の基礎（ピンイン表記を正しく読み、書くことができる）と文法の基礎をしっかりと身に付けることを目標とします。

【到達目標】

中国語の基礎を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

各課は本文・文法・練習問題から成り、授業もこれに沿って進めます。新出語句、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。また、毎回単語、または文法例文の小テスト、本文の暗誦等を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス・春学期の復習	授業の進め方について・第 1～4 課の復習
②	第 5 課	文法
③	第 5 課	文法
④	第 6 課	文法
⑤	第 6 課	文法
⑥	第 7 課	文法
⑦	第 7 課	文法
⑧	第 8 課	文法
⑨	第 8 課	文法
⑩	第 9 課	文法
⑪	第 9 課	文法
⑫	第 10 課	文法
⑬	第 10 課	文法
⑭	授業のまとめと試験	第 5～10 課の試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その週に学ぶ予定の課について、授業前に必ず目を通し、わからない単語の意味は調べておいて下さい。授業後には各自で単語帳を作成したり、課文を繰り返し音読するなどして、各回に学習した内容をしっかりと身につけるようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『初級中国語 この 1 冊 - 4 技能の習得を目指して -』丸尾誠他著、金星堂、2019 年

【参考書】

『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』東方書店、2010 年

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %、小テスト・課題・平常点（授業態度）40 %として評価します。

出席回数が授業回数数の 3 分の 2 に及ばなかった者は成績評価の対象としません（遅刻・早退は 2 回で欠席 1 回とします）。期末試験の出題形式の詳細は講義中に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

皆さんが興味を持って学習を続け、達成感を得られるような授業を心がけます。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for students who have failed Chinese 1 before. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See“Grading criteria”by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 I

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるようにする。

【到達目標】

さまざまな文章を通じて、読む力、聴く力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	挨拶（1）	子音・母音（1）など
3 回目	挨拶（2）	子音・母音（2）など
4 回目	挨拶（3）	母音（3）など
5 回目	初めて会う（1）	疑問文・形容詞述語文など
6 回目	初めて会う（2）	動詞述語文など
7 回目	尋ねる（1）	名詞述語文など
8 回目	尋ねる（2）	「有」文・前置詞構造
9 回目	尋ねる（3）	時間詞など
10 回目	尋ねる（4）	連動文など
11 回目	尋ねる（5）	方位詞など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 II

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるようにする。

【到達目標】

文章を通じて、読解、聴解を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	必要（1）	語気助詞「了」（1）
3 回目	必要（2）	主述述語文など
4 回目	必要（3）	二重目的語文など
5 回目	必要（4）	兼語文・語気助詞「了」（2）
6 回目	必要（5）	結果補語など
7 回目	約束（1）	動態助詞「過」など
8 回目	約束（2）	方向補語（1）など
9 回目	迎える（1）	1）文型「要～了」 2）文型「是～的」
10 回目	迎える（2）	動量補語など
11 回目	招待する	程度補語
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 3 0 1 文』（上）語文研究社、1365 円。

【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 1 I

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

これまでとは違うテキストを使って、初級中国語の基礎を確認しつつ、更に内容を補う授業を週一回で進めて行く。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。また、初級履修時に用いた『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）も併せて授業に持参すること。互いに参照して理解をより深める為でもある。また、授業内小テストを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の内容と方針の説明、定着度判定の為の小テスト
②	第一課：発音	声調・単母音・二重母音・第三声の変調などの確認
③	第二課：発音	三重母音・鼻母音などの確認
④	第三課：発音	子音（声母）の確認
⑤	第四課：数詞・r 化	数詞・年月日・曜日などの基本的語彙の確認
⑥	第五課：発音表と簡単な表現	声母・韻母の総まとめ、簡単な挨拶表現の確認
⑦	第六課：他是？	人称代名詞・「是」構文・本文・練習問題など
⑧	第七課：它是什麼茶？	指示代名詞・動詞述語文・本文・練習問題など
⑨	第八課：明天冷？	形容詞述語文・量詞・名詞述語文・本文・練習問題など
⑩	第九課：我坐地？去	連動文・場所代名詞・反復疑問文など
⑪	第九課：我坐地？去	本文・練習問題など
⑫	第十課：你沒？典？	動態助詞「了」・語気助詞「了」など
⑬	第十課：你沒？典？	本文・練習問題など
⑭	学習内容総括と理解度	期末試験・まとめと解説の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を全て単語帳に記入して暗記し、授業ノートの整理を行う。
- ・宿題として課された練習問題を解く。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松尾幸忠・李徳林『簡明現代中国語』（中国詩文研究会発行、2010年、取扱：東方書店）

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20%

期末試験80%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 1 II

2017 年度以降入学者

後藤 淳一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。

【到達目標】

- ・中国語の正しい発音を身につける。
- ・ピンインを正しく読めるようにする。
- ・中国語の初級レベルの文法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

これまでとは違うテキストを使って、初級中国語の基礎を確認しつつ、更に内容を補う授業を週一回で進めて行く。課題等へのフィードバックは授業時間を通じて行う。また、初級履修時に用いた『ポイント学習中国語初級（改訂版）』（東方書店）も併せて授業に持参すること。互いに参照して理解をより深める為でもある。また、授業内小テストを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	第十一課：你爸爸会用 ☐☐☐？	助動詞「会」「能」「想」・経験態 など
②	第十一課：你爸爸会用 ☐☐☐？	本文・練習問題など
③	第十二課：今天天气又 下降了 2 度	助動詞「得」・比較文・結果補語 など
④	第十二課：今天天气又 下降了 2 度	本文・練習問題など
⑤	第十三課：从☐儿到公 司☐不☐？	動態助詞「着」・自然現象・可能 補語など
⑥	第十三課：从☐儿到公 司☐不☐？	本文・練習問題など
⑦	第十四課：你把☐典放 在哪儿了？	「把」構文・方向補語・受け身文 など
⑧	第十四課：你把☐典放 在哪儿了？	本文・練習問題など
⑨	第十五課：你在看什么 呢？	進行形・状態補語・二重目的語な ど
⑩	第十五課：你在看什么 呢？	本文・練習問題など
⑪	第十六課：☐台上有一 副眼☐	存現文・複合方向補語・兼語文な ど
⑫	第十六課：☐台上有一 副眼☐	本文・練習問題など
⑬	総合復習	これまで学んだ文法事項の再確認
⑭	学習内容総括と理解度 の確認	期末試験・まとめと解説 の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストに付いている CD を繰り返し聴き、発音をまねる。
- ・新出単語を全て単語帳に記入して暗記し、授業ノートの整理を行う。
- ・宿題として課された練習問題を解く。

・本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

松尾幸忠・李徳林『簡明現代中国語』（中国詩文研究会発行、2010 年、取扱：東方書店）

※秋学期の本授業のみを履修する者も、テキストは春の時点で購入し、第十課までの内容をあらかじめノートに纏めておくこと。

【参考書】

授業の中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）20%

期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

LANc100LA

中国語補講 2 I

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるようにする。

【到達目標】

文章を通じて、読む力、聴く力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	導入	導入
2 回目	挨拶（1）	子音・母音（1）など
3 回目	挨拶（2）	子音・母音（2）など
4 回目	挨拶（3）	母音（3）など
5 回目	初めて会う（1）	疑問文・形容詞述語文など
6 回目	初めて会う（2）	動詞述語文など
7 回目	尋ねる（1）	名詞述語文など
8 回目	尋ねる（2）	「有」文・前置詞構造
9 回目	尋ねる（3）	時間詞など
10 回目	尋ねる（4）	連動文など
11 回目	尋ねる（5）	方位詞など
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、春学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 301 文』（上）語文研究社、1365 円。

【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40%）、発音試験（30%）、平常点（30%）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 2 II

2017 年度以降入学者

沈 小南

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎となる発音と文法を基本文型に沿って学ぶ。基礎固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるようにする。

【到達目標】

文章を通じて、読む力、聴く力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前年度で習得した知識の基本固めをしながら、多様な話題について、平易な中国語を話し、書き、聞くことができるように段階を追って、練習を積み重ねていく。単語力を増やし、易しい文型を繰り返し発音、暗記することが求められる。

課題等へのフィードバックは授業時間または学習支援システムを通じて行う。

「大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	復習	復習
2 回目	必要（1）	語気助詞「了」（1）
3 回目	必要（2）	主述述語文など
4 回目	必要（3）	二重目的語文など
5 回目	必要（4）	兼語文・語気助詞「了」（2）
6 回目	必要（5）	結果補語など
7 回目	約束（1）	動態助詞「過」など
8 回目	約束（2）	方向補語（1）など
9 回目	迎える（1）	1）文型「要～了」 2）文型「是～的」
10 回目	迎える（2）	動量補語など
11 回目	招待する	程度補語
12 回目	復習	総復習
13 回目	試験 1	発音試験、秋学期のまとめ
14 回目	試験 2	筆記試験、秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国語会話 3 0 1 文』（上）語文研究社、1365 円。

【参考書】

【ポイント学習・中国語初級】

【成績評価の方法と基準】

筆記試験（40 %）、発音試験（30 %）、平常点（30 %）、の三つを合わせて、総合評価を出す。

【学生の意見等からの気づき】

もっと中国文化を紹介し、日中友好と相互理解を深めたい。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See “Grading criteria” by instructor’s syllabus.

LANc100LA

中国語補講 2 I

2017 年度以降入学者

余 瀾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

ほぼ一回に 1 課分を進める予定です。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから、練習問題を解いて知識が定着するようにします。授業の後半 30 分間に、勉強した内容を復習させ、小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」	「中国及び中国語に関する概説」
	第 1 課「発音 1」	「発音の基本」ピンインの読み方
	第 2 課「発音 2」	
2	第 3 課「発音 3」	「発音の基本」ピンインの読み方
	第 4 課「発音 4」	
3	「第 5 課」	「自己紹介」
	「第 6 課」	「あいさつ」
		「動詞述語文」
4	「第 7 課」	「形容詞述語文」
	「第 8 課」	「名詞述語文」
5	「第 9 課」	「主述述語文」
6	「第 10 課」	「連体修飾語、連用修飾語」
7	「第 11 課」	「数量補語」
8	「第 12 課」	「動詞述語文 1」
	中間テスト	第 5 課～11 課の纏めと解説
	(第 5 課～11 課)	
9	「第 13 課」	「動詞述語文 2」
10	「第 14 課」	「動詞述語文 3」
11	「第 15 課」	「動詞述語文 4」
12	「第 16 課」	「動詞述語文 5」
13	「第 17 課」	「動詞述語文 6」
14	期末テスト (第 12 課	第 12 課～17 課の纏め及び解説
	～17 課)	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。

配分は補講の受講者に配慮して、出席重視の方針から毎回行う小テストが 40 %、中間テストは 30 %、期末テストが 30 %です。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

小テストが毎回行うのが有効的であることがわかりました。

【学生が準備すべき機器他】

使用しません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語補講 2 II

2017 年度以降入学者

余 瀾

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、一年間で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

一回に 1 課を進める予定です。新出単語、補充単語、本文を何回も音読し、文法事項を解説してから練習問題を解いて知識を定着するようにします。授業後半の 30 分間は、勉強した内容を復習させ、小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「第 18 課」	「動詞述語文 7」
2	「第 19 課」	「完了態」
3	「第 20 課」	「変化態」
4	「第 21 課」	「経験態」
5	「第 22 課」	「進行態」「持続態」
6	「第 23 課」	「形容詞述語文 1」
7	「第 24 課」	「形容詞述語文 2」
	中間テスト (第 18 課～22 課)	第 18 課～22 課の纏めと解説
8	「第 25 課」	「形容詞述語文 3」
9	「第 26 課」	「名詞述語文 1」
10	「第 27 課」	「名詞述語文 2」
11	「第 28 課」	「名詞述語文 3」
12	「第 29 課」	「連体修飾語」
13	「第 30 課」	「連用修飾語」
14	期末テスト (第 23 課 ～30 課)・まとめと解説	第 23 課～30 課のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は 100 点満点とし、60 点以上は合格となります。配分は補講の受講者に配慮して、出席重視の方針から毎回行う小テストが 40 %、中間テストは 30 %、期末テストが 30 %です。欠席と遅刻をすると小テストができませんので、必ず注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

学生の出席を促すために、小テストが毎回行うのが有効的であることがわかりました。

【学生が準備すべき機器他】

使用しません。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語補講 2 I

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

【到達目標】

中国語の発音と基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本として、発音のおさらい、ポイントの学習、本文の音読、会話練習、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業についての説明 発音のおさらい① 第 1 課 こんにちは	中国語の音節、声調 挨拶言葉 ドリル
2	発音のおさらい② 第 2 課 また明日	単母音、複母音 挨拶言葉 ドリル
3	発音のおさらい③ 第 3 課 ありがとう	子音、無気音と有気音 挨拶言葉 ドリル
4	発音のおさらい④ 第 4 課 お久しぶり	子音、鼻母音 挨拶言葉 ドリル
5	第 5 課 出迎える (1)	第 5 課のポイント 名前の言い方 名前のたずね方
6	第 5 課 出迎える (2)	第 5 課の会話練習 ドリル
7	第 6 課 歓迎パーティー (1)	第 6 課のポイント 動詞「是」 助詞「的」
8	第 6 課 歓迎パーティー (2)	第 6 課の会話練習 ドリル
9	第 7 課 タクシーに乗る (1)	第 7 課のポイント 基本語順 連動文
10	第 7 課 タクシーに乗る (2)	第 7 課の会話練習 ドリル
11	第 8 課 宿泊する (1)	第 8 課のポイント 助動詞「想」 動詞「有」 指示代名詞
12	第 8 課 宿泊する (2)	第 8 課の会話練習 ドリル

13	第 9 課 道をたずねる	第 9 課のポイント 動詞「在」 方位詞 前置詞「从」「往」 場所を表す指示代名詞
14	復習、授業内試験	第 9 課の復習 試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各回に学習する内容をしっかり復習して身につけるようにしましょう。教科書付録の CD や教材内容の映像などを最大限に活用して、予習と復習を行ってください。課題を必ず期限内に完成して提出してください。

【テキスト（教科書）】

「しゃべっていいとも中国語 トータル版」
朝日出版社

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 % によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備してください。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc100LA

中国語補講 2 II

2017 年度以降入学者

劉 光赤

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書に沿って、発音の復習と基本的な文法事項や日常会話を学んでいきます。

【到達目標】

中国語の発音との基礎文法を再確認し、日常的コミュニケーション能力を身に着けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ポイントの学習、本文の音読、会話練習、ドリルを解くような流れで、習った知識を定着するようにします。課題や小テスト、定期試験などのフィードバックは授業の中またはメールなどで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 10 課 ショッピングをする (1)	第 10 課のポイント 数の言い方、中国のお金の言い方、値段のたずね方、 形容詞が述語になる文
2	第 10 課 ショッピングをする (2)	第 10 課の会話練習 ドリル
3	第 11 課 おしゃべりをする (1)	第 11 課のポイント 年月日、曜日の言い方 年齢の言い方
4	第 11 課 おしゃべりをする (2)	第 11 課の会話練習 ドリル
5	第 12 課 料理を注文する (1)	第 12 課のポイント 量詞 動詞の重ね方
6	第 12 課 料理を注文する (2)	第 12 課の会話練習 ドリル
7	第 13 課 サッカーのチケットを買う (1)	第 13 課のポイント 時刻の言い方 新事態の発生や、状態の変化を表す文末の「了」
8	第 13 課 サッカーのチケットを買う (2)	第 13 課の会話練習 ドリル
9	第 14 課 マッサージをする (1)	第 14 課のポイント 時間の長さの言い方 動作行為の完了を表す助詞「了」
10	第 14 課 マッサージをする (2)	第 14 課の会話練習 ドリル
11	第 15 課 インターネット・カフェ (1)	第 15 課のポイント 動作の対象を表す前置詞「在」 助動詞「可以」「能」
12	第 15 課 インターネット・カフェ (2)	第 15 課の会話練習 ドル

13	第 16 課 電話をかける (1)	第 16 課のポイント 動作行為の進行を表す表現 助動詞「会」
14	復習と授業内試験	第 16 課の復習 試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。語学は予習・復習が大事です。授業外では、各回に学習する内容をしっかり復習して身につけるようにしましょう。教科書付録の CD や教材内容の映像などを最大限に活用して、予習と復習を行ってください。課題を必ず期限内に完成して提出してください。

【テキスト（教科書）】

「しゃべっていいとも中国語 トータル版」
朝日出版社

【参考書】

中日辞典、日中辞典

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、学習態度と課題の完成度 50 %によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて進度の調整を行います。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境・PC 等を準備してください。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従って変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition. One hour is required for each lesson for preparation and review of this class. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文でできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 1 課前半	シラバスを用いた授業の説明。 文字と発音。(教科書 pp.2-3)
2	第 1 課後半	アクセントの位置、数詞、曜日、 など。(教科書 pp.4-5)
3	第 2 課前半	名詞の性と冠詞、など。(教科書 pp.6-7)
4	第 2 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.8-9)
5	第 3 課前半	指示形容詞と指示代名詞、など。 (教科書 pp.10-11)
6	第 3 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.12-13)
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 4 課前半	規則動詞の活用と不規則動詞、 など。(教科書 pp.14-15)
9	第 4 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.16-17)
10	第 5 課前半	1 人称単数不規則動詞、など。 (教科書 pp.18-19)
11	第 5 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.20-21)
12	第 6 課前半	語幹母音変化動詞、など。(教科 書 pp.22-23)
13	第 6 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.24-25)
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同学社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This class is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

- ① *gustar* 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。
- ② 再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ③ 動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるができるようになる。
- ④ スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 7 課前半	本シラバスを用いての授業の説明。 再帰動詞、時刻の表現。(教科書 pp.26-27)
2	第 7 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.28-29)
3	第 8 課前半	動詞 <i>gustar</i> の用法、比較級、最上級、など。(教科書 pp.30-31)
4	第 8 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.32-33)
5	第 9 課前半	点過去の規則動詞、同等比較など。(教科書 pp.34-35)
6	第 9 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.36-37)
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 10 課前半	点過去の不規則形、否定語と不定語など。(教科書 pp.38-39)
9	第 10 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.40-41)
10	第 11 課前半	線過去、点過去と線過去の違いなど。 (教科書 pp.42-43)
11	第 11 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.44-45)
12	第 12 課前半	過去分詞、関係詞。(教科書 pp.46-47)
13	第 12 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.48-49)
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同友社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】

西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行うと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This class is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to understand the usage of "gustar" verbs and describe preferences, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.

Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sound of Spanish. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

敦賀 公子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語世界への理解と興味を導く第一歩として、スペイン語の基本文法・表現を学ぶことを目標とします。

【到達目標】

今学期は特に、名詞、冠詞、形容詞の性数変化と基本動詞の現在形、目的格人称代名詞などを習得します。

基本文法を活用して、日常生活の中で使う簡単な語彙と文章に慣れるとともに、簡単な会話文を理解できるようになることをめざします。また、日本語や英語とは異なる言語のしくみについて考え、多様な魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、スピーキング、訳読などで、さらに理解を深め、知識の定着を図ります。より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを課題とし、次の授業で確認するほか、小テストも取り入れます。なお、適宜リアクションペーパーやアンケートの提出を求め、授業運営の参考とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Lección 1	簡単な自己紹介文 アルファベット、発音、読み方など
2	Lección 2 前半	名詞、冠詞など
3	Lección 2 後半	名詞、形容詞など
4	Lección 3 前半	主格人称代名詞、動詞 ser など
5	Lección 3 後半	動詞 ser 、指示語など
6	Lección 4 前半	動詞 estar 、所有形容詞など
7	Lección 4 後半	動詞 estar 、動詞 hay など
8	中間テスト	Lección 4 までのまとめと確認
9	Lección 5 前半	直接法現在・規則動詞など
9	Lección 5 後半	直接法現在・規則動詞の人称活用など
10	Lección 6 前半	直接法現在・不規則動詞など
11	Lección 6 後半	直接目的格人称代名詞など
12	Lección 7 前半	間接目的格人称代名詞など
13	Lección 7 後半	直接法現在・不規則動詞、間接目的格人称代名詞など
14	期末テスト・まとめと確認	Lección 6 までのまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業毎の予習・復習、宿題など。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 エスビギータ- 実りのスペイン語』

岡田敦美、那須まどり 著 （朝日出版社）

【参考書】

西和辞典

その他、授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1、試験（中間・期末、小テスト） 75 %
- 2、平常点 25 %

【学生の意見等からの気づき】

言語のみならず、スペイン語圏の社会や人々についての理解が深まるような、わかりやすい活気のある授業を目指したいと思います。初回授業で皆さんの履修にあたっての希望やスペイン語、スペイン語圏諸国についての興味などに関する簡単なアンケートを行い、授業運営に生かしたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii の各種機能を使用することもありますので、PC を準備して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces the basic grammar and expression of Spanish to students taking this course. It also enhances understanding and interest in the diverse cultures of the Spanish World.

Learning Objectives: The goals of this course are to become familiar with simple vocabulary and sentences used in daily life by utilizing basic grammar and also be able to understand simple conversational sentences.

Learning activities outside of classroom: : Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Examinations: 75%, in class contribution: 25%

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

敦賀 公子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に習得した知識の上に、発展した基本文法を習得し、スペイン語やスペイン語諸国についての理解と興味をさらに深めることを目標とします。

【到達目標】

今学期は特に、再帰動詞、動詞の現在完了形、過去形などを習得します。

春学期の知識に加え、さらに発展した基礎文法を活用することで、様々な日常生活の場面で使う語彙と文章に親しみます。それによって多様で魅力にあふれるスペイン語世界への興味を高めるとともに、日本語や日本文化との比較分析を行い、異文化理解へと発展させていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストにそって、文法の解説を行い、その後、練習問題、会話表現、リスニング、スピーキング、訳読などでさらに理解を深めます。より効果的な学習のために毎回練習問題や訳読などを課題とするほか、小テストを適宜取り入れます。なお、リアクションペーパーやアンケートの提出を求め、授業運営の参考とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期のポイントの復習
	Lección 8 前半	gustar 型動詞など
2	Lección 8 後半	gustar 型動詞と前置詞格人称代名詞など
3	Lección 9 前半	再帰動詞など
4	Lección 9 後半	再帰動詞と無人称文など
5	No.1 テスト	L.9 までのまとめと確認
	Lección 10 前半	過去時制と点過去（規則動詞）など
6	Lección 10 後半	点過去（規則動詞）など
7	Lección 11 前半	点過去（不規則動詞）など
8	Lección 11 後半	関係詞、所有形容詞など
9	No.2 テスト	L.10,11 のまとめと確認
	Lección 12	現在分詞など
10	Lección 13	過去分詞、現在完了、受動態など
11	Lección 14	比較級、関係副詞など
12	Lección 15 前半	線過去など
13	Lección 15 後半	線過去と点過去など
14	期末テスト	L.15 までのまとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業毎の予習・復習、宿題。本授業の準備・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 エスピゲータ 実りのスペイン語』

岡田敦美、那須まどり 著 （朝日出版社）

【参考書】

西和辞典

その他、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 1、試験（テスト、期末テスト、小テストなど） 75 %
- 2、平常点 25 %

【学生の意見等からの気づき】

言語のみならず、スペイン語圏の社会や人々についての理解が深まるような、わかりやすい活気のある授業を目指したいと思います。皆さんの履修にあたっての希望やスペイン語、スペイン語圏諸国についての興味などに関するアンケートを参考に、授業運営に生かしたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用することがあるので、PC を準備して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline : On the knowledge acquired in the Spring Semester, this course lead the step up grammar and expression of the basic Spanish to students taking this course. It also enhances the development of understanding in the Spanish Countries.

Learning Objectives: The goals of this course are to learn recursive verbs, present perfect and past tenses of verbs, among others. By using more advanced basic grammar, students will become familiar with vocabulary and sentences used in a variety of everyday situations.

Learning activities outside of classroom: : Before/after each class meeting, students will be expected to spend at least one hour to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Examinations: 75%, in class contribution: 25%

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引ながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文でできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次の授業でフィードバックを行う。本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、 第 1 課前半	シラバスを用いた授業の説明。 文字と発音
2	第 1 課後半	音節とアクセント
3	第 2 課前半	名詞の性数、冠詞、hay
4	第 2 課後半	会話文、問題演習
5	第 3 課前半 第 3 課後半	主格人称代名詞、ser、形容詞 否定文と疑問文、会話文、問題演習
6	第 4 課前半	estar、hay、所有形容詞前置形、 会話文
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 4 課後半 第 5 課前半	問題演習 直説法現在規則動詞、曜日と日付 の表現
9	第 5 課後半	会話文、問題演習
10	第 6 課前半	語根母音変化動詞、時刻の表現、 会話文
11	第 6 課後半 第 7 課前半	問題演習 不規則動詞、所有形容詞後置形
12	第 7 課後半	会話文、問題演習
13	第 8 課前半	不規則動詞、直接目的格人称代名 詞
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んだ、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

丹波美佐子・増山久美（2021）『ハカランダースペイン語の基礎』同
学社。ISBN978-4-8102-0442-1

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の
点数を 40 %として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙し
た事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみら
れる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、
成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

・無断で教室を出る。

・飲食をする。

・過度な私語をする。

・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。

・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge
of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to say simple greetings
in Spanish, to read sentences written in the indicative present
tense with the help of a dictionary, to describe one's origin
and characteristics, to depict conditions of people and things,
to express interests, preferences, intentions, wishes, requests,
and habitual actions, and to have an idea about the culture of
Spanish-speaking world.

Students should read the grammatical explanations in the
textbook, work on conversations and exercises, and listen to
the sound files to familiarize themselves with the rhythm and
sounds of Spanish. The standard preparation and review time
for this class is one hour in total.

The final grade will be calculated according to the following
process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribu-
tion 30%

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、
作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南
米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

① *gustar* 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。

② 再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるこ
とができる。

③ 動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況につ
いて述べるようになる。

④ スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
た能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：
DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、
対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii
で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。
それについては、次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 8 課後半	本シラバスを用いての授業の説明 会話文、問題演習
2	第 9 課前半	不規則動詞、間接目的格人称代名 詞
3	第 9 課後半	会話文、問題演習
4	第 10 課前半	<i>gustar</i> 型動詞、前置詞格人称代 名詞、不定語と否定語
5	第 10 課後半 第 11 課前半	会話文、問題演習 再帰動詞
6	第 11 課後半	会話文、問題演習
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 12 課前半	比較級、最上級、会話文
9	第 12 課後半 第 13 課前半	問題演習 直説法点過去
10	第 13 課後半	会話文、問題演習
11	第 14 課前半	直説法線過去、会話文
12	第 14 課後半 第 15 課前半	問題演習 過去分詞、現在完了形、現在分詞
13	第 15 課後半	会話文、問題演習
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、
会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも
も分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音
源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間
は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

丹波美佐子・増山久美（2021）『ハカランダース페인語の基礎』同
学社。ISBN978-4-8102-0442-1

【参考書】

西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の
点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙し
た事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみら
れる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。
授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、
成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge
of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to understand the usage
of "gustar" verbs and describe preferences, to understand the
usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to
depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the
indicative past tense of verbs, and to have an idea about the
culture of Spanish-speaking world.

Students should read the grammatical explanations in the
textbook, work on conversations and exercises, and listen to
the sound files to familiarize themselves with the rhythm and
sounds of the Spanish language. The standard preparation and
review time for this class is one hour in total.

The final grade will be calculated according to the following
process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribu-
tion 30%

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎をしっかりと身に着けるための文法的解釈ができ
るようにすることを目的とする。

【到達目標】

現在形と点過去で話ができることを目標とする。簡単な文章を作成
することができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示され
たどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部：
DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

文法の説明と設問の練習など。基本的には対面ですが社会状況に応
じてオンラインに切り替わる可能性もあるので学習支援システムを
確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルファベットの練習	スペイン語のアルファベットの読 み方
2	アルファベットの練習	スペイン語の発音、読み方の練習
3	名詞の性と数	スペイン語には名詞に男性形と女 性形があることの説明およびそれ らが複数になった時の形について
4	名詞の性と数と疑問文 および hay について	前回の復習とスペイン語の疑問文 および hay があるの hay の説明
5	ser 動詞について	「～は～である」を意味する ser 動詞の学習
6	ser 動詞について	前回の文法的解釈の復習と練習問 題
7	形容詞について	性変化のある形容詞についての説 明
8	形容詞について	性変化のない形容詞について
9	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文 法的説明
10	estar 動詞について	estar 動詞の使い方についての文 法的説明を踏まえたうえで練習問 題を行う
11	ser 動詞と estar 動詞 の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分け についての説明と練習
12	ser 動詞と estar 動詞 の使い分け	ser 動詞と estar 動詞の使い分け についての説明と練習
13	指示形容詞と hay と estar の使い方	やや複雑な hay と estar の使い 方の説明と練習
14	現在形規則動詞の説明	現在形規則動詞の説明と変化の仕 方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題を適宜出すので、復習は勿論宿題は必ずやっておくこと。復習
には一時間程度を費やすこと。

【テキスト（教科書）】

Ahora, tú きみもやってみよう！ スペイン語 改訂版 朝日出版社

【参考書】

新版「スペイン語の入門」

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しないと単位は取れないことに注意。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。3 回欠席をすると単位は取得できない。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく学生が学びやすいスピードで丁寧に進めていくことにより、早くスペイン語に慣れるように努力する。配布するアクションペーパーには質問やわからない単元について記入してください。これらについては授業内に復習するなどの対応を行います。

【その他の重要事項】

社会状況によってはオンライン授業を行うこともある。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn basic Spanish grammars and carry on practices which are in the textbook.

The goal is to be able to use present tense and be able to structure simple sentences.

Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前期の学習を基礎としてさらにスペイン語に慣れて、基本的な会話や文章が作成できるようにする

Based on what the students have learned in the first semester, they will learn how to structure basic conversation and sentences.

【到達目標】

スペイン語にさらに慣れて文法をもとに会話を行うことに慣れる

Get used to Spanish and converse based on what they have learned in the earlier semester

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストを用いた文法的説明と練習問題の実施。基本的には対面授業だが社会状況に応じてオンラインに切り替わる可能性もあるので学習支援システムを確認すること。

Practicing exercises and grammatical explanation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	現在形規則動詞復習	現在形規則動詞 AR 型の復習
2	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型	現在形規則型動詞 ER 型、IR 型の説明と変化の練習
3	現在規則型動詞のまとめ	練習問題への取り組み
4	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題への取り組み
5	現在形語幹母音変化動詞	現在形の語幹母音変化動詞についての説明と練習問題への取り組み
6	指示代名詞と所有形容詞	指示代名詞及び所有形容詞の説明
7	動詞の原形を従える動詞	動詞の原形を従える動詞についての説明と練習問題
8	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞	現在形で一人称単数のみが不規則な動詞についての説明と練習問題への取り組み
9	時刻・曜日・天候の読み方	日常的に使う時刻と曜日・天候の読み方についての説明
10	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞	現在形その他の不規則動詞および動詞の原形を従える動詞についての説明
11	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las	目的格代名詞 me, te, lo, la, nos, los, las についての説明と練習問題への取り組み
12	再帰動詞	再帰動詞についての説明および練習問題への取り組み
13	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明
14	点過去、規則動詞	点過去、規則動詞についての説明と練習問題への取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて宿題を出し、プリントの配布を行うので必ずやってくる。復習に費やす時間は一時間程度を目安とする。

【テキスト（教科書）】

Ahora tú「君もやってみよう！ スペイン語 改訂版」 朝日出版社

【参考書】

『新版スペイン語の入門』（文法書）紙媒体辞書必携

『クラウン西和辞典』三省堂

『プログレッシブスペイン語辞典』小学館

『現代スペイン語辞典』白水社

【成績評価の方法と基準】

テスト 60 %、平常点（参加態度）40 % 期末テストで 60 % 取得しなければ単位は取れないことに注意。三回欠席すると単位を取得できない。授業中の携帯電話の使用は減点の対象となる。社会状況に応じてはオンライン授業となることもある。

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布するリアクションペーパーにわからない点、再度説明してほしい点などを書くこと。授業内で復習するなどの適切な対応をとります。

【学生が準備すべき機器他】

スペイン語辞書（紙媒体）必携

インターネットを利用した辞書ツールは一切認めません。

【Outline (in English)】

1.To structure conversation in Spanish and write sentences. Understand the basic Spanish grammars and vocabularies and able to speak out or writ out simple sentences in Spanish. Comprehend what is written in the textbook and memorize the vocabularies that appear in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な文章の理解や作文やオーラルでのコミュニケーションを通して簡単な表現、また平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。しかし、社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる可能性もあるので学習支援を確認すること。

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題や会話形式の問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。

内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。また、一部の宿題はオンラインのシステムを用いて各自で確認してもらいます。

教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベートとあいさつ	授業概要説明。 アルファベートと発音、あいさつの練習。
2	名詞の性と数	名詞の性と数を理解する。
3	冠詞、形容詞、数詞 1	冠詞の概念を理解する。 形容詞の練習。
4	主語人称代名詞、動詞 ser	主語人称代名詞と動詞の活用 の概念を理解する。 動詞 ser の活用と用法を練習する。
5	時刻表現、動詞 estar	動詞 ser を用いた自国の表現を確認する。 動詞 estar の活用と用法を練習する、ser との違いを確認する
6	存在を表す hay 所有形容詞前置形	存在を表す hay の用法を理解し、estar との違いを確認する。
7	動詞 tener ser/estar の違い	動詞 tener を用いた表現を確認する。 動詞 ser/estar の違いを確認する。
8	直接法現在規則動詞 (-ar 動詞)	直接法現在規則動詞 (-ar 動詞) の用法と活用を学び練習する。

9	主な前置詞 疑問詞	頻出前置詞の確認をする。 疑問詞をまとめて確認する。
10	直接法現在規則動詞 (-er 動詞、-ir 動詞)	直接法現在規則動詞 (-er 動詞、-ir 動詞) の用法と活用を学び練習する。
11	曜日 指示形容詞	曜日を確認するとともに、曜日を 含めた規則動詞の練習をする。
12	直接法現在不規則動詞 天候表現	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。 特に動詞 ir, hacer の用法を学ぶ。
13	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞の用法を学び練習する。
14	春学期のまとめと期末試験	春学期に学習したことをまとめ、 期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にすること。宿題の授業内やオンラインでの確認によって、疑問点をなくすようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・プラド、エウヘニオ他（2021）『スペイン語への道』（Senda hacia el español）（第三書房）

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（40 %）、期末試験（60 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、3 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。また、期末試験では 60 点以上取得しないと単位は取れません。授業中の携帯の使用は減点の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進捗調整を頻繁に行います。
語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語 1 I からの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通した簡単な表現ができるようになります。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章を読み、理解できるようになる。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業ですが、社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる可能性もあるので学習支援システムを確認すること。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。
内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。また、一部の宿題はオンラインのシステムを用いて各自で確認してもらいます。
教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習。
2	直接法現在不規則動詞 II	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。 特に動詞 saber/conocer の違いを確認する。
3	所有形容詞後置形、比較級と最上級	所有形容詞の前置形と後置形の用法と違いを学び練習する。 比較表現を確認し練習する。
4	直説法現在不規則動詞 III（語幹母音変化動詞）	直説法現在語幹母音変化動詞の活用を学び練習する。 特に動詞 querer と poder の用法を練習する。
5	直説法現在不規則動詞 IV 前置詞格人称代名詞	直説法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。
6	間接目的格人称代名詞	間接目的格人称代名詞を確認し、 直接目的格の復習もする。
7	動詞 gustar と gustar 型動詞	動詞 gustar の用法を理解する。 gustar 型動詞の用法を学び練習する。
8	再帰動詞 I	再帰動詞の概念を理解し、全人称用法を学び練習する。

9	再帰動詞 II	再帰動詞の 3 人称用法についても学び、練習する。
10	点過去（規則活用）	点過去の概念を理解し、点過去の規則活用を学び練習する。
11	点過去（不規則活用）	点過去の不規則活用を学び練習する。
12	線過去	線過去の概念を理解し、その活用と用法を学び練習する。
13	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解し、単純な過去の表現を練習する。
14	1 年間のふりかえりと 期末試験	1 年を通して学んだことをふりかえり、復習をする。 それらの確認としての、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にすること。宿題の授業内やオンラインでの確認によって、疑問点をなくすようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・プラド、エウヘニオ他（2021）『スペイン語への道』（Senda hacia el español）（第三書房）

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『ブエルト新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（40 %）、期末試験（60 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、3 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。
期末試験では 60 点以上獲得しないと単位は取得できません。授業中の携帯の使用は減点の対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。

語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何があると言った存在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法 A」と「コミュニケーション A」、「文法 B」と「コミュニケーション B」という、A、B の 2 セットから成る。1 回の授業で 1 セットを学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Introduccion	シラバスを用いた授業の説明。 アルファベット、つづりと発音、アクセント。
2	Unidad 1A	名詞の性・数、冠詞。
3	Unidad 1B	主格人称代名詞と動詞 SER。
4	Unidad 2A	所有形容詞前置形、指示形容詞。
5	Unidad 2B	形容詞、数詞。
6	Unidad 3A	動詞 ESTAR、場所の表現。
7	理解度確認 Unidad 3B	中間試験を実施。 SER+形容詞、ESTAR+形容詞、動詞 TENER。
8	Unidad 4A	直説法現在規則動詞。
9	Unidad 4B	動詞 HAY、時刻の表現。
10	Unidad 5A	動詞 IR、疑問詞 (1)。
11	Unidad 5B	動詞 VER,HACER,PONER,SALIR、 曜日と日付、疑問詞 (2)。 直接目的格人称代名詞、語幹母音変化動詞。
12	Unidad 6A	不定詞表現、目的格人称代名詞の位置。
13	Unidad 6B	不定詞表現、目的格人称代名詞の位置。
14	理解度確認。	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、斎藤、仲道(2020)『エル オリソンテ』白水社。
978-4-560-09954-4

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を30%。中間試験の点数を30%、期末試験の点数を40%として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列举した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70%の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で日常的な習慣について述べるができるようになる。好みや興味について述べられるようになる。比較表現ができるようになる。過去の行為、動作、習慣について述べるができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法 A」と「コミュニケーション A」、「文法 B」と「コミュニケーション B」という、A、B の2セットから成る。1回の授業で1セットを学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次の授業でフィードバックを行う。本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス Unidad 6B	シラバスを用いての授業の説明。 不定詞表現、目的格人称代名詞の位置。
2	Unidad 7A	間接目的格人称代名詞、動詞 DAR, DECIR, TRAER。
3	Unidad 7B	動詞 OIR, VENIR, SABER, CONOCER、 天候表現。
4	Unidad 8A	再帰動詞。
5	Unidad 8B	再帰動詞のその他の用法、義務の表現。
6	Unidad 9A	前置詞格人称代名詞、動詞 gustar。
7	理解度確認 Unidad 9B	中間試験を実施、まとめと解説。 gustar 型動詞、所有形容詞後置形。
8	Unidad 10A	比較級、最上級。
9	Unidad 10B	不定語・否定語、感嘆文。
10	Unidad 11A	直説法点過去規則動詞、数 101～9000。
11	Unidad 11B	直説法点過去不規則動詞。
12	Unidad 12A	直説法線過去。
13	Unidad 12B	点過去と線過去、直接話法・間接話法。
14	理解度確認。	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、斎藤、仲道 (2020) 『エル オリソンテ』白水社。
978-4-560-09954-4

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列举した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるといふ意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language. The goals of this course are to be able to describe preferences, to describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world..

Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、興味や関心や嗜好、意思や希望や依頼、習慣的に行う行為、について口頭で述べる、あるいは作文でできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 1 課前半	シラバスを用いた授業の説明。 文字と発音。(教科書 pp.2-3)
2	第 1 課後半	アクセントの位置、数詞、曜日、 など。(教科書 pp.4-5)
3	第 2 課前半	名詞の性と冠詞、など。(教科書 pp.6-7)
4	第 2 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.8-9)
5	第 3 課前半	指示形容詞と指示代名詞、など。 (教科書 pp.10-11)
6	第 3 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.12-13)
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 4 課前半	規則動詞の活用と不規則動詞、な ど。(教科書 pp.14-15)
9	第 4 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.16-17)
10	第 5 課前半	1 人称単数不規則動詞、など。 (教科書 pp.18-19)
11	第 5 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.20-21)
12	第 6 課前半	語幹母音変化動詞、など。(教科 書 pp.22-23)
13	第 6 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.24-25)
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹（2010）『改訂版・ミラ』同学社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

- ① *gustar* 型動詞の用法を理解し、嗜好について述べることができる。
- ② 再帰動詞の用法を理解し、日常生活での行動について述べるができる。
- ③ 動詞の直説法過去形を活用させて、過去の行為、動作、状況について述べるができるようになる。
- ④ スペインとラテンアメリカの文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 第 7 課前半	本シラバスを用いての授業の説明。 再帰動詞、時刻の表現。(教科書 pp.26-27)
2	第 7 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.28-29)
3	第 8 課前半	動詞 <i>gustar</i> の用法、比較級、最上級、など。(教科書 pp.30-31)
4	第 8 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.32-33)
5	第 9 課前半	点過去の規則動詞、同等比較など。(教科書 pp.34-35)
6	第 9 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.36-37)
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説。
8	第 10 課前半	点過去の不規則形、否定語と不定語など。(教科書 pp.38-39)
9	第 10 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.40-41)
10	第 11 課前半	線過去、点過去と線過去の違いなど。 (教科書 pp.42-43)
11	第 11 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.44-45)
12	第 12 課前半	過去分詞、関係詞。(教科書 pp.46-47)
13	第 12 課後半	会話文と練習問題。(教科書 pp.48-49)
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、会話文や練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書内容の音源を聞き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

糸魚川美樹 (2010)『改訂版・ミラ』同人社、2500 円＋税。ISBN978-4-8102-0354-7

【参考書】

西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列举した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説をする。双方向的な授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to understand the usage of gustar verbs and describe preferences, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.

Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引きながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何があると言った存在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 第 1 課前半	シラバスを用いた授業の説明。 文字と発音
2	第 1 課後半	発音とアクセント
3	第 2 課前半	名詞、冠詞
4	第 2 課後半 第 3 課前半	会話文、問題演習 ser, estar, 肯定文、否定文、疑問文
5	第 3 課後半	形容詞、会話文、問題演習
6	第 4 課前半	規則動詞、現在形、会話文
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説
8	第 4 課後半 第 5 課前半	問題演習 tener, ir, venir, 時刻の表現
9	第 5 課後半	会話文、問題演習
10	第 6 課前半	母音変位動詞、目的語の人称代名詞、gustar
11	第 6 課後半	会話文、問題演習
12	第 7 課前半	所有詞、指示詞、比較級、最上級
13	第 7 課後半	会話文、問題演習
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福島教隆 (2022)『活き活きスペイン語（改訂版）』朝日出版社。
978-4-255-55127-2

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to say simple greetings in Spanish, to read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary, to describe one's origin and characteristics, to depict conditions of people and things, to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense. Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための、基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

スペイン語で簡単な挨拶ができるようになる。直説法現在形で書かれた文章を辞書を引ながら読むことができる。動詞を現在形に活用させて自分の出身地、人やモノの特徴や状態、何が起こっていると書いた所在や存在、気分や暑さ寒さなどの感覚、意思や希望や依頼について口頭で述べる、あるいは作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教員が文法解説を行う。受講生を指名して、対話文の音読・訳読、練習問題への回答を行う。また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次回の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを用いた授業の説明
	第 8 課前半	点過去規則活用、前置詞
2	第 8 課後半	会話文、問題演習
3	第 9 課前半	点過去不規則活用、疑問詞、数、会話文
4	第 9 課後半	問題演習
	第 10 課前半	線過去、数 (101~1 億)
5	第 10 課後半	会話文、問題演習
6	第 11 課前半	規則動詞、現在形、会話文
7	理解度確認	中間試験、まとめと解説
8	第 11 課後半	問題演習
	第 12 課前半	tener, ir, venir、時刻の表現
9	第 12 課後半	会話文、問題演習
10	第 13 課前半	過去分詞、現在完了形、関係詞
11	第 13 課後半	会話文、問題演習
12	第 14 課前半	受動文、再帰動詞
13	第 14 課後半	会話文、問題演習
14	理解度確認	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福島教隆 (2022)『活き活きスペイン語（改訂版）』朝日出版社。
978-4-255-55127-2

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書については、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %。中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 %として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 %の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by conjugating verbs in the present tense, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs,

Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour combined.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な文章の理解や作文やオーラルでのコミュニケーションを通して簡単な表現、また平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題や会話形式の問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。

内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。

教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベットとあいさつ	授業概要説明。アルファベットと発音、あいさつの練習。
2	名詞の性と数	名詞の性と数を理解する。
3	冠詞、存在を表す hay	冠詞の概念を理解する。存在を表す hay の用法を理解し練習する。
4	主語人称代名詞、形容詞	主語人称代名詞を理解する。形容詞の使い方を理解し練習する。
5	動詞 ser、動詞 estar	動詞 ser と動詞 estar の活用と用法を確認し練習する。
6	直接法現在規則動詞	直接法現在規則動詞の用法と活用を学び練習する。
7	所有形容詞前置形／後置形、指示形容詞／代名詞	所有形容詞前置形／後置形、指示形容詞／代名詞の用法を確認し、練習する。
8	直接法現在不規則動詞（1 人称単数が不規則）	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。特に動詞 ir, hacer の用法、conocer と saber の違いを学ぶ。
9	直接法現在不規則動詞（語幹母音変化動詞）	語幹母音変化動詞の活用を確認し練習する。重要な用法を持つ動詞を確認する。
10	不定詞をとる動詞	不定詞をとる動詞を確認し練習する。

11	直説法現在不規則動詞 (<i>tener, decir, oír</i> 等)	動詞の活用を確認する。特に <i>tener</i> の用法を確認し、練習する。
12	時刻表現	時刻の表現を確認するとともに、時刻を含めた規則動詞の練習をする。
13	目的格人称代名詞	目的格人称代名詞の用法を学び練習する。
14	春学期のまとめと期末試験	春学期に学習したことをまとめ、期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強しましょう。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にしましょう。宿題の確認によって、疑問点をなくすようにしましょう。進出単語は自発的に覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大原志麻他(2021)『ビエンベニードス！』(¡ Bienvenidos al mundo del español!) 朝日出版社。

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（60 %）、期末試験（40 %）欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をせず、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

各回の授業前に、学習支援システムで資料の有無を確認してください。

【Outline (in English)】

The course will explain the basic Spanish grammar. At the end of the course, students are expected to write and speak in plain Spanish: greeting, brief self-introduction, plain description etc. Please prepare for the lesson before/after 1 hour of preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%. Tests conducted in class and class participants: 60%. More than four absences will not be approved.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語 1 I からの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通した簡単な表現ができるようにします。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。平易な文章を読み、理解できるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習。
2	疑問詞	これまでにでてきた疑問詞を中心にまとめ、復習をしながら練習する。
3	時間に関する表現	曜日、月、日付の表現を確認するとともに、それらを含めた動詞の練習をする。
4	動詞 <i>gustar</i> と <i>gustar</i> 型動詞	動詞 <i>gustar</i> の用法を理解する。 <i>gustar</i> 型動詞の用法を学び練習する。
5	天候表現	天候表現を確認し、練習する。
6	再帰動詞（基本的な用法）	再帰動詞の概念を理解し、全人称用法を学び練習する。
7	再帰動詞（3 人称用法）	再帰動詞の 3 人称用法についても学び、練習する。
8	点過去（規則活用）	点過去の概念を理解し、点過去の規則活用を学び練習する。
9	点過去（不規則活用）	点過去の不規則活用を学び練習する。
10	関係詞	関係詞を確認し、練習する。
11	線過去	線過去の概念を理解し、その活用と用法を学び練習する。
12	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解し、単純な過去の表現を練習する。

13	比較表現	基本的な比較表現を確認する。比較級と最上級が使えるように練習する。
14	1 年間のふりかえりと 期末試験	1 年を通して学んだことをふりかえり、復習をする。 それらの確認としての、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をしましょう。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にしましょう。宿題の確認によって、疑問点をなくすようにしましょう。進出単語は自発的に覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大原志麻他 (2021)『ビエンベニードス！』(j Bienvenidos al mundo del español) 朝日出版社。

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（60 %）、期末試験（40 %）欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をせず、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進捗調整を頻繁に行います。

語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

授業前には、学習支援システムに入り資料の有無を確認してください。

【Outline (in English)】

The course will explain the basic Spanish grammar. At the end of the course, students are expected to write and speak in plain Spanish: taste, mind, hope, past events etc. Please prepare for the lesson before/after 1 hour of preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Tests conducted in class and class participants: 60%. More than four absences will not be approved.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項を学習する。基本的に「対面」による講義形式となるが、学生の積極的な発言を促しながら授業を進めていく。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『スペイン語でスケッチ』（第三書房）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、期末試験 (60 %) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, we will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 60%

in class contribution:40%

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『スペイン語でスケッチ』（第三書房）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%)、期末試験 (60 %) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline (in English)】

In this course we will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 60%

in class contribution:40%

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時までに、スペイン語の単純な現在形の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。講義はスペイン語のアルファベットから開始する。講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行う。まったくのスペイン語初心者が受講することを想定するので、授業は出来る限りゆっくり、また丁寧に進行するが、効果的な学習のためには各自の予習と復習、特に後者が必須である。このため授業の途中で一度、理解の確認のための中間テストを行う。ただし初回の授業は予習の必要はない。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたりアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス アルファベット 母音の発音	本授業のガイダンス スペイン語と英語のアルファベットの違い 母音の発音規則 (テキスト: インTRODクシヨン)
2	子音の発音 アクセントのルール 注意すべきつづり	子音の発音規則 アクセントの位置のルール 発音を間違えやすいつづり (テキスト: インTRODクシヨン)
3	名詞の数 名詞の性 定冠詞と不定冠詞	名詞の性の概念 名詞の複数形の作り方 定冠詞と不定冠詞 (テキスト: 第 1 課)
4	主格人称代名詞 動詞 ser 直説法現在	主格人称代名詞の種類と用法 動詞 ser の活用と用法 (テキスト: 第 1 課)
5	形容詞 数 1 ～ 100	形容詞の性数変化 1 から 100 までの数詞 (テキスト: 第 2 課)
6	所有形容詞前置形 指示形容詞	所有形容詞前置形の種類と用法 指示形容詞の種類と用法 (テキスト: 第 2 課)

7	中間試験 動詞 estar 直説法現在 場所の表現	中間試験 動詞 estar の活用 場所を表す副詞句 (テキスト: 第 3 課)
8	ser と estar 動詞 tener 直説法 現在 tener + 名詞の表現	ser と estar の使い分け 動詞 tener の活用と用法 tener を用いた気分や状態の表現 (テキスト: 第 3 課)
9	直説法現在規則動詞	直説法現在の規則活用 (テキスト: 第 3 課)
10	hay 時刻の表現	hay を用いた存在の表現 時刻の表し方 (テキスト: 第 4 課)
11	動詞 ir 主な前置詞	動詞 ir の活用と用法 よく使われる前置詞 (テキスト: 第 5 課)
12	動詞 ver , hacer , poner , salir 曜日・日付の表現	動詞 ver , hacer , poner , salir の活用と用法 曜日と月 (テキスト: 第 5 課)
13	疑問詞	疑問詞の種類と使い方 (テキスト: 第 5 課)
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。また時間の都合上、授業中に教科書内の全ての練習問題に取り組むことはできない。このため、授業の進行に合わせて各自が自主的に問題に取り組み、理解度を把握することが必須となる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・ブラド、齋藤華子、仲道慎治『エル オリゾンテ (Español en el horizonte)』(白水社)、2,500 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探することができる。
<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 % として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic grammar of Spanish.
By the end of the course, students should be able to understand and make Spanish sentences of the simple present tense.
Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours in total to understand the course content.
Final grade will be calculated according to the following process:
- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をゼロから学んでいく。

【到達目標】

履修生は今学期終了時までに、簡単な過去形を含むスペイン語の文章を理解し、作文できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

受講生各自による復習と予習を踏まえ、所定のテキストに基づいて、毎週の講義で少しずつスペイン語の文法構造を学んでいく。内容は春学期「スペイン語 1I」の継続であり、テキストも同じものを引き続き用いる。毎回の講義のあと、学んだことの確認、および会話の練習のため、口頭での質疑応答も行なう。秋学期からは学習内容も高度化するため、各自の予習と復習、特に後者がより重要となる。このため学期の途中で一度、理解の確認のための中間テストを行う。受講にあたっては、下記のテキストの他、西和辞典も持参すること。課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたりアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	語幹母音変化動詞 不定詞表現	春学期のおさらい 語幹母音変化動詞 よく使われる不定詞表現 (テキスト: 第 6 課)
2	動詞 dar , decir , traer , oír , venir , saber , conocer	動詞 dar , decir , traer , oír , venir , saber , conocer の活用と 用法 (テキスト: 第 7 課)
3	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞の用法 (テキスト: 第 6 課)
4	間接目的格人称代名詞 天候表現	間接目的格人称代名詞の用法 天候表現 (テキスト: 第 7 課)
5	前置詞格人称代名詞 動詞 gustar	前置詞の後に置かれる人称代名詞 動詞 gustar の用法 (テキスト: 第 9 課)
6	gustar 型動詞 所有形容詞後置形	gustar と似た使い方をする動詞 所有形容詞後置形の種類と用法 (テキスト: 第 9 課)
7	中間試験 再帰動詞	中間試験 再帰動詞の基本用法 (テキスト: 第 8 課)
8	再帰動詞その他の用法 義務の表現	再帰動詞の様々な用法 義務の表現 (テキスト: 第 8 課)

9	直説法点過去規則動詞 数 101 ～ 9000	直説法点過去の規則活用 101 から 9000 までの数詞 (テキスト: 第 11 課)
10	直説法点過去不規則動詞	直説法点過去の不規則活用 (テキスト: 第 11 課)
11	直説法線過去規則動詞 直説法線過去不規則動詞	直説法線過去の規則活用と不規則活用 点過去と線過去の違い (テキスト: 第 12 課)
12	点過去と線過去 直接話法・間接話法	直接話法と間接話法の違いと書き換え (テキスト: 第 12 課)
13	質疑応答	学期末試験に備え、今学期授業内容全体に対しての質疑を受け付ける
14	授業内期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学学習の性質上、自宅での予習や復習が必要となる。特に授業で言及した単語については、辞書を用いて各自反復学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

エウヘニオ・デル・プラド、齋藤華子、仲道慎治『エル オリゾンテ (Español en el horizonte)』(白水社)、2,500 円+税

【参考書】

外国語学習にあたっては、辞書が不可欠の要素である。本授業では特定の西和辞典の購入を義務付けないが、単語の正確な理解のためには『西和中辞典』（小学館）をお勧めする。真剣にスペイン語を身に付けたい受講生は、和西辞典も併用すると効果的である。また単語をスピーディに検索するには電子辞書も有用である。

上記以外の西和辞典は、下記のウェブサイトでも探すことができる。

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生諸君の理解度に合わせ、上記の授業計画は多少変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic grammar of Spanish.

By the end of the course, students should be able to understand and make Spanish sentences of the simple past tense.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)
- Mid-term exam (30%)
- Term-end exam (40%)

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な文章の理解や作文やオーラルでのコミュニケーションを通して簡単な表現、また平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。社会状況に応じてオンラインに切り替わることもあります。

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題や会話形式の問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。

教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベットとあいさつ	授業概要説明。 アルファベットと発音、あいさつの練習。
2	名詞の性と数	名詞の性と数を理解する。
3	冠詞、形容詞、数詞 1	冠詞の概念を理解する。 形容詞の練習。
4	主語人称代名詞、動詞 ser	主語人称代名詞と動詞の活用概念を理解する。 動詞 ser の活用と用法を練習する。
5	時刻表現、動詞 estar	動詞 ser を用いた自国の表現を確認する。 動詞 estar の活用と用法を練習する、ser との違いを確認する。
6	存在を表す hay	存在を表す hay の用法を理解し、estar との違いを確認する。
7	所有形容詞前置形 動詞 tener ser/estar の違い	動詞 tener を用いた表現を確認する。 動詞 ser/estar の違いを確認する。
8	直接法現在規則動詞 (-ar 動詞)	直接法現在規則動詞 (-ar 動詞) の用法と活用を学び練習する。
9	主な前置詞 疑問詞	頻出前置詞の確認をする。 疑問詞をまとめて確認する。

10	直接法現在規則動詞 (-er 動詞、-ir 動詞)	直接法現在規則動詞 (-er 動詞、-ir 動詞) の用法と活用を学び練習する。
11	曜日 指示形容詞	曜日を確認するとともに、曜日を 含めた規則動詞の練習をする。
12	直接法現在不規則動詞 天候表現	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。 特に動詞 ir, hacer の用法を学ぶ。
13	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞の用法を学び練習する。
14	春学期のまとめと期末試験	春学期に学習したことをまとめ、 期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にすること。宿題の授業内やオンラインでの確認によって、疑問点をなくすようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、エウヘニオ他（2021）『スペイン語への道』（Senda hacia el español）（第三書房）

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011 『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015 『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（40 %）、期末試験（60 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、3 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。授業内での携帯電話の使用は減点の対象とします。期末試験で 60 点以上獲得しないと単位は取得できません。

【学生の意見等からの気づき】

語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語 1 I からの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通した簡単な表現ができるようにします。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章を読み、理解できるようになる。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。
内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。また、一部の宿題はオンラインのシステムを用いて各自で確認してもらいます。
教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習。
2	直接法現在不規則動詞 (saber、conocer など)	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。 特に動詞 saber/conocer の違いを確認する。
3	所有形容詞後置形、比較級と最上級	所有形容詞の前置形と後置形の用法と違いを学び練習する。 比較表現を確認し練習する。
4	直説法現在不規則動詞Ⅲ（語幹母音変化動詞）	直接法現在語幹母音変化動詞の活用を学び練習する。 特に動詞 querer と poder の用法を練習する。
5	直説法現在不規則動詞Ⅳ（その他） 前置詞格人称代名詞	直説法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。
6	間接目的格人称代名詞	間接目的格人称代名詞を確認し、 直接目的格の復習もする。
7	動詞 gustar と gustar 型動詞	動詞 gustar の用法を理解する。 gustar 型動詞の用法を学び練習する。
8	再帰動詞Ⅰ（基本的な用法）	再帰動詞の概念を理解し、全人称用法を学び練習する。

9	再帰動詞Ⅱ（3人称用法）	再帰動詞の3人称用法について学び、練習する。
10	点過去（規則活用）	点過去概念を理解し、点過去の規則活用を学び練習する。
11	点過去（不規則活用）	点過去の不規則活用を学び練習する。
12	線過去	線過去概念を理解し、その活用と用法を学び練習する。
13	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解し、単純な過去の表現を練習する。
14	1年間のふりかえりと期末試験	1年を通して学んだことをふりかえり、復習をする。 それらの確認としての、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にすること。宿題の授業内やオンラインでの確認によって、疑問点をなくすようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・プラド、エウヘニオ他（2021）『スペイン語への道』（Senda hacia el español）（第三書房）

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（40％）、期末試験（60％）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、3回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。授業内での携帯電話の使用は減点の対象となります。期末試験で60点以上獲得しないと単位は取得できません。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。
語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な文章の理解や作文やオーラルでのコミュニケーションを通して簡単な表現、また平易な事実の描写ができるようになる。スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。ただし社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる場合があります。

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題や会話形式の問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。
教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、アルファベートとあいさつ	授業概要説明。 アルファベートと発音、あいさつの練習。
2	名詞の性と数	名詞の性と数を理解する。
3	冠詞、形容詞、数詞 1	冠詞の概念を理解する。 形容詞の練習。
4	主語人称代名詞、動詞 ser	主語人称代名詞と動詞の活用の概念を理解する。 動詞 ser の活用と用法を練習する。
5	時刻表現、動詞 estar	動詞 ser を用いた自国の表現を確認する。 動詞 estar の活用と用法を練習する、ser との違いを確認する
6	存在を表す hay	存在を表す hay の用法を理解し、estar との違いを確認する。
7	所有形容詞前置形 動詞 tener ser/estar の違い	動詞 tener を用いた表現を確認する。 動詞 ser/estar の違いを確認する。
8	直接法現在規則動詞 (-ar 動詞)	直接法現在規則動詞 (-ar 動詞) の用法と活用を学び練習する。
9	主な前置詞 疑問詞	頻出前置詞の確認をする。 疑問詞をまとめて確認する。

10	直接法現在規則動詞 (-er 動詞、-ir 動詞)	直接法現在規則動詞 (-er 動詞、-ir 動詞) の用法と活用を学び練習する。
11	曜日 指示形容詞	曜日を確認するとともに、曜日を 含めた規則動詞の練習をする。
12	直接法現在不規則動詞 天候表現	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。 特に動詞 ir, hacer の用法を学ぶ。
13	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞の用法を学び練習する。
14	春学期のまとめと期末試験	春学期に学習したことをまとめ、 期末試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にすること。宿題の授業内やオンラインでの確認によって、疑問点をなくすようにすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、エウヘニオ他（2021）『スペイン語への道』（Senda hacia el español）（第三書房）

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（40 %）、期末試験（60 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、3 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。授業内での携帯電話の使用は減点の対象となります。期末試験では 60 点以上獲得しないと単位は取得できません。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。

語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語 1 I からの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。平易な文章の理解、作文やオーラルでのコミュニケーションを通した簡単な表現ができるようになります。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。

好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。

平易な文章を読み、理解できるようになる。

スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業です。ただし社会状況に応じてオンライン授業に切り替える可能性があるため、学習支援を確認してください。

基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題を行う場合は、資料を用います。

教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の復習。
2	直接法現在不規則動詞 II (saber, conocer など)	直接法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。 特に動詞 saber/conocer の違いを確認する。
3	所有形容詞後置形、比較級と最上級	所有形容詞の前置形と後置形の用法と違いを学び練習する。 比較表現を確認し練習する。
4	直説法現在不規則動詞 III (語幹母音変化動詞)	直接法現在語幹母音変化動詞の活用を学び練習する。 特に動詞 querer と poder の用法を練習する。
5	直説法現在不規則動詞 IV (その他)	直説法現在不規則動詞の一部の活用を学び練習する。
6	前置詞格人称代名詞 間接目的格人称代名詞	間接目的格人称代名詞を確認し、 直接目的格の復習もする。
7	動詞 gustar と gustar 型動詞	動詞 gustar の用法を理解する。 gustar 型動詞の用法を学び練習する。
8	再帰動詞 I (基本的な用法)	再帰動詞の概念を理解し、全人称用法を学び練習する。
9	再帰動詞 II (3 人称用法)	再帰動詞の 3 人称用法についても学び、練習する。

10	点過去（規則活用）	点過去概念を理解し、点過去の規則活用を学び練習する。
11	点過去（不規則活用）	点過去の不規則活用を学び練習する。
12	線過去	線過去概念を理解し、その活用と用法を学び練習する。
13	点過去と線過去	点過去と線過去の違いを理解し、単純な過去の表現を練習する。
14	1年間のふりかえりと 期末試験	1年を通して学んだことをふりかえり、復習をする。 それらの確認としての、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習を中心に勉強をする。復習を兼ねて宿題を確実にやり、わからないところを明確にすること。宿題の授業内やオンラインでの確認によって、疑問点をなくすようにすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド、エウヘニオ他（2021）『スペイン語への道』（Senda hacia el español）（第三書房）

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011 『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015 『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（40 %）、期末試験（60 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、3 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をしません。期末試験で 60 % 以上獲得しないと単位は取れません。

【学生の意見等からの気づき】

クラス全体の理解度に基づき進度調整を頻繁に行います。
語彙を覚えられるように、小テストに単語のチェックを含みます。

【その他の重要事項】

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline (in English)】

1. Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2. In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation. 3. Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting. 4. Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①簡単な挨拶ができる。②綴りを見て単語を発音することができる。③現在形に活用した動詞の不定詞を辞書で調べることができる。④再帰動詞の意味と用法について理解する。⑤現在形の単文ならば辞書を引いて読むことができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法と練習問題 (Gramatica y Ejercicios)」、「語彙 (Vocabulario)」、「会話・読解・聴き取り (Comunicacion)」から成るが、このうち「文法と練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話練習、読解問題の訳読を行う。

また、毎回 Hoppii で課題の提出を求める。課題は、毎回の授業への質問・感想である。それについては、次の授業でフィードバックを行う。

本授業は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、第 1 課 (2 ページ)	本シラバスを用いた授業の説明。アルファベット。
2	第 1 課 (3 ページ)	発音、アクセント。
3	第 2 課 (6-7 ページ)	名詞の性と数、冠詞、人称代名詞、動詞 ser、など
4	第 2 課 (8-9 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
5	第 3 課 (10-11 ページ)	指示形容詞、指示代名詞、所有形容詞、動詞 estar、動詞 tener、など。
6	第 3 課 (12-13 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 4 課 (18-19 ページ)	規則動詞、時刻の表現、など
9	第 4 課 (20-21 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
10	第 5 課 (22-23 ページ)	指示形容詞、動詞 ir と ver、など。
11	第 5 課 (24-25 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
12	第 6 課 (26-27 ページ)	語根母音変化動詞、直接目的格人称代名詞、など。
13	第 6 課 (28-29 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
14	理解度確認	期末試験を実施。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド他 (2013)『スペイン語のある風景 (Panoramica del español)』同友社。ISBN978-4-8102-0395-0。

【参考書】

西和辞典は用意すること。参考書は授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席・参加を 30 %、中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業、丁寧な説明を心がける。授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language. The goals of this course are to be able to say simple greetings, pronounce words correctly by looking at the spelling, look up infinitives of verbs conjugated to the present tense in a dictionary, understand the meaning and usage of reflexive verbs, read single sentences in the present tense with help of a dictionary, and have an idea about the culture of Spanish-speaking world.

Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of Spanish. The standard preparation and review time for this class is one hour in total.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%.

LANs100LA

スペイン語 1 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法の骨組みを体系的に理解することによって、読解、作文ができるようになるための基礎固めを行う。スペインや中南米のスペイン語圏地域の文化についての理解を深める。

【到達目標】

①動詞の点過去形・線過去形から不定詞を辞書で調べることができる。②点過去形、線過去形の違いを理解できる。③再帰動詞の用法を理解できる。④ *gustar* 型動詞の用法を理解できる。⑤スペイン・ラテンアメリカ文化についての知識を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って進める。教科書の各課は、「文法と練習問題 (Gramatica y Ejercicios)」、「語彙 (Vocabulario)」、「会話・読解・聞き取り (Comunicacion)」から成るが、このうち「文法と練習問題」については必ずやる。残りは時間が許す範囲で学習する。教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題への回答や、会話文の音読・訳読を行う。また、リアクションペーパーの提出を求め、質問・感想については次回の授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本シラバスを用いた授業の説明。
2	第 7 課 (34-35 ページ)	間接目的格人称代名詞、動詞 <i>dar</i> , <i>traer</i> , <i>decir</i> 、など。
3	第 7 課 (36-37 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
4	第 8 課 (38-39 ページ)	再帰動詞、所有形容詞後置形。
5	第 8 課 (40-41 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
6	第 9 課 (42-43 ページ)	前置詞格人称代名詞、動詞 <i>gustar</i> 、など。
7	理解度確認	中間試験を実施。
8	第 9 課 (44-45 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
9	第 10 課 (50-51 ページ)	比較級、不定語、など。
10	第 10 課 (52-53 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
11	第 11 課 (54-55 ページ)	規則動詞、不規則動詞の点過去形、など。
12	第 11 課 (56-57 ページ)	語彙、読解、聞き取り問題。
13	第 12 課 (58-59 ページ)	線過去形、点過去形と線過去形の違い、など。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、教科書の文法事項の説明を読んで、練習問題、読解問題、聴き取り問題に取り組むことが理想的であるが、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。教科書付録の CD を聴き、スペイン語の音になれる。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

デル・ブラド他 (2013)『スペイン語のある風景 (Panoramica del español)』同学社。ISBN978-4-8102-0395-0。2700 円＋税。

【参考書】

西和辞典は用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席・参加を 30 %、中間試験の点数を 30 %、期末試験の点数を 40 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

授業の進度が速すぎるという意見が散見されるので、教科書の内容をすべて学習するのではなく、「文法」と「練習問題」を重点的に行うことにする。また、教科書の内容と教員の説明は完全に理解しなくてもよいので、70 % の習得を目指すつもりで授業についてきてほしい。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

This course is an introduction to give students basic knowledge of the Spanish language.

The goals of this course are to be able to understand the usage of "gustar" verbs and describe preferences, to understand the usage of reflexive verbs and describe actions in daily life, to depict past actions, behaviors, and situations by utilizing the indicative past tense of verbs, and to have an idea about the culture of Spanish-speaking world.

Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythm and sounds of Spanish.

The standard preparation and review time for this class is one hour in total.

The final grade will be calculated according to the following process; mid-term exam 30%, final exam 40%, class contribution 30%.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP9

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる 形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化 など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字 1～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名 詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示 形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今 学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用するのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることもある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の違い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の違い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比

14 試験・まとめと解説 筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進捗のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。音楽
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACE, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞、
13	月と季節	語幹母音変換動詞 I
14	交通機関/予定	未来を表す IR A + 不定詞 / 動詞 SALIR, VENIR

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1. 2a.edición (総合スペイン語コース初級 改訂版) Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 50 %

小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.

The standard preparation and review time for this class is 1 hour.

Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	住居/天候表現	語幹母音変化動詞 II
2	日常	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名詞/動詞 VER,SABER,CONOCER
4	レシビ/レストランで	SABER+不定詞.PODER+不定詞.QUERER+不定詞.PODER+不定詞
5	衣服とアクセサリ/買い物	前置詞 (a,de,en,...) 間接目的人称名詞/比較現在 I
6	色/クリスマス	動詞 DAR,TRAER,DECIR. 不規則な比較級を持つ形容詞
7	余暇活動	動詞 GUSTAR. GUSTAR と同じように用いられる動詞 ENCANTAR,INTERESAR,PARECER,IMPORTAR.
8	趣味/スポーツ	比較現在 II/比較表現 III/数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER.ESTAR II
10	状態	SER+形容詞.estar+形容詞
11	体調.感情表現	感情文.SER+形容詞.estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定語と否定語
13	旅行	直説法点過去.直説法点過去 規則活用.
14	人の一生/期末テスト	直説法点過去/不規則活用/所有詞 後置形

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1,2a.edición(総合スペイン語コース初級 改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 50 %

小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.

The standard preparation and review time for this class is 1 hour.

Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字 1～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用するのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることもある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の違い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の違い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比

14 試験・まとめと解説 筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進捗のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進捗を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる 形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化 など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字 1～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名 詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示 形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今 学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用するのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることもある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の違い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の違い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比

14 試験・まとめと解説 筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、対面授業を実施する予定ですが、状況によってはオンライン授業になる可能性もあるので、学習支援システムをこまめにチェックしてください。授業は講義形式で教科書を中心に進みます。リアクションペーパーや課題はできる限り授業でフィードバックしますが、場合によっては学習支援システムに掲載することもあります。スペイン語圏の文化については教科書に充実した説明があります。教科書にあるリスニングの問題は課が終わるたびに小テストとして実施します。また、教科書はすべての文法事項を掲載しているわけではないので、必要に応じて文法を補足します。したがって、毎回、ノートを取ることが必要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文字と発音、アクセントのルール、挨拶の言葉
2	Lección 1（前半）	主格人称代名詞、動詞 ser の活用と基本的用法
3	Lección 1（後半）	名詞
4	Lección 2（前半）	形容詞、動詞 estar の活用と基本的用法
5	Lección 2（後半）	動詞 ser の発展的用法
6	Lección 3（前半）	冠詞、動詞 estar の発展的用法
7	Lección 3（後半）	存在を表す hay
8	Lección 4（前半）	直説法現在規則動詞
9	Lección 4（後半）	目的語につく前置詞 a 、時刻の表現
10	Lección 5（前半）	目的格人称代名詞
11	Lección 5（後半）	不規則活用動詞 I（一人称単数形が不規則な動詞）
12	Lección 6（前半）	不規則活用動詞 II（ tener 、 ir とその表現）
13	Lección 6（後半）	所有形容詞、天候の表現
14	振り返り	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、新しく出てきた単語や文章を書いてみる。このような地道な練習をすることでスペイン語が身についていきます。辞書の引き方を学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨んでください。また単語帳を作ること。以上のことから、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『イデアル（改訂新版）』宇野和美他、同学社 ISBN978-4-8102-0439-1

【参考書】

特になし。授業をきちんと聴いて、教科書をしっかりと学習すれば参考書を見る必要はありません。教科書 1 冊丸暗記を目指しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、小テスト 20%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はオンライン授業でも対応できるテキストを選んだところ、シンプル過ぎてわかりにくいという指摘がありました。今年度はある程度、文法の要点などの説明がより丁寧で、リスニング・プラクティスもあり、スペイン語圏の文化も学べるようなテキストを選びました。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレットなど Wifi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 Spanish for beginners.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), quizzes (20%), and term-end examination (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1)gustar 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の過去時制（現在完了と点過去）を理解する。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業が基本ですが、状況によってはオンライン授業になる可能性があります。その際は学習支援システムでお知らせしますので、こまめにチェックしてください。授業は教科書にそって進みます。進め方は春期と同様ですが、内容がより複雑になりますので、予習・復習をさらに心がけてください。

課題や小テストのフィードバックは授業時間内に行う予定ですが、場合によってオンラインで配信することもあります。教科書はスペイン語圏の文化について充実した内容を取り上げていますが、時間が許せばスペイン語圏の映画を見ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	発音・アクセント～直説法現在まで
2	Lección 7（前半）	不規則動詞 III（語幹母音変化動詞）
3	Lección 7（後半）	不定詞と目的格人称代名詞
4	Lección 8（前半）	再帰代名詞
5	Lección 8（後半）	不定詞と再帰代名詞
6	Lección 9（前半）	gustar 型動詞
7	Lección 9（後半）	比較表現
8	Lección 10（前半）	点過去 I（規則活用動詞）
9	Lección 10（後半）	点過去 II（不規則活用動詞）
10	Lección 11（前半）	線過去
11	Lección 11（後半）	点過去と線過去の使い分け
12	Lección 12（前半）	過去分詞、現在分詞
13	Lección 12（後半）	現在完了
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切です。このレベルでは春期より複雑になるので復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、新しい単語や文章は必ず書いてみる。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨んでください。単語帳の作成は必須です。以上のことから、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『イデアル（改訂新版）』、著者：宇野和美他、同学社 ISBN978-4-8102-0439-1

【参考書】

西和辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、小テスト 20 %、期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年はオンライン授業を念頭に置いて教科書を選んだが、説明がシンプル過ぎてわかりにくいという指摘があったので、今年度は、説明がより丁寧で、エクササイズも充実していると思われる教科書を選んだ。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タグレット等 WiFi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 Spanish for beginners.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), quizzes (20%), and term-end examination (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	アルファベット、発音とアクセント、など。
2	紹介する	ser 動詞
3	DVD を見て答える	紹介の方法
4	「元気ですか?」	ser 動詞、estar 動詞、haber 動詞
5	DVD を見る答える	ser 動詞と estar 動詞の使い分け
6	小テスト	会話を作って発表
7	レストランで	-ar,-er,-ir 動詞の直説法現在形規則活用、疑問詞
8	人と知り合う	疑問視。日常
9	DVD を見て答える	動詞の直説法現在規則活用。数字 I
10	パエリアを料理する	1 人称単数だけが不規則変化する動詞、
11	友達と食事をする	数字 II
12	コミュニケーション	値段の聞き方、買い物の仕方、生活の言い方、など
13	DVD を見て答える	スペインの生活
14		期末試験

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ESTUDIO 1 TV 楽しく覚えるスペイン語 Nivel elemental. DTP 出版

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 50 %

小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続していることで欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.

The standard preparation and review time for this class is 1 hour.

Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行	querer,poder+不定詞 序数
2	コミュニケーション	日常生活を描写する、友達と待ち合わせる
3	DVD を見て答える	querer,poder+不定詞の練習
4	「お腹が痛い」	2つの不規則変化を持つ動詞、tener の活用、ir と venir の使い方
5	コミュニケーション	ラテンアメリカの観光地を訪れる、日常行動について話す。
6	DVD を見て答える	旅行と所要時間について練習する
7	体が痛い	doler と gustar 動詞
8	コミュニケーション	衣類と色について表現する
9	DVD を見て答える	gustar 型動詞の確認
10	外出前の準備をする	再帰動詞・代名詞
11	コミュニケーション	色々な店での会話
12	「どこに行っていたの?」	不定語、過去分詞と現在完了形の?
13	コミュニケーション	最近の出来事について話す、不定語と特定語を使った会話練習
14	まとめ	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

ESTUDIO 1 Tv 楽しく覚えるスペイン語 nivel elemental
DTP 出版

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 50 %

小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of the Spanish-speaking countries. Its objective is to master the conversation as well as the basic learning of Spanish grammar. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.

The standard preparation and review time for this class is 1 hour.

Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、対面授業を実施する予定ですが、状況によってはオンライン授業になる可能性もあるので、学習支援システムをこまめにチェックしてください。授業は講義形式で教科書を中心に進みます。リアクションペーパーや課題はできる限り授業でフィードバックしますが、場合によっては学習支援システムに掲載することもあります。スペイン語圏の文化については教科書に充実した説明があります。教科書にあるリスニングの問題は課が終わるたびに小テストとして実施します。また、教科書はすべての文法事項を掲載しているわけではないので、必要に応じて文法を補足します。したがって、毎回、ノートを取ることが必要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文字と発音、アクセントのルール、挨拶の言葉
2	Lección 1（前半）	主格人称代名詞、動詞 ser の活用と基本的用法
3	Lección 1（後半）	名詞
4	Lección 2（前半）	形容詞、動詞 estar の活用と基本的用法
5	Lección 2（後半）	動詞 ser の発展的用法
6	Lección 3（前半）	冠詞、動詞 estar の発展的用法
7	Lección 3（後半）	存在を表す hay
8	Lección 4（前半）	直説法現在規則動詞
9	Lección 4（後半）	目的語につく前置詞 a 、時刻の表現
10	Lección 5（前半）	目的格人称代名詞
11	Lección 5（後半）	不規則活用動詞 I（一人称単数形が不規則な動詞）
12	Lección 6（前半）	不規則活用動詞 II（ tener 、 ir とその表現）
13	Lección 6（後半）	所有形容詞、天候の表現
14	振り返り	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、新しく出てきた単語や文章を書いてみる。このような地道な練習をすることでスペイン語が身についていきます。辞書の引き方を学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨んでください。また単語帳を作ること。以上のことから、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『イデアル〈改訂新版〉』宇野和美他、同学社 ISBN978-4-8102-0439-1

【参考書】

特になし。授業をきちんと聴いて、教科書をしっかりと学習すれば参考書を見る必要はありません。教科書 1 冊丸暗記を目指しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、小テスト 20%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はオンライン授業でも対応できるテキストを選んだところ、シンプル過ぎてわかりにくいという指摘がありました。今年度はある程度、文法の要点などの説明がより丁寧で、リスニング・プラクティスもあり、スペイン語圏の文化も学べるようなテキストを選びました。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレットなど Wifi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 Spanish for beginners.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), quizzes (20%), and term-end examination (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1) gustar 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の過去時制（現在完了と点過去）を理解する。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業が基本ですが、状況によってはオンライン授業になる可能性があります。その際は学習支援システムでお知らせしますので、こまめにチェックしてください。授業は教科書にそって進みます。進め方は春期と同様ですが、内容がより複雑になりますので、予習・復習をさらに心がけてください。

課題や小テストのフィードバックは授業時間内に行う予定ですが、場合によってオンラインで配信することもあります。教科書はスペイン語圏の文化について充実した内容を取り上げていますが、時間が許せばスペイン語圏の映画を見ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	発音・アクセント～直説法現在まで
2	Lección 7（前半）	不規則動詞 III（語幹母音変化動詞）
3	Lección 7（後半）	不定詞と目的格人称代名詞
4	Lección 8（前半）	再帰代名詞
5	Lección 8（後半）	不定詞と再帰代名詞
6	Lección 9（前半）	gustar 型動詞
7	Lección 9（後半）	比較表現
8	Lección 10（前半）	点過去 I（規則活用動詞）
9	Lección 10（後半）	点過去 II（不規則活用動詞）
10	Lección 11（前半）	線過去
11	Lección 11（後半）	点過去と線過去の使い分け
12	Lección 12（前半）	過去分詞、現在分詞
13	Lección 12（後半）	現在完了
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切です。このレベルでは春期より複雑になるので復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、新しい単語や文章は必ず書いてみる。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨んでください。単語帳の作成は必須です。以上のことから、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『イデアル〈改訂新版〉』、著者：宇野和美他、同学社 ISBN978-4-8102-0439-1

【参考書】

西和辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、小テスト 20 %、期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年はオンライン授業を念頭に置いて教科書を選んだが、説明がシンプル過ぎてわかりにくいという指摘があったので、今年度は、説明がより丁寧で、エクササイズも充実していると思われる教科書を選んだ。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレット等 WiFi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 Spanish for beginners.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), quizzes (20%), and term-end examination (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】

自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに従って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オープニング 第1課 Hola, ¿ cómo te llamas?	ガイダンス 挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 1/3
2	第1課 Hola, ¿ cómo te llamas?	挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 2/3
3	第1課 Hola, ¿ cómo te llamas?	挨拶や感謝の言葉 基本的な個人の情報 発音やつづり 3/3
4	第2課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 1/3
5	第2課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 2/3
6	第2課 Soy japonés, de Tokio	名前、出身国や職業 自分自身や人の紹介 3/3
7	第1・2課の内容まとめ 中間テスト	Repaso Examen U1-2
8	第3課 Mi universidad	大学や住んでいる町について話す 都市の位置 1/2
9	第3課 Mi universidad	大学や住んでいる町について話す 都市の位置 2/2
10	第4課 Estudio en la Universidad de Salamanca	勉強について話す 日常や余暇の過ごし方について理解し話す 時刻を言い、スケジュールについて話す 1/2
11	第4課 Estudio en la Universidad de Salamanca	勉強について話す 日常や余暇の過ごし方について理解し話す 時刻を言い、スケジュールについて話す 2/2

12	第5課 La familia	家族について話す 人の性格や容姿 1/2
13	第5課 La familia	家族について話す 人の性格や容姿 2/2
14	学習内容のまとめ 期末試験	Repaso Examen final

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。復習をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「Muy bien! いいね! スペイン語」フアン・カルロス・モヤノ・ロペス / カルロス・ガルシア・ルイス・カステージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、試験の成績 60%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline (in English)】

Introduction to Spanish.

The goal is to be able to express in Spanish the basic information about oneself. We will also get to learn a little about the Spanish speaking countries and their cultures.

We will follow the textbook and complete the exercises. The tasks will be submitted and corrected via Google Classroom. The program may change due to unforeseen circumstances.

At home the student should work on exercises that cannot be done in class, in group, such as preparing the vocabulary by looking up words in the dictionary or listening to the audios. The student is also expected to revise what is done in class. Preparation, homework and revision might take about one hour.

Grading will be decided based on tasks and class participation (40%), and exam results (60%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

VILA V RAQUEL

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語を接する学生を対象に、スペイン語の基礎を学ぶ。

【到達目標】

自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに従って、文法の解説、練習問題や会話練習など行う。課題の提出やそのフィードバックは Google Classroom で行う。状況により、授業進度を調整する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オープニング 第6課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 1/3	春学期の復習とガイダンス。 有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
2	第6課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 2/3	有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
3	第6課 En vacaciones voy a ir a Barcelona 3/3	有名な場所について話す 場所ややりたい活動についての情報をやり取りする
4	第7課 Me gusta mucho la música pop. ¿Y a ti? 1/2	好み、趣味や興味について話す 計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
5	第7課 Me gusta mucho la música pop. ¿Y a ti? 2/2	好み、趣味や興味について話す 計画や義務について話す イベントについて簡単な情報
6	まとめ 中間テスト	Repaso y examen ~ U7
7	第8課 De compras 1/2	店で欲しいものを伝える 店頭での会話 市場や店の様子
8	第8課 De compras 2/2	店で欲しいものを伝える 店頭での会話 市場や店の様子
9	第9課 ¡A comer! 1/2	スペイン語圏の食べ物 食べたいもの、飲みたいものを頼む レストラン、カフェテリア、バルなどのメニューや営業時間を読んで理解する 2/2

10	第9課 ¡ A comer! 2/2	スペイン語圏の食べ物 食べたいもの・飲みたいものを頼む レストラン、カフェテリア、バル などのメニューや営業時間を読んで 理解する 1/2
11	第10課 Los mexicanos se levantan pronto 1/2	1日の生活について情報交換する 天候
12	第10課 Los mexicanos se levantan pronto 2/2	1日の生活について情報交換する 天候
13	まとめ 期末試験	Repaso y examen final
14	振り返って1年のまとめ	Clase final - Reflexión

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

単語を辞書で調べたり、聞き取りの練習したり、グループより一人で進む学習をすること。復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「¡ Muy bien! 1 いいね! スペイン語」、ファン・カルロス・モヤノ・ロベス / カルロス・ガルシア・ルイス・カスティージョ / 廣康好美、朝日出版社、2,600 円+税

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

平常点40%、テスト／試験の成績60%

【学生の意見等からの気づき】

未確認

【学生が準備すべき機器他】

Google Classroom の登録が必要となります。

【Outline (in English)】

Introduction to Spanish.

The goal is to be able to express in Spanish the basic information about oneself. We will also get to learn a little about the Spanish speaking countries and their cultures.

We will follow the textbook and complete the exercises. The tasks will be submitted and corrected via Google Classroom. The program may change due to unforeseen circumstances.

At home the student should work on exercises that cannot be done in class, in group, such as preparing the vocabulary by looking up words in the dictionary or listening to the audios. The student is also expected to revise what is done in class. Preparation, homework and revision might take about one hour.

Grading will be decided based on tasks and class participation (40%), and exam results (60%).

LANs100LA

スペイン語2 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる 形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化 など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字1～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名 詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示 形容詞、指示代名詞
13	数字13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今 学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『エル・ファロ 書いて確認！ スペイン語』、栗林ゆき絵、瓜谷アウロ

ラ（著）、朝日出版社、2,200 円（+税）、ISBN: 978-4-255-55130-2

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用するのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天候の言い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天候の言い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比

14 試験・まとめと解説 筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『エル・ファロ 書いて確認！ スペイン語』、栗林ゆき絵、瓜谷アウロラ（著）、朝日出版社、2,200 円（+税）、ISBN: 978-4-255-55130-2

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、対面授業を実施する予定ですが、状況によってはオンライン授業になる可能性もあるので、学習支援システムをこまめにチェックしてください。授業は講義形式で教科書を中心に進みます。リアクションペーパーや課題はできる限り授業でフィードバックしますが、場合によっては学習支援システムに掲載することもあります。スペイン語圏の文化については教科書に充実した説明があります。教科書にあるリスニングの問題は課が終わるたびに小テストとして実施します。また、教科書はすべての文法事項を掲載しているわけではないので、必要に応じて文法を補足します。したがって、毎回、ノートを取ることが必要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文字と発音、アクセントのルール、挨拶の言葉
2	Lección 1（前半）	主格人称代名詞、動詞 ser の活用と基本的用法
3	Lección 1（後半）	名詞
4	Lección 2（前半）	形容詞、動詞 estar の活用と基本的用法
5	Lección 2（後半）	動詞 ser の発展的用法
6	Lección 3（前半）	冠詞、動詞 estar の発展的用法
7	Lección 3（後半）	存在を表す hay
8	Lección 4（前半）	直説法現在規則動詞
9	Lección 4（後半）	目的語につく前置詞 a 、時刻の表現
10	Lección 5（前半）	目的格人称代名詞
11	Lección 5（後半）	不規則活用動詞 I（一人称単数形が不規則な動詞）
12	Lección 6（前半）	不規則活用動詞 II（ tener 、 ir とその表現）
13	Lección 6（後半）	所有形容詞、天候の表現
14	振り返り	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、新しく出てきた単語や文章を書いてみる。このような地道な練習をすることでスペイン語が身についていきます。辞書の引き方を学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨んでください。また単語帳を作ること。以上のことから、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『イデアル（改訂新版）』宇野和美他、同学社 ISBN978-4-8102-0439-1

【参考書】

特になし。授業をきちんと聴いて、教科書をしっかりと学習すれば参考書を見る必要はありません。教科書 1 冊丸暗記を目指しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、小テスト 20%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はオンライン授業でも対応できるテキストを選んだところ、シンプル過ぎてわかりにくいという指摘がありました。今年度はある程度、文法の要点などの説明がより丁寧で、リスニング・プラクティスもあり、スペイン語圏の文化も学べるようなテキストを選びました。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレットなど Wifi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 Spanish for beginners.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), quizzes (20%), and term-end examination (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1) gustar 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の過去時制（現在完了と点過去）を理解する。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業が基本ですが、状況によってはオンライン授業になる可能性があります。その際は学習支援システムでお知らせしますので、こまめにチェックしてください。授業は教科書にそって進みます。進め方は春期と同様ですが、内容がより複雑になりますので、予習・復習をさらに心がけてください。

課題や小テストのフィードバックは授業時間内に行う予定ですが、場合によってオンラインで配信することもあります。教科書はスペイン語圏の文化について充実した内容を取り上げていますが、時間が許せばスペイン語圏の映画を見ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	発音・アクセント～直説法現在まで
2	Lección 7（前半）	不規則動詞 III（語幹母音変化動詞）
3	Lección 7（後半）	不定詞と目的格人称代名詞
4	Lección 8（前半）	再帰代名詞
5	Lección 8（後半）	不定詞と再帰代名詞
6	Lección 9（前半）	gustar 型動詞
7	Lección 9（後半）	比較表現
8	Lección 10（前半）	点過去 I（規則活用動詞）
9	Lección 10（後半）	点過去 II（不規則活用動詞）
10	Lección 11（前半）	線過去
11	Lección 11（後半）	点過去と線過去の使い分け
12	Lección 12（前半）	過去分詞、現在分詞
13	Lección 12（後半）	現在完了
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切です。このレベルでは春期より複雑になるので復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、新しい単語や文章は必ず書いてみる。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨んでください。単語帳の作成は必須です。以上のことから、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『イデアル（改訂新版）』、著者：宇野和美他、同学社 ISBN978-4-8102-0439-1

【参考書】

西和辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、小テスト 20 %、期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年はオンライン授業を念頭に置いて教科書を選んだが、説明がシンプル過ぎてわかりにくいという指摘があったので、今年度は、説明がより丁寧で、エクササイズも充実していると思われる教科書を選んだ。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タグレット等 WiFi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 Spanish for beginners.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), quizzes (20%), and term-end examination (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 2/Wed.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞 (前置系) を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語入門。アルファベットから始めて、冠詞、名詞、形容詞、所有詞、直説法現在など、スペイン語の文法の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 1) スペイン語の発音に慣れる。
- 2) スペイン語の基礎文法（冠詞、名詞、代名詞、形容詞、所有詞、直説法現在）を習得する。
- 3) 簡単な日常会話の表現を身につける。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、対面授業を実施する予定ですが、状況によってはオンライン授業になる可能性もあるので、学習支援システムをこまめにチェックしてください。授業は講義形式で教科書を中心に進みます。リアクションペーパーや課題はできる限り授業でフィードバックしますが、場合によっては学習支援システムに掲載することもあります。スペイン語圏の文化については教科書に充実した説明があります。教科書にあるリスニングの問題は課が終わるたびに小テストとして実施します。また、教科書はすべての文法事項を掲載しているわけではないので、必要に応じて文法を補足します。したがって、毎回、ノートを取ることが必要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文字と発音、アクセントのルール、挨拶の言葉
2	Lección 1（前半）	主格人称代名詞、動詞 ser の活用と基本的用法
3	Lección 1（後半）	名詞
4	Lección 2（前半）	形容詞、動詞 estar の活用と基本的用法
5	Lección 2（後半）	動詞 ser の発展的用法
6	Lección 3（前半）	冠詞、動詞 estar の発展的用法
7	Lección 3（後半）	存在を表す hay
8	Lección 4（前半）	直説法現在規則動詞
9	Lección 4（後半）	目的語につく前置詞 a 、時刻の表現
10	Lección 5（前半）	目的格人称代名詞
11	Lección 5（後半）	不規則活用動詞 I（一人称単数形が不規則な動詞）
12	Lección 6（前半）	不規則活用動詞 II（ tener 、 ir とその表現）
13	Lección 6（後半）	所有形容詞、天候の表現
14	振り返り	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が肝要です。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、新しく出てきた単語や文章を書いてみる。このような地道な練習をすることでスペイン語が身についていきます。辞書の引き方を学んだ後は、予習として、わからない単語を調べてから授業に臨んでください。また単語帳を作ること。以上のことから、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『イデアル（改訂新版）』宇野和美他、同学社 ISBN978-4-8102-0439-1

【参考書】

特になし。授業をきちんと聴いて、教科書をしっかりと学習すれば参考書を見る必要はありません。教科書 1 冊丸暗記を目指しましょう。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、小テスト 20%、期末テストが 50%で評価。

【学生の意見等からの気づき】

昨年はオンライン授業でも対応できるテキストを選んだところ、シンプル過ぎてわかりにくいという指摘がありました。今年度はある程度、文法の要点などの説明がより丁寧で、リスニング・プラクティスもあり、スペイン語圏の文化も学べるようなテキストを選びました。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレットなど Wifi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 Spanish for beginners.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), quizzes (20%), and term-end examination (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

保崎 典子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語文法の基礎を習得する（直説法現在から直説法の過去へ）。

【到達目標】

- 1)gustar 型動詞や再帰動詞など、日本語とは異なるスペイン語独特の表現を理解する。
- 2) 直説法の過去時制（現在完了と点過去）を理解する。
- 3) 日常的な会話の表現の幅を広げる。
- 4) スペイン語圏の文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

対面授業が基本ですが、状況によってはオンライン授業になる可能性があります。その際は学習支援システムでお知らせしますので、こまめにチェックしてください。授業は教科書にそって進みます。進め方は春期と同様ですが、内容がより複雑になりますので、予習・復習をさらに心がけてください。

課題や小テストのフィードバックは授業時間内に行う予定ですが、場合によってオンラインで配信することもあります。教科書はスペイン語圏の文化について充実した内容を取り上げていますが、時間が許せばスペイン語圏の映画を見ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	発音・アクセント～直説法現在まで
2	Lección 7（前半）	不規則動詞 III（語幹母音変化動詞）
3	Lección 7（後半）	不定詞と目的格人称代名詞
4	Lección 8（前半）	再帰代名詞
5	Lección 8（後半）	不定詞と再帰代名詞
6	Lección 9（前半）	gustar 型動詞
7	Lección 9（後半）	比較表現
8	Lección 10（前半）	点過去 I（規則活用動詞）
9	Lección 10（後半）	点過去 II（不規則活用動詞）
10	Lección 11（前半）	線過去
11	Lección 11（後半）	点過去と線過去の使い分け
12	Lección 12（前半）	過去分詞、現在分詞
13	Lección 12（後半）	現在完了
14	振り返り	授業の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

語学は復習が大切です。このレベルでは春期より複雑になるので復習により力を入れてください。家では授業で習った部分を CD で聴き、声に出して発音し、新しい単語や文章は必ず書いてみる。このような地道な練習を続けることでスペイン語が身についていきます。予習としては、最低限、わからない単語を調べてから授業に臨んでください。単語帳の作成は必須です。以上のことから、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『イデアル（改訂新版）』、著者：宇野和美他、同学社 ISBN978-4-8102-0439-1

【参考書】

西和辞書

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、小テスト 20 %、期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年はオンライン授業を念頭に置いて教科書を選んだが、説明がシンプル過ぎてわかりにくいという指摘があったので、今年度は、説明がより丁寧で、エクササイズも充実していると思われる教科書を選んだ。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タグレット等 WiFi 環境

【その他の重要事項】

スペイン語の辞書を用意すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 Spanish for beginners.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (30%), quizzes (20%), and term-end examination (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 5/Fri.5

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞 (前置系) を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 2 II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回のまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験（50%）、スピーキングテスト（25%）、授業参加および課題（25%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish.

Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語（1）I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字 1～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30）
14	試験・まとめと解説	試験に向け、質問など 筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用し、のオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語（1）Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞 数字（31～99）	所有形容詞（前置形） 数字（31～99）
3	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II tener que+不定詞
4	数字（100～999） 目的格代名詞の基本	数字（100～999） 直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
5	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
6	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
7	再帰動詞 無人称表現	再帰動詞 se を用いた無人称表現
8	時刻 天候の表現	時刻の言い方 天気の違い方
9	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
10	過去の天候表現	過去の天気の違い方
11	直説法点過去 日付、曜日、月	直説法点過去形の不規則活用 日付、曜日、月の名前と使い方
12	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
13	直説法線過去 点過去、線過去	直説法線過去形の不規則活用 点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語（1）Ⅰ

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞と人称代名詞	冠詞、主格人称代名詞
4	動詞 ser の現在形	ser 動詞の活用と用法
5	形容詞の基本	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
7	動詞の使い分け	ser と estar の比較、 estar と hay の比較、指示形容詞
8	ar 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞- ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	様々な疑問詞と前置詞「 a 」	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	er,ir 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞- er 動詞、- ir 動詞の活用
11	所有形容詞の基本	所有形容詞（前置形、後置形）
12	目的格人称代名詞の基本	直接目的格人称代名詞と間接目的格人称代名詞
13	gustar 型動詞の基本	gustar 型動詞の用法
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬 （同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語（Ⅰ）Ⅱ

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 (1)Ⅰ から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	不規則動詞の基本	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	不規則動詞と不定詞	querer と poder の活用と様々な用法
3	不規則動詞の応用	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	再帰動詞の基本	再帰動詞の活用と用法
5	再帰動詞の進んだ用法	再帰動詞の用法、感嘆文
6	過去分詞と現在分詞	過去分詞、現在分詞の基本形と分詞構文、形容詞的用法
7	現在完了の基本	現在完了の活用と用法
8	過去形の基本：点過去	点過去規則活用と点過去の用法
9	否定語・不定語の用法	不定語と否定語、比較表現
10	点過去の不規則活用	点過去不規則活用の基本
11	語幹母音変化動詞の点過去不規則活用	語幹母音変化動詞の現在形と不規則活用の違い
12	再帰動詞の点過去	再帰動詞の点過去活用と用法
13	線過去の基本	線過去の活用と用法、点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I ソフト版 ーペーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和辞典』(小学館)

『わかるスペイン語』西川喬 (同学社)

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 (2) I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 (2) II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 2I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 (2) I

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の基本文法を学ぶと同時に、スペイン語圏の文化や社会について広く関心を持つことを目的とする。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。最終的には、初歩的な文法事項の知識を活かし、会話をしたり、興味のあるテーマに関してスペイン語の短い文章を読めるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科: DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的には講義形式で学んでいく。オンライン (zoom と学習支援システム) を活用しての開講となるが、個々の学生の理解度を常に確認しながら、対面時よりもさらにきめ細かな指導ができるよう工夫する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で用いるテキストについて復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『エスピゲータ』(朝日出版社)

スペイン語の辞書 (特に指定はしないが、旅行用やポケット辞書は不可。辞書についての詳細は初回授業で紹介するため、3 回目授業までに入手すればよい。)

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを活用して、課題を指示します。

授業内課題（50 %）と期末課題（50 %）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業内容は、教科書で扱われる文法事項の順番や受講生の理解度・関心によって、変更が生じることがあります。

【Outline (in English)】

< Outline > We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar.

And through the course, students will be expected to broaden and develop interest in Spanish-speaking culture and society.

< Learning Objectives >

The goals of this course are to understand Spanish basic grammar and be able to have daily conversations in Spanish.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to review what you learned the chapter. Your required study time is at least one hour for each class.

< Grading Criteria/policy >

Short reports: 50% and term-end report: 50%.

LANs100LA

スペイン語（2）Ⅱ

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基本文法を学ぶと同時に、スペイン語圏の文化や社会について広く関心を持つことを目的とする。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や過去形を使った文法の習得をめざす。

最終的には、初歩的な文法事項の知識を活かし、会話をしたり、興味のあるテーマに関してスペイン語の短い文章を読めるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、基本的には講義形式で学んでいく。

オンライン（zoom と学習支援システム）を活用しての開講となるが、個々の学生の理解度を常に確認しながら、対面時よりもさらにきめ細かな指導ができるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	春学期の復習	現在形を使った文章の復習。
3	過去形（点過去の規則形）	点過去の規則形について学ぶ
4	過去形（点過去の不規則形）	点過去の不規則形について学ぶ
5	線過去	線過去について学ぶ
6	過去形の使い分け	過去に言及するいろいろな表現の仕方とその使い分けについて学ぶ
7	スペイン語を読んでみよう	これまで学習したスペイン語文法を復習しながら、少しまとまった文章読解に挑戦する。
8	スペイン語で話してみよう	スペイン語会話の練習を重点的に行う。
9	過去分詞について	過去分詞について学び、練習する
10	現在分詞について	現在分詞について学び、練習する
11	リスニング練習	リスニングの練習を重点的に行う
12	コミュニケーション練習	声に出してスペイン語を使う練習を重点的に行う
13	文法事項の復習	現在形から過去形まで、文法事項の復習を行う
14	総括	これまでに学習したことを確認問題で総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて復習の励行に努めること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『エスピギータ』（朝日出版社）

スペイン語の辞書（特に指定はしないが、旅行用やポケット辞書は不可。辞書についての詳細は初回授業で紹介するため、3 回目授業までに入手すればよい。）

また、適宜授業内でプリントを配布する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業支援システムを活用して、課題を指示します。

授業内課題（50 %）と期末課題（50 %）を総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業内容は、教科書で扱われる文法事項の順番や受講生の理解度・関心によって、変更が生じることがあります。

【Outline (in English)】

< Outline > We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar.

And through the course, students will be expected to broaden and develop interest in Spanish-speaking culture and society.

< Learning Objectives >

The goals of this course are to understand Spanish basic grammar and be able to have daily conversations in Spanish.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to review what you learned the chapter. Your required study time is at least one hour for each class.

< Grading Criteria/policy >

Short reports: 50% and term-end report: 50%.

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60 %）、平常点（40 %）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline (in English)】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 60%
in class contribution: 40%

LANs100LA

スペイン語 3

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。随時小テストを実施し、受講生の理解度を確認しながら進める。小テストについては、採点済みの答案用紙を学生に返却し、答え合わせを行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (60 %)、平常点 (40 %) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面形式で行われるが、場合によってはオンライン形式へ変更となることがある。その場合は「学習支援システム」上で通知するので、こまめなチェックを怠らないこと。

【Outline (in English)】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 60%

in class contribution: 40%

LANs100LA

スペイン語 2

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、初歩的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムと zoom を活用したオンライン形式の授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業支援システムや授業内で行う。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行なう。
2	スペイン語の発音	スペイン語の母音・子音の発音練習を行う。
3	スペイン語のアクセント	スペイン語のアクセントに関する基本的な規則を学ぶ
4	名詞の学習	スペイン語の名詞の性・数について学ぶ
5	冠詞の学習	スペイン語の冠詞について学ぶ
6	形容詞の学習	スペイン語の形容詞について学ぶ
7	ser 動詞、estar 動詞の学習	スペイン語の ser 動詞、estar 動詞の用法について学ぶ
8	一般動詞の学習	スペイン語の一般動詞について学ぶ
9	一般動詞の不規則形の学習	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ
10	疑問文・否定文の学習	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ
11	間接・直接目的語の学習	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ
12	指示代名詞・指示形容詞の学習	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ
13	接続詞の学習	スペイン語の接続詞について学ぶ
14	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

『段階別ドリル』

【参考書】

随時、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (30 %)、平常点 (30 %)、小課題 (40 %) を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業となるため、パソコンの接続環境を整えて参加する。

【Outline (in English)】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 30%

in class contribution: 30%,

Short reports: 40%

LANs100LA

スペイン語 4

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA に参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法の習得を目指す。また、基本的な文法事項の知識を生かしながら、簡単な読み物の読解ができるようになることを目指す。

【到達目標】

春学期にひきつづき、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の習得をめざす。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

学習支援システムや zoom を活用したオンライン形式の授業である。課題等に対するフィードバックは、学習支援システムや授業内にて行う。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。教科書の内容に沿って、基本的な文法事項について学んでいく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	春学期の振り返り	春学期の期末試験の振り返りを通して、秋学期の学習に備える。
2	再帰動詞の学習	スペイン語の再帰動詞の用法について学ぶ。
3	無人称文の学習	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了の学習	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去の学習	スペイン語の動詞点過去について学ぶ。
6	動詞の点過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞点過去（不規則形）について学ぶ。
7	動詞の線過去の学習	スペイン語の動詞線過去について学ぶ。
8	動詞の線過去（不規則形）の学習	スペイン語の動詞線過去（不規則形）について学ぶ。
9	関係詞の学習	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形の学習	スペイン語の未来形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則）の学習	スペイン語の動詞未来形（不規則）について学ぶ。
12	動詞の未来完了形の学習	スペイン語の動詞未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形の学習	スペイン語の動詞過去未来形について学ぶ。
14	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストについて予習と復習の励行に努めること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I（改訂版）』（朝日出版社）

『段階別ドリル』

【参考書】

随時、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（30 %）、平常点（30 %）、小課題（40 %）を総合的に勘案して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業であるため、パソコンの接続環境を整えること。

【Outline (in English)】

This course is intended for students to participate in SA program. We will emphasize gaining the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, students will be able to enjoy reading easy Spanish books through the use of their grammatical knowledge.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 30%

in class contribution:30%

Shor reports:40%

LANs100LA

スペイン語 5

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA スペインに参加する学生を対象とするこの授業では、スペイン語の基本文法を修得する。また、初歩的な文法事項と語彙・表現の知識を活かしながら、簡単な読み書きができるようになることを目指す。

【到達目標】

スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の修得を目指す。春学期を通じて「形容詞・副詞の比較」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業について、導入となるガイダンスを行う。
2	文字と発音	スペイン語のアルファベットと発音について学ぶ。
3	アクセント	スペイン語のアクセントに関する規則を学ぶ。
4	名詞	スペイン語の名詞について学ぶ。
5	冠詞	スペイン語の冠詞について学ぶ。
6	形容詞	スペイン語の形容詞について学ぶ。
7	ser 動詞と estar 動詞	スペイン語の ser 動詞と estar 動詞について学ぶ。
8	一般動詞（規則形）	スペイン語の一般動詞の規則形について学ぶ。
9	一般動詞（不規則形）	スペイン語の一般動詞の不規則形について学ぶ。
10	疑問文・否定文	スペイン語の疑問文・否定文について学ぶ。
11	間接・直接目的語	スペイン語の間接・直接目的語について学ぶ。
12	指示代名詞・指示形容詞	スペイン語の指示形容詞・指示代名詞について学ぶ。
13	接続詞と比較	スペイン語の接続詞と、形容詞・副詞の比較について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- エンリケ・アルマラスほか『プラサ・マヨール I 改訂版』朝日出版社、2018 年、ISBN9784255550985、本体価格 2,100 円。

- 西村君代ほか『レベル別 スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009 年、ISBN9784255550282、本体価格 1,600 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、学期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is intended for students to participate in the SA-Program in Spain, and is designed to provide you with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar. In addition, you will be able to enjoy reading and writing easy Spanish text.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Classwork and homework (20%), quizzes (20%), and term-end examination (60%).

LANs100LA

スペイン語 6

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SA スペインに参加する学生を対象とするこの授業では、春学期にひきつづき、スペイン語の基本文法を修得する。また、文法事項の知識と語彙・表現のさらなる充実によって、読み書き能力の向上を目指す。

【到達目標】

春学期に引き続き、スペイン語の基礎となる正確な発音や文法の修得を目指す。秋学期を通じて「過去未来形」までの学習を終えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習する。
2	再帰動詞	スペイン語の再帰動詞について学ぶ。
3	無人称文	スペイン語の無人称文について学ぶ。
4	現在完了	スペイン語の現在完了について学ぶ。
5	動詞の点過去形（規則形）	スペイン語の動詞の点過去形のうち、規則形について学ぶ。
6	動詞の点過去形（不規則形）	スペイン語の動詞の点過去形のうち、不規則形について学ぶ。
7	動詞の線過去形（規則形）	スペイン語の動詞の線過去形のうち、規則形について学ぶ。
8	動詞の線過去形（不規則形）	スペイン語の動詞の線過去形のうち、不規則形について学ぶ。
9	関係詞	スペイン語の関係詞について学ぶ。
10	動詞の未来形（規則形）	スペイン語の動詞の未来形のうち、規則形について学ぶ。
11	動詞の未来形（不規則形）	スペイン語の動詞の未来形のうち、不規則形について学ぶ。
12	動詞の未来完了形	スペイン語の動詞の未来完了形について学ぶ。
13	動詞の過去未来形	スペイン語の動詞の過去未来形について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- エンリケ・アルマラスほか『プラサ・マヨール I 改訂版』朝日出版社、2018 年、ISBN9784255550985、本体価格 2,100 円。
 - 西村君代ほか『レベル別 スペイン語文法ドリル』朝日出版社、2009 年、ISBN9784255550282、本体価格 1,600 円。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、学期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の「スペイン語 5」と同様に、1 種以上の西和辞典を必ず用意し、毎回の授業で活用すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is intended for students to participate in the SA-Program in Spain, and is designed to provide you with an understanding of basic Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish basic grammar. In addition, you will be able to enjoy reading and writing Spanish text.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Classwork and homework (20%), quizzes (20%), and term-end examination (60%).

LANs100LA

スペイン語 1

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

この授業を通して、受講生はつぎのことができるようになることを目指す。

- ①スペイン語の発音と正書法を身につける。
- ②直説法現在を使った、短い文章を読むことができる。
- ③自己紹介や身近な話題について簡単なスペイン語会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生は練習問題や講読・作文に取り組む。

ペアあるいはグループによるスペイン語会話の練習も頻繁に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、導入としてスペイン語とスペイン語圏の特徴を概観する。
2	文字と発音	スペイン語の文字と発音のルールを習得する。
3	音節と強勢	音節と強勢のルールを習得する。
4	名詞と冠詞	名詞と冠詞のルールを習得する。
5	人称代名詞と直説法現在 ser 動詞	人称代名詞の種類と、動詞 ser の現在形の活用と用法を習得する。
6	直接法現在 estar 動詞	動詞 estar の現在形の活用と用法を習得する。
7	形容詞と指示詞	形容詞と指示詞の用法を習得する。
8	直説法現在 -ar 動詞規則活用と用法	現在形の規則活用動詞である -ar 動詞の活用と、これに分類される各動詞の用法を習得する。
9	直説法現在 -er 動詞、 -ir 動詞規則活用と用法	現在形の規則活用動詞である -er 動詞と -ir 動詞の活用と、これらに分類される各動詞の用法を習得する。
10	疑問詞と時刻表現	主な疑問詞の用法と時刻の表現を習得する。
11	前置詞と天候の表現	主な前置詞の用法と天候の表現を習得する。
12	直説法現在不規則活用と用法	現在形の不規則活用動詞の活用と用法を習得する。
13	目的格	目的格の用法を習得する。
14	総括	春学期の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を重点的に行う。本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とする。とくに、初めてスペイン語を学習する場合は、単語や動詞の活用など暗記することも多い。授業時間だけでは覚えることは不可能なので、各自が自習することは必須である。

【テキスト（教科書）】

『いいね！スペイン語 コンパクト版』朝日出版社、本体価格 2,400 円。

【参考書】

自主学習用に練習問題集を希望する場合は、『レベル別スペイン語ドリル』（朝日出版）を推薦する。
スペイン語の辞書は必ず準備すること。（ポケット版や旅行用は不可）

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の課題：40%、授業貢献度10%、学期末課題：50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業となるため、PC を準備すること。

【その他の重要事項】

本授業は、学習支援システムと ZOOM を活用したオンライン授業であるため、受講者は学習支援システムを頻繁に確認すること。
授業内容は、テキストで扱われている順番や受講者の理解度または受講者からの要望によって変更することもある。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to learn correct pronunciation and orthography in Spanish.

Also students should be able to understand the indicative tenses of Spanish grammar and use them in short sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to review what learned in every lesson. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end report:50%、Short reports：40%、in class contribution:10%.

LANs100LA

スペイン語3

2017 年度以降入学者

佐々木 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

この授業を通して、受講生はつぎのことができるようになることを目指す。

①直説法過去形と未来形の活用と用法を習得する。

②直説法を使って、自分の意見を表現できるようになる。

③直説法を使って書かれた、記事や説明文を読解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生は練習問題や講読・作文に取り組む。

ペアあるはグループによるスペイン語会話の練習も頻繁に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の復習を行う。
2	再帰動詞	再帰動詞の学習と練習。
3	現在分詞	現在分詞を用いた表現について学ぶ。
4	点過去規則形	点過去規則形について学ぶ。
5	点過去不規則形	点過去不規則形について学ぶ。
6	線過去	線過去について学ぶ。
7	過去形の表現	点過去と線過去、完了形の使い分けについて練習する。
8	未来形（規則）	未来形（規則形）について学ぶ。
9	未来形（不規則）	未来形（不規則形）について学ぶ。
10	関係詞	関係詞を用いた文について学ぶ。
11	未来完了形	未来完了形について学ぶ
12	未来に関する表現	未来形を使った表現の練習。
13	会話練習	身近な話題についてのスペイン語会話の練習。
14	総括	秋学期の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を重点的に行う。本授業の準備・復習時間は各1時間を標準とする。とくに、初めてスペイン語を学習する場合は、単語や動詞の活用など暗記すること多い。授業時間だけでは覚えることは不可能なので、各自が自習することは必須である。

【テキスト（教科書）】

『いいね！スペイン語 コンパクト版』朝日出版社、本体価格 2,400 円。

【参考書】

自主学習用に練習問題集を希望する場合は、『レベル別スペイン語ドリル』（朝日出版）を推薦する。
スペイン語の辞書は必ず準備すること。（ポケット版や旅行用は不可）

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の課題：40%、授業貢献度10%、学期末課題：50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人一人の理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業となるため、PC を準備すること。

【その他の重要事項】

本授業は、学習支援システムと ZOOM を活用したオンライン授業であるため、受講者は学習支援システムを頻繁に確認すること。各回の授業内容は、テキストで取り上げられている順番や受講者の理解度や要望に応じて、変更する場合がある。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.
< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to learn all tenses of indicative mood and use them in short sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to review what learned in every lesson. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end report:50%、Short reports : 40%、in class contribution:10%.

LANs100LA

スペイン語2

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション アルファベット 発音	オリエンテーション アルファベット 発音 について学ぶ。
2.	アクセント あいさつ	アクセント あいさつ について学ぶ。
3.	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞 について学ぶ。
4.	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在 について学ぶ。
5.	所有形容詞（前置形） 疑問文と否定文	所有形容詞（前置形） 疑問文と否定文 について学ぶ。
6.	tener 動詞の直説法現在 数（1～100）	tener 動詞の直説法現在 数（1～100） について学ぶ。
7.	直説法現在（規則動詞） 主な前置詞	直説法現在（規則動詞） 主な前置詞 について学ぶ。
8.	疑問詞 （qué, quién 等） 指示形容詞	疑問詞（qué, quién 等） 指示形容詞 について学ぶ。
9.	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞 について学ぶ。
10.	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞 について学ぶ。

11.	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞 について学ぶ。
12.	時刻の表現 日付の表現	時刻の表現 日付の表現 について学ぶ。
13.	疑問詞 (cuál, por qué 等) 語幹母音変化動詞	疑問詞 (cuál, por qué 等) 語幹母音変化動詞 について学ぶ。
14.	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期 の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

(イメージ・スペイン語)

(著 者) Eugenio del Prado 他2名

(出版社) 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）、平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

< Learning Objectives >

Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.

< Learning activities outside of classroom >

Students review and prepare for each lesson for an hour in total.

< Grading Criteria / Policy >

・ Exam 70%

・ Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語 4

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞 について学ぶ。
2	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞 について学ぶ。
3	再帰動詞 義務の表現	再帰動詞 義務の表現 について学ぶ。
4	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形）	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形） について学ぶ。
5	比較級 最上級 不定語と否定語	比較級 最上級 不定語と否定語 について学ぶ。
6	直説法点過去（規則動詞）	直説法点過去（規則動詞） について学ぶ。
7	直説法点過去（不規則動詞）	直説法点過去（不規則動詞） について学ぶ。
8	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2,000）	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2,000） について学ぶ。
9	点過去と線過去 直接話法・間接話法	点過去と線過去 直接話法・間接話法 について学ぶ。
10	数（10,000～10,000,000） 序数	数（10,000～10,000,000） 序数 について学ぶ。

11	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了 について学ぶ。
12	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde について学ぶ。
13	直説法未来 直説法過去未来	直説法未来 直説法過去未来 について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

(イメージ・スペイン語)

(著 者) Eugenio del Prado 他 2 名

(出版社) 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験 (70 %)、平常点 (30 %)

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

< Learning Objectives >

Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.

< Learning activities outside of classroom >

Students review and prepare for each lesson for an hour in total.

< Grading Criteria / Policy >

・ Exam 70%

・ Participation and attitude 30%

ス페인語 1

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 3/Mon.3

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。課題等に対するフィードバックは授業内でを行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、導入としてスペイン語とスペイン語圏の特徴を概観する。
2	文字と発音	スペイン語の文字と発音のルールを習得する。
3	音節と強勢	音節と強勢のルールを習得する。
4	名詞と冠詞	名詞と冠詞の用法を習得する。
5	人称代名詞の主格と動詞 ser (現在形)	人称代名詞の主格の用法と、動詞 ser の現在形の活用と用法を習得する。
6	動詞 estar (現在形) と形容詞	動詞 estar の現在形の活用と用法と、形容詞の用法を習得する。
7	所有詞と存在文	所有詞と存在文の用法を習得する。
8	現在形規則活用 (-ar 動詞)	-ar 動詞の現在形の規則活用と用法を習得する。
9	現在形規則活用 (-er 動詞、-ir 動詞)	-er 動詞と -ir 動詞の現在形の規則活用と用法を習得する。
10	目的格と前置詞格	人称代名詞の目的格と前置詞格の用法を習得する。
11	gustar 型動詞	gustar 型動詞の活用と用法を習得する。
12	現在形不規則活用 (語根母音変化動詞)	現在形における語根母音変化動詞の活用と用法を習得する。
13	現在形不規則活用 (その他)	現在形におけるその他の不規則活用動詞の活用と用法を習得する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

東京大学教養学部スペイン語部会『スペイン語学習の羅針盤』朝日出版社、2020 年、ISBN9784255551111、本体価格 2,200 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題：20 %、小テスト：20 %、学期末試験：60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

初回の授業で数種紹介する西和辞典のうち、1 つ以上を必ず用意し、毎回の授業に持参すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is designed to provide you with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar. In addition, you will be able to enjoy reading and writing easy Spanish text.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Classwork and homework (20%), quizzes (20%), and term-end examination (60%).

LANs100LA

スペイン語 3

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生が、スペイン語の基礎を学習する。同時に、スペイン語圏の歴史・文化・社会に関する知識を得て、それらに対する関心を高めていく。

【到達目標】

スペイン語の初級文法と基本的語彙を習得し、スペイン語圏の歴史・文化・社会への理解に基づいて、平易な文章の読み書きができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員による文法説明の講義を踏まえて、学生が練習問題や講読・作文に取り組む。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	関係詞	関係詞の用法を習得する。
3	比較級と最上級	比較級と最上級の用法を習得する。
4	無主語文	無主語文の用法を習得する。
5	不定詞	不定詞の用法を習得する。
6	現在分詞と現在進行形	現在分詞と現在進行形の用法を習得する。
7	過去分詞と現在完了形	過去分詞と現在完了形の用法を習得する。
8	再帰動詞（基礎）	再帰動詞の基礎的な用法を習得する。
9	再帰動詞（発展）	再帰動詞の発展的な用法を習得する。
10	点過去形（規則活用）	点過去形の規則活用と用法を習得する。
11	点過去形（不規則活用）	点過去形の不規則活用と用法を習得する。
12	線過去形	線過去形の活用と用法を習得する。
13	過去完了形	過去完了形の用法を習得する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

東京大学教養学部スペイン語部会『スペイン語学習の羅針盤』朝日出版社、2020 年、ISBN9784255551111、本体価格 2,200 円。

【参考書】

適宜、教場にて紹介する。以下の【その他の重要事項】の欄も参照のこと。

【成績評価の方法と基準】

宿題および授業時間内の課題: 20 %、小テスト: 20 %、学期末試験: 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な習得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

春学期の「スペイン語 1」と同様に、1 種以上の西和辞典を必ず用意し、毎回の授業で活用すること。

【Outline (in English)】

《Course outline》 This course is designed to provide you with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

《Learning Objectives》 Students will gain the knowledge of Spanish elementary grammar. In addition, you will be able to enjoy reading and writing easy Spanish text.

《Learning activities outside of classroom》 Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Classwork and homework (20%), quizzes (20%), and term-end examination (60%).

LANs100LA

スペイン語 2

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 4/Wed.4

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語初級文法

【到達目標】

学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部: DP1

【授業の進め方と方法】

所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

大学の行動方針レベルが2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション アルファベット 発音	オリエンテーション アルファベット 発音 について学ぶ。
2.	アクセント あいさつ	アクセント あいさつ について学ぶ。
3.	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞 について学ぶ。
4.	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在 について学ぶ。
5.	所有形容詞 (前置形) 疑問文と否定文	所有形容詞 (前置形) 疑問文と否定文 について学ぶ。
6.	tener 動詞の直説法現在 数 (1~100)	tener 動詞の直説法現在 数 (1~100) について学ぶ。
7.	直説法現在 (規則動詞) 主な前置詞	直説法現在 (規則動詞) 主な前置詞 について学ぶ。
8.	疑問詞 (qué, quién 等) 指示形容詞	疑問詞 (qué, quién 等) 指示形容詞 について学ぶ。
9.	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞	estar 動詞の直説法現在 hay 動詞 について学ぶ。
10.	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞	ser+形容詞 estar+形容詞 tener+名詞 について学ぶ。

11.	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞	ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 ir a +不定詞 tener que +不定詞 について学ぶ。
12.	時刻の表現 日付の表現	時刻の表現 日付の表現 について学ぶ。
13.	疑問詞 (cuál, por qué 等) 語幹母音変化動詞	疑問詞 (cuál, por qué 等) 語幹母音変化動詞 について学ぶ。
14.	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes

(イメージ・スペイン語)

(著 者) Eugenio del Prado 他2名

(出版社) 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70％）、平常点（30％）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

< Learning Objectives >

Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.

< Learning activities outside of classroom >

Students review and prepare for each lesson for an hour in total.

< Grading Criteria / Policy >

・ Exam 70%

・ Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語 4

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞	天候表現 直接目的格人称代名詞 間接目的格人称代名詞 について学ぶ。
2	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞	oír, venir, saber, conocer 動詞 dar, decir, traer 動詞 について学ぶ。
3	再帰動詞 義務の表現	再帰動詞 義務の表現 について学ぶ。
4	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形）	gustar 動詞 gustar 型動詞 所有形容詞（後置形） について学ぶ。
5	比較級 最上級 不定語と否定語	比較級 最上級 不定語と否定語 について学ぶ。
6	直説法点過去（規則動詞）	直説法点過去（規則動詞） について学ぶ。
7	直説法点過去（不規則動詞）	直説法点過去（不規則動詞） について学ぶ。
8	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2,000）	直説法線過去（規則動詞） 直説法線過去（不規則動詞） 数（100～2,000） について学ぶ。
9	点過去と線過去 直接話法・間接話法	点過去と線過去 直接話法・間接話法 について学ぶ。
10	数（10,000～10,000,000） 序数	数（10,000～10,000,000） 序数 について学ぶ。

11	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了	過去分詞 直説法現在完了 直説法過去完了 について学ぶ。
12	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde	現在分詞 現在進行形 関係代名詞 que 関係副詞 donde について学ぶ。
13	直説法未来 直説法過去未来	直説法未来 直説法過去未来 について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期 の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Español en imágenes
(イメージ・スペイン語)
(著 者) Eugenio del Prado 他 2 名
(出版社) 朝日出版社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

< Learning Objectives >

Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.

< Learning activities outside of classroom >

Students review and prepare for each lesson for an hour in total.

< Grading Criteria / Policy >

・ Exam 70%

・ Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするができるようになる。また、正しい発音を身につけスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞（前置系）を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 1 I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 月 2/Mon.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をするようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y pronunciación	授業の説明とスペイン語のアルファベット、発音、アクセント、音節を学ぶ。
2	Pronombre personal y verbo "ser" 1	主語人称代名詞、動詞 ser を学ぶ。
3	Pronombre personal y verbo "ser" 2	文型、国名・国籍を学ぶ。
4	Verbos "hay" y "estar"	名詞の性と数、定冠詞と不定冠詞、動詞 hay 、動詞 estar を学ぶ。
5	Verbos "ser" y "estar" 1	形容詞、指示形容詞と指示代名詞を学ぶ。
6	Verbos "ser y "estar" 2	ser + 形容詞、 estar + 形容詞を学ぶ。
7	Verbos "tener" y "hacer" 1	動詞 tener 、動詞 hacer を学ぶ。
8	Verbos "tener" y "hacer" 2	天候表現、所有形容詞 (前置系) を学ぶ。
9	Repaso y examen 1	1 回から 8 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
10	Verbos regulares (-ar, -ir, -er) 1	規則活用動詞を学ぶ。
11	Verbo regulares (-ar, -ir, -er) 2	規則活用動詞を学ぶ。
12	Verbos irregulares (e→ie, o→ue, e→i)	語幹母音変化動詞を学ぶ。
13	Verbos "ir" y "venir"	動詞 ir 、 venir 、 al と del 、疑問詞、前置詞を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	10 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

BARRIENTOS R J DAVID

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎を学び、様々な表現や語彙を身につけ、スペイン語で簡単な会話ができるようになることを目指す。

【到達目標】

授業で学ぶ文法事項を踏まえてスペイン語で会話をすることができるようになる。また、正しい発音を身につけてスペイン語を話すことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。授業は教科書に沿って進める。特にスペイン語の発音に重点を置き、コミュニケーションをはかる際に必要な会話の基本構造を学び練習する。課題等に対するフィードバックは授業時に口頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introducción y repaso	授業の説明とスペイン語 1 I で学んだことを発音、動詞現在形規則活用、estar と hay を中心に復習する。
2	La hora	時刻の表現、疑問詞を学ぶ。
3	Verbos "acabar" y "salir"	動詞 acabar, salir、近接未来、近接過去、疑問詞を学ぶ。
4	Comparativos 1	比較級、最上級を学ぶ。
5	Comparativos 2	比較級、最上級を学ぶ。
6	Verbos "conocer" y "saber" 1	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
7	Verbos "conocer" y "saber" 2	不規則活用動詞 (yo の活用だけが不規則)、目的格人称代名詞を学ぶ。
8	Repaso y examen 1	1 回から 7 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。
9	Verbo "gustar" 1	前置詞の後の人称代名詞、動詞 gustar を学ぶ。
10	Verbo "gustar" 2	その他の gustar 型動詞を学ぶ。
11	Verbos reflexivos 1	再帰動詞の使い方を学ぶ。
12	Verbos reflexivos 2	再帰動詞の使い方を学ぶ。
13	Pretérito perfecto	現在完了形、不定語・否定語を学ぶ。
14	Repaso y examen 2	9 回から 13 回までのまとめを行い、理解度の確認をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。復習、もしくは予習として、授業時に指定するテキストの文章を辞書を使って読む、または練習問題を解いておくこと。また、言語習得に音読は欠かせないため、テキストに載っているスペイン語の文を音読すること。

【テキスト（教科書）】

時任まり子『気ままにスペイン語』三修社、2400 円

【参考書】

授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験 (50%)、スピーキングテスト (25%)、授業参加および課題 (25%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this course you are going to learn the basics of Spanish and acquire various expressions and vocabulary so that you will be able to have simple conversations in Spanish. Learning Objectives: The goals of this course is to be able to acquire correct pronunciation and engage in conversation in Spanish without grammatical errors.

Learning Activities Outside of Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to work on the textbook to grasp the key learning points of the next class/review the previous class. Also, it is important to read the sentences in the textbook aloud to improve Spanish pronunciation.

Grading Criteria: Grading will be decided based on written exams (50%), oral exams (25%) and class participation and assignments (25%).

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業だが、社会情勢によってオンライン授業に切り替わる可能性があるため、学習支援を確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課	冠詞、主格人称代名詞
4	第 4 課	ser 動詞の活用と用法
5	第 5 課	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課	所有形容詞（前置形、後置形）

12	第 7 課 目的格人称代名詞の 説明	目的格人称代名詞
13	第 7 課 gustar 型動詞の説明	gustar 型動詞の用法
14	試験 今までの振り返りとし ての試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨールⅠ 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上を獲得しないと単位は与えられない。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。
欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1
単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。基本的に対面授業だが、社会情勢に応じてオンライン授業に切り替わる可能性があるので、学習支援を確認すること。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。
授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨールⅠ ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 1 - I

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

学生が、スペイン語の基本的な文法知識を身に付けることに主眼を置きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

所定のテキストに沿いながら、文法の学習を中心に進め、同時に正確な発音やイントネーションにも気を付けます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション アルファベットと発音	オリエンテーション アルファベットと発音 について学ぶ。
2	アクセント あいさつ 授業で使う表現	アクセント あいさつ 授業で使う表現 について学ぶ。
3	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞	名詞の性と数 定冠詞と不定冠詞 について学ぶ。
4	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在	主格人称代名詞 ser 動詞の直説法現在 について学ぶ。
5	形容詞の性と数 所有形容詞前置形	形容詞の性と数 所有形容詞前置形 について学ぶ。
6	estar 動詞の直説法現在 hay ser + 形容詞、 estar + 形容詞	estar 動詞の直説法現在 hay ser + 形容詞、estar + 形容詞 について学ぶ。
7	tener 動詞の直説法現在 数（1～30）	tener 動詞の直説法現在 数（1～30） について学ぶ。
8	直説法現在規則動詞	直説法現在規則動詞 について学ぶ。
9	時刻の表現 疑問詞 曜日と月	時刻の表現 疑問詞 曜日と月 について学ぶ。
10	指示形容詞 ir, ver, hacer, poner, salir 動詞	指示形容詞 ir, ver, hacer, poner, salir 動詞 について学ぶ。

11	語幹母音変化動詞 主な前置詞	語幹母音変化動詞 主な前置詞 について学ぶ。
12	直接目的格人称代名詞 oír, venir, saber, conocer 動詞	直接目的格人称代名詞 oír, venir, saber, conocer 動詞 について学ぶ。
13	間接目的格人称代名詞 dar, traer, decir 動詞	間接目的格人称代名詞 dar, traer, decir 動詞 について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期 の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Panorámica del español（スペイン語のある風景）
（著 者）Eugenio del Prado 他 2 名
（出版社）同学社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

< Learning Objectives >

Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.

< Learning activities outside of classroom >

Students review and prepare for each lesson for an hour in total.

< Grading Criteria / Policy >

・ Exam 70%

・ Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語 1 - II

2017 年度以降入学者

GARCIA RUIZ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法

【到達目標】

春学期からの継続の授業ということで、授業のレベルは多少高くなりますが、基本的な目標は春学期と同様です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

最初は、既に春学期で学習した事柄の中から、必要事項を復習します。その後は、新たな文法事項を学習し、よりレベルの高い作文能力を身に付けるための練習を行っていきます。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天候表現 義務の表現	天候表現 義務の表現 について学ぶ。
2	再帰動詞	再帰動詞 について学ぶ。
3	所有形容詞後置形 前置詞格人称代名詞	所有形容詞後置形 前置詞格人称代名詞 について学ぶ。
4	gustar 動詞 gustar 型動詞	gustar 動詞 gustar 型動詞 について学ぶ。
5	数（30～1000） 序数 疑問文、否定文、感嘆文	数（30～1000） 序数 疑問文、否定文、感嘆文 について学ぶ。
6	比較級と最上級 不定語	比較級と最上級 不定語 について学ぶ。
7	直説法点過去規則動詞	直説法点過去規則動詞 について学ぶ。
8	直説法点過去不規則動詞	直説法点過去不規則動詞 について学ぶ。
9	直説法線過去規則動詞 と不規則動詞 点過去と線過去	直説法線過去規則動詞と不規則動詞 点過去と線過去 について学ぶ。
10	直接話法・間接話法 数（1000～）	直接話法・間接話法 数（1000～） について学ぶ。
11	過去分詞 直説法現在完了	過去分詞 直説法現在完了 について学ぶ。
12	現在分詞 現在進行形	現在分詞 現在進行形 について学ぶ。

13	関係代名詞 que 直説法未来	関係代名詞 que 直説法未来 について学ぶ。
14	試験・まとめと解説	試験とその解説を実施し、今学期 の学習内容のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Panorámica del español（スペイン語のある風景）
（著 者）Eugenio del Prado 他 2 名
（出版社）同学社

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

オリジナル補助教材のより積極的な活用

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to provide students with an understanding of elementary Spanish and a basic knowledge of the histories, societies and cultures of the Spanish-speaking world.

< Learning Objectives >

Students acquire a basic knowledge of Spanish grammar.

< Learning activities outside of classroom >

Students review and prepare for each lesson for an hour in total.

< Grading Criteria / Policy >

・ Exam 70%

・ Participation and attitude 30%

LANs100LA

スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業だが、社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる可能性もあるので、学習支援を必ず確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課前半	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課後半	冠詞、主格人称代名詞
4	第 3 課前半	ser 動詞の活用と用法
5	第 3 課後半	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課前半	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課後半	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課前半	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課後半	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課前半	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課後半	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課前半	目的格人称代名詞
13	第 7 課後半	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』(小学館)

『わかるスペイン語』西川喬 (同学社)

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用するのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できないので注意すること。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなど対応します。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 2-II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。基本的に対面授業だが社会情勢によってはオンラインに切り替わる可能性もあるため、学習支援を確認すること。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』(小学館)

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業だが、社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる可能性もあるので、学習支援を必ず確認すること。テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	第 2 課前半	名詞の性、名詞の数
3	第 2 課後半	冠詞、主格人称代名詞
4	第 3 課前半	ser 動詞の活用と用法
5	第 3 課後半	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	第 4 課前半	estar 動詞、hay + 名詞
7	第 4 課後半	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	第 5 課前半	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時制の用法
9	第 5 課後半	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	第 6 課前半	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	第 6 課後半	所有形容詞（前置形、後置形）
12	第 7 課前半	目的格人称代名詞
13	第 7 課後半	gustar 型動詞の用法
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。

語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『ブラサ・マヨール I 改訂ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹 ほか（著）、朝日出版社、1,900 円 (+税)

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用するのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度 40%、試験 60%を基本とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できないので注意すること。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加えることがある。反対に消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなど対応します。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

宮田 絵津子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。基本的には対面授業だが社会状況に応じてオンライン授業に切り替わる可能性もあるので学習支援を確認すること。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 8 課前半	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	第 8 課後半	querer と poder の活用と様々な用法
3	第 9 課	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	第 10 課前半	再帰動詞の活用と用法
5	第 10 課後半	再帰動詞の用法、感嘆文
6	第 11 課前半	過去分詞、現在分詞
7	第 11 課後半	現在完了の活用と用法
8	第 12 課前半	点過去規則活用と点過去の用法
9	第 12 課後半	不定語と否定語、比較表現
10	第 13 課前半	点過去（不規則）1
11	第 13 課後半	点過去（不規則）2
12	第 14 課前半	再帰動詞の点過去
13	第 14 課後半	線過去
14	試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『プラサ・マヨール I ソフト版 ーベーシック・スペイン語ー』、青砥清一、パロマ・トレナド、高松秀樹（ほか）（著）、朝日出版社、1,900 円（+税）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価するが、試験は 60 点以上獲得しないと単位は取得できない。

また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。

授業中の携帯電話の使用は減点の対象とみなす。

欠席は 3 回までとする。3 回欠席した学生は単位を取得できないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。配布されるリアクションペーパーには質問や確認したい事項を記入すること。質問などについては授業内で復習するなどの対応をします。

【Outline (in English)】

1.Learn basic grammars and carry on practices which are in the textbook. 2.In order to be able to learn basic Spanish, it is aimed to learn grammatical interpretation.3.Learning activities outside of classroom aiming to restudy what is learned in the class is required. Your required study time is at least one hour for each class meeting.4.Grading criteria: 40% is presence and participation, attitude during class and 60% is the exam points. In the exams, more than 60 points is required to obtain the credit.

LANs100LA

スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スペイン語紹介	南米にスペイン語を話す国々。南米のスペイン語。
2	スペイン語で自己紹介	目的人称代名詞、再帰代名詞
3	発音	教室で役に立つ表現。名前と苗字
4	数字 I. 歴史上の人物	名詞、定冠詞、主語代名詞
5	職業、国籍	SER 直説法現在、疑問文と否定文
6	数字 II. 家族	不定冠詞、品質形容詞、所有詞前置形
7	親族、ジェスチャー	TENER 直説法現在、疑問詞 I
8	位置関係、場所を表す副詞	指示形容詞、指示代名詞
9	数字 III. 序数、世界世界遺産の都市	ESTAR 直説法現在 I. HABER の活用
10	曜日	規則動詞 直説法現在、不規則動詞 (HACER, IR) 直説法現在
11	頻度を表す副詞表現	現在形の用法、疑問詞 II
12	時間	前置詞
13	月と季節	語幹母音変化動詞 I
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, 2a. edición(総合スペイン語コース初級 改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験及び平常点 50 %

小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.

The standard preparation and review time for this class is 1 hour.

Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

OSNO I DE SASAKUBO H

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の基礎知識とスペイン語圏の文化を学ぶ授業です。基礎的なスペイン語文法の学習に加えて会話を習得することを目的とします。またスペイン語圏の文化や社会の現状を踏まえた会話の上達を目指します。

【到達目標】

スペイン語で日常会話ができるようになることを目標とします。また、辞書を使用しながら、簡単なテキストを読解できるようになることも目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテキストに沿って実習形式で進められます。必要に応じて教員が説明を行います。基本的には学生が会話をしたり、練習問題を解いたりして積極的に授業に参加することが期待されます。毎回の授業開始時に、課題やリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	住居. 天気表現	語幹母音変化動詞 II. 動詞 VOLVER, REPETIR
2	日常の習慣	再帰動詞
3	食べ物と飲み物	直接目的人称代名 動詞 VER. SABER, CONOCER
4	レシピ/レストランで	Saber + 不定詞、PODER + 不定詞. QUERER + 不定詞, PODER + 不定詞
5	衣服とアクセサリ、色	間接目的人称代名詞. 動詞 DAR, TRAER, DECIR
6	クリスマス. 買い物	比較現在 I. 形容詞の比較/ 不規則な比較を持つ形容詞
7	余暇活動 スポーツ	動詞 GUSTAR. 活用
8	スペイン語圏の国々のお祭り	GUSTAR と同じ ように用いられる動詞 ENCANTAR, INTERESAR, PARECER, IMPORTAR/ 比較現在 II/比較現在 III. 数量の比較
9	体の部分の名称	動詞 DOLER. ESTAR II
10	状態	SER+形容詞. estar+形容詞
11	体調. 感情表現	感情文. SER+形容詞. estar+形容詞
12	日常行われるスポーツ	TENER QUE+不定詞 HAY QUE+不定詞. 不定詞と否定語
13	旅行	直説法点過去. 直説法点過去 規則活用.
14	まとめ	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習をしっかりとやること、十分な準備をすること。本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Entre amigos 1, 2a, edición. (総合スペイン語コース初級 改訂版)
Editorial Asahi

【参考書】

授業の進行によって随時提示。

【成績評価の方法と基準】

授業内での口頭試験 50 %

小テスト 20 %、期末試験の結果 30 %

毎回、新しい事を学び、それらは連続しているので欠席することは致命的となる。原則として遅刻は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

新規の担当科目のため、学生からの意見は今後授業改善に反映する。

【Outline (in English)】

It is a class to learn the basic knowledge of Spanish and culture of Spanish-speaking countries. It aims to master conversation in addition to basic Spanish grammar learning. We also aim to improve conversation based on the current state of culture and society in the Spanish-speaking world.

Upon completion of this course, students will be able to understand and express themselves in Spanish in daily life situations. They will also be able to read and understand simple texts with the help of a dictionary.

The standard preparation and review time for this class is 1 hour.

Grading will be decided based on exams (50%) and the active class participation of students (50%).

LANs100LA

スペイン語 2 - I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。

また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

<課題に対するフィードバックの方法>

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 発音とアクセント	授業の概要説明。 スペイン語のアルファベットなど つづりの読み方とアクセント
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞	定冠詞、不定冠詞
4	形容詞の基本	母音で終わる形容詞、子音で終わる形容詞の語形変化など
5	語尾が脱落する形容詞	語尾が脱落する形容詞の語形変化など
6	ser 動詞の活用	動詞 ser の現在形
7	自己紹介	動詞 ser を使った自己紹介の方法
8	estar 動詞の活用	動詞 estar の現在形と用法および hay の用法
9	動詞の使い分け	動詞 ser、estar、hay の使い分け
10	直説法現在	直説法現在形の規則活用
11	時刻と数字 1～12	時刻の言い方、数字（1～12）
12	不規則活用と指示代名詞、指示形容詞	直説法現在形の不規則活用と指示形容詞、指示代名詞
13	数字 13～30	数字（13～30） 試験に向け、質問など
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。

特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。

本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用し、のオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出てください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語 2 - II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初めてスペイン語に接する学生を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語 2I から連続する。

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。また、映像などを用い、スペイン語圏文化の紹介も可能な限り行っていく。

状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

本授業は原則として対面で行うが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインで行う。詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	直説法現在形 動詞の不規則活用 I
2	所有形容詞	所有形容詞（前置形）
3	数字（31～99）	数字（31～99）
4	動詞の不規則活用	直説法現在形 動詞の不規則活用 II
5	数字（100～999）	tener que+不定詞 数字（100～999）
6	目的格代名詞の基本	直接目的格人称代名詞および間接目的格人称代名詞
7	gustar 動詞	動詞 gustar の用法
8	gustar 型動詞	動詞 gustar と同様な使い方がされる動詞
9	再帰動詞	再帰動詞
10	無人称表現	se を用いた無人称表現
11	時刻	時刻の言い方
12	天候の表現	天気の違い
13	直説法点過去	直説法点過去形の規則活用
14	過去の天候表現	過去の天気の違い
15	直説法点過去	直説法点過去形の不規則活用
16	日付、曜日、月	日付、曜日、月の名前と使い方
17	直説法線過去	直説法線過去形の規則活用
18	直説法線過去	直説法線過去形の不規則活用
19	点過去、線過去	点過去と線過去の対比
20	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』（白水社）

【参考書】

『西和辞典』（小学館）

『わかるスペイン語』西川喬（同学社）

授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

学習障害等、何らかの配慮を希望する場合は、遠慮なくその旨申し出て下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語補講 1 I

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次のスペイン語既習者を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

1 年次のスペイン語再履修者が主な対象となるため、気の緩みが生じないよう非常に厳しく指導していく。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

初回授業は、オンラインもしくは対面のどちらで開催するか、後日 Hoppii にて指示する。

本授業は、原則、対面型授業となるが、大学の行動方針レベルが2となった場合、オンラインへ移行する可能性がある。詳細については Hoppii にて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーションおよび第 1 課	授業方針の説明とアルファベット等、スペイン語の初歩的事柄の解説
2	名詞の性、数	名詞の性、名詞の数
3	冠詞と人称代名詞	冠詞、主格人称代名詞
4	動詞 ser の現在形	ser 動詞の活用と用法
5	形容詞の基本	形容詞の性と数、疑問文と否定文
6	estar 動詞の活用	estar 動詞、hay + 名詞
7	動詞の使い分け	ser と estar の比較、estar と hay の比較、指示形容詞
8	ar 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞-ar 動詞の活用と現在時の用法
9	様々な疑問詞と前置詞「a」	疑問詞の用法、間接・直接目的語に付く前置詞 a
10	er,ir 動詞の直説法現在形規則活用	規則動詞-er 動詞、-ir 動詞の活用
11	所有形容詞の基本	所有形容詞（前置形、後置形）
12	目的格人称代名詞の基本	直接目的格人称代名詞と間接目的格人称代名詞
13	gustar 型動詞の基本	gustar 型動詞の用法

14 試験・まとめと解説 筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を事前に辞書で調べておくこと。
語学習得の秘訣は復習である。授業後の復習を必ず行い、反復練習に励むこと。
本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『エル・ファロ 書いて確認！スペイン語』、栗林ゆき絵、瓜谷アウロラ（著）、朝日出版社、2,200 円（+税）、ISBN: 978-4-255-55130-2

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用してのオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけではなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

重要！！
履修希望者が多い場合には選抜を実施する。履修希望者は必ず初回授業に出席し許可を得ること。
初回授業に来なかった学生は原則履修を許可しないので、必ず初回授業に出席すること。
後期のみ履修を希望する学生も、前期の初回授業に出席し許可を得ること。前期初回授業時に申し出なかった場合、原則、後期の履修を認めない。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語補講 1 II

2017 年度以降入学者

大貫 良史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1 年次のスペイン語既習者を対象に、スペイン語の基本的文法と簡単な会話の習得を目指す。

【到達目標】

本科目の終了時には、平易な文章の読解および会話ができるようになることを目標とする。また語学だけでなく、スペイン語圏文化への理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

春学期のスペイン語補講 1 I から連続する。
テキストに沿って、文法の解説や文章の音読、問題演習などを行い、ステップバイステップでスペイン語の理解を深めていく。
状況により、学生の理解度を考慮し、授業進度を調整する可能性がある。

授業では、辞書を必ず持参すること。

1 年次のスペイン語再履修者が主な対象となるため、気の緩みが生じないよう非常に厳しく指導していく。

＜課題に対するフィードバックの方法＞

リアクションペーパーの質問や重要な意見に対し、次回授業で解説・講評を行う。

初回授業は、オンラインもしくは対面のどちらで開催するか、後日 Hoppii にて指示する。

本授業は、原則、対面型授業となるが、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、オンラインへ移行する可能性がある。詳細については Hoppii にて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	不規則動詞の基本	不規則動詞、語幹母音変化動詞の活用
2	不規則動詞と不定詞	querer と poder の活用と様々な用法
3	不規則動詞の応用	不規則動詞の活用、hacer の様々な用法
4	再帰動詞の基本	再帰動詞の活用と用法
5	再帰動詞の進んだ用法	再帰動詞の用法、感嘆文
6	過去分詞と現在分詞	過去分詞、現在分詞
7	現在完了の基本	現在完了の活用と用法
8	過去形の基本：点過去	点過去規則活用と点過去の用法
9	否定語・不定語の用法	不定語と否定語、比較表現
10	点過去の不規則活用	点過去不規則活用の基本
11	語幹母音変化動詞の点過去不規則活用	語幹母音変化動詞の現在形と不規則活用の違い
12	再帰動詞の点過去	再帰動詞の点過去活用と用法
13	線過去の基本	線過去の活用と用法、点過去と線過去の対比
14	試験・まとめと解説	筆記試験とその解説を実施し、今学期の学習内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

わからない単語を辞書で調べておくこと。必ず復習すること。
特に復習に時間を割くこと。語学の習得においては、復習と反復練習が何よりも重要である。
本授業の準備・復習時間は、あわせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『エル・ファロ 書いて確認！ スペイン語』、栗林ゆき絵、瓜谷アウロ
ラ（著）、朝日出版社、2,200 円（+税）、ISBN: 978-4-255-55130-2

【参考書】

『西和中辞典』（小学館）
『わかるスペイン語』西川喬（同学社）
授業中の携帯電話およびノートパソコンを使用しているオンライン辞書の利用は認められない。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度など平常点 40%、試験 60%とし、総合的に評価する。
また、授業に積極的に取り組む姿勢も評価に加える。反対に、授業中の消極的態度は減点の対象となることがある。
授業中の携帯電話の使用は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

授業理解度を考慮し、丁寧な解説だけでなく、必要に応じ授業進度のスピードアップも図っていく。

【その他の重要事項】

重要！

履修希望者が多い場合には選抜を実施するため、履修希望者は必ず「春学期」第一回目の授業に出席し、「秋学期」履修希望であることを申し出ること。

また、履修希望者は、必ず「春学期」初回授業までに仮登録をすること。

履修許可者は「春学期」初回授業後に Hoppii にて掲示する予定。
「春学期」初回授業までに仮登録しなかった学生は原則履修を許可しないので、十分注意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Learning Objectives】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Students evaluations are based on class participation (40%) and the final exam (60%). Participation and attitude will factor in the final grade.

LANs100LA

スペイン語補講 1 I

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初習者（再履修者）を対象に、スペイン語の基礎を身につける授業です。文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

スペイン語の発音に慣れ、挨拶や簡単な自己紹介ができるようになる。平易な事実の描写ができるようになる。
スペイン語の学習を通して、スペイン語圏への関心を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業です。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題は、資料を用います。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 アルファベートとあいさつ	授業概要説明、アルファベートと発音、あいさつの練習。
2	発音と文字の規則、名詞の数と性	発音と文字の規則を理解し、基本単語を覚える。あいさつの練習。名詞の数と性を理解する
3	冠詞、主語人称代名詞、動詞 ser	冠詞を理解し、ser の用法を練習する。
4	形容詞と文構造	形容詞を理解し練習する。文構造を理解する。
5	動詞 estar と場所の表現	動詞 estar の用法を理解し練習する。
6	存在を表す hay、動詞 ser/estar の違い	hay の用法と、動詞 estar との違いを確認する。動詞 ser/estar の違いを確認する。
7	直説法現在規則動詞	直接法現在規則動詞の活用や移民を確認し練習する。
8	曜日、日付の表現	曜日と日付の表現を確認し、規則動詞と共に表現を練習する。
9	直説法現在不規則動詞（語根母音変化動詞）	語根母音変化動詞の活用を練習し、特に不定詞をとる動詞とその用法を確認し練習する。
10	時刻表現	時刻表現を確認し、動詞と共に表現を練習する。

11	直説法現在不規則動詞 (1 人称単数が go と なる不規則動詞)	不規則活用動詞 (1 人称単数 が go となる不規則動詞) の活用 練習と用法の確認をする。
12	直説法現在不規則動詞 (1 人称単数が go 形以 外となる不規則動詞)	1 人称単数が不規則な動詞を確認 し、活用と共に重要な用法を練習 する。
13	直接目的格人称代名詞	直接目的格人称代名詞の用法を理 解し練習する。
14	復習と期末試験、解説	春学期のまとめとその確認として の期末試験を行う。試験内容の解 説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を必要とする場合や宿題に関しては適宜指示しますが、復習を必ず行いましょう。
教科書を中心に学習しましょう。進出単語は自発的に覚えましょう。
本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

丹波美佐子他(2021)『ハカランダースペイン語の基礎―』(Jacaranda) 同出版社。

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。
『西和中辞典』小学館
『クラウン西和辞典』三省堂
『ブエルト新スペイン語辞典』研究社
『現代スペイン語辞典』白水社
参考書は以下です。必携ではありません。
上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社
瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（60 %）、期末試験（40 %）
欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の
欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をせず、不
合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進捗を頻繁に見直します。

【その他の重要事項】

再履修科目のため、人数が多い場合は抽選となります。必ず初回の
授業（4 月 12 日 2 限目）に出席してください。出席されない場合は
抽選の有無に関わらず、履修を許可しない場合があります。

【Outline (in English)】

The course will explain the basic Spanish grammar. At the end of the course, students are expected to write and speak in plain Spanish: greeting, brief self-introduction, plain description etc. Please prepare for the lesson before/after 1 hour of preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Tests conducted in class and class participants: 60%. More than four absences will not be approved.

LANs100LA

スペイン語補講 1 II

2017 年度以降入学者

岡本 年正

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語補講 1 I からの継続です。スペイン語の基礎を身につける授業であり、文法だけでなく、日常の会話表現も学んでいきます。また言語の学習のみでなく、スペイン語圏の事象についても知見を広げていきます。

【到達目標】

現在と過去の事実が表現でき、日常を描写できるようになる。
好み、簡単な意思や希望を伝えられるようになる。
平易な文章を読み、理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業です。
基本的には教科書に沿って、文法事項を解説し、本文を音読し解釈します。その後、文法事項に関する問題やリスニング問題をします。練習問題は、宿題の場合もあれば授業内で行う場合もあるため、授業中でも辞書を多用します。文法の補足や補充の練習問題は、資料を用います。内容を大まかなまとまりに分け、各まとまりごとに小テストを行い、達成度を確認しつつ進めていきます。教科書だけでなく、音楽や映像資料を用いて、スペイン語圏の事象を紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期復習	授業概要説明し、春学期の復習をする。
2	直説法現在不規則動詞 (ir 等の完全不規則動 詞)	不規則活用動詞 (ir 等) の活用練習と用法の確認をする。
3	間接目的格人称代名詞	間接目的語人称代名詞の用法を理解し練習する。
4	動詞 gustar	動詞 gustar の用法を理解し練習する。
5	gustar 型動詞	gustar 型動詞を理解し練習する。
6	再帰動詞（基本的な用法：直接・間接再帰）	再帰動詞の基本的な用法を確認し練習する。
7	再帰動詞（相互、強意・転意、3 人称用法）	再帰動詞の様々な用法を確認し練習する。
8	比較	比較級・最上級・絶対最上級を理解し練習する。
9	直説法現在形の復習	これまで学習した直説法現在形を復習する。
10	点過去規則動詞	点過去の用法を理解し、規則動詞の活用を練習する。
11	点過去不規則動詞	点過去不規則動詞の活用を練習する。
12	線過去	線過去の用法を理解し活用を確認し、練習する。
13	線過去／点過去	線過去と点過去の違いを確認し、使い分ける練習をする。

- 14 秋学期の内容の復習と 秋学期に学習した内容だけでなく、これまで学習した内容をまとめ、その確認として期末試験を行う。またその解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習を必要とする場合や宿題に関しては適宜指示しますが、復習を必ず行いましょう。教科書を中心に学習しましょう。進出単語は自発的に覚えましょう。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

丹波美佐子他(2021)『ハカランダースペイン語の基礎―』(Jacaranda) 同出版社。

【参考書】

推薦辞書は以下となります。辞書は必携です。

『西和中辞典』小学館

『クラウン西和辞典』三省堂

『プエルタ新スペイン語辞典』研究社

『現代スペイン語辞典』白水社

参考書は以下です。必携ではありません。

上田博人 2011『スペイン語文法ハンドブック』研究社

瓜谷良平、瓜谷望 2015『新版 スペイン語の入門』白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト、活用テスト、平常点（課題等）（60 %）、期末試験（40 %）欠席、遅刻、宿題や課題をやっていない場合は減点とし、4 回以上の欠席もしくは期末試験を受けなかった場合は、評価自体をせず、不合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

小テストのフィードバックをより詳細に行う。復習する時間をより多く設ける。

【その他の重要事項】

再履修科目のため、人数が多い場合は抽選となります。そのため、秋学期のみの履修でも、履修希望者は春学期の初回の授業において抽選を行う場合があります。春学期初回の授業における抽選方法は、4 月 12 日の春学期初回授業までに学習支援システムを通じて連絡しますので、前日までに必ず確認し、指示に従ってください。指示通りの行動がとられない場合は、抽選の有無にかかわらず履修許可をしない場合があります。また、抽選が無い場合に 4 月 12 日にするべきことをしていない（遅れた）場合は欠席とみなし、秋学期の授業に欠席 1 回を加算します。

秋学期からの履修でも、春学期の授業に出席することを推奨します。そうでない場合は、春学期のシラバスを確認し、春学期の範囲を各自できちんと復習しておいてください。

学習支援システムを、初回の授業前までに必ず確認してください。

【Outline (in English)】

The course will explain the basic Spanish grammar. At the end of the course, students are expected to write and speak in plain Spanish: taste, mind, hope, past events etc. Please prepare for the lesson before/after 1 hour of preparation and review. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 40%, Tests conducted in class and class participants: 60%. More than four absences will not be approved.

LANs100LA

スペイン語補講 2 I

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語初級文法の復習。

【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、

理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。

※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。

ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義内容説明。
第 2 回	名詞	性と数
第 3 回	定冠詞／不定冠詞	un/una, el/la unos/unas, los/las
第 4 回	形容詞／hay	性と数
第 5 回	疑問文と否定文	疑問詞の種類・用法
第 6 回	直説法現在・規則動詞	ar 動詞
第 7 回	直説法現在・規則動詞	er,ir 動詞
第 8 回	直説法現在・不規則動詞	ser・estar
第 9 回	直説法現在・不規則動詞	語根母音変化
第 10 回	直説法現在・不規則動詞	その他不規則動詞
第 11 回	指示形容詞	指示形容詞／指示代名詞
第 12 回	所有形容詞	所有形容詞／所有代名詞
第 13 回	人称代名詞	間接目的格人称代名詞／直接目的 人称代名詞
第 14 回	試験・まとめと解説	試験の実施と、その解説を行い、 今学期の学習内容のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

それぞれの課に合わせプリントを配布。

【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんです、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Improve comprehension of Spanish language communication skill, mainly through grammar but also with introducing the cultures and customs of hispanophone countries.

【Learning Objectives】

Improve comprehension of Spanish language communication skill.

【Learning activities outside of classroom】

Students don't have to prepare for next class but review what you studied in classroom. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 65%, and in-class contribution: 35%.

LANs100LA

スペイン語補講 2 II

2017 年度以降入学者

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期「スペイン語補講 2 I」からの継続。

引き続き文法中心の授業。

【到達目標】

- ①スペイン語への興味・関心の向上。
- ②スペイン語初級文法の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法中心に講義に進めていくが、必要に応じて音楽や映像などを紹介し、スペイン語圏の文化に親しみながら、言語自体への関心を持てるようにする。

学習支援システムを通じたヒアリングや各回実施する練習問題を通じて、

理解度を把握し、内容/進め方を適宜修正する。

※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。

ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	gustar 型動詞	前置詞、 gustar 動詞
第 2 回	再帰動詞	意味と活用
第 3 回	比較	比較級／最上級
第 4 回	現在分詞	活用方法
第 5 回	過去分詞	活用方法／現在完了
第 6 回	点過去	規則
第 7 回	点過去	不規則
第 8 回	線過去	規則／不規則
第 9 回	点過去・線過去復習	2つの過去形の違い／練習
第 10 回	過去完了	意味と活用
第 11 回	未来	規則／不規則
第 12 回	過去未来	規則／不規則
第 13 回	その他の完了形	未来完了／過去未来完了
第 14 回	試験・まとめと解説	試験の実施と、その解説を行い、今学期の学習内容のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は自由だが、復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

『超入門スペイン語』（大学書林）。辞書については授業内で指示。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 65%、平常点 35% で判定。

【学生の意見等からの気づき】

スペイン語の習得はもちろんです、語学を通じてスペイン語圏の社会・文化に興味を持ってもらえるような内容にしていきます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Continuing Spanish grammar class from 1st semester.

【Learning Objectives】

Master basic Spanish language grammar.

【Learning activities outside of classroom】

Students don't have to prepare for next class but review what you studied in classroom. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 65%, and in-class contribution: 35%.

LANs100LA

スペイン語補講 2 I

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 火 4/Tue.4

単位数: 1 単位

※定員制

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

【到達目標】

①綴りを見て単語を発音することができる。②人の職業や国籍・出身地について述べることができる。③特定のものや人の所在について述べることができる。④人やものの性格・性質や状態について述べるができる。⑤直説法現在形の動詞の活用から不定詞を推測し、辞書を引くことができる。⑥ *querer, poder* などの動詞の用法を理解し、欲求、願望、可能、許可などについての表現ができる。⑦スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題に回答させ、答え合わせ、解説、発展的な学習を行ってゆく。また、学習した文法を用いた作文問題を課題として数回出題する。時間に余裕があれば、受講生の作文例を授業で紹介、添削して全員で共有する。時間がなければ、添削した作文を個別に返却する。

本授業は対面形式を基本とするが、第 1 回目の授業は Zoom を用いてオンラインで実施する。Zoom のミーティング ID、パスワードなどについての詳細は、授業開始の直前に授業支援システムから通知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを使って本授業について説明。
2	名詞、冠詞、Hay	名詞の性数、定冠詞・不定冠詞、不特定なものや人の存在を表す"Hay"の用法など。
3	主格人称代名詞、規則活用動詞	主語となる人称代名詞、規則活用の練習、活用形から不定詞を見極める方法。
4	形容詞、動詞 <i>ser</i> 、疑問文	形容詞の性数、動詞 <i>ser</i> の活用と用法、疑問文の作り方。
5	所有形容詞、動詞 <i>estar</i>	所有形容詞の使い方、動詞 <i>estar</i> の活用と用法、 <i>ser</i> とのちがい。
6	1 人称単数のみ不規則な活用動詞	<i>hacer, poner, conocer, saber, salir, ver</i> など、重要な動詞の活用と用法。
7	指示形容詞と指示代名詞、語幹母音変化動詞	「この、その、あの、これ、それ、あれ」、語幹母音変化動詞の活用と用法。
8	所有形容詞後置形と所有代名詞、目的格人称代名詞	所有形容詞後置形の種類と用法、直接・間接目的格人称代名詞。
9	時間の表現、5 つの不規則活用動詞	「～時です」、「～時に～する」、 <i>ir, venir, decir, tener, dar</i> の用法。

10	前置詞、Gustar 型の動詞	前置詞の種類と用法、Gustar 型の動詞の用法「～は～が好きだ」などの表現。
11	知覚・使役・放任の構文、関係詞	「～が～するのが見える」などの表現、関係代名詞の種類と用法。
12	再帰動詞、天候表現	再帰動詞の活用と用法、日常生活での行動の表現、天候表現。
13	予備日	春学期の授業の総復習。
14	理解度確認	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習を必ずやる。予習としては、少なくとも分からない単語の意味を辞書で調べておく。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後に指示する。

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %、期末試験の点数を 70 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列举した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

In this lesson we will learn basic Spanish, especially grammar from the beginning again.

The purposes of this class are as follows.

To be able to pronounce words correctly by looking at the spelling.

To read sentences written in the indicative present tense with the help of a dictionary.

To describe one's origin and characteristics, and to depict people and things' conditions.

To express interests, preferences, intentions, wishes, requests, and habitual actions by using "gustar" type verbs, reflexive verbs, and verbs such as "querer" or "poder" in the present tense.

Students should read the grammatical explanations in the text, and work on conversations and exercises. The standard preparation and review time for this class is one hour.

The final grade will be calculated according to the following process; final exam 70%, class contribution 30%.

LANs100LA

スペイン語補講 2 II

2017 年度以降入学者

長谷川 悦夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

※定員制

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では基礎的なスペイン語、特にその文法をもう一度最初から学んでいく。

【到達目標】

①過去形、現在完了形の用法を理解し、過去の行為、動作、状況について述べることができる。②現在進行形を用いて、進行中の動作・状況を述べることができる。③。関係代名詞を用いて、同じ単語を繰り返さずに、あるモノや人についての説明をすることができる。④未来形・過去未来形を用いて、現在から見た未来、過去から見た未来について述べるができる。⑤日付・曜日の表現ができる。⑥スペイン語圏の文化のイメージを持つことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

教員が文法の解説を行った後、受講生を指名して、練習問題に回答させ、答え合わせ、解説、発展的な学習を行ってゆく。また、学習した文法を用いた作文問題を課題として数回出題する。時間に余裕があれば、受講生の作文例を授業で紹介、添削して全員で共有する。時間がなければ、添削した作文を個別に返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを使って本授業について説明。
2	現在形の動詞活用	現在形の動詞活用の種類は 5 つに分類できる。
3	直説法点過去規則活用、-mente の副詞	直説法点過去規則活用と用法、形容詞から副詞を作る方法。
4	直説法点過去不規則活用 (1)、過去を表す語句	語幹母音変化の ir 動詞、tener、poder、estar など、「昨日、一昨日、先週、先月、～前」などの表現。
5	直説法点過去不規則活用 (2)、時の経過を表す表現	venir、hacer、querer、ser、ir、「～前に～した」「～前から～している」。
6	直説法線過去、点過去と線過去の違い	「～していた、～したものだ、～しようとしていた」、点過去とはどう違うのか。
7	過去分詞 (1) 直説法現在完了、過去完了	直説法現在完了の活用と用法、点過去とのちがひ。過去完了形の活用と用法。
8	過去分詞 (2) 名詞句で用いられる過去分詞、受動文	名詞を修飾する過去分詞、ser+過去分詞、estar+過去分詞、再帰受動。
9	比較表現、現在分詞、進行形	比較級と最上級、現在分詞の作り方、進行形の活用と用法。

10	注意すべき比較表現、直説法未来	不規則な比較級、副詞の最上級は どう表現するか、比較級を用いて 最上級を表す、未来形の活用と用 法。
11	直説法過去未来、関係 代名詞	直説法過去未来形の活用と用法、 複雑な構文における関係代名詞。
12	接続法	接続法とは何か、接続法の活用と 基本的用法。
13	予備日	秋学期の授業の総復習。
14	理解度確認	期末試験を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習をする。予習としては、少なくとも分からない単語の意味は辞書で調べておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講後に指示する。

【参考書】

西和辞典は必携。参考書は必携ではないが、瓜谷良平著『改訂スペイン語の入門』白水社 (2002) を推薦する。

【成績評価の方法と基準】

授業への出席、参加を 30 %、期末試験の点数を 70 % として総合的に評価する。

授業への積極的な参加は成績評価に際して加点材料とする。

欠席、遅刻は減点材料とする。また「その他の重要事項」で列挙した事項など、授業の妨げとなる行為、学習意欲の欠如の表れとみられる行為は減点材料となり得る。

【学生の意見等からの気づき】

丁寧な解説、双方向の授業を心がける。

【その他の重要事項】

授業での積極的な発言（質問・問いかけに対する応答）を評価する。授業中、以下の行為は慎むこと。これらの行為を繰り返して行くと、成績評価に際して減点の材料となるので注意すること。

- ・無断で教室を出る。
- ・飲食をする。
- ・過度な私語をする。
- ・授業と関係がない目的で携帯電話などの電子機器を使用する。
- ・居眠りをする。

教員のメールアドレスは以下。

etsuo.hasegawa.ye@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

In this lesson we will learn basic Spanish, especially grammar from the beginning again.

The purposes of this lesson are as follows.

We understand the usage of the past tense and the present perfect tense and be able to describe past actions, actions, and situations.

We can describe the ongoing movement or situation using the present progressive tense.

We can use relative pronouns to explain a thing or a person without repeating the same word.

We can use future tense and conditional to describe the future seen from the present and from the past.

We can express dates and days of the week.

We acquire an image of the culture of Spanish-speaking countries.

Students should read the grammatical explanations in the textbook, work on conversations and exercises, and listen to the sound files to familiarize themselves with the rhythms and sounds of the Spanish language. The standard preparation and review time for this class is one hour.

The final grade will be calculated according to the following process; final exam 70%, class contribution 30%.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

永原 歩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

永原 歩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレット

授業形態については、授業支援システムで詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレット

授業形態については、授業支援システムで詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

1 回目の授業はオンラインで授業を実施しますが、2 回目以降は原則対面で授業を実施する予定です。状況によっては途中オンラインに切り替わる可能性もあります。

受講生は Hoppii に登録してください。Hoppii のお知らせをよく読んでください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master Korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

第 1 回目の授業はオンラインで行いますが、2 回目以降は原則対面で実施します。

状況によってはオンラインに切り替わる可能性もあります。

受講生は必ず Hoppii に登録してください。また Hoppii のお知らせをよく読んでください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレット

授業形態については、授業支援システムで詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレット

授業形態については、授業支援システムで詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

第 1 回目の授業はオンラインで行いますが、2 回目以降は原則対面で実施します。

状況によってはオンラインに切り替わる可能性もあります。

受講生は必ず Hoppii に登録してください。また Hoppii のお知らせをよく読んでください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master Korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

第 1 回目の授業はオンラインで行いますが、2 回目以降は原則対面で実施します。

状況によってはオンラインに切り替わる可能性もあります。

受講生は必ず Hoppii に登録してください。また Hoppii のお知らせをよく読んでください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。感染状況によっては、「リアルタイム配信型」授業を行う場合があります。その場合は Hoppii で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を購入すること。内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master Korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。基本的に対面授業ですが、「リアルタイム配信型」授業を行う場合があります。その場合は H o p p i i にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を購入すること。内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 I

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。感染状況によっては、「リアルタイム配信型」授業を行う場合があります。その場合は H o p p i i で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を購入すること。内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 II

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。基本的に対面授業ですが、「リアルタイム配信型」授業を行う場合があります。その場合は H o p p i i にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を購入すること。内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 金 5/Fri.5

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

原則、対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【Outline (in English)】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければなら ない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

原則、対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【Outline (in English)】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮語の文字 (= ハングル) を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式 (同一の教材を用いて一体の授業として行なう) によって授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課 / 第 2 課	基本母音字 / 子音字・その 1
2	第 3 課 / 第 4 課	子音字・その 2 / 子音字・その 3
3	第 5 課 / 第 6 課	用言の「ですます形」 / 7 つの終声
4	第 7 課 / 第 8 課	激音 / 合成母音字
5	第 9 課 / 第 10 課	濃音 / 連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課 / 第 12 課	否定形と疑問形 / 漢数字
8	第 13 課 / 第 14 課	日本語のハングル表記 / 用言の連体形・その 1
9	第 15 課 / 第 16 課	子音語幹用言 / 複数の用言をつなぐ
10	第 17 課 / 第 18 課	用言の連体形・その 2 / 固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課 / 第 20 課	過去形その 1 / 過去形その 2
13	第 21 課 / 第 22 課	あいさつと尊敬形 / 指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社 (かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。)

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレット

授業形態については、授業支援システムで詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレット

授業形態については、授業支援システムで詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

乾 浩

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 5/Thu.5

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

原則、対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【Outline (in English)】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	バンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

原則、対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【Outline (in English)】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 2 I

2017 年度以降入学者

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hanguk and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 2 II

2017 年度以降入学者

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 (1) I

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

第 1 回目の授業はオンラインで行いますが、2 回目以降は原則対面で実施します。

状況によってはオンラインに切り替わる可能性もあります。

受講生は必ず Hoppii に登録してください。また Hoppii のお知らせをよく読んでください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master Korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 (1) II

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

第 1 回目の授業はオンラインで行いますが、2 回目以降は原則対面で実施します。

状況によってはオンラインに切り替わる可能性もあります。

受講生は必ず Hoppii に登録してください。また Hoppii のお知らせをよく読んでください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 (2) I

2017 年度以降入学者

乾 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行いません。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行いません。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点。平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

原則、対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【Outline (in English)】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 (2) II

2017 年度以降入学者

乾 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・国際政治学科： DP1、国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

授業の始めに、課題や小テストに対して、フィードバックを行います。

授業計画は、授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点（B）、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点（D）となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

原則、対面での授業を実施する予定ですが、状況によってオンラインに切り替わることもあります。受講者は必ず Hoppii に登録してください。

【Outline (in English)】

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short Exams: 15%, in class contribution: 15%.

LANk100LA

朝鮮語 1

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字・その 1／子音字・その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字・その 3／用言の「ですます形」／7 つの終声
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音・指定詞／否定形と疑問形／漢数字
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形・その 1／過去形・その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともう 1 つの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／バンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言／婉曲をあらわす「～しますが」
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」／意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

授業評価 (30%) と期末テスト (70%) を総合して評価します。60 点以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめてから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 400 new words, conjugation of verb or adjective and various sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination (100%)

LANK100LA

朝鮮語 3

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容の定着を図りつつ、発音を丁寧に指摘したり、話せる力をつけたり、文章の力をつけていきます。

【到達目標】

正しい発音で、自然な読み方と簡単な日常の会話ができることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

課題の発表やテキストに沿って授業を進めます。会話が可能になることを前提した授業にします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習と授業の進め方について	復習と授業の進め方についての説明。
2	第 1 課 韓国語伸びましたね	会話の本文を読みます。
3	第 1 課 韓国語伸びましたね	本文の説明をします。
4	第 1 課 韓国語伸びましたね	練習問題
5	第 2 課 何限までありますか	会話の本文を読みます。
6	第 2 課 何限までありますか	本文の説明をします。
7	第 2 課 何限までありますか	練習問題
8	第 3 課 趣味は何ですか	会話の本文を読みます。
9	第 3 課 趣味は何ですか	本文の説明をします。
10	第 3 課 趣味は何ですか	練習問題
11	まとめ会話練習	会話の練習をします。
12	課題発表	発表をしてもらいます。
13	第 4 課 一年になりますね	会話の本文を読みます。
14	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回課題を出します。作文練習や読む練習、また、翻訳や内容のまとめを韓国でやってもらいます。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梁禮先『中級韓国語〔私家版〕』（授業で配布します）

【参考書】

授業で時々発表します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%。60 点以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加してください。

諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > While continuing to study the contents covered in the spring semester, we will focus on improving your pronunciation and obtaining speaking and writing skills.

< Learning Objectives >

The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語 2

2017 年度以降入学者

高柳 俊男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字・その 1／子音字・その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字・その 3／用言の「ですます形」／7 つの終声
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音・指定詞／否定形と疑問形／漢数字
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形・その 1／過去形・その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともう 1 つの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／バンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	不規則用言とヒウッ不規則用言／婉曲をあらわす「～しますが」
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」／意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎週の小テスト 30 %、期末テスト 70 %によって評価します。60 点以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline (in English)】

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

Students have to learn about 400 words in this semester.

Grades will be based on weekly quizzes (30%) and a final exam (70%).

LANk100LA

朝鮮語 4

2017 年度以降入学者

高柳 俊男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 4」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーション I」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第 3 課	方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオッ不規則用言
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第 5 課	用言の名詞形・1
9	第 6 課	話しことばの形
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第 7 課	「～して」をあらわす 2 つの形
12	第 8 課	間接話法
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通テキストの予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語』を用います。ほかに、この授業のみの + a 教材も使います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎週の課題（30 %）と期末試験（70 %）に基づいて決定されます。60 点以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【その他の重要事項】

【Outline (in English)】

In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.

By the end of this course, students will be able to learn complicated expressions in Korean.

Grades will be based on weekly assignments (30%) and a final exam (70%).

LANk100LA

朝鮮語 5

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、朝鮮語の初級文法と語彙約 400 語を習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」「朝鮮語 2」「朝鮮語 5」は 3 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課／第 3 課	基本母音字／子音字・その 1／子音字・その 2
2	第 4 課／第 5 課／第 6 課	子音字・その 3／用言の「ですます形」／7 つの終声
3	第 7 課／第 8 課／第 9 課	激音／合成母音字／濃音
4	第 10 課／第 11 課／第 12 課	連音・指定詞／否定形と疑問形／漢数字
5	第 13 課／第 14 課／第 15 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1／子音語幹用言
6	第 16 課／第 17 課／第 18 課	複数の用言をつなぐ／用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
7	第 19 課／第 20 課／第 21 課	過去形・その 1／過去形・その 2／あいさつと尊敬形
8	第 22 課／第 23 課／第 24 課	指定詞の否定形・用言の活用と語基／形容詞ともう 1 つの否定形／命令形と意思形
9	第 25 課／第 26 課／第 27 課	リウル語幹用言／形容詞の連体形／希望をあらわす「～したい」
10	第 28 課／第 29 課	勧誘をあらわす「～しましょう」／バンマルとヘヨ体
11	第 30 課／第 31 課	ヘヨ体の尊敬形／指定詞のヘヨ体
12	第 32 課／第 33 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言／婉曲をあらわす「～しますが」
13	第 34 課／第 35 課	義務をあらわす「～しなければならぬ」／意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること、ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書については授業中に相談しましょう。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります (100%)。60 点以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめてから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 400 new words, conjugation of verb or adjective and various sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語 6

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の学習内容を理解しているという前提で、文法と語彙をさらに学び、複雑な表現ができるようにつとめます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができ、声に出して言えるほか、自分で文を作り出す力（＝言いたいことが言える力）をだんだんと身につけていくことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 4」「朝鮮語 6」「朝鮮語コミュニケーション I」は共通教材を軸にリレー方式で行ないます。一方でそれぞれの授業で独自の教材も併用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	復習
2	第 1 課	語基の復習
3	第 2 課	「～している」の 2 つの形
4	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
5	第 3 課	方向をあらわす動詞
6	第 4 課	シオット不規則用言
7	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
8	第 5 課	用言の名詞形・1
9	第 6 課	話しことばの形
10	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
11	第 7 課	「～して」をあらわす 2 つの形
12	第 8 課	間接話法
13	口頭練習	復習を兼ねた口頭練習を行ないます。
14	テスト	テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

共通テキストの予習は不要ですが、なるべく復習の時間を多く取ってください。また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

共通テキストとして『しくみで学ぶ中級朝鮮語』を用います。

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。辞書は中辞典として小学館の『韓日辞典（旧：朝鮮語辞典）』、語彙数は少ないが文法・発音説明が充実しているものとして白水社の『コスモス朝和辞典』をお薦めします。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績によります (100%)。60 点以上が合格です。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

既習者も、「わかっているから」と思わずに、はじめから学び直すつもりで真剣に授業に参加してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar and vocabulary in detail on the premise what you learned in the spring semester have been mastered enough.

< Learning Objectives >

By the end of this course, students will be expected to master more complicated expressions in Korean.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination (100%)

LANk100LA

朝鮮語 1

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 3

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 4

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。国際文化学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

第 1 回目の授業はオンラインで行いますが、2 回目以降は原則対面で実施します。

状況によってはオンラインに切り替わる可能性もあります。

受講生は必ず Hoppii に登録してください。また Hoppii のお知らせをよく読んでください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【その他の重要事項】

第 1 回目の授業はオンラインで行いますが、2 回目以降は原則対面で実施します。

状況によってはオンラインに切り替わる可能性もあります。

受講生は必ず Hoppii に登録してください。また Hoppii のお知らせをよく読んでください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び，その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること，基本的な語彙約 300 語を習得し，ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが，なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと，また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが，ことばを覚えることにもなり，「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は，各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので，テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - I

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 1 - II

2017 年度以降入学者

内山 政春

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期: 春学期授業/Spring | 曜日・時限: 木 2/Thu.2

単位数: 1 単位

他学部公開: グローバル: 成績優秀: 実務教員:

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。基本的に「対面型授業」ですが、場合によって「リアルタイム配信型」授業を行う授業回がある可能性もあります。その場合は Hoppii にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を購入すること。内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master Korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。「対面型授業」ですが、場合によって「リアルタイム配信型」授業を行う授業回がある可能性もあります。その場合は Hoppii にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を購入すること。内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。「対面型授業」ですが、場合によって「リアルタイム配信型」授業を行う授業回がある可能性もあります。その場合は Hoppii にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を購入すること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master Korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。「対面型授業」ですが、場合によって「リアルタイム配信型」授業を行う授業回がある可能性もあります。その場合は Hoppii にて連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を購入すること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレット

授業形態については、授業支援システムで詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangeul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and symple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウツ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみることも、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンかタブレット

授業形態については、授業支援システムで詳細を確認すること。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - I

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語の文字（＝ハングル）を学び、その上で文法の初歩を学びます。

【到達目標】

文字の読み書きができるようになること、基本的な語彙約 300 語を習得し、ごく簡単な文が作れるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課／第 2 課	基本母音字／子音字・その 1
2	第 3 課／第 4 課	子音字・その 2／子音字・その 3
3	第 5 課／第 6 課	用言の「ですます形」／7 つの終声
4	第 7 課／第 8 課	激音／合成母音字
5	第 9 課／第 10 課	濃音／連音・指定詞
6	復習	復習を行ないます。
7	第 11 課／第 12 課	否定形と疑問形／漢数字
8	第 13 課／第 14 課	日本語のハングル表記／用言の連体形・その 1
9	第 15 課／第 16 課	子音語幹用言／複数の用言をつなぐ
10	第 17 課／第 18 課	用言の連体形・その 2／固有数字とその単位
11	復習	復習を行ないます。
12	第 19 課／第 20 課	過去形その 1／過去形その 2
13	第 21 課／第 22 課	あいさつと尊敬形／指定詞の否定形・用言の活用と語基
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします。秋学期から受講しようとしても、そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we learn the Korean alphabet called Hangul and basic Korean grammar.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to master korean alphabet, about 300 new words and simple sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

LANk100LA

朝鮮語 2 - II

2017 年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

他学部公開： グローバル： 成績優秀： 実務教員：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文字と発音が習得できているという前提で、朝鮮語の初級文法と語彙約 100 語をさらに習得します。また用言（動詞、形容詞など）に関しては活用のしかたを 3 つのパターンにわけて学習し、より幅広い表現ができるよう図っていきます。

【到達目標】

授業で学んだ文の読み書きができる、できれば声に出して言えることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は 2 名の教員がリレー方式（同一の教材を用いて一体の授業として行なう）によって授業を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 23 課	形容詞ともう 1 つの否定形
2	第 24 課	命令形と意思形
3	第 25 課	リウル語幹用言
4	第 26 課	形容詞の連体形
5	第 27 課	希望をあらわす「～したい」
6	第 28 課	勧誘をあらわす「～しましょう」
7	第 29 課	パンマルとヘヨ体
8	第 30 課	ヘヨ体の尊敬形
9	第 31 課	指定詞のヘヨ体
10	第 32 課	ル不規則用言とヒウッ不規則用言
11	第 33 課	婉曲をあらわす「～しますが」
12	第 34 課	義務をあらわす「～しなければならない」
13	第 35 課	意思をあらわす「～しますね」
14	テスト	「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」のテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は求めませんが、なるべく復習の時間を多く取ってください。何度も繰り返し書くこと、また恥ずかしがらずに声を出して読んでみるのが、ことばを覚えることにもなり、「話す」第一歩となるのです。

本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内山政春『しくみで学ぶ初級朝鮮語 改訂版』白水社（かならず「改訂版」を求めること。ところどころ内容が異なります。）

【参考書】

教科書によって文法の説明方式が異なるので、テキストに集中してください。また辞書は 1 年生の間は不要です。

【成績評価の方法と基準】

「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」は実質的に 1 つの授業なので、両者の成績（それぞれ 100 点満点、平常点を設けるかどうかは教員の裁量による）を足して 2 で割ったものを、「朝鮮語 1」と「朝鮮語 2」の共通の成績とします。つまり片方が 80 点で片方が 70 点ならば 75 点 (B)、片方が 100 点でも片方が 0 点であれば 50 点 (D) となるわけです。その結果両者が 60 点以上ならば合格です。

春学期には合格し秋学期のみ再履修の受講者も（単位とは無関係ですが）春学期授業を聴講することを強くお勧めします，秋学期から受講しようとしても，そこで秋学期授業のレベルについていけず再々履修を余儀なくされる例が過去に少なからずあるからです。

【学生の意見等からの気づき】

やむを得ない事情以外での欠席を避けてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, we continue to learn basic grammar in detail on the premise that the Korean alphabet and its pronunciation have been mastered.

< Learning Objectives >

The goal of this course is to about 100 new words, conjugation of verb or adjective and more complex sentences.

< Learning activities outside of classroom >

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Average grade of Korean 1 and Korean 2 will be used for grading.

